# 独立行政法人国立文化財機構年報

平成２１年度

# 平成21年度 年報 目次

Ⅰ　21年度自己点検評価報告書　総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　21年度自己点検評価報告書　個別表

ⅰ．　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

平成 21 年度

# 新収品図版　［東京国立博物館］

## 購　　入





山水図屏風　呉春筆



十一面観音菩薩立像

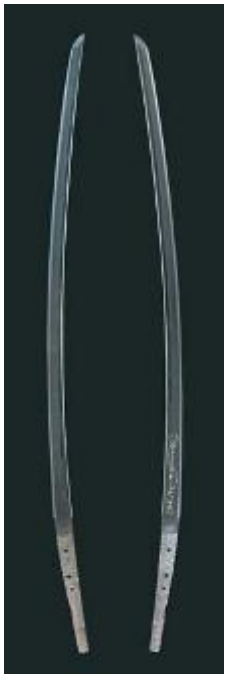


蓬莱蒔絵香道具箱

## 寄　　贈



芍薬　黒田清輝筆



重要美術品
太刀　銘　備州長船住景光　延喜二年七月日

平成 21 年度

# 新収品図版　［京都国立博物館］

## 購　　入



双鹿図　　長澤蘆雪筆

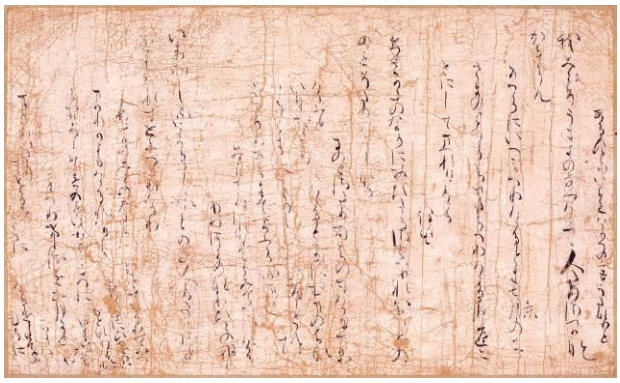


色絵西洋人物図急須
尾形周平作



双龍花鳥蒔絵螺鈿裁縫道具入

## 寄　　贈



重要美術品
古今和歌集巻第十八断簡「本阿弥切」（あるひとの）



重要美術品
荷郷清夏図　藍瑛筆



松堂旭日図　　斉白石筆

平成 21 年度

# 新収品図版　［奈良国立博物館］

## 購　　入



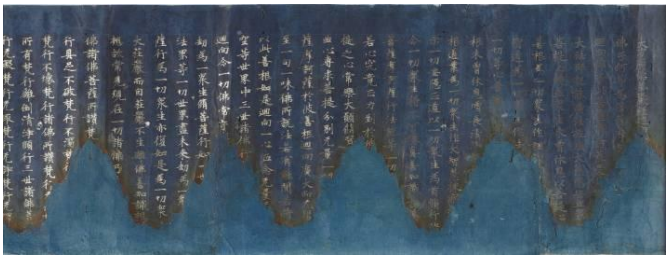
玉虫厨子　模造



金銀平脱皮箱　模造



手鑑



華厳経（二月堂焼経）

## 寄　　贈



絹本著色武蔵野図　　横山　大観筆



紙本墨画淡彩瑞光図
横山　大観筆



紅牙撥鏤尺　模造

平成 21 年度

# 新収品図版　［九州国立博物館］

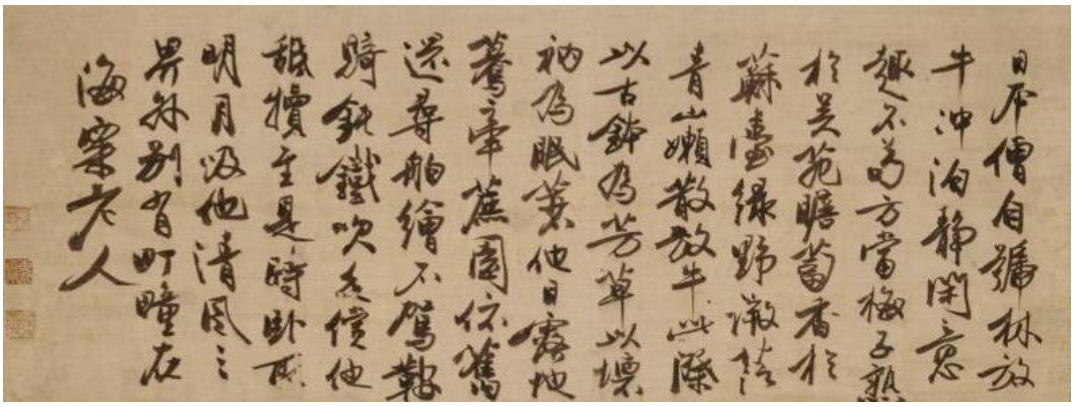
## 購　　入



紙本著色病草紙断簡（侏儒）



紙本著色九相図



重要文化財
馮子振墨蹟　与放牛光林語　　馮子振筆



銅造観音菩薩立像



後赤壁賦堆朱盤

# Ⅰ　21年度自己点検評価報告書　総括表

## Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

#### (1)　収蔵品の収集

**【中期目標】**国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実を図ること。

**【中期計画】**

(1)－1　体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

(東京国立博物館)

日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(京都国立博物館)

京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(奈良国立博物館)

仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(九州国立博物館)

日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

(1)－2　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。

**【主な計画上の評価指標】**

○購入、寄贈、寄託の受入により、体系的、通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。

**【20年度評価における主な指摘事項】**

○購入品については、各館の目的・役割を踏まえつつ全体の最適化を目指すべき。その際、通史・体系的にみてバランスよく作品を購入していることが説明できると、外部から見て収集の意義が理解しやすい。

○昨今の不安定な経済情勢に鑑み、寄託の幅を更に広げ、また、保管・管理にも一層の安全を望む。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 1111 | (1)-1　適時適切な収集<br>各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していくよう取り計らう。<br>(東京国立博物館)<br>日本を中心として広く東洋諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。 | (1)－1　適時適切な収集<br>**【東京国立博物館】**<br>・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品8件（内、重要美術品2件）を購入した。<br>内訳：絵画3件、 彫刻1件、金工1件、刀剣2件、漆工1件<br>決算額　229,150,000円 | A | 順調 |
| 1112 | (京都国立博物館)<br>京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。 | **【京都国立博物館】**<br>博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品7件を購入した。<br>購入に際しては中期目標にもある通り「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画資料、京都画壇を代表する長澤蘆雪の絵画作品、近世初期の京都と海外との交流を示す南蛮漆器の作品、京焼の陶工尾形周平の作品などに反映されている。<br>内訳：絵画3件、漆工1件、陶磁1件、考古資料2件<br>決算額　40,475,000円 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1113 | (奈良国立博物館)<br>仏画、仏像、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。 | **【奈良国立博物館】**<br>購入が 4 件、寄贈が 3 件、都合 7 件の文化財が新たな収蔵品として加わった。うち購入分についての内訳は次のとおりである。<br>書跡：華厳経（二月堂焼経）巻第二十四　1 巻　奈良時代（8 世紀）<br>手鑑　1 帖　奈良～江戸時代（8～17 世紀）<br>漆工：玉虫厨子　模造　1 基　大正 10 年（1921）<br>金銀平脱皮箱　模造　1 合　近代（20 世紀）<br>購入の代金額は計 71,400,000 円である。 | A | 順調 |
| 1114 | (九州国立博物館)<br>日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。 | **【九州国立博物館】**<br>・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、かつ<br>国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品 27 件を購入した。(内、国宝 0 件・重要文化財 1 件)<br>内訳：絵画 8 件　書跡 3 件　彫刻 1 件　陶磁 6 件　漆工 4 件<br>考古 1 件　歴史資料 4 件<br>決算額：　1,418,192,500 円 | A | 順調 |
| | **(1)-2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用** | **(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用** | | |
| 1121 | (4 館共通)<br>寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用や、相続税の猶予措置の創設を手始めとする税制面での環境整備を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。あわせて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、平常展に必要な文化財 11,060 件(東京：2,400、京都：5,800、奈良：2,060、九州：800)の寄託品を目標とする。 | **【東京国立博物館】**<br>・作品の寄贈は 43 件に上った。板屋家傳来資料は一括で 1 件として受け入れたが、江戸幕府御用絵師であった板谷家に伝来した下絵、古文書などで、受け入れ時に作成した仮リストで 10,613 件に達する。また 5 件は黒田清輝筆の絵画作品で、黒田記念館での保管と展示を行う予定である。<br>・新規寄託は 3 件（内、重文 1 件）であった。<br>・寄託終了は 19 件である。内、当館が購入したものが 2 件、当館へ寄贈となったものが 3 件（内、重美 1 件)、所有者に返却したものが 14 件（内、国宝 3 件）である。返却した 14 件のうち、1 件は国（文化庁)、1 件は九州国立博物館がそれぞれ購入している。<br>・その結果、寄託品件数は昨年度より 16 件減少した。<br>・登録美術品については、増減がなかった。 | A | 順調 |
| 1122 | | **【京都国立博物館】**<br>(寄贈)<br>・今年度、寄贈は102件で、寄贈者は6人であった。<br>内訳　絵画62件　書跡8件　彫刻12件　陶磁16件　漆工1件<br>染織2件　考古1件<br>(寄託)<br>・今年度の新規寄託は180件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料として、また特別展 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1123 | | 覧会での活用が見込まれる。<br>内訳　絵画105件　書跡11件　金工 13件　陶磁34件　漆工 5件<br>染織1件　考古 8件　歴史 3件<br>・寄託品数統計が複数あり、実数とあわせる整理を行ったために総数が減じているが、実際には昨年度より 50 件増加している。<br>整理前 6,145 → 整理後 5,907（20 年度）<br>21 年度新規寄託 180－返却 130＝純増 50　　5,907＋50＝5,957 | | |
| 1124 | | **【奈良国立博物館】**<br>寄贈については、2 人の所蔵者から計 3 件の文化財を受け入れた。寄託については、新規に 9 件（うち国宝 1 件）の文化財を受け入れた。<br>［寄贈］<br>絵画：絹本著色武蔵野図　横山大観筆　1 幅　明治 28 年（1895）<br>紙本墨画淡彩瑞光図　横山大観筆 1 幅 大正時代（1912～26）<br>工芸：紅牙撥鏤尺　1 枚　平成 20 年（2008）<br>［寄託］　絵画2件　彫刻3件　工芸1件　書跡3件<br>・なお、寄託総数は昨年度と比較して減少したが、これは期限付きで寄託を受けていた一括資料を返還したためであり、寄託者の数は逆に増加している。（20 年度 217 名→21 年度 221 名） | A | 順調 |
| | | **【九州国立博物館】**<br>寄贈　該当無し<br>新規寄託 197 件<br>（内訳　絵画 2 件、彫刻 20 件、金工 79 件、陶磁 1 件、漆工 5 件、染織 83 件、考古 7 件）<br>7分野にわたる寄託を受けた。このうち、絵画分野の病草紙断簡2件は、「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館蔵）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館蔵ほか）に極めて近い表現を見出すことができる12世紀の貴重な優品である。また、茶道具名物集として極めて重要な『大正名器鑑』に掲載されている瀬戸茶入れの寄託を受けた。また江戸時代後期から上方と広く商売を続けてきた宮崎県所在の商家に伝わった文化財（能面・能衣装・貨幣類など）185件の寄託を受けた。変化に富んだ寄託品を受け入れることができたため、当館の文化交流展示のなかで多様な活用が期待される内容となった。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 寄託品件数(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 2,734 | 2,750 | 2,400 | A |
| 京都国立博物館 | 5,957 | 5,907 | 5,800 | A |
| 奈良国立博物館 | 1,957 | 2,067 | 2,060 | B |
| 九州国立博物館 | 1,256 | 1,105 | 800 | S |

## (2) 適切な管理保存

**【中期目標】**収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、貴重な文化財を次代へ継承すること。

**【中期計画】**

(2) 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

**【主な計画上の評価指標】**

○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的に勝速やかに実施すること。
○保存環境の調査研究等を実施すること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○ＲＦＩＤの長期信頼性には依然課題があることから、「札・ラベル」による表記も残しておいて欲しい。
○良い取組みは他館にも積極的に普及させるべき。特に、奈良博は保存科学の専門官がいない中、研究員全員にＩＰＭ活動をルーチン化させ、かつ、ビジュアル化したリアルタイム監視を実施している。今後は、上記システムの成果・課題等を学会・研修等で報告するなどナショナルセンターとしてその普及に努力して欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(2)-1 収蔵品の管理・保存** | **(2) 適切な管理・保存** | | |
| 1211-1 | 収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。<br>(東京国立博物館)<br>1) 東洋館の耐震補強を図るため、改修工事を実施する。<br>2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。<br>3) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。<br>4) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。<br>5) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。<br>6) 収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る。<br>7) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 | **【東京国立博物館】**<br>・平成 22 年度から 23 年度にかけて、東洋館で耐震補強工事が実施されるのに伴い、6 月から 8 月にかけて、東洋館内の収蔵庫に保管されていた文化財約 17,000 件の大部分を、表慶館、本館、資料館内に移動した。<br>・平成 20 年度から、列品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を実施している。今年度は 2 年目にあたり、絵画・歴史資料・東洋漆工分野で作業を進めた。<br>・収蔵品を移動したのち新しい所在位置情報を、RFID・バーコード等を利用して電子的に記録して管理の万全を図るシステム（文化財移動情報登録システム）の開発も、昨年度から継続して進めている。 | A | 順調 |
| 1212-1 | (京都国立博物館)<br>1) 平常展示館建替え工事を実施する。<br>2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。<br>3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の耐震調査の結果を基に、 | **【京都国立博物館】**<br>・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。<br>・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。<br>・特別展示館耐震診断業務の結果を受け、具体的な耐震補強工法等 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 地震対策を具体的に検討する。 | の検討に着手した。<br>・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。 | | |
| 1213 | (奈良国立博物館)<br>1) 文化財保存修理所を円滑に運営し、文化財の積極的保存を図る。<br>2) 収蔵庫及び展示場の適正な温湿度管理の徹底を図る。<br>3) 西新館及び仏教美術資料研究センターの耐震工事等を実施する。 | **【奈良国立博物館】**<br>・IPM（総合的有害生物管理）の前提として、館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる箇所を中心に、防虫トラップを一ヶ月に１回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。<br>・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。<br>・IPM の実践として、収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。<br>・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「国宝鑑真和上展」、夏の「聖地寧波展」、秋の「正倉院展」で本格的に運用した。これによって、かかる温湿度管理については、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することが可能となった。<br>・保存カルテについては、これまで部門ごとに担当者が作成･保管してきたが、今年度から新たに文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し､保存修理指導室で作成･保管する新システムに移行したことで、機動的かつ詳細に文化財の損傷状態を把握することが可能となった。<br>・西新館耐震工事については展示施設として必要とされる耐震性能を確保するための補強工事を行うとともに、展示環境の向上を意図した内装・照明設備等の更新を行った。また、監視面の強化を図るための監視モニターの更新を行った。仏教美術資料研究センターについては、重要文化財に指定された建造物であるため、過剰でなく必要最低限の耐震性を確保するとともに、原状に復しつつも現在の使用意図に照らした新たな平面計画の下、内装改修を行った。 | A | 順調 |
| 1214 | (九州国立博物館)<br>1) ＩＰＭ(総合的有害生物管理)による文化財の生物被害防止を引き続き図る。<br>2) 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。<br>3) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。 | **【九州国立博物館】**<br>① 収蔵庫・展示室等 300 ヵ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、IPM メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に､必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。<br>② 常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。<br>③ 収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。ま | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | た、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。<br>④ 展示品を中心にX線CTスキャナや三次元計測装置、三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。<br>⑤ 修理資料および収蔵資料を中心に保存カルテを作成すると共に、計画的な保存修理事業をすすめた。<br>⑥ IPMの実施については、地元NPO法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。 | | |
| 1211-2 | **(2)-2 保存環境の調査研究の実施**<br>保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。<br>(4館共通)<br>収蔵品を中心とした保存カルテを年1,200件(東京：800、京都：100、奈良：100、九州200)程度作成する。<br>(東京国立博物館)<br>1) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。<br>2) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。 | **(2)-2 保存環境の調査研究の実施**<br>**【東京国立博物館】**<br>・収蔵庫及び展示室など341地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。<br>・収蔵庫など447地点における生物生息状況を冬季と夏季の2回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。<br>・東洋館耐震工事に合わせた展示室リニューアルに向けて、展示ケースに使用する免震装置の検討を実施した。<br>・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計1,989件の保存カルテを作成した。<br>・収蔵庫、展示室など207箇所の温湿度に関し、その状態から3段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成20年次報告書を作成した。<br>・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせて9件（興福寺展における阿修羅立像など）の輸送を調査した。 | A | 順調 |
| 1212-2 | (京都国立博物館)<br>1) 特別展示館の環境および当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション(最小限の干渉)運用の向上を図る。<br>2) 殺虫剤・防虫剤使用の計画的段階的な廃止を進めつつ、有害生物の監視・初 | **【京都国立博物館】**<br>・展覧会準備中に適宜巡回して害虫の持込み侵入の防止と清掃の徹底を指導、取りこぼしを拾い、開会時の虫・ゴミゼロを実現した。<br>・開館前に展示ケース内・露出展示台上を点検し、虫の採取、取れない場合は生態観察、毛髪等ゴミの除去を行なった。 | A | 順調 |

期対応・要因除去にあたり、全館的なＩＰＭ(総合的有害生物管理)システムの再構築を図る。

・8月、シルクロード展の一部ケース内の展示台手前部分で微少な虫とシミが見られたが、採取、清掃を行なうとともに調査した結果、微少虫はチャタテムシで、当時異常な高温多湿の天候のため京都一帯でカビの胞子が飛散しており、それを餌として徘徊し、シミはチャタテムシを餌としていることが判った。発生の確認されたケースのみ即時、作品と観覧者に影響を及ぼさない程度の蒸散性防虫剤を入れ、駆除することができた。他のケースも以後、開館前の点検、清掃を入念に行なった。
・シルクロード展終了撤収後、全ケースの床面をクリーンルーム清掃業者による吸引拭取り清掃を行ない、虫、胞子等の除去を図った。
・次の日蓮と法華の名宝展では、展示ケース内と館内のトラップによる虫の生態調査を業者に依頼して行なった。
・空調については、妙心寺展、日蓮と法華の名宝展、THE ハプスブルク展において空調センサーと最も離れた温湿度を示す箇所と特別の湿度設定を要する作品近く、それと館外に設置したデータロガーの記録を集計分析して空調の各種設定を気象、入館者状況に応じて調整し、作品と観覧環境の保全を図った。
・館蔵品に係る保存カルテを作成した。
　実績　214件

(奈良国立博物館)
1)　展示室および展示ケースの温湿度管理について、無線ランによるデータ管理システムを構築する。
2)　ＩＰＭ(総合的有害生物管理)による文化財の生物被害防止のための調査を実施する。

**【奈良博・九博】**
(2)-1 と共通

(九州国立博物館)
館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 保存カルテの作成(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 1,989 | 2,693 | 800 | S |
| 京都国立博物館 | 214 | 174 | 100 | S |
| 奈良国立博物館 | 114 | 108 | 100 | A |
| 九州国立博物館 | 205 | 289 | 200 | A |

## (3)　計画的な修理

**【中期目標】**収蔵品の保存技術の向上に努め、貴重な文化財を次代へ継承すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (3)　修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 | ○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること<br>○外部の専門家と連携すること<br>○科学的な保存技術を取り入れること<br><br>**【20 年度評価における主な指摘事項】**<br>○東博は、長期的な修理計画を基に毎年度修理を実施していると聞いており、各館においても、長期展望下での本格修理と緊急修理、展覧会出品に伴う修理などのバランスを踏まえ、計画的に進めていって欲しい。<br>○科学的な調査は一般の者の興味をそそるので、広報について積極的な対応を期待する。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(3)-1　収蔵品の修理**<br>修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。<br>**(3)-2　科学的な技術を取り入れた修理**<br>伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。<br>(4 館共通)<br>(3)-1<br>作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 99 件(東京：70、京都：10、奈良：4、九州 15)程度の本格修理を実施する。<br>(3)-2<br>1)　紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。<br>2)　修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 | **(3)　計画的な修理** | | |
| 1311 | (東京国立博物館)<br>1)　引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。<br>2)　保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70 件程度) | **【東京国立博物館】**<br>1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 210 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2,000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件及び重文石彫 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 2)作品の応急（対症）修理を 925 件実施。本格修理を 106 件実施した。<br>3)データベース構築のために20年度に本格修理を実施した76件の内、修理が完了した 53 件の修理内容についてデジタル化を実施した。20 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ｘを刊行した。デジタル化推進経費によって保存カルテ約 6,562 件の電子化が進んだ。<br>4)紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイト・フェローをおき、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急修理を本格化させた。 | | |
| 1312 | （京都国立博物館）<br>文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。（250 件程度） | **【京都国立博物館】**<br>中国絵画については、昨年度、一段落した須磨コレクションの未表装の作品や大破状態の作品の修理に引き続き、その次の段階にある作品についての修理に取り組み、また古い修理部分の痛みが目立ち展示に支障が生じた考古資料を修理した。<br>修理に関しては、契約方法、業者選定の適正化のため、「修理契約委員会」（外部委員：山岡泰造氏）において、作品ごとに契約方法を決定し、企画競争とした2作品については、「請負候補者選定委員会」（外部委員：梶谷亮治氏）で業者を決定した。<br>実績：絵画4件、考古資料1件 | B | 順調 |
| 1313 | （奈良国立博物館）<br>(3)-1<br>1)　文化財保存修理所の積極的活用を図る。<br>2)　修理資料のデータベース化の調査を実施する。<br>(3)-2<br>1)　木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明および修理指針の検討に役立てる。<br>2)　古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品の X 線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 | **【奈良国立博物館】**<br>・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの 7 件の修理に着手し、あるいは完了した。計 11 件。<br>内訳　絵画 2 件（重要文化財　2 カ年継続事業　第 2 年度）<br>書跡 2 件（重要文化財　2 カ年継続事業　第 2 年度）<br>彫刻 1 件<br>漆工 1 件<br>考古資料 5 件。<br>・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12 号（平成 22 年 3 月刊行）に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧（平成 20 年度）」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。<br>・平成 21 年度の古墳出土金属製品等の修復事業として、館蔵品のうちの 2 件の修理に着手し、1 件を完了した。<br>内訳　未指定　金銅装眉庇付冑（五条猫塚古墳出土）<br>未指定　鉄斧・刀子（二塚古墳出土遺物）※3カ年事業（21～23年度） | A | 順調 |
| 1314 | （九州国立博物館）<br>1)　博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。<br>2)　修理資料のデータベース化の調査を実施する。 | **【九州国立博物館】**<br>①館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 24 件を修理した。 | A | 順調 |

②九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(26 件)
③表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を図った。
④修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。
⑤修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光 X 線分析や顕微鏡観察による調査、X 線、CT スキャンを活用した調査を実施した。
⑥カビなどの生物被害について、顕微鏡観察や写真撮影などを行った。

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 文化財の本格修理(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 106 | 76 | 70 | S |
| 京都国立博物館 | 5 | 17 | 10 | C |
| 奈良国立博物館 | 11 | 8 | 4 | S |
| 九州国立博物館 | 24 | 25 | 15 | S |
| 文化財修理のデータベース化(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 53 | 85 | 70 | B |
| 京都国立博物館 | 481 | 686 | 250 | S |

## ２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

### (1)　展示の充実

**【中期目標】**　展示については、常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

①平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、展示に関する外国語説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。

③個々の展覧会において、積極的な広報に努めること。また、過去の入館者等の状況等を踏まえた適切な入館者数の目標を設定し、その達成に努めること。

**【中期計画】**

(1)　展示の充実

展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動　　向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を８０％以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

（東京国立博物館）
　年３～４回程度
（京都国立博物館）
　年２～３回程度
（奈良国立博物館）
　年２～３回程度
（九州国立博物館）
　年２～３回程度

③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

④黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。

**【主な計画上の評価指標】**

○国民のニーズや学術的同行を踏まえた質の高いものとすること
○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること

（平常展）
○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること
○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと
○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネルを 80％以上設置すること

（特別展）
○我が国の博物館の中心的拠点に相応しい質の高い展示とすること
○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること
　東京国立博物館　3～4 回
　京都国立博物館　奈良国立博物館　九州国立博物館　2～3 回
○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること
○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○入場者数は、ミュージアムでは重要な評価指標であり、より詳細な分析が望まれる。
○平常展の展示は良いものが多く充実していることから、展示形態や説明等を工夫し、広報に力を入れて欲しい。
○外国語パネルの設置率は、可能な限り標準化を図って欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (1)　展示の充実<br>東京、京都、奈良、九州４館の特色を生かし、再度、国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。<br>①　平常展<br>展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。 | (1)展示の充実<br>①平常展 | | |
| 2111 | (東京国立博物館)<br>ア　定期的な陳列替の実施(年 200 回程度)<br>イ　陳列総件数　約 5,500 件(東洋館閉館のため)<br>ウ　本館「日本美術の流れ」をはじめとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。<br>エ　東洋館が耐震改修工事のため閉館となるため、表慶館・本館などにおいて東洋考古・美術の展示を積極的に進める。<br>オ　改修後の東洋館の展示案を検討する。<br>カ　特集陳列<br>21 年度は 6 月初旬に東洋館が改修工事のため閉鎖となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため、特集陳列の数は減少せざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。<br>・戦う武士の世界(6 月 23 日～7 月 20 日)<br>・中国書画精華(9 月 15 日～11 月 8 日)<br>・「博物館に初もうで」(22 年 1 月 2 日～1 月 31 日)　等<br>キ　東京文化財研究所関係企画<br>・海外所在の日本美術品修復(5 月 26 日～6 月 7 日)<br>ク　文化庁関係企画<br>・「平成 21 年 新指定 国宝・重要文化財」(仮称)(4 月 28 日～5 月 10 日)<br>平成 21 年(2009)に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。 | 【東京国立博物館】<br>・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。<br>・本年度から来年度にかけて、東洋館の耐震補強工事が実施されることに伴い、東洋館は 6 月 8 日から休館となった。その後、8 月 4 日からは、東洋の考古・工芸の平常展示を表慶館 1 階で再開し、東洋関係の特集陳列は本館で開催しており、展覧事業の充実を図っている。 | A | 順調 |
| 2112 | (京都国立博物館)<br>平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止せざるをえないが、富山県水墨美術館にて当館収蔵品展を開催する(10 月 2 日～11 月 8 日)ほか、博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進める。 | 【京都国立博物館】<br>平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止せざるをえなかった。そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。<br>・「日本の美　国宝との出会い」展（(1)展示の充実②特別展等 参照）<br>会期：10 月 2 日～11 月 8 日<br>展示総件数　35 件（うち国宝 9 件、重要文化財 13 件）<br>・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。<br>・上記の貸出作品の情報を HP で公開している。 | A | ほぼ順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2113 | (奈良国立博物館)<br>ア　定期的な陳列替の実施(年15回程度)<br>イ　陳列総件数　約800件<br>ウ　活発な収集と新しい資料の発掘により平常展の充実を図る。<br>・西新館　考古・絵画・書跡・工芸部門の平常展示<br>・本館(１～13室)　彫刻部門の平常展示<br>・本館(14室・15室)　中国青銅器の平常展示<br>・「注目の逸品」を適時選定する。<br>エ　特別陳列により平常展の充実を図る。<br>独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実<br>・「おん祭と春日信仰の美術」(12月5日～22年1月17日)<br>・「お水取り」(22年2月6日～3月14日)<br>オ　考古資料の相互貸借事業の実施 | **【奈良国立博物館】**<br>年度を通して、本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」(考古部門) を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(絵画・書跡・考古・工芸部門) を開催した。そのなかには、「とてもよく似た二つの仏像-金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像-」(～5 月 17 日、本館)、「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」(9 月 15 日～10 月 4 日、西新館)、「南北朝・室町時代の彫刻」(12 月 1 日～、本館) の 3 回の特集展示が含まれる。<br>企画展示としては、毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(12 月 8 日～1 月 17 日、東新館)、「お水取り」(2 月 6 日～3 月 14 日) を実施した。 | A | 順調 |
| 2114 | (九州国立博物館)<br>ア　定期的な陳列替の実施(年300回程度)<br>イ　陳列総件数　約800件<br>ウ　平常(文化交流)展の部分的なリニューアルによって充実を図る<br>・来館者にとって分かり易い展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。<br>エ　特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。<br>・「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」(関連3室　年2月24日～5月6日)<br>・「古文書展Ⅱ」(関連11室　4月15日～7月5日)<br>・「長崎の興福寺」(関連11室　8月19日～9月27日)<br>・「新収品展」(関連11室　9月30日～11月8日)<br>・「婚礼調度」(関連11室　12月23日～22年3月14日)<br>オ　他国語対応の展示室マップの作成<br>・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して作成する。 | **【九州国立博物館】**<br>・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に 431 回にわたる展示替えを行い、2106 件の文化財を展示した。<br>・展示替え情報は、当館 HP やちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。<br>・昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した(22 回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も 5 回実施した。<br>・トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。<br>・当館初の新収品を紹介する企画展「新収品’05-’08　交流する文化のかたち」を開催した。<br>・増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 | A | 順調 |
| | **②特別展**<br>(共同企画)<br>・開山無相大師 650 年遠諱記念「妙心寺」<br>(京都国立博物館、九州国立博物館、[20 年度東京国立博物館])<br>・興福寺創建 1300 年記念「国宝　阿修羅展」<br>(東京国立博物館、九州国立博物館)<br>(東京国立博物館) | **②特別展**<br>特別展の充実を図るため 21 年度計画になかったような展覧会まで開催し、展覧会事業の充実に努めた。特に東京国立博物館では、海外展「The Power of Dogu」、「侍の芸術」、海外展の帰国展「国宝　土偶展」を文化庁とも協力しながら行ったことにより国内外から大きな評価が得られた。<br>**【東京国立博物館】** | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 目標入場者数　132 万人 | | | |
| 2121-1 | ア　興福寺創建 1300 年記念「国宝　阿修羅展」(21 年 3 月 31 日～6 月 7 日)<br>国宝阿修羅像を中心に天平彫刻の至宝を一同に展示(目標入場者数 54 万人)。 | **ア　国宝　阿修羅展**<br>・　開会期間　平成21年3月31日（火）～6月7日（日）(61日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第 1～4 室<br>・　主催　東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日<br>・　作品件数　75 件（うち国宝 58 件、重要文化財 10 件）<br>・　入館者数　946,172 人（21 年度　933,895 人）<br>・　入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)、中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度 77.6％<br>国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。TV、雑誌等各メディアで多数紹介され、非常に大きな反響をいただいた。 | S | 順調 |
| 2121-2 | イ　日仏交流 150 周年記念「'Story of …'　カルティエクリエイション～めぐり逢う美の記憶」(21 年 3 月 28 日～5 月 31 日)<br>カルティエが手がけた宝飾品とその秘められたストーリーを紹介(目標入場者数 9 万人)。 | **イ　Story of …　カルティエクリエイション～めぐり逢う美の記憶**<br>・開会期間　平成 21 年 3 月 28 日（土）～5 月 31 日（日）(57 日間)<br>・会場　表慶館 1 階・2 階<br>・主催　東京国立博物館、日本経済新聞社　特別協力：カルティエ<br>・作品件数　276 件<br>・入館者数　120,483人（21年度　115,568人）<br>・入場料金　一般1400円、大学生・高校生800円　中学生以下無料<br>・アンケート結果　満足度　78.7%<br>日仏交流 150 周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する 1300 点ほどのアーカイヴピースを中心に、267 件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。 | A | 順調 |
| 2121-3 | ウ　特別展「染付－藍が彩るアジアの器」(7 月 14 日～9 月 6 日)<br>東洋の染付を、流通や技術・様式の交流も視野にいれながら概観(目標入場者数 7 万人)。 | **ウ　染付－藍が彩るアジアの器**<br>・　開会期間　平成 21 年 7 月 14 日（火）～9 月 6 日（日）(49 日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第 1～2 室<br>・　主催　東京国立博物館　協力　日油株式会社、産経新聞社<br>・　作品件数　221 件（うち重要文化財 4 件　重要美術品 1 件）<br>・　入館者数　52,731 人<br>・　入場料金　一般 1000 円(800 円／700 円)、大学生 800 円(600 円／500 円)、高校生 600 円(400 円／300 円)、中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度　78.3%<br>アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。 | | |
| 2121-4 | エ　第62回式年遷宮記念　特別展「伊勢神宮と神々の美術」(7月14日～9月6日)<br>伊勢神宮の歴史と信仰をたどり、式年遷宮の実像と神道美術の精華を紹介(目標入場者数11万人)。 | **エ　伊勢神宮と神々の美術**<br>・　開会期間　平成21年7月14日（火）～9月6日（日）(49日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第3～4室<br>・　主催　東京国立博物館、霞会館、産経新聞社<br>・　特別協力　神宮司庁<br>・　作品件数　111件（うち国宝17件、重要文化財39件)<br>・　入館者数　114,796人<br>・　入場料金　一般1400円(1100円／900円)、大学生1000円(700円／600円)、高校生700円(500円／400円)、中学生以下無料<br>(　)内は前売／20名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度　70.9%<br>2013年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。 | A | 順調 |
| 2121-5 | オ　御即位二十年記念 皇室の名宝展(前期：10月6日～11月3日 後期：11月12日～11月29日予定)<br>皇室ゆかりの名宝の数々を展示(目標入場者数35万人)。 | **オ　皇室の名宝展**<br>・　開会期間 1期：平成21年10月6日(火)～11月3日(火・祝)(26日間)<br>2期：平成21年11月12日(金)～11月29日(日)(18日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第1～4室・企画展示室<br>・　主催　東京国立博物館・宮内庁・NHK<br>特別協力　NHKプロモーション・読売新聞社・日本経済新聞社<br>・　作品件数　205件 1期：81件（特別展示室80件　企画展示室1件)<br>2期：124件(重要文化財1件)(特別展示室100件<br>企画展示室24件)<br>・　入館者数　447,944人(1期　263,303人　2期　184,641人)<br>・　入場料金　一般1300円(1100円／1000円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生700円(500円／400円)、中学生以下無料<br>＊（　)内は前売り／20名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度：1期　84.9%　2期　63.5%<br>今上陛下の御即位20年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を1期と2期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1期は安土桃山時代から近代までの作品、2期は古代から江戸後期までの作品で構成した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2121-6 | カ　没後 400 年記念 特別展「長谷川等伯展」(22 年 2 月 23 日～3 月 22 日)<br>等伯の生涯を追いながら幅広い画業を紹介(目標入場者数 16 万人)。 | **カ　長谷川等伯展**<br>・　開会期間　平成22年2月23日(火)～3月22日(月・休)　(25日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第 1～4 室<br>・　主催　東京国立博物館・毎日新聞社・NHK・NHKプロモーション<br>・　後援　文化庁<br>・　特別協賛　大塚家具<br>・　協賛　JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行<br>・　作品件数　73件（うち国宝3件、重要文化財28件、重要美術品 1件)<br>・　入館者数　 292,526 人<br>・　入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)中学生以下無料<br>＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度：86.0%<br>安土桃山時代に活動した長谷川等伯の国内に存在するほぼすべての作品を一挙に公開する史上最大規模の大回顧展。信春と名乗り、能登で活動した初期のものから晩年期までの作品を網羅して展観することによって、その画業を改めて検証することができた。 | S | 順調 |
| 2121-7 | キ　海外展「サムライの美術-東京国立博物館精選」(4 月 19 日～6 月 14 日)<br>会場：バウワーズ博物館(アメリカ　ロサンゼルス郡サンタアナ市)<br>東京国立博物館所蔵品の中から武家文化に関わる優品を展示。 | **キ　海外展「サムライの美術-東京国立博物館精選」**<br>・開会期間　平成 21 年 4 月 19 日(日)～6 月 14 日(日)　(49 日間)<br>・会場　アメリカ・バウワーズ博物館<br>・主催　東京国立博物館、バウワーズ博物館<br>・作品件数　81 件（うち国宝 1 件、重要文化財 7 件)<br>・入館者数　18,609人<br>・入場料金　－<br>・アンケート結果　満足度－%<br>本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション 1 点を含む優品 81 件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を 2 部構成とし、第 1 部では「武士の装い―武器・武具―」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第 2 部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。 | A | 順調 |
| 2121-8 | ク　海外展「日本美の輝き 300 年(1568-1868)」(仮称)(12 月～22 年 2 月予定)<br>会場：パラッツォ・レアーレ(イタリア　ミラノ市)(東京国立博物館協力)<br>上方文化、江戸文化の対比を軸に日本の近世美術を紹介。 | **ク　海外展「日本・その力と輝き 1568-1868」**<br>・開会期間　平成21年12月7日（月）～22年3月8日（月）(91日間)<br>・会場　イタリア(ミラノ市)・パラッツォ・レアーレ<br>・主催　イタリア・ミラノ市、モッタ社<br>・特別協力　東京国立博物館・大阪市立美術館 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・作品件数　214 件（うち国宝 1 件、重要文化財 14 件）<br>・入館者数　47,192 人<br>・入場料金　一般9€／65歳以上7.5€／6才～18才4.5€／5才以下無料<br>・アンケート結果　満足度－％<br>　安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展を紹介するもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介する機会となった。また、スカラ座の開幕、ファッションショーの開催など、ミラノが世界に注目される時期に合わせて開催することにより、日本美術を世界に発信するまたとない機会となった。 | | |
| 2121-9 | | **○日本・ギリシャ修好 110 周年記念　「アテネ・メトロ･ミュージアム －ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代－」**<br>・開会期間　平成 21 年 4 月 7 日(火)～5 月 10 日(日)　(30 日間)<br>・会場　東京国立博物館　平成館　企画展示室<br>・主催　東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館<br>・作品件数　－件<br>・入館者数　－人<br>・入場料金：平常展料金<br>・アンケート結果　満足度－％<br>　日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。 | A | 順調 |
| 2121-10 | | **○文化庁海外展　「The Power of Dogu」**<br>・開会期間　平成 21 年 9 月 10 日(木)～11 月 22 日(日)　(74 日間)<br>・会場　イギリス・大英博物館(日本ギャラリー)<br>・主催　文化庁、大英博物館、東京国立博物館<br>・作品件数　67件（うち国宝3件　重要文化財23件　重要美術品2件）<br>・入館者数　65,564人<br>・アンケート結果　満足度－％<br>　本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。 | A | 順調 |
| 2121-11 | | **○文化庁海外展「侍の芸術」Art of Samurai：Japanese Arms and Armor. 1156-1868**<br>・開会期間　平成21年10月20日（火）～22年1月10日（日）（69日間）<br>・会場　ニューヨーク・メトロポリタン美術館２階「The Tisch | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Galleries」<br>・主催　文化庁　ニューヨーク・メトロポリタン美術館　東京国立博物館<br>・作品件数　209件(うち国宝34件 重要文化財60件 重要美術品6件)<br>・入館者数　187,064 人<br>・入場料金 一般20$、シニア15$、学生10$、会員および12歳以下無料<br>・アンケート結果　満足度－%<br>本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。 | | |
| 2121-12 | | **〇文化庁海外展　大英博物館帰国記念　「国宝　土偶展」**<br>・開会期間 平成21年12月15日(火)～平成22年2月21日(日)（56日間）<br>・会場　東京国立博物館　本館特別５室<br>・主催　文化庁、東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社<br>・作品件数　67件（うち国宝3件　重要文化財23件　重要美術品2件）<br>・入館者数　128,285人<br>・入場料金 一般800円、大学生600円、高校生400円、中学生以下無料<br>・アンケート結果　満足度　88.8%<br>本展は、イギリスの大英博物館で 2009 年 9 月 10 日から 11 月 22 日まで開催された *THE POWER OF DOGU* の帰国記念展で、国宝 3 件と重要文化財 23 件、重要美術品 2 件を含む全 67 件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。 | S | 順調 |
| 2122-1 | (京都国立博物館)<br>目標入場者数　13 万人<br>ア　「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」(21 年 3 月 24 日～5 月 10 日)<br>妙心寺に伝わる室町から江戸時代の優品を展示(目標入場者数　3 万人)。 | **【京都国立博物館】**<br>**ア　妙心寺**<br>妙心寺開山・関山慧玄（1277～1360）の 650 年遠諱にちなみ、東京国立博物館および京都国立博物館で行われた大規模な展覧会。妙心寺の歴史にとどまらず、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介する機会となった。<br>・開催期間　21 年 3 月 24 日～5 月 10 日（43 日間）<br>・会場　特別展示館<br>・主催　京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社<br>・陳列品総件数　167 件（うち国宝 4 件、重要文化財 48 件）<br>・海外からの出陳件数　1件（アメリカ・メトロポリタン美術館） | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・入場者数　106,081 人(目標 30,000 人)<br>・入場料金　一般 1300 円、大高生 900 円、中小生 400 円<br>・アンケート結果　満足度 89% | | |
| 2122-2 | イ　「シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」(21 年 7 月 14 日～9 月 6 日)<br>敦煌及びその周辺で発見された文献の中から日本初公開の優品を展示(目標入場者数　2 万人)。 | **イ　シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー**<br>ロシア・サンクトペテルブルクにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の西域文献を中心に 128 件をコータン、クチャ・カラシャール・トルファン、敦煌、カラホトの各地域に分類して展示し、合わせて関連特集陳列「中国の写本と版本」も開催した。ロシア探検隊収集の西域文献が、日本の博物館では初めて多数展示される大規模な展覧会となり、世界の敦煌学・東洋史の研究者から注目される展示となった。<br>・開催期間　7 月 14 日～9 月 6 日(48 日間)<br>・会場　特別展示館<br>・主催　京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所<br>・陳列品総件数　128 件<br>・海外からの出陳件数　ロシア科学アカデミー東洋写本研究所127件・エルミタージュ美術館1件<br>・入場者数　25,511 人(目標 20,000 人)<br>・入場料金　一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 無料<br>・アンケート結果　満足度 80%<br>・関連講座　5 回実施 | A | 順調 |
| 2122-3 | ウ　「「立正安国論」奏進七五〇年記念　日蓮と法華の名宝ー華ひらく京都町衆文化ー」(21 年 10 月 10 日～11 月 23 日)<br>「立正安国論」を中心に京都十六本山の名品を紹介(目標入場者数　3 万人)。 | **ウ　日蓮と法華の名宝ー華ひらく京都町衆文化ー**<br>文応元年（1260）、日蓮は鎌倉幕府前執権北条時頼に『立正安国論』を献じた。平成 21 年はそれから 750 年目の節目の年に当たり、それを記念して日蓮の生涯と日蓮法華信仰に関わる特別展を企画した。京都だけの開催ということもあり、京都十六本山を中心とする日蓮法華宗の寺宝と法華信徒の多かった京都町衆との関係を紹介することに重点をおいた。京都はかつて「題目の巷」と称され、日蓮法華宗は京都の発展に重要な役割を果たしたが、今日ではあまり関心の対象となっていない。その再評価を行うことを主眼とし、各寺院調査の成果を生かしてかつてない大規模展として成功裏に終えることができた。<br>・開催期間　10 月 10 日～11 月 23 日（39 日間）<br>・会場　特別展示館<br>・主催　京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社<br>・陳列品総件数 203件(うち国宝4件、重要文化財55件、重要美術品6件)<br>・海外からの出陳件数　1 件（ハーバード燕京図書館） | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・入場者数　88,187 人（目標 30,000 人）<br>・入場料金　一般 1300 円、大・高校生 900 円、中・小学生 400 円<br>・アンケート結果　満足度 79% | | |
| 2122-4 | エ　「ＴＨＥ　ハプスブルク」(22 年 1 月 6 日～3 月 14 日)<br>ウィーン美術史美術館、ブダペスト美術館所蔵のハプスブルグ家にまつわる優品を選りすぐって展示(目標入場者数　5 万人)。 | **エ　ＴＨＥ　ハプスブルク**<br>日本とオーストリア、ハンガリーとの国交樹立 140 周年を記念して、ウィーン美術史美術館とブダペスト国立西洋美術館所蔵品を中心としたハプスブルク家コレクションを展観。明治天皇から寄贈された日本絵画の画帖と蒔絵から始まり、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ・フランドルの絵画を総覧し、クンストカンマーと呼ばれる彫刻・工芸の興味深い蒐集品を通して、西洋の宮廷美術を理解する機会を提供した。<br>・開催期間　22 年 1 月 6 日～3 月 14 日（60 日間）<br>・会場　特別展示館<br>・主催　京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送<br>・陳列品総件数　116 件<br>・海外からの出陳件数　116 件（ウィーン美術史美術館・ブダペスト国立西洋美術館･オーストリア工芸美術館･ウィーン家具博物館）<br>・入場者数　247,078 人（目標 50,000 人）<br>・入場料金　一般 1500 円、大・高校生 1000 円、中・小学生 500 円<br>・アンケート結果　満足度 90% | S | 順調 |
| 2122-5 | | **○日本の美　国宝との出会い**<br>当館が所蔵する日本美術の名品の中から平安時代から江戸時代に至る、大和絵、仏画、水墨画、琳派、写生画派、南画などの優品を選りすぐり、国宝、重要文化財を含む35件を展示。日本の美の真髄にふれ、その本質の一端を、富山市を中心とする北陸の方々に紹介する機会となった。<br>・開催期間　10 月 2 日～11 月 8 日(33 日間)<br>・会場　富山県水墨美術館<br>・主催　「日本の美　国宝との出会い展」実行委員会(北日本新聞社、富山県水墨美術館)<br>・特別協力　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　35 件（うち国宝 9 件、重要文化財 13 件）<br>・入場者数　30,366 人<br>・入場料金　一般 1,000 円、大学生 700 円、小･中･高校生等無料 | S | 順調 |
| 2123-1 | (奈良国立博物館)<br>目標入場者数　24.5万人<br>ア　「唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝　鑑真和上展」(4月4日～5月24日)<br>鑑真和上をはじめとする唐招提寺の至宝約70件を一堂に展示(目標入場 | **【奈良国立博物館】**<br>**ア　国宝　鑑真和上展**<br>・会期　4 月 4 日(土)～5 月 24 日(日)（開館は 45 日間)。<br>・会場　奈良国立博物館　東・西新館 | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 者数　3.5万人)。 | ・主催　奈良国立博物館、唐招提寺、TBS、毎日放送、朝日新聞社、日本経済新聞社<br>・陳列品総数　74件（うち国宝12件、重文36件）<br>・入場者数　93,779人（目標35,000人）<br>・観覧料金　一般1,200円、高・大生800円、小・中生500円<br>・アンケート結果　90.2%<br>・鑑真和上像（国宝）をはじめとする、唐招提寺所蔵の文化財の数々を一堂に展示した。<br>・平成13年の東京都美術館における開催以来、当館の学術協力のもとで全国７会場を巡回してきた「国宝　鑑真和上展」の最終回にあたり、従来からの内容に本会場独自のコーナーや出陳品を加え、その集大成にふさわしい充実した展覧会となった。 | | |
| 2123-2 | イ　「聖地寧波－日本仏教１３００年の源流～すべてはここからやって来た～」<br>日中交流の玄関口寧波の日本への影響を探る展示(目標入場者数　3万人) | **イ　聖地寧波**<br>・会期　7月18日～8月30日（40日間）<br>・会場　奈良国立博物館　東・西新館<br>・主催　奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK奈良放送局<br>・後援　文化庁、中華人民共和国駐日本大使館、寧波市人民政府<br>・特別協力　浙江省文物局、上海博物館<br>・陳列品総数　175件（国宝10件、重文74件）<br>・入場者数　30,548人（目標30,000人）<br>・観覧料金　一般1,200円　高・大生800円　小・中生500円<br>・アンケート結果　満足度75.4% | A | 順調 |
| 2123-3 | ウ　「第61回正倉院展」(予定)<br>正倉院に保管されている文化財を展示(目標入場者数　18万人)。 | **ウ　第61回正倉院展**<br>・会期　10月24日～11月12日（20日間）<br>・会場　奈良国立博物館　東・西新館<br>・主催　奈良国立博物館<br>・陳列品総数　66件<br>・入場者数　299,294人<br>・観覧料金　一般1000円　大・高生700円　小・中学生400円<br>・アンケート結果　満足度79.3% | A | 順調 |
| 2124-1 | (九州国立博物館)<br>目標入場者数　33万人<br>ア　「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」(21年4月11日～6月14日)<br>チベット文化を総合的に紹介する初の展覧会(目標人数　10万人)。 | **【九州国立博物館】**<br>**ア　聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝**<br>・ 開会期間：　4月11日（土）～6月14日（日）(58日間)<br>・ 会場：　特別展示室<br>・ 主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、中華文物交流協会、中国チベット文化保護発展協会<br>・ 陳列品総件数：　123件（うち国家一級文物36件）<br>・ 入場者数：　140,917人（目標入場者数　100,000人） | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・ 入場料金： 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円<br>・ アンケート結果：満足度 90.6%<br>・ 展示構成： チベット自治区および河北省承徳にある世界文化遺産に登録された宮殿、寺院や博物館の所蔵品から、わが国初公開となる文化財 123 件を展示した。構成は、1「仏教伝来の道」、2「チベット仏教の世界」、3「天空のパレス ポタラ宮」、4「チベットと漢文化 500 年の交流」から成る。 | | |
| 2124-2 | イ 「国宝 阿修羅展」(7月14日～9月27日)<br>国宝阿修羅像を中心に天平彫刻の至宝を一同に展示(目標人数 12万人)。 | **イ 国宝 阿修羅展**<br>・開会期間： 7 月 14 日（火）～9 月 27 日（日）(68 日間)<br>・会場： 特別展示室<br>・主催： 九州国立博物館・福岡県、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、九州朝日放送<br>・陳列品総件数：66 件（国宝 56 件・重文 8 件）<br>・入場者数：711,154 人（目標入場者数 120,000 人）<br>・入場料金：一般1,300円、大学生1,000円、高校生800円、小中生600円<br>・アンケート結果：満足度 90.0%<br>・興福寺創建 1300 年記念と中金堂再建事業にあわせて企画開催されたもので、東京国立博物館をへての巡回展。創建時に埋納された鎮壇具や阿修羅像をはじめとする乾漆像、鎌倉復興期の慶派の諸像などを展示した。第 1 章「興福寺創建と中金堂鎮壇具」、第 2 章「阿修羅とその世界」、第 3 章「中金堂再建と仏像」、第 4 章「バーチャルリアリティ映像 よみがえる興福寺中金堂・阿修羅像」から構成される。<br>・会期中記念講演会を 3 回（興福寺貫首多川俊映氏・同国宝館館長金子啓明氏・奈良大学教授東野治之氏）開催し、毎週土曜日には興福寺僧侶による講座を実施した。 | S | 達成 |
| 2124-3 | ウ 「九州考古展」(仮称)(10月20日～11月29日)<br>対外交流における九州の役割を最新の成果を交えて展示(目標人数 3万人)。 | **ウ 古代九州の国宝**<br>・開会期間： 平成21年10月20日（火）～11月29日（日）(37日間)<br>・会場： 特別展示室<br>・主催： 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社・ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州<br>・陳列品総件数：400 件（国宝 5 件、重文 22 件）<br>・入場者数：72,741 人（目標 30,000 人）<br>・観覧料：一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円<br>・アンケート結果：満足度 88.7%<br>・対外交流における九州の歴史的な役割を、各地域の多様性に注目しつつ、考古学の成果により紹介した。展示構成は第一部「交流の島 | S | 達成 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 九州」、第二部「九州とヤマト」および第三部「古墳を飾る」の三部からなる。 | | |
| 2124-4 | エ　「京都妙心寺－九州・琉球の禅文化－」(仮称)(22年1月1日～2月28日)<br>妙心寺の歴史・文化と九州・琉球地域への信仰の展開を紹介(目標人数　8万人)。 | **エ　京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球－**<br>・開会期間：　22年1月1日（金）～2月28日（日）(52日間)<br>・会場：　特別展示室<br>・主催：　九州国立博物館・福岡県、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、西日本新聞社、TVQ九州放送<br>・陳列品総件数：　124件（うち国宝4件、重要文化財35件）<br>・入場者数：130,231人（目標入場者数　80,000人）<br>・入場料金：　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円<br>・アンケート結果：満足度　91.6%<br>・展示構成：妙心寺本山・塔頭および九州・沖縄における妙心寺派寺院の所蔵品124件を展示。構成は、第一章「京都妙心寺の名宝」、第二章「妙心寺と九州・琉球」から成る。 | A | 順調 |
| | ③展覧会広報活動の取組み<br>法人としての広報活動を展開する。<br>・法人概要、年報を作成する。<br>・法人ウェブサイトを運用する。<br>(4館共通)<br>1)　年間スケジュールリーフレットの制作・配付<br>2)　マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開<br>3)　ウェブサイトによる情報提供 | **③展覧会広報の取組み** | | |
| 2131 | (東京国立博物館)<br>平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。<br>1)　「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配付(年6回)<br>2)　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等<br>3)　「総合案内パンフレット」(7か国語)「フロアガイド」(4か国語)等パンフレットの制作・配付<br>4)　電子メールマガジンの配信 | **【東京国立博物館】**<br>・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。<br>・ウェブサイトトップページのリニューアルをはかった。<br>・博物館情報をメールマガジンにより配信した。<br>・平常展の活性化を目指した広報展開を行った。<br>・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開をはかった。<br>・共催者やPR会社と協力し、特別展の大規模なプロモートを実施した。 | A | 順調 |
| 2132 | (京都国立博物館)<br>1)　「博物館だより」の発行・配布(年4回)<br>2)　「News Letter」(英文)の発行・配布(年4回)<br>3)　モバイルサイトによる情報提供(常時更新)<br>4)　「館内案内」リーフレット(6カ国語)の作成・配布<br>5)　メールマガジンの配信<br>6)　東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開 | **【京都国立博物館】**<br>マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開<br>各展覧会の招待日にプレス発表会を開催<br>展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催<br>「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布<br>「博物館だより」の発行・配布（4回）<br>「News Letter」の発行・配布（4回）<br>「館内案内」リーフレット（6ヶ国語）の作成・配布 | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | メールマガジンの発行（18 回）<br>ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）<br>モバイルサイトによる情報提供<br>東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開<br>京都市内 4 館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館）の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布 | | |
| 2133 | (奈良国立博物館)<br>1) 平常展の魅力に重点化した博物館だよりを発行する。(年4回)<br>2) 電子メールサービスによる展覧会及びイベント情報の発信。<br>3) 特集陳列チラシの作成・配布<br>4) 館内配置図リーフレット(7 カ国語)の作成・配布。<br>5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。<br>6) 液晶ディスプレイによる情報提供を行う。 | **【奈良国立博物館】**<br>・奈良国立博物館だより 年 4 回発行<br>・奈良国立博物館リーフレット（7 ヶ国語）発行<br>日本語 2 万部、英語 1 万部、韓国語 8 千部、中国語 5 千部、仏・独・西語各 2 千部<br>・奈良国立博物館展示案内を年 2 回発行<br>・電子メールマガジンによる博物館情報の発信<br>・配信回数 13 回、登録者 4,970 人<br>・特別展「聖地寧波」では、奈良県で開催された「まほろば総体」参加者向け入場割引券つきチラシを作成し配布<br>・特別展「聖地寧波」では観覧券と展覧会図録がセットになった「観覧＆図録セット券」を発行<br>・平常展の入場割引券を発行（特別陳列「おん祭り」「お水取り」開催期間中）<br>・文化大使を任命し、奈良国立博物館の広報宣伝に一役買っている。<br>・特別展「国宝 鑑真和上展」、「聖地寧波展」、「第 61 回正倉院展」の広報のため、ポスター（B1、B2、B3）、チラシを作成した。特別展「聖地寧波」では先行ポスター、先行チラシを作成した。<br>・新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。特別展「国宝 鑑真和上展」では TBS が特別番組を作成し、「正倉院展」では NHK の日曜美術館が取り上げ、また読売新聞社が紙上における連載、特集、記事のほか、同社作成のポスター、看板が東京駅、新大阪駅等主要駅等に掲載された。<br>・「正倉院展」において、読売新聞社主催の「正倉院フォーラム」が東京、大阪、福岡で開催され、「正倉院展へのいざない」が名古屋で開催された。<br>・特別展では開催 1 ヶ月ほど前に記者発表を行った。来年度開催の特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」に関しては、4 ヶ月前の 12 月上旬に東京において記者発表を行った。<br>・特別展、特別陳列の会期前日にプレスプレビューを行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2134 | (九州国立博物館)<br>1) 文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化にはじめて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。<br>2) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作<br>3) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行(年4回)<br>4) 現在および過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。<br>5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開<br>6) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開<br>7) 文化交流展示室からの積極的な情報発信をはかるため、ポスター・ちらし・webコンテンツの活用を一層、促進する。 | **【九州国立博物館】**<br>①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。<br>②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、webコンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。<br>③特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。<br>④マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。<br>⑤「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年4回)<br>⑥ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(随時更新)<br>⑦地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。<br>⑧九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。 | A | 順調 |
| 2141 | ④黒田記念館所蔵作品の公開機会拡大<br>(東京国立博物館)<br>黒田記念館での展示の他、東京国立博物館本館において特集陳列を開催する。 | **④ 黒田記念館**<br>**【東京国立博物館】**<br>・平成21年3月3日から4月12日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。(20年度事業実績として評価済)<br>・平成22年2月23日から4月5日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「農村(田園)へのまなざし」を開催した。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21年度 | 20年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| **【平常展】外国語パネルの設置(%)** | | | | |
| **東京国立博物館** | **97%** | **97%** | **80%** | **A** |
| **京都国立博物館** | **ー** | **100%** | **ー** | **ー** |
| **奈良国立博物館** | **91%** | **77%** | **80%** | **A** |
| **九州国立博物館** | **82%** | **82%** | **80%** | **A** |
| 【平常展】陳列替回数(回) | | | | |
| 東京国立博物館 | 316 | 319 | 200 | S |
| 京都国立博物館 | ー | 39 | ー | ー |
| 奈良国立博物館 | 8 | 12 | 15 | C |
| 九州国立博物館 | 431 | 386 | 300 | A |
| 【平常展】総陳列件数(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 6,601 | 7172 | 5,500 | A |
| 京都国立博物館 | ー | 1081 | ー | ー |
| 奈良国立博物館 | 717 | 605 | 800 | B |
| 九州国立博物館 | 2,106 | 3146 | 800 | S |
| **【特別展】開催回数(件)** | | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **東京国立博物館** | **12** | **8** | **3～4** | **S** |
| **京都国立博物館** | **5** | **3** | **2～3** | **S** |
| **奈良国立博物館** | **3** | **4** | **2～3** | **A** |
| **九州国立博物館** | **4** | **4** | **2～3** | **A** |
| 【特別展】入館者数(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 1,974,652 | | 1,320,000 | A |
| 阿修羅展 | 946,172 | － | 540,000 | S |
| カルティエ展 | 120,483 | － | 90,000 | A |
| 染付展 | 52,731 | － | 70,000 | B |
| 伊勢神宮展 | 114,796 | － | 110,000 | A |
| 皇室の名宝展 | 447,944 | － | 350,000 | A |
| 長谷川等伯展 | 292,526 | － | 160,000 | S |
| サムライ展(海外展) | (18,609) | － | － | － |
| 日本・その力と輝き展(海外展) | (47,192) | － | － | － |
| アテネ・メトロ・ミュージアム | － | － | － | － |
| The Power of Dogu展(文化庁海外展) | (65,564) | － | － | － |
| 侍の芸術展(文化庁海外展) | (187,064) | － | － | － |
| 土偶展(文化庁海外展の帰国展) | (128,285) | － | 50,000 | S |
| 京都国立博物館 | 466,857 | | 130,000 | S |
| 妙心寺展 | 106,081 | － | 30,000 | S |
| シルクロード展 | 25,511 | － | 20,000 | A |
| 日蓮と法華の名宝展 | 88,187 | － | 30,000 | S |
| ハプスブルク展 | 247,078 | － | 50,000 | S |
| 日本の美　国宝との出会い展 | (30,366) | － | 20,000 | S |
| 奈良国立博物館 | 423,621 | | 245,000 | S |
| 鑑真和上展 | 93,779 | － | 35,000 | S |
| 聖地寧波展 | 30,548 | － | 30,000 | A |
| 正倉院展 | 299,294 | 263,765 | 180,000 | S |
| 九州国立博物館 | 1,055,043 | | 330,000 | S |
| 聖地チベット展 | 140,917 | － | 100,000 | A |
| 阿修羅展 | 711,154 | － | 120,000 | S |
| 古代九州展 | 72,741 | － | 30,000 | S |
| 京都妙心寺展 | 130,231 | － | 80,000 | S |
| 【展覧会広報】 | | | | |
| 東京国立博物館 | | | | |
| 博物館ニュースの発行(回) | 6 | 6 | 6 | A |
| 京都国立博物館 | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 博物館だよりの発行(回) | 4 | 4 | 4 | A |
| | | News Letter の発行(回) | 4 | 4 | 4 | A |
| | | 奈良国立博物館 | | | | |
| | | 博物館だよりの発行 | 4 | 4 | 4 | A |
| | | 九州国立博物館 | | | | |
| | | 季刊アジアージュの発行(回) | 4 | 4 | 4 | A |

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

**【中期目標】**歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源を活用した教育普及活動を実施すること。
①子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供すること。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。
②ボランティアや支援団体を育成し、相互の協力により教育普及活動の充実を図ること。

**【中期計画】**
歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。
①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
②－１教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。
②－２企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

**【主な計画上の評価指標】**
○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること
○ボランティア活動を支援すること
○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること

**【20 年度評価における主な指摘事項】**
○児童への働きかけなどについては、次世代を育て、今後の平常展への観覧者の増加に繋がるものであり、４館が共通して実施すれば一層効果のあるものが生まれると思うので、今後は４館が連携しつつ、切磋琢磨することが必要ではないか。
○ボランティアについては、館毎の人数に大きな差があるが、人数の少ない館についてはもっと積極的に取り組んで欲しい。また、ボランティアの基礎訓練(顧客対応が重要)についてもしっかりとやって欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進**<br>日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。<br>① 学習機会の提供<br>(４館共通)<br>・キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施する。 | **(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進**<br>**①学習機会の提供** | | |
| 2211 | (東京国立博物館)<br>1) ナショナルセンターとして日本の歴史・文化及び東洋文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。<br>本館 20 室を教育普及スペース「みどりのライオン」 | **【東京国立博物館】**<br>1)先導的事業のモデル化及び実践<br>○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示）<br>「日本美術のつくり方」7/28～9/6(36 日間)本館特別 2 室<br>○体験型プログラムの実施 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。<br>○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施<br>・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方」(7 月 28 日～9 月 6 日)<br>○体験型プログラムの実施<br>・特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方」など、平常展示に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。<br>・本館 20 室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。<br>・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。 | オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」をはじめ、平常展や特別展に関連した体験型プログラムを実施（ほぼ毎日実施)。伝統文化への理解を深める機会とした。<br>○「みどりのライオン」プロジェクト<br>みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」事業を本館 20 室で実施した。 | | |
| | 2) 学校との連携事業を推進する。<br>・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。<br>・就業体験の受け入れを継続して行う(小・中・高校生対象)。<br>・単位制高校及び高校生向け講座を継続して実施する(高校生対象)。<br>・インターンシップを継続して実施する(大学院生対象)。<br>・東京芸術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。<br>・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。<br>・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。 | 2)-1 学校との連携事業の推進<br>・スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象）<br>ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラム、キャリア学習のためのプログラムなどを提供。伝統文化鑑賞の理解促進に寄与した。<br>・高等学校の単位制授業に3回にわたる教育プログラムを提供（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）。連携する高校以外からも広く参加を受け入れた。<br>・都内及び近県の小中学校教員を対象とした研修会を2回実施。<br>・全国高等学校美術・工芸教育研究会の研修会への協力。講演等3件(7月29～31日　共催：東京芸術大学)<br>・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施　計 3 回。<br>・大学院生を対象としたインターンシップを実施<br>2)-2 学校との連携の推進　大学との連携事業<br>・大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、大学院生がギャラリートークを行った。<br>・当館蔵仏画の制作工程模型を作成、展示し、その解説を行なった。<br>体験コーナーに於ける陳列期間：平成22年1月13日～4月18日<br>・上記2件の合計：大学院生8名、ギャラリートーク回数74回、参加者数2,636名<br>・キャンパスメンバーズ会員校を対象とした事業を実施した。<br>博物館セミナー　3 回（8 月 19 日、21 日、27 日　計 6 時間）　参加者 224 名<br>教育連携事業　9日間（8月17・18・19・20・21・25・26・27・28日　計32時間）<br>参加者　15大学より、計23名 | A<br><br><br><br><br><br><br><br>A | 順調<br><br><br><br><br><br><br><br>順調 |
| | 3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続 | 3) 講演会・列品解説・講座等の実施<br>講演会：実施 24 回（月例講演会 12 回、テーマ講演会 1 回、記念講演会 11 回） | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | して実施する。 | 列品解説等：実施 126 回（ギャラリートーク等を含む）<br>連続講座：実施 1 回（3 日）<br>公開講座：実施 2 回<br>その他教育的イベント等：<br>・狂言上演<br>・興福寺講座<br>・恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業「上野の山でクマめぐり」<br>・台東区連携事業「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」<br>・マルチメディアを利用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートベルク美術館の事例<br>・保存と修理の現場へ行こう | | |
| 2212 | （京都国立博物館）<br>1） モニターを委嘱し、提言を受けることで、博物館事業等運営の参考とする。<br>2） 展示・収蔵品に関連する土曜講座を開催する。<br>3） 夏期講座を開催する。<br>4） 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。<br>5） 京都橘大学との連携事業を継続して実施する。<br>6） 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布するとともに、京都市内小中学校へ配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 | **【京都国立博物館】**<br>・博物館の事業・運営に対する意見等を聴くモニターを実施。<br>・土曜講座を展覧会にあわせて開催（19 回）<br>・夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」を実施(7/29～31)<br>・「社会科教員のための向上講座について 」（10/27）を実施（32 名参加）<br>・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当<br>・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（30 校）<br>・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施<br>・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を発行<br>・「留学生の日」(10/25)を実施<br>・「少年少女博物館くらぶ」(7/25）を実施<br>・京都市内の小中学校への訪問授業（6/17、金閣小学校児童 160 名）（11/2、蜂ヶ岡中学校生徒 228 名）<br>・「文化財ソムリエ」（7 名）を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15） | A | 順調 |
| 2213 | （奈良国立博物館）<br>1） 奈良県内小中学校 220 校にメールマガジンを配信する。<br>2） 奈良市内小学校 5 年生を対象に世界遺産学習授業を実施する。<br>3） 展示品に関するサンデートークを随時実施する。<br>4） 特別展等に際してシンポジウム及び講座を開催する。<br>5） 夏季講座を開催する。<br>6） 特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。<br>7） 放送大学の面接授業を実施する。(約150名)<br>8） 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。<br>9） 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産 | **【奈良国立博物館】**<br>・小中学校 220 校にメールマガジンを配信した。<br>・世界遺産学習特別勉強会の共同開催　3/6　参加者数　50 名<br>講演会等　参加者数　3,421 人、実施回数　33 回<br>・特別展に伴う公開講座の実施　16回　参加人数2,043人（2009年4月～2010年3月）<br>・当館関係者によるサンデートークの実施　11 回参加人数 584 人（2009 年 4 月～2010 年 3 月、毎月 1 回）<br>・夏季講座の実施　8／18～8／20（1 回（3 日間））、　参加者 391 名（／各日）<br>・大学等との合同講座　実施回数 4 回　参加人数 353 人<br>奈良県立大学との合同公開講座の実施　3 回（9/6、9/13、9/20）参加者総数 260 名<br>東京大学東洋文化研究所との合同公開講座　1 回（9/21）　参加者数 93 名<br>・鑑真和上・唐招提寺フォーラム　2009 の実施　5/2　参加者数　385 名<br>・正倉院国際シンポジウムの実施　10/31　参加者数 184 名<br>・奈良市教員研修の実施　8/25　参加者数　190 名 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 学習のプログラム開発を検討する。 | ・放送大学の面接授業を実施した。(98名)<br>・奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施した。（半年および通年）<br>・世界遺産学習実践研修会（於．奈良教育大学）の共同開催　1回<br>・解説ボランティアによる作品解説<br>展示会場での解説　305日（2009年4月～2010年3月）<br>学校団体案内　37件　（　同上　）<br>一般グループ案内　47件　（　同上　）<br>正倉院展の講堂解説　112回（正倉院展会期中毎日4～7回）<br>世界遺産学習の受入　30件（奈良市内の全小学校5年生を対象に実施） | | |
| 2214 | (九州国立博物館)<br>1)　博物館における体験型事業の充実を図る。<br>・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発<br>・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供<br>・博物館科学施設等において、博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発<br>・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発<br>2)　九州大学との共同研究の成果に基づき、平常展を利用して来館者のニーズに合った情報提供を行うためのプログラムを研究・開発する。<br>3)　学校教育との連携事業を実施する。<br>・職場体験(中学生)の受け入れを実施<br>・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施<br>・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置<br>・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。<br>4)　シンポジウムを開催する。<br>5)　特別展記念講演会を開催する。<br>6)　文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。<br>7)　ギャラリートークを随時実施する。<br>8)　文化施設等へ講師を派遣する。<br>9)　特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。<br>10) 近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画する。 | **【九州国立博物館】-1**<br>①毎週火曜日（火曜休館の週は休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月2回～4回で15～30分程度。1回の平均参加人数は30名程度である。<br>開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーターの指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。<br>②学校教育と連携事業を実施した。<br>③特別展記念講演会・シンポジウムを開催した。<br>-2<br>①体験型展示室「あじっぱ」における展示・体験活動の充実<br>「あじっぱ」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ13回、「あじ庵」において延べ2回、「あじぎゃら」において延べ4回の展示替えを行った。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「タングラム」（中国を起源とする、7つのパーツを組み合わせてさまざまなシルエットをつくるパズル）を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」を実施し、新たなヴァージョンとして「なりきり考古学者」を開発・実施した。また、ベトナム民族学博物館の「Mid Autumn Vietnam-Japan 2009」に協力し、新規開発した「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」のワークショップを実施した。<br>②夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」の実施<br>夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」を7月18日～20日に実施した。<br>③初等・中等教育との連携<br>学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用を継続しつつ、改善点の抽出、新たなコンテンツの可能性について検討した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。<br>④高等教育との連携<br>博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を実施した。<br>⑤教員を対象としたプログラムの実践 | A<br><br><br><

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 11）放送大学の面接授業を実施する。（ 講師数 8 人）<br>12）博物館実習生の受け入れを実施する。<br>13）インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。 | 福岡県教育センターとの連携により、キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」を実施した。また、県高等学校歴史研究会研修会を 3 回実施した。<br>-3<br>キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。<br>キャンパスメンバーズ加入数　29 校<br>大　学　16 校<br>短期大学　5 校<br>専門学校　1 校<br>高等学校　7 校<br>特別展の出張講義　2 件 | A | 順調 |
| 2221-1 | ②-1　ボランティア活動の支援<br>（東京国立博物館）<br>1）　各種教育普及事業及びイベント等の補助活動の充実を図る。<br>2）　点字や手話による博物館案内を実施する。→（処理番号 2311-1 参照）<br>3）　各種解説ツアーを継続して実施する。<br>4）　ボランティア自身の企画立案による解説ツアーの充実を図る。<br>5）　東京芸術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。 | **②－1　ボランティア活動の支援**<br>**【東京国立博物館】**<br>・　活動充実、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を継続して展開した。<br>・　ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。<br>実施回数　474回、参加人数13,432人<br>・　児童・生徒の就業体験を受け入れた。<br>学校数　32校、生徒数　114人<br>・　館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた。<br>実施期間：通年（開館日は基本的に毎日実施）<br>実施場所：館内 4 箇所（本館 1・2 階エントランス，本館 17 室，本館 20 室） | A | 順調 |
| 2222-1 | （京都国立博物館）<br>1）　大学(京都橘大学)との学術交流による特別展覧会観覧者アンケート(反応収集・集計・分析)ボランティアを実施する。<br>2）　調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 | **【京都国立博物館】**<br>大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生 18 名が特別展覧会のアンケート・ボランティアとして活動した。<br>「日蓮と法華の名宝」展の会期中にあたる 10 月 20 日から 11 月 13 日までの毎火・水・金曜日(11/3 を除く)に、当館職員による事前講習ののち、来館者に声かけしアンケートを行った。<br>・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。大学院生等 10 名が、当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。<br>・「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15） | A | 順調 |
| 2223-1 | （奈良国立博物館）<br>1）　ボランティアを受け入れ、展示解説、イベント、学習普及事業補助等の充実を図る。<br>2）　ボランティアに対する指導助言体制を充実するとともにボランティアに対する研修の充実を図る。 | **【奈良国立博物館】**<br>・特別展、特別陳列の開催ごとに 1～2 回、当館職員による展示内容の研修を実施した。<br>ボランティア全員に全展覧会の図録を配布し、解説のための学習資料とした。<br>また、高度な内容を含む特別展（今年度は特別展「聖地寧波」）に対しては、学芸部研究員に対する事前の研究会にボランティアも参加し、専門知識の強化をはかった。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3)　ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。<br>4)　外国語対応のできる解説ボランティアを充実させる。 | ・正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2 週にわたる自主トレーニングを経て、現場に臨むよう指導~~揮~~した。<br>・展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の適切な対応を行った。<br>また、朝のボランティアのミーティングに学芸部職員が立ち会い、質問等に応えている。<br>・ボランティア室の移動に伴い、新しい部屋の環境整備を行い、蔵書を増加した。<br>・顔写真入りの新しいボランティア証を作成し配布した。 | | |
| 2224-1 | (九州国立博物館)<br>1)　ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。<br>2)　ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。<br>3)　ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 | **【九州国立博物館】**<br>① 展示解説ボランティアが来館者（個人・団体）に対して 4 階文化交流展示室内を案内<br>② 体験型展示室「あじっぱ」内において、教育普及ボランティアが来館者の体験活動のサポート<br>③ 館内案内ボランティアが来館者に 4 カ国語（日本語・中国語・英語・韓国語）で対応。またバックヤードツアーの実施<br>④ 博物館科学課の指導のもと、環境ボランティアが IPM 活動や館内の環境整備をサポート<br>⑤ イベントボランティア・学生ボランティアを中心に、季節に沿ったイベントの企画・実施<br>⑥ サポートボランティアによるボランティア広報紙の作成、及び他館とのボランティア交流の企画・実施<br>⑦ 資料整理ボランティアによる館所有の土人形の調書作成、及びデータベース化<br>⑧ 土日を中心とした手話ボランティアとの協力による障がい者対応<br>⑨ 他団体との共催による子ども向けイベントの実施、及び他館イベントへの参加<br>〔対応来館者数〕※事前予約団体分のみ（当日受付対応数は除く）<br>展示解説：4,118 人　　館内案内：5,249 人　　バックヤード：3,028 人<br>〔研修会〕<br>全体研修：5 回　　部会研修会：149 回　　グループ研修会：40 回 | A | 順調 |
| | ②-2　博物館支援者の増加<br>企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。<br>1)　「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。<br>2)　「友の会」会員を対象とした事業を実施する。<br>3)　企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。<br>4)　公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。 | **②－2 博物館支援者の増加** | A | 順調 |
| 2221-2 | (東京国立博物館)<br>1)　賛助会員制度の継続・拡充を図る。<br>2)　地域、企業との連携・拡充を図る。 | **【東京国立博物館】**<br>友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。<br>1)友の会・パスポート・平常展割引パス　会員数 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 種　　別 | 21 年度 | （参考）20 年度 | |
| | | 友の会（1 万円） | 2,085 人 | 1,913 人 | |
| | | パスポート 一般 4,000 円 | 20,392 人 | 19,547 人 | |
| | | パスポート 学生 2,500 円 | 1,206 人 | 858 人 | |
| | | 平常展割引パス（2,000 円） | 24 人 | 30 人 | |

・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数:331 名(20 年度は 319 名)

2)賛助会　会員数

| | 21年度 | (参考)20年度 |
|---|---|---|
| 特別会員 | 16団体 | 13団体 |
| 維持会員 | 24団体・個人178人 | 26団体・個人157人 |

・会員対象の特別鑑賞会等の実施　特別展内覧会　4 回　事業報告会　1 回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展、コンサートなど 8 つのプログラムを行った。（参加者合計約 766 名）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2222-2 | (京都国立博物館)<br>1)　支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。<br>2)　企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。<br>3)　展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。 | **【京都国立博物館】**<br>・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。<br>・企業及び大学との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。<br>・「京都市内 4 館連携協力協議会」の実施<br>・「友の会」事業を継続して実施した。<br>会員数　2,517 人 | A | 順調 |
| 2223-2 | (奈良国立博物館)<br>1)　賛助会員制度の継続・拡充を図る。<br>2)　地域、企業との連携・拡充を図る。<br>3)　支援団体との連携により施設を活用したイベント等を実施し、認知度向上に努める。 | **【奈良国立博物館】**<br>・友の会<br>会員数　2,799 人（一般 2,668 人、学生 103 人、家族 28 人）<br>・賛助会<br>特別支援会員：5 団体、特別会員：2 団体、一般会員（個人）：32 人、(団体)：17 団体<br>・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。<br>・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2009」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。 | A | 順調 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2224-2 | (九州国立博物館)<br>1)　寄付金の獲得に努める。<br>2)　財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。 | 【九州国立博物館】<br>①友の会及びパスポート会員は昨年度より増加している。<br>②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。 | | | A　順調 |

| 定量評価 | 21年度 | 20年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| **学習機会の提供　講演会等参加者数(人)** | | | | |
| **東京国立博物館** | **12,546** | **12,332** | **10,915** | **A** |
| 講演会 | 5,600 | 7,134 | | |
| 連続講座(夏期講座) | 320 | 356 | | |
| 公開講座 | 76 | 68 | | |
| 列品解説 | 6,550 | 4,774 | | |
| **京都国立博物館** | **3,002** | **3,413** | **5,181** | **C** |
| 土曜講座 | 2,791 | 3,254 | | |
| 夏期講座 | 179 | 159 | | |
| **奈良国立博物館** | **3,421** | **3,655** | **3,542** | **B** |
| 公開講座 | 2,043 | 2,706 | | |
| 夏季講座 | 391 | 362 | | |
| サンデートーク | 584 | 587 | | |
| **九州国立博物館** | **6,806** | **5,507** | **5,255** | **A** |
| シンポジウム | 3,849 | 1,555 | | |
| 特別展記念講演会 | 1,622 | 2,670 | | |
| 特別展連続講座 | 0 | 0 | | |
| ミュージアム講座 | 50 | 186 | | |
| ミュージアムトーク | 1,285 | 1,096 | | |
| 放送大学の面接授業の実施(人) | | | | |
| 奈良国立博物館 | 98 | 178 | 150 | C |
| 九州国立博物館 | 50 | 37 | 8 | S |
| 小中学校へのメールマガジンの配信(校) | | | | |
| 奈良国立博物館 | 220 | 220 | 220 | A |

## (3)　快適な観覧環境の提供

**【中期目標】**国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、入館者の期待に応えること。
①高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境を形成すること。
②入場料金及び開館時間の弾力化など、利用者の要望や利用形態等を踏まえた管理運営を行うこと。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図ること。

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| **(3)　快適な観覧環境の提供**<br>国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管 | ○施設のバリアフリー化を進めること<br>○利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力かなどの管理 |

| | |
|---|---|
| 理運営を行う。<br>①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。<br>②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。<br>③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 | 運営の改善を行う<br>○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること<br><br>**【20 年度評価における主な指摘事項】**<br>○入場者の増大もあり、混雑対策も限界に来つつある。炎天下の行列は大変であり、もう少し夜間展示を増やして観客の分散化を図ったり、日陰を作るなど工夫して欲しい。<br>○来館者アンケートや満足度・意識調査だけでなく、外部の専門家を含む「第三者プロジェクトチーム」を結成するなど、新しい視点から改善策を講ずる時期に来ているのものと思われる。<br>○寄託品で所有者が写真撮影を望まない展示物は、撮影不能となっているが、もう少し丁寧な説明ができないか検討して欲しい。<br>○建物の制約はあると思うが、障害のある人や高齢者にやさしい施設を目指して取り組んでおり、地道な活動であるが、アジア諸国の範となって取り組んで欲しい。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 2311 | **(3) 快適な観覧環境の提供**<br>① 観覧環境の整備プログラム等の策定<br>(4 館共通)<br>特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。<br>(東京国立博物館)<br>1) 点字版パンフレット等を配布する。<br>2) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。<br>3) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。<br>4) 本館 2 階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめた日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。<br>5) 外国人に「日本美術の流れ」展示を理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、英語、中国語、韓国語のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。 | **(3) 快適な観覧環境の提供**<br>**①観覧環境の整備プログラムの策定**<br><br>**【東京国立博物館】**<br>○点字解説等の改訂<br>視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに15部を増刷した。<br>○手話通訳つきガイドツアーの試行<br>生涯学習ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において、手話通訳つきガイドを月 1 回開始した（9 月 19 日、10 月 17 日、11 月 21 日、12 月 19 日，1 月 30 日，2 月 20 日，3 月 20 日）<br>○社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内「点字グループ」メンバーと、視覚障害者への博物館サービスについてヒアリングを行った（12 月 1 日）。<br>○「日本美術の流れ」鑑賞のため、4ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットを制作<br>・日本語：テーマ解説、主な展示作品の解説を収録するため、作品の | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 展示替えに応じて更新。<br>・英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識を盛り込んだ外国語パンフレットを配布した。<br>○子供向けワークシート<br>見学のポイントを示し、書き込み、スケッチ等を促すシートを３種制作した。「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」である。<br>○より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。<br>a. 本館特別 5 室 特別展『国宝 土偶展』のため、従来よりもレンズ仕様等の光学性能に優れたカッタースポットライトを補充し、展示効果の高い照明を行った。<br>b. 明治期の「歴史的展示ケース」に光ファイバー照明を取付け、特別展『染付』等に使用した。<br>○音声ガイドによる情報提供<br>下記の特別展で実施した。（貸出数：21 年度計 360,901 件）<br>・特別展「国宝 阿修羅展」（4/1～） 173,192件（会期中3/31～：174,903件）<br>・特別展「伊勢神宮と神々の美術」 25,147件<br>・特別展「染付－藍が彩るアジアの器」 5,716件<br>・特別展「皇室の名宝－日本美の華－」85,665件<br>・特別展「国宝 土偶展」 15,938件<br>・特別展「長谷川等伯」 55,243件<br><br>○その他観覧環境の整備<br>・日ざしの強い日や夏季の特別展等の混雑時に、お客様の熱中症対策として、入場待ち及び敷地内移動用の日傘の貸出、日よけ用テント、給水所の設置を実施した。<br>・混雑時で雨天の場合は、傘立て置き場にテントを張り、利用時に濡れないように配慮した。<br>・混雑した特別展で、休日を中心に看護師の館内常駐を実施した。<br>・館内外の利用案内や展示紹介看板について、新規に作成し直して整備した。<br>・お客様への貸出用車いすを 10 台購入した。このうち 4 台は座高調節式にした。<br>・新型インフルエンザの流行を防ぐため、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。<br>・特別展の際に障がい者内覧会を開催した。（三菱商事株式会社と共 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 催）<br>・外部講師を招き、顧客対応研修会を実施した。<br>・上野消防署の協力により、普通救命講習会および防災訓練を実施した。 | | |
| 2312 | （京都国立博物館）<br>1） 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを推進する。<br>2） ６カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、西語)リーフレットを継続して制作する。<br>3） 混雑が予想される展覧会について、入館者調整や陳列品の配置や音声ガイドの解説場所等の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 | **【京都国立博物館】**<br>・平常展示館の建替に伴う南門売店増築工事が完了した。<br>・平常展示館の建替工事に着手し建物解体工事が完了した。<br>・6 カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。<br>・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。<br>・特別展覧会において音声ガイドによる展示解説を実施した。<br>・特別展覧会において入館待ち時間の情報等を HP 等できめ細かく発信し、観覧の便を図った。<br>・来館されるお客様によりよい環境で観覧していただくため、ＨＰ等で展示室内での注意事項を掲載し、展示室内でのマナー向上について協力をお願いした。<br>・当館職員並びに売店、レストラン従業員、(財）京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接遇技能の修得に努めた。<br>・東山消防署の協力により、地域と連携した消防訓練を実施した。<br>また、普通救命講習及びＡＥＤの取扱講習会を開催した。 | A | 順調 |
| 2313 | （奈良国立博物館）<br>1） 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。<br>2） ７カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語)リーフレットを継続して制作する。 | **【奈良国立博物館】**<br>・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事に着手。<br>・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを設置、看護師の館内常駐を実施。<br>また混雑緩和のため、入場者数を調整したり、11 月 1 日は団体入場受付の取りやめを行ったり、混雑状況をホームページ等で情報提供した。<br>さらに、地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置、英語による案内を行った。<br>オータムレイト券購入者に記念品（第 2 回のポスターを模したしおり）を配布した。<br>・新型インフルエンザの流行を防ぐため、消毒用アルコールを増設。<br>・新たに客数情報システムを導入することにより、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。<br>・特別展において音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。<br>・ケース内の環境を保持し、展示品が鑑賞しやすいことを目的とし | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | て、ケース内単独の調湿装置、発熱の少ないLED照明、光ファイバー、高透過低反射ガラスをそなえた独立ケースを3台新造した。<br>・７カ国語リーフレットを制作した。 | | |
| 2314 | (九州国立博物館)<br>1)　快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。<br>2)　７カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語)リーフレットを継続して制作する。 | **【九州国立博物館】**<br>①特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。<br>特別展では、観覧者の理解を助けるための教育普及プログラムを実施した。<br>②中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成した。<br>③英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。<br>④リーフレットを引き続き７カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。<br>⑤九博概要は新たに英語を追加し、４カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）とした。<br>⑥大混雑した「国宝阿修羅展」において、休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供した。 | A | 順調 |
| 2321 | ②　一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取<br>一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。<br>(4 館)<br>入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。<br>(京都国立博物館・奈良国立博物館)<br>特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 | **②一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取**<br>**【東京国立博物館】**<br>○特別展アンケート<br>すべての特別展で実施し、どの展覧会も 75～80%と概ね高い満足度となった。<br>また、「国宝 土偶展」から新規にタッチパネル式アンケートシステムを導入した結果、回収率が従来の約 3 倍となった。<br>○平常展満足度調査（21 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日）<br>回収サンプル数　997件　（日本語751件、英語193件、韓国語47件、中国語6件）<br>満足度　80%（とても満足 44%、やや満足 36%、どちらともいえない 6%、やや不満 2%、とても不満 2%、無回答 10%）<br>○「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の作成<br>過去３年間の平常展満足度調査及び昨年度実施した非来館者意識調査の結果を、館内に設置した東京国立博物館来館者研究会において分析し、具体的な改善策を提言した。<br>○「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」への協力<br>観光庁が実施した、外国語による情報提供の現状把握を目的とする現地調査及びグループディスカッションに全面的に協力し、課題点 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2322 | | 等を整理した。<br>**【京都国立博物館】**<br>・入館者アンケートを実施<br>特別展覧会「妙心寺」満足度　89%<br>回答数 918 件（良い 59%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%）<br>特別展覧会「シルクロード―文字を辿って―」満足度　80%<br>回答数 696 件（良い 46%、まあまあ良い 34%、どちらともいえない 11%、あまり良くない 1%、良くない 4%）<br>特別展覧会「日蓮と法華の名宝」満足度　79%<br>回答数 1056 件（良い 57%、まあまあ良い 22%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 1%、良くない 1%）<br>特別展覧会「THE ハプスブルク」満足度　90%<br>回答数 1955 件（良い 58%、まあまあ良い 32%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%）<br>・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 | A | 順調 |
| 2323 | | **【奈良国立博物館】**<br>・平常展アンケート（全開館日）<br>回答数　1,633 件（良い 68.4%、普通 12.8%、良くない 5.7%、無回答 13.1%）<br>・英語版平常展アンケート（全開館日）<br>回答数　70 件<br>・特別展アンケート<br>「国宝　鑑真和上展」<br>回答数 263 件（良い 90.2%、普通 4.9%、良くない 3.0%、無回答 1.9%）<br>「聖地寧波展」<br>回答数 106 件（良い 75.4%、普通 15.1%、良くない 6.6%、無回答 2.9%）<br>「第 61 回正倉院展」<br>回答数 1,091 件（良い 79.3%、普通 12.8%、良くない 5.4%、無回答 2.5%） | A | 順調 |
| 2324 | | ・特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に1回掲載<br>**【九州国立博物館】**<br>①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。<br>・平常展アンケート（満足度）　回答数　568 件<br>（とても良い 38%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 5%、よく | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ない 4%、未記入他 12%)<br>②昨年度に引き続き、来館者が利用するエリアを中心に、ユニバーサルデザインの視点に立って既存施設の点検を行った。今年度に整備できた事項としては、階段の識別性向上、トイレのサイン設置・改善、トイレのターゲットシール貼りなどがあげられる。施設整備の面では、一層のレベルアップが図られ、来館者サービスの向上につなげることができた。 | | |
| 2331 | ③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実<br>ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。<br>(東京国立博物館)<br>1)　オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。 | **③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実**<br>**【東京国立博物館】**<br>ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。<br>・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。<br>・新たな絵はがきについて、3年計画中3年目の今年度は、32種類を製作した。<br>・書道博物館と連携した特集陳列「趙之謙」の開催期間中、書道博物館のオリジナルグッズを販売し、当館と他館との連携事業に協力した。<br>・ミュージアムシアター企画「洛中洛外図」にあわせたリーフレットを販売し、当館と企業との連携事業に協力した。<br>・収蔵品をモチーフとした紙袋を1種、本館の装飾をモチーフとした包装紙2種および紙袋2種をあらたに製作し、サービスの向上に努めた。<br>・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。 | A | 順調 |
| 2332 | (京都国立博物館)<br>1)　ミュージアムショップのリニューアルを行い、サービス向上に努める。<br>2)　レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。 | **【京都国立博物館】**<br>・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。また、今年度からインフォメーションコーナーを設け、南門施設として、ミュージアムショップとともにリニューアルさせた。これにより、３施設とも入場券のないお客様にも利用可能となった。<br>・利用者と直に接する南門施設の従業員を対象に接客研修を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 【インフォメーション】<br>・展覧会関係及び京都観光などのチラシを配置し、各種の案内を行っている。<br>・館外に案内所を設け、入場券が無くても利用していただける施設とし、当館の案内だけでなく、京都市観光協会の協力を得て、京都市内の観光案内等も行うことで利用者に喜んでいただいている。<br>【ミュージアムショップ】<br>・絵はがき販売総数は 350 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 159 種類に上っている。<br>・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとして収蔵作品のクリアファイル、また、新商品としてグリコお菓子の詰合せを販売し好評を得ている。<br>【レストラン】<br>・新メニューを取り扱うことで利用者へのサービスを図った。<br>・33種類のパフェを揃え、利用者の要望に応えた。 | | |
| 2333 | （奈良国立博物館）<br>1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。<br>2) ミュージアムショップのホームページをリニューアルし、利用促進に努める。 | **【奈良国立博物館】**<br>・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップが出店した。<br>また、奈良県と連携して地下回廊で県内において生産された物産品を販売する等、地域経済に貢献した。<br>・平城遷都 1300 年にちなんでミュージアムショップで記念グッズの取扱量を増やした。<br>・博物館のホームページリニューアルに伴い、ミュージアムショップの部分を全面改訂し、閲覧者に商品情報及び通信販売方法をわかりやすく工夫した。<br>・ミュージアムショップで博物館監修のオリジナルグッズを販売し、今年度も新商品を追加した。 | A | 順調 |
| 2334 | （九州国立博物館）<br>1) オリジナルグッズの開発や特別展に関連した商品の提供など、サービスの向上に努める。<br>2) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。 | 【九州国立博物館】<br>① ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。<br>② レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。 | A | 順調 |

## 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

### (1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

**【中期目標】**収蔵品等に関する調査研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (1)　収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。 | ○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(1)　調査研究の成果の発信** | **(1)　調査研究の成果の発信** | | |
| 3111 | (東京国立博物館)<br>1)　博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。→（処理番号 6611 参照）<br>2)　国際的な講演・研究集会を開催する。→（処理番号 3211 参照）<br>3)　紀要・図版目録等を刊行する。<br>4)　修理報告書を刊行する。<br>5)　法隆寺献納宝物調査概報を刊行する。<br>6)　研究誌「ＭＵＳＥＵＭ」(年６回)を刊行する。 | **【東京国立博物館】**<br>定期刊行物（研究誌『MUSEUM』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録）6 件、特別展図録・特集陳列印刷物（特別展図録『染付―藍が彩るアジアの器』・『趙之謙とその時代～趙之謙生誕百八十年記念展』等）10 件、特集陳列リーフレット（古代ガラスの発達「吹きガラス」への道等）3 件、その他（『東洋美術 100 選』英語版・中国語版）2 件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。 | A | 順調 |
| 3112 | (京都国立博物館)<br>1)　仏教美術に関するシンポジウムを開催し、報告書を刊行する。<br>2)　特別展覧会関連事業として国際シンポジウムを開催する。→（処理番号 3212 参照）<br>3)　研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。<br>4)　社寺調査報告書を刊行する。<br>5)　文化財修理報告書を刊行する。<br>6)　社寺調査の成果を盛り込んで特別展「日蓮と法華の名宝」を企画し、併せて図録を作成する。 | **【京都国立博物館】**<br>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催(10/23)<br>・研究紀要「学叢」第 31 号を刊行<br>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「妙心寺」を開催し、図録を刊行した<br>・修理報告書を刊行した(1 本)<br>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を開催し、図録を刊行した<br>・サンクトペテルブルクにおける調査を盛り込んで特別展覧会「シルクロード 文字を辿って」を開催し、図録を刊行した<br>・ウィーンにおける調査成果を盛り込んで特別展覧会「THE ハプスブルク」を開催し、図録を刊行した | A | 順調 |
| 3113 | (奈良国立博物館)<br>1)　研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。<br>2)　正倉院展に因むシンポジウムを開催する。<br>3)　国際的な講演・研究集会を開催する。→（処理番号3213参照）<br>4)　文化財修理報告書刊行のため、資料整理等を実施する。 | **【奈良国立博物館】**<br>・研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。<br>・上掲の三つの特別展会期中に、「鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009」（5 月 2 日、神戸新聞松方ホール、参加者数 385 名）、正倉院学術シ | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 5)　入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。 | ンポジウム「皇室と正倉院宝物」(10 月 31 日、奈良県新公会堂、参加者数 184 名）を開催した。<br>・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12 号（平成 22 年 3 月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧(平成 20 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。<br>・前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。<br>・『国宝　鑑真和上展』(特別展図録)、『聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流』(特別展図録)、『第 61 回正倉院展』(特別展図録)、『The 61th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上５冊の展覧会目録を刊行した（以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。<br>・読売新聞「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」及び産経新聞に「祈りの美」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展覧会開催期間中にも読売新聞・朝日新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。 | | |
| 3114 | (九州国立博物館)<br>1)　研究紀要「東風西風」の刊行<br>2)　国際的な講演・研究集会の開催<br>3)　文化財修理に関する印刷物の刊行<br>4)　保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。 | **【九州国立博物館】**<br>①CT スキャン調査研究成果の報告<br>研究発表（当館紀要および関連学会)、講演、テレビ番組<br>『東風西声』第 4 号（当館紀要)<br>文化財保存修復学会大会第 31 回大会　6 月 13・14 日<br>日本文化財科学会大会第 26 回大会　7 月 11 日・12 日<br>東アジア文化遺産保存学会　　10 月 16 日<br>中国考古学会　　10 月 31 日<br>②ハノイ・ベトナムフェア関連イベント「ベトナム文化講演会」<br>ベトナム歴史博物館及び国内からベトナムに関する研究者を招聘し、ベトナム陶磁、ドンソン時代の青銅器、世界遺産ホイアン、九博所蔵文書とベトナム史に関する講演会を開催。<br>③トピック展示「進化する博物館Ⅱ」平成 22 年 2 月 9 日～3 月 28 日<br>④トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の開催と図録刊行。<br>展覧会は平成 22 年 2 月 21 日から 3 月 28 日。<br>⑤研究紀要『東風西声』第 5 号を刊行（3 月発行) | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 研究誌の刊行<br>東京国立博物館(MUSEUM) | 6 回 | 6 回 | 6 回 | A |

## (2) 海外研究者の招聘

**【中期目標】**国内外の博物館関係者との研究会の開催や研究者の交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。

**【中期計画】**

(2) 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

**【主な計画上の評価指標】**

○海外の優れた研究者を招聘し、博物館活動に対する示唆を得ること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○今後は、研究者が対象者限定として受け入れられたのかなど、交流の「背景」についてもわかり易く説明して欲しい。また、全体に「短期」なものが目立つが、評価指標として「人数」だけでなく、「滞在延日数」を使うことも検討して欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 3210 | **(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施**<br>(国立文化財機構)<br>日中韓国立博物館長会議、ＡＮＭＡ理事会・定期大会、アジア博物館研究集会を東京及び福岡で開催する。<br><br>(4 館共通)<br>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(20 人程度：東京 6、京都 5、奈良 6、九州 3)<br>2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(22 人程度：東京 6、京都 6、奈良 6、九州 4) | **(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施**<br>**【国立文化財機構】**<br>・文化庁と国立文化財機構の共催事業として「アジア博物館研究集会」を開催し、アジアの伝統文化と世界への発信をテーマに、10カ国・12名によるスピーチと、5カ国・6名によるパネルディスカッションを行った。海外参加者数：17ヶ国・地域、27館、40名。<br>・自国の伝統文化をどのように保護し、次世代へ継承していくのか、アジア伝統文化をどのように世界に発信するのかについて、相互に情報共有し、またその重要性を再確認する場となった。 | A | 順調 |
| 3211-1<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>3211-2 | (東京国立博物館)<br>1) 外国人研究員・外国人研修生を受け入れる。(2 人程度)<br>2) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加する。 | **【東京国立博物館】**<br>海外より計 26 名の研究者を招へいし、当館研究員延べ 16 名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、アジア国立博物館協会理事会・定期大会およびアジア博物館研究集会の主催館として、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、アジアの国立博物館間における連携を深めた。海外参加者数：17 ヶ国 40 名。<br>さらに、韓国より 1 名、スコットランドより 1 名研修生を受け入れ、博物館の運営・活動について、当館のノウハウを学んでいただく機会を提供した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・国際シンポジウムの開催<br>「伝統文化を伝えるために博物館ができること」というテーマで 1 月 24 日に開催した。伝統文化はどの国でも人々にとって縁遠いものになりつつあるが、国の特色を示すものとして、保護、継承が望まれる。伝統的な美術工芸作品を所蔵、展示する博物館は、そのために努力しているが、観覧者と作品の間に横たわる溝を埋めるのは容易でない。有効な方法を、事例報告、パネルディスカッション、ポスターセッションによって探ろうと企図したものである。 | | |
| 3212 | (京都国立博物館)<br>1) 諸外国における国際会議へ積極的に参加する。 | **【京都国立博物館】**<br>・海外からの研究者の招聘 29 名<br>・海外への研究員の派遣 13 名<br>うち、国際会議への派遣 3 名<br>・国際シンポジウム「法華の人と文化―その行動と思想―」(11/14)を開催<br>・文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」を推進。ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」を開催した(12/16-17) | A | 順調 |
| 3213 | (奈良国立博物館)<br>1) 国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。 | **【奈良国立博物館】**<br>・国際交流協定を結んでいる 4 館のうち 3 館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（館員 3 名を 6 日間)、中国・河南博物院（研究員 2 名を 1 ヶ月間)、韓国国立慶州博物館（研究員 1 名を各 1 ヶ月間）である。<br>・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか 1 名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。<br>・特別展「聖地寧波」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者（米国 4 名、中国 6 名、韓国 4 名）をクーリエとして、また中国・浙江省の文化財関係者 4 名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行った。<br>・特別展「聖地寧波」会期中の 8 月 8 日・9 日に実施した国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」では、外国人研究者 4 名（米国・中国・台湾）が司会・研究発表を担当した。<br>・特別展「聖地寧波」の事前調査のために中国・浙江省に 4 名の研究員を派遣し、開催に際してはクーリエとして 4 名の研究員を中国・韓国に派遣した。併せて今後の両国における文化財調査に向けた情報収集を行った。<br>・特別展「第 61 回正倉院展」では正倉院宝物の源流をシルクロード | A | 順調 |

に探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。
・22 年度の特別展「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」開催の事前調査のため中国にのべ２名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3214 | (九州国立博物館)<br>1)　国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。<br>2)　海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。 | **【九州国立博物館】**<br>①海外研究者の招聘（37 人）<br>・JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修生受け入れ<br>・ベトナム文化講演会による招聘<br>・平成 21 年度 文化庁　アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘<br>・平成 21 年度 九州国立博物館文化財保存国際交流セミナーへの招聘<br>・国際シンポジウムによる韓国研究者の招聘<br>②海外への研究者派遣（46 人）<br>・ベトナム民族博物館での中秋節イベントへの協力<br>③国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流　－祈りのかたち日本と韓国－」開催 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 海外研究者招聘(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 26 | 15 | 6 | S |
| 京都国立博物館 | 29 | 9 | 5 | S |
| 奈良国立博物館 | 29 | 9 | 6 | S |
| 九州国立博物館 | 37 | 18 | 3 | S |
| 外国人研究員・研修生の受入れ(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 2 | 4 | 2 | A |
| 研究員派遣(人) | | | | |
| 東京国立博物館 | 16 | 25 | 6 | S |
| 京都国立博物館 | 13 | 18 | 6 | S |
| 奈良国立博物館 | 30 | 6 | 6 | S |
| 九州国立博物館 | 46 | 35 | 4 | S |

## (3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

**【中期目標】**国内外の文化財の修理・保存処理の充実に寄与すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (3)　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 | ○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 3311 | (3)　保存修理者への研修プログラム<br>保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。 | (3)　保存修理者への研修プログラム<br>**【東京国立博物館】**<br>1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「第1回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（後期）」(平成21年8月3日（月）～14日（金）の10日間)、及び「第2回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（前期）」(平成21年8月31日（月）～9月11日（金）の10日間)を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。<br>2. 平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業により「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」を12月15日～20日に実施し、国内外の専門家による作品調査会、専門家によるワークショップ及び一般参加者も含めた国際シンポジウムを開催し、古代染織品についての保存に関して理解を深めた。<br>3. 文化財保存修復学会との共催により、公開シンポジウム「文化財をまもるー文化財のまもり手を育てるー（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B)」」を開催した。<br>4. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を3月20日（土）に開催。「十六羅漢図」の修理事例及び「国宝阿修羅」の輸送事例の発表、特集陳列の解説を実施した。<br>5. 大学院生のインターンを平成22年2月8月(月)～19日(金)間での間、2名受け入れた。 | A | 順調 |
| 3312 | | **【京都国立博物館】**<br>・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。<br>・当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。<br>参加者　「妙心寺」展　52人<br>「シルクロード文字を辿って」展　39人 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 「日蓮と法華の名宝」展　39人<br>「THE ハプスブルク」展　25人<br>・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。<br>参加大学院生：3名 | | |
| 3313 | | **【奈良国立博物館】**<br>○修理所巡回を一年のうち 6 回実施した。館長、副館長及び学芸部研究員が修理所の各３工房を視察した。修理途中の文化財の修理状況を継続的に観察し、修理の工程を広く知る場を設け、館全体の修理の認識を高めることに努めた。<br>○平成 22 年 2 月 15 日（月）　午後 5 時から 6 時 30 分。当館講堂。文化財保存工房の絵画書跡の修理状況について、近年の実績のなかから、春日曼荼羅〈愛知県美術館〉、泉福寺経（当館蔵）の修理を取り上げ、修理品の概要、修理中の調査及び新知見、修理方針、修理技術などについて、パワーポイントを駆使して発表し、他の修理所工房のスタッフ、学芸部研究員と討議を行い、文化財修理に対する多様な価値観及び思想について見識を深めた。あわせて解説ボランティアも傍聴し、修理に関する理解を深めることが出来た。 | A | 順調 |
| 3314 | | **【九州国立博物館】**<br>①紙文化財保存基礎講座<br>a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生 7 名対象）8 月 17～21 日<br>b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者 17 名対象）1 月 20 日、27 日<br>②文化財保存交流セミナー<br>a「漆工品の保存修復」　7 月 14 日　参加者 61 名<br>b「IPM・もっと知りたいシリーズ　甲虫の話」　22 年 2 月 28 日（日）<br>③文化財保存国際交流セミナー<br>a「海外招聘事業　韓国の装こう修理12月22日　参加者16名<br>b「海外招聘事業　ベトナムの手漉き紙」22年2月5日　参加者18名<br>c「中国古代青銅器の鋳造技術を探る」22 年 2 月 27 日<br>④ミュージアム支援者育成事業（文化庁受託事業）<br>「市民と共にミュージアム IPM」<br>研修会 4 回、ワークショップ 4 回、施設見学 4 回、<br>シンポジウム 1 回　　登録者 50 名 | A | 順調 |

## (4)　公私立の博物館等への貸与の推進

**【中期目標】**収蔵品の地方における観覧の機会を確保するため、貸与に関する情報を公開するなど、収蔵品の貸与を推進すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (4)　収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。 | ○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること<br><br>**【20 年度評価における主な指摘事項】**<br>○今後は貸与に関する情報公開を一層進めて欲しい。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(4)　収蔵品の貸与** | **(4)　収蔵品の貸与** | | |
| 3411 | (東京国立博物館)<br>1)　国内の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を 1,000 件貸与する。<br>2)　長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き約 80 件を長期貸与する。<br>3)　海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ 50 件貸与する(海外交流展出品作品を含む)。<br>4)　国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 | **【東京国立博物館】**<br>・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。<br>・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。<br>・平成 17 年度に始まった長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物約 80 件の長期貸与は本年度も継続して実施中である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。<br>・イタリア共和国ミラノ市のパラッツオレアーレで開催された「日本・その力と輝き　1568-1868」に、「特別協力」の立場で参加し、展覧会開催に貢献した。<br>・韓国国立中央博物館の平常展示のため、平成 22 年 2 月に東南アジアの彫刻 5 件を貸与した。貸与期間は 2 年間の予定である。<br>平成 18 年度以降貸与先件数・貸与件数とも連続して減少している。地方自治体等の財政難による展覧会規模の縮小が背景にあると思われる。 | B | 順調 |
| 3412 | (京都国立博物館)<br>国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約 120 件) | **【京都国立博物館】**<br>・68機関に対し428件の収蔵品貸与を行った。（うち海外2機関に対し28件）<br>館蔵品の貸与件数：201件<br>寄託品の貸与件数：227件<br>計　428件<br>・ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開 | A | 順調 |
| 3413 | (奈良国立博物館)<br>国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約100件) | **【奈良国立博物館】**<br>・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして 34 件、作品件数にして 108 件。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ［貸与先内訳］（のべ）<br>国立 3 館、公立 23 館、私立 6 館、その他 2 館<br>［貸与作品内訳］<br>国宝 7 件、重要文化財 42 件、その他 59 件<br>館蔵品 54 件（絵画 15 件、彫刻 3 件、書跡 5 件、金工 5 件、考古 26 件）<br>寄託品 54 件（絵画 32 件、彫刻 12 件、書跡 4 件、金工 1 件、漆工 1 件、考古 4 件） | | |
| 3414 | （九州国立博物館）<br>収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。 | **【九州国立博物館】**<br>国内 14 機関・海外 1 機関に所蔵品および借用品を貸与した。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 収蔵品の貸与件数(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 1,104 | 1,205 | 1,180 | B |
| 国内展覧会への貸与 | 913 | 1012 | 1,000 | B |
| うち長崎歴史文化博物館 | 80 | 80 | 80 | A |
| 海外展覧会への貸与 | 192 | 113 | 50 | S |
| 京都国立博物館 | 428 | 246 | 120 | S |
| 奈良国立博物館 | 108 | 163 | 100 | A |
| 九州国立博物館 | 89 | 105 | ― | ― |

## (5) 公私立博物館等に対する援助・助言

**【中期目標】**全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

**【中期計画】**

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期５年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

**【主な計画上の評価指標】**

○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○展覧会・審議会・講演のケースが多いが、助言の成果も報告して欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 3511 | **(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進**<br>(4 館共通)<br>公私立の博物館・美術館が開催する展覧会及び運営等の援助・助言をする。<br>(東京国立博物館)<br>新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。 | **(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進**<br>**【東京国立博物館】**<br>文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（78 件） | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 文化財の展示にかかる指導助言（12 件）<br>講演会やセミナー等における講演等での協力（37 件）<br>作品の展示・保存環境についての調査・指導（12 件） | | |
| 3512 | （京都国立博物館）<br>「京都国立博物館所蔵　日本のこころ　美の神髄」（仮称）（富山県水墨美術館） | **【京都国立博物館】**<br>文化財の展示、修理にかかる指導助言（18 件）<br>文化財の調査にかかる指導助言（31 件）<br>講演会、セミナー等における講演等での協力（17 件）<br>地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（48 件） | A | 順調 |
| 3513 | （奈良国立博物館）<br>「石山寺の美－観音・紫式部・源氏物語」（富山県立水墨美術館、浜松市美術館、北九州市立美術館 | **【奈良国立博物館】**<br>・「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」（富山会場＝富山県水墨美術館、21 年 4 月 4 日～5 月 17 日、石山寺・本展実行委員会主催。浜松会場＝浜松市美術館、同 7 月 18 日～8 月 23 日、同館・静岡新聞社・静岡放送・石山寺主催。北九州会場＝北九州市立美術館、同 9 月 12 日～10 月 18 日、同館・石山寺・毎日新聞社主催）において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。<br>・「信貴山秘宝展」（名鉄百貨店本店、10 月 8 日～13 日）において学術協力を行い、集荷・陳列・撤収・返却の指導及び作品解説執筆などを行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 | A | 順調 |
| 3514 | （九州国立博物館）<br>地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 | **【九州国立博物館】**<br>公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| **公私立博物館・美術館への指導助言（件）** | | | | |
| **東京国立博物館** | 139 | 134 | 40 | S |
| **京都国立博物館** | 114 | 114 | 12 | S |
| **奈良国立博物館** | 25 | 5 | 5 | S |
| **九州国立博物館** | 39 | 47 | 12 | S |

## 4　文化財に関する調査及び研究の推進

### (1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

**【中期目標】**文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査及び研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

特に、文化財保護法の改正によって新たに保護の対象となった文化的景観、民俗技術などに関する調査及び研究を推進し、今後の指定等の業務に係る基礎的な知見を形成すること。

**【中期計画】**

**(1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進**

文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

①文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

②我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。

ⅰ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明

ⅱ 我が国における近現代美術の歴史の解明

ⅲ 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明

ⅳ 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究

ⅴ 歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

③我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

④我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン(仮称)」等の指針を作成し公表する。

⑤平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

⑥遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

**【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通**

○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。

○それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実績的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

**【20年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通**

○運営費交付金の枠内における研究費の増額に加え、競争的資金の取得戦略を機構全体で立てて、着実に進めて欲しい。

○災害時に対応した文化財地理情報システムの開発成果をより一層関係者に知らしめ、面的な更なる普及を望む。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進<br>文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究 | (1)　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4111 | や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。<br>①　文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。<br>ア　文化的景観の体系化や保護策に関する研究の一環として、文化的景観に関する基礎資料集を作成するとともに、文化的景観の計画論に関する研究集会を開催する。また、ケーススタディーとして高知県四万十川流域の文化的景観に関する調査研究報告書の作成を進める。 | **①ーア 文化的景観に関する調査研究**<br>文化的景観に関する基礎的な情報の収集、四万十川流域や宇治の文化的景観に関する現地調査等を通じて、文化的景観の価値評価、保存計画立案、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、報告書・論文・Web サイトを通じて成果を報告した。また、文化的景観研究集会(第 2 回)を開催し、価値評価と計画策定の考え方につき情報発信するとともに、昨年度開催の研究集会(第 1 回)の成果報告書を刊行した。 | A | 順調 |
| 4112 | イ　民俗技術に関して、都道府県・市町村における保護の現状に関して、年中行事に用いられる道具類に関する技術伝承を中心に調査を行い、資料を収集する。(④と一体で実施) | **①ーイ 民俗技術に関する調査・資料収集(④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究と一体的に実施)**<br>民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報を整理・データ化し、データベース構築の検討を行った。 | A | 順調 |
| 4121 | ②　我が国の有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。<br>ア　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、報告書を平成 21 年度に刊行することを目指して、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究し、美術史研究の資料学的基盤を整備、確立して、国内外の研究交流を行う。 | **②ーア 東アジアの美術に関する資料学的研究**<br>(1)情報資料の収集のための調査：近現代美術の保存・修復に関する欧州調査。<br>(2)美術史研究のためのコンテンツの形成:『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』のデータ入力。古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。<br>(3)研究会の開催：研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」の開催。オープンレクチャーの開催。<br>(4)研究成果報告書の編集・刊行:『黒田清輝フランス語資料集』の刊行。 | A | 順調 |
| 4122 | イ　我が国における近現代美術の歴史を解明するために、日本の近現代美術に関する研究資料を収集、整理し、総合的な視点に基づく研究手法を開発するとともに、多様化する現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を形成する。 | **②ーイ 近現代美術に関する総合的研究**<br>未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための準備を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。 | A | 順調 |
| 4123 | ウ　美術の創作のプロセスを解明して、美術や文化財に対する理解を深めるために、報告書を平成 22 年度に刊行することを目指して、文化財に関する諸分 | **②ーウ 美術の技法・材料に関する広領域的研究**<br>本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 野と連携しながら、基礎的なデータを収集、蓄積し、制作過程や技法、材料の歴史的変遷を明らかにする調査研究を行う。 | の屏風などについて実地調査した。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。 | | |
| 4124 | エ　日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、古都所在寺社が所蔵する歴史資料・書跡資料等に関する調査結果の報告書及びデータベースを作成することを目指し、今年度は興福寺、東大寺、石山寺、大宮家等の所蔵資料の原本調査、記録作成を実施するとともに、その一部公表に向けて整理検討を行う。 | **②－エ 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究**<br>興福寺については、戦国時代大和国の飢饉・一揆等の生々しい実態を記した資料を紹介することができた。天候不順による凶作と年輪年代の関係も読み取れる興味深い資料である。唐招提寺に関しては、絵図調査の知見に基づいて、学会発表を行った。近世の絵図だが、江戸時代前期の絵図は古代の伽藍配置を窺うに足る内容を持っている。また、平城宮・京に関わる絵図・古文書調査を進めた。 | A | 順調 |
| 4125 | オ　わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理する。 | **②－オ 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究**<br>文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。 | A | 順調 |
| 4131 | ③　平成 22 年度に無形文化財の伝承実態に関する報告書の刊行を目指し、21 年度は前年度に収集した無形文化財に関する音声・映像記録のデータベースの構築に努め、その成果の一部を公開講座として発表する。さらに能楽・雅楽における楽器、能楽の資料調査、文楽における美太夫節曲節資料の調査、関西の歌舞伎資料の調査を実施する。また、伝統芸能の中で伝承の変化の著しい謡曲、講談の記録作成を行う。<br>工芸技術については技法書や映像資料等の収集を行う。また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、韓国をはじめとする近隣諸国との研究交流を実施する。 | **③ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究**<br>文化財保護委員会が作成した音声資料、現在伝承されている狂言歌謡、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこなうとともに、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこない、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。 | A | 順調 |
| | ④　我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等について考察し、平成 22 年度に報告書を刊行することを目指して、平成 21 年度は、無形民俗文化財の現代における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査等を実施し、データの蓄積を図る。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、無形民俗文化財の映像記録についての全国的なデータベースについて、昨年収集した情報を整理分析し、データベースの構築を行う。 | **④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究**<br>①－イ参照 | | |
| 4151-1 | ⑤　国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。<br>ア　平城京跡及び飛鳥・藤原京跡について、古代都城の実体解明のため本年度は以下の地区の発掘調査を実施する。 | **⑤－アー1　平城宮跡東院地区（第 446 次）の発掘調査**<br>南隣の調査区においても検出していた大規模な総柱建物を検出し、東院西辺部の利用状況を明らかにした。<br>また塀や回廊など区画施設が、数度にわたり建て替えられた状況を検 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | (平城京跡)平城宮跡第一次大極殿院地区・東院地区、興福寺境内、薬師寺境内ほか | 出した。東院地区全体の構成と性格を明らかにするという点において非常に大きな成果である。 | | |
| 4151-2 | (飛鳥・藤原京跡)藤原宮跡朝堂院地区、甘樫丘東麓遺跡ほか | **⑤ーアー2　平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場(第 454 次)の発掘調査**<br>(1)奈良時代前半の第一次大極殿院内庭広場の礫敷舗装の変遷を明らかにした。<br>(2)楼閣の増築にともない、地表面の傾斜を変更し、広場の排水計画を改めた様子を確認した。<br>(3)SD5590 の北で、矩形の大土坑を検出した。<br>その他、遺物として包含層より乾元重宝(唐銭・758 年発行)が 1 点出土した。 | A | 順調 |
| 4151-3 | | **⑤ーアー3　薬師寺(第 457 次)の発掘調査**<br>薬師寺中心伽藍の東方にある東院堂の北東の調査区(D1・D2 地区)で、未知の建物跡を検出した。掘込地業をもち、精緻な版築をしており、基壇外装には二上山産凝灰岩を用いている。現在の東院堂は 1733 年に南向きから西向きに変えた記録が残るが、この遺構は奈良時代に創建された東院の主要な建物跡と考えられる。 | A | 順調 |
| 4151-4 | | **⑤ーアー4　興福寺南大門跡(第 458 次)の発掘調査**<br>調査の結果、南大門の基壇および建物の規模、基壇外装(地覆石)の変遷、基壇造営以前の地形および基壇築造の過程などを明らかにした。さらに、基壇上では金剛力士像の基礎 2 基と、創建時の鎮壇具埋納遺構などを発見した。また、調査期間中に 2 度の記者発表をおこない、9 月 27 日には現地説明会を開催した。 | A | 順調 |
| 4151-5 | | **⑤ーアー5　平城宮跡東方官衙地区(466 次)の発掘調査**<br>(1)奈良時代後半の官衙の、区画内の建物配置を確認した。<br>(2)建物の礎石が当時の位置をとどめている状態を確認した。<br>(3)東方官衙地区を南流する基幹排水路が東へ折れ曲がることを確認した。 | A | 順調 |
| 4151-6 | | **⑤ーアー6　藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査**<br>大極殿院回廊の東南隅と朝堂院北面回廊との接続部の発掘調査を実施し、回廊の建設から解体までに至る遺構や、大極殿院内庭・朝堂院朝庭の礫敷を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営期に資材運搬などに利用されたと考えられる南北・東西の大溝など検出し、これらの変遷から藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。 | A | 順調 |
| 4151-7 | | **⑤ーアー7　甘樫丘東麓遺跡の発掘調査**<br>第 157 次調査では、7 世紀前半から 8 世紀にかけての石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、石敷遺構、石組溝、土器廃棄土坑、土器埋設遺構など | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | を検出した。特に、調査区中央で検出した石垣遺構は、前回の調査と合わせて全長 34mにおよぶものであることが判明し、構造・時期に関する資料が得られた。第 161 次調査では、谷の北東の斜面に設定した調査区において掘立柱列を検出し、丘陵上においても遺構の展開することを確認した。 | | |
| 4152-1 | イ　出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成 21 年度及び平成 20 年度以前の発掘により出土した出土遺物(木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等)の分類分析研究及び保存処理を実施するとともに遺構の研究を行う。そしてその成果の一部を『平城宮発掘調査報告』、『平城宮木簡七』、『平城宮整備報告』、『平城宮大極殿復原研究』瓦編等として刊行する。 | **⑤－イ－1　平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等**<br>本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 22 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2010』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院―二条大路木簡の世界』を開催した。 | A | 順調 |
| 4152-2 | | **⑤－イ－2　飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等**<br>本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。 | A | 順調 |
| 4153 | ウ　アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡(唐三彩窯跡及び生産品)に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城並びに韓国古代王京に関する韓国国立文化財研究所との共同研究を協定に基づいて実施する。 | **⑤－ウ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究**<br>Ａ：漢魏洛陽城において 1800 ㎡の共同発掘調査を実施。日中双方で都城研究についての討論会を開催。<br>Ｂ：遼寧省における隋・唐代墓出土品の調査を実施。<br>Ｃ：黄冶窯および白河窯で生産した陶磁器の系統的把握の基礎視点が明確になるとともに漢魏洛陽城出土陶器との比較研究を実施。<br>Ｄ:日本の古代都城ならびに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。 | A | 順調 |
| 4154 | エ　平安時代庭園に関する調査・研究の一環として、平成 21 年度は平安時代中期・後期の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査を行うとともに、関係する研究者を集めて研究会を開催する。 | **⑤－エ 庭園に関する調査研究**<br>国際研究会を開催し、東アジアにおける日本庭園、とりわけ「浄土庭園」の位置づけを明らかにし、その成果を報告書(英語版・日本語版)として取りまとめた。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。 | A | 順調 |
| 4155 | オ　飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史研究の一環として、鏡や梵鐘を中心とした工芸品の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。 | **⑤－オ 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究**<br>山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年も計測を継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、四神図を中心に研究を進め、関連文献の収集、奈良文化財研究所所蔵出土遺物における朱雀・鳳凰文の調査、群馬県立歴史博物館所蔵の唐代壁画墓四神図の模写等の調査をおこなった。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、奈良県平吉(ひきち)遺跡出土の鋳造関連遺物および奈良市出土鏡の調査を行った。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4161 | ⑥　遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に対応した適切な保存修復・整備の向上に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査･研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。<br>ア　遺跡の調査・保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、庭園等を含め遺構の露出展示を伴う整備事例の資料収集・現地調査を踏まえたデータベース構築を進め、露出展示の成果と課題を整理する。また、遺跡の内外に展開する景観と遺跡整備の在り方に関する研究集会を開催する。 | **⑥ーア 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究**<br>遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集をおこなうとともに、その意義や分類などについて検討を進め、遺構露出展示の持続的管理に関する検討をおこなうとともに事例に関する整理を改訂した。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。 | A | 順調 |
| 4162 | イ　遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。 | **⑥ーイ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究**<br>遺跡内の水分移動を推察し、さらに露出展示した場合の変化を予測するために、遺跡の土を採取してこれらの不飽和水分移動特性の推定をおこなった。そして、その成果とボーリング調査による土層層序、地下水面に関する情報をもとに、遺構における水分移動のシミュレーションをおこなった。また、数値実験をつうじて、水を用いた土質遺構の安定化の可能性について検討した。 | A | 順調 |
| 4163 | ウ　平城宮跡、藤原宮跡について、公開活用及び整備の具体的方策を研究し、文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関して、専門的・技術的な援助・助言を行う。文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 | **⑥ーウ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言**<br>長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。 | A | 順調 |

## (2)　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

**【中期目標】**最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| **(2)　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進**<br>文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。<br>①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。 | |

②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。
③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。
④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。
⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 4211 | **(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進**<br>文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。<br>①　光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関し、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。 | **(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進**<br>**① 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究**<br>脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―近赤外線画像編―』として刊行した。また、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を行った。また、奈良国立博物館との共同調査研究として「大徳寺五百羅漢図」の判読がこれまで出来なかった銘文の解読を行った。また、昨年、撮影と調査を行った春日大社所蔵の春日権現験記絵巻披見台の報告書ならびに法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座(下座板絵)の報告を行った。 | A | 順調 |
| 4221 | ②　可搬型蛍光Ｘ線分析装置による彩色文化財の材質調査を推進するとともに、有機染料分析のための光学的調査方法の基礎的検討を行う。また、文化財の材質構造に関する調査・助言を行う。 | **② 文化財の非破壊調査法の研究**<br>ポータブル蛍光Ｘ線分析装置や反射分光システム、デジタル顕微鏡システムなど複数の非破壊的手法を用いて、博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。また、分光学的手法に関する染料分析の高度化のための検討を併行して行った。 | A | 順調 |
| 4231 | ③　遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。<br>ア　官衙関連遺跡及び寺院遺跡の資料収集を行い、その指標や基本的属性分析を踏まえた資料のデータベース化を推進し、適宜一般公開する。 | **③－ア 遺跡データベースの作成と公開**<br>官衙関係遺跡の建物データについて、各遺跡における建物群の性格・建物の性格を細分化して追加した。とくに、官衙における門遺構のデータを重点的に収集し、データベースの更新および公開をおこなった。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方の一部まで公開した。 | A | 順調 |
| 4232 | イ　遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、実地テストを通じたデータの収集と分析を行う。 | **③－イ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究**<br>遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践をおこなった。測量では、三次元レーザースキャナーおよび写真測量の技術的検討をおこない、遺跡・石造物や考古遺物の図化法の検討と摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、ＧＰＲの走査方法改善と新たな機器の | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 試作、ＧＰＳによる位置精度向上実験をおこない、多様な条件下で建物跡の確認に成功した。 | | |
| 4241 | ④　遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスＸ線 CT やデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査に大変有効であるので、実施事例の拡充を図るとともにさらなる技術の進歩を目指す。これらの研究成果を、学会、学術論文、各種報告書として発表する。 | **④ 年輪年代学研究**<br>3 府県下 3 遺跡から出土した考古学関連の木材試料、2 府県下 3 棟の建造物、7 府県下 9 躯の木彫像ならびに 1 件の現生木試料群に対して年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた文化財の高精度な非破壊分析を 2 件実施した。さらに、年輪の非破壊計測に関する技術開発にも取り組んだ。以上の研究成果の一部を、論文等 7 件、学会発表等 4 件として発表するとともに、特許 1 件を取得した。 | A | 順調 |
| 4251 | ⑤　動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行う。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに中国、韓国、台湾や、北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。 | **⑤ 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究**<br>国内外の学会や研究会において、環境考古学とくに貝塚や湿地遺跡から明らかとなる動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。研究の基礎となる動物骨格標本についても継続的に収集するとともに、広く活用されるように所蔵標本リストの公開を行った。また、継続して分析を行っている佐賀県東名遺跡や兵庫県兵庫津遺跡について、発掘報告書を執筆した。 | A | 順調 |

## (3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

**【中期目標】**国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査及び研究を実施すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| **(3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進**<br>最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。<br>①生物被害を受けやすい木質文化財(社寺等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策を確立する。<br>②環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。<br>③屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。<br>④考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーＸ線ＣＴ・ＣＲ法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。<br>⑤伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。<br>⑥近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共 | |

| 同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。 | | | |
|---|---|---|---|
| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価<br>年度 / 中期 |
| | **(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進**<br>最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 | **(3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進**<br>**① 文化財の生物劣化対策の研究**<br>歴史的建造物での生物被害状況調査で日光輪王寺本殿の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。今年度は、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、さらに詳細な調査を行い、殺虫処理についても検討を進めた。また、調査結果および修理、今後の殺虫処理などに関する専門家向け研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。 | A / 順調 |
| 4311 | ①　生物被害を受けやすい木質文化財(寺社等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策の確立のため、調査研究を行う。最終年度に報告書を刊行する。 | | |
| 4321 | ②　環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行う。最終年度に報告書を刊行する | **②文化財の保存環境の研究**<br>文化財施設内の温湿度解析の対象として、いくつかの博物館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、建築部材から発生する汚染ガスの簡易測定法に関して、実験を行い、研究成果をまとめた。また、12 月 8 日に「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。さらに「文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱・水分移動解析に関する研究会」というテーマで研究会を開催した。 | A / 順調 |
| 4331 | ③　韓国と日本国内の石造・木質文化財調査を行い、磨崖仏などの劣化要因究明及び修復材料・技術の開発を日韓共同で行う。また、東大寺法華堂及び戒壇堂安置仏像群の防災体制に関する基礎的調査を行う。さらに、文化財防災情報システムを活用した防災体制の整備に関する調査研究を進める。 | **③−1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究**<br>石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)臼杵磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2)木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会等を実施した。 | A / 順調 |
| 4332 | | **③−2 文化財の防災計画に関する調査研究**<br>平成 21 年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在)の耐震対策を講ずるため、対象となる仏像の三次元計測を行うとともに、重心など三次元計測から得られた情報を用い地震による転倒可能性について考察を行った。(2)地理情報システム(ＧＩＳ)に基づいた文化財防災情報システムの開発では、行政機関における活用実験を継続した。 | A / 順調 |
| 4341 | ④　考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーＸ線ＣＴ・ＣＲ法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。<br>ア　考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用を目指し、標準試料及び考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄 | **④ 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究**<br>1)ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。<br>2)九州国立博物館と共同で、平安時代の錠前をＸＣＴ撮影し、三次元モデルを製作した。 | A / 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 積並びにデータベースの構築を継続する。<br>イ　高エネルギーＸ線ＣＴ法及びＸ線ＣＲ法を応用し、考古遺物の内部構造並びに材質推定法の基礎的研究を行う。<br>ウ　繊維製遺物や漆製遺物などの有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成を行う。<br>エ　木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化を目指し、強化含浸薬剤の検討並びに乾燥条件の基礎データの集積と検討を行う。<br>オ　遺跡及び遺物の保存修復の現状と課題を広く検討するため、保存科学研究集会を開催する。 | 3)漆製遺物および繊維製遺物の分析をおこない、データを集積した。<br>4)トレハロース含浸処理した試料からトレハロースを析出させる、貧溶媒法の応用実験に取り組んだ。<br>5)「遺構・遺物の保存と展示・活用の諸問題」の研究集会を九州国立博物館と共催した。 | | |
| 4351 | ⑤　伝統的な文化財修復材料及び関連技術の現地調査、自然科学的な分析などを行う。文化財などの修復に使用された合成樹脂の劣化状態を調査する。また、海外の文化財保存担当者を対象に、漆及び漆を用いた文化財についての材料学・保存修復などの講義と、クリーニングなどの実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。さらに、専門家を現地に派遣して修復を行う。 | ⑤－1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究<br>1. 建造物に使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験の調査結果を纏めるとともに、日光東照宮や厳島神社などの建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図った。また、あらたにPY-GC/MS分析装置を用いた建造物の塗装材料をはじめとする各種修復材料の分析を開始した。<br>2. 岩手県二戸市浄法寺地区周辺で継続していた漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査は、本年度を持ってこれを終了した。また、新たに伝統的な膠材料に関する調査研究を開始した。<br>3. 研究所が所蔵する過去の修復事業の資料を分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。<br>4.「建造物の塗装材料である漆塗料-その現状と課題-」というテーマで、2010年1月21日に研究会を開催し、計111名の参加を得た。発表：本多貴之(明治大学／東文研)「漆塗料の劣化メカニズムを探る」、北野信彦(東文研)「建築文化財における漆塗装の歴史」、佐藤武則(日光社寺文化財保存会)「日光社寺建造物群における漆塗装の修理」、西　和彦(文化庁)「建築文化財における塗装修理の考え方」 | A | 順調 |
| 4352 | | **⑤－2 国際研修「紙の保存と修復」**<br>ＩＣＣＲＯＭと共同の開催である国際研修(2009年9月2日～9月15日)『漆の保存と修復 2009』は、9カ国10名(オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ロシア、ドイツ、英国、ポルトガル、カナダ、米国)の研修生で行い、日本における漆工の歴史、漆の科学と調査方法、伝統的な漆工技術、漆工品や漆塗装の修復理念の講義と修復方法の基礎実習を行った。またスタディーツアーを9月6日～9月9日の3泊4日で企画し、日本産漆の80%ちかくを生産している二戸市浄法寺町周辺を訪れ、日本の漆文化財の歴史と伝統、現状を視察した。アンケート：回収率100%、満足度100%。<br>一方、東京文化財研究所独自の国際研修『漆工品の保存と修復』(2009年9月16日～10月15日)は、2カ国2名(ハンガリー、ドイツ)の研修生で行った。研修内容は東京都港区實相寺所蔵の会津松平家縁の常香盤を題材として、修 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 復技術者の山下好彦氏から漆塗料を使用した本格的な保存修復作業の実践実習を行った。またスタディーツアーを 9 月 21 日～9 月 23 日の 2 泊 3 日で企画し、姫路、奈良、京都の漆文化財の現地見学を行った。さらに修復対象の教材である常香盤を所蔵する東京都港区内の實相寺の視察を 10 月 5 日に行った。<br>また、上記の漆の国際研修に使用するテキストブック『漆 -中級編-』を作成した。 | | |
| 4353 | | **⑤－3 在外日本古美術品保存修復協力事業**<br>平成 21 年度は、7 館 11 点の作品(絵画 5 点、工芸品 5 点)を修復した。うち 2 点(絵画 1 点、工芸品 1 点が 20 年度からの継続、4 点(絵画 2 点、工芸品 2 点)を海外で修復した。工芸品の事前調査はロイヤルコレクション／ドロットホルム城、グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨーロッパで 4 館 17 点の調査を行った。また、平成 20 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。 | A | 順調 |
| 4361 | ⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。船の科学館・手宮機関車庫などでの劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設などでの測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の青焼き図面の劣化調査と資料収集を行い、再発色に関する研究を進める。 | **⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究**<br>今年度は近代化遺産の中でも屋外保存されている文化財の保存と修復に関して研究を行った。中でもコンクリート構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場からコンクリート構造物の保存と活用に関する発表をし問題点の整理や解決法についての討論を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。 | A | 順調 |

## (4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

**【中期目標】** ------

**【中期計画】**

(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

**【主な計画上の評価指標】**

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 4411 | **(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。**<br>① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に | (4)<br>**①－1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(1)**<br>高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天井石 2 の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外のすべての項目について、 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 関して技術的に協力する。 | 透明シートへの描き込みを完了した<br>キトラ古墳では、5～6 月、10～11 月、11～12 月の 3 期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。 | | |
| 4412 | | **①－2　文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(2)**<br>文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力するとともに、来年度刊行予定の『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』に関する編集作業を鋭意進めた。<br>今年度のキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業を支援するとともに、今後のキトラ古墳壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。 | A | 順調 |
| 4421 | ②　国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。 | **② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力**<br>昨年度の試掘調査の成果をもとに檜隈寺の主要伽藍の存在する丘陵の東裾部および、講堂北西約 25ｍの地点の発掘調査を実施した。丘陵東裾部からは掘立柱建物やそれらを区画する掘立柱塀を検出し、檜隈寺の主要伽藍に関連する建物群の具体的状況を明らかにした。また講堂北西の調査区では、7 世紀前半から中頃までの L 字形カマドをもつ竪穴住居を検出し、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する重要な資料を得ることができた。 | A | 順調 |
| 4431 | ③　国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥２工区の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。 | **③ 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力**<br>「大和平野県営飛鳥２号幹線（右岸）　その３」について、山田道、大官大寺にかかる部分にたいして厳重立会のかたちで対応することとなった。 | A | 順調 |

## (5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

**【中期目標】**有形文化財の収集・保管・公衆の観覧等に必要な調査研究を計画的に実施すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| **(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究**<br>有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。<br>①収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。<br>ⅰ 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。<br>ⅱ 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。<br>ⅲ 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。<br>ⅳ トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。 | |

| | |
|---|---|
| v 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。<br>vi 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。<br>②公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。<br>i 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。<br>ii 博物館情報学を構築するための研究を実施する。<br>iii 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。<br>iv 京都文化を中心にした文化財の調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。<br>v 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。<br>vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。<br>vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。<br>viii 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。<br>ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。 | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | **(5) 有形文化財に係る調査研究**<br>① 収集・保管のための調査研究の実施<br>競争的資金の獲得に努めつつ、収蔵・寄託する文化財に関する研究、保存・展示環境の改善に関する研究を進めるとともに、次の研究課題に重点的に取り組む。<br>(東京国立博物館) | **(5) 有形文化財に係る調査研究**<br>**① 収集・保管のための調査研究の実施**<br><br>**【東京国立博物館】** | | |
| 4511-1 | 1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究」 | **1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究**<br>館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。 | A | 順調 |
| 4511-2 | 2) 特別調査法隆寺献納宝物(第 28 次)「聖徳太子絵伝」第 3 回 | **2) 特別調査法隆寺献納宝物(第 31 次)「聖徳太子絵伝」第 5 回**<br>本年度は、国宝聖徳太子絵伝 10 面のうち 9 面と 10 面を調査対象とした。従来料絹については大柄な立湧文を織り出した綾絹の使用は認められていたが、新たに菱文様の綾絹が使用されている箇所が発見された。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵伝に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明 7 年＝1787)を比較検討することによって、その内容が新たに確認できた。 | A | 順調 |
| 4511-3 | 3) 特別調査「書跡」第 7 回(17 年度写経 1 回、18 年度写経 2 回実施、19 年度古文書 1 回、20 年度古文書 2 回実施) | **3) 特別調査「書跡」第 7 回**<br>当館所蔵の手鑑装・巻子装・折本装・掛幅装・屏風装の古写経について,法量計測,写真撮影を実施するとともに,書写された文字の筆致,巻子装の軸端や使用された料 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 紙の材質分析,奥書に記載された事項の検討等から書写年代推定した。また掛幅装や手鑑装の古写経は断簡であるため,書写経文の検討によってその原典を可能な限り特定して,当館所蔵古写経の基礎データ情報を整理した。 | | |
| 4511-4 | 4) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に | **4) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に**<br>当館収蔵の狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」、土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、尾形光琳筆「竹梅図屏風」を対象として、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査を行ない、データの集積を進めた。 | B | ほぼ順調 |
| 4511-5 | 5) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討) | **5) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討)**<br>現在まくりの状態で保管されている壁画の現状を調査検討し、その保存状態を把握したことで、適切な修理方法を決定するための重要な参考資料を得ることができ、今年度は壁画3枚の修理を実施することができた。さらに来年度以降に修理が実施される予定の壁画の保存状態を把握し、あわせて表現技法の詳細を把握することができた。 | A | 順調 |
| 4511-6 | 6) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 | **6) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究**<br>＊明治時代前期に博物館が収集した洋書のうち、歴史的意義の深いものについて、調査を行った。<br>＊前年度に調査を行った書籍も含め、明治初期の館蔵の洋書に関する特集陳列を企画して展示するとともに、学術的意義を紹介したパンフレットを作成、配布した。 | A | 順調 |
| 4511-7 | 7) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究(今年度は報告書の執筆) | **7) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究**<br>ザールデリー遺跡の発掘調査報告書の和文執筆、英文翻訳を行なった。翌年度の出版に向けて、出版社の選定などの準備を進めている。 | A | ほぼ順調 |
| 4511-8 | 8) 博物館の環境保存に関する研究 | **8) 博物館の環境保存に関する研究**<br>東京国立博物館は二酸化炭素削減に関して、省エネ法に関する規制及び東京都環境確保条例に基づく規制を受けるために複雑な対応が強いられる。そうした社会的な方向性に対応するために、保存科学的観点からの行動指針について検討した。 | A | 順調 |
| 4511-9 | 9) 東洋民族資料に関する調査研究 | **9) 東洋民族資料に関する調査研究**<br>1.当館所蔵の東洋民族コレクションの総合的なデータベースの作成により、研究・展示・保存などに必要な基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。<br>2.とくに台湾先住民族の資料について、民族誌や最新の研究成果と照合することで、過去の台帳の記載内容を補足、修正することができた。<br>3.特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」を実施し、当館が所蔵する南太平洋将来の代表的な民族資料15件を陳列することで、調査研究の成果を公開した。 | A | ほぼ順調 |
| 4511-10 | 10) 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究(韓国国立中央博物館) | **10) 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究**<br>数百の小片に分かれた断片の詳細な観察を通じて、各小片の位置、箱の形状及び寸法、木地及び塗膜の構造、顔料の種類、螺鈿・描金の組成などについて多数の知見を得ることができた。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4511-11 | 11）日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助　金) | **11）日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)**<br>今年度は、東京国立博物館で開催された特別展「伊勢神宮と神々の美術」に出品の静岡・伊豆山神社の男神立像、島根・成相寺の神像 23 体、岐阜・華厳寺の十一面観音立像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。昨年調査した一部の像のサンプルについて放射性炭素年代測定を試み、今後の研究への応用の可能性を協議した。これまでの研究成果の一部を研究論文としてまとめた。 | A | 順調 |
| 4511-12 | 12）東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究(科学研究費補助金) | **12）東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究(科学研究費補助金)**<br>東京国立博物館・陽明文庫・三の丸尚蔵館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。昨年度に引き続き、今年度は作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、今年度は最終年度にあたるため、これまでの研究成果をまとめて、報告書を作成した。 | A | 順調 |
| 4511-13 | 13）目録学の構築と古典学の再生(科学研究費基盤Ｓ。研究代表者：田島公 東大教授。平成 19-23 年度) | **13）目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金)**<br>＊昨年度に続いて、列品のうち歴史資料及び和書に含まれる、公家の儀礼や家職に関する絵画資料を網羅的に確認し、調査を行った。一部については、写真撮影により画像を作成する。<br>＊国宝『延喜式』の詳細調査実施に向けて、予備的な調査と打ち合わせを行った。 | A | 順調 |
| 4511-14 | 14）国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究　－館史資料の分析を中心に－(科学研究費補助金) | **14）国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－(科学研究費補助金)**<br>東京国立博物館保管の近代彫刻 208 件について、列品録・列品台帳の資料調査と、作品調査を実施した。作品調査では、調書と写真を作成した。それらをまとめた上で『東京国立博物館図版目録』(近代彫刻篇)を刊行した。 | A | 順調 |
| 4511-15 | 15）油彩画の材料・技法に関する共同調査(平成 21 年～平成 23 年) | **15）油彩画の材料・技法に関する共同調査**<br>平成 20 年 11 月から開始し、可能な限り月 1 回のペースで調査を進めてきた。調査は朝 10 時から午後 17 時までであり、1 回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、11 点におよぶ。次第にデータが蓄積されているが、その中から、今年度は 3 点についての調査内容を発表する紀要(45 号)を出版する予定である。 | A | 順調 |
| 4511-16 | 16）荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究(平成 21 年～平成 22 年) | **16）荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究**<br>3 次元計測を石膏原型に対して実施し、取得したデジタル 3 次元画像を元に、デジタルデータの解析を行った。表面のテクスチャー等を様々に変化させ、デジタルプリンターによる立体縮小模型を作製し、原寸大ブロンズ鋳造に向けた準備を行った。最適なテクスチャーに基づいた原寸大鋳造を実施した。 | A | 順調 |
| 4511-17 | 17）博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費基盤(S)・平成 20 年～平成 24 年) | **17）博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)**<br>これまでに集積した各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存･検索できるデ | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ータ活用システム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の主要部分の構築を完了した。具体的には、各種保存カルテ、各種写真記録、各種環境記録、作品・関連資材の所在情報を統合的に扱うことが可能になる。 | | |
| 4511-18 | | **18)東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―(科学研究費補助金)**<br>作品のデジタル画像について、個々に番号を付けるとともに、各作品については、現状、法量、品質、技法、用途等についての詳細を記録化する作業を行った。<br>東博が所蔵する正倉院関係資料についても、デジタル写真での記録撮影を進め、詳細データを収集した。 | A | 順調 |
| 4511-19 | | **19) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究 (科学研究費補助金)**<br>東博に収蔵されている関連作品や関連資料について、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。一部、デジタルカメラによる記録撮影やスキャニングによるデータ保存を進めている。また、特集陳列「皇室と東京帝室博物館」で関連資料を公開するとともに、図録を作成した | A | 順調 |
| 4511-20 | | **20) 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)**<br>中国陝西省及び河南省において実施した現地調査によって得た内容を整理し、開催した研究集会等を通じて、隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する検討を行なった。 | A | 順調 |
| 4511-21 | | **21) 原三渓旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金)**<br>今年度は、原三渓旧蔵近代絵画・彫刻に関する関連資料の収集、先行研究の整理、資料のデータ整理とデータベース化を進めた。また、昭和初年に行われた「明治大正名作展」に関する関連資料の収集、先行研究の整理、データ整理を行った。さらに、書簡調査など、基礎資料調査を集中して行うことで、次年度以降の本格的な調査研究、論文執筆に必要な基礎的作業を大幅に推進することができた。 | A | 順調 |
| 4511-22 | | **22) 高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金)**<br>復元職人(上野修路)が作業前に行う文化財の調査風景、調査状況のビデオ記録の編集解析をおこなった。ビデオ記録時間は編集後、約 7 時間(400 分)となり、現在それらの編集映像のデータベース化を開始している。<br>また、タッチディスプレイや 3D ディスプレイ、映像インターフェースなどの調査を行い、次年度の閲覧デバイス設計のための基礎調査をおこなった。 | A | 順調 |
| 4511-23 | | **23) 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究 (科学研究費補助金)**<br>本年度は、「法隆寺什物図」の基礎データをそろえる第一歩として、全巻の写真撮影を行い、合わせて翻刻のための部分写真も撮影した。同時に、全巻の計測・細部の観察も行った。また、作品の具体的な考察へ向けて、調査で得た情報を整理し、表として整備する作業に着手した。 | A | ほぼ順調 |
| 4511-24 | | **24) 東京国立博物館所蔵写真資料データベース科研(科学研究費補助金)**<br>これまで未整理であった写真資料を整理し、公開することができた。また、本事業の成果として、平成 22 年 5 月 24 日～7 月 4 日に「清朝末期の光景―小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真―」の特集陳列を行う。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4511-25 | | **25）東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金)**<br>当館書跡列品の内，B1721 諸寺院文書，B1854-1875 白河結城家伝来文書，B1773 里見家伝来文書，B1829 堀部家伝来古文書などの古文書群，B1761 三島神社文書などの古文書写に加え，B1627 古文書，B1719 古文書，B1898 松平定信書状，B1913 徳川頼宣書状，B1932 徳川斉昭書状， B2034 毛利家家老連署申渡書，B2035 毛利就隆任官状，B2045 徳川家康書翰などの掛幅装の古文書のデータベース化を完了。 | A | 順調 |
| 4511-26 | | **26）東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金)**<br>小林斗盦(庸浩)氏寄贈による懐玉印室コレクションのうち中国古銅印譜について撮影を行い、データを入力した。平成 22 年 6 月に「東京国立博物館情報アーカイブ(http://webarchives.tnm.jp/archives/)において、東京国立博物館所蔵印譜 WEB データベース」として公開予定である。 | A | 順調 |
| 4511-27 | | **27）明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一眞、早崎稉吉、安村喜当の事跡を中心に―**<br>鄭州から西安に至る行程、杭州・紹興、上海、北京で現地調査を行い、宝物調査で撮影された写真資料と対照できる画像を撮影した。また、茨城県天心五浦美術館において早崎稉吉の日記を調査し、写真が撮影された状況を検証した。これらの成果により、平成 22 年 5 月 24 日～7 月 4 日に「清朝末期の光景―小川一眞・早崎稉吉・関野貞が撮影した中国写真―」の特集陳列を行う。 | A | 順調 |
| 4511-28 | | **28）古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金)**<br>東京国立博物館に収蔵されている古典籍・古文書を中心に、形態、料紙などについてデータを収集した。また、料紙の製作技法に関する成果の一部を、全国漢文教育学会の『新しい漢字漢文教育』第 49 号において公開した。 | A | 順調 |
| 4511-29 | | **29）金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究(科学研究費補助金)**<br>室町から江戸時代(15～17 世紀)にかけての下総国下河辺庄(埼玉県吉川市・春日部市・庄和町・松伏町，千葉県野田市，茨城県古河市・五霞町)の支配に関連する古文書・古記録など文献資料を収集した。特に在地領主戸張氏の変遷が解明できた。 | A | 順調 |
| 4511-30 | | **30）東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究**<br>東京国立博物館の所蔵作品を中心に、国内外の資料の情報を精査し、調査対象となる作品のリスト作成と選定を行い、書画料紙基礎データベースを構築した。さらに、調査では料紙の材質、製法や、保存状態などから、書画料紙の加工技術の変遷などを考察した。 | A | 順調 |
| 4511-31 | | **31）東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究**<br>これまで､ほとんど知られてこなかった東京国立博物館のラグーザ寄贈関連作品を整理し、イタリアでの現地調査なども加わり、より詳細な情報提供が可能となった。成果として全容は､平成 22 年 3 月発行の第 45 号東京国立博物館紀要に掲載される予定である。 | A | 順調 |
| 4511-32 | | **32）曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究**<br>曹洞宗大本山永平寺と、道元が永平寺開創前に開いた京都・興聖寺、福井・吉峰寺 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | を調査。永平寺に、従来知られていなかった中世彫刻7件(鎌倉時代2件、南北朝時代5件)を見出し、精査、撮影を実施した。 | | |
| 4511-33 | | **33) 特別調査「工芸」第1回**<br>昨今、三次元計測やX線CTスキャン等の新型光学機器を用いた文化財調査が話題を集め、さまざまな研究機関で行われるようになってきたが、機種やシステムの違いもあり、同じ専門分野の研究者であってもその調査結果を共有しがたい情況にある。<br>そこで今年度の本調査会では、独立行政法人文化財機構国立博物館4館および文化庁の工芸関係者が集まり、上記のような新型光学機器を用いた調査の一例を同時に実見した上で、調査方法やその結果得られるデジタルデータの活用性について討議を行った。<br>新型光学機器を用いた工芸品の調査方法の確立や、調査の結果得られるデータの形式の標準化を目指すための共通認識を築くことができた。 | A | 順調 |
| 4511-34 | | **34) 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究**<br>本年度は、テックサイエンス社Alicona機とTesco社X線CTスキャン機器での文化財(刀装具)撮影のための安全面と撮影精度を落とさない冶具開発のための打ち合わせ、設計、試作、検証を行った。 | A | 順調 |
| | (京都国立博物館) | **【京都国立博物館】** | A | 順調 |
| 4512-1 | 1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究 | **1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究**<br>調査対象寺院については、既に長岡京市教育委員会による悉皆的調査が行われており、書画については特に新たな作品の発見はなかったが、制作時期・作者等について詳細な知見を得ることができた。一方、工芸品については江戸時代の花籠約50枚をはじめとして、これまでの調査では漏れていた作品を多数調査することができた。 | | |
| 4512-2 | 2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究 | **2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究**<br>仏教美術研究上野記念財団助成による研究発表・座談会「予言と調伏のかたち」を開催した | A | 順調 |
| 4512-3 | 3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金) | **3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金)**<br>平成19年度に調査を行なった静岡建穂寺についての調査報告を当館発行の『学叢』第31号(平成21年5月発行)に発表した。また、20-21年度に行なった調査の結果を中間報告会にて報告するとともに、中間報告書をかねた資料集の発行を行なった(平成22年1月)。また浜松市の黄檗寺院である大雄寺と宝林寺において本調査を行ない、調書作成と写真撮影を行なった(平成22年3月)。 | A | 順調 |
| 4512-4 | 4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金) | **4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金)**<br>8月、9月、12月と都合3回の調査を実施し、全体180箱のうち、第141箱から第160箱までの調査をほぼ終了している。 | A | 順調 |
| 4512-5 | 5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 | **5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究**<br>平成21年度に新規搬入された作品の「修理計画書(設計書)」にもとづき、データを入力し、平成19年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 理解説書(報告書)」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 16 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第 5 号に掲載した。また、修理時に発見された銘文 24 件を「銘文集成」として報告した。 | | |
| 4512-6 | 6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究) | **6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究)**<br>長野県中野市の柳沢遺跡は、東日本で初めて銅鐸と銅戈が同時に出た遺跡として注目される。本調査研究では、この柳沢遺跡から出土した青銅器の材質調査と製作技術の検討を行った。 | A | 順調 |
| 4512-7 | 7) 近世絵画に関する調査研究 | **7) 近世絵画に関する調査研究(客員研究員)**<br>京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。「長谷川等伯展」(平成 22 年度)、「上田秋成展」(平成 22 年度)等について、当館連携協力室長に、作品情報をはじめ、さまざまな助言を行った。 | A | 順調 |
| 4512-8 | 8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究 | **8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究(客員研究員)**<br>平安時代の古写経の訓点については、その成果の一部を 9 月発行の『訓点語と訓点資料』第一二三輯(訓点語学会)に「宝幢院点の成立に関する一考察―源信・寂照・延殷・皇慶を巡って―」と題した論文にまとめた(宇都宮氏)。加えて当館に保管されている古写経などに付された訓点の調査を行った。 | A | 順調 |
| 4512-9 | 9) 彫刻に関する調査研究 | **9) 彫刻に関する調査研究**<br>特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展出品作品に関して研究を進め、その成果を同展目録に作品解説として発表した。また、平成 19 年度に科研による調査を行なった、静岡県建穂寺の仏像についての調査報告を、当館発行の「学叢」第 31 号に執筆した。 | A | 順調 |
| 4512-10 | 10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | **10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究**<br>前年度から継続していた建仁寺両足院所蔵陶磁の調査を継続して実施し、建仁寺両足院の調査では、中国製の青花の鉢や碗など、近い将来に開催を計画している「清朝陶磁」展への出品候補となる作品を複数見いだすことができた。また、年度当初計画には含まれていなかったが、大阪市文化財協会の佐藤隆氏が交付を受けた西田記念東洋陶磁史研究助成金から、分担金の交付を受け、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片の基礎的整理作業として、実測図の作成に取り掛かることができた。 | A | 順調 |
| 4512-11 | 11) 近代建築に関する調査研究 | **11) 近代建築に関する調査研究**<br>本年度は、片山と岡倉が直接関与した基本設計図の選び出しと調査を行ない、以下の点を明らかにした。<br>・京都博物館の設計過程とその特徴<br>・各設計図の設計過程における位置づけ<br>・設計に携わった技師の役割 | A | 順調 |
| 4512-12 | | **12) 漆工芸に関する調査研究**<br>当館に持ち込まれた作品の調査や個人コレクター宅での調査(琉球漆器・輸出漆器・根来など)、特別展覧会の準備(妙心寺展・日蓮展・THE ハプスブルク展・永青文庫展など)、科研調査(昨年度末のイタリア調査の内容を今年度整理)、社寺調査(長岡京光明寺)や個人調査(イギリス貴族の館・大英博物館)など、さまざまな機会に作品 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | を観察、計測、撮影してデータの蓄積につとめ、これまでのデータの分析と文献調査による研究の成果を、当館開催の展覧会をはじめ、国内外の展覧会やシンポジウムに還元した(展覧会図録の作品解説を除く)。また、科学研究費を用いた調査で漆工品のCT スキャンも試みた。さらには、新規購入品 2 点を京都国立博物館の収蔵品に加えることもできた。 | | |
| 4512-13 | | **13) 中国近代絵画に関する調査研究**<br>国内外から研究者を招き、当館所蔵の中国近代絵画作品調査とその成果をふまえたワークショップ開催という二つの中核事業により、当該分野に関する新知見を多数得ることができた。とくに、昭和初期に中国・南京総領事だった須磨弥吉郎氏のコレクションに関する調査では日中間の芸術交流の多様性を確認できた。こうした成果をワークショップ論文集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。 | A | 順調 |
| | (奈良国立博物館) | **【奈良国立博物館】** | A | 順調 |
| 4513-1 | 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施 | **1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施**<br>奈良を中心とする諸社寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を展示に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。 | | |
| 4513-2 | 2) 仏教美術等の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究) | **2) 仏教美術の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究)**<br>中国・南宋時代の仏教絵画の基準作として有名な重要文化財五百羅漢図(大徳寺蔵)82 幅について、初めて本格的な光学調査を実施し、従来知られていなかった金泥の銘文を多数発見することができたことに加え、顔料や絵絹について高精細画像及び基礎データを入手できた。さらに前年度までに調査を開始していた聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺蔵)と春日権現験記絵披見台(春日大社蔵)についても追加調査を実施し、蛍光画像・近赤外線画像及び基礎データを入手することができた。 | A | 順調 |
| 4513-3 | 3) 仏教美術写真収集及びその調査研究 | **3) 仏教美術写真収集及びその調査研究**<br>館内外の文化財のカラーおよびモノクロ撮影を多数実施し、資料を整備することができた。また、X 線撮影をおこなうことにより、内部構造や製作技法に関して有用な情報を得ることができた。<br>これらは情報システムに登録し、管理運用するとともに、インターネット通して外部へも情報提供をおこなっている。また、特別観覧や写真カードにより、研究者・学術出版界・一般の利用にも供している。 | A | 順調 |
| 4513-4 | 4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | **4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究**<br>学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館等との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。 | A | 順調 |
| 4513-5 | 5) 当館所蔵品についての調査研究(客員研究員) | **5) 当館所蔵品についての調査研究(客員研究員)**<br>新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、平常展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。従来からの収蔵品についても継続的に調査研究を行 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。 | | |
| 4513-6 | 6)　奈良時代の仏教美術と東アジア世界(科学研究費補助金) | **6)　奈良時代の仏教美術と東アジア世界(科学研究費補助金)**<br>前年度から 3 ヵ年の計画で、①蛍光X線分析装置による光学調査を中心に、東大寺金堂鎮壇具(国宝)についての基礎データを収集し、その体系化を行う。②東大寺法華堂諸像の修理時に(財)美術院によって撮影された彩色文様写真を研究資料として活性化し、文様史的検討を加える。③館蔵及び寄託の古写経に関する基礎データの集積と料紙分析を行い、国籍問題の解決を図る。という三つの課題を柱として、研究計画調書に記載した体制で研究を進めている。 | A | 順調 |
| 4513-7 | 7)　統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金) | **7)　統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金)**<br>2008 年度から 3 ヵ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館(以下、慶州博)ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟覧を行い、資料化を進めている。 | A | 順調 |
| 4513-8 | 8)　古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程(科学研究費補助金) | **8)　古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程(科学研究費補助金)**<br>過去 2 ヶ年の実測図作成に引き続き、X線写真や 4×5 フィルムへの撮影を行い、基礎情報を充実させた。さらに報告書作成のため各メンバーに遺物別の分担を割り振り、それぞれ図版の作成とデータのとりまとめを推進した。 | A | 順調 |
| | (九州国立博物館) | **【九州国立博物館】** | A | 順調 |
| 4514-1 | 1)　日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 | **1)　日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究**<br>タイ王国芸術局、国立博物館事務局と共同研究を実施した。タイ芸術局の研究員 3 名を受入れ、文化財保存と展示、地域共生について研究を実施。研究員 3 名をタイに派遣、現地シンポジウムで日本の建造物保存、タイの博物館の市民共生プログラムについて相互に発表した。これを踏まえ平成 22 年度に日タイの文化を比較する展覧会を開催する。<br>日本と韓国の巨大掛軸をテーマとする展示、国際シンポジウムを開催した。 | | |
| 4514-2 | 2)　文化財の材質・構造等に関する共同研究 | **2)　文化財の材質・構造等に関する共同研究**<br>国宝阿修羅展に出品された八部衆・十大弟子像など、奈良時代の脱活乾漆像の保存状態と内部構造をデジタル情報として記録できた意義は大きい。この情報は今後の保管管理に役立つだけではなく将来の修理の基礎情報や脱活乾漆像の製作技法を解明する学術的な基礎情報として役立つことが期待される。 | A | 順調 |
| 4514-3 | 3)　博物館における文化財保存修復に関する研究 | **3)　博物館における文化財保存修復に関する研究(客員研究員)**<br>吉備国際大学から 2 名、九州産業大学から 2 名、別府大学から 3 名の合計 7 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。 | A | 順調 |
| 4514-4 | 4)　博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究 | **4)　博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究(科学研究費補助金)**<br>研修会等参加登録者は、九州国立博物館および地域連携機関のボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者育成プログラム案策定に充分 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を具体的に進める目途が得られた。公開シンポジウムでは市民の活動報告と専門家の講演により、市民の理解を深めることができた。 | | |
| 4514-5 | 5)　文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築 | **5)　文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築**<br>平成 18 年秋の特別展に福岡市内の神社が所有する市指定品の絵馬を借用した所、カビ被害が認められたので、同年当館保存修復施設で処置を実施し返却した。翌 19 年に再度カビが発生し、当館が指導助言依頼を受け、処置を行うと共に、神社宝物庫についての環境調査を平成 21 年 11 月まで実施し、保存環境ならびに日常管理の改善が必要であることがわかった。 | A | 順調 |
| 4514-6 | 6)　東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同) | **6) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同)**<br>中国においては UNESCO との共同調査により、貴州省内の少数民族布衣族と苗族の手漉き紙技術について調査した。<br>日本においては、美濃、越前、金沢、富山の手漉き和紙製作現場 5 ヵ所を調査した。 | B | ほぼ順調 |
| 4514-7 | 7)　ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築(科学研究費補助金) | **7) ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築(科学研究費補助金)**<br>今年度の研究では、装飾古墳のうち石室 4 基(佐賀市西隈古墳・宗像市桜京古墳・武雄市勇猛寺古墳・みやこ町古墳)、横穴墓 2 基(泉崎村泉崎横穴・南相馬市羽山横穴)を対象とした。その結果、本研究によってデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 12 基・横穴墓 6 基で、福岡・大分・佐賀・熊本・福島の各県に亘った。特に、福島県の彩色壁画をもつ横穴墓の調査ができたことは、研究の広がりを考える上で大きな成果となった。また、今までの研究の中間報告として、報告書の作成と裸眼立体視による映像を作成して当館で展示を行った。 | A | 順調 |
| 4514-8 | 8)　近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究(科学研究費補助金) | **8) 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究(科学研究費補助金)**<br>第一回内国勧業博覧会、第二回内国勧業博覧会の出品作品について、現存作品についての情報を収集し、それらについての画像データ集成を行なった。第二回内国勧業博覧会については当時出版の博覧会を紹介する文献から、画像による作品データが残されており、これもデジタル化して収集した。 | A | 順調 |
| 4514-9 | 9)　トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術(科学研究費補助金) | **9) トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術(科学研究費補助金)**<br>フフホトの内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館の作品資料調査 2 回(延べ 5 名)と内蒙古自治区内の赤峰博物館、巴林右旗博物館、上京博物館などの資料調査(延べ 4 名)を実施したほか、内蒙古文物考古研究所研究員らを招聘し、関西地区の資料調査および関係機関見学を実施した。 | A | 順調 |
| 4514-10 | 10)　室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究(科学研究費補助金) | **10) 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究(科学技術振興機構)**<br>本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。<br>(1)足利将軍家が所蔵した中国仏画に注目し、これらに対する歴史的な認識を考察した。その陳列方法を分析することを通じて、室町時代の道釈画に対する意義付けに | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ついて知見を得た。<br>(2)新出の『印譜集』(ハーバード大学燕京図書館蔵)を中心に、中国仏画に依拠して絵画を制作した室町時代の水墨画家に関する基本資料を収集した。 | | |
| 4514-11 | 11) 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査(科学研究費補助金) | **11) 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査(科学研究費補助金)**<br>昨年度までの調査成果を踏まえ、主に以下の点で成果を得た。<br>(1)「平家物語図屏風」(アメリカ・バークコレクション)や「三十六歌仙扁額」(福岡・宗像大社)など粉本を使用したと思われる 16 世紀の絵画作品のうち、代表的な 2 件についての基礎調査を行った。<br>(2)東京芸術大学が所蔵する「住吉家鑑定控」の基礎調査を行った。 | A | 順調 |
| 4514-12 | 12) 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金) | **12) 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金)**<br>埴輪に認められる赤色顔料は、全てベンガラであった。出土ベンガラは直径 1μm のパイプ状粒子を含むものと、これを含まないものに大別されるが、中国・四国、近畿地方ではパイプ状粒子を含むベンガラを用いる地域と、これを含まないベンガラを用いる地域があることがわかった。 | A | 順調 |
| 4514-13 | 13) 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発(科学研究費補助金) | **13) 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発(科学研究費補助金)**<br>昨年度の歴史資料に続き本年度は写真資料での応用を試みた。被災を想定して、写真プリントを劣化させその要因や速度を考察した。水損によるプリントの固着も試し、原因を調べた。劣化条件の異なるサンプルを、真空凍結乾燥法で救済することが可能かを、本科研で作製した可搬式の簡便な真空凍結乾燥装置で試験をした。 | A | 順調 |
| 4514-14 | 14) 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流(科学研究費補助金) | **14) 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流(科学研究費補助金)**<br>プロジェクト責任者が、平成 21 年 3 月 31 日付で退職(文化庁文化財部文部科学技官採用)したため、年度実績なし。 | F | － |
| 4514-15 | | **15) Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析**<br>泉屋博古館の所蔵品を中心に、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、中国側の古代鋳造技術研究者とも協力して共同研究を展開した。さらに、科学的な調査結果と広く観覧者に公開するためにトピック展示を実施した。 | A | 順調 |
| | ②公衆への観覧を図るための研究<br>特別展、特別陳列等の展示の対象となる文化財の調査研究を行い、展示に反映させるほか、次の研究課題に重点的に取り組む。<br>(東京国立博物館) | **②公衆への観覧を図るための研究** | A | 順調 |
| 4521-1 | 1) 博物館環境デザインに関する調査研究 | **【東京国立博物館】**<br>**1) 博物館環境デザインに関する調査研究**<br>展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。<br>また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4521-2 | 2)　博物館教育に関する調査研究 | **2)　博物館教育に関する調査研究**<br>本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。加島及び鈴木は、このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し口頭発表した。 | A | 順調 |
| 4521-3 | 3) 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築(科学研究費補助金) | **3)　博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築(科学研究費補助金)**<br>本年度は 4 年間の研究期間の最終年度にあたるため、これまでの調査研究成果を踏まえ、実験的な博物館教育プログラム「応挙館で美術体験」、博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」を開催し、研究のまとめをおこなった。 | A | 順調 |
| 4521-4 | 4)　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | **4)　博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究**<br>東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、改善すべき課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、鑑査会議管理機能における修理関連機能の機能要件を調査のうえ実装した。さらに、文化財移動情報登録システム等の外部システムとの連携について検討・実装を進めた。 | A | 順調 |
| 4521-5 | 5)　凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。 | **5)　凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する**<br>東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で、本年度は東京国立博物館の収蔵品の中かから洛中洛外図屏風　舟木本(重要文化財)について①デジタルアーカイブによる情報蓄積、②ＶＲ(バーチャルリアリティ)手法を用いたコンテンツの開発、③ミュージアム・シアターでのコンテンツの一般公開に関する調査研究を行なった。 | A | 順調 |
| 4521-6 | | **6)　クウジット株式会社と協同で、ロケーションアンプを利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する**<br>クウジット株式会社が開発した位置測位システムを用いたアイフォーン(携帯端末機)に、東博と共同で製作した法隆寺宝物館に展示されている国宝灌頂幡ほか以下の 7 作品の解説データコンテンツを入力し、博物館来館者に実際に利用いただく実験を行い、博物館の作品鑑賞補助ツールに関する調査研究を行った。 | A | 順調 |
| 4521-7 | | **7)　彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金)**<br>東京芸術大学美術館所蔵品の立体データアーカイブ作成の研究とデジタルデータによる教育としての応用研究ならびにコンピューター造形システムによる各入力プロセスの造形表現の研究を継続的に行ってきた。こうした研究におけるさまざまなデータをベースにしたレプリカを作成し、専門的な教育利用としての「触れる彫刻」の研究に反映させている。 | A | 順調 |
| 4522-1 | (京都国立博物館)<br>1)　文化財情報に関する調査研究 | **【京都国立博物館】**<br>**1)　文化財情報に関する調査研究**<br>・当館のホームページや文化財情報システムに関する調査研究を実施 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・現情報システムの現状調査と検討会の実施、およびシステム改良の実施<br>・ウェブサイトのコンテンツ充実のための検討<br>・管理サーバ導入に伴うシステム変更の検討 | | |
| 4522-2 | 2)　西域出土文献に関する調査研究 | **2)　西域出土文献に関する調査研究**<br>サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションとエルミタージュ美術館の西域関係資料を調査し、展覧会用にロシア科学アカデミー東洋写本研究所からは 127 件、エルミタージュ美術館から 1 件を借用することとした。これらの成果に基づいて、特別展覧会「シルクロード　文字を辿って―ロシア探検隊収集の文物―」を開催した。 | A | 順調 |
| 4522-3 | 3)　京都１６本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究を踏まえて研究を進め、その成果を特別展覧会「日蓮と法華の名宝」に反映する。 | **3)　京都１６本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究**<br>京都日蓮法華宗関係資料を調査し、その歴史的位相を把握することができた。特に、新出資料または長年所在不明だった作品が多数発見されたことは特筆に値する。特に、高麗の弥勒下生変相図は、重要文化財級の新発見として、記者会見も行い全国紙でも好意的に報道された。 | A | 順調 |
| 4522-4 | 4)　長谷川等伯に関する調査研究 | **4)　長谷川等伯に関する調査研究**<br>長谷川等伯展に出品する候補作品のすべての調査を完了し、新たな視点からの検討を加えた。その中には信春時代に制作されたと推定される、きわめて重要な新発見の金碧花鳥図屏風も含まれている。その詳細は、京都国立博物館研究紀要『学叢』第 31 号(平成 21 年 5 月)に「信春時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」と題して論じた。 | A | 順調 |
| 4522-5 | 5)　特別展覧会「高僧と袈裟」(仮称)の開催に向けての調査研究 | **5)　特別展覧会「高僧と袈裟」(仮称)の開催に向けての調査研究**<br>①　国および地方公共団体の指定文化財を中心に、全国の袈裟・頂相・袈裟に関する古文書の所蔵状況調査を行い、とりわけ注目される作品については、実見調査と顕微鏡撮影を行った。その中には、これまで知られていなかった作品も含まれており、そのうちの一件については地方紙で大きく報道された(高知新聞)。中国・杭州にて、関連する出土作品を調査し顕微鏡撮影を行った。<br>②　寄託されている袈裟の約半数について詳細な調査と顕微鏡撮影を行い、それらのデータを蓄積するデータベースを構築した。 | A | 順調 |
| | (奈良国立博物館) | **【奈良国立博物館】** | A | 順調 |
| 4523-1 | 1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「国宝　鑑真和上展」・「憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術－」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。 | **1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究**<br>唐招提寺、東大寺、春日大社及び「聖地寧波」に関連する文化財を蔵する諸寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。 | | |
| 4523-2 | 2)　我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で、平常展の充実を図る。 | **2)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究**<br>学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示に反映させることができた。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4524-1 | (九州国立博物館)<br>1)　高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践(ＵＭＰ：Universal Museum Project)を展開する。 | **【九州国立博物館】**<br>**1)　高齢者・障がい者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究**<br>当館は１階エントランスホールが広いため、来館者をそれぞれの目的の場所へスムーズに誘導するための方策について検討してきた。今年度は、九州大学芸術工学研究院森田研究室と共同で来館者への調査や検討会を実施したことにより課題が明らかになり、改善のための方策を確立することができた。 | A | 順調 |
| 4524-2 | 2)　平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう。 | **2)　平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査研究**<br>平成 21 年度西部伝統工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。<br>タイと共同で開催する展覧会の中に伝統工芸を位置づけ、日本の伝統技術によって現代に展開する工芸を紹介することとし、そのための予備調査を行なった。 | A | 順調 |

## ５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

**【中期目標】**文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復　協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

### (1)　保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

**【中期目標】**文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (1)　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。 | ○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。<br>○国際協力のネットワークを構築すること。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 5111 | 文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。<br>(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。<br>①　ユネスコ、ICOMOS、ICOM などが行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに諸外国の文化財保護施策等の調査を行う。アジア地域の文化財保護機関と連携して文化遺産国際ワークショップを行い、当該地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。また、国際協力に関する国内ワークショップを開催する。 | (1)<br>**①　文化財保存施策の国際的研究**<br>文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。<br>1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。<br>2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を 1 回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を 1 回、計 2 回開催した。 | A | 順調 |
| 5121-1 | ②　文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施する。<br>ア　カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡及び西トップ寺院遺跡において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。タイ・スコータイ遺跡及びアユタヤ遺跡では、生物被害に関する保存科学的調査研究を行う。 | **②ーアー1 アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究**<br>文化財石材が屋外で風雨に晒される場合に比べ、覆屋内で保存されると、風化が軽減されることを定量的に示した。また、タイ・スコータイ遺跡について、覆屋の効果を含めた環境調査を実施した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。 | A | 順調 |
| 5121-2 | | **②ーアー2 カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史** | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | **的、考古学的、保存科学的調査**<br>考古班は西トップ寺院の前面にある小ストゥーパの調査を行い、建立時期と変遷を明らかにした。建築班は引き続き実測調査を行い、中成基壇までの図を作成するとともに、全体の構造変遷に理解を深めた。 | | |
| 5122-1 | イ　敦煌莫高窟壁画保存と制作技法に関する現地調査及び研究を実施し、報告書を作成する。また、陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究を実施する。 | **②ーイー1 龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究**<br>2009 年度は、まず陝西省考古研究院との共同研究体制の構築を行い、次いで同研究院の指導者、保存修復部門担当者に我々の調査方法の原理を理解してもらうことを目的として、作業を行った。 | A | 順調 |
| 5122-2 | | **②ーイー2 敦煌壁画の保護に関する共同研究**<br>共同調査・研究は 4 年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積から、考察とまとめの段階に入りつつある。今年度の調査研究では、昨年度までに行ってきた研究の成果をもとに、個別のテーマを選択してさらに詳細な観察を行い、第 285 窟壁画を構成する材料と技法に関して、その特徴を明確なものとする作業を行った。研究は写真撮影、表面観察、分析調査、データの集積という基礎的な作業から、多彩な図案を彩る色彩効果の問題、劣化メカニズムの問題へと、進展している。 | A | 順調 |
| 5123 | ウ　アフガニスタン(主としてバーミヤーン)及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施し、また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てるとともに、これらの成果について報告書を作成する。 | **②ーウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業**<br>○アフガニスタン：文化財専門家の人材育成・技術移転、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との供同研究。<br>○イラク：文化財専門家の人材育成・技術移転。<br>○西アジア周辺諸国文化遺産の調査研究・保護への協力等：トルコ、シリア、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト。 | A | 順調 |

## (2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

**【中期目標】**研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復　協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

| **【中期計画】** | **【主な計画上の評価指標】** |
|---|---|
| (2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。<br>また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。 | ○諸外国への技術移転を積極的に進めること。<br>○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。<br><br>**【20 年度評価における主な指摘事項】**<br>○水浸出土木材の保存修復は、国際的に大きな課題である。その手法や工程、ノウハウは我が国において形となってきた段階にあり、技 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 術移転等は機を得たものと思われる。 | |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。 | (2)<br>**ア 諸外国の文化財保存修復専門家養成**<br>諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、教科書(日本語版および英語版)とビデオＤＶＤ(日英２ヶ国語ナレーション)を作成した。 | A | 順調 |
| 5211 | ア 中国、アフガニスタン、イラク等の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の保存専門家養成研修を国内並びに現地で実施する。 | | | |
| 5212 | イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力及び文化財保存修復に関する国際支援に係る調査を行う。 | **イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力**<br>国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行った。国際協力機構からはエジプトの博物館研修生の受入れを行った。ユネスコアジア文化センターからは本年も個人研修と集団研修の研修受入れ要請があり、個人研修はラオス人とモンゴル人に対して研修を行った。集団研修は各国の研修生を受入れ、木造建造物の保存修復を中心とした研修を行った。さらに本年はベトナムのホイアンで行われたワークショップにも研究員を派遣し、おもに木造建造物の保存修復に関する研修を行った。 | A | 順調 |

## ６　情報発信機能の強化

**【中期目標】**調査及び研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

### (1)　情報基盤の整備充実

**【中期目標】** ------

**【中期計画】**

(1)　文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。

　また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

**【主な計画上の評価指標】**

○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。

○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○東博の写真資料がデジタルアーカイブ化され、写真借用がスムーズにできるのは便利である。今後は利用者のニーズに細やかに対応していって欲しい。

○なお、実施した活動はわかるが、具体的な計画と進捗状況という観点から活動の全体像が見えるような工夫が望まれる。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 6111 | 以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。<br>(1)　文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。<br>また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。 | (1)<br>**①−1 情報システムの整備**<br>　まずシステム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、国立文化財機構組織間ＶＰＮの接続の準備、居室内スイッチの更新、情報セキュリティ強化システムの導入を進め、情報基盤の整備と拡充を進めた。 | A | 順調 |
| 6112 | ①　ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。 | **①−2 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実**<br>　USB ワームによるコンピュータウィルスの感染報告が 1 件あったが、それ以上の感染が拡大することもなく運用ができた。 | A | 順調 |
| 6121 | ②　文化財に関する専門的アーカイブの拡充を図る。 | **②−1 専門的アーカイブの拡充**<br>1)公開用ＳＱＬデータ・画像データの更新・運用。<br>2)画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 3)劣化が進む貴重雑誌のＣＤ－ＲＯＭ化<br>4)『鈴木敬旧蔵寄贈目録』の刊行 | | |
| 6122 | | **②－2 東京文化財研究所七十五年史編纂事業**<br>『東京文化財研究所七十五年史　本文編』を平成 21 年度に刊行することができた。 | A | 順調 |
| 6123 | | **②－3 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化**<br>2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化についても、データベース作成の一環として、昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008 年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。 | A | 順調 |
| 6131 | ③　文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。 | **③－1 国際資料室の整備**<br>資料収集、データベース化：国内外で図書その他の資料を収集し、整理・分類して目録に登録し、データベース化した。 | A | 順調 |
| 6132 | | **③－2 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実**<br>遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。 | A | 順調 |
| 6141 | ④　文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実を図る。 | **④－1 文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究**<br>情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。<br>情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「各国の文化財保護法令シリーズ」としてカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令集およびフランス文化財法典(前編)を出版した。 | A | 順調 |
| 6142 | | **④－2 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実**<br>文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表することにより学界に寄与している。開発・改良を継続している各種データベースについて業務用とともに公開用についても充実を図った。 | A | 順調 |

## (2)　研究所の研究成果の発信

| 【中期目標】 ------ | |
|---|---|
| **【中期計画】**<br>(2)　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１７年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を | **【主な計画上の評価指標】**<br>○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。<br>○ＨＰの充実を図り、ＨＰアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。 |

| | |
|---|---|
| 前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 | 【20 年度評価における主な指摘事項】<br>○研究所のＨＰを一層充実して欲しい。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 6211 | (2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１８年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。<br>① 定期刊行物の刊行 | (2)<br>**①－1 『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行**<br>『年報』2008 年度版、『概要』2009 年度版、『東文研ニュース』37 号-40 号、『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版)6 号-7 号をそれぞれ刊行し、研究所の情報発信に努めた。 | A | 順調 |
| 6212 | ○『東京文化財研究所年報』<br>○『東京文化財研究所概要』<br>○『東文研ニュース』<br>○『美術研究』(年 3 冊) | **①－2 『平成　年度日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行**<br>『日本美術年鑑』を年 1 冊、『美術研究』を年 3 冊刊行することを目的とし、今年度は『平成 20 年版　日本美術年鑑』及び、『美術研究』398～400 号を刊行することができた。 | A | 順調 |
| 6213 | ○『日本美術年鑑』(年 1 冊)<br>○『無形文化遺産研究報告』(年 1 冊)<br>○『無形民俗文化財研究協議会報告書』(年 1 冊)<br>○『保存科学』(年 1 冊)<br>○『奈良文化財研究所紀要』 | **①－3 『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行**<br>1)主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 4 号の刊行。<br>2)平成 21 年 11 月 19 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 4 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。 | A | 順調 |
| 6214 | ○『奈良文化財研究所概要』<br>○『奈文研ニュース』<br>○『埋蔵文化財ニュース』 | **①－4 『保存科学』49 号の出版**<br>29 件の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会で査読を行い、報文 9 本、報告 20 本、合計 29 本の掲載を決定した。本誌の体裁は変更せず、総ページ数　287 ページ、600 部印刷、関係諸機関に約 580 部配布した。 | A | 順調 |
| 6215 | | **①－5 第 32 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行**<br>2008(平成 20)年 12 月 6～8 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」の報告書を刊行した。 | A | 順調 |
| 6221 | ② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等<br>○国際シンポジウムの開催(年 1 回)<br>○公開学術講座(オープンレクチャー)(年 1 回)<br>○公開講演会(年 4 回)(飛鳥資料館特別展に伴う講演会(年 2 回)を含む) | **②－1 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行**<br>紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 11 点、史料等 4 点、図録・カタログ 6 点、リーフレット 4 点、パンフレット 5 種 16 点、合計 51 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた。 | A | 順調 |
| 6222 | ○現地説明会(年 6 回) | **②－2 第 33 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会**<br>2009 年 11 月 12 日～14 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した。14 講演と総合討議を行い、様々な分野から総数で 356 名の参加があった。 | A | 順調 |
| 6223 | | **②－3 平成 21 年度オープンレクチャー** | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 平成 21 年度に第 43 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した(参加者数：258 人、アンケートによる満足度：93%(回収率：86%)。 | | |
| 6224 | | **②−4 公開講演会、現地説明会等の開催**<br>研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を 2 回、飛鳥資料館特別講演会を 2 回、計 4 回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 6 回実施した。参加延べ人数は、公開講演会等が 1,018 名、現地説明会等が 7,184 名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し順調に事業が実施できた。 | A | 順調 |
| 6231 | ③ ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保 | **③−1 ホームページの運用**<br>キッズページ(日本語版・英語版)の新設、携帯サイトの新設など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。 | A | 順調 |
| 6232 | | **③−2 ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保**<br>奈良文化財研究所が公開する『木簡画像データベース』と東京大学史料編纂所が公開する『電子くずし字字典データベース』を連携して両データベースの一括検索を可能とした。<br>また、研究所のホームページをより充実させるために、各部・室における事業内容、研究発表等を紹介するページの作成を開始した。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 定期刊行物の刊行 | | | | |
| 美術研究 | 3 | 3 | 3 | A |
| 日本美術年鑑 | 1 | 1 | 1 | A |
| 保存科学 | 1 | 1 | 1 | A |
| 国際シンポジウムの開催 | 1 | 1 | 1 | A |
| 公開学術講座(オープンレクチャー) | 1 | 1 | 1 | A |
| 公開講演会 | 4 | 3 | 4 | A |
| 現地説明会 | 6 | 5 | 6 | A |
| **ホームページのアクセス(件)** | **2,448,108** | **2,106,989** | **1,122,695** | **S** |
| うち東京文化財研究所 | 1,417,203 | 1,405,278 | | |
| うち奈良文化財研究所 | 1,030,905 | 701,711 | | |

## (3) 研究所所管の展示公開施設の充実

**【中期目標】** ------

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| (3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに | ○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。 |

資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | (3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 | (3) | A | 順調 |
| 6311 | ○ 黒田記念館における作品の展示公開<br>常設展(毎週木曜日、土曜日の午後開館)<br>共催展の開催(1回)<br>年間目標入館者数 10,200人（評価指標：10,531人） | **○ 黒田記念館における作品の展示公開**<br>一般公開入場者 20，345人<br>「赤外線の眼で見る≪昔語り≫」（黒田記念館二階展示室、10.2.25-7.10）<br>「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」（島根県立石見美術館、09.7.18-8.31)入場者 15，180人 | | |
| 6312 | ○ 平城宮跡資料館における展示・公開(平成２１年６月～平成２２年３月まで改装・改修工事のため休館)<br>常設展(月曜日休館 無料公開)<br>新たな展示計画を策定し常設展示を改装･改修する。 | **○ 平城宮跡資料館における展示公開((5)「平城遷都１３００年記念事業」と一体的に実施)**<br>平城宮跡資料館の改修工事に伴う閉館のため、本庁舎にガイダンスコーナーを設置した。常設展・企画展を実施し、調査研究の成果公開や情報発信に努めた。特に特別企画展「地下の正倉院展」は好評を博した。 | A | 順調 |
| 6313 | ○ 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催<br>常設展示(月曜日、年末年始休館 有料公開)<br>特別展示(年2回)<br>企画展の開催(年1回)<br>年間目標入館者数 55,400人 | **○ 飛鳥資料館における展示公開**<br>春期特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－」を4月17日から6月21日まで開催するとともに、期間中の5月8日から5月24日までキトラ古墳壁画の特別公開をおこない、青龍図と白虎図を展示した。夏期企画展は8月1日から8月30月に「甦るクメール文明－世界文化遺産アンコール遺跡群－」を開催、期間中の8月2日に講演会、8月1日、8月2日、8月14日、8月15日にギャラリートークをそれぞれおこなった。秋期特別展は、10月16日から11月29日に「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこない、10月17日に日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこなった。冬期企画展は、1月22日から2月28日に「飛鳥の考古学2009」を開催した。 | A | 順調 |
| 6314 | ○ 藤原宮跡資料室における展示・公開<br>常設展(土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館 無料公開)<br>年間目標入館者数 3,800人 | **○ 藤原宮跡資料室における展示公開**<br>藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するために、速報展示コーナーを設け、継続して、多様な調査成果を公開した。あわせて、展示のための資料制作、各地の博物館などへの出陳も行った。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21年度 | 20年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 黒田記念館 | 20,345 | 19,038 | 10,531 | S |
| | | 平城宮跡資料館 | 25,127 | 92,597 | 72,500 | C |
| | | 飛鳥資料館 | 77,347 | 84,608 | 55,400 | A |
| | | 藤原宮跡資料室 | 4,341 | 4,423 | 4,486 | B |

## (4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 ------

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| (4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。 | ○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 6411 | (4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。<br>○ 平城宮跡解説ボランティア事業の運営<br>○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援 | (4)<br>**○ 平城宮跡解説ボランティア事業の運営**<br>ボランティア解説者の学習等による案内解説は、熟達した高度な文化解説から十分な成果が認められる。 | A | 順調 |
| 6412 | | **○ 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援**<br>各種のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。 | A | 順調 |
| 6413 | | **○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力**<br>◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。<br>◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。<br>◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務<br>平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕、藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕 | A | 順調 |

## (5) 平城宮遷都1300年記念事業への協力

【中期目標】 ------

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| (5) 奈良県の「平城遷都１３００年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生 | ○奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についての |

| | |
|---|---|
| かした展示・公開事業を行う。 | これまでの調査・研究成果を活かした展示・公開事業を行うこと。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| | (5) 奈良県の「平城遷都 1300 年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討する。 | (5)<br>(3)「平城宮跡資料館における展示公開」参照。 | | |

## (6) 文化財情報・研究成果の公表

**【中期目標】** ------

**【中期計画】**

(6) 文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。

①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内　外に情報を発信する。

ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

②－１収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。

②－２美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

**【主な計画上の評価指標】**

○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。

○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。

○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○ＷＥＢサイトのアクセス件数は評価できるが、目標件数の設定は再検討の余地があるように思われる。

○ＷＥＢについて日本語はかなり充実しているが、英語だけでも日本語と同レベルの情報が欲しい(東博・九博は既にできている。)。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 6611 | **(6) 文化財情報の公開促進**<br>文化財に関する情報を積極的に発信し、国内外における日本文化への理解を深める。<br>**①　ウェブサイト等による情報の発信**<br>ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。<br>(東京国立博物館)<br>1)情報アーカイブにおいて公開中の文化財データベースの充実を図る。<br>2)携帯電話サイトによる情報提供サービスについて検討する。 | **(6)　文化財情報の公開促進**<br>**①　ウェブサイト等による情報の発信**<br>**【東京国立博物館】**<br>・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続した。<br>・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うためのデータ整備を推進した。<br>・モノクロフィルムの画像データベースについて、館内業務および資料館において公開しているメタデータを追加した。<br>・古文書の画像データベースを公開した（予定)。<br>・国指定文化財の高精細画像および解説文（e 国宝）について作業を進め、一般公開のための管理システム等の開発を行った。<br>・携帯電話サイトによる情報提供サービスの実施について引き続き検討を行い、次年度の開設を目標として準備を進めた。 | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6612 | （京都国立博物館）<br>1)　携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上を図る。<br>2)　学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開する。<br>3)　既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載するとともに、新刊の博物館ディクショナリーをメールマガジンで配信し、利用者の拡大を図る。 | **【京都国立博物館】**<br>・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、各種講座・イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。<br>・トップページリニューアルを行い、館蔵品の高精細画像検索をより利用しやすい状況に置くなど、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。<br>・館外での作品公開一覧ページを作成し、館外で見られる当館収蔵作品の情報を発信した。<br>・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。<br>・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。<br>・既刊の博物館ディクショナリーについて、処理が完成したものからウェブサイトに掲載するとともに、21 年度刊行分についてメールマガジンで配信した。 | A | 順調 |
| 6613 | （奈良国立博物館）<br>当館保有の文化財の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。 | **【奈良国立博物館】**<br>・PC 用ホームページに、新たな機能として「収蔵品データベース」を掲載した（10 月）。これにより情報発信機能が強化されたので、今後は収録データの追加・充実に努めていく。<br>・広報誌「奈良国立博物館だより」（年 4 回発行）に、研究員による調査研究成果の発表の欄を設け、すべての号に記事を掲載した。<br>・研究紀要『鹿園雑集』11 号を刊行し、論文 3 本、資料紹介 1 本、調査報告 2 本を掲載した。 | A | 順調 |
| 6614 | （九州国立博物館）<br>ウェブサイトで提供する情報の充実を図るとともに、利用者からの利便性を考慮した情報の発信に努める。 | 【九州国立博物館】<br>①　九州国立博物館ホームページの年間スケジュールリニューアル及び情報公開頻度増加<br>②　ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応<br>③　特別展ごとに「ブログるぽ」の実施<br>④　「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」チラシの作成及びホームページ掲載 | A | 順調 |
| | **②－1　デジタル化の推進** | **②－1　デジタル化の推進** | | |
| 6621-1 | （4 館共通）<br>1)　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。<br>2)　収蔵品の国宝について、5 か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e 国宝）の提供を継続して行う。 | **【東京国立博物館】**<br>1)　収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化を継続し、主要な既存フィルムのデジタル化をほぼ完了した。<br>2)　マイクロフィルムは目標を大幅に上回るデジタル化を行い、ほぼデジタル化を完了した。 | S | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 3) 76,100 件(東京：73,000、京都：2,500、九州：1890)の収蔵品写真のデジタル化を実施する。<br>4) 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。<br>(東京国立博物館) | 3) 国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、既存の画像データについては編集・加工を行なった。また国指定文化財の情報と解説文を整備し、公開にむけて英、仏、中、韓の各国語に翻訳した。<br>4) 法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。 | | |
| 6622-1 | 1) 収蔵品の基本情報のデータ化を実施する。<br>2) 法隆寺献納宝物について、５か国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」)等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。 | **【京都国立博物館】**<br>・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を随時行っている。<br>・重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で公開されている作品のほぼ全てについて、6 カ国語（日英韓中仏西）による解説を加えた。 | A | 順調 |
| 6623-1 | (奈良国立博物館)<br>1) ウェブサイトに掲載中の写真検索システムの個別データを約2,000件追加更新する。<br>2) デジタル高精細画像を活用し、有料画像提供の推進を図る。 | **【奈良国立博物館】**<br>本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関わる情報の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。このことを実施するために必要な情報システムの構築、ネットワークの整備もあわせておこなう。<br>データベース：<br>・調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、7,878 件登録・更新した。<br>・上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから 3,995 件公開した。<br>・以前より作業を進めてきた収蔵品データベースの構築が一旦完了し、正式公開をおこなった。これにともない、整備をおこなっていた収蔵品のデータ 4, 461 件から、公開準備のできたものを 1,830 件公開した。<br>画像データ：<br>・今年度の補正予算により、館蔵品を中心にカラーポジフィルム 6,181 枚、X 線フィルム 2,928 枚をデジタル化した。<br>・同じく補正予算により、当館で保管する日本美術院彫刻等修理記録のデジタル化をおこない、紙媒体資料のデジタル撮影を 75,305 カット、ガラス乾板のデジタル化を 6,141 枚実施した。 | S | 順調 |
| 6624-1 | | **【九州国立博物館】**<br>収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574 件) | A | 順調 |
| 6621-2 | **②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化**<br>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。 | **②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化**<br>**【東京国立博物館】**<br>〈収集〉購入図書 480 冊、寄贈・交換図書 2,931 冊、<br>館蔵品等の写真資料 4,177 枚<br>〈整理〉新規整理 図書 3,411 冊、逐次刊行物 3,790 冊、 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | (4館共通)<br>約11,600件(東京：3,000、京都：5,000、奈良：3,000、九州：600)の収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。<br>(東京国立博物館)<br>1) 学芸業務支援システムの構築を進める。<br>2) 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。<br>3) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。<br>4) 図書資料の良好なコレクション構築のために収集方針を策定する。<br>5) ナショナルセンターとしての国立博物館における資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置をはじめ、資料館全体のあり方を再検討し 、有効活用へ向けた利用計画を策定する。 | 遡及入力 図書 11,105 冊<br>〈資料整備〉 雑誌等の製本 346 冊<br>〈公開〉<br>・学芸業務支援システムについて、修理情報関連機能の構築を進めた。<br>・視聴覚コーナーにおいて、ビデオ・DVD 等約 60 点を追加して公開した。<br>・OPAC で図書 164,564 冊、雑誌 6,103 タイトル、目次・論文データ 5,982 件を公開した。<br>・図書資料の展示コーナーを新設し、所蔵資料の紹介を定期的に行った。<br>・法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。<br>・閲覧室のスペースの有効活用を目的として、写真キャビネットを西側に、閲覧机や書架を中央部分に移動した。また、新規に書架を 16 台増設した。 | | |
| 6622-2 | | **【京都国立博物館】**<br>・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。<br>・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 登録件数 3,753件<br>今年度は特別展関係の撮影が例年より少なかったことで原板登録件数が減少した。 | B | 順調 |
| 6623-2 | (奈良国立博物館)<br>1) 古写真・ガラス乾板等を登録整備する。<br>2) 蔵書検索システム及び所蔵写真検索の充実を図る。 | ・特別観覧件数 1,002件<br>**【奈良国立博物館】**<br>本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸部の情報資料として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、サービスをおこなっている。<br>今年度後半は同センター耐震補強工事の開始にともない 10 月以降は閉館とし、旧地下通路に新たに確保した収蔵スペースに全資料の移動をおこなったため、資料は館内利用にとどめている。<br>資料の移動・整理およびその準備作業に人員と時間を要したため、現在までの図書の新規受入は、1,129 冊、展覧会カタログは 248 冊となっている。1 月には作業が完了したため、その後は通常業務を鋭意進めているところである。<br>また、この間に図書情報システムのリプレイスを実施し、業務の効率化とサービスの向上を図った。新システムへの移行作業は順調に進み、既に通常業務に活用しているが、来年度以降に図書情報のインターネットへの公開を目指しており、館内での情報蓄積が外部サービス | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6624-2 | （九州国立博物館）<br>1） 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。<br>2） 博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。 | の充実に効果的に反映されるよう、更なる情報整備に努めている。<br>同センターの保有する資料の総数は図書約 66,000 冊、展覧会カタログ約 10,000 冊、雑誌約 3,000 タイトルとなっている。今年度は昨年度に引き続き、中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。<br>**【九州国立博物館】**<br>①収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備した。(4,686件)<br>②博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。<br>③ハンズオン資料の収集<br>特別展や館内イベントの開催等にあわせ、体験型展示室「あじっぱ」で使用するハンズオン資料の収集を継続して行った。<br>④「あじっぱ」資料の情報の収集<br>福岡在住の各国留学生や海外からの招聘研究者等から、「あじっぱ」資料についての情報を収集し、展示に反映させた。 | A | 順調 |

| 定量的評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| **ウェブサイトのアクセス(件)** | | | | |
| **東京国立博物館** | **5,687,673** | **5,211,261** | **1,928,966** | **S** |
| **京都国立博物館** | **848,486** | **1,409,634** | **521,965** | **S** |
| **奈良国立博物館** | **2,630,035** | **1,230,774** | **670,948** | **S** |
| **九州国立博物館** | **7,459,518** | **5,699,860** | **783,487** | **S** |
| **収蔵品のデジタル化(件)** | | | | |
| **東京国立博物館** | **775,300** | **139,000** | **73,000** | **S** |
| うち４×５フィルム | 3,480 | 17,400 | 3,000 | A |
| うちマイクロフィルム | 748,181 | 121,600 | 60,000 | S |
| **京都国立博物館** | **5,603** | **6,478** | **4,359** | **A** |
| **奈良国立博物館** | **102,894** | **8,399** | **8,471** | **S** |
| **九州国立博物館** | **3,574** | **3,963** | **1,890** | **S** |
| 写真検索システムデータ追加更新(件) | | | | |
| 奈良国立博物館 | 12,339 | 6,989 | 2,000 | S |
| 収蔵品・出品作品等のデータ整備(件) | | | | |
| 東京国立博物館 | 4,177 | 4,703 | 3,000 | A |
| 京都国立博物館 | 3,753 | 6,478 | 5,000 | B |
| 奈良国立博物館 | 5,818 | 6,457 | 3,000 | S |
| 九州国立博物館 | 4,686 | 6,633 | 600 | S |

## 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

**【中期目標】**地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我 が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

**【中期計画】**

我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財　の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

(1)　地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

(2)　文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、８０％以上の満足度が得られるようにする。

また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

**【主な計画上の評価指標】**

○文化財に関する協力・助言の円滑勝積極的な実施を行うこと。

○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研究を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で 80%以上の満足度が得られるようにすること。

○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 7111 | 我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。<br>(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 | **(1)－1 無形文化遺産に関する助言**<br>平成 21 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁芸術文化課文化活動振興室への 8 件の助言を始め、30 件の助言を実施した。 | A | 順調 |
| 7112 | | **(1)－2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言**<br>今年度は、件数として 40 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。 | A | 順調 |
| 7113 | 埋蔵文化財保護行政に資する調査研究を行うとともに、地方公共団体等への協力・助言・専門的知識の提供等について管理・調整する。また、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託事業を実施する。 | **(1)－3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言**<br>地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)337 件(委員会出席 109、審議会出席 13、指導 50、調査 62、講演 21、その他 82) | A | 順調 |
| 7114 | | **(1)－4 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言**<br>平成 21 年度は、平城宮・京域で、計 8 件の発掘調査を実施した。その結果、海龍王寺旧境内においては、現存する海龍王寺の北土塀のほ | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ぼ東延長上で、土塀の可能性のある奈良時代中期の整地層を検出し、興福寺旧境内では平安時代末頃の土器を大量に廃棄した土坑、奈良時代と中世・近世の築地と側溝、中世の路面を検出した。 | | |
| 7115 | | **(1)－5 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言**<br>特別史跡藤原宮跡、特別史跡山田寺跡、史跡川原寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 6 件あり、主に史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、川原寺旧境内の調査では、川原寺の創建瓦を含む遺物包含層を確認した。 | A | 順調 |
| 7211 | (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。<br>また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。<br>① 埋蔵文化財担当者研修<br>専門研修 12 課程、研修人数のべ 142 人 | **(2)－① 埋蔵文化財担当者研修**<br>遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 12 課程の研修を実施し、延べ 130 名が受講した。<br>研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。 | A | 順調 |
| 7221 | ② 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。<br>○ 期間 2 週間、受講生 25 名程度 | **(2)－② 博物館・美術館等保存担当学芸員研修**<br>第 26 回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。 | A | 順調 |
| 7231 | ③ 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進<br>○ 東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)<br>○ 京都大学：共生文明学(文化・地球環境論)<br>○ 奈良女子大学：比較文化学(文化史論) | **(2)－③ 連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)**<br>次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習(北野)、保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石﨑、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野) | A | 順調 |
| 7232 | | **(2)－③ 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進**<br>京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を行った。なお、平成 21 年度の受入学生数は京都大学 51 名、奈良女子大学 9 名であった。 | A | 順調 |

| 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| **参加者満足度** | | | | |
| **埋蔵文化財担当者研修** | 100% | 100% | 80% | A |
| **保存担当学芸員研修** | 100% | 100% | 80% | A |
| 埋蔵文化財担当者研修　実施課程 | 12 課程 | 14 課程 | 12 課程 | A |
| 延べ人数 | 130 | 170 | 142 | B |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 保存担当学芸員研修　期間 | 2 週間 | 2 週間 | 2 週間 | A |
| | | 受講生 | 31 | 29 | 25 | A |

## Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

**【中期目標】**法人統合のメリットも最大限に生かし、業務の充実かつ効率化を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。
　運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、特殊業務経費を除き、５年間で一般管理費は１５％以上、業務経費は５％以上の削減を図ること。
　また、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成１８年法律第４７号)に基づき、平成１８年度以降の５年間において国家公務員に準じた人件費削減を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針２００６」(平成１８年７月７日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成２３年度まで継続すること。
　さらに、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、統合後５年間で、１９年度一般管理費(物件費)の１０％相当の経費を５年間で削減を図ること。

### １　業務の効率化

**【中期目標】**--------

**【中期計画】**

１　職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き５年期間中一般管理費１５％以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図る。
　さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19 年度一般管理費(物件費)の１０％相当を統合後５年間で削減を図る。
　具体的には下記の措置を講じる。

(１)共通的な事務の一元化による業務の効率化

(２)使用資源の減少
　・省エネルギー(５年期間中１年に１．０３％の減少)
　・廃棄物減量化(一般廃棄物排出量を５年期間中５％減少)
　・リサイクルの推進

(３)施設有効使用の推進
　・施設の利用推進

(４)民間委託の推進
　・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
　・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
　・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

(５)競争入札の推進
　・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

**【主な計画上の評価指標】**

○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中一般管理費 15%以上、業務経費 5%以上の業務の効率化を図ること。
○省エネルギー5 年期間中、1 年に 1.03% 減少を図ること。
○施設の有効利用の推進を図ること。
○民間委託の推進を図ること。
○競争入札の推進を図ること。
○保有固定資産について、減損会計の情報(保有目的、利用実績など)を考慮し、充分な推進を図ること。
○官民競争入札等の推進を図ること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○全体的に業務の効率化に努めているものと評価できるが、法人自らもっと分かりやすい指標を用いるなど工夫して説明して欲しい。
○随意契約について、平成 18 年度実績に比べて件数ベースで３分の１以下、金額ベースで約半分まで減少させ、また、総合評価方式や企画競争・公募に係る手続きを整備するとともに随契理由を公表するなど契約の適正化に向けた努力は認められるが、より一層の努力が求められる。
○今後とも、文化財の保存・活用に係る業務の特殊性を踏まえ、契約の適正化に向けて一層努力されたい。

<table>
<tr><th>処理番号</th><th>年度計画</th><th>主な実績</th><th colspan="2">自己評価</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>年度</th><th>中期</th></tr>
<tr><td>9110</td><td>(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化<br>財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を図る。<br>1) 国立博物館各館における翌年度の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。<br>2) ネットワークの共通化及び、各施設ごとであったグループウェアの機構全体での統合・共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。</td><td>(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化<br>・「研究・学芸系職員連絡協議会」を実施し、各博物館における翌年度の展覧会企画等について調整を行い、計画を図った。2館以上巡回する展覧会として「細川家の至宝」（東博、九博、京博）、「誕生！中国文明」（東博、九博、奈良博）を計画することとした。<br>・機構内各施設のグループウェアの統合化を進めた。<br>これまで機構内各施設では各業務の効果的な遂行のため、個別にグループウェアを検討・導入・運用してきた。今回これらの一本化を図るべく準備を進めたが、年度内実施には至らなかった。</td><td>B</td><td>ほぼ順調</td></tr>
<tr><td>9120</td><td>(2) 省エネルギー、リサイクルの推進<br>1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。（年間1.03%減少）<br>2) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。（一般廃棄物排出量を年間1.03%減少）</td><td>(2) 省エネルギー、リサイクルの推進<br>・日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。<br>・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。<br>使用資源の推移等<br>光熱水料金 （単位：千円）
<table>
<tr><th>事項</th><th>20年度</th><th>21年度</th><th>差額</th></tr>
<tr><td>電気料（※1）</td><td>427,588</td><td>366,202</td><td>△61,386</td></tr>
<tr><td>水道料（※2）</td><td>84,044</td><td>93,651</td><td>9,607</td></tr>
<tr><td>ガス料（※1）</td><td>138,811</td><td>92,510</td><td>△46,301</td></tr>
<tr><td>計</td><td>650,443</td><td>552,363</td><td>△98,080</td></tr>
</table>
（※1）電気料・ガス料減少の特殊要因となった施設休館等による影響
<table>
<tr><th>施設</th><th>休館施設</th><th>電気料</th><th>ガス料</th></tr>
<tr><td>東京国立博物館</td><td>東洋館（耐震改修工事のため）</td><td>△17,189</td><td>△6,208</td></tr>
<tr><td>京都国立博物館（注1）</td><td>平常展示館（建替工事のため）</td><td>△1,457</td><td>△14,081</td></tr>
<tr><td>奈良国立博物館</td><td>西新館（耐震工事のため）</td><td>△1,477</td><td>△840</td></tr>
<tr><td>奈良文化財研究所</td><td>平城宮跡資料館（改修工事のため）</td><td>△8,247</td><td>△1,340</td></tr>
<tr><td></td><td>小計</td><td>△28,370</td><td>△22,469</td></tr>
</table>
（注1）建替工事及びガス空調から電気空調への全館全面切換による増減を含む。<br>（※2）水道使用料増加の特殊要因
<table>
<tr><th>施設</th><th>内容</th><th>金額</th></tr>
<tr><td>東京国立博物館</td><td>「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料（4月1日～6月7日）</td><td>2,003</td></tr>
<tr><td>九州国立博物館</td><td>「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料</td><td>2,026</td></tr>
</table></td><td>A</td><td>順調</td></tr>
</table>

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | （7 月 14 日～9 月 27 日） | | |
| | | 京都国立博物館 | 平常展示館建替工事に係る工事用水使用料 | 4,251 | |
| | | 九州国立博物館 | 雨水貯留槽汚染（10 月 20 日～3 月 2 日）に伴う上水使用料 | 1,520 | |
| | | | 小計 | 9,800 | |

（参考）特殊要因を考慮した光熱水料金

| 事項 | 20 年度 | 21 年度 | 差額 |
|---|---|---|---|
| 電気料 | 427,588 | 394,572 | △33,016 |
| 水道料 | 84,044 | 83,851 | △193 |
| ガス料 | 138,811 | 114,979 | △23,832 |
| 計 | 650,443 | 593,402 | △57,041 |

（※1）（※2）を考慮

廃棄物排出量 （単位：kg）

| 事項 | 20 年度 | 21 年度 | 増減率（%） |
|---|---|---|---|
| 一般廃棄物 | 247,491 | 228,045 | △7.9 |

リサイクル実施例
（1）廃棄物の分別収集
（2）リサイクル業者への古紙受け渡し
（3）再生紙の発注等

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9131 | **(3) 施設有効使用の推進**<br>(博物館 4 施設)<br>1) 講座・講演会等を開催する。<br>2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。<br>3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。<br>(文化財研究所 2 施設)<br>セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。 | **(3) 施設有効使用の推進**<br>**【東京国立博物館】**<br>パーティー、コンサート、撮影への施設利用（平常展も観覧いただくようにし、新たな入館者の開拓も目的とする）、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図った。 | A | 順調 |

| 施設名 | 平成 21 年度 |
|---|---|
| 講堂等 | 114 件（内 有償貸付 82 件） |
| 茶室 | 119 件（内 有償貸付 73 件） |
| その他<br>（本館・表慶館・ラウンジ・前庭） | 108 件（内 有償貸付 107 件） |
| 合 計 | 341 件 収入額 38,495,495 円 |

入館者の拡大を目的とするコンサートとして
・「ファミリーコンサート」（7月26日 共催：東京クラリネットクワイアー）
・「ジェラール･プーレ ヴァイオリンコンサート」（12月12日 制作協力：瀧井敬子）
・「関孝弘 ピアノコンサート」（7月5日 共催：サロン・ド・ソネット）
等を、講演会として、
・「東大寺講演会」（1月27日 共催：東大寺）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9132 | | 演芸として、<br>・「新春東博寄席」（1月11日）<br>など様々なイベントを実施した。<br>**【京都国立博物館】**<br>特別展示館等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。<br>なお、平常展示館建替工事に伴い昨年度 12 月 8 日より講堂が使用できなくなったため、展覧会等に関する講演会、夏期講座及び年 4 回開催しているらくご博物館は館外の施設を利用して行うこととなった。<br>特別展示館<br>・バロックコンサート（開催日 1 日　入場者 196 名）<br>・ミニコンサート（開催日 7 日　入場者約 280 名）<br>庭園（丸池周辺）<br>・自転車発電エコライブ（開催日 1 日　参加者 約 100 名）<br>館外の施設を利用<br>・展覧会等に関する講演会（講座回数 15 回　聴講者数　合計　2115 名）<br>・夏期講座（開催日 3 日間 参加者　179 名）<br>・らくご博物館（年 4 回　　入場者 697 名）<br>・音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展（開催日 1 日　入場者 149 名）<br>また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。<br>外部使用件数　　使用料<br>研修室等　21 件（うち有償 13 件、無料 8 件）　291,375 円<br>茶室　　14 件（うち有償 13 件、無料 1 件）　151,200 円<br>計　　35 件　　442,575 円 | A | 順調 |
| 9133 | | **【奈良国立博物館】**<br>・施設の利用<br>講堂：公開講座（16 回、2,043 人）、サンデートーク（11 回、584 人）、<br>正倉院展ボランティア解説（20 日間計 112 回）、世界遺産学習（29 校、2,205 人）<br>・イベント等の実施<br>敷地内：唐招提寺の蓮展示<br>講堂：まほろば寄席（3 回）、まほろば講座(3 回)、特別展関連映画上映（国宝鑑真和上展：「天平の甍」、聖地寧波：「ぼくの孫悟空」）、皇室写真展、NHK 制作番組「宝物を守り伝える」上映会＆講演会<br>仏教美術資料研究センター：夏休みお線香手づくり体験講座<br>地下回廊：にんぷろカルタ大会、絵画コンクール入賞作品展示<br>西新館ピロティ：NHK 日曜美術館で紹介した正倉院宝物の映像放映<br>・会場提供<br>敷地内：なら燈花会、クラシックカーラリー2009 奈良、コンサート（おはなしステージ in なら燈花会）、第 11 回バサラ祭、なら国際映画祭プレイベントでの映画上映（河瀬直美 | A | 順調 |

監督作品「沙羅双樹」)、茶会（3回）
講堂：映画祭（河瀬直美監督作品「火垂 2009　version」)、放送大学面接授業、奈良市教育委員会主催教員研修講座
仏教美術資料研究センター：書道展「天墨の書」、結婚式
地下回廊：シルクロード写真パネル展示、「奈良のうまいもの」パネル展示
西新館ピロティ：陶芸展「火垂窯の仲間たち」、正倉院展での呈茶席

9134 **【九州国立博物館】** A 順調

・文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。
・ミュージアムホール、エントランスホール、研修室等において、各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室の貸出を行った。
・各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。
・ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。

| | | |
|---|---|---|
| ミュージアムホールの利用 | 76件（内 | 有料11件） |
| 研修室の利用 | 88件（内 | 有料58件） |
| その他(エントランスホール 外) | 86件（内 | 有料 0件） |

9135 **【東京文化財研究所】** A 順調

・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。

9136 **【奈良文化財研究所】** A 順調

会議室、セミナー室等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図った。

| 施設名 | 21年度 |
|---|---|
| 平城宮跡資料館講堂 | 26件（内　有償貸与　1件） |
| 平城宮跡資料館小講堂 | 35件（内　有償貸与　0件） |
| 寄宿舎施設 | 1,115件（内　有償貸与　27件） |
| 飛鳥資料館講堂 | 4件（内　有償貸与　0件） |
| その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等） | 31件（内　有償貸与　12件） |
| 合計 | 1,211件（内　有償貸与　40件） |

①平城宮跡資料館講堂及び小講堂については、平城宮跡資料館の改修工事のため、平成21年6月から閉鎖した。それまでは、調査研究成果を公表する場として講習会、研究会、学会等を開催した。さらに、広く国民に文化財への理解を求めるべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。
②一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。
③奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ④飛鳥資料館講堂において、企画展示・特別展示期間に講演会等を開催した。<br>・夏期企画展示（「甦るクメール文明世界文化遺産アンコール遺跡群」（約 50 名参加））<br>・秋期特別展示（「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」（127 名参加））<br>・団体入館者の要望に応えて、モニター映像による集合解説を実施した。（年間 2 回・約 50 名参加）<br>・キトラ古墳壁画公開会場とした。（期間中 3 万人）<br>⑤上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。 | | |
| 9140 | **(4)　民間委託の推進**<br>（東京国立博物館）<br>・電気設備保守業務及び機械設備保守業務の一部を継続して外部委託<br>・資料館業務の一部外部委託を継続して実施<br>（京都国立博物館）<br>・看視案内業務、売札業務及び設備保全業務の一部外部委託<br>・通用門の受付・案内・警備業務、及び清掃業務の外部委託<br>・情報システムの運用・管理・開発業務の一部外部委託<br>（奈良国立博物館）<br>・建物設備の運転・管理業務の外部委託<br>・警備及び看視案内の一部並びに売札業務の外部委託<br>（九州国立博物館）<br>・建物設備の運転・管理業務等の外部委託を継続して実施<br>・警備業務、看視案内業務及び清掃業務の外部委託<br>（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）<br>・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い，民間委託をさらに積極的に進める。<br>・所の警備・清掃業務について民間委託を推進する。<br>・来所者サービスを中心に業務の見直しを行い，民間委託を積極的に進める。 | (4)　民間委託の推進<br>・　全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。<br>・　全ての博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。　また、研究所は警備業務を外部委託している。<br>・　博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。<br>・　東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施しているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、平成 22 年 4 月 1 日から民間委託を実施予定。 | A | 順調 |
| 9150 | **(5)　一般競争入札の推進**<br>・一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。<br>・独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）につい | **(5)　一般競争入札の推進**<br>・　列品等修理契約について、新たに修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約について、企画競争へ移行した。<br>・　随意契約の見直しで、２１年度に一般競争へ移行するとした電気供給契約について、全ての施設で一般競争入札を実施した。<br>・　その他新たに、自動券売機賃貸借、機械警備について一部施設で一般競争入札を実施した。 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | て、21 年度 10 月から民間競争入札を実施する。 | 一般競争入札件数<br>年度 / 20 年度 / 21 年度 / 増減<br>件数 / 142 件 / 202 件 / 60 件<br>（参考）電気供給契約額前年度対比（法人全体）<br>（単位：千円）<br>20 年度契約額 / 21 年度契約額 / 差額（21-20）<br>372，224 / 369,965 / △2,259 | | |
| 9160 | **(6) 定量的な目標の設定**<br>独立行政法人整理合理化計画(19 年 12 月 24 日閣議決定)の方針に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けて、以下の定量的な目標の達成を目指す。<br>1) 機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。<br>2) 機構全体において、寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。 | **(6) 定量的な目標の設定**<br>1）入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、１．１６％の増加を目指す。<br>下表のとおり、８．６７％となり、目標を上回ることができた。<br>（単位：千円）<br>平成１９年度 / 平成２０年度 / 平成２１年度<br>自己収入基準額 / ――― / ８６４，０８９ / ８７４，１１２<br>自己収入目標額 / ①８６４，０８９ / ②８７４，１１２（①×1.16%増） / ８８４，２５２（②×1.16%増）<br>自己収入実績額 / ――― / ――― / ９４９，９００<br>増　加　率 / ――― / ――― / ８．６７％<br>※ 受託研究・受託事業を除く。<br>※ 自己収入目標額は、前年度の目標額から１．１６％増加した場合の額。ただし平成１９年度自己収入目標額は、平成１９年度自己収入実績額から特殊要因である京都国立博物館平常展示館建替工事による影響額等を除して算定。<br>※ 増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。<br><br>2）寄附金２２６件及び科学研究費補助金７６件の確保を目指す。<br>下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。<br>目標値 / 平成２１年度<br>寄附金 / ２２６件 / ２９０件<br>科学研究費補助金 / ７６件 / ８６件 | A | 順調 |

| | | 定量評価 | 21 年度 | 20 年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一般管理費の効率化(対前年度比%) | 9.11%減 | 0.93%増 | 3.20% | S |
| | | 業務経費の効率化(対前年度比%) | 11.04%増<br>(前年度からの繰越分特別展入館者増等による支出増) | 6.95%減 | 1.03% | C |
| | | 光熱水料費の削減(対前年度比%) | 15.08%減<br>(特殊要因を考慮した場合 8.77%減) | 8.34%増<br>(単価を前年ベースにした場合 2.30%減) | 1.03% | S (S) |
| | | 一般廃棄物の削減(対前年度比%) | 7.86%減 | 4.00%増 | 1.03% | S |
| | | 統合による経費削減(対前年度比%) | 9.13%減 | 1.52%減(施設整備費補助金加算額消費税を除いた場合 6.95%減) | 2.09% | S |
| | | 自己収入増加率 | 8.67% | － | 1.16% | S |
| | | 寄附金 | 290 件 | － | 226 件 | A |
| | | 科学研究費 | 86 件 | － | 76 件 | A |

## 2　事業評価の実施及び職員の意識改善

【中期目標】--------

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| 2　外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。 | ○コンプライアンス体制(倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施)を整備すること。<br><br>【20 年度評価における主な指摘事項】<br>○普通救命講習会、ＡＥＤ操作講習会等の研修は観覧者向けと考えられるが、バックヤード、建築・設備管理を含み、また展示替えや文化財の搬入・搬出に供え、恒常的な安全管理に努めて欲しい。<br>○今回、九博の機械設備保守業務において、死者並びに重傷者が出たが、新しい設備であるだけに、例え民間受託者であれ、施設管理者としてその原因究明と再発防止に向けて努力されたい。内部統制やコンプライアンスの実効性を高めるため、今後も役職員に対する教育や信頼できる委託業者の確保に努めることが重要。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| 9220 | **2 事業評価の実施及び職員の意識改善**<br>理事長のリーダーシップのもとに、事業を推進する。<br>1)　自己点検評価や外部有識者による外部評価等を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。<br>2)　各種研修・講習会を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。<br>3)　20 年度に引き続き、職員を対象とした業務改善コンクールを実施し、職員の意識改善や業務の改善を図る。 | **2　事業評価の実施及び職員の意識改善**<br>・20年度運営改善コンクールにおいて採択された案件について具体的な検討を図り、一部については実施して、職員の意見を事業に反映させた。 | A | 順調 |

## 3　機構が管理する情報の安全性向上

【中期目標】--------

| 【中期計画】 | 【主な計画上の評価指標】 |
|---|---|
| 【中期計画】３　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 | ○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。<br><br>【20 年度評価における主な指摘事項】<br>○今後は、奈良博の実施ケースを踏まえ、ＩＣＴ監査を機構全体で実施し、セキュリティの弱点があれば強化・改善して欲しい。 |

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 9330 | 3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。<br>1)　機構の内部統制体制の整備を図る。<br>2)　機構が保有する知的財産権の管理体制の整備を図る。<br>3)　20 年度に制定した情報セキュリティポリシーを基に、機構が管理する情報の安全性向上を図る。 | 3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。<br>1)20年度に作成した知的財産管理体制報告書に基づき、知的財産検討ワーキンググループを設置し、規定整備のための検討を図った。<br>2)情報システム点検・評価要項に基づき、各施設において情報システム点検の実施を検討し、情報セキュリティの向上に努めた。(点検は次年度に実施する。) | A | 順調 |

## 4　人件費の抑制

【中期目標】-------

【中期計画】

4　「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成１８年法律第４７号)に基づき、国家公務員に準じた人件　費改革に取り組み、平成１８年度からの５年間において、△５％以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基　本方針２００６」(平成１８年７月７日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成２３年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費　は含まない。

その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。

【主な計画上の評価指標】

○平成 18 年度からの 5 年間において△5%以上の人件費削減を行う。
○また、役職員の給与に関し、国家国務院の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。

【20 年度評価における主な指摘事項】

○目標期間５年間中における３年間の達成度としてみて、人件費削減は順調に進んでいるものと認められる。しかし、１人当たりの業務量は増大しており、機構全体として適切な配置を期待する。
○なお、シミュレーションとの整合性や全体が俯瞰できる工夫などわかりやすく説明して欲しい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 9440 | 4　「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律(平成 18 年法律第 47 号)」「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006(平成 18 年 7 月 7 日閣議決定)」を踏まえ、人件費の抑制を図る。 | 4<br>・人件費削減実績 | A | 順調 |

| | 17 年度(A分類実績ﾍﾞｰｽ) | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度目標値(17 年度に比して△5.00%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実績（千円） | 2,878,750 | 2,789,360 | 2,773,688 | 2,745,389 | 2,688,829 | 2,734,812 |
| 前年度に対する削減率 | － | △3.11% | △0.56% | △1.02% | △2.06% | － |
| 17 年度に対する削減率 | － | △3.11% | △3.65% | △4.63% | △6.60% | － |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17年度に対する削減率（補正値） | － | △3.11% | △4.35% | △5.33% | △4.90% | | － | | |

・人事給与統合システムが平成２０年４月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。
・地域手当について、平成２２年度において平成２１年度の率を据え置く方針が決定された

| 定量評価 | 21年度 | 20年度 | 目標値 | 評定 |
|---|---|---|---|---|
| 5年で5%の人件費削減(17年度比) | △6.60% | △4.63% | 22年度までに5.0%削減 | |

## Ⅲ　予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

**【中期目標】**税制措置も活用した寄付金や自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。

**1　自己収入の増加**

税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の 多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。

また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収　支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。

**2　固定的経費の節減**

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

**【中期計画】**管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。

また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。

**【主な計画上の評価指標】**

○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。
○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。
○税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。
○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。
○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○特別展の入場者増の努力は評価でき、今後も、良い企画を期待する。ただし、展示関連収支については、もう少し説明を工夫して欲しい。
○費出のうち収入連動費用(展示関連費用)を引いた経費部分の節減を常に意識して取り組まれたい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 年度 | 自己評価 中期 |
|---|---|---|---|---|
| | 予算 | | | |

（単位：百万円）

| 区　　分 | 金 額 |
|---|---|
| 収入 | |
| 運営費交付金 | 8,368 |
| 施設整備費補助金 | 3,674 |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | 700 |
| 展示事業等収入 | 1,120 |
| 受託収入 | 26 |
| 計 | 13,888 |
| 支出 | |
| 管理経費 | 1,873 |

| | |
|---|---|
| うち人件費 | 853 |
| うち一般管理費 | 1,020 |
| 業務経費 | 7,615 |
| うち人件費 | 2,477 |
| うち調査研究事業費 | 1,438 |
| うち情報公開事業費 | 155 |
| うち研修事業費 | 22 |
| うち国際研究協力事業費 | 304 |
| うち展示出版事業費 | 158 |
| うち展覧事業費 | 2,940 |
| うち教育普及事業費 | 121 |
| 施設整備費 | 3,674 |
| 文化芸術情報電子化推進費 | 700 |
| 受託事業費 | 26 |
| 計 | 13,888 |

**収支計画**

（単位：百万円）

| 区　　分 | 金 額 |
|---|---|
| 費用の部 | 7,573 |
| 経常経費 | 7,573 |
| 管理経費 | 1,490 |
| うち人件費 | 853 |
| うち一般管理費 | 637 |
| 業務経費 | 5,689 |
| うち人件費 | 2,477 |
| うち調査研究事業費 | 899 |
| うち情報公開事業費 | 97 |
| うち研修事業費 | 14 |
| うち国際研究協力事業費 | 190 |
| うち展示出版事業費 | 99 |
| うち展覧事業費 | 1,838 |
| うち教育普及事業費 | 75 |
| 受託事業費 | 26 |
| 減価償却費 | 368 |

| | |
|---|---|
| 収益の部 | 7,573 |
| 運営費交付金収益 | 6,059 |
| 展示事業等の収入 | 1,120 |
| 受託収入 | 26 |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 211 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 157 |

**資金計画**

（単位：百万円）

| 区　　分 | 金 額 |
|---|---|
| 資金支出 | 13,888 |
| 業務活動による支出 | 7,905 |
| 投資活動による支出 | 5,983 |
| | |
| 資金収入 | 13,888 |
| 業務活動による収入 | 10,214 |
| 運営費交付金による収入 | 8,368 |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金による収入 | 700 |
| 展示事業等による収入 | 1,120 |
| 受託収入 | 26 |
| 投資活動による収入 | 3,674 |
| 施設整備費補助金による収入 | 3,674 |

## Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

**【中期目標】**

1　人事管理(定員管理、給与管理、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。また、効率的かつ効果　的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。

2　業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画を作成し、整備をすること。

**【中期計画】**

1　人事計画に関する計画

(1)方針

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。

②調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。

③人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

(2)人員に係る指標

常勤職員については、その職員数の抑制を図る。

(参考１)

1)期初の常勤職員数　　３６７人

2)期末の常勤職員の見込み　　３５５人

(参考２)中期目標期間中の人件費総額見込額

１４，３４３百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。

2　別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。

**【主な計画上の評価指標】**

**【20 年度評価における主な指摘事項】**

○職員の構成バランスは、重要である。有期雇用職員の制度をうまく活用しながら、次世代人材の育成も充実を図って欲しい。

○各館・研究所などの職種・定員等を検討し、研究員・学芸員に自然科学系・工学系職員を配置することにも配慮されたい。

○また、職場での安全教育の実施及び安全確保にも努力されたい。

| 処理番号 | 年度計画 | 主な実績 | 自己評価 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 年度 | 中期 |
| 0110 | 1　人事に関する計画<br>(1)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。 | **(1)　人事交流**<br>〈事務系職員〉<br>・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。<br>・また、文化庁には１名の出向を行っている。<br>・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（本部事務局・九州国立博物館間、本部事務局・奈良文化財研究所間、東京国立博物館・京都国立博物館間、東京国立博物館・東京文化 | A | 順調 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 財研究所間、京都国立博物館・奈良国立博物館間、東京文化財研究所・奈良文化財研究所等（8 名））における交流を行っている。<br>〈研究系職員〉<br>・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 14 名採用した。<br>・また、文化庁から 8 名の受け入れ及び文化庁への出向を 14 名を行っている。<br>・機構内での人事交流を図るため、各施設間（東京国立博物館・九州国立博物館間、京都国立博物館・奈良文化財研究所間（6 名））における交流を行っている。 | | |
| 0120 | (2) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。 | **(2) 職員の資質向上**<br>・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3 件）、ハラスメントに関する研修（1 件）を行った。<br>また、今年度新たに行った研修として、施設系の職員を対象とした研修（1 件）及びクレーム対応に関する研修（1 件）を実施した。<br>・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。 | A | 順調 |
| 0130 | (3)非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。 | **(3)非公務員化のメリットを活かした制度の活用**<br>・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行ったところである。平成 20 年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で 1 名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で 1 名採用した。<br>・平成 20 年度においては、さらに上記規定の適用を広げ、平成 21 年度において新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で 1 名、技術職員（写真技士）1 名及び技術職員（建築）1 名を奈良国立博物館で独自選考により採用をした。（計 3 名）また、平成 22 年 4 月にも技術職員（写真技士）を奈良文化財研究所で 1 名採用予定である。<br>・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度を新たに整備したところである。これは、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とするものである。その結果、平成 21 年度に東京国立博物館で 11 名、京都国立博物館で 1 名、奈良国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 5 名及び奈良文化財研究所で 3 名を採用した。（計 22 名） | A | 順調 |

2　施設・設備に関する計画

施設・設備に関する計画

（単位：百万円）

| 施設・整備の内容 | 予定額 | 財　　源 |
|---|---|---|
| 京都国立博物館<br>平常展示館建替工事<br>（19 年度～24 年度） | 3,527 | 施設整備費補助金 |
| 奈良文化財研究所<br>平城宮跡資料館公開展示部門<br>機能充実整備等工事 | 147 | 施設整備費補助金 |

# Ⅱ　21年度自己点検評価報告書　個別表

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111

| 大項目 | ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 |
|---|---|

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)－1　適時適切な収集 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |

**実績・成果**

・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品8件（内、重要美術品2件）を購入した。

内訳：絵画 3 件、 彫刻 1 件、金工 1 件、刀剣 2 件、漆工 1 件

決算額　229,150,000 円

**補足事項**

・呉春筆「山水図屏風」（江戸時代・18 世紀）は、柔らかく済んだ秋の光が画面にあふれる広やかな山水図である。呉春が蕪村の師の与謝蕪村の画風をもとにしながら独自の画風を確立していく時期の作品で、代表作と称すべき質の高い作品で、展示効果も高い。
・十一面観音菩薩立像（平安時代・9 世紀）は、体躯の量感ある表現と、深く、鋭く刻まれた衣文が秀逸な、平安初期彫刻の優品である。
・重要美術品の薙刀（南北朝時代・1338 年）は、制作当時のありのままの姿を保っており、貴重な資料である。



購入品　呉春筆　山水図屏風

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収蔵品件数 | 112,776 件 | － | － | 経 | 111,588 | 112,439 | 112,529 | 112,776 |
| うち国宝 | 87 件 | － | － | 年 | 88 | 87 | 87 | 87 |
| うち重要文化財 | 624 件 | － | － | 変 | 612 | 619 | 622 | 624 |
| 購入件数 | 8 件 | － | － | 化 | 10 | 13 | 7 | 8 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F

（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。

（東京国立博物館）

日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1112

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)-1　適時適切な収集 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | 博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品7件を購入した。<br>購入に際しては中期目標にもある通り「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画資料、京都画壇を代表する長澤蘆雪の絵画作品、近世初期の京都と海外との交流を示す南蛮漆器の作品、京焼の陶工尾形周平の作品などに反映されている。<br><br>内訳：絵画3件、漆工1件、陶磁1件、考古資料2件<br>決算額　40,475,000円 | | | |
| 補足事項 | 「新曲」絵巻は、室町時代に流行した幸若舞の物語を主題とするもので、数少ない絵巻形式の作品として重要な物である。<br>双鹿図(写真)は、18世紀の京都画壇を代表する長澤蘆雪の作品で、従来館蔵品のなかった蘆雪画を加えた意義は大きい。<br>秘法画伝書は、京狩野の絵師永良が弟子に伝えるために執筆した画法書で、昨年度購入した永良の白梅群鶏図とともに計画中の「京狩野展」で活用される。<br>色絵西洋人物図急須は、京焼の陶工尾形周平の作品で、図様、技法に西洋の影響の強い作品で、これまでしばしば特別展で活用されてきた。<br>また双龍花鳥蒔絵螺鈿裁縫道具入は、西洋人が求めた京都の漆工技術を具体的に示す資料で器形はこの一点しか知られずきわめて貴重である。この陶磁と漆工は、京都と西洋の交流を示す資料として重要である。<br>2件の鏡は、古墳時代に中国の鏡にならって制作された日本の鏡で、出土地は不明ながら、当館の鏡コレクションの充実に寄与する。<br>館蔵品の重要文化財の件数に1減があるが、これは1件で指定されている「坂本龍馬関係資料」のうち紋服1領を染織の重要文化財として計上していたのを是正したことによる。 | | | |



双鹿図　長澤蘆雪筆

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品件数 | 6,526件 | ― | ― | 経年変化 | 6,320 | 6,386 | 6,417 | 6,526 |
| | うち国宝 | 27件 | ― | ― | | 27 | 27 | 27 | 27 |
| | うち重要文化財 | 176件 | ― | ― | | 181 | 177 | 177 | 176 |
| | 購入件数 | 7件 | ― | ― | | 17 | 36 | 8 | 7 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。<br>(京都国立博物館)<br>京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1113

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)－1　適時適切な収集 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 学芸部長補佐　岩田茂樹 |
| 実績・成果 | 購入が 4 件、寄贈が 3 件、都合 7 件の文化財が新たな収蔵品として加わった。うち購入分についての内訳は次のとおりである。<br>書跡　：　華厳経（二月堂焼経）巻第二十四　1 巻　奈良時代（8 世紀）<br>手鑑　1 帖　奈良～江戸時代（8～17 世紀）<br>漆工　：　玉虫厨子　模造　1 基　大正 10 年（1921）<br>金銀平脱皮箱　模造　1 合　近代（20 世紀）<br>購入の代金額は計 71,400,000 円である。 | | | |
| 補足事項 | 書跡部門の購入品のうち華厳経は、もと東大寺二月堂に伝来したもので、奈良時代唯一の紺紙銀字経として著名な作品である。奈良時代の仏教文化を主要なテーマのひとつとする当館にとって貴重な収蔵品となる。<br>手鑑は、折帖の表裏合わせて 122 面に長短 206 葉の筆跡を貼り込んだもの。日本における書の歴史を語る上で欠かせない形式の作品だが、当館の収蔵品にはこれまで含まれず、今後の展示活動に寄与すると考える。<br>工芸部門の 2 件の購入品は、飛鳥時代を代表する遺品である玉虫厨子と、正倉院宝物の漆工品を模造したもの。上代仏教美術に関する展覧会や正倉院展を開催する当館において、古代の漆工技法に関する有用な資料として今後の活用が期待できる。<br>以上、購入・寄贈品のいずれも今後の当館の活動において重要な役割をになう文化財と考えられる。 | | | |



玉虫厨子模造

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品件数 | 1,812 | － | － | 経年変化 | 1,790 | 1,794 | 1,805 | 1,812 |
| | うち国宝 | 12 | － | － | | 12 | 12 | 12 | 12 |
| | うち重要文化財 | 110 | － | － | | 106 | 107 | 108 | 110 |
| | 購入件数 | 4 | － | － | | 0 | 2 | 7 | 4 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。<br>（奈良国立博物館）<br>仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1114

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)－1　適時適切な収集 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 文化財課 | 事業責任者 | 主任研究員　丸山猶計 |
| 実績・成果 | ・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、かつ国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品 27 件を購入した。（内、国宝 0 件・重要文化財 1 件）<br><br>内訳：絵画 8 件　書跡 3 件　彫刻 1 件　陶磁 6 件　漆工 4 件　考古 1 件　歴史資料 4 件<br><br>決算額：　1,418,192,500 円 | | | |
| 補足事項 | ・絵画分野では、平安末～鎌倉初期の絵巻物の名品「紙本著色病草紙断簡」や鎌倉中期の「紙本著色九相図」、朝鮮王朝時代の「紙本墨画葡萄図」など、美術史上に重要な優品を購入した。<br>・書跡分野では、重要文化財で中国元時代の「馮子振墨蹟」をはじめ、鎌倉時代に「大般若波羅蜜多経」を書写した「東大寺八幡宮経」および「春日版」など、時代の基準となる作品を購入した。<br>・彫刻分野では、中国隋時代の金銅仏で保存状態も良好な優品「銅造観音菩薩立像」を購入した。<br>・陶磁分野では、「絵唐津草文壺」や薩摩藩主島津家旧蔵の名物茶入「文琳茶入（薩摩文琳）」や安政年間（1855-59）に島津斉彬が制作したとされる「薩摩切子」2 件など、時代や制作地の特色が顕著な優品を購入した。<br>・漆工分野では南宋時代の「後赤壁賦堆朱盤」など、中国漆工の優品を 4 件購入した。<br>・考古分野では、中国前漢時代の元始四年（後 4 年）の銘があり、世界的に著名で評価の高い「彩漆盤」を購入した。<br>・歴史資料分野では、江戸から長崎に至る街道図「江戸長崎街道図帖」をはじめ、文化交流の諸相への理解を深めうる文化史的に優れた資料を購入した。<br>・これらの購入品は、わが国と大陸あるいは九州と日本各地の文化交流を説明する上で有効な資料であり、文化交流展示室（常設展示）における多面的な活用が見込まれる。<br>なお、平成 19 年度に購入した菊蒔絵手箱は、今年度重要文化財に指定された。 | | | |



重要文化財　「馮子振墨蹟　与放牛光林語」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品件数 | 397 件 | — | | 経年変化 | 281 | 333 | 370 | 397 |
| | うち国宝 | 3 件 | — | | | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | うち重要文化財 | 27 件 | — | | | 23 | 24 | 25 | 27 |
| | 購入件数 | 27 件 | — | | | 26 | 42 | 30 | 27 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。<br>（九州国立博物館）<br>日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料を収集する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・作品の寄贈は 43 件に上った。板屋家傳来資料は一括で 1 件として受け入れたが、江戸幕府御用絵師であった板谷家に伝来した下絵、古文書などで、受け入れ時に作成した仮リストで 10,613 件に達する。また 5 件は黒田清輝筆の絵画作品で、黒田記念館での保管と展示を行う予定である。<br>・新規寄託は 3 件（内、重文 1 件）であった。<br>・寄託終了は 19 件である。内、当館が購入したものが 2 件、当館へ寄贈となったものが 3 件（内、重美 1 件）、所有者に返却したものが 14 件（内、国宝 3 件）である。返却した 14 件のうち、1 件は国（文化庁）、1 件は九州国立博物館がそれぞれ購入している。<br>・その結果、寄託品件数は昨年度より 16 件減少した。<br>・登録美術品については、増減がなかった。 | | | |
| 補足事項 | ・文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。<br>・本年度の新規寄託は、ここ数年のなかでは少なかった。<br>・寄託減の要因は、所蔵者の経済的事情によると思われる取下げもあるが、社寺の宝物館整備に伴う取り下げ、当館への寄贈、国・国立他館および当館による購入もあり、単純ではない。<br>・寄託品の数と質を維持していくために、今後も所蔵者に寄託を働きかける必要がある。<br>・登録美術品制度は、個人所有の文化財の公開促進のため文化庁が推奨している制度であり、今後も文化庁と連携をとりつつ適切な運用を図る。 | | | |



新規寄託品　　鶴草子

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 寄贈品件数 | 43 件 | － | － | 経年 | 71 | 26 | 81 | 43 |
| | 寄託品件数 | 2,734 件 | 2,400 | A | 変化 | 2,773 | 2,743 | 2,750 | 2,734 |
| | うち新規寄託品件数 | 3 件 | － | － | | 94 | 17 | 39 | 3 |
| | 登録美術品件数 | 3 件 | － | － | | 3 | 3 | 3 | 3 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)-2　寄贈・寄託品の受入と活用 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | （寄贈）<br>・今年度、寄贈は102件で、寄贈者は6人であった。<br>内訳　絵画62件　書跡8件　彫刻12件　陶磁16件　漆工1件　染織2件　考古1件<br>（寄託）<br>・今年度の新規寄託は180件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料としてまた特別展覧会での活用が見込まれる。<br>内訳　絵画105件　書跡11件　金工 13件　陶磁34件　漆工 5件　染織1件<br>考古 8件　歴史 3件 | | | |
| 補足事項 | ・寄贈では、戦前に外交官として活躍された須磨弥吉郎氏のコレクションから、新たに多くの書画、陶磁、彫刻をご寄贈いただいた。また関西を代表するコレクターであった幸節静彦氏のコレクションから、古筆切 2 件、中国絵画 1 件（いずれも重要美術品）の寄贈があった。<br>・寄託では、社寺調査以来親密な関係を結んでいる建仁寺両足院から陶磁器の一括寄託があった。<br>・秋に開催した「日蓮と法華の美術」展の出品作品及び関係資料 7 件の寄託もあり、特別展覧会が寄託品の充実に寄与した例として特筆される。<br>・寄託品の返却件数　130 件<br>・寄託品数統計が複数あり、実数とあわせる整理を行ったために総数が減じているが、実際には昨年度より 50 件増加している。<br>整理前 6,145 → 整理後 5,907（20 年度）<br>21 年度新規寄託 180 － 返却 130＝純増 50<br>5,907 ＋ 50 ＝ 5,957 | | | |



古今和歌集巻第十八断簡
「本阿弥切」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 新規寄贈品件数 | 102 件 | － | － | 経 | 42 | 30 | 21 | 102 |
| | 寄託品件数 | 5,957 件 | 5,800 件 | A | 年 | 6,179 | 6,154 | ~~6,145~~<br>(5,907) | 5,957 |
| | うち新規寄託品件数 | 180 件 | － | － | 変化 | 104 | 117 | 111 | 180 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)-2　寄贈・寄託品の受入と活用 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 学芸部長補佐　岩田茂樹 |
| 実績・成果 | 寄贈については、2 人の所蔵者から計 3 件の文化財を受け入れた。寄託については、新規に 9 件（うち国宝 1 件）の文化財を受け入れた。<br>［寄贈］　絵画　：　絹本著色武蔵野図　横山大観筆　1 幅　明治 28 年（1895）<br>紙本墨画淡彩瑞光図　横山大観筆　1 幅　大正時代（1912～26）<br>工芸　：　紅牙撥鏤尺　1 枚　平成 20 年（2008）<br>［寄託］　絵画 2 件　彫刻 3 件　工芸 1 件　書跡 3 件 | | | |

補足事項

絵画部門の 2 件の寄贈品は、いずれも近代の日本画であるが、明治時代に行われた古画（仏画）模写のまとまったコレクションが当館にあり、今回の寄贈品の筆者である横山大観による作品であることから、関連資料としての展示効果が期待できる。

工芸部門の寄贈品は当館で行う正倉院展の関連資料として、有効な活用が期待できる。

寄託品のうち、2 件の絵画、個人蔵・夜色楼台図（国宝／与謝蕪村筆）と根来寺蔵・鳥羽上皇像（重要美術品）は、いずれも著名な作品で、様々なテーマの展覧会に有用と考えられる。同時に、良好な環境での保存にも有益である。

彫刻部門の寄託品のうち、兵庫県所蔵の天部形立像は、同一工房の作と考えられる作品が奈良・金峯山寺に存在し、大和ゆかりの文化財として今後の平常展に活用できる。

その他の寄託品も、今後の平常展・特別展等において貴重なものとなりうるものである。

なお、寄託総数は昨年度と比較して減少したが、これは期限付きで寄託を受けていた一括資料を返還したためであり、寄託者の数は逆に増加している。（20 年度 217 名→21 年度 221 名）



武蔵野図・横山大観筆（寄贈品）



天部形立像（寄託品）

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規寄贈品件数 | 3 | － | － | | 54 | 2 | 4 | 3 |
| 寄託品件数 | 1,957 | 2,060 | B | | 1,957 | 2,057 | 2,067 | 1,957 |
| うち新規寄託品件数 | 9 | － | － | | 38 | 113 | 15 | 9 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1124

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (1)－2　寄贈・寄託品の受入と活用 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 文化財課 | 事業責任者 | 研究員　原田あゆみ |
| 実績・成果 | 寄贈　該当無し<br><br>新規寄託 197 件<br>（内訳　絵画 2 件、彫刻 20 件、金工 79 件、陶磁 1 件、漆工 5 件、染織 83 件、考古 7 件）<br>7 分野にわたる寄託を受けた。このうち、絵画分野の病草紙断簡 2 件は、「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館蔵）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館蔵ほか）に極めて近い表現を見出すことができる 12 世紀の貴重な優品である。また、茶道具名物集として極めて重要な『大正名器鑑』に掲載されている瀬戸茶入れの寄託を受けた。また江戸時代後期から上方と広く商売を続けてきた宮崎県所在の商家に伝わった文化財（能面・能衣装・貨幣類など）185 件の寄託を受けた。変化に富んだ寄託品を受け入れることができたため、当館の文化交流展示のなかで多様な活用が期待される内容となった。 | | | |
| 補足事項 | ・　寄託品のうち絵画分野の病草紙断簡は、江戸時代から昭和初期にかけての所蔵履歴が知られる、極めて有名な作品であり、今後、王朝文化、仏教美術など様々な切り口で展示に活用できる。<br><br>・　陶磁器では唐物に次ぐ茶入れとして、江戸時代から高く評価されてきた瀬戸茶入れの寄託を受けた。茶の湯などの展示の中で、名品として紹介することができる。<br><br>・　寄託を受けた考古遺物は、北部九州における弥生時代の金属製品の特徴を示すもので、展示に活用できるのみならず、一部は出土地点が明らかであることなどから研究資料としても大いに期待できる。<br><br>（平成 20 年度から 21 年度の寄託件数推移について）<br>本年は個人所蔵者の申し出により、陶磁器をはじめ、彫刻、書跡、歴史資料の寄託品 44 件を返還したほか、絵画、陶磁器 2 件を寄託品から購入した。また特色ある個人コレクション 185 件の寄託が第 3 回鑑査会議で承認されたなどしたため、平成 22 年 3 月 31 日現在、昨年度に比べ本年度の寄託品は 151 件増加した。 | <br>紙本著色病草紙断簡<br>（せむしの乞食法師） | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 寄贈品件数 | 0 件 | ― | S | 経年変化 | 6 | 10 | 7 | 0 |
| | 寄託品件数 | 1,256 件 | 800 件 | | | 1,506 | 1,091 | 1,105 | 1,256 |
| | うち新規寄託品件数 | 197 件 | ― | | | | 214 | 46 | 197 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211-1

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 適切な管理・保存　(1/2) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・平成 22 年度から 23 年度にかけて、東洋館で耐震補強工事が実施されるのに伴い、6 月から 8 月にかけて、東洋館内の収蔵庫に保管されていた文化財約 17,000 件の大部分を、表慶館、本館、資料館内に移動した。<br>・平成 20 年度から、列品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を実施している。今年度は 2 年目にあたり、絵画・歴史資料・東洋漆工分野で作業を進めた。<br>・収蔵品を移動したのち新しい所在位置情報を、RFID・バーコード等を利用して電子的に記録して管理の万全を図るシステム（文化財移動情報登録システム）の開発も、昨年度から継続して進めている。 | | | |
| 補足事項 | ・列品所在情報記録システムの実証実験は、東洋絵画分野の全列品 600 余件を対象に実施した。<br>・列品情報整備事業に専念させるアソシエイトフェローは、昨年度は 1 名であったが、本年度は 2 名採用し、計 3 名とした。<br>・文化財移動情報登録システム開発では、昨年は東洋漆工分野の列品 500 余件を対象に、工芸品の所在位置を登録するシステムを開発したが、本年度は東洋絵画の列品 600 余件を対象に、書画作品の所在位置を登録するシステムを開発した。 | | | |





上　東洋館から作品を搬出
下　列品情報整備（歴史資料）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | | | | | |
| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） | | | | | | | | |
| 中期計画記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 | | | | | | | | |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 | | | | | | | | |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211-2

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | （2）適切な管理・保存　(2/2) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部保存修復課 | 事業責任者 | 保存修復課長　神庭信幸 |
| 実績・成果 | ・収蔵庫及び展示室など 341 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 34 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。<br>・収蔵庫など 447 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。<br>・東洋館耐震工事に合わせた展示室リニューアルに向けて、展示ケースに使用する免震装置の検討を実施した。<br>・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 1,989 件の保存カルテを作成した。<br>・収蔵庫、展示室など 207 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成 20 年次報告書を作成した。<br>・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせて 9 件（興福寺展における阿修羅立像など）の輸送を調査した。 | | | |
| 補足事項 | ・社団法人日本包装技術協会主催・第 47 回全日本包装技術研究大会(11 月 19 日･福岡大会)において発表した「国際航空貨物における留意点－文化財の輸送環境調査より－」が輸送包装部会で優秀発表者に選ばれた。<br>・都市住宅技術研究所の振動台を使用して新型免震装置の検証実験を実施した（12 月 24 日）。<br>・京都大学防災研究所において振動台を使用して新型及び従来型の免震装置の検証実験を実施した(平成 22 年 3 月 11 日)。 | | | |




国際輸送の際に現れる振動衝撃の傾向について説明した学会発表の図表

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 保存カルテ作成件数 | 1,989 件 | 800 | S | | 1,392 | 1,725 | 2,693 | 1,989 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　1212-1

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 適切な管理・保存　(1/2) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一<br>列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | ・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。<br>・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。<br>・特別展示館耐震診断業務の結果を受け、具体的な耐震補強工法等の検討に着手した。<br>・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。<br>・将来構想検討委員会建設事業小委員会において耐震補強の工法、方針等の検討を始めた。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |
| 年度実績<br>評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） | | | | | | | | |
| 中期計画<br>記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 | | | | | | | | |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212-2

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 適切な管理・保存　(2/2) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉　準治<br>文化財管理監　中村　康 |
| 実績・成果 | ・展覧会準備中に適宜巡回して害虫の持込み侵入の防止と清掃の徹底を指導、取りこぼしを拾い、開会時の虫・ゴミゼロを実現した。<br>・開館前に展示ケース内・露出展示台上を点検し、虫の採取、取れない場合は生態観察、毛髪等ゴミの除去を行なった。<br>・8月、シルクロード展の一部ケース内の展示台手前部分で微少な虫とシミが見られたが、採取、清掃を行なうとともに調査した結果、微少虫はチャタテムシで、当時異常な高温多湿の天候のため京都一帯でカビの胞子が飛散しており、それを餌として徘徊し、シミはチャタテムシを餌としていることが判った。発生の確認されたケースのみ即時、作品と観覧者に影響を及ぼさない程度の蒸散性防虫剤を入れ、駆除することができた。他のケースも以後、開館前の点検、清掃を入念に行なった。<br>・シルクロード展終了撤収後、全ケースの床面をクリーンルーム清掃業者による吸引拭取り清掃を行ない、虫、胞子等の除去を図った。<br>・次の日蓮と法華の名宝展では、展示ケース内と館内のトラップによる虫の生態調査を業者に依頼して行なった。<br>・空調については、妙心寺展、日蓮と法華の名宝展、THE ハプスブルク展において空調センサーと最も離れた温湿度を示す箇所と特別の湿度設定を要する作品近く、それと館外に設置したデータロガーの記録を集計分析して空調の各種設定を気象、入館者状況に応じて調整し、作品と観覧環境の保全を図った。<br>・館蔵品に係る保存カルテを作成した。<br>　実績　214件 | | | |
| 補足事項 | ・館蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成でき、館蔵品の保存状況についての情報蓄積が進んだ。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 保存カルテ作成件数 | 214 件 | 100 件程度 | S | 経年変化 | 96 | 140 | 174 | 214 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1213

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 適切な管理・保存 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部保存修理指導室 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　谷口耕生 |

**実績・成果**

・IPM（総合的有害生物管理）の前提として、館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる箇所を中心に、防虫トラップを一ヶ月に 1 回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。
・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。
・IPM の実践として、収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。
・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「国宝鑑真和上展」、夏の「聖地寧波展」、秋の「正倉院展」で本格的に運用した。これによって、かかる温湿度管理については、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することが可能となった。
・保存カルテについては、これまで部門ごとに担当者が作成･保管してきたが、今年度から新たに文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成･保管する新システムに移行したことで、機動的かつ詳細に文化財の損傷状態を把握することが可能となった。
・西新館耐震工事については展示施設として必要とされる耐震性能を確保するための補強工事を行うとともに、展示環境の向上を意図した内装・照明設備等の更新を行った。また、監視面の強化を図るための監視モニターの更新を行った。仏教美術資料研究センターについては、重要文化財に指定された建造物であるため、過剰でなく必要最低限の耐震性を確保するとともに、原状に復しつつも現在の使用意図に照らした新たな平面計画の下、内装改修を行った。

**補足事項**

・防虫トラップは昨年度と同様に、展示室収蔵庫文化財修理所等 150 箇所に設置し､1 か月ごとに回収したものを外部業者に調査委託した。3 年間のデータの蓄積が必要とされており、引き続き実施する予定である。

・無線 LAN による温湿度管理システム導入後も、以前からの毛髪計およびデータロガーの温湿度計も引き続き使用し、計測結果の精度を高めた。

・以上の防虫トラップ設置および無線 LAN 温湿度管理システムによって得られたデータは、本年度後半から来年度にかけて進む西新館の耐震工事および新免震ケース製作に際して、展示室内・展示ケース内の温湿度環境保持や文化財害虫防止対策への重要な指針となった。


無線 LAN 対応温湿度センサー


展示室内設置防虫トラップ

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保存カルテ作成件数 | 114 件 | 100 件 | A | 経年変化 | 102 | 103 | 108 | 114 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1214

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 適切な管理・保存 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館科学課 | 事業責任者 | 博物館科学課長　本田光子 |
| 実績・成果 | ① 収蔵庫・展示室等 300 ヵ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、IPM メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。<br>② 常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。<br>③ 収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。<br>④ 展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置、三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。<br>⑤ 修理資料および収蔵資料を中心に保存カルテを作成すると共に、計画的な保存修理事業をすすめた。<br>⑥ IPM の実施については、地元 NPO 法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。 | | | |

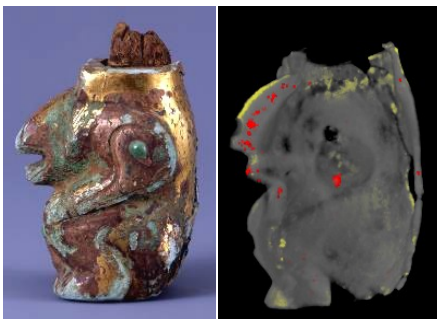
補足事項

・平成 21 年度文化庁受託事業「美術館博物館活動基盤整備支援事業―市民と共にミュージアム IPM」を実施することにより、IPM ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。

・環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。

・楽浪出土品（金銅製品・漆器等）などの展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置による調査を実施し、研究成果を公表すると共に特別展示やトピック展示に反映した。

・開館 5 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持したままで、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。



X 線 CT スキャナを用いた
楽浪出土金銅の状態調査

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 保存カルテ作成件数 | 205 件 | 200 | A | 経年 | 205 | 252 | 289 | 205 |
| CT スキャン調査 | 44 件 | ― | ― | 変化 | 3 | 35 | 40 | 44 |
| 三次元計測 | 45 件 | ― | ― | | 5 | 20 | 42 | 45 |
| 殺虫殺黴処置 | 7 件 | ― | ― | | 2 | 5 | 6 | 7 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　計画的な修理 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部保存修復課 | 事業責任者 | 保存修復課長　神庭信幸 |
| 実績・成果 | 1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 210 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2,000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については､国宝絵画 1 件及び重文石彫 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。<br>2)作品の応急（対症）修理を 925 件実施。本格修理を 106 件実施した。<br>3)データベース構築のために 20 年度に本格修理を実施した 76 件の内、修理が完了した 53 件の修理内容についてデジタル化を実施した。20 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ｘを刊行した。デジタル化推進経費によって保存カルテ約 6,562 件の電子化が進んだ。<br>4)紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローをおき、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急修理を本格化させた。 | | | |
| 補足事項 | 1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 6 件実施し､本紙の保存に関して検討を行った。<br>2)修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は、A-11529 孔雀明王像、TG-2329 青磁鳳凰耳瓶、J-39135 東大寺山金象嵌銘花形飾環頭大刀など 48 件である。 | | | |



アソシエイトフェローによる
両界曼荼羅の本格修理

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 本格修理件数 | 106 件 | 70 件 | S | | 97 | 85 | 76 | 106 |
| | 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化 | 53 件 | 70 件 | B | 経年変化 | 144 | 97 | 85 | 53 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　計画的な修理 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | 中国絵画については、昨年度、一段落した須磨コレクションの未表装の作品や大破状態の作品の修理に引き続き、その次の段階にある作品についての修理に取り組み、また古い修理部分の痛みが目立ち展示に支障が生じた考古資料を修理した。<br>修理に関しては、契約方法、業者選定の適正化のため、「修理契約委員会」(外部委員：山岡泰造氏)において、作品ごとに契約方法を決定し、企画競争とした2作品については、「請負候補者選定委員会」(外部委員：梶谷亮治氏)で業者を決定した。<br>実績：絵画4件、考古資料1件 | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品修理件数 | 5 件 | 10 件程度 | C | | 11 | 15 | 17 | 5 |
| | 文化財保存修理所修復資料のデータベース化 | 481 件 | 250 件程度 | S | | 2,870 | 2,377 | 686 | 481 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　A　Ⓑ　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 計画的な修理 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部保存修理指導室 | 事業責任者 | 上席研究員　鈴木喜博 |

**実績・成果**

・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの 7 件の修理に着手し、あるいは完了した。計 11 件。
　内訳　絵画2件（重要文化財　2カ年継続事業　第2年度）
　　書跡2件（重要文化財　2カ年継続事業　第2年度）
　　彫刻 1 件
　　漆工 1 件
　　考古資料 5 件。

・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12 号（平成 22 年 3 月刊行）に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧（平成 20 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。
・平成 21 年度の古墳出土金属製品等の修復事業として、館蔵品のうちの 2 件の修理に着手し、1 件を完了した。
　内訳　未指定　金銅装眉庇付冑(五条猫塚古墳出土)
　　未指定　鉄斧・刀子（二塚古墳出土遺物）　※3カ年事業（21～23年度）

**補足事項**

・館蔵品の国宝刺繍釈迦如来説法図（勧修寺伝来）の修理について、昨年度の予備検討会を受けて、有識者、修理技術経験者、文化庁美術学芸課調査官、奈良県教育委員会技師および当館研究員を交えた修理検討会を 8 月、開催した。結論としては、保存状態からみて、来年度「大遣唐使展」の展示では慎重に取り扱うこと、その後、最善と思われる修理仕様にもとづき、予算等の確保も含めて、本格的な修理を検討するのが好ましいという結論を得た。



木造如来立像　材質強化

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 修理件数 | 11 件 | 4 件 | S | 経年変化 | 4 | 10 | 8 | 11 |

年度実績評価総括：S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

　修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314

| 中項目 | 1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　計画的な修理 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館科学課 | 事業責任者 | 保存修復室長　藤田励夫 |
| 実績・成果 | ①館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 24 件を修理した。<br>②九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(26 件)<br>③表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を図った。<br>④修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。<br>⑤修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光 X 線分析や顕微鏡観察による調査、X 線、CT スキャンを活用した調査を実施した。<br>⑥カビなどの生物被害について、顕微鏡観察や写真撮影などを行った。 | | | |
| 補足事項 | ①館費による修理件数 24 件(絵画 6、書跡 1、彫刻 2、漆工 2、考古 9、歴史資料 4)<br>②修復施設 1～4 では、国宝修理装潢師連盟が館所蔵品 9 件のほか、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画など 28 件の修理を実施した。5 では㈱芸匠が 8 件、6 では輪島口工藝社が 3 件の館所蔵品等の修理を実施した。<br>③収集した表具裂は表具の取り合わせにも活用した。また、伝統的な材料の資料として保存、公開、修理への利用等に資した。<br>④・⑤修理技術者により技術的な判断に加えて、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員や最新分析機器を駆使した文化財科学専門の研究員と共同して、最善の修理を行うことができた。<br>⑥生物被害への対応策を検討するため、カビや虫についての調査を充実させた。 | <br>九州国立博物館所蔵　交易船図巻の修理風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 修理件数 | 24 件 | 15 | S | 経年変化 | 10 | 22 | 25 | 24 |
| | 修復施設の活用(補助事業等) | 26 件 | ― | | | | 8 | 15 | 26 |
| | 科学的調査 | 7 件 | ― | | | | 10 | 10 | 7 |
| | 表具裂データ | 24 件 | ― | | | 71 | 42 | 32 | 24 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。<br>・本年度から来年度にかけて、東洋館の耐震補強工事が実施されることに伴い、東洋館は6月8日から休館となった。その後、8月4日からは、東洋の考古・工芸の平常展示を表慶館1階で再開し、東洋関係の特集陳列は本館で開催している。 | | | |
| 補足事項 | ・表慶館の東洋展示は、小規模であるが、改修工事後の東洋館の展示を見据えて、ケースの形状や照明に新手法を試み、好評を得ている。展示全体の解説および15か所のテーマ解説は、すべて日・英・中・韓の四ヶ国語とした。<br>・特集陳列「有職（ゆうそく）」は、王朝時代の宮廷儀礼における礼法・服飾・調度品に関する知識である有職を、衣装、漆工品、刀剣、文書などさまざま実物資料で紹介した当館ならではの総合的な展示である。<br>・法人の考古資料相互貸借事業経費により、茨城県立歴史館からの借用品を中心に特集陳列「古代・中世の茨城－経塚・板碑・和鏡－」および特集陳列「茨城の弥生再葬墓」を開催した。また埼玉県立さきたま史跡の博物館からの借用品を中心に、特集陳列「埼玉県寿能泥炭層遺跡出土の木製品と漆製品」を開催した。 | | | |





上：表慶館　アジアギャラリー
下：特集陳列「有職（ゆうそく）」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展入場者数 | 330,536人 | － | － | 経年変化 | 361,173 | 334,297 | 412,675 | 330,536 |
| | 陳列替回数 | 316回 | 200回 | S | | 308 | 319 | 319 | 316 |
| | 陳列総件数 | 6,601件 | 5,500件 | A | | 7,283 | 10,223 | 7,172 | 6,601 |
| | 特集陳列実施回数 | 66件 | － | － | | 70 | 84 | 79 | 66 |
| | 外国語パネルの設置 | 97% | 80% | A | | | 95% | 97% | 97% |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を充分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、作品キャプションについてはすべてに外国語を付すとともに、展示テーマごとにその時代背景などを説明した外国語パネル等を80%以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | 平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止せざるをえなかった。<br>そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。<br>・「日本の美　国宝との出会い」展（(1)　展示の充実　②特別展等　参照）<br>会期：10 月 2 日～11 月 8 日<br>展示総件数　35 件（うち国宝 9 件、重要文化財 13 件）<br>・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。<br>・上記の貸出作品の情報を HP で公開している。 | | | |
| 補足事項 | ・富山県水墨美術館・北日本新聞社の主催により行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力したもの。<br>・全国的には展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館ではむしろ積極的に貸出を行い、収蔵品公開に努めている。<br>・HP における貸出作品の情報公開（トップページ「館外での作品公開」）は、寄託作品も個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展入場者数 | － | － | － | 経 | 146,752 | 165,080 | 141,965 | － |
| | 陳列総件数 | － | － | － | 年 | 1,550 | 1,611 | 1,081 | － |
| | 陳列替回数 | － | － | － | 変 | 59 | 53 | 39 | － |
| | 特集陳列実施回数 | － | － | － | 化 | 8 | 7 | 4 | － |
| | 外国語パネル設置 | － | － | － | | － | 100% | 100% | － |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | ほぼ順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　①平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 学芸部長補佐　岩田茂樹 |

**実績・成果**

年度を通して、本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」(考古部門）を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(絵画・書跡・考古・工芸部門）を開催した。そのなかには、「とてもよく似た二つの仏像−金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像−」（〜5 月 17 日、本館）、「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」（9 月 15 日〜10 月 4 日、西新館）、「南北朝・室町時代の彫刻」（12 月 1 日〜、本館）の 3 回の特集展示が含まれる。

企画展示としては、毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（12 月 8 日〜1 月 17 日、東新館）、「お水取り」（2 月 6 日〜3 月 14 日）を実施した。

**補足事項**

前年度に引きつづき、本館および西新館において、仏教美術に関して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の展示を行うことができた。

昨年度から開始した「注目の逸品」のコーナーも 3 回開催し、新収蔵品や日頃展示の機会の少ない作品を中心に公開した。

特集展示も 3 回に及んだが、うち「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」は、期限付きで寄託を受けた作品群をまとめて陳列する稀有の機会であった。また「南北朝・室町時代の彫刻」は、寄贈・寄託を受けていながら、これまではあまり公開してこなかった時代の作品にスポットを当てた展示で、本館における彫刻展示の裾野を広げる企画となった。

特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は毎年恒例の企画ではあるが、大和の地を代表する祭礼である「おん祭」の実施時期に合わせて開催するもので、恒例行事として定着してきた。また毎年少しずつ切り口を変えての展示内容を工夫しており、リピーターに対しても興味を失わせないよう努めている。



特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」展示会場

11 月中旬より、西新館の耐震工事が始まったため、彫刻以外の部門の陳列件数、陳列替回数は減少したが、特集展示や注目の逸品の回数を増やし、観覧者の関心の惹起に努力した。

陳列替内訳：本館 4 回、西新館 2 回、東新館 2 回　計 8 回

陳列件数の部門別内訳：彫刻 146、絵画 74、書跡 59、考古 303(うち中国古代青銅器 239)、工芸 135　計 717

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平常展入場者数 | 136,672 人 | − | − | 経年変化 | 137,739 | 131,336 | 112,849 | 136,672 |
| 陳列替回数 | 8 回 | 15 | C | | 20 | 21 | 12 | 8 |
| 陳列総件数 | 717 件 | 800 | B | | 1,014 | 928 | 605 | 717 |
| 特集陳列等実施件数 | 8 件 | − | − | | 11 | 10 | 6 | 8 |
| 外国語パネル等の設置 | 91% | 80% | A | | | 56% | 77% | 91% |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を 80%以上設置する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2114

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　① 平常展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化交流展室長　河野一隆 |

**実績・成果**

・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に 431 回にわたる展示替えを行い、2106 件の文化財を展示した。
・展示替え情報は、当館 HP やちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。
・昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した(22 回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も 5 回実施した。
・トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。
・当館初の新収品を紹介する企画展「新収品’05-’08　交流する文化のかたち」を開催した。
・増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。

**補足事項**

・国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展示の特徴が理解、定着されつつある。
・特に、海外からの団体ツアーや個人客へも、ガイドブックやマップを完備し、好評を博している。
・展示の歴史的背景については、音声ガイドのみの解説であったが、中国語・韓国語による解説文も作成し、ケーステーマに隣接して掲載した。
・当館としては初の試みである、新収品を紹介した「新収品 ’05-’08 交流する文化のかたち」を開催し、開館以来の当館収集活動を広く紹介した。
・太宰府顕彰会の協賛を経てトピック展示「祈りの山宝満山」を開催し、関連するシンポジウムを開催した。
・徳川美術館の協力を経て、新春特別公開「国宝 初音の調度」を開催した。
・装飾古墳バーチャルシアターは、例年通り新コンテンツを作成し、2 月から公開した。
・本年度は入館者が 6 月 11 日に 600 万人、10 月 11 日に 700 万人を達成した。


新収品’05-’08 交流する文化のかたち


祈りの山・宝満山(11/13～12/20)

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平常展入場者数 | 544,661 人 | － | － | | 501,540 | 341,282 | 241,423 | 544,661 |
| 特集陳列 | 22 回 | － | － | | 6 | 5 | 17 | 22 |
| 作品への外国語キャプション | 100% | － | － | | | 100% | 100% | 100% |
| 時代背景の外国語パネル（音声ガイドで対応を含む） | 82% | 80% | A | | | 63% | 82% | 82% |
| 陳列替回数 | 431 回 | 300 回 | A | | 299 | 375 | 386 | 431 |
| 陳列総件数 | 2,106 件 | 800 件 | S | | 2,044 | 2,012 | 3,146 | 2,106 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネルを 80%以上設置する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　② 特別展等　(1/12)<br>興福寺創建 1300 年記念／平城遷都 1300 年記念／朝日新聞創刊 130 周年記念／テレビ朝日開局 50 周年<br>「国宝 阿修羅展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部博物館情報課情報管理室長　丸山士郎 |

実績・成果

- 開会期間　平成 21 年 3 月 31 日（火）～6 月 7 日（日）　(61 日間)
- 会場　平成館特別展示室第 1～4 室
- 主催　東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日
- 作品件数　75 件（うち国宝 58 件、重要文化財 10 件）
- 入館者数　946,172 人（21 年度　933,895 人）
- 入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
- アンケート結果　満足度 77.6%

国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。TV、雑誌等各メディアで多数紹介され、非常に大きな反響をいただいた。

補足事項

・諸像の素晴らしさを鑑賞いただくために、共催社とともに種々の周知手法を展開し、多くの入館者を得ることができた。
・予想を大幅に上回る入場者があったことから、待ち時間が長時間に及ぶような場合があった。今後、混雑が予想される展覧会では、これまで以上に様々な対策を講じていく必要がある。



国宝　阿修羅像

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | 946,172 人 | 540,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

年度実績評価総括

Ⓢ　A　B　C　F

（S、Fの理由）

阿修羅像を 360 度から見られるように展示し､プラットホームのような一段高い造作を設け、来館者がさまざまな視点から鑑賞できるようにし、興福寺ではできない空間を創造した。このことから多くの方々から好評を得た。また、共催者とともにさまざまな広報戦略を展開したことで、予想を大幅に上回る入場者があった。

中期計画記載事項

特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

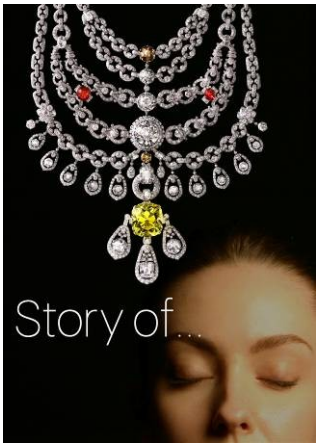
（東京国立博物館）

年 3～4 回程度

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等　(2/12)<br>特別展 「Story of...カルティエ クリエイション〜めぐり逢う美の記憶」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部企画課長　井上洋一 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 3 月 28 日（土）〜5 月 31 日（日）　(57 日間)<br>・会場　表慶館 1 階・2 階<br>・主催　東京国立博物館、日本経済新聞社　特別協力：カルティエ<br>・作品件数　276 件<br>・入館者数　120,483人（21年度　115,568人）<br>・入場料金　一般1400円、大学生・高校生800円　中学生以下無料<br>・アンケート結果　満足度　78.7%<br><br>日仏交流 150 周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する 1300 点ほどのアーカイブピースを中心に、267 件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。 | | | |
| 補足事項 | <br>チラシ広報用画像 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 120,483 人 | 90,000 人 | A | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3〜4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　② 特別展等 (3/12)<br>特別展「染付－藍が彩るアジアの器」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部調査研究課東洋室長　今井　敦 |

実績・成果

- 開会期間　平成 21 年 7 月 14 日（火）～9 月 6 日（日）　（49 日間）
- 会場　平成館特別展示室第 1～2 室
- 主催　東京国立博物館　協力　日油株式会社、産経新聞社
- 作品件数　221 件（うち重要文化財 4 件　重要美術品 1 件）
- 入館者数　52,731 人
- 入場料金　一般 1000 円(800 円／700 円)、大学生 800 円(600 円／500 円)、高校生 600 円(400 円／300 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
- アンケート結果　満足度　78.3%

アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。

補足事項

昭和 18 年(1943)に平野耕輔氏(元商工省陶磁器試験所長)より御寄贈を受けた伊万里染付大皿を展示するコーナーをもうけ、さらに、「使う」視点による展示方法を一部で取り入れることにより、実用の器である染付の魅力に迫ることができた。

自主企画展であるメリットを活かし、構想段階から展示デザインや教育普及事業などに関して、上述のような新たな試みを積極的に取り入れることができた。入館者数は目標値に達しなかったものの、質の面でこれまでの特別展とは一線を画する内容となったことを高く評価したい。



重要文化財　青花蓮池魚藻文壺
中国・景徳鎮窯
元時代・14 世紀
大阪市立東洋陶磁美術館

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | 52,731 人 | 70,000 人 | B | 経年変化 | | | | |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年 3～4 回程度

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等（4/12）<br>第62回式年遷宮記念　特別展「伊勢神宮と神々の美術」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部上席研究員　原田一敏 |
| 実績・成果 | ・　開会期間　平成 21 年 7 月 14 日（火）～9 月 6 日（日）　（49 日間）<br>・　会場　平成館特別展示室第 3～4 室<br>・　主催　東京国立博物館、霞会館、産経新聞社<br>・　特別協力　神宮司庁<br>・　作品件数　111 件（うち国宝 17 件、重要文化財 39 件）<br>・　入館者数　114,796 人<br>・　入場料金　一般 1400 円(1100 円／900 円)、大学生 1000 円(700 円／600 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　(　)内は前売／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度　70.9%<br><br>2013 年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。 | | | |
| 補足事項 | ・なじみの薄いであろう神道美術を大規模に集め、展示する機会となり、貴重な鑑賞体験を設ける場となった。<br><br>会場風景 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 114,796 人 | 110,000 人 | A | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (5/12)<br>御即位 20 年記念特別展「皇室の名宝―日本美の華」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部上席研究員　原田　一敏 |
| 実績・成果 | ・　開会期間　1 期：平成 21 年 10 月 6 日(火)～11 月 3 日(火・祝)　(26 日間)<br>2 期：平成 21 年 11 月 12 日(金)～11 月 29 日(日)　(18 日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第 1～4 室・企画展示室<br>・　主催　東京国立博物館・宮内庁・NHK<br>特別協力　NHK プロモーション・読売新聞社・日本経済新聞社<br>・　作品件数　205 件 1 期：81 件　(特別展示室 80 件　企画展示室 1 件)<br>2 期：124 件(重要文化財 1 件)(特別展示室 100 件　企画展示室 24 件)<br>・　入館者数　447,944 人(1 期　263,303 人　2 期　184,641 人)<br>・　入場料金　一般 1300 円(1100 円／1000 円)、大学生 1000 円(800 円／700 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度：1 期　84.9%　2 期　63.5%<br><br>今上陛下の御即位 20 年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を 1 期と 2 期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1 期は安土桃山時代から近代までの作品、2 期は古代から江戸後期までの作品で構成した。 | | | |
| 補足事項 | ・第 2 期では、絵巻物の陳列において、混雑が集中し、鑑賞環境が低下する機会があった。さらに陳列方法等の工夫を要することとなった。<br><br>伊藤若冲筆　動植綵絵の内「老松白鳳図」 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 447,944 人 | 350,000 人 | A | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-6

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (6/12)<br>没後 400 年　特別展「長谷川等伯」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部企画課特別展室長<br>松嶋雅人 |
| 実績・成果 | ・　開会期間　平成 22 年 2 月 23 日(火)～3 月 22 日(月・休)　(25 日間)<br>・　会場　平成館特別展示室第 1～4 室<br>・　主催　東京国立博物館・毎日新聞社・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション<br>・　後援　文化庁<br>・　特別協賛　大塚家具<br>・　協賛　JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行<br>・　作品件数　73 件（うち国宝 3 件、重要文化財 28 件、重要美術品 1 件）<br>・　入館者数　 292,526 人<br>・　入場料金　一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20 名以上の団体料金<br>・　アンケート結果　満足度：86.0%<br><br>安土桃山時代に活動した長谷川等伯の国内に存在するほぼすべての作品を一挙に公開する史上最大規模の大回顧展。信春と名乗り、能登で活動した初期のものから晩年期までの作品を網羅して展観することによって、その画業を改めて検証することができた。 | | | |
| 補足事項 | ・大画面の作品が多いため、鑑賞スペースを十全にとった展示構成を立案したが、開催期間後半の会場内は非常に混雑し、鑑賞環境が低下する状況となった。さまざまな状況を想定し、さらに有効な混雑対策を検討する必要がある。<br><br>国宝　松林図屏風(右隻)　東京国立博物館 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 292,526 人 | 160,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>等伯の作品をこれまでにない規模で展示したことで、等伯の画業全体を見通すことのできる質の高い展示が実現し、各方面より高い評価を得ることができ、予想を大幅に上回る来館者を得た。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-7

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (7/12)<br>「海外展　サムライの美術―東京国立博物館精選」<br>Art of the Samurai: Selections from the Tokyo National Museum Exhibition | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部上席研究員　原田一敏 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 4 月 19 日(日)～6 月 14 日(日)　(49 日間)<br>・会場　アメリカ・バウワーズ博物館<br>・主催　東京国立博物館、バウワーズ博物館<br>・作品件数　81 件（うち国宝 1 件、重要文化財 7 件）<br>・入館者数　18,609人<br>・入場料金　－<br>・アンケート結果　満足度－%<br><br>本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション1点を含む優品81件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を2部構成とし、第1部では「武士の装い―武器・武具―」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第2部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。 | | | |
| 補足事項 | 開催地での日本文化に対する関心が非常に高く、<br>文化交流における非常に重要な役割を担うことができた。<br><br>自在龍置物 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 18,609 人 | － | － | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-8

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展等（8/12）<br>海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 12 月 7 日（月）～22 年 3 月 8 日（月）（91 日間）<br>・会場　イタリア(ミラノ市)・パラッツォ・レアーレ<br>・主催　イタリア・ミラノ市、モッタ社<br>・特別協力　東京国立博物館・大阪市立美術館<br>・作品件数　214 件（うち国宝 1 件、重要文化財 14 件）<br>・入館者数　47,192 人<br>・入場料金　一般 9€／65 歳以上 7.5€／6 才～18 才 4.5€／5 才以下無料<br>・アンケート結果　満足度－％<br><br>安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展を紹介するもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介する機会となった。また、スカラ座の開幕、ファッションショーの開催など、ミラノが世界に注目される時期に合わせて開催することにより、日本美術を世界に発信するまたとない機会となった。 | | | |
| 補足事項 | ・重要な日本美術作品を幅広く紹介することができ、開催地で高い評価を得ることとなったが、その半面、開催にあたりいくつかの問題点も生じた。海外展における主催者間の明確な事前協議のあり方に課題が残った。<br><br>武蔵野図屏風　江戸東京博物館 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 47,192 人 | － | － | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-9

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (9/12)<br>「日本・ギリシャ修好 110 周年記念<br>アテネ・メトロ・ミュージアム −ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代−」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部企画課長　井上洋一 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 4 月 7 日(火)〜5 月 10 日(日)　(30 日間)<br>・会場　東京国立博物館　平成館　企画展示室<br>・主催　東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館<br>・作品件数　ー件<br>・入館者数　ー人<br>・入場料金：平常展料金<br>・アンケート結果　満足度ー％<br><br>日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。 | | | |
| 補足事項 | <br><br>チラシ | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | ー人 | ー | ー | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3〜4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-10

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

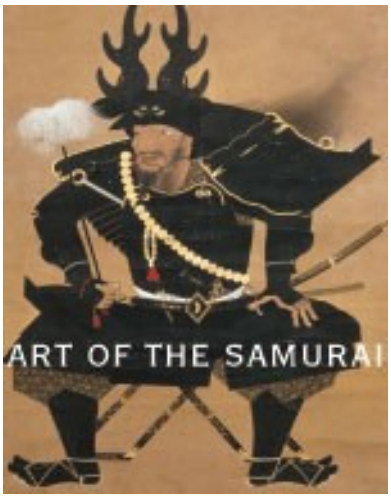
| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (10/12)<br>文化庁海外展　「The Power of Dogu」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部企画課長　井上洋一 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 9 月 10 日(木)～11 月 22 日(日)　(74 日間)<br>・会場　イギリス・大英博物館(日本ギャラリー)<br>・主催　文化庁、大英博物館、東京国立博物館<br>・作品件数　67 件（うち国宝：3 件　重要文化財：23 件　重要美術品：2 件）<br>・入館者数　65,564人<br>・アンケート結果　満足度－％<br><br>本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。 | | | |
| 補足事項 | <br>国宝　縄文のヴィーナス<br>長野県棚畑遺跡 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 65,564 人 | － | － | | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-11

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (11/12)<br>文化庁海外展「侍の芸術」<br>Art of Samurai:Japanese Arms and Armor. 1156-1868 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸研究部上席研究員　原田一敏 |
| 実績・成果 | ・　開会期間　平成 21 年 10 月 20 日（火）～22 年 1 月 10 日（日）(69 日間)<br>・　会場　ニューヨーク・メトロポリタン美術館 2 階「The Tisch Galleries」<br>・　主催　文化庁　ニューヨーク・メトロポリタン美術館　東京国立博物館<br>・　作品件数　209 件（うち国宝 34 件　重要文化財 60 件　重要美術品 6 件）<br>・　入館者数　187,064 人<br>・　入場料金　一般 20＄、シニア 15＄、学生 10＄、会員および 12 歳以下無料<br>・　アンケート結果　満足度－%<br><br>本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。 | | | |
| 補足事項 | ・武士の世界を総合的に展示する海外における、はじめての企画であったが、開催地の関心が極めて高い展示内容であって、高い評価を得ることができた。<br><br><br>展覧会カタログ表紙 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 187,064 人 | － | － | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>本展は、海外で初めて武士の世界を総合的に紹介したもので、開催地での高い評価を受け、多くの来館者を得た。また日本文化の海外への発信例として高く評価できる。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-12

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等（12/12）<br>文化庁海外展　大英博物館帰国記念　「国宝　土偶展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 学芸企画部企画課長　井上洋一 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 12 月 15 日(火)～平成 22 年 2 月 21 日(日)　(56 日間)<br>・会場　東京国立博物館　本館特別 5 室<br>・主催　文化庁、東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社<br>・作品件数　67 件（うち国宝：3 件　重要文化財：23 件　重要美術品：2 件）<br>・入館者数　128,285人<br>・入場料金　一般 800 円、大学生 600 円、高校生 400 円、中学生以下無料<br>・アンケート結果　満足度　88.8%<br><br>本展は、イギリスの大英博物館で 2009 年 9 月 10 日から 11 月 22 日まで開催された *THE POWER OF DOGU* の帰国記念展で、国宝 3 件と重要文化財 23 件、重要美術品 2 件を含む全 67 件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。 | | | |
| 補足事項 | <br>国宝　縄文のヴィーナス<br>長野県棚畑遺跡 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入館者数 | 128,285 人 | 50,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>国宝土偶を筆頭に教科書でもなじみの深い土偶や土器・土製品などが一堂に会し、質の高い展示が実現し、各方面より好評をいただき予想を大幅に上回る来館者を得た。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年 3～4 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展　(1/5)<br>特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室研究員　羽田　聡 |
| 実績・成果 | 妙心寺開山・関山慧玄（1277～1360）の 650 年遠諱にちなみ、東京国立博物館および京都国立博物館で行われた大規模な展覧会。妙心寺の歴史にとどまらず、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介する機会となった。<br>・開催期間　21 年 3 月 24 日～5 月 10 日（43 日間）<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社<br>・陳列品総件数　167 件（うち国宝 4 件、重要文化財 48 件）<br>・海外からの出陳件数　1 件（アメリカ・メトロポリタン美術館）<br>・入場者数　106,081 人(目標 30,000 人)<br>・入場料金　一般 1300 円、大高生 900 円、中小生 400 円<br>・アンケート結果　満足度 89％ | | | |
| 補足事項 | ・準備に 4 年をかけ、京都国立博物館及び東京国立博物館とで可能な限り調査を実施し、新出の作品を見いだすことにつとめるとともに、既知の作品に対する再評価を徹底させ、見解を図録に反映させた。<br>・妙心寺の歴史をたどるというありふれた展覧会ではなく、会場構成を「1　臨済禅―応燈関の法脈―、2　妙心寺の開創―花園法皇の帰依―、3　妙心寺の中興―歴代と外護者―、4　禅の空間Ⅰ―唐絵と中世水墨画―、5　遠諱の風景―荘厳と儀礼―、6　妙心寺と大檀越―繁栄の礎―、7　近世の禅風―白隠登場―、8　禅の空間Ⅱ―近世障屏画のかがやき―」とすることで、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介するようつとめた。<br>・妙心寺山内にとどまらず、関係作品を各所より集約することで、一寺院の名宝展という枠を塗り替えた。とくに、海外からはアメリカのメトロポリタン美術館より、天祥院旧蔵の「老松図襖　狩野山雪筆」を一時的に里帰りさせることに成功した。<br>・本展は平成 21 年 1 月 20 日から 3 月 1 日にかけ、東京国立博物館で開催されているが、双方で出陳作品を組み替えることにより、各会場の独自性があらわれるよう配慮した。なお、当館での妙心寺に関わる展覧会は「妙心寺名宝展」(昭和 10 年)、「妙心寺の名宝」(昭和 52 年)、「妙心寺の障屏画」(昭和 60 年）につづき四度目となるが、過去の展覧会を上回る規模の作品が出陳されている。<br>・こうした各種の工夫により、最終的な入館者数は 10 万人を越えることとなった。「京都最古の禅寺　建仁寺」展の 8 万 6 千人、「亀山法皇 700 年御忌記念　南禅寺」展の 5 万 8 千人といった、京都の一寺院を題材とした過去の特別展覧会の実績と比較しても、非常にすぐれたものであると評価できる。 | | | |


特別展覧会「妙心寺」会場風景

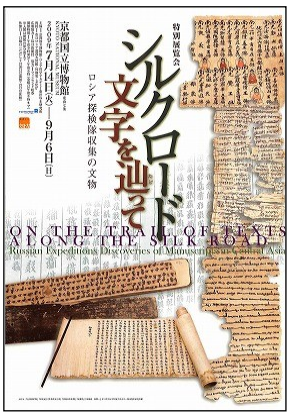
| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 106,081 人 | 30,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>準備に膨大な調査を実施し、それを反映した展示内容、図録などに高い評価を得た。入館者も目標を大きく超える数となった。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展 (2/5)<br>特別展覧会「シルクロード　文字を辿って ―ロシア探検隊収集の文物―」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
| 実績・成果 | ロシア・サンクトペテルブルクにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の西域文献を中心に 128 件をコータン、クチャ・カラシャール・トルファン、敦煌、カラホトの各地域に分類して展示し、合わせて関連特集陳列「中国の写本と版本」も開催した。ロシア探検隊収集の西域文献が、日本の博物館では初めて多数展示される大規模な展覧会となり、世界の敦煌学・東洋史の研究者から注目される展示となった。<br>・開催期間　7 月 14 日～9 月 6 日(48 日間)<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所<br>・陳列品総件数　128 件<br>・海外からの出陳件数　ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 127 件・エルミタージュ美術館 1 件<br>・入場者数　25,511 人(目標 20,000 人)<br>・入場料金　一般 1200 円、大高生 800 円、中小生 無料<br>・アンケート結果　満足度 80%<br>・関連講座　5 回実施 | | | |
| 補足事項 | ・128 件のうち、日本初公開が全体の 9 割を占めるという内容であり、敦煌学発祥の地、京都にふさわしい内容にすることが出来た。<br>・関連特集展示として、「中国の写本と版本」を併設し、館蔵品 5 件、寄託品 8 件の 13 件（国宝 2 件、重文 5 件を含む）を展示し、相互に関連する資料として理解を深められるように配慮した。<br>・文字資料が中心であったことから、小中学生向けワークシート「シルクロードの文字を探検しよう！」や博物館ディクショナリー「紙とは違う材料に書き写す」というリーフレットを作成し、小中学生を中心とした入館者の理解を助けるように努めた。事前学習のためにウェブページに PDF で公開した。小中学生のみならず、大人にも好評を博した。<br>・会期が夏休みにあたったため、小中学生は無料とした。<br>・敦煌学や東洋史の研究者から、高い評価を得た。 | | | |



特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 25,511 人 | 20,000 人 | A | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展（3/5）<br>特別展覧会「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室研究員　大原　嘉豊 |
| 実績・成果 | 文応元年（1260）、日蓮は鎌倉幕府前執権北条時頼に『立正安国論』を献じた。平成 21 年はそれから 750 年目の節目の年に当たり、それを記念して日蓮の生涯と日蓮法華信仰に関わる特別展を企画した。京都だけの開催ということもあり、京都十六本山を中心とする日蓮法華宗の寺宝と法華信徒の多かった京都町衆との関係を紹介することに重点をおいた。京都はかつて「題目の巷」と称され、日蓮法華宗は京都の発展に重要な役割を果たしたが、今日ではあまり関心の対象となっていない。その再評価を行うことを主眼とし、各寺院調査の成果を生かしてかつてない大規模展として成功裏に終えることができた。<br>・開催期間　10 月 10 日～11 月 23 日（39 日間）<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社<br>・陳列品総件数　203 件（うち国宝 4 件、重要文化財 55 件、重要美術品 6 件）<br>・海外からの出陳件数　1 件（ハーバード燕京図書館）<br>・入場者数　88,187 人（目標 30,000 人）<br>・入場料金　一般 1300 円、大・高校生 900 円、中・小学生 400 円<br>・アンケート結果　満足度 79% | | | |
| 補足事項 | ・京都十六本山を中心とする事前調査の成果として、初公開作品 37 点・新発見作品 12 点に及ぶ多数の新資料を公開することが出来、今後の研究に大きく裨益した。<br>・展示構成は、第一部　法華文化の展開、第二部　日蓮とその時代、第三部　京都開教と西国への展開、第四部　京都受難の時代、第五部　復興と近世文化の開花とした。時代順の展示としたため、歴史的展開がよくわかったという好意的意見を多数頂いた。<br>・入場者数は、日蓮法華宗寺院関係者の団体観覧者が相当割合を占めると予測していたが、実際には、関係団体前売券での入場者数は全体の三分の一弱にとどまり、広く一般の関心を集めることができた。<br>・図録の購買率は 10%弱であり、当館の平均的水準を達成することができた。<br>・アンケートで良くないとする割合は 2%以下で、高い満足度であった。本展では、京都橘大学の学生ボランティアの協力を得て、無作為抽出の出口アンケートも併用したが、同様の結果が得られている。 | | | |



特別展覧会「日蓮と法華の名宝」チラシ

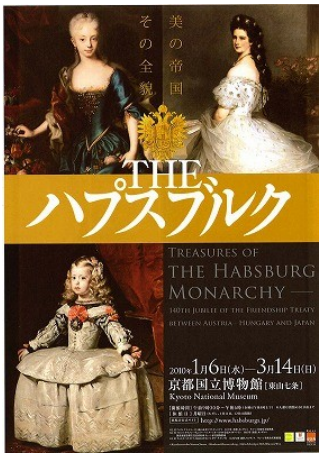
| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 88,187 人 | 30,000 人 | S | | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>調査を重ねた準備過程、展示内容、図録などに高い評価を得た。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。<br>（京都国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展（4/5）<br>特別展覧会「ＴＨＥ　ハプスブルク」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保　智康 |
| 実績・成果 | 日本とオーストリア、ハンガリーとの国交樹立 140 周年を記念して、ウィーン美術史美術館とブダペスト国立西洋美術館所蔵品を中心としたハプスブルク家コレクションを展観。明治天皇から寄贈された日本絵画の画帖と蒔絵から始まり、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ・フランドルの絵画を総覧し、クンストカンマーと呼ばれる彫刻・工芸の興味深い蒐集品を通して、西洋の宮廷美術を理解する機会を提供した。<br>・開催期間　22 年 1 月 6 日～3 月 14 日（60 日間）<br>・会　　場　特別展示館<br>・主　　催　京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送<br>・陳列品総件数　116 件<br>・海外からの出陳件数　116 件（ウィーン美術史美術館・ブダペスト国立西洋美術館・オーストリア工芸美術館・ウィーン家具博物館）<br>・入場者数　247,078 人（目標 50,000 人）<br>・入場料金　一般 1500 円、大・高校生 1000 円、中・小学生 500 円<br>・アンケート結果　満足度 90% | | | |
| 補足事項 | ・当館の絵画・漆工の担当者がウィーンで詳細調査を行った成果を公表できた。とくに画帖については、ウィーンでも公開されたことがなく、本展が里帰りでかつ初公開となり、注目を集めた。<br>・図録では、上記作品についての論文と、企画担当の久保が、ハプスブルク工芸と日本工芸の同調性について論文を書き、開催館としての学術的主体性を発揮した。<br>・ウィーン側関係者との交渉によって、従前のウィーン美術史美術館関係展覧会よりも格段に格上の作品を展観することができ、決定版とでもいうべき内容となった。<br>・特別展示館がウィーン美術史美術館の 6 年後に建ったギャラリーであることを生かし、天井灯とケース内照明を生かして、同美術館に近い光環境の中で作品鑑賞できるよう試み、観客から高い評価を得た。<br>・入場者数は 20 万人に達し、国立博物館として西洋美術を展示する意義についてもアピールすることができた。 | | | |



特別展覧会「THE ハプスブルク」チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 247,078 人 | 50,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Ｆの理由）<br>補足事項で述べた諸々の努力の結果、会場の特性を有効に活用した展覧会の質的結果が出せ、入場者数という定量的結果を出すことができた。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。<br>（京都国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-5

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展等 (5/5)<br>「日本の美　国宝との出会い」展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 連携協力室長　山下善也 |
| 実績・成果 | 当館が所蔵する日本美術の名品の中から平安時代から江戸時代に至る、大和絵、仏画、水墨画、琳派、写生画派、南画などの優品を選りすぐり、国宝、重要文化財を含む35件を展示。日本の美の真髄にふれ、その本質の一端を、富山市を中心とする北陸の方々に紹介する機会となった。<br>・開催期間　10 月 2 日～11 月 8 日(33 日間)<br>・会　　場　富山県水墨美術館<br>・主　　催　「日本の美　国宝との出会い展」実行委員会(北日本新聞社、富山県水墨美術館)<br>・特別協力　京都国立博物館<br>・陳列品総件数　35 件（うち国宝 9 件、重要文化財 13 件)<br>・入場者数　30,366 人<br>・入場料金　一般 1,000円、大学生 700円、小･中･高校生等無料 | | | |
| 補足事項 | ・　富山県水墨美術館・北日本新聞社の主催により行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力した。<br>・　全作品を当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。<br>・　展示は、開催館と当館両者の共同作業により行い、実質的な協力関係を築くことができた。<br>・　図録は当館研究員が執筆し、各作品の新たな見方を提示した。<br>・　開会式では、当館館員が会場で展示解説を行った。<br>・　会期中、羽田研究員が、京都国立博物館の歩みと出品作品の見所についてレクチャーを行った。<br>・　富山県において 30,000 人を超える展覧会はきわめて少なく、今回は画期的なことと地元で大きな評価を得た。 | | | |



「日本の美　国宝との出会い」展チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 30,366 人 | 20,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>自館の展覧会業務が重なる中で、地方館において展示作品・構成・図録まで全面的に協力し、平常展示館休館による収蔵品公開の不足を補えた。入館者も目標を大きく超えた。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（京都国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展　(1/3)<br>「国宝　鑑真和上展」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 企画室長　稲本泰生 |
| 実績・成果 | ・会　　期　4 月 4 日(土)～5 月 24 日(日)（開館は 45 日間)。<br>・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館<br>・主　　催　奈良国立博物館、唐招提寺、TBS、毎日放送、朝日新聞社、日本経済新聞社<br>・陳列品総数　74 件（うち国宝 12 件、重文 36 件）<br>・入場者数　93,779 人（目標 35,000 人）<br>・観覧料金　一般 1,200 円、高・大生 800 円、小・中生 500 円<br>・アンケート結果　90.2%<br>・鑑真和上像（国宝）をはじめとする、唐招提寺所蔵の文化財の数々を一堂に展示した。<br>・平成 13 年の東京都美術館における開催以来、当館の学術協力のもとで全国 7 会場を巡回してきた「国宝　鑑真和上展」の最終回にあたり、従来からの内容に本会場独自のコーナーや出陳品を加え、その集大成にふさわしい充実した展覧会となった。 | | | |
| 補足事項 | ・他会場で開催した同名の展覧会に出陳されなかった金堂屋根東西の鴟尾（国宝）、釈迦如来像（重文）、御影堂障壁画（東山魁夷筆）などを展示、注目を集めた。<br>・図録は従来のものに増補改訂を加え、本会場独自のものを制作・刊行した。<br>・十年間に及び、21 年秋に完了した唐招提寺金堂解体修理事業の過程を、写真パネル・映像等で示した。また金堂屋根から下ろされた鴟尾の寺外初公開を行うなどして、同事業と文化財保存活動の意義を、広く紹介することができた。<br>・釈迦如来像と日供舎利塔（重文）を唐招提寺礼堂における配置に則って展示し、会期中、鎌倉時代以来行われてきた「釈迦念仏会」の再現を当該場所で行って、南都仏教の儀礼空間を広く紹介した。<br>・21 年 3 月に阪神なんば線が開通し、奈良と鉄路で結ばれた神戸市で、会期中に「鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009」を開催した。また公開講座 5 回、サンデートーク 2 回、唐招提寺僧によるギャラリートーク 4 回を開催した。いずれも好評を博し、多数の来聴者を得た。<br>・会期中に近畿圏で新型インフルエンザが発生したため、状況によっては休館を検討せざるを得なかった。幸い休館の事態は免れたが、終盤の入館者数に伸びを欠いた。 | | | |



鑑真和上展チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 93,779 人 | 35,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>当初目標を大きく上回る 10 万人近い入場者があり、アンケートによる評価も非常に高かった。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②特別展（2/3）<br>「聖地寧波－日本仏教 1300 年の源流～すべてはここからやって来た～」 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部　保存修理指導室 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　谷口耕生 |
| 実績・成果 | ・会　　期　7 月 18 日～8 月 30 日（40 日間）<br>・会　　場　奈良国立博物館　　東・西新館<br>・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK 奈良放送局<br>・後　　援　文化庁、中華人民共和国駐日本大使館、寧波市人民政府<br>・特別協力　浙江省文物局、上海博物館<br>・陳列品総数　175 件（国宝 10 件、重文 74 件）<br>・入場者数　30,548 人（目標 30,000 人）<br>・観覧料金　一般 1,200 円　高・大生 800 円　小・中生 500 円<br>・アンケート結果　満足度 75.4％ | | | |
| 補足事項 | ・本展覧会は、日本の仏教文化の故郷とも言うべき中国浙江省寧波という町に焦点を当てて日中の仏教美術の交流を紹介するもので、最新の研究動向を踏まえた学術性の高い内容が評価された。<br>・例年客足の鈍る 7 月後半から 8 月末までという開催時期に加え､6 週間という当館の特別展としては短い会期であったにも関わらず、入館目標の 3 万人を達成することができたのは健闘したといえよう。<br>・長年学術交流を続けてきた上海博物館の仲介により浙江省文物局・浙江省博物館の全面的な協力を得て、中国浙江省から日本初公開の 1 級文物を多数借用することができた。<br>・図録の販売部数は 3,989 冊を数え、購入率 13％という極めて高い数値を達成することができた。<br>・普段耳慣れない寧波の仏教文化を夏休み中の児童にわかりやすく紹介するため、漫画入り子供用図録「寧波虎の巻」を作成し、期間中 1,168 冊を販売した（購入率 3.8％）。<br>・開催前に借用文化財に光学調査を実施して大きな成果を上げ、その成果を図録に反映することができた。また会期中にも借用した文化財の光学調査を行って大きな学術的成果を得ることができ、またこれを直ちに報道発表し、集客へもつなげた。<br>・会期中、8 月 8・9 日の 2 日間にわたる関連国際学術シンポジウムを開催して合計 216 名という多数の参加者があった。そのうち中国・台湾・韓国・アメリカからの外国人 63 名の参加があった。 | | | |



聖地寧波展ポスター


展示風景（清凉寺釈迦如来と中国浙江省雷峰塔出土銀阿育王塔）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 30,548 人 | 30,000 人 | A | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（奈良国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②特別展 (3/3)<br>第 61 回正倉院展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 部長補佐　内藤　栄 |
| 実績・成果 | ・会　　期　10 月 24 日～11 月 12 日 (20 日間)<br>・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館<br>・主　　催　奈良国立博物館<br>・陳列品総数　66 件<br>・入場者数　299,294 人<br>・観覧料金　一般 1000 円　大・高生 700 円　小・中学生 400 円<br>・アンケート結果　満足度 79.3% | | | |
| 補足事項 | 御在位 20 年の記念展であるため、会期は例年より長い 20 日間であり (例年は 17 日間)、出陳宝物の内容も充実していた。そのため、混雑が事前に予想されたため、様々な対応が求められた。対応例を挙げる。混雑によるケース内環境の悪化に対しては、気密性が良く (空気交換 0.3 回/日) 独自の調湿機器を有するケースを導入し、湿度変化を 1%以内に抑えることができた。混雑時でも快適な鑑賞ができるように、四面から見られる独立ケースを主流とし、壁面ケースの使用は極力少なくした。壁面ケースは人垣で宝物が見えないことがあるため、題箋の横に宝物の写真を張り出し、人垣の前からでもどのような宝物が展示されているかが一目で分かるようにした。さらに、昨年導入して効果があった独立ケースの手すりを増やした。また、新造したケースは高透過低反射ガラスを使用したが、ガラスを意識せずに鑑賞できたことで好評であった。今年度初めて導入した客数計測システムの数値を入館者の調整に反映させた。観覧者は年々増えていると同時に、アンケートに見る満足度も上昇しており、展示環境の改善の効果が出ていると考えられる。正倉院展にあわせて、関連展示として「皇后陛下の御養蚕と正倉院宝物の復元」と写真展「皇室の方々と正倉院展」を開催した。なお、最終日は御在位 20 年を記念し無料観覧日とした。 | | | |


紫檀木画槽琵琶の展示風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 299,294 人 | 180,000 人 | S | 経年変化 | 283,515 (20 日間) | 248,389 | 263,765 | 299,294 (20 日間) |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>(S、F の理由) |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>(奈良国立博物館)<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　② 特別展 (1/4)<br>聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化財課長　臺信祐爾 |
| 実績・成果 | ・開会期間：　4月11日（土）～6月14日（日）(58日間)<br>・会場：　特別展示室<br>・主催：　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNC テレビ西日本、中華文物交流協会、中国チベット文化保護発展協会<br>・陳列品総件数：　123件（うち国家一級文物36件）<br>・入場者数：　140,917人（目標入場者数　100,000人）<br>・入場料金：　一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円<br>・アンケート結果：満足度　90.6%<br>・展示構成：　チベット自治区および河北省承徳にある世界文化遺産に登録された宮殿、寺院や博物館の所蔵品から、わが国初公開となる文化財123件を展示した。構成は、1「仏教伝来の道」、2「チベット仏教の世界」、3「天空のパレス　ポタラ宮」、4「チベットと漢文化　500年の交流」から成る。 | | | |
| 補足事項 | ・チベット文化を総合的に紹介するはじめての展覧会であり、また日本ではじめて公開される文物が大多数を占め、その開催意義は大きい。<br>・チベットの密教信仰を象徴する五色の布「タルチョー」を、展示室のみならずエントランスなどに張り巡らせ、異空間を演出した。<br>・日本ではあまりなじみがないチベット独特の尊格に親しんでもらうため、おみくじを引くように自分の守護尊を選ぶ「守りがみ」を企画、作成し好評を得た。この「守りがみ」の企画は、巡回先（北海道立近代美術館）へも引き継がれ、好評を得た。<br>・椎名誠氏（作家）の講演会および写真展、本展監修者である曾布川寛氏（京都大学人文科学研究所）の講演会、タンカ絵師のウゲン・ナムゲン氏によるタンカ講座など、数多くの関連イベントを企画実行した。 | <br><br>聖地チベット展風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 140,917人 | 100,000人 | A | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年2～3回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　②　特別展　(2/4)<br>国宝　阿修羅展 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 展示課主任研究員　楠井隆志 |
| 実績・成果 | ・ 開会期間　7 月 14 日（火）～9 月 27 日（日）(68 日間)<br>・ 会　　場　特別展示室<br>・ 主　　催　九州国立博物館・福岡県、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、九州朝日放送<br>・ 陳列品総件数：66 件（国宝 56 件・重文 8 件）<br>・ 入場者数：711,154 人（目標入場者数 120,000 人）<br>・ 入場料金：一般 1,300 円、大学生 1,000 円、高校生 800 円、小中生 600 円<br>・ アンケート結果：満足度 90.0％<br>・ 興福寺創建 1300 年記念と中金堂再建事業にあわせて企画開催されたもので、東京国立博物館をへての巡回展。創建時に埋納された鎮壇具や阿修羅像をはじめとする乾漆像、鎌倉復興期の慶派の諸像などを展示した。第 1 章「興福寺創建と中金堂鎮壇具」、第 2 章「阿修羅とその世界」、第 3 章「中金堂再建と仏像」、第 4 章「バーチャルリアリティ映像　よみがえる興福寺中金堂・阿修羅像」から構成される。<br>・ 会期中記念講演会を 3 回（興福寺貫首多川俊映氏・同国宝館館長金子啓明氏・奈良大学教授東野治之氏）開催し、毎週土曜日には興福寺僧侶による講座を実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・ 阿修羅像をはじめとする興福寺創建時の乾漆像のうち9体が一堂に会する、九州では空前絶後の展示構成となり、多くの関心を集めた展観となった。<br>・ 仏像群は安全性に配慮した上で露出展示し、原則として 360 度から観覧できるようにした。照明も多方向から光を照射することで像を立体的に見せるよう工夫し、好評であった。<br>・ 東京展での混雑状況をふまえ、作品と観覧者の安全に配慮しつつデザイン性を損なわない展示物や造作の配置を検討した。また会場外の日よけテントや冷水機設置、ミスト噴射などを行い、概ね好意的に受け止められた。<br>・ 特別展第3室全体をバーチャルリアリティ映像用にあてる当館初めての試みを行った。<br>・ 教育普及として、展示物や内容などをイラストや写真などでわかりやすく解説した「阿修羅新聞」を会期中の 3 期にわたり発行（計 50 万部）、配布した。また会場内でのイラスト解説が好評を博し、会期中に小冊子（『阿修羅のこころにふれる旅』）にまとめ 2,000 部を作成販売、完売した。<br>・ 阿修羅像など乾漆像の CT スキャン調査を主催者合同で行い、成果を記者発表した。 | <br>会場風景 1<br><br>会場風景 2 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 711,154 人 | 120,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>入館者が目標値を大きく上回り、過去の九州における展観の最多記録を更新した。主催者間で協議を重ねた事前の混雑対策も概ね功を奏した。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 達成 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　②　特別展　(3/4)<br>古代九州の国宝 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 展示課長　赤司善彦 |
| 実績・成果 | ・開会期間　平成 21 年 10 月 20 日（火）～11 月 29 日（日）（37 日間）<br>・会　　場　特別展示室<br>・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社・ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州<br>・陳列品総件数：400 件（国宝 5 件、重文 22 件）<br>・入場者数：72,741 人（目標 30,000 人）<br>・観覧料：一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円<br>・アンケート結果：満足度　88.7%<br>・対外交流における九州の歴史的な役割を、各地域の多様性に注目しつつ、考古学の成果により紹介した。展示構成は第一部「交流の島　九州」、第二部「九州とヤマト」および第三部「古墳を飾る」の三部からなる。 | | | |
| 補足事項 | ・対外交流における九州の歴史的な役割を示す考古資料を多数陳列した。とくに九州出土の考古資料のうち一貴山銚子塚古墳出土品など関西や関東の博物館等が所蔵する重要資料を、出土地である九州において一堂に展示した。<br>・学術講演として、シンポジウム「邪馬台国はここにあった」（11 月 8 日、橋本輝彦氏・高島忠平氏ほか）、シンポジウム「装飾古墳と科学」（11 月 15 日、沢田正昭氏・朽津信明氏ほか）などを、関連事業としてセミナー「夜光貝とサンゴの海」（11 月 8 日、池村茂氏）を実施した。<br>・教育普及として小冊子「考古少年のなぞときメモ」を作成し、プログラム「なりきり考古学者体験」（11 月 21 日～23 日）を実施した。また図録購入者には「九博オリジナル野帳」を配付した。 | | | |



会場風景 1



会場風景 2

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 72,741 人 | 30,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>入場者数が目標値を上回った。図録の普及につとめ、図録購入率 7.19%という九博では従来にない高い数値（過去最高）を示した。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 達成 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　展示の充実　　②　特別展　(4/4)<br>京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球－ | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 展示課　楠井隆志 |
| 実績・成果 | ・　開会期間：　22 年 1 月 1 日（金）～2 月 28 日（日）(52 日間)<br>・　会場：　特別展示室<br>・　主催：　九州国立博物館・福岡県、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、西日本新聞社、TVQ 九州放送<br>・　陳列品総件数：　124 件（うち国宝 4 件、重要文化財 35 件）<br>・　入場者数：130,231 人（目標入場者数　80,000 人）<br>・　入場料金：　一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円<br>・　アンケート結果：満足度　91.6%<br>・　展示構成：　妙心寺本山・塔頭および九州・沖縄における妙心寺派寺院の所蔵品 124 件を展示。構成は、第一章「京都妙心寺の名宝」、第二章「妙心寺と九州・琉球」から成る。 | | | |
| 補足事項 | ・　「妙心寺展」は、東京国立博物館、京都国立博物館、名古屋市博物館でも開催されたが、九州国立博物館の「妙心寺展」は、妙心寺本山だけでなく、九州・沖縄の妙心寺派寺院に伝わる文化財を取り上げ、九州国立博物館独自の視点を強く打ち出した。<br>・　九州・沖縄の妙心寺派寺院から出陳される文化財は、この展覧会を機に研究員が新たに実施した調査によって発掘した成果であり、そのほとんどが初公開である。<br>・　教育普及の取り組みとして、禅のキーワードをわかりやすく解説した「プチ禅カード」を作成した。<br>・　玄侑宗久氏（作家、妙心寺派住職）、竹貫元勝氏（花園大学教授）らによる講演会、妙心寺鐘と観世音寺鐘を聞き比べる「鳴鐘会」、坐禅会や尺八コンサートなどの関連イベントを企画実行した。 | <br>会場風景 | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 入場者数 | 130,231 人 | 80,000 人 | S | 経年変化 | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（九州国立博物館）<br>年 2～3 回程度 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部広報室 | 事業責任者 | 広報室長　小林　牧 |
| 実績・成果 | ・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。<br>・ウェブサイトトップページのリニューアルをはかった。<br>・博物館情報をメールマガジンにより配信した。<br>・平常展の活性化を目指した広報展開を行った。<br>・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開をはかった。<br>・共催者やPR会社と協力し、特別展の大規模なプロモートを実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・特集陳列「趙之謙とその時代」(8月4日～9月27日）開催にあたり、台東区立書道博物館と連携して、報道内覧会、周知印刷物の制作、DM、交通広告を行なった。<br>・上野駅公園口で通年ポスター掲示を実施。<br>・「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等で収蔵品を紹介する連載ページを確保。<br>・約280媒体に月1回プレスリリース送付を送付、その他美術記者クラブ等に臨時のリリースを配信するなど、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。マスコミの取材･撮影･写真貸出し等約340件（特別展PR事務局窓口分含まず)、掲載(新聞･雑誌･インターネット等)約272件（特別展関連掲載を含まず。統計表<共通資料 d-④>を参照） | | | |



趙之謙とその時代　記者内覧会（8/3）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 東京国立博物館ニュースの発行 | 6回 | 6回 | A | 経年変化 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| | ウェブサイトの更新 | 5,576回 | － | － | | 3,000 | 4,547 | 3,616 | 5,576 |
| | 電子メールマガジン配信 | 57回 | － | － | | 58 | 57 | 53 | 57 |
| | 登録者数 | 16,508名 | － | － | | 15,138 | 16,758 | 14,237 | 16,508 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2132

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開<br>各展覧会の招待日にプレス発表会を開催<br>展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催<br>「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布<br>「博物館だより」の発行・配布（4 回）<br>「News Letter」の発行・配布（4 回）<br>「館内案内」リーフレット（6 ヶ国語）の作成・配布<br>メールマガジンの発行（18 回）<br>ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）<br>モバイルサイトによる情報提供<br>東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開<br>京都市内 4 館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館）の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布 | | | |
| 補足事項 | ・「博物館だより」は、年 4 回、それぞれ 1 万部から 2 万 5,000 部発行（季節による入館者見込により増減）し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。<br>・「News Letter」は、「博物館だより」の英語版として年 4 回発行し、配布している。現在 105 号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物として、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。<br>・ウェブのトップページを一新し、特別展覧会を前面にアピールするデザインとし、会場の混雑状況速報も加えている。 | <br>2009 年間スケジュールリーフレット | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 博物館だよりの発行 | 4 回 | 4 回 | A | 経年変化 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | News Letter の発行 | 4 回 | 4 回 | A | | 4 | 4 | 4 | 4 |
| | 展示案内リーフレットの作成 | 6 ヶ国語 | 6 ヶ国語 | A | | 6 ヶ国語 | 6 ヶ国語 | 6 ヶ国語 | 6 ヶ国語 |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、F の理由）<br>少ない人員で、最大限の広報活動を展開した。ウェブのトップページも展覧会をアピールすべく一新した。たよりやウェブページのデザインも洗練されたものを目指し、外部の評価も高い。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入場者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2133

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （1）展示の充実　③展覧会広報 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |

**実績・成果**

・奈良国立博物館だより　年４回発行
・奈良国立博物館リーフレット（7ヶ国語）発行
　日本語２万部、英語１万部、韓国語８千部、中国語５千部、仏・独・西語各２千部
・奈良国立博物館展示案内を年２回発行
・電子メールマガジンによる博物館情報の発信
・配信回数 13 回、登録者 4,970 人
・特別展「聖地寧波」では、奈良県で開催された「まほろば総体」参加者向け入場割引券つきチラシを作成し配布
・特別展「聖地寧波」では観覧券と展覧会図録がセットになった「観覧＆図録セット券」を発行
・平常展の入場割引券を発行（特別陳列「おん祭り」「お水取り」開催期間中）
・文化大使を任命し、奈良国立博物館の広報宣伝に一役買っている。
・特別展「国宝　鑑真和上展」、「聖地寧波展」、「第 61 回正倉院展」の広報のため、ポスター（B1、B2、B3）、チラシを作成した。特別展「聖地寧波」では先行ポスター、先行チラシを作成した。
・新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。特別展「国宝　鑑真和上展」では TBS が特別番組を作成し、「正倉院展」では NHK の日曜美術館が取り上げ、また読売新聞社が紙上における連載、特集、記事のほか、同社作成のポスター、看板が東京駅、新大阪駅等主要駅等に掲載された。
・「正倉院展」において、読売新聞社主催の「正倉院フォーラム」が東京、大阪、福岡で開催され、「正倉院展へのいざない」が名古屋で開催された。
・特別展では開催１ヶ月ほど前に記者発表を行った。来年度開催の特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」に関しては、４ヶ月前の 12 月上旬に東京において記者発表を行った。
・特別展、特別陳列の会期前日にプレスプレビューを行った。

**補足事項**



大遣唐使展記者発表

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 博物館だより発行 | 4 回 | 4 回 | A | 経年変化 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| メールマガジン登録者数 | 4,970 件 | － | － | | 2,826 | 3,413 | 3,978 | 4,970 |

**年度実績評価総括**

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

**中期計画記載事項**

　個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2134

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　③展覧会広報 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課<br>広報課 | 事業責任者 | 文化交流展室長　河野一隆<br>特別展室長　伊藤信二<br>広報課長　不動勝義 |
| 実績・成果 | ①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。<br>②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。<br>③特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。<br>④マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。<br>⑤「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年 4 回)<br>⑥ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(随時更新)<br>⑦地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。<br>⑧九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。 | | | |
| 補足事項 | ①例年実施しているアンケートに加えて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室との共同研究として、および科学研究費による研究としても実施した。これらによって実際の来館者の動向がよくとらえられ、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針が得られた。<br>②トピック展示および新春特別陳列として、太宰府顕彰会・徳川美術館および九州内自治体(佐賀市・フレーベル館・壱岐市・長崎県・大野城市など)の協賛・協力・共催等によって、当館の自主的な企画の枠を越えた新鮮な展示を提供すると同時に、広報することができた。<br>③特別展では、ポスター・チラシを制作。うち 2 回の展覧会で先行・本チラシおよび先行・本ポスターと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシ・ポスターとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約 300 媒体と九州圏内の情報誌約 150 媒体に送付した。イベントやトピック展示の開催など80件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。<br>④「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日の 4 回発行した。<br>⑤特別展関連イベント等の情報掲載を行った。<br>⑥地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、情報を交換した。また、20 年度から実施している太宰府天満宮参道の商店を対象とした特別展内覧会を「九州国立博物館を愛する会」など対象を広げて実施した。<br>⑦九州観光推進機構を通じ、海外(韓国・中国・台湾・香港・タイ・シンガポール)に随時情報提供を行った。 | | | |


玄界灘の海人・壱岐(壱岐市と共催)



国宝 初音の調度
ポスター



季刊情報誌
アジアージュ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行 | 4 回 | 4 回 | A | | 3 | 4 | 4 | 4 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>(S、F の理由) |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2141

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 展示の充実　④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・平成 21 年 3 月 3 日から 4 月 12 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。(20 年度事業実績として評価済)<br>・平成 22 年 2 月 23 日から 4 月 5 日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「農村（田園）へのまなざし」を開催した。 | | | |
| 補足事項 | ・特集陳列「黒田清輝のフランス留学」では、当館収蔵の黒田作品（黒田記念館収蔵品および絵画部門収蔵品）に加え、東京藝術大学所蔵の黒田清輝関連作品も合わせて展示し、好評を博した。展示総件数 34 件、うち黒田記念館収蔵品 18 件。<br>・特集陳列「農村（田園）へのまなざし」では、黒田記念館収蔵品の黒田作品に当館絵画分野の浅井忠の作品を交え、日本におけるバルビゾン派受容の様相を示した。展示総件数 34 件、うち黒田記念館収蔵品 31 件。 | | | |




特集陳列「農村（田園）へのまなざし」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 特集陳列展示件数 | 34 件 | － | － | 経年変化 | | 44 | 34 | 34 |
| | 内、黒田記念館収蔵品数 | 31 件 | － | － | | | 44 | 18 | 31 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供（1/4） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　浅見龍介 |

**実績・成果**

1)先導的事業のモデル化及び実践

○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示）
「日本美術のつくり方」7/28～9/6(36 日間)本館特別 2 室

○体験型プログラムの実施
オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」をはじめ、平常展や特別展に関連した体験型プログラムを実施（ほぼ毎日実施）。伝統文化への理解を深める機会とした。

○「みどりのライオン」プロジェクト
みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」事業を本館 20 室で実施した。

**補足事項**

・親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」では、日本古美術の伝統的な制作技法を、工程模型、図版・映像、ハンズオン体験コーナーの設置によって理解しやすいように構成。作品への興味を喚起し、より深い鑑賞に導いた。作品の素材に触れ、技法を間近に見ることができるように模写、材料等の鑑賞ツールをハンズオン体験コーナーに設置した。

・体験型プログラムは、実物を展示室でじっくり見て、それをもとに制作等を実地体験するもので、作品の色や素材、表わされているモチーフ、技法等への興味を喚起し、従来見逃していたポイントを気づかせることにより、鑑賞を深める恰好の機会となった。

・「みどりのライオン」プロジェクトでは、館全体のガイダンス機能を重要な柱とし、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開した。小中学生、外国人利用者が増え、展示との関連性をより高めるための教育普及活動を実施した。



ファミリーワークショップ
「からだの動くエビを作ってみよう」実施風景

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 体験型プログラム参加者数 | 124,785 人 | － | － | | 98,939 | 113,492 | 75,675 | 124,785 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供（2/4） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　浅見龍介 |

**実績・成果**

2)学校との連携事業の推進
- スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象）
  ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラム、キャリア学習のためのプログラムなどを提供。伝統文化鑑賞の理解促進に寄与した。
- 高等学校の単位制授業に3回にわたる教育プログラムを提供（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）。連携する高校以外からも広く参加を受け入れた。
- 都内及び近県の小中学校教員を対象とした研修会を2回実施。
- 全国高等学校美術・工芸教育研究会の研修会への協力。講演等 3 件(7 月 29～31 日　共催：東京芸術大学)
- 教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施　計 3 回。
- 大学院生を対象としたインターンシップを実施

**補足事項**

- スクールプログラムは、講義形式、対話形式、体験型と多様な方法を用意し、学校との事前の相談で内容を決めている。毎年来館する学校、遠方からの申し込みも増え、定着している。
- 中学、高校の美術部が夏休み等を利用して、ワークショップに来館することが増加している。
- 教員研修は、日本古美術を学校教育で取り上げてもらうことを目的として行なっている。関心は高く、アンケートの回答によると授業に盛り込む検討をする教員が多数みられる。
- インターンシップは将来学芸員になることを希望する大学院生を対象に、年間 30 日までの実務に就くことを条件としている。本人の希望する部署で職員とともに日々の仕事に当たる。当館のインターンを経験して学芸員になった者も年々増えている。



スクールプログラム
「裏側インタビュー」実施風景

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スクールプログラム | 163 校 5,732 人 | － | － | | 87 校<br>1,580 人 | 187 校<br>4,646 人 | 133 校<br>5,857 人 | 163 校<br>5,732 人 |
| 教員鑑賞会 | 617 人 | － | － | | 965 人 | 408 人 | 868 人 | 617 人 |
| インターンシップ | 17 大学 21 人 | － | － | | 18 大学<br>18 人 | 12 大学<br>20 人 | 18 大学<br>25 人 | 17 大学<br>21 人 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(3/4) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　加島勝 |

**実績・成果**

2)学校との連携の推進　東京芸術大学との連携事業
・大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、大学院生がギャラリートークを行った。
・当館蔵仏画の制作工程模型を作成、展示し、その解説を行なった。
　体験コーナーに於ける陳列期間：平成22年1月13日～4月18日
・上記2件の合計：大学院生8名、ギャラリートーク回数74回、参加者数2,636名
・キャンパスメンバーズ会員校を対象とした事業を実施した。
　博物館セミナー　3回（8月19日、21日、27日　計6時間）　参加者　224名
　教育連携事業　9日間（8月17・18・19・20・21・25・26・27・28日　計32時間）
　参加者　15大学より、計23名

**補足事項**

・ギャラリートーク実施者にとっては、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。
・制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得ることができた。
・総じて東京芸術大学との連携事業において、模型の制作・平常展ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し（当館の所蔵作品における新知見を見出す等）、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者の多角的な視点での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。



東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートークの様子

・博物館セミナーでは、大学における博物館学の学習に資するように、企画展の開催までの業務、文化財情報の管理、研究者の研究手法など、博物館の現場ならではのトピックを取り上げ、受講者に提供した。
・博物館セミナーは受講者の学習に役立つのみならず、未来の文化財保護を担う大学生に対し、博物館のメッセージを直接伝える場としても有効であった。
・教育連携事業では、博物館事業の諸側面に関して、グループ実習を取り入れ、博物館と文化財へのさらなる愛着や理解を促進した。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京芸術大学登録者数 | 8人 | － | － | 経年変化 | 9人 | 9人 | 7人 | 8人 |
| キャンパスメンバーズ加入校数 | 35校 | － | － | | 16校 | 22校 | 29校 | 35校 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供　(4/4) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育講座室長　鷲塚麻季 |

**実績・成果**

3) 講演会・列品解説・講座等の実施
講演会：実施 24 回（月例講演会 12 回、テーマ講演会 1 回、記念講演会 11 回）
列品解説等：実施 126 回（ギャラリートーク等を含む）
連続講座：実施 1 回（3 日）
公開講座：実施 2 回

その他教育的イベント等：
・狂言上演
・興福寺講座
・恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業「上野の山でクマめぐり」
・台東区連携事業「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」
・マルチメディアを使用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートベルク美術館の事例
・保存と修理の現場へ行こう

**補足事項**

・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。列品解説は取り上げる作品の数が増えて内容が充実し、また、国立科学博物館と上野動物園との連携企画も定着するなど、順調に成果を上げている。



月例講演会

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等の実施回数 | 153 回 | － | － | 経年変化 | 98 | 142 | 132 | 153 回 |
| 参加者数 | 12,546 人 | 10,915 人 | A | | 11,035 | 11,361 | 12,332 | 12,546 |
| うち | | | | | | | | |
| 講演会　実施回数 | 24 回 | | | | 30 | 24 | 29 | 24 |
| 参加者数 | 5,600 人 | | | | 6,542 | 4,770 | 7,134 | 5,600 |
| 列品解説等実施回数 | 126 回 | | | | 41 | 101 | 101 | 126 |
| 参加者数 | 6,550 人 | | | | 3,055 | 3,934 | 4,774 | 6,550 |
| 連続講座実施回数 | 1 回 | | | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 参加者数 | 320 人 | | | | 325 | 288 | 356 | 320 |
| 公開講座実施回数 | 2 回 | | | | 26 | 16 | 1 | 2 |
| 参加者数 | 76 人 | | | | 1,113 | 2,369 | 68 | 76 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |

**実績・成果**

・土曜講座を展覧会にあわせて開催（19 回）
・夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」を実施(7/29～31)
・「社会科教員のための向上講座について 」(10/27) を実施（32 名参加）
・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を発行
・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当
・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（30 校）
・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施
・「留学生の日」(10/25)を実施
・「少年少女博物館くらぶ」(7/25) を実施
・京都市内の小中学校への訪問授業（6/17、金閣小学校児童 160 名）(11/2、蜂ヶ岡中学校生徒 228 名）
・「文化財ソムリエ」(7 名）を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15）
・博物館の事業・運営に対する意見等を聴くモニターを実施。

**補足事項**

・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたが、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれた。しかし、学習機会の提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施にこぎつけた。なお目標値を割り込んでいるのは、開催回数が大幅に減っていることによるもので、1 回あたりの参加者はむしろ増加傾向にある。
・土曜講座は 21 年度末で 1,693 回を数える当館の伝統的な普及活動で、高い評価を得ている。
・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数いて、見学会も合わせ好評を博している。


夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」

・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座では、研究員 5 名が客員教授（2 名）、准教授（3 名）を担当し、博士前期・後期課程の学生に対し、実作品の展示・調査活動を通して専門的教育を行っている。
・外国人留学生の「留学生の日」入館者は、同伴者を含め 136 名。「日蓮と法華の名宝」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供するとともに、お茶会を催し、留学生を通じて、日本の伝統文化の国外への発信を行った。
・「少年少女博物館くらぶ」については、以前は平常展において展示解説を行っていたが、平常展休止に伴い、本年は、庭園内の石仏をテーマに小中学生向けの展示解説を行った。
・京都市内の小中学校への訪問授業については、文化財の高精細複製を教材として、金閣小学校（6/17)、蜂ヶ岡中学校（11/2）を訪問し、子どもたちが美術や文化財に親しむきっかけづくりをした。
・「文化財ソムリエ」については、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生を対象に参加者を募集し、22 年度からの訪問授業に向けてスクーリングを実施した。
・「社会科教員指導力向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。

**定量的評価**

| 項目 | | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等 | 参加者数 | 3,002 人 | 5,181 人 | C | | 4,980 | 4,489 | 3,413 | 3,002 |
| | 実施回数 | 21 回 | | | | 48 | 46 | 37 | 21 |
| うち土曜講座 | 参加者数 | 2,791 人 | | | | 4,827 | 4,329 | 3,254 | 2,791 |
| | 実施回数 | 19 回 | | | | 47 | 45 | 36 | 19 |
| うち夏期講座 | 参加者数 | 179 人 | | | | 153 | 160 | 159 | 179 |
| | 実施回数 | 1 回(3 日) | | | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| うち社会科教員のための向上講座について | 参加者数 | 32 人 | | | | － | － | － | 32 |
| | 実施回数 | 1 回 | | | | － | － | － | 1 |
| 訪問授業参加児童生徒 | | 388 人 | － | － | | － | － | － | 388 |
| キャンパスメンバーズ加入校 | | 30 校 | － | － | | 15 | 21 | 29 | 30 |
| モニター会員数 | | 36 名 | － | － | | 33 | 32 | 35 | 36 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部教育室 | 事業責任者 | 教育室長　吉澤　悟 |

**実績・成果**

講演会等　参加者数　3,421 人、実施回数　33 回
・特別展に伴う公開講座の実施　16 回　参加人数 2,043 人（2009 年 4 月～2010 年 3 月）
・当館関係者によるサンデートークの実施　11 回参加人数 584 人（2009 年 4 月～2010 年 3 月、毎月 1 回）
・夏季講座の実施　8／18～8／20（1 回（3 日間））、　参加者 391 名（／各日）
・大学等との合同講座　実施回数 4 回　参加人数 353 人
　奈良県立大学との合同公開講座の実施　3 回（9/6、9/13、9/20）　参加者総数 260 名
　東京大学東洋文化研究所との合同公開講座　1 回（9/21）　参加者数 93 名
・鑑真和上・唐招提寺フォーラム　2009 の実施　5/2　参加者数　385 名
・正倉院国際シンポジウムの実施　10/31　参加者数 184 名
・奈良市教員研修の実施　8/25　参加者数　190 名
・世界遺産学習特別勉強会の共同開催　3/6　参加者数　50 名
・世界遺産学習実践研修会（於．奈良教育大学）の共同開催　1 回
・解説ボランティアによる作品解説
　展示会場での解説　305 日（2009 年 4 月～2010 年 3 月）
　学校団体案内　37 件　（　同上　）
　一般グループ案内　47 件　（　同上　）
　正倉院展の講堂解説　112 回（正倉院展会期中毎日 4～7 回）
　世界遺産学習の受入　30 件（奈良市内の全小学校 5 年生を対象に実施）

**補足事項**


サンデートークの風景

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等　参加者数 | 3,421 人 | 3,542 | B | | 2,743 | 2,949 | 3,655 | 3,421 |
| 実施回数 | 33 回 | － | － | | 25 | 28 | 32 | 33 |
| うち特別展等講座参加者数 | 2,043 人 | － | － | | 1,586 | 1,943 | 2,706 | 2,043 |
| 実施数 | 16 回 | － | － | | 12 | 15 | 19 | 16 |
| 満足度 | 95.6% | － | － | | 86.3 | 87 | 90 | 95.6 |
| うち夏季講座　参加者数 | 391 人 | － | － | | 486 | 358 | 362 | 391 |
| 実施回数 | 1回(3日) | － | － | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 満足度 | 92.0% | － | － | | 93 | 84 | 90 | 92.0 |
| うちサンデートーク参加者数 | 584 人 | － | － | | 671 | 648 | 587 | 584 |
| 実施数 | 11 回 | － | － | | 12 | 12 | 12 | 11 |
| 満足度 | 90.6% | － | － | | － | － | － | 90.6 |
| うち大学との合同講座 | | | | | | | | |
| 参加者数 | 353 人 | － | － | | － | － | － | 353 |
| 実施回数 | 4 回 | － | － | | － | － | － | 4 |
| 満足度 | 86.0% | － | － | | － | － | － | 86.0 |
| 小中学校へのメールマガジンの配信 | 220 校 | 220 校 | A | | 220 | 220 | 220 | 220 |
| 放送大学面接授業 | 98 人 | 150 人 | C | | 160 | 150 | 178 | 98 |
| キャンパスメンバーズ加入校 | 27 校 | － | － | | 12 | 20 | 25 | 27 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

**中期計画記載事項**

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①学習機会の提供(1/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 企画課 | 事業責任者 | 文化交流展室長　河野一隆<br>特別展室長　伊藤信二 |

**実績・成果**

①毎週火曜日（火曜休館の週は休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。（月 2 回～4 回で 15～30 分程度。1 回の平均参加人数は 30 名程度である。
　開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーターの指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。
②学校教育と連携事業を実施した。
③特別展記念講演会・シンポジウムを開催した。

**補足事項**

①ミュージアムトークでは、開館以来、展示品を来館者が分かりやすく、気軽に楽しめるスタイルを踏襲しており、web 上で告知することもあって、好評を博している。
②各特別展で、近隣の高校に研究員が出向き展覧会の見どころ等を講義した。
③各特別展では記念講演会・シンポジウム等を実施した。内容は外部講師や著名ゲストを迎えての、より親しみやすい内容のものと、館外・館内研究者による学術的なものの両面を打ち出し、各層の期待に応えるものとなった。またいずれの特別展でも、地元自治体への出張講演を複数回実施した。



特別展「古代九州の国宝」関連イベント
「装飾古墳と科学」シンポジウム風景

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 講演会等 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 73 回 | | | | 76 | 61 | 56 | 73 |
| 参加者数 | 6,806 人 | 5,255 人 | A | | 6,639 | 4,168 | 5,507 | 6,806 |
| 内特別展記念講演会 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 6 回 | | | | 12 | 7 | 11 | 6 |
| 参加者数 | 1,622 人 | | | | 2,153 | 1,892 | 2,670 | 1,622 |
| 内ミュージアムトーク | | | | | | | | |
| 実施回数 | 42 回 | | | | 47 | 42 | 37 | 42 |
| 参加者数 | 1,285 人 | | | | 1,806 | 1,320 | 1,096 | 1,285 |
| 内シンポジウム | | | | | | | | |
| 実施回数 | 24 回 | | | | 6 | 1 | 6 | 24 |
| 参加者数 | 3,849 人 | | | | 1,280 | 316 | 1,555 | 3,849 |
| 内ミュージアム講座 | | | | | | | | |
| 実施回数 | 1 回 | | | | 11 | 11 | 2 | 1 |
| 参加者数 | 50 人 | | | | 1,400 | 640 | 186 | 50 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①　学習機会の提供(2/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 主任研究員　池内　一誠 |

**実績・成果**

①体験型展示室「あじっぱ」における展示・体験活動の充実

「あじっぱ」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ13回、「あじ庵」において延べ2回、「あじぎゃら」において延べ4回の展示替えを行った。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「タングラム」（中国を起源とする、7つのパーツを組み合わせてさまざまなシルエットをつくるパズル）を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」を実施し、新たなヴァージョンとして「なりきり考古学者」を開発・実施した。また、ベトナム民族学博物館の「Mid Autumn Vietnam-Japan 2009」に協力し、新規開発した「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」のワークショップを実施した。

②夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」の実施

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」を7月18日～20日に実施した。

③初等・中等教育との連携

学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用を継続しつつ、改善点の抽出、新たなコンテンツの可能性について検討した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。

④高等教育との連携

博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を実施した。

⑤教員を対象としたプログラムの実践

福岡県教育センターとの連携により、キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」を実施した。また、県高等学校歴史研究会研修会を3回実施した。

**補足事項**

①「屋台」の展示については、季節に応じた展示をすることを心がけた。「あじ庵」においてはCCDカメラ、実物楽器の演奏体験など、ハンズオンの手法を積極的に取り入れ、好評を博した。「あじぎゃら」においては、特別展に関連した展示構成、子どもたちにも親しみやすいアプローチでの展示を行った。「タングラム」は教育普及ボランティアの企画によるもので、ボランティア活動の活性化の成果でもある。

②内容の企画から準備、当日の運営にいたるまで教育普及ボランティアが主体となって進め、3カ国10コンテンツを運用した。3日間で延べ約150名（子どものみの数）の参加があった。

③「きゅうぱっく」の検討については、福岡県高等学校歴史研究会の協力を得、現場の教師との協議を行った。

④今年度は小学生～高校生に対象を絞り、定員を満たす回が続くほどの参加者を得た。

⑤キャリアアップ講座においては具体的な成果の現れとして、学習指導案が提出された。



「いこうよ！あじっぱ夏祭り」



あじ庵展示「ならしてみよう♪アジアの響き」

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| あじ庵の展示替え | 2回 | ― | | 経年変化 | | 2 | 2 | 2 |
| なりきり学芸員体験 | 65回 | ― | | | | 45 | 63 | 65 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F

（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　①　学習機会の提供(3/3) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口　理央 |
| 実績・成果 | キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。<br><br>キャンパスメンバーズ加入数　29 校<br>大　学　16 校<br>短期大学　5 校<br>専門学校　1 校<br>高等学校　7 校<br><br>特別展の出張講義　2 件 | | | |
| 補足事項 | ・本年度から新規に 9 校が加入した。特典の利用として、文化交流展(平常展)へ 3,181 名入場、パスポートを 1,755 名(3 月末)の学生会員が購入した。<br><br>・キャンパスメンバーズについては、加入している高校は年 4 回の特別展を観覧している。延べ約 5,400 人の高校生が来館した。その他、平常展において多いメンバー校(大学)では全学生数の 30%を超す来館をした学校もあり、若年層への文化財観覧の機会の向上に資することができた。 | | | |



出張講義の様子

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | キャンパスメンバーズ加入校 | 29 校 | － | － | 経年変化 | － | 21 | 22 | 29 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　加島　勝 |
| 実績・成果 | ・　活動充実、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を継続して展開した。<br>・　ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。<br>実施回数　474回、参加人数13,432人<br>・　児童・生徒の就業体験を受け入れた。<br>学校数　32校、生徒数　114人<br>・　館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた。<br>実施期間：通年（開館日は基本的に毎日実施）<br>実施場所：館内4箇所（本館1・2階エントランス，本館17室，本館20室） | | | |
| 補足事項 | ・これまでの活動方針を踏襲し、各種教育普及事業等の補助、ボランティア自身の自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーを実施することにより、来館者への一層のサービス向上を図った。<br>・また、ボランティア自身の啓発も積極的に行なうことにより、「表慶館アジアギャラリーガイド」を新たに企画・立案するなど、より充実した活動を実施することができた。 | | | |



就業体験の生徒と生涯学習ボランティアが共にハンズオン体験コーナーの補助を行う

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 163 人 | － | － | 経年変化 | 151 | 153 | 164 | 163 |
| | うち生涯学習ボランティア登録者数 | 155 人 | － | － | | | | | |
| | うち東京芸術大学学生ボランティア数 | 8 人 | － | － | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 連携協力室長　山下善也 |
| 実績・成果 | ・大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生 18 名が特別展覧会のアンケート・ボランティアとして活動した。<br>「日蓮と法華の名宝」展の会期中にあたる 10 月 20 日から 11 月 13 日までの毎火・水・金曜日(11/3 を除く)に、当館職員による事前講習ののち、来館者に声かけしアンケートを行った。<br>・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。大学院生等 10 名が、当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。<br>・「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15） | | | |
| 補足事項 | ・大学（京都橘大学）との連携を行い、10 月 20 日から 11 月 13 日までの毎火・水・金曜日(11/3 を除く)に、当館職員による事前講習ののち、「日蓮と法華の名宝展」観覧後の来館者に声かけしアンケートを行った。<br>・調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種の調査研究活動に参加し、活動のスムーズな実施と充実を図った。<br>・「文化財ソムリエ」については、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生を対象に参加者を募集し、平成 22 年度からの訪問授業に向けてスクーリングを実施した。また、蜂ヶ岡中学校での訪問授業（11/2）では、文化財ソムリエが補助講師として解説を担当した。 | | | |



ボランティア活動の様子

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 35 人 | ― | ― | | 23 | 23 | 30 | 35 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部教育室 | 事業責任者 | 教育室長　吉澤　悟 |

**実績・成果**

・特別展、特別陳列の開催ごとに 1～2 回、当館職員による展示内容の研修を実施した。
ボランティア全員に全展覧会の図録を配布し、解説のための学習資料とした。
また、高度な内容を含む特別展（今年度は特別展「聖地寧波」）に対しては、学芸部研究員に対する事前の研究会にボランティアも参加し、専門知識の強化をはかった。
・正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2 週にわたる自主トレーニングを経て、現場に臨むよう指導揮した。
・展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の適切な対応を行った。
また、朝のボランティアのミーティングに学芸部職員が立ち会い、質問等に応えている。
・ボランティア室の移動に伴い、新しい部屋の環境整備を行い、蔵書を増加した。
・顔写真入りの新しいボランティア証を作成し配布した。

**補足事項**

・解説ボランティアには自己学習と班内研鑽を推奨し、来館者に対し人柄を生かした柔軟な対応を行っている。
・解説ボランティアの活動は火曜から日曜までの開館日であるが、年に 5～6 回の月曜日開館および年末年始の開館においても活動可能な人が対応している。
・年度内に一度、全ボランティアと館長・職員による懇談会を行い、共に博物館を支える意識の共有の場を設けている。



本館展示室における解説風景



新ボランティア証のデザイン
（正倉院文様）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ボランティア数 | 98 人 | ― | ― | 経年変化 | 85 | 96 | 102 | 98 |
| | | ― | ― | | | | | |
| | | ― | ― | | | | | |
| | | ― | ― | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-1 ボランティア活動の支援 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 主任研究員　上野 知彦 |
| 実績・成果 | ① 展示解説ボランティアが来館者（個人・団体）に対して 4 階文化交流展示室内を案内<br>② 体験型展示室「あじっぱ」内において、教育普及ボランティアが来館者の体験活動のサポート<br>③ 館内案内ボランティアが来館者に 4 カ国語（日本語・中国語・英語・韓国語）で対応。またバックヤードツアーの実施<br>④ 博物館科学課の指導のもと、環境ボランティアが IPM 活動や館内の環境整備をサポート<br>⑤ イベントボランティア・学生ボランティアを中心に、季節に沿ったイベントの企画・実施<br>⑥ サポートボランティアによるボランティア広報紙の作成、及び他館とのボランティア交流の企画・実施<br>⑦ 資料整理ボランティアによる館所有の土人形の調書作成、及びデータベース化<br>⑧ 土日を中心とした手話ボランティアとの協力による障がい者対応<br>⑨ 他団体との共催による子ども向けイベントの実施、及び他館イベントへの参加<br><br>〔対応来館者数〕※事前予約団体分のみ（当日受付対応数は除く）<br>展示解説：4,118 人　館内案内：5,249 人　バックヤード：3,028 人<br><br>〔研修会〕<br>全体研修：5 回　部会研修会：149 回　グループ研修会：40 回 | | | |
| 補足事項 | ① 展示室入口にカウンターを設置し、常時ボランティアが待機し、来館者対応を行っている。<br>② 参加体験型のイベントやコンテンツの企画・開発を行っている。<br>③ 館の指導のもと、ガイダンス資料や説明内容等の自主制作をしている。<br>④ 館内観察から生物インジケーターの作成・設置、温湿度計の管理、収蔵庫メンテナンスまで幅広い活動を行っている。<br>⑤ 写真展や餅つき・七夕祭りなどを行っている。<br>⑥ 他館だけでなく、当館ボランティア同士の交流を深めるために活動。<br>⑦ 活動の成果として、土人形を「あじっぱ」内に展示公開している。<br>⑧ 地域の手話ボランティア団体との協働。<br>⑨ 子どもの来館増を目的に「九州国立博物館を愛する会」との協力で「子どもフェスタ」を企画・開催している。 | <br>4 階展示室案内の様子<br><br>ボランティア企画イベント | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ボランティア数 | 345 人 | ― | ― | | 293 | 293 | 388 | 345 |
| | 全体研修会 | 5 回 | ― | ― | | 7 | 17 | 10 | 5 |
| | 部会別研修 | 149 回 | ― | ― | | 120 | 105 | 95 | 149 |
| | グループ研修 | 40 回 | ― | ― | | ― | 54 | 3 | 40 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　吉田勇人 |

実績・成果

友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。

1)友の会・パスポート・平常展割引パス　会員数

| 種　別 | | 21 年度 | (参考) 20 年度 |
|---|---|---|---|
| 友の会（1 万円） | | 2,085 人 | 1,913 人 |
| パスポート | 一般 4,000 円 | 20,392 人 | 19,547 人 |
| | 学生 2,500 円 | 1,206 人 | 858 人 |
| 平常展割引パス（2,000 円） | | 24 人 | 30 人 |

・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数:331 名(20 年度は 319 名)

2)賛助会　会員数

| | 21年度 | (参考)20年度 |
|---|---|---|
| 特別会員 | 16団体 | 13団体 |
| 維持会員 | 24団体・個人178人 | 26団体・個人157人 |

・会員対象の特別鑑賞会等の実施　特別展内覧会　4 回　事業報告会　1 回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展、コンサートなど 8 つのプログラムを行った。（参加者合計約 766 名）

補足事項

1)・賛助会団体維持会員・特別会員については若干増加傾向がみられる。
・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。

2)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かせる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。
・所沢の柳瀬荘を活用した企画を地元の日本大芸術学部と共催し、地域の住民を取り込んだ活動を実施し、一定の成果があったので、今後も継続していきたい。
・企業との連携を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような事業を提案するなどの工夫を図っていく必要があると思われる。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 友の会会員数 | 2,085 人 | － | － | | 1,346 | 1,341 | 1,913 | 2,085 |
| パスポート会員数 | 21,598 人 | － | － | | 18,705 | 16,035 | 20,405 | 21,598 |
| 賛助会員 | | | | | | | | |
| 特別会員数 | 16 団体 | － | － | | 16 | 16 | 13 | 16 |
| 維持会員数(団体) | 24 団体 | － | － | | 22 | 24 | 26 | 24 |
| (個人) | 178 人 | | | | 112 | 123 | 157 | 178 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一<br>連携協力室長　山下善也 |

**実績・成果**

・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。
・企業及び大学との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。
・「京都市内 4 館連携協力協議会」の実施
・「友の会」事業を継続して実施した。
　会員数　2,517 人

**補足事項**

・支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（4 回）・見学会（4 回）・会報（4 回）の解説・執筆に協力した。
・「京都市内 4 館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の 4 館が連携し、平成 22 年度より実施する事業「京都ミュージアムズ・フォー」「展覧会及び講座」について協議を行い、広報のための合同パンフレット 80,000 部の製作を行うとともに平成 22 年度から友の会の相互協力を行うこととなった。
・企業との連携によるバロックコンサートを休館日を利用して開催した。


ミニコンサート

・京都市立芸術大学との連携によるミニコンサート～音楽で巡るシルクロード～を特別展覧会「シルクロード文字を辿って」開催期間中（毎週金曜日：計 8 回）に特別展示館中央ホールを使用して開催した。
・初めての試みとして、「音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展」と題したスイーツコンサートを特別展覧会「THE ハプスブルク」に合わせてハイアットリージェンシー京都にて開催した。
・庭園の青空のもとで、自転車のリキュー氏の協力による「自転車エコライブ」、さらに人間国宝　桂米朝氏所属の米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」(4 回）を実施した。また、これらのイベント開催に合わせて、特別展覧会の広報を行い、集客策を講じた。
・「友の会」会員数においては、平常展示館建替工事のため、一昨年 12 月 7 日（日）で同館を閉館したことを受け、加入者数は前年度に比べ約 380 名減少している。ただし、それは窓口における販売日数が減ったためであり逆に 1 日平均の加入者は増えている。(20 年度：10.9 人、21 年度：13.5 人)

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 友の会会員数 | 2,517 人 | ― | ― | | 3,784 | 3,224 | 2,895 | 2,517 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2223-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |
| 実績・成果 | ・友の会<br>会員数　2,799 人（一般 2,668 人、学生 103 人、家族 28 人）<br>・賛助会<br>特別支援会員：5 団体、特別会員：2 団体、一般会員（個人）：32 人、（団体）：17 団体<br>・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。<br>・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2009」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。 | | | |
| 補足事項 | ・奈良県との連携で、本館のライトアップ設備を常設とし、「ライトアッププロムナード・なら　2009」の期間のみならず通年でライトアップを実施した。 | | | |



賛助会員芳名板

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 友の会会員数 | 2,799 件 | － | － | 経年 | 2,288 | 2,439 | 2,815 | 2,799 |
| | 賛助会数（総数） | 56 件 | － | － | 変化 | 35 | 45 | 49 | 56 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (2)歴史・伝統文化の理解促進　②-2 博物館支援者の増加 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>交流課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央<br>主任主事　藤崎秀典 |
| 実績・成果 | ①友の会及びパスポート会員は昨年度より増加している。<br>②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。 | | | |

補足事項

①友の会会員数　20 年度　154 人→21 年度 206 人
パスポート会員数　20 年度 3,120 人→21 年度 3,914 人

②支援団体や近隣地域と連携したイベント

- 「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博こどもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力を得て、地域のこどもたちを対象にしたイベントを実施できた。
- 福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。
- エントランスホールにて博多山笠を展示しているが、今年で 4 年連続実施している。また、今年度は最長の 8 月初旬から翌年 3 月初旬までの展示期間である。この活動は、今年度は西日本新聞社との共同事業として実施した。また、九州各地のひなまつりの展示、伝統工芸の紹介など様々なイベントを通して、地域の代表的な催事等を来館者に広く周知した。
- 内容を勘案したうえで、自治体や文化団体の主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベント事業の実施により来館者へのサービスが促進された。



ひなの国九州フェスタ風景



博多山笠展示風景

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 友の会会員数 | 206 人 | | | 経年変化 | 229 | 167 | 154 | 206 |
| パスポート会員数 | 3,914 人 | | | | 1,312 | 3,252 | 3,120 | 3,914 |

年度実績評価総括

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項

企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-1

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(1/5) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館教育課 | 事業責任者 | ボランティア室長　加島勝 |

**実績・成果**

○点字解説等の改訂
視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに15部を増刷した。

○手話通訳つきガイドツアーの試行
生涯学習ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において、手話通訳つきガイドを月 1 回開始した（9 月 19 日、10 月 17 日、11 月 21 日、12 月 19 日，1 月 30 日，2 月 20 日，3 月 20 日）

○社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内「点字グループ」メンバーと、視覚障害者への博物館サービスについてヒアリングを行った（12 月 1 日）。

**補足事項**

・視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段となっている。
・当館のバリアフリー化の促進にも寄与した。
・今後、より多くの方々に利用してもらえるよう、周知方法等についても検討していきたい。



点字パンフレット

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 配布部数 | 5 部 | ― | ― | 経年 | ― | 9 | 9 | 5 |
| 増刷部数 | 15 部 | ― | ― | 変化 | ― | 10 | 10 | 15 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供（2/5） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　浅見龍介 |
| 実績・成果 | ①「日本美術の流れ」鑑賞のため、4ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットを制作<br>・日本語：テーマ解説、主な展示作品の解説を収録するため、作品の展示替えに応じて更新。<br>・英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識を盛り込んだ外国語パンフレットを配布した。<br>②子供向けワークシート<br>見学のポイントを示し、書き込み、スケッチ等を促すシートを 3 種制作した。「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」である。 | | | |
| 補足事項 | ・展示作品を理解するための無料の印刷物としては唯一のものである。外国からの来館者に好評を得ている。<br><br>・今年度は、本館 2 階メンテナンス作業に伴う閉室期間があったため、パンフレットの更新回数がこれまでより減少している。 | | | |




カラーパンフレット
英語版、中国語版、韓国語版

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 日本語パンフレット更新・制作回数 | 29 回 | － | － | | － | 39 回 | 36 回 | 29 回 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-3

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 (3/5) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | デザイン室長　木下史青 |
| 実績・成果 | より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。<br>a. 本館特別 5 室 特別展『国宝 土偶展』のため、従来よりもレンズ仕様等の光学性能に優れたカッタースポットライトを補充し、展示効果の高い照明を行った。<br>b. 明治期の「歴史的展示ケース」に光ファイバー照明を取付け、特別展『染付』等に使用した。 | | | |
| 補足事項 | a 土偶を中心とした特別展のため、小型の作品を効果的に見せることが可能な、カッタースポット(フレーミングスポットライト)器具を22台購入・補充して使用した。これらの器具は、12Vミラー付ハロゲンランプが使用され、カッターの調整精度の高い器具であるため、土偶の魅力を迫力ある光で見せるための光学制御が可能となった。<br>　当館の展示には1000台以上のカッタースポットが必要と見込まれるが、現保有数は従来型も含め200台程度のため、次年度以降も順次補充をしていく必要がある。<br><br>b これまで使用されていなかった当館の明治期の木製ケース（歴史的展示ケース）3台を改修し、光ファイバー照明を設置した。特別展『染付』において、このケースに陶磁器を展示したことにより、質の高い展示空間が実現し、外部からの評価も高い展覧会となった。 | | | |



a. 本館 特 5 室 特別展　『国宝 土偶』
カッタースポットライト約 60 台が使用された
（うち 22 台が新規購入分の器具）



b. 特別展『染付』　歴史的展示ケースを使用した展示

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | a. 「カッタースポットライト（特別展「土偶展」） | 1件(22台) | － | － | 経年変化 | － | － | － | 1件(22台) |
| | b. 光ファイバー照明(特別展『染付』) | 3件 | － | － | | － | － | － | 3件 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 2311-4

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （3）快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(4/5) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部　企画課 | 事業責任者 | 特別展室長　松嶋雅人 |
| 実績・成果 | 下記の特別展で音声ガイドの貸出を実施した。<br>・特別展「国宝 阿修羅展」（4/1～）　173,192 件　（会期中 3/31～:174,903 件）<br>・特別展「伊勢神宮と神々の美術」　25,147 件<br>・特別展「染付－藍が彩るアジアの器」　5,716 件<br>・特別展「皇室の名宝－日本美の華－」　85,665 件<br>・特別展「国宝 土偶展」　15,938 件<br>・特別展「長谷川等伯」　55,243 件<br><br>貸出数：計 360,901 件 | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸出件数 | 360,901件 | － | － | 経年変化 | － | 256,441 | 305,135 | 360,901 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-5

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供　(5/5) | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　吉田勇人 |
| 実績・成果 | ・日ざしの強い日や夏季の特別展等の混雑時に、お客様の熱中症対策として、入場待ち及び敷地内移動用の日傘の貸出、日よけ用テント、給水所の設置を実施した。<br>・混雑時で雨天の場合は、傘立て置き場にテントを張り、利用時に濡れないように配慮した。<br>・混雑した特別展で、休日を中心に看護師の館内常駐を実施した。<br>・館内外の利用案内や展示紹介看板について、新規に作成し直して整備した。<br>・お客様への貸出用車いすを 10 台購入した。このうち 4 台は座高調節式にした。<br>・新型インフルエンザの流行を防ぐため、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。<br>・特別展の際に障がい者内覧会を開催した。（三菱商事株式会社と共催）<br>・外部講師を招き、顧客対応研修会を実施した。<br>・上野消防署の協力により、普通救命講習会および防災訓練を実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・敷地内移動用の日傘は、330 本用意した。<br>・日よけテントは 5～7 張り、給水機は多いときで 8 機を設置した。<br>・障がい者内覧会は、三菱商事株式会社が募集を行い、当館共催のうえ、閉館後に研究員が解説を行い、その後観覧していただいた。<br>「国宝　阿修羅展」　5月14日　296人<br>「伊勢神宮と神々の美術」「染付」　8月29日　182人<br>「皇室の名宝展」　10月31日　216人<br>「国宝　土偶展」　22年1月23日　83人<br>「長谷川等伯」　2月27日　179人<br>・顧客対応研修会は、警備・お客様担当職員、休日日直の責任者となる者および看視等の委託会社社員も参加した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一<br>学芸部長　西上　実 |
| 実績・成果 | ・平常展示館の建替に伴う南門売店増築工事が完了した。<br>・平常展示館の建替工事に着手し建物解体工事が完了した。<br>・6カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。<br>・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。<br>・特別展覧会において音声ガイドによる展示解説を実施した。<br>・特別展覧会において入館待ち時間の情報等をHP等できめ細かく発信し、観覧の便を図った。<br>・来館されるお客様によりよい環境で観覧していただくため、ＨＰ等で展示室内での注意事項を掲載し、展示室内でのマナー向上について協力をお願いした。<br>・当館職員並びに売店、レストラン従業員、（財）京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接遇技能の修得に努めた。<br>・東山消防署の協力により、地域と連携した消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びＡＥＤの取扱講習会を開催した。 | | | |
| 補足事項 | ・将来構想検討委員会建設事業小委員会において、博物館の外構整備に関する基本計画が策定され、将来構想検討委員会にて承認された。<br>・音声ガイド利用台数<br>「妙心寺」：9,960台<br>「シルクロード　文字を辿って」：2,894台<br>「日蓮と法華の名宝」：17,087台<br>「THE ハプスブルク」：48,856台<br>・特別展覧会において、日よけテント・待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バック（カート）の収納可能な大型ロッカーなどの増設、集合場所・時間案内を知らせる団体用伝文板の設置、休憩所の設置、夏季には入り口に冷風機を設置する等、来館されたお客様に十分配慮した。<br>・事務職員はすべて普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても機会があるごとに繰り返し訓練している。<br>・平成20年度より京都市消防局及び京都市内事業所等で組織する「安心救急ネット京都」へ加入し、AED設置、救命講習の受講等応急手当の普及啓発に組織的に取り組んでいる。 | <br>増設したコインロッカー | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸出件数 | 78,797件 | － | － | | 53,232 | 50,344 | 34,597 | 78,797 |
| | リーフレット | 6カ国語 | 6カ国語 | A | | 6カ国語 | 6カ国語 | 6カ国語 | 6カ国語 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2313

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | （3）快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |
| 実績・成果 | ・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事に着手。<br>・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを設置、看護師の館内常駐を実施。<br>また混雑緩和のため、入場者数を調整したり、11 月 1 日は団体入場受付の取りやめを行ったり、混雑状況をホームページ等で情報提供した。<br>さらに、地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置、英語による案内を行った。<br>オータムレイト券購入者に記念品（第 2 回のポスターを模したしおり）を配布した。<br>・新型インフルエンザの流行を防ぐため、消毒用アルコールを増設。<br>・新たに客数情報システムを導入することにより、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。<br>・特別展において音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。<br>・ケース内の環境を保持し、展示品が鑑賞しやすいことを目的として、ケース内単独の調湿装置、発熱の少ない LED 照明、光ファイバー、高透過低反射ガラスをそなえた独立ケースを 3 台新造した。 | | | |
| 補足事項 | ・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事は、平成 22 年度中に完了する。<br>・正倉院展における各種観覧者サービスにより、アンケート満足度が対前年度で 4 ポイント上昇した。 | | | |



入口消毒用アルコール


正倉院展入場待ちテント

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸付件数 | 51,970 件 | － | － | 経年変化 | 41,490 | 37,110 | 60,356 | 51,970 |
| | リーフレット | 7 カ国語 | 7 カ国語 | A | | 7 カ国語 | 7 カ国語 | 7 カ国語 | 7 カ国語 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2314

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　①快適な観覧環境の提供 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>企画課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央<br>文化交流展室長　河野一隆<br>特別展室長　伊藤信二 |
| 実績・成果 | ①特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。<br>特別展では、観覧者の理解を助けるための教育普及プログラムを実施した。<br>②中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成した。<br>③英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。<br>④リーフレットを引き続き 7 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。<br>⑤九博概要は新たに英語を追加し、4 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）とした。<br>⑥大混雑した「国宝阿修羅展」において、休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供した。 | | | |
| 補足事項 | ①「聖地チベット」展では、日本ではあまりなじみがないチベット独特の尊格に親しんでもらうため、おみくじを引くように自分の守護尊を選ぶ「守りがみ」を企画、作成し好評を得た。この「守りがみ」の企画は、巡回先（北海道立近代美術館）へも引き継がれ、好評を得た。<br>「興福寺創建 1300 年記念　国宝阿修羅展」では、観覧者に展覧会のみどころをわかりやすく解説することを目的とし、会期中 3 回にわたり「阿修羅新聞」計 50 万部を発行、第 1 号は福岡県下の小学生全員に事前配布した。<br>「古代九州の国宝」では、来館者により考古学に親しんデータだくため、小冊子「古代少年のなぞときメモ」を作成、配布し、「なりきり考古学者体験」を実施した。<br>「京都妙心寺　禅の至宝と九州・琉球」展では、教育普及の取り組みとして、観覧者に禅のキーワードをわかりやすく解説いただける「プチ禅カード」を作成、配布した。 | | | |



阿修羅新聞第 1 号


障がい者の日観覧風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 音声ガイド貸出件数 | 139,159 | － | － | 経年変化 | 69,552 | 74,367 | 67,663 | 139,159 |
| | うち特別展 | 133,833 | － | － | | 59,707 | 62,661 | 59,547 | 133,833 |
| | うち文化交流展示 | 5,326 | － | － | | 9,845 | 11,706 | 8,116 | 5,326 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2321

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　吉田勇人 |
| 実績・成果 | ○特別展アンケート<br>すべての特別展で実施し、どの展覧会も 75～80%と概ね高い満足度となった。<br>また、「国宝 土偶展」から新規にタッチパネル式アンケートシステムを導入した結果、回収率が従来の約 3 倍となった。<br>○平常展満足度調査（21 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日）<br>回収サンプル数　997 件　（日本語 751 件、英語 193 件、韓国語 47 件、中国語 6 件）<br>満足度　80%（とても満足 44%、やや満足 36%、どちらともいえない 6%、やや不満 2%、とても不満 2%、無回答 10%）<br>○「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の作成<br>過去 3 年間の平常展満足度調査及び昨年度実施した非来館者意識調査の結果を、館内に設置した東京国立博物館来館者研究会において分析し、具体的な改善策を提言した。<br>○「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」への協力<br>観光庁が実施した、外国語による情報提供の現状把握を目的とする現地調査及びグループディスカッションに全面的に協力し、課題点等を整理した。 | | | |
| 補足事項 | ・特別展アンケート結果から、どの展覧会も平均して高い満足度となった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会でもより高い満足度となるよう、アンケートを積極的に活用していきたい。<br>・「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の提言、及び「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」の結果等を受け、来館者のより利用しやすい観覧環境づくりのために、来年度以降優先的に取組む事項の整理に着手した。 | | | |



タッチパネル式アンケート

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Story of …満足度 | 78.7% | － | － | | | | | |
| | 国宝 阿修羅展満足度 | 77.6% | － | － | | | | | |
| | 伊勢神宮と神々の美術展満足度 | 70.9% | － | － | 経年変化 | | | | |
| | 染付展満足度 | 78.3% | － | － | | | | | |
| | 皇室の名宝展満足度 | 76.8% | － | － | | | | | |
| | 国宝 土偶展満足度 | 88.8% | － | － | | | | | |
| | 長谷川等伯展満足度 | 88.8% | － | － | | | | | |
| | 平常展 | 80.0% | － | － | | | | 84.6% | 80.0% |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2322

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一 |
| 実績・成果 | ・　入館者アンケートを実施<br>特別展覧会「妙心寺」満足度　89%<br>回答数 918 件（良い 59%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%）<br>特別展覧会「シルクロード文字を辿って―」満足度　80%<br>回答数 696 件（良い 46%、まあまあ良い 34%、どちらともいえない 11%、あまり良くない 1%、良くない 4%）<br>特別展覧会「日蓮と法華の名宝」満足度　79%<br>回答数 1056 件（良い 57%、まあまあ良い 22%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 1%、良くない 1%）<br>特別展覧会「THE ハプスブルク」満足度　90%<br>回答数 1955 件（良い 58%、まあまあ良い 32%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%）<br><br>・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 | | | |
| 補足事項 | ・特別展覧会において入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合には、電話等で回答した。<br>・今年度は平常展示館が建替工事のため休館しており、特別展示館で開催される特別展覧会の入館者アンケートのみ実施した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展満足度 | ―% | ― | | 経年変化 | 73% | 72% | 70% | ―% |
| | 妙心寺展満足度 | 89% | ― | | | | | | |
| | シルクロード展満足度 | 80% | ― | | | | | | |
| | 日蓮展満足度 | 79% | ― | | | | | | |
| | THE ハプスブルク展満足度 | 90% | ― | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2323

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |
| 実績・成果 | ・平常展アンケート（全開館日）<br>回答数　1,633 件（良い 68.4%、普通 12.8%、良くない 5.7%、無回答 13.1%）<br>・英語版平常展アンケート（全開館日）<br>回答数　70 件<br>・特別展アンケート<br>「国宝　鑑真和上展」<br>回答数 263 件（良い 90.2%、普通 4.9%、良くない 3.0%、無回答 1.9%）<br>「聖地寧波展」<br>回答数 106 件（良い 75.4%、普通 15.1%、良くない 6.6%、無回答 2.9%）<br>「第 61 回正倉院展」<br>回答数 1,091 件（良い 79.3%、普通 12.8%、良くない 5.4%、無回答 2.5%）<br>・特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に 1 回掲載 | | | |
| 補足事項 | ・正倉院展アンケート結果のうち、「良い」が昨年度に比べて 4 ポイント上昇し、「良くない」が 2 ポイント減少した。また、アンケート回収率・回収数も前年度より上昇した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展満足度 | 68.4% | ― | ― | | 68% | 66% | 67% | 68.4% |
| | 鑑真和上展満足度 | 90.2% | ― | ― | 経年 | ― | ― | ― | ― |
| | 寧波展満足度 | 75.4% | ― | ― | 変化 | ― | ― | ― | ― |
| | 正倉院展満足度 | 79.3% | ― | ― | | 67% | 68% | 75% | 79.3% |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2324

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 快適な観覧環境の提供　②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　　樋口理央 |
| 実績・成果 | ①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。<br>・平常展アンケート（満足度）　回答数　568 件<br>（とても良い 38%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 5%、よくない 4%、未記入他 12%）<br>②昨年度に引き続き、来館者が利用するエリアを中心に、ユニバーサルデザインの視点に立って既存施設の点検を行った。今年度に整備できた事項としては、階段の識別性向上、トイレのサイン設置・改善、トイレのターゲットシール貼りなどがあげられる。施設整備の面では、一層のレベルアップが図られ、来館者サービスの向上につなげることができた。 | | | |
| 補足事項 | ①西鉄太宰府駅でお客様により早く情報提供出来るように、当館へのアクセス掲示・チラシ配布台を設置した。<br>②平成 18 年に改正されたバリアフリー法では、既存の博物館についても、バリアフリー法の基準に適合させるように努力義務が課せられている。バリアフリー法における「建築物移動等円滑化誘導基準チェックシート」に基づき施設の点検を行い、バリアフリー法の基準に近づけるように、どのような整備が必要か福岡県建築都市部建築指導課と交渉を重ねた。今年度は、エントランスにある屋内階段の段の識別性向上のための工事を行うこととした。エントランスの階段（1 階～3 階、3 階～4 階）は、全体が木材で仕上げられており、段鼻が視認しにくく、表面も滑りやすい仕上げであったため歩行者の転倒の危険性があった。災害発生時はエレベーターやエスカレーターが利用できないため多くの人がこの階段を利用する。事故の予防的観点からも、段鼻および階段に接する誘導ブロックにシートを張ることにより、これらの問題を解決することができた。<br>　また、トイレにおいて大便器の使用方法を説明する 3 カ国語（英語、中国語、韓国語）表示のサインを設置した。洗浄センサーの部分にも英語表示を追加して、外国人対応を充実させた。<br>　男子トイレ小便器には、尿の飛散を予防するため、ターゲットシールを貼った。尿をかけると色が変わるタイプの製品で、目標物に向かって尿をかけたくなる男性心理を利用した試みである。このターゲットシールを貼った後、「小便器周囲の床の汚れが少なくなった」との清掃担当者から報告をうけていることから、効果が確認できた。 | <br>太宰府駅案内板<br><br>階段<br><br>トイレのサイン<br><br>ターゲットシール | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平常展満足度 | 66% | ー | ー | 経年変化 | 61% | 64% | 63% | 66% |
| | 聖地チベット展満足度 | 90% | | | | | | | |
| | 国宝 阿修羅展満足度 | 90% | | | | | | | |
| | 古代九州の国宝展満足度 | 89% | | | | | | | |
| | 京都妙心寺展満足度 | 92% | | | | | | | |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　吉田勇人 |
| 実績・成果 | ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。<br>また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。<br><br>・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。<br>・新たな絵はがきについて、3年計画中3年目の今年度は、32種類を製作した。<br>・書道博物館と連携した特集陳列「趙之謙」の開催期間中、書道博物館のオリジナルグッズを販売し、当館と他館との連携事業に協力した。<br>・ミュージアムシアター企画「洛中洛外図」にあわせたリーフレットを販売し、当館と企業との連携事業に協力した。<br>・収蔵品をモチーフとした紙袋を1種、本館の装飾をモチーフとした包装紙2種および紙袋2種をあらたに製作し、サービスの向上に努めた。<br>・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。 | | | |
| 補足事項 | ・新たなミュージアムグッズとして、館蔵品の如来像を忠実に 80%に縮小した、完成度の高いレプリカを製作販売した。<br>・上記以外のミュージアムグッズについても、その都度協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(ドレミはにわ：埴輪形の土笛、はにわぬりえ：児童向けぬり絵の冊子など)<br>・今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。 | | | |



ドレミはにわ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ― | ― | ― | ― | 経年変化 | ― | ― | ― | ― |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一 |

**実績・成果**

・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。また、今年度からインフォメーションコーナーを設け、南門施設として、ミュージアムショップとともにリニューアルさせた。これにより、3 施設とも入場券のないお客様にも利用可能となった。
・利用者と直に接する南門施設の従業員を対象に接客研修を行った。

【インフォメーション】
・展覧会関係及び京都観光などのチラシを配置し、各種の案内を行っている。
・館外に案内所を設け、入場券が無くても利用していただける施設とし、当館の案内だけでなく、京都市観光協会の協力を得て、京都市内の観光案内等も行うことで利用者に喜んデータだいている。

【ミュージアムショップ】
・絵はがき販売総数は 350 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 159 種類に上っている。
・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとして収蔵作品のクリアファイル、また、新商品としてグリコお菓子の詰合せを販売し好評を得ている。

【レストラン】
・新メニューを取り扱うことで利用者へのサービスを図った。
・33 種類のパフェを揃え、利用者の要望に応えた。

**補足事項**

・博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。
・オリジナルグッズは、幅広い層に購入が可能なワンコイン料金(500 円、100 円等)の商品の充実を図った。
・展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。
・博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売で対応した。


インフォメーション・
ミュージアムショップ

・レストランの新メニューとして、お昼のランチメニュー、からふね屋珈琲特製・ケーキコレクション（お抹茶あずき、3 種のベリークレープなど)、数量限定コーヒーゼリー・プリンシリーズ（コーヒーゼリーミルクプリン、黒みつ・オ・レなど）を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。
・パフェについては、向かい側にある三十三間堂にちなみ、33 種類のパフェ（お抹茶パフェ、バナナキャラメルパフェ、祇園パフェ、からふねパフェなど）を揃え、利用者の要望に応えた。


ミュージアムグッズ

・これらは、レストランを利用したお客様の声により改善したものである。
・インフォメーションコーナー、ミュージアムショップ、レストラン共通の営業カレンダーを制作のほか案内パネルにて業務案内を行う。
・南門施設完成後、平常展示館建替工事期間中は、特別展示館が閉館の場合であっても、通常どおり営業している。


お抹茶パフェ

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | － | － | | | | | |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

**中期計画記載事項**

ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2333

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |
| 実績・成果 | ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップが出店した。<br>　また、奈良県と連携して地下回廊で県内において生産された物産品を販売する等、地域経済に貢献した。<br>・平城遷都 1300 年にちなんでミュージアムショップで記念グッズの取扱量を増やした。<br>・博物館のホームページリニューアルに伴い、ミュージアムショップの部分を全面改訂し、閲覧者に商品情報及び通信販売方法をわかりやすく工夫した。<br>・ミュージアムショップで博物館監修のオリジナルグッズを販売し、今年度も新商品を追加した。 | | | |
| 補足事項 | <br>平城遷都 1300 年記念グッズ<br><br>博物館監修オリジナルグッズ新製品 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2334

| 中項目 | 2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 |
|---|---|

| 事業名 | (3)快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等の改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 広報課 | 事業責任者 | 広報課長　不動勝義 |
| 実績・成果 | ① ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。<br>② レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。 | | | |
| 補足事項 | ① 博物館の記念セレモニーに合わせ、来店者にプレゼントサービスを実施するとともに、記念セット商品（詰め合わせ商品）を販売した。<br>また、オリジナル商品等のモチーフとなった文化財について説明したポップや看板を増やし、さらに特別展毎にテーマに沿った商品陳列を行うなど、展示の延長となるようなショップづくりに努めた。<br>② 特別展に関連したメニューを提供した。<br>特別展「京都妙心寺　禅の至宝と九州・琉球」では、白菜京風クリーム煮、豆乳湯葉万十、鮭西京焼など、京都を感じさせる期間限定弁当を提供した。 | | | |



開館 4 周年詰め合わせ商品



特別展メニュー

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

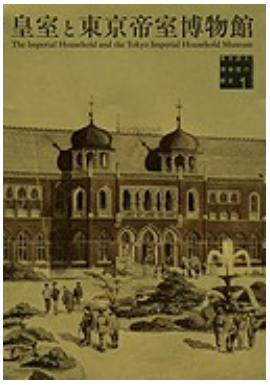
| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し改善する。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3111

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　収蔵品等に関する調査研究の成果の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 出版企画室長　立道惠子 |
| 実績・成果 | 定期刊行物（研究誌『MUSEUM』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録）6 件、特別展図録・特集陳列印刷物（特別展図録『染付―藍が彩るアジアの器』・『趙之謙とその時代～趙之謙生誕百八十年記念展』等）10 件、特集陳列リーフレット（古代ガラスの発達「吹きガラス」への道等）3 件、その他（『東洋美術 100 選』英語版・中国語版）2 件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究の成果を発信することができた。 | | | |
| 補足事項 | ・　『MUSEUM』620 号は、平成 20 年度特集陳列「六波羅蜜寺の仏像」に際し、同寺のご許可をいただいて行なった撮影・調査の詳細な報告である。今回取り上げられている作品の中には、詳細なデータが初めて公表されたものもあり、斯界の研究に寄与するところが大きい。<br>・　150 年史編纂プロジェクトの一環として『MUSEUM』に掲載する館史研究は、今年度は 1 本の論文を掲載した。<br>・　『東洋美術 100 選』英語版・中国語版は、海外からの観覧者に対応するものである。<br>・　『図版目録近代彫刻篇』は、当館の近代彫刻のみならず模造・模刻、海外からの寄贈品などを含み初期博物館の収集活動という観点からも注目される。また補遺として『日本彫刻篇』(1999 年)以降に収蔵された彫刻列品を掲載した。<br>・　特別展『染付』は自主企画展のため、図録の刊行を当館が行なった。この分野では最新の研究の成果を分かりやすく表現したもので、観覧者の 9.7%が図録を購入した。<br>・　特集陳列の図録のうち『皇室と東京帝室博物館』『東京国立博物館所蔵正倉院の織物』は、同時期開催の「皇室の名宝」に関連したものである。特別展に関連した特集陳列を本館で行なうことで当館の平常展の活性化を目指すとともに、発行する図録は参考図版も多く取り入れ、資料的価値を高めた。 | | | |



特集陳列「皇室と東京帝室博物館」図録

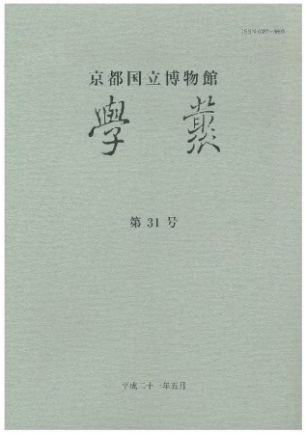
| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 定期刊行物 | 6 件 | 6 件 | A | 経年 | 5 | 5 | 6 | 6 |
| | 特別展図録・特集陳列印刷物 | 10 件 | 8 件 | A | 変化 | 6 | 6 | 11 | 10 |
| | その他 | 2 件 | 3 件 | B | | - | 1 | 2 | 2 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会にかかわる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3112

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | ・研究紀要「学叢」第 31 号を刊行<br>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「妙心寺」を開催し、図録を刊行した<br>・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を開催し、図録を刊行した<br>・サンクトペテルブルクにおける調査を盛り込んで特別展覧会「シルクロード 文字を辿って」を開催し、図録を刊行した<br>・ウィーンにおける調査成果を盛り込んで特別展覧会「THE ハプスブルク」を開催し、図録を刊行した<br>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催(10/23) | | | |
| 補足事項 | ・『学叢』第 31 号で、論文 4 本、調査報告 2 本、修理報告 1 本を発表した<br>・妙心寺の本坊と山内塔頭を網羅的に調査し、多数の新出作品が発見され、展覧会での公開、図録での調査成果の公表がなされた。<br>・日蓮法華宗京都十六本山を中心とする社寺調査により、新出作品または所在不明だった作品が多数発見され、展覧会での公開、図録での調査成果の公表がなされた。<br>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催し、47 人が参加し、活発な討論が行われた。また、本シンポジウムの報告書の刊行準備をすすめている。 | | | |



『学叢』第 31 号

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3113

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (1) 収蔵品等に関する調査研究の成果の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 企画室長　稲本泰生 |

**実績・成果**

・『国宝　鑑真和上展』(特別展図録)、『聖地寧波－日本仏教1300年の源流』(特別展図録)、『第61回正倉院展』(特別展図録)、『The 61th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上5冊の展覧会目録を刊行した（以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。
・上掲の三つの特別展会期中に、「鑑真和上・唐招提寺フォーラム2009」(5月2日、神戸新聞松方ホール、参加者数385名)、正倉院学術シンポジウム「皇室と正倉院宝物」(10月31日、奈良県新公会堂、参加者数184名）を開催した。
・読売新聞「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」及び産経新聞に「祈りの美」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展覧会開催期間中にも読売新聞・朝日新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。
・前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。
・研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。
・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12号（平成22年3月刊行）に「奈良国立博物館文化財保存修理所　修理一覧（平成20年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。

**補足事項**

① 特別展・特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究の成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。
② 三回の特別展の会期中、それぞれの内容に応じた学術シンポジウム・フォーラムを開催した。いずれも第一線で活躍する研究者を招聘し、知的刺激に満ちた研究発表・討論を催すことができた。
③ 新聞紙上で展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。



正倉院学術シンポジウム

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 展覧会図録刊行 | 5冊 | | | 経年変化 | | | | |
| シンポジウム開催 | 3回 | | | | | | | |
| 研究発表・講演 | 35回 | | | | | | | |
| 研究論文等 | 22本 | | | | | | | |
| 「たより」刊行 | 4回 | | | | | | | |
| 修理資料整理 | 29件 | | | | | | | |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3114

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （1）収蔵品等に関する調査研究の成果の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館科学課<br><br><br>企画課<br>交流課 | 事業責任者 | 環境保全室長　今津節生<br>保存修復室長　藤田励夫<br>主任研究員　鳥越俊行<br>文化交流展室長　河野一隆<br>主任主事　久保田資子 |
| 実績・成果 | ①CT スキャン調査研究成果の報告<br>研究発表（当館紀要および関連学会)、講演、テレビ番組<br>『東風西声』第 4 号（当館紀要）<br>文化財保存修復学会大会第 31 回大会　6 月 13・14 日<br>日本文化財科学会大会第 26 回大会　7 月 11 日・12 日<br>東アジア文化遺産保存学会　10 月 16 日<br>中国考古学会　10 月 31 日<br>②ハノイ・ベトナムフェア関連イベント「ベトナム文化講演会」<br>ベトナム歴史博物館及び国内からベトナムに関する研究者を招聘し、ベトナム陶磁、ドンソン時代の青銅器、世界遺産ホイアン、九博所蔵文書とベトナム史に関する講演会を開催。<br>③トピック展示「進化する博物館Ⅱ」平成 22 年 2 月 9 日～3 月 28 日<br>④トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の開催と図録刊行。<br>展覧会は平成 22 年 2 月 21 日から 3 月 28 日。<br>⑤研究紀要『東風西声』第 5 号を刊行（3 月発行） | | |
| 補足事項 | ①当館紀要および､国際学会を含む 4 つの学会で研究発表を行い、社会への情報発信を行った。<br>②この文化講演会の開催が､今後相互交流を検討しているベトナム歴史博物館との人脈の形成の第一歩となった。<br>③みる・きく・ふれる、中国古代青銅器へのいざないをテーマとし、デジタル技術で作製した複製品に触れながら本物の文化財を観察する展示で、一般の方々への情報発信を行った。<br>④文化財修理や日韓文化比較研究について、一般の方々へ情報発信することができた。 | <br>進化する博物館 | <br>文化講演会の様子<br><br>巨大掛け軸 | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 文化講演会　参加者 | 134 人 | | | 経年変化 | ― | ― | ― | 134 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 3210

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 本部事務局総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績・成果 | ・文化庁と国立文化財機構の共催事業として「アジア博物館研究集会」を開催し、アジアの伝統文化と世界への発信をテーマに、10カ国・12名によるスピーチと、5カ国・6名によるパネルディスカッションを行った。<br>・自国の伝統文化をどのように保護し、次世代へ継承していくのか、アジア伝統文化をどのように世界に発信するのかについて、相互に情報共有し、またその重要性を再確認する場となった。 | | | |
| 補足事項 | 実施日　平成 21 年 10 月 30 日(金)、31 日(土)<br>主　催　文化庁・国立文化財機構<br>会　場　東京国立博物館平成館大講堂（第 1 部、第 2 部）<br>九州国立博物館ミュージアムホール(第 3 部、第 4 部)<br>出席者　東京会場　201 名、九州会場　118 名　計 319 名<br>うち、海外参加者　17 カ国・地域、27 館、40 名<br><br>＜スケジュール＞<br>基調講演　「国の文化遺産保護政策と国立博物館の果たす役割」(東京国立博物館)<br>スピーカー1　「グローバル化の時代に韓国文化を広める：韓国文化遺産の海外展覧会と海外博物館での韓国ギャラリー運営の支援」(韓国国立中央博物館)<br>スピーカー2　「国際化へ向けて－中国国家博物館の展望」(中国国家博物館)<br>スピーカー3　「カンボジアの文化遺産と現代への継承」(カンボジア国立博物館)<br>スピーカー4　「ネパールの文化遺産：保護と公開」(ネパール国立博物館)<br>スピーカー5　「文化財情報活用の新たな試み：ミュージアムシアタープロジェクト」(東京国立博物館／凸版印刷株式会社)<br>スピーカー6　「ベトナムにおける伝統文化教育」(国立ベトナム歴史博物館)<br>スピーカー7　「若い世代での文化促進におけるインドネシア国立博物館の役割」(インドネシア国立博物館)<br>スピーカー8　「モンゴル国立博物館の伝統文化普及」(モンゴル国立博物館)<br>スピーカー9　「魅力ある展示へ　アジア交流展示とアジアの伝統の発信」(九州国立博物館)<br>スピーカー10　「来館者と関わり合うこと：アジア文明博物館の経験」(シンガポール・アジア文明博物館)<br>スピーカー11　「東洋と西洋の間で：トルコにおける文化交流展示」(トルコ・トプカプ宮殿博物館)<br>パネルディスカッション　「多様な価値観とアイデンティティーアジア間での交流、そして世界へ」 | | | |



アジア博物館研究集会（東京会場）



アジア博物館研究集会（九州会場）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | － | － | － | | | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3211

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （2）海外研究者の招聘等研究交流の実施（1/2） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部企画課 | 事業責任者 | 国際交流室長　鬼頭智美 |
| 実績・成果 | 海外より計 26 名の研究者を招へいし、当館研究員延べ 16 名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、アジア国立博物館協会理事会・定期大会およびアジア博物館研究集会の主催館として、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、アジアの国立博物館間における連携を深めた。海外参加者数：17 ヶ国 40 名。<br>さらに、韓国より 1 名、スコットランドより 1 名研修生を受け入れ、博物館の運営・活動について、当館のノウハウを学んデータだく機会を提供した。 | | | |
| 補足事項 | ・欧米、中国、韓国、南東アジア、南アジアより 26 名の研究者を招へい。また当館研究員延べ 16 名を欧州、北米、中国、韓国、スリランカへ派遣した。これらの交流活動により、欧米およびアジア主要館との連携を強化するとともに当館収蔵品とその保存・活用（教育普及）についての意見交換を行い、さまざまな新知見を得た。<br>・海外展として、アメリカ・バウワーズ博物館で開催した収蔵品展「サムライの美術：東京国立博物館精選展」は、多方面から高い評価を得た。来年度以降も、アメリカのヒューストン美術館に新設される日本室への貸与協力のほか、上海万博記念展やトルコにて収蔵名品展を開催すべく準備を進めている。<br>・欧米の主要館が構成する国際展覧会オーガナイザー会議（IE0）に運営委員会メンバーとして継続参加、欧米各館に対して、日本の博物館美術館の近況紹介および経費削減に向けての努力などについて情報交換を行い、欧米主要館とのネットワーク強化につとめた。 | | | |


日中韓国立博物館長会議（21 年 10 月）


バウワーズ博物館「サムライの美術」展

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 海外研究者の招聘 | 26 名 | 6 名 | S | | 9 | 10 | 15 | 26 |
| | 海外への研究者派遣 | 16 名 | 6 名 | S | | 14 | 22 | 25 | 16 |
| | 海外研修生の受入 | 2 名 | 2 名 | A | | 2 | 2 | 4 | 2 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3211-2

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （2）海外研究者の招聘等研究交流の実施（2/2） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館教育課 | 事業責任者 | 教育普及室長　浅見龍介 |
| 実績・成果 | ・国際シンポジウムの開催<br>「伝統文化を伝えるために博物館ができること」というテーマで1月24日に開催した。伝統文化はどの国でも人々にとって縁遠いものになりつつあるが、国の特色を示すものとして、保護、継承が望まれる。伝統的な美術工芸作品を所蔵、展示する博物館は、そのために努力しているが、観覧者と作品の間に横たわる溝を埋めるのは容易でない。有効な方法を、事例報告、パネルディスカッション、ポスターセッションによって探ろうと企図したものである。 | | | |
| 補足事項 | ・シンポジウムは 2 部構成で行なった。第 1 部は当館の事例報告。第 2 部は、他館、他国の報告である。<br>招聘した研究者は、山本勉（清泉女子大学）、大野康男（千葉県立房総のむら）、ジュリエット・フェリッチ（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館）、デヴィッド・アーノルド（オーストラリア国立博物館）、カレン・チン（シンガポール国立アジア文明博物館）。<br>当館の発表者は、鈴木みどり、今井敦。<br>・ポスターセッション参加館は 18 館。 | | | |




国際シンポジウム
パネルディスカッション　実施風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国際シンポジウム参加者 | 170 人 | ― | ― | 経年変化 | 152 | 285 | 190 | 170 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3212

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | ・海外からの研究者の招聘　29 名<br>・海外への研究員の派遣　13 名<br>うち、国際会議への派遣　3 名<br>・国際シンポジウム「法華の人と文化―その行動と思想―」(11/14)を開催<br>・文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」を推進。ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」を開催した(12/16-17) | | | |
| 補足事項 | ・国際シンポジウム「法華の人と文化―その行動と思想―」(11/14)<br>フランス国立高等研究院　宗教学部ジャン-ノエル・アレキサンドル・ロベール教授<br>プリンストン大学　宗教学部ジャクリーン・I・ストーン教授の 2 名を迎え、国内外の研究者 3 名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論がなされた。288 人が参加し、熱心に聞き入っていた。<br>・特別展覧会「シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」<br>ロシア科学アカデミー東洋写本研究所<br>イリナ・ポポヴァ所長　　ほか 3 名<br>を作品随伴、展示立会い、開会式出席、土曜講座講師として招へいした。<br>・文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業<br>「中国近代絵画に関わる国際研究交流」<br>ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」(12/16-17)<br>オハイオ州立大学　ジュリア・アンドリュース教授<br>台北故宮博物院前書画処長　王耀庭氏<br>ほか 13 名を招へいし、発表者 18 人を含む合計 54 人の参加者を得て、日本における中国近代絵画研究の意義などについて活発な意見交換がなされた。<br>当日の成果は論文集として 3 月に刊行した。<br>その事前調査として、当館の中国近代絵画コレクション調査に 8 名を招へいした。<br>・研究員を展覧会作品調査、科研費調査、文化庁海外展協力及び国際会議出席などで派遣した。<br>ロシア連邦 2 名、中国 4 名、インドネシア 1 名、英国 1 名、台湾 1 名、アメリカ 1 名、韓国 1 名、ベトナム 1 名、イタリア 1 名 | | | |



中国近代絵画研究者国際交流集会

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 海外からの研究者招聘 | 29 人 | 5 人程度 | S | 経年変化 | 9 | 7 | 9 | 29 |
| | 海外への研究員の派遣 | 13 人 | 6 人程度 | S | | 15 | 21 | 18 | 13 |
| | 国際シンポジウム参加人数 | 288 人 | ― | ― | | 152 | 285 | 190 | 288 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 企画室長　稲本泰生 |
| 実績・成果 | ・国際交流協定を結んでいる 4 館のうち 3 館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館（館員 3 名を 6 日間）、中国・河南博物院（研究員 2 名を 1 ヶ月間）、韓国国立慶州博物館（研究員 1 名を各 1 ヶ月間）である。<br>・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか 1 名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。<br>・特別展「聖地寧波」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者（米国 4 名、中国 6 名、韓国 4 名）をクーリエとしてまた中国・浙江省の文化財関係者 4 名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行った。<br>・特別展「聖地寧波」会期中の 8 月 8 日・9 日に実施した国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」では、外国人研究者 4 名（米国・中国・台湾）が司会・研究発表を担当した。<br>・特別展「聖地寧波」の事前調査のために中国・浙江省に 4 名の研究員を派遣し、開催に際してはクーリエとして 4 名の研究員を中国・韓国に派遣した。併せて今後の両国における文化財調査に向けた情報収集を行った。<br>・特別展「第 61 回正倉院展」では正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。<br>・22 年度の特別展「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」開催の事前調査のため中国にのべ 2 名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。 | | | |
| 補足事項 | ①　国際交流協定を結ぶ 4 館との間の交流では、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。<br>②　特別展「聖地寧波」に際してはクーリエ・代表団との間で実りある交流を行うことができ、国内外から多数の研究者が参加した国際学術シンポジウムでも、同展開催に際して蓄積した研究成果を、世界に向けて発信することができた。<br>③　当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジア的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。<br>④　21 年度の海外の研究者招聘人数が増加しているのは、招聘理由がその他の招聘の場合も含めて実績とすることとしたため。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 海外の研究者招聘 | 29 人 | 6 人程度 | S | 経年変化 | 10 | 9 | 9 | 29 |
| | 職員の海外への派遣 | 30 人 | 6 人程度 | S | | 16 | 6 | 6 | 30 |
| | 国際シンポジウム開催 | 1 回 | － | － | | － | － | － | 1 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3214

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （2）海外研究者の招聘等研究交流の実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>交流課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央<br>主任主事　久保田資子 |

**実績・成果**

①海外研究者の招聘（37 人）
- JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修生受け入れ
- ベトナム文化講演会による招聘
- 平成 21 年度 文化庁　アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘
- 平成 21 年度 九州国立博物館文化財保存国際交流セミナーへの招聘
- 国際シンポジウムによる韓国研究者の招聘

②海外への研究者派遣（46 人）
- ベトナム民族博物館での中秋節イベントへの協力

③国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流　－祈りのかたち　日本と韓国－」開催

**補足事項**

①JICA 草の根技術協力事業

平成 19 年度から 3 ヶ年、独立行政法人国際協力機構と協力して、タイ王国を対象に「文化財の保存と地域の活性化」を実施。本事業では、博物館を中心に「文化遺産をいかに保存・活用」して、それを「どのように地域社会に還元していくのか」に焦点をおいた専門家派遣とタイ王国からの研修生受入を行った。本事業で培った人的交流を礎に、2011 年にタイ・バンコク国立博物館で文化庁海外展を開催する予定であり、JICA 草の根技術協力事業も更に 1 年間、専門家派遣事業として継続する予定である。


研修の様子

②ベトナム民族博物館における中秋節イベントへの協力

九州国立博物館では、ベトナム民族博物館からの依頼を受けて、同館で開催された中秋節のイベントに協力した。本件は、研究員が当館収蔵品の修理のため、ベトナムの伝統紙を調査したことがきっかけで、ベトナム民族博物館からイベントへの協力要請があったものである。

ベトナムの中秋節は子どものためのイベントであることから、「紙」と「日本のあそび」をテーマにしたワークショップを実施。3 日間でベトナムの子供たちをはじめ、20,000 人以上が参加した。


手漉き和紙のワークショップの様子

③トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流　祈りと暮らしのかたち」に関連して、韓国及び国内から仏教絵画の専門家及び絵画の修理経験が豊富な技術者を招き、「巨大な仏画」をテーマにしたシンポジウムを開催した。また、シンポジウムの開催に合わせて友好館である韓国国立公州博物館ほか、トピック展の協力者である韓国国立古宮博物館、京畿道博物館から研究員を招聘し、研究交流を図った。


国際シンポジウムの様子

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 海外研究者招聘 | 37 人 | 3 人 | S | 経年 | 17 | 38 | 18 | 37 |
| 海外への研究員の派遣 | 46 人 | 4 人 | S | 変化 | 32 | 44 | 35 | 46 |
| 国際シンポジウム　回数 | 1 回 | － | － | | 3 | 4 | 1 | 1 |
| 国際シンポジウム参加者 | 300 人 | － | － | | 640 | 586 | 385 | 300 |

**年度実績評価総括**

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ

（Ｓ、Ｆの理由）

**中期計画記載事項**

海外の優れた研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催するなど、博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3311

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部保存修復課 | 事業責任者 | 保存修復課長　神庭信幸 |
| 実績・成果 | 1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「第 1 回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（後期）」（平成 21 年 8 月 3 日（月）～14 日（金）の 10 日間)、及び「第 2 回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（前期）」（平成 21 年 8 月 31 日（月）～9 月 11 日（金）の 10 日間)を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。<br>2. 平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業により「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」を 12 月 15 日～20 日に実施し、国内外の専門家による作品調査会、専門家によるワークショップ及び一般参加者も含めた国際シンポジウムを開催し、古代染織品についての保存に関して理解を深めた。<br>3. 文化財保存修復学会との共催により、公開シンポジウム「文化財をまもる－文化財のまもり手を育てる－（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B)」」を開催した。<br>4. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を 3 月 20 日（土）に開催。「十六羅漢図」の修理事例及び「国宝阿修羅」の輸送事例の発表、特集陳列の解説を実施した。<br>5. 大学院生のインターンを平成 22 年 2 月 8 月(月)～19 日(金)間での間、2 名受け入れた。 | | | |
| 補足事項 | 1. セミナーカリキュラムは 5 テーマに沿って 2 年間で 120 時間分を履修する。①「保存修復事業における調査診断法－」、②「環境保全概論」、③基礎修理設計、④基礎材料論、⑤特講。後期参加者は 22 名、前期参加者は 29 名であった。<br>2. 招聘研究者は以下の通りである。中国絲綢博物館　（1 名）、メトロポリタン美術館　（3 名）、ベルギー王立文化財研究所　（元所属者 1 名）、サウザンプトン大学　（元所属者 1 名）、アベック財団　（1 名）、大英博物館　（1 名）、宮内庁正倉院事務所　（3 名）、女子美大学美術館　（1 名）。調査会参加者は 18 名、ワークショップ参加者は 30 名、シンポジウム参加者は 217 名であった。<br>3.「文化財をまもる－文化財のまもり手を育てる」参加者は専門家および一般を合わせ 259 名であった。<br>4. 大学院生インターンは東北芸術工科大学芸術文化専攻保存修復領域修士 2 年 1 名、京都造形芸術大学芸術研究科芸術文化研究選考修士 1 年 1 名であった。 | | | |



「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」の一環として実施した 12 月 19 日開催のワークショップ風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研修会開催 | 4 回 | － | － | 経年 | － | － | 1 | 4 |
| | インターン受入れ | 2 人 | － | － | 変化 | － | － | 3 | 2 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 3312

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 保存修理指導室長　村上　隆 |
| 実績・成果 | ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。<br>また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。<br>・当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。<br>参加者　「妙心寺」展　52人<br>「シルクロード文字を辿って」展　39人<br>「日蓮と法華の名宝」展　39人<br>「THE ハプスブルク」展　25人<br>・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。<br>参加大学院生：3名 | | | |
| 補足事項 | ・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。<br>・文化財修復に関わる大学院生をインターンとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研修会開催 | 4回 | － | － | 経年変化 | | 3 | 3 | 4 |
| | 実習生受け入れ | 3名 | － | － | | | 1 | － | 3 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3313

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部保存修理指導室 | 事業責任者 | 上席研究員　鈴木　喜博 |
| 実績・成果 | ○修理所巡回を一年のうち6回実施した。館長、副館長及び学芸部研究員が修理所の各3工房を視察した。修理途中の文化財の修理状況を継続的に観察し、修理の工程を広く知る場を設け、館全体の修理の認識を高めることに努めた。<br>○平成22年2月15日（月）　午後5時から6時30分。当館講堂。<br>文化財保存工房の絵画書跡の修理状況について、近年の実績のなかから、春日曼荼羅〈愛知県美術館〉、泉福寺経（当館蔵）の修理を取り上げ、修理品の概要、修理中の調査及び新知見、修理方針、修理技術などについて、パワーポイントを駆使して発表し、他の修理所工房のスタッフ、学芸部研究員と討議を行い、文化財修理に対する多様な価値観及び思想について見識を深めた。あわせて解説ボランティアも傍聴し、修理に関する理解を深めることが出来た。 | | | |
| 補足事項 | ○平成22年2月9日(火)　昨年度に引き続き、文化財保存修理所の特別見学（第2回目）を開催し、一般の方々に対する文化財修理及び保護について広く知ってもらう機会をとなった。なお、本年は募集定員の3倍の応募者があり、盛況であった。参加して善かったとの声が多数寄せられた。 | | | |


参加費無料　（往復はがきによる事前申込み制）
奈良国立博物館バックヤードツアー
『文化財保存修理所』
特別公開（事前申込）
◆公開日 平成22年2月9日（火）
第1回 10：00～
第2回 13：00～
第3回 15：00～
（各回 約70分）
◆定員 各回 30名
【内容】ふだんは一般公開していない修理所を、当館研究員の解説により見学していただきます。
①当館研究員が文化財修理の工程を具体的な作品を通して解説を行います。（約30分）
②文化財保存修理所を当館研究員の解説付きで見学していただきます。（約30分）
※修理所の見学は立続となります。工房への入室はできません。
また、写真撮影（携帯電話含む）はご遠慮ください。
■申込み方法　往復はがきによる郵送に限ります。
○「文化財保存修理所特別公開」と明記の上、【希望する回（1回目・2回目・3回目・どの回でもよい）・氏名・郵便番号・住所・電話番号・参加者数】をご記入ください。
※1枚のはがきで、2名までの申込みが可能です。※応募事多数の場合は抽選とします。
○返信用はがきには宛名・住所をご記入ください。
○応募締切　1月22日（金）必着
※2月5日（金）までに通知いたします。
■宛先・お問い合わせ
〒630-8213　奈良市登大路町50　奈良国立博物館　総務課　企画推進係
0742-22-4450（企画推進係）※月一度（祝日を除く）の9時～17時
■交通案内　※駐車場は用意しておりませんので電車・バスをご利用ください。
○近鉄奈良駅下車東へ徒歩約15分　○JR奈良駅または近鉄奈良駅から市内循環バス「氷室神社・国立博物館」下車すぐ
奈良国立博物館
Nara National Museum

修理所公開チラシ

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 研修会等の開催 | 1回 | － | － | 経年変化 | － | 2 | 1 | 1 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3314

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 博物館科学課 | 事業責任者 | 博物館科学課長　本田光子<br>特任研究員　村田忠繁<br>環境保全室長　今津節生<br>保存修復室長　藤田励夫<br>研究員　志賀智史 |

実績・成果

①紙文化財保存基礎講座
　a 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生 7 名対象）8 月 17～21 日
　b 古文書保存基礎講座（地元博物館文化財関係者 17 名対象）1 月 20 日、27 日
②文化財保存交流セミナー
　a「漆工品の保存修復」　7 月 14 日　参加者 61 名
　b「IPM・もっと知りたいシリーズ　甲虫の話」　22 年 2 月 28 日（日）
③文化財保存国際交流セミナー
　a「海外招聘事業　韓国の装こう修理 12 月 22 日　　参加者 16 名
　b「海外招聘事業　ベトナムの手漉き紙」22 年 2 月 5 日　　参加者 18 名
　c「中国古代青銅器の鋳造技術を探る」22 年 2 月 27 日
④ミュージアム支援者育成事業（文化庁受託事業）
　「市民と共にミュージアム IPM」
　研修会 4 回、ワークショップ 4 回、施設見学 4 回、シンポジウム 1 回　　登録者 50 名

補足事項


①a 文化財保存修復研修


①b 古文書保存基礎講座


②a 漆工品の保存修復


③a 韓国の装こう修理


③b ベトナムの手漉き紙



④市民と共にミュージアム IPM

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研修会等開催回数 | 20 回 | 19 回 | A | 経年変化 | | 11 | 10 | 20 |

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Ｆの理由）

中期計画記載事項

博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3411

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (4) 公私立博物館等への貸与の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部列品管理課 | 事業責任者 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 実績・成果 | ・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。<br>・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。<br>・平成 17 年度に始まった長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物約 80 件の長期貸与は本年度も継続して実施中である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。<br>・イタリア共和国ミラノ市のパラッツオレアーレで開催された「日本・その力と輝き 1568-1868」に、「特別協力」の立場で参加し、展覧会開催に貢献した。<br>・韓国国立中央博物館の平常展示のため、平成 22 年 2 月に東南アジアの彫刻 5 件を貸与した。貸与期間は 2 年間の予定である。 | | | |
| 補足事項 | ・貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行っている。<br>・法人の考古資料相互貸借事業経費により、茨城県立歴史館には 16 件を貸与し 14 件を借用、埼玉県立さきたま史跡の博物館には 11 件を貸与し、16 件を借用した。借用品により、当館では特集陳列「古代・中世の茨城－経塚・板碑・和鏡－」、特集陳列「茨城の弥生再葬墓」特集陳列「埼玉県寿能泥炭層遺跡出土の木製品と漆製品」を開催した。<br>・パラッツオレアーレ日本展に対しては、当館は共催者でないが、特別協力の立場から異例の協力を行った。全展示品が日本からの出品(214 件、うち国宝 1、重文 14 件)であり、作品の集荷、通関、輸送、展示、展示替、撤収の実務を日本側（大阪市立美術館、当館ほか）が担当した。展覧会開催のため、当館は展示・展示替、撤収の作業に延べ 8 名の職員を派遣するなど、多大な努力を行った。<br>・平成 18 年度以降、貸与先件数・貸与件数とも連続して減少している。地方自治体等の財政難による展覧会規模の縮小が背景にあるものと思われる。 | | | |





上：特集陳列「茨城の弥生再葬墓」
下：「日本・その力と輝き 1568-1868」（イタリア・ミラノ市）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貸与件数 | 1104 件 | － | － | 経 | 1,471 | 1,302 | 1,125 | 1104 |
| | うち国内の貸与件数 | 913 件 | 1,000 件 | B | 年 | 1,329 | 1,118 | 1,012 | 913 |
| | うち海外の貸与件数 | 192 件 | 50 件 | S | 変 | 142 | 184 | 113 | 192 |
| | 貸与先施設数 | 124 件 | － | | 化 | 146 | 149 | 135 | 124 |

| 年度実績評価総括 | S　A　Ⓑ　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館に対し、展示等の充実に寄与するための貸与を促進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3412

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (4) 公私立博物館等への貸与の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | ・68機関に対し428件の収蔵品貸与を行った。（うち海外2機関に対し28件）<br>館蔵品の貸与件数：201件<br>寄託品の貸与件数：227件<br>計　428件<br>・ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開 | | | |
| 補足事項 | ・ギャラリー建替中は作品貸出を停止する博物館・美術館が多い中で、当館は、公私立博物館・美術館からの要請を受け、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。<br>・ウェブページで、上記の貸与作品についての全リストを、貸与館・展覧会ごとに公開して、「京博の収蔵品がいまどこへいけば鑑賞できるか」の情報をリアルタイムで提供した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貸与件数 | 428 件 | 約 120 件 | S | 経年変化 | 232 | 171 | 246 | 428 |
| | うち海外への貸与件数 | 28 件 | ― | ― | | 8 | 3 | 1 | 28 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （4）公私立博物館等への貸与の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部列品室 | 事業責任者 | 列品室長　岩田茂樹 |
| 実績・成果 | ・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして 34 件、作品件数にして 108 件。<br>［貸与先内訳］（のべ）<br>国立 3 館、公立 23 館、私立 6 館、その他 2 館<br>［貸与作品内訳］<br>国宝 7 件、重要文化財 42 件、その他 59 件<br>館蔵品 54 件（絵画 15 件、彫刻 3 件、書跡 5 件、金工 5 件、考古 26 件）<br>寄託品 54 件（絵画 32 件、彫刻 12 件、書跡 4 件、金工 1 件、漆工 1 件、考古 4 件） | | | |
| 補足事項 | ・目標値をクリアしており、順調に推移している。<br>・単に数的目標に到達することを第一義とするだけではなく、展覧会の意義と作品の保存状態を慎重に検討しつつ貸出を行っている。 | | | |



感応使者像

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貸出件数 | 108 件 | 100 件 | A | 経年 | 161 | 137 | 163 | 108 |
| | うち海外への貸与件数 | 1 件 | － | － | 変化 | 36 | 3 | 2 | 1 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3414

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （4）公私立博物館等への貸与の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 文化財課 | 事業責任者 | 研究員　原田あゆみ |
| 実績・成果 | 国内 14 機関・海外 1 機関に所蔵品および借用品を貸与した。 | | | |
| 補足事項 | ○国内機関への貸与については、文化庁・奈良国立博物館・国立歴史民俗博物館のほか、九州・沖縄管内外の公私立博物館・美術館（長崎歴史文化博物館・九州歴史資料館・宮崎県立西都原考古博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・下関市立考古博物館・花巻市博物館・奄美市立奄美博物館・伊達市噴火湾文化研究所・名古屋市博物館・サントリー美術館・茶道資料館など）からの出品要請に協力し、国宝 1 件・重要文化財 22 件を含む所蔵品・借用品を貸与した。<br>○海外機関への貸与については、メトロポリタン美術館特別展「朝鮮王朝前期の韓国美術 1400 年～1600 年」への出品要請に協力し、所蔵品を貸与した。<br>○福岡県立アジア文化交流センター所蔵作品の貸与件数も遡って加え、また会議承認年度ではなく実際の貸与時期に対する統計としたため、従来の数字と異なっている。 | | | |



重要文化財　油滴天目茶碗（当館保管）
茶道資料館秋季特別展「わび茶の誕生―珠光から利休まで―」出品

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 貸与件数 | 72 件 | － | － | 経年変化 | 173 | 104 | 105 | 72 |
| | うち海外への貸与件数 | 1 件 | － | － | | 1 | 31 | 30 | 1 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品については、作品それぞれの状態を勘案しつつ、国公私立の博物館・美術館に対し、展示などを充実させるため貸与を推進する。情報を公開するなどして、貸与に関する具体的措置を講ずることとする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3511

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (5) 公私立博物館等に対する援助・助言 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸研究部 | 事業責任者 | 学芸研究部長　島谷　弘幸 |
| 実績・成果 | 文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（78 件）<br>文化財の展示にかかる指導助言（12 件）<br>講演会やセミナー等における講演等での協力（37 件）<br>作品の展示・保存環境についての調査・指導（12 件） | | | |
| 補足事項 | ・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。<br>・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公私立博物館・美術館への援助・助言件数 | 139 件 | 40 件 | S | 経年変化 | 56 | 124 | 134 | 139 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3512

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (5) 公私立博物館等に対する援助・助言 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 企画室長　久保智康 |
| 実績・成果 | 文化財の展示、修理にかかる指導助言（18 件）<br>文化財の調査にかかる指導助言（31 件）<br>講演会、セミナー等における講演等での協力（17 件）<br>地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（48 件） | | | |
| 補足事項 | 文化財の展示、修理にかかる指導助言<br>・富山県水墨美術館「日本の美　国宝との出会い」展への特別協力<br>　展示・展示替え・撤去等の指導を行った<br>・岡山県立博物館「建仁寺」展　展示・撤去の指導<br>・国立新美術館「THE ハプスブルク」展　展示・撤去の指導<br>・石見銀山資料館　展示・調査の指導<br>・文化庁・メトロポリタン美術館「The Art of Samurai」展　撤去の協力<br>・宮内庁　皇室美術工芸品の修理指導　他<br><br>文化財の調査にかかる指導助言<br>・成城大学　金剛寺蔵の聖教調査<br>・沖縄県教育委員会　沖縄のガラス・玉等製品関係調査<br>・徳川美術館　染織作品調査　他<br><br>講演会、セミナー等における講演等での協力<br>・文化庁　指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師<br>・山梨県立博物館　「金・銀・銅サミット in 甲州」講師<br>・北海道大学大学院大学　国際ワークショップ講師　他<br><br>地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力<br>・滋賀県文化財保護審議会<br>・越前市文化財保護委員会<br>・伊丹市文化財保護委員会<br>・天橋立世界遺産登録可能性検討委員会学識者ワーキング<br>・愛知県史編さん委員会文化財部会　他 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公私立博物館･美術館への援助・助言件数 | 114 件 | 12 件 | S | 経年変化 | 36 | 81 | 114 | 114 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　3513

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | (5) 公私立博物館等に対する援助・助言 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部企画室 | 事業責任者 | 企画室長　稲本泰生 |
| 実績・成果 | ・「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」（富山会場＝富山県水墨美術館、21 年 4 月 4 日～5 月 17 日、石山寺・本展実行委員会主催。浜松会場＝浜松市美術館、同 7 月 18 日～8 月 23 日、同館・静岡新聞社・静岡放送・石山寺主催。北九州会場＝北九州市立美術館、同 9 月 12 日～10 月 18 日、同館・石山寺・毎日新聞社主催）において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。<br>・「信貴山秘宝展」（名鉄百貨店本店、10 月 8 日～13 日）において学術協力を行い、集荷・陳列・撤収・返却の指導及び作品解説執筆などを行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 | | | |
| 補足事項 | ・「石山寺展」「信貴山秘宝展」への学術協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。また特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である石山寺及び信貴山朝護孫寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公私立博物館・美術館への援助・助言件数 | 25 件 | 5 件 | S | 経年変化 | 7 | 5 | 5 | 25 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3514

| 中項目 | 3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 |
|---|---|

| 事業名 | （5）公私立博物館等に対する援助・助言 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央 |
| 実績・成果 | 公私立博物館等で開催された研究集会および講演会において指導・助言を行った。 | | | |
| 補足事項 | 当館研究員が指導・助言を行った主なものとしては、以下のとおりである。<br>・　館内施設の保存環境整備および環境調査についての助言・指導（新九州歴史資料館）<br>・　博物館資料の保存管理についての講演（宮崎県総合博物館内宮崎県博物館等協議会）<br>・　考古学、博物館学と保護に関する国際セミナーにおける講演（タイ　バンコク国立博物館） | | | |



館長の講演風景

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公私立博物館・美術館等への援助・助言件数 | 39 件 | 12 件 | S | 経年変化 | 57 | 38 | 47 | 39 |

| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4111

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 1

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化的景観に関する調査研究　((1)-①-ア) |

【事業概要】　文化的景観の体系化や保護策に関する研究の一環として、文化的景観に関する基礎的な情報の収集・発信をおこなうとともに、文化的景観の計画論に関する研究集会を開催する。また、ケ-ススタディーとして高知県四万十川流域の文化的景観に関する調査研究報告書の作成を進める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 文化遺産部長　小野健吉 |

【スタッフ】　清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部特別研究員］、宮城俊作［客員研究員］

【主な成果】　文化的景観に関する基礎的な情報の収集、四万十川流域や宇治の文化的景観に関する現地調査等を通じて、文化的景観の価値評価、保存計画立案、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、報告書・論文・Web サイトを通じて成果を報告した。また、文化的景観研究集会(第 2 回)を開催し、価値評価と計画策定の考え方につき情報発信するとともに、昨年度開催の研究集会(第 1 回)の成果報告書を刊行した。

【年度実績概要】

1.　基礎的情報の収集・発信

文化的景観の基礎的･体系的な調査研究の一環として、文化的景観に関する基礎的な情報(国内の関係法令、各重要文化的景観の概要、文化的景観に関連する文献等)の収集をおこなった。収集した情報は、新たに開設した文化遺産部景観研究室 Web サイトにて順次公開するとともに、出版刊行物として『文化的景観資料集　1 重要文化的景観の概要』(報告書②)をまとめ、全国の関連自治体、図書館、研究機関に配布した。

2.　文化的景観保護に関する現地調査・研究

昨年度まで実施してきた四万十川流域の文化的景観に関する現地調査成果を整理・分析し、調査研究報告書の骨格をなす発表をおこなうとともに、宇治の文化的景観に関する受託研究や全国の文化的景観の視察と担当者との協議を通して、特に都市の文化的景観の価値評価と保存計画立案、文化的景観の整備・活用事業のあり方についての基本的な考え方を整理し、報告書等にまとめた。

3.　研究集会等の開催

「生きたものとしての文化的景観―変化のシステムをいかに読むか―」というテーマで、2009 年 12 月 18・19 日に奈良県歯科医師会館講堂で文化的景観研究集会(第 2 回)を開催し、計 158 名の参加を得た。発表は、基調講演 1 件、基調報告 5 件(1.農山村、2.集落景観、3. 都市、4. ものと土地、5. 民俗)、重要文化的景観等に関する取組の実績と課題に関する事例報告 5 件の計 11 件である。発表後、これらの講演者及び報告者、並びに座長の計 12 名による総合討議を行った。これに合わせ、『文化的景観研究集会(第 2 回)講演・報告資料集』(資料集③)を作成した他、昨年度開催した研究集会(第 1 回)の成果報告書(報告書①)を刊行した。



研究集会の様子

また、文化的景観に関する学術及び保護行政の情報・課題を共有し、議論を深める場として文化的景観学研究会を立ち上げ、会合を開いた。

【実績値】　研究集会開催数：1 回(資料集③)、参加者数：地方自治体職員(文化財、都市計画、企画ほか)等、158 名。報告書刊行：3 冊(①～③)、論文：7 件(④～⑩)、研究発表：6 件(⑪～⑯)

【備考】

報告書等：①『文化的景観研究集会(第 1 回)報告書』奈良文化財研究所、2009.12、②『文化的景観資料集　1　重要文化的景観の概要』奈良文化財研究所、2010.3、③『文化的景観研究集会(第 2 回)講演・報告資料集』奈良文化財研究所、2009.12

論文　：④惠谷浩子「文化的景観の輪郭と多様性」、『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6、⑤惠谷浩子「住民意識の反映としての文化的景観」(『ランドスケープ研究』73-1、2009.4)、⑥惠谷浩子「四万十川流域の文化的景観」『文化的景観研究集会(第 1 回)報告書』奈良文化財研究所、2009.12、⑦清水重敦「条坊パタ-ン」「宇治の文化的景観」惠谷浩子「ため池」(「古代はいま」『朝日新聞』2009.7-10)、⑧惠谷浩子「新たな遺産」「効率的な土地利用」「合理的な水利システム「農地と森林」「恵みと脅威の二面性」「林業地と港町」「未来描く手掛かり」(「ふるさと原風景」『高知新聞』2009.5-6)、⑨清水重敦「都市に生まれたスキマ」(『新建築住宅特集』284、2009.12)、⑩松本将一郎「小鹿田焼の里 -焼物の里の文化的景観-」(『遺跡学研究』6、2009.11)

研究発表：⑪惠谷浩子「文化的景観を継承するための住民意識　-意識と景観保全行動との因果関係の比較-」(平成21年度　日本造園学会関西支部大会、2009.10)、⑫惠谷浩子「広域の文化的景観をどう捉えるか　四万十川流域を事例として」(文化的景観研究集会(第2回)、2009.12)、⑬惠谷浩子「近代中宇治の都市構造」清水重敦「中宇治の伝統的家屋」宇治の伝統的木造家屋調査中間報告会、2009.9、⑭惠谷浩子「輪島市三井町の「アテ」 林業の文化的景観」かや～て2010、2010.2、⑮惠谷浩子「四万十川流域の文化的景観　景観から読み解く四万十川」四万十川自然再生協議会総会、2010.3、⑯清水重敦「宇治の伝統的家屋からみる歴史の重層性」宇治文化的景観フォーラム2010、2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4111

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 1

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考

文化的景観の保護行政が進展しつつも、基礎的情報や保護手法の具体的事例が不足している現状に対し、①保護行政に資する基礎的情報の整理・公開、②現地調査を通じた保護行政の手法についての独創性ある提案、③学術及び保護行政の可能性を広げる研究集会の開催、④情報の共有と議論の場の設定、をおこない、文化的景観を学術及び保護行政の両面において持続的かつ発展性のある領域へと広げていくことに貢献し得た。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

研究成果を 3 冊の報告書として出版刊行したほか、学術雑誌等における論文や研究発表による公表をおこなった。

本年度開催した研究集会には 158 名の参加を得、文化的景観の課題等に関する活発な議論ができた。また参加者の内 92%の参加者から有意義であったという評価を得た。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化的景観に関する基礎的情報の収集・発信、四万十川流域や宇治を対象とした現地調査・研究、研究集会等の実施、学会や学術雑誌等での研究成果発表と、年度当初の計画を十全に実施し、的確な成果を公表し得た。これらの成果を踏まえつつ、今後も文化的景観に関する保護行政及び学術に資する成果の的確な公表を目指し、基礎的調査研究と現地調査研究を進めていく。なかでも、文化的景観研究集会に関しては、地方公共団体や専門家等からの評価も高く、次年度以降もこれを開催していくべき事業であると判断される。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 文化的景観の体系化と保護行政に関する実践的研究に関して、基礎的研究、現地調査、研究集会の開催等を通じて、計画通り研究が進捗し、多くの成果を公表し得た。中期計画最終年度である次年度は、文化的景観に関する基礎的情報の収集・整理成果、そして四万十川流域の文化的景観の現地調査研究やその他の現地調査研究の内容を踏まえ、文化的景観の保護行政に関する調査研究報告書を刊行する。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4112

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 2

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 民俗技術に関する調査・資料収集 ((1)-①-イ)<br>無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 ((1)-④) |

【事業概要】

風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての調査研究を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。

また文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった民俗技術に関する基礎的な調査研究を実施し、保護施策に資するデータを提供する。

| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 無形文化遺産部長 宮田繁幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

俵木　悟(無形文化遺産部)、服部比呂美(客員研究員)

【主な成果】

民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報を整理・データ化し、データベース構築の検討を行った。

【年度実績概要】

1. 民俗技術に関する調査・資料収集

民俗技術に関する調査・資料収集として、香川県西讃地方で、八朔の馬節供に飾られる団子馬製作の技術について、現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』で報告した。

2. 無形民俗文化財の伝承状況に関する調査研究

無形民俗文化財の伝承状況の調査として、鹿児島県いちき串木野市に伝承される大里七夕踊りと虫追い踊りについて、とくに伝承組織に着目して現地調査と資料収集を行い、その成果を日本民俗学会年会で発表し、また『無形文化遺産研究報告』で報告した。

3. 研究集会の開催

第 4 回無形民俗文化財研究協議会を、「無形の民俗の伝承と子供の関わり」をテーマに、2009 年 11 月 19 日(木)に、東京文化財研究所セミナー室において開催した。5 件の事例報告(1.大磯の七夕行事の継承の取り組み、2.大鹿歌舞伎継承の取り組み、3.伝統文化こども教室事業の現状と課題について、4.直根小学校における民俗芸能への取り組み、5.餅・団子を通した様々な「発見」)をもとに、コーディネーター1 名、コメンテーター2 名を含めた総合討議を行なった。協議の成果は『第 4 回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。



民俗芸能の伝承組織調査の様子

4. 無形文化遺産の記録の所在情報のデータベースの構築

昨年度末までに収集した記録の所在情報を整理・データ化した。計 5,087 件(暫定)のデータが集まり、来年度のデータベース構築に向けての検討を行なった。その分析と今後のデータベース化についての見通しは、東京文化財研究所総合研究会で報告した。

【実績値】

研究集会等開催数：1 回(資料①)、参加者数：地方自治体文化財保護担当者等 107 名。
論文数：2 件(資料②③)
研究会等発表件数：3 件(資料④⑤⑥)

【備考】

①第 4 回無形民俗文化財研究協議会報告書』　2010.3
②俵木　悟「大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態」　『無形文化遺産研究報告』4　2010.3
③服部比呂美「八朔の馬節供　西讃地方の団子馬製作を中心に」　『無形文化遺産研究報告』4　2010.3
④俵木　悟「民俗芸能の稽古を通して見る社会組織の動態-大里七夕踊の事例から-」　第 61 回日本民俗学会年会 2009.10.4
⑤宮田繁幸“Scholar, Local government, and Local Community--A case study of the safeguarding of folk performing arts in Japan “Ayako-Mai””　国際会議「無形文化遺産と地域共同体」香港科技大学 2009.12.4
⑥俵木　悟「無形文化遺産の記録所在情報データベース構築に向けて-現状報告-」　東京文化財研究所総合研究会 2010.2.10

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 4112

自己点検評価調書

研究所 No 2

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
無形民俗文化財の伝承状況の調査を通じて、民俗芸能、祭礼、民俗技術など無形民俗文化財の種別の特性に応じた問題点を見つけ出し、その保護に資するための検討を行なうことができた。また研究協議会では、子どもたちに無形の民俗文化を伝えていくために、学校や地域社会の様々な組織のネットワーク作りが必要であることなどを、実例をもとに提案することができた。さらに無形文化遺産記録の所在情報のデータベース化について、データの整理分析がほぼ完了し、データベースの実現の見通しをつけることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等掲載数 | 研究会等発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
研究成果については、学会発表や学術雑誌等への公表を順調に行なうことができた。本年度開催した研究協議会には、107 名の参加を得、無形の民俗の伝承と子供の関わりというテーマにそって活発な議論が行なわれた。また 65%の参加者から「たいへん有意義だった」、35%の参加者から「有意義だった」との評価を得た。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 無形民俗文化財としての民俗技術や民俗芸能の伝承状況や伝承組織の調査と情報収集、無形民俗文化財の実施、学会や学術雑誌等での研究成果発表などを十分実施できた。伝承組織の実態の調査は、伝承者の不足に悩む多くの保護団体に対してアピールする面も大きいと考えられ、今後も継続していきたい。また無形民俗文化財研究協議会は、この数年、それまで以上の多数の参加者を集め、反響も大きくなっているので、テーマ設定を工夫するなどして、継続的かつ発展的に今後も取り組んでいきたい。さらに、全国の地方自治体における無形文化遺産の記録所在情報データベースは、多くの関係者の注目を集めており、実現すれば目に見える成果を多くの人々に提供することができると考えられ、来年度内の公開をぜひ実現したい。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、目的を順調に達成した。調査研究活動については、今後もこのペースを維持していきたい。平成 22 年度は、通常の調査研究活動に加え、無形文化遺産の記録情報データベースを完成させ、公開することを予定している。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4121

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 ((1)-②-ア) | | |

【事業概要】

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 文化形成研究室長　塩谷　純 |

【スタッフ】

中野照男(副所長)、田中　淳、勝木言一郎、津田徹英、山梨絵美子、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)、相澤正彦、吉田千鶴子、三上　豊、森下正昭(以上、客員研究員)

【主な成果】

(1)情報資料の収集のための調査：近現代美術の保存・修復に関する欧州調査。
(2)美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』のデータ入力。古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。
(3)研究会の開催：研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」の開催。オープンレクチャーの開催。
(4)研究成果報告書の編集・刊行：『黒田清輝フランス語資料集』の刊行。

【年度実績概要】

(1)情報資料の収集のための調査

近現代美術の保存・修復に関する調査を英国テートギャラリー、オランダ文化財研究所(ＩＣＮ)を中心に行った(森下)。

(2)美術史研究のためのコンテンツの形成

平成 22 年度に『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』を刊行すべく、古美術展カタログ等に散在する情報を抽出して統合するための仮登録作業を終えた(登録総数約 3，770 件、重複を含む)。続いて対象を絵画資料に絞って統合作業を進めた(約 560 件)(綿田)。既に当研究所ＯＢによってカード化されている古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化を行った。作業にあたっては目録(出典等)のみならず当該記事本文も入力し、公開時の利便性を図った。今年度は約 500 件の入力を終えた(土屋)。

(3)研究会の開催

2 月 25 日に研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」を平野明氏(セインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館)を発表者、出光佐千子氏(出光美術館)、森下をパネラーとして開催した。またオープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと 10 月 2・3 日に開催した。

(4)報告書の刊行

当研究所が保存している黒田清輝宛のフランス語書簡全 279 件と留学中に書かれたフランス語日記(1888 年、東京国立博物館蔵)の原文と翻訳、及び現地調査写真と研究論文によって構成した『黒田清輝フランス語資料集』を刊行した。

【実績値】

学会誌等への掲載論文数　3 件(①～③)
学会等での発表件数　　3 件(④～⑥)
報告書刊行件数　　1 件(⑦)

【備考】

①皿井　舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織(下)」　『美術研究』398　2009.8
②田中　淳「序論-黒田清輝フランス語資料集のために」『黒田清輝フランス語資料集』　2010.3
③森下正昭「コンテンポラリー・アートに関する美術館の新たな取り組み-英国テートギャラリーと INCCA のアーティスト・インタビュー・アーカイブ」　『美術研究』400　2010.3
④吉田千鶴子「今泉雄作「記事珠」の研究・中間報告-宝物調査日記を中心に」　企画情報部研究会　2009.9.30
⑤土屋貴裕「「異国」をこしらえる-「玄奘三蔵絵」をめぐって」　企画情報部オープンレクチャー　2009.10.2
⑥中野照男「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」　企画情報部オープンレクチャー　2009.10.3
⑦『黒田清輝フランス語資料集』　東京文化財研究所　2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4121
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 3

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 論文等掲載数 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今年度は英国テートギャラリー、オランダ文化財研究所（ＩＣＮ）での聞き取り調査や研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」の開催等を通して、とくに欧州における美術資料のあり方について積極的に情報収集を行い、一部を『美術研究』誌上で紹介した。一方で 2007 年度より継続して行っている『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』のデータ入力に加え、古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化に着手し、美術史研究に資するコンテンツの更なる充実を図ったためＡと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今年度は『黒田清輝フランス語資料集』を刊行、さらに次年度刊行予定の『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』の編集も順調に進んでいる。また当研究所で所蔵する、今泉雄作の明治 20 年から大正 2 年にかけての日記である『記事珠』全 38 冊の、宝物調査記録としての価値が確認され、今後、こうした新資料についてもより多くの研究者に活用されるよう検討していきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4122

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 4

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 近現代美術に関する総合的研究((1)-②-イ) |

【事業概要】

多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第一にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第二に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、塩谷　純(以上、企画情報部)、三上　豊、丸川雄三(以上、客員研究員)

【主な成果】

未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための準備を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。

【年度実績概要】

1　未公開資料の収集整理とデータ化に向けた調査研究では以下の 3 件を行うことができた。

(1)平成 21 年 11 月に黒田記念館での展示公開を条件として東京国立博物館に寄贈された≪芍薬≫≪舟≫および日清戦争関係の作品 3 点について調査研究を行なった。また、黒田清輝筆≪昔語り下絵≫(東京国立博物館蔵)、靉光筆≪眼のある風景≫(東京国立近代美術館蔵)の近赤外線撮影による調査を行い、その成果の一部を黒田記念館で「赤外線の眼で見る≪昔語り≫」(10. 2.25-7.10)として展示公開した。

(2)笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理を進め、また、21 年 12 月に閉廊した村松画廊からの寄贈資料の整理に着手した。

(3)既刊の『日本美術年鑑』の年史(1936 年から 2003 年)データをウェブ上で公開するため、創 IMAGINE での試験運用を行った。

2　資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開促進としては、以下を行った。

(1)近現代研究協議として、以下を行った。

平成 22 年 1 月 27 日　山梨絵美子「黒田記念館の平成 21 年度受贈作品について-黒田清輝筆≪舟≫、≪芍薬≫、≪日清役二龍山砲台突撃図≫、≪林政文肖像≫2 点」

【実績値】

研究会等発表　3 件(①～③)
論文掲載数　　6 件(④～⑨)

【備考】

①塩谷　純「川端玉章の研究―玉章の“支那画”観」　企画情報部研究会　09.7.29
②山梨絵美子　Beyond Nationalism- an example of Japanese Modern Art , 韓国西洋美術史学会シンポジウム「Nationalism and Art History」梨花女子大学校 (韓国)09.5.16
③山梨絵美子　「黒田清輝の描く女性の労働と休息―≪針仕事≫≪読書≫≪湖畔≫をめぐって―」　石橋美術館、09. 10.31
④塩谷　純「川端玉章の研究(二)」　『美術研究』399　2010.1
⑤田中　淳「研究ノート　試論・「新しい女」と「風船を持つ女」―萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現」『美術研究』398 号、　09.8
⑥山梨絵美子　*Beyond Nationalism- an example of Japanese Modern Art*, Art History and Nationalism, Seoul Korea, 09.9
⑦山梨絵美子　黒田清輝の≪昔語り≫と白馬会の歴史主題―記紀神話主題の扱いをめぐって　『東アジア美術におけるモダニティー』　09.11
⑧塩谷　純「床の間の上の裸婦」東京文化財研究所編『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』　2009.4
⑨田中　淳「「統制」と「国際」の時代-戦中期の有島生馬を中心に」『昭和期美術展覧会の研究　戦前編』2009.4

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4122

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 4

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 研究会発表数 | 論文掲載数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 未公開資料の収集整理とデータ化、および近現代視覚芸術に関する調査研究ともに順調に推進することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中期計画に従って実施することができ、また、ウェブ上での公開に向けて具体的な準備を進めることができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4123

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 5

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 美術の技法・材料に関する広領域的研究（(1)-②-ウ） |

【事業概要】

文化財にかかわる諸分野との提携による作品の多角的研究を目指す。具体的には作品を構成する材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日にまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたかなどを、関係の文献史料や、あるいは作品そのものに対する科学的分析（X線撮影など）を援用しながら解明し、文化財についてより深く考究していくことを目的としている。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 広領域研究室長　綿田　稔 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)

【主な成果】

本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世の屏風などについて実地調査した。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。

【年度実績概要】

本年度は脱活乾漆技法の解明のため如来坐像(高円寺蔵)の作例を調査した。その他、米国ポートランド美術館所蔵の屏風その他を調査し、紙継等の基本的な情報を収集した。また、X線透過撮影による仏像の調査研究について、その成果の一端をパネル展示した。

美術工芸品の彩色を考えてゆくうえで、史料にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に彩色関係資料データベース(語彙・史料編)のデータ集積を行った。集積に際しては『大日本古文書』などの公刊史料(活字本)をもとに、その中から奈良時代史料にあらわれた彩色関係の語彙を抽出し、分類したうえで、彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新して精度を上げることに努めた。今年度は『大日本古文書』1～19 巻の入力・公開を終え、次年度の報告書作成に向けて全約 6，500 件のデータの校正ならびに再整理にとりかかった。

研究会 3 件(2009 年 4 月 22 日、綿田　稔「福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について」／2010 年 2 月 12 日、清水重敦〔奈良文化財研究所〕「近代京都画壇と家：近代における和風建築の表現と画家の役割」、コメンテーター：小倉実子〔京都国立近代美術館〕・田中修二〔大分大学〕／2010 年 3 月 24 日、江村知子・土屋貴裕・綿田　稔「ポートランド美術館所蔵作品調査報告」)を開催した。

前年度までに寄贈を受けた資料のうち、技法材料研究ととくに関わりの深い久野健旧蔵資料および秋山光和旧蔵資料の整理に着手した。

【実績値】

彩色関係資料データベース　入力件数　約 1，300 件、全約 6，500 件の校正並びに再整理
論文掲載数　　2 件(①・②)
発表件数　　3 件(③～⑤)

【備考】

①津田徹英「研究資料　脱活乾漆像 菩薩立像」　『美術研究』398 号　pp. 82-89　09.8
②綿田　稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考―名嶋城御成書院から福岡城対面所へ―」　『美術研究』400 号　pp. 16-54　10.3
③綿田　稔「福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について」　企画情報部研究会　東京文化財研究所　09.4.22
④パネル展示「X 線透過による仏像の調査・研究」東京文化財研究所エントランスロビー　09.9～10.2
⑤綿田　稔・江村知子・土屋貴裕「ポートランド美術館所蔵作品調査報告」　企画情報部研究会　東京文化財研究所　10.3.24

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4123

自己点検評価調書

研究所 No 5

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 論文掲載数 | 発表件数 | データ集積数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明を行うべく、実作例と史料の双方からアプローチを行っている。計画 4 年度としては十分な成果を得られたため、Ａと判断した |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 全般的に計画通りに進捗したと考える。次年度以降も一層の深化が期待でき、計画的に調査研究・史料収集・データ整理を継続して、その成果を報告書にまとめたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4124

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 6

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 ((1)-②-エ) |

【事業概要】

古都に所在する寺社が所蔵する歴史資料や書跡資料について継続的、悉皆的に整理・調書作成・写真撮影等の調査をおこない、現存資料の実態の把握に努め、その調査成果を目録、データベース等により、また重要資料については翻刻をおこない公開する。このような文化財の総合的研究の基礎となる調査を基本とし、その上で記載内容を分析して文化財の歴史的性格・特徴等を研究し、日本の歴史、文化の研究に資する。調査にあたって撮影した写真は焼き付けを作成し、研究者等の研究に供する。

| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 歴史研究室長　吉川　聡 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

渡辺晃宏(都城発掘調査部史料研究室長)、馬場 基、山本 崇(以上、同部主任研究員)、浅野啓介、桑田訓也(以上、同部研究員)、古藤真平(同部特別研究員)、加藤 優(客員研究員)、吉川真司(客員研究員)

【主な成果】

興福寺については、戦国時代大和国の飢饉・一揆等の生々しい実態を記した資料を紹介することができた。天候不順による凶作と年輪年代の関係も読み取れる興味深い資料である。唐招提寺に関しては、絵図調査の知見に基づいて、学会発表を行った。近世の絵図だが、江戸時代前期の絵図は古代の伽藍配置を窺うに足る内容を持っている。また、平城宮・京に関わる絵図・古文書調査を進めた。

【年度実績概要】

本年度は、興福寺・東大寺・石山寺・仁和寺・氷室神社大宮家・薬師寺・唐招提寺所蔵の書跡資料・歴史資料調査を行った。興福寺調査は、第 105 函・106 函・107 函の調書を作成した。写真は第 90 函等を撮影している。また昨年度刊行の『興福寺典籍文書目録第四巻』(奈良文化財研究所史料第 83 冊)で提示した目録の中から、戦国時代大和国の飢饉・一揆等の実態を記した資料を『奈良文化財研究所紀要 2009』で紹介した。薬師寺調査は、第 45 函～第 54 函の調書作成と、第 24 函の写真撮影を継続して実施した。

また石山寺経巻を調査し、大智度論の熟覧・詳細な調書作成と、ブローニー版での写真撮影を行った。仁和寺は、御経蔵聖教第 31 函～35 函の調書原本校正と、第 31～33 函・第 151 函の写真撮影を実施した。

東大寺は、東大寺図書館収蔵庫第 4 号室収蔵の新修東大寺文書聖教の調査を、科学研究費補助金も充当して実施した。第 5 函・第 15 函の写真撮影を実施し、また第 53 函・54 函・55 函・59 函を調査して、目録データをパソコンに入力した。唐招提寺所蔵資料については、境内とその周辺を描いた絵図類を調査・写真撮影し、その成果を戒律文化研究会の大会で報告した。

氷室神社大宮家文書については、昨年度に引き続き奈良市教育委員会との間で共同研究をおこない、未成巻文書仮第 2 函 1 巻～35 巻の調書作成を実施した。また、平城宮跡周辺の旧家が所有する絵図・古文書について、調査・写真撮影を実施した。



仁和寺聖教調査・写真撮影風景

その他調査協力の依頼を受けて、文化庁依頼の醍醐寺聖教調査などに協力した。

【実績値】

論文等数：論文 2 件(①②)、発表件数 3 件(③④⑤)

収集資料点数

興福寺：調書作成資料点数 93 点、写真撮影資料点数 147 点

薬師寺：調書作成資料点数 285 点、写真撮影資料点数 47 点

石山寺：調書作成資料点数 41 点、写真撮影資料点数 41 点

仁和寺：調書原本校正資料点数 348 点、写真撮影資料点数 323 点

東大寺：調査データ入力資料点数 1779 点、写真撮影資料点数 949 点

唐招提寺：調書作成資料点数 26 点、写真撮影資料点数 26 点

平城宮跡周辺諸家：写真撮影資料点数 48 点

【備考】

①吉川 聡「興福寺の論義草奥書にみえる歴史-戦国時代南都の飢饉・一揆・武将-」『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.7

②吉川 聡「奈良加茂道の遡及的検討-近世伊賀道から古代東海道・恭仁京に及ぶ-」『律令国家史論集』塙書房、2010.2

③吉川 聡「唐招提寺境内の変遷」戒律文化研究会第八回学術大会口頭報告　2009.11

④吉川 聡「北浦定政と平城京」奈良大学「奈良文化論」講演　2009.11

⑤吉川 聡「近世奈良・加茂道の遡及的検討-古代東海道・恭仁京に及ぶ-」平成 21 年度読史会大会　2009.11

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4124

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 6

1．定性的評価

| 観点 | 正確性 | 適時性 | 継続性 | 発展性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

古都に所在する寺社には、未だに調査・整理されていない歴史資料・書跡資料が数多く存在している。その内容を把握し、保存を図り、史料として利用できる状態にまで整理することは、極めて適時性が高い調査である。そのため、着実に中断なく全容を把握する調査を実行しており、正確性・継続性に優れている。このような調査が今後の所蔵者の管理の基礎となり、また研究の基礎となるものであり、発展性がある。今年度は特に、石山寺・仁和寺や、平城宮跡周辺諸家の調査を実施することができた。以上よりＡと判定した。

2．定量的評価

| 観点 | 調査対象箇所数 | 論文等数 | 発表件数 | 調査点数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

調査対象箇所数は、年度計画に掲げた寺社をすべて調査した。論文等数・発表件数・調査点数は、それぞれ目標値 1 件・1 件・500 件であり、実績値はそれと同等または上回っているので、Ａと判定した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 興福寺、東大寺、石山寺、氷室神社大宮家の調査は計画通り実施し、興福寺はその成果の一部を公表できた。また、薬師寺・唐招提寺のほか、仁和寺や平城宮跡周辺の諸家も調査することができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究事業は堅調に実現できたと考える。仁和寺調査は、膨大な量の聖教を対象とするので、次年度も継続的に実施する必要がある。石山寺調査は、その調査結果の公表が課題である。また、平城宮・京に関係する資料の所在が判明しつつあるので、さらなる調査を行い研究を深める必要がある。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4125

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 7

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究(⑴-②-オ) |

【事業概要】
わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の技法についての再検証(調査研究)を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 建造物研究室長　島田敏男 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】箱崎和久［都城発掘調査部遺構研究室長］、黒坂貴裕、大林潤、番　光、鈴木智大、海野聡、高橋智奈津［以上、同部研究員］、清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、粟野隆、恵谷浩子［以上、同部研究員］、松本将一郎［同部特別研究員］、成田聖［企画調整部任期付研究員］、増井正哉［客員研究員］

【主な成果】
文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。

【年度実績概要】
1.　所内で保管している文化財建造物保存修理時の「建造物現状変更説明」資料のうち、1959 年度から 1961 年度分のワード文書化、図版調整を行い、その成果を本文編と図版編に分けて刊行・配布した。また、同じく所内保管の文化財建造物等の撮影ガラス乾板(長野県分)を整理して、画像をデジタル化した(デジタル化は外注)。また、上記ガラス乾板及び建造物保存図並びに同摺拓本資料について、外部への資料提供を実施した。
2.　古代建築の技法に関する調査研究では、法隆寺所蔵の古材調査を開始した。本年度は、かつて法隆寺西院金堂に使用されていた部材について調査をおこなった。なお、調査にあたっては、竹中大工道具館の協力を得た。
3.　建造物の基礎データ収集等を目的とした奈良県近代和風建築総合調査および津和野町近世社寺・鷲原八幡宮を受託し、調査・図面作成・報告書原稿作成をおこなった。



国際学術会議風景

4.　海外関連事業として、日中韓の 3 国の文化財研究所における共同研究の一環として、2009 年 12 月に韓国ソウル市で、国際学術会議を開催した。研究発表をおこなうとともに、総合討議をおこなった。なお、国際会議後に、第 2 回以降の予定を協議し、22 年度は奈良で開催することとなった。
5.　海外協力として、文化庁がおこなう協力事業の一環として、ベトナムフエ省フクティック村の調査をおこなった。また、奈良文化財研究所を主体として調査をおこなっている、カンボジア・アンコール遺跡群西トップ寺院について、建築的調査をおこなった。

【実績値】
論文等数 14 件(公刊図書 3 件①～③、論文等　11 件④～⑭)
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 820 枚、現状変更資料入力等 1959～1961 年分
古代建築研究現地資料収集：法隆寺古材調査 41 回
保管建造物資料の外部者利用数：乾板写真 6 件 228 枚、建造物保存図 2 件 58 枚

【備考】
①奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1959～1961(本文編)』2010.2　②奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1959～1961(図版編)』2010.2 ③奈良文化財研究所『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究 3　彩色・金具』2010.2 ④速見侑子他 3 名「平城宮第一次大極殿復原-扁額関する研究-」⑤窪寺茂「平城宮大極殿復原-四神彩色の配置に関する研究-⑥清水重敦「近代京都における建築の継承と復古-京都府近代和風建築総合調査から-」⑦黒坂貴裕「茨木城出土筏欄間について」　⑧番光他 1 名「西トップ寺院の建築調査-2008 年度の成果-」(④～⑧『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.6 )⑨島田敏男「日本における古代建築研究の現状と課題」『第 1 回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議』2009.12 ⑨清水重敦「日本における建築文化遺産保存修理の歴史とその特質」『第 1 回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議』2009.12　⑪島田敏男「観音寺遺跡出土の建築部材」『シンポジウム　発掘調査からせまる阿波国府の実像』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2009.9　⑫島田敏男「大極殿の再現と日本の古代建築」『別冊太陽　平城京』平凡社 2010.1 ⑬島田敏男「大極殿の復原事業」『月刊　文化財　556 号』第一法規 2010.1 ⑭箱崎和久「平城宮の寺院」『月刊　文化財　556 号』第一法規 2010.1

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4125

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 7

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

文化財建造物保存修理事業等で作成された貴重な記録である「建造物現状変更説明」「ガラス乾板」の資料整理、デジタル化作業は近年継続的に実施しており、地味な作業ではあるが高く評価できる。古代建築の諸構法の研究は、研究所がこれまで継続してきた調査研究に基づき、これを発展させるため、新たに「技術・技法」等の視点を加え研究するもので、独創性のある研究内容といえる。特に、法隆寺古材調査は、古代建築の技法を知る上でまたとない資料であり、新たな視点での調査おこない、成果を資料化することは、古代建築研究の展開におおきく貢献するものである。受託業務として行った奈良県近代和風建築総合調査では、近代化の中で発展した諸建築の具体相を解明することができ、わが国の近代和風建築の研究と保存に対して貢献をなす成果をあげた点は、高く評価できる。また、津和野町近世社寺・鷲原八幡宮調査は、文化庁がおこなっている「文化財総合的把握事業」の一環であり、国の施策に合致した研究として評価できる。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等数 | 資料整理数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | | | | |

備考

論文等数では、目標値の 6 件に対して 14 件に達し、S と判定した。資料整理数は特に目標値を掲げていないが、十分に成果が認められるので、A と判定した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財建造物の保存修理に関する基礎データの整理等については計画通り実施でき、この継続的な実施によって、本事業の重要性が認知されるようになっている。受託の形態で行った奈良県近代和風建築総合調査や津和野町社寺調査で、諸建築の具体相を究明できたことは、委託者はもちろん、文化庁等の調査に寄せる期待に応えることになり評価できるとともに、将来実施する建築調査に反映できる。古代建築の研究に関しては、新規に開始した、法隆寺古材調査は基礎的な作業であり、今後高く評価されるものと考える。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 所内保管の建造物関係資料についての整理等作業、古代建築の諸構法に関する研究とも順調に進捗している。前者は地味な作業であるが、これを継続させることの重要性をさらにアピールさせたい。後者の研究は、研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした本研究所ならではの研究として、今次中期計画に掲げたものであり、研究成果をより高める必要がある。今年度の成果を元に、次年度においては本研究の実施にさらに力を注ぎたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4131

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 8

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 ((1)-③) |

【事業概要】

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成をおこなう。

また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、福岡裕子、森下愛子(以上、客員研究員)

【主な成果】

文化財保護委員会が作成した音声資料、現在伝承されている狂言歌謡、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこなうとともに、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこない、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。

【年度実績概要】

現在伝承されている狂言小歌について、現在の伝承と江戸後期の譜本を比較対照し、狂言小歌本来の拍節について検証した。成果は楽劇学会大会で口頭発表し、『楽劇学』17 号に掲載した。

文化財保護委員会作成の音声資料について調査を行い、豊竹山城少掾と四世鶴沢清六による『平家女護島』鬼界が島の段について、12 月 16 日、江戸東京博物館ホールにおいて開催した第 4 回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。

連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録を作成した。また、伝承が変化しつつある宝生流謡曲及び喜多流謡曲について、今井泰男師、近藤乾之助師、喜多六平太師による実演記録を作成した。

人形浄瑠璃文楽の伝承演目の中で最も中核的な諸作品を執筆した浄瑠璃作者について、現時点における伝統芸能の伝承の実態について報告を行った。その再認識を促す展覧会、早稲田大学演劇博物館主催『並木宗輔展-浄瑠璃の黄金時代-』の企画に参画し、展覧会図録の編集を行った。

【実績値】

学会等発表件数　3 件(資料①②③)

論文等発表件数　2 件(資料④⑤)

【備考】

①高桑いづみ　「小歌は拍子合か拍子不合か-狂言小歌「十七八」をきっかけに」　楽劇学会第 17 回大会　2009. 7. 12

②高桑いづみ　「紀州徳川家蔵楽器コレクションの調査報告」　東洋音楽学会第 60 回大会　2009. 10. 18

③飯島　満　「昭和 24 年 3 月収録「鬼界が島の段」」第 4 回無形文化遺産部公開学術講座　江戸東京博物館　2009. 12. 16

④飯島　満　「古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合」第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書　2010. 3

⑤高桑いづみ　「狂言小歌拍節遡源―狂言小歌は拍子合か拍子不合か―」『楽劇学』17号　2010. 3

⑥飯島　満　展覧会図録『並木宗輔展―浄瑠璃の黄金時代―』早稲田大学演劇博物館　2009. 12

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 4131

自己点検評価調書

研究所 No 8

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
文化財保護委員会の録音は他所では扱いにくい資料であるが、それを継続して調査し、一般にその成果を公開したのは、独自性、継続性の点で高く評価できる。また、狂言歌謡についても、独自な視点から調査を行っており、その成果は次年度に開催する公開学術講座で公表する予定である。伝承が危ぶまれる芸能の実演記録も他で行っていない事業であり、録音対象者はいずれも 80 歳を越えている。現在をのがしては記録が残らない危険性をはらんでいる点で、適時性にかなうものである。また、文楽の調査については、早稲田大学演劇博物館の事業に協力することができた。資料を多く所蔵する他所との研究協力なくしては今後の調査の発展は望めない。以上、さまざまな視点から無形文化財の伝承について多角的に調査を行うことができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | さまざまな視点から無形文化財の伝承について、総合的な調査、および記録作成を行うことができた。今井泰男師の記録は、93 曲に及び、宝生流の主なレパートリーを網羅しつつある。狂言歌謡の調査は緒に就いたばかりだが、次年度も継続しておこない、公開講座で公表するべく計画を立てている。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 公開講座や学会発表などを通して、研究成果を効率よく公表することができた。<br>実演記録等においても、当初の計画通り進んでおり、順調と判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-1

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 9

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 平城宮跡東院地区(第 446 次)の発掘調査 ((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

平城宮東院地区の発掘調査。近年、中期計画にもとづき重点的に発掘調査を遂行している東院地区のうち、調査区は西辺部にあたり、調査面積は約 1505 ㎡。調査期間は平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日である。現地説明会を 2 月 20 日に開催し、840 名の参加があった。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

鈴木智大、難波洋三、林正憲、桑田訓也、海野聡、国武貞克、渡邉晃宏、中村亜希子［以上、都城発掘調査部］、山崎健［埋蔵文化財センター］、中村一郎［企画調整部］

【主な成果】

南隣の調査区においても検出していた大規模な総柱建物を検出し、東院西辺部の利用状況を明らかにした。また塀や回廊など区画施設が、数度にわたり建て替えられた状況を検出した。東院地区全体の構成と性格を明らかにするという点において非常に大きな成果である。

【年度実績概要】

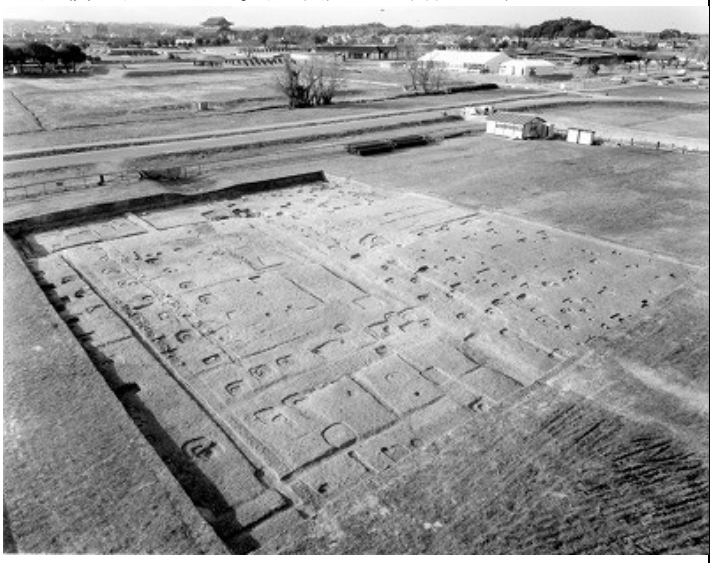
平城宮東院地区の発掘調査。調査区は東院の西辺部にあたると考えられ、南は第 128 次・第 381 次・第 423 次の、西は第 22 次の、各調査区に接している。調査面積は約 1505 ㎡。発掘調査は平成 21 年 10 月 1 日にはじめ、平成 22 年 3 月 31 日に終了した。主な調査成果は次の通り。

①調査区南部で大型総柱建物を検出、第 381 次調査で検出した分とあわせて 9 間×4 間の規模を有することが判明した。

②調査区北部で東西 5 間の総柱建物を南北 2 間分検出した。

③西に隣接する第 22 次調査区で検出した基壇をもつ門遺構に対応する、通路空間を形成する東西塀を検出した。通路は南北 50 尺幅で、東院の中枢部につながると考えられる。

④南に接する第 381 次調査区で検出した南北塀 SA17817 のつづきを、調査区南端から北端まで検出した。③の東西塀に接続し、通路の南北の区画をそれぞれ形成する。東院西辺部の非常に整理された区画とその内側の利用状況を明らかにした。③の成果とあわせて、東院の全体的な構成を明らかにする上で重要な成果をえた。



調査区全景（南東から）

【実績値】

論文等数：4 件(①～④)
発表件数：2 件(報道発表 1 回、現地説明会 1 回)
出土品　：金属器 1 箱、石器 4 点、木器 1 箱、土器 35 点、軒丸瓦 25 点、軒平瓦 13 点、丸瓦･平瓦 147 箱
記録作成数：実測図 43 枚、遺構写真 85 枚

【備考】

①『平城宮東院地区(平城第 446 次調査)記者発表資料』2010.2.17
②『平城宮東院地区(平城第 446 次調査)現地説明会資料』2010.2.20
③鈴木智大「平城宮東院地区(平城第 446 次)の調査」『奈文研ニュース』No.36　2010.3
④鈴木智大「東院地区の調査―第 446 次」『奈良文化財研究所要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-1

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 9

1．定性的評価

| 観点 | 正確性 | 継続性 | 適時性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
正確性：正確な発掘調査を実施した。
継続性：中期計画にのっとり実施した第 381 次・第 421 次・第 423 次調査の成果とあわせて、東院地区の全体構造の解明に寄与した。
適時性：調査成果を迅速かつ広く公表した。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等数 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
論文等数：『奈良文化財研究所紀要 2010』で調査成果を報告する。また、調査の概要は『奈文研ニュース』№36　や『平城宮東院地区(平城第 446 次調査)現地説明会資料』などで、上記報告に先駆けて公開している。
発表件数：報道発表や現地説明会で、調査の成果を国民に広くかつ迅速に公開した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 東院地区の構造およびその性格の解明に寄与し、その成果を論文として発表するとともに、現地説明会を開催し、新たな知見を広くかつ迅速に国民に公表した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中期計画に沿ってすでに実施した第 381 次・第 421 次・第 423 次調査の成果を踏まえ計画をたてることで、的確な調査を遂行でき、東院地区西辺部の様相を明らかにした。<br>また、次年度予定している東院地区の調査計画の立案にも寄与した。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-2
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 10

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場(第 454 次)の発掘調査 ((1)-⑤-ア) |

【事業概要】
平城宮第一次大極殿院内庭広場東南隅部の発掘調査。調査区は、大極殿院東面回廊と南面回廊に挟まれた場所で、調査面積は約 1556 ㎡。調査期間は平成 21 年 4 月 13 日～7 月 15 日である。現地説明会を 6 月 20 日に開催し、参加者数は 755 名であった。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
大林潤、今井晃樹、浅野啓介、芝康次郎、森先一貴［以上、都城発掘調査部］、中村一郎［企画調整部］、惠谷浩子[文化遺産部]

【主な成果】
①奈良時代前半の第一次大極殿院内庭広場の礫敷舗装の変遷を明らかにした。
②楼閣の増築にともない、地表面の傾斜を変更し、広場の排水計画を改めた様子を確認した。
③SD5590 の北で、矩形の大土坑を検出した。
その他、遺物として包含層より乾元重宝(唐銭・758 年発行)が 1 点出土した。

【年度実績概要】
平城宮第一次大極殿院内庭広場東南隅部の発掘調査。調査区は、大極殿院東面回廊と南面回廊に挟まれた場所で、北は第 27 次、東は第 41 次、西は第 77 次、南は第 431 次の、各調査区に接する。調査面積は約 1556 ㎡、調査期間は平成 21 年 4 月 13 日～7 月 15 日である。

調査成果は以下の通り。

①奈良時代前半の第一次大極殿院内庭広場の礫敷舗装の変遷を明らかにした。礫敷は全部で 3 層あり、下層より平城宮造営当初、楼閣増築時、還都直後、に比定される。

②楼閣の増築にともない、地表面の傾斜を変更し、広場の排水計画を改めた様子を確認した。造営当初は北から南に流していた排水を、南面回廊際に土を盛り傾斜を変え、新たに設けた南北溝 SD5590 に流し、東に排水していたことが明らかになった。

③SD5590 の北で、矩形の大土坑を検出した。

遺物は瓦を中心に出土したが、全体量は極めて少ない。目立った遺物としては、調査区中央付近の包含層より乾元重宝(唐銭・758 年発行)が 1 点出土した。そのほか、軒瓦、磚、隅木蓋瓦、奈良時代の須恵器・土師器、古墳時代の埴輪片などが出土した。

なお、現地説明会を 6 月 20 日に開催し、755 名の参加があった。


調査区全景（南東から）

【実績値】
論文等数：4 件(①～④)
発表件数：2 件(報道発表 1 回、現地説明会 1 回)
出土品　：軒瓦 72 点、丸瓦・平瓦約 9000 点、磚 6 点、土器 8 箱
記録作成数：実測図 51 枚、遺構写真 36 枚

【備考】
①『平城宮第一次大極殿院内庭広場(平城第 454 次調査)記者発表資料』2009.6.18
②『平城宮第一次大極殿院内庭広場(平城第 454 次調査)現地説明会資料』2009.6.20
③大林潤「平城宮第一次大極殿院の調査(平城第 454 次)」『奈文研ニュース』№34　2009.9
④大林潤・今井晃樹・芝康次郎・森川実「第一次大極殿院広場の調査-第 454 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-2

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 10

1．定性的評価

| 観点 | 正確性 | 継続性 | 適時性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

正確性：正確な発掘調査を実施した。

継続性：過去 45 年に及ぶ第一次大極殿院の発掘調査の最後としておこない、過去の調査成果と合わせて大極殿院内庭部の様相を明らかにした。

適時性：現地説明会では、第一次大極殿院内庭部の姿を、復原中の大極殿正殿との関係が分かるように表現し、発表した。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

論文数等：『奈良文化財研究所紀要 2010』において、調査成果を報告する。また、調査の概要は『奈文研ニュース』№34　や『平城宮第一次大極殿院内庭広場(平城第 454 次調査)現地説明会資料』などで、上記報告に先駆けて公表している。

発表件数：報道発表や現地説明会で、調査の成果を国民に広くかつ迅速に公開した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 第一次大極殿院の最後の調査としておこない、これまで不明だった内庭隅部分を解明した。過去 50 年間の調査成果と合わせ、平城宮第一次大極殿院の解明に寄与した。また、調査成果は迅速に報告・公表している。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 適切かつ順調に調査をおこない、業務を完了した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-3

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 11

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 薬師寺(第 457 次)の発掘調査　((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

薬師寺境内における防災施設設置にともなう事前の発掘調査。調査は大きく 4 箇所(Ａ～Ｄ区)に分かれ、調査面積は全体で約 152 ㎡。調査期間は平成 21 年 6 月 25 日から断続的に 11 月 19 日までおこなった。なお、10 月 2 日には、調査成果を報道発表した。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

浅野啓介、今井晃樹、大林潤、箱崎和久、馬場基、森川実、芝康二郎、森先一貴、林正憲、難波洋三、鈴木智大、海野聡、桑田訓也［以上、都城発掘調査部］

【主な成果】

薬師寺中心伽藍の東方にある東院堂の北東の調査区(Ｄ1・Ｄ2 地区)で、未知の建物跡を検出した。掘込地業をもち、精緻な版築をしており、基壇外装には二上山産凝灰岩を用いている。現在の東院堂は 1733 年に南向きから西向きに変えた記録が残るが、この遺構は奈良時代に創建された東院の主要な建物跡と考えられる。

【年度実績概要】

薬師寺中心伽藍北方に位置する本坊周辺のＡ・Ｂ・Ｃ区、また東院堂周辺のＤ区のうち南方のＤ3 区では、既設埋設管の影響、あるいは近年の厚い盛土のため、奈良時代の遺構面に達することができなかった。湧水等で調査区が崩落する危険性もあったため、掘り下げを断念した。

東院堂周辺の調査区のうち、北方のＤ1 区とそれに接続する東方のＤ2 区では、貴重な成果が上がった。まず、Ｄ1 区西端で掘立柱穴を 1 基検出した。調査区からみて東方には展開せず、西方には中心伽藍の東面回廊が迫ることから、この柱穴は南北方向の掘立柱塀で、薬師寺東院の西限塀の一部と推定された。Ｄ1 区東方およびＤ2 区北方では、掘込地業をともなう版築基壇を検出した。Ｄ1 区では南北方向の、Ｄ2 区では東西方向の、凝灰岩製基壇地覆石あるいはその残欠を検出し、前記の版築が建物基壇にともなうと判断できた。検出した基壇の規模は東西 8.2m、南北 13.0mにおよぶ。Ｄ1 区では東西方向の礎石の据付穴・抜取穴を 3 箇所で確認した。柱間寸法は東の間が約 3.3m、西の間が 3.0mである。またＤ1 東端では掘込地業底部に施した砂利敷きを検出したが、掘込地業全体には及んでおらず、建物の中心付近のみと推定され、その性格は不明である。掘込地業はＤ1 区では基壇西辺より西へ 1.5mほどのびて上がるが、Ｄ2 区では基壇南辺より 8m以上も続くので、掘込地業を共有する建物が南方にもう 1 棟建つ可能性がある。これらの遺構は精緻な版築や凝灰岩製の基壇地覆石、出土瓦の年代から、奈良時代の遺構と判断される。

現在の東院堂(1285 年建立)は、1733 年に南向きから西向きにされたことが記録に見え、また現東院堂は奈良時代の尺度をもって建てられており、今回発見した建物跡は、奈良時代に創建された南向きの東院堂とみて柱間寸法等矛盾がない。

また、Ｄ2 区南端付近は中世以降、池状となり、何度か浚渫がなされたことが判明した。



礎石根石と版築および掘込地業底面の砂利敷

【実績値】

論文等数：3 件(①～③)
発表件数：1 件(報道発表 1 回)
出土品　：軒瓦 54 点、丸瓦・平瓦 820 ㎏、土器 6 箱
記録作成数：実測図 30 枚、遺構写真(4×5)124 枚

【備考】

①『薬師寺東院堂周辺の調査　平城第 457 次調査記者発表資料』2009.10.2
②箱崎和久「薬師寺の調査」『奈文研ニュース』No.34　2009.12
③箱崎和久ほか「薬師寺境内の発掘調査-第 457 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-3

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 11

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

D1・D2 地区は幅 1.0～1.5m、延長 70mにおよぶ狭小な調査区であったにもかかわらず、薬師寺東院に関する貴重な成果を得ることができた。

適時性：限られた調査期間と調査面積にもかかわらず、大きな成果をあげた。

発展性:調査成果は、薬師寺東院ひいては古代寺院の別院についての研究に大きく貢献すると考えられる。

継続性:今回の調査成果は薬師寺旧境内においてこれまで継続的に実施してきた発掘調査の成果を基礎とするものであり、今回の成果も今後の周辺地域における発掘調査に寄与すると考えられる。

正確性：発掘調査における緻密な観察と基壇建物についての綿密な知識に裏打ちされた成果である。

2．定量的評価

| 観点 | 資料収集数 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

遺物の出土量は調査者の意志で左右できるものではないが、薬師寺東院堂周辺の調査区では、偶然にも分析をするための十分な出土量を得ることができ、整理を進めている。また調査成果を記録保存するための図面類や写真は必要かつ十分な数を採取した。調査区が狭小のため、一般への現地説明会等はおこなうことができなかったが、10 月 2 日には調査成果を報道発表し、各メディアの注目を集めた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 既設管の埋設状況や安全性から判断して奈良時代の遺構面に達することができなかった調査区があったが、東院堂周囲の調査区では未知の基壇建物を発見し、基壇建物あるいはその上に建つ建物構造を考慮しながら調査をおこない、必要十分な成果を得るとともに、適切な発掘調査現場運営をおこなうことができた。発掘成果の学術的意味は非常に大きいと考えられる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 緊急性の高い調査であったが、高い学術的水準を維持した調査を実施し、予想以上の成果をあげた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-4

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 12

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 興福寺南大門跡(第 458 次)の発掘調査 ((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

興福寺南大門の全面的な発掘調査。調査面積は約 774 ㎡で、調査期間は平成 21 年 7 月 13 日～12 月 22 日。9 月 27 日に現地説明会を開催し、2,265 名の参加があった。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

森川実、箱崎和久、馬場基、森先一貴、芝康次郎［以上、都城発掘調査部］、牛嶋茂、中村一郎［企画調整部］

【主な成果】

調査の結果、南大門の基壇および建物の規模、基壇外装(地覆石)の変遷、基壇造営以前の地形および基壇築造の過程などを明らかにした。さらに、基壇上では金剛力士像の基礎 2 基と、創建時の鎮壇具埋納遺構などを発見した。また、調査期間中に 2 度の記者発表をおこない、9 月 27 日には現地説明会を開催した。

【年度実績概要】

本事業は、興福寺南大門の発掘調査である。調査面積は約 774 ㎡で、調査期間は平成 21 年 7 月 13 日～12 月 22 日。調査の成果は次の通りである。

①南大門の基壇および建物の規模を確定した。基壇の規模は東西 31.0×南北 16.7ｍである。建物は 2 間×5 間、東西 23.1m、南北 9.0ｍに復元できる。また、基壇上で金剛力士像の基礎 2 基を検出した。

②基壇外装の変遷を明らかにした。創建時(Ⅰ期)の地覆石は残存しないが、最初の改修(Ⅱ期)で地獄谷溶結凝灰岩の地覆石・羽目石に、2 度目の改修(Ⅲ期)で花崗岩の地覆石・羽目石に、それぞれ改修したことが判明した。花崗岩の地覆石･羽目石を撤去したのは明治時代であろう(Ⅳ期)。なお、基壇本体は明治時代以降に大きく削られており、その後、盛土によって土壇を復元したことが明らかとなった。



調査区全景(東から)

③創建時の鎮壇具を基壇中央で検出した。南都諸大寺の門では初の発見である。鎮壇具の容器は須恵器の広口壷で、埋納穴の中央部から正位で出土した。X 線写真・高エネルギーＸ線 CT 写真の撮影により内容物は和同開珎、ガラス小玉などと判明し、その後の室内調査で魚骨や布の細片も検出した。

④基壇中央部における断割調査により、門造営以前の旧地形や、基壇の造営過程が判明した。門の東半分は谷にかかり、これを厚い整地層で埋めて平坦地を確保している。基壇の造営にあたっては掘込地業をおこない、丁寧な版築で基壇を築いていることが明らかになった。

【実績値】

論文等数：4 件(①～④)
発表件数：4 件(報道発表 2 回、現地説明会 1 回、2010 年出土銭貨報告会発表 1 回)
出土品　：丸瓦・平瓦・軒瓦・道具瓦 55 箱、土器 15 箱
記録作成数：実測図 57 枚、遺構写真 102 枚

【備考】

①『興福寺南大門の発掘調査―現地説明会資料―』2009.9.27
②『平城第 458 次　興福寺南大門の調査―記者発表資料―』2009.12.10
③森川実・箱崎和久・森先一貴・芝康次郎『興福寺 第 1 期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅴ』2010.3
④森川実・箱崎和久・森先一貴・芝康次郎「興福寺南大門の調査―平城第 458 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-4
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 12

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
適時性：調査期間中に記者発表・現地見学会をおこない、調査成果を迅速に公表した。
継続性：既往の調査成果を踏まえ、興福寺中心伽藍の構造解明に寄与した。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等数 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
論文等数：『興福寺　第１期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅴ』で発掘成果を報告した。また、『奈良文化財研究所紀要　2010』でも成果を報告する。
調査回数：年度計画に従い、発掘調査を実施した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本調査により興福寺南大門の構造や遺構変遷を明らかにし、調査成果を論文・発表で迅速に公表した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 適切かつ順調に発掘調査をおこない、着実に成果をあげた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-5

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 13

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 平城宮跡東方官衙地区(466 次)の発掘調査 ((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

平城宮東方官衙地区の発掘調査。調査区は小子部門の西隣で、東方官衙の中央やや南よりである。調査面積は約 666 ㎡。調査期間は平成 22 年 1 月 21 日～4 月 30 日(予定)である。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

渡辺晃宏、国武貞克、桑田訓也、海野聡、中村亜希子［以上、都城発掘調査部］、
山崎健［埋蔵文化財センター］、中村一郎［企画調整部］

【主な成果】

① 奈良時代後半の官衙の、区画内の建物配置を確認した。
② 建物の礎石が当時の位置をとどめている状態を確認した。
③ 東方官衙地区を南流する基幹排水路が東へ折れ曲がることを確認した。

【年度実績概要】

平城宮東方官衙地区の発掘調査。東方官衙地区では、平成 18 年度から継続的に発掘調査を実施してきたが、今年度はその 4 ヵ年目にあたる。調査区は小子部門の西隣で、東方官衙地区の中央やや南よりであり、その南端が第 29 次調査区と接している。調査期間は平成 22 年 1 月 21 日～4 月 30 日(予定)である。現状での調査成果は以下の通りである。

奈良時代の官衙の、区画内の建物配置を確認した。東西方向に長い基壇をもつ礎石建物が 3 棟、溝を挟んで南北に計画的に配置されていることが判明した。建物の基壇は良好に残っており、礎石も当時の位置をとどめていた。

東西方向に流れる、石組をもつ幅 4mの溝が検出され、東方官衙地区を南流する基幹排水路が、今回の調査区内で東へ折れ曲がるか、あるいは分岐することを確認できた。

遺物は土器、瓦、木器を中心に出土し、全体量は多い。また、奈良時代中ごろの鬼瓦が 1 点出土した。



礎石が遺存する基壇(南西から)

【実績値】

論文等数：2 件(①②)
出土品　　：丸瓦・平瓦・軒瓦 100 箱、土器 50 箱、磚 10 箱、木器 20 箱(以上、3 月 30 日現在)
記録作成数：図面 19 枚、遺構写真 140 枚(以上、3 月 30 日現在)

【備考】

① 国武貞克ほか「東方官衙地区の調査―第 466 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)
② 国武貞克「平城宮跡東方官衙地区の調査」『奈文研ニュース』№37　2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-5

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 13

1．定性的評価

| 観点 | 正確性 | 継続性 | 適時性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
正確性：正確な発掘調査を実施した。
継続性：過去 50 年に及ぶ平城宮跡の発掘調査の成果に基づき、詳細が判明していない東方官衙地区について計画的かつ継続的に調査を企画し、実施した。
適時性：調査成果がまとまった時点で、直ちに記者発表等により情報を広く国民に公開する。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等数 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
論文数等：『奈良文化財研究所研究紀要 2010』において調査成果を報告し、調査成果の概要は『奈文研ニュース』№37　により一般に広く公開する。
発表件数:調査終了後短期間に成果をまとめ、学術的な報告と一般向けの報告に分けてそれぞれ発表する。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 平城宮東方官衙地区の継続的な調査計画の、4 ヵ年目の調査として実施した。北から順に進めてきたこの地区におけるこれまでの発掘調査の成果と併せて、東方官衙地区の官衙区画の構成やその変遷の詳細の解明に寄与することができた。調査成果については迅速に公開・報告する。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 適切かつ順調に調査を行いつつある。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-6

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 14

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査　((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。藤原宮跡は、わが国初の本格的都城を備えた宮殿遺跡であり、平成 11 年度から中枢部の実態解明のための計画調査を実施している。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

山本　崇、高橋知奈津、豊島直博、青木　敬、加藤雅士、若杉智宏、庄田慎矢、[以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)] 井上直夫、岡田　愛 [以上、企画調整部]

【主な成果】

大極殿院回廊の東南隅と朝堂院北面回廊との接続部の発掘調査を実施し、回廊の建設から解体までに至る遺構や、大極殿院内庭・朝堂院朝庭の礫敷を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営期に資材運搬などに利用されたと考えられる南北・東西の大溝など検出し、これらの変遷から藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。

【年度実績概要】

本調査は、藤原宮大極殿院回廊と朝堂院回廊の接続部の規模や構造を明らかにすることと、藤原宮造営に関わる遺構を検出することを主たる目的として実施した。調査期間は 2009 年 7 月 1 日～2010 年 2 月 26 日、調査面積は 1425 ㎡である。

調査の結果、回廊に関わる遺構として、推定された位置に礎石据付穴と抜取穴を検出した。回廊建物の柱間寸法は、桁行 14 尺梁行 10 尺(ただし、東西方向の回廊の調査区西より 1 間分は桁行 12 尺)で、回廊の接続部は、桁行・梁行とも 10 尺である。回廊基壇の両端には基壇外装抜取溝、さらにその外側に雨落溝にあたる浅い砂の堆積を確認した。回廊基壇の規模は、基壇外装の抜取溝の心々間距離で約 8.4m である。そのほか、回廊建設・解体に伴う足場穴や廃棄された瓦溜を検出した。また大極殿院内庭部、朝堂院朝庭部では、礫敷を確認した。

下層調査においては、昨年度の調査(飛鳥藤原第 153 次)によって確認されていた斜行溝Ｂの延長部を検出した。この溝は、南門部分を避けて掘られた運河から分岐する溝で調査区外北方にさらに延びる。さらにこの溝は、次の段階には回廊の南で東西溝(幅約 3.5m、深さ 0.9m)に付け替えられていた。資材運搬や排水を目的として掘削され、大極殿院南門や回廊の建設にあたって、建設地を迂回するよう順次進路変更されたと考えられる。

なお、2009 年 11 月 27 日に記者発表をおこない、11 月 29 日の現地説明会では、945 人の見学者があった。



現地説明会の様子

【実績値】

論文等数　　3 件(調査報告 1 件①、その他 2 件②③)
発表件数　　2 件(現地説明会 1 件④、報道発表 1 件⑤)
出土遺物　　軒瓦 476 点、丸平瓦 710 箱、土器 23 箱、加工木 10 箱、木製品、銭貨、獣骨など
記録作成数　遺構実測図 80 枚、写真(4×5)274 枚

【備考】

① 山本　崇・高橋知奈津・豊島直博・若杉智宏・石田由紀子「藤原宮跡大極殿院・朝堂院回廊の調査-飛鳥藤原第 160 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
② 山本　崇「藤原宮跡大極殿院回廊の調査(飛鳥藤原第 160 次)」『奈文研ニュース』No.35、2009.12
③ 高橋知奈津「藤原宮跡大極殿院回廊の調査(飛鳥藤原第 160 次)」『奈文研ニュース』No.36、2010.3
④ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院回廊の調査(飛鳥藤原第 160 次調査現地説明会資料)」2009.11
⑤ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院回廊の調査―飛鳥藤原第 160 次調査記者発表資料」2009.11

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-6

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 14

1．定性的評価

| 観点 | 継続性 | 独創性 | 発展性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
継続性：特別史跡藤原宮跡の全体解明のための継続的な計画調査
独創性：都城の造営から解体までの一連の過程を解明
発展性:藤原宮中枢部の造営過程を復元するための手がかりを得、さらなる研究課題への展望が生まれた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本調査研究は、調査・記録・公開・発表等、適切におこない、定性的・定量的評価においてすべてＡと判定されるため、総合的評価もＡと判定した。<br>計画調査として、次年度以降も継続的に調査をおこなう予定である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、課題であった朝堂院回廊と大極殿院回廊との取り付き部の構造や造営過程を解明するなど、藤原宮の全体像の解明に向けて、目的を順調に達成した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4151-7

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 15

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査　((1)-⑤-ア) |

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。甘樫丘は、蘇我氏が邸宅を構えたことで知られ、本遺跡はその関連遺跡として、実態解明のための計画調査を実施している。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

次山 淳、番　光、小田裕樹、黒坂貴裕、石田由紀子、木村理恵、玉田芳英、高田貫太、庄田慎矢［以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、岡田　愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

第 157 次調査では、7 世紀前半から 8 世紀にかけての石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、石敷遺構、石組溝、土器廃棄土坑、土器埋設遺構などを検出した。特に、調査区中央で検出した石垣遺構は、前回の調査と合わせて全長 34mにおよぶものであることが判明し、構造・時期に関する資料が得られた。第 161 次調査では、谷の北東の斜面に設定した調査区において掘立柱列を検出し、丘陵上においても遺構の展開することを確認した。

【年度実績概要】

甘樫丘東麓遺跡は、飛鳥川左岸、丘陵の東麓にある谷の一つに立地し、2006 年度の造園修景に先立つ確認調査によって、7 世紀の建物群の存在が明らかにされた。2007 年度より学術調査に着手し、石垣、掘立柱建物群、炉跡などを検出した。第 157 次調査区は、2007 年度の第 146 次調査で検出した石垣状遺構の全容の解明、石垣以東の大型建物、居住空間の有無の確認、遺構群のより詳細な変遷の解明を目的として、第 146 次調査地に南接する谷の北東部に設定した。調査面積は、1150 ㎡。調査期間は、2008 年 12 月 16 日～2009 年 8 月 25 日。本次調査では、7 世紀前半から 8 世紀にかけての石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、石敷遺構、石組溝、土器廃棄土坑、土器埋設遺構などを検出した。2009 年 6 月 21 に現地見学会を開催し、1134 名の見学者があった。

第 161 次調査区は、上記の石垣のさらなる展開の有無、第 157 次調査で検出した石敷遺構の全容の解明、石敷遺構背後の斜面の利用状態、丘陵上の遺構の有無の確認を目的として、第 157 次調査地の東に隣接した調査区と、北東の斜面に伸ばした調査区を設定した。調査面積は 846 ㎡。調査期間は 2009 年 12 月 14 日より開始し、2010 年 3 月現在継続中である。本次調査では、斜面の調査区において掘立柱列を検出し、丘陵上においても遺構の展開することを確認した。2010 年 3 月 20 日に現地見学会を開催し、1,245 名の見学者があった。



第 157 次調査で検出した石垣

【実績値】

論文等数　　3 件(調査報告 2 件①②、その他 1 件③)
発表件数　　4 件(現地見学会 2 件⑤⑦、報道発表 2 件④⑥)
出土遺物　　軒瓦 4 点、丸平瓦 8 箱、土器 77 箱、石製品・石材 1 箱、金属製品・冶金関連遺物 1 箱など
記録作成数　遺構実測図 71 枚、写真(4×5)240 枚

【備考】


① 次山　淳・小田裕樹・石田由紀子・木村理恵「甘樫丘東麓遺跡の調査―飛鳥藤原第 157 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6
② 番　光「甘樫丘東麓遺跡の調査―飛鳥藤原第 161 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6
③ 次山　淳「甘樫丘東麓遺跡の調査(飛鳥藤原第 157 次)」『奈文研ニュース』No.34、2009.9
④ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「飛鳥藤原第 157 次調査(甘樫丘東麓遺跡)記者発表資料」2009.6
⑤ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡(飛鳥藤原第 157 次調査現地見学会資料)」2009.6
⑥ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「飛鳥藤原第 161 次調査(甘樫丘東麓遺跡)記者発表資料」2010.3
⑦ 奈良文化財研究所都城発掘調査部「甘樫丘東麓遺跡(飛鳥藤原第 161 次調査現地見学会資料)」2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151-7

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 15

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 発展性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
適時性：蘇我氏邸宅推定地の解明に向けた調査
継続性：計画調査の継続による遺跡全容の解明
発展性：遺構の広がりを確認し、今後の調査への見通しを得た

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 第 157・161 次調査では、計画調査の目的である遺跡東辺の遺構のありかたを確認したことにより、遺構の広がり、遺跡の全体像解明に向けての良好な資料を得ることができた。また、7 世紀代の基準資料となる土器の良好な一括資料が出土し、今後の研究に有益な資料を得ることができたため、総合的にＡと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、課題であった石垣遺構の延長部を確認し、全体のありかたを明らかにするとともに、整地ならびに周辺の土地利用の状況を確認したことで、甘樫丘東麓遺跡の性格、および全体像解明に向けての目的を順調に達成した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152-1
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 16

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等((1)-⑤-イ) |

【事業概要】
平成 21 年度の発掘調査によって平城宮・京跡から出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、検出遺構の整理・分析研究を、年間を通じて実施し、昨年度以前の調査で出土した遺物について、報告書刊行またはその準備作業としての再調査を行う。また、出土遺物の科学的保存処理を継続して実施する。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
難波洋三、国武貞克、芝康次郎、神野恵、森川実、城倉正祥、中村亜希子、今井晃樹、林正憲、森先一貴、渡辺晃宏、馬場基、浅野啓介、桑田訓也、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡、[以上、都城発掘調査部]、牛嶋茂、中村一郎［以上、企画調整部］

【主な成果】
本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 22 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2010』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院―二条大路木簡の世界』を開催した。

【年度実績概要】
・本年度の発掘調査による出土遺物について
平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理・分析研究、出土遺構の図面作成・写真作成・分析研究、及び出土遺物の科学的保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて発掘調査と併行して、これを遅滞なく実施した。
・平成 21 年度以前の出土遺物について
『平城宮発掘調査報告(第一次大極殿院)』、および『平城宮木簡七』の刊行に向けての再整理・分析を重点的に実施した。
・昭和 63 年に長屋王邸の北にあたる地点から出土した、約 7 万 4 千点の木簡は、光明皇后宮やそれを支えた藤原麻呂の家政機関にかかわる木簡を主体とする。この二条大路木簡の中から優品を選び、本部棟一階のガイダンスコーナーにて特別企画展「地下の正倉院展-二条大路木簡の世界」を開催し、広く公開した(平成 21 年 10 月 20 日から 11 月 29 日まで)。
・報告書などの刊行について
『平城宮発掘調査出土木簡概報(三十九)』を刊行し、特別企画展「地下の正倉院展―二条大路木簡の世界」に伴って、展示解説図録『地下の正倉院展-二条大路木簡の世界』を作成した。また、平成 21 年 3 月には、『平城宮木簡七』を刊行する予定である。



展示リーフレット表紙

【実績値】
論文等数：4 件(報告書等 3 件②～④、解説等 1 件①)

【備考】
①『地下の正倉院展-二条大路木簡の世界』2009.10
②『平城宮発掘調査出土木簡概報(三十九)』2009.11
③『平城宮木簡七』2010・3
④『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152-1
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 16

1. 定性的評価

| 観点 | 正確性 | 継続性 | 発展性 | 適時性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
正確性：蓄積されている資料を正確に資料化し公表した。
継続性：厖大な歴史資料についての基礎的な分析と研究を継続した。
発展性：新出土の厖大な資料を活用してより高度な古代史研究を推進するとともに、資料の分析にあたって新たな方法を追求した。
適時性：新出土品の資料価値を明確にし、重要なものについては迅速に情報公開し、国民の文化財としての活用を計った。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文等数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
論文等数：当初予定の刊行物を順調に刊行できたことに加え、新しい成果を適時公表することができた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 平城宮・京跡で出土した厖大な考古・文字資料を継続的に整理・分析し、古代史研究上のさまざまな重要課題について、汎東アジア的な視点で検討を加えたことで、総合的にみてＡと判断した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | これまでの研究を基礎として、さらに新しい方法を加味・活用して、研究を深化した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152-2

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 17

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等　((1)-⑤-イ) |

【事業概要】

本年度の発掘調査により飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

玉田芳英、次山 淳、降幡順子、豊島直博、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高田貫太、庄田慎矢、石田由紀子、加藤雅士、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、岡田 愛［以上、企画調整部］、西口壽生(客員研究員)

【主な成果】

本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。

【年度実績概要】

①　本年度の発掘調査による出土遺物について

本年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業及び、出土遺物の保存と保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じての野外での発掘調査と並行して各研究室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2010』等で公表した。

②　前年度までの出土遺物について

発掘調査成果を、計画中の『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』等の報告書として公刊するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業は、前年度に引き続いて実施した。7 世紀を中心とした時代の瓦について、これまでの調査成果をまとめた『古代瓦研究Ⅳ』『同Ⅴ』を刊行した。

【実績値】

公刊図書等数　9 件(①～⑨)

【備考】

① 奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
② 奈良文化財研究所『古代瓦研究Ⅳ』2009.11
③ 奈良文化財研究所『古代瓦研究Ⅴ』2010.3
④ 木村理恵・石田由紀子「古宮遺跡の調査-第 152-8 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
⑤ 石田由紀子「大官大寺の縄文土器(2)」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
⑥ 加藤雅士・松谷暁子「藤原宮跡出土土器付着炭化粒の SEM 観察」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
⑦ 西口壽生「東海地方産陶硯について」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
⑧ 木村理恵「古宮遺跡の調査(飛鳥藤原第 152-8 次)」『奈文研ニュース』No.33、2009.6
⑨ 高田寛太「奈文研ギャラリー(25)「花組」と「星組」―飛鳥寺の瓦―」『奈文研ニュース』No.33、2009.6

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152-2
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 17

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 独創性 | 発展性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考<br>適時性：新出土資料の迅速な公開と活用<br>継続性：膨大な歴史資料の基礎的分析研究及び保存<br>独創性：新たな資料分析方法の追究<br>発展性：蓄積された歴史資料の正確な資料化 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 公刊図書数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と並行して遅滞なく計画通りに実施することができた。また、図書等の刊行を通じて、調査成果の公開も適切に行い得たので、総合的にＡと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 報告書作成のための遺物・遺構整理作業を、ほぼ予定通り進めることができた。出版物の刊行も計画通りに行い得た。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4153

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 18

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究((1)-⑤-ウ) |

【事業概要】

Ａ：漢長安城桂宮発掘調査報告書および付篇の論文集の作成、漢魏洛陽城跡の発掘調査を中国社会科学院考古研究所と共同して実施し、日本の都城との比較研究をおこなう。また、調査成果の概要を公刊する。

Ｂ：朝陽地区隋唐墓出土副葬遺物について中国遼寧省文物考古研究所と共同で整理・比較研究し、日本都城成立期の交流を考察しその成果を公表する。

Ｃ：鞏義市黄冶唐三彩窯跡および製品の中国河南省文物考古研究所との共同研究を実施し、日本の奈良三彩との関連を考察し、成果を公刊する。

Ｄ：日本と韓国の都城・王京形成について韓国国立文化財研究所と共同研究を実施し、古代における両国の文化交流を跡づける。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

Ａ：井上和人、今井晃樹、城倉正祥［以上、都城発掘調査部］他 9 名(王巍、銭国祥他)

Ｂ：井上和人［都城発掘調査部］、小池伸彦［企画調整部］他 7 名(田立坤、呂学明他)

Ｃ：玉田芳英、森川実［以上、都城発掘調査部］他 6 名(孫新民、趙志文)

Ｄ：深澤芳樹、次山淳、高田貫太［以上、都城発掘調査部］他 23 名(黄仁鎬、鄭太垠他)

【主な成果】

Ａ：漢魏洛陽城において 1800 ㎡の共同発掘調査を実施。日中双方で都城研究についての討論会を開催。

Ｂ：遼寧省における隋・唐代墓出土品の調査を実施。

Ｃ：黄冶窯および白河窯で生産した陶磁器の系統的把握の基礎視点が明確になるとともに漢魏洛陽城出土陶器との比較研究を実施。

Ｄ：日本の古代都城ならびに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。

【年度実績概要】

Ａ：漢魏洛陽城については延べ 8 名の研究員を現地に派遣し、平成 21 年 4 月～5 月、11 月～12 月の約 4 箇月間、漢魏洛陽城宮城内において 1800 ㎡の共同発掘調査を実施した。

Ｂ：平成 21 年 6 月に 8 名、平成 22 年 3 月に 6 名の研究員を派遣し、隋韓暨家族唐墓・繊維廠唐墓などの出土遺物を調査した。平成 21 年 10 月には、遼寧省文化庁・文物考古研究所他の 5 名を招聘して、学術講演会を開催した。

Ｃ：平成 21 年 6 月・10 月、平成 22 年 3 月に研究員を中国に派遣し、鞏義市水地河・白河地区および漢魏洛陽城から出土した唐三彩・北朝白磁・青磁などを調査するとともに、中国古陶磁学会に参加した。平成 21 年 9 月には中国から 5 名を招聘して、学術講演会を開催した。

Ｄ：韓国国立文化財研究所との共同研究では、13 件の研究テーマのもとに、17 名の研究者が参加し、6 名の派遣、6 名の招聘を実施した。なお、共同研究に関連して研究報告会を開催し、調査研究協力等を行っている。



漢魏洛陽城の調査風景

【実績値】

論文等数：4 件(①～④)

記録作成数：Ａ 遺構図等 25 枚、写真(4×5)約 50 枚、デジタル写真約 1000 枚、Ｂ 写真・3D デジタイザ・調書・実測図等の記録多数、Ｃ 写真・調書等の記録多数、Ｄ 調書約 250 枚、写真約 300 枚

【備考】

①金甫相「韓・日発掘調査交流を行ってみて」『奈文研ニュース』№33　2009.6

②小池伸彦「遼寧省朝陽地区隋唐墓副葬品の調査」『奈文研ニュース』№34　2009.9

③玉田芳英「中国河南省文物考古局との共同研究」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

④城倉正祥「漢魏洛陽城　北魏宮城 3 号建築遺構の発掘調査」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4153

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 18

1．定性的評価

| 観点 | 独創性 | 発展性 | 適時性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
独創性：東アジアの考古学に関する最新情報を入手・公開し、日本古代史の再検討に貢献した。
発展性：海外の研究機関と連携し、日本文化の源流を探るための基礎的研究の蓄積を継続している。
適時性：成果報告を迅速に作成し、公表した。

2．定量的評価

| 観点 | 成果報告 | 記録件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
成果報告：速報性を重視した報告を行った。
記録件数：未公開の貴重な学術資料について多くの記録調書を作成した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 中国および韓国で、関係研究機関との連携のもとに遺跡・遺物を調査し、相互の研究を向上させたほか、計画どおりに事業を実施できたので、総合的にＡと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通りに実施し、成果をあげることができた。国際共同研究は都城発掘調査部が担当しており、4 本の研究を総合的に組み立てることにより、古代史の解明に資する成果を達成することを目指す。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4154

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 19

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 庭園に関する調査研究((1)-⑤-エ) |

【事業概要】　平安時代庭園に関する調査・研究の一環として、平成 21 年度は平安時代中期・後期の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査を行い、文化庁との共催の下、中国及び韓国の専門家とともに「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」を開催した。また、森・村岡資料をはじめとする庭園関係資料の整理・検討を進めた。

| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 遺跡整備研究室長　平澤　毅 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】　小野健吉(文化遺産部長)、粟野隆、恵谷浩子(以上、文化遺産部研究員)、高橋智奈津(都城発掘調査部研究員)、高瀬要一(客員研究員)、

【主な成果】　国際研究会を開催し、東アジアにおける日本庭園、とりわけ「浄土庭園」の位置づけを明らかにし、その成果を報告書(英語版・日本語版)として取りまとめた。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。

【年度実績概要】

1. 庭園に関する調査研究活動の一環として、現地調査・情報収集を実施した。
2. 文化庁との共催の下、2009年5月19～21日に、日中韓の専門家による「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」を平城宮跡資料館小講堂で開催した。日中韓における理想郷と庭園との関わりを検討し、特に日本における浄土庭園の国際的位置づけを明らかにした。
3. 上記の国際研究会の成果について、報告書(英語版　、日本語版)を刊行した。
4. 「平安時代の禁苑と離宮の庭園」をテーマとした昨年度の古代庭園研究会の成果について、報告書を編集・刊行した。


東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究

5. 森蘊及び村岡正の庭園関係資料について、整理・調査する環境整備を進めた。
6. Japanese Garden Dictionary を奈文研ホームページで公開し、海外の日本庭園研究者等に対する情報提供を進めた。
7. その他、庭園史及び歴史的庭園の保護等に関する調査研究を実施した。

【実績値】

1. 研究会等開催数：1回(資料集①)、参加者数：国内外の庭園研究者等38名
2. 刊行図書数：3件(②～④)
3. 論文等数；15 件(論文 9 件⑤～⑬、講演・発表等 6 件⑭～⑲)。

【備考】

①文化遺産部遺跡整備研究室編『東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会 講演・報告資料集』、2009.5
②奈良文化財研究所『平安時代庭園に関する研究　3』、2009.10
③Nara National Research Institute for Cultural Properties ed.「Paradise and Gardens in Eastern Asia -Final Report of the International Expert Meeting on Paradise and Gardens in Eastern Asia」、2009.11
④奈良文化財研究所編『東アジアにおける理想郷と庭園』、2009.11
⑤平澤毅「造園遺産と目録作成の方向性について」、『平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集』、2009.5
⑥小野健吉「古代の庭園」、『歴史と地理』、第625号、日本史の研究(225)、2009.6
⑦粟野隆「擬石・擬木を用いた近代和風庭園―琴ノ浦温山荘園の庭園調査から―」、『奈良文化財研究所紀要2009』、2009.7
⑧粟野隆「コンドルの庭園構成手法」、『一丁倫敦と丸の内スタイル』、求龍堂、2009.9
⑨粟野隆「古河家の邸宅と旧西ヶ原本邸の庭園」、『日本庭園学会誌』第21号、2009.10
⑩小野健吉「奈良時代の浄土庭園-阿弥陀浄土院とその前身たる観無量寿院-」、『東アジアにおける理想郷と庭園』、2009.11
⑪小野健吉「近世の庭園」、『歴史と地理』、第 630 号、日本史の研究(227)、2009.12
⑫小野健吉「池庭から枯山水へ」、『季刊悠久』、第118号、2009.12
⑬小野健吉「平城宮・京の庭園」、『月刊文化財』No.556、2010.1
⑭粟野隆「琴ノ浦温山荘園(旧温山荘)の特色と価値」、第6回文化財庭園フォーラム、2009.9
⑮粟野隆「古谿荘庭園の特徴」、伊豆屋伝八文化振興財団ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「第7回文化財を守る」、2009.10
⑯粟野隆「近代大阪・阪神間を中心とした擬石・擬木の導入と展開」、平成21年度日本造園学会関西支部大会、2009.10(第1回日本造園学会関西支部賞受賞)
⑰粟野隆「琴ノ浦温山荘庭園について」、木津宗詮研究会、2010.2
⑱粟野隆「日本近代の擬石と擬木～庭園家具から猿ヶ島まで～」、奈良文化財研究所総合研究会(第20回)、2010.2
⑲小野健吉「『春日権現験記絵』に見る貴族邸宅の庭園と自然」、国際日本文化研究センター第37回国際研究集会「都市文化とは何か-文化論からの日本「発見」」、2010.2

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4154

(様式 2)

# 自己点検評価調書

研究所 No 19

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | A | A | A |

備考

昨年度開催の研究会のテーマ「禁苑と離宮の庭園」は奈良時代の松林苑を検討する上でも重要であり、その検討成果を報告書として刊行し、関係研究者等に配布して共有したことは高く評価できる。また、平安時代庭園の極めて重要な事例である「浄土庭園」について、「平泉の文化遺産」(世界遺産一覧表暫定一覧表登載名称)の世界遺産登録の再推薦作業とも関連し、文化庁と共催した『東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会』は、庭園史の分野において文化財保護行政との連携が図られたという重要な意義とともに、中国・韓国の研究者を交え、東アジアにおける古代の日本庭園の位置づけや重要性を検討した点で、その意義は極めて大きい。また、Japanese Garden Dictionary を奈文研ホームページで公開し、海外の日本庭園研究者等への情報提供を進めたことの国際的な貢献も大きい。以上、必要性、公共性、国際性、緊急性、公開性の観点で極めて顕著な成果を達成したことから、適時性をＳとした。さらに、日本庭園研究の基盤的資料として重要な森蘊氏及び村岡正氏等の庭園史等関係資料の整理･研究の環境整備を大幅に進めたことなどを含め、調査研究の取組の成果は極めて良好であると評価できる。

2. 定量的評価

| 観点 | 研究会等の開催回数 | 論文等件数 | 報告書等刊行数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | S | A | | | |

備考

これまで十分に取り組まれて来なかった「浄土庭園」の国際的評価に関し、文化庁との共催により、中国・韓国から第一線の研究者の出席を得て『東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会』を開催し、国際的にも有意義な結論を取りまとめ、英語版・日本語版で報告書として刊行したことは極めて重要な成果である。加えて、昨年度の古代庭園研究会の報告書を刊行しており、古代庭園に関する合計 3 冊の報告書の刊行は高く評価できる。また、古代から近代に及ぶ種々の研究成果を 9 件の論文、6 件の講演・発表等として公表できたことは、研究成果の社会的還元であるとともに、古代都城における庭園研究を相対化し、かつ、その保存整備に対しても多くの示唆を与える重要な学術的成果の蓄積として評価でき、極めて有意義であったと言える(論文等件数について当初目標値は設定していないが、絶対数においてＳと評価できる)。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当初の計画通り事業を実施でき、また、今後の調査研究に関して取り組むべき具体的な課題を明らかにできた。特に、文化庁との共催した『東アジアにおける理想郷と庭園』においては、古代日本の庭園の位置づけの一部を国際的に明らかにした点で極めて有意義であり、今後も、このような国際的観点に立った庭園研究を推進していくべきであると判断される。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順　調 | 古代庭園に関する検討を様々な観点から進めることができた。特に、国際研究会での極めて有意義な検討成果も踏まえ、平安時代庭園を中心とした調査研究については、今後、古代庭園研究の基礎的資料の一つとなるよう『古代庭園研究Ⅱ』(奈文研学報)として取りまとめる必要がある。また、今年度に基盤的環境を整備した森蘊氏及び村岡正氏等の庭園史等関係資料については、さらに整理を進め目録作成準備等を視野に入れていく必要がある。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 20

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究　((1)-⑤-オ) |

【事業概要】

重要文化財山田寺出土部材を第 2 展示室で展示しており、その経年変化の計測研究をおこなう。東アジア史の中の飛鳥文化の研究として、飛鳥地域の壁画古墳の研究をおこなう。飛鳥時代の工芸技術の研究として、飛鳥・奈良時代の金工品の研究をおこなう。

| 【担当部課】 | 飛鳥資料館 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸室長　加藤真二 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

成田聖、丹羽崇史［以上、飛鳥資料館］

【主な成果】

山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年も計測を継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、四神図を中心に研究を進め、関連文献の収集、奈良文化財研究所所蔵出土遺物における朱雀・鳳凰文の調査、群馬県立歴史博物館所蔵の唐代壁画墓四神図の模写等の調査をおこなった。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、奈良県平吉(ひきち)遺跡出土の鋳造関連遺物および奈良市出土鏡の調査を行った。

【年度実績概要】

山田寺出土部材の 経年変化の研究：第 2 展示室で常設展示中の重要文化財山田寺出土部材について、ひずみ計を設置して、その経年変化を計測している。近年、春期のキトラ古墳壁画の特別公開にともない、多数の来客があることから、その影響の有無に特に注意を払っている。計測によれば、大きな変化は生じておらず、展示を継続している。

飛鳥地域の壁画古墳の研究：関連する文献資料を収集するとともに、奈良文化財研究所が所蔵している出土遺物に見られる朱雀・鳳凰文、群馬県立歴史博物館が所蔵している唐代壁画墓四神図の模写の調査をおこない、キトラ・高松塚古墳壁画との比較をこころみた。なお、本研究の成果は平成 22 年度春期特別展、およびその展示図録の基礎となる。

飛鳥時代の工芸技術の研究としては、奈文研都城調査部(飛鳥・藤原地区担当)が所蔵している奈良県平吉遺跡出土鋳造関連遺物および、奈良市埋蔵文化財センターが所蔵している奈良市出土の唐式鏡の調査を行い、その結果を飛鳥資料館研究図録第 12 冊として刊行した。前者は、近年、増加している飛鳥地域における鋳造関連遺物、遺構を研究するにあたっての基礎的データ集としても位置付けられ、後者は、継続的に行っている唐式鏡研究の最新成果となる。



韋氏墓壁画模写
(群馬県立歴史博物館蔵)



平城宮跡出土鳳凰文鬼瓦

【実績値】

山田出土回廊部材　経年変化計測値

飛鳥地域の壁画古墳の研究　群馬県立歴史博物館所蔵唐代壁画模写　写真 3 点、
奈文研所蔵出土品の朱雀・鳳凰図像　写真 30 枚
新聞紙上における研究成果の発表

飛鳥時代の工芸技術研究　研究図録 1 冊(①)

【備考】

①『平吉遺跡出土鋳造関連遺物の調査/奈良市出土鏡の分析調査』飛鳥資料館研究図録第 12 冊　2011 年 3 月

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4155

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 20

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
工芸技術の研究は、飛鳥・奈良時代の金工技術の解明のための貴重な基礎データを提供し、学界からも高く評価されている。また、高松塚古墳出土海獣葡萄鏡の評価にあたっては不可欠なデータとなっている。壁画古墳の研究もその成果が正倉院展やその図録のほか、関連文献に引用・参考されるなど、壁画にとどまらず飛鳥・奈良時代の図像の研究に独創的で新鮮な学説を提示してきている。また、山田寺の出土部材の研究も保存処理をおこなった大型部材に関する継続的なデータは、従来我が国になかった長期的なデータとなり、保存科学および大型木製品の展示保管に大いに資している。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
当初計画どおり、研究図録 1 冊を刊行した。調査・分析についても必要な回数を実施し、成分分析データ、画像データ等を得ることができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当初の研究計画通り、金工品、鋳造関連遺物の調査を進め、研究図録を刊行することができた。また、壁画古墳の研究は、春期特別展示およびその図録刊行に必要な成果をあげることができた。山田寺の出土部材についても、継続的な調査を推進し、展示・保存にかかわる異常変化を見出すこともなく、順調に展示を継続するとともに、保存処理を行った大型木製品の展示・保存に関するデータを蓄積することができた。以上の進捗状況を総合的に評価し、Ａと判定する。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本年度の計画を当初の予定どおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4161

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 21

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究　((1)-⑥-ア) |

【事業概要】

遺跡等の調査・保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、庭園等を含め遺構の露出展示を伴う整備事例の資料収集・現地調査を踏まえたデータベース構築を進め、遺構露出展示の成果と課題を整理した。また、遺跡整備・活用研究集会(第 4 回)「遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～」を開催した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 遺跡整備研究室長　平澤　毅 |

【スタッフ】　小野健吉(文化遺産部長)、粟野隆(文化遺産部研究員)、黒崎直、高瀬要一(以上、客員研究員)

【主な成果】

遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集をおこなうとともに、その意義や分類などについて検討を進め、遺構露出展示の持続的管理に関する検討をおこなうとともに事例に関する整理を改訂した。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。

【年度実績概要】

1. 遺跡の整備に関する調査研究活動の一環として、遺跡整備事例に関する現地調査・情報収集を実施した。また、文化遺産の保護と遺跡整備との関連について検討した。
2. 2010年1月28・29日に、「遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～」をテーマとして、平成21年度遺跡整備・活用研究集会(第4回)を、奈良市ならまちセンターで開催した。発表内容は、「研究集会開催趣について」のほか、『遺跡の保護と計画』に関する基調講演2件、『遺跡の環境と復元』に関する事例報告3件、『遺跡の景観と保全』に関する事例報告2件で、講演・報告を踏まえた総合討議をおこなった。なお、研究集会参加者からアンケートの回収率は出席者の92%で、うち94%から有意義であったとの回答を得た。
3. 研究集会開催後、来年度にこの研究集会の報告書を刊行する準備として総合討議の内容の整理等をおこなった。
4. 昨年度の研究集会「埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題」の成果について、「奈良文化財研究所紀要2009」に報告するとともに、報告書を編集・刊行した。
5. 昨年度開催した研究集会の成果を踏まえつつ、遺構の露出展示に関する整情報収集を継続するとともに、データベース化を進めるにあたっての項目の見直しや、管理マニュアルの作成など、露出展示における問題点の把握と今後のあり方について検討を進めた。
6. 全国各地の遺構露出展示の事例に関して、昨年度の成果を再検討し、都道府県教育委員会文化財保護主幹課に対し、遺構露出展示事例の把握について協力を求め、所在事例一覧表を改訂した。
7. 全国の地方公共団体教育委員会文化財保護主幹課及び埋蔵文化財センター等に対して平成20年度に刊行した報告書の配布をおこない、過年度の成果の公表に努めた。



遺跡整備・活用研究集会（第 4 回）

【実績値】

1. 研究集会等開催数：1回(資料集①)、参加者数：地方自治体職員等約100名。
2. 刊行図書数：1件(②)
3. 論文等数；10 件(論文 6 件③～⑧、講演・発表等 4 件⑨～⑫)。

【備考】

①文化遺産部遺跡整備研究室編『平成21年度遺跡整備・研究集会(第4回)　講演・報告資料集』、2010.1
②奈良文化財研究所『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』、2009.12
③平澤毅「造園遺産と目録作成の方向性について」、『平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集』、2009.5
④平澤毅・高妻洋成「遺構露出展示の今日的課題」、奈良文化財研究所紀要2009、2009.7
⑤平澤毅「「世界遺産」をめぐる現状と課題」、『世界遺産の普遍的価値』、京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター、2009.8
⑥小野健吉「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画について」、『遺跡学研究』、第6号、2009.11
⑦平澤毅「遺産の類型」、『遺跡学研究』、第6号、2009.11
⑧⑨平澤毅「日本における文化遺産としての風致景観の保護と保全―特にその歴史と「名勝」の保護について―」、国際学術シンポジウム「名勝の現況と展望」(於、韓国)、2009.10
⑩平澤毅「世界遺産のいま、そして、文化遺産保護の課題」、奈良大学、2010.1
⑪平澤毅「遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～」、遺跡整備・活用研究集会(第 4 回)、2010.1
⑫平澤毅「文化的景観と世界遺産―「紀伊山地の霊場と参詣道」、「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「平泉の文化遺産」などの事例から―、国際シンポジウム「大山・隠岐・三徳山―山岳信仰と文化的景観」、2010.2

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4161

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 21

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考

昨年度開催した研究集会のテーマである「遺構露出展示」は、現在の中期計画における遺跡整備分野に関する中心的な調査研究課題であり、密接に関連する保存修復科学分野と合同で開催した研究集会『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』の報告書を取りまとめ、また、全国各地の「遺構露出展示」事例の基礎的把握については追補・改訂して、併せて公表したことは極めて高く評価できる。また、平成 19 年 10 月の文化審議会文化財分科会企画調査会の報告に基づき文化庁が平成 20 年度以来推進している「文化財の総合的把握」や「歴史文化基本構想」、さらには、文部科学省・農林水産省・国土交通省の三省共管で平成 20 年 11 月に施行された「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」の現在の動向とも関連して開催した研究集会『遺跡内外の環境と景観　～遺跡整備と地域づくり～』をはじめ、時宜に適った調査研究の取組の成果は極めて良好であると評価できる。

2．定量的評価

| 観点 | 研究会等の開催回数 | 論文等件数 | 事例調査等件数 | 報告書等刊行数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

遺跡内外の環境と景観への取組を軸にこれからの遺跡整備と地域づくりとの新たな関係に関する課題を網羅的観点から検討するために開催した研究集会は、全国各地及び様々な分野から約 100 名の参加が得られ、その情報や課題の共有等において高く評価できる。また、昨年度の成果を踏まえつつ都道府県教育委員会文化財保護主管課等の協力の下、再照会により収集・整理した遺構露出展示の調査すべき事例について、1,000 件(900 遺跡)余りを確認できたことは、今後の調査研究を進める上で不可欠の情報を把握した点で重要な意義を有する。また、国内外の現状を踏まえつつ、論文・講演等を通じ、文化遺産の保護に関して、保存管理対象の理解、保存管理手法及び技術的事項を含む遺跡整備に関わる観点から近年の国内外の動向や調査研究成果等の解説・普及を行った件数も極めて高く評価できる。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当初の計画通り事業を実施でき、また、今後の調査研究に関して取り組むべき具体的な課題を明らかにできた。特に、第 4 回を迎えた研究集会については、遺跡整備を広く地域づくりの中で評価すべきことが詳らかにされ、今後の学際的検討の具体的な基礎を築くことができたことが有意義であり、参加者の評価も高く、文化財保護と地域活性化の観点などから最新の動向を踏まえつつ、さらに充実を図っていくべき事業であると判断される。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 遺跡整備に関する情報の収集・整理・公開に関する検討を様々な観点から進めることができた。特に、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室と合同で遺構露出展示について開催した研究集会の成果を踏まえ、追加して収集・整理した遺構露出展示の事例所在一覧は、次年度に計画しているデータベース構築の重要な基礎的成果として評価できる。次年度は、遺構露出展示に関する調査研究として包括的かつ詳細な検討を進め、中期計画における適切かつ効果的に成果を取りまとめ、広く公表を図る。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4162

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 22

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究((1)-⑥-イ) |

【事業概要】

遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法､保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］

【主な成果】

遺跡内の水分移動を推察し、さらに露出展示した場合の変化を予測するために、遺跡の土を採取してこれらの不飽和水分移動特性の推定をおこなった。そして、その成果とボーリング調査による土層層序、地下水面に関する情報をもとに、遺構における水分移動のシミュレーションをおこなった。また、数値実験をつうじて、水を用いた土質遺構の安定化の可能性について検討した。

【年度実績概要】

遺構の露出展示をおこなうためには、遺構内における土中水移動の現状を把握するとともに、遺構を露出した場合の土中水移動変化について予測することが必要である。そこで、これらの定量的な扱いが可能となるよう、福島市宮畑遺跡および日田市ガランドヤ古墳の土を試料として、不飽和水分移動特性を表すパラメータの推定をおこなった。

1. 宮畑遺跡では、現地のボーリング調査で得られた地層層序および地下水面に関する情報をもとに、数値実験をおこない、土質遺構を露出展示した場合の土壌含水率変化についてシミュレーションをおこなった。その結果、宮畑遺跡の土はひじょうに透水性が低いために、地下水面からの水の上昇が緩慢であり、乾燥による崩壊あるいは塩類析出による劣化が生じる可能性が示された。そこで、遺構表面から定期的な給水をおこなうことによって、土質遺構を安定化することが可能であるのかを、数値実験により検討した。この結果、遺構表面からの給水によって乾燥の進行を抑制し、かつ塩類析出を大幅に抑制しうることが推測された。
2. 装飾古墳であるガランドヤ古墳は封土のほとんどを失っており、石室が半ば露出した状態にある。現在、石室は、降雨から保護するために遮水シートで覆っているが、石室内部の石材表面には、濡れや黴の発生が認められることがある。そこで、雨量や土壌含水率測定などについて現地調査をおこなうとともに、水の移動方向を調べるために、土中水ポテンシャルおよび石室内の温湿度を測定して、動水勾配に関する調査をおこなった。その結果、動水勾配に従って土中水が石室へと移動し、蒸発した水蒸気が結露することにより、石室石材表面の濡れが生じていることが判明した。この土中水移動については、室内実験においても確認された。



ガランドヤ古墳全景

【実績値】

発表件数：3 件
論文等数：3 件

【備考】

論文発表・学会発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」「学会、研究会等発表実績一覧」参照

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4162

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 22

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

宮畑遺跡およびガランドヤ古墳から採取した土試料を用いた室内実験の結果と、フィールド調査の結果に基づき、遺跡内における土中水の移動について定量的に推定することが可能となった。これらの基礎的研究をもとに、遺跡の露出展示保存に限らず、埋め戻しによる保存など、遺跡のさまざまな保存方法について定量的に検討しうる可能性を示せた点が高く評価できる。また、遺跡保存にともなう環境負荷を考慮して、積極的に水を用いた土質遺構の安定化法について検討したことが、独創性および発展性という点で評価できる。

2．定量的評価

| 観点 | 発表件数 | 論文等数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

2009 東亜古遺址保護国際学術研討会、東アジア文化遺産保存学会第 1 回大会および CIPA2009 国際シンポジウムにおいてそれぞれ発表 1 件をおこない、東アジア文化遺産保存学会第 1 回大会発表要旨集および CIPA2009 国際シンポジウム発表論文集に 1 件、『保存科学』第 49 号に 1 件の、合計 3 件の論文を発表した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。遺跡土壌を安定化させるためには、それぞれの遺跡土壌の不飽和水分移動特性を定量的に把握する必要があり、次年度には、不飽和水分移動特性をもとに、水分および塩類の起源となる溶質の移動について、三次元のシミュレーションをおこなう予定である。また、数値実験をつうじて、遺跡土壌安定化の最適条件についても検討したい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。次年度は、このペースを維持しつつ、遺跡保存に関するより実践的な室内実験をおこなうとともに、その結果を反映したフィールドでの試験を実施し、新たな遺跡保存法の開発に取り組む予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4163
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 23

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言((1)-⑥-ウ) |

【事業概要】
平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究のため、文化庁の行う平城宮跡第一次大極殿院地区の復原整備計画に沿った実践的調査研究を実施するとともに、『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づく具体的整備に対して専門的・技術的な援助・助言を行うため、復原に関する資料の整理、新たに行うべき調査研究の計画案などを提示するとともに、文化庁記念物課や文部科学省文教施設企画部の主催する会議等に参画し、専門的・技術的な援助・助言を行う。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
井上和人、渡辺晃宏、難波洋三、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡［以上、都城発掘調査部］、
小野健吉、島田敏男、清水重敦［以上、文化遺産部］、今西康益［管理部］

【主な成果】
長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。

【年度実績概要】
約 12 年間にわたって行ってきた大極殿復原に関する諸々の研究成果を 4 冊の報告書として出版する計画で、今年度は 4 冊のうち残り 2 冊の『Ⅱ 木部』と『Ⅲ 彩色・金具』を出版した。報告書の内容は、大極殿復原に直接関わる研究のみならず、古代建築復原に資する数多くの論考からなる。また、可能な限り、基礎データを示すこととし、本報告書は大極殿の復原根拠及び復原の経緯を示すだけでなく、各地で行われている古代建築復原検討に資するような基礎データ及び研究成果を提供し得た。また、本研究で明確となった課題について、今後の古代建築研究につながるものと考える。
第一次大極殿復原事業に関しては、連絡会議等を通して、専門的な見地から助言を行うとともに、施工監理者・施工者の要請に基づき、随時指導・助言を行った。また、工事工程の写真撮影を行い、工事記録の作成に努めた。
また、平城宮の整備に関しては、平城宮の国営公園化に伴って、昨年 5 月に文化庁が策定した『特別史跡平城宮跡保存整備基本計画推進計画』に基づいて今後の平城宮の整備計画を策定する国営飛鳥歴史公園事務所が主催の『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』の開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。

【実績値】
刊行図書：『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　Ⅱ 木部』(2010 年 3 月)
　　『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　Ⅲ 彩色・金具』(2010 年 2 月)
文化庁宮跡整備関連事業への協力：
　　『大極殿復原事業に関する連絡会議』　出席 2 回
　　『特別史跡平城宮跡等の整備に関する工程等関係機関連絡調整会議』　出席 6 回
国土交通省国営公園整備関連事業への協力：　8 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4163

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 23

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　第一次大極殿復原に関する研究は、これまでにない視点での研究も行い、出版した報告書では、古代建築の復原研究に資する数多くのデータを掲載した。また、第一次大極殿の復原及び大極殿院の復原整備計画に向けて、発掘遺構の再検討及び整備事業計画者への資料提供を積極的に行った。

2．定量的評価

| 観点 | 協力回数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
　会議出席のみならず、様々なかたちで協力を行い得た。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 第一次大極殿の復原について、進行中の工事に際して随時適切な助言を行ったこと、復原の根拠となった研究成果を整理して報告書の刊行を行ったこと、また、平城宮の整備に関して、度重なる資料提供及び会議出席を行い、事業の目的を十分に達したと考え、総合的評価をＡとする。次年度も引き続き、平城宮の整備に関わる諸資料の提供及び研究を継続する予定である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本研究事業は、継続的に行っているもので、研究の段階も順調に進み、同時に文化庁事業への協力も順調に行っており、今後もこのペースを維持しつつ、研究内容の向上に努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4211

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 24

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究((2)-①) |

【事業概要】

前の中期計画 5 カ年中に開発した高精細デジタル画像形成の手法を用い、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、1)光に対する物性の検討、2)光物性の画像化に関わる技術開発、3)形成画像の汎用的な活用法(表示・出力)に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)

【主な成果】

脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―近赤外線画像編―』として刊行した。また、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を行った。また、奈良国立博物館との共同調査研究として「大徳寺五百羅漢図」の判読がこれまで出来なかった銘文の解読を行った。また、昨年、撮影と調査を行った春日大社所蔵の春日権現験記絵巻披見台の報告書ならびに法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座(下座板絵)の報告を行った。

【年度実績概要】

1. 他機関との共同研究：本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置いている。脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。デジタルコンテンツの多目的利用の一環として、『平等院鳳凰堂調査資料目録-近赤外線画像編-』『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』を刊行するとともに、奈良国立博物館記要『鹿園雑集』18 号に「法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座(下座板絵)の光学調査」についての成果報告を行った。

2. 今年度の他機関との共同調査研究：

奈良国立博物館：「大徳寺五百羅漢図」の調査(09.5.11-17、9.12-19、3.1-6)を行うとともに、研究協議会を開催し(09.4.22、8.25-26、11.5)、一乗寺蔵天台高僧像の画像解析を行った。

徳川美術館：「本田平八郎屏風」「歌舞伎図巻」の光学調査を行った(10.1.20-22)。

宮内庁三の丸尚蔵館：「春日権現験記絵巻」の光学調査に関する研究協議会を行った(10.3.26)。

3. デジタルコンテンツの多目的利用の一環としての画像展示：長野県立信濃美術館『いのりのかたち-善光寺信仰展』における「東大寺俊乗堂阿弥陀如来像(快慶作)」高精細デジタル画像パネルの公開展示(2010.4.4-5.31)、奈良国立博物館『聖地寧波』展における大徳寺蔵「五百羅漢図」高精細デジタル画像の公開展示(2009.7.18-8.30)、奈良国立博物館『おん祭と春日信仰の美術』における春日大社蔵「春日権現験記絵巻披見台」高精細デジタル画像の公開展示(2009.12.8-2010.1.20)をそれぞれ行った。

【実績値】

| | |
|---|---|
| 報告書の刊行 | 2 件(①②) |
| 学術雑誌等への掲載論文数 | 4 件(③④⑤⑥) |
| 画像展示の件数 | 3 件(⑦⑧⑨) |

【備考】

①『平等院鳳凰堂仏後壁調査資料目録-近赤外線画像編-』10.2
②『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』10.3
③早川泰弘・城野誠治「春日権現験記絵披見台の光学調査」
④江村知子「春日権現験記絵披見台の表現について」
⑤津田徹英「春日権現験記絵披見台の金具について」(③～⑤は②に論文として掲載)
⑥奈良国立博物館記要『鹿園雑集』18 号「法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座(下座板絵)の光学調査」10.3
⑦長野県立信濃美術館『いのりのかたち-善光寺信仰展』における「東大寺俊乗堂阿弥陀如来像(快慶作)」高精細デジタル画像パネルの公開・展示(2010.4.4-5.31)
⑧奈良国立博物館『聖地寧波』展における大徳寺蔵「五百羅漢図」高精細デジタル画像の公開・展示(2009.7.18-8.30)
⑨奈良国立博物館『おん祭と春日信仰の美術』における春日大社蔵「春日権現験記絵巻披見台」高精細デジタル画像の公開展示(2009.12.8-2010.1.20)。

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4211

自己点検評価調書

研究所 No24

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査箇所数 | 論文数 | 画像展示件数 | 報告書刊行数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 調査手法の研究開発がすすみ、これを応用した調査成果の報告書(2 件)を刊行することができ、また他機関との共同研究等も積極的にすすめることができた。次年度からは、光学的調査の成果を刊行物として公表することにとどまらず、ＨＰ上でも積極的に公開をすすめたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 高精細デジタル画像の文化財への応用研究について関心は高く、それに応えての報告書・論文・発表によって、その成果についての認知度・注目度は大きい。今後も積極的に成果公開に努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4221

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 25

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化財の非破壊調査法の研究((2)-②) |

【事業概要】

文化財の材質調査をその場で行うことを目的に、小型可搬型機器に関する調査・研究と、その応用研究を行う。金属文化財や顔料などの無機化合物に対する元素分析法、および染料など有機化合物の物質同定を目的とした分光学的手法の調査･研究を中心に行い、絵画・彫刻・工芸品など実資料への適用を図る。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

【スタッフ】

早川泰弘、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)

【主な成果】

ポータブル蛍光Ｘ線分析装置や反射分光システム、デジタル顕微鏡システムなど複数の非破壊的手法を用いて、博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。また、分光学的手法に関する染料分析の高度化のための検討を併行して行った。

【年度実績概要】

5 年計画の第 4 年度として、下記の 3 点に重点をおいて研究を実施し、以下の成果を得た。

(1)無機顔料に関する材質調査とデータ解析

日本絵画作品の彩色材料調査を重点的に実施し、鎌倉期絵画として三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵巻」を詳細に調査した。鎌倉期代表作として顔料や描写技法に関する基準データを取得できた。また、琉球絵画を集中して調査し、琉球の地域的特性を明らかにした。

(2)有機染料に関する材質調査と検討

国宝三十帖冊子に使われている染料の材料調査を行った。さらに、江戸期の国絵図の彩色材料調査を実施し、江戸期染料の基本データの収集に加え、スペクトルからは判別しにくい染料に関して、高次微分法などによる検討を行った。また、可視から近赤外域の単色光写真の中の彩色材料を解析するための画像解析手法を検討した。

(3)非破壊調査法に関する基礎的研究

特定の有機材料(染料など)に対して、主に分光学的手法を用いて材料検出・物質同定のための最適条件を検討した。

【実績値】

論文等数　2 件(①、②)
発表件数　2 件(③、④)
報告書　　1 件(⑤)

【備考】

①早川泰弘：「国宝伴大納言絵巻の蛍光Ｘ線分析」　『保存科学』49、pp. 13-24、 10. 03
②吉田直人：「発光ダイオードを光源とした赤外線撮影について」『保存科学』49、pp. 119-124、 10. 03
③早川泰弘、城野誠治、神居文彰：「平等院鳳凰堂仏後壁の図像と彩色に関する調査」　日本文化財科学会第 26 回大会、名古屋大学 09. 7. 11-12
④吉田直人、松島朝秀　「デジタルカメラを使った色材の可視光反射率測定とその応用」文化財保存修復学会第 31 回大会、倉敷市芸文館 09. 6. 13-14
⑤伊藤若冲「動植綵絵　全三十幅」　宮内庁三の丸尚蔵館・東京文化財研究所編、小学館、10. 01

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4221

自己点検評価調書

研究所 No 25

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 学術雑誌等への掲載論文等数 | 学会研究会等での発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 各博物館・美術館などと協同した作品調査研究、さらに速やかな成果公開を果たし、高い調査研究水準を保つことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 研究計画の第 4 年度として、各博物館・美術館に所蔵される多くの作品調査を実施し、貴重な調査データの蓄積を図った。論文・学会発表などで速やかな成果公開も果たし、計画通りの研究進捗状況である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4231

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 26

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 遺跡データベースの作成と公開((2)-③-ア) |

【事業概要】

官衙関連遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、寺院遺跡発掘調査において抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析をおこない、一般公開する。

| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長　小澤毅 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

山中敏史［奈文研客員研究員］、森本晋［企画調整部］、馬場基、小田裕樹、青木敬［以上、都城発掘調査部］、志賀崇、清野陽一［以上、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程］

【主な成果】

官衙関係遺跡の建物データについて、各遺跡における建物群の性格・建物の性格を細分化して追加した。とくに、官衙における門遺構のデータを重点的に収集し、データベースの更新および公開をおこなった。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方の一部まで公開した。

【年度実績概要】

1. 各地の官衙関連遺跡について、建物群の性格および個々の建物の性格に関する属性項目のデータを追加入力した。
2. 建物規模について、より詳細な数値を入力し、データ化した。
3. 平成20年度以前刊行の官衙関係遺跡に関する報告書のめくり作業をおこない、門遺構に関する資料を収集整理した。
4. 門遺構のデータに関して、今年度に開催した研究集会「官衙と門」の資料集成を編集した。
5. 平成18年度以降刊行された報告書のめくり作業をおこない、国府・郡衙・城柵やその他の官衙関連遺跡等の資料を収集整理した。また、平成20年度までに刊行された古代寺院に関する報告書のめくり作業をおこなった。
6. 新たに収集した資料をデータベース化し、新出資料も追加して一般公開した。
7. 古代寺院遺跡の建物遺構を中心とした属性分析を進め、それにもとづく寺院遺跡データベース構造を作成して資料収集と整理をおこない、近畿地方以西のデータについて、奈良文化財研究所ホームページで一般公開した。




古代寺院建物データ入力画面(部分)

【実績値】

官衙関係遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡数約150件、文献データ約2,000件、建物データ約500件、画像データ約650件

古代寺院遺跡データベース入力・補訂件数：遺跡数約450件、文献データ約4,200件、建物データ約500件、画像データ約800件

公開データ数：官衙関係遺跡：遺跡数約1,400件、文献データ約13,300件、建物データ約15,700件など
古代寺院遺跡：遺跡数約700件、文献データ約6,500件、建物データ約1,100件など

研究集会資料集：1件(①)

論文等数：1 件(②)

講義件数：1 回(③)

【備考】

①馬場基ほか編『「門」遺構資料集成』、奈良文化財研究所、2009.12

②青木敬「飛鳥・藤原地域における 7 世紀の門遺構」、『第 13 回古代官衙・集落研究集会　官衙と門』、奈良文化財研究所、2009.12

③山中敏史「律令国家の成立と在地社会」(静岡大学人文学部集中講義)、2009.9.22～25

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4231

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 26

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | 効率性 | 正確性 | 独創性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考

情報の共有化が要望されてきた古代寺院遺跡について、データ数の拡大をともなうデータベースを充実させている点で、適時性と発展性が認められる。また、毎年増加する官衙関連遺跡に関するデータを逐次補足・補充することにより、正確性と継続性、適時性を確保している。

2．定量的評価

| 観点 | データベース入力件数 | データベース公開件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

毎年増加する官衙関係遺跡のデータの追加入力に加えて、新たに門遺構を全国的に集成し、データベースの充実化を図った。また、寺院遺跡データの収集・入力作業を進め、データの公開も着実に達成した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | データベース入力件数の目標値を大幅に上まわったほか、官衙関係遺跡における門遺構資料収集とデータベース化を新たに開始した。古代寺院遺跡のデータベースを、近畿地方の一部を除く西日本について一般公開できたことは、とくに各地で寺院遺跡の調査研究にあたっている者にとって、情報の共有化につながると同時に、遺跡から抽出すべき遺構の属性についての指標を提示するものであり、寄与するところが大きい。今後も、新発見の官衙関係遺跡データを継続的に収集・整理するとともに、全国に及ぶ古代寺院のデータベースを作成し、公開していくことにしたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 官衙関連遺跡について、新出資料の補充を含めたデータベースの作成を着実に進め、一般公開するとともに、宮・都城の門についてもデータ収集を開始し、データベースの一層の充実化を図っている。昨年度に構築した寺院遺跡のデータベースについては、近畿地方の一部を除く西日本のデータを網羅的に収集・整理してデータベース化し、一般公開することができた。今後は、官衙関連遺跡および寺院データの収集とデータベース化を継続し、利用しやすいかたちでの一般公開をさらに推進していくことが必要である。また、これにくわえて、発掘調査で検出例の多い井戸遺構についても属性分析をおこない、整理・収集とデータベース化を始めることにより、官衙関連遺跡の調査や建物遺構分析における新たな指標を示すことができるよう努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4232

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 27

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究((2)-③-イ) |

【事業概要】

遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、方法の検討と実地での実践によるデータの収集と分析をおこなう。本事業は、現在の遺跡調査の実態に鑑み、従前の方法との乖離を埋めつつ、新たな技術の有効利用法を研究・提示することで、当該分野における指針としての役割を果たすことを目的としている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長　小澤毅 |

【スタッフ】

金田明大［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

【主な成果】

遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践をおこなった。測量では、三次元レーザースキャナーおよび写真測量の技術的検討をおこない、遺跡・石造物や考古遺物の図化法の検討と摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、ＧＰＲの走査方法改善と新たな機器の試作、ＧＰＳによる位置精度向上実験をおこない、多様な条件下で建物跡の確認に成功した。

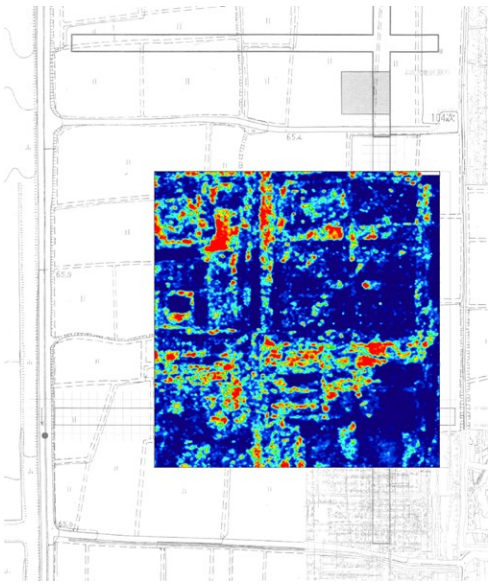
【年度実績概要】

探査分野では、台渡里遺跡(茨城県)、西都原古墳群(宮崎県)、伊勢国府(三重県)、天良七堂遺跡、三軒屋遺跡(群馬県)、胡桃館遺跡(秋田県)、芝生城(徳島県)、平城宮、藤原宮、桜井茶臼山古墳(奈良県)、鋼山製鉄所、苗代川窯(鹿児島県)、大宰府(福岡県)で地方公共団体や大学と共同調査をおこなった。なかでも、伊勢国府での試行を基礎に改良を加えたＧＰＲ機器は、天良七堂遺跡での総柱建物の確認、三軒屋遺跡での下層遺構の形状の確認、平城宮での建物等の詳細の確認といった成果を生んでいる。

測量・計測分野では、低価格の三次元レーザースキャナーの実用化を達成し、従来の記録法に加えて三次元計測が現実的に導入可能なことを示した。現在、連携した研究者とともに、解説書を作成中である。くわえて、生駒本願寺裏山古墓群(奈良県)、檜前遺跡(奈良県)、京都国立博物館蔵安祥寺盤竜石柱(京都府)、東京国立博物館蔵塑像(東京都)、遼寧省出土遺物(中国)などの計測をおこない、三次元計測の有効性を検証することができた。

このほかに、考古学情報の流通の改良を目的とする、SVG および XML を利用したデジタル実測図の流通に関する研究、平城京条坊の既往の発掘成果の整理、遺跡の位置情報データの活用、窯業遺跡の考古学的研究、考古学の研究成果の一般化を進めるためのテストケースとして、生駒市教育委員会と連携した企画展示などの活動をおこなった。

また、UNESCO-ICOMOS の委員会であるＣＩＰＡの国際学会を京都で開催し、世界各国より参加者を得た。



平城宮東方官衙のＧＰＲ探査成果

【実績値】

発表件数：3 件
論文等数：4 件
遺跡探査実施件数：15 件
三次元計測資料数：84 点
研修実施件数：3 件
大学講義件数：1 件

【備考】

論文発表・学会発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」「学会、研究会等発表実績一覧」参照

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4232

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 27

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

適時性：技術革新が進行するなかで的確な指針を欠く現況の改善。
発展性：全国の遺跡調査への応用性と影響力。
効率性：時間的投資・人的投資の効率化。
継続性：事業中断以前を含めた、黎明期以来のデータの継続的収集。

2．定量的評価

| 観点 | 探査実施件数 | 計測実施件数 | 発表件数 | 研修件数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | A | | |

備考

いずれの項目も当初の目標値を上回っている。とくに探査実施件数はそれが著しい。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 測量・探査ともに、課題としているワークフローの確立や機器の開発が進展し、それに対応して作業の迅速化や結果の向上、地方公共団体などへの協力と成果の還元が達成できたため、Ａと判定する。反面、多方面からの要求に応えるための研究補助者の確保が必要だが、現状では充分に対処できていないことから、スタッフの負担が大きくなっており、これ以上の研究の拡大は事実上困難である。また、本年度後半の２度にわたる漏水事故により、かなりの機材が使用できない状況となり、その事後処理にも追われているため、現況では次年度に同様の調査研究を維持するのは難しく、早急な対応を必要とする。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 現状では、新しい方法や機器の導入と試行、成果の蓄積という点では、当初の予想を超える進展をみせており、全国各地からの依頼や問い合わせも急増している。三次元データや探査データの処理は時間を要する作業であるが、研究補助者の雇用と育成により、三次元データについては、一定量の処理が可能になった。探査についても、ＲＴＫ-ＧＰＳの導入などが進み、今後、さらなる進展が期待できる。しかし、漏水事故によって、かなりの機器が使用不能となり、ほかの機器との連携ができなくなったものもあるため、このままでは、故障した機器の利用を想定していた試験および外部の依頼には応じられない。したがって、次年度の調査研究の計画を大幅に見直す必要があり、すみやかな対応措置が求められる。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4241
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 28

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
|---|---|---|---|
| プロジェクト名称 | 年輪年代学研究　((2)-④) | | |

【事業概要】
遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究室で開発したＸ線ＣＴやデジタル画像を用いた測定方法は、非破壊を原則とする文化財調査にとって理想的なので、実施事例の拡充を図る。また、年輪画像計測技術のさらなる進歩と普及を目指し、技術開発についても取り組む。これらの研究成果を、学会、学術論文、各種報告書として発表する。

| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 年代学研究室長　大河内隆之 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
光谷拓実、伊東隆夫、藤井裕之［以上、奈文研客員研究員］、児島大輔［日本学術振興会特別研究員］

【主な成果】
3 府県下 3 遺跡から出土した考古学関連の木材試料、2 府県下 3 棟の建造物、7 府県下 9 躯の木彫像ならびに 1 件の現生木試料群に対して年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた文化財の高精度な非破壊分析を 2 件実施した。さらに、年輪の非破壊計測に関する技術開発にも取り組んだ。以上の研究成果の一部を、論文等 7 件、学会発表等 4 件として発表するとともに、特許 1 件を取得した。

【年度実績概要】
1. 文化財の年輪年代調査：本年度の年輪年代調査実績の件数は上述のとおりだが、とりわけ注目に値するのが、奈良国立博物館で陳列された金峯山寺釈迦如来坐像と兵庫県所蔵天部立像の年輪年代調査である。両像は、作風などから同一作者の手による可能性が高いと鈴木喜博氏(奈良国立博物館)によって指摘されていたが、今回の年輪年代調査で、ともに 930 年代頃の作であることが明らかになり、その蓋然性の高さを裏づけることになった。また、平成 13 年から 20 年度にかけて継続的に実施してきた法隆寺西院伽藍の総合的な年輪年代調査の成果について、査読誌に論文として発表することができた(下記論文⑦)。
2. 調査対象樹種の拡大：奈良文化財研究所では、ヒノキ、スギ、コウヤマキ、ヒバの 4 樹種を主な調査対象としてきたが、近世の建築用材に多用されるツガについても基礎研究に取り組み、年輪年代測定への応用の可能性が高いことを確認した。
3. 文化財の非破壊構造分析：当研究室に設置したマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置は、当初は非破壊年輪年代測定を目的に設計されたものであるが、その後、三次元撮像への対応など技術的な性能向上を図り、文化財の高精度な構造分析などにも幅広く活用可能となっている。本年度は、恵庭市柏木川 4 遺跡出土編布の製作技法分析などを実施した。
4. 技術開発：非破壊年輪年代測定の根幹をなす技術として、「木材又は木造文化財の年輪幅又は密度測定方法」(発明者：大河内隆之、特許第 4310374 号)を特許取得した。


兵庫県所蔵天部立像の年輪年代調査作業

【実績値】
論文等数：7 件(①～⑦)，学会発表件数：5 件(⑧～⑫)，特許取得件数：1 件(特許第 4310374 号)

【備考】

①大河内隆之・児島大輔 「長徳寺木造薬師如来坐像の年輪年代調査」、『奈良文化財研究所紀要 2009』、2009.7
②降幡順子・大河内隆之 「黒漆塗工具及び刀子の事前調査」、『奈良文化財研究所紀要 2009』、2009.7
③児島大輔「甲冑修復の精神史-近世における修復二例を中心に-」、『サムライの美学-甲冑師明珍宗恭とそのコレクション-』展図録、早稲田大学會津八一記念博物館、2009.9
④児島大輔「正倉院宝物樹皮色袈裟について」、『奈良美術研究』第 10 号、早稲田大学奈良美術研究所、2010.3
⑤光谷拓実「年輪年代調査」、『月刊文化財 』554、第一法規、2009.11
⑥Mitsutani Takumi: “Tree-ring dating: its precision and applications in Japan” Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008, National Research Institute of Cultural Heritage, 2009.12
⑦光谷拓実・大河内隆之 「年輪年代法による法隆寺西院伽藍の総合的年代調査」、『佛教藝術』308、毎日出版社、2010.1(査読あり)
⑧大河内隆之・光谷拓実・児島大輔・松岡久美子・佐々木進「善勝寺本尊木造千手観音立像の年輪年代調査」、日本文化財科学会第 26 回大会、2009.7
⑨尾嵜大真・坂本稔・今村峯雄・光谷拓実 「日本樹木年輪試料による古墳時代以降の炭素 14 年代較正曲線作成の試み」、日本文化財科学会第 26 回大会、2009.7
⑩藤井裕之・竹口泰生・後藤玉樹 「日本産ツガ属の年輪年代測定(2)-複数の近世建造物におけるデータ比較-」、日本文化財科学会第 26 回大会、 2009.7
⑪Itoh Takao “Database of wood species used for archaeological wooden objects unearthed in Japan” Pacific Regional Wood Anatomy Conference(環太平洋木材解剖学会議)、マレーシア国 クアラルンプール、2009.8
⑫児島大輔「日本古代における銀造仏像の鋳造について」、アジア鋳造技術史学会東京大会 2009、2009.8

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4241

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 28

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | S | S | A | S | S |

備考

適時性： 解体修理や博物館での展示替などの機会を逃すことなく調査を実施し、考古学・建築史・美術史等に関連した木材から得られた年輪年代情報を提供することができた。ただし、本年度は室長の一時休職という事情により、例年よりも対応の迅速性という点において反省すべき点もあり、前年度より評価を１ランク下げる。

独創性・発展性： マイクロフォーカスＸ線ＣＴによる非破壊年輪年代測定やデジタル画像計測の技術は、当研究室で開発した新規性を伴う独創的なものであり、その根幹部分をなす技術について特許取得を果たした意義はたいへん大きい。また、高精度な非破壊構造分析の実施や、年輪年代法の適用可能な樹種を広げる研究にも着手しており、これらについては前年度以上の評価に値する。

効率性： 測定対象に応じて、年輪読取機による計測手法、デジタル画像計測手法、マイクロフォーカスＸ線ＣＴによる非破壊年輪計測手法などを適材適所で選択し、効率的に研究を遂行した。ただし、室長の休職期間中はマイクロフォーカスＸ線ＣＴのラインが事実上ストップしたため、研究室内に操作可能者を複数養成する必要性を痛感するとともに、前年度より評価を１ランク下げる。

継続性： 年輪データを継続的に集積している。とくに、平成 13 年から 20 年度まで継続してきた法隆寺西院伽藍の総合的な年輪年代調査の成果について、査読誌に論文発表した意義は大きい。

正確性： １年単位の正確さで年代を特定できるのが年輪年代法の最大の特徴であり、本年度の研究においても、その特徴がいかんなく発揮されている。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

論文等数・発表件数ともに、当初の目標値を上回っている。ただし、昨年度実績と比較すると、論文等数・発表件数ともに下回っている。とりわけ発表件数の減少が顕著であり、これには、予定していた国際学会や国内学会等への参加を、室長の休職により中止せざるをえなかったという特殊事情もある。そうした反省の意味を込めて、前年度よりも評価を１ランク下げる。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 定性的評価がＳとＡ、定量的評価がＡであることを勘案して、総合評価を昨年度より１ランク下げ、Ａと判定する。本年度は、室長の一時休職という特殊事情があったにもかかわらず、その間、客員研究員と日本学術振興会特別研究員諸氏の努力により、評価Ａに値する実績を残すことができた。従来、当研究室における年輪年代学研究は、前室長の時代から室長個人の努力に負うところが多分にあり、そのため今回のような事態になると、研究活動が停止しかねない危惧をはらんでいる。本年度は最小限の失態で回避することができたものの、今後は研究室内での技術の共有化や、役割分担と相互補完を図るなど、研究活動を円滑に進めるためにも、研究室運営上の課題の改善にも着手したい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当該年度における調査研究事業は、その進捗度からみて、順調に実施できたと考えられる。本年度の順調な進捗に満足することなく、ひきつづき中期計画の遂行に邁進したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4251

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 29

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究((2)-⑤) |

【事業概要】

動植物遺存体による環境考古学的研究を継続して行う。また、出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。日本の先史時代の動植物利用と対比できる中国、韓国、台湾、北米北西海岸などの遺跡の発掘調査に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行う。そして、東アジアや環太平洋地域の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。

| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 環境考古学研究室長　松井章 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

山崎健［埋蔵文化財センター］、橋本裕子［奈文研客員研究員］、樋廻理恵子、藤田芙美［以上、奈文研派遣職員］、菊地大樹、納屋内高史、ルブナ・オマル［以上、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程］、永井理恵、大和槙、金原裕美子［以上、京都大学大学院人間・環境学研究科博士前期課程］

【主な成果】

国内外の学会や研究会において、環境考古学とくに貝塚や湿地遺跡から明らかとなる動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。研究の基礎となる動物骨格標本についても継続的に収集するとともに、広く活用されるように所蔵標本リストの公開を行った。また、継続して分析を行っている佐賀県東名遺跡や兵庫県兵庫津遺跡について、発掘報告書を執筆した。

【年度実績概要】

2009 年 4 月に Dale Croes 教授(アメリカ・South Puget Sound Community College)らを招き、「北西海岸の低湿地遺跡に関する研究会」を開催した。また、同 4 月にアメリカ・アトランタで開催された SAA(アメリカ考古学会)において、日本における貝塚の研究成果について発表を行った。7 月には韓国の三江文化財研究所において、金海貝塚から出土した動物遺存体や骨角器の調査分析を行った。8 月はモンゴルにおいて、遊牧民の動物資源利用に関する民族考古学的調査を行った。10 月には、広島県福山市で開催された部落解放研究第 43 回全国集会において「動物と関わった人々」という講演を行った。12 月には、茨城で行われた動物考古学研究集会に参加し、中世遺跡の鹿角製馬具(オモゲ-)や東名遺跡の骨角器製作など 4 本の発表を行った。2010 年 2 月にはリ-クァンチ-教授(台湾・台湾中央研究院)を招き、講演会を開いた。3 月はラオスにおいて、狩猟や家畜に関する民族考古学的調査を行った。



モンゴルの調査風景

動物骨格標本は、口之島牛、カマイルカ、カワネズミ、セキショクヤケイ、ミノヒキなどの希少な骨格標本を含む、166 点を収集した。また、奈文研に所蔵されている鳥類・両生類・爬虫類の標本リストを『埋文ニュース』138 号として刊行し、他の組織、研究者への公開を行った。この本では、標本リストとともに、現生動物の骨格標本を作成する方法を概説的にまとめた。

このほか、佐賀県東名遺跡、兵庫県兵庫津遺跡から出土した動物骨の分析を進め、発掘調査報告書を作成した。とくに、佐賀県東名遺跡では、動物骨や鹿角に残された加工痕を観察して、骨角器の製作工程や加工技術を明らかにした。

【実績値】

標本作製(収集)数：魚類 113 点、鳥類 28 点、哺乳類 16 点、両生類／爬虫類 19 点
論文等数：論文　2 件、報告書　4 件、その他　16 件
発表件数：海外　1 件、国内　9 件

【備考】

論文発表・学会発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」「学会、研究会等発表実績一覧」参照

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4251

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 29

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

適時性：昨年度の『哺乳類標本リスト』に続いて『鳥類・両生類・爬虫類リスト』を刊行し、所蔵標本が広く活用されるよう、リストの公開に努めた。

独創性：国内外の遺跡で幅広い時代を対象として、人間と動物の文化誌を考古学から明らかにした。

発展性：動物考古学から出発し、歴史学、民俗学、民族学へと幅広い学問分野における研究に拡大した。

継続性：研究の基礎となる動物骨格標本を、継続的に収集・作製・管理している。

2．定量的評価

| 観点 | 論文等数 | 発表件数 | 標本収集数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

査読誌 2 本を含む 22 本の論文等の刊行、国内外の学会や研究会で 10 本の発表を行った。また、動物骨格標本 116 点を収集したことから、評価をＡとする。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 定性的評価に関しては、継続的な動物骨格標本の収集とともに、昨年度の「哺乳類標本リスト」に続き、所蔵する鳥類・両生類・爬虫類の所蔵標本目録を刊行した。これにより、従来も多くの研究成果を上げてきた所蔵標本が広く活用されることが期待できる。定量的評価に関しては、動物考古学や環境考古学に関する研究について、国内外で数多く論文等や学会発表を行った。以上の点から、総合的にＡと評価するのが妥当と考える。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今年度も多くの国際学会、国内研究会などで研究発表を行い、これまでに上げた成果を紹介してきた。また、現生動物骨格標本の収集も継続的に行うとともに、広く活用されるための所蔵リストの刊行・公開を順調に進めている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4311

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 30

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化財の生物劣化対策の研究((3)-①) |

【事業概要】

歴史的建造物や彫刻等、屋外環境に近い空間にある文化財は生物被害を受けやすい環境にあるが、その劣化の早期検出や被害防止対策について、研究はまだ十分な状況とはいえない。本プロジェクトでは、特に屋外に近い環境に置かれた文化財の生物劣化対策を確立することを目標に、生物による被害の現況についてデータを集め、早期発見のためのシステム作りや劣化の防止手法の開発などの研究を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

【スタッフ】

木川りか、佐野千絵、犬塚将英、吉田直人、川野邊　渉(以上、保存修復科学センター)、藤井義久、間渕創(以上、客員研究員)、鳥越俊行、今津節夫、本田光子(以上、九州国立博物館、保存修復科学センター併任)、吉川也志保(日本学術振興会特別研究員)、小峰幸夫((財)文化財虫害研究所)、トム・ストラング(カナダ保存研究所)

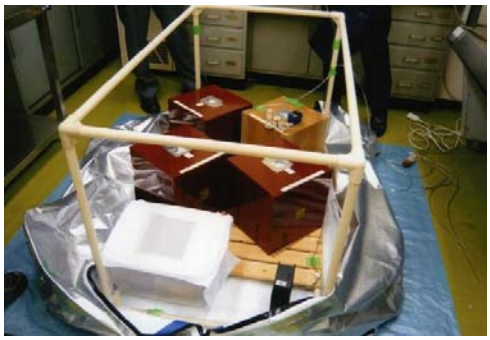
【主な成果】

歴史的建造物での生物被害状況調査で日光輪王寺本殿の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。今年度は、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、さらに詳細な調査を行い、殺虫処理についても検討を進めた。また、調査結果および修理、今後の殺虫処理などに関する専門家向け研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。

【年度実績概要】

(1)歴史的建造物など、屋外環境に近く、高湿度になる現場の生物被害状況調査

日光輪王寺本殿の修理において虫害が発見され、本プロジェクトで、その加害虫および加害の性質について詳細な調査を行った。また、レジストグラフを用いた梁など重要な材の内部状況の調査結果とともに、ＣＴによる調査をさらに進めた。殺虫方法の策定に向けて、被害材や漆塗りのケヤキ材試験ブロックなどを用いて、二酸化炭素やフッ化スルフリルなどによる殺虫効果の試験を開始した。



漆塗装したケヤキ材試験片を用いた殺虫試験

(2)古墳など、高湿度環境の微生物活性についての基礎研究

これまで浮遊菌数、付着菌の調査を行っていたが、それらとあわせ、微生物に由来する生体活性から微生物の量や活性を検出するＡＴＰ発光法について検討し、微生物濃度とその発光量との相関を検証した。

(3)歴史的建造物の被害検出、害虫調査、殺虫法に関する専門家向け研究会の開催

専門家向け研究会を東京文化財研究所地下会議室にて開催　し、今後の問題点を明らかにした。

テーマ：「文化財の生物劣化の非破壊調査と虫害調査、および修理における利用」　平成 21 年 11 月 20 日(金)プログラム：

(財)日光社寺文化財保存会　原田正彦　日光山輪王寺本堂での隠れた虫害―対応と修理について

(財)文化財虫害研究所　　小峰幸夫　害虫の調査と同定結果、生態などについて

京都大学大学院農学研究科　藤井義久・藤原裕子　レジストグラフ、AE などによる調査結果について

九州国立博物館・東京文化財研究所　鳥越俊行・木川りか　X 線 CT による被害材の調査と応用について

【実績値】

論文数　2 件(①、②)　　学会研究会等での発表件数　2 件(③、④)　　研究会　1 回

【備考】

①穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察(第 2 報)日光輪王寺における虫害を事例として(藤井義久、藤原裕子、原田正彦、木川りか、小峰幸夫、川野邊渉)「保存科学」49、pp.183-190、10.03

②文化財公開施設等における ATP 拭き取り検査の活用について(間渕創、木川りか、佐野千絵)「保存科学」49、pp.1-12、 10.03

③X 線 CT スキャナによる虫損部材の調査(木川りか、川野邊渉、鳥越俊行、今津節生、本田光子、原田正彦、小峰幸夫)文化財保存修復学会第 31 回大会　倉敷　09.6.13-14

④紙資料の褐色斑における菌体と代謝物の蛍光に関する考察(吉川也志保、吉田直人、木川りか)　文化財保存修復学会第 31 回大会　倉敷　09.6.13-14

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 4311

自己点検評価調書

研究所 No 30

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
歴史的建造物や古墳など、生物被害を受けやすい文化財の生物劣化対策は急務である。
本研究は時機を得たテーマであり、研究を進めるなかで従来あまり知られていなかった害虫の存在や、歴史的建造物特有の問題点が明らかになり、具体的な検討とともに今後の方向性を探ることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数 | 研究発表件数 | 研究会開催数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
研究成果は、論文、学会での研究発表を通して、すみやかに公表することができた。
また、研究会では、関連分野の専門家間で問題点を共有し、議論をすることができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 現場調査、基礎研究の実施、専門研究者間の交流、すみやかな研究成果公開を果たし、本課題について必要不可欠な調査研究を実施することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本課題において重要な劣化診断について現地で調査を行い、被害の非破壊調査に関する基礎研究の成果も取り入れて検討することができた。また、次年度以降の対策の方針について、議論および検討を進めることができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4321

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 31

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 文化財の保存環境の研究((3)-②) |

【事業概要】

文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し改善することを目的として、様々な文化財を取り巻く環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究を行う。また、地方公共団体等が設置する文化財の収蔵・公開施設に対して、その依頼に応じて環境調査を行い、専門的・技術的な援助・助言を行う。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

佐野千絵、犬塚将英、早川泰弘、木川りか、吉田直人(以上、保存修復科学センター)、呂　俊民(以上、客員研究員)、小椋大輔、三村　衛(以上、京都大学、客員研究員)、白石靖幸(北九州市立大学、客員研究員)

【主な成果】

文化財施設内の温湿度解析の対象として、いくつかの博物館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、建築部材から発生する汚染ガスの簡易測定法に関して、実験を行い、研究成果をまとめた。また、12 月 8 日に「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。さらに「文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱・水分移動解析に関する研究会」というテーマで研究会を開催した。

【年度実績概要】

本年度は、文化財施設内の温湿度解析に、いくつかの博物館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行い、実測した温湿度データとの比較を行った。今回作成した計算モデルから得られた計算結果と実測結果は概ね対応した。また、1 月 26 日に、「文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱・水分移動解析に関する研究会」というテーマで研究会を開催した。さらに、1 月 28,29 日に建築部材内の熱・水分移動解析手法に関するワークショップを開催した。

博物館資料の保存のための空気汚染物質への対策研究としては、これまでの成果を学会等で報告すると共に、建築部材から発生する汚染ガスの簡易測定法に関して、実験を行い、研究成果をまとめた。

12 月 8 日に開催した「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマの研究会では、ドイツのラトゲン保存研究所のステファン・シモン氏に「欧州での博物館の省エネ化と展示、収蔵施設内の保存環境」、京都大学の鉾井修一教授に「温熱環境からみた博物館の省エネ化」、国土交通省の足永晴信氏からは「低炭素社会での持続可能な都市空間実現に向けた取り組み」の講演を頂きさらに東京国立博物館の神庭信幸氏から「低炭素社会と共存する文化遺産の保存」という題で、東京国立博物館での取り組みについて講演を頂くと共に討論を行った。

また、1 月 26 日の文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱･水分移動に関する研究会ではドレスデン工科大学のグルネワルド教授、ニコライ研究員、プラーゲ研究員らに、温湿度のシミュレーション解析手法や建築部材の物性測定などに関する講演を頂くと共に討論を行った。



研究会でのシモン氏の講演

【実績値】

論文等数　3 件(①、②、③)　　研究会開催　2 件

発表件数　3 件(④、⑤、⑥)

【備考】


①呂　俊民、佐野千絵：「文化財保存のための保管空間に影響するガス放散体の簡易試験法」『保存科学』49、pp. 139-150、10.03

②佐野千絵：美術館・博物館に求められる設備機能、建築設備、2、pp.25-29、10.02

③R. Plagge, J. Grunewald, T. Ishizaki and M. Takami, Lehmbaukonstructionen in Asien - Experimentelle und numerische Studien zur Umverteilung von Feuchte Europaischer Sanierungskalender,pp.61-70. 09.04.

④呂　俊民、佐野千絵：美術館における内装材からの拡散ガス簡易試験法、文化財保存修復学会第 31 回大会、09.6.13-14

⑤犬塚将英、石﨑武志他、汎用伝熱換気計算法による美術館展示室温湿度環境のモデル検討、文化財保存修復学会第 31 回大会、09.6.13-14

⑥隅田登紀子、犬塚将英、杉野学園衣装博物館における西洋衣装の保存と活用、文化財保存修復学会第 31 回大会、09.6.13-14

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4321

自己点検評価調書

研究所 No 31

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 学術雑誌等への掲載論文等数 | 学会研究会等での発表件数 | 研究会 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 美術館・博物館での環境調査、海外の研究者との情報交換、研究会の実施、学会や紀要での研究成果公表など予定通り実施し、高い調査研究水準を保つことができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 研究計画の第 4 年度として、環境のシミュレーションに関する現地調査および基礎的な研究も行い、研究は予定通り進んでいる。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4331

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 32

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究((3)-③) |

【事業概要】

屋外に位置する美術工芸品、文化財建造物等は、周辺環境の変化が大きな劣化要因となる。本研究では、周辺環境が文化財に及ぼす影響を評価し、予測手法の確立や新たな保存修復技法や材料の開発を目的とする。また、石造文化財の保存修復に関して韓国・国立文化財研究所との共同研究を行う。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

早川典子、森井順之(以上、保存修復科学センター)、朽津信明(文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)臼杵磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2)木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会等を実施した。

【年度実績概要】

石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について、周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、その影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を試みた。

今年度の主な成果は次の通りである。

(1)臼杵磨崖仏では今後の修復事業のために、劣化機構の把握を目的とした気象や岩体水分などの長期連続観測を実施している。平成 21 年度は、臼杵磨崖仏古園石仏群、ホキ石仏第二群第一龕を対象に、殺菌灯照射による着生生物のクリーニング施工および評価を実施した。また、ホキ石仏第二群の凍結破砕防止策として寒冷時の覆屋閉鎖実験を継続した。

(2)木造建造物の腐朽に関して富貴寺大堂(豊後高田市)を対象に周辺環境調査を継続し、腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の関係について把握を行った。

(3)今年度の大韓民国・国立文化財研究所との共同研究は、2010(平成 22)年 3 月 19 日、東京文化財研究所地階会議室にて研究発表会を開催した。また、2009 年夏・秋には臼杵磨崖仏(日本)にて、2009 年夏には雲住寺(韓国)にて両国の研究者が集合し、寒冷時の石材凍結およびその周辺環境に関する調査を共同で実施した。

【実績値】

報告書：1 件(①)
論文等：4 件(②～⑤)
発表等：6 件(⑥～⑪)

【備考】

①『2009 日韓共同研究報告会-石造文化財の保存と修復-予稿集』　東京文化財研究所／大韓民国文化財庁国立文化財研究所　73p　10.3②森井順之、川野邊渉、柏谷博之　殺菌灯を用いた磨崖仏着生生物除去手法の実用化　『2009 日韓共同研究報告会予稿集』　pp.63-73　東京文化財研究所／国立文化財研究所(大韓民国) 10.3③山路康弘、稗田貞臣、森井順之　赤外線サーモグラフィーによる石造文化財の劣化診断　『2009 日韓共同研究報告会予稿集』　pp.31-38　東京文化財研究所／国立文化財研究所(大韓民国) 10.3④森井順之、川野邊渉、柏谷博之　重要文化財及び史跡　熊野磨崖仏における磨崖仏表面のクリーニング　『保存科学』49　pp.159-164 10.3⑤MORII, Masayuki Conservation Environment and Conservation Studies for Stone Heritages in Japan ″Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008″ pp.17-22　09.12⑥森井順之　臼杵磨崖仏における覆屋内風環境と表面劣化に関する考察および対策　日本文化財科学会第 26 回大会　名古屋大学　09.7.11-12⑦森井順之、川野邊渉、早川典子、朽津信明　臼杵磨崖仏におけるデジタルカメラ間欠撮影による表面劣化監視システムおよび応急的な修復技術の開発　日本文化財科学会第 26 回大会　名古屋大学　09.7.11-12⑧森井順之、山路康弘、稗田貞臣、DO Min-hwan、KIM Sa-dug、LEE Chan-hee　熔結凝灰岩製文化財の非破壊診断手法に関する評価-熱画像解析の有効性-　2009 東アジア文化遺産保存技術国際研究集会および東アジア文化遺産保存学会第一次年会　故宮博物院(中華人民共和国)　09.10.16-19⑨MORII, Masayuki　Case Report: Some Preservation Problems of the Buddhist Images Carved on Natural Cliff　Seminar on the conservation of stone monuments　東京文化財研究所　09.12.10⑩森井順之　国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究　-共同研究の成果と将来-　アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産-文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか-」　東京文化財研究所　10.3.4-6⑪森井順之　「日本における凝灰岩製磨崖仏の劣化とその対策」　The 2010 International Cooperation Symposium of Korea/Japan Conservation Science　国立現代美術館(大韓民国)　10.3.27

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4331

自己点検評価調書

研究所 No 32

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 論文数 | 発表件数 | 報告書刊行数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究について、石造文化財を中心に劣化要因を解明し対策の提案が出来た。また、大韓民国・国立文化財研究所との共同研究では、情報交換のみならず共同成果を意識した研究交流を継続することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。特に、石造文化財の保存修復では、凍結破砕や植物繁茂など主要な劣化要因に関して対策の立案が出来た。今後も、必要な調査研究などを進めていきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4332

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 33

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化財の防災計画に関する調査研究((3)-③) |

【事業概要】

阪神淡路大震災などの大地震で被害を受けた文化財は数多く、また、平成 10(1998)年の台風 7 号による倒木被害を受けた室生寺五重塔など、自然災害による文化財被害の甚大さは記憶に新しい。本調査研究では、文化財の地震防災対策として、東大寺に安置される仏像群を対象に基礎的調査を行うとともに、文化財防災情報システムから地震や台風など過去の災害を対象に調査を行う。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

中山俊介、森井順之、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、二神葉子(文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

平成 21 年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在)の耐震対策を講ずるため、対象となる仏像の三次元計測を行うとともに、重心など三次元計測から得られた情報を用い地震による転倒可能性について考察を行った。(2)地理情報システム(ＧＩＳ)に基づいた文化財防災情報システムの開発では、行政機関における活用実験を継続した。

【年度実績概要】

平成 21 年度の成果は次の通りである。

(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在)の耐震対策を講ずるため、重量や重心などを推定するために三次元形状を計測した。計測には、凸版印刷株式会社により開発中の「ステレオカメラの移動撮影に基づいた簡易形状計測システム」を使用し、法華堂のように狭い領域内に仏像が多数安置された状態でも、移動を行わずに安全な計測が可能となった。また、法華堂建物および須弥壇の常時微動計測を行い、現在須弥壇が不安定な構造となっており改良が必要であることを把握した。

(2)地理情報システム(ＧＩＳ)に基づいた文化財防災情報システムについて、問題点の把握をおこなった。詳細には、文化庁において運用上の問題点を抽出するとともに、鎌倉市役所世界遺産登録推進担当および教育委員会文化財課と協力し、本システムの地方公共団体による活用実験を開始した。詳細には、①文化財防災情報システム(地方版)の導入、②本システムを活用した広域地震観測ネットワークの構築に向けた基礎調査を実施した。

【実績値】

論文等：1 件(①)
発表等：4 件(②～⑤)

【備考】

①FUTAGAMI, Yoko, MORII, Masayuki and KUMAMOTO, Takashi　Construction and Integration of GIS Databases for Risk Assessment of Nationally Designated Cultural Properties Due to Earthquakes and Typhoons in Japan ″Papers presented at the 22nd CIPA Symposium″
http://cipa.icomos.org/fileadmin/papers/Kyoto2009/61.pdf　09.10

②森井順之、二神葉子、隈本　崇　地理情報システムに基づく文化財防災情報システムの構築-史跡・重伝建地区への適用-　文化財保存修復学会第 31 回大会 in 倉敷　倉敷市芸文館　09.6.13-14

③森井順之、二神葉子　GIS を用いた文化財防災情報システムによる博物館防災　J.ポール・ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム　美術・博物館コレクションの地震対策　国立西洋美術館　09.7.21-22

④森井順之　文化財防災における活断層基本図の利用について　ミニシンポジウム「活断層基本図への期待とその利活用に向けて」　東京文化財研究所　09.9.28

⑤FUTAGAMI, Yoko, MORII, Masayuki and KUMAMOTO, Takashi　Construction and Integration of GIS Databases for Risk Assessment of Nationally Designated Cultural Properties Due to Earthquakes and Typhoons in Japan CIPA 2009 XXII International Symposium　Kyoto Terrsa　09.10.11-15

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4332

自己点検評価調書

研究所 No 33

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 論文数 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財の防災計画に関して、文化財防災情報システムの行政への導入や問題点抽出など、実用化に向けた取り組みを行った。また、仏像群の耐震対策に関する研究を進め、仏像群の三次元計測や建造物の常時微動調査を行った。今後は耐震診断を行ったうえで対策を講ずる予定である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今年度は予定通り、文化財防災情報システムの問題点抽出のために、協力機関へのシステム提供を行った。今後は、運用に向けて問題を抽出し改良を進める予定である。今後もさらに仏像群の耐震対策に関する研究に関して評価を行い、対策立案を進めていきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4341

（様式 1）

業務実績書

研究所 No 34

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究((3)-④) |

【事業概要】

標記プロジェクトに関して、1)考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用研究、2)高エネルギーＸ線ＣＴ法およびＸ線ＣＲ法の応用研究、3)繊維製遺物や漆製遺物などの分析法の実用化とデータベース作成、4)木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化、5)埋蔵文化財の露出展示に関する課題を広く検討するための保存科学研究集会の開催、に取り組む。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】

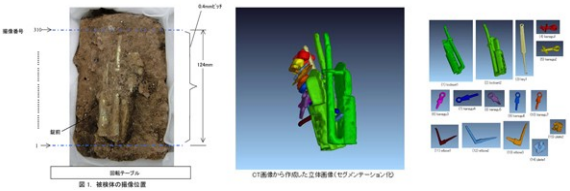
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、肥塚隆保、田村朋美［以上、企画調整部］、佐藤昌憲［奈文研客員研究員］、北野信彦［東京文化財研究所］、本田光子、今津節生、鳥越俊行、志賀智史、村田忠繁［以上、九州国立博物館］

【主な成果】

1)ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。
2)九州国立博物館と共同で、平安時代の錠前をＸＣＴ撮影し、三次元モデルを製作した。
3)漆製遺物および繊維製遺物の分析をおこない、データを集積した。
4)トレハロース含浸処理した試料からトレハロースを析出させる、貧溶媒法の応用実験に取り組んだ。
5)「遺構・遺物の保存と展示・活用の諸問題」の研究集会を九州国立博物館と共催した。

【年度実績概要】

1)ガラス製品の製作技法の解明と劣化状態の診断法の確立を目的としたレーザーラマン分光分析法の応用研究を継続し、既往の研究成果に関する文献資料を収集するとともに、ガラス標準試料のラマンスペクトルを取得・収集した。
2)土ごと取り上げられた平安時代の錠前を九州国立博物館で迅速にＸＣＴ撮影し、土の中での状況を把握した。その後、奈良文化財研究所で高エネルギーＸ線ＣＴ撮影したデータから、三次元モデルを製作した。これらの情報をもとに、九州国立博物館、奈良文化財研究所ならびに植木町教育委員会で協議をおこない、クリーニング方針を策定するための有用な情報を提示した。
3)中世城館より出土した漆濾し布などについて、漆や繊維製遺物の分析をおこない、考古資料の分析データを集積した。また、縄文時代の土器に付着した黒色物質に対して、東京文化財研究所と共同で熱分解ガスクロマトグラフ質量分析をおこない、アスファルトの存在を確定した。このほか、東京国立博物館との機構内協力事業により、塑像の保存修理のための材質分析を実施し、保存修理をおこなった。
4)木材にトレハロースを含浸処理後、貧溶媒としてエチルアルコールに投入し、トレハロースを材内に析出させる予備実験をおこなった。
5)九州国立博物館との共催で「遺構・遺物の保存と展示・活用の諸問題」の研究集会を開催し、装飾古墳をはじめとする遺跡の保存問題、遺物の保存処理の現状と課題などについて技術報告と総合討議をおこない、問題点を共有するとともに、今後の課題について議論した。



植木町向原遺跡出土錠前の XCT による調査
左から埋没状態、XCT による 3D 全体像、部品分割像

【実績値】

発表件数：14 件
論文等数：11 件

【備考】

論文発表・学会発表等については、別紙「論文等発表実績一覧」「学会、研究会等発表実績一覧」参照

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4341

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 34

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

レーザーラマン分光分析の応用研究の一環としてガラス製遺物への応用を継続し、標準試料のラマンスペクトルの蓄積をおこなった。木製品の保存処理法の開発研究では、継続して超臨界溶媒乾燥法の開発に取り組み、含浸処理法に貧溶媒法を適用する基礎研究を実施した。また、継続して遺物の調査分析をおこない、多くの遺物について重要な知見を得ることができた。本年度は東京文化財研究所、九州国立博物館および東京国立博物館と共同することで、より有効な成果を上げることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 発表件数 | 論文等数 | 研究集会参加者数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

文化財保存修復学会で 2 件、日本文化財科学会で 8 件、東アジア文化遺産保存学会で 4 件の、合計 14 件の学会発表をおこない、文化財保存修復学会研究発表要旨集に 2 件、日本文化財科学会研究発表要旨集に 8 件、奈良文化財研究所紀要に 1 件、合計 11 件の論文を発表した。また、研究集会では 110 名の参加者を得て、事例報告や技術報告に加え、総合討議でも活発な議論をおこなうことができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価をＡと判定した。次年度は、このペースを維持しつつ、とくに木製遺物の超臨界溶媒乾燥法における貧溶媒法の応用、ならびにテラヘルツ波およびミリ波を用いた新たな分析調査技術の応用開発を進める予定である。また、保存修復科学分野において、東京文化財研究所や東京国立博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館などとの共同研究も推進していきたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調と判定した。次年度は、このペースを維持しつつ、とくに木製遺物の超臨界溶媒乾燥法における貧溶媒法の応用、ならびにテラヘルツ波およびミリ波を用いた新たな分析調査技術の応用開発を進めたい。また、中期計画最終年度にあたり、各プロジェクトの総括をおこなう予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4351

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 35

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究((3)-⑤) |

【事業概要】

各種の文化財に使用される材料は、天然素材をもとに膠と顔料、糊と紙、木と漆などを組み合わせて複合的に使用されている。それらのいずれかの材料に劣化が進むと、剥離や剥落などの損傷の原因となる。日本ではこれまで和紙、糊、膠、漆などの伝統的な文化財修復材料が、劣化の程度に応じて修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これらの伝統的な修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、製法・技法・材料物性などに関する基礎的な情報を蓄積する。また伝統技術を記録して、有効性や改良点などを科学的に検証することも行う。一方、合成樹脂などの新しい材料も世界的に文化財修復に幅広く使用されているが、使用の歴史は伝統的なそれに比較して、実用上の知見が少ない。そのため、これまでの初期段階の使用事例を含めてその現状を再確認する調査も行う。この調査研究から得られた成果をもとに、現在の環境も踏まえてより文化財修復に適した技術や材料を開発することを目的とする

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

北野信彦、加藤雅人、早川典子(以上、保存修復科学センター)

【年度実績概要】

1. 建造物に使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験の調査結果を纏めるとともに、日光東照宮や厳島神社などの建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図った。また、あらたに PY-GC/MS 分析装置を用いた建造物の塗装材料をはじめとする各種修復材料の分析を開始した。
2. 岩手県二戸市浄法寺地区周辺で継続していた漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査は、本年度を持ってこれを終了した。また、新たに伝統的な膠材料に関する調査研究を開始した。
3. 研究所が所蔵する過去の修復事業の資料を分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。
4. 「建造物の塗装材料である漆塗料-その現状と課題-」というテーマで、2010 年 1 月 21 日に研究会を開催し、計 111 名の参加を得た。発表：本多貴之(明治大学／東文研)「漆塗料の劣化メカニズムを探る」、北野信彦(東文研)「建築文化財における漆塗装の歴史」、佐藤武則(日光社寺文化財保存会)「日光社寺建造物群における漆塗装の修理」、西　和彦(文化庁)「建築文化財における塗装修理の考え方」

【実績値】

研究会開催数：1 回(参加者数：111 名)
報告書：1 冊(①)
論文数：2 件(②～③)
研究発表件数：6 件(④～⑨)

【備考】

①『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2009 年度』東京文化財研究所、p.108、2010.3
②北野信彦・本多貴之・佐藤則武「初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査」『保存科学 vol.49』、pp.25-44、2010.3
③北野信彦「重要文化財 島田神社本殿の外観塗装材料に関する調査」『重要文化財 島田神社本殿修理工事報告書』、pp.33-41、京都府教育委員会、2009.4
④岡田祐輔、平井利博、藤松　仁、滝沢辰洋、川野邊　渉、早川典子、坪倉早智子、中條利一郎「顔料剥落止めとして利用されたポリビニルアルコールの白化状態の調査と白化原因の探索」『文化財保存修復学会第 31 回大会』倉敷市文化会館、2009.6.13-14
⑤北野信彦・本多貴之・宮腰哲雄・窪寺　茂「建築文化財における塗装技術の調査とその評価・応用に関する研究」、『文化財保存修復学会第 31 回大会』倉敷市文化会館、2009.6.13-14
⑥北野信彦「伝統的漆室と使用道具の調査・保存・活用　-国際研修教材としての 1 ケーススタディ-」『日本民具学会第 28 回大会』京都造形芸術大学、2009.12.6
⑦加藤雅人「補紙・補絹の動向」『第 33 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復-先端と伝統-』東京国立博物館平成館大講堂、2009.11.12-14
⑧早川典子「絵画修復に使われる糊と布海苔」『第 33 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復　-先端と伝統-』東京国立博物館平成館大講堂、2009.11.12-14
⑨加藤雅人「紙文化財の研究と保存修復」『アジア文化遺産国際会議　東アジア地域の文化遺産-文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか-』2010. 3.4-6

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4351

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 35

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 発表件数 | 論文件数 | 刊行書発行数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 建造物などに使用する屋外漆塗装の歴史資料に関する調査研究や物性・耐候性試験、紙の分析手法、文化財の修復材料などに関して有益な基礎的知見を収集することができた。本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を継続してすすめた、情報公開のための整備が促進できた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本プロジェクトで実行してきた手法の有効性が明らかになってきており、それに伴い重要な知見も蓄積されつつあることから、計画の実施状況は順調である。次年度はこの成果をまとめるべく調査を実行し、基礎的知見の収集と資料目録化をさらに推進する予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4352

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 36

| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 国際研修「漆の保存と修復」((3)-⑤) |

【事業概要】

海外の美術館・博物館の保管する漆工品には、専門的知識を持つ担当者の不在などから、損傷を持ったまま保存・活用されている作品がある。そのため海外の日本美術品保管担当者や学芸員から漆工品の保存と修復についての問い合わせが増加している。それらの疑問や問い合わせは、海外において日本の修復材料・技法に関する学習や作品の取り扱いに関しての経験が少ないためといえる。これらの問題に対処するため、東京文化財研究所はＩＣＣＲＯＭと共同で、約 10 ヶ国、10 人の参加者を募り、漆の国際研修『漆の保存と修復 2009』を開催し、漆の保存と修復についての研修を行う。

また漆塗料を使用した伝統的な漆工品の保存修復作業は特殊であり、国内外での修復技術者自体が少ない分野である。そのため 2009 年度には新たな試みとしてＩＣＣＲＯＭと共同開催して行う国際研修とは別に東京文化財研究所単独で 1 カ月の実践研修『漆工品の保存と修復』も実施して、海外における修復技術者養成に貢献する。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

北野信彦、加藤雅人、早川典子(以上、保存修復科学センター)

【年度実績概要】

ＩＣＣＲＯＭと共同の開催である国際研修(2009 年 9 月 2 日～9 月 15 日)『漆の保存と修復 2009』は、9 カ国 10 名(オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ロシア、ドイツ、英国、ポルトガル、カナダ、米国)の研修生で行い、日本における漆工の歴史、漆の科学と調査方法、伝統的な漆工技術、漆工品や漆塗装の修復理念の講義と修復方法の基礎実習を行った。またスタディーツアーを 9 月 6 日～9 月 9 日の 3 泊 4 日で企画し、日本産漆の 80%ちかくを生産している二戸市浄法寺町周辺を訪れ、日本の漆文化財の歴史と伝統、現状を視察した。アンケート：回収率 100%、満足度 100%。

一方、東京文化財研究所独自の国際研修『漆工品の保存と修復』(2009 年 9 月 16 日～10 月 15 日)は、2 カ国 2 名(ハンガリー、ドイツ)の研修生で行った。研修内容は東京都港区實相寺所蔵の会津松平家縁の常香盤を題材として、修復技術者の山下好彦氏から漆塗料を使用した本格的な保存修復作業の実践実習を行った。またスタディーツアーを 9 月 21 日～9 月 23 日の 2 泊 3 日で企画し、姫路、奈良、京都の漆文化財の現地見学を行った。さらに修復対象の教材である常香盤を所蔵する東京都港区内の實相寺の視察を 10 月 5 日に行った。

また、上記の漆の国際研修に使用するテキストブック『漆―中級編―』を作成した。

【実績値】

報告書：　2 冊(①～②)
テキスト：1 冊(③)

【備考】

①『漆の保存と修復 2009：Urushi 2009 International Course on Conservation of Japanese Lacquer』National institutute for Cultural Properties,Tokyo、150p　2010.3
②『漆工品の保存と修復 2009：International Training Program: The Preservation and Restoration of Urushiware 2009』、National Research institutute for Cultural Properties,Tokyo、92p　2010.3
③『Textbook Japanese Lacquer -Intermediate-』Natiounal Research Institute for Cultural Properties,Tokyo、143p　2009.8

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4352

自己点検評価調書

研究所 No 36

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 研修会開催数 | 報告書刊行数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 漆文化財の修復技術者、保存担当(責任)学芸員などを海外から 10 名招いて国際研修『漆の保存と修復』を行ったが、アンケート結果から満足度が高いとの評価を得た。また、漆工品の保存と修復の実践実習を 2 名の研修生を対象に行い、今後海外におけるこの分野の修復技術者の育成を行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順　調 | 継続的に、海外への技術移転・交流、海外への日本文化の発信を行っており、順調であると判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4353

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 37

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 在外日本古美術品保存修復協力事業((3)-⑤) |

【事業概要】

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。この事業により修復した作品の公開によって、わが国の修復技術に対する理解が深まり交流が促進されている。当研究所は修理内容の検討、修理作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】

中山俊介、北野信明、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、髙橋直久、梶山利夫、井手真二(以上、管理部)、中野照男(副所長)、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、江村知子、城野誠治、勝木言一郎、皿井　舞(以上、企画情報部)、清水真一、岡田　健(以上、文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

平成 21 年度は、7 館 11 点の作品(絵画 5 点、工芸品 5 点)を修復した。うち 2 点(絵画 1 点、工芸品 1 点が 20 年度からの継続、4 点(絵画 2 点、工芸品 2 点)を海外で修復した。工芸品の事前調査はロイヤルコレクション／ドロットホルム城、グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨ-ロッパで 4 館 17 点の調査を行った。また、平成 20 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

【年度実績概要】

平成 21 年度は、7 館 11 点の作品を修復した(うち 2 点が 20 年度からの継続、4 点が海外での修復(◆印))。

＜絵画＞

1)「歌舞放下芸観覧図屏風」　6 曲 1 隻　アシュモリアン美術館
2)「源平合戦図屏風」　6 曲 1 双(裏に、竹に雀図)　ベルン歴史博物館(2 年計画の 1 年目)
3)「四季花鳥図屏風」　6 曲 1 双　ブルックリン美術館(2 年計画の 1 年目)
4)◆「達磨図」　1 幅　ケルン東洋美術館(2 年計画の 2 年目)
5)◆「唐子図」　1 幅　ベルリン国立アジア美術館

＜工芸品＞

1)「菱繋文螺鈿筆筒」　1 基　国立ナ-プルステク博物館(2 年計画の 1 年目)
2)「花樹鳥蒔絵螺鈿筆筒」　1 基　アシュモリアン美術館(2 年計画の 1 年目)
3)「和歌浦蒔絵将棋盤」　1 基　ケルン東洋美術館
4)「楼閣山水蒔絵香棚」　1 対　市立ヴェルケメディジチ博物館(2 年計画の 2 年目)
5)◆「蕪蒔絵大鼓胴」　1 本　ベルリン国立アジア美術館
6)◆「秋草虫籠蒔絵茶葉入」　1 口　国立ナープルステク博物館

平成 21 年度、工芸品の事前調査はロイヤルコレクション／ドロットニングホルム城、グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨ-ロッパで 4 館 17 点の調査を行った。また、平成 20 年度に修復した絵画、工芸品の修復状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

【実績値】

| | |
|---|---|
| 事前調査 | 1 件 |
| 修復件数 | 11 件 |
| ケルンにおけるワークショップ | 1 件 |
| ベルリンにおけるワークショップ | 1 件 |
| 報告書刊行数 | 1 件(①) |

【備考】

①『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書　平成 21 年度　(絵画／工芸品)』　225p　東京文化財研究所　10.3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 4353

自己点検評価調書

研究所 No 37

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 修復件数 | 報告書刊行数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今年度は 7 館、11 点の作品の修復を実施した。海外においても、修復家を派遣し、修復作業を実施したとともに海外の修復家、学芸員などを対象にしたワークショップを開催した。このように海外における日本絵画や工芸品を修復したり、ワークショップを開催することによりその技術、取扱い方法を伝えるだけでなく再び展示することができるようになりその価値を高めることができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今年度も引き続き、事前調査を実施しており、来年度に向けて、修復する候補作品を抽出している。今後はより広範囲な美術館、博物館から、収蔵庫に眠っている価値ある日本絵画と工芸品を修復し、再度展示可能な姿にするべく努力を重ねる。また、海外において修復技術を伝えることにもなお一層の努力を傾注する。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4361

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 38

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究((3)-⑥) |

【事業概要】

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 近代文化遺産研究室長　中山俊介 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

川野邊　渉、森井順之、中村明子(以上、保存修復科学センター)、朽津信明(文化遺産国際協力センター)、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行(以上、客員研究員)

【主な成果】

今年度は近代化遺産の中でも屋外保存されている文化財の保存と修復に関して研究を行った。中でもコンクリート構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場からコンクリート構造物の保存と活用に関する発表をし問題点の整理や解決法についての討論を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

【年度実績概要】

今年度は近代化遺産の中でも屋外保存されている文化財の保存と修復に関する手法や問題点をテーマとして研究を行った。保存修復に実際に携わっている担当者の方々四人と国外の方二人を招き、屋外展示されているコンクリート構造物の利活用を考えた保存と修復方法に関する手法や問題点に関する検討会を平成 22 年 3 月 1 日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。さらに、オーストラリアにおいて、国立博物館や戦争記念館、パワーハウス博物館、国立海事博物館等における展示物の保存方法や材料の分析手法について現地にて情報交換を実施した。また国内においては愛知県豊田市の産業遺産群、新潟県佐渡市の佐渡金山関連施設、長崎県長崎市の端島(軍艦島)などの現地調査を実施した。さらに、屋外展示されている鉄道車両や航空機等の金属を主体とした文化財に関しても同様に現地調査を実施した。加えてそのような屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

【実績値】

論文数　　2 件(①～②)
発表件数　　4 件(③～⑥)
報告書刊行数　2 件(⑦～⑧)

【備考】

①中山俊介　「Conservation and Utilization of Aircraft Heritage」　Presercation and Utilization of Aircraft Heritage, pp.5-14、10.3
②中山俊介　「鉄構造物の保存と修復」　『鉄構造物の保存と修復』、 pp.5-16、10.3
③中山俊介ほか「二酸化炭素処理・酸化エチレン処理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響」文化財保存修復学会第 31 回大会　6.13-14
④中山俊介　「初代南極観測船「宗谷」の保存と修復」　日本機械学会合同見学会、船の科学館、　10.2.12
⑤中山俊介　「近代文化遺産と産業遺産―東京文化財研究所の取組み―」　東京産業考古学会,物流博物館、10.2.13
⑥中山俊介　「コンクリート構造物の保存と修復」　近代の文化遺産の保存修復に関する研究会、東京文化財研究所、　10.3.1
⑦『Preservation and Utilization of Aircraft Heritage』　東京文化財研究所　62p　10.3
⑧『鉄構造物の保存と修復』　東京文化財研究所　60p　10.3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4361

自己点検評価調書

研究所 No 38

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 論文数 | 発表件数 | 報告書刊行数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 近代文化遺産の保存と活用について、各種の調査及び関係する専門家を招いた研究会を開催した。今後の修復材料の開発、修復技法の開発に関する重要な成果を得る事が出来た。また、現地調査や研究会を通じて近代文化遺産の重要性を多くの方々に認識していただいた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 第四年次として、継続している現地調査から重要な調査結果を収集することが出来、また、研究会を通じて多くの研究者との連携も可能となり、今後の研究を進める上で、重要な成果を得た。次年度以降も今年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4411

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 39

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力((4)-①) |

【事業概要】

高松塚古墳：壁画の修理及び修理環境の保全並びに壁画の劣化原因及び劣化防止対策措置などの調査・研究を実施

キトラ古墳：石室内の環境調査と壁画の取り外し作業を実施

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英、川野邊　渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、間渕　創、坪倉早智子(以上、客員研究員)

【主な成果】

高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天井石 2 の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外のすべての項目について、透明シートへの描き込みを完了した

キトラ古墳では、5～6 月、10～11 月、11～12 月の 3 期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。

【年度実績概要】

**高松塚古墳**

昨年度に引き続き、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天井の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外のすべての項目について、透明シートへの描き込みを完了した。天井・白虎・西男子・玄武については脆弱化した漆喰層の 1 度目の強化を常温水出し布海苔水溶液を用いて行い、完了した。東女子については、昨年度中に 1 度目の強化を終えており、今年度は無地場の黒かび及びバイオフィルムによる汚れの除去及び漂白を次亜塩素酸ナトリウム溶液にて行った。

文化庁による高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会に提出すべき基礎データとして、今年度は、主に最近の壁画の微生物汚染の原因となった微生物の詳細な調査、微生物の生理的性質などを含む生物学的特徴(Bio-profile)の調査を行った。その結果、昭和 50 年代の壁画の剥落止めの作業で使用された樹脂(現在入手できるものとしてパラロイド B72)について、高湿度条件下では、高松塚古墳の主要なカビの分離株のいくつかが生育することがわかった。また、高松塚古墳から分離されたカビ、酵母、バクテリアのなかに、酢酸などの有機酸を産生するものが見出された。

**キトラ古墳**

5 月～6 月、10 月～11 月、11 月～12 月の 3 期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。ヘラ、ダイヤモンド・ワイヤーソーを使用して天井の漆喰をすべて取り外し終え、北壁・東壁・西壁の取り外しにも着手した。集中取り外し期間中で作業のない土曜日・日曜日、及び取り外し期間外は石室内に紫外線灯を設置し、週に 1 回のカビ点検を行った。

これまでに取り外した漆喰片については随時経過観察と処置を行った。「青龍」については平成 21 年 5 月の公開のための額装を完成させ、平成 22 年度の公開に向けて「朱雀」の処置を行った。また、剥ぎ取った天文図漆喰片の適切な処置方法を検討するために模擬漆喰を作成して実験を行い、作業台の検討・製作を行った。これらの作業についての記録、資料整理も随時行った。

有機物を残留させない方法である殺菌灯による紫外線(UV)の間欠的照射、およびカビなどを除去する際に低濃度の次亜塩素酸ナトリウム溶液を使用する方法について、殺菌効果試験を実施して検討を行った結果、人が入らない間の微生物対策については、紫外線殺菌灯を間欠的に照射する方式に切り替えられた。その結果、現在のところ、カビなどの大発生にはいたっておらず、おおむね石室内は良好な状況にはあるが、紫外線や次亜塩素酸にも耐性の強い *Burgoa* sp. の菌などの繁殖が目立ってくるような場合は、物理的な除去も併用する必要があると考えられる。

【実績値】

論文　10 件　(①～⑩)

【備考】①高松塚古墳石室内・取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験(木川りか・佐野千絵・高鳥浩介・喜友名朝彦・杉山純多・安部倫子・中右恵理子・坪倉早智子・早川典子・川野邊渉・石﨑武志)「保存科学」49、pp. 61-72、10. 03②過去の高松塚古墳石室内の温湿度解析(2)(小椋大輔・鉾井修一・李　永輝・石﨑武志)「保存科学」49、pp. 73-86、10. 03③過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析(3)(小椋大輔・鉾井修一・李　永輝・石﨑武志)「保存科学」49、pp. 87-96、10. 03④高松塚古墳墳丘部の動的解析(三村　衛・長屋淳一・石﨑武志)「保存科学」49、pp. 97-110、10. 03⑤高松塚古墳石室内より分離された主要な微生物のギ酸・酢酸生成能(佐野千絵・西島美由紀・喜友名朝彦・木川りか・杉山純多)「保存科学」49、pp. 209-220、10. 03⑥高松塚古墳壁画修理施設における生物対策について(木川りか・高鳥浩介・久米田裕子・辻本与志一・川野邊渉・佐野千絵・宇田川滋正・建石　徹)「保存科学」49、pp. 221-230、10. 03⑦高松塚古墳・キトラ古墳石室内の微生物分離株のアルコール系殺菌剤資化性試験(木川りか・佐野千絵・喜友名朝彦・立里臨・杉山純多)「保存科学」49、pp. 231-238、10. 03⑧高松塚古墳石室および周辺部由来カビの薬剤に対する馴化(高鳥浩介・久米田裕子・木川りか・佐野千絵)「保存科学」49、pp. 239-242、10. 03⑨高松塚古墳石室および周辺部由来カビの温度帯による生理的性状(高鳥浩介・高鳥美奈子・久米田裕子・木川りか・佐野千絵)「保存科学」49、pp. 243-252、10. 03⑩キトラ古墳の微生物調査結果と微生物対策について(2009)　(木川りか・佐野千絵・喜友名朝彦・立里　臨・杉山純多・高鳥浩介・久米田裕子・森井順之・早川典子・川野邊渉)「保存科学」49、pp. 253-264、10. 03

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4411

自己点検評価調書

研究所 No 39

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 正確性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 援助・助言<br>実施件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | |
| 備考 | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | キトラ古墳、高松塚古墳ともに、本年度の計画を予定通り遂行し、良好な成果を上げることができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 高い調査研究の水準で事業を進めることができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4412

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 40

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力　((4)-①) |

【事業概要】

本事業は、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施するもので、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査および保存・活用に関して技術的な協力を行った。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

玉田芳英、若杉智宏、番　光、廣瀬 覚、青木 敬、降幡順子、石田由紀子［以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、岡田 愛、辻本与志一[以上、企画調整部]

【主な成果】

文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力するとともに、来年度刊行予定の『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』に関する編集作業を鋭意進めた。

今年度のキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業を支援するとともに、今後のキトラ古墳壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。

【年度実績概要】

高松塚古墳の仮整備工事に際しては、適宜、研究員を現場に立会させ経過を観察・記録するとともに、遺構面が安全に保護されるよう施工業者を監督した。保存施設 1 階部分撤去後の発掘調査を実施するとともに、墳丘復元工事に対しては、墳丘や周溝の細部の状況に対して、現地にて学術的な助言や協議を行った。工事期間中の 10 月 8 日に、台風の影響を受け表面仕上げ用の土が 8 ヶ所にわたって崩落したが、その際もただちに研究員を派遣し、状況把握を行い、文化庁と連携しながら対応にあたった。また、春・秋の壁画修理施設の一般公開に際しては、解説員として研究員(のべ 5 名)を派遣した。『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』の刊行にむけて、これまでの一連の調査成果を整理・検討した。

キトラ古墳では、春・秋の壁画の集中剥ぎ取り作業に研究員(1 名)を派遣して、これを支援した。また、キトラ古墳壁画の今後の保管、活用について、それにふさわしい場所や施設の内容・条件について検討を行った。さらに、古墳本体の整備方針を検討するため、これまでのキトラ古墳の発掘成果を総括するとともに、高松塚古墳、マルコ山古墳、中尾山古墳、天武・持統天皇陵、束明神古墳、牽牛子塚古墳などの墳丘の現況および整備状況を確認するため、現地踏査を実施した。それらの内容は文化庁開催の「古墳壁画保存活用検討会保技術ワーキンググループ」で報告した。

なお、8 月 11 日の大雨、10 月 8 日の台風によりキトラ古墳史跡地内の土砂が崩落した際には、ただちに文化庁に状況を報告するとともに、現地に研究員・作業員を派遣して応急的な処置にあたった。



高松塚古墳仮整備立会風景

【実績値】

論文数：4 件(①～④)

【備考】

①松村恵司・廣瀬　覚「高松塚古墳仮整備のための発掘調査」『月刊文化財』第 547 号 2009.4
② 廣瀬　覚「高松塚古墳の墳丘仮整備工事が竣工」『奈文研ニュース』No.35、2009.12
③ 廣瀬　覚「高松塚古墳の発掘調査―飛鳥藤原 154 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
④松村恵司・玉田芳英・廣瀬 覚「高松塚古墳とキトラ古墳」『遺跡学研究』第 6 号、2009.11

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4412

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 40

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
・適時性：現地への緊急事態等に対して迅速かつ適切に対応することができた。
・独創性：保存科学、考古学の双方の立場から、壁画古墳の保存・活用に助言を行うことがきた。
・発展性：緊急性を有する文化財の保存・活用に対する今後の方向性を示すことができた。
・効率性：高松塚古墳の発掘調査の成果を、整備、公開に直結させることができた。
・継続性：高松塚古墳の実績を基に、今後、キトラ古墳の整備・活用を進めていく見通しが得られた。
・正確性：古墳や壁画に関する学術的成果を高い精度で得ることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 高松塚古墳壁画の恒久保存対策に係る一連の発掘調査および整備工事を完了させることができ、壁画修理が完了するまでの高松塚古墳の適切な現地公開が可能となった。その実績に基づいて、今後のキトラ古墳の保存・活用・整備等の事業が円滑に進められることが期待できる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 壁画古墳という重要かつ緊急性の高い文化財に対して、保存・活用に関するモデルケースを構築することができ、今後の方向性を示すことができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4421

(様式 1)

業務実績書

研究所 No. 41

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力　((4)-②) |

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本事業は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内に所在する檜隈寺の全体像を復元するべく、遺跡周辺の調査を行うものである。檜隈寺は、飛鳥の古代寺院として重要な遺跡であり、この遺跡の実態解明および保存活用に資するため、2008 年度より発掘調査を実施している。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

黒坂貴裕、加藤雅士、若杉智宏、次山 淳、木村 理恵、小田裕樹、石田由紀子、山本 崇、青木 敬、豊島直博、高橋知奈津、庄田慎矢、玉田芳英、高田貫太、番 光、[以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]、井上直夫、岡田 愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

昨年度の試掘調査の成果をもとに檜隈寺の主要伽藍の存在する丘陵の東裾部および、講堂北西約 25mの地点の発掘調査を実施した。丘陵東裾部からは掘立柱建物やそれらを区画する掘立柱塀を検出し、檜隈寺の主要伽藍に関連する建物群の具体的状況を明らかにした。また講堂北西の調査区では、7 世紀前半から中頃までの L 字形カマドをもつ竪穴住居を検出し、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する重要な資料を得ることができた。

【年度実績概要】

本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、昨年度の試掘調査の成果をもとに、檜隈寺北側の丘陵東裾部に 5 ヶ所(第 1～5 調査区)、講堂の北西約 25mの地点に 1 ヶ所(第 6 調査区)の調査区を設け、発掘調査を実施した。調査期間は 2009 年 4 月 22 日～2010 年 3 月 3 日。調査面積は計 1222 ㎡である。

第 1～5 調査区では、掘立柱建物 7 棟、掘立柱塀 6 条、素掘り溝 1 条、柱穴列 2 組、炭の入る焼成遺構 2 基、土坑 1 基を検出した。これらの掘立柱建物や掘立柱塀は、柱筋の方向や出土遺物の年代観から、檜隈寺の中心伽藍と同様の時期に造営された建物群であると判断できる。これらの遺構を確認したことで、丘陵裾部にも檜隈寺の関連施設が存在していたことが明らかとなり、丘陵全体を利用し寺院地を形成していたことが確認できた。

中心伽藍から北西 25m地点に設定した第 6 調査区では、石組の L 字形カマドをもつ竪穴住居を検出した。L 字形カマドは渡来系のカマドと考えられており、渡来系氏族の寺である檜隈寺の特徴をさらに際立たせる遺構である。全国的に見た L 字形カマドの存在時期と今回の竪穴住居から出土した土器・瓦の年代観から、この竪穴住居は 7 世紀前半から中頃までのものと判断できた。石組の L 字形カマドとしては、国内最古の例となった。

今年度の調査では、檜隈寺の伽藍全体の具体的様相が明らかになったこと、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する遺構を検出したこと、これまで手掛かりが少なかった 7 世紀前半から中頃までの遺構を検出したことなどの成果を上げ、報道発表や論文などで積極的に成果の公開をおこなった。



第 6 調査区　竪穴住居（南から）

【実績値】

論文等数　　3 件(論文 1 件①、その他 2 件③④)
発表件数　　1 件(報道発表 1 件②)
出土遺物　　軒瓦 22 点、丸平瓦 56 箱、土器 77 箱、金属製品 20 箱、石製品 3 点、石材 1 点など
記録作成数　遺構実測図 97 枚、写真(4×5)132 枚

【備考】

①若杉智宏・黒坂貴裕・加藤雅士・高田寛太・小田裕樹「檜隈寺周辺の調査」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010. 6(予定)
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「キトラ古墳周辺地区(檜隈寺)の発掘調査 飛鳥・藤原第 159 次調査 第 6 区検出の竪穴建物遺構について-記者発表資料」2009. 9
③黒坂貴裕「檜隈寺周辺の調査(飛鳥・藤原 159 次)」『奈文研ニュース No. 35』2009. 12
④若杉智宏「檜隈寺周辺の調査(飛鳥・藤原 159 次)」『奈文研ニュース No. 36』2010. 3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4421

自己点検評価調書

研究所 No. 41

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 効率性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
適時性：檜隈寺周辺の遺構状況解明への寄与
独創性：L 字形カマドをもつ竪穴住居や、主要伽藍に関連する建物群を確認した
効率性：奈良県立橿原考古学研究所・明日香村教育委員会と協力し、計画的に調査を進めた
継続性：昨年度の試掘調査の成果をうけ、檜隈寺伽藍の全体像復元にかかわる継続的な調査を行った

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本調査では、檜隈寺伽藍の全体像復元にかかわるデータが得られ、また、渡来系氏族の氏寺という檜隈寺の特徴を補強する遺構を検出し、これまで手掛かりが少なかった 7 世紀前半から中頃の檜隈寺についての重要な資料を得ることができた。また、報道発表や論文などで調査成果の公開も適切に行い得たので、総合的にＡと判断した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本調査は、年度当初の計画通りに実施されており、かつ目的を順調に達成した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4431
（様式 1）

業務実績書

研究所 No

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力　((4)-③) |

【事業概要】飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・文化の中心地であった。本研究は、国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業にともなう本地域の埋蔵文化財の調査・研究に対して協力・支援を行うものである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |

【スタッフ】次山淳、山本崇、小田裕樹、青木敬、高橋知奈津、石田由紀子

【主な成果】
「大和平野県営飛鳥 2 号幹線（右岸） その 3」について、山田道、大官大寺にかかる部分にたいして厳重立会のかたちで対応することとなった。

【年度実績概要】
農水路改修工事の実施にたいし、遺構への影響が生じないよう研究員を派遣し、工事の進行に立ち会った。「7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上」の項目にも記載したが、飛鳥・藤原 158-6 次（山田道）の立会時に、斜行溝 1 条を検出し、これを記録し、かつ保護した。

【実績値】
出土遺物　なし

【備考】
「表 3 2008・2009 年度都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）発掘調査・立会調査一覧」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6（予定）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4431

自己点検評価調書

研究所 No

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
適時性：工事の状況に応じて迅速に対応して文化財を保護・記録することができた。
継続性：飛鳥・藤原地域の遺跡情報を継続的に収集することができた。

2．定量的評価

| 観点 | 援助・助言数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業にともなう埋蔵文化財の影響について、迅速かつ適切に処理することができ、遺構の保護・記録を行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 緊急性を要する事前調査について効率良く対応し、飛鳥地域の基礎資料を蓄積することができた。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-1
（様式 1）

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】
館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課長　富田淳 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
○島谷弘幸（学芸研究部長）、谷豊信（列品管理課長）、田良島哲（列品管理課登録室長）、白井克也（列品管理平常展調整室長）、古谷毅（列品管理課列品情報整備室長）、田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）、冨坂賢（調査研究課書跡・歴史室長）、竹内奈美子（調査研究課工芸・考古室長）、今井敦（調査研究課東洋室長）、神庭信幸(保存修復課長)、救仁郷秀明(保存修復課保存修復室長)、猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）、瀬谷愛（列品管理課平常展室研究員）、河内晋平（列品管理課アソシエイトフェロー）、安藤香織（列品管理課アソシエイトフェロー）、三輪紫都香（列品管理課アソシエイトフェロー）、小林達朗（調査研究課絵画・彫刻室主任研究員）、酒井元樹（調査研究課工芸・考古室研究員）、品川欣也（調査研究課工芸・考古室研究員）、川村佳男（調査研究課工芸・考古室研究員）、荒木臣紀(保存修復課環境保存室主任研究員)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、土屋裕子(保存修復課保存修復室主任研究員)、日高慎(保存修復課保存修復室主任研究員)、三笠景子(保存修復課保存修復室研究員)、鈴木晴彦（保存修復課アソシエイトフェロー）、米倉乙世（保存修復課アソシエイトフェロー）、沖本明子（保存修復課アソシエイトフェロー）、池田宏(上席研究員)、岩佐光晴(上席研究員)、後藤健(上席研究員)、原田一敏(上席研究員)、金子啓明(特任研究員)、望月幹夫(特任研究員)、澤田むつ代(特任研究員)

○松本伸之(学芸企画部長)、井上洋一（企画課長）、松嶋雅人（企画課特別展室長）、木下史青（企画課デザイン室長）、立道惠子（企画課出版企画室長）、鬼頭智美（企画課国際交流室長）、加島勝（博物館教育課長）、浅見龍介（博物館教育課教育普及室長）、鷲塚麻季（博物館教育課教育講座室長）、高橋裕次（博物館情報課長）、丸山士郎（博物館情報課情報管理室長）、小林牧（企画課広報室長）、沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員）、小山弓弦葉（企画課特別展室主任研究員）、矢野賀一（企画課デザイン室主任研究員）、勝沼早苗（企画課アソシエイトフェロー）、遠藤楽子（企画課国際交流室研究員）、鈴木みどり（博物館教育課教育普及室主任研究員）、神辺知加（博物館教育課教育講座室研究員）、高梨真行（博物館教育課ボランティア室主任研究員）、藤田千織（博物館教育課ボランティア室研究員）、村田良二（博物館情報課情報管理室研究員）佐藤祐介（博物館情報課アソシエイトフェロー）、恵美千鶴子（博物館情報課アソシエイトフェロー）、原田明夫（博物館情報課アソシエイトフェロー）

【主な成果】
館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。

【年度実績概要】
・内外の学会・研究会で、各種の発表をした。
・学術雑誌に各種の論考を発表し、著書を刊行した。

【実績値】
学会・研究会等発表件数：19 名 36 件
澤田むつ代(特任研究員)「出土繊維の種類と調査方法」ほか
論文等掲載数：30 名 52 編
松本伸之(学芸企画部長)「HISTORY AND COLLECTIONS OF TOKYO NATIONAL MUSEUM」 ほか

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-1

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
東京国立博物館『ＭＵＳＥＵＭ』をはじめとする各種学会誌・紀要等の学術誌や学会・研究会において、平素の調査研究で得た成果、あるいは平常陳列・特別展に係る業務・他館への協力の中で得た最新の学術情報を、多岐の分野にわたって発表しえた。

2．定量的評価

| 観点 | 学会・研究会等発表件数 | 論文数等 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
学会・研究会等発表件は海外を含み 19 名 36 件、論文等の掲載は 30 名 52 編。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 絵画・書跡・工芸・考古などの各ジャンルにわたり、最新の学術情報を盛り込んだ情報を発信しえた。特別展や通常業務などを通して蓄積されている研究成果を、よりすみやかに公開したい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 研究計画に基づき順調に進捗している。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-2
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2)特別調査法隆寺献納宝物(第 31 次)「聖徳太子絵伝」第 5 回((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】
東京国立博物館では、明治 9 年法隆寺から献納された法隆寺献納宝物 319 件を所蔵している。昭和 54 年の伎楽面を最初として、平成 21 年度まで 31 次にわたって献納宝物の調査を館内および館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。献納宝物は飛鳥、奈良時代の日本最古に属する仏教関連の文化財であるが、経年によって脆弱化しており、各分野の研究者に直接的な調査をすることは難しい。本事業はすべての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。また、毎次の調査研究については「法隆寺献納宝物特別調査概報」、さらに研究図録を発刊し、画像については研究資料としてウェブ上で一般に公開することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 上席研究員　原田一敏 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】島谷弘幸(学芸研究部長)、澤田むつ代(特任研究員)、田沢裕賀(調査研究課絵画・彫刻室長)、小林達朗(調査研究課主任研究員)、小山弓弦葉(企画課特別展室主任研究員)、神庭信幸(保存修復課長)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、松嶋雅人(企画課特別展室長)、救仁郷秀明(保存修復課保存修復室長)、沖松健次郎(企画課特別展室主任研究員)

【主な成果】
本年度は、国宝聖徳太子絵伝 10 面のうち 9 面と 10 面を調査対象とした。従来料絹については大柄な立湧文を織り出した綾絹の使用は認められていたが、新たに菱文様の綾絹が使用されている箇所が発見された。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵伝に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明 7 年＝1787)を比較検討することによって、その内容が新たに確認できた。

【年度実績概要】
平成 20 年度に実施した第 30 次特別調査の報告書として、『法隆寺献納宝物特別調査概報 30』「聖徳太子絵伝 3」を刊行した。また、高精細デジタルカメラによって 1 面 132 カット(2 面合わせて 264 カット)撮影し、それを合成することによって原寸大に引き伸ばすことが可能となった。本年度の報告書は平成 23 年に発刊する予定である。

【実績値】
調査回数 3 回


国宝 聖徳太子絵伝　10 面


国宝 聖徳太子絵伝　9 面

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当該調査は、絵画史、工芸史だけでなく、歴史の専門家を含めた調査であり、各場面の検証、用絹、絵具など総合的な作品評価が可能である。改良点としては、今後は絵具の分析や赤外線写真撮影なども取り入れて科学的な側面からのアプローチも図りたい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 22 年度は当該調査研究の成果を公表する概報の発刊を行う予定である。また 10 面すべての高精細デジタルカメラ撮影の画像公開に向けて整理をおこなう。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-3

(様式 1)

# 業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3) 特別調査「書跡」第 7 回((5)-①-iii) |

【事業概要】

本年度は断続的に行われてきた当館書跡収蔵品の中の奈良～安土桃山時代にかけての古写経・仏典について，情報の整理・統合と整備の完成を目指し，全 2 期間の古写経調査を実施。特に断簡写経の原典特定作業，使用された料紙の種類，書写年代の比定を行うとともに法量計測，写真撮影など基礎データを収集する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田良島哲(列品管理課登録室長)，富田淳(調査研究課長)，冨坂賢(調査研究課書跡・歴史室長)，髙梨真行(調査研究課書跡・歴史室主任研究員)，高橋裕次(博物館情報課長)，赤尾栄慶(京都国立博物館学芸部企画室長)，羽田聡(京都国立博物館学芸部企画室研究員)，野尻忠(奈良国立博物館学芸部情報サービス室研究員)，斎木涼子(奈良国立博物館列品室研究員)，藤田励夫(九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室長)，丸山猶計(九州国立博物館学芸部文化財課資料登録室主任研究員)，酒井芳司(福岡県立アジア文化交流センター展示課研究員)，横内裕人(文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官)

【主な成果】

当館所蔵の手鑑装・巻子装・折本装・掛幅装・屏風装の古写経について，法量計測，写真撮影を実施するとともに，書写された文字の筆致，巻子装の軸端や使用された料紙の材質分析，奥書に記載された事項の検討等から書写年代推定した。また掛幅装や手鑑装の古写経は断簡であるため，書写経文の検討によってその原典を可能な限り特定して，当館所蔵古写経の基礎データ情報を整理した。

【年度実績概要】

対象:当館書跡収蔵品について手鑑装 11 件，掛軸装 22 件，巻子装 26 件，折本装 15 件，冊子装 5 件，屏風装 1 件の調査を実施

結果:261 点の写経断簡(手鑑装および掛幅装・屏風装)，60 点の巻子装写経，19 点の折本装写経，6 点の冊子装写経について基礎データを採取
175 カットの写経画像を撮影
270 点の写経断簡の原典を確認



手鑑装の写経断簡の調査



手鑑装の写経撮影



写経断簡の原典調査作業

【実績値】

第 1 回　平成 21 年 7 月 22 日(水)～24 日(金)
　調査日数　3 日間
　調査員・調査補助員　のべ 44 人
第 2 回　平成 21 年 12 月 7 日(月)～9 日(水)
　調査日数　3 日間
　調査員・調査補助員　のべ 27 人
採取データ
　全 2 回の調査採取データ数
　合計 346 点の写経および写経断簡の基礎データ，175 カット分の画像撮影
　約 270 点の写経断簡の原典特定(調査対象の約 75%)
特集陳列　日本・中国・朝鮮の料紙(平成 21 年 9 月 28 日～10 月 24 日)
論文等
・恵美千鶴子「扇面法華経冊子模本-岡倉天心・小堀鞆音と帝国博物館の模写事業-」『ＭＵＳＥＵＭ』第 621 号，平成 21 年 8 月)
・赤尾栄慶「料紙について-古写経を中心に-」(『料紙科研報告書-東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的考察』)東京国立博物館，平成 21 年 3 月

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
当館収蔵品の内の古写経について，今回の事業で基礎データについては網羅したこととなる。特に平常陳列では奈良・平安時代の古写経について年間 9 回前後の陳列替を行いながら通年の展示を行っている。今回の成果を展示解説などに反映させることによって，来館者に対する収蔵古写経について新たな情報を提供することができ，その理解と鑑賞を助けることができると思われる。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 採取データ | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | A | | | |

備考
2 回にわたる調査により必要とする基礎データはほぼ収集し終えた。本年度は基礎的情報の整備をすることができた。この事業を受けて平成 22 年度には基礎データと得られた新知見などの成果を基にして，『東京国立博物館図版目録・古写経編』の刊行を予定している。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今まで断続的に行ってきた当館収蔵古写経の基礎データ調査は，本年度の事業によってほぼ完成を見たことは非常に大きい。こうした新知見は一方で展示情報に反映させれば，来館者に対する新たなる情報提供につながる。他方，来年度の図版目録刊行により，専門家への情報公開も可能となる。古写経研究における学際的な発展性を導き得たものとして評価できる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今回の事業における調査の実施により，当館で所有する書跡列品のうち古写経の基礎データと新知見の収集と整備がほぼ完成した。この成果は外部研究者への公開情報が完成したことを意味する。ナショナルセンターとして古写経という分野における国内外を視野に入れた学際的な研究の基盤整備の確立と判断される。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-4

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 4)特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

尾形光琳の「紅白梅図屏風」(MOA 美術館蔵)の金地が金箔ではなく、金泥によるものだという調査結果が注目されている。これをうけて、当館が収蔵する光琳の「風神雷神図屏風」をはじめ、各派各時代の金地屏風を、同条件の下で調査し、金地についての客観性のあるデータを蓄積することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

神庭信幸(保存修復課長)、松嶋雅人(企画課特別展室長)、荒木臣紀(保存修復課環境保存室主任研究員)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)

【主な成果】

当館収蔵の狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」、土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、尾形光琳筆「竹梅図屏風」を対象として、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査を行ない、データの集積を進めた。

【年度実績概要】

当館収蔵の絵画作品の中から、尾形光琳と時代的に近い画家の作品である狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」、土佐光祐筆「栄華物語図屏風」を選んで金色部分の化学分析を行なった。本年度は 9 回実施し、データの検討会を 1 回行なった。

昨年行なった尾形光琳筆の「風神雷神図屏風」調査と同様に、肉眼観察で金箔の厚さが異なって見える部分数箇所を選んで、顕微鏡観察と蛍光エックス線により金箔と想定される部分のサンプル調査・成分分析を行なった。

また、調査結果をふまえて分析結果の検討を行い、調査箇所により金の存在を示す蛍光エックス線の強度に違いのあること、顕微鏡写真により紙の繊維の見え方に違いのあることが判明した。

【実績値】

調査回数
- 分析調査　9 回
  - 蛍光エックス線調査　2 作品　16 ヶ所
  - 顕微鏡写真　3 作品　21 ヶ所　76 カット撮影
  - エックス線撮影　4 作品　504 カット撮影
- 分析結果検討会　1 回



【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | B | B | |

備考

本調査は、現在注目されている金地作品の箔使用に関する調査で、多くのサンプルからデータを集めることで、各時代のさまざまな流派の絵画制作上の特徴をより客観的に研究する基礎調査としてきわめて重要なものである。20 年度におこなった尾形光琳筆「風神雷神図屏風」の調査の正確性を確認するため本年度は、関連画家の作品で調査、データ収集をおこなった。サンプルの収集法など、方法は、確立したが、分析結果検討会では、サンプル数を多くしデータのばらつきを少なくする必要があることから、再度それぞれの作品のデータ収集が必要と判断された。また年度途中からより正確なデータを得ることのできる蛍光エックス線分析装置を用いることができるようになったが、より正確なデータとするために、昨年度までに収集したデータを再度収集する必要も生じた。昨年度調査を行った尾形光琳筆の「風神雷神図屏風」を含め新たにエックス線撮影を行なった。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | | | | |

備考

他の業務との組織的調整が難しかったが、実作品を対象とした調査を 9 回行ない検討会を開催することができた。今後は、本年度途中から用いた蛍光エックス線分析装置によるデータ収集を進め、外部への発表ができるように、サンプル数を増やしデータの客観性を高めるための確認調査を行なっていきたい。そのために 22 年度には、他業務との調整を図り、十分な作業時間を確保し、他機関の調査と連動させることのできる調査を行なう。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| B | 本年度の 9 回の調査により、一応の方法論確立とデータ集積をはじめることが出来た。今後は、他の機関による同種の調査と連動できるようなデータ収集を行い、共通の分析ができる体制を確立したい。また、21 年度までに調査行なった作品を対象として再度サンプリング調査を実施することで、客観性のあるデータ集積をめざしたい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | 尾形光琳筆の「風神雷神図屏風」以外の狩野派・土佐派の作品調査を行ってデータを収集し、光琳作品と比較することができた。検討会での分析により、今後は、調査データの客観性が必要なことが確認された。そのためには綿密な計画を立てて調査回数を増やすことで、データ集積をさらに進め、基準となるデータを求める必要がある。<br>今後は、同様な調査・データ集積を行なっている機関と連携した検討を行なうことで、調査内容の検討を充実させ、結果の外部公開を目指したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-5
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 5) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討)((5)-①-ｖ) |

【事業概要】
大日本印刷株式会社の特別協力を得て、応挙館の一の間、二の間の障壁画をすべて、デジタル画像処理によって複製するための調査研究を行い、その成果として複製を完成させ、応挙館の室内空間を復元することによって、一般に公開する。
とりはずした障壁画については、必要な修理を行い、随時、平常展において一般公開する予定である。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画課特別展室長　松嶋雅人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
神庭信幸(保存修復課長)、救仁郷秀明(保存修復課保存修復室長)、田沢裕賀(調査研究課絵画・彫刻室長)

【主な成果】
現在まくりの状態で保管されている壁画の現状を調査検討し、その保存状態を把握したことで、適切な修理方法を決定するための重要な参考資料を得ることができ、今年度は壁画 3 枚の修理を実施することができた。さらに来年度以降に修理が実施される予定の壁画の保存状態を把握し、あわせて表現技法の詳細を把握することができた。

【年度実績概要】
1.　調査の実施
今年度は、随時、平常展において一般公開を可能とする適切な修理方法を検討するため、修理が実施される壁貼付 3 枚以外のまくりの状態で保管されている壁画の調査を行った。

2.　修理の実施
調査成果に基づき、本年度は壁貼付 3 枚の修理を実施(施工中 22 年上半期までに完了)した。

【実績値】
1.　調査回数 2 回
まくりの紙質等の調査、水墨表現の精査。


雁図壁貼付(応挙館二之間)


雁図　細部


雁図　細部

2.　修理実施 1 回

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-5

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | B | B | A | |

備考
調査の成果によって、将来的に応挙館内での展示も可能な展示手法も兼ね合わせ検討することで、適切な修理計画を立てることができ、応挙の水墨画表現の詳細をさらに把握することができた。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 修理回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
修理対象の画面については、調査回数は十全であった。今年度中においては、次年度以降の修理対象の画面も合わせ調査することができなかったので、来年度はより多くの調査を重ねて、修理計画に遺漏ないようデータをさらに収集していきたい。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今年度は、次回修理対象となる壁貼付(違い棚部分等)の調査を行い、とりはずした障壁画の修理実施の方針を立てる上で、個々の建築部位の壁画に関わる参考資料を得ることができた。この調査研究により、さらに建築物に付随する障壁画の保存と公開について、汎用できる方法論とデータを得ることができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今後は、とりはずした障壁画の修理計画の立案、実施のため、適切な修理方法を決定するため、さらには展示方法の検討も含めた、まくりの壁画の調査研究を多角的な方法によって、さらに進めていく。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-6

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 6) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究((5)-①-iii) |

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に、文部省より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群よりなっている。また洋書にはドイツ人医師シーボルトより献納された数百冊を含んでいる。詳細調査を実施し、その学術的意義を明らかにする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課長　高橋　裕次 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田良島　哲(列品管理課登録室長)

【主な成果】

＊ 明治時代前期に博物館が収集した洋書のうち、歴史的意義の深いものについて、調査を行った。
＊ 前年度に調査を行った書籍も含め、明治初期の館蔵の洋書に関する特集陳列を企画して展示するとともに、学術的意義を紹介したパンフレットを作成、配布した。

【年度実績概要】

＊ 本年度は、明治前期に博物館が購入、寄贈、交換等によって入手した洋書とその伝来に関する調査を行った。
＊ 平成 22 年 1 月 19 日から 3 月 7 日まで本館第 16 室を会場として、特集陳列「東京国立博物館の洋書コレクション 2-初期博物館の図書収集」を開催し、調査を行った洋書及び関連資料 19 件を公開した。
＊ 特集陳列にあわせて、陳列の内容を紹介するリーフレット(カラー、4 ページ)を刊行した。

【実績値】

刊行物　1 件　リーフレット『東京国立博物館の洋書コレクション 2―初期博物館の図書収集―』(平成 22 年 1 月刊)
調査回数　4 回
展示反映回数　1 回

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-6

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | B |

備考
　明治前期の博物館における図書収集の実態と方針を原資料及び当時の記録を通じて確認することができ、洋書の歴史的資料としての評価を行うことができた。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 刊行物発行 | 展示反映回数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | A | | | |

備考
　時間的な制約から洋書収集の概括的な実態把握をめざしたため、逐一の目録作成等には至らなかった。今後、調査体制を整えて、既存の目録等との照合を進めたい。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ＊館蔵洋書の資料的意義を明らかにすることができた。<br>＊前年度に引き続き、成果を特集陳列に反映することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当館洋書コレクションの時代的特徴の系統的な把握を進めることができた。今後は個別書籍の書誌調査に基づく、目録の作成を進める。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-7

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 7)　ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究((5)-①-ⅱ) | | |
| 【事業概要】<br>1992 年～2000 年に東京国立博物館で実施したパキスタンにおけるザールデリー遺跡の考古学調査の成果を総括し、最終的に調査報告書を作成する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課平常展調整室長　小泉惠英 |
| 【スタッフ】<br>望月幹夫(特任研究員) | | | |
| 【主な成果】<br>ザールデリー遺跡の発掘調査報告書の和文執筆、英文翻訳を行なった。翌年度の出版に向けて、出版社の選定などの準備を進めている。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>ザールデリー遺跡発掘調査の成果についての本報告原稿を執筆、翻訳し、図版作成を進めた。<br>また、ガンダーラの仏教寺院に関して、以下の講演を行なった。「ガンダーラの仏教寺院」(於：平山郁夫シルクロード美術館) | | | |
| 【実績値】<br>翌年の刊行に向けて論文を執筆、翻訳、図面を作成した。<br>講演：「ガンダーラの仏教寺院」(於：平山郁夫シルクロード美術館)<br>研究発表回数　1 回 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-7

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考
当館の実施した海外調査で考古学的な成果も大きく、諸外国の学界からの注目度も高い。

2．定量的評価

| 観点 | 論文発表数 | 研究発表回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | | | | |

備考
翌年の報告書刊行に向けて、執筆、翻訳に従事しており当該年度の公開の予定はない。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 報告作成に向けて、関連論文作成、翻訳に大いに成果を示している。が、一部の作業に遅れも見られるので、翌年度の刊行に向けて調整を行なう。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | 報告書作成準備について進行中であるが、当初計画よりもやや遅れが出ている。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-8

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 8)博物館の環境保存に関する研究((5)-①-ｉ) | | |
| 【事業概要】<br>東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
| 【スタッフ】<br>荒木　臣紀(保存修復課環境保存室主任研究員)、和田　浩(保存修復課環境保存室主任研究員) | | | |
| 【主な成果】<br>東京国立博物館は二酸化炭素削減に関して、省エネ法に関する規制及び東京都環境確保条例に基づく規制を受けるために複雑な対応が強いられる。そうした社会的な方向性に対応するために、保存科学的観点からの行動指針について検討した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>1. 季節変化に応じた温度環境<br>法隆寺宝物館の夏期の温度設定を区域毎に緩やかに変化させた。24 時間運転を実施している施設であることから、設定の変更で僅かでも空調負荷が小さくなれば、その分のエネルギー削減の効果が出やすい。<br>2. 展示室の環境条件と合意形成<br>海外の貸与館と事前に十分な協議を行い、東京の気象条件を説明し、相対湿度に関しては展示条件をそのまま受け入れ、温度については東京の環境に可能な限り即した条件に貸与館が理解を示す事例が出てきた。現実的な面を重視した合意形成により、正直な環境条件の設定は今後ますます必要となるだろう。<br>3. 空調運転の最適化<br>東博平成館の収蔵庫は、調湿性の高い豊富な内装材、そして断熱性と気密性を担保するエアースペースを備えた 2 重構造、入り口の開閉の際に外からの影響を小さくするための前室など、日較差を抑制できる設備が整っている。日較差が小さい環境を保ちつつ、長期間の安定を得るために、かつ省エネルギーを目指す観点からエアースペースと前室の空調運転に重点を置く方法について検討した。<br>4. 太陽光エネルギーと展示照明<br>展示室で使用する照明の電力はすべて太陽電池が生み出す電力で賄い、かつＬＥＤ光源を用いることにより、自然光エネルギーを用いて環境に配慮し、かつ文化財に安全な光を使用した新しい概念の『自然光照明』の検討を行った。 | | | |
| 【実績値】<br>研究会発表件数<br>文化財保存修復学会　1 回<br>東京文化財研究所研究会　1 回<br>調査回数<br>年間を通じて対象となる場所 341 の温湿度計測を継続的に実施している。 |  | | |
| 【備考】<br>・低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の取組み―、文化財保存修復学会 31 回研究大会(倉敷)6 月 13 日<br>・低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の挑戦―、東京文化財研究所研究会、12 月 8 日 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-8

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
二酸化炭素削減にむけた取り組みに対する保存科学的観点からの行動指針を検討した。本年は空調稼働時間、温度制御、照明などについて基礎的な検討を行った。

2. 定量的評価

| 観点 | 研究発表件数 | 論文掲載件数 | 調査回数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | | | |

備考
基礎的な検討に基づいて、法隆寺宝物館における夏期の温度設定を外気に合わせ変更した。館内の作品、相対湿度への影響はないことを確認した。研究発表によって広く現状を報告することに努め、論文についてはさらなるデータの蓄積によって、問題点等を明らかにし、解決策を見出した上で発表予定であり、現在その準備中である。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 事業規模に見合う二酸化炭素の削減量を得るためには、事業規模の縮小か新規の設備投資を図るしかない。収蔵庫あるいは展示室における空調の運転時間が対象になることは十分に考えられ、保存科学的観点からの対応あるいは指針は、今後重要な課題になると考える。また、事業規模の縮小を伴わない $CO_2$ 削減に向けた積極的な取り組みも、同じく博物館施設が目指すべき方向であると考え、今後の活動に反映できる調査であると考える。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-9

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 9）東洋民族資料に関する調査研究　((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する約 3500 件の東洋民族資料を対象として、総合的な調査研究をおこなう。従来の台帳の記載内容を踏まえながら形状、材質のほかに、旧蔵者がつけた札や箱書きの内容や保存状態など実際の観察を通してしか分からない情報を、画像とともに一括してデータベース化する。これにより、研究・陳列・保管・修理などに必要な基礎情報をより充実した形で整備する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課長　谷豊信 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

東京国立博物館：川村佳男(調査研究課東洋室研究員)
客員研究員：丸山清志

【主な成果】

1. 当館所蔵の東洋民族コレクションの総合的なデータベースの作成により、研究・展示・保存などに必要な基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。
2. とくに台湾先住民族の資料について、民族誌や最新の研究成果と照合することで、過去の台帳の記載内容を補足、修正することができた。
3. 特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」を実施し、当館が所蔵する南太平洋将来の代表的な民族資料 15 件を陳列することで、調査研究の成果を公開した。

【年度実績概要】

1.　東洋民族資料に関する調査研究

昨年度から引き続き、各資料の計測値・員数・形状・材質・所在・画像・保存状態を調査し、データベースに入力した。また明治から昭和初期にかけて当館に収蔵される以前の箱書きや札が添えてあれば逐一その内容を記録し、伝来や年代の解明に役立てるようにした。

2.　台湾先住民族資料の調査研究

台湾先住民族のものについては、客員研究員の丸山清志氏の協力のもと民族誌や最新の研究成果と照合しながら、他の民族資料よりも詳細に調査を行った。これにより平成 23 年度に計画している特集陳列「台湾先住民族の工芸(仮)」の陳列案作成の準備が大きく前進した。

3.　特集陳列の開催



特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」の展示風景

「南太平洋の暮らしと祈り」というタイトルで、2009 年 4 月 7 日から 6 月 7 日まで東洋館 3 室で特集陳列を実施した。展示は、イモ用杵、ココナッツ掻器など南太平洋で広く使用されてきた代表的な生活道具 9 点、および大面、ワニの彫刻などメラネシア地域の木彫を中心とした祭祀・儀礼の道具 6 点の合計 15 点で構成されていた。全体の解説、地図のパネルの他に、個別の作品解説もすべて掲示した。

また会期中の 5 月 29 日に展示会場で列品解説「南太平洋の暮らしと祈り」を行い、あわせて資料を作成・配布した。

【実績値】

・調査回数：11 回、調査件数：222 件(調書作成件数も同じ)、データベース入力件数：約 2500 件(この数には昨年度調査を実施したが、データベースに未入力だった分が含まれている)
・展示回数：1 回(関連する列品解説の実施回数：1 回、参加人数：35 名)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-9

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | B | A | A |

備考

本年度から始まった耐震補強工事を経て 2012 年に再開する東洋館で以前より充実した展示をいかに実現するか、現在関係者間で活発な議論が行われている。その結果、東洋民族資料が新しい展示体系の一環として、専用コーナーで常時陳列されることになった。当館収蔵の同分野のコレクションは比例のない独自の価値を持ちながら、これまで展示公開されたことがほとんどなかった。昨年度から継続している本調査、および特集陳列による調査成果の段階的公開の実験は、東洋民族資料の展示活用という 3 年後の新しい試みに直結しており、その適時性において特に際立った意義を認めることができる。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 調査件数 | データベース入力件数 | 展示回数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | A | | |

備考

耐震補強工事の開始前に東洋館から収蔵品を移動する業務に夏まで掛かりきりとなるなど、本年度は時間が予想以上に限られた。その結果、昨年度末に掲げた調査目標回数の下方修正を余儀なくされたが、それでも 11 回の調査を実施できたことは評価したい。また調査ができない時期でもデータベースの作成を進めた結果、昨年度の遅れから回復し、目標数値に追いつくことができた。しかし台湾先住民族資料の調査を完了させるまでには至らず、調査件数については課題が残った。調査成果の公表については、特集陳列の実施によって目標を達成することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本年度は東洋民族資料を対象とした調査研究、特に展示活用を見据えた台湾先住民族資料に対するより精度の高い調査研究、南太平洋民族資料の調査研究結果の特集陳列による公開など、各方面で十分な成果が見られた。これまでの成果を踏まえつつ、今後も東洋民族資料の調査研究とデータベースの一層の充実を継続的に行い、当館における東洋民族資料のより有効な保管、修理、そして何よりも展示公開のあり方を検討していく。なかでも台湾先住民族資料は質量ともに極めて貴重なコレクションであり、来年度も優先的に調査を行い、再来年度の展示実現を目指す。来年度も特別展の準備など他の業務に夏まで集中せざるを得ない状況が見込まれ、時間的な条件は本年度と同様に極めて厳しい。そのため次年度も調査の目標回数は本年度並みに据え置き、調査件数については人員を増やすことで本年度以上の数値を目指す。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | 東洋民族資料の調査研究、データベースの作成、特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」の実施によって、昨年度からの成果の積み上げと公開を実現することができた。2012 年再開の東洋館で新設予定の東洋民族のコーナーでは、南太平洋と並んで台湾先住民族の資料が最も重要な一群となる。その試験の意味も兼ねて、2011 年には台湾先住民族資料の展示を工事中の東洋館以外の建物で実施することが望ましく、本年度中に完了できなかった同資料の調査を速やかに終わらせ、陳列の準備に取り掛かることが重要である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-10

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 10)韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究(⑸-①-ⅱ) |

【事業概要】

韓日両国の国際共同研究による高麗螺鈿漆器の修理・復元事業は、劣化・崩壊した漆器に対して、両国で蓄積された研究および技術的ノウハウを適用し、漆器の本来的価値をだれもが認識可能な状態に回復し、公開することが目的である。本事業の研究プロセスは、高麗漆器の再評価にとどまらず、韓日の保存修理および復元複製に関し、理念と技術の両面において一層の発展をもたらす。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

北村謙一(重要無形文化財保持者・漆工品修理)、室瀬和美(重要無形文化財保持者・目白漆芸文化財研究所代表)、岡田文男(京都造形芸術大学教授)

【主な成果】

数百の小片に分かれた断片の詳細な観察を通じて、各小片の位置、箱の形状及び寸法、木地及び塗膜の構造、顔料の種類、螺鈿・描金の組成などについて多数の知見を得ることができた。

【年度実績概要】

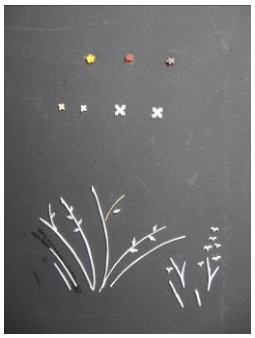
1. 修理後の外観をどの程度まで復元するか(あるいはできるか)
　　断片状の漆塗膜の変形をどの程度まで修整できるかが、その後の作業プロセスを検討。
2. 断片の強化・クリーニング・変形修整の方法
　　変形修整を実施する際には、劣化した塗膜面を扱うので、事前の強化処置が必要である。塗膜の変形修整の程度によって、最終的な姿は大きく異なることになるので、変形修整に関する技術検討を行う。
3. 強化後の断片の接合方法、接合した断片を箱状に保持する方法
　　変形修正を終えた段階で、各塗膜片の正確な位置を決定し、その大きさに応じた木地に相当する芯構造の材質および形状を決定する。塗膜断片同士の接着方法、塗膜と芯構造との固定方法について検討。
4. 塗膜残片の欠失部の処置
　　欠失部に対する処置は、オリジナル塗膜の変形修正の程度と欠失部の面積により異なるので、両者の状況を見ながら最終的に決定することになる。

【実績値】

これまで実施した蛍光 X 線分析、顕微鏡写真など調査結果に関して、詳細分析を実施した。

調査回数

東博にて写真及び分析データの解析を 3 回実施。



北村謙一氏が試作した復元模造のための螺鈿手板

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-10

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
極めて希少な漆工品遺物である高麗漆器の破片残片に関して、漆工品の保存修理および分析の国際専門家チームによって共同調査及び研究を行い、遺物の保存指針のみならず、具体的な修理について検討を実施した。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
東博にてすでに採取したデータと写真をもちいて調査データの詳細分析を実施。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | これまで得られたデータを精緻に調査し、修理および復元製作のための方法論、材料などの検討を進めることができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-11

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 11)日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

日本に現存する仏像、神像等の木彫像の樹種について調査研究し、日本特有の木の文化、歴史の理解を深めることを目的として実施する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 特任研究員　金子啓明 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

岩佐光晴(上席研究員)、浅見龍介(博物館教育課教育普及室長)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、能城修一(森林総合研究所木材特性研究領域樹種識別担当チーム長)、藤井智之(森林総合研究所関西支所長)

【主な成果】

今年度は、東京国立博物館で開催された特別展「伊勢神宮と神々の美術」に出品の静岡・伊豆山神社の男神立像、島根・成相寺の神像 23 体、岐阜・華厳寺の十一面観音立像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。昨年調査した一部の像のサンプルについて放射性炭素年代測定を試み、今後の研究への応用の可能性を協議した。これまでの研究成果の一部を研究論文としてまとめた。

【年度実績概要】

静岡県熱海市の伊豆山神社の男神立像、岐阜県松江市の成相寺の平安～鎌倉時代の神像 23 躯(うち 5 躯は島根県立古代出雲歴史博物館に寄託)、岐阜県揖斐郡の華厳寺の本尊十一面観音立像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。樹種の分析については森林総合研究所の能城が担当し、伊豆山神社の像はサクラ属の材、成相寺の像はその多くがカヤであり、一部の像がヒノキあるいはコウヤマキであることが判明した。華厳寺の像については現在分析中である。なお、華厳寺の像は従来秘仏であり、本格的な調査は今回が初めてである。調査は大阪大学と共同で実施したが、制作時期が奈良時代末まで遡る可能性があり、当該研究において重要な像となることを認識した。

昨年調査を行った岐阜県関市高賀神社の神像、高山市の飛騨一宮水無神社の神像、高山市荒城神社の神像から平安時代の像各 1 躯を選んで、放射性炭素年代測定を実施した(株式会社パレオ・ラボに調査依頼)。その結果、飛騨一宮水無神社の神像は制作時期よりもかなり遡る飛鳥時代に用材が伐採されたことを示すデータが確認された。今後、こうしたデータが蓄積されれば、用材の伐採時期と像の制作時期との関係が明らかになる可能性があり、年輪年代の調査とともに用材観の研究に有効な新たな視点となることを認識した。

これまで調査した木彫像のうち、樹種のデータを公表していない 8・9 世紀の木彫像及び鉈彫像について論文をまとめた(平成 22 年 4 月に東京国立博物館研究誌『MUSEUM』に掲載予定)。また、これまで調査した神像彫刻のデータについて検討を行い、その研究成果については来年度中に順次論文としてまとめて報告していくことを協議した。

【実績値】

調査作品件数　全 28 件　神像 27 件　仏像 1 件
写真データ　360 点
木片資料　80 点
放射性炭素年代測定　3 点

論文掲載数　1 件
金子啓明・岩佐光晴・能城修一・藤井智之
「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅲ―八・九世紀を中心に(補遺)―」
(『MUSEUM』平成 22 年 4 月予定)



男神坐像（島根・成相寺）

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-11

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考

神像彫刻は非公開のものが多いが、近年神社側の方針転換により調査を受け容れる神社も出てきた。日本固有の文化としての神の研究が求められているのであろう。神と木は密接な関係があり、用材観に基づく神像の調査研究は今後注目を集めると考えられる。ただし、調査の許可を得るまでに時間がかかるため、調査日程に非効率なところがあるのは否めない。早い段階での所蔵者との交渉が必要である。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査作品件数 | 収集資料数 | 論文掲載数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | B | | | |

備考

神像彫刻は非公開のものが多く、調査も困難であり、今年度は調査場所の設定にやや難航した。神像調査の 27 件は比較的多い数字といえる。各像について詳細な写真データと、木片資料が得られた。また、今年度初めて放射性炭素年代測定を実施した。論文については、データをある一定のまとまりごとに公表するために、作成には相応の時間が必要である。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 神像彫刻については所蔵者が非公開とする例が多く、美術史的調査が充分には行き届いていない。また、樹種の科学的識別についてはほとんど実施されていない状況にある。今回は島根県の成相寺にまとまって伝存する神像彫刻 23 件について重点的に調査を実施し、地域的な面からも見ても興味深いデータを得ることができた。また、今年度初めて試みた放射性炭素年代測定による調査も、本研究の今後の展開を考える上で有効であった。神像彫刻についてはこれまで相当数のデータを蓄積してきており、その成果を 22 年度には論文としてまとめ、公表する予定である。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 4 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もこのペースを維持しつつ、今年度試みた放射性炭素年代測定、さらに年輪年代分析なども取り入れ、科学的な調査の充実をはかりたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-12

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 12) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

国内外に所蔵される東アジアの書道史に関わる作品について、1 点ごとに詳細な書誌や伝来などの情報と、デジタル画像を収集する。さらに、科学機器を用いて、料紙の技法、変遷、使用法を実証するとともに、時代による書風の特徴やその変化などを調査研究する。また、作品の修理にともなうカルテなどの情報から、さらに詳しい分析を行う。これらによって、書の作品の存在意義を、料紙と書風という二つの側面から科学的に解明し、料紙と書風の相関関係をも考察する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

神庭信幸(保存修復課長)、高橋裕次(博物館情報課長)、富田淳(調査研究課長)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、恵美千鶴子(学芸企画部博物館情報課アソシエイトフェロー)、丸山猶計(九州国立博物館学芸部主任研究員)、赤尾栄慶(京都国立博物館)

【主な成果】

東京国立博物館・陽明文庫・三の丸尚蔵館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。昨年度に引き続き、今年度は作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、今年度は最終年度にあたるため、これまでの研究成果をまとめて、報告書を作成した。

【年度実績概要】

1. 東京国立博物館所蔵の装飾料紙作品の調査とデータ化

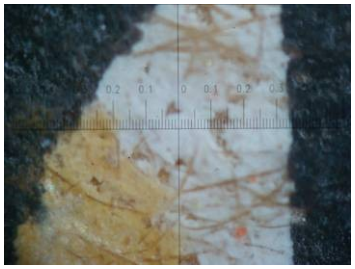
昨年度に引き続き、東京国立博物館が所蔵する装飾料紙作品の調査とデータ化を行った。今年度は、これまでの成果をもとに、研究成果報告書を作成した。また、来年度の東京国立博物館において、本研究成果を生かした特集陳列を企画中である。

2. 特別展に関係する作品の調査とデータ化

本年度、東京国立博物館で開催した特別展「皇室の名宝」においては、本研究と関係の深い作品が一堂に展示された。それらの作品についても、詳細なデータを収集した。

3. 他機関への調査

今年度は、京都・陽明文庫、高知県・山内家資料館、三の丸尚蔵館、中国・遼寧省博物館などに出張し、他期間の所蔵する装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍等の調査を行なった。許可の出た作品に関しては、東京国立博物館内部での調査と同様に、顕微鏡による料紙の拡大画像の撮影を行い、データの充実をはかった。



料紙の 100 倍の画像
作品ごとに料紙と書風のデータを収集・蓄積した

【実績値】

研究会などでの発表

島谷弘幸「古筆の魅力」(平成 21 年度岡山県文化のつどい第 2 回講演会)平成 21 年 9 月 12 日

論文掲載数

島谷弘幸『和様の書』(『日本の美術』519 号、ぎょうせい、平成 21 年 8 月)　ほか 8 件

調査件数　50 件、写真撮影点数　500 点、データ入力点数　300 点、文献資料のデジタル化　5 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-12

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
本研究は三年目にあたり、調査方針の再検討も行ったが、その調査方法は確立したと言える。その方法にしたがって他機関においてもすみやかに調査を進めることができた。科学研究費を使用して、協力者を増やし、より多くの情報を得ることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査件数 | 写真撮影点数 | データ入力点数 | 文献資料のデジタル化 | 研究会発表 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
科学研究費補助金を活用して、国内での出張調査に加えて、中国や韓国への調査が実施できた。さらに、他機関においても、ほとんどの場合顕微鏡による料紙の拡大写真を撮影し、装飾料紙に関するより詳細なデータを得ることができた。また、研究成果報告書を作成した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 東アジアの書道史に関わる膨大な資料を有する博物館の特徴を生かした調査を実施し、研究成果報告書を作成した。光学顕微鏡などの科学機器を用いた客観的なデータを広く収集して、調査の内容をさらに充実したものにすると同時に、さらなる成果を刊行物などで公開していく方針である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中国、韓国など、これまでの博物館の国際交流の実績を反映して、海外においても、東アジアの書道史に関わる資料の調査を今年度も行うことができた。その調査を継続的に行っていく必要がある。また、国際シンポジウムなどを開催することを目標に、所在情報や、調査方法について、相互に連絡を取り合っていきたいと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 13)目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) | | |
| 【事業概要】<br>日本独自の目録学を構築し、「知のネットワーク」で結ばれた公家社会の文庫群(＝データベース)の復原や伝統的知識体系を解明することにより日本古典学の研究基盤を再生する(研究代表者　東京大学史料編纂所教授　田島公)。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課登録室長 田良島哲 |
| 【スタッフ】<br>島谷弘幸(学芸研究部長)、福原紗綾香(研究支援者) | | | |
| 【主な成果】<br>＊昨年度に続いて、列品のうち歴史資料及び和書に含まれる、公家の儀礼や家職に関する絵画資料を網羅的に確認し、調査を行った。一部については、写真撮影により画像を作成する。<br>＊国宝『延喜式』の詳細調査実施に向けて、予備的な調査と打ち合わせを行った。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>＊昨年度に引き続き、列品(歴史資料及び和書)の網羅的な調査を行い、本研究に関連する主として絵画資料について、資料自体の詳細な調査及び館蔵の記録による伝来等に関する調査を行った。<br>＊上記資料の一部について、写真撮影を実施する。<br>＊公家の儀式に関する絵画資料である『旧儀式図画帖』の継続的な撮影を行った。<br>＊国宝『延喜式』の詳細調査についての準備を行った。 | | | |
| 【実績値】<br>調査資料数　216 件(354 点)。写真撮影　562 枚<br>特集陳列「有職」(平成 22 年 2 月 3 日-3 月 28 日、担当研究員：猪熊兼樹)は、本研究の調査成果を利用した。 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>本創成研究にふさわしい素材を選定し、公家文化と関連する資料の伝来の研究素材として必要十分な基礎情報を蓄積し、今後の発展的研究に備えることができた。 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査資料数 | 撮影画像数 | 展示反映回数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | | | |
| 備考<br>研究支援者が日常的に調査を行い、これまで調査の機会がほとんどなかった歴史資料及び和書のうちから、まとまった資料の詳細を把握することができた。 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ＊昨年度に引き続き、館列品の中から公家文化に関する資料を、網羅的に抽出することができ、今後の研究の基礎データとなる情報の取得を適切に行うことができた。<br>＊情報を館内で提供することにより、成果を特集陳列に反映することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査を通じて、列品に関する情報の確認が順次進んでいる。<br>今後、列品データベースに集約することにより、館業務及び外部への情報サービスに資することとしたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-14

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 14)国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―(科学研究費補助金)((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館では、2,046 件が館史資料として登録されている。内容は日本における博物館の歴史そのものであり、昭和 25 年(1950)に文化財保護法が施行され、文化財保護委員会が設置されるまで、日本の文化財保護行政の中心に位置した博物館のあり方を検討する際の貴重な資料である。本研究では、これらの資料について調査を実施し、その細目などを明らかにして、今後の博物館学研究の指針となるべき資料を整理、分類、分析し、研究の成果を一般に公開していくことを目標とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課情報管理室長　丸山士郎 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

島谷弘幸(学芸研究部長)、高橋裕次(博物館情報課長)、白井克也(列品管理課平常展調整室長)、鬼頭智美(企画課国際交流室長)、木下史青(企画課ﾃﾞｻﾞｲﾝ室長)、伊藤嘉章(九州国立博物館学芸部長)

【主な成果】

東京国立博物館保管の近代彫刻 208 件について、列品録・列品台帳の資料調査と、作品調査を実施した。作品調査では、調書と写真を作成した。それらをまとめた上で『東京国立博物館図版目録』(近代彫刻篇)を刊行した。

【年度実績概要】

東京国立博物館が保管している、列品録、列品台帳、収蔵品目録を中心に、館蔵品の収蔵にかかわる経緯等の調査を実施した。

【実績値】

調査件数　208 件

調書作成点数　220 件
写真撮影点数　156 件
データ入力点数　220 件
調査報告書刊行　『東京国立博物館図版目録(近代彫刻篇)』

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-14

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 調書作成点数 | 写真撮影点数 | データ入力点数 | 調査報告 |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当館保管の近代彫刻については、これまでまとまった調査・研究はなかったが、本研究によって、作品の形状等のほか、銘記、制作事情、受入なども明らかとなった。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今年度が研究の最終年度であるが、その成果である『東京国立博物館図版目録(近代彫刻篇)』を刊行する。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-15

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 15)油彩画の材料・技法に関する共同調査((5)-①-ｉ) |

【事業概要】

東京国立博物館所蔵の油彩画約 150 件の中から、明治期を中心とした約 70 件を調査対象とする。東京芸術大学大学院油画保存修復研究室はこれまで大学所蔵の明治期油彩画について調査研究を続け、多数の成果を公表している。この度の共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、及び透過デジタルＸ線写真、蛍光 X 線分析等の科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行い、これまで芸大が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後我が国の初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

木島隆康(東京芸術大学大学院教授)、鈴鴨富士子(東京芸術大学大学院助教)、松嶋雅人(企画課特別展室長)、土屋裕子(保存修復室主任研究員)、荒木臣紀(環境保存室主任研究員)、和田浩(環境保存室主任研究員)

【主な成果】

平成 20 年 11 月から開始し、可能な限り月 1 回のペースで調査を進めてきた。調査は朝 10 時から午後 17 時までであり、1 回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、11 点におよぶ。次第にデータが蓄積されているが、その中から、今年度は 3 点についての調査内容を発表する紀要(45 号)を出版する予定である。

【年度実績概要】

平成 21 年度に調査が終了した作品は、①A-11261 フォンタネージ筆≪風景≫、②A-11251 原田直次郎筆≪ドイツの少女≫、③A-11687 フォンタネージ筆≪不忍池≫、④A-11299 国沢新九郎筆≪海景≫、⑤A-11552 高橋由一筆≪最上川舟行の図≫、⑥A-739 高橋由一筆≪長良川鵜飼実況図≫、⑦A-720≪蜜柑と玉葱≫、⑧A-721≪ラグーザ肖像≫、⑨A-722≪少女像≫、⑩A-730≪牧羊図≫、⑪A-731 高橋由一筆≪国府台真景≫であり、それぞれについてのデータを CD に保存し、カルテを作成した。

【実績値】

調査回数　：10 回
調査作品数：11 点
研究発表・論文：次年度公表に向けて準備中



【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-15

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
今年度は、東京芸大が集積しているデータベースに追加情報をもたらす作家の作品についての調査を行うことができた(高橋由一、フォンタネージなど)。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2. 定量的評価

| 観点 | 研究発表件数 | 論文掲載件数 | 調査回数 | 調査件数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | A | A | | |

備考
本調査の結果として得たデータの一部は、まず、この 3 月出版の『東京国立博物館紀要』第 45 号に掲載予定であり、本調査の意義などについて、文化財保存修復学会 32 回大会に発表の予定であり、現在準備中である。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 東京国立博物館が所蔵する油彩画コレクションは、東京藝術大学の同時期の作品群を補完する意味でその存在は大きい。これまで光学的調査が不十分であったため、芸大作品と材料や技術に関する科学的な比較が困難であったが、一連の調査によって徐々に可能になってきている。今後の調査の進捗が更なる可能性を開いていくものと考える。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-16

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 16)荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京藝術大学と共同で実施する共同研究で、東博所蔵・荻原守衛作「女」石膏原型からブロンズ鋳造を計画している。これまで試みられたことのない大型の像に対する非接触・非破壊の方法を用いたブロンズ製作に関し、一連の製作工程について実証的な調査研究を実施する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

北郷　悟(東京藝術大学美術学部副学長)、古田　亮(東京藝術大学大学美術館准教授)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、田良島哲(列品管理課貸与特別観覧室長)

【主な成果】

3 次元計測を石膏原型に対して実施し、取得したデジタル 3 次元画像を元に、デジタルデータの解析を行った。表面のテクスチャ-等を様々に変化させ、デジタルプリンタ-による立体縮小模型を作製し、原寸大ブロンズ鋳造に向けた準備を行った。最適なテクスチャ-に基づいた原寸大鋳造を実施した。

【年度実績概要】

・3 次元計測データの解析を実施した。
・3 次元プリンタ-による縮小モデルを作製した。
・原寸大ブロンズ像を鋳造した。

【実績値】

調査回数
　東京国立博物館にて 1 回
　東京藝術大学にて 1 回

東京藝術大学にて鋳造作業 1 回
研究発表・論文：次年度公表に向けて準備中



【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-16

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
3 次元デジタルデータを用いたブロンズ鋳造に向けた準備、及びブロンズ鋳造の実施など、当初の計画に従い所定の成果を得ることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 研究発表件数 | 論文掲載件数 | 調査回数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | A | | | |

備考
東京国立近代美術館、芸大、中村屋、碌山美術館、遠山記念館などの既存のブロンズ像との比較を行うために、総てのプロセスを明確にした原寸大ブロンズの鋳造を完了した。今後これら一連の調査研究工程を学会等で発表し、かつ論文として公刊するための準備中である。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 石膏原型と今回制作したブロンズ像を基準にしながら、様々なブロンズ像との定量的な比較を実施することが可能となり、次年度以降の研究の基礎が整った。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】
(様式 1)

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-17

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 17)博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅳ) |

【事業概要】
　保存と公開という博物館の使命を持続的なものとするためには、あらゆるリスクを予測し、リスクを回避するための対策を事前に講じることによって、高い安全性に裏付けられた活動へと博物館を質的に転換する必要がある。そのためには、従来行われてきた基礎研究及び個別的対処を統合し、機動的かつ実効的な臨床保存学を確立する必要がある。その具体的な方法論としてトータルケアシステムの構築について研究を行う。

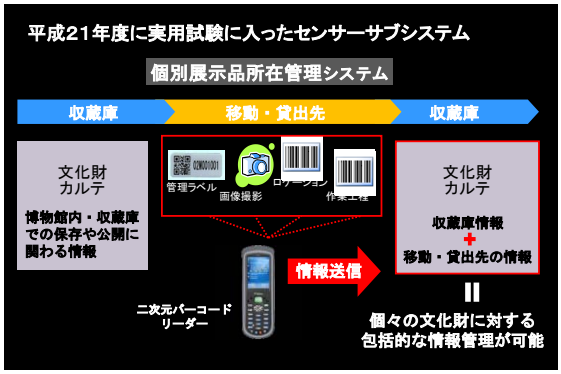
| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課長　神庭　信幸 |

【スタッフ】
土屋　裕子(保存修復室主任研究員)、和田　浩(環境保存室研究員)、荒木　臣紀(環境保存室主任研究員)、大場詩野子(研究支援者)、大河原典子(研究支援者)

【主な成果】
　これまでに集積した各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデータ活用システム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の主要部分の構築を完了した。具体的には、各種保存カルテ、各種写真記録、各種環境記録、作品・関連資材の所在情報を統合的に扱うことが可能になる。

【年度実績概要】
　平成21年度は、システムを構築する上で必要な4つの基本段階、すなわち測定(Measure)、分析(Analysis)、改善(Improve)、管理(Control)の中から、センサー及びデータ管理サブシステムの充実、データ分析システムの本格的な立ち上げを行った。
・センサーサブシステムの一層の整備を図り、測定内容を充実した。
・2次元バーコードによる移動・管理の運用実験を開始した。
・保存カルテの電子カルテ化とデータ管理サブシステムの運用を開始した。
・博物館全域の平面図CADをデータ分析システムに入力した。

【実績値】
研究会発表件数
国際会議 1 回、国際シンポ 2 回、国内学会 2 回
論文掲載数
　共著論文「包装技術」1 篇所載



センサーサブシステムの構造に関する模式図

【備考】
・博物館における包括的保存システムの構築に関する研究、文化財保存修復学会 31 回研究大会(倉敷)
・地震対策としての文化財の転倒防止に関する検討、J.P.ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム「美術・博物館コレクションの地震対策」(国立西洋美術館)
・国際航空貨物における留意点―文化財の輸送環境調査より―、第 47 回全日本包装技術研究大会(福岡)
・The characteristic of vibration during a transport of cultural heritage、東アジア文化遺産保存学会(北京)
・Toward the Establishment of a Guideline for the Concentration of Indoor Atmospheric Contaminants in Exhibition and Storage Rooms、The 2010 International Cooperation Symposium of Korea・Japan Conservation Science(Seoul)
・神庭信幸、和田浩、高木雅広、今北憲：空港内のドーリー搬送工程で発生する振動・衝撃―文化財の国際輸送環境調査より―、包装技術、平成 22 年 3 月

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-17

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
作品の状態、履歴及び環境の情報の収集と解析に関して、実践を通じた研究を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

2．定量的評価

| 観点 | 研究発表件数 | 論文掲載件数 | 研究計画・方法 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
科学研究費補助金(基盤(S)(平成 20 年～24 年))を活用して、各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデータ活用システム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」及び二次元バーコードによる所在管理システムを導入し、初期の実用実験を実施した。また、一部成果を共著にて刊行 1 篇、および学会などで 4 回の発表を行った。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 保存と公開を実践しつつ、安全性をより向上させるために、現状の解析と改善を具体的に実施し、臨床保存学の具体的な機能が明確化できた。現在構築中の支援システムの精度の向上を図ると同時に、将来予測に立脚した現状判断が可能なように、目標とするシステムの確立を目指したい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-18

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 18)東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―<br>(科学研究費補助金)((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館(以下、東博)が所蔵する約 1,300 点の正倉院裂の調査とデータ収集を目標とする。東博は、明治 5 年(1872)の正倉院開封以来、昭和 22 年(1947)まで正倉院宝物の管理に関わってきたため、明治時代の正倉院宝物の修理に関する資料等、正倉院宝物の模写・模造、古写真、展覧会の記録、出版物を所蔵する。それら東博所蔵資料の調査や、宮内庁書陵部・奈良国立博物館など所蔵する関係資料も調査とデータ収集を行なう。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 特任研究員　澤田むつ代 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高橋裕次(博物館情報課長)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、浅見龍介(博物館教育課教育普及室長)、西山厚(奈良国立博物館学芸部長)

【主な成果】

作品のデジタル画像について、個々に番号を付けるとともに、各作品については、現状、法量、品質、技法、用途等についての詳細を記録化する作業を行った。

東博が所蔵する正倉院関係資料についても、デジタル写真での記録撮影を進め、詳細データを収集した。

【年度実績概要】

① デジタル撮影した画像に番号と名称等を付け、画像データの整理を行なっている。

②撮影した各作品について、調査カード用のデータの整理を行なっている。

③東博所蔵の正倉院の模写、模造・模織作品のデジタル写真撮影と、それらの資料に関するデータの収集を行った。とりわけ、模織作品については個々の作品ごとに拡大画像を撮影し、調査カード用のデータの整理を行なった。

④これらの調査の成果を踏まえ、今回は特に織物について特集陳列を行ない、図録を刊行した。




今年度制作した図録の表紙(左)と内容(右)

【実績値】

1. 資料収集(写真撮影と調査カードのデータ化)
   ①調査カードのデータ整理は全体の 50 パーセント程度完了。
   ②模造・模織作品の写真撮影　80 枚
2. 研究発表、論文発表、展示への反映
   研究発表　2 回、論文掲載数 4 件、調査概報　1 件
   ①澤田むつ代「正倉院フォーラム 2009　福岡」(2009 年 9 月 5 日、於：アクロス福岡)〈天平の美と技〉パネリストとして発表した。
   ②澤田むつ代　特集陳列「東京国立博物館所蔵　正倉院の織物」を実施した：平成 21 年 11 月 10 日～12 月 6 日(於：東京国立博物館・本館特別 2 室)
   ③澤田むつ代　特集陳列「東京国立博物館所蔵　正倉院の織物」にかかる『東京国立博物館所蔵　正倉院の織物』と題した図録を刊行し、「東京国立博物館所蔵　正倉院の織物」ほか 3 件の論文を掲載した。
   ④澤田むつ代　宮内庁正倉院事務所の委嘱により「正倉院宝物模造作製調査委員」とし模造予定作品と関連作品等について調査し、調査結果について報告書を提出した。
   ⑤澤田むつ代　国際シンポジウム『上代裂をまもる』(於：東京国立博物館・大講堂)において「法隆寺の染織品」について発表した。
3. 調査回数　11 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-18

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
代表者澤田が以前執筆した論文「正倉院頒布裂」のデータをもとに、効率よく正倉院裂のデータ収集とデータ入力を行なうことができた。科学研究費補助金によって、奈良国立博物館の研究者の補充ができ、奈良国立博物館での調査もすみやかに行なうことができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
正倉院裂の調査を 11 回行ない、充実した調査および内容の検討ができた。また、デジタルによる新規撮影が順調と、東京国立博物館・奈良国立博物館所蔵の関係資料のデータ収集も行なうことができた。さらに、特集陳列を開催し、図録を刊行した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 東京国立博物館所蔵の正倉院裂は、美術史上重要な作品であるにもかかわらず、従来、詳細な図版が公刊されてこなかった。今年度は、その一部であるが、特集陳列の図録として公開することができた。さらなる成果を刊行物等で公開していく方針である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | これまでの成果を特集陳列で一般に公開でき、調査研究は順調に進んでいる。図版公開を目指すとともに、今後もこのペースを維持しつつ、さらに関係資料のデータの充実をはかりたい。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-19
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 19)文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅲ) |

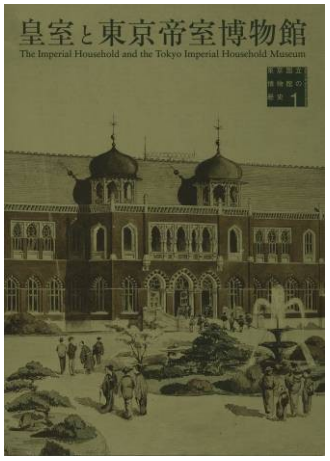
【事業概要】
東京国立博物館(以下、東博)は、明治 5 年(1872)の創立以来、「古器旧物保存」や「臨時全国宝物取調」など文化財保護の活動に関わってきた。東博で保管してきた文化財保護の歴史に関わる宝物調査の資料、報告書、宝物の模写絵図や拓本類を可能な限り収集、整理し、そのデータを公開することを目標とする。

| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課長　高橋裕次 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
浅見龍介(博物館教育課教育普及室長)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、白井克也(列品管理課平常展調整室長)、島谷弘幸(学芸研究部長)、恵美千鶴子(博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー)

【主な成果】
東博に収蔵されている関連作品や関連資料について、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。一部、デジタルカメラによる記録撮影やスキャニングによるデータ保存を進めている。また、特集陳列「皇室と東京帝室博物館」で関連資料を公開するとともに、図録を作成した。

【年度実績概要】
1. 東京国立博物館所蔵の関係資料のリスト化
東京国立博物館が所蔵する文化財保護に関連する資料のリストを作成した(明治～昭和初期の分)。戦後の資料に関しては、いまだ各部署で保管されていたが、収集して整理を行った。
2. 特集陳列の開催のよる資料の公開
本年度、東京国立博物館で開催した特集陳列「皇室と東京帝室博物館」において、文化財保護の歴史に関わる資料を展示し、あわせて図録を刊行した。
3. 他機関への調査
今年度は、国内では京都国立博物館などに出張し、他期間の所蔵する文化財保護の歴史に関連する資料の調査を行った。海外では、韓国中央博物館に出張し、外国の博物館が自身の歴史をどのように研究・公開しているのか調査を実施した。



特集陳列で作成した図録の表紙

【実績値】
論文掲載数
高橋裕次「宮内省管理下における博物館の活動について」(『皇室と東京帝室博物館』特集陳列図録、東京国立博物館、平成 21 年 10 月)
調査件数　20 件、写真撮影点数　1000 点、データ入力点数　300 点

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-19

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | A |

備考
本研究は今年度はじめたものであり、効率性がよかったとは言いがたい。調査方針を再検討する必要がある。しかし、科学研究費を使用して、協力者を増やし、より多くの情報を得ることができた。情報収集も成果を挙げることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査件数 | 写真撮影点数 | データ入力点数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | A | | |

備考
科学研究費補助金を活用して、国内での出張調査に加えて、韓国への調査が実施できた。まだ調査対象リストを作成中であり、調査件数は 20 件であった。しかし、特集陳列の開催により、すみやかに関連資料の公開と、図録を作成できた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財保護の歴史に関する資料は、東京国立博物館ほど所蔵している機関はほかにないと思われる。その貴重な資料について全体像を把握するとともに、特集陳列で公開することができた。調査の内容をさらに充実したものにすると同時に、さらなる成果を刊行物などで公開していく方針である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | これまでの博物館の国際交流の実績を反映して、韓国中央博物館においても調査を実施することができた。その調査を継続的に行っていく必要がある。また、国内外の関連資料を総合的に調査するために、所在情報や、調査方法について、相互に連絡を取り合っていきたいと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-20

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 20)隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

本調査研究は隋唐時代の舎利荘厳に注目し、その実際を美術史、考古学、歴史学、保存科学を専門とする研究分担者が詳細に調査し、総合的に考察を加えようとするもので、本年度は陝西省、河南省において現地調査を実施する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課長　加島勝 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

松本伸之(学芸企画部長)、和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)、東野治之(奈良大学)、岡林孝作(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)、泉武雄・長岡龍作(東北大学)

【主な成果】

中国陝西省及び河南省において実施した現地調査によって得た内容を整理し、開催した研究集会等を通じて、隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する検討を行なった。

【年度実績概要】

1. 事前調査

研究代表者加島が 2009 年 4 月に西北大学(中国陝西省西安市)に赴き、中国側研究協力者である西北大学教授王建新、冉万里らと、本年度の陝西省及び河南省内における現地調査実施に関する打ち合わせを行なった。

2. 現地調査の実施

(1) 2009 年 9 月に研究代表者及び研究分担者全員が参加し、中国側研究協力者の協力のもと、中国陝西省及び河南省において 2 週間に及ぶ現地調査を実施した。これにより両省における①仁寿舎利塔起塔寺院に関する地理的データ、②仁寿舎利塔出土遺物と隋代関連遺物、③慶山寺舎利塔址出土遺物、④関連岳廟・墳墓壁画、等に関する詳細なデータを収集することができた。

(2) 2010 年 2 月に研究代表者と研究分担者和田が、西北大学に赴き、鑑真が菩薩戒を受けた寺院として著名な実際寺址(西北大学校地内所在)出土品など関連遺品に関する科学的調査を行ない、成分組成に関するデータを収集した。

3. 国内関連調査の実施

2010 年 3 月に西北大学教授冉万里を招聘し、研究代表者及び研究分担者の参加をえて、岐阜県、滋賀県、京都府内において国内関連遺跡及び遺物の調査を行なう予定である。

4. 研究会の実施

3. 国内関連調査に引き続き、研究代表者及び研究分担者、中国側研究協力者参加による研究会を開催し、本年度の調査の成果をまとめ、次年度の調査に備える予定である。

【実績値】

研究会開催数：1 回、参加者数：8 名。
調査回数：3 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-20

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、美術史(彫刻史、絵画史、工芸史)、考古学、歴史学、保存科学を専門とする研究分担者が中国陝西省及び河南省において詳細な現地調査を実施し、基礎資料を収集した。これにより、中国の造形美術を通して浮かび上がる信仰と思想について総合的な見地から考察をくわえる基礎が構築された。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
研究成果については、学会や学術雑誌等への公表を順調に行うことができた。本年度開催した研究集会には 195 名の参加を得、文化的景観の課題等に関する活発な議論ができた。また参加者の内 97%の参加者から有意義であったという評価を得た。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、中国陝西省及び河南省において詳細な現地調査を実施し、基礎資料を収集することができた。本年度は 3 ヵ年の研究期間の初年度であったため、研究分担者による研究発表や発表論文はなかったが、集積された基礎的データは従来にない重要な新知見を数多く含んだものである。本年度の調査により次年度以降の現地調査が着実に実施される基礎が確立されたので、次年度以降の調査による基礎データが集積されれば各分野の研究発表及び研究論文が成果と数多くなされるものと確信している。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳の実際について、現地調査や研究会等を通じて、美術史(彫刻史、絵画史、工芸史)、考古学、歴史学、保存科学的見地からのデータ収集を当初計画の通り進めることができた。本年度の成果を受け、次年度以降も、中国現地調査及び国内関連調査による基礎資料の収集とそれにもとづいた研究のとりまとめを進めていく。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-21

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 21)　原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

美術史家・矢代幸雄とも親しい関係にあった日本近代の豪商・原三溪の形成した日本近代美術コレクションは、日本美術院を中心とした美術家の代表的作品群といえる。その一つ一つの作品の基礎的な調査、および当時の制作事情とパトロンの関係、原三溪を中心とした当時の美術家ネットワーク、それらの作品の評価史を洗いなおすことが、本研究の目的である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画課特別展室任期付研究員<br>植田 彩芳子 |

【スタッフ】

【主な成果】

今年度は、原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する関連資料の収集、先行研究の整理、資料のデータ整理とデータベース化を進めた。また、昭和初年に行われた「明治大正名作展」に関する関連資料の収集、先行研究の整理、データ整理を行った。さらに、書簡調査など、基礎資料調査を集中して行うことで、次年度以降の本格的な調査研究、論文執筆に必要な基礎的作業を大幅に推進することができた。

【年度実績概要】

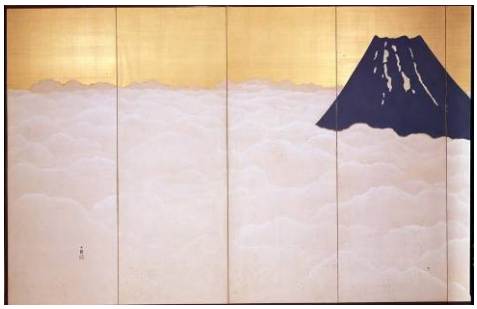
今年度は、関連する情報資料の収集、先行研究の整理と問題点の整理、データ整備と新規調査のための機器の準備、および本研究の中核をなす原三溪旧蔵近代日本画のデータ整理と横山大観を中心とした調査研究を行った。具体的には、東京国立博物館・横浜美術館・三溪園・東京国立近代美術館が所蔵する原三溪旧蔵作品をファイルメーカーで画像をつけてデータベース化した。そのデータを三溪園所蔵の原三溪の購入記録である『美術品買入覚』と照合した。また、『美術品買入覚』記載の情報もデータベース化した。

これらのデータ整理を通して、従来制作年のはっきりしていなかった横山大観筆《雲中富士》(東京国立博物館、原三溪旧蔵)の制作年について、具体的な知見を得た。

また、原三溪所蔵作品が多く出品され、明治大正期の「名作」を選出した昭和初期の「明治大正名作展」について、資料を収集し、データを整備した。

これに加え、横山大観記念館の所蔵する原三溪関係書簡の調査研究を行い、具体的な知見を得た。

なお、近代日本画における横山大観の位置を大局的に考察するために、近年新たに展覧会出品作であることが確認された横山大観作品の調査を宮城県美術館で行い、具体的な知見を得た。



横山大観筆《雲中富士》部分

【実績値】

〈調査〉

5 月 9 日　　宮城県美術館調査
7 月 17 日～18 日　京都国立近代美術館・大和文華館調査
10 月 16 日　　横浜美術館・神奈川県立図書館調査
10 月 23 日　　横山大観記念館調査
11 月 13 日　　三溪園調査

〈資料収集数〉

書籍　31 冊　　新聞雑誌資料　515 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-21

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
本研究は昨今の研究動向を意識しつつ、現在の多角的な研究手法の一つとして注目を集めているパトロン研究という視点から、原三溪旧蔵近代絵画についての考察を行っている。本研究では、原三溪一人に限らず、細川護立などの同時代の他のコレクターによる活動も視野に入れつつ、明治大正期の美術を包括的に捉えなおす試みであり、発展性・拡張性がきわめて高い。上記項目についていずれも十分な成果を挙げることができたと考えられる。

2．定量的評価

| 観点 | 資料収集数 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | | | | |

備考
通常業務の繁忙のため、今年度予定していた調査が制約された。しかし、今年度の研究に最低限必要な調査は実施でき、資料収集も順調に行うことができた。充分な成果を挙げることができたと考えられる。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 原三溪旧蔵近代絵画・彫刻を対象とした調査研究や情報の収集などを十分実施できた。これらの成果を踏まえつつ、今後も引き続き情報収集や調査研究を通じて、原三溪ひとりの問題に関わらず、広く日本近代美術におけるパトロン研究という視点から考察を図っていく。特に、「明治大正名作展」に関しては、明治大正美術を包括的に見直す試みでもあり、次年度以降もこれを継続していくべきであると判断される。さらに、次年度においては、今年度の調査の結果を踏まえた上で、研究成果の公表等も目指していく。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する調査や研究等は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できた。本年度の成果を受け、次年度以降は、「明治大正名作展」や原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する調査研究のとりまとめを進めていく。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-22
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査および研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 22)高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金)((5)-①-ｉ) |

【事業概要】
工芸文化財デジタルデータの活用法について、復元職人の実制作空間の情報化を行うことにより、従来にない視点から文化財閲覧デバイスを開発することを目的とする。復元作業に精通した職人の制作空間を参考にすることで、制作者の作業意図や技能に合わせた文化財デジタルデータ閲覧デバイスの開発について考察する。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー<br>河内　晋平 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【主な成果】
復元職人(上野修路)が作業前に行う文化財の調査風景、調査状況のビデオ記録の編集解析をおこなった。ビデオ記録時間は編集後、約 7 時間(400 分)となり、現在それらの編集映像のデータベース化を開始している。
また、タッチディスプレイや 3D ディスプレイ、映像インターフェースなどの調査を行い、次年度の閲覧デバイス設計のための基礎調査をおこなった。

【年度実績概要】
1. 復元職人が作業前に行う文化財調査の状況解析
約 7 時間(400 分)の映像記録編集調査データをもとに、計測箇所、閲覧場所、閲覧時間等のカテゴリに分類した。現在これらの編集映像のデータベース化を進めている。
(右写真は編集映像キャプチャ画像)




2. 閲覧デバイス開発の基礎調査
3D ディスプレイやタッチディスプレイなどの映像閲覧デバイスについて、株式会社アスナへの訪問や画像先端機器展などに出席し、文化財閲覧デバイスのための情報収集をおこなった。
インターフェース以外のコンテンツ表示やビューアーについてのプログラム作成にとりかかる。

3. 文化財デジタルデータ取得の検討
次年度開発する閲覧デバイスでの文化財データの取得に伴い、撮影手法、映像編集プログラムの検討を行った。撮影手法に関しては、デジタル一眼レフカメラを使用した 3D デジタルデータ取得に関して実験を行った。また、映像編集プログラムに関しては、processing などの言語をはじめとして、3Dmax、maya などのソフトを用いた方法について検討した。

【実績値】
復元職人の文化財調査の状況解析　映像記録編集調査データ約 7 時間(400 分)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-22

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
　文化財閲覧に関するデジタルデータの活用法については今後必要となってくる分野であり、当研究を通じ、文化財デジタルデータについて職人が活用できるデータという視点から考察していくことは、文化財復元や文化財閲覧の新たな方向性を示す上でも有効であり、将来に結びつく重要な情報の取得ができた。

2．定量的評価

| 観点 | 情報収集 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
　情報収集に関しては予定していた職人への調査動画を十分に解析し、7 時間ほどのデータ編集ができた。研究初年度での基礎データ収集ということもあり、論文等の発表は行っていない。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 復元職人が文化財復元に際して実際にどのような情報を必要としているのかについての調査を実施できた。これらの成果を踏まえつつ、今後も制作者である職人の視点に関する調査研究を通じて、文化財閲覧時の必要情報について検討を引き続き図っていき、それらの結果をデジタル閲覧デバイス開発に活かしていく。特に、制作者である職人の視点について考察することは新たな文化財情報提示の可能性があると考える。今後、より多くの制作者の意見を収集し、閲覧デバイス開発に活かしていきたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 復元職人が復元作業を行う前に必要とする情報について記録映像から取得することができた。より細かな部分に至るまでの情報を取得するためにも、映像記録とその編集を継続し、その他の職人に対しても調査を行っていきたい。デジタルデータ編集プログラムや閲覧デバイスのハードウェアについも実際に運用されている状況を体験することができ、次年度の開発に向けある程度の方向性が決まった。<br>次年度実際に閲覧デバイスとしてデジタルデータを編集する際に、再度復元職人を交えて考察することが必要となる。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-23
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 23)狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究(科学研究費補助金)　((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】
　江戸末期の幕府御用絵師・狩野養信は、古画・古絵巻の模本制作に積極的に取り組んだと知られているが、それ以外に寺社宝物の模写もしており、東京国立博物館の所蔵する「高野山学侶宝蔵古器及楽装束図」と「法隆寺什物図」は代表作例と言える。既に報告書の刊行にまで至っている前者と合わせることで、今後、養信による寺社宝物模写の全容を明らかにできるよう、まず本研究では後者の基礎的な調査研究を目的とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー　安藤　香織 |

【スタッフ】

【主な成果】
　本年度は、「法隆寺什物図」の基礎データをそろえる第一歩として、全巻の写真撮影を行い、合わせて翻刻のための部分写真も撮影した。同時に、全巻の計測・細部の観察も行った。また、作品の具体的な考察へ向けて、調査で得た情報を整理し、表として整備する作業に着手した。

【年度実績概要】
1、「法隆寺什物図」(全 11 巻)撮影
　調査を効率的に行い、かつ今後の幅広い研究に使用できるよう写真撮影を行った。その際、撮影担当のカメラマンと作業補助のための協力者に作業を依頼し、利便性と普及性を考えて、当館における基本的な撮影条件を満たすかたちで全巻を撮影した。

2、「法隆寺什物図」調査
　全巻の計測と、描かれている宝物の特定を行い、なおかつ後の翻刻作業に役立てるため墨書の注記(添え書き)部分の写真撮影を行った。また、後の絵画的考察に必要であるため、技法(彩色・白描、あるいは拓本など)や描法に注目しながら、細部の観察を進めた。


撮影の様子

3、表作成と翻刻
　基本的な情報の整備という観点から、表の作成と翻刻を行った。表は、描かれた宝物名、各宝物が何点の図で構成されているのか、担当した模者名、現存する法隆寺宝物の有無などを一覧に示した。翻刻は、本作品にみられる墨書、すなわち宝物の名前や担当画家、模写年月日、その他の注記を対象とした。

【実績値】
調査・撮影日数：6 日(協力者：撮影者 1 名、撮影補助 1 名、調査補助 1 名)
撮影枚数：360 枚
情報整理・入力日数：12 日(協力者：1 名)

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-23

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | A | A | A |

備考
独創性をＢとしたのは、撮影・調査・情報整理のみを終えた現段階における評価である。今後、具体的な考察へと研究段階を進めることで、十分な成果を得られると考える。この他の観点に関しては、撮影・調査いずれも順調に終了し、発展的考察への準備が整ったという意味で成果はあったと評価する。

2．定量的評価

| 観点 | 撮影・調査回数 | 撮影枚数 | 情報整理・入力日数 | 協力者数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | |

備考
撮影・調査は、作業を確実かつ安全に遂行するのに必要な回数を確保でき、予定通り終了した。また撮影枚数、作業協力者三名も適当であったと考える。協力者１名に作業を委託した、撮影・調査後の情報整理・入力も、協力者数、日数ともに過不足ないものであった。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 「法隆寺什物図」を研究するための基礎的な情報収集作業として、撮影・調査・情報整理を順調に終えることができた。次年度は、今年度の成果を大いに活用しつつ、研究を進めたい。また今年度、改めて必要性を感じたのが、周辺作品の調査である。「法隆寺什物図」の考察に取り組むと同時に、同筆の「高野山学侶宝蔵古器及楽装束図」やその他模写作品にも目を向けて、調査・撮影を継続できるよう努力したい。そして以上を踏まえ、充実した情報とともに「法隆寺什物図」を広く紹介できるよう、研究成果の公表を目指す所存である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | 当初の計画では、養信筆『公用日記』中に「法隆寺什物図」関連の記事があるか確認・翻刻する作業は今年度行う予定であったが、撮影・調査・情報整理を優先させた結果、これは次年度行うこととした。上記以外は順調に計画を達成しており、次年度へ向けた準備を整えることができた。引き続き研究計画に基づき、模写の手順・技法の検討や、周辺作品との比較など、具体的な考察に取り組みたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-24

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 24)東京国立博物館所蔵写真資料データベース(科学研究費補助金)　((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館では、江戸時代末から昭和初期にかけて撮影された 15,000 点余りにのぼる写真資料を所蔵している。これらの写真資料については、以前より外部の機関や研究者から利用の要望があるにもかかわらず、画像を簡便に確認するすべがなかった。本事業は画像データベースを作成し、各分野に寄与できる研究資料としてウェブ上で一般に公開することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課長　富田淳 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

冨坂賢(調査研究課書跡・歴史室長)、髙梨真行(調査研究課書跡・歴史室主任研究員)、藤瀬雄輔(列品管理課列品情報整備室員)、関紀子(調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員)

【主な成果】

これまで未整理であった写真資料を整理し、公開することができた。また、本事業の成果として、平成 22 年 5 月 24 日～7 月 4 日に「清朝末期の光景-小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真-」の特集陳列を行う。

【年度実績概要】

『東京帝室博物館美術課列品写真目録』(大正 8 年刊行)、『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真資料目録 1～3』(平成 11・12・14 年刊行)に基づき、写真資料の撮影およびデータ入力を行った。今年度は明治 4 年に横山松三郎によって撮影された旧江戸城写真東京国立博物館の草創期を伝える湯島聖堂、山下門内、浅草文庫や、サウスケンシントン博物館やウィーン博物館、アメリカ自然史博物館等外国の博物館、明治 14 年の内国勧業博覧会や文久元年の第一回遣欧使節や文久三年の第二回遣欧使節、また勝海舟や岩倉具視、皇帝ウィルヘルム一世やリチャード・ワグナーなどの国内外の人物写真、中国やインドなどの景観・風俗写真を対象とした。撮影は写真資料の体裁、装丁を明らかにするため、全紙撮影、台紙の裏面、またアルバム等では表紙、見返し、白紙を含む全頁撮影を原則とし、文字データは画像番号、名称、撮影者、法量、品質形状、時代、員数、墨書、備考(題箋、付箋、印章、特記事項)について制作した。また、検索システムでは、上記の項目による詳細検索のほか、新たに分類別検索を設け、撮影場所、アルバム名、撮影者からの検索を可能とした。

【実績値】

○データ作成件数　4,200 件
(主な作品内訳)
旧江戸城　42 件
明治 4 年展覧会写真帖　54 件
第 1 回・第 2 回遣欧使節　30 件
澳国維府博覧会出品撮影　264 件
鹿児島景勝　35 件
卑露国リマア都之景　61 件
伊太利亜国ベニ-ス夜景　20 件
ぺる-人写真帖　155 件
中国風俗写真　1598 件
法隆寺金堂壁画　151 件
など
○公開画像　4,462 画像



横山松三郎撮影　明治 4 年
「江戸城本丸書院二重櫓・重箱櫓」

【備考】

「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)、東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」(http://dbs.tnm.jp/kaken/oldphotos.html)

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-24

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
　台紙全紙、裏面、表紙、見返し等の撮影も行い、これまで問い合わせが多かった台紙張りの状態やアルバムの装丁、文字データが確認できるよう、撮影に配慮した。

2．定量的評価

| 観点 | データ作成件数 | 公開画像件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
　予定数 4,200 件を超える画像を公開することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 　ウェブ上での画像データベースの公開も一般に知られるようになり、館外からの問い合わせも増えつつある。<br>　撮影は完了し、次年度中には全画像の公開を予定している。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 　4 年計画の最終年度であり、事業計画はほぼ達成できた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-25

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 25)東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金)((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

文部科学省科学研究費補助金(公開促進費データベース)を利用して、東京国立博物館で所蔵する古文書について、書跡収蔵品を対象に調査を実施。古文書学によって記載内容の検討，形式・様式の分類，使用された料紙の素材分析を行い，1 通ごとの古文書名称の特定，法量計測，写真撮影など基礎データを収集した。記載された文字を翻刻し最終的に画像とテキストを統合したデータベースを東京国立博物館情報アーカイブスで公開する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課ボランティア室主任研究員　髙梨真行 |

【スタッフ】

高橋裕次(博物館情報課長)、丸山猶計(九州国立博物館学芸部文化財課資料登録室主任研究員)

【主な成果】

当館書跡列品の内，B1721 諸寺院文書，B1854-1875 白河結城家伝来文書，B1773 里見家伝来文書，B1829 堀部家伝来古文書などの古文書群，B1761 三島神社文書などの古文書写に加え，B1627 古文書，B1719 古文書，B1898 松平定信書状，B1913 徳川頼宣書状，B1932 徳川斉昭書状， B2034 毛利家家老連署申渡書，B2035 毛利就隆任官状，B2045 徳川家康書翰などの掛幅装の古文書のデータベース化を完了。

【年度実績概要】

平成 19 年度および 20 年度に行った古文書調査におけるデータを基礎として，下記対象古文書について，古文書名検討，差出・宛所の特定，作成時代特定，様式・検討，料紙・内容分析，釈文翻刻，1 点ごとの写真撮影を行った。



B1680 白河結城家伝来文書(足利義満御判御教書)1 幅



B2034 毛利家家老連署申渡書 1 枚



B2045 徳川家康書翰 1 幅

【実績値】

○調査件数　　総計　40 件　214 レコード　506 カット

・古文書 1 通を 1 レコードとする。

・1 レコードは古文書，差出・宛所，年代，様式，料紙・内容，釈文と数カットの本紙画像で構成

B-1721 諸寺院文書　全 2 巻 →42 レコード，48 カット画像撮影

B1854-1875 白河結城家伝来文書　全 1 幅・22 枚 →64 レコード，59 カットの画像撮影

B1773 里見家伝来文書　全 8 巻　2 枚　→12 レコード，20 カットの画像撮影

B1760 日御碕文書　全 2 巻　→26 レコード，38 カットの画像撮影

B1829 堀部家伝来古文書　全 1 冊・20 枚　→21 レコード，116 カットの画像撮影

B1761 三島神社文書　全 1 巻　→25 レコード,29 カットの画像撮影

B1627 古文書　全 9 幅　→9 レコード，21 カットの画像撮影

B1719 古文書　全 3 幅・1 巻　→8 レコード，19 カット画像撮影

B1720 古文書　全 1 幅・18 枚　→19 レコード，59 カットの画像撮影

B2016 髪結床売渡証文　全 12 枚・1 個　→18 レコード，30 カットの画像撮影

B1780 古文書　全 1 幅　→3 レコード，8 カットの画像撮影

B1898 松平定信書状　全 1 幅　→2 レコード,4 カットの画像撮影

B1913 徳川頼宣書状　全 1 枚　→1 レコード，3 カットの画像撮影

B1932 徳川斉昭書状　全 1 枚　→1 レコード，5 カットの画像撮影

B1974 條目請印帳　全 1 冊　　→1 レコード，28 カットの画像撮影

B2008 松平楽翁自警　全 1 枚　→1 レコード，2 カットの画像撮影

B2034 毛利家家老連署申渡書　1 枚　→1 レコード，4 カットの画像撮影

B2035 毛利就隆任官状　全 1 枚　→1 レコード，2 カットの画像撮影

B2045 徳川家康書翰　全 1 幅　→1 レコード，2 カットの画像撮影

○論文等　特集陳列「戦う武士の世界」21 年 6 月 24 日～7 月 20 日，列品解説　21 年 7 月 7 日「戦う武士の世界」

【備考】

本成果は当館情報アーカイブス上「東京国立博物館所蔵古文書データベース」にて 2010 年 6 月公開予定

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-25

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
古文書の重要な項目である文書名の付与と文字内容のテキスト化に成功した。また公開を前提とした比較的精細度の高い画像による撮影が実施し得た。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | | | | |

備考
科学研究費補助金を活用して、恒常的に調査・研究を行うとともに,前年度までに実施した当館における特別調査「書跡」(古文書)の成果も取り入れ、公開の促進につながったことは大きい。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 昨今，博物館等の研究機関で収蔵する資料データの公開は必須となっている。外部研究者によるニーズにとどまらず生涯学習機会の増加から，学生はもとより多くの層からの利用が期待できる。古文書の画像と釈文を総合化した本データベースの公開によって、国民全体の資源としての有効利用に資することができたと判断される。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 今日韓国の各機関で所蔵する朝鮮王朝時代の王や大臣による古文書，そして中国清朝による奏折とよばれる行政文書の研究進展には目覚しいものがある。昨年度より継続して，漢字を利用した古文書というアジア圏に共通する題材を、科学研究補助金の導入によって調査・研究を実施し,データベースという形で公開を促進できたことは、法人全体としての計画にある「我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化」および当館の年度計画にある「博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る」という事項に対応した、一定の成果として位置づけられるのではないかと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-26

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 26)東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金)　((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館では、昭和 51 年に横田実氏から漠南印譜コレクションを、平成 14・15 年の両年度には、小林斗盦(庸浩)氏から懐玉印室コレクションの寄贈を受けた。歴代の主要な印譜を網羅するこれらのコレクションには、製作部数の少ない原鈐本や、編者自らが注記を書き加えた本地中国でも見ることのできない稀覯本が多数含まれている。これらの印譜は内外からの閲覧希望が多いにもかかわらず、保存上の問題から、必ずしも十分な公開が行われていない。本事業では、これら東京国立博物館が所蔵する中国古銅印譜・中国近人印譜・日本近人印譜およそ 2,300 件約 7,500 冊の画像データベースを作成することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課絵画・彫刻室　任期付研究員　関紀子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

富田淳(調査研究課長)、髙梨真行(調査研究課書跡・歴史室研究員)

【主な成果】

小林斗盦(庸浩)氏寄贈による懐玉印室コレクションのうち中国古銅印譜について撮影を行い、データを入力した。平成 22 年 6 月に「東京国立博物館情報アーカイブ(http://webarchives.tnm.jp/archives/)において、東京国立博物館所蔵印譜 WEB データベース」として公開予定である。

【年度実績概要】

平成 21 年度は、平成 14 年に小林斗盦(庸浩)氏から寄贈を受けた懐玉印室コレクションのうち、呉叡『呉氏印譜』や顧従徳『集古印譜』、甘暘『甘氏集古印正』など中国古銅印譜の撮影およびデータ入力を行った。本データベースの撮影は、印譜の体裁、装丁を明らかにするため、表紙、見返し、白紙を含む全頁撮影、半丁 1 カットを原則とし、レコード数は半丁 1 カットを 1 件とする。また、データの項目は、画像番号、資料番号、名称、作者・編者、時代、員数、形質、法量、備考である。

【実績値】

○データ作成件数　14,029 件

(内訳)

呉叡　呉氏印譜　明時代・15～16ｃ　110 件
顧従徳　集古印譜　明時代・万暦 3 年(1575)　552 件
甘暘　甘氏集古印正　明時代・万暦 24 年(1596)　414 件
甘暘　集古印譜(朱墨搨)　明時代・万暦 24 年(1596)　546 件
来行学　宣和集古印史　明時代・万暦 24 年(1596)　574 件
潘雲杰　集古印范　明時代・万暦 35 年(1607)　676 件
羅王常　秦漢印統　明時代・万暦 36 年(1608)　668 件
など

○公開画像　15,501 画像



顧従徳『集古印譜』

【備考】

「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)において、東京国立博物館所蔵印譜 WEB データベース」として平成 22 年 6 月から公開予定。

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-26

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>表紙、見返し、裏表紙、序文、跋文等の撮影も行い、装丁の状態や、文字データが確認できるよう、撮影に配慮した。 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | データ作成件数 | 公開画像数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 予定画像数 14,000 を超える 15,501 画像の撮影とデータ入力を行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 5 年計画で、撮影、データ入力は概ね順調に進んでいる。<br>23 年度もこのペースを維持しつつ、撮影をすすめ、あわせて諸データの充実をはかり、より完備されたデータベースとして公開したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-27

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 27)明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一眞、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に―((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館では江戸末から昭和初期にかけて撮影された写真資料を 15,000 件あまり収蔵する。『東京国立博物館所蔵幕末明治期写真目録』の刊行や古写真ＷＥＢデータベースにより、多くの写真が公開されるにいたったが、未だ充分な調査研究が進んでいない状況にある。本事業では当館が収蔵する写真資料のうち、横山松三郎、小川一眞、早崎梗吉、安村喜当の 4 人の写真師に焦点をあて、彼らが手掛けた宝物調査に関する撮影についての調査を進め、特集陳列や図版目録の作成に寄与できる研究を目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課書跡・歴史室長　冨坂賢 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

関紀子(調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員)

【主な成果】

鄭州から西安に至る行程、杭州・紹興、上海、北京で現地調査を行い、宝物調査で撮影された写真資料と対照できる画像を撮影した。また、茨城県天心五浦美術館において早崎稊吉の日記を調査し、写真が撮影された状況を検証した。これらの成果により、平成 22 年 5 月 24 日～7 月 4 日に「清朝末期の光景-小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真-」の特集陳列を行う。

【年度実績概要】

本事業では、明治時代に行われた文化財調査での記録写真に注目し、本館収蔵写真に関わる横山松三郎、小川一眞、早崎稊吉、安村喜当の事績を追う。今年度は、明治 34 年(1901)に東京帝国大学の調査で北京城を撮影した小川一眞と、明治 36 年(1903)に中国に渡り、龍門石窟や西安周辺の史跡の撮影を行った早崎稊吉、元当館職員であり明治 30 年代に近畿から関東の宝物写真を撮影、後に自費で中国に渡り、北京、上海、南京、杭州の写真撮影を行った安村喜当が撮影した写真のうち、鄭州から西安に至る行程、杭州・紹興、北京で撮影された写真について実地調査し、撮影された場所の特定と現状との比較を行い、写真撮影を行った。

鄭州から西安に至る行程では、函谷関、龍門石窟、熊耳山、白馬寺、潼関、石空寺等(早崎梗吉)、杭州・紹興では、西湖・蘭亭・東湖・禹廟(安村喜当)、北京では五塔寺(安村喜当)、紫禁城(現故宮博物院)、景山公園、北海公園、雍和宮(小川一眞)を調査し写真撮影を行った。

また、茨城県天心五浦美術館にて早崎梗吉の日記を調査し、写真が撮影された状況を検証した。

【実績値】

○鄭州から西安に至る調査：函谷関、龍門石窟、熊耳山、　白馬寺、潼関、石空寺などを調査･･･945 画像撮影

○杭州・紹興調査：西湖、蘭亭、東湖、禹廟などを調査･･･359 画像撮影

○北京調査：紫禁城(現故宮博物院)、景山公園、北海公園、雍和宮、五塔寺などを調査･･･1316 画像撮影

○茨城県天心五浦美術館調査：早崎梗吉の明治 35 年～39 年の日記を調査･･･545 画像撮影





「禹門口」

早崎梗吉撮影　明治 38 年　　平成 21 年 8 月現在

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-27

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>これまで、あまり知られていなかった写真資料に注目し、写真が撮影された状況を、他機関が収蔵する資料から検証できた。 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 写真撮影件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考<br>平成 22 年 5 月 24 日～7 月 4 日に「清朝末期の光景-小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真-」の特集陳列を行う。 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 現地調査によって、すでに失われたものや、撮影当初とは異なる状況など、被写体の現状を確認することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 2 年計画の最終年度であり、計画はほぼ達成できた。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-28
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 28)古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金)((5)-①-iii) |

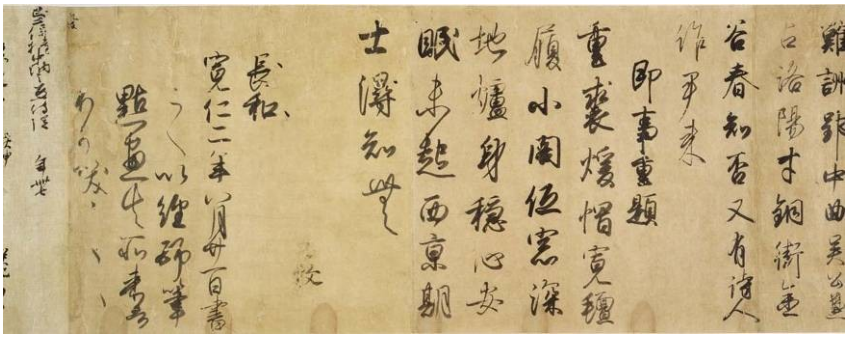
【事業概要】
　紙文化財の修復技術に関して、用語・名称に着目して研究を行うものである。紙文化財の修復技術には様々な系統があり、それぞれの系統によって、手法・工程、道具、材料をはじめ、用語・名称が異なっていることがある。そこで、工程全体の流れ、手法・各工程の内容と名称、道具と材料の使用法や名称を調査して分類することにより、紙文化財および無形文化財である装こう(表具、表装、装丁)技術に対する理解をより深めることを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課長　高橋裕次 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
加藤雅人(代表者)、川野邊　渉、稲葉政満、半田正博(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授)

【主な成果】
　東京国立博物館に収蔵されている古典籍・古文書を中心に、形態、料紙などについてデータを収集した。また、料紙の製作技法に関する成果の一部を、全国漢文教育学会の『新しい漢字漢文教育』第 49 号において公開した。

【年度実績概要】
　調査対象とすべき作品を選定し、その装丁形態、使用している料紙の種類や材質などについて調査を実施した。デジタルカメラや顕微鏡を用い、細部にわたって記録撮影を行った。そのデータにもとづき、作品の構造や、過去の修理において施された手法・工程などを検討した。



【実績値】
論文掲載
　高橋裕次「漢籍善本紹介-東京国立博物館(1)-」『新しい漢字漢文教育』第 49 号、全国漢文教育学会、平成 21 年 11 月)
調査回数　3 回、調査件数　15 件

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-28

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | A |

備考
作品の構造を具体的に検討し、その手法・工程などを明らかにする点で成果があった。今後、用語・名称などの情報の照合について作業を進めていく必要がある。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 調査件数 | 収集資料数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | A | | |

備考
東京国立博物館には、古典籍・古文書がまとまっており、時代や種類なども多岐にわたっている。調査回数は 3 回であったが、作品 15 件について調書を作成し、所定の成果をあげることができた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今後、調査の内容を充実させるとともに、さらに成果をまとめていく方針である。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査を継続的に行い、総合的に検討するために、内外の関連資料などの情報を収集していきたいと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-29

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 29)金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

文部科学省科学研究補助金基盤(C)金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究(研究代表　金沢文庫主任学芸員永井晋)の研究分担者として、室町時代以降の文献収集を担当。下総国下河辺庄の文献研究・地誌研究を行う。同地に関しての古文書・記録等収集と編年的整理。近世・近代に伝わる中世文書に関しての地誌類の精査。寺社・城館跡・遺跡・文化財・古地図・航空写真・都市計画図などによる中世的景観の復元。中世利根川の流路・水路・水量・水運・に関する調査と分析などを行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課ボランティア室主任研究員<br>髙梨　真行 |

【スタッフ】

【主な成果】

室町から江戸時代(15～17 世紀)にかけての下総国下河辺庄(埼玉県吉川市・春日部市・庄和町・松伏町，千葉県野田市，茨城県古河市・五霞町)の支配に関連する古文書・古記録など文献資料を収集した。特に在地領主戸張氏の変遷が解明できた。

【年度実績概要】

下総国下河辺庄に関する中世(戦国～安土桃山時代)の文献収集

平成 21 年 8 月 20 日　金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究にかかる報告書についての検討会実施

於横浜市・神奈川県立金沢文庫

平成 21 年 11 月　1 日　旧下河辺庄域野方地区(茨城県古河市)巡見フィールド調査実施

関戸地区(関戸宝塔・建治 5 年板碑・小堤城跡／円満寺・正定寺・旧金剛院)，水海地区(三島神社・旧戒光寺跡・前林郷両新田地区・安禅寺築田氏墓所・旧鎌倉街道中道周辺・字凍ノ山地区・水海城跡)

古河地区(中世古河城跡／頼政曲輪跡・近世古河城跡／諏訪曲輪跡・中世古河城下町地区・古河公方鴻巣御所跡)



安禅寺中世梁田氏墓所



旧釈迦沼・水海沼・水海城跡遠景



古河公方鴻巣御所跡

平成 21 年 12 月 12 日　旧下河辺庄域野方・河辺地区(茨城県五霞町，千葉県野田市)巡見フィールド調査実施

栗橋城跡の周辺，法宣寺・香取神社・若宮八幡宮

関宿城本丸跡，大手門跡，関宿関所跡，昌福寺，宗秀寺，旧関宿城下町石垣，関宿藩刑場跡，千葉県立関宿城博物館



栗橋城跡近景



関宿城本丸跡

平成 22 年 3 月 6 日　前ヶ崎城址・守谷城跡巡見フィールド調査

平成 22 年 3 月 12 日　報告書編集会議　於神奈川県立金沢文庫

平成 22 年 3 月 28 日　戸張城跡(柏市戸張地区)巡見フィールド調査

【実績値】

収集文献

中世史料(室町～戦国時代)　古文書 35 通，系図 3 件　　関連論文・著書　12 本

実地調査

11 月 1 日調査　関戸地区・水海地区・古河地区巡見調査　確認　8 箇所 16 項目　撮影画像 83 カット

12 月 12 日調査　栗橋城跡・関宿城跡・旧関宿城下町巡見調査　確認 10 箇所 18 項目　撮影画像 61 カット

3 月 6 日調査　前ヶ崎城址・守谷城跡巡見　確認 2 箇所 22 項目　撮影画像 104 カット

3 月 28 日調査　戸張城跡・香取神社　確認 2 箇所　10 項目撮影画像 40 カット

調査内容の概報

髙梨真行「中近世移行期の戸張氏 -市域の在地領主層の動向と変遷(続編)」(『吉川市史編さんだより』16 号, 2009 年 11 月, 吉川市教育委員会)

髙梨真行「戦国期下河辺庄域の領主支配と変遷」(科研報告書掲載論文，2010 年 3 月)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-29

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | B | B | A |

備考
実地調査によって、下河辺庄に属した現在の地勢についての大まかな理解につながった。また戸張氏という同地域内に室町時代から江戸時代にかけて活躍した在地領主の調査・研究が進められ、その成果を吉川市における自治体史編纂事業に活用することで、研究成果の地域への還元・公開が図れたと判断できる。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 収集文献 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | A | | | |

備考
実地調査は下河辺庄に属した現在の地勢についての大まかな理解を目的とする。その結果と収集した史料や関係論文や著書等の文献情報との総合化を図った上でかつての庄域の把握を目指すため、両者の平行実施が不可欠である。その為，論文等でのコンスタントな報告や成果の定量評価が困難な点が認められた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 前年度からの成果をうけ、本年度実施の現地調査を通して、関連文献情報と現在の地勢的な情報との総合化が図られたと判断される。室町から江戸時代にかけての当該地域の歴史的変遷と地勢の変化も一応の把握が完了したと思われる。また地方自治体史編纂事業での本研究情報の提供と活用によって地域への一定度の還元が可能となったと思われる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本研究における中世庄園の旧域における現況の地勢調査と文献資料との総合化による情報統合は、文化財文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観の保全につながるものと考えられる。急速に失われつつある首都圏近郊地域の景観の変遷と現状の把握はその底辺をなすものと判断される。地方自治体史編纂を通じた研究成果の還元は、景観を文化財とする意識の普及にもつながると思われる。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-30
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 30)東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究(⑸-①-ⅱ) |

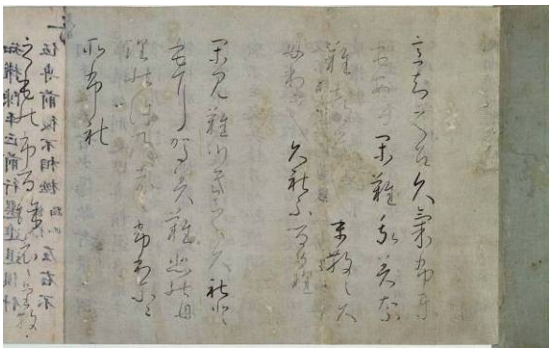
【事業概要】
本研究では、日本・中国・韓国を中心とした東アジアの書画料紙について、作品の歴史的背景の研究をはじめ、科学的な分析方法を用いることによって、料紙の製作技術を解明するとともに、保存状態などから、料紙の保存法や、修理の際の基本方針を検討することを目的とする。そして、書画料紙の加工技術がいかにして伝播し、派生していったかなど、総合的な考察を行う。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課長　高橋　裕次 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【主な成果】
東京国立博物館の所蔵作品を中心に、国内外の資料の情報を精査し、調査対象となる作品のリスト作成と選定を行い、書画料紙基礎データベースを構築した。さらに、調査では料紙の材質、製法や、保存状態などから、書画料紙の加工技術の変遷などを考察した。

【年度実績概要】
1. 書画料紙の調査
国内に所在する書画料紙のなかから、作品を選定し、デジタルカメラと顕微鏡を併用することで、料紙の材質や加工法など、細部にわたって記録撮影を行った。7 世紀より 13 世紀までの写経や文学作品などをはじめとする日本・中国・韓国の料紙を対象に、データを収集し、装飾料紙の加工技術のあり方を検討した。



【実績値】
○論文数等
高橋裕次「朝廷と料紙-図書寮紙屋院を中心に」(特別展『皇室の名宝』図録、東京国立博物館、平成 21 年 10 月)
○調査回数　5 回
○調査件数　35 件
○収集資料数　200 点

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-30

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
調査機器の改良による安全性の確保と同時に、材質・保存状態などの情報を収集するための方法において、進展がみられた。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 調査件数 | 収集資料数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | A | | |

備考
調査回数は 5 回であったが、35 件の作品について精査したことで、多くの新知見を得ることができた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 東アジアの書画料紙の材質、技法、保存状態などを検討し、加工技術について、一定の成果をあげることができた。今後、調査の内容をさらに充実させるとともに、成果をまとめていく方針である。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査は当初の計画にそって順調に進んでおり、その成果を、今後の図版目録の刊行や、特集陳列などに役立てていきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-31
(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 31)東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究((5)-①-iii) | | |
| 【事業概要】<br>工部美術学校のお雇い外国人、イタリア人彫刻家ヴィンチェンツォ・ラグーザ(1841-1927)が、帰国前に東京国立博物館に寄贈した 118 件の美術品の詳細調査。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子 |
| 【スタッフ】 | | | |
| 【主な成果】<br>これまで、ほとんど知られてこなかった東京国立博物館のラグーザ寄贈関連作品を整理し、イタリアでの現地調査なども加わり、より詳細な情報提供が可能となった。成果として全容は、平成 22 年 3 月発行の第 45 号東京国立博物館紀要に掲載される予定である。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>1.　ラグーザ寄贈関連の作品調査<br>物質的側面の詳細な観察、撮影、作品総リスト作成、作品の状態に応じて、対症修理を行った。<br>2.　イタリアにおける歴史的側面の情報の収集<br>ラグーザらが将来した工部美術学校の教材などのルーツおよび、教育カリキュラムについての由来などの調査およびラグーザら教師の作品調査のため、ローマ、トリノ、ミラノ、ピアチェンツア、パレルモの関連機関を訪問し、関係者へのインタビューや情報交換を行った。<br>3.　研究成果の公表<br>「ヴィンチェンツォ・ラグーザによる帝国博物館への寄贈品の発見-東京国立博物館蔵　工部美術学校の教材および習作を中心として-」(平成 22 年 3 月発行予定『東京国立博物館紀要　第 45 号』)に掲載予定<br><br>油彩画の応急修理<br><br>ラグーザらが将来した石膏像を販売した石膏店（ミラノ） | | | |
| 【実績値】<br>論文数：1 件(①)<br>調査回数：1 回 | | | |
| 【備考】<br>①「ヴィンチェンツォ・ラグーザによる博物館への寄贈品-東京国立博物館蔵　工部美術学校の教材および習作を中心として-」(平成 22 年 3 月 31 日『東京国立博物館紀要　第 45 号』) | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-31

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
　これまで国内外に知られてこなかったラグーザ自身による博物館への作品寄贈が明らかになった。さらに、東京国立博物館の文化財の出納記録でもっとも古い『列品録』の調査を進めることで、これまで不明であった、工部美術学校(現在の東京大学工学部建築学科)から博物館への作品の管理換えの実態、さらに博物館から東京美術学校(現在の東京藝術大学)への流れが明らかとなり、国内外の研究者に新たな情報提供となることが期待される。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
　研究成果については、平成 22 年 3 月発行の第 45 号東京国立博物館紀要に掲載の予定。さらに、東京藝術大学が秋に開催するラグーザに関連する展覧会において、一部成果が公表される。将来的には、東京国立博物館にて特集陳列を開催し、情報発信したい。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 保存修復の立場から、作品の保存状態観察を含め、作品を物質的な面から捉えることはもちろんのこと、博物館の台帳、出納帳におよぶ調査、イタリアでの現地調査を行い、ラグーザ関連資料に関するより詳細な情報を得ることができた。平成 20 年度に一部を紹介した展覧会により、ラグーザ寄贈品の中の貴重な作品は、イタリア本土のラグーザ研究者の知るところとなり、それをきっかけに、イタリアの研究者との連携関係も確立しつつある。この研究結果は、これまで不明とされてきた工部美術学校関連事項について、多くの情報をもたらし、外部専門家などの評価も高く、今後の研究に役立つものとなると判断される。さらなる歴史的側面の解明、イタリアでのさらなる詳細な調査を行うことも必要であるが、外部の専門家とコミュニケーションをとりながら、保存修復専門の立場を機軸として、情報発信を目指していく。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本研究は単年度の申請によるものである。研究そのものは、紀要および特集陳列というかたちで、公表し、とにかく情報を外部に発信することに努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-32

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 32)曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

従来、研究蓄積のきわめて少ない曹洞宗の寺院に伝来した中世の彫刻を調査・研究し、禅宗寺院を介した中国文化との交流の歴史を解明する。

| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 教育普及室長　浅見龍介 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

岩佐光晴(上席研究員)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、桑原英文(カメラマン)

【主な成果】

曹洞宗大本山永平寺と、道元が永平寺開創前に開いた京都・興聖寺、福井・吉峰寺を調査。永平寺に、従来知られていなかった中世彫刻 7 件(鎌倉時代 2 件、南北朝時代 5 件)を見出し、精査、撮影を実施した。

【年度実績概要】

平成 21 年

6 月 22 日　永平寺の事前調査。仏殿、法堂、三門とその楼上、聖宝閣(宝物館)および収蔵庫の仏像を見て歩く。このうちすでによく知られている法堂観音菩薩坐像(平安時代作)を除き、仏殿本尊三世仏坐像 3 躯、伽藍神立像 2 躯、達磨大師坐像、女神倚像を本格調査の対象とした。仏殿の三世仏は、高い須弥壇上の台座上に安置されており、下に降ろして調査するためには足場を組む必要がある。また、像も等身大の大きさであるため、作業員も複数人要する。後日あらためて作業の下見を行なうことを永平寺担当者に伝える。

6 月 23 日　吉峰寺調査。道元禅師坐像、韋駄天立像等所在調査は行なったが、中世彫刻は見出せなかった。

11 月 13 日　永平寺仏殿作業下見。日本通運の美術品専門の作業員、カメラマンと現場で打ち合わせ。経費の見積もりを依頼。

11 月 14 日　京都・興聖寺調査。中世彫刻は見出せなかった。

12 月 6 日　永平寺仏殿調査。日本通運作業員 6 名足場を組み、三世仏 3 躯を壇より降ろす。カメラマンの撮影と仏像の調査を実施。

12 月 7 日　永平寺仏殿調査。引き続き三世仏の調査・撮影を行なう。夕刻、三世仏をもとの場所に戻し、仏殿調査は終了。

12 月 8 日　永平寺聖宝閣にて伽藍神立像 2 躯、達磨大師坐像 1 躯、女神倚像 1 躯の調査・撮影を実施。

平成 22 年

2 月 20 日　九州国立博物館にて妙心寺展出品作品の調査。

2 月 21 日　長崎歴史文化博物館にて道教展出品作品調査。その後、市内の黄檗宗寺院安置仏像の調査。以上は、曹洞宗寺院ではないが、中国風を色濃く伝える禅宗寺院の作品を多く含んでいるため、参考すべき点が多い。

【実績値】

調査作品件数
　全 30 件
写真(4×5 ポジフィルム)　156 点
デジタルデータ　200 点



監斎使者立像　福井・永平寺

【備考】

平成 22 年中に調査報告ないし研究論文を東京国立博物館研究誌『MUSEUM』に発表する。

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-32

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考
禅宗寺院は従来中世前期の彫刻はほとんどないと考えられ、調査の対象となることが少なかった。しかし、最近の調査により、臨済宗の寺院は中世彫刻を豊富に伝えていることがわかってきた。曹洞宗の根本である永平寺の調査は今回が初めてであり、注目を集めると考えられる。ただし、大寺院の本尊等の調査の許可を得るには時間を要し、また事故のないように調査計画を立てるため、非効率なところがあるのは否めない。

2．定量的評価

| 観点 | 調査作品件数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | | | | |

備考
　高い場所に安置される像を安全に調査･撮影するために足場を組み､作業員を依頼したため経費がかさみ、予定していた富山・瑞龍寺の調査を実施できなかった。調査した作品の質は高いが、量的には多いとは言えない。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 　曹洞宗の寺院の彫刻に関しては、従来調査・研究があまり行なわれていない。今回、曹洞宗のもっとも根本となる永平寺の本尊等を調査し、鎌倉時代、南北朝時代の作品を複数発見できたことはきわめて注目すべきことである。単に彫刻史にとどまらず、宗教史、文化史等にも寄与するところが大きい。これを機に今後曹洞宗寺院の文化財調査が進展する可能性がある。<br>　平成 22 年度には論文としてまとめ、公表する予定である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 　文化財に関する調査及び研究という計画の中で、着実な結果を得ることができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-33

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 33)特別調査「工芸」第 1 回((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

東京国立博物館における文化財のうち、金工・刀剣・陶磁・漆工・染織等工芸分野の特別調査。独立行政法人文化財機構国立博物館 4 館および文化庁の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示公開の向上に結びつけることを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 調査研究課工芸・考古室長　竹内奈美子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

原田一敏(上席研究員)、池田宏(上席研究員)、松本伸之(学芸企画部長)、今井敦(調査研究課東洋室長)、)、三笠景子(保存修復課保存修復室研究員)、酒井元樹(調査研究課工芸・考古室研究員)、伊藤嘉章(九州国立博物館学芸部長)、伊藤信二(九州国立博物館学芸部企画課特別展室長)、川畑憲子(九州国立博物館学芸部企画課　特別展室研究員)、今津節生(九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長)、鳥越俊行(九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員)、清水健(奈良国立博物館学芸部教育室研究員)、伊東哲夫(文化財部美術学芸課文化財調査官)

【主な成果】

昨今、三次元計測やＸ線ＣＴスキャン等の新型光学機器を用いた文化財調査が話題を集め、さまざまな研究機関で行われるようになってきたが、機種やシステムの違いもあり、同じ専門分野の研究者であってもその調査結果を共有しがたい情況にある。

そこで今年度の本調査会では、独立行政法人国立文化財機構国立博物館 4 館および文化庁の工芸関係者が集まり、上記のような新型光学機器を用いた調査の一例を同時に実見した上で、調査方法やその結果得られるデジタルデータの活用性について討議を行った。

新型光学機器を用いた工芸品の調査方法の確立や、調査の結果得られるデータの形式の標準化を目指すための共通認識を築くことができた。

【年度実績概要】

実施期間　平成 22 年 2 月 17 日(水)～19 日(金)

2 月 17 日　陶磁・漆工Ｘ線ＣＴスキャン調査、青銅器形状三次元計測調査(九州国立博物館)、討議

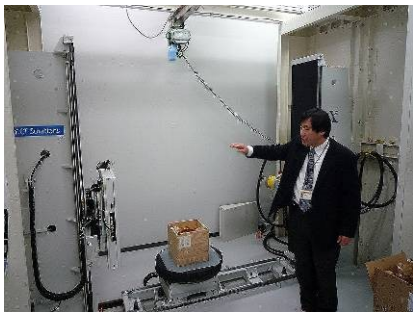
2 月 18 日　刀身高精細スキャン調査、討議(東京国立博物館)

2 月 18 日　漆工レリーフ状加飾三次元計測調査、討議(東京国立博物館)

【実績値】

調査回数　　4 回
調査日数　　3 日間
調査員　　14 名
調査対象作品　12 件

F-20108　太刀(青江守次)
F-19968　太刀(長船光忠)
H-3916　猿南天蒔絵枕
H-34　男山蒔絵硯箱
H-4231　御所車蒔絵硯箱
TH-372　犀皮盆　　他



陶磁Ｘ線ＣＴスキャン調査
九州国立博物館



刀身高精細スキャン調査
東京国立博物館

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-33

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考
三次元計測やＸ線ＣＴスキャン等の新型光学機器を用いた工芸品の調査方法の確立や、調査の結果得られるデータの形式の標準化を目指すための共通認識を築くことができた。特に陶磁・漆工のＸ線ＣＴスキャン調査や刀剣の高精細スキャン調査は、今後の研究の進展や列品管理に大いに資することが確認された。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 調査日数 | 調査作品数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | A | | | |

備考
本事業は年度が始まってから計画が立ち上がったため、今年度は１回しか調査会を開くことができなかった。なお、新型光学機器を用いた調査やそのデータ処理には時間がかかるため、１日に調査できる作品の数は非常に限られている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 機種やシステムの違いもあり、同じ専門分野の研究者であってもその調査結果を共有しがたい情況にある、三次元計測やＸ線ＣＴスキャン等の新型光学機器を用いた文化財調査について、専門を同じくする研究者が集まり、同じ条件で調査、討議をすることにより、新型光学機器を用いた工芸品の調査方法の確立や、調査の結果得られるデータの形式の標準化を目指すための共通認識を築くことができた。<br>今回は第１回ということもあり、工芸各分野の担当者が一堂に会することとなったが、今後議論を深めて行くためには、各分野に分かれて調査会を開いて行くことが望ましい。それにより調査回数や調査作品数を増やし、効率的に調査を進めて行くことができる。<br>また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有でき、今後の研究および展示公開に寄与する点が多い。21 年度以降も継続する。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 昨年度まで、東京国立博物館の工芸文化財に関する包括的な調査研究は、年度計画に盛り込まれてこなかった。今年度の本事業では、各機関の同じ分野の研究者が集まって調査を行うことにより、精度の高い成果が得られ、最新の研究結果を反映させた知見を共有できることが確認された。<br>本事業のような調査会を次年度以降も継続的に行っていくことにより、工芸分野の文化財に関する調査・研究の推進をはかることができる。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4511-34
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 34)高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究　((5)-①-vi) |

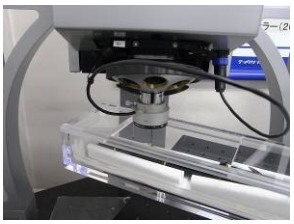
【事業概要】
高精細 3 次元デジタル測定技術と復元作業に精通した職人の知識を融合させて、従来にない制度と視点を持って、主に刀剣と刀装具の工芸文化財復元を行う手法を開拓するものである。最新の高精細 3 次元デジタル測定技術を用いることで、これまでのように目視だけでは十分に分析できなかった技巧を解明して復元作業に活用することを目的とする。

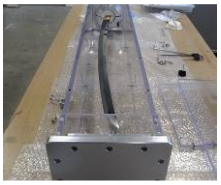
| 【担当部課】 | 学芸研究部 | 【プロジェクト責任者】 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー<br>河内晋平 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
佐藤雅彦(東京芸術大学教授)、桐山孝司(東京芸術大学准教授)、桂英史(東京芸術大学准教授)

【主な成果】
本年度は､テックサイエンス社 Alicona 機と Tesco 社 X 線 CT スキャン機器での文化財(刀装具)撮影のための安全面と撮影精度を落とさない冶具開発のための打ち合わせ、設計、試作、検証を行った。

【年度実績概要】
1. 文化財サンプルを使用しての計測撮影実験
テックサイエンス社 Alicona 機を使用して計測撮影実験を 3 回行い、それらの結果をもとに撮影時の安全性についての考察を機器操作技術者とともに検討した。また、Tesco 社 X 線 CT スキャン機器においては、これまでに取得していた撮影データをもとに撮影時の安全性についての考察と検証を機器操作技術者とともに行い、設計作業に移った。
2. テックサイエンス社 Alicona 機と Tesco 社 X 線 CT スキャン機器での文化財撮影のための冶具製作
両機器での測定撮影冶具製作のために、試撮影、設計、素材の検討、部材製作を行った。
3. 九州国立博物館見学
九州国立博物館での X 線 CT スキャンをはじめとするデジタル撮影機器の見学を行った。文化財を撮影する際の手順、安全性への考え方、撮影後のデータ活用法について実現場を体験しながら意見を伺った。


Alicona 機 試撮影実験


Tesco 社との冶具制作

【実績値】
計測撮影実験
テックサイエンス社 Alicona 機を使用して計測撮影実験　3 回
取得データ：文化財サンプル 3 件分 3D データ

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-34

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考

文化財撮影に関しての安全性の検討について、実際に 3 回の試撮影を行った。また、X 線 CT スキャナなどのデジタル撮影機器を運用している九州国立博物館を訪問し、作業手順、安全性、データ活用について伺った。本研究で使用する機材での安全性を重視した冶具製作はその他の撮影機材においても使用することを念頭に置いている点で今後の継続性に期待ができる。実際の機材を使用しての試撮影に費用がかかるため紙面上や試作冶具での検討の結果後、機材を使用しての試撮影でのフィードバックとなるため、研究進行効率性に対する工夫が必要である。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 情報収集 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | | | | |

備考

調査回数に関しては、Alicona 機での 1 度目の計測撮影で再検討すべきと考えられた項目について、早い段階で再度試撮影を行えた。しかし、撮影費用からも 3 回の試撮影が限度であり、より安全性と作業手順を考慮した調査が必要になると考える。

研究所年度での冶具設計、基礎データ収集ということもあり、論文等の発表は行っていない。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財デジタル測定機器での撮影について、実験、検討、改善策の調査を実施した。これらの結果により、今後はより汎用性を持った撮影手順、冶具についての検討を引き続き行っていくことができる。また次年度では本年度の撮影データの質的評価を行い、それらの活用方法を念頭におきながら調査の内容をさらに充実したものにしていく。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 撮影機器に合わせた冶具開発のための試撮影実験、調査、検討を行えた。それらの結果をもとに設計図を作成し、現在製作中である。次年度では製作した冶具での試撮影を行い安全性の検討、改良を行う。また、より多くの文化財での撮影を目標に、調査意義、調査方法についての意見交換を職人、学芸員、撮影技術者の方々と相談していきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-1

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)　近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

京都を中心とした近畿地方の社寺のうち、文化財がある程度集中して所蔵されている社寺を採り上げ、所蔵文化財の悉皆的調査を行う。

調査に際しては、各分野の専門研究員が極力同時に参加し、相互に情報・意見交換をしながら、調書の作成・写真撮影を行い、文化財に関する基礎情報の蓄積に努める。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 工芸室長　尾野善裕 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

西上実(学芸部長)、赤尾栄慶(上席研究員)、若杉準治(列品管理室長)、山本英男(美術室長)、久保智康(企画室長)、山下善也(連携協力室長)、浅湫毅(主任研究員)、山川曉(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、大原嘉豊(研究員)、羽田聡(研究員)、呉　孟晋(研究員)、水谷亜希(アソシエイトフェロー)、比嘉飛鳥(列品管理室技術職員)

【主な成果】

調査対象寺院については、既に長岡京市教育委員会による悉皆的調査が行われており、書画については特に新たな作品の発見はなかったが、制作時期・作者等について詳細な知見を得ることができた。一方、工芸品については江戸時代の花籠約 50 枚をはじめとして、これまでの調査では漏れていた作品を多数調査することができた。

【年度実績概要】

調査予定の西山光明寺との間で、事前の打ち合わせを 2 回実施。

1 月 26 日(火)に予備調査(下見)を実施。

2 月 17・18・19・22・23 日に本調査を実施。

【実績値】

調査日数　　のべ 5 日

調書作成件数　　308 件

【備考】

調査報告書は、平成 22 年度以降に刊行の予定。

一部分野(書跡)について調査を完了できなかったため、平成 22 年度に補足調査を実施の予定。

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考

平成 22 年度に開催予定の「法然展」に関連する浄土宗寺院の調査であり、調査内容を展覧会に速やかに反映させることができ、蓄積された情報を今後さらに別の展覧会にも活かしうるので、適時性・発展性は高い。当該寺院の調査自体は、既に長岡京市教育委員会によっても一部行われているが、社寺調査自体は 30 年以上にわたって京都国立博物館が継続してきた事業であり、調査に基づく展覧会の開催は、京都国立博物館独特の方針として定着しており、外部からの評価も得られている。

2．定量的評価

| 観点 | 調査日数 | 調査件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考

展覧会をはじめとする業務の著しい増大の中で､従来どおりのべ 5 日という調査日数を何とか確保することができた。

調査の良し悪しを、単純に数値の多寡だけで評価することには少なからず問題があるが、308 件という調書作成件数は、昨年の 262 件、一昨年の 230 件を遥かに上回っており、すくなくとも否定的評価には結びつかないと考えている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 展覧会準備や各種のサービス事業の急激な増大の中で、従来どおりの質を保ちながら、量的には従前を上回る調査を行っているため、A評価とした。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 研究職員の繁忙化は既に限界近くに達しており、今後は調査研究の質・量が低下することが懸念されるものの、今年度については順調に計画(調査)を遂行することができたため。 |

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2)　鎌倉仏教とその造形に関する調査研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
鎌倉仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備する。
報告書の刊行、シンポジウム(研究座談会)の開催により、成果を公開する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 上席研究員　赤尾栄慶 |

【スタッフ】
若杉準治(列品管理室長)、山本英男(美術室長)、山下善也(連携協力室長)、大原嘉豊(研究員)、羽田　聡(研究員)、淺湫　毅(主任研究員)、久保智康(企画室長)、尾野善裕(工芸室長)、山川曉(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、宮川禎一(考古室長)、中村　康(文化財管理監)、村上　隆(保存修理指導室長)、呉　孟晋(研究員)、水谷亜希(アソシエイトフェロー)

【主な成果】
仏教美術研究上野記念財団助成による研究発表・座談会「予言と調伏のかたち」を開催した

【年度実績概要】
研究発表
「調伏のかたちとしての元三大師像」(当館　淺湫毅主任研究員)
「金沢称名寺における調伏のかたち-弥勒と愛染-」(金沢文庫　瀬谷貴之学芸員)
「蒙古の調伏者」日蓮像の形成(東北大学　佐藤弘夫教授)
座談会
「予言の調伏のかたち」(司会／筑波大学　近本謙介、パネラー／発表者全員)
　鎌倉時代半ばに集中的に造像された元三大師像が蒙古調伏を目的としたものである可能性、舎利・生身信仰が愛染明王を中心とした調伏にも通じていたことが確認され、日蓮が蒙古調伏者として知られるにいたった要因の検討がなされた。
　以上は、近年仏教美術史において注目されつつある論点が調伏像についても該当し、またこの問題意識が仏教史・仏教文学史にとっても有益であることなどの議論が活発に展開された。
　また特別展覧会「日蓮と法華の名宝」に展示中の日蓮像の造形を理解する上でも大いに有益であった。
　その後、博物館に会場を移し、同展覧会を見学した。

【実績値】
○公開研究会開催　1 件
・研究発表・座談会「予言の調伏のかたち」を開催
○調査報告書
・仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第 37 冊「研究発表と座談会　予言と調伏のかたち」を編集中。
　刊行は平成 22 年度の予定である。

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考
鎌倉仏教の美術について多面的に調査研究し、多岐にわたる資料を収集し、展覧会や特集陳列などに関連した研究発表と座談会を開催し、近年の美術史・宗教史で議論されているてまも含めた成果があったので、適時性・独創性・発展性・正確性については評価できる。ただし会場を他へ移しての開催形式をとらざるをえず、効率性の点で問題を残した。

2．定量的評価

| 観点 | 公開研究会 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
研究発表及び座談会「予言と調伏のかたち」を開催し、47 名の参加者を得て活発な討論がなされた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 4 カ年の継続事業「鎌倉仏教とその造形に関する調査研究」の初年度として、本研究成果を早速特別展覧会に反映することができ、また会期中に研究発表・座談会を開催することで、学術的な深化を図ることができた。<br>また 22 年度自主企画展「高僧と袈裟」など以後の展観事業計画及び作品収集計画にも資すること大なるものがあった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 多岐にわたる分野の資料について収集・整備ができ、また、研究資料を広く公開することで、仏教美術研究の発展に資することができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-3

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3)　日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

先史時代より明治時代に至るまでの、樹木を素材・主題とした美術工芸遺品を通じて、従来蓄積されてきた歴史学の諸成果をフィードバックしながら、日本の木の文化を、他の東アジア諸国との比較史的視座を援用しつつ、跡づけることを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 館長　佐々木　丞平 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

西上実(学芸部長)、若杉準治(列品管理室長)、山本英男(美術室長)、山下善也(連携協力室長)、大原嘉豊(研究員)、赤尾栄慶(上席研究員)、羽田聡(研究員)、淺湫毅(主任研究員)、中村康(文化財管理監)、久保智康(企画室長)、尾野善裕(工芸室長)、山川曉(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、宮川禎一(考古室長)、村上隆(保存修理指導室長)、呉孟晋(研究員)、水谷亜希(アソシエイトフェロー)

【主な成果】

平成 19 年度に調査を行なった静岡建穂寺についての調査報告を当館発行の『学叢』第 31 号(平成 21 年 5 月発行)に発表した。また、20-21 年度に行なった調査の結果を中間報告会にて報告するとともに、中間報告書をかねた資料集の発行を行なった(平成 22 年 1 月)。また浜松市の黄檗寺院である大雄寺と宝林寺において本調査を行ない、調書作成と写真撮影を行なった(平成 22 年 3 月)。

【年度実績概要】

事業3年度の本年は、昨年度までの調査をふまえて引き続き調査を行なうとともに、今年度前半までの調査結果をふまえて中間報告会を行なった。

具体的な調査事例としては、初年度に購入したファイバースコープを援用することにより京都悲田院の阿弥陀像の像内より、鎌倉時代の仏師快慶の銘文を発見し、本像が快慶作であることが判明した。

社寺における組織的な調査としては、引き続き東西文化の分岐点である静岡県に焦点をあて、浜松市の黄檗寺院で調査を行なった。また、東日本の事例として、山形県寒河江市の平塩熊野神社において神像およびご神宝の調査を行なった。

これと平行して、各研究分担者は、自事業目的にそって個人研究を遂行した。たとえば、初年度に行なった静岡建穂寺に関して補足調査を行ない、前回は調査できなかった秘仏の本尊に関して調査を行なった。その際には専門の撮影技師が同行し、大判カメラでの撮影を行なうとともに、デジタルカメラによる撮影も行なった。

過去の社寺調査データの整理としては、昨年度に続き、これまで京都国立博物館が収集してきた京都社寺の所蔵品に関するデータの再整理および、昨年度あらたに調査で得られたデータを、事業目的に即して順次データベース化していった。

【実績値】

○調査実績データベース化　2000 点
○調査機材整備　1 件(中型カメラ)
○総合調査　国内 2 件
○個人研究出張調査　国内 4 件
○科研調査による成果の公表　3 件
○中間報告会の開催　1 回
○外部研究者の招聘　2 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | B | A | |

備考

適時性については博物館事業における公開性及び緊張性を増す環境問題と絡む点、独創性・発展性については適時性での理由をもとにした人文系では先駆的総合研究である点、効率性に関しては各研究分担者の本務である博物館事業との兼ね合いにおける時間的投資量という点、正確性についてはデータの収集という点からみて、それぞれ評価を下した。

2．定量的評価

| 観点 | 調査実績<br>データベース化 | 調査機材<br>整備 | 総合調査 | 個人研究<br>出張調査 | 成果の公表 | 中間報告会<br>の開催 | 外部研究<br>者の招聘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | A | A |

備考

事業第 3 年度として、目標は概ね達成されている。

出張調査に関しては、新型インフルエンザの流行による渡航自粛もあり、当初予定していたドイツ等の欧州における調査を断念せざるを得ず、残念ながら海外調査については当初の計画を遂行できなかった。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 第 3 年度にあたる 21 年度は、昨年度の調査によって得られた成果を基に、さらに知見を深める方向で、発展的調査を行なった。それとともに、計画もなかばを過ぎたところであり、これまでの調査結果をまとめることにも視野をむけて調査研究を行なった。その目標はほぼ達成されたが、博物館業務の多様化にともなう時間的制約の中で、22 年度以降はより効率的、組織的に研究を深め、さらに充実した成果の公表へとつなげる努力が一層必要であると考えている。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 全研究職員を研究分担者とする競争的資金の導入によって、館全体の研究を活性化している点で意義が深い。<br>昨年度までの課題として、博物館業務の多忙化の中で複数の研究分担者による連携的な調査が充分に行なえていないというのがあったが、今年度は浜松および山形の調査において組織的な調査を行なうことができ、成果を挙げることができた。最終年度にあたる次年度には引き続き組織的な調査を行なうとともに、その成果を報告書としてまとめることを視野に置いた調査を行なう予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-4

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 4)建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金)<br>((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類を順次調査し、それらの調書を作成し、それらの目録を作成する(科学研究費)。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 上席研究員　赤尾栄慶 |

【スタッフ】

(当館研究者)赤尾栄慶(上席研究員)、羽田　聡(研究員)、西上　実(学芸部長)、山本英男(美術室長)
(外部研究者)興膳　宏、米谷　均、山城喜憲、藤本幸夫、井上　進、川本慎自、堀川貴司、宇都宮啓吾、梶浦晋、金　文京、柳田征司、住吉朋彦

【主な成果】

8 月、9 月、12 月と都合 3 回の調査を実施し、全体 180 箱のうち、第 141 箱から第 160 箱までの調査をほぼ終了している。

【年度実績概要】

全体 180 箱のうち、第 141 箱から第 160 箱までの調査を実施し、各々の箱に納められている書跡・典籍類に関して、一冊ごとにその書名・法量・装訂・外題・首題・尾題・版式・行数・訓点・奥書・刊記などの書誌学的調査と内容に関する調査を実施し、それぞれを調書に記入した。

【実績値】

全体 180 箱のうち、第 141 箱から第 160 箱までの約 20 箱についての調査をほぼ終了し、調書を作成した。
○調査回数　3 回
○調査箱数　全 180 箱中 20 箱

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
各方面から、蔵書目録の作成が望まれている状況にある。

2. 定量的評価

| 観点 | 終了箱数 | 調査回数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
20 箱の調査を終了した。箱の内容によって、調査の進み具合が一定しないこともあるが、全体的には順調に進行している。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 4 カ年の継続事業のうち、第 3 年度の事業計画について達成できた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 年次計画を予定通り実施した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-5

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 5)　修復文化財に関する資料収集及び調査研究　((5)-①-ｖ) | | |
| 【事業概要】<br>文化財保存修理所において修復が行われている文化財に関して情報を収集する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修理指導室長　村上隆 |
| 【スタッフ】<br>淺湫毅(主任研究員)、伊東史朗(調査員) | | | |
| 【主な成果】<br>平成 21 年度に新規搬入された作品の「修理計画書(設計書)」にもとづき、データを入力し、平成 19 年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修理解説書(報告書)」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成 16 年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第 5 号に掲載した。また、修理時に発見された銘文 24 件を「銘文集成」として報告した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>文化財保存修理所の工房に搬入される新規修理作品に関して、データを収集し、データベースに登録した。<br>過去の修理作品に関してもデータの更新、整理作業を行なった。<br>毎月行っている文化財保存修理における修理工房の巡回時のほか、適宜工房において、修復中にしか得ることの出来ない情報(作品の構造や使用材料、内部納入品や銘文など)を収集し、分析を行なった。<br>『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 5 号に掲載する平成 16 年度修理作品のデータを整理するとともに、同年の修理で発見された銘文の解読作業を行なった。<br>また、これらの業務に調査員伊東史朗氏の協力を得た。 | | | |
| 【実績値】<br>○データ収集件数<br>21 年度は 114 件の新規修復文化財の搬入があり、これらの作品に関してデータを収集するとともに、データベースへの登録を行なった。<br>○データ追加更新件数<br>過去のデータに関して 3026 回追加、更新を行なった。<br>○調査回数<br>修理所の巡回を 12 回行なった。その他、新発見の事実や銘文の調査を適宜行なった。<br>○報告書<br>22 年 3 月に『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 5 号(16 年度分)を発行した。 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-5

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
限られた期間中にあらゆる側面からの調査を行い、データ収集に努めた。

2. 定量的評価

| 観点 | データ収集件数 | データ追加更新件数 | 調査回数 | 報告書 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | |

備考

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財保存修理所で行なわれる修理作品から得られる情報はおおむね収集できた。<br>また、その成果を報告書に反映した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 21 年度に収集された情報をさらに充実させる為、他年度と関連づけながらさらなる情報の収集をはかりたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-6

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 6)文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究)<br>((5)-①-vi) |

【事業概要】

奈良文化財研究所が保有するさまざまな科学分析装置を用いて、特に金属製文化財を中心にした材質と製作技術の調査を行う。また、その成果を踏まえた保存処理法の開発と実践を実施する。独法内の既存施設を横断的に活用することにより、効率的な調査研究の推進を図ることも視野に入れている。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修理指導室長　村上　隆 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高妻洋成(奈良文化財研究所)
難波洋三(　　〃　　)

【主な成果】

長野県中野市の柳沢遺跡は、東日本で初めて銅鐸と銅戈が同時に出た遺跡として注目される。本調査研究では、この柳沢遺跡から出土した青銅器の材質調査と製作技術の検討を行った。

【年度実績概要】

長野県中野市柳沢遺跡から出土した銅鐸は計 5 個、銅戈は 8 本である。本年度は、このうち、銅鐸 3 個の分析と保存処理を行った。また、銅鐸 3 個に対しては、Ｘ線ＣＴによる内部状態の非破壊的調査を行い、埋蔵状態における銅鐸内部の土の状態を探った。

【実績値】

調査件数：3 個
収集資料数：13 件
調査概報：2 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-6

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | B | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 弥生時代を代表する銅鐸や銅戈の正確な分析はこれまでにほとんど行われてきていない。本調査研究は、歴史的金属製品の材質研究の専門家が考古学者とともに協議し、様々な観点から多角的な調査を行うことが特徴である。古代青銅器研究の基準となる研究と位置付けられる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 独法内の機関が、相互の特徴を生かした共同研究を行うことは、相互の活性化のためにたいへん重要である。ただ、作品を移動させなくてはならないというリスクを伴うため、実際に実施できる研究内容に制約を伴う。今後とも、少しずつでも事例を増やしていくことを考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-7

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 7)　近世絵画に関する調査研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

京都文化の一端を明らかにすることを目的として、客員研究員である同志社大学教授狩野博幸氏に、京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究の実施を依頼した。「長谷川等伯展」、「上田秋成展」、「京狩野展」等、今後開催を予定している展覧会の助言を依頼し、当館連携協力室長と協力して展覧会に関わる研究を行う。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 連携協力室長　山下　善也 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

狩野博幸(客員研究員)

【主な成果】

京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。

「長谷川等伯展」(平成 22 年度)、「上田秋成展」(平成 22 年度)等について、当館連携協力室長に、作品情報をはじめ、さまざまな助言を行った。

【年度実績概要】

「長谷川等伯展」(平成 22 年度)、「上田秋成展」(平成 22 年度)等、同展実現へ向けての準備に不可欠なものであった。

狩野博幸客員研究員の洛中洛外図、伊藤若冲、曾我蕭白をはじめとする近世絵画研究は年々深化しているが、それを通じ、京都国立博物館館蔵品・寄託品の価値がいっそう高まってきている。とともに、客員研究員から当館近世絵画担当研究員への適切な指導・助言が連携協力室長の調査研究の諸活動に対して実に大きな刺激と力を与えていることは、特筆しなければならない。さらに、同客員研究員および近世絵画担当研究員の著作活動を通じて、一般の人々の京都文化に対する興味を喚起し、ひいては博物館に対する理解を深めている。

【実績値】

調査回数　　12 回
収集資料数　200 点
調査概報　　4 件

論文　　「回顧と展望(近世-美術)」(史学雑誌 118 編-5 号)他 6 篇
口頭発表「探幽のいた季節-二条城から館蔵品へ」(於『静岡県立美術館特別講演』9 月)他 3 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-7

(様式 2)

# 自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 特別展覧会「長谷川等伯」(平成 22 年度 4～5 月)、特別展観「上田秋成」(平成 22 年度 7～8 月)の準備は順調に進んでおり、その進捗に客員研究員の助言等が大きな役割を果たしている。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 客員研究員の京都国立博物館の諸活動に対する指導・助言等及び近世絵画担当研究員と同客員研究員との協力により、近世絵画に関する調査研究は順調に進んでいる。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-8

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 8)訓点資料としての典籍に関する調査研究((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
訓点資料のうち、平安時代の古写経や漢籍に付された訓点に関する調査研究を実施した。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
(当館研究者)赤尾栄慶(上席研究員)、羽田　聡(研究員)
(客員研究員)宇都宮啓吾

【主な成果】
平安時代の古写経の訓点については、その成果の一部を 9 月発行の『訓点語と訓点資料』第一二三輯(訓点語学会)に「宝幢院点の成立に関する一考察-源信・寂照・延殷・皇慶を巡って-」と題した論文にまとめた(宇都宮氏)。加えて当館に保管されている古写経などに付された訓点の調査を行った。

【年度実績概要】
古写経の訓点を中心とし、平安時代の訓点を調査研究を実施し、その調査研究の内容の一部を『訓点語と訓点資料』第一二三輯(訓点語学会)に「宝幢院点の成立に関する一考察-源信・寂照・延殷・皇慶を巡って-」として公表した(宇都宮氏)。

【実績値】
論文を公表し、従来からの定説に新たな視点を提供した。
○論文発表件数　1 件
「宝幢院点の成立に関する一考察-源信・寂照・延殷・皇慶を巡って-」『訓点語と訓点資料』第一二三輯(訓点語学会)(宇都宮氏)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-8

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
当館所蔵の国宝『千手千眼陀羅尼経』残巻に付されている訓点が宝幢院点であることから、この訓点をめぐる問題を取り扱うことは、非常に有益であり、関連する資料を使っての論考は当館の客員研究員にふさわしい内容である。

2. 定量的評価

| 観点 | 論文発表 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
『訓点語と訓点資料』は、訓点語学会の中心的な学会誌であり、その成果を公表するには最も適した学会誌である。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 従来から、宝幢院点は、池上阿闍梨皇慶乃至その弟子とされてきたが、その創始者を延殷と見なすことなど、新たな視点を提供した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 館蔵品の訓点資料を順次、調査している。 |

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-9

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 9)彫刻に関する調査研究　((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】
当館に保管および寄託される仏像を中心とした彫刻作品の調査、研究

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　淺湫　毅 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
井上一稔(客員研究員)

【主な成果】
特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展出品作品に関して研究を進め、その成果を同展目録に作品解説として発表した。また、平成 19 年度に科研による調査を行なった、静岡県建穂寺の仏像についての調査報告を、当館発行の「学叢」第 31 号に執筆した。

【年度実績概要】
当館が保管、あるいは当館が社寺より寄託を受けている彫刻作品の調査および写真資料の収集を、新たに行なった。
社寺、個人宅など、館外に所在する彫刻作品の調査・撮影を行ない、一部作品は寄託していただいた。
上記調査作品の関連文献、史料の収集および研究を行なった。その成果に基づき「仏教美術研究上野記念財団助成研究会」主催のシンポジウムにおいて口頭発表を行なった。
これらの調査に際し、客員研究員の井上一稔氏の協力を得た。
過去の研究データに基づき特別展覧会の作品選定、展示、解説執筆を行なった。

【実績値】
○論文数等　2 件
「静岡・建穂寺の彫刻作品について」(『学叢』31 号)他 1 篇
特別展覧会『日蓮と法華の名宝』を開催にあたり、図録に作品解説の執筆を行なった。
○調査回数　5 件
・将来の特別展準備のための調査を三鈷寺等、浄土宗の寺院で行なった。
・同じく展覧会準備のための調査を東京の永青文庫で行なった
・長岡京市の光明寺において社寺調査を行ない、彫刻作品の調査を担当した。
・科研による調査を静岡県浜松市の大雄寺、宝林寺で行なった。
・その他、寒河江市・平塩熊野神社、静岡・建穂寺において彫刻作品の調査・撮影を行なった。
○研究発表等　2 件
・建穂寺の調査結果は、静岡のフェルケ-ル博物館において平成 22 年 4 月より開催される「建穂寺展」(当館が特別協力)において公表する予定である。
・口頭発表「調伏のかたちとしての元三大師像」(『予言と調伏のかたち』仏教美術研究上野記念財団助成研究会)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-9

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　彫刻作品の調査の成果を、特別展覧会の作品展示および、図録、解説等により公開できた。また、次年度以降の展観事業の準備として継続的に調査・研究を行っている。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数 | 調査回数 | 研究発表等 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
　計画的に調査を行い、その成果を報告書、展覧会図録および口頭による発表等に反映させることができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 　当館の所蔵、寄託作品に関する情報は順調に得られており、館外での作品調査に際しても重要な情報が収集された。引き続き特別展覧会等で成果を公開したい。<br>　一方、平常展示館が長期閉館することにより、平常展示においてこれまで行ってきた成果の公開が当面できなくなったが、報告書、論文等それにかわる成果公開を考えたい。今年度は科研の調査成果の中間報告において報告書を執筆するとともに、口頭発表を行なった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 　継続的に、順次彫刻作品に関する情報は、順調に収集されている。<br>　本研究によって得られた情報を将来の展覧会に生かせるよう、さらなる情報の収集を図りたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　4512-10

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 10）出土・伝世古陶磁に関する調査研究((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

京都近郊の社寺や旧家などに所蔵されている陶磁器を中心としながらも、それらに関連する出土陶磁器の調査を行い、近い将来に開催を計画中の特別展覧会の充実を図るとともに、積極的に外部からの研究助成金の交付を受けて、所蔵陶磁器の詳細調査を進める。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 工芸室長　尾野善裕 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

谷口愛子(調査員)
橘倫子・森下愛子(調査・研究支援ボランティア)
梶山博史(兵庫陶芸美術館)

【主な成果】

前年度から継続していた建仁寺両足院所蔵陶磁の調査を継続して実施し、建仁寺両足院の調査では、中国製の青花の鉢や碗など、近い将来に開催を計画している「清朝陶磁」展への出品候補となる作品を複数見いだすことができた。また、年度当初計画には含まれていなかったが、大阪市文化財協会の佐藤隆氏が交付を受けた西田記念東洋陶磁史研究助成金から、分担金の交付を受け、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片の基礎的整理作業として、実測図の作成に取り掛かることができた。

【年度実績概要】

建仁寺両足院にて、上記スタッフの参加を得て調査を実施し、所蔵陶磁の悉皆調査を終えることができた。事業責任者である尾野が特別展の担当をしていたため、今年度は多くの時間を割くことができず、調査日数は前年度と較べて結果として 3 日減っているが、上記支援スタッフの集中的な参加を得ることができたため、1 日あたりの調査件数は 77.5 件と、昨年の 52.5 件を大きく上回り、効率的な調査を行うことができた。

西田記念東洋陶磁史研究助成金による所蔵品整理作業は、年度末が近づいてから決定した事業であるため、平成 22 年度への継続事業として契約することとした。したがって、その成果については来年度報告することとしたい。

【実績値】

○調査日数　　のべ 2 日
○調査件数　　155 件
○外部からの研究資金の導入(西田記念東洋陶磁史研究助成金)
○紙上報告　　「帝国京都博物館の西洋陶磁収集」(『学叢』第 31 号)　他 3 篇
○講演会「磁器生産のはじまりと展開-肥前磁器を中心に-」(於『徳島城博物館平成 21 年度美術アカデミ-』6 月)他 2 回

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-10

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
近い将来に計画している特別展覧会への出品候補作を少なからず見いだすことができた。とりわけ、建仁寺両足院の調査では、従来の美術陶磁のみを対象とする枠組みを超えて、生活用品までを調査対象とした結果、思いのほか鎖国下の日本に海外陶磁が輸入されていることを明らかにできたことが大きな成果。
別記したように、調査日数自体は昨年度と較べて半減しているが、多くの支援スタッフの協力をえることで、1 日あたりの調査件数を飛躍的に伸ばすことができたことは特筆したい。また、調査の支援スタッフが何年も継続的に参加していることから、経験をつんで迅速に高い質の調査を行うことができた。調査事業を継続的に行っていることによる効果が大きいと思われる。

2．定量的評価

| 観点 | 調査日数 | 調査件数 | 外部資金導入 | 紙上報告 | 講演会 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | A | A | A | A | |

備考
昨年と較べて、調査日数自体は半減しているためＢ評価としたが、特別展覧会の担当を抱える傍らで行った調査としては、2 日は満足すべき数値と考えている。調査件数に関しても、昨年度(262 件)より減少しているが、1 日あたりの調査件数が増大しているためＡ評価とした。また、外部資金の導入を図ることができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 中期計画に対して順調に成果を挙げており、業務遂行上特に大きな改善の必要性を見いだしていないが、継続的に行ってきた建仁寺両足院の調査が一段落したため、次なる調査対象の選定が次年度の大きな課題である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 次年度への継続事業(西田記念東洋陶磁史研究助成金による仁清御室窯跡出土陶片の基礎的整理作業)が終わっていないが、情報は着実に収集されている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-11

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 11)　近代建築に関する調査研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

帝国京都博物館は明治 18 年に伊藤博文が創設した内閣のもとで近世以前の美術の文化をその遺産とともに継承再生するための機関として構想された。コンドル、フェノロサの教えを受けた片山東熊と岡倉天心によって日本とヨーロッパの美術建築の歴史の中で育成された豊かで質の高い文化を結集した機能と構造と表現を持つ建築はともかくも完成し、今日では美術博物館の古典、文化遺産として大きな役割を果たしているが、竣工までの 10 年間には、産業の振興や生活の近代化への寄与や経費の削減などの要因との調整を余儀なくされている。その当初計画から竣工までの紆余曲折した道程を片山東熊が全工程を示すために整理保存した種々多様な設計図と現在の建築をもとに解明する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財管理監　中村　康 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

中村　康(文化財管理監)　登谷伸宏(調査員)

【主な成果】

本年度は、片山と岡倉が直接関与した基本設計図の選び出しと調査を行ない、以下の点を明らかにした。

・京都博物館の設計過程とその特徴
・各設計図の設計過程における位置づけ
・設計に携わった技師の役割

【年度実績概要】

本年度は、建築図面目録作成のための基礎的な調査を継続して行うとともに、これまでの図面の分類方法を再検討し、その成果にもとづき目録の構成案を作成した。

【実績値】

調査回数　　16 回
調査資料数　521 点

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-11

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本年度の調査研究は、当初の予定通り進めることができた。次年度は、図面調査を進めるとともに、他の史料所蔵機関における史料調査、これまでの調査成果を論文としてまとめる作業をを行い、京都博物館建築図面の特徴を多角的に検討していく予定である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 建築図面目録作成に向けて着実に調査が進んでいるが、より広い視野から調査研究を行うため、次年度は、他の史料所蔵機関における史料調査を行う必要がある。次年度は他機関における調査にも着手する予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-12

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 12)　漆工芸に関する調査研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

特別展覧会と新装オープン後の平常展示に関わる漆工芸部門の展示内容の充実をはかり、また、国内外の漆工芸に関する研究の交流を促進しするために、日本の内外に伝世する漆器を観察し、計測し、写真撮影を行うことによって基礎データを集積し、その分析を軸とした研究を行い、研究成果を公表する。

| 【担当部課】 | 学芸部工芸室 | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　永島明子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

主任研究員　永島明子

【主な成果】

当館に持ち込まれた作品の調査や個人コレクター宅での調査(琉球漆器・輸出漆器・根来など)、特別展覧会の準備(妙心寺展・日蓮展・THE ハプスブルク展・永青文庫展など)、科研調査(昨年度末のイタリア調査の内容を今年度整理)、社寺調査(長岡京光明寺)や個人調査(イギリス貴族の館・大英博物館)など、さまざまな機会に作品を観察、計測、撮影してデータの蓄積につとめ、これまでのデータの分析と文献調査による研究の成果を、当館開催の展覧会をはじめ、国内外の展覧会やシンポジウムに還元した(展覧会図録の作品解説を除く)。また、科学研究費を用いた調査で漆工品の CT スキャンも試みた。さらには、新規購入品 2 点を京都国立博物館の収蔵品に加えることもできた。

【年度実績概要】

1. 昨年度の輸出漆器に関する特別展覧会で借用したオランダの新出資料に関する調査内容を、オランダの学会誌上で公表した。
2. 同じ展覧会で借用した V&A 美術館所蔵の作品に関わるシンポジウムに呼ばれ、江戸時代中期の京都における漆器制作に関する研究を発表した。
3. 国内で開催されたいわゆる根来塗に関する特別展覧会の準備に協力した。
4. 今年度の特別展覧会「THE ハプスブルク」の図録執筆をきっかけに、明治政府が初めての国賓に贈った品々の伝世を確かめ、周辺の史実の研究とともに公表した。
5. 2006 年にアメリカで開催された環太平洋地域の美術交流をテーマにしたシンポジウムで発表した内容をデンバー美術館出版の書物で公表した。
6. 輸出漆器の珍品 2 点を海外の研究者からの協力も得て評価し、収蔵品として購入することができた。

【実績値】

撮影カット数：5800 カット以上　　調査回数：16 回
論文数：4 件(①～④)
研究集会発表件数：1 回(⑤)
購入件数：2 点

【備考】

①永島明子「オーストリアに伝わるミカードの贈り物-明治新政府の文化外交-」国立新美術館・京都国立博物館・読売新聞東京本社編『THE ハプスブルク』読売新聞東京本社 2009 年 9 月
②Meiko NAGASHIMA. “Japanese Lacquers Exported to Spanish America and Spain”, *Asia & Spanish America: Trans-Pacific Artistic & Cultural Exchange, 1500-1850.* (Papers from the 2006 Mayer Center Symposium at the Denver Art Museum). Denver Art Museum. December 2009.
③Meiko NAGASHIMA. ″Over de Makie-Decoratie op de Lakkoker van Hendrick van Buijtenhem″. *Asiatische Kunst.* (Publication of the Asian Art Society in the Netherlands c/o Rijksmuseum).Vereniging van Vrienden der Aziatische Kunst. December 2009.
④永島明子「厨房具・膳具」河田貞監修『根来』根来展実行委員会　2010 年 3 月
⑤Meiko NAGASHIMA. “Mid-Edo Period Lacquer Production seen through Historical European Collections” *Conference: Crossing Borders – The Conservation, Science and Material Culture of East Asian Lacquer.* Victoria and Albert Museum. Friday 30 – Saturday 31 October 2009.

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-12

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
日々の調査研究活動を形にするという基礎的な作業であるが、昨年度に当該スタッフが担当した輸出漆器に関する展覧会をきっかけに、この分野も京都国立博物館の研究テーマとして国外で評価され、アメリカ、オランダ、イギリスなどの研究機関の要請に応じることができた。研究成果に基づき、京都国立博物館に優れた収蔵品 2 点を加えることができた。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 購入件数 | 研究発表件数 | 資料収集数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
他機関からの要請で研究成果を公表する機会を多く得た。調査回数は順調に重ねられている。他分野との調整の結果、今年度は漆工芸品の珍品を 2 点も購入することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 蓄積されたデータ数がそのまま成果に結び付くような研究ではなく、年度で区切って成果を評価するには向かない事業ではあるが、今年度は過去に行ったシンポジウムの発表や調査研究の内容について公表する機会を多く持つことができた。正確性は他機関が評価してくれたところと考えＡとした。日本の漆工史を実物に即して通史的に把握しながら、国外に渡った漆器についても実物の熟覧に基づいて総合的に研究する事業は稀であり、一方で各国における文化交流史的興味は高まっているので、独創性や適時性をＡとした。また、十数年来続いている研究であり、今後も確実に行われる業務であるので、発展性、継続性もともにＡとした。効率性については、一人の研究者が行っている割には多くの成果が得られたという点でＡとしたが、今後は国内外の研究者との連携をより強め、情報の共有化を一段と進め、また一般観覧者によりわかりやすく情報を提供できるよう努めていきたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 漆工芸品の調査･研究を実施し、収集や公衆への観覧に活かすことができたばかりでなく、洋の東西に伝世した漆工芸品の調査・研究を通じて、京都で作られた漆工芸を世界史の中に位置づけることに寄与し、また、その研究成果を国内外の研究機関と共有することができた。 |

【書式Ｂ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-13
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 13) 中国近代絵画に関する調査研究((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】
近年相次いで当館に寄贈された中国近代絵画作品に関する調査研究をすすめ、2012 年初めに開催を予定している「中国近代絵画」展にその成果を反映することを目的とする(文化庁　平成 21 年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」による事業)。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西上実 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
呉孟晋(研究員)

【主な成果】
国内外から研究者を招き、当館所蔵の中国近代絵画作品調査とその成果をふまえたワークショップ開催という二つの中核事業により、当該分野に関する新知見を多数得ることができた。とくに、昭和初期に中国・南京総領事だった須磨弥吉郎氏のコレクションに関する調査では日中間の芸術交流の多様性を確認できた。こうした成果をワークショップ論文集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。

【年度実績概要】
1. 当館所蔵の中国近代絵画に関する調査研究
2009 年夏から秋にかけて、中国、台湾、香港など国内外の研究者 10 名に作品調査を依頼し、あわせて当館研究員と意見交換の場をもった。

2. ワークショップの開催
「中国近代絵画研究者国際交流集会」という題目で、2009 年 12 月 16・17 日に国立京都国際会館でワークショップを開催した。参加者は 2 日間で計 54 名、うち発表者は 19 名であった。基調講演 1 件の後、2 日にわたり研究発表 18 件と総合討議を行い、日本における中国近代絵画研究の意義などが議題となった。当日の成果は『中国近代絵画研究者国際交流集会論文集』として刊行した。

【実績値】
作品調査招へい研究者数：10 名
研究集会等開催数：1 回(論文集①)
　うち参加者数：美術史研究者等 54 名
研究発表(論文)件数：19 件
その他：1 件(事業紹介②)
調査回数：6 回

【備考】
①京都国立博物館編『中国近代絵画研究者国際交流集会論文集』、2010 年 3 月
②西上実「中国近代絵画と京都国立博物館：国際研究拠点をめざして」『清風会報』157 号、2010 年 1 月

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-13

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考

2012 年初に開催予定の「中国近代絵画」展に向けた調査研究の一環として、これまで研究が立ち遅れていた当該分野の研究の進展に大きく寄与することができた。国内外の研究者と 2009 年の 1 年間に作品調査とワークショップの都合 2 回、会合の機会をもつことで活発な意見交換が可能となり、現在の研究課題を共有するとともに多くの新知見も得た。現代中国の発展にともない、社会全体で近代中国の文化芸術についての関心が高まるなかで、美術史研究の分野からも展覧会などを通じて広く情報発信できる素地が整ったといえる。

2．定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 調査回数 | 招へい研究者数 | 研究会開催数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考

発表論文はワークショップ発表者 19 名による成果で、すべてワークショップ論文集に収録した。本論文集国内外の関係者・関係機関に配布しており、その成果は広く研究者の間で共有できるようにした。発表者各自の研究成果については、今後学会や学術雑誌等への公表により順調に進展するものと見込まれる。なお、ワークショップには美術史研究者を中心に 54 名が参加、19 名の発表者のうち 10 名が夏から秋にかけて当館にて事前の作品調査を実施した。そのほかの発表者の多くは 2009 年以前に調査を行っており、いずれの研究成果も実作品に則した具体性のある新知見を盛り込んだ内容となっている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 中国近代絵画を研究対象とした調査と情報収集、ワークショップの実施、論文集の刊行など、当初の計画通りの事業内容を実施することができた。中国近代絵画研究は日中戦争や文化大革命などの歴史的背景により実作品の多くが毀損され、研究の進捗が立ち遅れていたが、今回の事業により、日本側から研究成果を発信する基盤が整ったといえる。中国絵画研究や日本近代絵画研究など関連分野の研究者からの評価も高く、東アジア絵画史を通史的にかつ地域横断的に把握するための一助となることが期待できる。次年度以降は、今回の事業で明らかになった研究課題の究明、および展覧会開催に向けての準備をすすめてゆく。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中国近代絵画に関する作品調査やワークショップ等を通じて、当該分野の課題等に関する検討を当初の計画通り進めることができた。本年度の成果を受け、次年度以降は、展覧会開催に向けての準備を加速させていく計画である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-1

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施（(5)-①-ⅱ） |

【事業概要】

近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業(展示等)に反映させる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、森實久美子(企画室員)

【主な成果】

奈良を中心とする諸社寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を展示に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。

【年度実績概要】

①特別展「国宝　鑑真和上展」会期中に鑑真和上像(国宝)及び釈迦如来像(重文)のＸ線調査を行い、内部構造及び納入品の状況を検討した。
②特別展「聖地寧波」会期中に泉涌寺(京都市)所蔵・楊貴妃観音像(重文)及び仁和寺(京都市)所蔵・観音菩薩坐像のＸ線調査を行った。前者については調査時に得られた成果を報道発表した。
③これまで紹介されることの少なかった、奈良地域所在の南北朝・室町彫刻の調査を寄託品中心に重点的に行って特集展示「南北朝・室町時代の彫刻」を開催し、その成果を展示解説パネルや各種紹介記事等に反映させた。
④信貴山朝護孫子寺において文化財調査を行い、その成果は学術協力を行った「信貴山秘宝展」の作品解説等に反映された。
⑤将来の特別展・特別陳列の実施に向け、奈良豆比古神社(奈良市)・当麻寺(葛城市)・與喜天満宮(桜井市)と交渉し、総合的な文化財調査の計画を立てるに至った。
⑥東大寺・醍醐寺における聖教調査への参加。
⑦東大寺金堂鎮壇具の、蛍光エックス線を使用した材質調査。
⑧東大寺法華堂諸像の、文様写真の整理と分析。

【実績値】

社寺等における調査回数　　12 回
学会等発表回数　15 回
論文等　10 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 学会等<br>発表回数 | 論文発表本数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
着実に調査活動を進めており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 近隣社寺を中心とした所蔵品の調査を着実に行って資料の蓄積を進めており、特別展「聖地寧波」への出陳を機に行った調査で得た成果が注目を集めるなど、大きな実績をあげることができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。21 年度も特別展で借用した作品などを中心に調査活動を行い、将来、展覧会を開催するための資料蓄積を行うことが出来た。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2) 仏教美術の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究) ((5)-①-vi) |

【事業概要】

奈良国立博物館と東京文化財研究所との間で締結した協定書に基づき、両機関の共同研究として仏教美術作品の光学的調査を実施し、使用材料、製作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。光学的調査は、①高精細フルカラ-画像の作成、②可視光励起による高精細蛍光画像の作成、③高精細反射近赤外線画像の作成、④高精細透過近赤外線画像の作成、⑤蛍光エックス線による非破壊分析、を実施する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |

【スタッフ】　［奈良国立博物館］：岩田茂樹(美術室長)、稲本泰生(企画室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(研究員)、北澤菜月(研究員)［東京文化財研究所］：田中淳(企画情報部長)、津田徹英(文化財アーカイブズ研究室長)、早川泰弘(分析科学研究室長)、江村知子(研究員)、城野誠治(専門職員)

【主な成果】

中国・南宋時代の仏教絵画の基準作として有名な重要文化財五百羅漢図(大徳寺蔵)82 幅について、初めて本格的な光学調査を実施し、従来知られていなかった金泥の銘文を多数発見することができたことに加え、顔料や絵絹について高精細画像及び基礎データを入手できた。さらに前年度までに調査を開始していた聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺蔵)と春日権現験記絵披見台(春日大社蔵)についても追加調査を実施し、蛍光画像・近赤外線画像及び基礎データを入手することができた。

【年度実績概要】

奈良国立博物館において、展覧会出陳を機会に借用した重要文化財五百羅漢図 82 幅(京都・大徳寺蔵)について、①高精細デジタルカメラによるフルカラ-画像作成、②可視光励起による蛍光画像作成、③高精細反射近赤外線画像作成等の調査を実施し、肉眼では観察できない金泥銘文の解読、絵画技法の解明や絵絹の組成分析を行った。そこで得られた画像データ、分析結果をもとに両機関研究員の間で検討会を実施した結果、従来の肉眼観察では十数点しか発見されていなかった画中の金泥銘文を、新たに 30 点近く発見することが出来、東アジア仏教絵画研究に極めて重要な資料を入手することができた。その成果は特別展「聖地寧波」の図録に銘文一覧として速報的に掲載し、学術研究成果の一般への普及にも努めた。また前年度に光学調査を実施した春日権現験記絵披見台については、おん祭り展への出陳を機会に表具や下地の構造調査を実施し、今年度中の刊行を目ざして報告書の作成を進めている。一方、平成 19 年度より継続的に調査を続けている国宝天台高僧像(兵庫・一乗寺蔵)についても、当館寄託分の 7 幅を中心に追加調査を実施し、未だ行っていなかった可視光励起による蛍光画像および近赤外線写真の撮影を完了した。

上記によって得られた画像データや所見を踏まえ、東京文化財研究所において研究会を 4 回実施し、報告書の作成や追加調査計画について討議した。併せて次年度以降、信貴山縁起絵巻など新規調査対象選定についても検討を重ねた。

【実績値】

作品調査実施回数　4 回：5/11～5/17、9/13～9/20、12/21、22 年 3/1～5

研究会開催件数　4 回：東京文化財研究所で 4/22、6/15、8/25･26、11/5 に実施。

調査概報　　3 件：

①特別展「聖地寧波」図録に光学調査で得られた大徳寺五百羅漢図銘文データ掲載。(7/18)

②「春日権現験記絵披見台　共同研究調査報告書」刊行(3/10)

③「法隆寺金堂台座調査研究報告」(「鹿園雑集」第 12 号)刊行(3/31)

調査作品数　　3 件 90 点：重文　五百羅漢図(大徳寺蔵)　82 点

春日権現験記絵披見台(春日大社蔵)　1 点

国宝　聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺蔵)　7 点



視光の蛍光反応を用いた五百羅漢図銘文調査

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

南宋仏画の名品として知られながら、数が多いためにその全貌に迫る調査がほとんどなされてこなかった大徳寺所蔵五百羅漢図について、初めて本格的な光学調査を実施することができ、多数の銘文を発見するという大きな成果を得た。また、すでに前年度調査を実施していた春日権現験記絵巻について追加調査を行い、報告書の刊行を進めることができた。いずれも展覧会出陳というまたとない機会を捉えた調査だった。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

両機関研究員の日程確保が難しい状況の中で、本年度はすでに 1 週間にわたる調査を 2 度も実施することができた。特に大徳寺五百羅漢図は 82 幅と多数にのぼったが、全点にわたって光学調査を実施したことにより、膨大なデータを収集することができた。またこれらのデータを踏まえた研究会を 4 回も実施し、両機関研究員の討議を重ねた結果、特別展「聖地寧波」図録への調査データの掲載に漕ぎ着けたほか、2 件の報告書を刊行した。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 最新鋭の光学機器を用いた調査の実施により、従来は不明だった文化財の材質や構造を明らかにすることができ、また文化財の保存・修理を将来行う上での指針となる詳細な現状記録を残すことができた。特に本年度は中国南宋時代と鎌倉時代の重要絵画作品について詳細な調査を実施し、そこで得られたデータをもとに研究会を重ね、着実に報告書刊行につなげることができた。また、共同研究のメンバー以外にも当該作品を総合的に評価するために外部の研究者を招聘して調査を実施することができた。今年度調査したもののうち、大徳寺五百羅漢図と一乗寺天台高僧像については、いずれも点数が多いため未だデータの蓄積が十分ではない部分があるので、次年度に同様の追加調査を重ねていくことで分析の精度を高め、報告書の刊行につなげたい。また調査前・調査後の検討会をより綿密に行う一方、現在は 1 週間程度かかる 1 回あたりの調査実施期間を圧縮して、スムーズな日程調整を実現にするとともに、作品自体への負担を軽減したい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。 |

【書式Ｂ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-3

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3）仏教美術写真収集及びその調査研究（(5)-②-ⅱ） |

【事業概要】

収蔵品・寄託品および展覧会等に際して館外から借用した仏教美術を中心とする文化財について、写真撮影を行う。展覧会図録や美術書などには掲載されていない、作品の側面、背面、内側などの撮影を多数おこない、構造の理解や製作技法の解明に資する情報を収集する。写真資料の整理にあたっては、文化財の基本情報を整備するとともにデータベースへの登録を行い、学術研究や保存を目的とした利活用に対応できる体制を整える。

| 【担当部課】 | 学芸部資料室 | 【プロジェクト責任者】 | 資料室長　宮崎　幹子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室員)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、永井洋之(企画室員)、北澤菜月(企画室員)、森實久美子(企画室員)、佐々木香輔(資料室員)

【主な成果】

館内外の文化財のカラーおよびモノクロ撮影を多数実施し、資料を整備することができた。また、X 線撮影をおこなうことにより、内部構造や製作技法に関して有用な情報を得ることができた。
これらは情報システムに登録し、管理運用するとともに、インターネット通して外部へも情報提供をおこなっている。また、特別観覧や写真カードにより、研究者・学術出版界・一般の利用にも供している。

【年度実績概要】

今年度に特筆すべき点としては、特別展『国宝 鑑真和上展』、特別展『聖地寧波』等の開催に際して、多数の文化財の撮影をおこなったことが挙げられる。

特別展『国宝 鑑真和上展』では、日本最古の肖像彫刻として貴重な鑑真和上像についてX線撮影を実施したほか、多数の木彫像の写真撮影をおこない、上代彫刻の基礎資料の整備に努めた。

特別展『聖地寧波』では、清涼寺所蔵・釈迦如来立像、泉涌寺所蔵・観音菩薩坐像(楊貴妃観音)等の写真撮影をおこなったが、いずれも通常では調査の実施が大変困難な文化財であり、この貴重な機会を活用して多数の撮影をおこない、学術研究に供する資料の蓄積を図った。泉涌寺所蔵・観音菩薩坐像についてはX線撮影もおこない、体内から五輪塔と見られる納入物の存在を明らかにすることができた。これについては別途記者発表がおこなわれた。また昨年度に引き続き、大徳寺所蔵・五百羅漢像(八十二幅)の撮影を実施し、中国仏教絵画を代表する本品の国内に伝わる全画像の写真を図録に掲載し、研究成果を公表するとともに図録の資料的価値を高めることができた。中国の港湾都市・寧波をテーマとしたこの展覧会では、他にも東アジア仏教美術を代表する名品が多数出陳された。東アジアの海域交流史については、近年学術的な関心の高まりが著しいが、写真撮影を多数実施することにより、博物館として基礎資料集成の面からも学界に貢献できたといえよう。

デジタル化に関しては、昨年度に引き続き、収蔵品、寄託品の写真原板のデジタル画像化を推進し、情報の蓄積に努めた。今後の高精細デジタル画像の蓄積や情報システムの構築については、情報技術の進展をふまえて新規技術を適切に導入し、情報の蓄積と公開がさらに推進されるよう研究と具体的検討をおこなっているが、その一貫として、写真情報システムのリプレイスを現在おこなっている。

また、文化財の撮影に使用しているタングステンライト用のポジフィルムが生産中止となったことにともない、高精細デジタルカメラバックを導入し、本格的なデジタル撮影に対応出来る体制整備を進めている。

【実績値】

○収集資料数

収集した写真枚数は以下の通り。(収集資料数)
カラー・ポジ(4×5)　2,733 枚、カラーブローニ　0 枚
モノクロ　2,800 枚、X 線　285 枚



写真撮影風景

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　この事業は継続性の高いものであり、短期的な成果や個別の画期性を期待すべきでなく、間断なく質の高い資料の蓄積を続けている点が評価できる。当館の展覧会開催・研究活動と密接に連携することで、重要領域の貴重な資料を重点的に収集し、全体として質の高いコレクションを形成している。

2．定量的評価

| 観点 | 収集資料数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
　撮影回数や収集資料数は多ければ良いというわけではないが、質や継続性を勘案しても、本年度は充分な調査と撮影をこなしており、資料の収集も豊富であった。また貴重な写真を図録に掲載するなど、独自の研究成果を多数公表することにも貢献した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 写真撮影については、文化財の保存や所蔵者の意向、物理的・時間的制約など様々な要因が影響するため、過去の平均撮影枚数との比較から年度の実績を評価することは必ずしも適切ではない。実績概要でも述べたとおり、歴史的・学術的に重要であり、撮影および調査の機会を得ることが通常では困難な文化財について、調査を実施し質の高い資料の収集が叶うことの意義は大変大きい。今後も調査や展覧会の開催と密接に連携した資料の蓄積を続け、仏教美術写真の一大コレクションとしての質の維持に努める。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 実績概要でも述べたとおり、昨年のポジフィルムの生産中止により、本格的なデジタル撮影への移行が必須となっている。機材と人材の確保を含めた長期的な展望が今後とも必要であると思われる。<br>貴重な仏教美術写真コレクションを維持し、これまでに引き続いて内外の研究者や学術出版界の利用に供する体制整備と、今日的な要請をふまえたデジタルアーカイブ化、情報公開に対応する必要がある。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-4

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 4)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、森實久美子(企画室員)

【主な成果】

学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館等との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。

【年度実績概要】

①学術交流協定を結んでいる中国・上海博物館に 3 名、同・河南博物院に 2 名、韓国・国立慶州博物館に 1 名を派遣した。また、中国・上海博物館から 3 名、河南博物院から 2 名、慶州博物館から 2 名の研究員を受け入れた。また正倉院展開催に際して慶州博物館から館長ほか 1 名を受け入れた。

②特別展「国宝　鑑真和上展」「聖地寧波」開催に際し、中国の仏教文化がわが国に与えた影響に関するこれまでの調査研究の成果を、同展会場のパネル、展覧会図録、各種講座等に反映させた。

③特別展「聖地寧波」の事前調査のために中国・浙江省に 4 名の研究員を派遣し、同展会場のパネル、展覧会図録、各種講座・シンポジウム等にその成果を反映した。またクーリエとして 4 名の研究員を中国・韓国に派遣し、併せて今後の両国における文化財調査に向けた情報収集を行った。さらに米・中・韓三国から中国で制作された文化財を借用し、クーリエとして研究者計 14 名(米国 4 名、中国 6 名、韓国 4 名)を、また中国・浙江省の文化財関係者 4 名を代表団として受け入れ、文化財を介した日中間の情報交換を活発に行った。また同展会期中の 8 月 8・9 日に実施した国際学術シンポジウム「舎利と羅漢-聖地寧波をめぐる美術」では、外国人研究者 3 名(米国・中国・台湾)及び当館研究員を含む 8 名が東アジアの海域交流と仏教美術における日中関係に関する研究発表を行い、実りある討論を行うことができた。

④特別展「第 61 回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察し、展示及び展覧会図録に反映した。また正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。

⑤22 年度の特別展「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」開催の事前調査のため中国に 2 名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。

【実績値】

研究員の派遣　30 名
研究員の受入　29 名
学会、研究会等発表件数　7 回
論文掲載件数　　17 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　わが国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

2．定量的評価

| 観点 | 研究員の派遣人数 | 研究員の受入人数 | 学会、研究会等発表件数 | 論文掲載件数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | |

備考
　展覧会企画に沿った調査研究ができ、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 上海博物館(中国)・河南博物院(中国)・国立慶州博物館(韓国)の 3 館と研究員の交流を行うことで、広くアジア諸国を視野に入れた調査研究を行うことができた。特別展「国宝　鑑真和上展」では、鑑真が中国からもたらした仏教文化を多角的に紹介した。同「聖地寧波」も中国からの仏教文化受容の諸相を主軸に据えた展覧会であり、中国・韓国からも文化財を借用し、内容を充実させることができた。また中国で仏教関係文物の調査を展開し、その成果は特別展「聖地寧波」及び 22 年度開催の特別展「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」の内容を充実させることになった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 22 年度特別展「平城遷都 1300 年記念大遣唐使展」の内容を充実させることができた。23 年度以降も中国・韓国との交流を内容に含む複数の特別展を計画中で、今後も引き続き調査研究を続けていく必要がある。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-5

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 5)　当館所蔵品についての調査研究(客員研究員) ((5)-①-ⅲ) |

【事業概要】

従来からの収蔵品について継続的に調査研究を実施する。なお、新収蔵品については具体的な公開等を見越して重点的にこれを行う。調査研究の成果は、展覧会、印刷物、インターネット等を通じて公表し、広く斯界の学術的発展に資する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、森實久美子(企画室員)、客員研究員:根立研介(京都大学大学院文学研究科)、板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所)、井手誠之輔(九州大学大学院人文科学研究所)、木村法光(元宮内庁正倉院事務所)、森郁夫(帝塚山大学人文学部)　調査員：藤岡穣(大阪大学大学院文学研究科)、高梨純次(滋賀県立近代美術館)、須藤弘敏(弘前大学人文学部)、橋詰文之(和泉市久保惣記念美術館)、稲城信子(元財団法人元興寺文化財研究所)、渡邊智山(関西大学文学部)

【主な成果】

新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、平常展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。従来からの収蔵品についても継続的に調査研究を行い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。

【年度実績概要】

①平常展中の「注目の逸品」コーナーにおいて前年度購入した「道慈像」「聖徳太子像」、三年前に新発見された新たな寄託品「組法具(真光寺)」を受入後初公開し、同じく最近購入した「紫の水」「慈心金岡東庄寄進状」等も平常展で公開し、これら諸作品に対する調査研究の成果を展示会場での解説及び「奈良国立博物館だより」等で詳しく紹介した。
②東京大学東洋文化研究所から寄託を受けた貴重図書の中で、特に重要な 11 件を特集展示「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」で展示し、これら諸資料に対する調査研究の成果を展示会場での解説等で詳しく紹介した。
③五條市猫塚古墳出土品に関して、細かな観察に基づく再検討を実施した。
④特別展「聖地寧波」開催に向けて行った関連収蔵品調査の成果を、展示及び展覧会図録に反映した。
⑤客員研究員と合同で、館蔵・寄託品の木工品・漆工品のエックス線撮影による構造調査を重点的に実施し、研究資料を蓄積した。
⑥寄託品の東大寺金堂鎮壇具(国宝)について、蛍光エックス線を用いた材質分析を実施した。
⑦寄託品の天台高僧像(一乗寺蔵、国宝)7 幅のＸ線調査を実施した。
⑧調査員と合同で、これまで紹介されることの少なかった、南北朝・室町彫刻の調査を館蔵品・寄託品中心に重点的に行い、院派仏師・椿井仏師・宿院仏師の活動状況と照合して得た研究成果をもとに特集展示「南北朝・室町時代の彫刻」を開催し、その成果を展示解説パネルや各種紹介記事等に反映させた。特に近年寄贈を受け、修理で面目を一新した館蔵品の「毘沙門天立像」「十一面観音坐像」を初公開した点は、意義が大きい。
⑨22 年度の特別展「平城遷都 1300 年記念　大遣唐使展」の開催に向け、出陳予定の収蔵品の予備調査を行った。

【実績値】

○図録の作成　　展覧会図録　1 冊
○展示への反映　　新収蔵品の調査研究の展示への反映　5 回
○学会、研究会等発表件数　3 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-5

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
収蔵品の調査研究は各部門による定期的継続的な点検調査を通して、平常展等で新たな成果を公開している。また、新収蔵品等についても集中的な調査を実施しており、この成果を公開しているのは前述の通りである。

2．定量的評価

| 観点 | 図録の作成 | 学会、研究会等発表件数 | 展示への反映 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
調査研究成果について、質の高い図録等として発表することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 新収蔵品となった作品の調査研究を進め、その成果を平常展及び各種刊行物等に反映させた。また事前調査としての様々な館蔵品調査の成果が特別展「聖地寧波」に反映され、高い評価を得た。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 従来からの収蔵品及び新収蔵品についての調査が継続的に実施され、その成果は評価の高い展覧会を生み、また展覧会図録等の出版物やインターネット等を通じて公表された。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-6

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 6)　奈良時代の仏教美術と東アジア世界(科学研究費補助金)（(5)-①-ⅱ） |

【事業概要】

奈良時代においてわが国で制作された、あるいは中国・朝鮮半島から舶載されたと考えられる仏教関連の美術工芸品の中から特に重要なものを選定し、綿密な調査と様々な角度からの検討によって、今後の議論の基礎となる資料を学界の共有財産として提供する。同時に唐・新羅との活発な交流が生んだこの時代の文化の国際性に特に留意し、東アジア文化交流史の全体像の中に奈良時代の仏教美術工芸史を位置づける。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 館長　湯山賢一 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

研究代表者：湯山賢一

研究分担者：西山厚、鈴木喜博、岩田茂樹、内藤栄、稲本泰生、吉澤悟、谷口耕生、宮崎幹子、野尻忠、清水健、岩戸晶子、斎木涼子、北澤菜月、永井洋之、森實久美子(以上学芸部)

連携研究者：有賀祥隆(東京芸術大学)、東野治之(奈良大学)、前園実知雄(奈良芸術短期大学)、根立研介(京都大学)、藤岡穣、高橋照彦(以上、大阪大学)

研究協力者：杉本一樹、成瀬正和、尾形充彦、西川明彦(以上、宮内庁正倉院事務所)、山崎隆之(前愛知県立芸術大学)、梶谷亮治(東大寺総合文化センター設立準備室)、中島博(名誉館員)

【主な成果】

前年度から 3 ヵ年の計画で、①蛍光Ｘ線分析装置による光学調査を中心に、東大寺金堂鎮壇具(国宝)についての基礎データを収集し、その体系化を行う。②東大寺法華堂諸像の修理時に(財)美術院によって撮影された彩色文様写真を研究資料として活性化し、文様史的検討を加える。③館蔵及び寄託の古写経に関する基礎データの集積と料紙分析を行い、国籍問題の解決を図る。という三つの課題を柱として、研究計画調書に記載した体制で研究を進めている。

【年度実績概要】

・様々な素材で構成される東大寺金堂鎮壇具(国宝)について蛍光Ｘ線による定性・定量分析を継続的に実施し、データの蓄積を行った。
・前年度に着手した東大寺法華堂の乾漆造四天王立像、同梵天・帝釈天立像、同金剛力士立像、塑造伝日光・月光菩薩立像(すべて国宝)の彩色文様写真のデジタル画像化を完了させ、ついで研究分担者と技術者が合同でこれらすべてに色補正を加え、その作業を終えた。その上で次年度に行う文様史研究等の観点に立った分析・検討に供するため、画像目録を作成した。
・顕微鏡による料紙観察を中心に館蔵・寄託の古写経の調査を進め、基礎データを収集した。
・当該テーマに即して研究分担者各人が進める調査研究の成果を、各種学会・学術論文等で発表した。

【実績値】

○調査回数　　調査・作業日数　延べ 35 日。
○収集資料数　写真資料デジタル画像化及び色補正作業　2017 カット分
○研究用資料集の制作　1 冊
○学会等発表回数　9 回
○論文発表本数　2 本

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-6

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　この事業は当館の伝統と実績をふまえて企画された他ではなしえないプロジェクトであり、古代東アジア文化に関わる全ての学問領域の研究者の待望する、重要作品の精査に基づく基礎資料の整備を順調に進めている。また東アジアの文化交流史上に奈良時代の仏教美術を位置づけるという視点を堅持して研究を進めており、最終年度である次年度に結実する成果が、国際的規模で学界に貢献するとの展望をすでに得ている。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 研究用資料集の制作 | 学会等発表回数 | 論文発表本数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　実作品及び写真資料に対する調査研究を継続的に進めて基礎資料の整備を進めており、特に膨大な量に及ぶ仏像文様写真の画像データ化・加工・編集作業を完了させ、研究資料としてほぼ完璧なものとできた点は特筆される。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 3 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。次年度は最終年度であり、蓄積した資料をとりまとめるだけでなく、多角的な観点から分析・考察を加えて、充実した研究成果報告書を刊行したい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 規模・内容ともに国内最大の仏教美術の研究拠点である当館に相応しいプロジェクトであり、計画にそって着実に実績を挙げている。23 年度以降も継続して競争的資金の獲得に努め、拠点としての体制・設備をさらに充実させ、関連学界の要請に応える総合的な研究活動を展開する必要がある。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-7

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 7)　統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金) ((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

日本の瓦生産において大きく影響を与えたと考えられる朝鮮半島の様相を日本と比較検討することを目的として、特に研究が遅れている道具瓦を取り上げる。これまで文様に偏りがちだった鬼瓦と鴟尾について出土数が多い統一新羅の資料を対象に集成を行い、これまで研究・調査によって明らかにしてきた技術的観点から見た古代日本の鬼瓦の様相とを比較検討しつつ、製作技術など技術的観点にもとづくデータを採取し、基礎的資料を作成する。

| 【担当部課】 | 学芸部工芸考古室 | 【プロジェクト責任者】 | 工芸考古室員　岩戸　晶子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【主な成果】

2008 年度から 3 ヵ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館(以下、慶州博)ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟覧を行い、資料化を進めている。

【年度実績概要】

今年度は慶州博所蔵の雁鴨池出土の一括資料について集中的に調査を行う予定であったが、調査先とのスケジュールが合わず、2 月初旬の短期の調査のみになった(今後の成果発表に向けて、次年度早々に調査を行う予定である)。そのため、今年度はこれまでの調査のデータ整理や分析を進めた。

また、10 月の韓国瓦学会では韓国の瓦研究者との有意義な意見交換を行うことができた。

【実績値】

○調査回数　　のべ 5 日
○収集資料数　　40 点

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-7

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
韓国における古代瓦の研究は文様を対象としたものに偏重しており、道具瓦も例外ではなかった。そういった意味では独創的であり、基礎データを提示することによって以後の研究の進展が期待できるものである。また、本調査は、プロジェクト責任者のこれまでの研究成果はもちろん奈良国立博物館における慶州博との学術交流などの人的交流の成果を基に可能となったものである。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | | | | |

備考
先方とのスケジュール調整がうまくいかず、長期の調査を行うことができなかった。この調査分については次年度に行うことがすでに調整済みである。
これまでの調査データの整理や分析は順調に進められた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 基礎資料の蓄積と大量の調査データの整理を果たし、今年度も相応の評価が得られると思われる。最終年度ではあったが、調査が先送りせざるを得なかったが、次年度はこれまでの成果を基に、韓国人研究者との検討も行いつつ研究の深化をはかる。次年度に行うことになった調査を進めると同時に、概要を公表する準備をすすめ、年度中に公表する予定である。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 韓国での調査は、次年度への繰越はあるが、これまでの莫大な調査成果の整理や分析を行うことができ、調査の完了とその成果発表に向けて、研究計画としては順調に推移していると言える。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4513-8

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 8)　古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

本研究は、日本の国家形成をみる上で基点となる古墳時代中期に焦点をあて、外来的な文化要素を徹底して検討することを目的としている。ケース・スタディとして奈良県五条猫塚古墳の出土品を選定しており、その再整理と詳細検討を行う中から生じた問題を、他の地域や遺跡出土の資料に当てはめ、新たな視点から外来的要素の発現メカニズムを探る計画である。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 教育室長　吉澤　　悟 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

研究分担者：岩戸晶子(工芸考古室員)、魚津知克(大手前大学講師)
研究協力者：岩本崇(島根大学文学部)、加藤一郎(宮内庁書陵部)、阪口英毅(京都大学大学院文学研究科)、川畑純(京都大学大学院)、初村武寛(京都府立大学大学院)

【主な成果】

過去 2 ヶ年の実測図作成に引き続き、Ｘ線写真や 4×5 フィルムへの撮影を行い、基礎情報を充実させた。さらに報告書作成のため各メンバーに遺物別の分担を割り振り、それぞれ図版の作成とデータのとりまとめを推進した。

【年度実績概要】

実測図作成やＸ線撮影など、これまでは基礎資料の蓄積とその作業の中から新知見の発見を行い、多々の成果を挙げてきた。本年度はこれらを取りまとめ、正式な報告書の発行に結びつける作業を進めることを目標としてきた。

年度の前半において、五條猫塚古墳出土の鉄製品の実測図をほぼ全点揃えることができた。その時点で各メンバーを招集して検討会を行い、報告のための役割分担をとりきめた。年度の後半は、個々のメンバーが自身のペースで図版の作成、データの整理をすすめ、年度末の報告に向けてとりまとめを行っている。

さらに五條猫塚古墳の性格や、出土遺物がもつ特殊性、大陸・半島との繋がりなどについても各メンバーが部門ごとに検討を進めており、互いに意見交換を行いながら全体認識を形成してきた。

これらの成果の一部は、本年度末発行の奈良国立博物館の紀要『鹿園雑集』に掲載するほか、2010 年 5 月の日本考古学協会総会の研究発表において公表する予定であり(2 月中に入稿)、年度の終わり近くにはそのための準備を精力的に進めることにした。

【実績値】

・五条猫塚古墳の武具、農耕具、埴輪ほかの実測図を通算で約 750 枚。
　Ｘ線写真、4×5 ポジフィルム等の撮影数約 200 枚。
　上記のデジタルデータ化。
・全体検討会 1 回、小検討会 3 回開催。
・2010 年 2 月に日本考古学協会総会の研究発表資料を入稿(2 頁分)。
・2010 年 2 月に『鹿園雑集』の原稿を入稿(18 頁分)。



五條猫塚古墳出土　蒙古鉢形冑

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-8

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
五條猫塚古墳出土品の正式報告書の刊行は、国内の研究者のみならず韓国研究者の間でも待望のものである。その基本情報が揃えられた点で、本研究は大きな成果があったと考えられ、今後の発展性にも期待をもつことができる。なお、報告書の印刷は来年度以降に別途予算を確保しながら進める予定である。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
古墳時代の鉄製品の若手研究者の力を借りて、今日的な水準による図面や基礎データを多く蓄積することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 調査後、45 年を経てようやく出土品の全貌が分かる情報を蓄積することができた。今日の考古学の水準で観察した成果は、40 年前の報告書の見直しを迫るものであり、今後の研究に大きく寄与するものと思われる。また、劣化の著しい鉄製品を保存修理に出すにあたっても、現況図面と接合関係の確認がとれたために、今後の修理活動をスムーズに進めることが可能となった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 最終年度として順調に成果をあげた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-1
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と観光資源としての利活用」として、タイにおいて文化財の保存活用センターとしての役割を担う博物館としての立場から、専門家派遣、研修生受け入れを実施。
佐賀・高伝寺所蔵巨大涅槃図の修復事業に伴い、日本と韓国の仏教寺院における大掛軸の修理を実施および法会に関しての展示ならびに国際シンポジウムを実施。

| 【担当部課】 | 企画課 | 【プロジェクト責任者】 | 企画課長　小泉惠英 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
森田稔(副館長)、原田あゆみ(文化財課研究員)、赤司善彦(展示課長)
藤田励夫(保存修復室長)

【主な成果】
タイ王国芸術局、国立博物館事務局と共同研究を実施した。タイ芸術局の研究員 3 名を受入れ、文化財保存と展示、地域共生について研究を実施。研究員 3 名をタイに派遣、現地シンポジウムで日本の建造物保存、タイの博物館の市民共生プログラムについて相互に発表した。これを踏まえ平成 22 年度に日タイの文化を比較する展覧会を開催する。
日本と韓国の巨大掛軸をテーマとする展示、国際シンポジウムを開催した。

【年度実績概要】
JICA の草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」をテーマに共同研究を実施した。7/16～8/8 にタイ王国芸術局研究員 3 名を受入れ、文化財保存、平常展示、特別展示、遺跡保存、地域共生、無形文化財としての工芸技術保存についての研修を実施。タイ側から同テーマにおける現状の報告を受けた。
11/23～30 に、日本から研究員 3 名を派遣、タイ・バンコク国立博物館において、日本の建造物保存、タイの漆芸文化、博物館の地域共生などをテーマとしたセミナーを実施した。11/23～29 に平成 22 年度に実施予定の日・タイの文化比較を主テーマとする展覧会開催に向けて、展示内容の構築に向けて準備を進めた。
九州国立博物館の文化財保存修復事業として、平成 20～21 年度に佐賀市指定・高伝寺所蔵大涅槃図(15.2m×6.1m)の保存修理を実施した。このような巨大な仏画を用いた法要は韓国では広く行なわれており、仏教儀礼の源流を考える上で興味深い。そこで日韓の大掛軸の修理、法会について調査を実施し、映像記録を撮り、その成果を、トピック展示ならびに国際シンポジウムの形で示した。
4/29～5/6、10/22～10/25 に韓国の事例の調査をした。平成 22 年 2/21～3/28 に「巨大掛軸をめぐる文化交流　祈りと暮らしのかたち」と題したトピック展示を実施し、韓国国立中央博物館、公州博物館、古宮博物館などから研究員を招聘し、3/14 に日韓両国の巨大掛軸の歴史とその修理について、国際シンポジウムを開催した。

【実績値】
7/16～8/8　タイから研究員 3 名受入れ、研修実施。
11/23～11/30　タイへ研究員 3 名派遣、セミナー実施。
「タイの英知の活性化のためにシリントーン王女が開始された東洋螺鈿に関する研究」シリチャイ　ワンチャロントラクル(タイ芸術局保存部長)
「日本における建造物の保存と活用」田上稔(福岡県文化財保護課)
「博物館ネットワークの構築と促進の方法」シリン・ユアンヤイディー(バンコク国立博物館)
「地域社会の強化のための博物館プランニング」プラパパーン・スリスック(サワン ワラナ-ヨック国立博物館)
「コミュ-ンとしての博物館―博物館の発展のための収入源と地域連携―」ウサー・ヌォンピエンパーク(芸術局国立博物館事務局)
「太宰府市　市民遺産によるまちづくり」城戸康利(太宰府市都市整備課)
11/23～11/29　タイへ研究員 3 名派遣、展覧会準備会議実施。


バンコク国立博物館のセミナー

4/29～5/6　韓国に研究員派遣、作品調査、撮影実施。
10/22～10/25　韓国に研究員派遣、作品調査、撮影実施。
3/12～17　韓国から研究員 7 名受入れ、国際シンポジウム実施。

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
博物館がもつ使命である文化財の活用と、地域との共生とを関連させた事業は、高い公共性を持つものであり、今後の博物館の社会の中での位置づけを考える上でも極めて重要な取組である。また、作品の修復を通じ、日韓両国の共有する文化を研究することは、独創的な取組であり、そこで得られた成果は、アジアの文化財行政の多角的な取組に新たな視点を提示している。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 研究員派遣数 | 研究員受入数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
派遣、招聘とも、文化財行政の現場の第一線で活躍するメンバーで行なわれ、各々の滞在期間中に、研修、セミナー、将来の展示会準備、シンポジウムと実際的な活動が行なわれ、高い効果をあげている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財の活用、保存修復を通じての諸外国との活動は、国立博物館がわが国のみならず海外に向けてもその技術、経験を広く伝えるという点において、文化財行政という観点で極めて大きな貢献をしているということができる。また、その結果を展覧会やシンポジウムに結実することで、広く市民に対しても活動の成果が還元されている。翌年度に実施予定の海外展準備も順調に進んでいる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 3 ヵ年にわたるタイとの交流は、相互に博物館の地域共生という問題についての成果をあげており、さらに展覧会の開催へと事業が継続している。<br>韓国との交流については、修理技術や学術面での情報交換が行なわれたことで、今後の両国間の文化財を通じた交流に大きな足跡を残した。今後の人的交流、文化財の貸借などの事業に向けての土台作りの役割も担ったものといえる。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2)文化財の材質・構造等に関する共同研究　((5)-①-ｖ) |

【事業概要】

九州国立博物館において、X 線 CT を用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の健康状態や制作技法を理解し、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 環境保全室長　今津節生 |

【スタッフ】

臺信祐爾(文化財課長)、河野一隆(企画課文化交流展室長)、市元塁(企画課研究員)、楠井隆志(展示課主任研究員)、坂元雄紀(展示課研究員)

【主な成果】

国宝阿修羅展に出品された八部衆・十大弟子像など、奈良時代の脱活乾漆像の保存状態と内部構造をデジタル情報として記録できた意義は大きい。この情報は今後の保管管理に役立つだけではなく将来の修理の基礎情報や脱活乾漆像の製作技法を解明する学術的な基礎情報として役立つことが期待される。

【年度実績概要】

九州国立博物館の展示に借用する文化財を中心に、1 年間で約 300 点の CT 調査を実施した。得られた成果は、常設展での展示の際に活用している。

また、特別展で借用した阿修羅像ほか八部衆の調査では、脱活乾漆像の保存状態や製作工程などを明らかにした。阿修羅像の調査成果は新聞紙上にも掲載され大きな話題となった。今回の CT 調査によって、阿修羅展に出品された脱活乾漆像の健康状態と内部構造を客観的に記録できた意義は大きい。この情報は今後の保管管理に役立つだけではなく将来の修理の基礎情報や脱活乾漆像の製作技法を解明する学術的な基礎情報として役立つことが期待される。

外部との連携としては、住友コレクションとして世界的に著名な泉屋博古館の所有する中国青銅器について中国古代青銅器の展示に合わせ X 線 CT スキャナ、精密三次元計測、三次元プリンタを中心とする科学的な調査を実施した。その結果、中国古代青銅器の製作技術を非接触非破壊で解明することができた。この研究成果は日本文化財科学会と東アジア文化遺産保存学会中国考古学会で発表した。また、トピック展示(進化する博物館Ⅱ-みる・きく・ふれる、神々の青銅器への誘い-)では、作品の理解を助けるハンズオンの複製展示として活用した。

【実績値】

調査件数　約 100 件

| | |
|---|---|
| 日本文化財科学会での発表 | 5 件 |
| 文化財保存修復学会での発表 | 3 件 |
| 東アジア文化遺産保存学会での発表 | 1 件 |
| 中国考古学会での発表 | 1 件 |





殷周青銅器の構造解析と複製のハンズオン展示

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
効率性では、安全・敏速に撮像できる体制が整った。国内各博物館等からの調査要請が多く、我が国の文化財科学情報のセンターとしての期待が高まっている。得られたデータを展示で活用するために、三次元プリンタを活用した複製品を作製し、実物作品の理解を進めるためにハンズオン展示した。
今後は、さらに展示への活用、デジタルデータの共同利用に向けて研究を進めたい。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 学会発表数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
保存修復学会には約 600 名、文化財科学会には約 400 名の研究者が参加した。また東アジア文化遺産学会には中国・韓国・日本の研究者が約 200 名参加した。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財用の X 線 CT としては、世界的で最も優れた装置の一つであり、内外の研究者からその有用性について高い評価をいただいた。泉屋博古館、徳川美術館、興福寺など国宝・重要文化財を保有する機関との連携研究も具体的に進んでいる。<br>22 年度は、より幅広い他機関との連携を目指しデータの活用を進めると共に、展示への活用を進めたい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 九州国立博物館では展示に際し文化財を常に借用するため、X 線 CT スキャナ装置で文化財所蔵者と共同調査し成果を上げることで、他の博物館との連携が進みつつある。本年度は、得られた成果を本博物館のトピック展示として公開したが、22 年度はさらに広い範囲で展示に活用したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-3

(様式 1)

# 業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3)　博物館における文化財保存修復に関する研究　((5)-①-ｖ) |

【事業概要】

当館文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。

| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 研究員　志賀　智史 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

篠崎悠美子(客員研究員)、村田忠繁(特任研究員)、藤田励夫(保存修復室長)、松尾かをる(研究補佐員)、藤岡春樹(国宝修理装こう師連盟九州支部長)、平河智恵(国宝修理装こう師連盟九州支部技師)、木下陽介(国宝修理装こう師連盟九州支部技師)

【主な成果

吉備国際大学から 2 名、九州産業大学から 2 名、別府大学から 3 名の合計 7 名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。

【年度実績概要】

別府大学の篠崎悠美子教授を客員研究員とし、保存修復施設を利用し、地域の大学との協業を果たすことを目的とした短期インターンシップ研修プログラムを平成 17～20 年度の実績を踏まえ検討、改善した。成果は 8 月 17 日(月)～21 日(金)の 5 日間にわたり国宝修理装こう師連盟の協力を受け、吉備国際大学と九州産業大学、別府大学の学生 7 名に対して、装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」として開催した。研修では障壁画下貼り作製に関する講義と実習を通して、文化財保存修復についての理解と研鑽を深めた。

【実績値】

研修開催実績　　平成 17 年度より 5 回目

今年度研修参加学生

| | |
|---|---|
| 吉備国際大学 | 2 名 |
| 九州産業大学 | 2 名 |
| 別府大学 | 3 名 |
| 計 | 7 名 |



研修風景

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 研修開催数 | 参加者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考<br>短期の実習としては適切な数である。 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財を伝えるため修復技術者の育成は必要不可欠であるが、学生・大学院生に対してこのような研修を行っている機関は極めて少ない。少数の研修生で毎年継続することに意味のある事業であり、平成 22 年度以降も実施する計画である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 平成 17 年度より少人数の実習を継続的におこなっており、参加者数も安定している。平成 22 年度以降も同様な研修を実施する計画である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-4

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 4)博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究　((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

平成 21 年度文化庁美術館・博物館基盤整備支援事業「市民と共に　ミュージアム IPM」を、地域の博物館等と連携協力し、実施した。本事業は、地域に展開可能なミュージアム IPM 支援者育成プログラムを策定し、館の保存管理機能の基盤強化と共に地域のミュージアム支援者層の拡大に寄与するものである。

連携機関及び当館のボランティア等の市民にモデル研修会、ワークショップへ参加いただきその意見をもとに支援者育成プログラムの策定をはかると同時に、公開シンポジウムを開催し地域や市民への普及に努めた。

| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館科学課長　本田光子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

三輪嘉六(館長)、森田稔(副館長)、高田裕康(交流課長)、神谷真美(総務課長補佐)、村田忠繁(特任研究員)、今津節生(環境保全室長)、鳥越俊行(環境保全室主任研究員)、上野智彦(交流課主任研究員)、上野敦子(研究補佐員)

【主な成果】

研修会等参加登録者は、九州国立博物館および地域連携機関のボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者育成プログラム案策定に充分活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を具体的に進める目途が得られた。公開シンポジウムでは市民の活動報告と専門家の講演により、市民の理解を深めることができた。

【年度実績概要】

1. 人材育成プログラムの策定

「ミュージアム IPM 支援者育成プログラム策定会議」を開催し、これまでの取り組み実績や九州国立博物館で実施している現行の IPM ボランティア活動内容を評価検討し、人材育成プログラム案を策定する。ワーキンググループによるプログラム案を協力者会議で検討し、問題点や課題を検討している。

2. 研修会・ワークショップの実施

文化財の保存科学と生物被害の基礎を学ぶ研修会と、文化財環境保全のための調査と IPM を進めるための基礎スキルを体験するワークショップを、各 2 回開催する。50 名の登録者を募り実施し、研修会は終了、ワークショップ最終回を 11 月末に実施。

3. 公開シンポジウムの開催

公開シンポジウムを開催し、市民協同型ミュージアム IPM の必要性や重要性を広く社会へ紹介するとともに、その担い手であるボランティアや NPO 法人等支援者達からのメッセージを地域社会へ直接伝える場とする。5 名の市民による報告会と専門家による講演 5 本および座談会の構成で、11 月末に開催した。

【実績値】

| | | |
|---|---|---|
| モデル研修会等参加登録者 | 50 名 | |
| ガイダンス | 4 回 | 各回 40 名程度参加 |
| 研修会開催回数 | 4 回 | 各回 40 名程度参加 |
| ワークショップ開催回数 | 4 回 | 各回 40 名程度参加 |
| 施設見学 | 4 回 | 各回 40 名程度参加 |
| 公開シンポジウム参加者 | 190 名 | |
| 協力者会議 | 2 回 | |
| ワーキンググループ検討会 | 6 回 | |

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 協力者会議開催回数 | ワーキンググループ検討会 | ガイダンス、研修会・ワークショップ・見学会開催回数 | ガイダンス、研修会・ワークショップ・見学会延参加者数 | シンポジウム開催回数 | シンポジウム参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>モデル研修会等参加登録者は 50 名であり、各回とも 80%以上の出席であった。 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今回の事業が、IPM をひとつの切り口とした、九博の着実な取組を多くの方々に理解していただく契機になるとともに、館の規模や設置形態を超えて、広く参考となるモデルを示すことができた。次年度には、本プログラム案を基にした研修実施計画を検討、開催し、地域との連携を深めながら、より広範な普及をはかるようにする。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 地域の支援者層の拡大充実を図ることで、市民や機関との連携を深めながら、より積極的に文化財に関する調査及び研究を推進した。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-5

（様式 1）

# 業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 5)文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築　((5)-①-ｉ) |

【事業概要】

近年の温暖化による影響のためか、地域の寺社が所蔵する文化財のカビ被害について、その処置および改善計画の助言に関する要請が増加している。これを受け、主として収蔵庫の環境調査を継続して実施し、地域の文化遺産保全のための保存環境についてその実体把握を行うと共に、地域の文化財保護行政や所有者を含めた保存環境管理システムを構築することを目指す。

| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館科学課長　本田光子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

三輪嘉六(館長)、森田稔(副館長)、伊藤嘉章(学芸部長)、村田忠繁(特任研究員)、藤田励夫(保存修復室長)、志賀智史(保存修復室研究員)、松尾かをる(研究補佐員)

【主な成果】

平成 18 年秋の特別展に福岡市内の神社が所有する市指定品の絵馬を借用した所カビ被害が認められたので、同年当館保存修復施設で処置を実施し返却した。翌 19 年に再度カビが発生し、当館が指導助言依頼を受け、処置を行うと共に、神社宝物庫についての環境調査を平成 21 年 11 月まで実施し、保存環境ならびに日常管理の改善が必要であることがわかった。

【年度実績概要】

国や県市の指定文化財を所有する福岡市内の寺社三ヶ所について、環境調査を継続している。

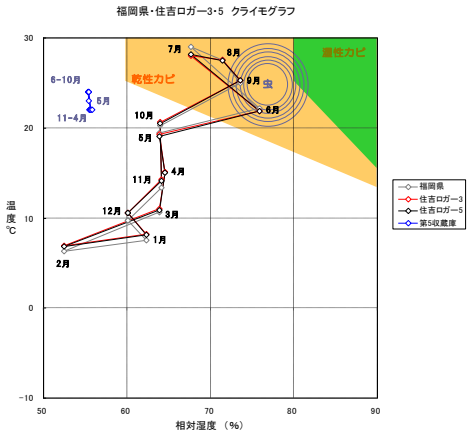
今年度は神社宝物庫の庫内・棚・桐箱内等の温湿度計測による環境調査の区切りがつき、改善策の提案を行った。年間を通してその神社がどのような温湿度環境で推移しているかをデータで示し、宝物庫については、その清浄度の維持及び空気循環の促進また必要に応じた細やかな除湿等による日常管理を徹底することが望ましいことを提案した。しかしながら、そうした作業へ人の配置を行うことは俄に無理とのことであり、結果として、当館へ寄託の申し出を受けた。

継続調査中の他の 2 例についても、ほぼ同様な状況であり、地域の文化遺産の保存環境は多くの場合、細やかな日常管理を継続することで、より良好な状態を維持することができることがわかってきた。

継続した環境調査の必要性はもとより、そうした環境調査や日常管理を担うサポート的な人材育成も視野に入れた保存環境システム構築の必要性が明らかになってきた。



温湿度データの回収




神社宝物庫に関係するクライモグラフ

【実績値】

○調査件数　　寺社宝物庫環境調査　　3 件
○調査期間　　(A)1 年、(B)2 年、(C)5 年
○従事研究員数　　4 名

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-5

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 社会性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | A |

備考

地球温暖化の影響を受けていることもその要因の一つであると考えられるような、寺社所有文化財のカビ被害について、継続的対応をしつつ、地域の文化財保存管理の一端を担うシステムを構築する取り組みは、社会的な貢献を果たす。従来、博物館による寺社調査は、文化財の内容や保存状態の把握にとどまることが多かったが、気候や社会の動きに応じて、今後はさらに必要となる役割である。しかしながら、現体制での作業は効率性に欠ける所があり、サポ-ト要因養成も含めやや改善が必要である。

2．定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 調査期間 | 従事研究員数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | B | | | |

備考

地域からの要請に応じた形で開始される調査が主となるため、調査件数・期間とも、文化財所有者の事情によるところが大きい。これまでの所は、要請に応えながら、成果をあげてきたが、今後は寺社関係者のみならず、地域のサポ-タ-育成に取り組む必要がある。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 地元の文化財保護行政や文化財所有者への支援を継続しており、地域における文化財保存修復の拠点として、ナショナルセンターの役割を果たしている。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 地域の支援者層の拡大充実を図る他のプロジェクト「ミュージアム支援者育成事業」との連携を深め、積極的に取り組む方向性の検討を始めることにより、成果をあげることができる。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-6

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 6)東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究(UNESCO との共同)　((5)-①-ⅱ) | | |
| 【事業概要】<br>絵画、書跡、古文書等の文化財修復には、伝統的な材料と技術を用いた手漉き紙が不可欠である。東アジア各国では、伝統手漉き和紙の技術が廃れ、良質の手漉き紙を入手することが困難になってきており、いずれは消滅してしまう危機に瀕している。そこで、日本、中国、韓国を中心とする手漉き紙の技術について、現地調査を実施し、保存策策定のための資料を得る。 | | | |
| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復室長　藤田　励夫 |
| 【スタッフ】<br>森田稔(副館長)、本田光子(博物館科学課長)、志賀智史(研究員) | | | |
| 【主な成果】<br>中国においては UNESCO との共同調査により、貴州省内の少数民族布衣族と苗族の手漉き紙技術について調査した。<br>日本においては、美濃、越前、金沢、富山の手漉き和紙製作現場 5 ヵ所を調査した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>日本および中国の調査地においては、動画撮影、写真撮影、聞き取り調査、調書作成、サンプル収集などを実施した。<br>また、中国の調査地においては、中国各地から集まった文化財関係者とともに研究会を開催し、主に中国各地の手漉き紙製作についての発表が行われた。日本から九州国立博物館のスタッフのほか、高知県立紙産業技術センターの研究員、紙文化財の修理技術者の代表が出席した。 | | | |
| 【実績値】<br>調査地　海外：中国　2 件(貴州省衣族、苗族)<br>　　国内：　　5 件(美濃、越前、金沢(2 か所)、富山) | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-6

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | B | B | B | B |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 海外調査 | 国内調査 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| B | 中国、国内共に効率的に手漉き地生産地を調査し、資料を入手することができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | ほぼ計画通りに実施されている。次年度以降、収集した調査結果を集約し、修理現場へ還元していくことが望まれる。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-7

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 7)ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

本研究では、日本列島に分布する装飾古墳を対象とし、写真測量技術を応用して壁画に影響を与えることなく、石室全体を客観的に記録する方法を開発した。この技術を活用して装飾古墳の記録・管理の事業を展開し、博物館や web 上で展示・公開するためのデジタルアーカイブを構築する。これにより装飾古墳を 3 次元的に記録する研究基盤を確立する。また、装飾古墳の現状記録としては、石室構造や文様の写真を高精細画像として撮影する。

| 【担当部課】 | 企画課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化交流展室長　河野一隆 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

研究分担者　赤司善彦　(九州国立博物館)
研究協力者　池田朋生　(熊本県装飾古墳館)・嶋村一志（泉崎村教育委員会）
前田達男　(佐賀市教育委員会)・吉田東明（福岡県教育委員会）
原田保則(武雄市教育委員会)・渡部俊哉(白石町教育委員会)
武廣正純・天賀光広・村上浩明　((株)とっぺん)
小堀昇　((財)日本地図センター)・堀耕平(南相馬市教育委員会)

【主な成果】

今年度の研究では、装飾古墳のうち石室 4 基(佐賀市西隈古墳・宗像市桜京古墳・武雄市勇猛寺古墳・みやこ町古墳)、横穴墓 2 基(泉崎村泉崎横穴・南相馬市羽山横穴)を対象とした。その結果、本研究によってデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 12 基・横穴墓 6 基で、福岡・大分・佐賀・熊本・福島の各県に亘った。特に、福島県の彩色壁画をもつ横穴墓の調査ができたことは、研究の広がりを考える上で大きな成果となった。また、今までの研究の中間報告として、報告書の作成と裸眼立体視による映像を作成して当館で展示を行った。

【年度実績概要】

本研究では、九州以外の横穴墓をも視野に入れるため、福島県の装飾横穴墓の調査を行った。特に、横穴という狭小な空間で彩色壁画の安全で迅速な記録を遂行することを検証することも目的とした。本研究は、人手による実測図や写真によって記録・管理されてきた装飾古墳に対して、写真測量技術を応用して、非接触によって壁画に影響を与えることなく VR 画像を作成し、石室全体を客観的に記録するための方法の開発と実践の研究である。これにより、石室と壁画の記録方法が従来の実測図の作成と比べて飛躍的にスピードアップしただけではなく、壁画とカビ等の汚損や石室の崩壊などの石室内における位置関係を 3 次元的に記録できるようになり、装飾古墳の保存のためのデータ基盤が確立した。また、長らく閉塞されていた石室(宗像市桜京古墳)や新たに発見された装飾古墳(みやこ町告見大塚古墳)の記録方法としても本研究の一環としての要請を受け、研究だけでなく文化財行政の現場にも大きな寄与があった。これらの方法で製作した VR 画像データは、通常は内部に立ち入れない装飾古墳を博物館で映像展示することにも活用できる。VR 画像は文化財の保存・普及に新しくかつ最適な記録手段であることを提言したい。

また、今年度は 4 ヶ年の研究期間のうち 3 年目に該当することから、今までの研究成果の中間報告として、報告書の作成と VR 画像を裸眼立体できる映像として作成した。前者は今までの VR 画像の成果を印刷出力という形で示すだけでなく、全国の装飾古墳の総覧となるような構成で編集を進めてきている。後者は立体でデジタルアーカイビングされているデータを立体で出力し、博物館展示に組み込む試みである。これは、当館文化交流展示室にて開催される「進化する博物館Ⅱ みる、きく、ふれる～神々の青銅器へのいざない～」(平成 22 年 2 月 9 日～3 月 28 日)で成果公開し、その効果を検証した。

【実績値】

○ＶＲ画像数

・VR 画像の作成を行った装飾古墳は、石室墳 4 基および横穴墓 2 基の計 6 基である。蓄積された古墳数は通算で 18 基となった。
・九州以外の横穴墓の VR 画像化を行い、研究に広がりが出てきた。
・発掘調査と連動して、本研究を組み込むことができ、文化財行政の面でも大きな前進があった。
・平成 19 年度からの研究の中間報告として、報告書を纏め、映像作成を行った。



羽山横穴墓計測風景

○調査回数　6 件
○調査概報　1 件
月刊文化財　第 574 号「古墳壁画の保存と活用」　2009 年
『史跡で読む日本の歴史』2　古墳の時代　2010 年

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-7

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
年度当初の計画通り実施することができた。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | ＶＲ画像数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
着手が諸般の事情により若干遅れたが、年度当初の計画通り実施することができた。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | おおむね、年度当初に描いた通りの計画が遂行できた。とくに、本研究が九州だけではなく、福島県の装飾横穴墓に対しても適用でき、研究の広がりをはかることができた意義は大きい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 昨年からの蓄積では、調査回数・地域とも順調な拡大を続けている。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-8
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 8)近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
日本の近代史の展開に大きな意味を持った工芸の展開について、その展開の契機となった内国勧業博覧会の出品作を中心とした基礎資料を整備する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
小川幹生(名古屋市博物館学芸課学芸員)、土井久美子(大阪市立美術館学芸課学芸員)、高橋美奈子(山種美術館学芸部長)

【主な成果】
第一回内国勧業博覧会、第二回内国勧業博覧会の出品作品について、現存作品についての情報を収集し、それらについての画像データ集成を行なった。第二回内国勧業博覧会については当時出版の博覧会を紹介する文献から、画像による作品データが残されており、これもデジタル化して収集した。

【年度実績概要】
現存作品についてのデータを各自収集し、これを情報検討会で集約した。その中で、工芸の分野別によるデータ整理の分担及び、情報収集、整理作業について協議するとともに、これまでの調査成果を共有することとした。関連すると思われる近代工芸を所蔵する機関・個人について、作品の調査を実施し、作品のデータ化を行なった。各図書館に所蔵されている文献から、関係記事・画像を収集した。内国勧業博覧会出品が明らかな作品について新たな撮影を実施した。地域の研究者に研究データの一部を提供し、新たなデータを入手した。

【実績値】
○収集資料数
第一回内国勧業博覧会・・・写真帖データ(211 件)、褒章授与人データ(1182 件)の複合データベース化。
第二回内国勧業博覧会・・・写真帖データ(137 件)、褒章授与人データ(1621 件)の複合データベース化。
東博購入寄贈作品(680 件)データ化
当時刊行の文献の画像のデータ化。
第三回以降　内国勧業博覧会　関連絵画資料の収集。
○調査回数
作品調査……15 回
資料調査……　8 回
情報交換……　6 回



『第二回内国勧業博覧会列品図録』佐々林信之助編　大島勝三郎の出品作

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-8

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
本研究は、今後の研究の基礎となるデータを集成するものであり、従来の文字情報のみに頼るものから、実際の作品にまで迫ることを目的とすることに独創性がある。これによって当時の評価も研究の対象とすることが可能となる。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
第一回内国勧業博覧会については写真帖データ、褒章授与人データの複合データベースによりデータ化し、第二回内国勧業博覧会については、帝室博物館購入データ、当時刊行の文献から絵画資料を収集してデータ化を進めている。
地域研究者との情報交換を進めつつある。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 出品目録のデータ化は早くに行なわれたが、実際の作品については個別のデータとしてあるのみというのがこれまでの状況であった。今回の研究によって、写真、絵画、さらに文献で紹介の画像、そして現存作品といったデータを収集した。それによって、内国勧業博覧会に出品された作品の実像が明らかになる。さらにそれらに対する評価についても、作品とあわせることで、より正確な理解が可能となった。これらから、近代における工芸の展開をより立体的に捉えることが可能となる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 文字データベースに画像のデータが加わることで、実際の展開を考える基礎データを作ることが出来た。今後、さらにこれを充実させる必要があり、各地の研究者への情報提供をすることで、さらなる情報の集積を図っていく。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-9

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 9)トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

907 年の唐滅亡後、遼、宋、高麗、日本の諸国は、唐の制度・文化を規範としつつ、それぞれに独自の文化を醸成してきたことはよく知られている。まだ十分な基礎的研究条件が整っていなかった遼代文化についても、ようやく近年、内蒙古自治区トルキ山遼墓など、各地で重要な発掘が相次ぎ、考古学的情報を伴う実物資料が飛躍的に増えた。現地で調査研究を実施している内蒙古文物考古研究所と工芸技術の変遷を軸に遼代文化研究の基礎固めとなる共同研究を実施するものである。

| 【担当部課】 | 文化財課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財課長　臺信祐爾 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

今津節生(博物館科学課環境保全室長)、伊藤信二(企画課特別展室長)、市元塁(企画課特別展室研究員)

【主な成果】

フフホトの内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館の作品資料調査 2 回(延べ 5 名)と内蒙古自治区内の赤峰博物館、巴林右旗博物館、上京博物館などの資料調査(延べ 4 名)を実施したほか、内蒙古文物考古研究所研究員らを招聘し、関西地区の資料調査および関係機関見学を実施した。

【年度実績概要】

8 月にスタッフ 2 名が赤峰博物館、敖漢旗博物館、白塔文物管理所、巴林右旗博物館、林西博物館などの資料調査を実施したほか、内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館で資料調査と意見交換を実施した。また別のスタッフ 1 名がトルキ山遼墓から出土した木棺に関する技術的な調査研究を現地スタッフとの協力の下継続して実施した。

9 月にはスタッフ 2 名が京都国立博物館における遼時代並行期を取り扱う「東アジアにおける金属工芸に関する公開国際セミナー」に出席し、韓国・中国および日本国内における金属工芸研究の動向など最新の学術情報を入手することができた。

3 月には内蒙古文物考古研究所関係者(4 名)を招聘し、スタッフ 2 名とともに遼時代と並行するわが国平安時代や高麗時代の作品調査を京都国立博物館や木下美術館などで実施し関係者と意見交換するほか、平安時代仏教美術の粋が今日まで保存されている教王護国寺、比叡山延暦寺や平等院鳳凰堂・鳳翔館の見学なども実施した。

3 月にはスタッフ 2 名が内蒙古文物考古研究所、内蒙古博物館、上京博物館などを訪問し、資料調査と意見交換を実施した。



八角七層白塔
(内蒙古自治区赤峰市巴林左旗所在)

【実績値】

○調査回数　3 回
○収集資料数　150 件
○研究発表　1 件　今津節生・臺信祐爾ほか　「内蒙古自治区吐爾基山遼墓出土彩色木棺の保存　2―三次元計測と保存修復―」　第 31 回文化財保存修復学会研究発表(於倉敷市)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-9

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
発掘調査を各地で実施し、出土品に関する修復や調査研究を実施している内蒙古文物考古研究所および展示に活用している内蒙古博物館との密接な共同研究体制を構築できたため、本研究の研究成果を当館における展覧会の形で広く一般に公開する体制構築の方向性が確認できた。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 研究発表 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物院関係者との共同研究体制が構築でき、現地調査および国内共同調査についても引き続き実施できたため、順調に推移しているといえる。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究は中期計画に沿った内容として遂行できたと考える。<br>来年度は最終年度であり、引き続き現地調査および国内共同調査を通して、本研究の基礎的資料収集を行うとともに総括を行う。あわせて内蒙古文物考古研究所関係者ならびに国内専門家も招聘して一般向けの遼代文化に関する講演会を当館において企画実施したいと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-10

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 10)室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

室町時代に政治権力者や有力寺院が関与して制作･受容された仏教絵画について基礎的な調査研究を行う。その造形的・文化的な意義を中国・朝鮮を含めた東アジアの宗教美術のなかに位置付けることを目的として実施する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画課 | 【プロジェクト責任者】 | 研究員　畑　靖紀 |

【スタッフ】

（主な成果）

本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。

(1)足利将軍家が所蔵した中国仏画に注目し、これらに対する歴史的な認識を考察した。その陳列方法を分析することを通じて、室町時代の道釈画に対する意義付けについて知見を得た。

(2)新出の『印譜集』(ハーバード大学燕京図書館蔵)を中心に、中国仏画に依拠して絵画を制作した室町時代の水墨画家に関する基本資料を収集した。

【年度実績概要】

従来、室町時代の仏教絵画についての研究成果は非常に少ないが、この研究の状況に対して本調査研究では、当該の領域に関する基礎的なデータを収集して歴史的な意義を考察し、それらを東アジアの宗教美術のなかに位置付けることを目的としている。この目的を達成するために、今年度は「主な成果」に記した観点から研究を遂行した。

まず(1)足利将軍家所蔵の中国仏画に対する室町時代の認識については、会所における陳列の方法を分析し、その意義付けを同家の対外関係を重視する政策との関わりから解釈して、仏画を中心とする唐物飾りに対する評価・意義付けを考察した。

また(2)室町時代の水墨画家に関する基本資料については、新出資料である『印譜集』(ハーバード大学燕京図書館蔵)を調査研究した点が特筆される。本資料はアーネスト・フェノロサ(1853～1908)の手稿であり、朝岡興禎(1800～1856)の『古画備考』とともに日本絵画史に関する研究資料として重要である。とくに室町時代の画家に関する記述が多く、室町水墨画の研究における基本文献とみなされるため、これを調査研究したことはとくに大きな意義があると考える。

【実績値】

論文掲載数　2 回
- 東アジア美術文化交流研究会編
  『寧波の美術と海域交流』
- 展覧会カタログ『特別展京都妙心寺』

調査回数　　6 回
収集資料数　200 個
調査概報　　2 回





研究対象資料　『印譜集』部分　ハーバード大学燕京図書館蔵

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-10

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
定性的評価については、国際性・オリジナリティ・多様性・人的投資・基礎性・達成値の観点から、充分な成果が認められると判断される。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | 論文掲載数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
定量的評価については、「調査概報」にかかる目標値である「論文掲載数」1 回をこえる実績値をのこしており、充分な成果と判断される。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 定性的評価についてはとくに国際性とオリジナリティの観点から、定量的評価については公表した成果の実績値から、別記の総合的判断が妥当であると考える。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。<br>科学研究費による本事業については、今後も外部資金などを積極的に活用する方法により、調査研究を継続してゆきたいと考える。 |

【書式Ｂ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4514-11
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 11)近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎研究(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
粉本の流通過程と使用例に注目し、16 世紀における絵画制作の実態を明らかにするための粉本の基礎調査を行う。従来美術史研究の対象から外されていた町絵師作とされる作品を含め、図様の継承を網羅的に行うことで、これまで文字史料に依存していた絵師の情報ネットワークの再構築を試みる。

| 【担当部課】 | 企画課 | 【プロジェクト責任者】 | 研究員　金井裕子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【主な成果】
昨年度までの調査成果を踏まえ、主に以下の点で成果を得た。
1)「平家物語図屏風」(アメリカ・バークコレクション)や「三十六歌仙扁額」(福岡・宗像大社)など粉本を使用したと思われる 16 世紀の絵画作品のうち、代表的な 2 件についての基礎調査を行った。
2)東京芸術大学が所蔵する「住吉家鑑定控」の基礎調査を行った。

【年度実績概要】
室町時代末期から江戸時代初期にかけてのいわゆる近世初期は、日本絵画の需要の拡大に伴い、粉本を用いて同図様の作品が制作される機会が飛躍的に増加した。その例は、同図様を共有する作品群として確認できるものの、実際の粉本の現存例は少なく、その使用例を含めた制作の実態は明らかでない。
本年度は昨年度に引き続き、16 世紀の日本絵画作品のうち、粉本使用が顕著な作品の基礎調査を行い、特に以下の 2 点について成果を得た。
1)粉本使用の代表例とされる「北野天神縁起絵」「平家物語絵」「三十六歌仙絵」などの主題のうち、本年は特に「平家物語絵」「三十六歌仙絵」について調査を進めた。特に「三十六歌仙絵」については、過去に調査した鹿児島県出水市所蔵本と極めて近似した福岡県宗像大社所蔵本のデータを得ることで、図様の伝播についても考察を進めることができた。
2)近世初期の粉本は現存例が極めて少なく、江戸時代初期から活躍した絵師である狩野家、土佐家、住吉家の鑑定控は非常に重要な史料である。このうち、狩野家と土佐家の鑑定控や史料は出版・刊行され研究が進んでいるものの、住吉家史料は手付かずの状況であった。本年度はこの住吉家史料のうち、「住吉家鑑定控」を特に調査をすすめ、絵師の色認識や形状把握の実態について大いに成果を挙げることができた。

【実績値】
＜論文掲載数＞
特別展「京都　妙心寺」展覧会カタログ　1 回

＜調査回数＞
2009/7/13　福岡・宗像大社　作品調査
2009/11/2　バークコレクション　作品調査
2009/11/4　メトロポリタン美術館　作品調査

＜収集資料数＞
調査撮影写真　978 枚
複写資料　73 枚


「平家物語図屏風」部分　バークコレクション蔵

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-11

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
定性的評価については、独創性・多様性・国際性・基礎性・達成値の観点から、充分な成果を挙げることができた。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 論文掲載数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
年度当初の計画通りに遂行することができ、調査回数や収集資料数などを鑑みても、充分な成果を挙げることができた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 国内調査１回、国外調査２回の作品調査と、それに付随する文字資料調査の回数、および調査内容の独創性と国際性を鑑み、A評価が妥当であると判断した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-12

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 12)埴輪に認められる赤色顔料についての基礎研究（科学研究費補助金）((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】

埴輪に認められる赤色顔料について、粒子の形態分類や組成による分類を行い、編年や地域性を検討することを目的として実施する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 研究員　志賀智史 |

【スタッフ】

【主な成果】

埴輪に認められる赤色顔料は、全てベンガラであった。出土ベンガラは直径 1μｍのパイプ状粒子を含むものと、これを含まないものに大別されるが、中国・四国、近畿地方ではパイプ状粒子を含むベンガラを用いる地域と、これを含まないベンガラを用いる地域があることがわかった。

【年度実績概要】

今年度は中国・四国、近畿地方を中心に調査をおこなった。埴輪に認められる赤色顔料は、全てベンガラであった。出土ベンガラは直径 1μｍのパイプ状粒子を含むもの(以下、ベンガラ(Ｐ))と、これを含まないもの(以下、ベンガラ(非Ｐ))に大別されるが、四国と近畿地方ではベンガラ(Ｐ)を用いる傾向があること、中国地方ではベンガラ(非Ｐ)を用いる傾向があることがそれぞれ判明した。

昨年度の調査結果でも、北部九州地域では玄界灘周辺でベンガラ(非Ｐ)を用い、筑後川下流域では、ベンガラ(Ｐ)を用いることが明らかになっており、西日本一帯で埴輪に使用されているベンガラに地域性が認められる可能性が指摘できる。

ベンガラ(Ｐ)に含まれるパイプ状粒子については、湖沼に生息する鉄酸化細菌を焼成して得られたものであることが先行研究で判明している。ベンガラ(非Ｐ)については、現段階では原料が何であったのか不明である。また、この地域性が何を意味するのかも今後の検討課題である。

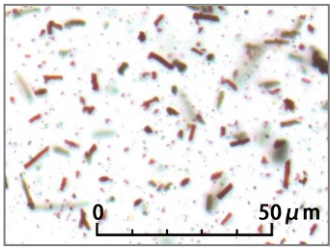
【実績値】

○調査概報

志賀智史 2009「巨大なパイプ状のベンガラ粒子について」
『日本文化財科学会第 26 回大会研究発表要旨集』
日本文化財科学会，196-197 頁

○調査回数　16 回

○収集資料数　約 100 点




パイプ状ベンガラ

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-12

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | B | B | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 埴輪の赤色顔料の材質についてのはじめての調査研究である。これまで知られていなかった地域性が明らかになりつつある。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| ほぼ順調 | 地域性があることが明らかになりつつある点は大きな成果であり、目的を順調に達成しているといえる。しかし、編年については、現時点では変化は認められない。次年度以降は対象をさらに北へ広げ、3 年間の研究成果を纏めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4514-13

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 13)被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）((5)-①-ｖ) |

【事業概要】

可搬式の簡便な真空凍結乾燥装置を開発、作製して被災時に行える文化財救済方法のひとつとして真空凍結乾燥法の応用の可能性を探る。とりわけ、紙素材の水濡れ資料や劣化のために頁が固着した資料を対象に本装置の機能性や安全性を確認し、災害時での活用に備える。

| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 特任研究員　村田　忠繁 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

川本耕三(元興寺文化財研究所)　大久保治(元興寺文化財研究所)　藤田浩明(大阪市文化財協会)

【主な成果】

昨年度の歴史資料に続き本年度は写真資料での応用を試みた。被災を想定して、写真プリントを劣化させその要因や速度を考察した。水損によるプリントの固着も試し、原因を調べた。劣化条件の異なるサンプルを、真空凍結乾燥法で救済することが可能かを、本科研で作製した可搬式の簡便な真空凍結乾燥装置で試験をした。

【年度実績概要】

奈良県生駒市の元興寺文化財研究所において、被災した写真プリント資料を想定して、色見本(カラーチャート)を撮影したサービス版プリントを 20 枚まとめたものを、ポケットアルバムに入れたものとそのままとめたものを、水道水、純水、池、川、放置した水に漬け置き劣化させた。

それぞれの水の化学分析を行い腐敗物質の確認をしたところ、一般生菌が池、川、放置水から検出し、大腸菌群は池から検出した。リン酸、硝酸の値が高かったのは放置水であった。また、川、放置水での資料に固着が認められた。



試験に使用した水

ｐＨは、純水 5.83、放置水 6.39、水道水 6.69、池 6.74、川 7.61 の値を示し、処理後も中性域の中であった。

最大 14 日間漬け置きさせたこれらの資料を劣化状況ごとに分類し、水損資料の劣化開始の状態を確認した。

その後、可搬式の真空凍結乾燥装置で処理を施した。結果は良好であったが、凍結乾燥を必要とする資料と風乾で問題ない資料との選別が必要となった。







3 日目に確認したプリントサンプル

【実績値】

○試験回数
　写真資料の劣化試験
　劣化した写真資料の真空凍結乾燥試験
○試験資料数　150 件
○学会研究会発表　文化財保存修復学会第 31 回大会

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-13

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | B | B |

備考
　可搬型の簡便な装置を作製し、紙素材の被災資料の救済に備えるための試験を実施できたことは、文化財の災害対策に有効な試みといえる。特に写真資料の劣化において、その速度や要因から救済方法を提示できたことは研究の更なる発展性が認められる。

2．定量的評価

| 観点 | 試験回数 | 試験資料数 | 研究発表件数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | | | |

備考
　写真資料のサンプル数に制限があり、想定した劣化状況が完全に作れなかったが、多くのデータが得られ救済の目安を提示できうる状況になった。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 3 年間の研究期間を効率的に試験実施できた。　初年度の装置開発作製、次年度の古文書を含む歴史資料での試験実施、今年度の写真資料での実施と計画に沿った試験・研究が行えた。それぞれの試験結果については学会での報告を行うことができて、多くの意見を集約できた。本研究で明らかになった改善策等を新たな課題として研究対象とすることが必要である。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 写真資料の劣化試験、真空凍結乾燥試験が定性定量的に実施できたことは、被災時での資料救済の目安やマニュアル作成に寄与できた研究である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-14

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 14)近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流(科学研究費補助金)((5)-①-ⅱ) | | |
| 【事業概要】<br>本研究の目的は、中近世日朝交流史を「偽使」「偽書」というキーワードによって連続的にとらえるとともに、とかく日朝外交事件としての側面が注目されがちである「柳川一件」について、対馬藩の御家騒動としての側面に重点をおいて再検討することである。具体的な研究テーマとしては、(1)「中近世日朝交流と偽使・偽書」、(2)「柳川一件の政治史的分析」を設定している。 | | | |
| 【担当部課】 | 文化財課 | 【プロジェクト責任者】 | 荒木　和憲 |
| 【スタッフ】 | | | |
| 【主な成果】 | | | |
| 【年度実績概要】<br>プロジェクト責任者が、平成 21 年 3 月 31 日付で退職(文化庁文化財部文部科学技官採用)したため、年度実績なし。 | | | |
| 【実績値】 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-14

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 観点 | | | | | | |
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 観点 | | | | | | |
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| F | |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| | |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-15
(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 15)Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析((5)-①-ⅱ) |

【事業概要】
九州国立博物館において、X 線 CT、精密三次元計測機、三次元プリンタ等の科学調査機器を用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の状態や製作技法を理解し、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

| 【担当部課】 | 博物館科学課 | 【プロジェクト責任者】 | 環境保全室長　今津節生 |
|---|---|---|---|

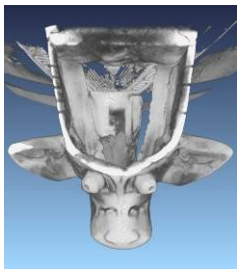
【スタッフ】
森田　稔(副館長)、河野一隆(企画課文化交流展室長)、市元塁(企画課研究員)、鳥越俊行(博物館科学課主任研究員)

【主な成果】
泉屋博古館の所蔵品を中心に、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、中国側の古代鋳造技術研究者とも協力して共同研究を展開した。さらに、科学的な調査結果と広く観覧者に公開するためにトピック展示を実施した。

【年度実績概要】
九州国立博物館の展示に借用する文化財を中心に、1 年間で約 60 点の CT 調査や精密三次元計測を実施した。得られた成果は、常設展での展示の際に活用している。
本研究は、Ｘ線 CT スキャナならびに 3 次元計測器を使用して得られたデジタルデータを蓄積しアーカイブを構築し、そのデータを活用した共同研究・博物館展示の可能性を探るものである。とくに、Ｘ線 CT 装置では複雑な形状の青銅器の内部構造の解析、精密 3 次元計測では青銅器表面に施文された精緻な文様の記録などを行った。共同研究では 3 次元データの相互比較から得られる製作技法の抽出などを行った。また、博物館展示では、銘文や青銅器表面文様の拡大パネルや 3 次元モデルとして出力し活用した。
その結果、中国古代青銅器の製作技術を非接触非破壊で解明することができた。この研究成果は日本文化財科学会と東アジア文化遺産保存学会中国考古学会で発表した。また、トピック展示(進化する博物館Ⅱ―みる・きく・ふれる、神々の青銅器への誘い―)では、作品の理解を助けるハンズオンの複製展示として活用した。


X 線 CT による中国古代青銅器の調査

【実績値】
調査点数　約 60 点
日本文化財科学会での発表　1 件
東アジア文化遺産保存学会での発表　1 件
中国考古学会での発表　1 件



殷周青銅器の構造解析

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-15

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
　独創性と効率性では、国内外の研究者から注目を集めた。発展性では取得したデジタルデータから三次元プリンタで正確な複製品を作製する技術を開発し展示に活用した。正確性では高精度を保った計測を行いデジタルデータを蓄積している。今後は、さらに展示への活用、デジタルデータの国際的な共同利用に向けて研究を進めたい。

2．定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 学会発表数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
　文化財科学会には約 400 名の研究者が参加した。また東アジア文化遺産学会には中国・韓国・日本の研究者が約 200 名参加した。また、中国人研究者を招聘して研究協議を行った。今後はさらに国際的な共同研究を進めたい。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財用の X 線 CT としては、世界的で最も優れた装置の一つであり、国内外の研究者からその有用性について高い評価をいただいた。京都泉屋博古館、中国上海博物館・南京博物院など外部機関との連携研究も具体的に進んでいる。<br>22 年度は、より幅広い他機関との連携を目指しデータの活用を進めると共に、展示への活用を進めたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 九州国立博物館では展示に際し文化財を常に借用するため、X 線 CT スキャナ装置、精密三次元計測装置等を活用しながら成果を上げることで、国内外の博物館との連携が進みつつある。22 年度はさらに広い範囲で展示に活用したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-1
(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 1)博物館環境デザインに関する調査研究　((5)-②-ｉ) | | |
| 【事業概要】<br>東京国立博物館における文化財の展示環境について調査研究し、今後の展示環境の向上に結びつけることを目的として実施する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | デザイン室長　木下史青 |
| 【スタッフ】<br>矢野賀一(デザイン室 主任研究員) | | | |
| 【主な成果】<br>展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。<br>また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>①東洋館 耐震改修工事にともなう代替陳列『表慶館 アジアギャラリー』8 月 4 日～継続中(写真)<br>・ LED 照明システムによるアジア・仏教彫刻への照明手法<br>・ 多国語対応(日/英/中/ﾊﾝｸﾞﾙ)による、展示解説システムの導入<br>②平成館 特別展『染付　−藍が彩るアジアの器』 7 月 14 日(火)～9 月 6 日(日)(写真)<br>・ 館所蔵の「歴史的展示ケース」(明治時代)をリニューアルした展示手法<br>・ ガラスに低反射フィルムを張り、新たに光ファイバー照明を設置した。<br>・ 皿や壺など陶磁器の質感を効果的に見せるため、色温度変換フィルター等を使用して、きめ細かい色温度調整を行った。<br>③本館 特別 5 室　文化庁海外展　大英博物館帰国記念『国宝 土偶展』<br>2009 年 12 月 15 日(火)～2010 年 2 月 21 日(日)(写真)<br>・ 土偶の姿勢を固定する展示具、照明効果を考慮したアクリル展示台の作成。演出的な案内誘導サインの作成、およびアンケートシステムの試行的導入。 | | | |
| 【実績値】<br>研究会発表件数　　5 回<br>・ 東京ｲﾝﾃﾘｱﾌﾟﾗﾝﾅｰ協会 講演会<br>・ ＪＡＧＤＡ神奈川 講演<br>・ 日本美術解剖学会 講演　等<br>論文掲載数　　3 回<br>・ 『文化資源學』　等<br>他館調査　約 12 回<br>・ 故宮博物院(台湾・台北市)<br>・ 故宮博物院、国家博物館(中国・北京市)<br>・ 大阪市立自然史博物館(大阪)<br>・ 山種美術館(東京)<br>・ 根津美術館(東京)<br>・ 大英博物館(ロンドン)<br>・ Ｖ＆Ａ美術館(ロンドン)　等　他約 5 件 | | | |
| 【備考】 | | | |


①『表慶館 アジアギャラリー』


②『染付　−藍が彩るアジアの器』



③『国宝 土偶展』

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
博物館における展示・公開は技術的な裏づけの調査研究に基づき、時代に会った見せ方と見え方の評価が求められる。またデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、他館における具体的な事例調査を行った。

2. 定量的評価

| 観点 | 研究発表件数 | 論文掲載数 | 調査回数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | | | |

備考
研究・調査によって明らかになった技術・手法を、当館の特別展および平常展において、どのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、研究会・論文等で発表した。また実現可能なものについては館内の展示において実施し、継続的に調査を行っている。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 計画的に導入を継続している、質の高い展示・照明システムにより、展示のバリエーションが広がったといえる。さらに照明器具の問題点についてメーカーと改良を進めている。具体的には 22 年度予定の特別展・平常展への導入・実施に向け、デザインを進めている。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、独創的アイデアの創出と技術開発および館内展示システムの充実に力を注ぎたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-1

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 2)博物館美術教育に関する調査研究　((5)-②-ⅲ) | | |
| 【事業概要】<br>当館本館 20 室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」において、平常展示と密接に関連した博物館教育事業の理論と実践に関する調査研究を実施し、その成果の一部をミュージアムマネージメント学会等で発表する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 【スタッフ】<br>鈴木みどり(博物館教育課教育普及室主任研究員) | | | |
| 【主な成果】<br>本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。加島及び鈴木は、このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し口頭発表した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>・　当館本館20室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」において、スライドショー「東京国立博物館ガイダンス」、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」、制作工程模型展示「孔雀明王像ができるまで」の博物館教育事業を実施した。<br>・　上記事業を博物館教育の一事例として、その理論と実践について以下のように発表した。<br>加島勝「博物館活動におけるボランティアの活用」(文化庁美術学芸課主催　平成20年度「第6回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー。口頭発表)<br>鈴木みどり「誰のためのミュージアムリテラシー？」(ミュージアムマネージメント学会第一回基礎研究部門。口頭発表) | | | |
| 【実績値】<br>セミナー発表回数　文化庁美術学芸課主催「指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー1 回<br>学会発表回数　ミュージアムマネ-ジメント学会　1 回<br>その他研究発表　4 回（第三回博学連携ワークショップ等） | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」での平常展示と密接に関連した博物館教育事業を関係学会やセミナーで報告できたことは、今後の国内外の博物館教育研究に寄与するところがきわめて大きい。

2．定量的評価

| 観点 | 研究会回数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 当館本館 20 室の教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」では、博物館のガイダンス機能にくわえ、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開することが可能となった。これは当館の博物館教育を推進する上でも大きな成果といえる。またこの事業を通して博物館教育の理論と実践について、担当研究員が研究し、その内容を広く内外に発信できたと思う。今後もさらに研究を続け、博物館美術教育に関する情報発信を精力的に行っていきたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 博物館美術教育に関する調査研究は、教育普及課の研究員を中心に概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。今後も有形文化財を活用しながら博物館美術教育理論の構築ならびに実践的プログラムの開発に取り組んでいきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-3

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3) 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築(科学研究費補助金)((5)-②-iii) |

【事業概要】

博物館教育・普及事業の事例分析を通して、日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画課長　井上洋一 |

【スタッフ】

加島勝(博物館教育課長)、鬼頭智美(企画課国際交流室長)、小林牧(広報室長)、白井克也(列品管理課平常展調整室長)、鷲塚麻季(博物館教育課教育講座室長)、田沢裕賀(調査研究課絵画・彫刻室長)、鈴木みどり(博物館教育課教育普及室主任研究員)、神辺知加(博物館教育課教育講座室研究員)、藤田千織(博物館教育課ボランティア室研究員)、遠藤楽子(企画課国際交流室研究員)、髙梨真行(調査研究課書跡・歴史室主任研究員)

【主な成果】

本年度は 4 年間の研究期間の最終年度にあたるため、これまでの調査研究成果を踏まえ、実験的な博物館教育プログラム「応挙館で美術体験」、博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」を開催し、研究のまとめをおこなった。

【年度実績概要】

前年度までに実施した内外の美術館・博物館へのアンケート調査を集計し、内容を整理した。また、同じく前年度までに実施した内外の美術館・博物館における現地調査でえられたデータについても整理した。さらに本年度は本調査研究の最終年度なので、実験的な博物館教育プログラム「応挙館で美術体験」を行ないアンケート調査を実施し、さらに博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」を開催し、研究のまとめをおこなった。

【実績値】

・博物館教育プログラム　1 回
・研究会開催数　　国際シンポジウム　1 回
・研究発表　4 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
本研究において現代的な博物館教育事業のあり方について、多方面から有益な情報を得るとともに、その情報をもとに国際シンポジウム等での討議・分析を行い、その成果を実際の当館の教育普及事業に反映させている。

2. 定量的評価

| 観点 | 研究会 | 博物館教育プログラム | 研究発表 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | B | | | |

備考
適宜、博物館教育プログラムや国際シンポジウムを開催し、当館招へい海外研究者を交えての意見交換も行った。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本調査研究の最終年度として概ね良好な進捗状況であった。実験的な博物館教育プログラムや国際シンポジウムの開催によって、海外における美術館及び博物館教育に関する参考とすべき先進的な教育・普及プログラムの情報をえることができ、さらに研究者間の交流も深めることができた。<br>前年度までの研究成果をふまえ、今後の博物館・美術館における意義深い教育・普及活動の実践のための理論と、それに基づいたプログラムをまとめる予定である。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本調査研究は、研究スタッフの協力の下、概ね研究計画にそったかたちで順調に進められたと考える。本調査研究の成果にもとづき、将来の日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発すべく努力していきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-4

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 4)博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | | |

【事業概要】

東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発を通じて、資料情報と学芸業務情報の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理および蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館情報課情報管理室長　丸山士郎 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

村田良二(博物館情報課情報管理室研究員)

【主な成果】

東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、改善すべき課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、鑑査会議管理機能における修理関連機能の機能要件を調査のうえ実装した。さらに、文化財移動情報登録システム等の外部システムとの連携について検討・実装を進めた。

【年度実績概要】

収蔵品管理システムの運用を継続することにより、収蔵品のデータ更新・追加・訂正を円滑に行える環境を維持し、運用経験から改善のための課題を抽出した。これらの課題については、随時システムを更新することにより迅速に対応した。特に、貸与管理機能と鑑査会議管理機能における定型文書の出力についてきめ細かい改善を積み重ねた。

鑑査会議管理機能においては、修理議案については運用がされていなかったが、改めて機能要件について調査を行ない、実装を進めた。

収蔵品管理システムとは別に開発した文化財移動情報登録システム(プロトタイプ)と連動して、所在情報の一元管理に向けた機能を試験的に実装した。また保存修復情報のために開発中のシステムとの連携について検討を進めた。




収蔵品管理システム
(プロトタイプ)

【実績値】

作品データ件数　　180,299 件
平常展データ件数　　2,039 件
鑑査会議データ件数　　19 件
貸与データ件数　　492 件

○研究会等での発表　6 件

村田良二「東京国立博物館 収蔵品管理システム開発経験から」(第 4 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム 於東京国立博物館) 平成 21 年 12 月 4 日

Ryoji Murata, “Collection Management System of Tokyo National Museum,” PNC Annual Conference 2009, Taipei, 平成 21 年 10 月 8 日

村田良二「デジタル資料管理モデルに関するコメント」(デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究 公開研究会　於国立歴史民俗博物館) 平成 21 年 10 月 23 日　　ほか 3 件

○論文等掲載数　3 件

村田良二「デジタル資料情報記述モデルに関するコメント」,『デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究』公開研究会資料集, 国立歴史民俗博物館, 平成 21 年 10 月 23 日

村田良二「東京国立博物館　収蔵品管理システム開発の経験から」, 第 4 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム『日本のアート・ドキュメンテーション 20 年の達成』予稿集, アート・ドキュメンテーション学会, 平成 21 年 12 月 4 日

田良島哲「博物館における業務情報の共有と IML (Inter-Museum Loan)システムの可能性」, 情報知識学会誌 Vol. 19 (2009) , No. 2 pp.70-73, 情報知識学会, 平成 21 年 5 月 1 日

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>博物館のシステムに必要な機能を着実に開発しており、業務の円滑化と情報の効果的な蓄積につながっている。最新の技術も取り入れており、博物館におけるシステムのあり方を先導的に示すものとなっている。 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 収集データ件数 | 研究会等<br>発表件数 | 論文掲載数 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | |
| 備考<br>効果的な業務支援機能により、学芸業務を行う流れのなかで効率的に無理のないデータ収集が可能になっている。 | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 収蔵品のデータ蓄積と業務支援を密接に連動させたシステムにおいて効果的にデータの蓄積を行えることが確認された。今後はさらに未実装の業務支援機能、特に特別展関連の機能等の開発を進め、さらに総合的な博物館情報システムとして発展させることが課題である。また、収蔵品データを外部へ公開する場合のシステムの要件についても具体的な検討を進める必要がある。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 各分野の研究員、業務担当者と連携をとりながらシステム開発を継続し、博物館におけるシステムの参照実装となるよう、さらに調査研究を進めていく。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-5

(様式 1)

業務実績書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| プロジェクト名称 | 5)　凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する((5)-②-ｉ) | | |
| 【事業概要】<br>東京国立博物館における文化財の展示環境について調査研究し、今後の展示環境の向上に結びつけることを目的として実施する。 | | | |
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 【スタッフ】<br>金子啓明(特任研究員)、谷豊信(列品管理課長)、富田淳(調査研究課長)、丸山士郎(博物館情報課情報管理室長)、田良島哲(列品管理課登録室長) | | | |
| 【主な成果】<br>東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で、本年度は東京国立博物館の収蔵品の中かから洛中洛外図屏風　舟木本(重要文化財)について①デジタルアーカイブによる情報蓄積、②ＶＲ(バーチャルリアリティ)手法を用いたコンテンツの開発、③ミュージアム・シアターでのコンテンツの一般公開に関する調査研究を行なった。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>① 当館所蔵の洛中洛外図屏風　舟木本(重要文化財)の高精細なデジタル写真撮影を行なった。<br>② 洛中洛外図屏風が描かれていた当時の京都の様子を再現するために、京都の寺院などにおいて撮影取材を行なった。<br>③ ①②でえられたデジタルデータをもとに、東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で調査研究を実施し、ＶＲ手法を用いて当時の洛中洛外の様子を再現するコンテンツ「洛中洛外図屏風　舟木本」を製作した。<br>④ ③のコンテンツを館内のミュージアム・シアターで試験的に上映し、ＶＲ手法を用いたコンテンツ利用した常設展示品の新たな鑑賞法の開発に関する調査研究を行なった。<br>⑤ ④の結果、ＶＲでは展示では見えない個所、今は失われている個所、製作された当時の使用状況など具体的に再現できるので、ＶＲを見た後での展示室での作品鑑賞することや、逆に展示室で作品鑑賞の後でＶＲを観ることによって、シアターと展示室を結ぶ双方向でのこれまでにない美術品鑑賞方法を提示することができた。<br>⑥ 洛中洛外図屏風　舟木本の公開にあわせ、本館 2 階にＶＲ手法を用いたコンテンツを元に作成したタッチパネルを置き、同屏風鑑賞の補助とした。 | | | |
| 【実績値】<br>コンテンツ作成数　1:「洛中洛外図屏風　舟木本」 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-5

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | コンテンツ作成数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考<br>ＶＲ手法を用いて製作当初の灌頂幡姿を復元し、コンテンツ「洛中洛外図屏風　舟木本」を製作した。 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 収集したデジタルデータを基に製作した、コンテンツ「洛中洛外図屏風　舟木本」を利用して、これまでにない常設展示活用法に関する調査研究を実施することができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本研究の最終年度として順調に進捗した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-6

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 6)　クウジット株式会社と協同で、アイ・フォーン(携帯端末機)を利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する((5)-②-ｉ) |

【事業概要】
　東京国立博物館法隆寺宝物館における文化財の鑑賞方法について調査研究し、今後の作品鑑賞環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 博物館教育課長　加島勝 |

【スタッフ】
浅見龍介(博物館教育課教育普及室長)、藤田千織(博物館教育課ボランティア室研究員)

【主な成果】
　クウジット株式会社が開発した位置測位システムを用いたアイフォーン(携帯端末機)に、東博と共同で製作した法隆寺宝物館に展示されている国宝灌頂幡ほか以下の 7 作品の解説データコンテンツを入力し、博物館来館者に実際に利用いただく実験を行い、博物館の作品鑑賞補助ツールに関する調査研究を行った。

【年度実績概要】
○解説データコンテンツ作成　7 件
　①　法隆寺宝物館展示作品の中から 7 作品を選び、わかりやすい展示解説に関する調査研究を行った。
　②　①にもとづき、音声や文字情報にくわえイラストやアニメーションを用いた展示解説を作成した。
　③　②で作成した展示解説をアイフォーン(携帯端末器)で利用できるコンテンツを作成した。

○アンケート調査　1247 件
　①　一般の来館者に実験的に利用してもらい、アンケート調査を実施した。
　②　アンケート結果をもとに、将来、恒常的に利用できる具体的な方法を検討した。

【実績値】
　コンテンツ作成数　7:「法隆寺宝物館」「国宝灌頂幡」「重要文化財如来三尊像」「重要文化財摩耶夫人及び天人像」「国宝竜首水瓶」「国宝海磯鏡」「重要文化財蜀江錦綾幡」

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-6

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | B | A | |

備考
アイフォーン(携帯端末機)を用いた博物館展示室内での作品鑑賞補助ツールの実験を行った。

2. 定量的評価

| 観点 | コンテンツ作成数 | アンケート調査件数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | |

備考
2010 年 1 月 21 日～2 月 7 日まで(16 日間)「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実験的に行ない 1285 人の利用をえた。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | アイフォーン(携帯端末機)を用いた作品鑑賞補助ツールの常設展示活用に関する調査研究を実施することができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 順調に進捗した。 |

【書式Ｂ】　　施設名　東京国立博物館　　処理番号　4521-7

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 7)　彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金)((5)-②-ⅲ) |

【事業概要】

芸術分野における立体表現として、アナログ的な造形彫刻の新しい表現研究に伴い、デジタルによる造形表現の可能性を相互反映し、その両面における可能性について探り、アーカイブとしてのデータベース研究活用と教育研究としての新しい芸術表現の獲得を目的とした基礎研究を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸企画部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画課長　井上洋一 |

【スタッフ】

北郷　悟(東京芸術大学副学長)、木戸修(東京芸術大学美術学部教授)、橋本明夫(東京芸術大学美術学部教授)

【主な成果】

東京芸術大学美術館所蔵品の立体データカイブ作成の研究とデジタルデータによる教育としての応用研究ならびにコンピューター造形システムによる各入力プロセスの造形表現の研究を継続的に行ってきた。こうした研究におけるさまさまなデータをベースにしたレプリカを作成し、専門的な教育利用としての「触れる彫刻」の研究に反映させている。

【年度実績概要】

①東京芸術大学美術館所蔵品の立体データカイブ作成の研究とデジタルデータによる教育としての応用研究
・石膏原型ロダン作と重要文化財・荻原守衛の作品「女」の彫刻研究のためのアーカイブとしての高精細データを作成し、これを如何に教育的に利用すべきかを検討した。

②コンピューター造形システムによる各入力プロセスの造形表現の研究
・数学的構想による立体造形の可能性を研究し、新しい表現としてのデジタルによる表現研究を行った。

【実績値】

①作品の高精細データ　2 件
「触れる彫刻」の研究に関する調査回数　5 回

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-7

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
本研究において作成したさまざまなデータをベースにしたレプリカを作成し、専門的な教育利用としての「触れる彫刻」の研究に反映させている。こうした研究は、その成果を展覧会の中に組み込むことなどで社会利用の可能性が増幅するとともに仮想空間の造形表現の展開と表現の可能性の広がりについても多方面から期待されている。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | | | | |

備考
彫刻研究のためのアーカイブとしての高精細データを作成するとともに「触れる彫刻」の教育的利用のための調査を行った。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 彫刻研究のためのアーカイブとしての三次元高精細データの取得と解析出力による作品制作が良好に進展。こうした成果をもとに展覧会の中での「触覚展示」の可能性が大幅に広がったことは大いに評価される。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本研究は概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、最終年度のまとめに向け、特に教育的利用に関しての具体的な提案を行っていきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-1

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)　文化財情報に関する調査研究　((5)-②-ⅱ) |

【事業概要】
　当館のウェブサイトは、コンテンツの豊富さ(収蔵品データベースなど)から定評があるが、さらにトップページを更新し、多くのページで質の充実をはかった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画室長　久保智康 |

【スタッフ】
　山田奨治(客員研究員)

【主な成果】
・当館のホームページや文化財情報システムに関する調査研究を実施
・現情報システムの現状調査と検討会の実施、およびシステム改良の実施
・ウェブサイトのコンテンツ充実のための検討
・管理サーバ導入に伴うシステム変更の検討

【年度実績概要】
・各月ごとに現時点での情報システムの運用面における現状調査を行い、その結果について、当館研究員・事務職員・SEと共同で検討会を実施して、システム全体の問題点を抽出、見直しを行い、改良を加えた。
・e-国宝に向けて国宝・重要文化財高精細画像コンテンツの拡充の検討を行った。
・ウェブサイトにおけるトップページの一新、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」の拡充、公開収蔵品データベースの拡充、研究紀要「学叢」バックナンバーPDF 版の拡充、館外貸出作品一覧の追加、展覧会混雑情報の追加など、コンテンツ充実に向けての検討を行った。
・管理サ-バ導入に伴うシステム変更、とくにセキュリティ強化に関する検討を行った。

【実績値】
・システムの現状調査　　6 回
・システム検討会　　11 回
・ウェブサイトコンテンツの検討　6 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4522-1

(様式 2)

# 自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
当館のウェブサイトは、コンテンツの豊富さ(収蔵品データベースなど)から定評があるが、さらにトップページを更新し、多くのページで質の充実をはかった。

2. 定量的評価

| 観点 | 検討会 | システム<br>現状調査 | ウェブサイト<br>コンテンツ検討 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | |

備考
システムとウェブサイト・コンテンツの検討を随時行い、定期的な検討会を実施した(計 11 回)。
e-国宝に向けての国宝・重要文化財高精細画像のコンテンツの拡充をはかった。
ウェブサイト・トップペ-ジの更新、重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」の拡充、公開収蔵品データベースの拡充、研究紀要「学叢」バックナンバ-PDF 版の拡充、館外貸出作品一覧の追加、展覧会混雑情報の追加、メ-ルマガジンの配信などの充実をはかった。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | システムの改良を実施し、ウェブサイトもトップペ-ジの更新ほか、質・量ともに格段の充実をはかった。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 予算をフルに活用し、緊急性の高い事項から順次検討を行い、改良を加えている。特に 4 館共通の e-国宝に向けてのコンテンツ整備の達成度はきわめて高い。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2) 西域出土文献に関する調査研究((5)-②-ix) |

【事業概要】
サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の中央アジアおよびエルミタ-ジュ美術館所蔵の西域資料ついての調査研究を行い、その成果に基づいて特別展覧会を実施した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 上席研究員　赤尾栄慶 |

【スタッフ】
(当館研究者)赤尾栄慶(上席研究員)、羽田　聡(研究員)
(調査員)高田時雄

【主な成果】
サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションとエルミタ-ジュ美術館の西域関係資料を調査し、展覧会用にロシア科学アカデミ-東洋写本研究所からは 127 件、エルミタージュ美術館から 1 件を借用することとした。これらの成果に基づいて、特別展覧会「シルクロード 文字を辿って-ロシア探検隊収集の文物-」を開催した。

【年度実績概要】
サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミ-東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションおよびエルミタージュ美術館の調査を実施し、特別展覧会を開催した。

【実績値】
ロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の西域文献とエルミタージュ美術館の西域関係資料を調査し、展覧会用にロシア科学アカデミー東洋写本研究所所からは 127 件、エルミタージュ美術館から 1 件を借用した。これらの成果に基づいて、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所との共催で、特別展覧会「シルクロード　文字を辿って―ロシア探検隊収集の文物―」を開催した。
研究書としても使えるように配慮した解説付き目録も作成した。

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4522-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 特別展覧会開催 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | |
| 備考 | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ・サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミ-東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションおよびエルミタ-ジュ美術館の調査を実施し、特別展覧会の作品リストを確定した。これらに基づいて、特別展覧会を開催した。<br>・海外との文化交流を実施した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 事前調査・出陳交渉を行い、質の高い特別展覧会を開催した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-3

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 3)　京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究(特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査)((5)-②-ⅳ) |

【事業概要】

妙満寺など京都十六本山に所蔵される文化財の調査研究により、特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展の開催に反映することを目的とする。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 研究員　大原　嘉豊 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

西上実(学芸部長)、赤尾栄慶(上席研究員)、若杉準治(列品管理室長)、山本英男(美術室長)、山下善也(連携協力室長)、久保智康(企画室長)、羽田 聡(研究員)、淺湫 毅(主任研究員)、中村. 康(文化財管理監)、尾野善裕(工芸室長)、山川曉(主任研究員)、永島明子(主任研究員)、宮川禎一(考古室長)、村上隆(保存修理指導室長)

【主な成果】

京都日蓮法華宗関係資料を調査し、その歴史的位相を把握することができた。特に、新出資料または長年所在不明だった作品が多数発見されたことは特筆に値する。特に、高麗の弥勒下生変相図は、重要文化財級の新発見として、記者会見も行い全国紙でも好意的に報道された。

【年度実績概要】

1 月 13 日　妙満寺調査を行った。重要な新発見が多数あった。特に、高麗・至元 31 年(1294)の弥勒下生変相図は、世界に三番目に古い高麗仏画の紀年銘作品であり、高麗宮廷画家の作としては最古の作であることが判明し、新聞等で大きく報道された。本作は、展覧会後、平成 21 年度京都府の有形文化財に速やかに指定されるに至っている。

【実績値】

○調査回数　1 回

展覧会開催年ということもあり、事前調査を終えることが出来た。業務多端のおりから、日蓮法華宗の京都十六本山の調査を完遂することが出来た。関係寺院ご協力のおかげだと考えている。おそらくこのような形で十六本山の調査が行われたのは初めてのことと考えている。

○調査概報

報告書類刊行の企画はないが、展覧会図録においてこの成果は十分に反映させることができ、一般の方々、及び研究者からも好評を博することができた。

○論文件数 2 件

大原嘉豊「日蓮法華宗美術試論」『日蓮と法華の名宝-華ひらく京町衆文化』展図録　他 1 件

○収集資料数　50 点

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　処理番号 4522-3

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

平成 21 年の秋に開催した展覧会の事前調査を兼ねており、時間的制約が多かったが、悉皆調査に準じた水準の高い調査も相当数こなすことができたのは、意義が大きかったと考えている。展覧会にも調査成果を十分に反映させることができ、日蓮法華宗美術の研究に大きく貢献することができた。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 調査概報 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

展覧会開催にあたる最終年次であったため、最後に残っていた一寺院の調査を完遂することができた。京都十六本山全体に学術調査を及ぼし得たのは初めてのことであり、学術的な意義は計り知れないものがある。この成果については、初公開作品 37 点・新発見作品 12 点という形で展覧会図録にも反映させることができ、高い評価を得ることができた。調査概報については、まとまった形で公刊を予定していないが、展覧会図録に十分反映させ得たため、昨年より評価を上げている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 特別展覧会実施に向けた事前調査が計画の端緒にあるが、その時間的・規模的制約にもかかわらず、研究員全員による体制を敷き、悉皆調査に準じた調査を実施した。新出作品の発見はいうまでもなく、また、調査によって得られた文化財情報を調査先寺院に伝えることで、文化財保護の意識を高めることにも貢献しており、意義が頗る大きい。ことに、工芸関係は調査能力のある研究者が限られているため、価値の再認識という点で所蔵者には非常に感謝されている。完備した報告書刊行に連動させられないことが残念であるが、展覧会図録にその成果を十分盛り込むことができ、所蔵者、研究者、一般の関心を喚起することができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 展覧会計画の中で、調査研究は順調に進めることができた。予定通り、京都十六本山の調査を終えることができ、計画を完遂することができた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-4

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 4)　長谷川等伯に関する調査研究　((5)-②-ⅳ) |

【事業概要】

全国の美術館・博物館、社寺等が所蔵する長谷川等伯関連の作品および資料の調査研究を行う。社寺調査への参加と協力を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 美術室長　山本英男 |

【スタッフ】

山下善也(連携協力室長)、奥平俊六(客員研究員)

【主な成果】

長谷川等伯展に出品する候補作品のすべての調査を完了し、新たな視点からの検討を加えた。その中には信春時代に制作されたと推定される、きわめて重要な新発見の金碧花鳥図屏風も含まれている。その詳細は、京都国立博物館研究紀要『学叢』第 31 号(平成 21 年 5 月)に「信春時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」と題して論じた。

【年度実績概要】

前年度は主に長谷川等伯の出身地である石川県の寺院や美術館に所蔵される作品(約 30 件)と京都・東京に所在する作品(約 25 件)を調査したが、本年度は京都・東京での調査(10 件)を継続するとともに、滋賀県や兵庫県、岡山県や大阪府など各地に残る作品(約 20 件)を調査し、整理分類した。

【実績値】

○調査件数　約 30 件

京都・東京に所在する作品を調査した。(約 10 件)

滋賀・兵庫・岡山・大阪に所在する作品を調査した。(約 20 件)

○論文件数　5 件

・山本英男「信春時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」京都国立博物館研究紀要『学叢』第 31 号(平成 21 年 5 月)

・山本英男「長谷川等伯、天下を取る-上洛後の二十年-」特別展覧会「長谷川等伯」図録(平成 22 年 2 月)他 3 篇

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-4

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　長谷川等伯関連の作品調査の成果として、徹底した作品資料の調査と、綿密な分析を行うことができた。それにより、これまで曖昧な状況にあった等伯の画風展開を明確にするための基礎作りができたといえる。

2．定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 論文件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
　長谷川等伯関連作品の所在と保存状況、伝来など詳細なデータの記録と整理を行えたことで、特別展覧会「長谷川等伯」開催のための準備が整い、同展図録の執筆・作成も完了した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 長谷川等伯は桃山時代の巨匠だが、その遺作が各地に分蔵されるため、その詳細な整理分類はなかなか行えない状況にあった。それだけに、悉皆調査に近い形での本調査は等伯研究にとってきわめて価値のあるものといえる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究はすべて終了した。その成果は、平成 22 年度の特別展覧会「長谷川等伯」において披瀝されることになる。 |

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-5

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 5)　特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究　((5)-②-ⅳ) |

【事業概要】

①特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けて、室町時代以前に製作された袈裟を中心に、僧侶の肖像画(頂相)・袈裟に関連する古文書などの関連資料を、広く調査・研究する。

②京都国立博物館に寄託されている袈裟の綿密な調査と顕微鏡撮影を行い、詳細な作品調書を作成する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　山川　暁 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

モニカ・ベーテ(調査員)

【主な成果】

①国および地方公共団体の指定文化財を中心に、全国の袈裟・頂相・袈裟に関する古文書の所蔵状況調査を行い、とりわけ注目される作品については、実見調査と顕微鏡撮影を行った。その中には、これまで知られていなかった作品も含まれており、そのうちの一件については地方紙で大きく報道された(高知新聞)。中国・杭州にて、関連する出土作品を調査し顕微鏡撮影を行った。

②寄託されている袈裟の約半数について詳細な調査と顕微鏡撮影を行い、それらのデータを蓄積するデータベースを構築した。

【年度実績概要】

毎月一回、調査員モニカ・ベーテ氏と寄託品の調査と顕微鏡撮影を行い、順次データの整理を行った。

| | |
|---|---|
| 4 月 30 日 | 清浄華院(京都)調査 |
| 7 月 8 日 | 吸江寺(高知)調査 |
| 10 月 12 日 | 曇華院(京都)調査 |
| 10 月 16 日 | 仁和寺(京都)調査 |
| 10 月 21 日 | 妙興寺(愛知)調査 |
| 11 月 2 日～5 日 | シルク博物館(中国・杭州)調査 |
| 12 月 15 日～16 日 | 天龍寺(京都)調査 |
| 1 月 20 日 | 遊行寺(神奈川)調査 |
| 2 月 16 日 | 瑞石寺(福岡)調査 |
| 2 月 17 日～18 日 | 光明寺(京都)調査 |
| 3 月 16 日～21 日 | 江西省徳安県博物館(中国・徳安)調査 |

【実績値】

①京都国立博物館に寄託される袈裟の調査および顕微鏡撮影。(約 20 件)
　上記のデータベース作成。(約 15 件)

②館外での袈裟の調査および顕微鏡撮影(約 20 件)

③論文　1 件
　「禅と伝法衣　事実と作為と」『美術フォーラム 21』美術フォーラム 21 刊行会　5 月

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4522-5

(様式 2)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | B | A | A |

備考

これまでにも感じてきたことだが、中世に遡る袈裟は脆弱化が進んでおり、この時点で調査をして何らかの保存策を講じなければ、いずれは塵芥となってしまう。現時点での正確な調査は、今後の保存策の検討において、たいへん重要な意味を持つと考える。

染織史および仏教史という視座からの袈裟の綿密な研究はこれまで実績がなく、基礎データを蓄積することに傾注した一年であったが、顕微鏡撮影に基く徹底した織物の組織分析により、染織史の立場からの製作年代の推定が可能になった。

2. 定量的評価

| 観点 | 調査件数 | 顕微鏡撮影数 | データベース作成数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | B | | | |

備考

調査件数は予定通りであったが、小さな織機や紙テープを使って織組織モデルを作成し、分析結果を検証していくため、データの解析に思いのほか時間を取られた。今年度の成果をもとに来年度はより効率的に解析を進め、データベースを充実させたい。

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 中世以前の染織品が伝世品としてかなりの量伝えられているのは、染織の先進国であった東アジア文化圏では日本だけであり、その研究は、日本のみならず染織史の発展を考えるうえで、極めて重要な意味を持っている。世界的に見ても重要な作品群を綿密に調査し、欧米の研究者とも共有しうる分析データを公開していくことは、これまでにも望まれていたところであり、その実現に向けて取り組んだ本年度の業務は、予定以上の成果があったと考える。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究は順調に進展している。<br>来年度は展覧会の実現に向け、出陳作品を絞り込み、特別展覧会の展示および図録作成に取り組みたい。また図録については、調査員のベーテ氏と協議し、可能な限り英訳を試みたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-1

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝　鑑真和上展」「聖地寧波」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる（(5)-②-vi） |

【事業概要】

近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業(展示等)に反映させる。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、森實久美子(企画室員)

【主な成果】

唐招提寺、東大寺、春日大社及び「聖地寧波」に関連する文化財を蔵する諸寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。

【年度実績概要】

①前年度に行った唐招提寺の収蔵品及び同寺金堂基壇発掘時における出土品(橿原考古学研究所所管)の調査の成果を、特別展「国宝　鑑真和上展」の展示解説パネル、展覧会図録等に反映させた。

②特別展「聖地寧波」における出陳作品の事前調査を行い、その成果を特別展「聖地寧波」の展示解説・展覧会図録等に反映させた。特に大徳寺五百羅漢像(82 幅)の調査によって、新たに 30 点近く金泥銘文が発見されたことは大きな成果であった。また会期中には泉涌寺(京都市)所蔵・楊貴妃観音像(重文)の X 線撮影を行った。この調査では像内納入品の納入状況・形状の確認という大きな新知見があったため報道発表を行い、画期的成果として、各種メディアで大きく取り上げられた。

③春日若宮おん祭に関する文化財調査を実施し、その成果を特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映した。特に前年度に実施した「春日権現験記披見台」の光学調査等の成果を会場でパネル展示するとともに、新知見を会期中に実施されたサンデートークで披露し、大きな反響を呼んだ。

④これまで紹介されることの少なかった、奈良地域所在の南北朝・室町彫刻の調査を寄託品中心に重点的に行って特集展示「南北朝・室町時代の彫刻」を開催し、その成果を展示解説パネルや各種紹介記事等に反映させた。

⑤江戸時代における東大寺二月堂の火災時の状況を伝える、貴重な史料「両堂記」(東大寺蔵)を調査し、特別陳列「お水取り」で初公開した。

【実績値】

○調査回数　　10 回

○展覧会への反映

関連調査の展覧会への反映回数　4 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4523-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 展覧会への反映 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
展覧会企画に沿った調査研究が中心になっており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 特別展「国宝　鑑真和上展」、同「聖地寧波」に出陳した近隣社寺を中心とした所蔵品の事前調査の成果は展示及び展覧会図録に反映され、高い評価を得た。春日大社の若宮おん祭及び東大寺修二会に関する文化財調査の成果は特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」「お水取り」に反映された。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。21 年度も東大寺や春日大社を初めとする社寺の宝物調査を行うことにより、展覧会を活性化させ、学術的成果をあげることもできた。 |

【書式Ｂ】　　施設名　奈良国立博物館　　処理番号　4523-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る。（(5)-②-vii） |

【事業概要】

仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　西山　厚 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

【奈良国立博物館学芸部】鈴木喜博(上席研究員)、岩田茂樹(美術室長)、内藤栄(工芸考古室長)、稲本泰生(企画室長)、吉澤悟(教育室長)、宮崎幹子(資料室長)、谷口耕生(保存修理指導室長)、斎木涼子(列品室員)、岩戸晶子(工芸考古室員)、野尻忠(情報サービス室員)、清水健(教育室員)、北澤菜月(情報サービス室員)、永井洋之(企画室員)、森實久美子(企画室員)

【主な成果】

学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示に反映させることができた。

①常設展彫刻部門では、中国及び朝鮮半島の石仏・金銅仏から日本の仏像に至る様式の流れを体系的に展観した。また小金銅仏・檀像・塑像・塼仏のコーナーを中心に、隋唐時代の中国で流行した仏像の諸類型がその信仰背景とともに古代日本に伝来したこと、平安初期木彫における用材観と中国檀像との関係などについての近年の研究成果を、展示構成・作品解説・展示パネルなどに反映した。
②常設展工芸部門において中・韓・日の舎利容器・密教法具の比較研究の成果に基づき、各地域の作例の　比較展示を行った。

【実績値】

平常展への成果の反映　3 回
企画展示への成果の反映

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 奈良国立博物館　処理番号 4523-2

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
わが国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

2．定量的評価

| 観点 | 平常展への反映 | 企画展示への反映 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
調査研究の成果を積極的に反映させており、その点では必要十分な条件を満たしている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 学術交流協定を締結している上海博物館(中国)・河南博物院(中国)・中国国家博物館(中国)・国立慶州博物館(韓国)との研究員の交流などをとおして行った、アジア諸国を視野に入れた調査研究の成果を平常展・企画展(特別陳列等)に反映させることができた。その過程で、中国・韓国・日本の三国の作例を比較展示してその共通点・相違点を浮き彫りにするなどの工夫を行った。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 21 年度平常展の内容を充実させることができた。今後も引き続き調査研究を続け、その成果を展示に反映していく必要がある。 |

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-1

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 1)高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践(UMP:Universal　Museum　Project)を展開する。((5)-②-ｉ) |

【事業概要】

ユニバーサル・ミュージアムという観点から、高齢者・障害者・外国人等、多様なニーズを持った来館者に快適な鑑賞環境を提供するため、設備・サイン・演出・運営等、総合的に研究と実験を行い、すべての人が利用しやすい快適な観覧環境づくりを目指す。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 総務課 | 【プロジェクト責任者】 | 総務課長　樋口　理央 |

【スタッフ】

神谷真美(総務課課長補佐)、永野間一成(総務係長)、北原麻美(財務係長)、
安藤英崇(施設係主任)
森田昌嗣(九州大学大学院芸術工学研究院教授)、曽我部春香(九州大学大学院芸術工学研究院准教授)、
石橋伸介(九州大学大学院芸術工学研究院学術研究員)

【主な成果】

当館は 1 階エントランスホールが広いため、来館者をそれぞれの目的の場所へスムーズに誘導するための方策について検討してきた。

今年度は、九州大学芸術工学研究院森田研究室と共同で来館者への調査や検討会を実施したことにより課題が明らかになり、改善のための方策を確立することができた。

【年度実績概要】

①館内サインや休息スペース等の現状調査を行い、以後の調査方法について検討。
②現状調査の結果及び調査方法の検討を踏まえ、新たにピクトを考案すると共に同ピクトやフロアマップ等を掲載した来館者誘導のための館内案内板のデザインについて検討。
③館内案内板の模型を館内に設置し、来館者の反応等の行動観察、対面による聞き取り調査を実施。
④③で実施した調査結果の取りまとめ。
⑤スペースの効果的利用を目的とした館内設置のコインロッカ-使用状況調査を実施。
⑥各調査の結果の分析。
⑦⑥の分析結果を踏まえ、来館者が案内所、観覧券売場、館内外の情報提供スペースを快適かつ有効に利用できるためのグランドデザインを策定。

【実績値】

現状調査：2 回
聞き取り調査：1 回
行動観察：1 回
調査報告書：1 冊
検討会：10 回

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-1

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | Ａ | Ａ | Ａ | Ａ | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | Ａ | Ａ | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| Ａ | 数回にわたる調査及び検討会での結果を踏まえたエントランスホールのデザインの改善案を策定することができた。<br>次年度は策定した改善案の実施を計画しており、来館者の利便性向上が期待できるため、総合的評価をＡと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当初の予定どおり計画が進捗していることから、順調に進んでいると判定した。<br>次年度はこれまでの調査・検討結果を踏まえた改善案を実施する予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名　九州国立博物館　　処理番号　4524-2

(様式 1)

業務実績書

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 |
| プロジェクト名称 | 2)平成 20 年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう。((5)-②-ix) |

【事業概要】

九州･沖縄における伝統工芸の作家の創作活動について、調査研究を行なう。無形文化財としての伝統技術と、そこから生まれる新たな創作について、それぞれの作家の取り組みを調査する。昨年度調査を行なった作家について継続するとともに、新たな作家を調査対象に加えていく。

| 【担当部課】 | 学芸部 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

原田あゆみ(文化財課研究員)、赤司善彦(展示課長)

【主な成果】

平成 21 年度西部伝統工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。

タイと共同で開催する展覧会の中に伝統工芸を位置づけ、日本の伝統技術によって現代に展開する工芸を紹介することとし、そのための予備調査を行なった。

【年度実績概要】

九州･沖縄の伝統工芸の中で最も層の厚い陶芸で、調査の継続と研究会への参加を行なった。西部工芸展、日本伝統工芸展、西部工芸陶芸部会展、九州･山口陶芸展の出品作品の調査を行い、新たな創作の動向とこれまで調査対象となっていなかった新しい人材の発掘を行なった。その一方で、日本工芸展の審査に関り、全国規模での陶芸の状況の把握をつとめた。

陶芸に続いて層の厚い染織では、久留米絣技術の調査を行なった。博多織については、若手作家の制作について調査を行った。

タイからの研究者を受入れタイでの共同展覧会の開催の準備を行なう中で、工芸技術の伝統という側面から有田での陶芸の伝統技術について共同調査を行った。

【実績値】

第 106 回 九州･山口陶芸展、第 44 回西部工芸展、第 56 回日本工芸展で九州･沖縄の工芸の調査と全国的な工芸の状況の調査。

秋季、冬季の西部工芸会陶芸部会研究会に出席し、九州･沖縄の陶芸の現状調査と研究発表。

7/16～8/8　タイからの研究員受入で、有田で柿右衛門窯などの共同調査

○収集資料数　268 件




日本工芸展審査会場での調査

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4524-2

(様式 2)

自己点検評価調書

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
伝統工芸への取り組みは近代美術館を持たない九州地区にあって、無形文化財を扱う役割を果たすとともに、地域にある博物館として伝統工芸の発展を通して地域貢献を果たすというものである。これらについて、前年度の展覧会での成果から、さらなる上積みを目指しての継続的な事業であった。工芸作家の中にこの活動に対する期待も大きく、また既に昨年度のこの事業によって九州･沖縄の工芸は確実に新たな展開を示しつつある。

2．定量的評価

| 観点 | 調査回数 | 収集資料数 | 研究会 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
個別調査主体から、展覧会出品作による追跡調査を行っている。さらに全国レベルでの工芸の状況へと調査対象を広げている。それらの成果の一部は、工芸作家とともに行なう研究会によって公表している。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 地域に根ざした博物館として、九州･沖縄の伝統工芸の発展に寄与している。<br>こうした活動が他地域にも伝わることで、各地で新しい動きを求める声が出始めており、これは日本の工芸技術が後世に伝える面で大きな役割を果たしつつある。<br>日本以外の工芸技術の実情調査、保護といった新たな研究の広がりがあり、文化交流を視座に置く九州国立博物館としては今後さらに広げる必要がある。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 前年度の展覧会の成果を受け、加えて全体的な広がりを大きくもてたという点は評価できる。陶芸、染織といった層の厚い分野では、より活発な研究活動が行なわれているが、今後は層の薄い分野での活動を深めていく必要がある。<br>海外での工芸技術の実情と保護という面について、更なる研究が望まれる。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5111

(様式 1)

業務実績書

研究所 No. 42

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 文化財保存施策の国際的研究((1)-①) |

【事業概要】

日本国内における文化財保護政策・施策の充実に、また日本が行う国際協力事業の円滑な実施に必要とされる、文化財の概念やその保護の理念、保護のための各種施策に関する国際情報を収集し分析、報告する。また文化遺産に関する国際ワークショップを国内外で開催してこれら情報の共有の場を提供することにより専門家国際ネットワークの構築を図り、文化遺産分野での日本の国際貢献、日本からの情報発信に寄与する。これらの事業により得た国際情報は、国際情報データベースに蓄積、また国際資料室に配架して公開する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 国際情報研究室長　岡田　健 |

【スタッフ】

清水真一、山内和也、友田正彦、朽津信明、二神葉子、宇野朋子、有村　誠、影山悦子、秋枝ユミイザベル、邊牟木尚美、島津美子、鈴木 環(以上、文化遺産国際協力センター)、前田耕作、今井健一朗(客員研究員)

【主な成果】

文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。

1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。
2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を 1 回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を 1 回、計 2 回開催した。

【年度実績概要】

1. 文化財保存施策に関する国際情報の収集・分析、活用

世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。主なものは以下のとおり：第 33 回ユネスコ世界遺産委員会(セビリア)；ユネスコ無形文化遺産保護条約第 4 回政府間委員会(アブダビ)；イクロム第 26 回総会(ローマ)；シルクロードの世界遺産一括登録に関するユネスコ作業部会(西安)；文化及び自然遺産地の持続可能な観光発展に関する国際シンポジウム(敦煌)；東アジア文化遺産フォーラム(ソウル)；熊野古道国際交流シンポジウム尾鷲 2009(尾鷲)；世界遺産国際交流シンポジウム伊勢 2009(伊勢)。

2. 文化遺産国際ワークショップの開催

アジア文化遺産国際会議：本会議は、アジアの各地域におけるネットワーク構築に貢献するため、今中期計画において実施している地域ワークショップで、2007 年度中央アジア(ウズベキスタン)、2008 年度東南アジア(タイ)で開催したのに引き続き、本年度は東アジアを対象として実施した。日本・中国・韓国の国立級文化財研究所/研究院の研究者を東京に招へいし、「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」をテーマとした専門家会議を開催した(日時：2010 年 3 月 4～6 日、場所：東京文化財研究所会議室)。また、2007 年度(ウズベキスタン)、同 2008 年度(タイ)開催分についての報告書を刊行した。

3. 第 23 回国際文化財保存修復研究会：本研究会は、日本国内への国際情報の発信と、国際協力に関する国内専門家の情報交換・連携強化を目的として国内向け一般公開の研究会として開催している。本年度は、「遺跡はなぜ残ってきたか」をテーマに開催し(日時：2009 年 10 月 8 日、場所：東京文化財研究所セミナー室)、それに伴う報告書を刊行した。

【実績値】

国際ワークショップ開催件数： 2 件
報告書刊行件数： 4 件(①,②,③,④)
外国人招へい者数：アジア文化遺産国際会議：16 人 国際文化財保存修復研究会： 2 人
国際ワークショップのうち一般公開分(国際文化財保存修復研究会)参加者数： 43 人
国際ワークショップのうち一般公開分(国際文化財保存修復研究会)参加者満足度： 100%

【備考】

①アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」(日本語版) 2010.1
②アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」(ロシア語版) 2010.1
③アジア文化遺産国際会議報告書「自然災害によって被災した不動産文化遺産の修復と保存」(英文版)2010.3
④国際文化財保存修復研究会報告書「遺跡はなぜ残ってきたか」 2010.3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 5111

自己点検評価調書

研究所 No. 42

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | ワークショップ開催件数 | 参加者数 | 満足度 | 報告書刊行件数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 地域ワークショップ専門家会議と国際文化財保存修復研究会はともに継続性・発展性を持ったテーマ設定によって多様な情報の収集と強固なネットワーク構築を成し遂げている。さらに国内外で開催される各種の文化遺産保護に関する会議に積極的に参加し、日本の文化財保護施策の策定に有効な情報を収集した。これらの情報をもとに国際情報データベースの充実をはかり、情報の発信に貢献した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 調査研究、国際・国内ワークショップとも、これまでの成果をもとに、それらを着実に発展させる形で実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ事業を進め、国内の文化財保護施策の充実に貢献する。国際ワークショップについては今後とも国際的に時宜を得たテーマの開発に力を注ぎ、専門家ネットワークの構築、国内外への情報発信に貢献する。文化財研究所は文化財の保存修復技術の専門機関という印象が根強いが、この調査研究の成果と各地で展開する保護修復事業の実績をもとに、文化財保護の理念や施策に関しての国際的な発言力を高めていくことが可能である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5121-1

(様式 1)

業務実績書

研究所 No. 43

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究((1)-②-ア) |

【事業概要】

アジア諸国では、煉瓦、土、石など、各地の遺跡に共通して用いられている材料が認められる。本研究では、地域で区切って研究を行うのではなく、各文化財に共通して用いられている素材を調査・研究することから、その素材で形作られた多くの文化財の保存修復に寄与することを目的とする。具体的には、材料の物性とその劣化に関する基礎的な研究を行うことから、それぞれの材料が劣化しにくい条件を考察し、材料に対して、あるいは遺跡の環境に対して、材料劣化を起こしにくい条件を与えることで、文化財の保存修復に貢献する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　朽津信明 |

【スタッフ】

清水真一、二神葉子、宇野朋子、秋枝ユミイザベル(以上、文化遺産国際協力センター)、鉾井修一、柏谷博之(以上、客員研究員)

【主な成果】

文化財石材が屋外で風雨に晒される場合に比べ、覆屋内で保存されると、風化が軽減されることを定量的に示した。また、タイ・スコータイ遺跡について、覆屋の効果を含めた環境調査を実施した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。

【年度実績概要】

文化財石材が屋外で風雨に晒される場合と、覆屋内部で保存される場合とで、風化の進行がどの程度異なるかを定量的に計測した。その結果、屋内でも石材の強度低下は起きるものの、屋外に比べればその程度が有意に軽減されること、ただし、屋外での強度低下は一様ではなく個々の状況によりバラツキがあることが明らかにされた。

こうした基礎研究を受けて、タイ・スコータイ遺跡において、覆屋により遺跡保護を試みている現場を視察し、その効果と弊害について調査するとともに、一例として、歴史的には覆屋が存在した証拠があるものの現在はなくなっているスリチュム寺院において、温度・湿度・風速・風向・日射などの各種環境データを計測することなどから、覆屋を今後構築することの是非について、科学的な見地から検討した。また、カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡において、砂岩の試料を蘚苔類が繁茂しやすい条件に置き、強度低下がどのように起きるかを定量的に計測した。現時点ではまだ、蘚苔類が繁茂した試料とそうでない試料との差はそれ程顕著ではないものの、実際の遺跡で長期間蘚苔類が繁茂し続けていると判断される部位では、そうでない部位に比べて有意に強度が低い結果が得られたことから、微生物繁茂の石材風化への影響が今後定量的に議論され、それに対する具体的な対策を検討することへの貢献が期待される。

【実績値】

報告書刊行　1 冊(①)
論文掲載数　2 編(②、③)
学会発表数　3 件(④、⑤、⑥)

【備考】

①『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査･研究　平成 21 年度成果報告書』10.03
②朽津信明「屋内と屋外での来待石製石塔の風化の違い」　『応用地質』50　pp. 329-335　10.02
③朽津信明「石材の風化とその計測法について」『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』　pp. 65-70　10. 2
④文光喜・二神葉子・朽津信明・柏谷博之「カンボジア　タ・ネイ遺跡とその周辺に生育する地衣類」　日本文化財科学会第 26 回大会　名古屋大学 09. 7. 11
⑤朽津信明「越前式石廟に施された彩色装飾について」　日本文化財科学会第 26 回大会　名古屋大学 09. 7. 11
⑥朽津信明・二神葉子「微生物繁茂が岩石風化に与える影響に関する実験的検討」　日本応用地質学会平成 21 年度研究発表会　山形テルサ　09. 10. 22, 23

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5121-1

自己点検評価調書

研究所 No. 43

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 報告書刊行数 | 論文掲載数 | 学会発表数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 報告書刊行、論文数、学会発表件数ともに、計画通りの数字が得られたことから A と判断した。また、順調にデータが蓄積されていることから、次年度にも同等の成果が期待される。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当初の計画通り、順調にデータが蓄積されている。次年度以降もさらに継続してデータを増やす予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5121-2

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 44

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査((1)-②-ア) |

【事業概要】

カンボディア王国アンコール遺跡群において、現地のＡＰＳＡＲＡ機構と共同研究を行い、文化遺産の保護と人材育成に貢献する。平成18年度から新たな中期計画に基づき西トップ寺院を対象とした共同研究を継続した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画調整部 | 【プロジェクト責任者】 | 国際遺跡研究室長　杉山洋 |

【スタッフ】

肥塚隆保、石村智、成田聖(以上、企画調整部)、高妻洋成（埋蔵文化財センター)、降幡順子、豊島直博、林正憲、大林潤、高橋知奈津(以上、都城発掘調査部)、島田敏男(文化遺産部)

【主な成果】

考古班は西トップ寺院の前面にある小ストゥーパの調査を行い、建立時期と変遷を明らかにした。建築班は引き続き実測調査を行い、中成基壇までの図を作成するとともに、全体の構造変遷に理解を深めた。

【年度実績概要】

本年も第2次5カ年計画に沿って、アンコール・トム内西トップ寺院で調査を行った。

まず今年度最初の活動として6月1日・2日に開催された第15回国際調整委員会に出席し発表を行った。

次に7月21日～27日まで考古班の調査を行った。今回は仏教テラス前面南側のラテライト小塔の周囲を調査した。今次の調査によって本塔の上部構造については後代16世紀から17世紀頃の建立と判明したが、基壇の断ち割り調査時に中国龍泉窯系青磁小壺が出土し、14世紀頃に位置づけられることから、本塔の創建は14世紀頃までさかのぼる可能性が指摘されるに至った。

12月6日～21日には考古班と建築班の調査を行った。考古班は遺跡北側の瓦等遺物散布地の調査を行い、完形品を含む多くの瓦資料を得た。同様な瓦は、遺跡本体の仏教テラスの発掘調査で大量に出土しており、仏教テラスの木造建造物使用された瓦と考えられ、その時期や生産に関して今後究明が必要とされる。建築班は本体3塔の実測調査を継続するとともに、詳細な部材調査を行った。12月15日には第16回国際調整委員会が行われ石村・森本2名が出席した。12月15日にはタニ窯跡博物館が開館し、式典が挙行された。タニ窯跡群は1999年と2000年に本事業で発掘調査を行い、その後日本の文化無償援助を元に博物館が建設された。当該博物館の建設に際しては、研究所から発掘遺物の出陳を行うとともに、展示構成や展示パネル等の展示全般についての指導を行った。本研究所のこうした貢献に対して、カンボジア政府から所長に宛てて、カンボジアの発展に寄与した外国人に贈られるサハ・メトレイ勲章が授与された。12月15日に現地タニ村の博物館前において、ソク・アン副首相を招いて勲章の授与式とタニ博物館の開館式が行われ、所長が出席した。

1月10日から17日までプノンペンにて今後の調査予定の調整作業を文化芸術省の担当官と行った。これまで当該事業はアンコール遺跡群の調査研究という位置付けで行っていたが、我々の調査研究事業が現地政府に認められるに従って、アンコール遺跡群以外の遺跡についても助言を求められることが多くなってきている。今回はこうした要請に応えるとともに、3月に予定している若手研究者の招聘に関する事前調整作業を行った。

2 月 19 日から 3 月 5 日まで考古班と建築班の調査を行った。考古班は来年度に予定される報告書の刊行に向けて、これまでの出土遺物の整理作業を行った。建築班は引き続いて中央 3 塔の実測調査を行った。3 月 15 日から 24 日まで若手研究者 2 名の招聘を行った。



タニ窯跡博物館開館式

【実績値】

発表件数：2件(下記①～②)　①西トップ遺跡の調査、②西トップ遺跡の調査と今後

小冊子発行：2 冊　①西トップ寺院の調査と修復　2009 年 7 月刊行、②西トップ遺跡の調査と修復 2　2010 年 3 月刊行

【備考】

①第15回国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2009.6.1-2

②第16回国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2009.12.15

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5121-2

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 44

1. 定性的評価

| 観点 | 継続性 | 独創性 | 発展性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 論文数等 | 発表件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 今年度も当初予定した調査予定を順調に進行することができるとともに、中央塔に関する様々な事実を明らかにすることができた。招聘事業も確実に進行し、相手国文化財保護機関からも一定の評価を得ることができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5122-1

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 45

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究((1)-②-イ) |

【事業概要】

近年発見が相次いでいる中国陝西省の墳墓壁画は、建設工事など壁画保護を優先できない環境にあるため、そのほとんどがはぎ取り、考古研究所等への移動という対応が取られているが、発見直後の環境の変化に始まり、はぎ取り、移動のための処理によって破損や変色・褪色が発生している。貴重な壁画に関する情報をできる限り保存し、壁画の状態変化が最も少ない現場での調査実施と記録保存方法を構築することを目的として、日中で共同研究を行う。

| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 国際情報研究室長　岡田　健 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高林弘実(客員研究員)

【主な成果】

2009 年度は、まず陝西省考古研究院との共同研究体制の構築を行い、次いで同研究院の指導者、保存修復部門担当者に我々の調査方法の原理を理解してもらうことを目的として、作業を行った。

【年度実績概要】

1)合意書の作成、交換

共同研究開始の前提として、東京文化財研究所と陝西省考古研究院との間で合意書を作成し、両研究所所長の署名をもって交換した。

2)調査作業

8 月 31 日から 9 月 4 日までの 5 日間、陝西省考古研究院壁画収蔵庫において実施した。唐の節愍太子墓から出土した壁画一面と後漢の邠王(BIN Wang)墓から出土した壁画一面を対象作品として選定し、①考古学的・美術史学的図像研究、②記録撮影を含む各種光学的調査、③状態に関する肉眼調査、④必要に応じた(許容される範囲での)分析研究を行った。中国では、外国人が文化財の写真撮影を行うことに関して厳格な制限規定があり、発掘現場での撮影についてはこの問題を解決する必要があることと、我々の調査方法を早期に中国側に移植することが必要になるため、今回の調査に際しては、現在日中共同研究を推進中の敦煌研究院から 2 名の人員の派遣を仰ぎ、中国人の撮影による調査を実現した。

3)報告研討会の開催

調査最終日 9 月 4 日の午後、調査メンバーおよび陝西省考古研究院の研究者が出席して(11 名)、壁画を前にした報告研討会を開催した。日本側担当者から調査報告を行い、参加者全員での討論を行った。

4)本年度の調査について

12 月 12 日から 16 日の日程で、陝西省考古研究院渭南基地へ出張し、壁画修復室を視察して中国における剥ぎ取り後の壁画の状態変化について情報を得るとともに、発掘現場での調査作業について討論を行った。

【実績値】

研究会開催件数：　1 件
報告書感光件数：　1 件(①)
論文：　1 件(②)

【備考】

①報告書「陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 2009」2010.3
②佐藤香子・高林弘実・柴勃隆・丁淑君・岡田健「唐代節愍太子墓過道に描かれた人物像の壁画の彩色材料と制作技法に関する調査」(『保存科学』49)2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5122-1
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 45

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 報告書作成 | 研究会開催数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 第１年目はサンプルを採取することなく、発掘の現場で非破壊・非接触の簡便な方法によって壁画の状態、材料技法についての観察と考察を行う方法を中国側に理解してもらうことが目的として作業を行い、所期の目的を達成した。これによって、来年度の発掘現場における調査実施についての基礎が固まった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 外国との共同研究は、相手国の文化財研究と保護においてどのような貢献をなすかが要点となるが、今回の調査は日本側の方法を早期に中国側へ移植することを目指して、現在当研究所が日中共同研究を推進中の敦煌研究院の人材を活用して推進するなど、これまでの経験と実績をもとに共同研究の新たな方法を構築しつつある。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5122-2

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 46

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 敦煌壁画の保護に関する共同研究((1)-②-イ) |

【事業概要】

敦煌壁画に関して、敦煌研究院と共同で調査研究を行う。これは、壁画の制作材料と技法を古代のシルクロードを通じた文化交流、技法・材料の移動という観点から研究し、敦煌壁画を総合的に理解しようとするものである。具体的な研究項目としては、1)壁画制作技法・制作材料に関する光学的方法及び分析的方法を用いた総合研究、2)放射性炭素年代測定法による主要窟の年代同定に関する研究、3)日中の若手研究者育成、を実施している。

| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 国際情報研究室長　岡田　健 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

山内和也、朽津信明、宇野朋子(以上、文化遺産国際協力センター)、高林弘実、津村宏臣(以上、客員研究員)、中村俊夫(名古屋大学)、齋藤　努(歴史民俗博物館)

【主な成果】

共同調査・研究は 4 年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積から、考察とまとめの段階に入りつつある。今年度の調査研究では、昨年度までに行ってきた研究の成果をもとに、個別のテーマを選択してさらに詳細な観察を行い、第 285 窟壁画を構成する材料と技法に関して、その特徴を明確なものとする作業を行った。研究は写真撮影、表面観察、分析調査、データの集積という基礎的な作業から、多彩な図案を彩る色彩効果の問題、劣化メカニズムの問題へと、進展している。

【年度実績概要】

1)合同調査：9 月 5 日～9 月 30 日の日程で、現地調査を実施した。日本側の参加者は 7 名。前年度に引き続き第 285 窟北壁上層部の技法調査、南壁・西壁の補充調査、超音波風速計を用いた洞窟内の風速調査、鉛同位体比研究に関連した補充調査を行った。併せて、データベース構築のための研討会を開催した。風速調査に関連して、環境学の専門家として京都大学理工学部鉾井修一教授、小椋大輔助教に現地出張を依頼し、調査へのアドバイスを頂戴するとともに、環境が具体的な壁画の劣化状態とどのような関連があるのか、色彩の変化と環境との理化学的因果関係についての研究が可能カードうかについての討論を行った。この結果、来年度科学研究として「敦煌芸術の科学的復原研究-壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ」(4 年間)を申請した。

2)合同調査：10 月 18 日～11 月 7 日の日程で、現地調査を実施した。日本側の参加者は 4 名。劣化状態調査、各壁補充調査を実施した。最終週に、関連調査として甘粛省天水麦積山石窟、同省永昌炳霊寺石窟へ赴き、それぞれの壁画を視察して、敦煌壁画との比較検討を行った。

3)国際シンポジウムでの発表：5 月 31 日～6 月 5 日の日程で米国・ハワイで開催された第 20 回ラジオカーボン国際会議にポスター参加して、放射性炭素年代測定研究の成果を報告した。1 月 26 日～28 日の日程で同志社大学が開催した科研費による国際シンポジウム「データ科学の新領域の開拓―文化遺産情報のアーカイブと文化の分析」に出席し、本研究で実施中のデータベース構築の意義について報告を行った。

4)学会発表：昨年度分の研究成果について、6 月の文化財保存修復学会で口頭発表 1 件、ポスター5 件、7 月の日本文化財科学会でポスター1 件の発表を行った。

5)保護研究所蘇伯民所長の来日：2 月 28 日～3 月 11 日の日程で蘇伯民所長を日本に招へいした。本年度調査研究の総括会議を開催し、併せて来年度および次期共同研究の進め方について討議した。蘇所長は 3 月 4 日～6 日の日程で当研究所が開催したアジア文化遺産国際会議に出席し、日中共同研究の経緯、その成果、今後の継続の必要性について報告を行った。

6)報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の 2009 年度成果報告書を編集し、発行した。

【実績値】

| | |
|---|---|
| 報告書 | 1 冊(①) |
| 学会発表 | 2 件(②、③) |
| 国際シンポジウム発表 | 2 回 |

【備考】

①報告書「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2009」2010.3

②敦煌莫高窟第 285 窟北壁に描かれた如来および菩薩の衣の彩色材料と技法―赤色表現を例として―(佐藤香子、高林弘実、岡田　健、籾井基充、范宇権)文化財保存修復学会 31 回大会　09.6.13

③敦煌莫高窟第 285 窟南壁龕楣の復元模写(倉橋恵美、高林弘実、岡田健、樊再軒)文化財保存修復学会 31 回大会　09.6.13

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5122-2
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 46

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 報告書作成 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 3 年間にわたる基礎データの収集とそれをもとにした考察、さらに反復的な補充調査が続き、壁画の制作材料と技法に関する研究は、その芸術性の実現方法との関連という大きなテーマについての考察へと発展しており、着実に成果をあげている。いっぽう、2009 年 7 月に敦煌研究院保護研究所の新しい研究棟が完成し、当研究所等を参考にして各種の分析機器を設置したが、最新の可搬型観測機器の購入が図られ、本研究を通じて身につけた技術により、別の洞窟での調査が独自に実施されるなど、共同研究の成果があがりつつある。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 毎年のデータの蓄積と、強固な信頼関係の構築によって、堅調に調査研究が実現できたと考える。研究の進展とともに研究項目が増えており、人員配置、報告書への反映の仕方など、改善すべき点を見直しつつ、次年度、さらに次期共同研究へ向けて順調に作業を進めている。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5123

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 47

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業((1)-②-ウ) |

【事業概要】

西アジア諸国等の文化財の保護・保存修復に関する協力・支援事業の一環として、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域(特に中央アジア、インド)の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

山内和也、朽津信明、宇野朋子、有村　誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木　環、安倍雅史、廣野　幸(以上、文化遺産国際協力センター)、前田耕作、岩井俊平、西山伸一、谷口陽子、松岡秋子、古田嶋智子、末森　薫、野島崇子、高林弘実(以上、客員研究員)、肥塚隆保、杉山　洋、森本　晋、石村　智、脇谷草一郎、田村朋美(以上、奈良文化財研究所)、中村俊夫(名古屋大学)、大原誠資、加藤　厚(以上、森林総合研究所)、三橋　徹(凸版印刷)、津村宏臣(同志社大学、客員研究員)

【主な成果】

アフガニスタン：文化財専門家の人材育成・技術移転、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との供同研究。

イラク：文化財専門家の人材育成・技術移転。

西アジア周辺諸国文化遺産の調査研究・保護への協力等：トルコ、シリア、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト。

【年度実績概要】

1. アフガニスタン

1-1. バーミヤーン遺跡保存事業：第 9 次ミッション(6 月 26 日～7 月 9 日)派遣。

1-2. アフガニスタン文化財専門家研修事業(ユネスコ文化遺産保存日本信託基金と連携)：考古学専門家の人材育成・技術移転(7 月 21 日～12 月 12 日)：カーブル考古学研究所より研究員 2 名(うち 1 名は信託基金)を招へいし、考古学調査の技術研修を実施。

1-3. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席(3 月 25、26 日、ミュンヘン、出席者 2 名)

1-4.『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版：備考欄の報告書①、備考欄の報告書②

1-5. 外部機関・団体との共同研究等：森林総合研究所、名古屋大学、同志社大学、凸版印刷

2. イラク

イラク文化財専門家研修事業(ユネスコ日本信託基金と連携)：イラク国立博物館より 4 名(うち 2 名は信託基金)の保存修復家を招へいし、染織品の保存修復研修」および「文化財の保存修復および分析調査のために使われる機器に関する研修」を実施(6 月 16 日～9 月 19 日)

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等：トルコ(カッパドキア石窟壁画の状態調査)、シリア(デデリエ洞窟の遺構の保存修復のための状態調査)、タジキスタン(タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画片の保存修復及び文化財専門家の人材育成・技術移転［文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業の一環］)、インド：アジャンター壁画の保存修復(［文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業の一環］)、中央アジア諸国：中央アジア諸国の文化遺産のドキュメンテーション(ユネスコ信託基金との連携)、エジプト(JICA 事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力)

4. 国際会議等への参加：「The 5th UNESCO Sub-regional Workshop on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads (2009 年 5 月 18～24 日、アルマティ)、「1st Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads (2009 年 11 月 3～6 日、西安)

【実績値】

報告書作成：5 件(①～⑤)、学会発表件数：3 件(⑥、⑦、⑨)、論文：1 件(⑧)

【備考】

①『*Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts*』2009.08　②『バーミヤーン遺跡の地下探査』2010.3　③『古代ペンジケントの壁画と彫塑- 古代ペンジケントの壁画の画法と保存 - 古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存 -』2010.2　④『タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復-2008 年度(第 1 次～第 4 次ミッション)』2010.3　⑤『アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業- 2008 年度(第 1 次ミッション)-』2010.3　⑥「タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の彩色材料について」(島津美子)文化財保存修復学会第 31 回大会 2009.06.13～14　⑦「タジキスタン国立古物博物館におけるソグド壁画の保存修復-壁画片の保存状態と現在までに行った処置-」(島津美子、松岡秋子、邊牟木尚美、増田久美)、文化財保存修復学会第 31 回大会 2009.06.13～14　⑧「タジキスタン国立古代博物館が所蔵するソグディアナ出土壁画の保存修復-カライ・カフカハ遺跡出土壁画ＫH7-1 の事例-」(松岡秋子、島津美子、邊牟木尚美、影山悦子、山内和也)『保存科学』第 49 号 2010.3　⑨*Rehabilitation of the National Museum of Afghanistan*(ポスター発表)、ICOM-ASPAC 日本会議 2009、国立科学博物館、2009.12.7～12.9

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5123

自己点検評価調書

研究所 No 47

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | A | S | A |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 招へい者数 | 職員派遣数 | 報告書作成数 | 発表件数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | アフガニスタンやイラクに関しては、治安等の問題を考慮し、日本に招へいして当該国の専門家の人材育成や技術移転を効率的かつ継続的に実施しており、着実に成果が上がっているともに、相手国からも高い評価を受けている。西アジア周辺諸国については、相手国のニーズを踏まえ、人材育成・技術移転を核として協力事業を適切かつ継続して実施しており、将来に向けての発展性も高い。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 計画通り実施されており、当該年度計画を 100%達成。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5211

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 48

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 諸外国の文化財保存修復専門家養成((2)-ア) |

【事業概要】

国内で混乱が続くイラクやアフガニスタンといった国々や、文化財保存に関して発展段階にある諸国では、保存修復を担うべき専門家の不足が深刻な状況にあり、その養成が緊急の課題となっている。
諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を推進するため、文化遺産国際協力センターではこのような国々の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成を実施している。このような研修を行うにあたっての教科書として使用することを主な目的として、「文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて」をテーマにしたテキストと、「染織品文化財の収蔵と取り扱い」をテーマにしたビデオＤＶＤを作成する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存計画研究室長　友田正彦 |

【スタッフ】

廣野　幸(文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、教科書(日本語版および英語版)とビデオＤＶＤ(日英２ヶ国語ナレーション)を作成した。

【年度実績概要】

諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、テキストとビデオＤＶＤを作成した。

テキストについては、一般的な博物館等の文化財展示収蔵施設において、収蔵品や歴史資料の保存上最も問題となるカビのコントロールについてをテーマとした。このテーマについては、保存修復科学センターの木川りか、間淵　創、佐野千絵各氏共著による文化財保存修復学会誌掲載論文があり、内容的に最もよくまとまっている。このため、同論文をベースに研修テキスト向けに内容を再構成し、木川氏の監修を得る形で編集を行った。文化財展示収蔵施設におけるカビ被害防止、被害の早期発見、対応等について基礎知識を簡潔にまとめたガイドラインとしても活用されることを意図している。全体は大きく 2 部に分かれ、前半でカビとは何かを発生原因や人体への悪影響も含めて概説し、後半ではその発生予防と発生時の対応等についてテーマとめている。同一内容の日本語版と英語版をそれぞれ作成した。

一方、ビデオＤＶＤは、「染織品文化財の収蔵と取り扱い」をテーマとした。染織品は、博物館等に展示・収蔵される機会が多い一方で、保存環境による影響を受けやすく、不用意な取り扱いによる損傷・劣化等の危険性も高い物品である。特に途上国等においては、空調や環境管理の徹底が難しいケースが多いと考えられるが、正しい収蔵や取扱いの方法に関する知識を有する作業者は少ないのが現状である。そこで、今回製作した教材ＤＶＤでは、作品の状態調査から保存方針の決定、クリーニングや展示・収蔵の具体的方法、記録作成に至る一連の流れを専門家に実演してもらい、解説を加えた。日本語と英語のナレーションを収録しており、諸外国専門家養成への活用に備えている。なお、製作に当たっては、所蔵作品を使用しての撮影等、文化学園服飾博物館の協力を得た。

【実績値】

ビデオ編集　　１巻(①)
テキスト作成　２冊(②③)

【備考】

①『染織品の保存と活用』(ビデオＤＶＤ)　2010.3
②『文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて』2010.3
③“Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategies”2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5211

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 48

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考
　ビデオ、テキストともに、当該分野の専門家の協力、監修を得て、入門用としては必要十分な内容を盛り込みつつ、コンパクトで汎用性の高い教材を作成することができた。

2．定量的評価

| 観点 | ビデオ作製数 | テキスト作成数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
　ビデオ、テキストともに、当初計画通りの点数を作成した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 計画通りにビデオとテキストが製作できたので、Ａと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 諸外国の文化財保存修復専門家人材養成研修用のビデオとテキストが完成し、当初の計画通り順調に進行している。次年度も人材養成に一層寄与するような事業を推進していく。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5212

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 49

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 |
| プロジェクト名称 | 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力(⑵-イ) |

【事業概要】
国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画調整部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画調整部長　肥塚隆 |

【スタッフ】
杉山　洋、石村　智、田村朋美［以上、企画調整部］、島田敏男［文化遺産部］、箱崎和久［都城発掘調査部］

【主な成果】
国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行った。国際協力機構からはエジプトの博物館研修生の受入れを行った。ユネスコアジア文化センターからは本年も個人研修と集団研修の研修受入れ要請があり、個人研修はラオス人とモンゴル人に対して研修を行った。集団研修は各国の研修生を受入れ、木造建造物の保存修復を中心とした研修を行った。さらに本年はベトナムのホイアンで行われたワークショップにも研究員を派遣し、おもに木造建造物の保存修復に関する研修を行った。

【年度実績概要】
1.国際協力機構による研修
大エジプト博物館保存修復センタープロジェクトの研修として、エジプト人 2 名に対して 2009 年 9 月 2 日～9 月 10 日の期間研修を行った
本研修では機器を用いた出土遺物の調査法に関する実習をおこなった。テキスタイルの分析方法についての実習を中心におこなった。それ以外では X 線を用いた遺物の構造調査法についての講義および実習をおこなった。テキスタイルの分析法に関しては、FT-IR による繊維の同定、紫外可視分光光度計(UV/VIS)および分光蛍光光度計(FL)を用いた染料の同定などの実習をおこなった。遺物の構造調査法に関しては、X 線ラジオグラフィについての講義および実習をおこなった。

2. ACCU 個人研修への協力
A.文化遺産の保護に資する研修 2009(個人研修・ラオス)に関する協力
7 月 7 日から 8 月 6 日までの 31 日間の日程で、ラオス文化情報省文化遺産局所属の研修生 3 名を招き、遺跡の記録方法等の研修を実施した。
B.文化遺産の保護に資する研修 2009(個人研修・モンゴル)に関する協力
11 月 17 日から 12 月 17 日までの 31 日間の日程で、モンゴル国立文化遺産センター歴史文化遺産修復部所属の研修生 3 名を招き、文化財(木製品・金属製品)の保存科学等の研修を行った。

3. ACCU 集団研修への協力
文化遺産の保護に資する研修 2009(集団研修)に関する協力
2009 年 9 月 8 日から 10 月 8 日までの間､｢木造建造物の保存と修復」をテーマに開催された集団研修に講師として協力した。


個人研修への協力（ラオス人個人研修）

4. ACCU　現地ワークショップへの協力
ベトナムのホイアンで 10 月 26 日から 31 日までの日程で、文化遺産ワークショップが開催され、講師として研究員を派遣した。ベトナム文化スポーツ観光省文化遺産局と共催で行われた研修で、ホイアンにおいて現地研修を実施した。 研修テーマは、｢木造建造物の調査・記録法と修理・管理方針の作成」。現場実習では、参加した 16 名の研修生が、ホイアンの町家を使って、平面図と断面図の実測と図化の研修を行った。

【実績値】
研修回数：5 回　エジプト人 2 名、モンゴル人 3 名、ラオス人 3 名、集団研修 20 名、現地ワークショップへの協力 16 名

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5212

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 49

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考

近年諸外国からの文化財保護技術についての研修依頼が増加する傾向にあり、国際協力機構や ACCU からの研修依頼に対して、適宜迅速に対応しており、適時性は A と評価した。またこうした研修を通して相手国側の文化財保護機関との人的なつながりを醸成することができ、研修後の協力関係の発展という面での貢献は大きい。発展性にも大なるものがあると言える。ACCU の創立以来 10 年間に亘って、研修への協力を続けており継続性も高い。

2．定量的評価

| 観点 | 研修回数等 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考

当初計画された研修に対して、的確に対応し回数も予定通りであった。また参加者の満足度も高く、多国間の文化財協力に一助をなしていると思量される。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 近時、ODA の見直し論議を受けて、国際協力の分野でソフト的な人材養成への期待が高まっている。特に文化財等の文化協力は、費用対効果も高いとともに、精神的な協力関係醸成への遡及効果も高いと判断されつつある。こうした傾向を受けて研究所としては各国際機関からのこうした自在養成を中心とした依頼に積極的に対応してきた経緯がある。そのなかでも当該事業の対象である ACCU と国際協力機構からの研修依頼には、適宜的確に対応するとともに、研修生の満足度や理解度の上でも大きな成果を収めていると判断できる。<br>ただこれまでの約 10 年間の当該事業の実施内容を踏まえて、カリキュラムの見直しや研修方法の改善などいくつかの改善点も把握できている。今後はこうした改善点に沿ってよりよくかつ効果的な研修を目指して内容の改善と質の向上に努めていく必要があると考える。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 国際協力機構や ACCU からの研修依頼について、適宜・的確に対応できていると考える。本年度の内容を踏まえ、研修のより質的な改善に努めるとともに、外部機関からの要請に積極的に応えていく予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6111

(様式 1)

業務実績書

研究所 No50

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 情報システムの整備((1)-①) |

【事業概要】

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 情報システム研究室長　勝木言一郎 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

綿田　稔、江村知子(以上、企画情報部)、崎部　剛(管理部ＬＡＮ委員)、俵木　悟(無形文化財部ＬＡＮ委員)、犬塚将英、加藤雅人(以上、保存修復科学センターＬＡＮ委員)、二神葉子(文化遺産国際協力センターＬＡＮ委員)

【主な成果】

まずシステム管理については、保守契約等の協議、ﾒｰﾙアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、国立文化財機構組織間ＶＰＮの接続の準備、居室内スイッチの更新、情報セキュリティ強化システムの導入を進め、情報基盤の整備と拡充を進めた。

【年度実績概要】

1. システム管理

所内におけるシステム管理については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、ﾒｰﾙアカウントの管理、グループウェアのﾕｰｻﾞ管理、コンピュータ・ウィルス対策を行った。

2. ネットワーク環境の整備

現在のﾕｰｻﾞ環境を維持しつつ、より効率的運用ができるように、国立文化財機構組織間ＶＰＮの接続の準備を進めるとともに、居室内スイッチの更新および情報セキュリティ強化システムの導入を実施した。

3. 国立文化財機構組織間における情報ネットワークの整備

国立文化財機構組織間における情報ネットワークの整備の一環として、ＶＰＮ接続を実施するとともに、機構組織間のグループウェア運用に向けた準備を進めた。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6111

自己点検評価調書

研究所 No50

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び高速化を図るに当たり、現在のユ-ザ-環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6112

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 51

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 | | |
| プロジェクト名称 | ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実((1)-①) | | |
| 【事業概要】<br>コンピュータウィルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。 | | | |
| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石 憲良 |
| 【スタッフ】<br>渡　勝弥 ほか 1 名 | | | |
| 【主な成果】<br>USB ワームによるコンピュータウィルスの感染報告が 1 件あったが、それ以上の感染が拡大することもなく運用ができた。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>ウィルス対策ソフトは、サーバ・PC とそれぞれ別の会社のものを使用し安全を確保して来たが、USB ワームの被害報告が一件あった。これは所外の感染した PC で使用した USB フラッシュメモリを持ち込んだために感染した事が原因で、ファイアーウォール及びサーバで行なっている Web 用・メール用のウィルス対策は万全であったと云える。<br>ファイアーウォール及びメールサーバの更新を行う事により、メール利用環境を向上させた。 | | | |
| 【実績値】 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6112

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 51

1．定性的評価

| 観点 | 継続性 | 正確性 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考<br>継続性：適切なソフトウェア及び機器の更新を行なった。<br>正確性：情報漏洩・改竄、ネットワークを介してのウィルス感染は皆無であった。 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | USB ワームによる被害報告が 1 件あったが、他への感染もなく、年度を通してみると充分なセキュリティが確保できたと考える。次年度以降もセキュリティに関する情報提供及び注意喚起に務めたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | ネットワーク機器及びサーバについては安定した稼動を実現しているため、今後も安定した稼動の継続運用を行いたい。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6121

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 52

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 文化財に関する専門的アーカイブの拡充((1)-②) |

【事業概要】

文化財関連の図書等の文字資料およびアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、一般利用者へのそれらの提供、そのためのデータベースや検索システムの構築・運用を行い、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)

【主な成果】

1)公開用ＳＱＬデータ・画像データの更新・運用。
2)画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化
3)劣化が進む貴重雑誌のＣＤ-ＲＯＭ化
4)『鈴木敬旧蔵寄贈目録』の刊行

【年度実績概要】

**1)資料閲覧室の運営：**文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、インターネット上での公開を目指して画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌の CD-ROM 化をすすめるとともに、国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。 また、昨年寄贈のなった鈴木敬旧蔵寄贈図書を整理し、『目録』を刊行した。

**2)画像情報室：**他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。06 年度より継続の尾高鮮之助撮影フィルムについて文化遺産国際協力センターの協力を得て画像をデジタル化した。

**企画情報部にて作成・更新中の 36 種データベース：**所蔵和漢書(～08),受入和漢書(09 年度分),所蔵洋書,所蔵簡易図書,売立目録,所蔵美術館博物館収蔵目録,和雑誌誌名,所蔵洋雑誌誌名,所蔵中国雑誌誌名,所蔵韓国雑誌誌名,所蔵和雑誌巻号(～02),所蔵洋雑誌巻号(～05),所蔵和雑誌巻号(03 以降),所蔵洋雑誌巻号(06 以降),所蔵中国雑誌巻号,所蔵韓国雑誌巻号,所蔵地方公共団体刊行報告書,所蔵香取秀真資料関係,展覧会(02 まで), 展覧会(03 以降),近現代作家名,近現代展覧会開催情報(35 以降),写真原板,キャビネット写真,古美術文献目録(明治～65),美術文献目録(35～06),美術館博物館名,東京文化財研究所年表, ,美術研究総目次,撮影調査票,古美術展覧会開催情報(44 以降),物故者記事,美術懇話会,開所記念展覧会出品目録, 美術家美術関係者情報,画廊情報

**インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の 15 種データベース：**美術関係図書、伝統芸能関係図書、保存修復関係図書、売立目録、展覧会カタログ、和雑誌、写真原板,美術関係文献、『保存科学』所載文献、伝統芸能関係三雑誌所載文献、『美術研究』所載文献、近現代美術展覧会開催情報、伝統楽器情報、美術家美術関係者情報、画廊情報

【実績値】

通常フルカラ-画像撮影件数 1,609 件、特殊画像撮影件数 929 件、デジタル画像撮影の全体に占める割合 100%、図書書受入数:和漢書 2,659 件.洋書 69 件,展覧会図録・報告書等 1,078 件,雑誌 1,661 件(受入総数 5,467 件),36 種の目録所在情報(作成件数 227,377 件,収録件数 944,659 件,公開件数 786,893 件),インターネットで公開中の目録累計数 15 種,資料閲覧室の利用状況:公開日総数 140 日・利用者年間合計 1,139 人、昨年度の利用者数との対比 152 人増
目録刊行数(①)

【備考】

所内イントラによる目録の公開　http://www2.tobunken.go.jp
①『鈴木敬旧蔵寄贈図書目録』(2010.3)

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6121

自己点検評価調書

研究所 No 52

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 文献資料受入件数 | 画像資料収集件数 | データベース公開件数 | 閲覧者利用者数 |
|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A |
| 備考 | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 定性的にも定量的にも目標値を満たし、閲覧室利用者の増加にみられるように国民の文化財理解にも資することができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | さらなる国内外の関連機関との調査・協議を進め、当研究所の文化財アーカイブの特色を生かした資料収集および公開を進めて行きたい. |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6122

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 53

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 東京文化財研究所七十五年史編纂事業((1)-②) |

【事業概要】

本事業は、東京文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和 5 年 6 月に設立されてから平成 17 年で 75 周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには独立行政法人国立文化財機構の一組織となる平成 18 年までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、所史を編集する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画情報部長　田中　淳 |

【スタッフ】

中野照男(副所長)、高栁　明(管理部)、塩谷　純、山梨絵美子、中村節子、中村明子、井上さやか(以上、企画情報部)、高桑いづみ(無形文化遺産部)、佐野千絵、川野邊　渉(以上、保存修復科学センター)、岡田　健(文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

『東京文化財研究所七十五年史　本文編』を平成 21 年度に刊行することができた。

【年度実績概要】

『東京文化財研究所七十五年史　本文編』を、以下の内容で平成 21 年度に刊行した。(B5 版、総ページ 607 頁、平成 21 年 12 月 25 日発行、一部市販)

Ⅰ　沿革
Ⅱ　管理運営
Ⅲ　調査研究
　1　企画情報部
　2　無形文化遺産部
　3　保存修復科学センター
　4　文化遺産国際協力センター
Ⅳ　現況
関連資料　(関連団体、追想、物故研究員等略歴、東京文化財研究所年表、機構変遷図、参考文献一覧)

【実績値】

刊行数：1 件

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6122

自己点検評価調書

研究所 No 53

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 効率性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 刊行数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 『本文編』は、先に刊行した『東京文化財研究所七十五年史　資料編』(平成 20 年 3 月刊行)とあわせて、当研究所 75 年史とすることができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 『東京文化財研究所七十五年史　本文編』刊行をもって、当編纂事業は完了し、関係機関約 400 件に寄贈する予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6123

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 54

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化((1)-②) |

【事業概要】

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。前中期計画(平成 17 年度終了)の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、金子　健、綿貫　潤、星野厚子(以上、無形文化遺産部)

【主な成果】

2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化についても、データベース作成の一環として、昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008 年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。

【年度実績概要】

今年度、無形文化遺産部が推進した音声記録のデジタル化は、これまで収集実績が比較的少なかった諸芸(舌耕芸など)の分野、および 1960 年代の放送録音を中心に行った。後者については、放送局にも保存されていない録音が多いことから、その資料的な価値が近年再認識されつつあるもので、今年度はＣＤ161 枚を作成した。また、媒体変換を完了した音声資料から、インデックス付与済みＣＤを 73 枚作成した。

所蔵画像資料のデジタル化事業の一環として実施しているデータベース作成の内、今年度は 2008 年度に寄贈を受けた歌舞伎写真の整理を中心に行い、昭和 30 年代のモノクロネガ 1，085 点について所蔵一覧を公表した。このほか、無形文化財関連の作成ＤＶＤ603 枚を登録した。

【実績値】

作成資料［ＣＤ］234 枚　　［ＤＶＤ］603 枚

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6123

自己点検評価調書

研究所 No 54

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 資料作成数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、これまで収集実績の乏しかった分野に加え、資料的な価値が再認識されつつある放送録音の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 事業は、従来の水準を維持している。また、所蔵資料の内、写真資料については、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6131

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 55

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 国際資料室の整備((1)-③) |

【事業概要】

本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ，文化遺産国際協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに，国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に，資料のデータベース化を行い，利用者の便を図る。

| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　二神葉子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

清水真一、岡田　健、山内和也、朽津信明、友田正彦(以上、文化遺産国際協力センター)

【主な成果】

資料収集、データベース化：国内外で図書その他の資料を収集し、整理・分類して目録に登録し、データベース化した。

【年度実績概要】



文化財保護法令に関する資料（国際資料室）

1. 資料の収集とデータベース化

今年度はインド、インドネシア、中国、タイ、中央アジア諸国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍 572 点(和漢書 214 点、洋書 358 点)、雑誌 228 点の資料を収集し、データベース化した。

2.『国際資料室蔵書目録』の作成

2010(平成 22)年 3 月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した 572 点(和漢書 214 点、洋書 358 点)の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌 454 種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した

【実績値】

目録作成数　1 件(①)

【備考】

①『国際資料室蔵書目録』2010.3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6131

自己点検評価調書

研究所 No 55

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 目録作成数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 調査研究業務に必要な資料を効率的に多数収集し、データベース化している。内容は外国の調査地で収集した資料や、文化財保護制度に関する外国語文献など独創的である。次年度以降も、本センターの他事業との連携をいっそう強化し、資料の収集を実施する。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 資料の収集は例年の実績を堅持し、順調に実施することができた。今後も、書籍に限定せず会議資料や機関のパンフレット、地図など、多様な資料の充実に努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6132

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 56

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実((1)-③) |

【事業概要】
文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者および一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。

| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石 憲良 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
渡　勝弥 ほか 6 名

【主な成果】
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。

【年度実績概要】
図書の整理:
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集・整理を行なった。また、国立情報学研究所が構築しているオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(NACSIS-CAT)への新規及び遡及入力の継続等、所外の利用者への情報提供も行なっている。

利用者サービス:
図書資料室は一般公開施設として位置づけ、広く利用に供している。遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行なっている NACSIS-ILL を通じて文献複写サービスを行なっている。

写真の登録:
図書資料以外では、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。

【実績値】
受入数:
購入図書　1,185 冊
寄贈図書　8,299 冊
雑誌　1.543 タイトル
写真　12,532 点

利用者サービス:
一般利用者数　737 人
利用冊数　4,785 冊
来館者複写件数　931 件

遠隔利用:
複写件数　755 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6132

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 56

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 資料の受入数 | 目録所在情報作成件数 | 利用者数 | 複写件数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 書庫の狭隘化が深刻な状態となってきているので、資料の整理、書庫の増築計画等の検討を行い、研究者に対してより有意義で効果的な資料の収集に努めたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 利用者数、利用冊数、複写件数のいずれもが増加しており、極めて順調といえる。今後も研究者へのサービスを重視した運営を行っていきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6141

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 57

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究((1)-④) |

【事業概要】

世界各地の文化財およびその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する

また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。

さらに、ウェブサイトを利用してセンターの事業について広報を行う。

| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【プロジェクト責任者】 | 主任研究員　　二神葉子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

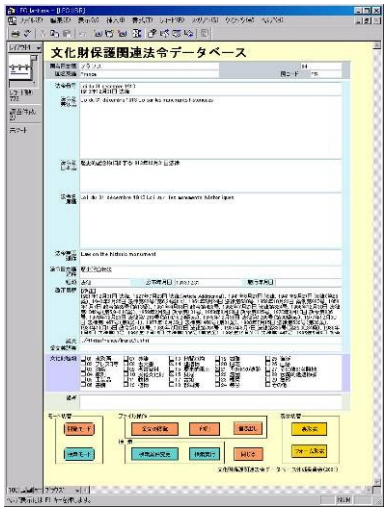
清水真一、岡田　健、山内和也、朽津信明、友田正彦(以上、文化遺産国際協力センター)、今井健一朗(客員研究員)

【主な成果】

情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。

情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「各国の文化財保護法令シリーズ」としてカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令集およびフランス文化財法典(前編)を出版した。

【年度実績概要】




法令データベースの表示例

1. 情報の収集とデータベース化

平成 13 年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。

2. 情報の発信

これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文についてＰＤＦ化を行い、ウェブサイトに公開している。印刷物としては、まず、平成 19 年度に中央アジア 5 カ国を招いて「アジア文化遺産国際会議」を開催したカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令についてロシア語から和訳し、「各国の文化財保護法令シリーズ[6]-[8]」として印刷・出版した。また、文化財保護制度が整備され、当センターでも 2003 年以来比較研究を行っているフランスについて、「文化財法典」を和訳し、そのうち前半部分を「各国の文化財保護法令シリーズ[9-a1]」として出版した。さらに、昨年度出版した日本の文化財保護法の条文・判例および英訳冊子について、若干の改訂を行うとともに増刷した。なお、法令の翻訳にあたっては、あえて原語に忠実で説明的な直訳を心がけることで、日本語の類似の制度などとの混同を避ける工夫を図っている。

このほか、平成 2 年度～12 年度の「アジア文化財保存セミナー」報告書をＰＤＦ化した。さらに、文化遺産国際協力センターのウェブサイトで、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。

【実績値】

法令集作成数　4 件(①～④)

【備考】

①～④　各国の文化財保護法令シリーズ　6　カザフスタン、7　キルギス、8　トルクメニスタン、

9-a1　フランス文化財法典(前編) 2010.3

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6141

自己点検評価調書

研究所 No 57

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 独創性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 出版物作成数 | データベース作成数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | |

備考
文化財保護に関する法令の収集・翻訳、さらに出版は他に例がない事業であり独創的であり、当該分野への貢献度を高く評価するものである。今年度も昨年度に引き続き法令集シリーズを出版した。また、研究成果の発信も速やかに実施している。これらの事業を来年度以降も引き続き行っていく。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財保存修復および国際協力に関する資料の蓄積、および本センターの調査研究成果の発信を順調に実施することができた。<br>次年度以降も当該年度の水準を維持し、いっそうの資料収集・整理、成果発信を実施していきたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。今後もさらに資料の収集・蓄積と発信を行っていきたいと考えている。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6142

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 58

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実((1)-④) |

【事業概要】

文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画調整部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画調整部長　肥塚隆保 |

【スタッフ】

森本　晋［企画調整部］

【主な成果】

文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新の手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表することにより学界に寄与している。開発・改良を継続している各種データベースについて業務用とともに公開用についても充実を図った。

【年度実績概要】

1. 文化財情報電子化の研究

遺跡・遺物情報電子化の実態調査として、遺跡台帳を電子的に整備し日常の業務に役立てるため GIS を活用している札幌市埋蔵文化財センターを訪問、実態調査を行った。遺跡・遺物情報電子化の資料調査として関連学会の中でも重要な Vast2009、リポジトリ研究会に参加するとともに、地理情報システム学会において研究成果の発表を行った。

2. 文化財情報データベースの充実

遺跡、図書、写真、報告書抄録、航空写真等のデータベースについてデータの入力・更新を行った。奈文研所蔵資料の電子化に努め、特にガラス乾板画像、大判フィルム、航空写真画像のデジタル化を進めた。

3. 遺跡 GIS 研究会の開催

第 14 回遺跡 GIS 研究会を 2009 年 11 月 20 日、奈文研管理部会議室で開催。発表 4 件。

【実績値】

研究会開催数：1 回、参加者数：25 名。

研究発表件数：2 件(①、②)

データベース件数平成21年度末(　)内は平成20年度末の値

全文 210,541(141,373)、木簡 149,376(147,550)、図書 239,630(269,826)、抄録 60,289(47,432)、写真 214,984(193,219)、遺跡 421,051(402,908)、航空写真 1,222,142(1,170,332)

*図書データベースはデータ構造を変更したため見掛け上の件数が減少。

【備考】

①森本晋ほか「考古遺物の時間属性表現を目的とした地理情報標準準拠の編年参照系モデル」(『地理情報システム学会講演論文集』2009.10)

②森本晋「遺跡の記録」(第 14 回遺跡 GIS 研究会　2009.11)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6142
(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 58

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考<br>奈文研独自のデータベースを整備して研究に資するとともに公開用データベースを充実させるという点において、広く国民が求める情報を継続的に提供している。また情報の正確さを担保しつつ電子化の研究を踏まえて質の向上に努めている点からも、上記諸観点を満たしている。 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 定性的評価の各観点において十分な水準を維持しており総合的にＡと判定した。文化財情報電子化の実態調査・資料収集をさらに充実させ、次年度においては新たなデータベース構築の検討を開始したい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。新規データの入力のみならず、既存データの更新も行いながら、システムの改良も進めており、全体として当初計画通り進捗しているので、順調と判定した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6211

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 59

| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行((2)-①) |

【事業概要】

『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を対外向けに情報発信することにある。またそれらはホームページにおいてもＰＤＦファイル形式のデータとして配信されている。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 情報システム研究室長　勝木言一郎 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子、中村節子(以上、企画情報部)

【主な成果】

『年報』2008 年度版、『概要』2009 年度版、『東文研ニュース』37 号-40 号、『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版)6 号-7 号をそれぞれ刊行し、研究所の情報発信に努めた。

【年度実績概要】

1.『年報』2008 年度版の刊行

2008 年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。

2.『概要』2009 年度版の刊行

2008 年度版の構成は昨年度版にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその割付は従来通り、日英 2 カ国語を併記し、図版を多用した。

3.『東文研ニュース』の刊行

『東文研ニュース』37 号-40 号の構成は従来通り、四半期ごとの活動報告、コラム、刊行物の案内、新人紹介、人事異動、案内などとした。また『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版』)を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

4. 子供向けパンフレットの刊行

2008 年度に引き続き、子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ？』を刊行した。ただしその仕様は判型Ｂ5 判、16 ページ、中綴じ、その内容はテーマ別に改めた。

【実績値】

| | | |
|---|---|---|
| 刊行物数 | 『東京文化財研究所年報』2008 年度版 | 1，000 部 |
| | 『東京文化財研究所概要』2009 年度版 | 5，000 部 |
| | 『東文研ニュース』第 37 号・第 38 号・第 39 号・第 40 号 | 各 5，000 部 |
| | 『東文研ニュースダイジェスト』(『東文研ニュース』英語版)第 6 号・第 7 号 | 各 5，000 部 |
| | 子供向けパンフレット | 10，000 部 |

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6211

自己点検評価調書

研究所 No 59

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 刊行物数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも誌面の内容を見直し、その充実を図った。またそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大した。こうした結果、広報企画事業の適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性が改善された。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも誌面の内容を見直し、その充実を図ったこと、そしてそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大したことから、東京文化財研究所における広報活動の事業展開が拡充された。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6212

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 60

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 『平成 20 年版日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行((2)-①) |

【事業概要】

各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている『日本美術年鑑』を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する『美術研究』を年 3 冊刊行する。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)、相澤正彦、三上　豊、吉田千鶴子、森下正昭(以上、客員研究員)、中野照男(副所長)

【主な成果】

『日本美術年鑑』を年 1 冊、『美術研究』を年 3 冊刊行することを目的とし、今年度は『平成 20 年版　日本美術年鑑』及び、『美術研究』398～400 号を刊行することができた。

【年度実績概要】

①『平成 20 年版　日本美術年鑑』　B5 版　396 ページ
　2007(平成 19)年美術界年史、美術展覧会(企画展、作家展、団体展)、美術文献目録(定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献(企画展、作家展))、物故者

②『美術研究』398 号
　皿井　舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織(下)」
　顔　娟英(塚本麿充訳)「「日本画」の死-日本統治時代における美術発展の困難-」
　田中　淳「研究ノート　試論・「新しい女」と「風船を持つ女」-萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現-」
　津田徹英「研究資料　脱活乾漆像 菩薩立像」
　菊屋吉生・塩谷　純「研究資料　珊瑚会資料集(補遺その二)」

③『美術研究』399 号
　土屋貴裕「鉄心斎文庫蔵「伊勢物語画帖」について」
　塩谷　純「川端玉章の研究(二)」
　江村知子「研究ノート　追憶の色-遊楽図の人物風俗描写に関する一考察-」
　江村知子「展覧会評　朝鮮王朝の絵画と日本」

④『美術研究』400 号
　雷　玉華・李　裕群・羅　進勇(濱田瑞美訳)「四川汶川出土の南朝仏教石造像」
　綿田　稔「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考-名嶋城御成書院から福岡城対面所へ-」
　森下正昭「研究ノート　コンテンポラリー・アートに関する美術館の新たな試み-英国テートギャラリーとインカのアーティスト・インタビュー・アーカイブ」
　朴　昭炫「書評　吉田千鶴子『近代東アジア美術留学生の研究』-トランスナショナル・アーカイブを想像する-」

【実績値】

『日本美術年鑑』刊行数　1 点　(①)600 部発行、450 件配布
『美術研究』刊行数　　3 点　(②～④)各 400 部発行、各 306 件配布

【備考】

①『平成 20 年版　日本美術年鑑』東京文化財研究所　2010.3
②『美術研究』398 号　東京文化財研究所　2009.8
③『美術研究』399 号　東京文化財研究所　2010.1
④『美術研究』400 号　東京文化財研究所　2010.3

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6212

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 60

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 正確性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 刊行物件数 | 配布部数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 広く文化財、美術史研究の情報を調査収集、データ化した『日本美術年鑑』は、計画通り刊行できた。編集作業の効率化を向上させるとともに、ウェブへのデータ公開との関連を次年度に改善したい。また、『美術研究』においては、従来からの基礎的研究の充実に加え、地域的あるいは時代的に従来の枠を超えた研究が登場するなど、誌面がより一層充実する傾向にあり、この点は評価できる。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中期計画にあげた実施状況は、順調である。『日本美術年鑑』については、編集作業の効率化とウェブへのデータ公開の迅速化にむけて、次年度は改善したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6213

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 61

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行((2)-①) |

【事業概要】

無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。

| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、金子　健(以上、無形文化遺産部)、星野　紘、福岡裕子、森下愛子、服部比呂美(以上、客員研究員)、七海由美子、松山直子(特別研究員)

【主な成果】

1)主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第 4 号の刊行。

2)平成 21 年 11 月 19 日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第 4 回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。

【年度実績概要】

○『無形文化遺産研究報告』第 4 号を以下の内容で刊行した。

「実施段階に入った無形文化遺産保護条約」宮田繁幸、「アジア太平洋地域の無形文化遺産―代表一覧表記載案件の分類と専門機関の役割―」松山直子、「無形文化遺産保護の挑戦―日本国内およびアジア太平洋諸国を訪れて―」星野　紘、「近代の京焼から「伝統」を考える―近代京都の陶芸家における古典学習について―」森下愛子、「染色技術の記録・保護への取り組み―製織・製糸・縫製を中心に―」深津裕子、「大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態」俵木　悟、「八朔の馬節供　西讃地方の団子馬製作を中心に」服部比呂美、「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真(二)」金子　健、「国立音楽大学附属図書館寄贈竹内道敬旧蔵音盤目録(4)」飯島　満

○「無形の民俗の伝承と子どもの関わり」をテーマとした『第 4 回無形民俗文化財研究協議会報告書』を以下の内容で刊行した。

I.序にかえて、II.趣旨説明、III.報告：1 報告「大磯の七夕行事の継承の取り組み」佐川和裕(大磯町郷土資料館学芸員)、報告：2「大鹿歌舞伎の継承の取り組み」北村尚幸(大鹿村教育委員会社会教育係長)、報告：3「伝統文化こども教室事業の現状と課題について」松本保之(財団法人伝統文化活性化国民協会事務局次長)、報告：4「直根小学校における民俗芸能への取り組み」金　利紀(由利本荘市立直根小学校長)、報告：5「餅・団子を通した様々な「発見」～東北歴史博物館が小学生と行った民俗調査から～」小谷竜介(宮城県教育庁文化財保護課技術主査)、IV.総合討議、V.参考資料、VI.アンケート結果、VII.あとがき

【実績値】

発行数　　2 件

発行部数　1,250 部(『無形文化遺産研究報告』750 部、『無形民俗文化財研究協議会報告書』500 部)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6213

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 61

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 刊行数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 『無形文化遺産研究報告』: 今回は、無形文化遺産をめぐる国際的状況、無形文化財の芸能、工芸技術、無形民俗文化財の民俗行事、民俗技術の論考や報告、資料紹介等、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。<br>『無形民俗文化財研究協議会報告書』: 当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書の刊行を見る予定である。<br>以上を総合的に判断して、Ａと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 両誌ともに、年度当初の計画通り、年 1 回の刊行がなされており、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。そして『無形文化遺産研究報告』は、内外の無形文化遺産保護行政担当者や研究者の要望を視野に入れた研究誌として、内容の充実を図ることとする。『無形文化財研究協議会報告書』は、今後も協議会の内容を掲載するものとして、刊行を続けてゆく。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6214

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 62

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 『保存科学』49 号の出版　((2)-①) |

【事業概要】

保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究に基づく資料の作成・公開を目的とし、年 1 回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置報告などを掲載する。また、より一層の研究成果の公開につとめるため、『保存科学』掲載論文の電子化を行い、インターネット上での公開を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

【スタッフ】

川野邊　渉(保存修復科学センター)、清水真一(文化遺産国際協力センター)、犬塚将英(保存修復科学センター)(編集担当)

【主な成果】

29 件の投稿を受け、外部査読者 2 名を含む編集委員会で査読を行い、報文 9 本、報告 20 本、合計 29 本の掲載を決定した。本誌の体裁は変更せず、総ページ数　287 ページ、600 部印刷、関係諸機関に約 580 部配布した。

【年度実績概要】

保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館文化財保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の 5 名からなる編集委員会によって編集を行った。平成 21 年度は、29 件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第 49 号を発行した。その中で 9 件の研究論文の題目を以下に記す。

1. 文化財公開施設等におけるＡＴＰ拭き取り検査の活用について
2. 国宝伴大納言絵巻の蛍光Ｘ線分析
3. 初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査
4. 土質遺構露出展示保存のための基礎的研究 －水ポテンシャル制御による遺構安定化の試み－
5. 高松塚古墳石室内・取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験
6. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析(2)
   －墳丘部表面の植生等の変化が石室内温湿度変動に与える影響－
7. 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析(3)
   －吸放熱パネルの送水温度および入室が石室内温湿度変動に与える影響－
8. 高松塚古墳墳丘部の動的解析
9. 敦煌莫高窟第 285 窟における壁画の劣化への光環境

その他、20 件の研究報告を掲載した。

【実績値】

印刷部数　　600 部
配布部数　約 580 部
本誌体裁Ｂ5、総ページ数　287 ページ

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6214

自己点検評価調書

研究所 No 62

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |

備考
掲載されている論文は文化財の保存・修復に関する適時性の高い諸問題をテーマとしており、そのため今後の発展性が大いに期待できる内容となっている。また、掲載されている論文は査読審査を経ているため、独創性と正確性が高い。

2．定量的評価

| 観点 | 印刷部数 | 掲載論文数 | 印刷頁数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
文化財保存・修復における諸問題や最新の研究成果を把握するために、査読審査を経ることによって、充分な掲載論文数、印刷ページ数の論文集ができあがった。また、印刷部数に関しては適宜見直しを行い、さらにインターネット上での公開も併行して行っている。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 適時性、発展性、独創性、正確性の高い論文・研究情報が研究論文集としてまとめられ、そしてそれらが刊行物やインターネット上での公開を通じて、国内外の研究者にとって重要な情報源として確立している。しかし、印刷ページ数は年々増加の傾向にあり、刊行する方法に関しては、今後も適宜検討を行う必要がある。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 確実に刊行を重ねており、今号で 49 号を数えている。国内研究情報を集約した基本の研究雑誌として、外部からの評価は高い。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6215

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 63

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書の刊行((2)-①) |

【事業概要】

第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル”という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。本プロジェクトはその報告書を刊行する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画情報部長　田中　淳 |

【スタッフ】

中野照男(副所長)、勝木言一郎、山梨絵美子、津田徹英、綿田　稔、塩谷　純、土屋貴裕、皿井　舞、江村知子(以上、企画情報部)、相澤正彦、森下正昭(以上、客員研究員)

【主な成果】

2008(平成 20)年 12 月 6～8 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」の報告書を刊行した。

【年度実績概要】

報告書に収録したテキストは以下の通り。

〈基調講演 1〉 モノより思い出、思い出よりモノ　塩谷　純

セッション 1：モノ／“オリジナル”と対峙する

二点の中国古書蹟における光学的調査―懐素「自叙帖」と孫　過庭「書譜」何　傳馨(國立故宮博物院)
室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”―宋画との関連　マシュー・P・マッケルウェイ(コロンビア大学)
肉筆浮世絵と浮世絵版画―浮世絵研究者にとってのオリジナル　浅野秀剛(大和文華館)
写真―オリジナルという認識の共有　岡塚章子(江戸東京博物館)
現代美術とオリジナル　松本　透(東京国立近代美術館)
討議 1　司会：相澤正彦(成城大学)・山梨絵美子

セッション 2：モノの彼方の“オリジナル”

おじいさんの斧―日本文化史におけるオーセンティシティと再生―宇治橋を例に　タイモン・スクリーチ(ロンドン大学 SOAS)
『諸説不同記』と「現図」胎蔵曼荼羅　津田徹英
燈明寺「六」観音像をたどる　シェリー・ファウラー(カンザス大学)
古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合　飯島　満
雪舟というオリジナルな存在―作家論の功罪　綿田　稔
仏像の修理・修復―サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐって　皿井　舞
更新のオーセンティシティ―木造建築におけるオリジナル　清水重敦(奈良文化財研究所)
討議 2　司会：勝木言一郎・森下正昭

〈基調講演 2〉　オリジナルとその保存―文化財アーカイブの可能性と限界　加藤哲弘(関西学院大学)

セッション 3：“オリジナル”を伝えること

オリジナルに戻る―金剛経の保存　マーク・バーナード(大英図書館)
鼎談　敦煌文書とアーカイブ　赤尾栄慶(京都国立博物館)・マーク・バーナード・中野照男
サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想　山梨絵美子
遊興文化の残映―彦根屏風の光学調査と情報化　江村知子
屋外彫刻調査保存研究会の活動について　田中修二(大分大学)

総合討議　司会：佐野みどり(学習院大学)・田中　淳

【実績値】

報告書刊行件数　1 件(①)

【備考】

①『第 32 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために』2010.3　800 部

なお同報告書より英語部分を除いたものを『“オリジナル”の行方―文化財を伝えるために』のタイトルで平凡社より市販した。

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6215

自己点検評価調書

研究所 No 63

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 刊行数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 昨年度開催した国際研究集会「“オリジナル”の行方―文化財アーカイブ構築のために」の報告書を編集。日本・東洋の美術を中心としながら、西洋の美学や現代美術、無形文化財をも視野に入れ、とくに文化財アーカイブの立場から“オリジナル”をとらえようとする意欲的な内容となった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | いずれも高い水準で実施でき、順調と判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6216

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 64

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 | | |
| プロジェクト名称 | 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行((2)-①) | | |
| 【事業概要】<br>文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行する。 | | | |
| 【担当部課】 | 奈良文化財研究所 | 【プロジェクト責任者】 | 所長　田辺征夫 |
| 【スタッフ】 | | | |
| 【主な成果】<br>紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 11 点、史料等 4 点、図録・カタログ 6 点、リーフレット 4 点、パンフレット 5 種 16 点、合計 51 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた。 | | | |

【年度実績概要】

(紀要等)　『奈良文化財研究所紀要 2009』2009.7、3,300 部
『奈良文化財研究所概要 2009』2009.7、3,500 部

(ニュース)『奈文研ニュース』NO.33、2009.6、3,000 部、『奈文研ニュース』NO.34、2009.9、3,000 部
『奈文研ニュース』NO.35、2009.12、3,000 部『奈文研ニュース』NO.36、2010.3、3,000 部
『埋蔵文化財ニュース』NO.138(鳥類・両生類・爬虫類標本リスト)、2009.12、2,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.139(遺跡測量)、2010.3、2,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.140(奈良文化財研究所の国際研究活動)、2010.3、2,500 部、
『埋蔵文化財ニュース』NO.141(2008 年度埋蔵文化財関係統計資料)、2010.3、2,500 部

(研究報告書、研究論文集等)
『古代瓦研究Ⅳ』(古代瓦研究会シンポジウム記録)2009.11、900 部
『古代瓦研究Ⅴ』(古代瓦研究会シンポジウム記録)2010.3、900 部
『文化的景観とは何か?-その輪郭と多様性をめぐって-』(奈文研研究報告第 1 冊)2009.12、1,000 部
『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』(平成 20 年度遺跡整備・保存修復科学合同研究集会報告書)2009.12、1,500 部
『平安時代庭園に関する研究 3－平成 20 年度古代庭園研究会報告書－』2009.11、300 部
『東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会報告書』2009.11、(和文)500 部 (英文)1,000 部
『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　2　木部』(奈文研学報第 81 冊)2010.3、700 部
『平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　3　彩色・金具』(奈文研学報第 82 冊)2010.3、700 部
『河南省黄冶窯発掘調査概報』(奈文研研究報告第 2 冊)2010.3、600 部
『研究論集ⅩⅥ　鉄製武器の流通と初期国家形成』(奈文研学報第 83 冊)2010.3、600 部

(史料等)　『平城宮木簡 7』 (奈文研史料第 85 冊)2010.3、(本文編)600 部、(図版編)600 部
『重要文化財建造物現状変更説明 1958－1961』2010.3、(本文編)500 部、(図版編)500 部

(図録、カタログ等)
『キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－』(飛鳥資料館図録第 50 冊)2009.4、5,000 部
『北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見』(飛鳥資料館図録第 51 冊)2009.10、4,000 部
『冬期企画展　飛鳥の考古学 2009』(飛鳥資料館カタログ第 21 冊)2009.2、2,000 部
『東アジア金属工芸史の研究 12』(飛鳥資料館研究図録第 12 冊)2009.3、600 部
『地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－』2009.10、10,000 部
『平城宮跡図録』2010.3、3,000 部

(リーフレット)
『アンコール遺跡群西トップ寺院 遺跡保全プロジェクト』2009.6、1,000 部/ 2010.2、1,000 部
『甘樫丘東麓遺跡』( 飛鳥藤原第 157 次調査現地見学会資料』)2009.6、2000 部
『藤原宮大極殿院回廊の調査』(飛鳥藤原第 160 次調査現地説明会資料』2009.11、2000 部

(パンフレット)
『平城宮跡』2010.3(日本語版)10,000 部、(英語版・中国語版・韓国語版)各 1,000 部
『朱雀門』　2010.3(日本語版)10,000 部、(英語版・中国語版・韓国語版)各 1,000 部
『東院庭園』2010.3(日本語版)　3,000 部、(英語版)1,000 部
『第一次大極殿』2010.3(日本語版)1,000 部、(英語版)1,000 部
『平城宮跡ガイド』2010.3(日本語版)80,000 部、(英語版・中国語版・韓国語版)各 3,000 部

【実績値】
刊行物数：51 点、　　新聞・雑誌等への寄稿および資料提供数：973 件

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6216

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 64

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 正確性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
適時性：調査研究の実施状況、遷都 1300 年祭に合わせた各種パンフレットの新規作成および改訂
継続性：紀要、概要、ニュース等の継続発行
正確性：調査報告書のデータ

2．定量的評価

| 観点 | 紀要等刊行数 | 研究報告書、研究論文集刊行数 | 図録、史料等の刊行数 | リーフレット、パンフレットの刊行数 | 新聞、雑誌等への寄稿および情報提供数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、研究報告書・研究論文集 11 点、史料等 4 点、図録・カタログ 6 点、リーフレット 4 点、パンフレット 5 種 16 点、合計 51 点を刊行し、研究成果を順調に刊行できたことでＡと判定した。特に本年度は、平城遷都 1300 年祭による宮跡来訪者への案内・解説の充実を目的に、平城宮跡の図録や各種パンフレットの大幅な改訂および新規作成を行った。次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすい形での刊行に努めたい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 紀要、ニュース、研究報告書、研究論文集、史料、図録、リーフレット、パンフレットなどの刊行は順調に実施している。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6221

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 65

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 第 33 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会((2)-②) |

【事業概要】

第 33 回の本研究集会においては、日本絵画修復の伝統的な技術・材料を、科学的側面から確認するとともに、修復における現在における新たな試みを検討し、さらには世界各国における日本画修復の現状を確認することを第一の目的として行う。さらに、この会で得られた知識を広く世界に還元する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】

川野邊　渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之(以上、保存修復科学センター)

【主な成果】

2009 年 11 月 12 日～14 日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した。14 講演と総合討議を行い、様々な分野から総数で 356 名の参加があった。

【年度実績概要】

12日

鬼原俊枝(文化庁・日本)日本における絵画修理の理念
川野邊　渉(東京文化財研究所・日本)日本絵画修復における自然科学の役割
杉山恵助、ジョアンナ・M.・コセック(大英博物館・英国)大英博物館における日本絵画の保存修復
ジェニファー・ペリー(クリーブランド美術館・米国)クリーブランド美術館における東洋絵画修復
中山俊介(東京文化財研究所・日本)東京文化財研究所事業「在外日本古美術品の修復協力プロジェクト」における海外工房での修復

13日

大川昭典(和紙技術研究者・日本)材料からみた和紙の歴史的変化
稲葉政満(東京芸術大学・日本)和紙の保存性
加藤雅人(東京文化財研究所・日本)補紙・補絹の動向
早川典子(東京文化財研究所・日本)絵画修復に使われる糊と布海苔
森田恒之(愛知県立芸術大学客員教授、国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授・日本)日本の膠
田畔徳一・山本記子(国宝修理装師連盟・日本)、川野邊渉・加藤雅人・早川典子(東京文化財研究所・日本)修復における新たな試み・新しい材料と新しい技術―科学の裏づけと技術者の選択―

14日

ブライス・マッカーシー(フリーア美術館とアーサー M サックラー ギャラリー・米国)フリーア美術館における科学的研究と絵画の保存修復
ジャッキー・エルガー(ボストン美術館・米国)ボストン美術館における日本絵画コレクションの保存修復と科学分析
本田光子、藤田励夫、志賀智史(九州国立博物館・日本)伝統を継承する先端施設の取り組み―九州国立博物館の場合―
総合討論会

【実績値】

海外からの招講演者　4 名
国内からの講演者　13 名
参加者　356 名
アンケートによる参加者の満足度　99%(回収率 56%)

【備考】

印刷物：ファーストサーキュラー、セカンドサーキュラー各 3,000 部、予稿集 400 部、ポスター

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6221

自己点検評価調書

研究所 No 65

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 開催回数 | 印刷部数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 日本絵画は広く海外でも所蔵されている一方、東洋絵画の修復を専門にしている技術者は少なく、そのため関心が高い。また、国内においても、修復技術・材料に特化した講演会は少なく、その点で注目されている。結果、参加者数も多く、満足度も高かった。しかし、予想以上の参加申し込みがあり、会場の席数(運営上必要な数を除いて 370 名程度)の制限からお断りをせざるをえなかった点は、改善する余地がある。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順　調 | 順調である。次年度は報告書を刊行する予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6222

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 66

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 平成 21 年度オープンレクチャー((2)-②) |

【事業概要】
企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画情報部長　田中　淳 |

【スタッフ】
山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)

【主な成果】
平成 21 年度に第 43 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した(参加者数：258 人、アンケートによる満足度：93%(回収率：86%)。

【年度実績概要】
企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で 43 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、
日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。
今回は 2 日間でのべ 258 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、221 人から回答を得た(回収率：86%)。結果は、「たいへん満足した」102 人、「おおむね満足した」90 人、「普通だった」13 人、「不満が残った」2 人、回答者の 93%が満足感を得たことがわかった。
第 1 日目：2009 年 10 月 2 日(金)午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「異国をこしらえる−「玄奘三蔵絵」をめぐって−」土屋貴裕(東京文化財研究所)
「宋朝からみた日本僧−仏法・国土と文物交流の世界−」塚本麿充(大和文華館)
第 2 日目：2009 年 10 月 3 日(土)午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」中野照男(東京文化財研究所)
「チベット宗教世界と大谷探検隊」白須淨眞(広島大学)

【実績値】
参加者数：258 人
満足度　：93%(回収率 86%)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6222

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 66

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 参加者数 | 満足度 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Ａと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当初の計画通り、進捗した。次年度以降も文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6223

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 67

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 | | |
| プロジェクト名称 | 公開講演会、現地説明会等の開催((2)-②) | | |
| 【事業概要】文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。 | | | |
| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課、<br>管理部業務課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石憲良<br>業務課長事務取扱　多昭彦 |
| 【スタッフ】　永井あつ子、桑原隆佳、今西康益、飯田信男、石田義則、[以上、管理部] | | | |
| 【主な成果】研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を 2 回、飛鳥資料館特別講演会を 2 回、計 4 回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 6 回実施した。参加延べ人数は、公開講演会等が 1,018 名、現地説明会等が 7,184 名に上り、開催回数、参加者数ともに従来の水準を維持し順調に事業が実施できた。 | | | |

【年度実績概要】

Ⅰ．公開講演会等

1．第 104 回公開講演会 H21/5/23(土) 参加者数 200 人　場所 平城宮跡資料館講堂

演題･講演者「第一次大極殿院広場の復原」　奈良文化財研究所長　田辺 征夫

「古代火葬墓の世界」　都城発掘調査部　小田 裕樹

「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実際－」　都城発掘調査部　黒坂 貴裕

アンケート結果= 回収数 161 人･回収率 80.5%満足度Ａ=158 人(98.1%)/Ｂ=2 人(1.3%)/Ｃ=1 人(0.6%)

2．第 105 回公開講演会 H21/11/28(土)　参加者数 633 人　場所 なら 100 年会館大ホール

演題･講演者「これからの平城宮跡－遷都 1300 年を迎えて－」　奈良文化財研究所長　田辺 征夫

「世界都市長安城の風景－平城京の原型－」　都城発掘調査部　今井 晃樹

「平城京遷都の歴史的背景－日本古代都城の出現と変質」都城発掘調査部長　井上 和人

アンケート結果= 回収数 341 人･回収率 53.9%満足度Ａ=339 人(99.4%)/Ｂ=2 人(0.6%)/Ｃ=0 人(0%)

3．飛鳥資料館特別講演会「甦るｸﾒｰﾙ文明」－世界文化遺産アンコール遺跡群－　H21/8/2(日)　参加者数 58 人

演題・講演者「甦るクメール文明」　元駐カンボジア日本国特命全権大使　今川 幸雄

(財)地域地盤環境研究所専務理事　岩崎 好規

写真家　BAKU 斉藤

4．飛鳥資料館特別講演会　H21/10/17(土) 参加者数 127 人

演題･講演者「北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見」　元奈良文化財研究所長　町田　章

遼寧省文物考古研究所長　田　立坤

アンケート結果= 回収数 46 人･回収率 36.2%満足度Ａ=46 人(100%)/Ｂ=0 人(0%)/Ｃ=0 人(0%)

Ⅱ．発掘調査現地説明会等

1．平城第 454 次(中央区第 1 次大極殿院内庭部)発掘調査現地説明会　H21/6/20(土)

参加者数　755 人　報告者　大林 潤　調査面積　約 1，558 ㎡

アンケート結果=回収数 245 人･回収率 32.5% 満足度Ａ=132 人(53.9%)/Ｂ=111 人(45.3%)/Ｃ=2 人(0.8%)

2．飛鳥藤原第 157 次(甘樫丘東麓遺跡)発掘調査現地見学会　H21/6/21(日)

参加者数　1，134 人　調査面積　1，150 ㎡

3．平城第 458 次(興福寺南大門)発掘調査現地見学会　H21/9/27(日)

参加者数　2，265 人　報告者　森川 実　調査面積　約 830 ㎡

4．飛鳥藤原第 160 次(藤原宮大極殿院回廊)発掘調査現地説明会　H21/11/29(日)

参加者数　945 人　報告者　高橋 知奈津　調査面積　約 1，425 ㎡

アンケート結果=回収数 241 人･回収率 25.5% 満足度Ａ=163 人(67.6%)/Ｂ=78 人(32.4%)/Ｃ=0 人(0.0%)

5．平城第 446 次(平城宮東院地区西北部)発掘調査現地説明会　H22/2/20(土)

参加者数　840 人　報告者　鈴木智大・国武貞克　調査面積　1，505 ㎡

アンケート結果=回収数 182 人･回収率 22.0% 満足度Ａ=120 人(65.9%)/Ｂ=60 人(33.0%)/Ｃ=2 人(1.1%)

6．飛鳥藤原第 161 次(甘樫丘東麓遺跡)発掘調査現地見学会　H22/3/20(土)

参加者数　1，245 人　調査面積　846 ㎡

【実績値】

Ⅰ 公開講演会等 年 4 回：参加者延数 1,018 人　回収数 548 人・回収率 57.1%：Ａ大変満足である：543 人(99.1%)/Ｂおおむね満足である：4 人(0.7%)/Ｃあまり満足でない：1 人(0.2 %)

Ⅱ 発掘調査現地説明会等　年 6 回：参加者延数 7,184 人　内アンケート実施回数 3 回：参加者延数 2,540 人　回収 668 人　回収率 26.0%：Ａ大変満足である：415 人(62.1%)/Ｂおおむね満足である：249 人(37.3%)/Ｃあまり満足でない：4 人(0.6%)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6223

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 67

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
適時性：発掘調査等研究成果の適時適切な公開
独創性：公開内容の新規性及び卓越性
発展性：遺跡等の重要性の確認と社会への影響性
継続性：研究成果の継続的な社会還元

2．定量的評価

| 観点 | 開催回数 | 参加者数 | 参加者満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
開催回数
公開講演会：年 4 回、現地説明会等：年 6 回
参加者数
公開講演会：年延 350 人以上、現地説明会：年延 3，000 人以上
参加者満足度
現地説明会：80%以上

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 公開講演会については、年 4 回実施し、発掘調査現地説明会等については、6 回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対し行ったアンケートでは、公開講演会で 99%、発掘調査現地説明会等で 99%の「大変満足である」、「おおむね満足である」という結果を得ている。<br>これらの結果を総合的に判断して、Ａと認めたものである。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 公開講演会、現地説明会等の開催事業は、開催回数、参加者数ともに、従来の水準を維持し、順調に実施できたと考える。<br>今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握等に力を注ぎ、さらに参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6231

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 68

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | ホームページの運用((2)-③) |

【事業概要】

研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 情報システム研究室長　勝木言一郎 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

綿田　稔、江村知子、中村明子(以上、企画情報部)、崎部　剛(管理部ＬＡＮ委員)，俵木　悟(無形文化財部ＬＡＮ委員)、犬塚将英、加藤雅人(以上、保存修復科学センターＬＡＮ委員)、二神葉子(文化遺産国際協力センターＬＡＮ委員)

【主な成果】

キッズページ(日本語版・英語版)の新設、携帯サイトの新設など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。

【年度実績概要】

1. ホームページの運用

東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成 21 年度はキッズページ（日本語版・英語版）の新設、文化財情報ナビの開設、携帯サイトの新設、動画コンテンツの増設、黒田記念館ページ（フランス語版）の新設など、ホームページの内容の充実と利便を図った。またデジタル・アーカイブのより一層の充実を充実を目指して、名古屋城本丸御殿古写真などの Web 公開の準備を進めた。

平成 21 年度のホームページアクセス件数は 1,417,203 件であり、昨年度に比べ、11,925 件増加した。

【実績値】

ホームページアクセス件数：1,417,203 件

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 6231

自己点検評価調書

研究所 No 68

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | 正確性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | A | A |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | ホームページアクセス件数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | | | | |
| 備考 | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の高さから、適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | ホームページの運用については、ホームページが研究所の広報活動の一翼を担うとともに、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして多角的な情報発信を行ってきたことがホームページアクセス件数からも裏付けられた。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6232

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 69

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 | | |
| プロジェクト名称 | ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保((2)―③) | | |
| 【事業概要】<br>研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に務める。 | | | |
| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石 憲良 |
| 【スタッフ】<br>渡　勝弥 ほか 1 名 | | | |
| 【主な成果】<br>奈良文化財研究所が公開する『木簡画像データベース』と東京大学史料編纂所が公開する『電子くずし字字典データベース』を連携して両データベースの一括検索を可能とした。<br>また、研究所のホームページをより充実させるために、各部・室における事業内容、研究発表等を紹介するページの作成を開始した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>『木簡画像データベース』と『電子くずし字字典データベース』を連携することにより、奈良文化財研究所が蓄積する木簡の字形・字体と、東大史料編纂所が集める古文書・古記録の字形・字体を、一度に探すことが可能となった。<br>各部・室の事業内容、研究発表等を紹介するための基本となるページを作成し、各部・室のページの作成を開始した。 | | | |
| 【実績値】<br>ホームページアクセス件数: 1,030,905 件 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6232

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 69

1. 定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 継続性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | ホームページアクセス件数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | | | | | |
| 備考<br>前中期計画中の平均ホームページアクセス件数 ： 368,000 件 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ホームページによる記者発表・現場説明会の案内等の多角的な情報発信は前中期の平均アクセス数を大きく上回っているので充分に行なえたと言えるが、次年度はより充実した内容と見易いページを作成することによってアクセス件数の上昇を図りたい。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 他機関とのデータベース連携を行うなどの先進的な情報提供を行うことにより、有意義で画期的な情報の提供ができたと考えられる。この実績から今年度の中期計画の実施状況は順調と判断した。 |

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6311

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 70

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 黒田記念館における作品の展示公開((3)) |

【事業概要】

当研究所は、黒田清輝の芸術を顕彰するために黒田記念館における作品や資料の展示に協力するとともに、研究成果を積極的に公開する。また、地方文化の振興に資するために、共催展「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝」を企画し、運営する。

| 【担当部課】 | 企画情報部 | 【プロジェクト責任者】 | 近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

田中　淳、塩谷　純、綿田　稔、皿井　舞(以上、企画情報部)

【主な成果】

一般公開入場者　20,345 人

「赤外線の眼で見る≪昔語り≫」(黒田記念館二階展示室、10.2.25-7.10)

「近代洋画の巨匠　黒田清輝展」(島根県立石見美術館、09.7.18-8.31)入場者　15,180 人

【年度実績概要】

①一般公開(無料)への協力：毎週木・土曜日　午後 1 時～4 時、特別公開：2009(平成 21)年 11 月 3 日～11 月 8 日、入場者数　20,345 人(2009 年 4 月 2 日～2010 年 3 月 27 日)

なお、黒田記念室のパンフレット(A4 サイズ、三つ折)を来館者に無料で配布した。

また、記念館 2 階の展示室を会場に、「特集展示　赤外線の眼で見る≪昔語り≫」と題して、黒田清輝筆≪昔語り下絵≫10 点とその調査成果である近赤外線画像を展示公開し、画家の制作の過程を示し、同展示のパンフレット(A3 サイズ、二つ折)を無料配布した。(会期：2010 年 2 月 25 日～7 月 10 日)。

②2010 年 1 月 21 日から 2 月 20 日まで、来館者にアンケートを実施した。1820 人の来館者に対して、479 人から回答を得た(来館者数の 26.3%)。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」473 人(98.7%)、「不満が残った」2 人(0.4%)、その他であり、アンケート回答の 98.7%が満足感を得たことになる。

③平成 21 年度地方共催展は下記のように開催した。

会場：島根県立石見美術館、会期：2008(平成 21)年 7 月 18 日(土)～8 月 31 日(月)

主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、島根県立石見美術館、中国新聞社

開催日数：42 日、入場者：15，180 人、陳列点数：油彩・パステル画 85 点、素描 62 点、写生帖 17 冊、書簡 4 通、日記 5 冊、参考出品 2 点、記録写真 16 点(以上、黒田記念館所蔵作品)　図録：A4 版変形、182 ページ

会期中の 2009(平成 21)年 8 月 1 日(日)、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、253 人から回答を得た(入館者数 358 人に対して、回収率 70.7%)。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

【実績値】

入場者数　20,345 人　入場者の満足度：98.7%(アンケート回収率 26.3%)

共催展：島根県立石見美術館　入場者　15，180 人　入場者の満足度：100%(アンケート回収率 70.7%)

特集展示パンフレット(①)

【備考】

①特集展示　赤外線の眼で見る≪昔語り≫パンフレット

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6311

自己点検評価調書

研究所 No 70

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 黒田記念館<br>入館者数 | 同記念館<br>入館者満足度 | 共催展<br>入場者数 | 同入場者<br>満足度 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | S | A | A | A | |
| 備考 | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 黒田記念館の公開への協力、共催展開催、および黒田記念館における研究成果展示、ともに順調に行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 中期計画に従って事業を進めることができた。今後も、建物と作品および調査研究が一体化した展示公開を目指していきたい。黒田記念館での展示を条件に東京国立博物館に今年度寄贈された作品の展示公開を次年度から行う予定である。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6312
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 71

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 平城宮跡資料館における展示公開(Ⅰ6(5)「平城遷都 1300 年記念事業」と一体で実施)((3)) |

【事業概要】
平城宮跡資料館において、常設展・企画展を実施する。

| 【担当部課】 | 企画調整部 | 【プロジェクト責任者】 | 企画調整部長　肥塚隆保 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】
杉山　洋、渡邉淳子［企画調整部］、桑原隆佳［管理部］

【主な成果】
平城宮跡資料館の改修工事に伴う閉館のため、本庁舎にガイダンスコーナーを設置した。常設展・企画展を実施し、調査研究の成果公開や情報発信に努めた。特に特別企画展「地下の正倉院展」は好評を博した。

【年度実績概要】
**ガイダンスコーナーにおける展示：**平城宮跡資料館は、2010 年 4 月のリニューアルオープンのため、2009 年 6 月より閉館し改修工事を行っている。そこで資料館閉館中における研究成果の公開や情報発信のため、2009 年 8 月 3 日より本庁舎入口にガイダンスコーナーを設置し、下記の常設展を実施するとともに、企画展を開催した。

**＜常設展＞**

○発掘調査速報…現地説明会が終了した平城宮第一次大極殿院中庭広場(454 次調査)の概要を展示パネル・写真で報告した。調査で出土した遺物も展示公開した。

○国際学術交流…海外の研究機関との共同研究や、研究所で取組んでいる文化遺産修復事業をパネル・映像で紹介した。
中国：社会科学院考古研究所・遼寧省文物考古研究所・河南省文物考古研究所との共同研究
韓国：国立文化財研究所との共同研究
カンボジア：APSARA とのアンコール遺跡群西トップ寺院の共同研究
西アジア諸国：東京文化財研究所とのアフガニスタン・イラクの文化遺産保存修復事業

○情報コーナー…コンピューターを設置し、奈良文化財研究所のホームページや平城宮情報検索システム「デジタル平城宮探索」を閲覧できるようにした。また研究所の刊行物・パンフレット等を設置し、研究所の研究成果や講演会・特別展の案内などを広報した。

**＜企画展＞**

○特別企画展「地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－」
(2009.10.20～11.29)
1988 年に出土した平城京二条大路濠状遺構の木簡約 80 点を展示した。



地下の正倉院展　展示風景

**アンケート：**特別企画展「地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－」の期間、入館者に対するアンケート調査を行った。
アンケート実施期間　2009 年 10 月 20 日～11 月 29 日
入館者数：3,353 名
回収数：224 名　　回収率：6.68%
満足度(普通以上)：217 名　96.9%
たいへんよかった　98 名
よかった　101 名
まあまあよかった　18 名

【実績値】
平城宮跡資料館の公開日数：53 日、入館者数：25,127 名
ガイダンスコーナー常設展の公開日数：152 日
特別企画展の公開日数：41 日、入館者数：3,353 名、入館者の満足度：96.9%、ギャラリートーク：3 回
展示品貸し出し件数:14 件

【備考】
展示に因んでカタログを作成した。
特別企画展『地下の正倉院展－二条大路木簡の世界』2009.10

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6312

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 71

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 入館者数 | 入館者の満足度 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | C | A | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 平城宮跡資料館の閉館のための対応策として本庁舎に展示・公開スペースを確保したこと、またその展示内容や特別企画展の実施などの順調な開催を評価し、Ａと判定した。次年度は、平城宮跡資料館のリニューアルオープンを予定しており、展示の一層の充実にむけて努力したい。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 新たに設置した本庁舎ガイダンスコーナーを利用し、平城宮跡資料館閉館中の展示公開・情報発信を行うことができた。このコーナーで昨年度に引き続き特別企画展として、通常は資料保存のため展示をひかえている木簡現物を制限付きながら公開でき、観覧者から好評を博したことも特筆される。<br>次年度には平城宮跡資料館の改装及び展示のリニューアルオープンを予定しており、資料館が平城宮跡のガイダンス施設としてわかりやすい展示・公開の場となるよう努力したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6313
(様式 1)

業務実績書

研究所 No 72

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 飛鳥資料館における展示公開　((3)) |

【事業概要】
飛鳥資料館において特別展を春秋の 2 回開催するとともに、企画展を開催する。春期特別展では、キトラ古墳壁画の特別公開をあわせておこなう。平常展示では、第 1、第 2 展示室の展示の維持管理をおこなうとともに、展示の手直しを適宜おこなった。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 飛鳥資料館 | 【プロジェクト責任者】 | 学芸室長　加藤真二 |

【スタッフ】
成田聖、丹羽崇史(以上、飛鳥資料館)

【主な成果】
春期特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－」を 4 月 17 日から 6 月 21 日まで開催するとともに、期間中の 5 月 8 日から 5 月 24 日までキトラ古墳壁画の特別公開をおこない、青龍図と白虎図を展示した。夏期企画展は 8 月 1 日から 8 月 30 月に「甦るクメール文明－世界文化遺産アンコール遺跡群－」を開催、期間中の 8 月 2 日に講演会、8 月 1 日、8 月 2 日、8 月 14 日、8 月 15 日にギャラリートークをそれぞれおこなった。秋期特別展は、10 月 16 日から 11 月 29 日に「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこない、10 月 17 日に日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」をおこなった。冬期企画展は、1 月 22 日から 2 月 28 日に「飛鳥の考古学 2009」を開催した。

【年度実績概要】
春期特別展「キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－」(4 月 17 日－6 月 21 日)　キトラ古墳青龍を推定復元するとともに、図を河北省湾漳壁画墓青龍図模写、山東省済南市解放橋南唐墓石棺拓本、大阪府池上曽根遺跡出土絵画土器などを展示し、東アジアにおける青龍と白虎の展開について展示した。期間中、キトラ古墳壁画特別公開(5 月 8 日－5 月 24 日)を行い、青龍図、白虎図を展示した。また、文化庁記念講演会(5 月 16 日)の開催に協力した。

夏期企画展「甦るクメール文明」(8 月 1 日－8 月 30 日)　写真家 BAKU 斉藤が撮影したカンボジアの写真作品を展示し、奈文研が共同研究を行っているカンボジア王国の魅力と実情を紹介した。期間中、8 月 2 日に講演会(「甦るクメール文明」(講師：今川幸雄　元駐カンボジア日本国特命全権大使、岩崎好規　(財)地域地盤環境研究所常務理事、BAKU 斉藤　写真家)、ギャラリートーク(8 月 1 日、8 月 2 日、8 月 14 日、8 月 15 日)をおこなった。

秋期特別展「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」(10 月 16 日から 11 月 29 日)　奈文研が行った遼寧省文物考古研究所との共同研究の成果を紹介すべく、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館、朝陽市博物館から借用した三燕文物 40 点とともに、和歌山市立博物館所蔵の重要文化財大谷古墳出土の馬冑、馬甲、加古川市教育委員会所蔵行者塚古墳出土帯金具などを展示した。10 月 17 日には日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」(講師：田立坤　遼寧省文物考古研究所長、町田章　前・奈良文化財研究所長)をおこなった。


秋期特別展参観風景

冬期企画展「飛鳥の考古学 2009」(1 月 22 日－2 月 28 日)

平成 20 年度に、飛鳥地域でおこなった奈文研、明日香村教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所の発掘調査のうち、興味深い成果が得られたものについて展示した。石神遺跡、檜前遺跡群、飛鳥京跡、高松塚古墳の発掘などを取り上げた。

【実績値】
刊行図書：3 冊
講演会　：2 回、ギャラリートーク 4 回
年間入館者数：77,347 人

【備考】
春期特別展図録『キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－』
秋期特別展図録『北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－』
冬期企画展カタログ『飛鳥の考古学 2009』
夏期企画展　特別講演会「甦るクメール文明」
秋期特別展　日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6313

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 72

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 正確性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
　キトラ古墳壁画の取り外し作業の進行のなかで行っており、キトラ古墳壁画の修復作業について国民の理解を得るのにまさに、適時で不可欠な展示となっている。また、春期、夏期、秋期の各展覧会は強い国際性を有し、特に秋期特別展では、日本ばかりでなく、中国、韓国、欧米から多数の研究者が来館された。これらの展示は、奈良文化財研究所の付設機関、そして、飛鳥地域にあるという本資料館の特性と発想が生んだ独創的なものである。さらに、専門職員あるいは文化庁の指導をも受けたもので正確性も十分に確保している。

2．定量的評価

| 観点 | 図書刊行数 | 発表件数 | 入館者数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
　特別展図録：3 冊
　講演会　　：2 回、ギャラリートーク 4 回
　年間入場者数：77，347 名(目標：55，400 名)

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 　展覧会を年間 4 回開催し、展示図録等も計画通り刊行することができた。講演会も 2 回開催した。今回の展覧会のうち、秋期特別展の展示、図録、講演会は、特に好評で、内外からの反響も大きかった。定量的にも、年間入場者数は、目標値を大きく上回っている。このため、総合的評価をＡと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 　本年度の計画を当初の予定どおり遂行でき、所定の成果もあげたことから、順調と判定した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6314

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 73

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 藤原宮跡資料室における展示公開　((3)) |

【事業概要】

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)に併設された藤原宮跡資料室およびエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

玉田芳英、次山 淳、降幡順子、豊島直博、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高田貫太、庄田慎矢、石田由紀子、加藤雅士、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、岡田 愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するために、速報展示コーナーを設け、継続して、多様な調査成果を公開した。あわせて、展示のための資料制作、各地の博物館などへの出陳も行った。

【年度実績概要】

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区庁舎に併設された藤原宮碩資料室において、通年にわたり常設展示を実施した。また、申請のあった団体などへは展示説明、藤原宮跡、発掘調査現場の案内などの応対をした。

エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するための速報コーナーを設け、甘樫丘東麓遺跡(158 次)、桧隈寺周辺で確認されたＬ字形竈付竪穴建物(159 次)、藤原宮大極殿院南面東回廊(160 次)、の速報展示を実施した。

また、今年度は調査速報展示の合間をぬって、2009 年 11 月 24 日から 2009 年 12 月 7 日まで、保存処理前で水漬の状態にある藤原京跡出土木簡 20 点を展示し、さらに、保存処理の終了した藤原宮大極殿院南門基壇版築の土層剝ぎ取り資料の展示を実施した。

そして、地方公共団体の博物館などの求めに応じ、各種展覧会への保管遺物ならびに模型・模造品等の出陳、保管遺物のレプリカ作製を行った。



木簡の展示風景

【実績値】

平成 21 年度の入室者数 4，341 名(2010 年 3 月 31 日現在)、開室日 240 日(2010 年 3 月 31 日現在)、各種団体等への展示説明 8 件、遺物等の貸し出し等件数 12 件、レプリカ作成依頼 2 件

【備考】

藤原京跡出土木簡の展示に因んで無償配布の解説シートを作成配布した。

奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室「木簡から古代人を垣間見る―藤原京衛門府関係木簡の展示―」2009. 11

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6314

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 73

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
適時性：発掘調査・研究成果の速やかな公開
独創性：展示公開のための出土遺物・遺構の保存修復作業、水漬け木簡の展示
発展性：速報展示における展示方法、内容の工夫(各遺跡の特徴に的を絞った展示)
継続性：常設展示、及び速報展示の恒常化

2．定量的評価

| 観点 | 入室者数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | B | | | | | |

備考
年間入室者数：4,341 名(目標：4,500 名)

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーの内容が一層充実し、調査成果の速報性がより高まった。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 速報展示等も充実した内容のもとに継続的に実施されており、順調と判断した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6411

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 74

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 平城宮跡解説ボランティア事業の運営((4)) |

【事業概要】

平城宮跡の来訪者に平城宮跡解説ボランティアが、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うことにより、 研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化遺産に対する理解を深めてもらう。

年間約 45，000 人に解説事業(目標)を行い、解説ボランティアについては、継続的に約 100 名確保(目標)し、研修、学習会の実施や解説資料の配付等の積極的な活動支援を行う。

| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石憲良 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

渡邉淳子［企画調整部］、永井あつ子、桑原隆佳［以上、管理部］

【主な成果】

ボランティア解説者の学習等による案内解説は、熟達した高度な文化解説から十分な成果が認められる。

【年度実績概要】

平成 21 年度は平城宮跡を訪れた約 8 万人に案内・解説を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解説ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。

この事業は、10 年を超え定着してきているが、平城遷都 1300 年記念事業に向けて更に充実させるため、解説のための専門研修(14 日間)、「続日本紀」読書会(毎月 1 回) 等を実施し、解説資料の配付を行うなど積極的に支援した。

【実績値】

・解説ボランティア：128 名　　・ボランティア解説延べ人数：80，794 人

・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修　　14 日間／年

『続日本紀』読書会　1 日間／月

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6411

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 74

1．定性的評価

| 観点 | 継続性 | 効率性 | 発展性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
継続性：ボランティア解説者の学習等により基礎的知識は十分な成果を認める。
効率性：ボランティア解説者の案内は十分に成果を認める。
発展性：ボランティア解説者の来訪者への影響は十分な成果を認める。
正確性：ボランティア解説事業の運営に十分な成果を認める。

2．定量的評価

| 観点 | ボランティア登録者数 | 事業参加者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
ボランティア登録者数：100 人
事業参加者数　　：45,000 人

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | ボランティア解説者の学習成果による、熟達した高度な文化解説の案内から、総合的に判断してＡと認めたものである。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 解説ボランティア事業は、ボランティアの更なる研修、事業参加者数の増加、ボランティアへの積極的な支援も順調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ平城宮跡の公開活用に力を注ぎたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6412

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 75

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援((4)) |

【事業概要】

平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、平城宮跡(施設を含む)を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣を行う等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する

| 【担当部課】 | 管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 文化財情報課長　平石憲良 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

渡邉淳子［企画調整部］、永井あつ子、桑原隆佳［以上、管理部］

【主な成果】

各種のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。

【年度実績概要】

平成 13 年 11 月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な活動支援を行った。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣、平城京かるたの監修等の協力、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、平城宮跡歴史文化講座を行った。それらは新聞等でも紹介され好評であった。

また、「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいとの要請があり、活動場所の提供を行った。

【実績値】

・各種ボランティアに対する学習会、活動場所の提供等

| | |
|---|---|
| 専門研修 | 14 日間／年 |
| 平城宮跡クリーンフェスティバル | 1 日間／年 |
| 清掃活動 | 11 日間／年 |
| 平城宮跡歴史文化講座 | 3 日間／年 |
| 万葉集勉強会 | 1 日間／月 |
| 平城っ子歴史教室 | 1 日間／月 |

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6412

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 75

1．定性的評価

| 観点 | 継続性 | 効率性 | 発展性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
継続性：各種ボランティアへの支援には、十分な成果を認める。
適時性：各種ボランティアへの支援は、学習会の実施等十分な成果を認める。
効率性：各種ボランティアへの場所の提供要請等には、十分な成果を認める。

2．定量的評価

| 観点 | ボランティア登録者数 | 事業参加者数 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
ボランティアに対する学習会実施回数：2 回
参加者数：150 人

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、平城っ子歴史教室への講師派遣への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル及び平城宮跡歴史文化講座への場所提供等、種々の支援を行い、活動の活性化に貢献した。これらを総合的に判断して、Ａと認めたものである。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 各種ボランティアの要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。今後も各種ボランティア育成に寄与したい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6413

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 76

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 6　情報発信機能の強化 |
| プロジェクト名称 | 文化庁が行う平城宮跡等の公開・活用事業への協力・支援((4)) |

【事業概要】

文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。

○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力

○各種行事、発掘調査等の連絡調整

○修繕等に係る相談、状況の把握、等

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 管理部業務課、<br>管理部文化財情報課 | 【プロジェクト責任者】 | 業務課長事務取扱　多　昭彦<br>文化財情報課長　平石　憲良 |

【スタッフ】

今西康益、飯田信男、志野愛由美、三本松俊徳、永井あつ子、桑原隆佳、松本正典［以上、管理部］

【主な成果】

◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。

◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。

◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務

平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。

○平城宮跡〔対象面積：915,150 ㎡〕○藤原宮跡〔対象面積：257,840 ㎡〕

【年度実績概要】

◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。

○宮跡の公開・活用事業に対する協力・支援、利用申込み等に対する連絡及び申込者との打合せ

○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整

○宮跡内建物、工作物等の維持管理・修繕に当たり、状況の把握、文化庁・業者との連絡調整、現場監理等

・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理及び清掃等維持管理　・国有地公有化範囲等国有財産の状況確認

・平城宮跡内グレーチング、外灯等設備、兵部省式部省等遺構表示等工作物の修理及び維持管理

○住民等からの苦情対応・取次ぎ及び周辺自治会等との協力

・宮跡内水路、道路等の修理等環境改善及び維持管理等　・蜂の巣駆除等、日常環境改善維持管理

・宮跡来訪者・利用者等一般からの申し出(防火、防犯、植生、運営等)対応、文化庁への調整

・地元自治会との協力対応、文化庁への調整

○平城宮跡内禁止行為等への対応・異状報告

・平城宮跡内火災対応及び救急車出動対応　・禁止行為等看板設置に関する文化庁への協力

・宮跡毀損事故、事件及び不法投棄等禁止行為への対応及び文化庁への調整

○平城宮跡安全安心連絡協議会で平城宮跡みまもり隊を企画・構成、パトロールを実施

○所轄消防署警察署との連絡調整

・火災、盗難・強盗等事件捜査への協力、連絡調整

◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。

○文化庁事業への支援・協力

・東院庭園の名勝指定に関する資料提供等支援協力

・大極殿正殿復原整備、遺構展示館改修、大極殿高御座製作、大極殿・遺構展示館内部展示、大極殿小壁彩色製作の計画・設計・整備等推進への等文化庁事業への支援・協力

・大極殿小壁彩色制作の実行調整及び現場制作管理

・高松塚古墳仮整備、山田寺跡復旧整備事業の計画・設計・整備推進等、文化庁事業への支援・協力

・平城宮跡の国営公園化に関する事業の計画・設計・整備推進等、国土交通省への支援・協力及び文化庁との調整

・平城遷都 1300 年記念事業実施に関する文化庁との調整

◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務

○平城藤原宮跡の維持管理のために宮跡地内の草刈植栽業務等及び宮跡地内における不具合対応策提案を実施した。

・平城宮跡　草刈り等(芝、雑草、草花類)　実施時期：4～11 月　作業回数：1～8 回

植栽等(表示、景観樹木類)　実施時期：12～3 月　作業回数：1～8 回

その他　側溝等工作物清掃維持、害虫駆除

・藤原宮跡　草刈り等(芝、雑草、草花類)　実施時期：4～11 月　作業回数：1～2 回

植栽等(表示、景観樹木類)　実施時期：12～3 月　作業回数：1 回

その他　耕作物用水路等隣接部清掃維持、側溝等工作物清掃維持、害虫駆除

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6413

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 76

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 継続性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |
| 備考<br>適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応<br>独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与<br>発展性：専門知識を生かした協力による人的投資上の効率性<br>継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 平城宮跡・藤原宮跡等の公開・活用に必要な準備等に積極的に協力し、また、平城宮跡等において発生する緊急性の高い連絡等に、良く対応している。<br>さらに、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴う専門的支援を行っており、これら事業の推進に伴う文化庁等からの相談等に良く対応している。<br>これら実績から、Ａとしたものである。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握等、各業務について積極的に協力できた。<br>特に、事故・事件、火災、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。<br>なお、今後、平城宮跡国営公園化や平城遷都 1300 年祭記念事業の実施に伴い、平城宮跡等の管理の協力・支援のあり方について検討する。 |

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 6611

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　①ウェブサイト等による情報の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館情報課 | 事業責任者 | 博物館情報課長　高橋裕次 |
| 実績・成果 | ・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続した。<br>・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うためのデータ整備を推進した。<br>・モノクロフィルムの画像データベースについて、館内業務および資料館において公開しているメタデータを追加した。<br>・古文書の画像データベースを公開した（予定）。<br>・国指定文化財の高精細画像および解説文（e 国宝）について作業を進め、一般公開のための管理システム等の開発を行った。<br>・携帯電話サイトによる情報提供サービスの実施について引き続き検討を行い、次年度の開設を目標として準備を進めた。 | | | |
| 補足事項 | ・「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部と科学研究費による成果の公開を継続した。<br>・ウェブサイトにおける画像検索機能の改善について試験的なプログラムを作成して検討した。<br>・将来的な収蔵品情報の外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」の構築を進め、列品の修理に関する情報を検索、取得できる機能の実装を進めた。<br>・科学研究費の成果である古文書の画像データベースを公開した。 | | | |



情報アーカイブ・ウェブサイト

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ウエブサイトへのアクセス件数 | 5,687,673 件 | 1,928,966 件 | S | 経年変化 | 3,680,028 | 5,504,468 | 5,211,261 | 5,687,673 |
| | 検索対象画像の拡充 | 約164,177 点 | ― | ― | | 約26,000 点 | 約50,000 点 | 約51,000 点 | 約164,177 点 |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>インターネットの急速な普及と当館ウエブサイトの充実等により、ここ数年、アクセス件数が目標値を大きく上回り、当館からの情報発信に多大な役割を果たしている。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。<br>ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 6612

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　　①ウェブサイト等による情報の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>学芸部 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一<br>列品管理室長　若杉準治 |

**実績・成果**

・トップページリニューアルを行い、館蔵品の高精細画像検索をより利用しやすい状況に置くなど、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。
・館外での作品公開一覧ページを作成し、館外で見られる当館収蔵作品の情報を発信した。
・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。
・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。
・既刊の博物館ディクショナリーについて、処理が完成したものから
ウェブサイトに掲載するとともに、21 年度刊行分についてメールマガジンで配信した。
・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、各種講座・イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。



トップページリニューアル



館外での作品公開一覧

**補足事項**

・従来複数の段階を経ないとたどり着けなかった、当館の基本的な利用情報（観覧時間・観覧料、交通アクセスなど）をトップページにまとめ、利用者が必要な情報を分かり易く表示した。
・ウイルス対策システムのリプレースを実施し、継続的な情報資源に対するセキュリティ強化を図った。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウェブサイトへのアクセス件数 | 848, 486 件 | 521, 965 件 | S | | 757, 812 | 733, 885 | 1, 409, 634 | 848, 486 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。
ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6613

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　①ウェブサイト等による情報の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部情報サービス室 | 事業責任者 | 情報サービス室研究員　野尻　忠 |
| 実績・成果 | ・PC 用ホームページに、新たな機能として「収蔵品データベース」を掲載した（10 月）。これにより情報発信機能が強化されたので、今後は収録データの追加・充実に努めていく。<br>・広報誌「奈良国立博物館だより」（年 4 回発行）に、研究員による調査研究成果の発表の欄を設け、すべての号に記事を掲載した。<br>・研究紀要『鹿園雑集』11 号を刊行し、論文 3 本、資料紹介 1 本、調査報告 2 本を掲載した。 | | | |
| 補足事項 | <br>『奈良国立博物館だより』72 号〈平成 21 年 12 月発行〉に、収蔵品 DB 作成の経緯とその意義に関する報告を掲載した | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ウエブサイトアクセス件数 | 2,630,035 件 | 670,948件 | S | | 1,249,608 | 1,402,834 | 1,230,774 | 2,630,035 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。<br>ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6614

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　①ウェブサイト等による情報の発信 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課<br>広報課 | 事業責任者 | 総務課長　樋口理央<br>広報課長　不動勝義 |

実績・成果

① 九州国立博物館ホームページの年間スケジュールリニューアル及び情報公開頻度増加
② ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応
③ 特別展ごとに「ブログるぽ」の実施
④ 「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」チラシの作成及びホームページ掲載



ホームページの年間スケジュール




「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」ちらし

補足事項

① 当館ホームページを見に来られる方に対して、更なる情報提供として文化交流展で開催しているトピック展の情報を随時公開している。また、開館日とあわせて当館で開催している特別展や文化交流展などの展示期間がひと目で分かるよう、年間スケジュールのページリニューアルを行った。これにより、ページ滞在時間の短縮、各トピック展への移行数の増加が見られた。また、迅速な情報提供も可能な限り即時対応に努めている。
② 利用者からの質問、意見等については、適切に九博メールでの回答を行っている。
③ 「ブログるぽ」は、WEB 上でブログ執筆希望者を募集し、実際に特別展を観覧した方に、撮影禁止の館内画像等を提供して、ブログを書いてもらう仕組みとなっている。これは、ネット社会へ柔軟に対応した先駆的事例であり、特別展の広報活動の一環でもある。
④ これまで月ごとの特別展及びトピック展示等の展示情報とイベント情報を集約した紙媒体がなかったため、2 ヶ月分の情報を掲載した情報ツールとして、来館者や太宰府市内の施設等に配布している。また、ホームページに掲載し、閲覧できるようにしている。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ホームページアクセス件数 | 7,459,518 件 | 783,487 件 | S | | 7,118,540 | 5,943,616 | 5,699,860 | 7,459,518 |

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。
ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 6621-1

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

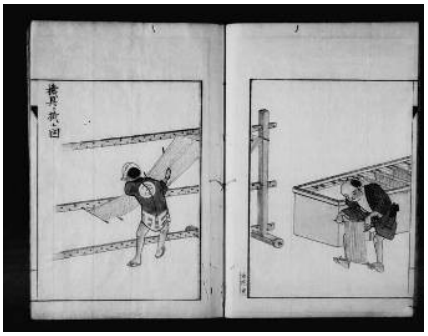
| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-1 デジタル化の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸企画部博物館情報課 | 事業責任者 | 博物館情報課長　高橋裕次 |

**実績・成果**

1)　収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化を継続し、主要な既存フィルムのデジタル化をほぼ完了した。
2)　マイクロフィルムは目標を大幅に上回るデジタル化を行い、ほぼデジタル化を完了した。
3)　国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、既存の画像データについては編集・加工を行なった。また国指定文化財の情報と解説文を整備し、公開にむけて英、仏、中、韓の各国語に翻訳した。
4)　法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。

**補足事項**

1)　収蔵品等の写真の高精細デジタル化
・所蔵品等の 4×5 カラーフィルムの高精細デジタル化を実施した。
・所蔵品等の 4×5 モノクロフィルムの高精細デジタル化を実施し、ほぼ遡及を完了した。
・18 年度から撮影を開始した所蔵品等のマイクロフィルムの高精細デジタル化を実施し、ほぼ完了した。
・カラーのデジタルデータについては、来館者をはじめとする幅広い利用者の求めに応じて、利用に供した。
・マイクロフィルムについては、インターネットを通じた情報提供ができる環境構築の準備を進めた。
2)　国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化
・国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、約 10,000 カットの画像を作成した。また既存の画像データ約 8,200 枚を公開にむけて編集・加工した。
3)　収蔵品の基本情報のデータ化
・モノクロフィルムの被写体データの調査を継続した。
4)　法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供
・事業計画のとおり法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供を継続した。



マイクロフィルムデジタル化
(《諸国製造品》)

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| デジタルデータ作成件数 | 775,300 件 | 73,000 件<br>(18,829 件) | S<br>－ | | 4,472 | 153,000 | 139,000 | 775,300 |
| うち4×5 フィルム(カラー) | 3,480 件 | 3,000 件 | A | | | | | |
| うちモノクロフィルム | 23,639 件 | 10,000 件 | S | | | | | |
| うちマイクロフィルム | 748,181 件 | 60,000 件 | S | | | | | |
| 収蔵品の基本情報のデータ化 | 123 万字 | 30 万字 | S | | 50 万 | 30 万 | 55 万 3 千 | 123 万 |

**年度実績評価総括**

Ⓢ　A　B　C　F
（S、Fの理由）
本年度は、補正予算が当該事業について執行されたため、処理件数の数値が飛躍的に大きくなった。ただし、これは本年度限りの特殊事情である。

**中期計画記載事項**

収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 6622-1

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-1 デジタル化の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一 |
| 実績・成果 | ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を随時行っている。<br>・重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で公開されている作品のほぼ全てについて、6カ国語（日英韓中仏西）による解説を加えた。 | | | |
| 補足事項 | ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム（館内研究・管理用）及び公開収蔵品データベース（一般公開）に随時登録し、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスを行う。<br>・当館所蔵指定文化財の画像のほぼ全てを高精細画像化し、ウェブサイト上で公開しているKNM GALLERYを、利用者に使い易いようトップページからのアクセスを容易にした。 | | | |



公開収蔵品データベース



重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | デジタルデータ作成件数 | 5,603件 | 4,359件 | A | | 6,169 | 8,047 | 6,478 | 5,603 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すため、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6623-1

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-1 デジタル化の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部資料室 | 事業責任者 | 資料室長　宮崎幹子 |
| 実績・成果 | 本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関わる情報の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。このことを実施するために必要な情報システムの構築、ネットワークの整備もあわせておこなう。<br>データベース：<br>・　調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、7,878件登録・更新した。<br>・　上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから3,995件公開した。<br>・　以前より作業を進めてきた収蔵品データベースの構築が一旦完了し、正式公開をおこなった。これにともない、整備をおこなっていた収蔵品のデータ4，461件から、公開準備のできたものを1,830件公開した。<br>画像データ：<br>・今年度の補正予算により、館蔵品を中心にカラーポジフィルム6，181枚、X線フィルム2,928枚をデジタル化した。<br>・同じく補正予算により、当館で保管する日本美術院彫刻等修理記録のデジタル化をおこない、紙媒体資料のデジタル撮影を75,305カット、ガラス乾板のデジタル化を6,141枚実施した。 | | | |
| 補足事項 | ・　昨年度に引き続き、文化財情報の整備と写真原板の整理を重点的におこない、登録・公開データを大きく増加させることができた。<br>・　収蔵品データベースについても、引き続き情報の整備に努める予定である。<br>・　写真原板、X線写真、ガラス乾板、修理記録類のデジタル画像化を順次推進しており、整理を進める予定である。<br>・　デジタル化件数は、データベースの登録データと画像データの合計としている。<br>・　今年度は補正予算が得られたため、デジタル化の総件数が大幅に増加した。 | | | |



収蔵品データベース

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 登録データ | 12,339件 | 2,000件 | S | 経年変化 | 3,838 | 3,889 | 6,989 | 12,339 |
| | 公開データ | 5,825件 | ― | ― | | 2,058 | 2,017 | 4,019 | 5,825 |
| | デジタル化件数 | 102,894件 | 8,471件 | S | | 3,830 | 4,584 | 8,399 | 102,894 |

| 年度実績評価総括 | Ⓢ　A　B　C　F<br>（S、Fの理由）<br>今年度は補正予算が得られたため、デジタル化の総件数が大幅に増加した。 |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6624-1

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-1 デジタル化の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 文化財課 | 事業責任者 | 資料管理室長　小林　公治 |
| 実績・成果 | 収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574 件) | | | |
| 補足事項 | 新たに撮影し収蔵品・出品作品をデジタル撮影した。また、フィルム撮影の写真についても順次 3 種類のデジタルデータ（300KB、2MB、120MB）に変換した。<br><br>国立文化財機構が作成している「e 国宝」に当館情報を提供した。<br><br>当館独自の所蔵重要文化財公開用のデジタル・アーカイブを製作し、ウェブ、館内で公開した。 | | | |



（新規撮影作品）
重要文化財
菊蒔絵手箱（当館保管）

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | デジタルデータ作成件数 | 3,574 件 | 1,890 件 | S | 経年変化 | 2,898 | 3,295 | 3,963 | 3,574 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等を活用してより広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、当該期間の平均数が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 6621-2

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 事業部情報課 | 事業責任者 | 博物館情報課長　高橋裕次 |

**実績・成果**

〈収集〉購入図書 480 冊、寄贈・交換図書 2,931 冊、館蔵品等の写真資料 4,177 枚
〈整理〉新規整理 図書 3,411 冊、逐次刊行物 3,790 冊、遡及入力 図書 11,105 冊
〈資料整備〉雑誌等の製本 346 冊
〈公開〉
・閲覧室のスペースの有効活用を目的として、写真キャビネットを西側に、閲覧机や書架を中央部分に移動した。また、新規に書架を 16 台増設した。
・視聴覚コーナーにおいて、ビデオ・DVD 等約 60 点を追加して公開した。
・OPAC で図書 164,564 冊、雑誌 6,103 タイトル、目次・論文データ 5,982 件を公開した。
・図書資料の展示コーナーを新設し、所蔵資料の紹介を定期的に行った。
・法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。
・学芸業務支援システムについて、修理情報関連機能の構築を進めた。

**補足事項**

〈収集〉
・博物館の調査研究や事業・運営に有用な図書を購入、交換・寄贈等により収集した。また、館蔵品を中心に撮影した写真資料を整備した。
〈整理〉
・既存図書の図書館システムへの遡及入力を継続して行い、漢籍 8,317 冊、洋書 696 冊、戦前の展覧会カタログ 1,359 冊、複製本 335 冊、一般図書 398 冊のデータを入力。
〈資料整備〉
・戦前の美術雑誌等、劣化の進行している雑誌について、保存修復課と今後の対策について検討を行った。
〈公開〉
・国立情報学研究所の目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)に図書の所蔵登録を行い、また美術館図書室横断検索にも継続して参加して、当館蔵書への検索サービスの向上に努めた。
・東京国立博物館刊行「Museum」・「紀要」、戦後当館が開催した展覧会カタログについて、すべての目次・論文データを入力し、OPAC からの検索を可能とした。
・明治期創刊美術雑誌の初号と「売立目録」の表紙画像を OPAC で公開した。
・OPAC で、新着図書の案内等のライブラリーニュースを随時発信した。


窓側の新設書架と中央の閲覧机


売立目録の検索結果（OPAC）

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収蔵品等の写真撮影･関連データ整備 | 4,177 件 | 3,000 件 | A | | 4,472 | 3,642 | 4,703 | 4,177 |
| 新規図書整理 | 3,411 件 | － | － | | 1,118 | 4,013 | 7,781 | 3,411 |
| 遡及図書整理 | 11,105 件 | － | － | | - | 4,574 | 5,709 | 11,105 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名　京都国立博物館　　処理番号　6622-2

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 列品管理室長　若杉準治 |
| 実績・成果 | ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。<br>・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。<br>登録件数　3,753件<br>・特別観覧件数　　1,002件 | | | |
| 補足事項 | ・今年度は、特別展関係の撮影が例年より少なかったことで、原板登録枚数が減少した。<br>『日蓮と法華の名宝』　前年度に先行調査撮影した<br>『シルクロード』　所蔵者による撮影制限<br>『ＴＨＥハプスブルク』　当館の資料収集対象外<br>・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net) を介したデジタル画像の提供事業を継続的に行っている。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備 | 3,753 件 | 約 5,000 件 | B | 経年変化 | 5,910 | 4,256 | 6,478 | 3,753 |

| 年度実績評価総括 | Ｓ　Ａ　Ⓑ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 6623-2

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

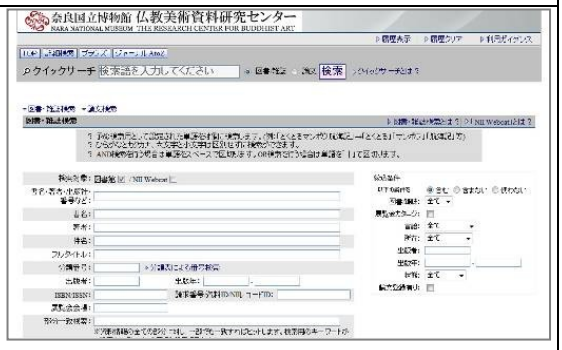
| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 学芸部 | 事業責任者 | 資料室長　宮崎幹子 |

**実績・成果**

本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸部の情報資料として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、サービスをおこなっている。
今年度後半は同センター耐震補強工事の開始にともない 10 月以降は閉館とし、旧地下通路に新たに確保した収蔵スペースに全資料の移動をおこなったため、資料は館内利用にとどめている。資料の移動・整理およびその準備作業に人員と時間を要したため、現在までの図書の新規受入は、1,129 冊、展覧会カタログは 248 冊となっている。1 月には作業が完了したため、その後は通常業務を鋭意進めているところである。
また、この間に図書情報システムのリプレイスを実施し、業務の効率化とサービスの向上を図った。新システムへの移行作業は順調に進み、既に通常業務に活用しているが、来年度以降に図書情報のインターネットへの公開を目指しており、館内での情報蓄積が外部サービスの充実に効果的に反映されるよう、更なる情報整備に努めている。
同センターの保有する資料の総数は図書約66,000冊、展覧会カタログ約10,000冊、雑誌約3,000タイトルとなっている。今年度は昨年度に引き続き、中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実を推進させることができた点も特筆される。

**補足事項**

従前より仏教美術に関する資料の充実化をはかっているが、関連研究分野の拡張化や学際化が近年著しく、当館でも新たな分野の資料の強化・整備がさらに必要である。今後とも、仏教美術関係の資料収集はもとより、多様な資料の蓄積をはかると共に、効率のよい資料整理・公開の方法についても検討して行きたい。




図書情報システム

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図書 | 1,129 件 | － | － | 経年変化 | 1,930 | 2,280 | 1,520 | 1,129 |
| 展覧会カタログ | 248 件 | － | － | | 460 | 532 | 489 | 248 |
| 収蔵品・出品作品等の写真撮影・関連データの整備 | 5,818 件 | 3,000 | S | | 8,406 | 3,240 | 6,457 | 5,818 |

**年度実績評価総括**

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

**中期計画記載事項**

美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 6624-2

| 中項目 | 6　情報発信機能の強化 |
|---|---|

| 事業名 | (6) 文化財情報・研究成果の公表　②-2 情報・資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 文化財課<br>交流課 | 事業責任者 | 資料管理室長　小林公治<br>主任研究員　池内一誠 |
| 実績・成果 | ①収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備した。(4,686 件)<br>②博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。<br>③ハンズオン資料の収集<br>特別展や館内イベントの開催等にあわせ、体験型展示室「あじっぱ」で使用するハンズオン資料の収集を継続して行った。<br>④「あじっぱ」資料の情報の収集<br>福岡在住の各国留学生や海外からの招聘研究者等から、「あじっぱ」資料についての情報を収集し、展示に反映させた。 | | | |
| 補足事項 | ①収蔵品・出品作品などについて 4,600 件を超す写真を撮影し、写真データベースの充実を図った。<br>②博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースは、稼働中の業務システムにおいて効率的に運用している。購入・寄託や借用などにともなう新規の収蔵品や図書データは随時入力するとともに、既存データについても未記入項目の遡及入力を実施し充実を図っている。<br>対馬宗家文書データについて、年代調査の実施および翻刻の整備を行い、データベースの効率的な運用を図った。<br>③については、ベトナム関係資料 52 件、チベット関係資料 15 件、タイ関係資料 18 件、インドネシア関係資料 1 件、日本関係資料 75 件（久留米絣関係 35 件、四季の風俗関係 40 件）中国関係資料 65 件、韓国関係資料 104 件、合計 330 件のハンズオン資料を収集し、随時展示に活用している。<br>④については、韓国人留学生による情報収集 1 回、ベトナム人留学生による情報収集 4 回、タイからの招聘研究者による情報収集 7 回を行った。特にタイの研究者からの情報収集については、僧衣の着用方法、ならびに托鉢に際しての僧侶および供養者の作法等についてワークショップ形式でレクチャーを受けることができた。またタイの手作り玩具の制作方法についても、一般来館者を交えたワークショップ形式で実施することができ、「あじっぱ」における今後のプログラム・展示の充実に資するところ大であった。 | | | |


収蔵品写真撮影風景


ベトナム螺鈿皿(新規収集)


タイ研究者により托鉢時の作法指導

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 収蔵品・出品作品等の写真撮影および関連データ整備件数（※デジタルデータ作成件数を含む） | 4,686 件 | 600 件 | S | 経年変化 | 3,479 | 12,556 | 6,633 | 4,686 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図ると共に、レファレンス機能を充実させる。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7111

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 77

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| プロジェクト名称 | 無形文化遺産に関する助言((1)) | | |
| 【事業概要】<br>地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。 | | | |
| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【プロジェクト責任者】 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |
| 【スタッフ】<br>高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟(以上、無形文化遺産部) | | | |
| 【主な成果】<br>平成 21 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁芸術文化課文化活動振興室への 8 件の助言を始め、30 件の助言を実施した。 | | | |
| 【年度実績概要】<br>平成 21 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。<br><br>1　文化庁芸術文化課文化活動振興室　8 件<br>2　文化庁伝統文化課　3 件<br>3　㈶伝統文化活性化国民協会への助言　8 件<br>4　㈶日本青年館への助言　4 件<br>5　日本芸術文化振興会への助言　2 件<br>6　萩市教育委員会への助言　1 件<br>7　日本放送協会への助言　1 件<br>8　(社)伝統歌舞伎保存会への助言　1 件<br>9　国立国会図書館への助言　1 件<br>10　日本青年団協議会への助言　1 件 | | | |
| 【実績値】 | | | |
| 【備考】 | | | |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7111

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 77

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 発展性 | 継続性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 助言件数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼がコンスタントに寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものと考える。以上の状況を総合的に判断して、Ａと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7112

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 78

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 文化財の修復及び整備に関する調査・助言((1)) |

【事業概要】

地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】

中山俊介、北野信彦、早川典子、加藤雅人、森井順之(以上、保存修復科学センター)、坪倉早智子(客員研究員)

【主な成果】

今年度は、件数として 40 件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。

【年度実績概要】

・財団法人日本航空協会評議員　(川野邊　渉)
・有限責任中間法人国宝装潢師連盟資格試験委員会　(川野邊　渉)
・石川県文化財保存修復工房運営委員会　(川野邊　渉)
・京都国立博物館文化財修理所運営委員会委員　(川野邊　渉)
・奈良国立博物館文化財修理所運営委員会委員　(川野邊　渉)
・九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員　(川野邊　渉)
・史跡原爆ドーム保存技術指導委員会委員　(川野邊　渉)
・財団法人日本航空協会航空遺産継承基金専門委員　(中山俊介)
・重要文化財・新垣家住宅「東ヌ窯」の修復に関する指導助言　(川野邊　渉)
・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之)
・特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之)
・国宝臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之、早川典子、朽津信明)
・厳島神社の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、北野信彦、早川典子、森井順之)
・特別史跡・キトラ古墳壁画の陶板復元に関する指導助言　(川野邊　渉、早川典子)
・重要文化財・霧島神宮本殿の修復に関する指導助言　(川野邊　渉、早川典子、森井順之)
・国宝・臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、早川典子、森井順之、朽津信明)
・史跡・大分高瀬石仏の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之)
・史跡・大分元町石仏の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之)
・大分県指定史跡・川中不動の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之)
・日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之)
・根津美術館蔵「石造八角経幢」の保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、森井順之)
・ひたちなか市武田西塙遺跡出土「わらじ状炭化物」の保存処理に関する指導助言　(北野信彦、森井順之)
・重要文化財・0．5ｔ及び3ｔスチームハンマーの修復後モニタリングに関する指導助言(森井順之)
・京都市中出土歴史資料の保存修復及び分析に関する指導・助言　(北野信彦)
・鹿苑寺不動堂石室内の不動像石仏の保存修復に関する指導・助言　(北野信彦)
・春日社古墳出土皮盾の保存修復に関する指導・助言　(北野信彦)
・松平忠雄公墓所出土副葬品の保存、修復、管理に関する指導・助言　(北野信彦)
・重要文化財富岡製糸場内の鉄製水槽の保存修復に関する指導助言　(中山俊介)
・第５福竜丸の船体及びエンジンの保存修復に関する指導助言　(川野邊　渉、中山俊介)
・陸上自衛隊入間基地内修武台記念館内における航空機の保管環境に関する指導助言　(中山俊介)
・神奈川県指定重要文化財・英勝寺仏殿蛙股の修復に関する指導助言　(森井順之)
他

【実績値】

指導助言実施件数　：　40 件

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7112

自己点検評価調書

研究所 No 78

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 正確性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 指導助言件数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順　調 | 今年度は、件数は 40 件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得るように努力する。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7113

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 79

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言　((1)) |

【事業概要】

地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し援助・助言を行う。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 奈良文化財研究所 | 【プロジェクト責任者】 | 所長　田辺征夫 |

【スタッフ】

【主な成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)337 件(委員会出席 109、審議会出席 13、指導 50、調査 62、講演 21、その他 82)

【年度実績概要】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

①地方公共団体等による文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等で行った。(「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存に関する調査研究、島根県津和野町社寺建築調査、奈良県近代和風建築総合調査など)

②地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡・名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言を行った。(小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究、天良七堂遺跡の総合的調査、胡桃館遺跡詳細分布調査、三軒屋遺跡総合的調査、長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復、藍住町出土布の保存調査、史跡ガランドヤ古墳石室石材劣化調査、史跡加賀藩主前田家墓所石造物保存対策調査、重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存処理など)

③文化庁事業「発掘調査の手引き」の刊行は、1966 年の初版以来、改訂が重ねられてきたが、このたび、40 年ぶりに全面改訂を行うこととなった。本研究所は文化庁の委託を受けて、文化庁文化財部記念物課及び地方公共団体と協同して、「集落遺跡発掘編」及び「整理・報告書編」を刊行した。

【実績値】

援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)　337 件

(委員会出席 109 件，審議会出席 13 件，指導 50 件，調査 62 件，講演 21 件，その他 82 件)

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7113

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 79

1. 定性的評価

| 観点 | 継続性 | 適時性 | 発展性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考<br>継続性：依頼機関への対応<br>適時性：実施業務に適時・適切に対応<br>発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現 | | | | | | |

2. 定量的評価

| 観点 | 援助・助言<br>実施件数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3. 総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができた。 |

4. 中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈文研に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7114

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 80

| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
|---|---|
| プロジェクト名称 | 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言((1)) |

【事業概要】

平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重要地区内において、近年とみに小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮及び宮周辺における奈良時代を含む各時代の土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部長 井上和人 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

難波洋三、国武貞克、芝康次郎、神野恵、森川実、城倉正祥、中村亜希子、今井晃樹、林正憲、森先一貴、渡辺晃宏、馬場基、浅野啓介、桑田訓也、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡、[以上、都城発掘調査部]

【主な成果】

平成 21 年度は、平城宮・京域で、計 8 件の発掘調査を実施した。その結果、海龍王寺旧境内においては、現存する海龍王寺の北土塀のほぼ東延長上で、土塀の可能性のある奈良時代中期の整地層を検出し、興福寺旧境内では平安時代末頃の土器を大量に廃棄した土坑、奈良時代と中世・近世の築地と側溝、中世の路面を検出した。

【年度実績概要】

平城宮に密接に関連する平城京域発掘調査への援助・助言は総数 8 件あり、そのほとんどが開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 208 ㎡、調査期間は平成 21 年 5 月 11 日～平成 22 年 2 月 23 日の間で、延べ 89 日におよぶ。

| 次数 | 調査地 | 調査原因 | 面積 | 期間 | 概要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 456 | 海龍王寺旧境内 | 住宅建設 | 22 ㎡ | 090511～090518 | 奈良時代初頭の土坑や奈良時代中期の整地層を検出。 |
| 459 | 平城宮北方遺跡 | 住宅建設 | 12 ㎡ | 090601～090605 | 中世の土坑と溝を検出。 |
| 460 | 平城京左 1.2.9 | 住宅建設 | 21 ㎡ | 090709～090716 | 奈良時代の柱穴 2 基のほか、炭化物を含む古代の土坑などを検出。 |
| 461 | 平城京左 1.2.16 | 住宅建設 | 18 ㎡ | 090805～090819 | 古代の大型土坑 2 基を検出。1 基は火災後の廃棄土坑で、もう 1 基には板状の石が折り重なる。 |
| 462 | 平城京左 2.2.14 | 住宅建築 | 36 ㎡ | 090907～090914 | 奈良時代の遺構面を確認。柱穴 1 基を検出。 |
| 465 | 興福寺旧境内 | バス停建設 | 43 ㎡ | 091208～100129 | 奈良時代と中世・近世の築地側溝を検出。 |
| 467 | 興福寺旧境内 | 住宅建設 | 50 ㎡ | 100202～100217 | 東六坊大路東側溝と考えられる奈良時代の南北溝を検出。 |
| 立会 2009―7 | 興福寺旧境内 | 排水管付替 | 6 ㎡ | 090512～090515 | 平安時代末頃の土器を大量に廃棄した土坑、築地と側溝、中世の路面を検出。 |

【実績値】

論文等数　：3 件(①～③)
出土品　　：瓦磚など 90 箱、土器 80 箱、金属器・木器・石製品など 10 箱
記録作成数：実測図 35 枚、遺構写真(4×5)約 80 枚

【備考】

①浅野啓介「海龍王寺旧境内の調査―第 456 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)
②浅野啓介「平城宮北方遺跡の調査―第 459 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)
③国武貞克「興福寺旧境内の調査　立会 2009―7」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7114

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 80

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 正確性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |

備考
適時性：奈良県教育委員会および奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査を実施した。
継続性：データ収集のため、規模の大小にかかわらず発掘調査を継続的に実施した。
正確性：文化財行政に協力し、正確な調査を実施した。

2．定量的評価

| 観点 | 援助・助言<br>実施件数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考
対象地区内の開発行為に、すべて対応した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからＡと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7115

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 81

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言　((1)) |

【事業概要】

飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【プロジェクト責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

玉田芳英、次山 淳、降幡順子、豊島直博、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高田貫太、庄田慎矢、石田由紀子、加藤雅士、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)］、井上直夫、岡田 愛［以上、企画調整部］

【主な成果】

特別史跡藤原宮跡、特別史跡山田寺跡、史跡川原寺跡等において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 6 件あり、主に史跡の現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、川原寺旧境内の調査では、川原寺の創建瓦を含む遺物包含層を確認した。

【年度実績概要】

特別史跡藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 7 件あり、主に史跡の現状変更に対する事前調査である。

| 次　数 | 調査地 | 調査原因 | 面積 | 調査期間 | 概　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 158-1 次 | 藤原宮跡大極殿院南門 | 現状変更 | 4 ㎡ | 2009.6.3 | 遺構面に達せず。 |
| 158-2 次 | 藤原宮跡植栽 | 現状変更 | 8400 ㎡ | 2009.8.17～8.28 | 遺構面に達せず。 |
| 158-3 次 | 川原寺跡 | 住宅建設 | 22 ㎡ | 2009.11.16～20, 2010.3.5 | 瓦包含層検出。 |
| 158-4 次 | 山田寺跡 | 現状変更 | 111 ㎡ | 2010.1.6～3.5 | 擁壁工事に伴う立会調査。寺域北東部で地山を検出した。 |
| 158-5 次 | 山田寺跡 | 現状変更 | 1 ㎡ | 2010.1.18～3.8 | 電柱支線の付け替え工事に伴う立会調査。遺構面に達せず。 |
| 158-6 次 | 山田道 | 現状変更 | 826 ㎡ | 2010.1.13～2.17 | 農水路改修工事に伴う調査。斜向溝 1 条などを検出した。 |
| 158-7 次 | 大官大寺跡 | 現状変更 | 98 ㎡ | 2010.2.17～2.19 | 農水路改修工事に伴う調査。 |

このほか、昨年度末に第 152-8 次として行った古宮遺跡の調査成果を、今年度の紀要で報告した。



第 158-3 次調査瓦検出状況

【実績値】

論文等数　3 件(①～③)
出土遺物　青磁 1 点、丸平瓦 1 箱(以上 158-3 次)、丸平瓦 1 箱(158-5 次)
記録作成数　遺構実測図 4 枚、写真(4×5)14 枚(以上 158-3 次)、遺構実測図 1 枚(158-5 次)

【備考】

① 「2009 年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
② 木村理恵・石田由紀子「古宮遺跡の調査－第 152-8 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)
③木村理恵「古宮遺跡の調査(飛鳥藤原第 152-8 次)」『奈文研ニュース』No.33、2009.6

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7115

自己点検評価調書

研究所 No 81

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
適時性：開発行為に対応する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対する協力
継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず、調査を継続して行った。

2．定量的評価

| 観点 | 援助・助言数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |

備考

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 年間７件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にＡと判断した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7211

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 82

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 埋蔵文化財担当者研修((2)-①) |

【事業概要】

地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。

研修受講者のうち平均 80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 企画調整部<br>管理部業務課 | 【プロジェクト責任者】 | 企画調整部長　肥塚　隆保<br>業務課長事務取扱 多　昭彦 |

【スタッフ】

小池伸彦［企画調整部］、今西康益、石田義則［以上、管理部］

研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。

【主な成果】

遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修 12 課程の研修を実施し、延べ 130 名が受講した。

研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

【年度実績概要】

専門研修 12 課程を実施し、延べ 130 名が受講した。

また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。

| | | 実施期日(日数) | 定員 | 受講者数 | 満足度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 専門研修 | 遺跡探査課程 | 6 月 2 日～6 月 5 日　(4 日) | 10 人 | 3 人 | 100% |
| | 建築遺構調査課程 | 6 月 15 日～6 月 19 日　(5 日) | 12 人 | 14 人 | 100% |
| | 文化財写真Ⅰ(基礎)課程 | 7 月 7 日～7 月 23 日　(17 日) | 10 人 | 7 人 | 100% |
| | 文化財写真Ⅱ(応用)課程 | 7 月 23 日～8 月 6 日　(15 日) | 10 人 | 9 人 | 100% |
| | 古代陶磁器調査課程 | 9 月 1 日～9 月 9 日　(9 日) | 12 人 | 9 人 | 100% |
| | 保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程 | 10 月 15 日～10 月 23 日(9 日) | 10 人 | 9 人 | 100% |
| | 保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程 | 10 月 23 日～10 月 30 日(8 日) | 10 人 | 7 人 | 100% |
| | 遺跡地図情報課程 | 11 月 17 日～11 月 20 日(4 日) | 16 人 | 15 人 | 100% |
| | 自然科学的年代決定法課程 | 11 月 30 日～12 月 4 日　(5 日) | 12 人 | 7 人 | 100% |
| | 遺跡整備活用課程 | 1 月 12 日～1 月 22 日　(11 日) | 12 人 | 15 人 | 100% |
| | 報告書作成課程 | 1 月 28 日～2 月 5 日　(9 日) | 16 人 | 21 人 | 100% |
| | 地質環境調査課程 | 2 月 16 日～2 月 24 日　(9 日) | 12 人 | 14 人 | 100% |

【実績値】

実施課程数　12 課程
受講者数　130 人
受講者の満足度　100%

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7211

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 82

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 独創性 | 発展性 | 効率性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応
独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上
効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性

2．定量的評価

| 観点 | 研修実施回数 | 受講者数 | 受講者の満足度 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | B | A | | | |

備考
実施課程数　12 課程
受講者数　130 人
受講者の満足度　80%以上

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 本年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。受講者は、当初予定した受講者数をほぼ(90%以上)満たす受講者となった。また、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている回答を得ている。これらのことから、総合的に判定し、Ａと判定した。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 当年度は計画どおり 12 課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の 142 人に対し 130 人であった。<br>研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』」と『思う』との回答が 100%という結果であった。<br>研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7221

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 83

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修((2)-②) |

【事業概要】

近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術を講義および実習を通じて学んデータだき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑　武志 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)

【主な成果】

第 26 回保存担当学芸員研修および保存担当学芸員フォローアップ研修を実施し、どちらも高い満足度を得た。

【年度実績概要】

今回で 26 回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を 7 月 13 日から 7 月 24 日の 2 週間実施した(参加者 31 名)。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は千葉県立中央博物館で実施し、4 人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行い、結果を発表、質疑応答を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と、方法論を習得した。



また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を 6 月 22 日に実施した。今回のフォローアップ研修は、近年の省エネ化要求への動きなどを踏まえた、最新の基礎的な保存環境論をプログラム内容とした(参加者 69 名、満足度 100%)。

さらに、資料保存地域研修を 11 月 27、28 日の 2 日間、愛媛県美術館において開催し(愛媛県博物館協会、およびえひめミュージアム研究会との共催)、温湿度や照明といった保存の基礎に関する講義を行い、好評を得た(参加者 51 名、満足度 97%)

【実績値】

| | |
|---|---|
| 実施回数 | 1 回 |
| 研修受講者数 | 31 名 |
| 受講者の満足度 | 97%(アンケート回収率 100%) |

【備考】

【書式Ｂ】
(様式 2)

施設名 東京文化財研究所　処理番号 7221

自己点検評価調書

研究所 No 83

1．定性的評価

| 観点 | 適時性 | 継続性 | 発展性 | 正確性 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | A | | |

備考
昭和 59 年以来毎年実施している当研修は、学芸員にとって自然科学的視点からの保存環境に関する知識と技術を学べる唯一の機会であるため、2 週間という長期にも関わらず、毎回多くの参加者があり、高い評価を得ている。カリキュラムは固定することなく、その時の保存環境を取り巻く状況、および新しい研究成果を勘案し、常に検討を行い、必要な修正を続けている。また、研修終了後も修了生に対しては、またフォローアップ研修などを通じて、最新の情報を提供している。さらに、受講生とスタッフの間には、インターネットを利用した情報交換や相談を行うネットワークを構築しており、修了後、勤務館において研修で学んだことを実践し、またその成果を共有できる体制を作っている。

2．定量的評価

| 観点 | 参加者数 | 満足度 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | | | | |

備考
本年の学芸員研修には全国の国公立、また私立の博物館や美術館から 31 名の保存担当学芸員が参加した。

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 研修参加者数、アンケートによって得られた参加者の満足度も申し分ないものであった。また、ケーススタディ実習での各参加者の成果は、2 週間の講義と実習が十分伝わっていることを反映したものであった。これらの理由より、当判定とした。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 学芸員研修、フォローアップ研修ともに、毎年順調に実施しており、参加者数、満足度ともに申し分ないものである。カリキュラムについては、今後も様々な状況を勘案しながら、改善を続けていきたい。特に、省エネ化への流れを見据えた内容へのシフトは、今後重要になろう。 |

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7231

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 84

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学(保存環境学、修復材料学)((2)-③) |

【事業概要】

1995(平成 7)年 4 月より東京藝術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。
各講座 3 名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【プロジェクト責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
|---|---|---|---|

【スタッフ】

石﨑武志、佐野千絵、木川りか、川野邊　渉、中山俊介、北野信彦(以上、保存修復科学センター)、鈴木規夫(所長)、間渕　創(東京藝術大学非常勤助教、客員研究員)

【主な成果】

次に上げる講義と演習を各教官が担当した。文化財保存学演習(北野)、保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石﨑、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野)

【年度実績概要】

次に上げる講義と演習を各教官が担当した。

文化財保存学演習(北野)、保存環境計画論(佐野)、保存環境学特論(石﨑、木川)、修復計画論(川野邊)、修復材料学特論(中山、北野)

保存環境学計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化財の材質にどの様な影響をあたえるか劣化を防ぐにはどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。

保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。

修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。

修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7231

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 84

1．定性的評価

| 観点 | 発展性 | 効率性 | 継続性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。 |

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7232

(様式 1)

業務実績書

研究所 No 85

| | |
|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上 |
| プロジェクト名称 | 京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進　((2)―③) |

【事業概要】

京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 【担当部課】 | 奈良文化財研究所 | 【プロジェクト責任者】 | 所長　田辺征夫 |

【スタッフ】

松井章、小野健吉、小澤毅(京都大学客員教授)大河内隆之、高妻洋成、清水重敦(京都大学客員准教授)
小池伸彦、渡邉晃宏(奈良女子大学客員教授)次山淳(奈良女子大学客員准教授)

【主な成果】

京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を行った。なお、平成 21 年度の受入学生数は京都大学 51 名、奈良女子大学 9 名であった。

【年度実績概要】

京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野(客員)〕並びに奈良女子大学大学院人間文化研究科における平成 21 年度の実施状況については下記のとおりである。

①小野健吉
「日本庭園文化論 1(後期)」【修士課程 4 名】

②清水重敦
「文化的景観論 1(後期)」【修士課程 5 名】

③高妻洋成
「共生文明学研究Ⅰ(通年)」【修士課程 2 名】
「保存科学論 1(後期)」【修士課程 4 名】
「文化遺産学演習 6B(後期)」【修士課程 4 名

④小澤　毅
「遺跡調査法論 1(後期)」【修士課程 4 名】

⑤松井章
「共生文明学研究Ⅰ(通年)」【修士課程 1 名】
「共生文明学Ⅱ研究(通年)」【修士課程 2 名】
「環境考古学論 1(前期)」【修士課程 10 名】
「文化遺産学演習 4A(前期)」【修士課程 3 名】
「文化遺産学演習 4B(後期)」【修士課程 1 名】
「文化遺産学特別演習 1(通年)」【博士後期課程 2 名】
「文化遺産学特別演習 2(通年)」【博士後期課程 2 名】
「文化・地域環境論特別セミナー(通年)」【博士後期課程 2 名】

⑥大河内隆之
「年輪年代学論 2(前期)」【修士課程 5 名】

⑦小池伸彦
「文化財学の諸問題Ⅰ(前期)」【博士後期課程 2 名】
「文化財学の諸問題Ⅱ(後期)」【博士後期課程 2 名】

⑧渡邉晃宏
「歴史資料論Ⅰ(前期)」【博士後期課程 3 名】
「歴史資料論Ⅱ(後期)」【博士後期課程 1 名】

⑨次山淳
「歴史考古学持論Ⅱ(後期)」【博士後期課程 1 名】

【実績値】

受入学生数(延人数)　京都大学：51 名、奈良女子大学：9 名

【備考】

教官研究費及び学生の教育費は連携大学が支出

【書式Ｂ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7232

(様式 2)

自己点検評価調書

研究所 No 85

1．定性的評価

| 観点 | 効率性 | 適時性 | 発展性 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | A | A | | | |
| 備考<br>効率性：研究水準の社会的評価<br>適時性：時代の要請<br>発展性：若手研究者層の充実、人材確保 | | | | | | |

2．定量的評価

| 観点 | 受入学生数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 判定 | A | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

3．総合的評価

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| A | 文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。 |

4．中期計画の実施状況の確認

| 判定 | 判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等 |
|---|---|
| 順調 | 連携大学との協定に基づき、計画的かつ継続的に実施している。 |

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8001

業務実績書(受託事業)

研究所 No 1-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存に関する調査研究(受託)((1)-①-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【事業責任者】 | 景観研究室長　清水重敦 |

【スタッフ】
清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、惠谷浩子［同部研究員］、松本将一郎［同部アソシエイトフェロー］、番　光［都城発掘調査部研究員］、海野聡［同部研究員］、成田聖［企画調整部任期付研究員］

【年度実績概要】

本受託事業は、重要文化的景観「宇治の文化的景観」の中核を成す地区である中宇治地区において、現存する伝統的建造物の価値評価とその整備活用に関する計画の策定を目的として実施した。現地調査では、1 次調査として地区内に残る木造家屋や近代建築の残存状況を悉皆的に把握し、次に 2 次調査として個別の建造物についての詳細な調査を行った。また中宇治地区の都市構造や主要な生業である茶業についての分析も併せて行い、今後の保存、整備、活用についての計画提案を行った。本調査の成果は、調査報告書の原稿として執筆し、宇治市に提出するとともに、宇治市主催「宇治の伝統的木造家屋調査中間報告会」及び「宇治市文化的景観フォーラム 2010」において成果報告を行った。

1 次調査では､近世から昭和 30 年までの間につくられた 301 件の伝統的建造物を確認することができた。この 1 次調査の結果を踏まえて抽出した 21 件の家屋を対象に 2 次調査を実施し、その歴史調査、実測調査、写真撮影を行い、配置図・平面図・断面図の作成と価値評価を行った。2 次調査の対象は、茶問屋や茶工場などの茶業関連家屋のほか、宇治の近代化の過程で登場した宇治川沿いの茅葺建物や鉄筋コンクリート造の百貨店などであり、宇治の重層性を特徴づける建物とした。

本調査の成果として、①中宇治地区における伝統的建造物の残存状況を把握し、その建築類型と分布特性を捉えられたこと、②古代に形成された街区形状と茶業とが結びついた敷地利用が具体的に明らかになったこと、③建物の表構えや土間の在り方などの構造に、中宇治独自の敷地形状と茶業の影響を読み取ることができたこと、④以上を踏まえた中宇治地区の整備・活用計画を策定したこと、があげられる。

本調査の成果は、都市域における重要文化的景観選定第 1 号である宇治を対象に、文化的景観独自の視点で都市を整備・活用していくための調査及び計画の視点を全国ではじめて具体的に提示したものであり、今後選定される他の重要文化的景観のモデルケースとなろう。



宇治茶やまもと（明治中期）
表屋の奥に製茶関連施設を配する敷地利用、小庇の深さや敷地最奥へと続く土間など、茶業により大きく特徴付けられる中宇治の家屋の典型例である。



丸五薬局（昭和 7 年）
正面に宇治の近代化を象徴する鉄筋コンクリート造の表屋、奥に木造の店舗を建てており、茶業関連家屋と同様の敷地利用が見られる。

【実績値】
調査票 21 枚、実測野帳 77 点、デジタル写真 3964 点、報告書原稿 120 ページ。

【受託経費】
950 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8002

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 2-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 無形文化財・民俗文化財を支える用具・原材料の現状に関する調査研究事業(受託)((1)-①-イ) | | |
| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【事業責任者】 | 無形文化財研究室長　高桑いづみ |

【スタッフ】

【年度実績概要】

「能面の製作・修理に関する面打ち師の実態調査」を行った。アマチュアを含めて全国に能面師と称する人々は数多く存在する。そのうち、どのくらいの人数が実際に能楽師とコンタクトを取って新作や面の修理を行っているのかを把握し、面打ち師が抱えている問題を抽出させることが課題である。

主な面打師・能楽師・能面を多く所蔵する博物館等の団体あわせて 90 件余にアンケート調査を行い、回答のあった面打ち師のうち 20 名、能楽師 6 名から聴取を行った。

実際に能楽師とコンタクトを取っている面打師は 20 名程度だが、特定の能楽師と信頼関係を結んで修復を行ったり、古面の写しを作成している人数はさらに絞られてくる。

修復に関しては、

1　古面を預けるので信頼関係がないとむずかしい。従って古面を見られる面打師が限られる。
2　古面を預けると型紙をとり、無断で写しを作って売買する面打師がいる。
3　修復の技術に基準があるわけではなく、雑な修復もあれば、表面を彩色し直してしまう場合がある。
　修復に携わる面打師が一定の基準を共有し、また技術を研鑽しあう場が必要である。

といった問題点が浮き彫りになった。

写しについては、古い面の傷みを助長させないよう、薪能や海外での演能用に作成したり、明治以降興った家や弟子家では舞台で使用するなど、需要は多くないものの、確実に必要とされていることが判明した。

型紙が書物の付録として印刷され、一般人が形だけ写した面が市場に出回っていることについては、能楽師から危惧の声が上がった。

創作能に用いるなど、新面の需要もあるが、それほど多くは必要とされていない。ただし、面打師のなかには能面作家として新たな表情を模索しようとする人、古面を見られないために結果的に創作面を打つことになる人、などさまざまな事情が判明した。舞台で用いてこその能面なので、こうした創作面がどのように使用されるのか、今後の課題であろう。

面打師からは、

1　能面を多く所有する国立能楽堂などに公開の機会を作って欲しい
2　絵画・工芸のように国立博物館など公の場で修復技術研修の場、若手養成の場を作ってほしい。
3　修復や新面について、最低料金を定めて欲しい
4　能面を購入せずに、借りる能楽師もいるが、その場合の借用料をきちんと決めて欲しい。
5　影の存在なので、選定保存技術者など顕彰の機会を作って欲しい。それが励みになる。

などの要望もあった。

博物館等で、技術のない面打ち師が修理してひどくなった例もあり、能楽協会などで情報提供をするなどのシステム作りも必要ではないかと感じた。

ほとんどの面打師が能面教室を開き、その月謝で生計をたてている。生活面での問題に加えて、後継者問題も浮上している。現在活動している面打師は 50 代後半から 60 代、70 代がほとんどで、実際に使用できる面を打つ若手は数人しかいない。公の機関で若手の育成を考える必要性も、今後でてくるであろう。

また、天冠や烏帽子などの小道具の製作者がいないことへの危惧も能楽師から聞かれた。能面以上に影の存在なので、製作者の問題は大きい。

こうした聴取結果を文化庁へ回答し、アンケートに回答を寄せた面打師や能楽師にも別途報告を行った。

【実績値】

【受託経費】

982,608 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8003

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 7-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 島根県津和野町社寺建築調査(受託)((1)-②-オ) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【事業責任者】 | 建造物研究室長　島田敏男 |

【スタッフ】

大林潤、番　光、鈴木智大[以上、都城発掘調査部研究員]、成田聖［企画調整部任期付研究員］

【年度実績概要】

本受託事業では、津和野町内に所在する近世社寺建築と、鷲原八幡神社の調査をおこなうものである。調査の目的は、おおきくはふたつあり、ひとつは町内の社寺建築全体を把握するものでる。もうひとつは、本殿が中世まで遡ると考えられる鷲原八幡神社について、詳細な調査をおこなって、その価値を明確にし、将来の国指定に備えるものである。



鷲原八幡神社楼門・拝殿

町内の社寺建築については、地元で一次調査として悉皆調査をおこない、約 120 社寺をリストアップ・写真撮影をおこない、それにもとづいて、研究所が近世に建築されたと推定される約 50 社寺について、現地調査をおこない、調査作成・写真撮影をおこなった。さらに三次調査として、12 社寺について、平面図作成を含む詳細調査をおこなった。

鷲原八幡神社については、楼門・拝殿・本殿について、平面図・断面図・立面図・詳細図・部材伏図などを作成しながら、建築の特徴および、修理・改造等の変遷をあきらかにした。その結果、本殿は、永禄 11 年(1568)に建立され、その後正徳元年(1711)に、本殿が若干改造されるとともに、現在の楼門・拝殿が新築されたことをあきらかにした。また、類例調査をおこない、これら建築様式が山口市周辺に流行した様式の影響を強く受けていると同時に、楼門と拝殿の間に方形の池を設けて、その池を潔斎橋と称する橋で渡るという、他に例をみない独特な形式をもつことがあきらかとなった。したがって、本社は、中世の遺構として貴重なだけでなく、独特な配置形式をとる社殿群として高く評価できることを明確にした。

本調査は、文化庁がおこなう「文化財総合的把握モデル事業」を津和野町が受託しておこなう事業の一環であり、将来的に、本調査成果は、新たな建造物の指定および、文化財を活かしたまちづくり等の基礎資料となるもので、文化庁がおこなう施策にも合致した調査事業である。なお、調査成果については、調査全体については、モデル事業の報告書に反映され、鷲原八幡神社の詳細な調査成果は、平成 22 年度に町が発行する鷲原八幡神社調査報告書に反映される予定である。

【実績値】

調査票 70 枚、実測野帳 70 点、デジタル写真 1000 点、4×5 ポジ写真 30 点、調査概要報告、図面および報告書原稿

【受託経費】

1,615 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8004

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 7-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 奈良県近代和風建築総合調査(受託)((1)-②-オ) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産部 | 【事業責任者】 | 建造物研究室長　島田敏男 |

【スタッフ】

清水重敦［文化遺産部景観研究室長］、粟野隆［同部研究員］、松本将一郎［同部アソシエイトフェロー］、箱崎和久［都城発掘調査部遺構研究室長］、黒坂貴裕、大林潤、番　光、高橋知奈津、鈴木智大、海野聡［以上、同部研究員］、成田聖［企画調整部任期付研究員］増井正哉［客員研究員］

【年度実績概要】

本受託事業では、奈良県内に所在する明治から昭和初期にかけて建設された文化財的価値を有する近代和風建築のうち、奈良県文化財課がおこなった一次調査の結果から選定された 85 件の物件について、その歴史調査、実測調査、技法調査、写真撮影を実施し、配置図及び平面図の作成と文化財としての学術評価を行った。報告書の出版業務は、奈良県教育委員会による直接執行である。調査成果は学術評価原稿、配置図および平面図、写真について提出した。

調査では、奈良県内の各市町村から 1 件以上を条件として、各市町村に所在する近代和風建築を現地調査した。建築類型の上では、公共建築として庁舎、学校、図書館、博物館など、住宅建築として町家、農家、邸宅、別荘を、宗教建築として寺院、神社、天理教教会、キリスト教教会を、商業建築として旅館、料亭、揚屋をと、多岐にわたる対象を調査した。



**日本聖公会奈良基督教会の建築**（奈良市）
本事業により奈良県内の近代和風建築の特徴が具体的に示されたが、このキリスト教会建築は和風偏重の奈良県の特徴をよく示している。

調査の結果として、これまで不明瞭であった奈良県における近代和風建築の現存状況と、建築類型の広がりの幅が明らかになったこと、近代和風建築の技術の具体相が明らかとなったこと、近代和風建築に関わった施主、設計者、施工者の具体名が多数明らかとなり、近代奈良における建築事情が解明されたことがあげられる。近代期の奈良は、全国的に見た洋風建築の流行にもかかわらず、古代日本の中心地であることを反映し、和風への志向が強い。この具体相を解明した本調査は、奈良県に留まらず、日本全体における近代和風建築の研究と保存に対して多大な貢献をなす成果を上げ得たものと考える。

【実績値】

調査票 85 枚、実測野帳 170 点、デジタル写真 8200 点、報告書原稿 248 ページ。

【受託経費】

2,300 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8005

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 8-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 日本ユネスコパートナーシップ事業／アジア太平洋地域無形文化遺産保護活動の調査研究(受託)((1)-③) | | |
| 【担当部課】 | 無形文化遺産部 | 【事業責任者】 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |

【スタッフ】

高桑いづみ、飯島　満、俵木　悟、七海由美子、松山直子(以上、無形文化遺産部)

【年度実績概要】

今年度は、以下のような事業を実施した。

①国際会議等への派遣:各国で開催される国際シンポジウムや会議、研究会等に無形文化遺産部の職員を派遣し、無形文化遺産保護に関する発表や助言を行うとともに、各国及び国際状況についての情報収集を行った。

②海外現地調査:アジア太平洋地域での調査を通じて、各国における無形文化遺産保護のための施策・取り組みについて情報を調査収集し、本テーマに関する意見交換を行いつつ、同地域の無形文化遺産保護に関する研究交流を行った。

③国内現地調査:無形文化遺産として登録及び推薦された国内の案件について、その保護活動に関する情報を調査収集した。

④国際研究会の実施(海外専門家招聘):アジア太平洋地域の関係機関から専門家を招聘し、無形文化遺産の保護措置の現状と課題についての研究会を開催した。

名称:無形文化遺産国際研究会「アジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題」

日時・会場:平成 22 年 1 月 14 日　東京文化財研究所セミナー室

基調講演　ユネスコ　バンコク事務所文化ユニット長　ティモシー・カーティス

発表者:朴成龍(アジア太平洋無形文化遺産センター　所長、韓国)、江亦(アジア太平洋無形文化遺産センター準備事務局　事務局長、中国)、ガウラ・マンチャチャリタディプラ(文化専門家、ワヤン人形劇芝居師、インドネシア)、パトリック・フロレス(フィリピン大学芸術学部教授、フィリピン)、グエン・キム＝ズン(文化スポーツ観光省　文化遺産部無形文化遺産管理課　課長、ベトナム)、クンサン・デレク(ブータン国立図書・公文書館　主任アーキヴィスト、ブータン)、ミシワイニ・ケレケレタブア(フィジー先住民担当省フィジー言語・文化研究所　所長、フィジー)、ソノム＝イシュ・ユンデンバット(文化遺産センター　無形文化遺産保護部　部長、モンゴル)、ラクシュミナーラーヤン・マントリ(文化省西部文化センター　理事、インド)、宮田繁幸(東京文化財研究所　無形文化遺産部　部長、日本)、加藤忠(北海道アイヌ古式舞踊連合保存会　会長、日本)

【実績値】

【受託経費】

27,838,284 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8006

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 11-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 平城京薬師寺旧境内の調査(受託)((1)-⑤-ア) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部長　井上 和人 |

【スタッフ】
浅野啓介、今井晃樹、大林潤、箱崎和久、馬場基、森川実、芝康二郎、森先一貴、林正憲、難波洋三、鈴木智大、海野聡、桑田訓也［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】

本受託事業は、薬師寺旧境内における防災施設設置工事にともなう事前の発掘調査である。調査区はいずれも幅が 1～1.5mのトレンチで、大きく 4 箇所(A～D区)に分かれる。A～C区は薬師寺中心伽藍の北方に位置する本坊周辺の調査区で、D区は中心伽藍の東方に位置する東院堂周囲の調査区である。このうちD区は当調査部の調査計画および薬師寺の行事予定や施設設置工事計画等の調整によって、調査区および調査期間が 3 つ(D1～D3)に分かれた。

各調査面積と調査期間は、A区が 30 ㎡、平成 21 年 6 月 25 日～7 月 1 日、B区が 18 ㎡、7 月 2 日～6 日、C区が 1 ㎡、7 月 3 日、D区は全体で 152 ㎡だが、D1 区は東院堂の北方で、調査面積が 43 ㎡、調査期間が 8 月 20 日～9 月 3 日、D2 区はD1 区に接続する東院堂の東方で、69 ㎡、9 月 11 日～10 月 30 日。D3 区はD2 区に接続する東院堂の南方で、40 ㎡、11 月 9 日～19 日である。

A・B区は近年の盛土および産業廃棄物層が現地表下 1.5m以上におよび、湧水もあって危険であり、防災施設設置工事によって遺構が破壊される危険性はないと判断できたため、奈良時代の遺構面に達することができなかったが、掘り下げを断念した。C区は既設管の埋設で大きく破壊されており、また既設のマンホール等が障害となって十分な調査をおこなうことができなかった。このような状況から、遺構面の確認は困難だったが、防災施設設置工事の予定深度がこれらよりも浅いことから調査を断念した。

D区のうちD3 区は既設の埋設管が多数めぐらされており、また部分的に掘り下げを実施したが現地表面から 1.4mの深さでも江戸時代の整地面であり、それ以前の遺構面を確認できなかった。これ以上の掘削は危険であり、この深さで防災施設設置工事には支障がないため調査を断念した。

D1 区では西端で掘立柱穴を 1 基検出した。調査区からみて東方には展開せず、西方には中心伽藍の東面回廊が迫ることから、南北方向の掘立柱塀の一部であり、薬師寺東院の西限塀と推定された。D1 区東方およびD2 区北方では、掘込地業をともなう版築基壇を検出した。D1 区では南北方向の、D2 区では東西方向の凝灰岩製基壇地覆石あるいはその残欠を検出し、前記の版築は建物基壇にともなうと判断できた。検出した基壇の規模は東西 8.2m、南北 13.0mにおよぶ。D1 区では東西方向の礎石の据付穴・抜取穴を 3 箇所で確認した。柱間寸法は東の間が約 3.3m、西の間が 3.0mである。またD1 東端では掘込地業底部に施した砂利敷きを検出した。掘込地業全体には及んでおらず、建物の中心付近のみと推定され性格は不明である。掘込地業はD1 区では基壇西辺より西へ 1.5mほどのびて上がるが、D2 区では基壇南辺より 8m以上も続き、明確ではないが掘込地業を共有する建物が南方にもう 1 棟建つ可能性がある。これらの遺構は精緻な版築や凝灰岩製の基壇地覆石、出土瓦の年代から奈良時代の遺構と判断される。


D2 区・基壇南辺と地覆石

現在の東院堂(1285 年建立)は、1733 年に南向きから西向きにされたことが記録に見え、また現東院堂は奈良時代の尺度をもって建てられており、今回発見した建物跡は、奈良時代に創建された南向きの東院堂とみて柱間寸法等矛盾がない。

また、D2 区南端付近は中世以降、池状となり、何度か浚渫がなされたことが判明した。

なお、10 月 2 日には、調査成果についての報道発表をおこなった。

【実績値】
『薬師寺東院堂周辺の調査　平城第 457 次調査記者発表資料』2009.10.2
箱崎和久「薬師寺の調査」『奈文研ニュース』No.34　2009.12
箱崎和久ほか「薬師寺境内の発掘調査―第 457 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

【受託経費】
5,286 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8007

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 12-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 興福寺南大門跡(第 458 次)の発掘調査(受託)((1)-⑤-ア) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |

【スタッフ】

森川実、箱崎和久、馬場基、森先一貴、芝康次郎［以上、都城発掘調査部］、牛嶋茂、中村一郎［企画調整部］

【年度実績概要】

本受託事業は、興福寺南大門の全面的な発掘調査で、平城第 458 次調査にあたる。調査面積は約 774 ㎡で、調査期間は平成 21 年 7 月 13 日～12 月 22 日。調査の成果は多岐にわたるが、次のようにまとめられる。

①南大門の基壇および建物の規模を確定した。残存する地覆石から、基壇は東西 31.0×南北 16.7ｍと判明した。礎石とその抜取穴の配置から、門は 2 間×5 間、東西 23.1m、南北 9.0mに復元できる。また、基壇の上で金剛力士像の基礎 2 基を検出した。

②基壇外装の変遷を明らかにした。創建時(Ⅰ期)の地覆石は残存しないが、最初の改修(Ⅱ期)で地獄谷溶結凝灰岩の地覆石・羽目石＋玉石敷の雨落溝に、2 度目の改修(Ⅲ期)で花崗岩の地覆石・羽目石に、それぞれ変更されたことが判明した。花崗岩の地覆石・羽目石を撤去したのは明治時代のことであろう(Ⅳ期)。なお、基壇本体は明治時代以降に大きく削られており、その後、盛土によって土壇を復元したことが明らかとなった。

③創建時の鎮壇具を基壇中央で検出した。南都諸大寺の門では初の発見である。鎮壇具の容器は須恵器の広口壷で、この壷は埋納穴の中央部から正位で出土した。X 線写真および高エネルギーＸ線 CT 写真の撮影により、内容物は和同開珎、ガラス小玉などと判明したが、その後、室内で慎重に内容物を取り出した結果、魚骨や布の細片も検出した。

④基壇中央部における断割調査により、門造営以前の旧地形や、基壇の造営過程が判明した。門の東半分は谷にかかり、これを厚い整地層で埋めて平坦地を確保している。基壇の造営にあたっては掘込地業をおこない、丁寧な版築で基壇を築いていることが明らかになった。

なお、調査期間中に 2 度の記者発表をおこない、9 月 27 日には現地説明会を開催した。



調査区全景(東から)

【実績値】

論文等　：①森川実・箱崎和久・森先一貴・芝康次郎『興福寺　第 1 期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅴ』2010. 3、②森川実・箱崎和久・森先一貴・芝康次郎「興福寺南大門の調査―第 458 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)

発表　　：報道発表 2 回、現地説明会 1 回、2010 年出土銭貨報告会発表 1 回

出土品　：丸瓦・平瓦・軒瓦・道具瓦 55 箱、土器 15 箱

記録作成数：遺構図 57 枚、遺構写真 102 枚

【受託経費】

18,699 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8008

業務実績書(受託事業)

研究所 No 25-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | ＧＥＭによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー(受託)((2)-②) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 主任研究員　犬塚将英 |

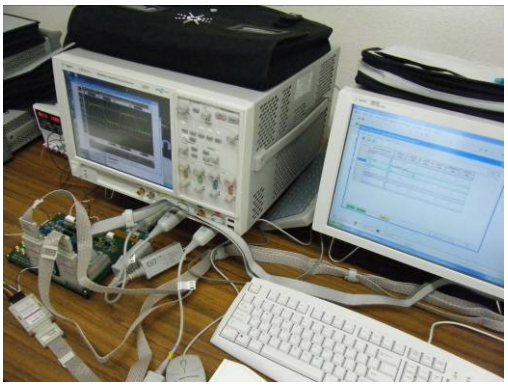
【スタッフ】

【年度実績概要】

修理方針を検討する等の目的のために行う文化財の科学調査では、Ｘ線透過撮影は内部構造を調べるための重要な手法のひとつである。しかし、建造物や塑像など、物質量が多く、移動が困難な文化財の調査を行うためには、従来の検出器よりも大面積をカバーし、エネルギーの高いガンマ線のようなエネルギー領域でも検出効率が高く、システム全体が可搬であることが望まれる。検出器の主要な部分にガス電子増幅フォイル(ＧＥＭ)を用いることによって、以上の要求を満たすような検出器を開発できると考えられる。

本受託事業では、超高感度ガンマ線センサーと信号読出部分である高密度実装システムＬＳＩを開発し、大面積かつ高精度なイメージングを実現することが目的である。

本年度は右の写真に示されているように、長崎総合科学大学にて開発された電化・時間同時計測ＬＳＩの評価実験を行った。また、読出基板、硬Ｘ線－電子コンバータ、放射線試験の方法に関する検討を行った。



試作を行った電荷・時間同時計測ＬＳＩの評価実験の様子

【実績値】

IEEE 国際学会 NSS/MIC 発表論文 2 ページ

【受託経費】

1,300,000 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8009

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 27-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 天良七堂遺跡の総合的調査(受託)((2)-③-イ) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長 小澤毅 |

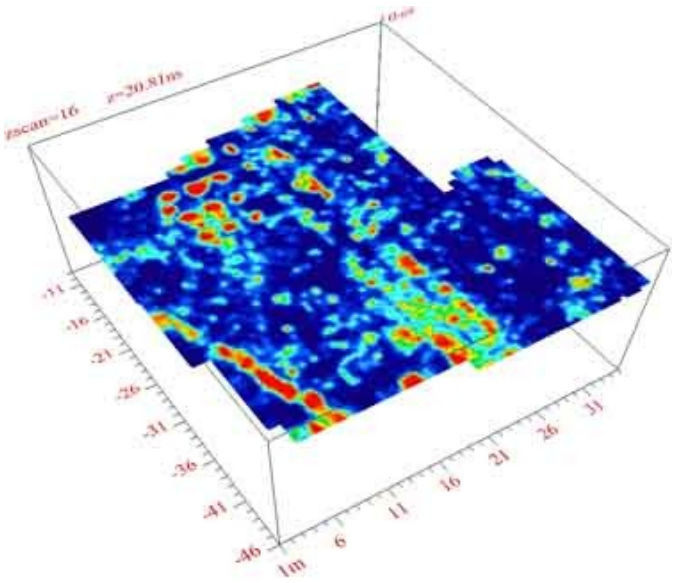
【スタッフ】
金田明大［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

【年度実績概要】

天良七堂遺跡は群馬県太田市に所在する古代の官衙遺跡であり、上野国新田郡衙に比定されている。近年、発掘調査が進められ、中心施設の構造や南面の区画施設が確認されている。

しかし、東西および北側の境界となる区画施設の存在は未確認で、遺跡の範囲の確定が必要とされた。このため、遺跡探査と小規模な発掘調査を組み合わせて範囲を確認することとなり、遺跡周囲の探査の有効性の検討とあわせて、受託研究を実施した。

探査手法は地中レーダー探査に絞り、良好な信号を獲得できる走査方法を検討した。これをもとに探査をおこなったところ、南側と北側の区画溝および総柱建物の存在を明らかにすることができた。後者は、発掘調査の結果、礎石建物であることが確認された。



地中レーダーによる総柱建物の確認

掘立柱建物の確認は、過去に九州地方での例があるが、昨年度に実施した水戸市台渡里遺跡の探査で、関東地方でも確認できることが判明している。今回、礎石建物についても良好な状況で確認することができた意義は大きい。また、探査の成功例としてだけでなく、探査技術の向上の点でも重要な調査となった。

【実績値】
探査距離：19,500m
探査地点：8 地点
概要報告作成：1 件

【受託経費】
1,135 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8010

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 27-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 胡桃館遺跡詳細分布調査(受託)((2)-③-イ) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長 小澤毅 |

【スタッフ】

金田明大［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

【年度実績概要】

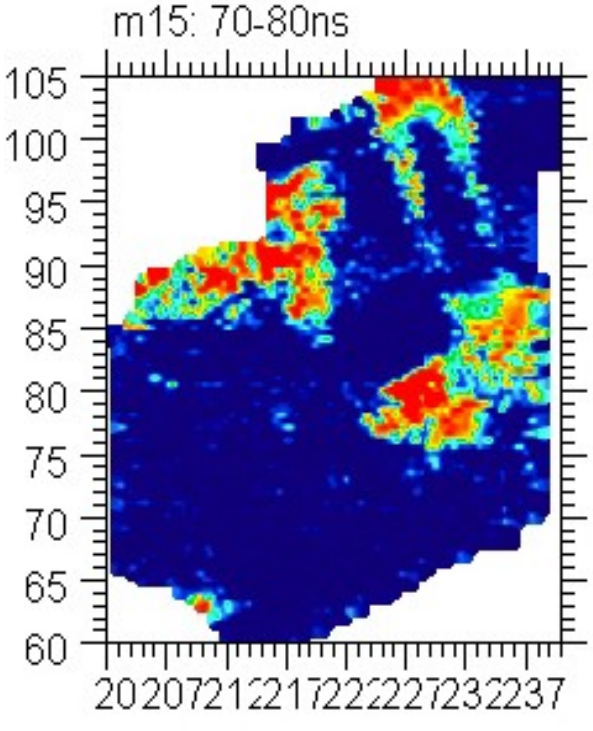
胡桃館遺跡(秋田県北秋田市)は平安時代の集落遺跡として著名であり、とくに十和田火山灰を噴出した土石流による埋没家屋の存在は、かねてより全国的に注目されている。

遺跡の調査にあたっている北秋田市教育委員会は、本研究所と連携して、出土文字資料および建築部材の調査を実施してきたが、遺跡の範囲や遺構配置が不明なため、物理的手法を用いた遺跡探査を実施することになった。

探査の対象となる範囲はきわめて広大であり、今回の探査で 3 年目となる。本年度は最終年度にあたり、残った部分の現地作業を実施した。

対象地の現在の地目は水田であり、表面に水が残る部分もあって、条件は必ずしも良好とはいえないが、建物の可能性がある部分を数ヵ所指摘することができた。今後の確認調査によって、レーダー反射の異常部の実態を把握することが期待される。

現状では、探査区域の西側には、遺構の可能性のある反応は少なく、物理探査は遺跡の範囲を確認するうえでも有用な情報を提供できるものと考える。




中レーダー反射の異常部の平面形状

【実績値】

探査距離：15,700m
探査地点：6 地点
概要報告作成：1 件

【受託経費】

1,179 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8011

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 27-3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 三軒屋遺跡総合的調査(受託)((2)-③-イ) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長 小澤毅 |

【スタッフ】
金田明大［埋蔵文化財センター］、西村康、西口和彦［以上、奈文研客員研究員］

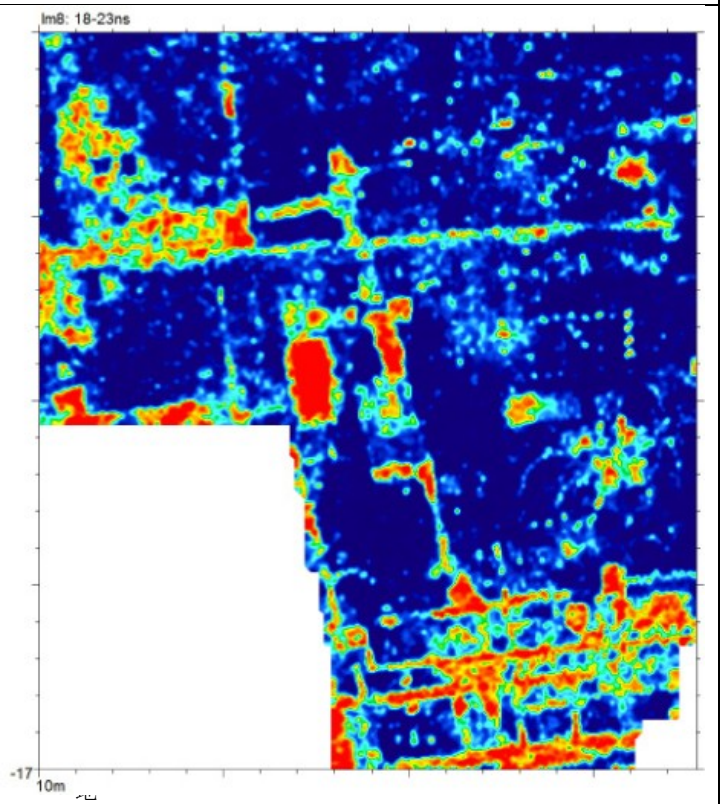
【年度実績概要】

三軒家遺跡は群馬県伊勢崎市に所在する古代の官衙遺跡であり、上野国佐位郡衙に比定されている。近年、発掘調査が進められ、上野国交替実録帳で「八面甲倉」と記載された八角形の総柱礎石建物の存在が明らかとなるなど、全国的にも注目度が高い遺跡である。

しかし、遺跡の範囲については、部分的な調査なため、推定にとどまっており、範囲の確定が必要とされた。このため、遺跡範囲の確認における物理探査の有効性の検討とあわせて、受託研究をおこなうこととなった。

探査手法は地中レーダー探査に絞り、天良七堂遺跡で得られた情報をもとに、新たな機材を開発して実施した。その結果、確認されていた八角形の礎石建物や建物群を探査でもとらえるとともに、八角形礎石建物の下層に想定されている前身建物の形状についても把握することができた。地表面からの深さごとに遺構の存在を明らかにしうる本手法の有効性を証明できた意義は大きい。

今後、遺跡探査の精度を高め、遺跡の保護に活用していくことが可能なことを示す事例であり、画期的な成果として特筆できる。




中レーダーによる八角形礎石建物(左上)と掘立柱建物

【実績値】
探査距離：35,000m
探査地点：6 地点
概要報告作成：1 件

【受託経費】
1,112 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8012

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 27-4

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4 文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 「発掘調査のてびき」作成(受託)((2)-③-イ) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 遺跡・調査技術研究室長　小澤毅 |

【スタッフ】

山中敏史、小林謙一［以上、奈文研客員研究員］、金田明大［埋蔵文化財センター］ほか

【年度実績概要】

『発掘調査の手引き』は 1966 年に文化庁文化財保護部から刊行され、数多く版を重ねてきたが、このたび約 40 年ぶりに全面改訂し、あらたな『発掘調査のてびき』を作成することとなった。前回と同様、文化庁の事業としておこない、まず『集落遺跡発掘編』(『集落遺跡・調査編』を改題)と『整理・報告書編』の 2 冊を同時に刊行することが決定している。当研究所は、文化庁の委託を受けて、上記 2 冊の作成作業の事務局と実際の編集作業全般を担当した。

本年度は、7 月と 1 月にそれぞれ 2 日間をあてて、奈良文化財研究所で 2 回の作成作業部会を開催した。前年度に引き続き、文化庁文化財部記念物課の担当者と地方公共団体等委員、奈良文化財研究所委員が一堂に会して、『集落遺跡発掘編』および『整理・報告書編』の構成と内容の検討ならびに初校の校正をおこなった。また、10 月には、東京で作成委員会を開催し、編集作業の進捗状況を報告するとともに、内容についての指導と助言を受けた。

『集落遺跡発掘編』『整理・報告書編』ともに、構成や内容についての細部修正と編集・レイアウトを終えた原稿を入稿し、3 回の校正をへて刊行することができた。

【実績値】

刊行物：2 冊(『発掘調査のてびき―集落遺跡発掘編―』、『発掘調査のてびき―整理・報告書編―』
作成作業部会開催件数：2 回
作成委員会開催件数：1 回
実績報告書：1 件

【受託経費】

6,787 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8013

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 29-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 東名遺跡出土動物遺存体調査(受託)((2)-⑤) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 環境考古学研究室長　松井章 |

【スタッフ】

永井理恵［京都大学大学院人間・環境学研究科博士前期課程］

【年度実績概要】

本年度は、これまでの分析結果をまとめて、発掘調査報告書を作成した。分析資料は、発掘時に目視によって採集した資料を主体とし、貝層と周辺の土壌を最小 1 ㎜目のフルイで水洗選別を行って採集した資料を含んでいる。報告した動物遺存体は、破片数にして 17,421 点を数え、そのうち属・種名や部位まで同定できたものは 10,070 点にのぼる。その内訳は、甲殻類 128 点、魚類 2,814 点、両生類 9 点、爬虫類 738 点、鳥類 40 点、哺乳類 6,341 点と、破片数比では哺乳類が大多数を占める。動物遺存体に認められる人為的な傷痕はイノシシ、ニホンジカに多く、骨の表面に打痕や創痕が観察できた例は 168 点、火を受けて変色した例が 148 点であった。また、多くの長管骨に螺旋状の打割痕がみられた。

当時の狩猟活動はイノシシ、ニホンジカを主体とし、タヌキ、ノウサギなど中・小型哺乳類の狩猟も盛んであったと推測される。また、山間部に生息するツキノワグマやカモシカ、平野部の遊水地帯、河川や有明海沿岸に生息するカワウソも捕らえていた。また、干潟や遊水地帯に飛来するツル科や、カモ科などの鳥類、さらには両生類のカエル類、爬虫類のスッポン、ヘビ類の利用も顕著である。東名遺跡の眼前に広がる有明海では、内湾から汽水域にかけては刺突漁によって大型のスズキ属、クロダイ属、ボラ科を主体に獲得し、干潟ではムツゴロウや小型のカニ類を、河川の下流域ではアユを漁獲していたことがわかった。

以上のように、東名遺跡では周辺に広がる干潟や河口、背後の平野や遊水地帯を利用しただけでなく、山岳地帯の動物に至るまで、さまざまな動物種を利用していたことが明らかとなった。なお、現在も水洗選別作業が継続されており、今後もそこで得られた動物遺存体について分析を行っていく予定である。



東名遺跡から出土した動物骨

【実績値】

発掘調査報告書にまとめた動物骨：17,421 点

【受託経費】

516 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8014

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No32-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 国指定史跡・大分元町石仏劣化状態記録事業(受託)((3)-③) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】
森井順之(保存修復科学センター)

【年度実績概要】
史跡・大分元町石仏では平成 8 年まで修理事業が行われたが、現在も塩類析出が多く観測されており、その結果表面の粉状化・崩落が進行している。東京文化財研究所では、本石仏の劣化状況を追跡する為に大分市より本研究を受託した。

具体的には、①現在磨崖仏表面に積もっている粉状物質などを除去、②デジタルスチルカメラ間欠撮影による表面状態監視、③崖面およびコンクリート土間における蒸発量の観測を実施した。その結果、コンクリート土間の影響により地面からの蒸発が抑制されておりそれが磨崖仏表面からの塩類析出を促進していることが確認された。



表面粉状物質の除去作業

【実績値】
受託研究報告書　1 件

【受託経費】
575,000 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8015

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No32-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 熊野磨崖仏地衣類除去委託事業(受託)((3)-③) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】
森井順之(保存修復科学センター)

【年度実績概要】

重要文化財及び史跡・熊野磨崖仏では、磨崖仏表面に着生する生物繁茂、特に淡黄色地衣類の繁茂が鑑賞阻害の要因となっている。熊野磨崖仏の所有者・管理者は、これら着生生物の除去を強く求めており、平成21年度の文化庁補助事業で進めることとなった。

熊野磨崖仏は像高が約6．7mと巨大なため、薬剤による手法では周辺環境への影響が強く、物理除去は表面状態が脆弱なため積極的に採用できない。東京文化財研究所では、着生生物を安全に除去するために紫外線殺菌灯照射を用いた手法を開発しており、熊野磨崖仏に本手法を採用することとなった。

除去事業は大日如来像を対象に行われ、①足場設置、②紫外線殺菌灯照射、③クリーニング、④撥水剤塗布の工程で進められ、磨崖仏表面の損傷なしに着生生物を除去できた。



殺菌灯照射

【実績値】
受託研究報告書　1件

【受託経費】
16,740,550円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8016

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No32-3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 国史跡高瀬石仏保存施設設計業務(受託)((3)-③) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】
森井順之(保存修復科学センター)

【年度実績概要】
史跡・大分高瀬石仏は現在、仏龕天井部の剥離や表面の藍藻類繁茂が保存上の問題となっている。管理者である大分市は「史跡・大分高瀬石仏調査委員会」を設置し、委員会は覆屋の建設を決定し、その設計を東京文化財研究所で受託した。

覆屋設計にあたっては、今まで東京文化財研究所の指導助言により劣化状態調査を進めた。結果、①高瀬石仏周辺の風は比較的弱く雨の吹き込みが少ないこと(微気象観測)、②晴天時に仏龕左側に直達光が差し込むこと(デジタルカメラ間欠撮影)、③直達光が当たる部分において劣化進行が著しいこと等が明らかになり、庇状覆屋の設計に生かす事が出来た。

【実績値】
受託研究報告書　1 件

【受託経費】
920,000 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8017

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

【年度実績概要】
奈良文化財研究所では、長野県中野市柳沢遺跡で出土した銅鐸を良好な状態で保存するため、種々の事前調査を通して、適切な保存修理をおこなうための受託研究を実施している。本年度は、銅鐸 3 鐸について事前調査と保存修理をおこなった。銅鐸の事前調査では、X線透過撮影、蛍光X線元素分析、精密化学分析をおこない、遺物の現状・材質を詳細に調査した。そして、これらの調査結果にもとづいて適切な保存修理を策定し、保存修理を実施した。また、4 号銅鐸の展示台を作製した。事前調査および保存修理に関する経過ならびに成果については、本年度の年度実績報告書を作成し、報告をおこなった。



柳沢遺跡出土銅鐸(左から 3 号銅鐸、4 号銅鐸、5 号銅鐸)

【実績値】
報告書作成：1 件

【受託経費】
3,000 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8018

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 藍住町出土布の保存調査(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

【年度実績概要】

徳島県藍住町勝瑞城跡より出土した布片の材質分析をおこなったうえで、適切な保存処理を実施した。

顕微鏡観察とフーリエ変換赤外分光分析の結果より、植物性の繊維を織り糸とした平織り構造を有する布で、付着している黒色物質は漆であることが明らかとなった。布片は絞られた形状をしており、さらにその両端部には棒状のものを差し込んだ形跡が残っていることから、漆を濾した布と考えることができる。

漆布片という遺物の質感を保持しつつ、安定した状態にするため、40%高級アルコール含浸後に真空凍結乾燥をおこなった。その結果、きわめて良好な状態にすることができた。




布片の織構造



布片の X 線透過撮影像

【実績値】

報告書作成：1 件

【受託経費】

310 千円

【受託】
(様式 3)

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8019

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 史跡ガランドヤ古墳石室石材劣化調査(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

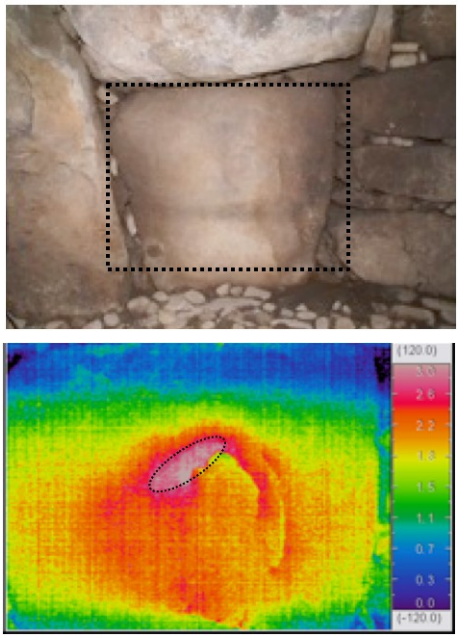
【スタッフ】
降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

【年度実績概要】

大分県日田市に所在する史跡ガランドヤ古墳は、玄室奥壁などに赤色や緑色の顔料で装飾が施されている。これらの石材表面には、石材の劣化によると思われる石材表面の剥離が生じており、装飾の保存が危惧される。そこで、本受託調査研究では石材表面剥離の修理に備え、これらの剥離箇所を検出することを目的とした調査を実施した。

剥離箇所の中には装飾が施された箇所もあるため、調査は非破壊的手法の 1 つであるサーモグラフィによる異状箇所の検出法によりおこなった。本調査法は、熱源により石材表面を穏やかに温めた後、石材表面温度の降下速度を面的に測定するものである。内部に空気が存在する剥離箇所では、健全部と比較して熱伝導率が低いため、表面温度の降下速度が緩やかであり、温度異状箇所として検出しうる。

調査の結果、目視試験や打音試験の実施が困難な高所や装飾箇所において、石材表面の剥離箇所を非破壊的手法により検出することができた。今後は、石材の劣化を引き起こす要因を明らかにするとともに、その対策について検討をおこなう必要がある。



熱画像により検出された剥離箇所

【実績値】
報告書作成：1 件

【受託経費】
1,011 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8020

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-4

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 史跡加賀藩主前田家墓所石造物保存対策調査(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

【年度実績概要】

金沢市に位置する史跡加賀藩主前田家墓所には、笏谷石と呼ばれる凝灰岩や戸室石と呼ばれる安山岩を用いてつくられた石塔や石廟などの石造物が多数存在する。これらの中には、石材の劣化により石材表層が剥離して失われているものや、平成 19 年におきた能登半島地震によって、石材が落下するなど、構造的に不安定となっているものが多数存在する。本受託調査研究では、とくに緊急を要するものとして、石廟、石塔、灯籠と地蔵計 12 点を選び、劣化状態の把握および劣化要因の推定をおこなうための調査を実施した。



初代七女千世墓石廟。地震による石材の落下や基礎部分の石材の割れが認められ、構造的に不安定な状態にある。

調査の結果、底部ほど石材の含水比が高い状態にあり、かつ打撃試験から推測される一軸圧縮強度も底部の石材ほど低いことが明らかとなった。また、石廟のような構造物では、基礎部分の石材に割れが認められ、その上部の石材の構造が不安定となっていることが判明した。

これらの結果から、石廟などの構造物では石材の積み直しをおこない、構造的な安定性を回復することが必要であると考えられる。また、石材含水比と一軸圧縮強度に相関が認められたことから、石材の劣化に水が寄与しているものと推察される。したがって、土中に涵養された水と石造物の基礎部の間で縁を断つなど、環境を改善する必要が認められる。

【実績値】

報告書作成：1 件

【受託経費】

501 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8021

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-5

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存修理(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

【年度実績概要】

奈良県黒塚古墳より出土した遺物は、国の重要文化財に指定されている。このうち、青銅鏡はすでに保存処理が終了しているが、鉄製品についてはまだ保存修理がなされていない。奈良文化財研究所では、平成 19 年度から同古墳出土の鉄製品の事前調査ならびに保存修理を受託している。

保存修理のための事前調査では、実体顕微鏡観察、Ｘ線透過撮影、Ｘ線ＣＴスキャンなどの観察調査をおこない、鉄製品に付着している有機質由来の痕跡を確認した。とくに、甲冑の小札には獣毛などの痕跡を確認することができた。このほかにも、多くの遺物の表面に布などの繊維製品の痕跡が存在することが明らかとなり、そうした痕跡について詳細な調査を進めた。その結果、鉄製品の保存修理に際して、有機質由来の遺物痕跡に関する新たな知見を数多く得ることができた。

保存修理にあたっては、これらの繊維痕跡の情報を欠失しないよう、実体顕微鏡下において慎重にクリーニングを実施し、アクリル樹脂含浸などにより安定化を図った。また、保存修理において遺物を安定した状態で保持するための支持台も作製した。



黒塚古墳出土 Y 字形鉄製品

【実績値】

報告書作成：1 件

【受託経費】

20,898 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8022

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 34-6

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 矢本横穴墓群出土琥珀玉の材質分析(受託)((3)-④) | | |
| 【担当部課】 | 埋蔵文化財センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

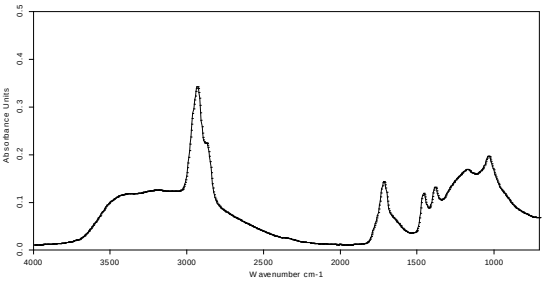
【スタッフ】

降幡順子［都城発掘調査部］、脇谷草一郎［埋蔵文化財センター］、田村朋美［企画調整部］

佐藤昌憲[客員研究員]、赤田昌倫[京都工芸繊維大学]

【年度実績概要】

矢本横穴墓群より出土した琥珀玉の産地を推定するための基礎データを得ることを目的に、フーリエ変換赤外分光分析法(FT-IR)および熱分解ガスクロマトグラフィ質量分析法(Py-GC-MS)により分析をおこなった。FT-IR 分析では 1 点を除いて久慈・いわき産の琥珀が示す赤外分光スペクトルときわめて類似したスペクトルを示した。一方、Py-GC-MS による分析により得られたマスクロマトグラムから、すべての琥珀玉が久慈・いわき産であると推定された。FT-IR 法および Py-GC-MS 法ともに、琥珀の産地を推定する方法としてある程度の有効性をもつものの、検討すべき課題は多く、今回の分析調査により、同一資料から両者のデータを得ることができたことはきわめて意義深い。




琥珀玉の FT-IR スペクトル

【実績値】

報告書作成：1 件

【受託経費】

460 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8023

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 38-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 劣化レコード盤の保存修復事業(受託)((3)-⑥) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 近代文化遺産研究室長　中山俊介 |

【スタッフ】
川野邊　渉(保存修復科学センター)

【年度実績概要】
本事業で保存修復作業を実施したレコード盤は、昭和 27 年に録音されたレコード盤であり、アルミ製の円盤に、硝化綿を貼付けた物に録音された物である。経年劣化により、アルミ盤から硝化綿が収縮、剥離しており、その硝化綿の部分の張り戻しを行い再生可能な状態として、デジタル化を行う目的で作業を実施した。
収縮し剥離した硝化綿を張り戻す材料を何にするのか、また、張り戻した後、収縮した硝化綿の隙間部分をどのようにして埋めて再生に支障が出ない様に出来るのか、いくつかの材料について、検討し、最適と思われる材料を使用して張り戻し及び隙間埋めを実施した。
実際に作業に使用したレコード盤は、赤阪鉄工所より持ち込まれたレコード盤ではなく、当所が収蔵していた、同様のレコード盤を使って張り戻し作業を行った。
赤阪鉄工所から持ち込まれたレコード盤についても張り戻しを試みたが、剥離した部分が相当数に上り、中には粉状になってしまっている物も多数存在し、元の位置に張り戻す事が不可能であったため、残念ながらすべてを再生するには至らなかった。
ただし、当所が保存していたレコード盤については、張り戻し作業を行い、再生まで試みたが隙間埋めがうまく行かず、貼り戻した部分は再生ができなかった。
最終的に、貼り戻すことでレコード盤を取り扱うには困らない程度には修復できたが、それ以上は無理であった。
張り戻したレコード盤の再生に関しては、通常のレコードプレーヤーを改造した物を使用している。

【実績値】
受託事業報告書　1 件
本事業は赤阪鐵工所から依頼

【受託経費】
293,422 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8024

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 38-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 根津美術館所蔵　清潮時計(4 基)修復(受託)((3)-⑥) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 近代文化遺産研究室長　中山俊介 |

【スタッフ】
川野邊　渉(保存修復科学センター)、山下吉彦(修復家)

【年度実績概要】
この清朝時計(4 基)は、清朝において乾隆帝の頃を最盛期に宮廷で収集された洋時計と同類の奏楽時計である。多くはヨーロッパ製であるが、広東あたりで作られた中国製の時計もあるという。この種の洋時計を先に奏楽時計と呼んだが、それはこれらの多くが機械仕掛けのからくりやカリオンによる奏楽を伴っているためである。本作品群も全てからくりとカリオンを備えている。清朝時計が日本に伝世した例は少なく、初代根津嘉一郎氏が入手した経緯や来歴は未詳であるが、根津美術館の本収蔵品は希少かつ貴重な資料である。しかし、近年では経年変化により金属や七宝、絵画などの装飾部分に劣化が認められ、さらに長年にわたる塵埃の堆積による表面の汚染が深刻な状態であった。また、過去の修理も作品の美観を損ねていた。このたび改築後の根津美術館に展示するため、再開館を前に修復を行うことになった。今回の修復では、塵埃を除去し、過去の修理部分を旧に復したうえで可塑性のある材料で修復することとした。

【実績値】
受託事業報告書　1 件
本事業は根津美術館から依頼

【受託経費】
1,059,148 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8025

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 39-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務(受託)((4)-①) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

【スタッフ】

佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英、川野邊　渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、間渕　創、坪倉早智子(以上、客員研究員)

【年度実績概要】

高松塚古墳は平成 19 年に解体が行われ、現在壁画は保存修理施設において保管されている。そして古墳壁画を取り巻く温湿度環境が適切に保たれているかを監視するために、温湿度測定を継続してきた。さらに今年度は、春と秋の二度にわたり、保存修理施設の一般公開が行われた。一般公開期間中も古墳壁画を取り巻く温湿度環境に影響がなかったことを測定結果から確認した。

昨年度に引き続き、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天 2 の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外のすべての項目について、透明シートへの描き込みを完了した。天 2・白虎・西男子・玄武については脆弱化した漆喰層の 1 度目の強化を常温水出し布海苔水溶液を用いて行い、完了した。東女子については、昨年度中に 1 度目の強化を終えており、今年度は無地場の黒かび及びバイオフィルムによる汚れの除去及び漂白を次亜塩素酸ナトリウム溶液にて行った。また、より適切な処置方法を検討するために、模擬漆喰を用いた実験を行い、作業道具の作成・改良も行った。これらの作業についての記録、資料整理も随時行っている。

高松塚古墳壁画の劣化要因の解明のために墳丘部の地震解析を行い、墳丘部の割れ目が地震により生ずる過程および石室の石材に加わる応力解析に関するシミュレーションを行った。

文化庁による高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会に提出すべき基礎データとして、今年度は、主に以下の項目の調査を実施した。

・最近の壁画の微生物汚染の原因となった微生物の詳細な調査
・微生物の生理的性質などを含む生物学的特徴(Bio-profile)の調査

【実績値】

【受託経費】

45,804,340 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8026

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 39-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 特別史跡キトラ古墳保存対策等調査(受託)((4)-①) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

【スタッフ】

佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、川野邊　渉、中山俊介、北野信彦、早川典子、森井順之、加藤雅人(以上、保存修復科学センター)、間渕　創、坪倉早智子(以上、客員研究員)

【年度実績概要】

小前室の空調設定を 11℃として連続運転している。石室内は 95%RH 以上、小前室は 90%RH 以上という高湿度に保たれている。空調系およびセンサー類(雨量計、風向風速計、温度湿度センサー数点)の更新は平成 22 年 3 月に行った。

5 月 11 日～6 月 4 日、10 月 19 日～11 月 6 日、11 月 16 日～12 月 4 日の 3 期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。ヘラ、ダイヤモンド・ワイヤーソーを使用して天井の漆喰をすべて取り外し終え、北壁・東壁・西壁の取り外しにも着手した。集中取り外し期間中で作業のない土曜日・日曜日、及び取り外し期間外は石室内に紫外線灯を設置し、週に 1 回のカビ点検を行った。

これまでに取り外した漆喰片については随時経過観察と処置を行った。「青龍」については平成 21 年 5 月の公開のための額装を完成させ、平成 22 年度の公開に向けて「朱雀」の処置を行った。また、剥ぎ取った天文図漆喰片の適切な処置方法を検討するために模擬漆喰を作成して実験を行い、作業台の検討・製作を行った。これらの作業についての記録、資料整理も随時行った。

キトラ古墳においては、平成 20 年に目視で確認される範囲の側壁の絵画部分、また天井の星宿図の取り外し作業が完了したことを受け、平成 21 年以降は、微生物対策について従来とは異なる方法を検討した。

有機物を残留させない方法である殺菌灯による紫外線(UV)の間欠的照射、およびカビなどを除去する際に低濃度(1000 ppm 程度)の次亜塩素酸ナトリウム溶液を使用する方法について、殺菌効果試験を実施して検討を行った結果、平成 21 年 3 月 9 日の古墳壁画保存活用検討会(第 4 回)にて、これらの方法が了承された。取り外しについては、従来継続的に行われていた作業が、年に 2 回の集中作業に変更され、また人が入らない間の微生物対策については、紫外線殺菌灯を間欠的に照射する方式に切り替えられた。

その結果、現在のところ、カビなどの大発生にはいたっておらず、おおむね石室内は良好な状況にはあるが、紫外線や次亜塩素酸にも耐性の強い *Burgoa* sp. の菌などの繁殖が目立ってくるような場合は、物理的な除去も併用する必要があると考えられる。

小前室については、従来通り、ポリシロキサン樹脂によるメンテナンスを実施した。

【実績値】

【受託経費】

39,837,295 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8027

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 40-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等(受託)((4)-①) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |

【スタッフ】

廣瀬覚、青木敬、降幡順子、玉田芳英、若杉智宏、石田由紀子、辻本与志一、脇谷草一郎、高妻洋成、井上直夫、岡田愛、肥塚隆保(以上、奈文研)、石崎武志、早川泰典、吉田直人、佐野千絵、三浦定俊(以上、東京文化財研究所)、青柳泰介、岡林孝作(奈良県立橿原考古学研究所)、水野敏典(奈良県教育委員会)、相原嘉之(明日香村教育委員会)

【年度実績概要】

平成 20 年度に引き続き、高松塚古墳仮整備に伴う発掘調査を行うとともに、合わせて平成 18・19 年度に実施した石室解体事業に係る発掘調査の成果、出土資料・記録類の整理作業、石室石材の修理と安全な拘束の実施、安置法の検討、および壁画の保存修復(劣化原因)に関する分析調査を進めた。

発掘調査は、保存施設 1 階(機械室)が仮整備に伴い撤去されたことをうけて、同施設設置部分の約 80 ㎡を調査し、必要となる記録類を収集・作成した(写真、3D 計測、図面作成、土層剥ぎ取り等)。壁面を中心とする調査により、古墳築造に伴う基礎造成や旧地形のあり方が明らかとなり、これまでの調査成果と整合させることで、古墳構築過程の全容を把握することが可能になった。出土遺物としては、後世の堆積層から中世の瓦・瓦器片、古墳築造以前の整地土層から 7 世紀代の土師器・須恵器片、榛原石等が出土した。

石室解体および仮整備に係る発掘調査のデータ整理・分析、記録作成としては、版築の地割れ痕跡レプリカ作成(3 面)、墓道部および旧発掘区壁面土層剥ぎ取りパネル作成(2 面)、石室解体調査時のビデオ記録の作成(30 分バージョン)、遺構実測図のデジタルトレース、写真測量・3 次元計測データの編集と作図、出土遺物の整理(土器・瓦・ガラス小玉等)、取り上げ版築層の樹脂強化処置、墳丘下整地土内出土炭化物の同定と年代測定等を実施した。

石室石材の修理と安全な拘束の実施としては、解体時に遊離した石材の接合処理を天井石(4 石)について実施した。また天井石 3 は、北側面から東側面にかけてブロック状に断裂しており、解体時に用いた拘束具により固定されていたが、より安全に拘束するためのフレームを新たに作製し、拘束をおこなった。さらに安置法についての検討をおこなった。



デジタルアーカイブ用スキャナ
(壁画面；女子群像の実施風景)

壁画の保存修復に関する分析調査としては、今後の経年変化の基礎データとして用いるために、改造したデジタルアーカイブ用スキャナを使用して、壁画面(9 面)の高精細データを取得した。さらに赤外画像をスキャンできるようにスキャナヘッドの改造をおこなった。また劣化原因調査のための材料調査としては、壁画上での分析調査時に利用する機器固定用ステージの改良をおこない、デジタルカメラ撮影、蛍光Ｘ線分析、分光分析を実施し、描線を覆う物質の存在や鉛の面的な分布状況などを示すことができた。漆喰の分析調査では、目地漆喰の微量元素分析、偏光顕微鏡観察、電子顕微鏡観察をおこない、これらの分析調査結果については高松塚古墳劣化原因調査検討会にて報告した。

以上の作業を踏まえて、『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』資料編の執筆、編集を行った。

【実績値】

論文等数 1 件(①)

①廣瀬覚「高松塚古墳の発掘調査－飛鳥藤原 154 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6

研究発表数 5 件(②～⑤)

②肥塚隆保他「高松塚古墳壁画の材料調査(1)」日本文化財科学会、2009.7

③降幡順子他「携帯型蛍光Ｘ線分析法による高松塚古墳壁画漆喰に関する調査」東アジア文化遺産保存学会、2009.10

④吉田直人他「高松塚古墳壁画の材料調査(2)観察手法による白虎および青龍の表面状態の調査」日本文化財科学会、2009.7

⑤早川泰弘他「高松塚古墳壁画の材料調査(3)蛍光Ｘ線分析法による白虎・青龍の下地漆喰に関する調査」日本文化財科学会、2009.7

⑥石崎武志他「高松塚古墳墳丘部の地震影響に関する動的解析」日本文化財科学会、2009.7

出土品　　土器片コンテナ 1 箱、平瓦 1 点、榛原石 1 点

記録作成　　実測図(調査原図 16 枚、報告書掲載図 45 面)、写真(4×5)88 枚

【受託経費】

104,970 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8028

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 40-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 特別史跡キトラ古墳における保存・活用等調査(受託)((4)-①) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |

【スタッフ】

玉田芳英、石田由紀子、豊島直博、木村理恵、降幡順子[以上、都城発掘調査部]、井上直夫、中村一郎、岡田愛[以上、企画調整部]、加藤真二、丹羽崇文、成田聖[以上、飛鳥資料館]

【年度実績概要】

都城発掘調査部では、特別史跡キトラ古墳の発掘調査により出土した遺物に対しての遺物の整理作業、保存処理、分析調査および展示活用のための作業をおこなった。

古墳より出土した金属製遺物の保存処理としては、キトラ古墳の石室内および石室外より出土した小片 43 点についての透過 X 線撮影などの構造調査を実施した。金属片のうち、銅・金銅・銀製品については、非破壊分析による蛍光X線分析をおこない、材質に関する基礎データの取得をおこなった。各金属片は顕微鏡下にて付着土壌のクリーニングをし、その後、アクリル樹脂による強化処理をおこなった。銅・金銅製品については安定化処理を実施し、その後アクリル樹脂による強化処理をおこなった。処理後の遺物は保存剤・ガスバリアフィルムを用いて、腐食性ガスや酸素、水分の影響を低くした環境をつくりその中で保管している。

分析調査としては、石室内で出土した直径が約 1mm、緑色を呈する微小鉛ガラスに関して微量成分分析を実施した。現在このガラス製品は用途などが不明であるため、含まれる微量元素の化学組成についての特徴を明確にし、今後の研究に有用なデータの獲得をおこなった。

展示活用としては、キトラ古墳壁画のハイビジョン 3DCG ナレーションの吹き込み作業(日本語版)を、ショートバージョンおよびロングバージョンの 2 種類について実施し、今後の展示などに有効活用できる映像ビデオの作成をおこなった。

飛鳥資料館では特別公開「青龍白虎」展に際し、展示・保管環境における温室のモニタリング調査を実施した。



顕微鏡下でのクリーニング
(金銅製品について、顕微鏡で表面を観察しつつ、筆を用いて付着している土壌を除去していく)

【実績値】

論文等数 1 件(①)

①松村惠司・玉田芳英・廣瀬 覚「高松塚古墳とキトラ古墳」『遺跡学研究』第 6 号、2009.11

制作物 2 件(②③)

②奈良文化財研究所「ブルーレイハイビジョンディスク　キトラ古墳壁画 2004」(日本語吹込版)2010.3

③フォトマップ縮小(1：3)パネル作製　2009.11

出土遺物保存処理件数　　43 点

【受託経費】

24,968 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8029

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 41-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 4　文化財に関する調査及び研究の推進 | | |
| 【事業名称】 | 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査(受託)((4)-②) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(藤原) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部副部長 深澤芳樹 |

【スタッフ】

黒坂貴裕、次山 淳、木村 理恵、小田裕樹、石田由紀子、加藤雅士、若杉智宏、山本 崇、青木 敬、豊島直博、高橋知奈津、庄田慎矢、玉田芳英、高田貫太、番 光、[以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]、井上直夫、岡田 愛 [以上、企画調整部]

【年度実績概要】

本調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備事業に関わる事前調査である。調査地は、明日香村南西部の丘陵上に位置し、この丘陵には、渡来系氏族である東漢氏の氏寺と考えられる檜隈寺が所在する。今年度は、昨年度の試掘調査の成果をもとに、檜隈寺北側の丘陵東裾部に 5 ヶ所(第 1～5 調査区)、講堂の北西約 25mの地点に 1 ヶ所(第 6 調査区)の調査区を設け、発掘調査を実施した。調査期間は 2009 年 4 月 22 日～2010 年 3 月 3 日。調査面積は計 1222 ㎡である。

第 1～5 調査区では、掘立柱建物 7 棟、掘立柱塀 6 条、素掘り溝 1 条、柱穴列 2 組、炭の入る焼成遺構 2 基、土坑 1 基を検出した。これらの掘立柱建物や掘立柱塀は、柱筋の方向や出土遺物の年代観から、檜隈寺の中心伽藍と同様の時期に造営された建物群であると判断できる。これらの遺構を確認したことで、丘陵裾部にも檜隈寺の関連施設が存在していたことが明らかとなり、丘陵全体を利用し寺院地を形成していたことが確認できた。

中心伽藍から北西 25m地点に設定した第 6 調査区では、石組のＬ字形カマドをもつ竪穴住居を検出した。Ｌ字形カマドは渡来系のカマドと考えられており、渡来系氏族の寺である檜隈寺の特徴をさらに際立たせる遺構である。全国的に見た L 字形カマドの存在時期と今回の竪穴住居から出土した土器・瓦の年代観から、この竪穴住居は 7 世紀前半から中頃までのものと判断できた。石組の L 字形カマドとしては、国内最古の例となった。



第 6 調査区　竪穴住居（南から）

今年度の調査では、檜隈寺の伽藍全体の具体的様相が明らかになったこと、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する遺構を検出したこと、これまで手掛かりが少なかった 7 世紀前半から中頃までの遺構を検出したことなどの成果を上げ、報道発表や論文などで積極的に成果の公開をおこなった。

【実績値】

論文等数 3 件(論文 1 件①、その他 2 件②③)

①若杉智宏・黒坂貴裕・加藤雅士・高田寛太・小田裕樹「檜隈寺周辺の調査－飛鳥藤原第 159 次」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010.6(予定)

②黒坂貴裕「檜隈寺周辺の調査(飛鳥藤原第 159 次)」『奈文研ニュース』No.35、2009.12

③若杉智宏「檜隈寺周辺の調査(飛鳥･藤原 159 次)」『奈文研ニュース No.36』2010.3

発表件数 1 件(報道発表 1 件④)

④奈良文化財研究所都城発掘調査部「キトラ古墳周辺地区(檜隈寺)の発掘調査 飛鳥・藤原第 159 次調査 第 6 区検出の竪穴建物遺構について―記者発表資料」2009.9

出土遺物　　軒瓦 22 点、丸平瓦 56 箱、土器 77 箱、金属製品 20 箱、石製品 3 点、石材 1 点など

記録作成数　遺構実測図 97 枚、写真(4×5)132 枚

【受託経費】

22,618 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8030

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 47-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | ユネスコ／バーミヤーン遺跡の保護プロジェクト(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 地域環境研究室長　山内和也 |

【スタッフ】

清水真一、有村　誠、影山悦子、邊牟木尚美、島津美子、鈴木　環、廣野　幸(以上、文化遺産国際協力センター)、前田耕作、谷口陽子、西山伸一、岩井俊平(以上、客員研究員)、井上和人、森本　晋、石村　智、脇谷草一郎(以上、奈良文化財研究所)

【年度実績概要】

文化遺産国際協力センターは、2004 年より、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バーミヤーン遺跡保存事業」に参画し、バーミヤーンの文化遺産保護のために様々な活動を行ってきた。本年度は、バーミヤーンへの第 9 次ミッションの派遣、日本国内におけるアフガニスタンの考古学専門家の人材育成・技術移転を実施した。

①第 9 次ミッション

ユネスコ・カーブル事務所やアフガニスタン情報文化省の協力の下、「バーミヤーン遺跡の保存事業」の第 9 次ミッションを 6／23～7／9 にかけて派遣した。このミッションの目的は、1)第 8 次ミッションまでに保存修復処置を行った石窟壁画の状態調査、2)これまでの調査で得られた壁画片や考古遺物の保管庫への移送、3)放射性炭素年代測定に供する試料の追加採取、などの調査活動を実施することであった。2007 年の第 8 次ミッション以来、1 年間現地ミッションを休止しての今ミッションであったが、これまでの成果の確認、バーミヤーン遺跡の現状の把握、来年度以降の事業計画の立案などを行いつつ、予定していた活動を終えることができた。

②考古学専門家の人材育成・技術移転

アフガニスタン考古学研究所より研究員 1 名を招へいし、7／22～12／11 にかけて、東京文化財研究所(7／22～8／14、9／17～9／18、12／1～12／11)、静岡県埋蔵文化財調査研究所(8／17～9／4)、奈良文化財研究所(9／24～11／30)において考古学調査・研究に関する研修を実施した。これらの研修では、フィールド調査で必要な発掘、測量、写真撮影の方法や最新の光学機器の使用方法、また発掘後の室内作業として、遺物の洗浄、注記、実測・拓本、などが指導された。それぞれの機関で、共通した研修内容を繰り返し指導することで、研修生の研修内容に対する理解と習熟度は高めることができた。研修の最後には、アフガニスタンの考古学事情や研修内容を発表する「アフガニスタン人考古学専門家による研修成果報告会」を実施した。

【実績値】

報告会 1 回：「アフガニスタン人考古学専門家による研修成果報告会」2009.12.9

報告書 1 件：Final Report for UNESCO Japanese Funds-in-Trust Project “Safeguarding of the Bamiyan World Heritage site 2009”　2009.12

【受託経費】

70,000USD

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8031

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | ユネスコ／インドネシア西スマトラ地震により被災した文化遺産緊急支援(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

秋枝ユミイザベル(文化遺産国際協力センター)、武内正和(文化庁)、布野修二(滋賀県立大学)、竹内　泰(宮城大学)

【年度実績概要】

本受託事業は、インドネシア政府およびユネスコからの要請に基づき、2009 年 9 月 30 日に発生した西スマトラ州地震において被災したインドネシア共和国西スマトラ州パダンの文化遺産に対する被災状況調査をおこなうものである。ユネスコは、地震により被災した博物館、写本、歴史的建造物、町並みに関する被災状況調査をインドネシア人専門家養成の枠組みのなかで実施する計画をたてた。本事業で実施した歴史的建造物および町並みに関する調査報告はその一環であり、報告書は既にユネスコに対し提出している。ユネスコは英国に依頼した博物館における調査結果と統合して、総合報告書“Assessment Report and Recommendations for Action Plan for the Rehabilitation of Earthquake-affected Cultural Heritage in West Sumatra, Indonesia”(UNESCO, 2010) を刊行し、インドネシア政府に提出する予定である。

平成 21 年 11 月に実施した本調査は、歴史的建造物調査および都市計画調査の 2 班に分けておこなった。歴史的建造物調査では、インドネシア政府により登録されている 73 件の文化遺産のうち、57 件について調書をとることができた。調書では登録建造物の被災状況の概要と被害の拡大をもたらした要因について、地盤・基礎、煉瓦造建造物、鉄筋コンクリート造、鉄骨造についての考察を行い、それら考察をもとに歴史的建造物の復旧修理について基本的な考え方と方針を示した。都市計画調査においては、パダンのこれまでの歴史的都市変遷を踏まえたうえで、歴史的都市景観がのこる旧市街の 4 つの地域を対象に 852 軒の調査を実施し、被災した建造物の役割を都市景観の観点から分析することで、パダンの歴史的都市景観の復興への提言を示すことができた。最終的には建造物調査と都市計画調査の成果を統合し、復興に向けての指針と、行動計画の緊急対策と中長期計画について提言を行った。



被災した町並みの歴史的建造物

【実績値】

調査票：建造物 55 枚、都市計画 12 枚

実測野帳：70 点、デジタル写真 5, 650 点。

[報告書]Damage Assessment report of Cultural Heritage in West Sumatra、December 2009、National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo

【受託経費】

20,000 USD

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8032

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | 文化遺産国際協力コンソーシアム事業(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

豊島久乃、田代亜紀子、七海由美子、原本知実、原田　怜、土居香奈子、小角由子(以上、文化遺産国際協力センター)佐藤桂(客員研究員)

【年度実績概要】

文化遺産国際協力に係わる諸課題について議論するための分科会を計 14 回、専門家会合を計 3 回開催すると共に、会員間の情報共有を促進するための場として研究会を 2 回開催した。コンソーシアム活動を広報するために、12 月には、一般市民向けの公開シンポジウムを行ったほか、国際協力事業を紹介する冊子の作成、公式ウェブサイトのデータ追加を行った。さらに、モンゴル、ベトナムへの調査団等派遣支援を行ったほか、諸国国際協力体制調査としてブータンでの聞き取り調査を実施した。また、5 カ国(中国、イラン、ギリシア、タイ、インドネシア)を対象に被災文化遺産の復旧に係る調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの企画・運営

(1)運営委員会を 2 回開催して、活動方針等を協議したほか、3 月には研究会と併せて総会を開催した。　(2)企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会を計 14 回開催した。　(3)文化遺産情報共有化ワーキンググループ準備会合を開催し、文化遺産情報共有化システム構築にむけて同志社大学文化遺産研究科学センターとの共同研究をおこなった。　(4)モンゴル専門家会合を 1 回、タンロン専門家会合を 2 回、プリア・ヴィヒアに関する勉強会を 1 回開催した。　(5)広報活動のため、事業紹介冊子の作成や、一般向けウェブサイトのデータ追加を行った。

Ⅱ．情報共有と情報発信

(1)国際シンポジウム「観光は文化遺産を救えるか―国際協力の新たな展開」を開催した。　(2)研究会「文化遺産保存の国際動向」、「遺跡の情報発信と地域への還元―パブリック・アーケオロジーからみる国際協力」を開催した。　(3)特別講演会として松浦ユネスコ事務局長講演を開催した。　(4)報告書『イエメン共和国　ハドラマウト地方洪水による被災文化遺産調査報告』”Damage Assessment Report of Cultural Heritage in Wadi Hadramaut, YEMEN”を冊子にまとめた。　(5)報告書『経済開発協力と文化遺産国際協力』をまとめ会員にむけ公開した。　(6)報告書『平成 20 年度諸国国際協力体制調査　オーストラリア国際協力体制に関する調査報告書』をまとめた。　(7)報告書『被災文化遺産復旧に係る報告書』をまとめ、再委託事業により『被災文化遺産復旧に係る調査報告書(4)イラン』『被災文化遺産復旧に係る調査報告書(5)ギリシア』がまとめられた。

Ⅲ．文化遺産国際協力に関することがら

(1)モンゴル政府からの要請に基づき、日本による国際協力事業の支援調整を行った。　(2)被災文化遺産の復旧に係る調査として、中国、タイ、インドネシア、イラン、ギリシアを対象に調査を行い、報告書をまとめ公開した。内、イランは国士舘大学、ギリシアは立命館大学による再委託事業である。　(3)国際協力体制調査として、ブータンおよびアフガニスタンに対する調査を実施した。

【実績値】

運営委員会の開催：2 回、総会の開催：1 回、国際シンポジウムの開催：1 回、分科会の開催：企画分科会 5 回、東南アジア分科会 3 回、西アジア分科会 2 回、東・中央アジア分科会 2 回、西・東・中央アジア合同分科会 1 回)　合計 14 回、専門家会議の開催：　合計 4 回、特別講演会開催　1 回、研究会の開催　2 回、諸国国際協力体制調査：　モンゴルの文化遺産国際協力調査、ブータンの文化遺産国際協力状況調査、アフガニスタンの文化遺産国際協力状況調査、被災文化遺産の復旧に係る調査実施数：5 カ国　(中国、タイ、インドネシア、イラン、ギリシア)

(成果物ドキュメント名)　①『イエメン共和国　ハドラマウト地方洪水による被災文化遺産調査報告』(2009 年 7 月 100 部、2010 年 3 月増刷、80 部)　②　”Flood Damage Assessment Report of Cultural Heritage in Hadramaut, Yemen”(2010 年 3 月、60 部)③　「経済開発協力と文化遺産国際協力」(2010 年 3 月、80 部)④「平成 20 年度諸国国際協力体制調査　オーストラリア国際協力体制に関する調査報告書」(2010 年 3 月、500 部)　⑤「被災文化遺産復旧に係る調査報告書」(2010 年 3 月、300 部)　⑥“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage”(2010 年 3 月、300 部)　⑦“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (1) China”(2010 年 3 月、50 部)　⑧“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (2) Thailand”(2010 年 3 月、50 部)⑨“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (3) Indonesia”(2010 年 3 月、50 部)⑩「被災文化遺産復旧に係る調査報告書(4)イラン」(2009 年 11 月、30 部)⑪“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (4) Iran”(2009 年 11 月、30 部)　⑫「被災文化遺産復旧に係る調査報告書(5)ギリシア」(2009 年 11 月、30 部)⑬“Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (5) Greece”(2009 年 11 月、30 部)　⑭「文化遺産国際協力事業紹介」　(2009 年 12 月、800 部)　⑱「Japan’s International Cooperation in Heritage Conservation」　(2009 年 3 月　500 部)　⑮「文化遺産国際協力の今後の展望　松浦ユネスコ事務局長講演会」(2009 年 10 月、30 部、2010 年 3 月増刷、300 部)

【受託経費】

60,071,550 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8033

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | 文化遺産国際協力拠点交流事業　インド(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

山内和也、宇野朋子、鈴木　環、島津美子(以上、文化遺産国際協力センター)、谷口陽子(客員研究員、筑波大学)、福山泰子(中部大学)、早川廣行(東京藝術大学)、米澤　宏(写真家)、樋上将之、ステファニー・ボガン(以上、保存修復家)、小塚直斗、杉原明美(以上、東京藝術大学)

【年度実績概要】

「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」の枠組みにおいて、古代仏教壁画が数多く残るインド・アジャンター石窟を対象とした、壁画の保存修復のための調査・研究を行い、保存修復材料および技術に関する知識、専門的技術および経験を日本－インド間で共有し、人材育成・技術移転を図ることを目的とする。本年度の活動は以下の通りである。

1. アジャンター遺跡の保存にむけた専門家会議

7 月 31 日～8 月 7 日にかけて、インド考古局アジャンター遺跡監督官を日本に招聘し、保存修復研修、専門家会議を実施するとともに、事業の打ち合わせを行った。
国内の研究所、保存修復施設において保存修復に関する研修では、とりわけ壁画保存に有効な科学分析手法と機器の使用に関する知識・技術の交換を図った。専門家会議(8 月 5 日、東京文化財研究所地下セミナー室にて開催)では、インドおよびアジアの文化遺産保存に携わる様々な分野の専門家を集め、2008 年度のアジャンター調査成果を報告するとともに、インド考古局によるこれまでの保存修復活動が報告された。美術史、地域開発等の専門家からの報告を含み、多角的視点でアジャンター遺跡の今後の保存にむけた意見交換が行われ、日本とインドのこれまでの取り組みを総括する内容となった。

2. 第 2 次ミッション～壁画の高精細写真記録

9 月 6 日～10 月 2 日にかけて第 2 次ミッションを実施した。アジャンター石窟では膨大に残る壁画ゆえに、保存状態の調査や記録作業には大変な困難を有している。しかし、近年進歩を遂げ、我が国でも文化財記録にも積極的に導入されているデジタル写真技術を用いることで、壁面の状態を詳細に判別可能な記録を行うことが可能となった。
第 2 次ミッションでは、アジャンター第 2 窟を対象として、最先端の高精細デジタルカメラを使用した壁画の網羅的な写真撮影をインド考古局の専門家と共同で行い、記録方法と機材の使用に関する専門的知識・技術の交換を行った。この記録作業はインド考古局の専門家にとっても初の試みであり、今後の壁画研究と保存修復作業のためのデジタルドキュメンテーションの有用性を日本－インド間で強く認識するとともに、インド国内の様々な文化遺産保存においても役立つ手法として、大いな期待をもたらす結果となった。

3. 第 3 次ミッション～壁画の保存修復および

11 月 19 日～12 月 12 日には、第 3 次ミッションを派遣した。第 3 次ミッションでは、2008 年度に行った壁画の保存状態に関する基礎的調査、第 2 次ミッションにおける高精細写真記録に基づき、壁画保存のために解決すべき問題点の修復方法の検討にむけた実践的な調査を行った。具体的には、壁面に塗布されたシェラックの劣化の問題、コウモリの糞尿による被害といったアジャンター壁画に特有な問題点の解決にむけて、インド考古局の専門家とともに状態観察、化学的な試験を行い、壁画の適切な保存修復方法を検討するための試験的なクリーニングを行った。その結果、将来的に壁画の損傷につながる可能性のある汚れや付着物の中には、洗浄が可能なものがあることがわかり、適切な保存修復方法の確立にむけた、日本・インド双方にとって大きな発見となった。

【実績値】

①「アジャンター遺跡の保存修復に向けた専門家会議」報告書　2010.3
②「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」平成 21 年度業務報告書　2010.3

【受託経費】

38,594,850 円(48-4 モンゴル、48-5 中央アジアを含む。)

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8034

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-4

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | 文化遺産国際協力拠点交流事業　モンゴル(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

友田正彦、二神葉子、秋枝ユミイザベル、有村　誠、原本知実(以上、文化遺産国際協力センター)、北野信彦(保存修復科学センター)、本多貴之(客員研究員)、肥塚隆保、高妻洋成、脇谷草一郎、田村朋美(以上、奈良文化財研究所)、武藤正幸(文化財建造物保存技術協会)、小野村勇人(彩色設計)、瀧川昭雄(瀧川寺社建築)

【年度実績概要】

平成 21 年度は、モンゴルで(1)建造物保存、(2)碑文・岩画の保存に関する技術交流、研修を行った。

(1)建造物保存に関する研修

1. 7 月 20 日～29 日、ヘンティ県のベレーヴェン寺院の復原現場で、モンゴル教育・文化・科学省(MECS)と共同で木造建造物の彩色塗装に関する技術交流ワークショップを開催した。彩色塗装の修理復原計画と実施・伝統的な修理と復原の技法・科学的研究分析についての発表と意見交換、寺院の古材を用いた分析実習と日本の伝統的な彩色技法の実習を行った。モンゴル側は、国立文化遺産センター(CCH)と歴史的建造物の保存修理を請け負うスードゥール社から、それぞれ彩色塗装担当職員 4 名が参加した。
2. 8 月 18 日～29 日、セレンゲ県のアマルバヤスガラント寺院で木造建造物の保存修復に関する研修ワークショップを開催した。モンゴル国立科学技術大学建築学科の学生を対象とし、保存修理設計に必要な事前調査と計画作成の基本的方法を習得させることが目的だった。モンゴルと日本の文化財建造物の修理と調査の方法などについて学び、同寺院の伽藍内にある建物の実測等を行った。

(2)碑文・岩画の保存に関する研修

8 月 20 日～29 日、ヘンティ県のセルベン・ハールガ、アラシャーン・ハダ　の 2 箇所でのミッションを実施した。目的は、両遺跡の保存について検討するうえで必要な保存科学的な手法に基づく遺跡の現状把握、モンゴル専門家への調査法に関する技術移転である。モンゴル側は CCH から 4 名が参加した。遺跡を構成する岩石について、露頭全体の安定性に関する調査、肉眼観察による岩石の特徴の記載、岩石表面の亀裂や浮きの状態について、打音、エコーチップ、アコースティック・エミッション(AE)法、赤外線表面温度測定、赤外線画像(サーモグラフ)などによる調査を実施した。また、水分が滴下している遺跡では、現地で水素イオン濃度およびカルシウム等の測定を実施した。さらに、遺跡の環境に関する調査を行った。



岩石の保存状況に関する調査（アラシャーン・ハダ）

【実績値】

①「拠点交流事業モンゴル　平成 21 年度活動報告　―建造物保存修復研修プロジェクト―」2010.3

②「モンゴル国ヘンティー県所在セルベン・ハールガ、アラシャーン・ハダ遺跡における平成 21 年度活動報告」2010.3

【受託経費】

48－3　拠点インドに含まれる。

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8035

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-5

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | 文化遺産国際協力拠点交流事業　中央アジア(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

山内和也、島津美子、邊牟木尚美、宇野朋子、影山悦子(以上、文化遺産国際協力センター)、松岡秋子(客員研究員)、森本　晋(奈良文化財研究所)、増田久美(東京藝術大学)、西村明子、小川絢子、エミリー・シェクルン、ステファニー・ボガン、アントニオ・イアッカリーノ・イデルソン(以上、保存修復家)

【年度実績概要】

「中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業」の枠組みにおいて、中央アジア諸国の文化財保存修復専門家間のネットワーク作りに貢献し、幅広い技術交流、人材育成の促進を図ることとする。本事業では、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所と文化遺産保護のための協力に関する合意書にもとづき、タジキスタン国立古代博物館が所有する壁画の保存修復活動を通じ、若手タジク人保存修復家の育成を目指す。

1. 本年度実施ミッション

5 月～6 月に第 5 次、10 月～11 月に第 6 次ミッション、平成 22 年 3 月に第 7 次ミッションを実施し、タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画片の保存修復作業を現地の研修生とともに行った。研修では、古代博物館が所蔵する壁画片のうち、カライ・カフカハⅠ遺跡から出土した壁画片を対象に保存修復処置を行っている。

第 5 次ミッションでは、昨年度より修復処置を行ってきた一断片群に対して、接合、マウント作業を行った。この断片は、第 6 次ミッションにおいて、断片端部や表面の充填を行い、博物館の展示室に設置した。これにより、この壁画断片に対する基本的かつ一連の保存修復処置を終えた。

各ミッションでは、カライ・カフカハⅠ遺跡出土の壁画片の保存修復処置に加え、壁画片の整理、写真撮影、アーカイブ資料の整理などを行った。本年度は、古代博物館に収蔵されているカライ・カフカハⅠ遺跡出土のすべての壁画断片をプラスチック製コンテナに移し終えた。これにより、接合可能な壁画片を探しやすくなり、図像の再構築作業を進めやすくなった。

一連の修復作業を通して、タジク人研修生は着実に壁画断片の取扱方法や基礎的な修復処置の方法を習得してきている。断片のクリーニングや接合作業は、個人で行えるようになった。強化処置をしながらの表面クリーニングや、表面の充填など、彩色に関わる重要な修復処置については、日本、ヨーロッパからの専門家の指導のもとに行い、修復作業を通じての、継続的な人材育成、技術移転を目指した。

2. ワークショップ開催

10 月末には古代博物館において第 2 回目となるワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」を開催した。中央アジアのカザフスタン、キルギズスタン、トルクメニスタンに加え、ロシア(エルミタージュ博物館)、中国(敦煌研究院)の保存修復専門家を招聘し、意見交換および技術交流を行った。今回のワークショップでは、断片同士の接合を主要な実技課題とし、共同で作業を行った。自国で、土器、陶器、ガラスなどの修復を行っている修復の専門家が多く、技術交流の機会となった。また、中央アジア諸国の壁画の剥ぎ取りおよび修復をおこなってきたエルミタージュ博物館の修復研究員と、これまでの出土壁画に対する処置方法について意見交換を行った。さらに、敦煌莫高窟の壁画の修復方法から、もとの場所にある壁画の保存修復方法についても情報を得ることができた。

3. その他

ミッション期間中に撮影した壁画の写真資料の出版、および、エルミタージュ博物館壁画修復室の保存修復専門家が執筆した壁画の保存修復方法に関する著作の翻訳、出版を行った。

【実績値】

①E. G. シェイニナ、M. P. ヴィノクーロワ「考古学発掘によって出土した壁画の修復方法」(翻訳)2009. 12
②「カライ・カフカハⅠ遺跡出土壁画資料集」写真編 1　2010. 3
③「東京文化財研究所と中央アジア諸国における文化財保護に関する拠点交流事業」タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復(第 5 次、6 次、7 次ミッション)平成 21 年度業務報告書　2010. 3
④ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復 2009」2010. 3

【受託経費】

48-3　拠点インドに含まれる。

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8036

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-6

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズ I)にかかる国内支援業務(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 文化遺産国際協力センター長　清水真一 |

【スタッフ】

山内和也、邊牟木尚美(以上、文化遺産国際協力センター)、野島崇子、古田嶋智子、末森薫(以上、客員研究員)

【年度実績概要】

エジプト国で 2011 年開館予定の大エジプト博物館付属施設である保存修復センターの確立に対し、国際無償技術協力を担う独立行政法人国際協力機構(JICA)より要請を受け、2009 年 6 月から事業を受託し、保存修復分野における人材育成と技術移転に関する協力を開始した。協力内容は、1. 計画策定支援業務、2. 研修支援業務、3. 専門家派遣支援業務、4. その他に大別される。

1. 来年度 4 月以降開始を予定しているフェーズⅡ(本格協力)のための支援を実施した。「フェーズⅡに向けた人材育成プログラムの詳細策定現地事前調査ミッション派遣」(10－11 月、専門家 12 名)に参加し、保存修復センター及びエジプト国内各施設を視察し、プロジェクトの現地進捗状況やエジプトの保存修復事情を把握、エジプト側関係者との協議を行った。上記現地調査を基に、各保存修復人材育成プログラムを取りまとめ、「フェーズⅡ保存修復人材育成事業計画(案)」を作成した。この案を基に、JICA メンバーと共に現地でエジプト国側とフェーズⅡでの協力内容について協議を行った(2 月)。
2. エジプト国から研修生延べ 11 名を招聘し、本邦研修を計 3 回開催した。
   「染織品保存修復研修」(7－8 月、2 名)
   「分析機器研修」(9 月、2 名)
   「移送梱包研修」(10 月、7 名)
   また、現地研修を 1 回開催した。
   「ドキュメンテーション(写真撮影)研修」(3 月、16 名)
3. 専門家派遣支援業務として、プロジェクトの進捗状況を鑑みながら、短期専門家 2 名(博物館学、考古学)を JICA から現地へ派遣した。
4. 保存修復の技術情報支援や、プロジェクトの技術協力活動に必要な各種教材・資料の作成支援、新技術導入の検討を行った。



染織品保存修復研修の様子

【実績値】

計画案 2 件(①～②)
報告　3 件(③～⑤)
①「大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)プロジェクト フェーズⅡ 保存修復人材育成事業計画」2009.12
②「Plan of capaciry Development Training for Conservators for the project of the Grand Egyptian Museum Conservation Center (Phase II)」(上記計画案の英語版) 2010.2
③「Report on the Mission - The First Preparatory Study on the Project for the Conservation Center in the Grand Egyptian Museum(Phase-2)26 October - 14 November 2009」2010.2
④「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズ I)業務実施報告書(平成 21 年度上半期分)」2009.10
⑤「大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト(フェーズ I)業務実施報告書(平成 21 年度下半期分)及び完了報告書」2010.3

【受託経費】

13,895,560 円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8037

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-7

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | 日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 国際情報研究室長　岡田　健 |

【スタッフ】

清水真一、友田正彦、朽津信明(以上、文化遺産国際協力センター)、吉田直人、犬塚将英(以上、保存修復科学センター)、本田光子(九州国立博物館)、松本伸之、加島勝、木下史青、小林牧、和田浩、鈴木みどり(以上、東京国立博物館)、岡田文男(京都造形芸術大学)、木部徹、島田要(以上、資料器材保存)、近藤光雄、窪寺茂、中内康雄、野尻孝明(以上、文化財建造物保存技術協会)

【年度実績概要】

本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の委託を受け、中国文化遺産研究院との共同により、2006－2010 年の 5 年間で、シルクロード沿線の文化財保護修復技術のレベルを引き上げることを目的として、新疆、青海、寧夏、甘粛、陝西、河南の 6 省・自治区からの研修生を対象に土遺跡、古建築、考古発掘現場出土品、陶磁器・金属器、壁画、紙類、紡織品の保護修復および博物館技術の 8 項目の専門分野について、トレーニングを行うものである。

1)古建築保護修復専攻 期間：3 カ月半(4 月 6 日～7 月 31 日)、研修員の人数：12 名

古建築保護修復専攻コースは 2008 年度から連続 2 年、合計 7 カ月の期間で、同じメンバーが参加して実施された。1 年目に北京で実施した理論講座、各種調査と報告書作成の実習訓練に続き、2 年目となる本年度は、チベット仏教の総本山の一つである青海省西寧塔爾寺において、当寺で実施中の解体修復工事に合わせた現場調査、現在は使われていない活仏(いきぼとけ)邸の現状調査と修復設計案の作成を行い、さらに個人テーマによる研究論文を作成し、それらをまとめた報告書を作った。期間中は日中両国の講師による指導が行われ、日本からは 5 名の建造物保存の専門家を派遣した。

2)博物館技術専攻 期間：3 カ月(9 月 14 日～12 月 11 日)、研修生の人数：14 名

博物館技術専攻コースは博物館の管理運営、企画展示、教育普及など多岐にわたる内容について 2 カ月間北京での理論講座と実習を行い、1 カ月間寧夏回族自治区銀川市に所在する寧夏博物館で現場実習と論文実習の研修を行った。期間中は日中両国の講師による指導が行われ、日本からは 11 名の講師を派遣した。今回のような総合的な博物館学研修コースは中国においては初めて実現したもので、実習を行った寧夏博物館からも館員の良い教育機会となったとの評価を得た。

3)2010 年度紡織品保護修復専攻実施のための調査

3 月 13 日から 3 月 23 日の日程で、染織品修復専門家深津裕子氏(無形文化遺産部客員研究員)を新疆ウイグル自治区および甘粛省へ派遣し、新疆博物館と文物考古研究所に所蔵される紡織品を視察させ、2010 年度紡織品保護修復専攻コースのカリキュラム作成のための意見を求めた。

4)

【実績値】

古建築保護修復専攻　期間：3 カ月半(4 月 6 日～7 月 31 日)、研修員の人数：12 名
博物館技術専攻　期間：3 カ月(9 月 14 日～12 月 11 日)、研修生の人数：14 名

【受託経費】

9,880,750 円

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8038

業務実績書(受託事業)

研究所 No 48-8

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | | |
| 【事業名称】 | ユネスコ／日本信託基金　バグダードにあるイラク博物館の保存修復室の復興プロジェクト(受託)((2)-ア) | | |
| 【担当部課】 | 文化遺産国際協力センター | 【事業責任者】 | 地域環境研究室長 山内和也 |

【スタッフ】
宇野朋子、鈴木　環、邊牟木尚美(以上、文化遺産国際協力センター)、杉山　洋、肥塚隆保、高妻洋成(以上、奈良文化財研究所)、石井美恵、深津裕子(以上、女子美術大学博物館 染織品修復家)

【年度実績概要】
当事業は、イラク国立博物館の保存修復室の復興支援を目的に平成 17 年度に開始され、本年度で 5 年目をむかえる。
本年度は、イラク国立博物館より、バーン・A・M・A・アルジャミール氏、ファドゥヒル・A・A・アラウィ氏、モハンマド・K・M・J・アルミマール氏、スィーナー・C・A・アルティミーミー氏の 4 名の保存修復専門家を日本に招へいし研修を行った。
研修は、平成 21 年の 6 月 19 日から 9 月 18 日にかけて、約 3 カ月(計 92 日)にわたり行なわれた。今年度は、イラクからの要請に応じ、「染織品の保存修復研修」および「文化財の保存修復および分析調査のために使われる機器に関する研修」を実施した。
まず、研修に先立ち、東京文化財研究所において 2 週間の日本語研修と初歩的なコンピューターの研修を実施した。


染織品の保存修復実習

その後、7 月上旬には、約 1 週間にわたり静岡県埋蔵文化財調査研究所にて、金属製品や木製品といった考古遺物の保存修復に関する講義と実習また遺跡見学を実施した。
7 月中旬から 8 月下旬には、東京文化財研究所および女子美術大学博物館にて「染織品の保存修復研修」を行なった。この研修では、染織品の保存修復に関する基礎的な講義のみならず、実習として日本の着物とコプト織を扱い、予防保存作業や、状態調査から洗浄、補強までの保存修復作業を実際に行った。
その後、9 月上旬には「文化財の保存修復および分析調査のために使われる機器に関する研修」を東京文化財研究所と奈良文化財研究所にて実施した。走査型電子顕微鏡やフーリエ変換赤外分光光度計、蛍光Ｘ線分析装置、Ｘ線撮影装置などの最新機器に関する研修を実施した。
最後に、東京文化財研究所においてレポートの作成、成果の発表を行い、研修を終了した。研修生は、いずれも意欲的に研修に取り組んでいたため、自国に戻り、得られた技術をイラク国立博物館の復興に役立ててくれることが期待できる。

【実績値】
報告 1 件
“Training Program for the Conservation of the Cultural Properties in Iraq and the Use of Conservation Equipment at the Iraq National Museum, Bagdad: Final Report” 報告書(英語)

【受託経費】
98,500 USD

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8039

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 78-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| 【事業名称】 | 関西大学博物館所蔵重要文化財附縄文土器破片および壷形土器の復元修理(受託)((1)) | | |
| 【担当部課】 | 保存修復科学センター | 【事業責任者】 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉 |

【スタッフ】
北野信彦(保存修復科学センター)、犬竹　和(修復家)

【年度実績概要】

本事業で復元修理を行った縄文土器破片・壷形土器は、大正 8 年に大阪府藤井寺市国府遺跡から出土した資料である。同遺跡から出土した縄文鉢形土器(平成 18 年度受託研究にて修復完了)、籠型土器(平成 19 年度受託研究にて修復完了)高坏土器(平成 20 年度受託研究にて修復完了)などと共に重要文化財に指定されている。本資料も、近年にいたって、以前の復元で使用された修復材料の劣化が認められ、再修復を要する状態にあった。使用されていた石膏や接着剤は、経年変化による劣化が著しく、本資料の取り扱いにも支障をきたすような状態であった。そこで、平成 18 年度、平成 19 年度、平成 20 年度受託研究に引き続き、今回は本資料の再修復を行うこととなった。今回の再修復でも土器が展示や学術研究に活用されることを目的とし、石膏に代わる土器修復材料であり、質感・耐久性などにすぐれた補修用擬土を使用して修復した。

概　　要

◇修復対象　縄文土器破片 2 点・壷形土器 1 点

◇修復概要

1)解体およびクリーニング…劣化した石膏は超音波メスで除去。接着剤は有機溶剤を使用して除去し解体した。表面の汚れは蒸留水を少量綿棒に含ませて拭き落とした。

2)土器の強化…劣化して脆弱になった土器破断面をアクリル樹脂で強化した。

3)接合…アクリル樹脂を使用して破片を接合した。

4)復元…補修用擬土を充填し、常温で乾燥後、整形し文様を施した。55℃の定温乾燥機に入れ樹脂を硬化させた。

【実績値】
受託事業報告書　　1 件
本事業は関西大学から依頼

【受託経費】
998,000 円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8040

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 79-1

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| 【事業名称】 | 小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究(受託)(1) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 遺構研究室長　箱崎 和久 |

【スタッフ】
箱崎和久、大林潤、黒坂貴裕、番光、鈴木智大、海野聡［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】

秋田県男鹿市の小谷地遺において、昭和 39 年から 3 箇年にわたる発掘調査で出土した多量の木製部材は、男鹿の埋没家屋としてつとに有名であった。平成 21 年 6 月から秋田県埋蔵文化財センターが開始した発掘調査でも、過去の調査と同様、多量の木製部材が出土し、やはり埋没家屋の部材と考えられたため、部材の詳細な調査を奈良文化財研究所に委託したのであった。しかしその後の発掘調査によって、多量の出土部材をともなう遺構は、建物遺構ではなく堰などの土木構築物の遺構である可能性が高まった。本受託研究は当初の目的を若干変更し、出土部材の観察から、部材所用遺構が建物なのか土木構築物なのかを判断するという視点が重要になってきた。

調査方法は、秋田県埋蔵文化財センターで作成した実測図の下図(部材外形線の描画)に、観察所見による描画を追加することによって部材の実測図を完成し、あわせて部材に対する所見や加工痕跡、使用痕跡などの所見を記入した調査票を作成する。同時に、手持ちのカメラによって、全体ならびに調査所見を裏付ける細部写真の撮影をおこなう。以上の調査を 2 週間(計 10 日)おこない(平成 21 年 11 月 30 日～12 月 4 日、平成 22 年 1 月 18 日～22 日)、また実測部材について大判写真による撮影をおこなう(平成 22 年 2 月 15 日～19 日)。

秋田県埋蔵文化財センターによれば、出土木材は 3000 点に達するとのことだが、部材調査をおこなったのは、そのうち特徴的な 88 点である。調査目的に対する結論から言うと、建築部材と認められるものはきわめて少なく土木構築物と認めて誤りない。すなわち建築部材と認められる精巧な継手や仕口、あるいは釘穴などを持つ部材がほとんどなく、大半は杉の大径材を打ち割って造った材料である。おもしろいのは杭として使用していた径十cm程度の材も、自然木ではなく大径材から打ち割って製材した材であったことである。逆に自然木は少なく、発見した部材は大径材数本を中心に造られており、部材相互は兄弟姉妹の関係だった可能性がある。

一方で、出土遺構では使用していない穴や欠きをもつ部材が数点あった。最終的には土木構築物の部材として用いられていたが、それ以前に何らかの構築物の部材であって転用されたことが明らかである。残念ながら転用以前の用途が判明するものはほとんどないが、周辺にあった建物などの部材の再利用であろう。

これらの部材の表面はほぼ打ち割りによる割肌のまま未加工といってよく、たとえばチョウナやヤリガンナのような道具で表面を仕上げた痕跡がない。杭や板の先端を加工するのもヨキではつった程度であり、化粧面を意識した仕上げとはなっていない。



小谷地遺跡 SB01 所用部材

【実績値】
論文等数　：番光「秋田県小谷地遺跡出土部材の調査」『奈良文化財研究所紀要 2010』2010(予定)
記録作成数：実測図 88 枚、写真(4×5)150 枚

【受託経費】
1,488 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8041

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 79-2

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| 【事業名称】 | 平城京右京三条一坊八坪(第 448 次)の調査に係る図化業務(受託)(1) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |

【スタッフ】
林正憲、難波洋三、馬場基、鈴木智大、高橋知奈津［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】

本事業は、平城京遷都 1300 年祭にともなう平城京歴史館(仮称)建設に際する事前調査である平城第 448 次調査の実測図をデジタル化することによって図化し直すものである。なお、第 448 次調査は平成 21 年 1 月 6 日から 3 月 25 日にかけて実施したもので、調査面積は約 1100 ㎡である。

図化の対象としたのは 24 枚に分割された遺構平面図で、デジタル化に際して製図および統合することとした。図化は(株)かんこうに依頼し、3 回の校正を経て、実績値に掲げたものを成果品として徴収した。なお、これらの成果品はすべて都城発掘調査部遺構研究室が保管・管理している。

これらの図化作業によって、精細な遺構平面図を作成できただけでなく、利便性の高いそのデジタルデータ化ができたことは、今後の活用においてより有用性が増したといえよう。

【実績値】
1／50 遺構図 8 部、1／100 遺構図 12 部、1／200 遺構図 12 部、画層構成表・描線表 1 部、
奈良県提出用 1/100 第二原図 2 部、デジタルデータ 1 式

【受託経費】
1,192 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8042

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 79-3

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| 【事業名称】 | 史跡興福寺旧境内・名勝奈良公園(第 465 次)の発掘調査(受託)(1) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |

【スタッフ】

林正憲、桑田訓也、難波洋三、鈴木智大、海野聡［以上、都城発掘調査部］

【年度実績概要】

本調査は、興福寺旧境内である奈良市登大路町 30 番地(現・県庁前)における、バス停設置にともなう事前の発掘調査で、平城第 465 次調査にあたる。調査地は道路の南北両側に分かれている。北側には東西 2 つの調査区を設定し、東区が東西 4.2m×南北 2.4m、西区が東西 5.4m×南北 2.4mである。南側の調査区は、東西 6.5m×南北 3.1mである。なお、調査期間は、北側が平成 21 年 12 月 8 日～15 日、南側が平成 22 年 1 月 13 日～29 日の計 25 日間である。



南側調査区、瓦の廃棄状況(西から)

**北側の調査**　東区では地表下 110cm前後で中世の包含層を検出した。顕著な遺構は少ない。包含層の下は粘土層が厚く堆積する(性格不明)。西区では NTT の電話線と電気配管が検出され、そこで掘削を停止。一部、中世の包含層とその上に堆積する焼土層(江戸時代か)を検出した。

**南側の調査**　手掘り開始直後、地表下 130 cm前後で、大量の瓦が廃棄されている状況を確認した。瓦の範囲は調査区全面に及び、東・北・西はさらに調査区外に広がる。瓦の製作年代は、室町時代である。その後、遺構面を掘り下げ、黄褐色土上面で東西溝 1 条を検出した。これは、古代の築地塀の雨落溝と推定される。2009-7 立会調査で検出された築地塀の北雨落溝の延長に位置するが、溝の北側で地山を削り込み、人頭大の石を入れている状況から、南雨落溝と考えられる。

【実績値】

出土品　：軒丸瓦 5 点、軒平瓦 4 点、丸・平瓦 87 箱、土器・陶磁器 1 箱

記録作成数：実測図 6 枚、写真(4×5)16 枚

【受託経費】

752 千円

【受託】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8043

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

研究所 No 79-4

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中期計画の項目 | 7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | | |
| 【事業名称】 | 興福寺旧境内(第 467 次)の発掘調査(受託)(1) | | |
| 【担当部課】 | 都城発掘調査部(平城) | 【事業責任者】 | 都城発掘調査部長　井上和人 |

【スタッフ】

海野聡、桑田訓也、渡辺晃宏、国武貞克、中村亜希子［以上、都城発掘調査部］、山崎健[埋蔵文化財センター]

【年度実績概要】



本調査は、興福寺旧境内である奈良市東向北町 30 番地、川井栄美子宅における、店舗兼住宅の新築工事にともなう事前発掘調査で、平城第 467 次調査にあたる。調査地区は東西 8m、南北 3.5m、調査面積は 28 ㎡、調査期間は平成 22 年 2 月 2 日～17 日である。

重機掘削により、地表より約 65cm 下げ、そこから手掘りを開始し、中世の整地とみられる黄色粘質土の層を検出したが、この土層上面には顕著な遺構は見られなかった。その下の土層の状況は東半と西半で大きく異なる。

東半では黄色粘質土の下が地山(青灰橙色粘質土)となっている。この地山上面で南北溝 2 本を検出し、奈良時代の高杯の脚及び 15～16 世紀の土師小皿が出土した。西半では黄色粘質土の下に中世の包含層である灰色砂質土がある。その上面で土坑を 2 つ検出し、層内からは乾元大寶が 1 点出土した。黄色粘質土の下は灰褐色粘質土で、この土層では遺構は検出されず、その下の地山面で、トレンチ西端で南北溝を確認した。この南北溝は、奈良時代の東六坊大路東側溝の可能性がある。

完堀状況(東から)

【実績値】

出土品　：軒丸瓦 1 点、丸・平瓦 30 箱、土器・陶磁器 2 箱、乾元大寶 1 点

記録作成数：実測図 2 枚、写真(4×5)16 枚

【受託経費】

335 千円

【書式A】　　施設名 | 法人全体 |　　処理番号 | 9110 |

| 大項目 | ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 |
|---|---|

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (1)共通的な事務の一元化による業務の効率化 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績・成果 | ・「研究・学芸系職員連絡協議会」を実施し、各博物館における翌年度の展覧会企画等について調整を行い、計画を図った。2館以上巡回する展覧会として「細川家の至宝」（東博、九博、京博）、「誕生！中国文明」（東博、九博、奈良博）を計画することとした。<br>・機構内各施設のグループウェアの統合化を進めた。<br>これまで機構内各施設では各業務の効果的な遂行のため、個別にグループウェアを検討・導入・運用してきた。今回これらの一本化を図るべく準備を進めたが、年度内実施には至らなかった。 | | | |
| 補足事項 | ・運用時に必要なネットワークの整備、サーバー設置、バックアップサーバ設置などを、21年度に行った。22年3月現在、運用開始に向けて最終調整の段階である。<br><br>・グループウェア統合後<br>機構全体　サイボウズ・ガルーン2<br>930ユーザ（本部・東博210ユーザ、京博100ユーザ、奈博60ユーザ、九博150ユーザ、東文研150ユーザ、奈文研260ユーザ）<br><br>・グループウェア統合前の状況（参考）<br>本部・東博　サイボウズ・オフィス6<br>京博　サイボウズ・ガルーン2<br>奈博　なし<br>九博　ドリーム・アーツ insuite<br>東文研　サイボウズ・オフィス6<br>奈文研　サイボウズ・オフィス7 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　A　Ⓑ　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 共通的な事務の一元化による業務の効率化 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | ほぼ順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9120

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　使用資源の減少 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 本部財務課（取りまとめ）<br>東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課 | 事業責任者 | 事務局長　金谷史明 |

実績・成果

・　日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・　廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。

使用資源の推移等

光熱水料金　（単位：千円）

| 事項 | 20 年度 | 21 年度 | 差額 |
|---|---|---|---|
| 電気料（※1） | 427,588 | 366,202 | △61,386 |
| 水道料（※2） | 84,044 | 93,651 | 9,607 |
| ガス料（※1） | 138,811 | 92,510 | △46,301 |
| 計 | 650,443 | 552,363 | △98,080 |

（※1）電気料・ガス料減少の特殊要因となった施設休館等による影響

| 施設 | 休館施設 | 電気料 | ガス料 |
|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 東洋館（耐震改修工事のため） | △17,189 | △6,208 |
| 京都国立博物館（注 1） | 平常展示館（建替工事のため） | △1,457 | △14,081 |
| 奈良国立博物館 | 西新館（耐震工事のため） | △1,477 | △840 |
| 奈良文化財研究所 | 平城宮跡資料館（改修工事のため） | △8,247 | △1,340 |
| | 小計 | △28,370 | △22,469 |

（注 1）建替工事及びガス空調から電気空調への全館全面切換による増減を含む。

（※2）水道使用料増加の特殊要因

| 施設 | 内容 | 金額 |
|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料（4 月 1 日～6 月 7 日） | 2,003 |
| 九州国立博物館 | 「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料（7 月 14 日～9 月 27 日） | 2,026 |
| 京都国立博物館 | 平常展示館建替工事に係る工事用水使用料 | 4,251 |
| 九州国立博物館 | 雨水貯留槽汚染（10 月 20 日～3 月 2 日）に伴う上水使用料 | 1,520 |
| | 小計 | 9,800 |

（参考）特殊要因を考慮した光熱水料金

| 事項 | 20 年度 | 21 年度 | 差額 |
|---|---|---|---|
| 電気料 | 427,588 | 394,572 | △33,016 |
| 水道料 | 84,044 | 83,851 | △193 |
| ガス料 | 138,811 | 114,979 | △23,832 |
| 計 | 650,443 | 593,402 | △57,041 |

（※1）（※2）を考慮

廃棄物排出量　（単位：kg）

| 事項 | 20 年度 | 21 年度 | 増減率（%） |
|---|---|---|---|
| 一般廃棄物 | 247,491 | 228,045 | △7.86 |

リサイクル実施例
(1) 廃棄物の分別収集
(2) リサイクル業者への古紙受け渡し
(3) 再生紙の発注等

補足事項

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 光熱水料 | 8.77%減 | 年間 1.03%減 | S | | － | 1.6%増 | 2.3%減 | 8.77%減 |
| 一般廃棄物排出量 | 7.86%減 | 年間 1.03%減 | S | | － | 2.9%減 | 9.3%減 | 7.86%減 |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項
(2) 使用資源の減少
・　省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1．03%の減少）
・　廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）
・　リサイクルの推進

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 9131

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 施設有効使用の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　吉田勇人 |

実績・成果

パーティー、コンサート、撮影への施設利用（平常展も観覧いただくようにし、新たな入館者の開拓も目的とする）、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図った。

| 施設名 | 平成 21 年度 |
|---|---|
| 講堂等 | 114 件（内　有償貸付　82 件） |
| 茶室 | 119 件（内　有償貸付　73 件） |
| その他（本館・表慶館・ラウンジ・前庭） | 108 件（内　有償貸付　107 件） |
| 合　　計 | 341 件　　収入額　38,495,495 円 |

入館者の拡大を目的とするコンサートとして
・「ファミリーコンサート」（7月26日　共催：東京クラリネットクワイアー）
・「ジェラール･プーレ ヴァイオリンコンサート」（12月12日 制作協力：瀧井敬子）
・「関孝弘　ピアノコンサート」（7月5日　共催：サロン・ド・ソネット）
等を、講演会として、
・「東大寺講演会」（1月27日　共催：東大寺）
演芸として、
・「新春東博寄席」（1月11日）
など様々なイベントを実施した。

補足事項

・今年度、撮影案内パンフレットを作成し、出版社、テレビ等映像制作会社、広告代理店、フリーカメラマン等に送付した。結果、昨年度より撮影での使用件数、収入とも大幅な増加となった。今後はお茶室・講堂等のさらなる利用促進についても方策を検討していきたい。
・来館者に展示観覧と併せてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
・来館者数が比較的少ない平常展のみの期間に開催できるイベントを重点的に行い、来館者数の増加に貢献した。
・施設の有効利用件数について、平成 20 年度までは利用施設数を算出していたが、平成 21 年度から利用申込数に変更した。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施設の有効利用件数 | 341 件 | ― | ― | 経年 | 751 | 885 | 574 | 341 |
| うち有償利用件数 | 262 件 | ― | ― | 変化 | 233 | 350 | 238 | 262 |

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

(3) 施設有効使用の推進
・施設の利用推進

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 9132

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 施設有効使用の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課 | 事業責任者 | 総務課長　大西真一 |

**実績・成果**

特別展示館等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。

なお、平常展示館建替工事に伴い昨年度 12 月 8 日より講堂が使用できなくなったため、展覧会等に関する講演会、夏期講座及び年 4 回開催しているらくご博物館は館外の施設を利用して行うこととなった。



バロックコンサート

特別展示館
- バロックコンサート（開催日 1 日　入場者 196 名）
- ミニコンサート（開催日 7 日　入場者約 280 名）

庭園（丸池周辺）
- 自転車発電エコライブ（開催日 1 日　参加者 約 100 名）

館外の施設を利用
- 展覧会等に関する講演会（講座回数 15 回　聴講者数　合計　2115 名）
- 夏期講座（開催日 3 日間 参加者　179 名）
- らくご博物館（年 4 回　　入場者 697 名）
- 音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展（開催日 1 日　入場者 149 名）

また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。

| 外部使用件数 | | 使用料 |
|---|---|---|
| 研修室等 | 21 件（うち有償 13 件、無料 8 件） | 291,375 円 |
| 茶室 | 14 件（うち有償 13 件、無料 1 件） | 151,200 円 |
| 計 | 35 件 | 442,575 円 |

**補足事項**

特別展示館の中央ホール
- 特別展示館の中央ホールでバロックコンサートを開催したところ、満員の大盛況であった。
- 特別展覧会期間中に特別展示館の中央ホールでミニコンサートを開催したところ、盛況であった。

庭園（丸池周辺）
- エコライブは、夏空の元で開催し、一般観覧者も自転車発電のこぎ手として参加、観客とも大盛況であった。

茶室
- 当館に茶室が設けられていることが徐々に浸透してきたのか茶道愛好家の利用が多い。

講堂の建替にともなう措置

講堂については、平常展示館建替工事に伴いリニューアルオープンするまで、約 5 年間使用できない。このため、「土曜講座」・「らくご博物館」の開催会場は、館外の施設を利用し、今後も継続開催する。
- 昭和 48 年から毎週土曜日に開講の「京都国立博物館土曜講座」の会場として活用し、当館の長寿看板講座となっている。館外の施設を利用しているにもかかわらず、盛況であった。
- 当館の恒例となっている夏期講座も館外の施設を利用したが、盛況であった。
- 四季それぞれの時候にあわせた「京都・らくご博物館」も館外の施設による開催であったが、毎回ほぼ満席の盛況にある。
- 「THE　ハプスブルク」展開催記念企画として、音楽とスイーツを同時に楽しめ、特別展覧会もお楽しみいただけるコンサートを開催したところ、盛況であり、入場者に大変好評であった。

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施設の有効利用件数 | 35 件 | － | | | 138 | 56 | 57 | 35 |
| うち有償利用件数 | 26 件 | － | | | 68 | 30 | 29 | 26 |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項　(3) 施設有効使用の推進
- 施設の利用推進

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　9133

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 施設有効使用の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務課渉外室 | 事業責任者 | 渉外室長　添田美由紀 |

**実績・成果**

・施設の利用
講堂：公開講座（16 回、2,043 人）、サンデートーク（11 回、584 人）、正倉院展ボランティア解説（20 日間計 112 回）、世界遺産学習（29 校、2,205 人）
・イベント等の実施
敷地内：唐招提寺の蓮展示
講堂：まほろば寄席（3 回）、まほろば講座(3 回)、特別展関連映画上映（国宝鑑真和上展：「天平の甍」、聖地寧波：「ぼくの孫悟空」)、皇室写真展、NHK 制作番組「宝物を守り伝える」上映会＆講演会
仏教美術資料研究センター：夏休みお線香手づくり体験講座
地下回廊：にんぷろカルタ大会、絵画コンクール入賞作品展示
西新館ピロティ：NHK 日曜美術館で紹介した正倉院宝物の映像放映
・会場提供
敷地内：なら燈花会、クラシックカーラリー2009 奈良、コンサート（おはなしステージ in なら燈花会)、第 11 回バサラ祭、なら国際映画祭プレイベントでの映画上映（河瀬直美監督作品「沙羅双樹」)、茶会（3 回）
講堂：映画祭（河瀬直美監督作品「火垂 2009　version」)、放送大学面接授業、奈良市教育委員会主催教員研修講座
仏教美術資料研究センター：書道展「天墨の書」、結婚式
地下回廊：シルクロード写真パネル展示、「奈良のうまいもの」パネル展示
西新館ピロティ：陶芸展「火垂窯の仲間たち」、正倉院展での呈茶席

**補足事項**

施設の有効利用件数　内訳

| | | |
|---|---|---|
| 講演会等 | 8 | (4) |
| 茶会等 | 5 | (4) |
| 映画上映会 | 14 | (1) |
| 観光イベント | 3 | (2) |
| 展示 | 7 | (1) |
| まほろば寄席 | 4 | |
| まほろば講座等 | 4 | |
| その他 | 14 | (9) |
| 計 | 59 | (21) |

()内は有償利用件数で内数


夏休みお線香手作り体験講座


まほろば寄席

**定量的評価**

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施設の有効利用件数 | 59 件 | － | － | 経年 | 79 | 122 | 84 | 59 |
| うち有償利用件数 | 21 件 | － | － | 変化 | 28 | 18 | 23 | 21 |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、F の理由）

中期計画記載事項　(3)施設有効使用の推進
・施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。　順調

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 9134

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 施設有効使用の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 交流課 | 事業責任者 | 主任主事　藤崎秀典 |
| 実績・成果 | ・文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展で関連する講演会を開催した。<br>・ミュージアムホール、エントランスホール、研修室等において、各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室の貸出を行った。<br>・各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。<br>・ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。<br><br>ミュージアムホールの利用　76件（内　有料11件）<br>研修室の利用　88件（内　有料58件）<br>その他(エントランスホール 外) 86件（内　有料　0件） | | | |
| 補足事項 | ・特別展関連講演会<br>「聖地チベット」展関連椎名誠講演会「チベットの青い空－カイラス巡礼記」（期間：4/25，参加者数：330名）等を開催した。<br>・各種団体主催イベント<br>吉野ヶ里Days in九博（期間：8/29～8/30，参加者数：670名）等を開催した。<br>・コンサート<br>きゅーはくミュージアムコンサートを毎月開催した。<br>・留学生の日イベントとして、きもの体験、茶道体験（期間：11/3）を開催した。 | | | |


吉野ヶ里Days in九博

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 施設有効利用件数 | 250件 | | | 経年 | ― | 188 | 193 | 250 |
| | うち有償利用件数 | 69件 | | | 変化 | ― | 28 | 45 | 69 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | (3)施設有効使用の推進<br>・施設の利用推進 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式Ａ】　　施設名 東京文化財研究所　処理番号 9135

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　施設有効利用の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 東京文化財研究所管理部 | 事業責任者 | 管理部長　北出猛夫 |
| 実績・成果 | ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。<br>・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。 | | | |
| 補足事項 | <br>第 43 回オープンレクチャー「人とモノの力学」の模様 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 施設の有効利用数 | 178 件 | － | － | 経年 | － | 266 | 140 | 178 |
| | うち有償利用数 | 13 件 | － | － | 変化 | － | 40 | 21 | 13 |

| 年度実績<br>評価総括 | Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ<br>（Ｓ、Ｆの理由） |
|---|---|
| 中期計画<br>記載事項 | (3)施設有効使用の推進<br>・施設の利用推進 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 9136

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (3) 施設有効利用の推進 | | |
|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課　管理部 | 事業責任者 | 管理部長　多　昭彦 |

実績・成果

会議室、セミナー室等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図った。

| 施設名 | 21年度 |
|---|---|
| 平城宮跡資料館講堂 | 26件（内　有償貸与　1件） |
| 平城宮跡資料館小講堂 | 35件（内　有償貸与　0件） |
| 寄宿舎施設 | 1,115件（内　有償貸与　27件） |
| 飛鳥資料館講堂 | 4件（内　有償貸与　0件） |
| その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等） | 31件（内　有償貸与　12件） |
| 合計 | 1,211件（内　有償貸与　40件） |

① 平城宮跡資料館講堂及び小講堂については、平城宮跡資料館の改修工事のため、平成21年6月から閉鎖した。それまでは、調査研究成果を公表する場として講習会、研究会、学会等を開催した。さらに、広く国民に文化財への理解を求めるべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。
② 一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ＨＰ上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。
③ 奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
④ 飛鳥資料館講堂において、企画展示・特別展示期間に講演会等を開催した。
・夏期企画展示（「甦るクメール文明世界文化遺産アンコール遺跡群」（約50名参加））
・秋期特別展示（「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」（127名参加））
・団体入館者の要望に応えて、モニター映像による集合解説を実施した。（年間 2 回・約50名参加）
・キトラ古墳壁画公開会場とした。（期間中3万人）
⑤ 上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

補足事項

平成20年度実績

| 施設名 | 20年度 |
|---|---|
| 平城宮跡資料館講堂 | 107件　（内　有償貸与　2件） |
| 平城宮跡資料館小講堂 | 137件　（内　有償貸与　0件） |
| 寄宿舎施設 | 1,824件　（内　有償貸与 64件） |
| その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等） | 11件　（内　有償貸与　5件） |
| 合計 | 2,079件　（内　有償貸与71件） |

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 施設の有効利用件数 | 1,211件 | － | － | 経年 | － | 1,841 | 2,079 | 1,211 |
| うち有償利用件数 | 40件 | － | － | 変化 | － | 75 | 71 | 40 |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項　(3) 施設有効使用の推進
・施設の利用推進

中期計画に対して順調に成果を上げているか。　順調

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9140

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (4)　民間委託の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 本部財務課（取りまとめ）<br>東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課 | 事業責任者 | 事務局長　金谷　史明 |
| 実績・成果 | ・ 全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。<br>・ 全ての博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。　また、研究所は警備業務を外部委託している。<br>・ 博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。<br>・ 東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施しているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、平成 22 年 4 月 1 日から民間委託を実施予定。 | | |
| 補足事項 | ・ 外部委託が可能な業務については、概ね民間委託を進めている。<br>・ また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約等の実施により、経費の削減を図っている。<br>・ 民間委託の増加に伴い、契約手続きや指導・監督の業務負担が増加しているが、人員削減が進み、ノウハウの蓄積など、限られた職員では対応が困難な場合も生じてきている。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | － | － | － | － | 経年変化 | － | － | － | － |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | (4) 民間委託の推進<br>・ 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。<br>・ 館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。<br>・ 来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。 |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9150

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (5)　一般競争入札の推進 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 本部財務課（取りまとめ）<br>東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課 | 事業責任者 | 事務局長　金谷　史明 |

実績・成果

・ 列品等修理契約について、新たに修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約について、企画競争へ移行した。
・ 随意契約の見直しで、21 年度に一般競争へ移行するとした電気供給契約について、全ての施設で一般競争入札を実施した。
・ その他新たに、自動券売機賃貸借、機械警備について一部施設で一般競争入札を実施した。

一般競争入札件数

| 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 件数 | 142 件 | 202 件 | 60 件 |

（参考）電気供給契約額前年度対比（法人全体）

（単位：千円）

| 20 年度契約額 | 21 年度契約額 | 差額（21-20） |
|---|---|---|
| 372，224 | 369,965 | △2,259 |

補足事項

・ 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて（21 年 11 月 17 日閣議決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 20 年度及び 21 年度に締結した契約（委員会開催時見込みの契約も含む。）の点検・見直しを行っている。
　第 1 回契約監視委員会（平成 22 年 1 月 12 日開催）
　第 2 回契約監視委員会（平成 22 年 3 月 5 日開催）
・ 総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。
・ 「独立行政法人整理合理化計画」の方針に基づき、東京国立博物館等の施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）及び東京国立博物館の展示場における来館者応対等業務について、民間競争入札を実施している。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般競争入札件数 | 202 件 | － | － | 経年変化 | － | 98 件 | 142 件 | 202 件 |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

(5) 競争入札の推進
・ 契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 9160

| 中項目 | ⅱ-1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化 |
|---|---|

| 事業名 | (6)　定量的な目標の設定 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 本部財務課（取りまとめ）<br>東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課 | 事業責任者 | 事務局長　金谷　史明 |

実績・成果

1）入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1．16%の増加を目指す。

下表のとおり、8．67%となり、目標を上回ることができた。

（単位：千円）

| | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 |
|---|---|---|---|
| 自己収入基準額 | ――― | 864，089 | 874，112 |
| 自己収入目標額 | ①864，089 | ②874，112<br>（①×1.16%増） | 884，252<br>（②×1.16%増） |
| 自己収入実績額 | ――― | ――― | 949，900 |
| 増　加　率 | ――― | ――― | 8．67% |

※　受託研究・受託事業を除く。
※　自己収入目標額は、前年度の目標額から1．16%増加した場合の額。ただし平成19年度自己収入目標額は、平成19年度自己収入実績額から特殊要因である京都国立博物館平常展示館建替工事による影響額等を除して算定。
※　増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2）寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

| | 目標値 | 平成21年度 |
|---|---|---|
| 寄附金 | 226件 | 290件 |
| 科学研究費補助金 | 76件 | 86件 |

補足事項

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ・自己収入増加率 | 8.67% | 1.16% | S | 経年 | ― | ― | ― | 8.67% |
| ・寄附金 | 290件 | 226件 | A | 変化 | ― | ― | ― | 290件 |
| ・科学研究費 | 86件 | 76件 | A | | ― | ― | ― | 86件 |

年度実績評価総括

S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

Ⅲ　予算
収入面に関して、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 9220

| 中項目 | ⅱ-2　事業評価の実施及び職員の意識改善 |
|---|---|

| 事業名 | 事業評価の実施及び職員の意識改善 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績・成果 | ・20年度運営改善コンクールにおいて採択された案件について具体的な検討を図り、一部については実施して、職員の意見を事業に反映させた。 | | | |
| 補足事項 | ・運営改善コンクール採択案件の実施状況は下記のとおりである。<br>①生理用品の自動販売機の設置について：<br>東博に2台設置（平成館・本館）、京博・奈良博・九博においては引き続き検討中。（申し出られた方には個々に対応している）<br>②撮影申込者増加のための撮影紹介パンフレットの作成・HPの掲載方法の修正（東博）：<br>パンフレットを製作した。HPについては全体リニューアル計画に含めて検討を続ける。<br>③研究者一覧（データベース）の作成：<br>学芸・研究系職員連絡協議会において具体的に検討され、各施設で漸次整備を進めている。<br>④規程集のウェブ化：<br>機構内グループウェアと合わせて検討を続ける。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。 |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |

【書式A】　　施設名 本部事務局　　処理番号 9330

| 中項目 | ⅱ-3　情報の安全性向上 |
|---|---|

| 事業名 | 情報の安全性向上 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績・成果 | 1)20年度に作成した知的財産管理体制報告書に基づき、知的財産検討ワーキンググループを設置し、規定整備のための検討を図った。<br>2)情報システム点検・評価要項に基づき、各施設において情報システム点検の実施を検討し、情報セキュリティの向上に努めた。（点検は次年度に実施する。） | | | |
| 補足事項 | | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | |
| 年度実績<br>評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） | | | | | | | | |
| 中期計画<br>記載事項 | 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 | | | | | | | | |
| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | | | | 順調 | | | | | |

【書式Ａ】　　施設名　本部事務局　　処理番号　9440

| 中項目 | ⅱ-4　人件費の削減 |
|---|---|

| 事業名 | 人件費の削減 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |

実績・成果

・人件費削減実績

| | 17年度（Ａ分類実績ベース） | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度目標値（17年度に比して△5.00%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実績（千円） | 2,878,750 | 2,789,360 | 2,773,688 | 2,745,389 | 2,688,829 | 2,734,812 |
| 前年度に対する削減率 | － | △3.11% | △0.56% | △1.02% | △2.06% | － |
| 17年度に対する削減率 | － | △3.11% | △3.65% | △4.63% | △6.60% | － |
| 17年度に対する削減率（補正値） | － | △3.11% | △4.35% | △5.33% | △4.90% | － |

・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。
・地域手当について、平成22年度において平成21年度の率を据え置く方針が決定された。

補足事項

※1　人件費削減実績表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%、△2.4%である。
※2　レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費（法定外福利費）は13,189千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人件費削減率（17年度比較） | △6.60% | 17年度決算額に比して5年間で5%削減 | － | 経年変化 | △3.11% | △3.65% | △4.63% | △6.60% |

年度実績評価総括

Ｓ　Ⓐ　Ｂ　Ｃ　Ｆ
（Ｓ、Ｆの理由）

中期計画記載事項

・「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う、更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成22年度まで継続する。

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0110

| 大項目 | ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項 |
|---|---|

| 中項目 | ⅳ-1　人事に関する計画 |
|---|---|

| 事業名 | (1)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |

実績・成果

〈事務系職員〉

・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・また、文化庁には1名の出向を行っている。
・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間（本部事務局・九州国立博物館間、本部事務局・奈良文化財研究所間、東京国立博物館・京都国立博物館間、東京国立博物館・東京文化財研究所間、京都国立博物館・奈良国立博物館間、東京文化財研究所・奈良文化財研究所等（8名））における交流を行っている。

| 年度 | 本部・東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 年度計（人） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 14（東大、西美） | 11（京大） | 7（阪大、京大、阪教大、奈女大） | 7（九大、東大） | 7（東大、医科歯科大、千葉大） | 9（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大） | 55 |
| 19 | 18（東大、医科歯科大、西美、政研大） | 11（京大） | 9（阪大、京大、阪教大、奈女大） | 7（九大、東大、九工大） | 5（東大、医科歯科大、千葉大） | 8（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大） | 58 |
| 20 | 16（東大、西美、政研大） | 10（京大、民博） | 10（文化庁、阪大、京大、北九州高専） | 8（九大、九工大） | 6（東大、医科歯科大） | 7（京大、阪大、滋賀大、総地研） | 57 |
| | | | | | | | |
| 21 | 18(文化庁、東大、東近美、政研大、京博) | 13(京大、民博、奈良博、東博) | 10(文化庁、阪大、京大、北九州高専、京博) | 11(九大、九工大、本部) | 8(東大、医科歯科大、東博、奈文研) | 8(京大、阪大、滋賀大、総地研、奈女大) | 68 (8) |

※表中の人事交流者の人数は、各年度末現在でカウントした。(機構に受け入れている人数)
※平成21年度から機構内の人事交流中の人数を含めた。合計欄の(　)内の人数。

〈研究系職員〉

・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を14名採用した。
・また、文化庁から8名の受け入れ及び文化庁への出向を14名を行っている。
・機構内での人事交流を図るため、各施設間（東京国立博物館・九州国立博物館間、京都国立博物館・奈良文化財研究所間（6名））における交流を行っている。

補足事項

・事務系職員において、近隣大学等との交流数が13法人あり、21年度は新たな法人（国立大学法人奈良女子大学)）との人事交流を行い、近隣大学等との交流範囲を拡大させ、優秀な人材を確保した。また、人事交流者数も68名と、引き続き優秀な人材を確保し、計画に対し順調に成果をあげている。
・今後の課題としては、事務系職員において、他法人からの受け入れが交流の中心となっているが、今後は双方向の人事交流を増加させる必要がある。
・研究職員については、文化庁との双方向の人事交流が行われているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ― | | | | | |

年度実績評価総括　S　Ⓐ　B　C　F
（S、Fの理由）

中期計画記載事項

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0120

| 中項目 | ⅳ-1　人事に関する計画 |
|---|---|

| 事業名 | (2)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |

実績・成果

・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3 件)、ハラスメントに関する研修（1 件）を行った。
また、今年度新たに行った研修として、施設系の職員を対象とした研修（1 件）及びクレーム対応に関する研修（1 件）を実施した。
・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。

| 研修名称 | 日程 | 受講対象者 | 受講者数 |
|---|---|---|---|
| 新任職員研修会 | H21.7.28～<br>H21.7.30 | 平成 20 年度以降の新任職員 | 44 人 |
| 接遇研修 | H21.7.28 | 平成 20 年度以降の新任職員 | 44 人 |
| 個人情報保護についての講演会 | H21.7.29 | 平成 20 年度以降の新任職員及び本部事務局､東京国立博物館､東京文化財研究所全職員及び近隣独立行政法人職員 | 約 100 人 |
| 施設系職員研修会 | H21.12.8～<br>H21.12.9 | 機構内の施設系職員 | 9 人 |
| 顧客対応研修会 | H22.1.25 | 本部事務局､東京国立博物館のクレーム対応する機会の多い職員等 | 49 人 |
| ハラスメントに関する研修会 | H22.1.28 | 本部事務局､東京国立博物館のハラスメント防止等委員会委員及び相談員等 | 18 人 |

補足事項

・新任職員に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び執務要領を修得させ、新任職員の資質の向上を図ることができた。
・接遇研修の企画及び実施により、機構職員としての資質向上を図るとともに、修得した知識等（お客様からの苦情への対応方法等）を業務に反映させることができた。
・「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」に基づき、保有個人情報の取扱いに従事する職員に対し、保有個人情報の取扱いについて、理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることができた。
・ハラスメントに関する規程を平成 20 年 4 月に整備し､ハラスメント防止等委員会を設置した。また、ハラスメント相談員及びハラスメント防止等委員会委員との連携を目的とした研修会を開催し、外部講師による専門的見地によるアドバイスから事案発生から解決方法についての相談体制を再認識することができた。
・施設系職員について、各施設だけではなく、機構全体の施設系職員としての必要な業務等についての知識及び執務要領について、意見交換等を行い、施設系職員の資質の向上を図ることができた。
・顧客対応研修の企画及び実施により、日常業務において、お客様と接する機会の多い職員にとってクレームは必ず存在する。研修を通じクレーム対する知識や具体的な対応方法を理解することができた。

定量的評価

| 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | 経年変化 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研修機会の提供 | 6 件 | | － | | － | 3 | 4 | 6 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、Fの理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

【書式Ａ】　　施設名 本部事務局　　処理番号 0130

| 中項目 | ⅳ-1　人事に関する計画 |
|---|---|

| 事業名 | (3)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 担当者 | 担当部課 | 総務企画課 | 事業責任者 | 総務企画課長　藤本慎也 |
| 実績・成果 | ・平成 19 年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行ったところである。平成 20 年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で 1 名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で 1 名採用した。<br>・平成 20 年度においては、さらに上記規定の適用を広げ、平成 21 年度において新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で 1 名、技術職員（写真技士）1 名及び技術職員（建築）1 名を奈良国立博物館で独自選考により採用をした。（計 3 名）また、平成 22 年 4 月にも技術職員（写真技士）を奈良文化財研究所で 1 名採用予定である。<br>・平成 20 年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度を新たに整備したところである。これは、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とするものである。その結果、平成 21 年度に東京国立博物館で 11 名、京都国立博物館で 1 名、奈良国立博物館で 2 名、東京文化財研究所で 5 名及び奈良文化財研究所で 3 名を採用した。（計 22 名） | | | |
| 補足事項 | ・選考の方法等については、さらに検討し、改善していく必要性があると考える。<br>・研究職員においても、人事の流動化を図りたいが、退職手当の通算の問題があるので、難しい状況にある。 | | | |

| 定量的評価 | 項目 | 実績 | 目標値 | 評価 | | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 機構独自の採用 | 25 名 | | － | 経年変化 | － | － | 6 名 | 25 名 |

| 年度実績評価総括 | S　Ⓐ　B　C　F<br>（S、F の理由） |
|---|---|
| 中期計画記載事項 | |

| 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 | 順調 |
|---|---|

# Ⅲ　施設概要

## 【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 土地面積 | １２０，２５８（黒田記念館、柳瀬荘含む） | | |
| 建物 | 建築面積 | | ２１，８９６ |
| | 延面積 | | ７１，６４２ |
| 展示館 | 展示面積 | 計 | １８，２３５ |
| | 収蔵庫面積 | 計 | ８，８１５ |
| | 本館 | 建 | ６，６０２ |
| | | 延 | ２２，４１６ |
| | | 展示面積 | ７，３４６ |
| | | 収蔵庫面積 | ４，０８７ |
| | 東洋館 | 建 | ２，８９２ |
| | ※耐震改修工事のため | 延 | １２，５３１ |
| | 休館中 | 展示面積 | ３，４０９ |
| | | 収蔵庫面積 | ２，２９３ |
| | 平成館 | 建 | ５，５２９ |
| | | 延 | １９，３９３ |
| | | 展示面積 | ４，４７１ |
| | | 収蔵庫面積 | ２，１１９ |
| | 法隆寺宝物館 | 建 | １，９３５ |
| | | 延 | ４，０３１ |
| | | 展示面積 | １，４６２ |
| | | 収蔵庫面積 | ２９１ |
| | 表慶館 | 建 | １，１３０ |
| | | 延 | ２，０７７ |
| | | 展示面積 | ６３７ |
| | | 収蔵庫面積 | ５４２ |
| | 黒田記念館 | 建 | ７０５ |
| | | 延 | １，９５８ |
| | | 展示面積 | ３６８ |
| | | 収蔵庫面積 | ２５ |
| | その他 | 建 | ３，１０３ |
| | | 延 | ９，２３６ |

## 【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 土地面積 | ５３，１８２ | | |
| 建物 | 建築面積 | | ７，９４９ |
| | 延面積 | | １３，８３１ |
| 展示館 | 展示面積 | 計 | ２，０７０ |
| | 収蔵庫面積 | 計 | ２，７１１ |
| | 特別展示館 | 建 | ３，０１５ |
| | | 延 | ３，０１５ |
| | | 展示面積 | ２，０７０ |
| | | 収蔵庫面積 | ８０３ |
| | 管理棟 | 建 | ５９０ |
| | | 延 | １，９５４ |
| | 資料棟 | 建 | ４１４ |
| | | 延 | １，１２５ |
| | 文化財保存修理所 | 建 | ７２８ |
| | | 延 | ２，８５６ |
| | 技術資料参考館 | 建 | １０１ |
| | | 延 | ３０４ |
| | 東収蔵庫 | 建 | １，０８４ |
| | | 延 | １，９９６ |
| | | 収蔵庫面積 | １，４１２ |
| | 北収蔵庫 | 建 | ３１０ |
| | | 延 | ６８２ |
| | | 収蔵庫面積 | ４９６ |
| | その他 | 建 | １，７０７ |
| | | 延 | １，８９９ |

## 【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 土地面積 | ７８，７６０ | | |
| 建物 | 建築面積 | | ６，７６９ |
| | 延面積 | | １９，１１６ |
| 展示館 | 展示面積 | 計 | ４，０７９ |
| | 収蔵庫面積 | 計 | １，５５８ |
| | 本館 | 建 | １，５１２ |
| | | 延 | １，５１２ |
| | | 展示面積 | １，２６１ |
| | 本館付属棟 | 建 | ３４１ |
| | | 延 | ６６４ |
| | | 展示面積 | ４７０ |
| | 東新館 | 建 | １，８２５ |
| | | 延 | ６，３８９ |
| | | 展示面積 | ８７５ |
| | | 収蔵庫面積 | １，３９４ |
| | 西新館 | 建 | １，６４９ |
| | | 延 | ５，３９６ |
| | | 展示面積 | １，４７３ |
| | 仏教美術資料研究センター | 建 | ７１８ |
| | | 延 | ７１８ |
| | 文化財保存修理所 | 建 | ３１９ |
| | | 延 | １，０３６ |
| | 地下回廊 | 延 | ２，１５２ |
| | | 収蔵庫面積 | １６４ |
| | その他 | 建 | ４０５ |
| | | 延 | １，２４９ |

## 【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 土地面積 | １６０，７１５ | | |
| | | | （法人　１０，７３３<br>県　１４９，９８２） |
| 建物 | 建築面積 | | １４，６２３ |
| | 延面積 | | ３０，６７５ |
| | | | （法人　９，０４８<br>県　６，０３４<br>共用　１５，５９３） |
| 展示館 | 展示面積 | 計 | ５，４４４ |
| | | | （法人　３，８４４<br>県　１，３７５<br>共用　２２５） |
| | 収蔵庫面積 | 計 | ４，５１８ |
| | | | （法人　２，７４４<br>県　１，３３５<br>共用　４３９） |

## 【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

| | | |
|---|---|---|
| 土地面積 | ４，１８１ | |
| 建物 | 建築面積 | ２，２５８ |
| | 延面積 | １０，６２３ |

## 【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

| | 土地面積 | 建物 | |
|---|---|---|---|
| 本館地区 | ８，８６０ | 建築面積<br>延面積 | ２，７５４<br>６，７５５ |
| 平城宮跡資料館地区 | （文化庁所属の国有地を無償使用） | 建築面<br>延面積 | １０，６３１<br>１６，１５０ |
| 都城発掘調査部<br>（飛鳥・藤原地区） | ２０，５１５ | 建築面積<br>延面積 | ６，０１６<br>９，４７７ |
| 飛鳥資料館地区 | １７，０９３ | 建築面積<br>延面積 | ２，６５７<br>４，４０４ |

# Ⅳ　財務諸表

## 目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類（案）

６．注記（重要な会計方針等）

７．附属明細書

# 貸借対照表

平成22年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

| 科目 | 金額 | | 科目 | 金額 | |
|---|---|---|---|---|---|
| （資産の部） | | | （負債の部） | | |
| Ⅰ　流動資産 | | | Ⅰ　流動負債 | | |
| 現金及び預金 | | 4,157,564,471 | 運営費交付金債務 | | 1,197,476,126 |
| たな卸資産 | | 30,383,399 | 預り施設費 | | 500 |
| 前払費用 | | 2,501,765 | 預りその他補助金 | | 6,174,684 |
| 未収金 | | 600,554,524 | 預り寄附金 | | 144,245,003 |
| その他の流動資産 | | 17,813 | 未払金 | | 2,447,885,516 |
| 流動資産合計 | | 4,791,021,972 | 未払費用 | | 59,260,820 |
| Ⅱ　固定資産 | | | 預り金 | | 228,826,536 |
| 1有形固定資産 | | | その他の流動負債 | | 3,747,443 |
| 建物 | 56,771,951,111 | | 流動負債合計 | | 4,087,616,628 |
| 減価償却累計額 | −14,629,114,046 | 42,142,837,065 | Ⅱ　固定負債 | | |
| 構築物 | 3,483,437,034 | | 資産見返負債 | | |
| 減価償却累計額 | −1,411,972,630 | 2,071,464,404 | 資産見返運営費交付金 | 2,037,901,163 | |
| 機械・装置 | 174,230,927 | | 資産見返寄附金 | 106,303,239 | |
| 減価償却累計額 | −151,943,598 | 22,287,329 | 資産見返物品受贈額 | 98,805,214 | |
| 車両運搬具 | 48,396,913 | | 資産見返その他補助金 | 161,462,351 | |
| 減価償却累計額 | −36,520,442 | 11,876,471 | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 126,366,975 | |
| 工具器具備品 | 4,286,276,635 | | 建設仮勘定見返施設費 | 2,962,827,701 | |
| 減価償却累計額 | −2,523,197,585 | 1,763,079,050 | 資産見返負債合計 | 5,493,666,643 | |
| 収蔵品 | | 99,520,608,546 | その他の固定負債 | | |
| 土地 | | 44,410,675,104 | 長期未払金 | 39,291,138 | |
| 建設仮勘定 | | 3,092,817,176 | 固定負債合計 | | 5,532,957,781 |
| 有形固定資産合計 | | 193,035,645,145 | 負債合計 | | 9,620,574,409 |
| 2無形固定資産 | | | | | |
| ソフトウエア | | 144,289,616 | （純資産の部） | | |
| 電話加入権 | | 5,266,800 | Ⅰ　資本金 | | |
| 無形固定資産合計 | | 149,556,416 | 政府出資金 | | 104,713,813,740 |
| 3投資その他の資産 | | | 資本金合計 | | 104,713,813,740 |
| 保証金 | | 701,000 | Ⅱ　資本剰余金 | | |
| 長期前払費用 | | 80,843 | 資本剰余金 | | 99,214,913,973 |
| 投資その他の資産合計 | | 781,843 | 損益外減価償却累計額（−） | | −16,733,564,683 |
| 固定資産合計 | | 193,185,983,404 | 損益外減損損失累計額（−） | | −2,343,600 |
| | | | 資本剰余金合計 | | 82,479,005,690 |
| | | | Ⅲ　利益剰余金 | | |
| | | | 前中期目標期間繰越積立金 | | 11,066,059 |
| | | | 積立金 | | 1,005,041,058 |
| | | | 当期未処分利益 | | 147,504,420 |
| | | | （うち当期総利益　147,504,420） | | |
| | | | 利益剰余金合計 | | 1,163,611,537 |
| | | | 純資産合計 | | 188,356,430,967 |
| 資産合計 | | 197,977,005,376 | 負債純資産合計 | | 197,977,005,376 |

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,332,672,972円であります。

（注）運営費交付金から充当されるべき賞与の見積額は217,064,406円であります。

# 損益計算書

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 経常費用 | | | |
| 業務費 | | | |
| 人件費 | | 3,002,635,049 | |
| 業務経費 | | | |
| 調査研究業務費 | 1,392,700,649 | | |
| 情報公開業務費 | 124,391,831 | | |
| 研修業務費 | 17,025,711 | | |
| 国際研究協力業務費 | 222,221,128 | | |
| 展示出版業務費 | 179,100,433 | | |
| 展覧業務費 | 979,820,135 | | |
| 教育普及業務費 | 68,148,064 | | |
| 受託業務費 | 483,921,124 | | |
| その他業務費 | 913,923,316 | 4,381,252,391 | |
| 減価償却費 | | 345,665,967 | 7,729,553,407 |
| 一般管理費 | | | |
| 人件費 | 839,932,312 | | |
| 一般管理経費 | 1,043,162,936 | | |
| 減価償却費 | 84,447,665 | 1,967,542,913 | |
| 財務費用 | | 1,557,240 | |
| 雑損 | | 1,387,422 | 1,970,487,575 |
| 経常費用合計 | | | 9,700,040,982 |
| 経常収益 | | | |
| 運営費交付金収益 | | 6,364,424,802 | |
| 受託収入 | | | |
| 政府関係受託収入 | | 444,054,333 | |
| 地方自治体・民間受託収入 | | 109,596,629 | |
| 入場料収入 | | 1,322,153,581 | |
| 展示事業等附帯収入 | | 370,472,125 | |
| 財産利用収入 | | 159,358,985 | |
| 寄附金収益 | | 122,667,156 | |
| 施設費収益 | | 142,934,787 | |
| その他補助金収益 | | 376,055,523 | |
| 資産見返負債戻入 | | | |
| 資産見返運営費交付金戻入 | 378,664,163 | | |
| 資産見返寄附金戻入 | 19,244,797 | | |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 4,937,509 | | |
| 資産見返その他補助金戻入 | 4,279,557 | | |
| 建設仮勘定見返施設費戻入 | 10,783,868 | 417,909,894 | |
| 財務収益 | | | |
| 受取利息 | | 23,033 | |
| その他財務収益 | | 2,754 | |
| 雑益 | | 17,684,040 | |
| 経常収益合計 | | | 9,847,337,642 |
| 経常利益 | | | 147,296,660 |
| 臨時損失 | | | |
| 固定資産除却損 | | | 349,487,875 |
| | | | 349,487,875 |
| 臨時利益 | | | |
| 資産見返運営費交付金戻入 | | | 911,043 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | | | 8,972,810 |
| 建設仮勘定見返施設費戻入 | | | 332,438,809 |
| その他臨時利益 | | | 4,511,483 |
| | | | 346,834,145 |
| 当期純利益 | | | 144,642,930 |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩額 | | | 2,861,490 |
| 当期総利益 | | | 147,504,420 |

# キャッシュ・フロー計算書

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

| | |
|---|---|
| Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 人件費支出 | −3,827,406,171 |
| 業務支出 | −4,862,060,988 |
| 科学研究費支出 | −342,949,968 |
| 運営費交付金収入 | 8,367,412,000 |
| 科学研究費収入 | 307,099,000 |
| 展示事業等収入 | 1,828,312,463 |
| 財産利用収入 | 172,432,250 |
| 受託収入 | 434,471,271 |
| 寄附金収入 | 168,089,538 |
| その他補助金による収入 | 547,972,115 |
| その他の業務収入 | 68,539,866 |
| 小計 | 2,861,911,376 |
| 利息の受取額 | 23,033 |
| 利息の支払額 | −1,557,240 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 2,860,377,169 |
| | |
| Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 施設費による収入 | 2,319,643,179 |
| 有形固定資産の取得による支出 | −4,271,042,909 |
| 無形固定資産の取得による支出 | −74,147,850 |
| その他投資活動による収入 | 208,750 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | −2,025,338,830 |
| | |
| Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| リース債務の支払による支出 | −20,461,703 |
| | |
| Ⅳ　資金増加額 | 814,576,636 |
| Ⅴ　資金期首残高 | 3,342,987,835 |
| Ⅵ　資金期末残高 | 4,157,564,471 |

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

| | |
|---|---|
| 現金及び預金勘定 | 4,157,564,471 円 |
| 資金期末残高 | 4,157,564,471 |

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

| | |
|---|---|
| 陳列品 | 396,018,633 |
| その他の有形固定資産 | 857,850 |
| 合計 | 396,876,483 |

# 行政サービス実施コスト計算書

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

| | | |
|---|---|---|
| Ⅰ　業務費用 | | |
| 損益計算書上の費用 | | |
| 業務費 | 7,729,553,407 | |
| 一般管理費 | 1,967,542,913 | |
| 財務費用 | 1,557,240 | |
| 雑損 | 1,387,422 | |
| 臨時損失 | 349,487,875 | 10,049,528,857 |
| （控除） | | |
| 受託収入 | −553,650,962 | |
| 入場料収入 | −1,322,153,581 | |
| 展示事業附帯収入 | −292,080,477 | |
| 財産利用収入 | −159,358,985 | |
| 寄附金収益 | −122,667,156 | |
| 財務収益 | −25,787 | |
| 雑益 | −17,684,040 | |
| 資産見返寄附金戻入 | −19,244,797 | |
| 臨時利益 | −4,511,483 | −2,491,377,268 |
| Ⅱ　損益外減価償却相当額 | | |
| 損益外減価償却相当額 | 2,295,888,675 | |
| 損益外固定資産除売却相当額 | 155,326 | 2,296,044,001 |
| Ⅲ　引当外賞与見積額 | | −9,349,658 |
| Ⅳ　引当外退職給付増加見積額 | | −69,258,034 |
| Ⅴ　機会費用 | | |
| 国有財産無償使用の機会費用 | 137,200,903 | |
| 政府出資等の機会費用 | 2,515,120,559 | 2,652,321,462 |
| Ⅵ　行政サービス実施コスト | | 12,427,909,360 |

（注記）

・国有財産無償使用の機会費用の計算方法については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）を準用しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、国債の利回り及び昨今の市場情勢を勘案し、1.395%としております。

# 利益の処分に関する書類（案）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

| | | |
|---|---|---|
| Ⅰ　当期未処分利益 | | 147,504,420 |
| 当期総利益 | 147,504,420 | |
| Ⅱ　利益処分額 | | |
| 積立金 | 6,882,887 | |
| 独立行政法人通則法 | | |
| 第４４条第３項により | | |
| 主務大臣の承認を受けようとする額 | | |
| 業務拡充積立金 | 140,621,533 | 147,504,420 |

# 注記事項

## Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

| | |
|---|---|
| 建物 | ２年～５８年 |
| 構築物 | ２年～６３年 |
| 機械装置 | ２年～　５年 |
| 車両運搬具 | ２年～　７年 |
| 工具器具備品 | ２年～２０年 |

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産

定額法により行っております。なお、法人内利用のソフトウエアについては、法人内における利用可能期間（５年）に基づいております。

３．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の退職給付については運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額の当期増加額に基づき計上しております。

４．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品･･･最終仕入原価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

（１）国有財産無償使用の機会費用の計算方法

国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第１号）を準用して算出しております。

（２）政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

１０年利付国債の平成２２年３月末利回りを参考にして１．３９５％で計算しております。

８．リース取引の処理方法

リース料総額が３００万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が３００万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

９．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

（追加情報）

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（独立行政法人会計基準研究会　平成 22 年 3 月 30 日最終改訂）並びに「「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」に関するＱ＆Ａ」（総務省行政管理局、財務省主計局、日本公認会計士協会平成 22 年 4 月最終改訂）を適用しております。

**Ⅱ．固定資産の減損**

該当なし

**Ⅲ．重要な債務負担行為**

| | |
|---|---|
| 東京国立博物館東洋館耐震補強改修工事 | 1,955,051,884 円 |
| 東京国立博物館東洋館設備改修等工事 | 656,541,000 円 |
| 京都国立博物館平常展示館建替工事 | 4,460,523,000 円 |
| 奈良国立博物館西新館耐震補強改修工事 | 312,441,300 円 |
| 奈良国立博物館仏教美術センター耐震補強改修工事 | 117,759,900 円 |
| 奈良国立博物館西新館免震ケース設置工事 | 810,137,700 円 |
| 合　　計 | 8,312,454,784 円 |

**Ⅳ．金融商品関係**

（１）金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については短期的な預金に限定し、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

（２）金融商品の時価等

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

| | 貸借対照表<br>計 上 額 | 時　　価 | 差　　額 |
|---|---|---|---|
| (1)現金及び預金 | 4,157,564,471 | 4,157,564,471 | ― |
| (2)未払金 | (2,447,885,516) | (2,447,885,516) | ― |

(注)負債に計上されているものは、(　) で示しております。

(注１)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

(1)現金及び預金、(2)未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（追加情報）

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第 10 号　平成 20 年 3 月 10 日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第 19 号　平成 20 年 3 月 10 日）を適用しております。

## Ⅴ．賃貸等不動産関係

当法人は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

（追加情報）

当事業年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第20号　平成20年11月28日）及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第23号　平成20年11月28日）を適用しております。

# 第3期　附属明細書

自：平成21年 4月 1日
至：平成22年 3月31日

１．　固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第87特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　法令に基づく引当金等の明細

８．　保証債務の明細

９．　資本金及び資本剰余金の明細

１０．　積立金の明細

１１．　目的積立金の取崩しの明細

１２．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１３．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１４．　役員及び職員の給与の明細

１５．　セグメント情報

１６．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

## 1．固定資産の取得及び処分並びに減価償却費(「第87特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失の明細

(単位:円)

| 資産の種類 | | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 | 減価償却累計額 | | 減損損失累計額 | | | 差引当期末残高 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 当期償却額 | | 当期損益内 | 当期損益外 | | |
| 有形固定資産(償却費損益内) | 建物 | 1,496,203,419 | 140,699,880 | 0 | 1,636,903,299 | 461,878,523 | 102,340,736 | 0 | 0 | 0 | 1,175,024,776 | |
| | 構築物 | 69,663,674 | 48,186,810 | 0 | 117,850,484 | 18,156,220 | 5,757,726 | 0 | 0 | 0 | 99,694,264 | |
| | 機械装置 | 319,725 | 0 | 0 | 319,725 | 287,752 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31,973 | |
| | 車両運搬具 | 40,157,201 | 2,394,000 | 1,167,040 | 41,384,161 | 30,719,670 | 3,142,540 | 0 | 0 | 0 | 10,664,491 | |
| | 工具器具備品 | 2,293,764,690 | 386,643,218 | 96,492,164 | 2,583,915,744 | 1,511,299,617 | 273,435,363 | 0 | 0 | 0 | 1,072,616,127 | |
| | 計 | 3,900,108,709 | 577,923,908 | 97,659,204 | 4,380,373,413 | 2,022,341,782 | 384,676,365 | 0 | 0 | 0 | 2,358,031,631 | |
| 有形固定資産(償却費損益外) | 建物 | 54,899,655,880 | 235,477,932 | 86,000 | 55,135,047,812 | 14,167,235,523 | 1,960,663,277 | 0 | 0 | 0 | 40,967,812,289 | |
| | 構築物 | 3,327,947,701 | 37,638,849 | 0 | 3,365,586,550 | 1,393,816,410 | 122,969,422 | 0 | 0 | 0 | 1,971,770,140 | |
| | 機械装置 | 175,265,571 | 0 | 1,354,369 | 173,911,202 | 151,655,846 | 9,198,304 | 0 | 0 | 0 | 22,255,356 | |
| | 車両運搬具 | 7,012,752 | 0 | 0 | 7,012,752 | 5,800,772 | 1,181,178 | 0 | 0 | 0 | 1,211,980 | |
| | 工具器具備品 | 1,591,829,525 | 16,275,000 | 0 | 1,608,104,525 | 1,011,897,968 | 201,123,718 | 0 | 0 | 0 | 596,206,557 | |
| | 計 | 60,001,711,429 | 289,391,781 | 1,440,369 | 60,289,662,841 | 16,730,406,519 | 2,295,135,899 | 0 | 0 | 0 | 43,559,256,322 | |
| 非償却資産 | 工具器具備品 | 91,894,183 | 2,362,183 | 0 | 94,256,366 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 94,256,366 | その他有形固定資産含む |
| | 収蔵品 | 97,361,532,121 | 2,159,076,425 | 0 | 99,520,608,546 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 99,520,608,546 | 購入・寄贈による増 |
| | 土地 | 44,410,675,104 | 0 | 0 | 44,410,675,104 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 44,410,675,104 | |
| | 建設仮勘定 | 1,663,388,000 | 2,019,718,095 | 590,288,919 | 3,092,817,176 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,092,817,176 | 京博平常展示館建替工事等による増 |
| | 計 | 143,527,489,408 | 4,181,156,703 | 590,288,919 | 147,118,357,192 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 147,118,357,192 | |
| 有形固定資産合計 | 建物 | 56,395,859,299 | 376,177,812 | 86,000 | 56,771,951,111 | 14,629,114,046 | 2,063,004,013 | 0 | 0 | 0 | 42,142,837,065 | |
| | 構築物 | 3,397,611,375 | 85,825,659 | 0 | 3,483,437,034 | 1,411,972,630 | 128,727,148 | 0 | 0 | 0 | 2,071,464,404 | |
| | 機械装置 | 175,585,296 | 0 | 1,354,369 | 174,230,927 | 151,943,598 | 9,198,304 | 0 | 0 | 0 | 22,287,329 | |
| | 車両運搬具 | 47,169,953 | 2,394,000 | 1,167,040 | 48,396,913 | 36,520,442 | 4,323,718 | 0 | 0 | 0 | 11,876,471 | |
| | 工具器具備品 | 3,977,488,398 | 405,280,401 | 96,492,164 | 4,286,276,635 | 2,523,197,585 | 474,559,081 | 0 | 0 | 0 | 1,763,079,050 | その他有形固定資産含む |
| | 収蔵品 | 97,361,532,121 | 2,159,076,425 | 0 | 99,520,608,546 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 99,520,608,546 | |
| | 土地 | 44,410,675,104 | 0 | 0 | 44,410,675,104 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 44,410,675,104 | |
| | 建設仮勘定 | 1,663,388,000 | 2,019,718,095 | 590,288,919 | 3,092,817,176 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,092,817,176 | |
| | 計 | 207,429,309,546 | 5,048,472,392 | 689,388,492 | 211,788,393,446 | 18,752,748,301 | 2,679,812,264 | 0 | 0 | 0 | 193,035,645,145 | |
| 無形固定資産(償却費損益内) | ソフトウエア | 220,385,745 | 74,538,206 | 0 | 294,923,951 | 150,921,032 | 45,437,267 | 0 | 0 | 0 | 144,002,919 | |
| | 電話加入権 | 4,914,000 | 0 | 0 | 4,914,000 | 0 | 0 | 2,343,600 | 0 | 0 | 2,570,400 | |
| | 計 | 225,299,745 | 74,538,206 | 0 | 299,837,951 | 150,921,032 | 45,437,267 | 2,343,600 | 0 | 0 | 146,573,319 | |
| 無形固定資産(償却費損益外) | ソフトウエア | 4,571,861 | 0 | 1,127,000 | 3,444,861 | 3,158,164 | 752,776 | 0 | 0 | 0 | 286,697 | |
| | 電話加入権 | 2,696,400 | 0 | 0 | 2,696,400 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,696,400 | |
| | 計 | 7,268,261 | 0 | 1,127,000 | 6,141,261 | 3,158,164 | 752,776 | 0 | 0 | 0 | 2,983,097 | |
| 無形固定資産合計 | ソフトウエア | 224,957,606 | 74,538,206 | 1,127,000 | 298,368,812 | 154,079,196 | 46,190,043 | 0 | 0 | 0 | 144,289,616 | |
| | 電話加入権 | 7,610,400 | 0 | 0 | 7,610,400 | 0 | 0 | 2,343,600 | 0 | 0 | 5,266,800 | |
| | 計 | 232,568,006 | 74,538,206 | 1,127,000 | 305,979,212 | 154,079,196 | 46,190,043 | 2,343,600 | 0 | 0 | 149,556,416 | |
| 投資その他の資産 | 保証金 | 1,283,000 | 86,000 | 668,000 | 701,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 701,000 | |
| | 長期前払費用 | 48,175 | 80,843 | 48,175 | 80,843 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80,843 | |
| | 計 | 1,331,175 | 166,843 | 716,175 | 781,843 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 781,843 | |

## 2. たな卸資産の明細

（単位：円）

| 種　　類 | 期首残高 | 当期増加額 | | 当期減少額 | | 期末残高 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 当期購入・製造・振替 | その他 | 払出・振替 | その他 | | |
| 貯蔵品等 | 34,935,842 | 26,349,995 | 0 | 18,301,336 | 12,601,102 | 30,383,399 | |
| 計 | 34,935,842 | 26,349,995 | 0 | 18,301,336 | 12,601,102 | 30,383,399 | |

（注）当期減少額その他は、経年等による売却可能性のないものについての評価替えによるものであります。

## 3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

## 4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

## 5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

## 6. 引当金の明細

当該年度は引当金を計上していないため、記載を省略しております。

## 7. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

## 8. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

## 9. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位:円）

| 区　　分 | | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 資 本 金 | 政府出資金 | 104,713,813,740 | 0 | 0 | 104,713,813,740 | |
| | 計 | 104,713,813,740 | 0 | 0 | 104,713,813,740 | |
| 資本剰余金 | 資本剰余金 | | | | | |
| | 施設費補助金 | 3,371,272,930 | 289,391,781 | 0 | 3,660,664,711 | 京都国立博物館施設整備費補助金分 |
| | 目的積立金 | 469,592,463 | 0 | 0 | 469,592,463 | |
| | 運営費交付金 | 8,571,362,528 | 1,764,561,683 | 0 | 10,335,924,211 | 収蔵品購入 |
| | 寄附金等 | 54,000,000 | 857,850 | 0 | 54,857,850 | その他有形固定資産の取得 |
| | 贈与 | 85,280,559,876 | 396,018,633 | 0 | 85,676,578,509 | 収蔵品の贈与 |
| | 収蔵品編入 | 2,041,479 | 442 | 0 | 2,041,921 | 一般物品から収蔵品への編入 |
| | 損益外固定資産除売却差額 | −982,178,323 | −2,567,369 | 0 | −984,745,692 | 出資財産等の除却 |
| | 計 | 96,766,650,953 | 2,448,263,020 | 0 | 99,214,913,973 | |
| | 損益外減価償却累計額 | −14,440,088,051 | −2,295,888,675 | −2,412,043 | −16,733,564,683 | 出資財産等の減価償却及び除去 |
| | 損益外減損損失累計額 | −2,343,600 | 0 | 0 | −2,343,600 | |
| | 差引計 | 82,324,219,302 | 152,374,345 | −2,412,043 | 82,479,005,690 | |

## 10. 積立金の明細

（単位:円）

| 区　　分 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 通則法44条1項積立金 | 701,196,259 | 303,844,799 | 0 | 1,005,041,058 | （注1） |
| 前中期目標期間繰越積立金 | 13,927,549 | 0 | 2,861,490 | 11,066,059 | （注2） |
| 合　計 | 715,123,808 | 303,844,799 | 2,861,490 | 1,016,107,117 | |

（注1）通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成20年度利益処分によるものであります。
（注2）前中期目標期間繰越積立金の当期減少額の内訳は次のとおりであります。
　ファイナンス・リース損益に係る取崩額　586,912
　受託研究費購入資産分に係る減価償却相当分　2,274,578

## 11. 目的積立金の取崩しの明細

（単位:円）

| 区　　分 | | 金　　額 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|
| 目的積立金取崩額 | 前中期目標期間繰越積立金 | 586,912 | ファイナンス・リース損益にかかる取崩額 |
| | 前中期目標期間繰越積立金 | 2,274,578 | 受託研究費取得資産減価償却分 |
| | 計 | 2,861,490 | |

## 12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

| 交付年度 | 期首残高 | 交付金当期交付額 | 当期振替額 | | | | | 期末残高 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 運営費交付金収益 | 資産見返運営費交付金 | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 資本剰余金 | 小計 | |
| 20年度 | 1,349,950,272 | 0 | 289,312,343 | 56,510,501 | 0 | 924,220,428 | 1,270,043,272 | 79,907,000 |
| 21年度 | 0 | 8,367,412,000 | 6,075,112,459 | 330,872,185 | 3,516,975 | 840,341,255 | 7,249,842,874 | 1,117,569,126 |
| 合計 | 1,349,950,272 | 8,367,412,000 | 6,364,424,802 | 387,382,686 | 3,516,975 | 1,764,561,683 | 8,519,886,146 | 1,197,476,126 |

(2)運営費交付金債務の当期振替額の明細
①平成20年度交付分　　(単位:円)

| 区分 | | 金額 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 業務達成基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 289,312,343 | ①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの<br><br>②当該業務に係る損益等<br>ア)損益計算書に計上した費用の額:289,312,343円<br>(退職手当:6,891,000円、一般管理費:1,750,000円、調査研究事業費:46,071,067円、情報公開事業費:6,268,000円、展覧事業費:228,332,276円)<br>イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし<br>ウ)固定資産の取得額:980,730,929円<br>(陳列品購入費:924,220,428円、調査研究事業費:19,803,000円、情報公開事業費:5,040,000円、展覧事業費:31,667,501円)<br><br>③運営費交付金収益化額の積算根拠<br>業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化 |
| | 資産見返運営費交付金 | 56,510,501 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | |
| | 資本剰余金 | 924,220,428 | |
| | 計 | 1,270,043,272 | |
| 期間進行基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 0 | ― |
| | 資産見返運営費交付金 | 0 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | |
| | 資本剰余金 | 0 | |
| | 計 | 0 | |
| 費用進行基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 0 | ― |
| | 資産見返運営費交付金 | 0 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | |
| | 資本剰余金 | 0 | |
| | 計 | 0 | |
| 会計基準第81第3項による振替額 | | 0 | |
| 合計 | | 1,270,043,272 | |

②平成21年度交付分　（単位：円）

| 区　分 | | 金 額 | 内　容 |
|---|---|---|---|
| 業務達成基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 2,378,423,767 | ①業務達成基準を採用した経費：人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの<br><br>②当該業務に係る損益等<br>ア）損益計算書に計上した費用の額：2,378,423,767円<br>（退職手当：235,526,288円、一般管理費：324,254円、調査研究事業費：823,804,008円、情報公開事業費：156,549,795円、研修事業費：16,622,000円、国際研究協力事業費：277,311,000円、展示出版事業費：138,375,415円、展覧事業費：716,086,278円、教育普及事業費：13,824,729円）<br>イ）自己収入に係る収益計上額：1,992,361,674円<br>（入場料収入：1,322,153,581円、展示事業等附帯収入：370,472,125円、財産利用収入：159,358,985円、寄附金収益：122,667,156円、財務収益：25,787円、雑益：17,684,040円）<br>ウ）固定資産の取得額：1,152,414,784円<br>（陳列品購入費：834,997,072円、調査研究事業費：160,972,173円、情報公開事業費：11,434,205円、国際研究協力事業費：580,000円、展示出版業務費：47,588,585円、展覧事業費：90,648,653円、教育普及事業費：6,194,096円）<br><br>③運営費交付金収益化額の積算根拠<br>業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化 |
| | 資産見返運営費交付金 | 312,073,529 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | |
| | 資本剰余金 | 840,341,255 | |
| | 計 | 3,530,838,551 | |
| 期間進行基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 3,696,217,693 | ①期間進行基準を採用した経費：人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費及び管理部門の経費（特に指定するものを除く）並びに減価償却費<br><br>②当該業務に係る損益等<br>ア）損益計算書に計上した費用の額：3,696,217,693円<br>（役職員給与：2,690,016,000円、法定福利費：309,750,000円、一般管理費：696,451,693円）<br>イ）自己収入に係る収益計上額：該当なし<br>ウ）固定資産の取得額：22,315,631円（一般管理費）<br><br>③運営費交付金収益化額の積算根拠<br>期間が経過したので、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化 |
| | 資産見返運営費交付金 | 18,798,656 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 3,516,975 | |
| | 資本剰余金 | 0 | |
| | 計 | 3,718,533,324 | |
| 費用進行基準による振替額 | 運営費交付金収益 | 470,999 | ①費用進行基準を採用した経費：財務費用<br><br>②当該業務に係る損益等<br>ア）損益計算書に計上した費用の額：470,999円<br>イ）自己収入に係る収益計上額：該当なし<br>ウ）固定資産の取得額：該当なし<br><br>③運営費交付金収益化額の積算根拠<br>経費等の全額を運営費交付金収益として収益化 |
| | 資産見返運営費交付金 | 0 | |
| | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 0 | |
| | 資本剰余金 | 0 | |
| | 計 | 470,999 | |
| 会計基準第81第3項による振替額 | | 0 | |
| 合　計 | | 7,249,842,874 | |

(3)運営費交付金債務残高の明細　（単位：円）

| 交付年度 | 運営費交付金債務残高 | | 残高の発生理由及び収益化等の計画 |
|---|---|---|---|
| 20年度 | 業務達成基準を採用した業務に係る分 | 79,907,000 | ①業務達成基準を採用した業務は全ての業務である。<br>②運営費交付金債務残高は、陳列品購入費、退職手当など翌年度に執行予定の運営費交付金の計画額である。<br>③繰り越した運営費交付金債務残高については、平成22年度において資本剰余金等への振替及び収益化を行う予定である。 |
| | 期間進行基準を採用した業務に係る分 | 0 | |
| | 費用進行基準を採用した業務に係る分 | 0 | |
| | 計 | 79,907,000 | |
| 21年度 | 業務達成基準を採用した業務に係る分 | 1,117,569,126 | ①業務達成基準を採用した業務は全ての業務である。<br>②運営費交付金債務残高は、陳列品購入費、文化財修理、平常展示リニューアルなど翌年度に執行予定の運営費交付金の計画額である。<br>③繰り越した運営費交付金債務残高については、平成22年度において資本剰余金等への振替及び収益化を行う予定である。 |
| | 期間進行基準を採用した業務に係る分 | 0 | |
| | 費用進行基準を採用した業務に係る分 | 0 | |
| | 計 | 1,117,569,126 | |
| 合　計 | | 1,197,476,126 | |

## 13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

施設費の明細　　（単位:円）

| 区　分 | 当期交付額 | 左の会計処理内訳 | | | | 期末残高 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 建設仮勘定見返施設費 | 資本剰余金 | その他 | 小　計 | | |
| 東京国立博物館<br>東洋館耐震補強改修工事 | 891,357,036 | 891,116,520 | 0 | 240,516 | 891,357,036 | 0 | |
| 東京国立博物館<br>東洋館設備改修工事 | 444,769,500 | 444,769,000 | 0 | 0 | 444,769,000 | 500 | |
| 京都国立博物館<br>平常展示館建替工事 | 224,130,500 | 14,477,000 | 137,392,500 | 72,261,000 | 224,130,500 | 0 | |
| 奈良国立博物館<br>西新館耐震補強工事 | 386,187,336 | 384,636,000 | 0 | 1,551,336 | 386,187,336 | 0 | |
| 奈良国立博物館<br>西新館免震展示ケース<br>設置工事 | 13,541,689 | 12,106,500 | 0 | 1,435,189 | 13,541,689 | 0 | |
| 奈良国立博物館<br>仏教美術資料研究センター<br>耐震補強工事 | 110,535,684 | 108,759,000 | 0 | 1,776,684 | 110,535,684 | 0 | |
| 奈良文化財研究所<br>平城宮跡資料館公開展示部門<br>機能充実整備等工事 | 141,503,201 | 0 | 75,833,139 | 65,670,062 | 141,503,201 | 0 | |
| 合　計 | 2,212,024,946 | 1,855,864,020 | 213,225,639 | 142,934,787 | 2,212,024,446 | 500 | |

(注)その他の内訳は、「施設費収益:142,934,787円」であります。

文化芸術情報電子化推進費補助金の明細　　（単位:円）

| 区　分 | 当期交付額 | 左の会計処理内訳 | | | | 期末残高 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 建設仮勘定見返補助金 | 資産見返補助金 | 収益計上 | 小　計 | | |
| 重要文化財の高精細デジタルアーカイブ化事業 | 547,972,115 | 0 | 161,462,351 | 380,335,080 | 541,797,431 | 6,174,684 | |
| 合　計 | 547,972,115 | 0 | 161,462,351 | 380,335,080 | 541,797,431 | 6,174,684 | |

(注)収益計上の内訳は、「補助金収益:376,055,523円」「資産見返補助金戻入:4,279,557円」であります。

## 14. 役員及び職員の給与の明細

| 区分 | 報酬又は給与 | | 退職手当 | |
|---|---|---|---|---|
| | 支給額 | 支給人員 | 支給額 | 支給人員 |
| 役員 | （ 2,880 ）千円<br>65,307 | （ 2 ）人<br>4 | （ 0 ）千円<br>8,260 | （ 0 ）人<br>1 |
| 職員 | （ 541,173 ）<br>2,623,522 | （ 321 ）<br>341 | （ 4,813 ）<br>230,581 | （ 21 ）<br>15 |
| 合計 | （ 544,053 ）<br>2,688,829 | （ 323 ）<br>345 | （ 4,813 ）<br>238,841 | （ 21 ）<br>16 |

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については平成21年4月～平成22年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要
理事長　991，000円（期末における金額）
理事 1名　919，000円（期末における金額）
理事 2名　840，000円（期末における金額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、120，000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要
役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要
職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要
職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

## 15. セグメント情報　（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構　　（単位：円）

| 区　分 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 計 | 法人共通 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ事業費用,事業収益及び事業損益** | | | | | | | | | |
| **事業費用** | | | | | | | | | |
| 業務費 | 2,388,122,296 | 622,342,581 | 869,634,655 | 1,257,418,570 | 995,907,001 | 1,596,128,304 | 7,729,553,407 | 0 | 7,729,553,407 |
| 人件費 | 1,056,078,822 | 291,281,328 | 272,097,682 | 271,579,111 | 436,496,986 | 675,101,120 | 3,002,635,049 | 0 | 3,002,635,049 |
| 業務経費 | 1,271,588,299 | 327,435,241 | 575,977,541 | 764,527,696 | 550,828,466 | 890,895,148 | 4,381,252,391 | 0 | 4,381,252,391 |
| 調査研究業務費 | 512,226,631 | 142,123,706 | 115,526,461 | 207,760,464 | 71,376,537 | 343,686,850 | 1,392,700,649 | 0 | 1,392,700,649 |
| 情報公開業務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 36,140,080 | 88,251,751 | 124,391,831 | 0 | 124,391,831 |
| 研修業務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,462,434 | 14,563,277 | 17,025,711 | 0 | 17,025,711 |
| 国際研究協力業務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 172,179,816 | 50,041,312 | 222,221,128 | 0 | 222,221,128 |
| 展示出版業務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18,490,848 | 160,609,585 | 179,100,433 | 0 | 179,100,433 |
| 展覧業務費 | 309,589,129 | 175,270,808 | 215,741,977 | 279,218,221 | 0 | 0 | 979,820,135 | 0 | 979,820,135 |
| 教育普及業務費 | 45,987,245 | 4,083,102 | 17,499,147 | 578,570 | 0 | 0 | 68,148,064 | 0 | 68,148,064 |
| 受託業務費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 250,178,751 | 233,742,373 | 483,921,124 | 0 | 483,921,124 |
| その他業務費 | 403,785,294 | 5,957,625 | 227,209,956 | 276,970,441 | 0 | 0 | 913,923,316 | 0 | 913,923,316 |
| 減価償却費 | 60,455,175 | 3,626,012 | 21,559,432 | 221,311,763 | 8,581,549 | 30,132,036 | 345,665,967 | 0 | 345,665,967 |
| 一般管理費 | 522,395,424 | 240,136,397 | 190,548,647 | 138,068,938 | 242,594,368 | 350,514,222 | 1,684,257,996 | 283,284,917 | 1,967,542,913 |
| 人件費 | 152,634,809 | 91,475,196 | 78,720,286 | 58,356,531 | 121,327,485 | 162,987,323 | 665,501,630 | 174,430,682 | 839,932,312 |
| 一般管理経費 | 342,921,663 | 141,251,882 | 91,434,948 | 59,174,502 | 120,998,894 | 185,596,798 | 941,378,687 | 101,784,249 | 1,043,162,936 |
| 減価償却費 | 26,838,952 | 7,409,319 | 20,393,413 | 20,537,905 | 267,989 | 1,930,101 | 77,377,679 | 7,069,986 | 84,447,665 |
| 財務費用 | 4,613 | 0 | 0 | 102,983 | 703,081 | 746,563 | 1,557,240 | 0 | 1,557,240 |
| 雑損 | 0 | 25,200 | 970,000 | 368,016 | 24,206 | 0 | 1,387,422 | 0 | 1,387,422 |
| **事業費用計** | 2,910,522,333 | 862,504,178 | 1,061,153,302 | 1,395,958,507 | 1,239,228,656 | 1,947,389,089 | 9,416,756,065 | 283,284,917 | 9,700,040,982 |
| **事業収益** | | | | | | | | | |
| 運営費交付金収益 | 1,475,078,105 | 541,044,738 | 589,243,089 | 929,701,933 | 959,753,969 | 1,592,127,200 | 6,086,949,034 | 277,475,768 | 6,364,424,802 |
| 受託収入 | 7,102,281 | 9,213,669 | 2,912,500 | 9,871,126 | 268,108,395 | 256,442,991 | 553,650,962 | 0 | 553,650,962 |
| 入場料収入 | 662,347,500 | 111,512,790 | 267,397,290 | 262,889,871 | 0 | 18,006,130 | 1,322,153,581 | 0 | 1,322,153,581 |
| 展示事業等附帯収入 | 183,482,495 | 57,765,804 | 52,140,756 | 26,901,019 | 13,547,697 | 34,232,451 | 368,070,222 | 2,401,903 | 370,472,125 |
| 財産利用収入 | 113,515,482 | 13,248,603 | 22,785,558 | 4,012,647 | 1,703,032 | 4,093,663 | 159,358,985 | 0 | 159,358,985 |
| 寄附金収益 | 46,517,564 | 8,115,170 | 57,666,482 | 1,945,440 | 6,500,000 | 1,922,500 | 122,667,156 | 0 | 122,667,156 |
| 施設費収益 | 240,516 | 72,261,000 | 4,763,209 | 0 | 0 | 65,670,062 | 142,934,787 | 0 | 142,934,787 |
| その他補助金収益 | 265,649,419 | 48,692,328 | 59,753,285 | 1,960,491 | 0 | 0 | 376,055,523 | 0 | 376,055,523 |
| 資産見返負債戻入 | 86,279,827 | 21,819,199 | 41,952,845 | 233,291,575 | 5,559,976 | 21,936,486 | 410,839,908 | 7,069,986 | 417,909,894 |
| 財務収益 | 21,783 | 2,754 | 0 | 0 | 0 | 1,250 | 25,787 | 0 | 25,787 |
| 雑益 | 127,018 | 13,950,606 | 666,767 | 111,930 | 2,164,609 | 506,312 | 17,527,242 | 156,798 | 17,684,040 |
| **事業収益計** | 2,840,361,990 | 897,626,661 | 1,099,281,781 | 1,470,686,032 | 1,257,337,678 | 1,994,939,045 | 9,560,233,187 | 287,104,455 | 9,847,337,642 |
| **事業損益** | −70,160,343 | 35,122,483 | 38,128,479 | 74,727,525 | 18,109,022 | 47,549,956 | 143,477,122 | 3,819,538 | 147,296,660 |

（単位：円）

| 区　分 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 計 | 法人共通 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ総資産** | | | | | | | | | |
| **流動資産** | 1,692,050,767 | 339,222,433 | 191,009,991 | 471,993,197 | 229,029,366 | 469,903,311 | 3,393,209,065 | 1,397,812,907 | 4,791,021,972 |
| **固定資産** | 88,130,457,102 | 36,046,103,024 | 29,763,570,025 | 26,204,718,490 | 6,851,229,515 | 6,125,411,213 | 193,121,489,369 | 64,494,035 | 193,185,983,404 |
| 建物 | 14,506,972,145 | 2,543,737,450 | 5,120,938,176 | 12,111,317,377 | 3,995,523,575 | 3,813,198,243 | 42,091,686,966 | 51,150,099 | 42,142,837,065 |
| 収蔵品 | 44,385,005,244 | 22,791,948,558 | 19,671,943,484 | 12,571,606,689 | 0 | 100,104,571 | 99,520,608,546 | 0 | 99,520,608,546 |
| 土地 | 26,832,788,000 | 9,071,896,900 | 3,875,010,204 | 458,980,000 | 2,650,000,000 | 1,522,000,000 | 44,410,675,104 | 0 | 44,410,675,104 |
| その他の固定資産 | 2,405,691,713 | 1,638,520,116 | 1,095,678,161 | 1,062,814,424 | 205,705,940 | 690,108,399 | 7,098,518,753 | 13,343,936 | 7,111,862,689 |
| **総資産** | 89,822,507,869 | 36,385,325,457 | 29,954,580,016 | 26,676,711,687 | 7,080,258,881 | 6,595,314,524 | 196,514,698,434 | 1,462,306,942 | 197,977,005,376 |
| **Ⅲ損益外減価償却相当額及び引当外退職給付増加見積額** | | | | | | | | | |
| **損益外減価償却相当額** | 753,907,897 | 130,332,857 | 247,220,149 | 683,937,780 | 249,703,973 | 227,265,755 | 2,292,368,411 | 3,520,264 | 2,295,888,675 |
| **損益外固定資産除売却相当額** | 0 | 19,889 | 0 | 0 | 0 | 135,437 | 155,326 | 0 | 155,326 |
| **前中期目標期間繰越積立金取崩額** | −4,167 | 0 | 0 | 591,079 | 1 | 2,274,577 | 2,861,490 | 0 | 2,861,490 |
| **引当外賞与増加見積額** | −3,407,951 | −403,852 | −420,409 | 36,565 | 1,007,178 | −6,392,262 | −9,580,731 | 231,073 | −9,349,658 |
| **引当外退職給付増加見積額** | −107,043,185 | 18,723,603 | −5,481,309 | 15,214,868 | 11,782,229 | −11,330,212 | −78,134,006 | 8,875,972 | −69,258,034 |

（注）　1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

（1）東京国立博物館

我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（2）京都国立博物館

平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（3）奈良国立博物館

仏教美術を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（4）九州国立博物館

日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

（5）東京文化財研究所

美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

（6）奈良文化財研究所

遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

2．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。

3．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は283,284,917円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は1,462,306,942円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

## 16. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

(1)資産見返運営費交付金の明細

(単位:円)

| 区　　分 | 金　　額 |
|---|---|
| 建　　物 | 1,117,238,019 |
| 構 築 物 | 50,155,421 |
| 車 両 運 搬 具 | 6,060,674 |
| 工 具 器 具 備 品 | 780,917,871 |
| ソ フ ト ウ ェ ア | 83,032,178 |
| 差 入 敷 金 ・ 保 証 金 | 497,000 |
| 合　　計 | 2,037,901,163 |

# 平成21年度　決算報告書

（単位：円）

| 区　　分 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差　額 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 収　入 | | | | |
| 運営費交付金 | 8,367,412,000 | 8,367,412,000 | 0 | |
| 施設整備費補助金 | 3,674,153,000 | 2,330,710,179 | −1,343,442,821 | （注記）1 |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | 699,720,000 | 547,972,115 | −151,747,885 | （注記）2 |
| 展示事業等収入 | 1,120,049,000 | 1,898,283,754 | 778,234,754 | |
| 受託収入 | 26,000,000 | 524,551,386 | 498,551,386 | （注記）3 |
| その他寄附金等 | 0 | 139,434,000 | 139,434,000 | |
| 計 | 13,887,334,000 | 13,808,363,434 | −78,970,566 | |
| 支　出 | | | | |
| 運営事業費 | 9,487,461,000 | 10,454,282,101 | −966,821,101 | |
| 管理経費 | 1,872,030,000 | 1,823,473,446 | 48,556,554 | |
| 人件費 | 852,515,000 | 757,295,095 | 95,219,905 | |
| 一般管理費 | 1,019,515,000 | 1,066,178,351 | −46,663,351 | （注記）4 |
| 業務経費 | 7,615,431,000 | 8,630,808,655 | −1,015,377,655 | |
| 人件費 | 2,477,381,000 | 2,487,085,079 | −9,704,079 | |
| 調査研究事業費 | 1,438,291,000 | 1,472,642,885 | −34,351,885 | （注記）5 |
| 情報公開事業費 | 155,019,000 | 143,511,541 | 11,507,459 | |
| 研修事業費 | 21,750,000 | 17,025,711 | 4,724,289 | |
| 国際研究協力事業費 | 303,817,000 | 222,801,128 | 81,015,872 | |
| 展示出版事業費 | 157,925,000 | 163,198,348 | −5,273,348 | |
| 展覧事業費 | 2,940,353,000 | 4,050,201,803 | −1,109,848,803 | （注記）6 |
| 教育普及事業費 | 120,895,000 | 74,342,160 | 46,552,840 | |
| 施設整備費 | 3,674,153,000 | 2,212,024,446 | 1,462,128,554 | （注記）1 |
| 文化芸術情報電子化推進費 | 699,720,000 | 541,797,431 | 157,922,569 | （注記）2 |
| 受託事業費 | 26,000,000 | 491,500,000 | −465,500,000 | （注記）3 |
| 計 | 13,887,334,000 | 13,699,603,978 | 187,730,022 | |

（注記）

1. 施設整備費補助金及び施設整備費の差額は、主に次年度への繰越により生じた差額であります。

2. 文化芸術情報電子化推進費補助金及び文化芸術情報電子化推進費の差額は、主に次年度への繰越により生じた差額であります。

3. 受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。

4. 一般管理費の差額は、施設整備費補助金により消費税納付額が増加したものであります。

5. 調査研究事業費の差額は、当初の見込みになかった平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業の契約等があったためであります。

6. 展覧事業費の差額は、前年度からの繰越による陳列品購入費等が増加したものであります。

# 平成 21 年度　事業報告書(第 3 期)

## 目　　次


**1. 国民の皆様へ**

**2. 基本情報**
(1) 法人の概要
(2) 本社・支社等の住所
(3) 資本金の状況
(4) 役員の状況
(5) 常勤職員の状況

**3. 簡潔に要約された財務諸表**
①貸借対照表
②損益計算書
③キャッシュ・フロー計算書
④行政サービス実施コスト計算書
・用語解説

**4. 財務情報**
(1) 財務諸表の概況
① 資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析
② セグメント総資産の経年比較・分析
③ セグメント事業損益の経年比較・分析
④ 目的積立金の申請、取崩内容等
⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析
(2) 施設等投資の状況(重要なもの)
① 当事業年度中に完成した主要施設等
② 当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
③ 当該事業年度中に処分した主要施設等
(3) 予算・決算の概況
(4) 経費削減及び効率化目標との関係

**5. 事業の説明**
(1) 財源構造
(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

# 独立行政法人国立文化財機構　平成 21 年度事業報告書

## 1.国民の皆様へ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」と略します。）は、東京・京都・奈良・九州（太宰府）の国立博物館を設置・運営する独立行政法人国立博物館と、文化財に関する基礎研究及び先端研究を実施する独立行政法人文化財研究所の 2 法人が統合されて、平成 19 年 4 月に設立されました。

機構は、国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

統合後 3 年となる平成 21 年度は、昨年度設置した 6 施設連絡協議会を活用してさらなる業務の質及び効率の向上に努めてまいりました。また、昨年度に着手した京都国立博物館の平常展示館建替工事や、東京国立博物館、奈良国立博物館の展示館等の耐震補強工事等が順調に進捗するなど、施設・設備面の充実にも引き続き取り組みました。

平成 21 年度は、本中期計画期間に定率で課されている人件費削減目標達成に向けて、現組織の在り方と業務効率化を総合的に再検討し、新しい削減方針のもとその実現に向けて取り組みました。また随意契約に関する不適切な問題が全国で取り上げられ、公共調達の透明性･公正性をより高めることに政府全体で取り組むことが決定されたことに伴い、当機構においてもその対策として随意契約等の見直しを進め、総合評価落札方式を導入し、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施するなど、より透明性・公正性の高い契約を行うよう努めました。

業務については、東京国立博物館・九州国立博物館と巡回した「国宝　阿修羅展」が両会場で計 165 万人を超える入館者があったことをはじめ、4 博物館で過去最高の 502 万人を超える方々にご観覧いただくことができました。文化財研究所では、基礎的・先端的な研究に取り組むほか、文化財の保存・修復に関する国際協力を推進し、12 月には、長年カンボジア王国アンコール遺跡群の現地共同研究を行い、文化遺産の保護と人材育成に貢献していることから、カンボジア政府から勲章を授与されました。また内紛が続く西アジア諸国のアフガニスタンやイラクへ文化遺産調査を通じて技術移転や人材育成を図った成果も着実に上がっており、相手国からも高い評価を受けています。

財務面では、国からの運営費交付金が引き続き削減されているため、依然厳しい状況にあります。今後も効率の向上による支出の削減に努めるとともに、外部資金の獲得など自己収入の増収に取り組んでまいります。

機構は、国の文化財保護行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命の下、文化財の保存と活用、またそのための基礎研究と最先端の研究という四つの大きな柱を機能させ、さらなる活性化を推進してまいる所存です。国民の皆様におかれましては、私どもの事業及び運営へのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## ２.基本情報

(1) 法人の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当法人は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成 19 年 4 月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

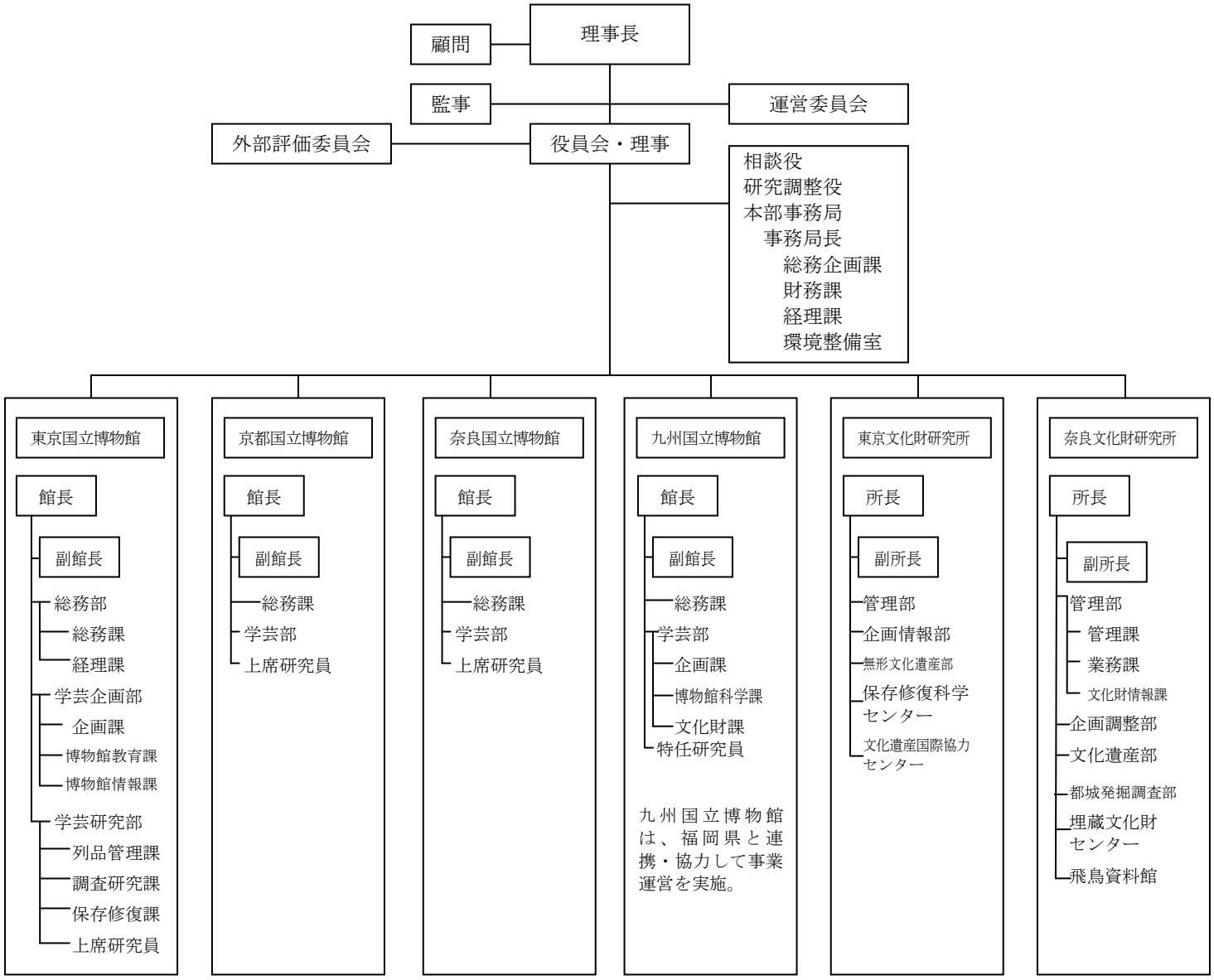
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成 11 年法律第 178 号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁文化財部美術学芸課）

⑥ 組織図（平成 22 年 3 月 31 日現在）




(2) 本社・支社等の住所

本社：東京都台東区上野公園 13－9

支社：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）

東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）

京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）

奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）

奈良県奈良市二条町 2－9－1（奈良文化財研究所）

福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）

(3) 資本金の状況

（単位：百万円）

| 区分 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 |
|---|---|---|---|---|
| 政府出資金 | 104,714 | 0 | 0 | 104,714 |
| 資本金合計 | 104,714 | 0 | 0 | 104,714 |

(4) 役員の状況

| 役職 | 氏名 | 任期 | 担当 | 経歴 |
|---|---|---|---|---|
| 理事長 | 佐々木丞平 | 自 平成 19 年 4 月 1 日<br>至 平成 25 年 3 月 31 日 | | 昭和 45 年 4 月　京都府教育委員会<br>昭和 47 年 4 月　文化庁入庁<br>昭和 56 年 4 月　京都大学<br>平成　3 年 3 月　京都大学文学部教授<br>平成 12 年 4 月　京都大学附属図書館長(併任)<br>平成12年11月　京都大学 大学文書館長<br>平成 17 年 3 月　退職<br>平成 17 年 4 月　(独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長）<br>平成 19 年 3 月　退職（統合のため） |
| 理　事 | 鈴木規夫 | 自 平成 19 年 4 月 1 日<br>至 平成 25 年 3 月 31 日 | | 昭和 42 年 3 月　東京書籍株式会社<br>昭和 46 年 6 月　サントリー美術館<br>昭和 52 年 7 月　文化庁入庁<br>平成 13 年 4 月　文化庁文化財部文化財鑑査官<br>平成 16 年 3 月　退職<br>平成 16 年 4 月　独立行政法人文化財研究所理事（(兼)東京文化財研究所長）<br>平成 17 年 4 月　独立行政法人文化財研究所理事長（(兼)東京文化財研究所長）<br>平成 19 年 3 月　退職（統合による旧法人役員身分の消滅） |
| 理　事 | 田辺征夫 | 自 平成 21 年 4 月 1 日<br>至 平成 25 年 3 月 31 日 | | 昭和 44 年 7 月　奈良国立文化財研究所<br>平成 15 年 4 月　(独)文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長<br>平成 17 年 3 月　退職<br>平成 17 年 4 月　(独)文化財研究所理事（(兼)奈良文化財研究所長）<br>平成 19 年 3 月　退職（統合による旧法人役員身分の消滅）<br>平成 19 年 4 月　(独)国立文化財機構奈良文化財研究所長<br>平成 21 年 3 月　退職 |
| 理　事 | 遠藤啓 | 自 平成 19 年 4 月 1 日<br>至 平成 25 年 3 月 31 日 | | 昭和 50 年 4 月　文部省入省<br>平成 13 年 1 月　文化庁文化部長<br>平成 14 年 8 月　内閣府官房審議官（沖縄大学院大学担当）<br>平成 17 年 5 月　文部科学省　退職<br>平成 17 年 5 月　北海道大学理事・事務局長 |
| 監　事 | 雪山行二 | 自 平成 21 年 4 月 1 日<br>至 平成 23 年 3 月 31 日 | | 昭和 51 年 4 月　国立西洋美術館<br>平成 4 年 9 月　国立西洋美術館学芸課長<br>平成 10 年 9 月　退職<br>平成 10 年 10 月　愛知県美術館副館長<br>平成 14 年 4 月　横浜美術館長<br>平成 21 年 4 月　和歌山県立近代美術館長　　現在に至る |
| 監　事 | 篠原啓慶 | 自 平成 21 年 4 月 1 日<br>至 平成 23 年 3 月 31 日 | | 昭和 38 年 4 月　三菱工業株式会社入社<br>昭和 44 年 10 月　公認会計士芹沢政光事務所入所<br>昭和 49 年 2 月　監査法人中央会計事務所<br>昭和 53 年 2 月　税理士事務所を開設　　現在に至る<br>昭和 62 年 12 月　中央監査法人代表社員就任<br>平成 10 年 5 月　同上役職を退任<br>平成 13 年 4 月　独立行政法人国立博物館監事 |

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成 21 年度末で 345 人（前期末比、増減なし）、平均年齢は 43 歳（前期末 44 歳）です。このうち、国等からの出向者は 15 人、民間からの出向者は 0 人です。

## 3.簡潔に要約された財務諸表

①貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日現在　（単位：百万円）

| 資産の部 | 金額 | 負債の部 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 流動資産 | | 流動負債 | |
| 現金及び預金 | 4,158 | 運営費交付金債務 | 1,197 |
| 未収金 | 601 | 未払金 | 2,448 |
| その他 | 32 | その他 | 443 |
| 流動資産合計 | 4,791 | 流動負債合計 | 4,088 |
| 固定資産 | | 固定負債 | |
| 有形固定資産 | | 資産見返負債 | 5,494 |
| 建物 | 42,143 | その他の固定負債 | 39 |
| 収蔵品 | 99,521 | 固定負債合計 | 5,533 |
| 土地 | 44,411 | 負債合計 | 9,621 |
| 建設仮勘定 | 3,093 | 純資産の部 | |
| その他 | 3,867 | 資本金 | 104,714 |
| 無形固定資産 | 150 | 資本剰余金 | 82,479 |
| 投資その他資産 | 1 | 利益剰余金 | 1,163 |
| 固定資産合計 | 193,186 | 純資産合計 | 188,356 |
| 資産合計 | 197,977 | 負債純資産合計 | 197,977 |

②損益計算書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

| | 金額 |
|---|---|
| 経常費用(A) | 9,700 |
| 業務費 | |
| 人件費 | 3,003 |
| 業務経費 | 4,381 |
| 減価償却費 | 346 |
| 一般管理費 | |
| 人件費 | 840 |
| 一般管理経費 | 1,043 |
| 減価償却費 | 84 |
| その他 | 3 |
| 経常収益(B) | 9,847 |
| 運営費交付金収益 | 6,364 |
| 受託収入 | 554 |
| 入場料収入 | 1,322 |
| 資産見返負債戻入 | 418 |
| その他 | 1,189 |
| 臨時損失(C) | －349 |
| 臨時利益(D) | 347 |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩額(E) | 3 |
| 当期総利益(B－A＋C＋D＋E) | 148 |

③キャッシュ・フロー計算書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

| | 金額 |
|---|---|
| Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A) | 2,860 |
| 人件費支出 | －3,827 |
| 運営費交付金収入 | 8,367 |
| 自己収入等 | 2,910 |
| その他の支出 | －5,207 |
| その他収入 | 617 |
| Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B) | －2,025 |
| Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C) | －20 |
| Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C) | 815 |
| Ⅴ資金期首残高(E) | 3,343 |
| Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E) | 4,158 |

④行政サービス実施コスト計算書

平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

| | 金額 |
|---|---|
| Ⅰ業務費用 | 7,558 |
| 損益計算書上の費用 | 10,049 |
| （控除）自己収入等 | －2,491 |
| （その他の行政サービス実施コスト） | |
| Ⅱ損益外減価償却相当額 | 2,296 |
| Ⅲ引当外賞与見積額 | －9 |
| Ⅳ引当外退職給付増加見積額 | －69 |
| Ⅴ機会費用 | 2,652 |
| Ⅵ行政サービス実施コスト | 12,428 |

■ 用語解説

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金及び普通貯金

その他（流動資産）　：たな卸資産、前払費用など

有形固定資産　　：土地、建物、機械装置、車両、工具、収蔵品など長期にわたって使用または利用する有形の固定資産

建設仮勘定　　：建設または製作途中の有形固定資産の建設または製作のため支出した金額及び充当した材料の相当額

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など長期にわたって使用または利用する無形の固定資産

その他（固定資産）　：保証金及び長期前払費用

運営費交付金債務等　：業務実施のため国から交付された運営費交付金、施設費及び寄附金のうち、未実施の業務相当額

未払金　　：退職給付などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの

その他（流動負債）　：住民税納税のための給与控除に係る預り金など

資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額で未償却の相当額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など
政府出資金　　：国から出資された土地、建物等の相当額
資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵品の相当額
利益剰余金　　：剰余金の累計額

②損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した費用
人件費　　：給与、賞与、法定福利費等、職員等に要した経費
減価償却費　　：業務に要する固定資産の取得原価をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
運営費交付金収益等：運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した相当額
資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に、当該資産に係る資産見返勘定を戻入したことによる収益
臨時損失　　：固定資産除却損
臨時利益　　：施設費による建物の取壊しにより建設仮勘定見返施設費を戻入したことなどによる利益
前中期目標期間繰越積立金取崩額　：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器に係る減価償却費等の相当額

③キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等
投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出
財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

④行政サービス実施コスト計算書

業務費用　　：損益計算書における一切の費用から運営費交付金、施設整備費補助金等の国からの措置に基づく収益を控除した相当額
損益外減価償却相当額　：建物などで減価に対応すべき収益の獲得が予定されないとされた資産の減価償却費相当額（損益計算書には反映されていないが、減価償却累計額は貸借対照表に反映）
引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額　：財源措置が運営費交付金により行われる場合の賞与引当金増加見積額・退職給付引当金増加見積額（損益計算書には反映されていないが、貸借対照表に注記）
機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の相当額を市場で運用すると仮定した場合に得られたと考えられる運用益相当額

## ４.財務情報

(1) 財務諸表の概況

①資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

主要な財務データの経年比較（国立文化財機構）　（単位：百万円）

| 区分 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資産 | － | － | 194,047 | 195,434 | 197,977 |
| 負債 | － | － | 5,395 | 7,377 | 9,621 |
| 利益剰余金（又は繰越欠損金） | － | － | 719 | 1,019 | 1,163 |
| 経常費用 | － | － | 9,096 | 9,450 | 9,700 |
| 経常収益 | － | － | 9,518 | 9,771 | 9,847 |
| 当期総利益 | － | － | 414 | 304 | 148 |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | － | － | 2,612 | 2,444 | 2,860 |
| 投資活動によるキャッシュ･フロー | － | － | －2,572 | －1,575 | －2,025 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | － | － | －20 | －16 | －20 |
| 資金期末残高 | － | － | 2,490 | 3,343 | 4,158 |

＜参考情報＞主要な財務データの経年比較（国立博物館）　（単位：百万円）

| 区分 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資産 | 175,305 | 175,633 | － | － | － |
| 負債 | 4,827 | 4,762 | － | － | － |
| 利益剰余金（又は繰越欠損金） | 21 | 290 | － | － | － |
| 経常費用 | 6,579 | 5,390 | － | － | － |
| 経常収益 | 6,486 | 5,780 | － | － | － |
| 当期総利益 | －84 | 287 | － | － | － |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | 1,298 | 2,642 | － | － | － |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 0 | 0 | － | － | － |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | －13 | －13 | － | － | － |
| 資金期末残高 | 2,672 | 2,076 | － | － | － |

＜参考情報＞主要な財務データの経年比較（文化財研究所）　（単位：百万円）

| 区分 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 資産 | 19,212 | 18,806 | － | － | － |
| 負債 | 1,266 | 1,345 | － | － | － |
| 利益剰余金（又は繰越欠損金） | 121 | 54 | － | － | － |
| 経常費用 | 3,684 | 3,655 | － | － | － |
| 経常収益 | 3,656 | 3,712 | － | － | － |
| 当期総利益 | －17 | 50 | － | － | － |
| 業務活動によるキャッシュ・フロー | －74 | －92 | － | － | － |
| 投資活動によるキャッシュ･フロー | 0 | 0 | － | － | － |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | －4 | －5 | － | － | － |
| 資金期末残高 | 866 | 394 | － | － | － |

（資産）

平成21年度末現在の資産合計は197,977百万円と、前年度末比2,543百万円(1.3%)増加しました。これは、各博物館における収蔵品が 2,159 百万円（2.2%）増加したことが主な要因です。

（負債）

平成 21 年度末現在の負債合計は 9,621 百万円と、前年度末比 2,244 百万円（30.4%）増加しました。これは、京都国立博物館平常展示館建替工事等に伴う建設仮勘定見返施設費が 2,963 百万円と同 1,436 百万円（94.1%）増加したこと、及び未払金が 2,448 百万円と同 661 百万円（37.0%）増加したことが主な要因です。

（経常費用）

平成 21 年度の経常費用は 9,700 百万円と、前年度比 250 百万円（2.6%）増加しました。これは、業務経費（調査研究業務費）が文化庁からの補助金等により同 367 百万円（35.8%）増加した一方で、人件費が業務費及び一般管理費合計で 3,843 百万円と同 182 百万円（4.5%）減少したことが主な要因です。

（経常収益）

平成 21 年度の経常収益は 9,847 百万円と、前年度比 76 百万円（0.8%）増加しました。これは、入場料収入が同 162 百万円（14.0%）増加し、また、その他（補助金収益）が同 376 百万円新規計上した一方で、運営費交付金収益が 6,364 百万円と同 497 百万円（7.2%）減少したことが主な要因です。

（当期総利益）

以上による経常利益 147 百万円に加え、京都国立博物館平常展示館建替工事等に伴う建物除却損を臨時損失に 349 百万円計上する一方で、同工事に伴う建設仮勘定見返施設費戻入などを臨時利益に 347 百万円計上したため、前中期目標期間繰越積立金取崩 3 百万円とあわせ、平成 21 年度の当期総利益は 148 百万円と、前年度比 156 百万円（51.3%）減少しました。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 21 年度の業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入超過が 2,860 百万円と前年度比 416 百万円（17.0%）増加しました。これは、その他収入の収入超過が 617 百万円と同 526 百万円（578.2%）増加したことが主な要因です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成 21 年度の投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出超過が 2,025 百万円と前年度比 450 百万円（28.6%）増加しました。これは、有形固定資産の取得による支出超過が 4,271 百万円と同 724 百万円（20.4%）増加したことが主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 21 年度の財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出超過が 20 百万円と、支出超過が前年度比 4 百万円（25.9%）増加しました。これは、当該区分はすべてリース債務の支払であるところ、当該支払が同額増加したためです。

② セグメント総資産の経年比較・分析

セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

| 国立文化財機構 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | － | － | 88,121 | 88,113 | 89,823 |
| 京都国立博物館 | － | － | 34,931 | 36,544 | 36,385 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 奈良国立博物館 | － | － | 29,751 | 29,691 | 29,955 |
| 九州国立博物館 | － | － | 26,357 | 26,752 | 26,677 |
| 東京文化財研究所 | － | － | 7,624 | 7,284 | 7,080 |
| 奈良文化財研究所 | － | － | 6,880 | 6,659 | 6,595 |
| 共通 | － | － | 383 | 391 | 1,462 |
| 計 | － | － | 194,047 | 195,434 | 197,977 |

＜参考情報＞セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

| 国立博物館 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 84,744 | 84,496 | － | － | － |
| 京都国立博物館 | 34,493 | 34,623 | － | － | － |
| 奈良国立博物館 | 29,535 | 29,915 | － | － | － |
| 九州国立博物館 | 25,693 | 26,430 | － | － | － |
| 共通 | 840 | 169 | － | － | － |
| 計 | 175,305 | 175,633 | － | － | － |

＜参考情報＞セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

| 文化財研究所 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京文化財研究所 | 11,714 | 11,445 | － | － | － |
| 奈良文化財研究所 | 7,074 | 7,235 | － | － | － |
| 共通 | 424 | 126 | － | － | － |
| 計 | 19,212 | 18,806 | － | － | － |

総資産は 197,977 百万円で前年度比 2,543 百万円（1.3%）増加しました。施設毎に分析しますと、東京国立博物館においては 89,823 百万円と、同 1,710 百万円（1.9%）増加しました。これは、東洋館設備改修工事等による建設仮勘定 1,336 百万円増加、及び陳列品 504 百万円増加したことが主な要因です。

京都国立博物館においては 36,385 百万円と、同 159 百万円（0.4%）減少しました。これは、平常展示館建替工事が一部完成し、また、旧平常展示館取壊しに関する建設仮勘定を戻入したことにより建設仮勘定が 405 百万円（24.8%）減少した一方で、工事の一部完成により建物及び建物附属設備が計 189 百万円増加したこと、及び陳列品が 133 百万円増加したことが主な要因です。

奈良国立博物館においては 29,955 百万円と、同 264 百万円（0.9%）増加しました。これは、西新館及び仏教美術資料研究センター耐震補強工事の進展により建設仮勘定が 507 百万円増加し、また、建物及び建物附属施設が計 23 百万円増加した一方で、通常の減価償却費 289 百万円を計上したことが主な要因です。

九州国立博物館においては 26,677 百万円と、同 75 百万円（0.3%）減少しました。これは、陳列品が 1,418 百万円増加する一方で、預金が 694 百万円減少し、また、通常の減価償却費 926 百万円を計上したことが主な要因です。

東京文化財研究所においては 7,080 百万円と、同 204 百万円（2.8%）減少しました。これは、研究機器の取得により備品が 47 百万円増加した一方で、通常の減価償却費 259 百万円を計上したことが主な要因です。

奈良文化財研究所においては 6,595 百万円と、64 百万円（1.0%）減少しました。

これは、平城宮跡資料館公開展示部門機能充実整備等工事の完成により建物及び建物附帯設備が計 114 百万円増加し、また、研究機器の取得により備品が 63 百万円増加した一方で、通常の減価償却費 259 百万円を計上したことが主な要因です。

③ セグメント事業損益の経年比較・分析

セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

| 国立文化財機構 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | － | － | 293 | 190 | －70 |
| 京都国立博物館 | － | － | 21 | 13 | 35 |
| 奈良国立博物館 | － | － | 41 | 76 | 38 |
| 九州国立博物館 | － | － | 40 | 11 | 75 |
| 東京文化財研究所 | － | － | 20 | 11 | 18 |
| 奈良文化財研究所 | － | － | 6 | 18 | 47 |
| 共通 | － | － | 1 | 2 | 4 |
| 計 | － | － | 422 | 321 | 147 |

＜参考情報＞セグメント事業損益の経年比較

| 国立博物館 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | －7 | 124 | － | － | － |
| 京都国立博物館 | －22 | 36 | － | － | － |
| 奈良国立博物館 | －8 | 97 | － | － | － |
| 九州国立博物館 | －50 | 128 | － | － | － |
| 共通 | －6 | 2 | － | － | － |
| 計 | －93 | 387 | － | － | － |

＜参考情報＞セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

| 文化財研究所 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東京文化財研究所 | －20 | 12 | － | － | － |
| 奈良文化財研究所 | －69 | 11 | － | － | － |
| 共通 | 61 | 35 | － | － | － |
| 計 | －28 | 58 | － | － | － |

事業損益は 147 百万円と、対前年度比 174 百万円（54.2%）減少しました。この要因を施設毎に分析しますと、東京国立博物館においては 70 百万円の欠損と、同 260 百万円（136.8%）減少しました。これは、事業収益が 2,840 百万円と、同 255 百万円（9.9%）増加し、事業費用が 2,911 百万円と、同 515 百万円（21.5%）増加したことの差し引きによります。事業収益は、その他補助金収益が新規で 266 百万円増加したこと、事業費用は、調査研究業務費が 247 百万円（93.4%）増加したこと、及び東洋館設備改修工事等に伴う支払消費税の減少などにより一般管理経費が 142 百万円（70.8%）増加したことが主な要因です。

京都国立博物館においては 35 百万円の剰余金と、同 22 百万円（163.1%）増加しました。これは、事業収益が 898 百万円と、同 215 百万円（19.3%）減少し、事業費用が 863 百万円と、同 236 百万円（21.5%）減少したことの差し引きによります。事

業収益は、平常展示館の閉鎖に伴い展示事業等附帯収入が 50 百万円（46.6%）、運営費交付金収益が 145 百万円（21.1%）、及び施設費収益が 59 百万円（44.9%）いずれも減少したこと、事業費用は、一般管理経費が 141 百万円と、支払い消費税 87 百万円の減少などにより同 198 百万円（58.3%）減少したことが主な要因です。

奈良国立博物館においては 38 百万円の剰余金と、同 38 百万円（50.0%）減少しました。これは、事業収益が 1,099 百万円と、同 98 百万円（9.7%）増加し、事業費用が 1,061 百万円と、同 136 百万円（14.7%）増加したことの差し引きによります。事業収益は、運営費交付金収益が 50 百万円（9.4%）増加し、また、その他補助金収益が新規 59 百万円を計上したこと、事業費用は、業務経費の調査研究業務費が 47 百万円（69.2%）増加、また、展覧業務費が 70 百万円（47.8%）増加したことが主な要因です。

九州国立博物館においては 75 百万円の剰余金と、同 64 百万円（612.8%）増加しました。これは、事業収益が 1,471 百万円と、同 158 百万円（12.0%）増加し、事業費用が 1,396 百万円と、同 94 百万円（7.2%）増加したことの差し引きによります。事業収益は、入場料収入が 129 百万円（95.9%）増加し、また、受託収入が 7 百万円（221.7%）増加したこと、事業費用は、業務経費の展覧業務費が 84 百万円（43.1%）増加し、また業務費の人件費が 33 百万円（13.8%）増加したことが主な要因です。

東京文化財研究所においては 18 百万円の剰余金と、同 7 百万円（65.4%）増加しました。これは、事業収益が 1,257 百万円と、同 28 百万円（2.3%）増加し、事業費用が 1,239 百万円と、同 21 百万円（1.7%）増加したことの差し引きによります。事業収益は、受託収入が 28 百万円（11.7%）増加したこと、事業費用は、受託業務費が 12 百万円（5.1%）増加し、また、一般管理費の人件費が 10 百万円（9.2%）増加したことが主な要因です。

奈良文化財研究所においては 47 百万円の剰余金と、同 30 百万円（164.6%）増加しました。これは、事業収益が 1,994 百万円と、同 245 百万円（10.9%）減少し、事業費用が 1,947 百万円と、同 275 百万円（12.4%）減少したことの差し引きによります。事業収益は、運営費交付金収益が 298 百万円（15.8%）減少し、一方で施設費収益が新規で 66 百万円増加したこと、事業費用は、業務費の人件費が 238 百万円（26.1%）減少し、また、一般管理費の人件費が 35 百万円（17.8%）減少したことが主な要因です。

④ 目的積立金の申請、取崩内容等

当期総利益 148 百万円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所の業務に充てるため、141 百万円を目的積立金として申請しています。

当期利益のうち 7 百万円は目的積立金の申請対象としておりませんが、これは、目的積立金の認定対象が､剰余金のうち法人の経営努力によることを説明できるものとされているため､運営費交付金から生じた受取利息などその対象とはならない相当額を申請対象から除外したためです。

機構では、平成 19 年度、20 年度に目的積立金の承認申請をしましたが、いずれも承認を受けられなかったため今中期目標期間における目的積立金はありません。

目的積立金取崩は、前中期目標期間において自己収入により取得した償却資産に関する減価償却費相当額などについて前中期目標期間繰越積立金取崩を 3 百万円計上しております。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

行政サービス実施コストの経年比較 （単位：百万円）

| 区分　国立文化財機構 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 業務費用 | － | － | 7,013 | 7,165 | 7,558 |
| 損益計算書上の費用 | － | － | 9,109 | 9,471 | 10,049 |
| （控除）自己収等 | － | － | －2,096 | －2,306 | －2,491 |
| 損益外減価償却相当額 | － | － | 2,545 | 2,507 | 2,296 |
| 損益外減損損失相当額 | － | － | 102 | 0 | 0 |
| 損益外固定資産除売却相当額 | － | － | 7 | 301 | 0 |
| 引当外賞与見積額 | － | － | 5 | －21 | －9 |
| 引当外退職給付増加見積額 | － | － | －42 | －173 | －69 |
| 機会費用 | － | － | 2,430 | 2,554 | 2,652 |
| （控除）法人税等及び国庫納付金 | － | － | 0 | 0 | 0 |
| 行政サービス実施コスト | － | － | 12,060 | 12,333 | 12,428 |

＜参考情報＞行政サービス実施コストの経年比較 （単位：百万円）

| 区分　国立博物館 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 業務費用 | 5,086 | 3,973 | － | － | － |
| 損益計算書上の費用 | 6,606 | 5,492 | － | － | － |
| （控除）自己収入等 | －1,520 | －1,519 | － | － | － |
| 損益外減価償却相当額 | 2,008 | 1,881 | － | － | － |
| 損益外減損損失相当額 | 34 | 2 | － | － | － |
| 損益外固定資産除売却相当額 | 0 | 18 | － | － | － |
| 引当外賞与見積額 | 0 | 0 | － | － | － |
| 引当外退職給付増加見積額 | －20 | 112 | － | － | － |
| 機会費用 | 2,895 | 2,694 | － | － | － |
| （控除）法人税等及び国庫納付金 | 0 | 0 | － | － | － |
| 行政サービス実施コスト | 10,003 | 8,680 | － | － | － |

＜参考情報＞行政サービス実施コストの経年比較 （単位：百万円）

| 区分　文化財研究所 | 17 年度 | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 業務費用 | 3,139 | 2,930 | － | － | － |
| 損益計算書上の費用 | 3,686 | 3,662 | － | － | － |
| （控除）自己収入等 | －547 | －732 | － | － | － |
| 損益外減価償却相当額 | 420 | 424 | － | － | － |
| 損益外減損損失相当額 | 0 | 2 | － | － | － |
| 損益外固定資産除売却相当額 | 0 | 0 | － | － | － |
| 引当外賞与見積額 | 0 | 0 | － | － | － |
| 引当外退職給付増加見積額 | －21 | 36 | － | － | － |
| 機会費用 | 449 | 420 | － | － | － |
| （控除）法人税等及び国庫納付金 | 0 | 0 | － | － | － |
| 行政サービス実施コスト | 3,987 | 3,812 | － | － | － |

平成 21 年度の行政サービス実施コストは 12,428 百万円と、前年度比 95 百万円増（0.77%増）となっています。これは、平成 20 年度の京都国立博物館平常展示館建替工事に伴う損益外固定資産除売却相当額 301 百万円が不計上となる一方で、損益計算上の費用が 578 百万円増加したこと主な要因です。

(2)施設等投資の状況（重要なもの）

①当事業年度中に完成した主要施設等

＜奈良文化財研究所＞

平城宮跡資料館公開展示部門機能充実整備等

②当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

＜東京国立博物館＞

東洋館耐震補強改修工事

東洋館設備改修工事

＜京都国立博物館＞

平常展示館建替工事

＜奈良国立博物館＞

西新館耐震補強工事

西新館免震展示ケース設置工事

仏教美術資料研究センター耐震補強工事

③当事業年度中に処分した主要施設等

京都国立博物館平常展示館建替工事による当該建物の取壊し

(3) 予算・決算の概況

国立文化財機構　　（単位：百万円）

| 区分 | 17 年度 | | 18 年度 | | 19 年度 | | 20 年度 | | 21 年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 差額理由 |
| 《収入》<br>運営費交付金 | － | － | － | － | 9,042 | 9,042 | 8,771 | 8,771 | 8,367 | 8,367 | |
| 施設整備費補助金 | － | － | － | － | 711 | 148 | 1,698 | 1,872 | 3,674 | 2,331 | 次年度への繰越 |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | － | － | － | － | － | － | － | － | 700 | 548 | 次年度への繰越 |
| 展示事業等収入 | － | － | － | － | 1,098 | 1,558 | 1,109 | 1,786 | 1,120 | 1,898 | 特別展入場者の増加等 |
| その他寄附金等 | － | － | － | － | 0 | 148 | 0 | 127 | 0 | 139 | |
| 受託収入 | － | － | － | － | 26 | 527 | 26 | 514 | 26 | 525 | 当初見込外契約の増加 |
| 計 | － | － | － | － | 10,877 | 11,423 | 11,604 | 13,070 | 13,887 | 13,808 | |
| 《支出》<br>運営事業費 | － | － | － | － | 10,140 | 10,341 | 9,880 | 9,779 | 9,487 | 10,454 | |

| 区分 | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 差額理由 |
| ・人件費 | － | － | － | － | 3,560 | 3,483 | 3,635 | 3,507 | 3,330 | 3,244 | |
| ・業務経費 | － | － | － | － | 6,580 | 6,858 | 6,245 | 6,272 | 6,157 | 7,210 | |
| （一般管理費） | － | － | － | － | 1,754 | 1,191 | 1,087 | 1,173 | 1,020 | 1,066 | 消費税納付額の増 |
| （展覧事業費） | － | － | － | － | 2,591 | 3,780 | 2,951 | 3,079 | 2,940 | 4,050 | 前年度よりの繰越 |
| （調査研究事業費） | － | － | － | － | 1,449 | 1,261 | 1,445 | 1,448 | 1,438 | 1,473 | |
| （教育普及事業費） | － | － | － | － | 125 | 70 | 121 | 63 | 121 | 74 | |
| （国際研究協力事業費） | － | － | － | － | 314 | 249 | 305 | 229 | 304 | 223 | |
| （情報公開事業費） | － | － | － | － | 161 | 166 | 156 | 146 | 155 | 144 | |
| （研修事業費） | － | － | － | － | 23 | 22 | 22 | 22 | 22 | 17 | |
| （展示出版事業費） | － | － | － | － | 163 | 119 | 158 | 112 | 158 | 163 | |
| 受託事業費 | － | － | － | － | 26 | 486 | 26 | 503 | 26 | 492 | 当初見込外契約の増加 |
| 施設整備費 | － | － | － | － | 711 | 148 | 1,698 | 2,106 | 3,674 | 2,212 | 次年度への繰越 |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | － | － | － | － | － | － | － | － | 700 | 542 | 次年度への繰越 |
| 計 | － | － | － | － | 10,877 | 10,975 | 11,604 | 12,388 | 13,887 | 13,700 | |

＜参考情報＞

国立博物館　　（単位：百万円）

| 区分 | 17年度 | | 18年度 | | 19年度 | | 20年度 | | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 差額理由 |
| 《収入》 | | | | | | | | | | | |
| 運営費交付金 | 6,622 | 6,622 | 6,103 | 6,103 | － | － | － | － | － | － | |
| 施設整備費補助金 | 312 | 312 | 0 | 0 | － | － | － | － | － | － | |
| 展示事業収入 | 681 | 1,339 | 1,045 | 1,478 | － | － | － | － | － | － | |
| その他寄附金等 | 0 | 51 | 0 | 51 | － | － | － | － | － | － | |
| その他収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | － | － | － | － | － | － | |
| 計 | 7,615 | 8,324 | 7,148 | 7,632 | － | － | － | － | － | － | |
| 《支出》 | | | | | | | | | | | |
| 運営事業費 | 7,303 | 9,158 | 7,148 | 6,863 | － | － | － | － | － | － | |
| ・人件費 | 2,316 | 2,257 | 2,367 | 2,083 | － | － | － | － | － | － | |
| ・業務経費 | 4,987 | 6,901 | 4,781 | 4,780 | － | － | － | － | － | － | |
| （一般管理費） | 789 | 1,001 | 830 | 860 | － | － | － | － | － | － | |
| （展覧事業費） | 3,311 | 4,744 | 3,143 | 2,984 | － | － | － | － | － | － | |
| （調査研究事業費） | 771 | 1,039 | 692 | 868 | － | － | － | － | － | － | |
| （教育普及事業費） | 116 | 117 | 116 | 68 | － | － | － | － | － | － | |
| （九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費） | 0 | 0 | 0 | 0 | － | － | － | － | － | － | |
| 施設整備費 | 312 | 808 | 0 | 518 | － | － | － | － | － | － | |
| 計 | 7,615 | 9,966 | 7,148 | 7,381 | － | － | － | － | － | － | |

＜参考情報＞
文化財研究所　（単位：百万円）

| | 17 年度 | | 18 年度 | | 19 年度 | | 20 年度 | | 21 年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 予算 | 決算 | 差額理由 |
| 《収入》 | | | | | | | | | | | |
| 運営交付金 | 3,046 | 3,046 | 2,985 | 2,985 | － | － | － | － | － | － | |
| 展示事業等収入 | 21 | 43 | 42 | 63 | － | － | － | － | － | － | |
| 受託収入 | 27 | 475 | 26 | 627 | － | － | － | － | － | － | |
| 附帯収入 | 0 | 6 | 0 | 10 | － | － | － | － | － | － | |
| その他寄附金等 | 0 | 18 | 0 | 8 | － | － | － | － | － | － | |
| 固定資産売却益 | 0 | 0 | 0 | 0 | － | － | － | － | － | － | |
| 計 | 3,094 | 3,588 | 3,053 | 3,693 | － | － | － | － | － | － | |
| 《支出》 | | | | | | | | | | | |
| 運営事業費 | 3,067 | 3,145 | 3,027 | 3,024 | － | － | － | － | － | － | |
| ・人件費 | 1,256 | 1,305 | 1,320 | 1,301 | － | － | － | － | － | － | |
| ・調査研究事業費 | 613 | 637 | 583 | 623 | － | － | － | － | － | － | |
| ・展示出版事業費 | 140 | 131 | 165 | 140 | － | － | － | － | － | － | |
| ・情報公開事業費 | 179 | 186 | 162 | 187 | － | － | － | － | － | － | |
| ・研修事業費 | 23 | 23 | 23 | 24 | － | － | － | － | － | － | |
| ・国際研究協力事業費 | 321 | 329 | 317 | 286 | － | － | － | － | － | － | |
| ・平城宮跡公開活用支援事業費 | 67 | 80 | 0 | 0 | － | － | － | － | － | － | |
| ・管理費 | 468 | 454 | 457 | 463 | － | － | － | － | － | － | |
| 施設整備費 | 0 | 36 | 0 | 516 | － | － | － | － | － | － | |
| 受託事業費 | 27 | 466 | 26 | 590 | － | － | － | － | － | － | |
| 附帯業務費 | 0 | 3 | 0 | 6 | － | － | － | － | － | － | |
| その他寄附金 | 0 | 18 | 0 | 8 | － | － | － | － | － | － | |
| 計 | 3,094 | 3,668 | 3,053 | 4,144 | － | － | － | － | － | － | |

## (4)経費削減及び効率化目標との関係

国立文化財機構
（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）

（単位：百万円）

| 区分 | 前中期目標期間終了年度 | | 当中期目標期間 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 比率 | 平成 18 年度 | | 平成 19 年度 | | 平成 20 年度 | | 平成 21 年度 | |
| | | | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 |
| 一般管理費 | 1,455 | 100% | - | - | 1,191 | 81.9% | 1,173 | 80.6% | 1,066 | 73.3% |

※比率は対前中期目標終了

＜参考情報＞
国立博物館
（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）

（単位：百万円）

| 区分 | 前中期目標期間終了年度 | | 当中期目標期間 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 比率 | 平成 18 年度 | | 平成 19 年度 | | 平成 20 年度 | | 平成 21 年度 | |
| | | | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 |
| 一般管理費 | 1,001 | 100% | 860 | 85.9% | - | - | - | - | - | - |

※比率は対前中期目標終了年度

＜参考情報＞
文化財研究所
（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）

（単位：百万円）

| 区分 | 前中期目標期間終了年度 | | 当中期目標期間 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 金額 | 比率 | 平成 18 年度 | | 平成 19 年度 | | 平成 20 年度 | | 平成 21 年度 | |
| | | | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 |
| 一般管理費 | 454 | 100% | 463 | 102.0% | - | - | - | - | - | - |

※比率は対前中期目標終了年度

機構は、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としております。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じます。

①共通的な事務の一元化による業務の効率化

②使用資源の減少

・省エネルギー（5 年期間中 1 年に 1.03%の減少）

・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を 5 年期間中 5%減少）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

③施設有効使用の推進

・施設の利用推進

④民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進めます。

・各施設の警備・清掃業務について民間委託を推進します。

・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進めます。

⑤競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図ります。

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等により、経費の効率化を図ります。

## ５． 事業の説明

(1) 財源構造

当法人の経常収益は 9,847 百万円で、その内訳は、運営費交付金収益 6,364 百万円（64.6%）、受託収入 554 百万円（5.6%）、入場料収入 1,322 百万円（13.4%）、展示事業等附帯収入 370 百万円（3.8%）、財産利用収入 159 百万円（1.6%）、寄附金収益 123 百万円（1.2%）、施設

費収益 143 百万円（1.5%）、その他補助金収益 376 百万円（3.8%）、資産見返負債戻入 418 百万円（4.2%）等です。

(2) 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

ア　調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること、及び文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 1,393 百万円です。その財源は、運営費交付金 701 百万円、補助金 368 百万円及び自己収入 324 百万円です。

イ　情報公開事業

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の方が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としています。

事業に要した費用は 124 百万円です。その財源は、運営費交付金 123 百万円及び自己収入 1 百万円です。

ウ　研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、及び保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としています。

事業に要した費用は 17 百万円です。その財源は、運営費交付金のみです。

エ　国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 222 百万円です。その財源は、運営費交付金 210 百万円及び自己収入 12 百万円です。

オ　展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること、及び研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としています。

事業に要した費用は 179 百万円です。その財源は、運営費交付金 111 百万円及び自己収入 68 百万円です。

カ　展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施すること、及び国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を

行うことを目的としています。

事業に要した費用は 980 百万円です。その財源は、運営費交付金 230 百万円及び自己収入 750 百万円です。

キ　教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと、及び教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としています。

事業に要した費用は 68 百万円です。その財源は、運営費交付金 18 百万円及び自己収入 50 百万円です。

ク 受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としています。

事業に要した費用は 484 百万円です。その財源は、受託収入のみです。

以上

# Ⅴ　評価

## １．　文部科学省評価委員会評価

## 独立行政法人国立文化財機構の平成21年度に係る業務の実績に関する評価

**全体評価**

**①評価結果の総括**

（イ）財政状況が厳しい中、21 年度は魅力的な展覧会が多く、博物館４館の入館者数が大幅に増え（前年度比：約２５%増）、WEB の閲覧も大きく向上した（前年度比：博物館４館約２３%増、研究所２所約１６%増）。高齢者はもとより若者の教養と安らぎの場としての博物館に対する国民の関心が高まった証拠であり、企画、展示方法等質の高い活動が成果を上げていると思われる。新規購入収蔵品等の情報開示も WEB で行われており、透明性はさらに進んでいる。今後も民間手法等も参考に、更なる業務の効率化や質の向上を目指してほしい。

（ロ）文化財の調査・研究については、国民には直接見えにくい活動（無形文化財、発掘、保存技術など）にもかかわらず、網羅性をもって成果を蓄積し、公表にも努めている。また、人材育成や教育ツールの開発などの活動が積極的に行われている点が特に評価できる。

（ハ）表示やツールなどの多言語化をすすめ、ナショナルセンターとしての役割を充実させるとともに、アジアのリーダーとしての存在感を示すような専門家研修やシンポジウムを企画し、国際協力の推進や地方公共団体等への助言を行うなど文化財保護の質的向上が順調に進んでいる。

**＜参考＞**

Ⅰ　業務の質の向上：　A　　Ⅱ　業務運営の効率化：A　　Ⅲ　財務・人事：A

**②評価結果を通じて得られた法人の今後の課題**

（イ）定量的評価の指標となる入館者数については、特別展における予想を著しく上回る入館者数の確保、かつ平常展入館者の増加によって達成している。反面、快適な観覧環境の確保や常設展のより一層の充実が必要と考える。［項目別－ｐ５～９］

（ロ）有期雇用職員の新たな手法は評価できるが、高い能力を持った次世代の研究員の育成が必要であることから、将来を見据えた人事シミュレーションが必要である。［項目別－ｐ４７］

（ハ）新成長戦略の一つである観光立国・地域活性化戦略の一翼として、海外を含めた観光者に対して、法人所有の豊富なコンテンツが活用できるよう一層の努力を求める。［項目別－ｐ５、６、３２、３３］

**③評価結果を踏まえて今後の法人が進むべき方向性**

（イ）快適な観覧環境の確保については、混雑・待ち時間の解消や障害者への対応も含めた見やすい展示・読みやすい解説の工夫などより一層の努力を期待する。さらに我が国の歴史と文化を通史的に理解し、教育普及の場としての平常展を充実させ、ナショナルセンター本来の機能の充実に努められたい。

（ロ）地方や諸外国に協力することにより研究員の研究能力向上を図るとともに、業務の継続性のためにも、人材の養成や確保方策を検討すべきである。

（ハ）アジアギャラリーや文化交流展示室など、外国人が日本に興味・関心を持つきっかけとなるよう、他国と日本の文化交流を示す展示や日本文化の真髄である国宝・重文の分かり易い説明など、法人の持つナショナル・コレクションの活用・充実について、外部のアイデアの活用も含め推進すべきである。

**④特記事項**

事業仕分け第２弾の結果において、文化財収集（展覧事業）については「事業規模は拡充」とされているものの、「適切な制度のあり方を検討するとともに、国からの負担を増やさない形での拡充を図る」とされていることから、政府の対応等も含め今後の動向を評価委員会として注視していく。

# 文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会

## 国立文化財機構部会 委員名簿

（五十音順）

（委　　員）

| | | |
|---|---|---|
| | 河野　　栄子 | ＤＩＣ株式会社社外取締役 |
| ○ | 竹内　　順一 | 公益財団法人永青文庫館長、東京芸術大学名誉教授 |

（臨時委員）

| | | |
|---|---|---|
| | 池上　　徹彦 | 宇宙開発委員会委員長 |
| | 吉川　　周平 | 京都市立芸術大学名誉教授 |
| | 嶋田　実名子 | 花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門サステナビリティ推進部長（兼）社会貢献部長 |
| | 武田　佐知子 | 大阪大学大学院文学研究科　教授 |
| | 増澤　　文武 | 財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員 |
| | 宮島　　博和 | 公認会計士 |

○：部会長

# 独立行政法人国立文化財機構の平成21年度に係る業務の実績に関する評価

## 項目別評価総表

| 項目名 | 中期目標期間中の評価の経年変化※ | | | | | | 項目名 | 中期目標期間中の評価の経年変化※ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 18年度 | | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | | 18年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
| | 博物館 | 研究所 | | | | | | 博物館 | 研究所 | | | | |
| （大項目名）国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 | A | A | A | A | A | | （中項目名）文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | － | A | S | A | A | |
| （中項目名）歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 | A | － | A | A | A | | （小項目名）国際協力に関する研究基盤の整備 | － | A | S | A | A | |
| （小項目名）収蔵品の収集 | A | － | A | A | A | | （小項目名）保存修復に関する技術移転の推進 | － | A | S | A | A | |
| （小項目名）収蔵品の管理、保存 | A | － | B | A | A | | （中項目名）情報発信機能の強化 | － | A | A | A | A | |
| （小項目名）収蔵品の修理、保存処理 | A | － | A | A | A | | （小項目名）情報基盤の整備充実 | － | A | A | A | A | |
| （小項目名）収集、保管のための調査研究 | A | － | － | ― | ― | | （小項目名）調査研究成果の公開・提供 | － | A | A | A | A | |
| （中項目名）文化財を活用した歴史・ 伝統文化の国内外への発信 | B | － | A | A | A | | （小項目名）公開施設の運用 | － | A | A | A | A | |
| （小項目名）展示の充実 | S | － | S | S | S | | （小項目名）情報発信機能の強化 | B | － | A | A | S | |
| （小項目名）歴史・伝統文化の理解促進 | A | － | A | A | A | | （中項目名）地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | － | A | A | A | A | |
| （小項目名）展示、教育普及活動などの博物館活動のための調査研究 | A | － | － | ― | ― | | （小項目名）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築 | － | A | A | A | A | |
| （小項目名）快適な観覧環境の提供 | B | － | A | B | A | | （小項目名）中核的文化財担当者の研修・若手研者の育成 | － | A | S | A | A | |
| （中項目名）我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 | A | － | A | A | A | | （大項目名）業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 | A | A | A | A | A | |
| （小項目名）調査研究成果の発信 | － | － | A | A | A | | （小項目名）業務の効率化 | A | （A） | A | B | A | |
| （小項目名）海外研究者の招聘 | － | － | A | A | A | | （小項目名）外部評価等の実施 | A | （A） | B | A | A | |
| （小項目名）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 | － | － | A | A | A | | （小項目名）情報の安全向上 | A | － | A | A | A | |
| （小項目名）収蔵品貸与の推進 | － | － | A | A | A | | （小項目名）人件費の削減 | A | （A） | A | B | A | |
| （小項目名）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言 | － | － | A | A | A | | （大項目名）財務・人事 | A | A | A | A | A | |
| （中項目名）文化財に関する調査及び研究の推進 | － | A | A | A | A | | （小項目名）予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画 | A | A | A | A | A | |
| （小項目名）調査研究の目的、内容の適切性 | － | S | A | A | A | | （小項目名）人事計画に関する計画 | A | A | A | A | A | |
| （小項目名）調査研究の実施状況 | － | S | A | S | A | | | | | | | | |
| （小項目名）調査研究の成果の状況 | － | A | A | A | A | | | | | | | | |

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考（法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等）
・本法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。
・「文部科学省の使命と政策目標」については、「12－2文化財の保存および活用の充実」に該当する。

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

| 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | | 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | | | | | | 支出 | | | | | |
| 運営費交付金 | 9,042 | 8,771 | 8,367 | | | 運営事業費 | 10,341 | 9,779 | 10,454 | | |
| 施設整備費補助金 | 148 | 1,872 | 2,331 | | | 人件費 | 3,483 | 3,507 | 3,244 | | |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | － | － | 548 | | | 一般管理費 | 1,191 | 1,173 | 1,066 | | |
| 展示事業等収入 | 1,558 | 1,786 | 1,898 | | | 業務経費 | 5,667 | 5,098 | 6,144 | | |
| 受託収入 | 527 | 514 | 525 | | | 調査研究事業費 | 1,261 | 1,448 | 1,473 | | |
| その他寄附金等 | 149 | 127 | 139 | | | 情報公開事業費 | 166 | 146 | 144 | | |
| | | | | | | 研修事業費 | 22 | 22 | 17 | | |
| | | | | | | 国際研究協力事業費 | 249 | 229 | 223 | | |
| | | | | | | 展示出版事業費 | 119 | 112 | 163 | | |
| | | | | | | 展覧事業費 | 3,780 | 3,079 | 4,050 | | |
| | | | | | | 教育普及事業費 | 70 | 62 | 74 | | |
| | | | | | | 施設整備費 | 148 | 2,106 | 2,212 | | |
| | | | | | | 文化芸術情報電子化推進費 | － | － | 542 | | |
| | | | | | | 受託事業費 | 486 | 503 | 492 | | |
| 計 | 11,424 | 13,070 | 13,808 | | | 計 | 10,975 | 12,388 | 13,700 | | |

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
施設整備費補助金の増は、建物改修工事等の増によるものである。
文化芸術情報電子化推進費補助金は、平成21年度補正予算によるものである。
展示事業等収入の増は、特別展の入場者増によるものである。
調査研究事業費の増は、当初予定外の受託事業(平成21年度美術館・博物館基盤整備支援事業等)によるものである。
展示出版事業費の増は、平城宮跡資料館改修工事によるものである。
展覧事業費の増は、前年度からの繰越、特別展の入場者増等によるものである。

（単位：百万円）

| 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | | 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 費用 | | | | | | 収益 | | | | | |
| 経常経費 | 9,095 | 9,451 | 9,700 | | | 運営費交付金収益 | 7,010 | 6,861 | 6,364 | | |
| 人件費 | 3,956 | 4,025 | 3,842 | | | 受託収入 | 529 | 562 | 554 | | |
| 一般管理費 | 1,035 | 1,153 | 1,128 | | | 入場料収入 | 1,081 | 1,160 | 1,322 | | |
| 業務経費 | 4,104 | 4,273 | 4,730 | | | 展示事業等附帯収入 | 310 | 423 | 370 | | |
| 調査研究業務費 | 886 | 1,026 | 1,393 | | | 財産利用収入 | 162 | 150 | 159 | | |
| 情報公開業務費 | 141 | 130 | 124 | | | 寄附金収益 | 57 | 80 | 123 | | |
| 研修業務費 | 20 | 20 | 17 | | | 施設費収益 | 7 | 132 | 143 | | |
| 国際研究協力業務費 | 248 | 225 | 222 | | | その他補助金収益 | － | － | 376 | | |
| 展示出版業務費 | 108 | 114 | 179 | | | 資産見返負債戻入 | 359 | 398 | 418 | | |
| 展覧業務費 | 1,768 | 1,819 | 1,894 | | | 雑益等 | 3 | 5 | 18 | | |
| 教育普及業務費 | 70 | 62 | 68 | | | 臨時利益 | － | － | 347 | | |
| 受託業務費 | 483 | 474 | 484 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 378 | 400 | 346 | | | | | | | | |
| 雑損等 | 2 | 3 | 3 | | | | | | | | |
| 臨時損失 | 14 | 20 | 349 | | | | | | | | |
| 計 | 9,109 | 9,471 | 10,049 | | | 計 | 9,518 | 9,771 | 10,194 | | |
| | | | | | | 純利益 | 409 | 300 | 145 | | |
| | | | | | | 目的積立金取崩額 | 5 | 4 | 3 | | |
| | | | | | | 総利益 | 414 | 304 | 148 | | |

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
調査研究業務費及びその他補助金収益の増は、文化芸術情報電子化推進費補助金によるものである。
展示出版業務費の増は、施設整備費による修繕費によるものである。
展覧業務費の増は、特別展の入場者増への対応費用等によるものである。
臨時損失及び臨時利益の増は、建物建替工事に伴う建物の除却によるものである。
入場料収入の増は、特別展の入場者増によるものである。

（単位：百万円）

| 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | | 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資金支出 | | | | | | 資金収入 | | | | | |
| 業務活動による支出 | 9,107 | 9,114 | 9,034 | | | 業務活動による収入 | 11,719 | 11,558 | 11,894 | | |
| 投資活動による支出 | 2,575 | 3,595 | 4,345 | | | 運営費交付金による収入 | 9,042 | 8,771 | 8,367 | | |
| 財務活動による支出 | 20 | 16 | 20 | | | 展示事業等による収入 | 2,677 | 2,787 | 3,527 | | |
| 翌年度への繰越金 | 2,490 | 3,343 | 4,158 | | | 投資活動による収入 | 3 | 2,020 | 2,320 | | |
| | | | | | | 施設費による収入 | 0 | 2,020 | 2,320 | | |
| | | | | | | 固定資産売却による収入 | 3 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 財務活動による収入 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 前年度よりの繰越金 | 2,470 | 2,490 | 3,343 | | |
| 計 | 14,192 | 16,068 | 17,557 | | | 計 | 14,192 | 16,068 | 17,557 | | |

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
投資活動による支出の増は、施設整備費補助金によるものである。
翌年度への繰越金の増は、施設工事の未払金によるものである。
展示事業等による収入の増は、特別展の入場者増及び文化芸術情報電子化推進費補助金によるものである。
前翌年度よりの繰越金の増は、陳列品購入費によるものである。

【参考資料2】貸借対照表の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

| 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | | 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資産 | | | | | | 負債 | | | | | |
| 流動資産 | | | | | | 流動負債 | | | | | |
| 現金・預金 | 2,490 | 3,343 | 4,158 | | | 運営費交付金債務 | 752 | 1,350 | 1,197 | | |
| 未収金 | 553 | 664 | 601 | | | 預り施設費 | － | － | 0 | | |
| その他 | 71 | 36 | 32 | | | 預りその他補助金 | － | － | 6 | | |
| 固定資産 | | | | | | 預り寄附金 | 113 | 152 | 144 | | |
| 有形固定資産 | | | | | | 未払金 | 1,805 | 1,787 | 2,448 | | |
| 建物 | 45,827 | 43,830 | 42,143 | | | 未払費用 | 47 | 51 | 59 | | |
| 収蔵品 | 95,898 | 97,362 | 99,521 | | | 前受金 | 1 | 1 | － | | |
| 土地 | 44,411 | 44,411 | 44,411 | | | 預り金 | 122 | 146 | 229 | | |
| その他 | 4,686 | 5,666 | 6,961 | | | その他流動負債 | 2 | 2 | 4 | | |
| 無形固定資産 | | | | | | | | | | | |
| ソフトウェア | 105 | 116 | 144 | | | 固定負債 | | | | | |
| 電話加入権 | 5 | 5 | 5 | | | 資産見返負債 | | | | | |
| 投資その他資産 | 1 | 1 | 1 | | | 資産見返運営費交付金 | 2,111 | 2,030 | 2,038 | | |
| | | | | | | 資産見返寄附金 | 42 | 73 | 106 | | |
| | | | | | | 資産見返物品受贈額 | 127 | 113 | 99 | | |
| | | | | | | 資産見返その他補助金 | － | － | 162 | | |
| | | | | | | 建設仮勘定見返運営費交付金 | 123 | 123 | 126 | | |
| | | | | | | 建設仮勘定見返施設費 | 116 | 1,526 | 2,963 | | |
| | | | | | | その他の固定負債 | | | | | |
| | | | | | | 長期未払金 | 33 | 23 | 39 | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 負債合計 | 5,394 | 7,377 | 9,620 | | |
| | | | | | | 純資産 | | | | | |
| | | | | | | 資本金 | 104,714 | 104,714 | 104,714 | | |
| | | | | | | 資本剰余金 | 83,220 | 82,324 | 82,479 | | |
| | | | | | | 利益剰余金 | 719 | 1,019 | 1,164 | | |
| | | | | | | （うち当期未処分利益） | 414 | 304 | 148 | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 純資産合計 | 188,653 | 188,057 | 188,357 | | |
| 資産合計 | 194,047 | 195,434 | 197,977 | | | 負債純資産合計 | 194,047 | 195,434 | 197,977 | | |

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
運営費交付金債務は、陳列品購入の次年度執行予定に伴うものが主な要因であり、業務運営に与える影響はない。
未払金の増は、施設工事によるものが主な要因である。
資産見返負債の増は、未完成の施設工事によるものである。

【参考資料3】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去5年分を記載）　（単位：百万円）

| 区　分 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ　当期未処分利益 | | | | | |
| 当期総利益 | 414 | 304 | 148 | | |
| 前期繰越欠損金 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | |
| Ⅱ　利益処分額 | | | | | |
| 積立金 | 414 | 304 | 7 | | |
| 独立行政法人通則法第44条第3項により | | | | | |
| 主務大臣の承認を受けた額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 業務拡充積立金 | 0 | 0 | 141 | | |
| 施設改修積立金 | 0 | 0 | 0 | | |

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
21年度の業務拡充積立金は申請予定額である。

Ｓ：特に優れた実績を上げている。（客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）

Ａ：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100％以上）

Ｂ：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70％以上100％未満）

Ｃ：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70％未満）

Ｆ：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。
（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。）

# 独立行政法人国立文化財機構の平成２１年度に係る業務の実績に関する評価

## *Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置*

| 評　定 |
| --- |
| A |

| 中項目の評価 | 評　定 |
| --- | --- |
| １．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 | A |
| ２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 | A |
| ３．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与 | A |
| ４．文化財に関する調査及び研究の推進 | A |
| ５．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 | A |
| ６．情報発信機能の強化 | A |
| ７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 | A |

*【中項目評価】*

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

| 評　定 |
| --- |
| A |

評価のポイント

収蔵品の収集については、各館の特性を踏まえ限られた予算内での購入が行われ、寄託品や寄贈についても各館における所有者との信頼関係や美術界に果たした諸活動の成果であり、評価できる。
各館の体制の確保や保存カルテ作成など順調に推移している。
収蔵品の修理事業も目標を上回り、成果が上がるとともに、各館とも「修理契約委員会」を設置して透明性を確保している。

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>主な計画上の<br>評価指標</th><th>主な実績及び自己評価</th><th>評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF</th></tr>
<tr>
<td>（1）－1　体系的･通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。<br>（東京国立博物館）<br>日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。<br>（京都国立博物館）<br>京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。<br>（奈良国立博物館）<br>仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。<br>（九州国立博物館）<br>日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古資料歴史資料等を収集する。<br><br>（1）－2　収蔵品の体系的･通史的なバランスに留意し、寄贈･寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</td>
<td>1．収蔵品の収集<br>○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。</td>
<td>主な実績<br>収蔵品　121,511件　（うち新収品390件　購入46件、寄贈148件、編入196件）<br>文化財購入費　17億6千万円　　※20年度 10億4千万円（7億2千万円増）<br>寄託品　11,904件　（うち新規寄託品　389件）　※20年度12,067件（163件減）<br><br>【寄託件数】指標：平常展に必要と考えられる件数（年度計画）<br>※定量的評価の目標値を設定しているものについては、実績が目標値の1.5倍以上をあげた場合「S」とした。<br><br>東京国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2,400件以上</td><td>1,680件以上<br>2,400件未満</td><td>1,680件未満</td><td>2,734件</td><td>A</td></tr>
</table>
京都国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>5,800件以上</td><td>4,060件以上<br>5,800件未満</td><td>4,060未満</td><td>5,957件</td><td>A</td></tr>
</table>
奈良国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2,060件以上</td><td>1,442件以上<br>2,060件未満</td><td>1,442件未満</td><td>1,957件</td><td>B</td></tr>
</table>
九州国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>800件以上</td><td>560件以上<br>800件未満</td><td>560件未満</td><td>1,256件</td><td>S</td></tr>
</table>
自己評価<br>21年度も展示や研究に活かせるような文化財の収集に努め、編入を除いて194件の新収品を得た。（うち購入46件）<br>主な購入品としては、呉春筆「山水図屏風」（東博）、長澤蘆雪筆「双鹿図」（京博）、華厳経（二月堂焼経）巻第二十四（奈良博）、重文「馮子振墨蹟　与放牛光林語」（九博）など各館の特色を活かした効果的な収集を行っており、平常展の活性化や調査研究を行う上で、重要な役割を果たすことが期待される。<br>寄贈については、個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、148件の文化財を新規で寄贈いただくことができた。これまでの良好な関係の構築と積極的な働きかけにより、関西を代表するコレクターであった幸節静彦氏のコレクションから重要美術品の古筆切 彩牋墨書 古今和歌集巻第十八断簡「本阿弥切」（京博）など博物館の収集方針とも合致した良品の寄贈を得ることができた。寄贈は個人収集家や社寺等のご厚志によるものであるので、今後も顕彰などを活用して積極的に働きかけに努めていきたい。<br>定量的な目標を定めている寄託品については、東博、京博、九博では目標値を上回ったが、奈良博で期限付き寄託の一括返還があったため目標を達成できなかった。寄託者の経済的事情や当機構への寄託品の寄贈、寄託品の購入、前述の返還などにより、寄託品の総数は、前年度に比べ163件減となったが、新規寄託品は389件と昨年比178件増となった。中でも、九博が寄託を受けた考古遺物は北九州における弥生時代の金属製品の特徴を示すもので、展示のみならず研究資料として大いに期待できるものである。<br>以上のような購入・寄託により、コレクションの体系的・通史的バランスをより良いものにすることができたと考えている。<br>次年度以降もナショナルセンターの役割に相応しい収集を実施していきたい。</td>
<td>評定　A<br>コメント<br>購入による収集は、各館の特質を踏まえ、限られた予算内で努力がなされていることを評価する。なお、収蔵品の収集については、今後とも質の確保に努めてほしい。<br>寄託品については、日頃の調査活動と所有者との信頼関係形成の成果であり、努力がなされている。<br>寄贈も順調であり、これも各館が美術界に果たしている諸活動の成果である。</td>
</tr>
</table>

（２）国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

**２．収蔵品の管理、保存**

○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的かつ速やかに実施すること。

○保存環境の調査研究等を実施すること。

**主な実績**

・東洋館耐震補強工事に伴い、同館内収蔵庫から文化財を搬出し館内で安全に保管（東博）
・平成20年度から実施している列品情報整備事業の2年目として、絵画・歴史資料・東洋漆工分野で作業を進めた（東博）
・平常展示館の建替に伴う、同館内収蔵庫からの館蔵品、寄託品を搬出し館内で安全に保管（京博）
・西新館の耐震補強工事、仏教美術資料研究センターの過剰ではなく必要最低限の耐震性を確保する改修工事（奈良博）
・IPM（総合的有害生物管理）の実施・普及（奈良博・九博）

【保存カルテ作成件数】指標：年度計画

東京国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 800件以上 | 560件以上800件未満 | 560件未満 | 1,989件 | S |

京都国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 100件以上 | 70件以上100件未満 | 70件未満 | 214 件 | S |

奈良国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 100件以上 | 70件以上100件未満 | 70件未満 | 114件 | A |

九州国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 200件以上 | 140件以上200件未満 | 140件未満 | 205件 | A |

**自己評価**

定量的な目標を定めている保存カルテの作成件数については、全ての館で目標を上回っている。また無線ＬＡＮを利用した展示ケース内の温湿度度管理（奈良博）やＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動の実践として防虫対策など日常的な環境管理を行うなど、各館とも展示室内の万全の体制を図るとともに、展示・収蔵施設の耐震対策を着実に実施している。また、昨年に引き続き輸送中における文化財への影響調査を行い、その成果を外部研究会で発表するなど、より安全な輸送のあり方の検討を進めた。

**評定　A**

コメント

各館とも文化財の安全な保管を、最優先の課題として取り組んでいる。また、最近の課題である耐震性確保や、IPMによる管理、保存カルテ作成など順調に推移している。

文化財の「安全なる輸送」への基礎研究や成果の外部発信も評価する。

なお、奈良博の展示ケース内の温湿度調査については他館の参考ともなり得ることから、成果を広報・普及することが望まれる。

（３）修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。

**３．収蔵品修理、保存処理**

○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること

○外部の専門家と連携すること。

○科学的な保存技術を取り入れること。

**主な実績**

・計画的な文化財の本格修理を実施（146件）
・修理契約委員会を設置し、契約の透明性に努めた（各館）
・X線透過撮影、光学実体顕微鏡などを使用した調査を実施し、今後の修理計画に反映した（東博）
・展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財を修理した（九博）

【修理件数（本格修理）】指標：年度計画

東京国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 70件以上 | 49件以上70件未満 | 49件未満 | 106件 | S |

京都国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 10件以上 | 7件以上10件未満 | 7件未満 | 5件 | C |

奈良国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 4件以上 | 2件以上3件未満 | 2件未満 | 11件 | S |

九州国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 15件以上 | 10件以上15件未満 | 10件未満 | 24件 | S |

**自己評価**

定量的な目標を定めている修理件数については、京都国立博物館を除く３館で目標を上回った。京都国立博物館では年度途中に急遽必要となった新規事業との兼ね合いで計画通りに進まなかった。収蔵品の本格修理は146件実施し、20年度を20件上まわる実績をあげている。

修理の指針策定に文化庁調査官や有識者、修理技術者などの外部専門家を交えた修理検討会も実施している。また修理に関する契約方法、業者選定の適正化のために外部有識者を交えた「修理契約委員会」を各館ごとに設けて実施した。

**評定　A**

コメント

修理事業は目標を上まわり、21年度の博物館活動の成果である。修理された文化財は、平常展示や企画展示に活用され、展示の充実や文化財の価値を上げることに繋がる活動である。また、修理業者の選定手法も、各館で「修理契約委員会」を設置して、透明性を確保している。

機器分析や画像解析など、自然科学的調査が随所でなされており、その成果の活用を期待する。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 展示の充実や快適な観覧環境の提供並びに歴史・伝統文化の理解増進など、様々な取り組みが行われ、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信は着実に進んでいるものと認められる。<br>博物館として整備しなければならない外国語パネルの設置や、広報の工夫など地道な活動の成果及び質の高い特別展の開催も相まって、500万人を超す過去最大の入館者を達成したことを高く評価する。しかし、このときこそ快適な観覧環境について今後の課題とすべきである。<br>ボランティアの育成や大学との連携など各館とも工夫を凝らし、多様で順調に推移している。<br>日傘の貸し出しや給水所の設置、夜間延長など混雑時対策も適切になされている。また、休館日に障害者の日を設けるなど障害のある方への配慮が少しづつでも工夫されていることは評価できる。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| （１）展示の充実<br>展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。<br>また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。 | **１．展示の充実**<br>○国民のニーズや学術的動向を踏まえた質の高いものとすること。<br>○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。<br>（平常展）<br>○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること。<br>○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと。<br>○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80%以上設置すること。<br><br>（特別展）<br>○我が国の博物館の中心的拠点にふさわしい質の高 | **主な実績**<br>**21年度国立博物館入場者数　合計 502万9,198人　※20年度　399万2,715人（約103万6千人、26.0%増）**<br>**①平常展（入場者数　101万1,869人）　※20年度　90万8,912人（約10万3千人、11.3%増）**<br>・特集陳列「有職（ゆうそく）」、「茨城の弥生再葬墓」などを実施（東博）<br>・東洋館休館に伴い、表慶館1階にて東洋の考古・工芸の展示を行った<br>・平常展示館建替工事に伴い、平常展示は休止せざるをえなかったが館外での収蔵品公開に努めた（京博）<br>（※特別展参照「日本の美」展10月2日～11月8日：主催　富山県水墨美術館、北日本新聞社　特別協力：京博）<br>・特集展示「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」などを実施（奈良博）<br>・企画展「新収品'05-'08　交流する文化のかたち」を開催した（九博）<br>・中国語ガイドブック及び英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成した（九博）<br><br>**②特別展（入場者数　401万7,329人）　※20年度　308万3,803人（約93万4千人、30.3%増）**<br>**（※各展覧会の詳細については次ページ以降参照）**<br><br>**●海外展**<br>・「サムライの美術―東京国立博物館精選」<br>主催：東京国立博物館・バウワーズ博物館<br>会場：バウワーズ博物館（アメリカ）<br>入場者数：18,609人<br>・「日本・その力と輝き　1568-1868」<br>主催：ミラノ市（イタリア）、モッタ社<br>特別協力：東京国立博物館、大阪市立美術館<br>会場：パラッツォ・レアーレ（イタリア）<br>入場者数：47,192人 | **評定　S**<br>コメント<br>博物館として整備すべき外国語パネルの設置や、広報の工夫など、地道な活動を行なうとともに、質の高い特別展の開催とも相まって、500万人を超す過去最大の入館者数を達成したことを高く評価したい。しかし、このときこそ、快適な観覧環境について今後の課題とすべきである。<br>独自企画の「染付-藍が彩るアジアの器」の入館者数未達成については、入館者数のみでは展覧会の質は評価できず、当該分野の過去の研究史や最新研究成果を客観的に踏まえ、専門家以外にも分るよう解説等を工夫しており、「研究」と「普及」という難課題を見事に達成した展覧会であったことを特記しておきたい。当該展覧会は、むしろ財政等が厳しい中での独自企画展におけ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① 平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80％以上設置する。<br><br>② 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。<br>（東京国立博物館）<br>年３～４回程度<br>（京都国立博物館）<br>年２～３回程度<br>（奈良国立博物館）<br>年２～３回程度<br>（九州国立博物館）<br>年２～３回程度 | い展示とすること。<br>○特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとすること。<br>・東京国立博物館<br>３～４回<br>・京都国立博物館<br>・奈良国立博物館<br>２～３回<br>・九州国立博物館<br>２～３回<br>○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること。<br>○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること。 | ・文化庁海外展「The Power of Dogu」<br>主催：文化庁、大英博物館、東京国立博物館<br>会場：大英博物館（イギリス）<br>入場者数：65,564人<br>・文化庁海外展「侍の芸術」<br>主催：文化庁、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、東京国立博物館<br>会場：ニューヨーク・メトロポリタン美術館（アメリカ）<br>入場者数：187,064 人<br>**③展覧会広報**<br>・ウェブサイトトップページのリニューアルを図った（東博・京博）<br>・京都市内4館の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布（京博）<br>・来年度開催の特別展「平城遷都1300年記念大遣唐使展」に関して、東京で記者発表を行った（奈良博）<br>・九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った（九博）<br><br>**④黒田記念館作品の公開機会拡大**<br>・特集陳列「農村（田園）へのまなざし」を開催（東博）<br><br>**■博物館の年間総入場者数、陳列件数等** | る広報・宣伝の課題と見るべきである。<br>「妙心寺」展における九博独自の展示に、各博物館それぞれの地域の特徴が生れる可能性があり、今後のモデルとして評価できる。<br>また、平常展においても展示替えなどの際は、マスコミなどに働きかけ、平常展にも目を向けさせることに力を注ぐ時期が到来していると考える。今後は、特別展のみならず平常展へ興味関心を促し、平常展への入館者をより増加させるなど、博物館本来の姿を目指すべきである。 |

| | 総入場者数 | 平常展 | | | | 特別展・共催展 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 入場者数 | 陳列件数 | 陳列替 | 特集陳列 | 入場者数 | 開催回数 |
| ４博物館 | 5,029,198人 | 1,011,869人 | 9,424件 | 755回 | 96件 | 4,017,329人 | 24回 |
| 東博 | 2,416,281人 | 330,536人 | 6,601件 | 316回 | 66件 | 2,085,745人 | 12回 |
| 京博 | 452,920人 | －人 | －件 | －回 | －件 | 452,920人 | 5回 |
| 奈良博 | 560,293人 | 136,672人 | 717件 | 8回 | 8件 | 423,621人 | 3回 |
| 九博 | 1,599,704人 | 544,661人 | 2,106件 | 431回 | 22件 | 1,055,043人 | 4回 |

※開催回数に海外展（東博4回）を含む（入場者数は除く）
※入場者数は年度集計（21.4.1-22.3.31）

【平常展外国語パネルの設置率】指標：中期計画

東京国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 56%以上80%未満 | 56%未満 | 97% | A |

京都国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 56%以上80%未満 | 56%未満 | －% | － |

奈良国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 56%以上80%未満 | 56%未満 | 91% | A |

九州国立博物館

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 56%以上80%未満 | 56%未満 | 82% | A |

【特別展等入館者数】指標：年度計画
東京国立博物館（目標：132万人）

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ③　個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。<br><br>④　黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。 | | A | B | C | 実績 | 定量的評価 | |
| | | 1,320,000人以上 | 924,000人以上<br>1,320,000人未満 | 924,000人未満 | 1,974,652人 | A | |
| | | 興福寺創建1300年記念「国宝　阿修羅展」（21.3.31～6.7） | | | | | |
| | | 540,000人以上 | 378,000人以上<br>540,000人未満 | 378,000人未満 | 946,172人 | S | |
| | | 日仏交流150周年記念　特別展「Story of … カルティエクリエイション～めぐり逢う美の記憶」（21.3.28～5.31） | | | | | |
| | | 90,000人以上 | 63,000人以上<br>90,000人未満 | 63,000人未満 | 120,483人 | A | |
| | | 特別展「染付－藍が彩るアジアの器」（21.7.14～9.6） | | | | | |
| | | 70,000人以上 | 49,000人以上<br>70,000人未満 | 49,000人未満 | 52,731人 | B | |
| | | 第62回式年遷宮記念　特別展「伊勢神宮と神々の美術」（21.7.14～9.6） | | | | | |
| | | 110,000人以上 | 77,000人以上<br>110,000人未満 | 77,000人未満 | 114,796人 | A | |
| | | 御即位20年記念　特別展「皇室の名宝－日本美の華」（1期：21.10.6～11.3、2期：21.11.12～11.29） | | | | | |
| | | 350,000人以上 | 245,000人以上<br>350,000人未満 | 245,000人未満 | 447,944人 | A | |
| | | 没後400年　特別展「長谷川等伯」（22.2.23～3.22） | | | | | |
| | | 160,000人以上 | 112,000人以上<br>160,000人未満 | 112,000人未満 | 292,526人 | S | |
| | | （参考）※年度計画外に実施（開催回数に含む）<br>日本・ギリシャ修好110周年記念「アテネ・メトロ・ミュージアムーギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代－」（21.4.7～5.10） | | | | | |
| | | 未設定 | | | 未集計 | | |
| | | （参考）※年度計画外に実施のため目標値は全体の目標値に含めない（開催回数、総入場者数に含む）<br>文化庁海外展　大英博物館帰国記念　「国宝　土偶展」（21.12.15～22.2.21） | | | | | |
| | | （50,000人以上） | （35,000人以上<br>50,000人未満） | （35,000人未満） | 128,285人 | （S） | |
| | | 京都国立博物館（目標：13万人） | | | | | |
| | | A | B | C | 実績 | 定量的評価 | |
| | | 130,000人以上 | 91,000人以上<br>130,000人未満 | 91,000人未満 | 466,857人 | S | |
| | | 開山無相大師650年遠諱記念　妙心寺　（21.3.24 ～ 5.10） | | | | | |
| | | 30,000人以上 | 21,000人以上<br>30,000人未満 | 21,000人未満 | 106,081人 | S | |
| | | シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー（21.7.14 ～ 9.6） | | | | | |
| | | 20,000人以上 | 14,000人以上<br>20,000人未満 | 14,000人未満 | 25,511人 | A | |
| | | 日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－（21.10.10 ～ 11.23） | | | | | |
| | | 30,000人以上 | 21,000人以上<br>30,000人未満 | 21,000人未満 | 88,187人 | S | |
| | | ＴＨＥ　ハプスブルク　（22.1.6 ～ 3.14） | | | | | |
| | | 50,000人以上 | 35,000人以上<br>50,000人未満 | 35,000人以上 | 247,078人 | S | |
| | | （参考）※年度計画外に実施のため目標値は全体の目標値に含めない（開催回数に含む） | | | | | |

「日本の美　国宝との出会い」展（21.10.2～11.8）
（主催：富山県水墨美術館、北日本新聞社　特別協力：京都国立博物館　会場：富山県水墨美術館）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| （20,000人以上） | （14,000人以上<br>20,000人未満） | （20,000人以上） | （30,366人） | （S） |

奈良国立博物館（目標：24万5千人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 245,000人以上 | 171,500人以上<br>245,000人未満 | 171,500人未満 | 423,621人 | S |

国宝　鑑真和上展（21.4.4～5.24）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 35,000人以上 | 24,500人以上<br>35,000人未満 | 24,500人未満 | 93,779人 | S |

聖地寧波－日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～（21.7.18～8.30）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 30,000人以上 | 21,000人以上<br>30,000人未満 | 21,000人未満 | 30,548人 | A |

第61回正倉院展（20.10.24～11.12）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 180,000人以上 | 126,000人以上<br>180,000人未満 | 126,000人未満 | 299,294人 | S |

九州国立博物館（目標：33万人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 330,000人以上 | 231,000人以上<br>330,000人未満 | 231,000人未満 | 1,055,043人 | S |

聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝（21.4.11～6.14）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 100,000人以上 | 70,000人以上<br>100,000人未満 | 70,000人未満 | 140,917人 | A |

国宝　阿修羅展（21.7.14～9.27）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 120,000人以上 | 84,000人以上<br>120,000人未満 | 84,000人未満 | 711,154人 | S |

古代九州の国宝（21.10.20～11.29）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 30,000人以上 | 21,000人以上<br>30,000人未満 | 21,000人未満 | 72,741人 | S |

京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球－（22.1.1～2.28）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 80,000人以上 | 56,000人以上<br>80,000人未満 | 56,000人未満 | 130,231人 | S |

**自己評価**

定量的な目標として掲げている特別展入場者数、平常展の陳列総件数、陳列替え回数については各館ともおおむね目標を達成した。外国語パネルの設置については、閉館中の京都国立博物館を除き、各館とも目標（80%以上）を達成しており、また全ての作品のキャプションに外国語を付している。

21年度における国立博物館への入場者数は、全体としては103万6千人増（26%増）となっている。これは東京国立博物館と九州国立博物館で開催された「国宝阿修羅展」が合計165万人もの入場者を集めたほか、各館とも好調な特別展が多かったためであり、京都国立博物館の休館を補ってあまりある活況であった。

平常展の入場者も、21年度は約90万9千人から101万2千人と10万3千人増（11.3%増）となっている。特に九州国立博物館では「国宝阿修羅展」の効果もあってか約24万1千人から54万4千人と２倍以上のも増加が見られ、奈良国立博物館でも約2万人増であった。22年度は東京国立博物館東洋館、京都国立博物館平常展示館、奈良国立博物館西新館がそれぞれ工事に伴う閉館

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>をしており、平常展の入場者増には厳しい状況ではあるが、さらなる工夫をして平常展の活性化に努めたい。<br>　特別展入場者数は前述の「阿修羅展」の好評もあり93万人3千人増（30.3%増）と大幅に増加した。目標入場者数は東京国立博物館「染付展」で目標を達成することができなかったが、それ以外は目標を大幅に上回る展覧会が大半を占め、好調な1年であった。一方、入場者が多い展覧会では特に会場の混雑や長時間の待ち時間発生など、解消されない問題がクローズアップされ、抜本的な解決策はない状況ではあるが、引き続き改善を図っていきたい。また目標の設定という点で大半が目標を大幅に上回る結果となったことについて、事前の設定を再検討する必要もあると考える。<br>　入場者のアンケートによる満足度では「京都妙心寺展」（九博）の91.6%、「聖地チベット展」（九博）の90.6%、「鑑真和上展」（奈良）90.2%が上位であった。<br>　海外展ではニューヨーク・メトロポリタン美術館で開催された文化庁海外展「侍の芸術」が18万人を超える入場者を得るなど、日本文化の発信に貢献できたと考えている。<br>　黒田記念館所蔵作品の公開については、東京国立博物館本館で展示するなど、東京文化財研究所と共同し、公開の機会を広げている。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）歴史・伝統文化の理解促進<br>　歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。<br><br>①　学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。<br><br>②－１　教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。<br><br>②－２　企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</td>
<td>２．歴史・伝統文化の理解促進<br>○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。<br>○ボランティア活動を支援すること。<br>○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。</td>
<td>主な実績<br>①学習機会の提供<br>・スクールプログラム（小・中・高等学校団体対象）の受入（東博）<br>・土曜講座・夏期講座については、平常展示館建替工事のため講堂が閉鎖となったため、外部の施設を借りて実施（京博）<br>・奈良市内の全小学校5年生を対象に世界遺産学習の受入を継続（奈良博）<br>・体験型展示室「あじっぱ」にて、「タングラム」（中国を起源とする、７つのパーツを組み合わせてさまざまなシルエットをつくるパズル）を追加した（九博）<br><br>②-1ボランティア活動の支援<br>・ボランティア向け研修の実施、自己学習の奨励（4館）<br>・ボランティアの協力による児童・生徒の就業体験の実施（東博）<br>・大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生がアンケート・ボランティアとして活動（京博）<br>・正倉院展会期中、ボランティアによる講堂解説を実施（奈良博）<br>・館内案内ボランティアが来館者に4カ国語（日本語・中国語・英語・韓国語）で対応（九博）<br><br>■ボランティア人数
<table>
<tr><th>合計</th><th>東博</th><th>京博</th><th>奈良博</th><th>九博</th></tr>
<tr><td>641 人</td><td>163 人</td><td>35 人</td><td>98 人</td><td>345 人</td></tr>
</table>
②-2博物館支援者の増加<br>・昨年に引き続き日本大学芸術学部との共催で、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催（東博）<br>・上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等地域の会合に参加し、また台東区等ともイベントや様々な事業を行うことで博物館支援者の増加を図った（東博）<br>・「京都市内4館連携協力協議会」の実施（京博）<br>・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら　2009」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に協力（奈良博）<br>・福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施（九博）</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>　ボランティアの育成、大学との連携など各館とも工夫をこらし、多様であり、順調に推移している。ボランティアの育成やその受け入れには人手がかかるが、さらに博物館を訪れる人々の増加を促すことに繋がることから、一層の充実を期待したい。<br>　また、ギャラリートークに、修復や展示環境などを取り上げることも、博物館のバックヤードに対する理解を助けることから評価できる。<br>　各施設が、独自の企画のみならず、回りの自治体や、民間団体、商工会、観光などと共同でイベントに参加することは、一般の方々の目を博物館に向けるきっかけになり、評価できる。事実、奈良などの中小企業の経営者などの中には、回りに積極的に声を掛け、奈良博をＰＲする姿も見受けられる。</td>
</tr>
</table>

【講演会、ギャラリートークの参加者数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

東京国立博物館（10,915人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 10,915人以上 | 7,641人以上<br>10,915人未満 | 7,641人未満 | 12,881人 | A |

京都国立博物館（5,181人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 5,181人以上 | 3,627人以上<br>5,181人未満 | 3,627人未満 | 3,002人 | C |

奈良国立博物館（3,542人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 3,542人以上 | 2,479人以上<br>3,542人未満 | 2,479人未満 | 3,421人 | B |

九州国立博物館（5,255人）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 5,255人以上 | 3,679人以上<br>5,255人未満 | 3,679人未満 | 6,806人 | A |

**自己評価**

定量的な目標として掲げた講演会等参加者数は、京都国立博物館と奈良国立博物館で目標を達成できなかった。京都国立博物館においては閉館の影響、奈良国立博物館については特別展の減少に伴う講座開催回数の減少によるものである。

各館ともこれまでの事業を継続的に実施し、児童・生徒のみならず一般も対象とした事業を実施し、学習の機会の提供を図ってきた。京都国立博物館では工事による休館に伴い外部施設を借用して実施し、一回あたりの参加者数を増加させるなど、努力が実っている。

ボランティアについては、博物館において欠かせない存在であるので、研修や自己学習の機会を提供するとともに、ボランティアにとっても充実した活動となるよう各館とも協力して事業を実施している。

博物館支援者の増加に関しては、賛助会や寄附金などは経済情勢に伴い厳しくなってはいるが、地域等と様々な取組みを共同して開催するなどして、積極的な支援者の増加方策を実施している。

（３）快適な観覧環境の提供

国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

① 施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。

② 一般入館者を対象とする満足度調査及び

**３．快適な観覧環境の提供**

○施設のバリアフリー化を進めること。

○利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。

○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること。

**主な実績**

・生涯学習ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」にて、手話通訳つきガイドを試行（東博）

・特別展覧会において入館待ち時間の情報等をHP等できめ細かく発信（京博）

・南門にインフォメーションコーナーを設け、ミュージアムショップとともにリニューアルした。これにより、レストラン含め３施設とも入場券のないお客様にも利用可能となった（京博）

・客数情報システムを導入し、展示室内の観覧者数を正確に把握することで混雑時に適切な入場案内を行えるようにした（奈良博）

・大混雑した「国宝阿修羅展」において、休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供（九博）

**自己評価**

施設のバリアフリー化は年々改善されてきている。九州国立博物館では福岡県と共同でバリアフリー化のための検討を重ね、設備改善に着手するなど実績をあげている。ハード面の改善ももちろんであるが、東京国立博物館では手話通訳をつけたガイドツアーを試行するなど、ソフト面の充実を図る工夫を行っている。

混雑対策はなかなか解決策を見出せないが、奈良国立博物館では新たに「客数情報システム」を導入し展示室内の入場者数を正確に把握することで、混雑時に適正な入場案内を行える工夫をしたり、現場対応ではあるがHPに待ち時間情報等をきめ細

**評定　A**

コメント

日傘の貸し出しや給水所、また夜間延長など現状で可能な混雑時対策は適切になされている。

さらに、ビデオを利用した展示概説は、各館ともすっかり定着しており、一般の入館者へのサービスも充実している。

また、休館日に障害者の日を設けたことなど、昨年まで積極的に行われてこなかった障害のある方への配慮が、少しずつでも工夫されていることは評価したい。できれば今後は、各館とも座高の高い車いすの導入を検討して欲しい。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。<br><br>③　ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。 | | かく発信したり、日傘の貸し出しや給水所を設置するなど、少しでも入場者の負担を軽減できる工夫を行っている。今後も引き続きより快適な観覧環境となるよう努力していく必要がある。<br>　ミュージアムショップやレストランについては、アンケートなどで入場者のニーズを調査し、レストランの接遇改善や新メニューを提供するなど、サービスの向上に努めた。また既設レストラン以外の飲食店やショップを出店するなど入場者に楽しんでいただく工夫を行った。ミュージアムショップではショップ自体のリニューアル（京博）や、続々と独自企画商品を開発したり種類を増やすなど改善を図っている。 | |

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与しているものと認められる。<br>各館の紀要等の質の高さや情報発信の多言語化、学術交流を始め国際シンポジウムなど積極的な活動は評価できる。<br>保存や修復についての技術研究及び啓発は、次世代の育成と研究成果の普及という視点が貫かれており、評価できる。<br>また、収蔵品貸与に関する情報公開体制が整えば公・私立博物館にとって非常に有益な情報となることから、収蔵品貸与の推進のためにも、今後の整備が期待される。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| （１）収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。 | **１．調査研究成果の発信**<br>○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。 | **主な実績**<br>出版物等を通した情報発信<br>・『MUSEUM』（東博）、『学叢』（京博）、『鹿園雑集』（奈良博）、『東風西声』（九博）や展覧会図録等を通して研究成果を発信<br>・『東洋美術100選』英語版・中国語版を刊行（東博）<br>シンポジウム等の開催<br>・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」（京博）<br>・「鑑真和上・唐招提寺フォーラム2009」、正倉院学術シンポジウム「皇室と正倉院宝物」（奈良博）<br>・「中国考古学会」（九博）<br><br>**自己評価**<br>各種出版物の多言語化や研究紀要の発行、ホームページの公開などを通して、博物館における研究成果の発信を積極的に行っていると考える。また、学会や国内シンポジウムを開催し広く研究成果の公表に努めている。 | **評定　A**<br>コメント<br>各館の紀要等は、学界全体からみても、高水準であり、多忙な研究員の努力は特筆すべきである。<br>また各種出版物の多言語化も評価できる。 |
| （２）海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。 | **２．海外研究者の招聘**<br>○海外の優れた研究者を招聘し博物館活動に対する示唆を得ること。 | **主な実績**<br>・ヨーロッパ・アジアを初めてとして世界各国から121人の研究者を招聘し学術交流を図る<br>・「アジア博物館研究集会」を文化庁と共催で開催。海外参加者17ヶ国40名（国立文化財機構）<br>・「日中韓国立博物館長会議」、「アジア国立博物館協会理事会・定期大会」及び「アジア博物館研究集会」の主催館として、日中韓3館の協力体制を確認するとともに、アジアの国立博物館間における連携を深めた（東博）<br>・博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」を開催（東博）<br>・「アジア博物館フォーラム」を開催（東博）<br>・国際シンポジウム「法華の人と文化―その行動と思想―」、ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」を開催（京博）<br>・国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」を開催（奈良博）<br>・国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流　－祈りのかたち　日本と韓国－」を開催（九博） | **評定　A**<br>コメント<br>世界各国から多数の研究者を日本に招聘し、日本がアジアにおいて存在感を示すとともに、学術交流をはじめ、国際シンポジウムなど積極的に行ったことは、評価できる。 |

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>自己評価<br>　海外からの研究者招聘は121人（20年度51人）、海外への派遣は104人（20年度84人）と積極的に国際交流を進め、博物館に係る知見を広めることができた。また多くの国際シンポジウムを各館で実施しており、他国研究者との研究交流を推進している。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（３）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</td>
<td>３．博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施<br>○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること。</td>
<td>主な実績<br>・文化財保存修復家養成実践セミナーの開催（東博）<br>・ワークショップ「古代染織品の保管と公開」、国際シンポジウム「上代裂をまもる」、公開シンポジウム「文化財をまもる－文化財のまもり手を育てる－」を開催（東博）<br>・修理技術者に対する研修会を実施（京博・奈良博）<br>・公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」を開催（九博）<br><br>自己評価<br>　特定非営利活動法人文化財保存支援機構主催の専門家養成実践セミナーを東京国立博物館が共催して開催するなど、文化財保存を担う専門家の育成や基礎能力の向上に取り組んだ。また、京都国立博物館、奈良国立博物館のような保存修理所を所管している博物館においては、修理技術者に対する研修会を実施し、九州国立博物館では紙文化財保存修復研修を実施するなど、各館において博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした指導や研修を実施した。</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>　保存や修復についての技術研究及び啓発は、次世代の育成と研究成果の普及という視点が貫かれ、率先して取り組んでいることは評価できる。<br>　今後は、研修の一部（保存科学、保存環境学など）について、より一層の充実を期待する。</td>
</tr>
<tr>
<td>（４）収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。</td>
<td>４．収蔵品貸与の推進<br>○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること。</td>
<td>主な実績<br>・考古資料相互貸借事業として、茨城県立歴史館、埼玉県立さきたま史跡の博物館に対し、貸与・借用を実施（東博）<br>・ウェブページにて「貸出先作品リスト」を公開し、京博の収蔵品がどこへ行けば鑑賞できるかをリアルタイムで情報提供（京博）<br><br>■文化財の貸与件数<br>
<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>合計</th><th>東京</th><th>京都</th><th>奈良</th><th>九州</th></tr>
<tr><td rowspan="2">件数</td><td>20 年度</td><td>1,585 件</td><td>1,125 件</td><td>246 件</td><td>163 件</td><td>51 件</td></tr>
<tr><td>21 年度</td><td>1,496 件</td><td>888 件</td><td>428 件</td><td>108 件</td><td>72 件</td></tr>
<tr><td rowspan="2">館数</td><td>20 年度</td><td>257 館</td><td>135 館</td><td>45 館</td><td>47 館</td><td>30 館</td></tr>
<tr><td>21 年度</td><td>237 館</td><td>120 館</td><td>68 館</td><td>34 館</td><td>15 館</td></tr>
</table>
<br>自己評価<br>　国内外の博物館等からの要請に積極的に対応し、文化財を貸与しているが、貸与件数は20年度と比較して89件減の1,496件であり、貸与先館数も20館減の237館となっている。減少の理由としては、地方自治体の財政難などによる展覧会規模の縮小が背景にあると思われる。実績では東京国立博物館と奈良国立博物館で減となっているのに対して、京都国立博物館、九州国立博物館は増加している。中でも貸与件数・貸与先とも大幅に増加した京都国立博物館は、平常展示館閉館中という状況を逆手に取り、積極的に貸し出しを行い、各地の博物館・美術館に寄与した。またHP上に収蔵品の貸与先情報をリアルタイムで提供している。<br>　なお、収蔵品の貸与に関する情報については、公開する体制はまだ整っていない。収蔵品の管理・展示とも大きく関係するので全体として引き続き取り組んでいきたい。</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>　文化財の貸与については、順調に推移している。<br>　また、収蔵品の貸与に関する情報公開体制の今後の整備を期待したい。これが整えば、各地の公・私立博物館にとって有益な情報となる。</td>
</tr>
</table>

（５）公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期５年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

**５．公私立博物館・美術館等に対する援助・助言**

○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。

**主な実績**

・「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」（富山県水墨美術館ほか）への学術協力、出陳作品の選定・集荷等の助言・補助、目録の編集協力等を実施（奈良博）

・新九州歴史資料館に対し、館内施設の保存環境整備及び環境調査についての助言・指導（九博）

【公私立博物館・美術館等に対する援助・助言件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

東京国立博物館　（40件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 40件以上 | 28件以上40件未満 | 28件未満 | 139件 | S |

京都国立博物館　（12件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 12件以上 | 8件以上12件未満 | 8件未満 | 114件 | S |

奈良国立博物館　（5件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 5件以上 | 3件以上5件未満 | 3件未満 | 25件 | S |

九州国立博物館（12件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 12件以上 | 8件以上12件未満 | 8件未満 | 39件 | S |

**自己評価**

奈良国立博物館において算定方法を改め他館と合わせたことに伴い、21年度は4館計317件と20年度に比べて17件増と増加となった。成果としては奈良国立博物館において「石山寺展」「信貴山秘法展」への学術協力を通して関西地区の所在の仏教関連文化財を他地域における紹介・普及に貢献するとともに石山寺とも将来に向けた信頼関係を強固なものにできた。

文化財の保存、展示などの分野での地方の博物館等から国立博物館の援助・助言に期待される役割は大きいので、今後も積極的に援助・助言に取り組む。

**評定　A**

コメント

多忙な研究員がこれだけの実績を残すことは、評価できる。定量的評価では４館すべて目標を大きくクリアした。国立博物館に対する信頼の表れであり、文化財保護の推進と、公・私立博物館のレベル向上のためにも積極的に取組んでほしい。

## 4　文化財に関する調査及び研究の推進

| 評　定 |
|---|
| A |

評価のポイント

　文化財研究所における研究は、特色を生かし、堅実な目標設定をしている。
　遺跡の保護・整備・活用は、現在、活用に焦点が当てられているが、保護、維持管理は、古くて新しいテーマであり、最大の課題と考えられるため、長期的な経年変化を継続して観察する総合的な調査・研究を実施し、より一層良好な保存継承システムが構築されることを望む。
　平城京跡の発掘調査と同時にその成果の公表も順調に進んでいて評価できる。また、両研究所とも外部資金等による研究も活発に行われており、評価できる。
　研究成果については、論文や学会、研究会発表の形できちんと公表しており、２０年度の成果を大きく上回っている。職員の拡充が難しい中、密度の高い研究を行っていることは評価できる。

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| （１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進<br>　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。<br>①　文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料 | **１．調査研究の目的、内容の適切性**<br>○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。 | **主な実績**<br>・中期計画に示した課題を達成するために、毎年度ごとに研究目的・テーマを設定<br><br>(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進<br>目的：　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。<br>主なテーマ：<br>・新たな保護対象の調査研究（文化的景観・民俗技術）<br>・新しい美術資料学の確立、近現代美術研究、技法材料の広領域研究<br>・無形文化遺産研究<br>・歴史資料・書籍資料等の調査<br>・文化財建造物の保存・修復・活用の研究<br>・平城京跡・飛鳥藤原京跡の発掘調査<br>・出土遺物の分析とアジアの古代都城遺跡の調査研究<br>・遺跡の保存、整備、活用の技術開発（平城宮跡、藤原宮跡の整備復原）<br><br>(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進<br>目的：　文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。<br>主なテーマ：<br>・高精細デジタル画像の応用<br>・文化財の非破壊調査法<br>・遺跡調査の新たな指標・属性分析法の研究<br>・遺跡の測量・探査技術の有効利用法の確立<br>・年輪年代測定法による研究<br>・動植物遺存体による環境考古学研究 | **評定　A**<br>コメント<br>　東文研・奈文研とも特色を生かし、堅実な目標設定をしている。この分野の高精細デジタル画像の利用は、すっかり定着している。東博の「博物館環境デザインに関する研究」は独自性に富む。<br>　新たに保護が必要な文化財の基礎的調査については、より一層充実させる必要があり、スタッフについてもさらに充実させるべきである。<br>　また、遺跡の保護・整備・活用は、現在活用に焦点が当てられているが、保護、維持管理は、古くて新しいテーマであり、最大の課題と考えられるため、長期的な経年変化を継続して観察する総合的な調査・研究を実施し、より一層良好な保存継承システムが構築されることを望む。 |

と指針を提供する。
② 我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。
ⅰ 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明
ⅱ 我が国における近現代美術の歴史の解明
ⅲ 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明
ⅳ 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究
ⅴ 歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開
③ 我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。
④ 我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進

| | |
|---|---|
| 目的 | 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 |
| 主なテーマ | ・文化財の生物劣化対策<br>・文化財の保存環境研究<br>・周辺環境が文化財に及ぼす影響<br>・考古資料の材質、構造の調査と保存、修復の研究<br>・伝統的修復材料と合成樹脂の研究<br>・在外古美術品保存修復協力事業<br>・近代の文化遺産の保存修復に関する研究 |

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施

| | |
|---|---|
| 目的 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。 |
| 主なテーマ | ●高松塚古墳壁画<br>・生物対策と保存修理<br>・壁画の保存修復及び石材の保存修理<br>●キトラ古墳壁画<br>・生物対策と保存修理<br>・壁画の取り外し<br>・手法の開発 |

(5) 有形文化財に係る調査研究

| | |
|---|---|
| 目的 | ①収集・保管のための調査研究<br>収集・保管に関わる研究を実施し、有形文化財にかかる保存に寄与する。<br>②公衆への観覧を図るための研究<br>公衆への観覧を図るための調査研究を実施し、有形文化財の活用を図る。 |
| 主なテーマ | ①収集・保管のための調査研究<br>・特別調査「書跡」（東博）<br>・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博）<br>・仏教美術の光学的調査研究（奈良博）<br>・博物館における文化財保存修復に関する研究（九博）<br>②公衆への観覧を図るための研究<br>・特別展、共催展等の事前調査（４館）<br>・博物館環境デザインに関する調査研究（東博）<br>・博物館美術教育に関する調査研究（東博）<br>・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究（九博） |

**自己評価**
中期目標・中期計画を達成するための適切な計画を立てることができたと考える。

**２．調査研究の実施状況**
○それぞれの調査

**（１）文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進**
**主な実績**
・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施

**評定　A**
コメント
文化的景観や民俗技術という新し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン（仮称）」等の指針を作成し公表する。<br>⑤　平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。<br>⑥　遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。<br>また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。 | 研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。 | <table><tr><th colspan="3">調査研究の名称</th><th>施設名</th></tr><tr><td>①</td><td>ア</td><td>文化的景観に関する調査研究</td><td>奈良文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">文化的景観に関する基礎的な情報の収集、四万十川流域や宇治の文化的景観に関する現地調査等を通じて、文化的景観の価値評価、保存計画立案、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、報告書・論文・Web サイトを通じて成果を報告した。また、文化的景観研究集会(第 2 回)を開催し、価値評価と計画策定の考え方につき情報発信するとともに、昨年度開催の研究集会(第 1 回)の成果報告書を刊行した。<br>・「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存に関する調査研究（受託）</td></tr><tr><td></td><td>イ</td><td>民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究　（Ｉ４（１）④と一体で実施）</td><td>東京文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報を整理・データ化し、データベース構築の検討を行った。<br>・無形文化財・民俗文化財を支える用具・原材料の現状に関する調査研究事業（受託）</td></tr><tr><td>②</td><td>ア</td><td>東アジアの美術に関する資料学的研究</td><td>東京文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">(1)情報資料の収集のための調査：近現代美術の保存・修復に関する欧州調査。<br>(2)美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年紀資料集成(15 世紀)』のデータ入力。古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。<br>(3)研究会の開催：研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」の開催。オープンレクチャーの開催。<br>(4)研究成果報告書の編集・刊行：『黒田清輝フランス語資料集』の刊行。</td></tr><tr><td></td><td>イ</td><td>近現代美術に関する総合的研究</td><td>東京文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">未公刊資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための準備を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。</td></tr><tr><td></td><td>ウ</td><td>美術の技法・材料に関する広領域的研究</td><td>東京文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世の屏風などについて実地調査した。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。</td></tr><tr><td></td><td>エ</td><td>古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究</td><td>奈良文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">興福寺については、戦国時代大和国の飢饉・一揆等の生々しい実態を記した資料を紹介することができた。天候不順による凶作と年輪年代の関係も読み取れる興味深い資料である。唐招提寺に関しては、絵図調査の知見に基づいて、学会発表を行った。近世の絵図だが、江戸時代前期の絵図は古代の伽藍配置を窺うに足る内容を持っている。また、平城宮・京に関わる絵図・古文書調査を進めた。</td></tr><tr><td></td><td>オ</td><td>歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究</td><td>奈良文化財研究所</td></tr><tr><td colspan="4">文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。<br>・島根県津和野町社寺建築調査（受託）<br>・奈良県近代和風建築総調査（受託）</td></tr><tr><td>③</td><td></td><td>無形文化財の保存・活用に関する調査研究</td><td>東京文化財研究所</td></tr></table> | い研究視点は評価できる。279通の書簡を含む『黒田清輝フランス語資料集』の刊行は、近代美術研究に資する。<br>平城京跡の発掘調査と同時にその成果の公表も順調に進んでいて評価できる。また、両研究所とも外部資金等による研究も活発に行われており、評価できる。さらに、調査・研究の国際協力も進展している。<br>「春日権現験記絵巻披見台」や三の丸尚蔵館の若冲報告など、協同研究も順調であり、他館のよき手本となっている。<br>年輪年代研究で特許を得たことも評価できる。また、年輪年代法の応用例として、今まで主として、年代を推定する手段として使われてきたのに対し、興福寺の文書類の記述との照合から、凶作・飢餓と年輪年代の関係、すなわち気候変動と史実の関係が明らかになったこと、美術史的な推察が、年輪年代法により、傍証されたことなど、事例として確認できたことは高く評価する。また、地理情報システム（GIS）による活用実験の継続も評価できる。<br>「明治宝物調査の写真資料」や「特別調査・工芸」など、過去に研究の焦点が当てられなかった分野への試みも評価できる。<br>露出展示において、遺構の水分移動とその原因となる土質、土層層序の特徴や、地下水面をもとに、遺構における水分移動のシミュレーションを、遺跡を用いて実施したことは、今後の遺構保存に大きな意味を持つと考える。<br>昨年の「哺乳類標本リスト」に引き続き『鳥類・両生類・爬虫類』を刊行し、遺跡出土の動物類の調査・分類の基礎資料として公開したことは、今後の環境考古学を始めとして、多くの分野に役立つものと評価される。<br>建造物の塗装系について、無機顔料の分析、同定は多くなされてきているが、それら顔料を塗布し定着させる有 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 文化財保護委員会が作成した音声資料、現在伝承されている狂言歌謡、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこなうとともに、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこない、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。<br>・日本ユネスコパートナーシップ事業／アジア太平洋地域無形文化遺産保護活の調査研究（受託） | | 機質のビヒクルの成分分析は分析技術の問題もあり、十分ではなかった。それに対して日光社寺建造物の赤色塗装材料の調査は、ビヒクルの成分ならびに過去の修理方法の一端を明らかにし、今後の建造物の調査・研究ならびに修復に際して寄与するものと思われる。<br>全体として、科研費の取得数も多く、文化財・美術史の分野でトップの水準を維持している。 |
| | | | ④ | | ①－イ参照 | | |
| | | | ⑤ | ア | **平城宮跡東院地区(第 446 次)の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>南隣の調査区においても検出していた大規模な総柱建物を検出し、東院西辺部の利用状況を明らかにした。<br>また塀や回廊など区画施設が、数度にわたり建て替えられた状況を検出した。東院地区全体の構成と性格を明らかにするという点において非常に大きな成果である。<br>**平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場(第 454 次)の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>(1)奈良時代前半の第一次大極殿院内庭広場の礫敷舗装の変遷を明らかにした。<br>(2)楼閣の増築にともない、地表面の傾斜を変更し、広場の排水計画を改めた様子を確認した。<br>(3)SD5590 の北で、矩形の大土坑を検出した。<br>その他、遺物として包含層より乾元重宝(唐銭・758 年発行)が 1 点出土した。<br>**薬師寺(第 457 次)の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>薬師寺中心伽藍の東方にある東院堂の北東の調査区(D1・D2 地区)で、未知の建物跡を検出した。掘込地業をもち、精緻な版築をしており、基壇外装には二上山産凝灰岩を用いている。現在の東院堂は 1733 年に南向きから西向きに変えた記録が残るが、この遺構は奈良時代に創建された東院の主要な建物跡と考えられる。<br>・平城京薬師寺旧境内の調査（受託）<br>**興福寺南大門跡(第 458 次)の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>調査の結果、南大門の基壇および建物の規模、基壇外装(地覆石)の変遷、基壇造営以前の地形及び基壇築造の過程などを明らかにした。さらに、基壇上では金剛力士像の基礎 2 基と、創建時の鎮壇具埋納遺構などを発見した。また、調査期間中に 2 度の記者発表を行い、9 月 27 日には現地説明会を開催した。<br>・興福寺南大門跡の発掘調査（受託）<br>**平城宮跡東方官衙地区(466 次)の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>(1)奈良時代後半の官衙の、区画内の建物配置を確認した。<br>(2)建物の礎石が当時の位置をとどめている状態を確認した。<br>(3)東方官衙地区を南流する基幹排水路が東へ折れ曲がることを確認した。<br>**藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>大極殿院回廊の東南隅と朝堂院北面回廊との接続部の発掘調査を実施し、回廊の建設から解体までに至る遺構や、大極殿院内庭・朝堂院朝庭の礫敷を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営期に資材運搬などに利用されたと考えられる南北・東西の大溝など検出し、これらの変遷から藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。<br>**甘樫丘東麓遺跡の発掘調査**　奈良文化財研究所<br>第 157 次調査では、7 世紀前半から 8 世紀にかけての石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、石敷遺構、石組溝、土器廃棄土坑、土器埋設遺構などを検出した。特に、調査区中央で検出した石垣遺構は、前回の調査と合わせて全長 34mにおよぶものであることが判明し、構造・時期に関する資料が得られた。第 161 次調査では、谷の北東の斜面に設定した調査区において掘立柱列を検出し、丘陵上においても遺構の展開することを確認した。 | | |
| | | | | イ | **平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等**　奈良文化財研究所<br>本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 22 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2010』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院―二条大路木簡の世界』を開催した。<br>**飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等**　奈良文化財研究所<br>本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦塼類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。 | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ウ | **アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | Ａ：漢魏洛陽城において 1800 ㎡の共同発掘調査を実施。日中双方で都城研究についての討論会を開催。<br>Ｂ：遼寧省における隋・唐代墓出土品の調査を実施。<br>Ｃ：黄冶窯及び白河窯で生産した陶磁器の系統的把握の基礎視点が明確になるとともに漢魏洛陽城出土陶器との比較研究を実施。<br>Ｄ：日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。 | | |
| | | | | エ | **庭園に関する調査研究** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | 国際研究会を開催し、東アジアにおける日本庭園、とりわけ「浄土庭園」の位置づけを明らかにし、その成果を報告書(英語版・日本語版)として取りまとめた。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等を行った。 | | |
| | | | | オ | **東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | 山田寺出土部材については、経年的に計測調査を行っており、本年も計測を継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、四神図を中心に研究を進め、関連文献の収集、奈良文化財研究所所蔵出土遺物における朱雀・鳳凰文の調査、群馬県立歴史博物館所蔵の唐代壁画墓四神図の模写等の調査を行った。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、奈良県平吉(ひきち)遺跡出土の鋳造関連遺物及び奈良市出土鏡の調査を行った。 | | |
| | | | ⑥ | ア | **遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | 遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集を行うとともに、その意義や分類などについて検討を進め、遺構露出展示の持続的管理に関する検討を行うとともに事例に関する整理を改訂した。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等を行った。 | | |
| | | | ⑥ | イ | **遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | 遺跡内の水分移動を推察し、さらに露出展示した場合の変化を予測するために、遺跡の土を採取してこれらの不飽和水分移動特性の推定を行った。そして、その成果とボーリング調査による土層層序、地下水面に関する情報をもとに、遺構における水分移動のシミュレーションを行った。また、数値実験をつうじて、水を用いた土質遺構の安定化の可能性について検討した。 | | |
| | | | | ウ | **文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言** | 奈良文化財研究所 | |
| | | | | | 長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に出席し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡　基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。 | | |
| | | **自己評価**<br>20年度同様21年度においても、無形文化遺産から遺跡の発掘まで幅広い分野についての継続的な調査・研究を通して文化財に関する基礎的な情報を蓄積することができている。基礎的・体系的な調査・研究は成果がすぐに出るものではなく、長期的な視野に立つことが欠かせないので、報告書の刊行や研究会・学会での発表を通じて、調査研究の成果を国民に還元していけるよう努力している。今後もこれらの調査・研究を通じて、我が国における文化財に関する調査・研究の底上げを図っていきたい。 | | | | | | |
| （２）文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進<br>文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化 | | **（２）文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進主な実績**<br>**主な実績**<br>・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施 | | | | | |
| | | | | | 調査研究の名称 | 施設名 | |
| | | | | ① | **高精細デジタル画像の応用に関する調査研究** | 東京文化財研究所 | |
| | | | | | 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。<br>①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。<br>②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。<br>③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。<br>④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。<br>⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解 | | | | 供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録―近赤外線画像編―』として刊行した。また、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を行った。また、奈良国立博物館との共同調査研究として「大徳寺五百羅漢図」の判読がこれまで出来なかった銘文の解読を行った。また、昨年、撮影と調査を行った春日大社所蔵の春日権現験記絵巻披見台の報告書及び法隆寺金堂釈迦三尊並びに薬師如来台座(下座板絵)の報告を行った。 | |
| | | ② | | **文化財の非破壊調査法の研究**　東京文化財研究所<br>ポータブル蛍光Ｘ線分析装置や反射分光システム、デジタル顕微鏡システムなど複数の非破壊的手法を用いて、博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。また、分光学的手法に関する染料分析の高度化のための検討を併行して行った。<br>・ＧＥＭによる超高感度・大面積ガンマ線イメ☑センサー（受託） | |
| | | ③ | ア | **遺跡データベースの作成と公開**　奈良文化財研究所<br>官衙関係遺跡の建物データについて、各遺跡における建物群の性格・建物の性格を細分化して追加した。とくに、官衙における門遺構のデータを重点的に収集し、データベースの更新および公開を行った。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方の一部まで公開した。 | |
| | | | イ | **遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究**　奈良文化財研究所<br>遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践を行った。測量では、三次元レーザースキャナー及び写真測量の技術的検討を行い、遺跡・石造物や考古遺物の図化法の検討と摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、ＧＰＲの走査方法改善と新たな機器の試作、ＧＰＳによる位置精度向上実験を行い、多様な条件下で建物跡の確認に成功した。<br>・天良七堂遺跡の総合的調査（受託）<br>・胡桃館遺跡詳細分布調査（受託）<br>・三軒屋遺跡総合的調査（受託）<br>・「発掘調査のてびき」作成（受託） | |
| | | ④ | | **年輪年代学研究**　奈良文化財研究所<br>3 府県下 3 遺跡から出土した考古学関連の木材試料、2 府県下 3 棟の建造物、7 府県下 9 躯の木彫像並びに 1 件の現生木試料群に対して年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた文化財の高精度な非破壊分析を 2 件実施した。さらに、年輪の非破壊計測に関する技術開発にも取り組んだ。以上の研究成果の一部を、論文等 7 件、学会発表等 4 件として発表するとともに、特許 1 件を取得した。 | |
| | | ⑤ | | **遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究**　奈良文化財研究所<br>国内外の学会や研究会において、環境考古学特に貝塚や湿地遺跡から明らかとなる動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。研究の基礎となる動物骨格標本についても継続的に収集するとともに、広く活用されるように所蔵標本リストの公開を行った。また、継続して分析を行っている佐賀県東名遺跡や兵庫県兵庫津遺跡について、発掘報告書を執筆した。<br>・東名遺跡出土動物遺存体調査（受託） | |
| | | **自己評価**<br>文化財の調査研究において、新たな手法が開発されることによって、これまで知り得なかったことが明らかになることは少なくない。21年度も文化財に関する新たな手法について継続的に研究を実施している。遺跡の測量・計測分野では低価格の三次元レーザースキャナーによる三次元計測の有効性を実証することができた。また年輪年代学研究では、20年度に引き続き特許を取得することができた。その他にも高精細デジタル画像の活用研究や遺跡データベースの公開を順調に進めている。今後も調査・研究を継続的に実施し、新たな調査手法の開発を通して、調査研究に新たな知見が得られるように努めたい。 | | | |

明と環境復元を行う。

（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び 研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

① 生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。

② 環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。

③ 屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。

④ 考古資料の材

**（３）科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進**

**主な実績**

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

| | 調査研究の名称 | 施設名 |
|---|---|---|
| ① | **文化財の生物劣化対策の研究** | 東京文化財研究所 |
| | 歴史的建造物での生物被害状況調査で日光輪王寺本殿の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。今年度は、レジストグラフやＣＴなどの手法を用いて、さらに詳細な調査を行い、殺虫処理についても検討を進めた。また、調査結果および修理、今後の殺虫処理などに関する専門家向け研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。 | |
| ② | **文化財の保存環境の研究** | 東京文化財研究所 |
| | 文化財施設内の温湿度解析の対象として、いくつかの博物館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、建築部材から発生する汚染ガスの簡易測定法に関して、実験を行い、研究成果をまとめた。また、12 月 8 日に「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。さらに「文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱・水分移動解析に関する研究会」というテーマで研究会を開催した。 | |
| ③ | **周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究** | 東京文化財研究所 |
| | 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)臼杵磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2)木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会等を実施した。 | |
| | ・国指定史跡・大分元町石仏劣化状態記録事業（受託） | |
| | ・熊野磨崖仏地衣類除去委託事業（受託） | |
| | **文化財の防災計画に関する調査研究** | 東京文化財研究所 |
| | 平成 21 年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在の)耐震対策を講ずるため、対象となる仏像の三次元計測を行うとともに、重心など三次元計測から得られた情報を用い地震による転倒可能性について考察を行った。(2)地理情報システム(ＧＩＳ)に基づいた文化財防災情報システムの開発では、行政機関における活用実験を継続した。 | |
| ④ | **考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究** | 奈良文化財研究所 |
| | 1)ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。<br>2)九州国立博物館と共同で、平安時代の錠前をＸＣＴ撮影し、三次元モデルを製作した。<br>3)漆製遺物及び繊維製遺物の分析を行い、データを集積した。<br>4)トレハロース含浸処理した試料からトレハロースを析出させる、貧溶媒法の応用実験に取り組んだ。<br>5)「遺構・遺物の保存と展示・活用の諸問題」の研究集会を九州国立博物館と共催した。 | |
| | ・長野県中野市柳沢遺跡出土の青銅器保存修復（受託） | |
| | ・藍住町出土布の保存調査（受託） | |
| | ・史跡ガランドヤ古墳石室石材劣化調査（受託） | |
| | ・史跡加賀藩主前田家墓所石造物保存対策調査（受託） | |
| | ・重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査並びに保存修理（受託） | |
| | ・矢本横穴墓群出土琥珀玉の材質分析（受託） | |
| ⑤ | **伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究** | 東京文化財研究所 |
| | 1. 建造物に使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験の調査結果を纏めるとともに、日光東照宮や厳島神社などの建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図った。また、新たに PY-GC/MS 分析装置を用いた建造物の塗装材料をはじめとする各種修復材料の分析を開始した。 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーＸ線ＣＴ・ＣＲ法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。<br>⑤　伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。<br>⑥　近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。 | | | | 2. 岩手県二戸市浄法寺地区周辺で継続していた漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査は、本年度を持ってこれを終了した。また、新たに伝統的な膠材料に関する調査研究を開始した。<br>3. 研究所が所蔵する過去の修復事業の資料を分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。<br>4.「建造物の塗装材料である漆塗料−その現状と課題−」というテーマで、2010 年 1 月 21 日に研究会を開催し、計 111 名の参加を得た。<br>**国際研修「漆の保存と修復」**　東京文化財研究所<br>ＩＣＣＲＯＭと共同の開催である国際研修(2009 年 9 月 2 日～9 月 15 日)『漆の保存と修復 2009』は、9 カ国 10 名の研修生で行い、日本における漆工の歴史、漆の科学と調査方法、伝統的な漆工技術、漆工品や漆塗装の修復理念の講義と修復方法の基礎実習とスタディーツアーを実施した。一方、東京文化財研究所独自の国際研修『漆工品の保存と修復』(2009 年 9 月 16 日～10 月 15 日)は、2 カ国 2 名の研修生で行い、漆塗料を使用した本格的な保存修復作業の実践実習とスタディーツアーを実施した。また、国際研修に使用するテキストブック『漆 −中級編−』を作成した。<br>**在外日本古美術品保存修復協力事業**　東京文化財研究所<br>平成 21 年度は、7 館 11 点の作品(絵画 5 点、工芸品 5 点)を修復した。うち 2 点(絵画 1 点、工芸品 1 点が 20 年度からの継続、4 点(絵画 2 点、工芸品 2 点)を海外で修復した。工芸品の事前調査はロイヤルコレクション／ドロットホルム城、グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨーロッパで 4 館 17 点の調査を行った。また、平成 20 年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。 | |
| | | | ⑥ | **近代の文化遺産の保存修復に関する研究**　東京文化財研究所<br>今年度は近代化遺産の中でも屋外保存されている文化財の保存と修復に関して研究を行った。中でもコンクリート構造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場からコンクリート構造物の保存と活用に関する発表をし問題点の整理や解決法についての討論を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。<br>・劣化レコード盤の保存修復事業（受託）<br>・根津美術館所蔵　清朝時計（４基）修復（受託） | |
| | | **自己評価**<br>我が国の有形文化財は紙や木など劣化しやすい材質で作られているものが多く、保存環境や修復に関する調査研究は重要である。21年度も国内外を問わず、文化財の保存に関する調査研究を進め、海外の日本古美術品の修復も行うことができた。海外からも期待されている分野である文化財保存・修復に関する研究は今後も継続的に実施し、我が国文化財の保存・修復のナショナルセンターとしての機能を強化していきたい。 | | | |

（４）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

**（４）国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施**

**主な実績**

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

| 調査・研究の名称 | 施設名 |
|---|---|
| **文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（1）** | 東京文化財研究所 |
| 高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天井石２の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外の全ての項目について、透明シートへの描き込みを完了した<br>キトラ古墳では、5～6 月、10～11 月、11～12 月の 3 期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。 | |
| ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託） | |
| ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託） | |
| **文化庁行う高松塚古墳･キトラ古墳の壁画の調査及び保存･活用に関する技術的協力(2)** | 奈良文化財研究所 |
| 文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力するとともに、来年度刊行予定の『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』に関する編集作業を鋭意進めた。今年度のキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業を支援するとともに、今後のキトラ古墳壁画、及び古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。 | |
| ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等受託） | |
| ・特別史跡キトラ古墳における保存・活用等調査（受託） | |
| **国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力** | 奈良文化財研究所 |
| 昨年度の試掘調査の成果をもとに檜隈寺の主要伽藍の存在する丘陵の東裾部及び、講堂北西約 25mの地点の発掘調査を実施した。丘陵東裾部からは掘立柱建物やそれらを区画する掘立柱塀を検出し、檜隈寺の主要伽藍に関連する建物群の具体的状況を明らかにした。また講堂北西の調査区では、7 世紀前半から中頃までのＬ字形カマドをもつ竪穴住居を検出し、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する重要な資料を得ることができた。 | |
| ・国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区檜隈寺跡周辺遺跡発掘調査（受託） | |
| **国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力** | 奈良文化財研究所 |
| 「大和平野県営飛鳥２号幹線（右岸） その３」について、山田道、大官大寺にかかる部分に対して厳重立会のかたちで対応することとなった。 | |

**自己評価**

21年度は文化庁の要請に応じて、高松塚古墳では損傷図面の作成を進め、カビ等汚染の除去も着実に実施している。キトラ古墳では集中剥ぎ取り作業を行い、天井の漆喰の剥ぎ取りを完了した。今後も文化庁の要請に応じて、適宜協力して実施していきたい。

（５）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が

**（５）有形文化財に係る調査研究**

**主な実績**

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

| | 調査研究の名称 |
|---|---|
| ① | **収集・保管のための調査研究** |
| | 競争的資金の獲得に努めつつ、収蔵・寄託する文化財に関する研究、保存・展示環境の改善に関する研究を進めるとともに、以下の研究課題に取り組んだ。 |
| | 東京国立博物館 |
| | ・収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 |
| | ・特別調査法隆寺献納宝物（第 31 次）「聖徳太子絵伝」第 5 回 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国文化の向上に寄与する。<br>① 収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。<br>ⅰ 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。<br>ⅱ 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。<br>ⅲ 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。<br>ⅳ トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。<br>ⅴ 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。<br>ⅵ 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。<br>② 公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。 | | | | | ・特別調査「書跡」第７回<br>・特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に<br>・応挙館障壁画の復元に関する調査研究（今年度は、主に修理未了（まくりの壁画）の障壁画について検討）<br>・館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究<br>・ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究（今年度は報告書の執筆）<br>・博物館の環境保存に関する研究<br>・東洋民族資料に関する調査研究<br>・韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究<br>・日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）<br>・東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）<br>・目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金）<br>・国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究 －館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）<br>・油彩画の材料・技法に関する共同調査<br>・荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究<br>・博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）<br>・東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―（科学研究費補助金）<br>・文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）<br>・隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）<br>・原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究（科学研究費補助金）<br>・高度な復元作業のための制作空間の情報化（科学研究費補助金）<br>・狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究（科学研究費補助金）<br>・東京国立博物館所蔵写真資料データベース科研（科学研究費補助金）<br>・東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金）<br>・東京国立博物館所蔵印譜データベース（科学研究費補助金）<br>・明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一眞、早崎稷吉、安村喜当の事跡を中心に―<br>・古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金）<br>・金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（科学研究費補助金）<br>・東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究<br>・東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究<br>・曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究<br>・特別調査「工芸」第１回<br>・高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究 | | |
| | | | | 京都国立博物館 | | | |
| | | | | | ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究<br>・鎌倉仏教とその造形に関する調査研究<br>・日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）<br>・建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）<br>・修復文化財に関する資料収集及び調査研究<br>・文化財の保存・修復に関する調査研究（奈良文化財研究所との共同研究）<br>・近世絵画に関する調査研究<br>・訓点資料としての典籍に関する調査研究<br>・彫刻に関する調査研究<br>・出土・伝世古陶磁に関する調査研究<br>・近代建築に関する調査研究<br>・漆工芸に関する調査研究 | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⅰ 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。<br>ⅱ 博物館情報学を構築するための研究を実施する。<br>ⅲ 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。<br>ⅳ 京都文化を中心にした文化財の調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。<br>ⅴ 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。<br>ⅵ 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。<br>ⅶ 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。<br>ⅷ 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。<br>ⅸ 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保 | | | | | ・中国近代絵画に関する調査研究 | | |
| | | | | 奈良国立博物館 | | | |
| | | | | | ・南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施<br>・仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）<br>・仏教美術写真収集及びその調査研究<br>・我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究<br>・当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）<br>・奈良時代の仏教美術と東アジア世界（科学研究費補助金）<br>・統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）<br>・古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金） | | |
| | | | | 九州国立博物館 | | | |
| | | | | | ・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究<br>・文化財の材質・構造等に関する共同研究<br>・博物館における文化財保存修復に関する研究<br>・博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究<br>・文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築<br>・東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）<br>・ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）<br>・近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）<br>・トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）<br>・室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）<br>・近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査（科学研究費補助金）<br>・埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究（科学研究費補助金）<br>・被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）<br>・近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流（科学研究費補助金）<br>・Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析 | | |
| | | | ② | **公衆への観覧を図るための研究** | | | |
| | | | | 公衆への観覧を図るために、各館では、教育普及やバリアフリー、情報処理などの観点から調査・研究を進めている。また、京都国立博物館における輸出漆器に関する調査研究が展覧会の形で実を結ぶなど有形文化財についての調査研究を通しても、観覧の機会を創出するような調査・研究を実施している。 | | | |
| | | | | 東京国立博物館 | | | |
| | | | | | ・博物館環境デザインに関する調査研究<br>・博物館美術教育に関する調査研究<br>・博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）<br>・博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究<br>・凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する<br>・クウジット株式会社と協同で、アイ・フォーン（携帯端末機）を利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する<br>・彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用（科学研究費補助金） | | |
| | | | | 京都国立博物館 | | | |
| | | | | | ・文化財情報に関する調査研究<br>・西域出土文献に関する調査研究<br>・京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究を踏まえて研究を進め、その成果を特別展覧会「日蓮と法華の名宝」に反映する | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 管・展示、教育普及事業等を展開する。 | | ・長谷川等伯に関する調査研究<br>・特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究<br>奈良国立博物館<br>・南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「国宝鑑真和上展」・「聖地寧波」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる<br>・我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で、平常展の充実を図る<br>九州国立博物館<br>・高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践(ＵＭＰ：Universal Museum Project)を展開する<br>・平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう<br><br>**自己評価**<br>各博物館とも、日常の調査研究の成果が展覧会に結びついている。京都国立博物館の「彫刻に関する調査研究」の研究成果は特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展に活かされ、奈良国立博物館の「我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教美術が及ぼした影響の研究」の成果は特別展「国宝　鑑真和上展」「聖地寧波」に活かされている。今後も調査・研究の成果を特別展や特集陳列等に積極的に活用し、広く公開していきたい。<br>また、博物館における新たな研究テーマとして、東京国立博物館では博物館環境デザインの研究や、先駆的な教育普及理論の研究を行うなど、博物館研究においてもナショナルセンターとしての役割を果たしていると考える。 | |
| | **３．調査研究の成果の状況**<br>○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。<br>○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我 | **主な実績**<br><br>（学術雑誌等への論文掲載数／学会、研究会等での発表件数）<br>(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進：63件／77件／43件／37件<br>(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進主な実績：40件／40件／35件／20件<br>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進：27件／25件／25件／38件<br>(4) 国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施：4件／17件／—／—<br>(5) 有形文化財に係る調査研究：110件／124件／82件／129件<br>(6) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究：2件／4件／5件／9件<br>(7) 情報発信機能の強化：—／1件／—／1件<br>(8) 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上：—／6件／—／—<br>計：246件／294件／190件／234件<br><br>**新規特許取得件数**<br>1件（木材又は木造文化財の年輪幅又は密度測定方法） | **評定　A**<br>コメント<br>研究成果については、論文や学会、研究会発表の形できちんと公表しており、２０年度の成果を大きく、上回っている。職員の拡充が難しい中、密度の高い研究を行っていることは評価できる。なお、可能な限り無形文化財に係る調査研究の充実を図ってほしい。 |

が国文化の向上に寄与する。

○研究の実施にあたっては、外部資金を活用すること。

**外部資金の獲得**

**■科学研究費補助金獲得件数**

| | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|
| 新規応募件数 | 84 | 83 |
| 新規採択件数 | 32 | 35 |
| 新規採択率 | 38% | 42% |
| 件数(新規＋継続)計 | 83 | 86 |
| 直接経費(千円) | 252,860 | 231,330 |
| 間接経費(千円) | 74,379 | 67,629 |
| 交付額計(千円) | 327,239 | 298,959 |

【学術雑誌等への掲載論文数】（指標：中期計画）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 100件以上 | 100件未満70件以上 | 70件未満 | 294件 | S |

【学会、研究会等での発表件数】（指標：中期計画）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80件以上 | 80件未満56件以上 | 56件未満 | 234件 | S |

**自己評価**

専門家や研究者への研究成果の還元については、論文や学会での発表を通して、着実に成果をあげていると考える。定量的観点からも論文の発表件数、学会等での発表件数とも順調に成果をあげている。

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 中期計画に沿って、文化財の保存・修復に関する国際協力が着実に推進されていると認められる。<br>アジアにおける国際協力は、調査先機関の人材育成を行うとともに、アジアのリーダーとしてのポジションを構築しており、高く評価できる。<br>多くの国々が関わっているカンボジアにおける文化財調査、修復の中で、カンボジア政府からのサハ・メトレイ勲章を贈られたことも、評価できる。<br>文化財保存修復専門家養成のための教科書及びDVDの作成は成果であることから、今後はその活用など普及に期待したい。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| 文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。<br><br>（１）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築 | **１．国際協力に関する研究基盤の整備**<br>○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。<br>○国際協力のネットワークを構築すること。 | **主な実績**<br>・文化財保存施策の国際的研究<br>文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。<br>1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。<br>2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を１回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を１回、計２回開催した。<br><br>・アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究<br>文化財石材が屋外で風雨に晒される場合に比べ、覆屋内で保存されると、風化が軽減されることを定量的に示した。また、タイ・スコータイ遺跡について、覆屋の効果を含めた環境調査を実施した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。<br><br>・カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査<br>考古班は西トップ寺院の前面にある小ストゥーパの調査を行い、建立時期と変遷を明らかにした。建築班は引き続き実測調査を行い、中成基壇までの図を作成するとともに、全体の構造変遷に理解を深めた。<br><br>・陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究<br>2009年度は、まず陝西省考古研究院との共同研究体制の構築を行い、次いで同研究院の指導者、保存修復部門担当者に我々の調査方法の原理を理解してもらうことを目的として、作業を行った。<br><br>・敦煌壁画の保護に関する共同研究<br>共同調査・研究は４年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積から、考察とまとめの段階に入りつつある。今年度の調査研究では、昨年度までに行ってきた研究の成果をもとに、個別のテーマを選択してさらに詳細な観察 | **評定　A**<br>コメント<br>アジアにおける国際協力は、「協同」という視点が貫かれ、調査先機関の人材育成を行うとともに、アジアのリーダーとしてのポジションを構築しており、高く評価できる。<br>ユネスコ等からの受託研究を受け、「地震・戦争」からの復興という要求に着実に応えている。<br>各国との関係が長年継続し、その間の努力の結果が現れている。<br>また、研修生への教科書（英語・日本語）の制作は評価できる。多くの国々が関わっているカンボジアにおける文化財調査、修復の中で、カンボジア政府からのサハ・メトレイ勲章を贈られたことは、評価できる。エジプトでの大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ１）にかかる国内支援業務については、今後に期待したい。 |

<table>
<tr>
<td>し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。</td>
<td></td>
<td>を行い、第285窟壁画を構成する材料と技法に関して、その特徴を明確なものとする作業を行った。研究は写真撮影、表面観察、分析調査、データの集積という基礎的な作業から、多彩な図案を彩る色彩効果の問題、劣化メカニズムの問題へと、進展している。<br><br>・西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業<br>〇アフガニスタン：文化財専門家の人材育成・技術移転、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究。<br>〇イラク：文化財専門家の人材育成・技術移転。<br>〇西アジア周辺諸国文化遺産の調査研究・保護への協力等：トルコ、シリア、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト。<br><br>
<table>
<tr><td>受託研究</td></tr>
<tr><td>ユネスコ／バーミヤーン遺跡の保護プロジェクト</td></tr>
<tr><td>ユネスコ／インドネシア西スマトラ地震により被災した文化遺産緊急支援</td></tr>
<tr><td>文化遺産国際協力コンソーシアム事業</td></tr>
<tr><td>文化遺産国際協力拠点交流事業　インド</td></tr>
<tr><td>文化遺産国際協力拠点交流事業　モンゴル</td></tr>
<tr><td>文化遺産国際協力拠点交流事業　中央アジア</td></tr>
<tr><td>エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ１）にかかる国内支援業務</td></tr>
<tr><td>・日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術要員の育成プログラム</td></tr>
<tr><td>・ユネスコ／日本信託基金　バクダードにあるイラク博物館の保存修復室の復興プロジェクト</td></tr>
</table>
<br>自己評価<br>国際的な文化財機構のネットワーク構築のため、各種ワークショップを開催し、またそれに参加して情報の収集に努めている。国際協力事業については、カンボジア、中国、西アジアなどアジアを中心に文化財修復に積極的に協力し、国際協力が図られている。<br>なお、本年はカンボジア政府から奈良文化財研究所長に宛ててカンボジアの発展に寄与した外国人に送られるサハ・メトレイ勲章を授与される栄誉を受けた。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。<br>また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。</td>
<td>２．保存修復に関する技術移転の推進<br>〇諸外国への技術移転を積極的に進めること。<br>〇アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。</td>
<td>主な実績<br>・諸外国の文化財保存修復専門家養成<br>諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、教科書(日本語版及び英語版)とビデオＤＶＤ(日英２ヶ国語ナレーション)を作成した。<br><br>・国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力<br>国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行った。国際協力機構からはエジプトの博物館研修生の受入れを行った。ユネスコアジア文化センターからは本年も個人研修と集団研修の研修受入れ要請があり、個人研修はラオス人とモンゴル人に対して研修を行った。集団研修は各国の研修生を受入れ、木造建造物の保存修復を中心とした研修を行った。さらに本年はベトナムのホイアンで行われたワークショップにも研究員を派遣し、主に木造建造物の保存修復に関する研修を行った。<br><br>自己評価<br>国際協力機構やユネスコアジア文化センター（ACCU）への協力だけでなく、専門家研修の教材の作成を通して、アジア各国への技術移転を進めることができている。</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>文化財保存修復専門家養成のための教科書及びDVDの作成は評価できる。今後はその活用など普及に期待したい。</td>
</tr>
</table>

6　情報発信機能の強化

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 各国の文化財保護に関連した情報のデータベース化が進んでおり、２１年度は中央アジア諸国の文化財保護法令についてアーカイブされたことなどは評価できる。<br>また、定期刊行物も着実に刊行され、調査報告書、国際会議の資料など多数刊行されており、ＨＰのアクセス件数を含め、評価できる。<br>なお、画像のデジタル化も大幅に進み、対象も国宝に限らず、重要文化財にも拡大し、魅力的なコンテンツの活用が図られたことは高く評価する。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| 以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。<br>（１）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。<br>また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの | **１．情報基盤の整備充実**<br>○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。<br>○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。 | **主な実績**<br>・ネットワークセキュリティの強化<br>・文化財機構内のグループウェア運用に向けたＶＰＮ接続の実施<br>・情報セキュリティ強化システムの導入<br><br>・専門的アーカイブの拡充<br>・劣化が懸念される貴重雑誌やオープンテープ等のデジタル化の実施<br>・国内外の文化財に関する資料の収集及びデータベース化の実施<br>・「各国の文化財保護法令シリーズ」及び「フランス文化財法典(前編)」の刊行<br>・GIS（地理情報システム）を活用した遺跡・遺物情報の取得・管理に関する最新手法の開発<br>・『東京文化財研究所七十五年史　本文編』の刊行<br><br>**自己評価**<br>文化財に関する専門的なアーカイブ化を順調に進めることができている。文化財保護関連情報のデータベース化も積極的に進め、21年度はカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの文化財保護法令について、各国法令が対象とする文化財によって分類し、データベース化している。 | **評定　A**<br>コメント<br>各国の文化財保護に関連した情報のデータベース化が進んでおり、２１年度は中央アジア諸国の文化財保護法令についてアーカイブされたことなどは評価できる。また、東文研の『七十五年史』は好書である。 |

<table>
<tr>
<td>充実を図る。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>（２）文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</td>
<td>２．調査研究成果の公開・提供<br>○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。<br>○ＨＰの充実を図り、ＨＰアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。</td>
<td>主な実績<br>・年報、日本美術年鑑、美術研究、保存科学など、定期刊行物の刊行<br>・無形文化遺産研究報告など、研究報告書の刊行<br>・第33回文化財の保存・修復に関する国際研究集会の開催<br>・オープンレクチャーの開催<br>・発掘調査の現地説明会の開催と公開講演会の実施<br>・キッズページ(日本語版・英語版)、携帯サイトの新設など、ホームページの充実<br><br>【研究所 ＨＰアクセス件数】指標：前中期計画期間年度平均件数：1,122,695件　（中期計画）<br>（20年度実績：2,106,989件）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1,122,695件以上</td><td>785,886件以上<br>1,122,695件未満</td><td>785,886件未満</td><td>2,448,108件</td><td>S</td></tr>
</table>
自己評価<br>21年度も研究報告書や年報等定期刊行物をとおして研究成果の公表を行っている。また、文化財の保存・修復に関する国際研究集会を通して、文化財の保存・修復の国際的な課題や取り組みなどを検討する機会を設け、研究成果を積極的に公表している。また、HPのアクセス件数も目標を達成し、前年度実績も上回っている。オープンレクチャーや現地説明会などを通した一般への研究成果の公表にも力を入れており、今後も積極的に公表の機会を設けていきたい。</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>東文研における保存科学については、査読がなされ厳選した報告が掲載され、かつ平成１７年度以来ページ数が急増している。また、他の施設の定期刊行物も着実に刊行され、調査報告書、国際会議の資料など多数刊行されており、ＨＰのアクセス件数を含め、高く評価する。</td>
</tr>
<tr>
<td>（３）黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。<br>（４）文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活</td>
<td>３．公開施設の運用<br>○黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ること。<br>○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。<br>○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動援を行うこと。<br>○奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行うこと。</td>
<td>主な実績<br>・黒田記念館・平城宮跡資料館・藤原宮跡資料室・飛鳥資料館の展示公開<br>・平城宮跡資料館の改修工事に伴う閉館のため、本庁舎にガイダンスコーナーの設置<br>・平城遷都１３００年記念事業に向け、解説ボランティアの専門研修、「続日本紀」読書会等の実施<br>・飛鳥資料館において、特別展示「キトラ古墳壁画四神ー青龍白虎ー」等を開催<br><br>【研究公開施設入館者数】指標：前中期計画期間年度平均入館者数（中期計画）<br><br>黒田記念館入館者数（10,531人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>10,531人以上</td><td>7,371人以上<br>10,531人未満</td><td>7,371人未満</td><td>20,345人</td><td>S</td></tr>
</table>
平城宮跡資料館入場者数（72,430人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>72,430人以上</td><td>50,701人以上<br>72,430人未満</td><td>50,701人未満</td><td>25,127人</td><td>C</td></tr>
</table>
藤原宮跡資料室入館者数（4,486人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>4,486人以上</td><td>3,140人以上<br>4,486人未満</td><td>3,140人未満</td><td>4,341人</td><td>B</td></tr>
</table>
飛鳥資料館入館者数（55,274人）</td>
<td>評定　Ａ<br>コメント<br>各施設の展示公開は、昨年度より拡大し、順調である。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">動機会・場所の提供等の支援を行う。<br><br>（５）奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行う。</td><td rowspan="2"></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>55,274人以上</td><td>38,691人以上<br>55,274人未満</td><td>38,691人未満</td><td>77,347人</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="7">自己評価<br>21年度も施設の公開を通して、文化財研究所の研究成果を公表している。黒田記念館の黒田作品の公開機会の拡大については、引き続き年1回の巡回展のほか、東京国立博物館での特集陳列の開催など公開の機会拡大に努めている。また、飛鳥資料館ではキトラ古墳関連資料の展示公開を通じて発掘の成果を公開している。入館者数は、リニューアルオープンのため閉館していた平城宮跡資料館と藤原宮跡資料室以外は目標値を上回っている。今後も引き続き研究の成果を発信することにより、文化財研究所の事業内容を積極的に公開していきたい。<br>文化庁事業の協力としては、飛鳥資料館においてキトラ古墳壁画を公開するなど、積極的に協力している。<br>ボランティアへについても、平城遷都1300年記念事業に向けてボランティア解説者への研修を実施するなど、積極的に支援している。</td></tr>
<tr><td rowspan="14">（６）文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。<br>①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。<br>②－１　収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。<br>②－２　美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館</td><td rowspan="14">４．情報発信機能の強化<br>○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。<br>○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。<br>○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。</td><td colspan="5">主な実績<br>インターネットを利用した情報の発信<br>・古文書画像データベースの公開（東博）<br>・館外での作品公開一覧ページの作成（京博）<br>・ＷＥＢサイトの一部リニューアル（京博・九博）<br><br>【ＷＥＢサイトのアクセス年間平均件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）<br><br>（前中期目標期間の年間平均実績／20年度実績）<br>東京国立博物館（1,928,966件／5,211,261件）</td><td rowspan="14">評定　S<br>コメント<br>検索しやすい工夫を凝らしてきた成果が実っている。<br>また、２１年度は補正予算によりデジタルアーカイブの予算が措置されたこともあり、画像のデジタル化も大幅に進み、対象も国宝に限らず、重要文化財にも拡大し、魅力的なコンテンツの活用が図られたことはきわめて高く評価する。</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>1,928,966件以上</td><td>1,350,276件以上<br>1,928,966件未満</td><td>1,350,276件未満</td><td>5,687,673件</td><td>S</td></tr>
<tr><td colspan="5">京都国立博物館（521,965件／1,409,634件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>521,965件以上</td><td>365,376件以上<br>521,965件未満</td><td>365,376件未満</td><td>848,486件</td><td>S</td></tr>
<tr><td colspan="5">奈良国立博物館（670,948件／1,230,774件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>670,948件以上</td><td>469,664件以上<br>670,948件未満</td><td>469,664件未満</td><td>2,630,035件</td><td>S</td></tr>
<tr><td colspan="5">九州国立博物館(783,487件／5,699,860件）</td></tr>
<tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>実績</td><td>定量的評価</td></tr>
<tr><td>783,487件以上</td><td>548,441件以上<br>783,487件未満</td><td>548,441件未満</td><td>7,459,518件</td><td>S</td></tr>
</table>

等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

**デジタル化の推進、レファレンスの充実**

・継続的な文化財情報のデータベース化の推進
・所蔵品等のモノクロフィルム・マイクロフィルムのほぼ全てについて高精細デジタル化の実施（東博）
・国指定文化財の高精細デジタル撮影の実施と5ヶ国語（日英仏中韓）での解説文の整備（東博）
・重要文化財高精細画像データベース「KNM　Gallery」で公開されているほぼ全ての作品について6ヶ国語（日英仏中韓西）の解説文を整備（京博）
・ｅ国宝に重要文化財を加え、充実を図った（４博物館）

【収蔵品等の画像デジタル化件数】指標：前中期目標期間の年間平均実績（中期計画）

（前中期目標期間の年間平均実績／20年度実績）

東京国立博物館（18,829件／139,000件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 18,829件以上 | 13,180件以上<br>18,829件未満 | 13,180件未満 | 775,300件 | S |

京都国立博物館（4,359件／6,478件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 4,359件以上 | 3,051件以上<br>4,359件未満 | 3,051件未満 | 5,603件 | A |

奈良国立博物館（8,471件以上／8,399件）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 8,471件以上 | 5,930件以上<br>8,471件未満 | 5,930件未満 | 102,894件 | S |

九州国立博物館(1,890件／3,963件)

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1,890件以上 | 1,323件以上<br>1,890件未満 | 1,323件未満 | 3,574件 | S |

**自己評価**

WEBサイトのアクセス件数については、各博物館とも目標を達成するだけでなく、京都国立博物館を除く３館が前年度実績も上回っており、インターネット利用人口が増加する中で各館ホームページの認知度も着実に向上している結果と考えられる。

収蔵品等のデジタル化については各館とも目標を達成している。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 地方公共団体が行う文化財の調査・保存等に協力するなど、中期計画に沿った文化財保護の質的向上が図られていると認められる。<br>また、地方公共団体等に対する援助や助言については、要請先の事情に応じ、きめ細かに対応している。<br>専門家の研修についても着実に成果を上げている。<br>大学連携もすっかり定着しており、実施後にアンケート調査をし、成果を検証していることも評価できる。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| 我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。<br><br>（１）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 | **１．地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築**<br>○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。 | **主な実績**<br>**協力・助言の積極的な実施**<br>・無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する助言の実施（30件）<br>・各種文化財の保存修復に関する指導助言の実施（40件）<br>・地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関する援助助言の実施（337件）<br>・地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言（8件）<br>・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区発掘調査への援助・助言（7件）<br>助言の事例<br>①厳島神社大鳥居修復材料の選定に関する指導助言<br>厳島神社大鳥居は海中にあることに加え、海風や強い紫外線や太陽光による熱にさらされているため、修復の際にはこれらの条件下で使用することができる材料を選定する必要がある。このために材料の基礎物性の確認や現地での海中浸漬試験などを行っている。<br>②根津美術館の改築工事に伴う室内空気汚染対策や文化財害虫対策に関する指導助言<br>美術館の改築工事に関して、展示室、展示ケース、収蔵庫内の温湿度環境、空気環境等の調査を行い、室内空気汚染対策や文化財害虫対策に関する指導、助言を行った。<br>③「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存に関する計画策定<br>京都府宇治市の重要的文化景観「宇治の文化的景観」の中核をなす中宇治地区において、現存する伝統的建造物の価値評価とその整備活用に関する計画の策定に関して、宇治市に対する援助・助言を行った。<br>④秋田県男鹿市小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究<br>秋田県男鹿市の小谷地遺跡での発掘調査で出土した奈良時代から平安時代のかけての時期の埋没家屋や堰などに関わる多量の木製部材について、建築構造的な観点からの調査研究の指導・助言を行った。<br><br>**自己評価**<br>文化財研究所は文化財に関する研究や保存・修復、発掘調査等においてナショナルセンター機能を有している。21年度も地方公共団体等へ文化財の調査に関する援助・助言を実施し、地域における文化財行政に協力することにより、我が国の文化財の保護に努めている。 | **評定　A**<br>コメント<br>文化財に関する研究、保存、修復及び発掘調査に関する地方公共団体等に対する援助や助言については、業務が多忙な中実績を挙げており、評価できる。 |

（２）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。

また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

**２．中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成**

○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研修を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80パーセント以上の満足度が得られるようにすること。

○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。

**主な実績**

**埋蔵文化財研修の実施**

・専門課程12課程の実施（130名参加）

**保存担当者研修の実施**

・１回31名の参加者を得て実施、その後「保存担当学芸員フォローアップ研修」（参加者69名）を実施

**大学院教育の推進（連携大学院）**

・東京芸術大学：システム保存学（文化財保存学演習、保存環境計画論、修復材料学特論等）
・京都大学大学院人間・環境学研究科：共生文明学（遺跡調査法論、環境考古学論等）
・奈良女子大学大学院人間文化研究科：比較文化学（日本考古学の諸問題、歴史考古学特論等）

【埋蔵文化財研修　満足度%】指標：中期計画

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 80%未満56%以上 | 56%未満 | 100% | A |

【保存担当学芸員研修　満足度%】指標：中期計画

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 80%以上 | 80%未満56%以上 | 56%未満 | 97% | A |

**自己評価**

地方公共団体の文化財担当者や博物館・美術館の保存担当学芸員、東京藝術大学・京都大学等の大学院学生を対象に、文化財の調査研究や保護について研修を実施することにより、将来的な文化財保護行政を担う人材の育成を図ることができていると考える。保存担当学芸員研修、埋蔵文化財担当者研修はともに満足度も高く、有意義な研修を行えている。

**評定　A**

コメント

埋蔵文化財研修や保存担当者研修については、順調に推移している。また、大学連携もすっかり定着しており、実施後にアンケート調査をし、成果を検証していることも評価できる。

## Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

| 評　定 | 評価のポイント |
|---|---|
| A | 中期計画通りに履行し、中期目標期間最終年度に向けて確実に進んでいると認められる。<br>事務の一元化による業務の効率化及び光熱水料や一般廃棄物排出量の大幅な減少は評価できる。<br>民間委託の推進についても、改善がなされており、契約総数に占める随意契約の割合は、金額については随意契約見直し計画を達成している。<br>自己資金の拡大については、寄付金や科学研究費補助金などの外部資金の獲得について積極的に行っている。<br>事業についての外部評価の体制も整い、事業評価が行われている。内部統制やコンプライアンスの整備・運用に取り組み職員への法人ミッションの周知徹底も行われている。<br>理事長のトップマネジメントに必要な情報の提供・支援を行う役員会や６施設連絡協議会等により、理事長のリーダーシップが発揮できる環境が整えられているとともに、監事監査及び内部監査に係る規定及び体制も整備されている。<br>さらに２１年度においては、倫理規程等の策定、契約監視委員会の設置による随意契約の点検等、内部監査、「内部統制の確保を図るための体制の整備状況」についての監事監査などが着実に実施された。<br>人件費の削減についても確実に実行されている。 |

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上、 | **1．業務の効率化**<br>○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き５年期間中一般管理費15％以上、業務経費５％以上の業務の効率化を図ること。<br>○省エネルギー５年期間中、１年に1.03％減少を図ること。<br>○施設の有効利用の推進を図ること。<br>○民間委託の推進を図ること。<br>○競争入札の推進を図ること。 | **主な実績**<br>**・事務の一元化による業務の効率化**<br>・「研究・学芸系職員連絡協議会」を引き続き実施し、各博物館における翌年度の展覧会企画等について調整を行い、2 館以上巡回する展覧会として「細川家の至宝」（東博、九博、京博）、「誕生！中国文明」（東博、九博、奈良博）を計画することとした。<br>・機構内各施設のグループウェアの統合化を進めた。（22 年度稼働予定）<br><br>**・省エネルギー、リサイクルの推進**<br><br>**■光熱水料**<br>光熱水料金<br>（単位：千円）<br>事　項 / 20 年度 / 21 年度 / 差　額<br>電気料（※1） / 427,588 / 366,202 / △61,386<br>水道料（※2） / 84,044 / 93,651 / 9,607<br>ガス料（※1） / 138,811 / 92,510 / △46,301<br>計 / 650,443 / 552,363 / △98,080（15.08%減）<br>（※1）電気料・ガス料減少の特殊要因となった施設休館等による影響 | **評定　A**<br>コメント<br>事務の一元化による業務の効率化は評価できる。<br>巡回展覧会や、グループウェアの統合化等、一体運営に向けて踏み出していることを評価したい。民間委託の推進についても、委託可能業務について、順調に進めている。自己資金の拡大に向けての努力や、寄付金、科研費の獲得についても積極的に行っている。<br>光熱水料の減少率は15.08%であるが、特殊要因を除いた光熱水料の減少率も8.77%と大幅に減少している。また、一般廃棄物排出量も大幅に減少している。引き続き省エネルギー、リサイクルの推進のための努力をお願いしたい。また、契約総数に占める随意 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 以上の業務の効率化を図る。<br>さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19年度一般管理費（物件費）の10%相当を統合後5年間で削減を図る。<br>具体的には下記の措置を講じる。<br><br>（1）共通的な事務の一元化による業務の効率化<br><br>（2）使用資源の減少<br>・省エネルギー（5年期間中1年に1.03%の減少）・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を5年期間中5%減少）<br>・リサイクルの推進<br><br>（3）施設有効使用の推進<br>・施設の利用推進<br><br>（4）民間委託の推進<br>・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。<br>・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。<br>・来館者サービスを中心に業務の見直し | ○保有固定資産の活用状況について、減損会計の情報（保有目的、利用実績など）を考慮し、十分な推進を図ること。<br>○官民競争入札等の推進を図ること。 | | 契約の割合は、金額については随意契約見直し計画を達成している。しかし件数については、計画の達成に向けて、また、事業仕分けで指摘を受けた「施設内店舗用地の賃借」についても、展覧環境の質に充分配慮した上で順次企画競争を導入する等、更なる努力をお願いしたい。<br>総合評価方式の要領・マニュアルも整備し、契約の適正化に向けた取組みがなされている。<br>なお、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的な目標は、入場料収入等の増加により、目標を上回っている。今後も着実な目標達成を期待している。管理経費及び業務経費も効率化を達成している。 |

| 施　設 | 休館施設 | 電気料 | ガス料 |
|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 東洋館（耐震改修工事のため） | △17,189 | △6,208 |
| 京都国立博物館（注1） | 平常展示館（建替工事のため） | △1,457 | △14,081 |
| 奈良国立博物館 | 西新館（耐震工事のため） | △1,477 | △840 |
| 奈良文化財研究所 | 平城宮跡資料館（改修工事のため） | △8,247 | △1,340 |
| 小　計 | | △28,370 | △22,469 |

（注1）建替工事及びガス空調から電気空調への全館全面切換による増減を含む。

（※2）水道使用料増加の特殊要因

| 施　設 | 内　容 | 金　額 |
|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 「阿修羅展」開催期間中の入場者増員分水道使用料（4月1日～6月7日） | 2,003 |
| 九州国立博物館 | 「阿修羅展」開催期間中の入場者増員分水道使用料（7月14日～9月27日） | 2,026 |
| 京都国立博物館 | 平常展示館建替工事に係る工事用水使用料 | 4,251 |
| 九州国立博物館 | 雨水貯留槽汚染（10月20日～3月2日）に伴う上水使用料 | 1,520 |
| | 小計 | 9,800 |

（参考）特殊要因を考慮した光熱水料金

| 事　項 | 20年度 | 21年度 | 差　額 |
|---|---|---|---|
| 電気料 | 427,588 | 394,572 | △33,016 |
| 水道料 | 84,044 | 83,851 | △193 |
| ガス料 | 138,811 | 114,979 | △23,832 |
| 計 | 650,443 | 593,402 | △57,041 |

（※1）（※2）を調整

**■一般廃棄物**

廃棄物排出量　（単位：kg）

| 事　項 | 20年度 | 21年度 | 増減率（%） |
|---|---|---|---|
| 一般廃棄物 | 247,491 | 228,045 | △7.86 |

**・施設有効利用の推進**

以下のように施設の有効利用を図っている。

**■施設の有効利用件数（有償利用件数）**

| 合計 | 東博 | 京博 | 奈良博 | 九博 | 東文研 | 奈文研 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2,074件（431件） | 341件（262件） | 35件（26件） | 59件（21件） | 250件（69件） | 178件（13件） | 1,211件（40件） |

**■固定資産の減損**

該当なし。

を行い、民間委託を積極的進める。

(5)競争入札の推進・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

**・民間委託の推進**

・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。
・全ての博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務を外部委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施しているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、平成22年4月1日から民間委託を実施した。

**・競争入札の推進**

**■随意契約見直し状況**

| 区　分 | | 20年度契約実績 | | | 21年度契約実績 | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 契約総数(A) | 随意契約件数(B) | 割 合(C=B/A) | 契約総数(D) | 随意契約件数(E) | 割 合(F=E/D) | |
| 合計 | 件数 | 316 | 177<br>(22)<br>155 | 56.0%<br><br>49.0% | 352 | 152<br>(44)<br>108 | 43.2%<br><br>30.7% | 上段：企画・公募（括弧内）を含む<br>下段：競争性のない随意契約件数 |
| | 金額 | 3,438,182千円 | 1,739,272千円<br>(249,420千円)<br>1,489,852千円 | 50.6%<br><br>43.3% | 11,694,418千円 | 2,496,112千円<br>(363,361千円)<br>2,132,751千円 | 21.3%<br><br>18.2% | 上段：企画・公募（括弧内）を含む<br>下段：競争性のない随意契約金額 |

※少額随意契約は除く。

随意契約見直し計画（20 年度契約実績のうち、契約形態を見直す余地のある随意契約を順次見直すことで、契約件数に占める競争性のない随意契約の割合を件数 26%、金額 32%とする。以下、見直し計画という。）に基づき、今まで随意契約していた業務を競争性のある契約へ移行させたため、20 年度契約実績と比べた場合、21 年度契約実績は、 契約総数に占める随意契約の割合は件数（56.0%→43.2%）、金額（50.6%→21.3%）共に減少し、金額については見直し計画を達成している。

件数については、30.7%となっており目標を達成できなかった。今後は件数においても目標達成を目指す。

契約監視委員会において、随意契約１０８件の内、８６件については、随意契約として認められたものである。残り２２件について、平成２１年度限りが１４件、２件は今後は廃止予定であり、残り６件については、平成２２年度に５件が公募等の競争性のある契約へ移行済みであり、残り１件についても平成２３年度には移行予定としている。

なお、見直し計画に基づき、競争性のある契約へ移行した契約は下記のとおり。

・電気供給契約（全施設で一般競争入札を実施、本部、東博及び東文研は一括契約）
・特別展図録・目録制作（東博、奈博）
・自動券売機賃貸借（京博）
・装飾古墳データベース保守業務（九博）
・機械警備業務（奈文研）

総合評価落札方式については、規程及びマニュアルを整備した。

■外部資金の活用及び自己収入の増大

独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、20 年度に策定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的な目標をについて、21 年度は達成することができた。

なお、事業仕分けにおいて文化財収集（展覧事業）について「自己収入の拡大、コスト縮減といった努力を徹底し、国からの負担を増やさない形での拡充を図る。」とされたことから、今後も継続して自己収入の増大に努力していく。

定量的目標：

1. 入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

下表のとおり、8.67%となり、目標を上回ることができた。

（単位：千円）

| | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 |
|---|---|---|---|
| 自己収入基準額 | ― | 864,089 | 874,112 |
| 自己収入目標額 | ①864,089 | ②874,112<br>(①×1.16%増) | 884,252<br>(②×1.16%増) |
| 自己収入実績額 | ― | ― | 949,900 |
| 増　加　率 | ― | ― | 8.67% |

※受託研究・受託事業を除く。

※自己収入目標額は、前年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。ただし平成 19 年度自己収入目標額は、平成 19 年度自己収入実績額から特殊要因である京都国立博物館平常展示館建替工事による影響額等を除いて算定。

※増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。

2. 寄附金 226 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。

下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

| | 目標値 | 21 年度 |
|---|---|---|
| 寄附金 | 226 件 | 290 件 |
| 科学研究費補助金 | 76 件 | 86 件 |

・情報公開の実施状況

機構ＷＥＢサイトにて以下の情報を公開している。

①機構に関する基礎的な情報

■組織等：目的、業務の範囲、組織、役職員の報酬・給与等について
■目標・計画等：中期目標・中期計画、年度計画
■財務諸表等：財務諸表、決算報告書
■自己点検評価報告書
■外部評価委員会評価
■文部科学省独立行政法人評価委員会評価
■監事の直近の意見
■監査法人の意見：監査報告書
■その他評価

②契約に関する情報

■契約に関する情報
〇規程：会計規程、契約情報公表要項、契約情報公表に必要な事項に関する取扱
〇競争契約（工事）、競争契約（物品役務等）、随意契約（工事）、随意契約（物品役務等）
■公益法人への支出等に係る公表
■平成 20 年度に締結した契約
〇平成 20 年 4 月 1 日～9 月 30 日に締結した契約のフォローアップ

○平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日に締結した契約のフォローアップ
■随意契約見直し計画のフォローアップ
■随意契約見直し計画（平成 22 年 4 月公表）
○平成 20 年度における随意契約見直し計画のフォローアップ
○平成 19 年度における随意契約見直し計画のフォローアップ
○随意契約見直し計画（平成 22 年 4 月）
○見直し計画各種様式（様式 1-1、1-2、8-1、8-2）
○独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会議事概要
■随意契約見直し計画（平成 19 年 12 月公表）
○随意 契約見直し計画（平成 19 年 12 月）
○平成 18 年度に締結した随意契約の点検・見直しの状況
■温室効果ガス等の排出削減に配慮した契約の締結実績の概要
④退職公務員等の状況
■独立行政法人等の役員に就いている退職公務員等の状況等
■独立行政法人国立文化財機構の文部科学省評価委員会による評価結果の役員人事への反映状況
■一者応札・応募の改善方策
■独立行政法人から関連法人への補助・取引等及び再就職の状況
⑤東京・京都・奈良・九州国立博物館における購入文化財の情報
■購入文化財情報：購入文化財、外部委員

・監事監査での特定の契約に係る監査状況
監事監査実施にあたり、対象とする契約の基準について書面化し、チェックリストを作成することで監査手順を明確にしている。特定の契約については、陳列品購入に係る契約の他、落札率95%以上若しくは応札者１者の契約とし、監査の結果、指摘等はなかった。

・一般競争入札における一者応札率

| 20 年度一般競争入札応札者数別内訳 | | | | | | 21 年度一般競争入札応札者数別内訳 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1者 | | 2者以上 | | 計 | | 1者 | | 2者以上 | | 計 | |
| 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
| 55 | 40% | 81 | 60% | 136 | 100% | 68 | 34% | 132 | 66% | 200 | 100% |

前年度と比べ、可能な限り公告期間を延ばす努力をした結果、全体に占める一者応札者数の割合は減少した。
なお、21年7月に機構のＨＰ上で「一者応札・応募の改善方策」を公表し改善を図っている。

【管理経費効率化率】目標：中期目標期間中15%以上減（中期計画）、指標：対前年度比

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 3.20%以上 | 2.24%以上<br>3.20%未満 | 2.24%未満 | 9.11%減 | S |

【業務経費効率化率】中期目標期間中５%以上減（中期計画）、指標：対前年度比

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1.03%以上 | 0.72%以上<br>1.03%未満 | 0.72%未満 | 11.04%増<br>(1.17%減) | C<br>（A） |

・対前年度比11.04%増となっているが、前年度からの繰越、特別展の入場者増への対応、当初予定外の受託事業（平成２１年度美術館・博物館基盤整備支援事業等）の要因による支出増を除いたベースでは、対前年度比1.17%の減となる。

【省エネルギー】指標：対前年度比（中期計画）

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1.03%以上 | 0.72%以上<br>1.03%未満 | 0.72%未満 | 15.08%減<br>(8.87%減) | S |

・建物改修工事による休館、特別展の入場者増等に伴う増減を調整した場合は、対前年度比8.77%の減となる。
【法人統合による一般管理費の減額】目標：統合後５年間中10%相当減（中期計画）、指標：対前年度比
平成21年度一般管理費

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 2.09%以上 | 1.46%以上<br>2.09%未満 | 1.46%未満 | 9.13%減 | S |

**自己評価**

管理経費については、9.11%の減となっている。建物建替工事関連経費・建物耐震調査費の前年度限りの経費、光熱水料及び公租公課の減等によるものである。また、業務経費は11.04%の増となっているが、前年度からの繰越、特別展の入場者増への対応、当初予定外の受託事業（平成２１年度美術館・博物館基盤整備支援事業等）により支出が増加したものであり、これらの要因を除いたベースでは対前年度比1.17%の減となり、全体として効率化は達成できていると評価できる。

省エネルギー、リサイクルの推進に関しては、冷暖房の省エネ運転やエレベータ利用の自粛、より効率の良い空調機器への交換、太陽熱発電、雨水の併用等により光熱水料の節減に努め15.08%減となった。（休館等の特殊要因を調整した場合8.77%減となる。）

一般廃棄物排出量に関しては、昨年度の特殊要因である建物建替に伴う増加がないため 7.86%減となり、目標である 1.03%減を達成することができた。

公共サービス改革基本方針（19 年 12 月）に基づき、民間委託の推進に関しては、電気設備保守等の各種保守業務、清掃業務、警備・監視業務等について、大部分を民間委託しており、今後も継続して民間委託を進めていく。東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施し、21 年 10 月から民間委託を行っているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、22 年 4 月 1 日から民間委託を実施した。

随意契約については、競争性のある契約への移行を進め、契約総数に占める随意契約の割合は件数、金額共に減少させており、今後も引き続き契約の適正化に向けて見直しを進めていく。

契約情報の公表については、国立文化財機構契約情報公表要項により、20年4月1日以降の競争契約及び随意契約に関する情報を当機構ＷＥＢサイトにて公開しており、公表に努めている。

---

2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年１回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

**２．外部評価等の実施**

〇事務事業改善のための外部評価及び職員の研修を実施すること。

〇コンプライアンス体制（倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施）を整備すること。

**主な実績**

**事業評価**

・実績報告書作成時の自己点検評価の実施（年１回）
・外部評価委員会の開催及び外部評価報告の実施
　機構の外部評価委員会は、機構の行った自己点検評価について評価を行うことを任務として設置しており、現在14名で構成されている。委員会には、総会と別に博物館調査研究等部会及び研究所調査研究等部会が置かれ、機構の調査研究等の実績に関する評価について特に専門的な立場で評価を行い、委員会に報告することになっている。（21年度の外部評価については22年4～6月に実施済（研究所調査研究等部会・博物館調査研究等部会、総会（各１回））
・監事による業務・会計監査の実施（年１回）
・文部科学省独立行政法人評価委員会国立文化財機構部会による評価
・総務省独立行政法人評価委員会による評価
・監事による各施設の臨時監査（計４回）を実施した。
　東京国立博物館（22年3月11,12日）、京都国立博物館（22年1月19,20日）、奈良国立博物館（22年2月18,19日）
　東京文化財研究所（22年3月2日）
・職員の資質の向上と能力開発の推進を図るため、本部事務局及び各施設において次のとおり研修等を実施した。

**評定　A**

コメント

事業についての外部評価の体制も整い、事業評価をきちんと行っている。内部統制やコンプライアンスの整備・運用に取り組み職員への法人ミッションの周知徹底も行われている。

法人運営上の重要事項の決定や諸課題への対応については、役員会の審議を踏まえて理事長が方針を決定している。また、理事長の指示の実効性を担保するため、6施設連絡協議会を設けるなど、各施設の連絡調整と情報の共有が図られるとともに、理事長の

| 主　催 | 研　修　等 |
|---|---|
| 本部事務局・<br>東京国立博物館 | 新任職員研修、接遇研修、個人情報保護講演会、産業医による講習会、<br>顧客対応（クレーム対応）研修、施設系職員研修、ハラスメントに関する講演会及び研修会、防災訓練 |
| 京都国立博物館 | 衛生管理講習会、普通救命講習会、マナー講習会、初期消火活動講習 |
| 奈良国立博物館 | 防災訓練、AED 操作講習会、産業医による講習会、パワーポイント研修 |
| 九州国立博物館 | 普通救命講習、研究費の管理・監査体制及び会計手続き説明会、防災訓練、ハラスメント防止研修、産業医による講話 |
| 東京文化財研究所 | 個人情報保護講演会※1、産業医による講習会（インフルエンザ、アレルギー）※2、消防訓練およびＡＥＤ操作講習会（※1、2は東博との共催） |
| 奈良文化財研究所 | 新人研修、ＡＥＤ操作講習会、産業医による講習会、消防訓練 |

**職員の意識改革**

・20年度運営改善コンクールにおいて採択された案件について具体的な検討を図り、一部については実施して、職員の意見を事業に反映させた。

**コンプライアンス体制の維持、内部統制の整備**

・「独立行政法人国立文化財機構職員倫理規程」及び「独立行政法人国立文化財機構役員の倫理に関する取り扱い」等を策定し、転任者も対象とした初任者研修時に説明を行い、職員の意識改善を図っている。
・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき、「独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項」を制定し、外部委員も含めた契約監視委員会を設置して、随意契約の点検等を行った。
・決算業務については、決算作業開始を早期化し 21 年末に決算準備を開始するとともに、詳細な決算スケジュールを作成し、決算に必要となる資料・データについて各施設に周知することにより、21 年度決算は予定どおり順調に完了することができた。
・本部及び各施設において内部監査を実施し、随意契約の見直し状況及び一者応札の改善方策を含めて監査を行った。会計監査では科学研究費補助金等を監査し、給与簿監査では出勤簿等について全般的な監査をした。
・会計監査人による財務諸表に関する監査を実施し、特に改善を要する指摘はなかった。
・監事の定期監査においては、「内部統制の確保を図るための体制の整備状況」について監査を重点的に実施し、具体的には規定の整備状況、内部監査の実施状況等について監査を行い、特に改善を要する指摘はなかった。

**自己評価**

機構の自己点検について外部評価委員による評価会として、総会と博物館及び研究所のそれぞれの研究について部会の延べ3回開催し、評価を受けた。

職員の意識改革については、20年度に実施した運営改善コンクールにおいて採択された案件について、具体的な検討を図り、一部については実施して職員に意見を事業に反映させた。今後も、職員の意識改革や取り組みの改善を継続的に実施していきたい。

コンプライアンス体制の整備に関しては、平成19年度と20年度において基本的に整備された規程等を踏まえ、継続的に対処し透明性の確保に努めている。また、20年度に制定した「独立行政法人国立文化財機構有形文化財の収集等に関する規程」に基づいた文化財の購入を行うとともに、機構および各博物館のホームページで購入文化財等の情報を公表した。

トップマネジメントを支えるため、機構の運営上の重要事項、諸課題についての助言等を行う「相談役」を設置するなど、理事長のリーダーシップが発揮できる環境は整えられていると判断する。

さらに、理事長は監事や会計監査人との意見交換・監査報告を通じて統制機能の現状を把握していると認められる。

監事監査及び内部監査に係る規定及び体制は整備されていると認められる。監事監査においては、理事長のリーダーシップが発揮できる環境が整備されているかなど、理事長のトップマネジメントに留意した監査がなされるとともに、監事が役員会に出席して法人の運営状況を確認していることや、役員及び会計監査人との意見交換等により、内部監査の状況についても把握している。内部監査においては、監事及び会計監査人と連携し、監事意見や会計監査人の助言・指導を内部監査に反映するよう努めている。

当年度においては、倫理規程等の策定、契約監視委員会の設置による随意契約の点検等、内部監査、「内部統制の確保を図るための体制の整備状況」についての監事監査などが着実に実施されている。

産業医による講習会や衛生管理講習会の実施は、多岐にわたる業務だけに大事であり、評価される。

法人として年度計画を具体化するため、展覧会等の各事業の時期や担当者・内容等についてアクションプランを策定し、担当部署が対象業務（会計業務、自己点検評価）をモニタリングしている。また、モニタリングの結果は、年度計画における「一般競争入札の推進」に反映させるなど、次年度

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>以降の年度計画等に反映させている。さらに、法人本部が全施設のリスクを把握するとともに、リスク対応計画として「危機管理マニュアル」を作成したのは適切であると認められる。<br>　今後も内部統制やコンプライアンスの実効性を高めるため、研修等の充実などにより、役職員の意識改革等に努めてほしい。</td>
</tr>
<tr>
<td>３　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。</td>
<td>３．情報の安全向上<br>○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。</td>
<td>主な実績<br>・20年度に作成した知的財産管理体制報告書に基づき、知的財産検討ワーキンググループを設置し、規定整備のための検討を図った。<br>　機構における特許保有は、開発した技術等が他者に製品化に利用されて使用できなくなることや、類似の発明を権利化させないための防衛特許の意味合いが強いものである。なお、自己収入の増加につながる発明などができた場合には速やかに出願を行える体制を整えていく。<br>・情報システム点検・評価要項に基づき、各施設において情報システム点検の実施を検討し、情報セキュリティの向上に努めた。（監査は次年度に実施）<br><br>自己評価<br>19年度に整備した情報システム管理規程に基づいて、ＣＩＯを中心として具体的な手順を作成することができ、評価、監査を行った。情報セキュリティは機構のもつ情報の安全性を向上させるためにも重要であるので、今後も継続的に向上させていきたい。<br>また、22年度稼働予定のグループウェア共通化を契機として、機構全体のネットワーク基盤整備について検討を進める必要があると考える。</td>
<td>評定　A<br>コメント<br>　知的財産検討ワーキンググループを設置し、機構が保有する特許権を適切に保有するための規程整備の検討を実施するとともに、情報システム点検の実施により、前年度に引き続き、セキュリティ強化を実施しており評価できる。<br>　次年度に情報システムの監査を予定していること及びグループウェアの稼働を予定していることから、一層の情報セキュリティの向上や情報の共有化などの業務の効率化につながることを期待している。</td>
</tr>
<tr>
<td>４　「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの５年間において、△５％以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年７月７日閣議決定）に基づき、国家公務員</td>
<td>４．人件費の削減、給与体系の見直し<br>○平成18年度からの５年間において△５％以上の人件費削減を行う。<br>○また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。</td>
<td>主な実績<br>・人事給与統合システムが 20 年 4 月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。<br>・地域手当について、22 年度において 21 年度の率を据え置く方針が決定された。<br><br>■人件費削減の状況
<table>
<tr><th></th><th>17 年度<br>(A 分類<br>実績ﾍﾞｰｽ)</th><th>18 年度</th><th>19 年度</th><th>20 年度</th><th>21 年度</th><th>22 年度目標値<br>(17 年度に比して△5.00%)</th></tr>
<tr><td>実績（千円）</td><td>2,878,750</td><td>2,789,360</td><td>2,773,688</td><td>2,745,389</td><td>2,688,829</td><td>2,734,812</td></tr>
<tr><td>前年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△0.56%</td><td>△1.02%</td><td>△2.06%</td><td>－</td></tr>
<tr><td>17 年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△3.65%</td><td>△4.63%</td><td>△6.60%</td><td>－</td></tr>
<tr><td>17 年度に対する削減率(補正値)</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△4.35%</td><td>△5.33%</td><td>△4.90%</td><td>－</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定　A<br>コメント<br>　削減の方向は評価できるが、業務の拡充を考える上で、これ以上の削減は、法人業務に大きな打撃となるため、10年先の将来を見据えた人件費の在り方の検討を望む。</td>
</tr>
</table>

| | | | |
|---|---|---|---|
| の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。<br>　その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。 | | 【人件費削減率】平成18年度以後５年間中５％以上減（中期計画）、指標：対前年度比<br><br>※１　人件費削減実績表中の「補正値」とは、「行政改革の重要方針」（平成 17 年 12 月 24 日閣議決定）による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成 18 年、平成 19 年、平成 20 年、平成 21 年の行政職（一）職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ 0%、0.7%、0%、△2.4%である。<br>※２　レクリエーション経費は運営費交付金からの支出はない。レクリエーション経費以外の福利厚生費（法定外福利費）は13,189千円である。また、国とは異なる諸手当は機構にはない。<br><br>**自己評価**<br>　18年度から「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、５年間で５%の人件費の削減が政府方針で決められている。21年度は対前年度比では△2.06%、17年度決算比では6.60%の削減となっており、中期計画の達成に対しては順調に進捗していると考えている。今後も継続的に業務の効率化等を図り、人件費の削減に取り組んでいく。<br>　また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、給与体系の見直しにも取り組んでいく。 | |

| A | B | C | 実績 | 定量的評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1.03%以上 | 0.72%以上<br>1.03%未満 | 0.72%未満 | 2.06%減 | A |

## Ⅲ　財務・人事

| 評　定 |
|---|
| A |

評価のポイント

中期計画通りに履行し、中期目標期間最終年度に向けて順調に推移していると思われる。
特別展における入場者数の増加が展示事業等収入の増加につながり、自己収入の確保は順調である。
運用を行っている金融資産等は保有しておらず、債権の管理等についてもその内容から特に問題はない。
機構が所有する実物資産は､法人の設置目的から全て必要なものであり､入場者数実績からも有効に活用されていると認められる。
人事計画については､新たな制度を生み出し､業務の専門性にも対応していることは評価できるが､必要な人材の基盤構築のため､将来を見据えた人事シミュレーションが必要である。

| 中期計画 | 主な計画上の評価指標 | 主な実績及び自己評価 | 評価委員会による評価<br>評価基準　SABCF |
|---|---|---|---|
| 管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。<br>また､収入面に関しては､実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。<br>１　予算（中期計画の予算）<br>別紙のとおり<br>２　収支計画<br>別紙のとおり<br>３　資金計画<br>別紙のとおり<br><br>Ⅳ　短期借入金の限度額短期借入金の限度額は、16億円<br>短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入 | **１．予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画（中期計画Ⅲ）**<br>○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。<br>○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。<br>○税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。<br>○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。<br>○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。 | **主な実績**<br><br>**■平成 21 年度収入状況**　（単位：千円）<br>収　入 / 予算額 / 決算額 / 差引増減額 / 備　考<br>運営費交付金 / 8,367,412 / 8,367,412 / 0 /<br>施設整備費補助金 / 3,674,153 / 2,330,710 / −1,343,443 / 次年への繰越<br>文化芸術情報電子化推進費補助金 / 699,720 / 547,972 / −151,748 / 次年への繰越<br>展示事業等収入 / 1,120,049 / 1,898,284 / 778,235 / 特別展の入場者増<br>受託収入 / 26,000 / 524,551 / 498,551 / 当初見込外契約の増加<br>その他寄附金等 / 0 / 139,434 / 139,434 /<br>計 / 13,887,334 / 13,808,363 / −78,971 /<br><br>施設整備費補助金、受託収入及び補正予算で措置された文化芸術情報電子化推進費補助金を除いた平年度ベースでは、決算額の収入は予算額と比較して917,669千円の増加であった。増加の主な理由は特別展における入場者数が目標値を超えたことによる。受託収入は予算額26,000千円に対して498,551千円の増加となっている。<br><br>**■平成21年度支出状況**　（単位：千円）<br>支　出 / 予算額 / 決算額 / 差引増減額 / 備　考<br>運営事業費 / 9,487,461 / 10,454,282 / −966,821 /<br>管理経費 / 1,872,030 / 1,823,473 / 48,557 /<br>人件費 / 852,515 / 757,295 / 95,220 /<br>一般管理費 / 1,019,515 / 1,066,178 / −46,663 / 消費税の一時的加算<br>業務経費 / 7,615,431 / 8,630,809 / −1,015,378 /<br>人件費 / 2,477,381 / 2,487,085 / −9,704 / 当初予定外退職手当<br>調査研究事業費 / 1,438,291 / 1,472,643 / −34,352 / 当初予定外受託事業<br>情報公開事業費 / 155,019 / 143,512 / 11,507 /<br>研修事業費 / 21,750 / 17,026 / 4,724 / | **評定　A**<br>コメント<br>自己収入の確保は順調である。<br>制度上、予算設定時に見込めない受託関係及び施設整備関係の乖離については、「主な実績及び自己評価」を見た限りでは特に問題はないと判断している。<br>前年度と同様、特別展における入場者数の増加が展示事業等収入の増加につながっており、実績も２期連続で増加している。今後も、良い企画を期待している。<br>運用を行っている金融資産等は保有しておらず、債権の管理等についても、その内容から特に問題はない。なお、現金及び預金については、未払金、運営費交付金債務等が主なものであり機構が保有する資産として適正に財務管理されている。<br>展示業務をはじめとする法人の業務は、展示施設だけでなく景観（敷地）等を含めた所有する資産全体で実施することで、快適な観覧環境を提供するものであり、機構が所有する実物資産は、法人の設置目的から全て必要なものである。また、入場者数実績からも有効に活用されていると認められる。 |

れに遅延が生じた場合である。

Ⅴ　重要な財産の処分等に関する計画
①　京都国立博物館新館の取り壊し予定。
②　奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅵ　剰余金の使途
　決算において、剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。
１　文化財の購入・修理
２　調査・研究、出版事業の充実
３　展覧会の充実
４　入館者サービス、情報提供の質的向上
５　国際協力
６　老朽化対応のための施設設備の充実

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 国際研究協力事業費 | 303,817 | 222,801 | 81,016 | |
| 展示出版事業費 | 157,925 | 163,198 | -5,273 | 平城宮跡資料館改修工事 |
| 展覧事業費 | 2,940,353 | 4,050,202 | -1,109,849 | 前年度からの繰越、特別展に係る経費の増加等 |
| 教育普及事業費 | 120,895 | 74,342 | 46,553 | |
| 施設整備費 | 3,674,153 | 2,212,024 | 1,462,129 | |
| 文化芸術情報電子化推進費補助金 | 699,720 | 541,798 | 157,922 | |
| 受託事業費 | 26,000 | 491,500 | -465,500 | 当初見込外契約の増加 |
| 計 | 13,887,334 | 13,699,604 | 187,730 | |

　決算額の支出は、予算額と比較して 187,730 千円の減となっている。増加しているのは、一般管理費 46,663 千円、業務経費人件費 9,704 千円、調査研究事業費 34,352 千円、展示出版事業費 5,273 千円、展覧事業費 1,109,849 千円、受託事業費 465,500 千円である。
　一般管理費は消費税加算額、業務経費人件費は予定外退職手当、調査研究事業費は当初予定外の受託事業（平成２１年度美術館・博物館基盤整備支援事業等）、展示出版事業費は平城宮跡資料館改修工事、展覧事業費は前年度からの繰越及び特別展入場者増への対応等、受託事業費は高松塚古墳・キトラ古墳関連の受託業務などを始めとして、当初の支出見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約によりそれぞれ増加したものである。

○外部資金の獲得状況
　科学研究費補助金　298,959千円　（20年度　327,239千円）
　研究助成金　30,241千円　（20年度　30,192千円）
　寄附金　134,934千円　（20年度　109,630千円）
　　合計　464,134千円　（20年度　467,061千円）
　　科学研究費補助金の採択件数は増加している。
○利益剰余金
　期末の利益剰余金は1,163,612千円であり、その内訳は前中期目標期間繰越積立金11,067千円、積立金1,005,041千円、当期未処分利益147,504千円となっている。
　前中期目標期間繰越積立金は、主として自己収入により取得した固定資産の減価償却費に充てるための積立金である。
　積立金は独立行政法人通則法第44条第１項に基づく積立金で、損益計算で損失を生じた場合に充当できるものである。
　当期未処分利益は今期の損益計算により生じた利益で、主な発生要因は特別展の入場者数増により展示事業等収入の決算額が予算額を上回ったためである。当期未処分利益については、下記のとおり目的積立金を申請予定である。
○目的積立金の申請
　当期総利益147,504千円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所業務に充てるため、140,622千円を目的積立金として申請する。
　当期総利益のうち6,882千円は目的積立金の申請対象としていないが、これは、自己収入により固定資産を取得したことによる見かけ上の利益等である。
○運営費交付金債務の執行状況
　運営費交付金債務は当期交付分のうち 1,197,476 千円の繰越を行った。（【参考資料２】貸借対照表の経年比較を参照。）これは陳列品購入で、買取の協議が今年度内に整わず次年度購入することになったこと等によるものである。なお次年度購入予定であるため、業務運営に与える影響はない。
○保有する現金及び預金等
　現金及び預金は 4,157,564 千円で、未払金、運営費交付金債務等が主なものであり、機構が保有する資産として適正に財務管理している。有価証券等は所有していない。
**自己評価**
　法人全体で自己収入確保に努め、目標額を達成した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| Ⅶ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項<br>１人事計画に関する計画<br>（１）方針<br>①　国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。<br>②　調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。<br>③　人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。<br>（２）人員に係る指標<br>常勤職員については、その職員数の抑制を図る。<br>（参考１）<br>１）期初の常勤職員数<br>367人<br>２）期末の常勤職員の見込み　355人<br>（参考２）中期目標期間中の人件費総額見込額<br>14,343百万円<br>但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。<br>２　別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。 | **２．人事計画に関する計画**（中期計画Ⅶ１）<br>○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。<br>○任期付研究員制度の導入を図る。<br>○人事交流、職員の研修等に努めること。 | **主な実績**<br>・19年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当面対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行い、20年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で1名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で1名採用。<br>・20年度において、さらに上記規定の適用を広げ、21年度において新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で1名、技術職員（建築）1名及び技術職員（写真技士）1名を奈良国立博物館で独自選考により採用（計3名）。<br>また、21年度において、22年度に採用する労務職員（衛士）を東京国立博物館で3名、技術職員（写真技士）を奈良文化財研究所で1名の独自選考を実施。<br>・20年度において、期限付プロジェクト等について、機動的に対応することを目的とした有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度を新たに整備したところである。21年度に東京国立博物館で11名、京都国立博物館で1名、奈良国立博物館で2名、東京文化財研究所で5名及び奈良文化財研究所で3名を採用（計22名）。<br>・7 名の常勤の事務職員を新規で採用（東京国立博物館 5 名、奈良国立博物館 2 名）。<br>・14 名の常勤の研究職員を新規で採用（東京国立博物館 3 名、京都国立博物館 1 名、奈良国立博物館 1 名、奈良文化財研究所 9 名）<br>・人事交流の実績<br>事務系職員：文化庁、東京大学、東京医科歯科大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等との人事交流を実施（68 名）<br>機構内の各施設間における人事交流の実施（8 名）<br>研究系職員：文化庁から 8 名の受け入れ及び文化庁への出向を 14 名の人事交流の実施<br>・研修の実績<br>新任職員、それ以外の職員も対象とした各種研修（4 件）及びハラスメント防止等委員会委員及び相談員等を対象としたハラスメント研修（1 件）の実施。また、他機関で実施する研修に積極的に参加<br><br>**自己評価**<br>19 年度に整備した技術職員等の雇用の規定により、21 年度は機構全体に 3 名の採用と 4 名の選考を行い、独立行政法人の特性を生かした人事制度の運用が図られた。また、期限付プロジェクト等について、機動的に対応することを目的とした有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の人事制度を 20 年度に整備したことによって、21 年度においても優秀な人材を機動的に採用することができた。<br>人事交流については、事務系職員においては、大学法人や他の独法との間での交流だけでなく、地方公共団体とも交流を計画しており、今後も積極的に交流を進めていきたい。大学法人以外は、現在は受入れが中心であるため、今後、相互交流を図ることを検討したい。研究系職員については、20年度同様、文化庁との双方向の人事交流は活発に行われているが、今後は大学等との交流の拡大が課題である。しかし、退職手当の通算ができない場合が多く、難しい問題がある。 | **評定　A**<br>コメント<br>アソシエイトフェローという新たな制度を生み出し、業務の専門性にも対応していることは、評価できる。しかし、有期雇用職員のシステムは当面は良いが、高い能力を持った人材が集まらないという指摘もある。しかし一方では人材育成に対する社会的要請もあることから、必要な人材の基盤構築のため、将来を見据えた人事シミュレーションが必要である。 |

## ２．　独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価

### 目　次

１．外部評価委員会報告

２．外部評価委員評価書

（１）総会

（２）博物館調査研究等部会

（３）研究所調査研究等部会

## １．外部評価委員会報告

はじめに

本委員会では、機構の自己点検評価を全体として適切に自己点検評価が行われているかをはじめとして、統合による事業の相乗効果、効率的な運営などについて、客観性のある評価に努めた。なお、収入・支出の決算については、財務状況の概要（暫定版）が作成され、本委員会にて審議することができた。担当の努力を大いに評価したい。

総　評

独立行政法人国立文化財機構の 21 年度の実績は全体として高く評価できる。日本の文化財を守り伝えていくために、文化財の収集・修理や文化財に関する調査・研究の実施、歴史・伝統文化の国内外への発信について、ナショナルセンター機能を担う国立文化財機構の実績として、高く評価するものである。

自己点検評価も概ね適正に行われていると評価できる。ただし、数値目標に対する定量的評価におけるＳ評価の基準が統一されていない部分があり、機構として一律の基準を検討いただきたい。

国立博物館と文化財研究所の統合から、21 年度は 3 年目となる。各館所それぞれの独自性を活かしつつ、共同研究等の連携事業をより一層推進いただきたい。特に調査研究・ナショナルセンターとしての取組みは、相互の協力が不可欠である。お互いの専門性を活かした連携を期待する。また、それぞれの施設における知見を機構内の他の施設にも広めるよう努めてほしい。

今後は、国内外問わず文化財についてのナショナルセンターとしての役割がより求められるようになるので、その期待に応えられるよう基礎研究及び応用研究にしっかりと取り組んで、質の高い運営を実施していくことを期待する。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

資料の購入については、各館の特質を活かしながら適切かつ慎重に行われている。収蔵品の整備・充実は、博物館の常に努力すべき生命線といえる。限られた予算での購入に限界がある今日、寄贈・寄託に多くを頼らざるを得ない。その点での各館・研究所の日常的な努力に敬意を表する。とくに、東京国立博物館の板谷家（徳川幕府御用絵師）伝来資料一括および京都国立博物館の中国近代絵画の受贈は特筆に値するものがある。

適切な管理保存では、各館それぞれが、地震対策、温湿度管理、虫害対策、保存カルテ作成など、いろいろと努力されている。それぞれの館の経験や知見を、機構内で共有しあうとともに、広く文化財保存に携わる機構外の機関にも積極的に提供していただくと、収蔵品の管理・保存の体制が、日本全体でレベルアップするのではないだろうか。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

ここ数年に引き続き、特別展の充実には目を見張るものがあった。長谷川等伯展は、マスコミに盛んに取り上げられたこともあり、狩野派に比して知名度の低かった等伯の認知度が高まったことは意義あることであったと思う。阿修羅展は大ブームをつくりあげ、これまで

文化財にあまり興味がなかった人々まで集客できたことは一面では喜ばしいことであったが、あまりに予想外の人々の殺到に対する対応ができていたとは言い難く、今後に課題を残すものである。開館時間の延長など努力の成果ともいえるが、一方で混雑のため入館待ちの行列ができる状況の更なる対応を行う必要がある。東京国立博物館、九州国立博物館の２館で開催されたが、展示のイメージは全く異なり、同じ対象物でも様々な表現が可能だということにあらためて興味を覚えるとともに、研究員の力量を評価するものである。「染付－藍が彩るアジアの器」はやや従来型展示の印象を受けるので入場者数が少なかったのかもしれないが、地味ではあってもこうした優れた特定分野を掘り下げる展示は継続すべきである。学界の最先端の研究成果とリンクした文化財の意義を紹介・発信するタイプの展示を、更に追究していただきたい。

また、海外展が軌道に乗ってきたことも高く評価したい。他の東アジア諸国に遅れをとることなく、日本文化の海外発信に先導的役割を果すよう期待したい。

平常展については、どの館においても、平常展とは言いながらこまめに展示替が行われており、様々な工夫がこらされることで来館者の満足度が高まってきたことは大いに評価したい。平常展の魅力化、特集展示・陳列、多言語の外国語説明の充実など、引き続き努力をお願いしたい。特別展に比して平常展の観覧者が少ないことが指摘されているが、平常展こそ各館の特質を表現する場であり、研究員の研究の成果をじっくり観覧していただける場であろう。また、平常展示館建替中の京都国立博物館が、地方に於いて展覧会を開催されたことは、一級の文化財を直接目にすることの少ない地方にとってたいへん有り難いことであり、こうした機会が増えることに期待したい。

ボランティア活動については、「文化財ソムリエ」「文化大使」のような多様な形で、さらに工夫して推進していただきたい。同時に、従来からの公開講座・講演会なども、さらに魅力的なものにする努力をお願いしたい。

快適な観覧環境の提供については、ビデオなどによる分かりやすい説明、コンピュータ・グラフィックの手法を取り入れた魅力的な表示、適切な音声ガイドなどが取り入れられており、全般的に一層充実してきていると評価したい。

非常に多くの展覧会が開催されているため、これに携わる職員の負担が過大になっていると考えられ、疲弊による業務への悪影響が懸念される。今後も充実した展覧会を継続的に実施していくとともに、来館者サービスを向上させるためには、展覧会を企画・準備・実行するための基盤が重要であり、予算の増額、人員の増員といった体制整備が必要である。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

収蔵品等に関する調査研究成果については、各々の国立博物館が、定期刊行物、紀要、特別展図録等の出版、学術シンポジウムや研究集会の開催などを通じて広く公開され、全国の博物館関係者はもとより、国民各層の利用に供されてきている。研究者・専門家向けだけでなく、国民・市民向けにも分かりやすい形で成果を発信願いたい。また、研究紀要や報告書について、ホームページでの公開を進めていただきたい。

アジアの重要性がたかまる今日において、文化庁と国立文化財機構が共催した「アジア博物館研究集会」、九州国立博物館の JICA 草の根技術協力事業など時宜を得た研究、交流、文化的活動がさかんに行われていることは評価できる。また、海外研究者の招へい、海外への研究者の派遣、および研究者の国際交流も効果的に推進されてきたと思われる。さらに機会を増やす方向で計画を組んでいただきたい。文化財保存修理者等を対象とする研修事業も、

多分野にわたり実施されてきた。公私立の博物館への収蔵品の貸与や海外の博物館の展示への協力なども順調に進められたと思われる。既にされているようだが、館の研究員が実際に修理現場を訪れ、互いに話し合うことは非常に重要なことと思われる。単に学芸部研究員に文化財修理に関する認識を高めてもらうというだけでなく、修理技術者や保存科学者とは異なる視点からの修理に関する価値観や思想が得られる機会となるので、互いの見識が深まると期待できる。

所蔵資料の国内貸与に関して、東京国立博物館がＢを挙げているが、地方自治体の財政難に伴う企画展の減少が問題点であり、対外的な要因に作用される数値について、定量的評価対象とするか検討する必要がある。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

基礎的・先端的な文化財の調査研究の多方面にわたり、充分に成果を挙げていると評価できる。自己点検評価についても概ね妥当と思われる。

研究所の調査研究では、非破壊年輪年代測定法など長年の基礎研究と技術改良の結果が大きな成果に結びついており、今後の展開が大いに期待できる。「飛鳥地域の壁画古墳の研究」はキトラ・高松塚古墳壁画保存事業とかかわってその学術的意義を深めるとともに一般社会の理解を得る上で効果が大きく、いずれも国の推進する文化財保護事業とタイアップした時宜を得た研究といえる。なお、高松塚壁画の初期の保存措置で使用したパラロイドB72がむしろカビの栄養源となった可能性の指摘は重要である。ポータブル蛍光Ｘ線分析装置を用いた材質調査・研究の継続のほか、日光輪王寺の虫害に関する調査も成果を上げている。これらは、日本の文化財保護にとって重要であり、また、古墳など高湿度環境における微生物活性に関する研究などは､同様の文化財保護の問題を抱える近隣諸国にとっても有益であろう。

博物館における調査研究は、各館ともに、国際的、学際的、先進的な研究がなされる一方、地域に根ざしたきめ細かな、あるいは基礎的な調査研究にも努力されている。研究員の交流も昨年よりも一段と活発になされており、法人内における共同研究ばかりでなく、関係諸機関､企業等との共同研究を行うことによってより大きな成果が上げられていると評価される。ことに最新機器の共有化が促進されたことが、研究の進化に大きな力となっていると感じられる。九州国立博物館における３次元データの相互比較から得られる製作技法の抽出により非接触非破壊で古代青銅器の製作技術が解明できたことは画期的なことであり、今後様々な文化財の製作技術解明に活用されていくことであろう。また、小規模な範囲ではあるが、展示・鑑賞における環境の整備についても様々な工夫があって評価できる。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

文化財の保存・修復に関する国際協力は、昨年同様に、日本と関係の深い東アジア、東南アジア、西アジアへの協力が継続されている。他の協力国との役割分担、相乗効果等を総合的に検証していくことも必要と考える。現地での調査や支援は、日本以外の国々との連携や調整で困難な点も多くあろう。国内においては、国際協力機構やユネスコアジア文化センターへの研修協力、国際研修「漆の保存と修復」の開催など、国際的な人材育成を積極的に実施している。このほか一連の国際協力推進の活動は、日本の国際貢献の大きな一助になっており、また日本に対する理解を諸外国で高める一翼を担っている。

治安が回復しないアフガニスタンとイラクについて、現地研修事業を日本への招聘研修に替え、成果をあげているのは、臨機適切な措置である。アジアの古代都城遺跡等の日中韓共

同調査をはじめ敦煌石窟・陝西省壁画古墳・アンコール遺跡群などの共同調査でも、国情の違いを克服して実績を積み、信頼を得つつあることは、頼もしい。

6　情報発信機能の強化

積極的な情報発信が行われており、今後ともこの努力を継続することが期待される。特に博物館資料は、なかなか実際に手にとって見ることが出来るものではないので、見学で実物を見ることの大切さと共に､デジタル画像で様々な見せ方の出来るデジタルミュージアムは、国立博物館にとっては不可欠の要素となろう。研究的視点からの収蔵品の分析・解説とか、目の不自由な人への音声解説や拡大画像とか、デジタルミュージアムに期待される企画は少なくない。今後とも積極的な推進をお願いしたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、無形文化遺産、文化財、建造物・遺跡など、各分野でバランスよく展開されている。自己点検評価についても概ね適正である。埋蔵文化財担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修等を通じて、国内で各種文化財に関わる人々の知識や技術の総合的なレベルアップに寄与している。

特に、平城宮跡の第一次大極殿がみごとに復原され、遷都 1300 年祭の中核施設としての意義がある。奈良文化財研究所創設以来の調査・研究の成果を結集した結果であろう。

博物館など文化財施設内の温湿度解析のデータや省エネ化に関する情報は、今後、国内外の多くの博物館、美術館の運営に役立つことが期待される。

## Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

展示等で目標以上の成果を上げつつ、業務の効率化にもよく取り組んでいる。引き続き博物館と研究所の研究・学芸系職員の連絡や協力体制をさらに強化して、調査・研究・学芸業務を有機的に推進していただきたい。

省エネルギー、リサイクルなどの措置もさらに進められ、電気・ガス料金なども対前年度削減された。光熱水費等、非常に細かく削減方策がとられていることは評価するが、予想外の入館者数があった場合など止むを得ない場合もあり、そうした時に、サービスの低下につながらないように留意すべきである。施設の有効利用についても、各々の博物館・研究所において多様なイベントの実施や施設貸出などを行ない、施設有効利用と財源確保の努力がなされてきたことを評価したい。関係業務の民間委託や一般競争入札も順調に進められてきたと思われる。寄付金の受入や、科学研究費補助金の獲得も、目標件数を上回ったことは高く評価したい。

## Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

適切な財務内容の実現が図られている。今回、財務状況の概要（暫定版）が審議までに作成されたことは大いに評価できるが、予算額と決算額を対比した決算報告書についても暫定版で良いので、次回には作成してもらいたい。

人件費総額の削減については目標が達成されており、計画通り推移しているものと評価するが、人件費の減が今後どのように進むのか、あるいは目指す水準に既に到達したのか、気がかりである。団塊の世代の定年退職にかわって若い館員・所員の採用が行なわれれば、若干の余裕が生じるかと思うが、人件費の面からよりも、将来を見据えたしっかりとした人事

構想を組んで、それに沿った運用をお願いしたい。

収入については、人気の特別展の開催のほか、施設の多様な有効利用を図ることにより自己収入の実績が目標額を大きく上回ったことは大いに評価すべきであるが、収入増はあくまでも本来の博物館業務・調査研究業務に沿って行うべきであり、それ以外の収入に依存する体質にならないよう配慮願いたい。その点で、奈良文化財研究所の科研費獲得件数は高く評価される。

建物の耐震補強工事は順調に進んでいるようだが、機構全体の中長期の施設計画も、しっかりと見据えていただきたい。

## Ⅳ　その他人事計画等

人事交流の実施によって職員（事務系・研究系）の仕事への意欲を高める点に関しては適切な実施となっている。アソシエイト・フェローを戦力化し、ボランティアガイドの組織化・育成に努められ一定の成果を挙げていることは、評価されて良いのではないか。

アソシエイト・フェローとして若手研究者を任期付きで活用することは、時代の流れとして避けられないだろうが、将来の文化財研究を支える若手研究者の使い捨てにならないよう、配慮が望まれる。当人の努力はもちろんであるが、在職中にスキルアップがしっかりとできるように職務指導にも力を入れていただき、館としても法人としてもさらなる方策を考えられたい。

何よりも人材不足を否めない現状の打破が課題である。団塊の世代の館員・所員の定年退職が始まっているが、今後の中・長期的な研究計画・組織計画に沿った人事計画をしっかりと構想して、個々の人事にも総合的な見地から対応していただきたい。特に、研究所において、専門分野の研究職員が一人または少数に限られる現状の中で、高度の専門的能力をもつ職員が退職する際に、後継者を確保して円滑な世代交代が行われるように配慮願いたい。21年度の内訳を見ると、体制上に大きな影響は出ていないように思えるが、要員の制約がある中で特に学芸部門の業務範囲の拡大傾向を考えると、今後事業の高度化を図る上で無理が生じるのではないかと大いに危惧される。ここに無理が生じると元も子もなくすことになりかねないのではないか。これも、国民の理解を得ることが前提となるが、当機構の将来ビジョンを描く中で、あるべき体制を構築していってほしい。

# 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長　清　水　眞　澄（三井記念美術館 館長）

副委員長　横　里　幸　一（ＮＨＫプロモーション代表取締役社長）

委員　稲　田　孝　司（岡山大学名誉教授）

委員　岡　本　健　一（毎日新聞社客員編集委員）

委員　小　林　　忠（学習院大学教授）

委員　酒　井　忠　康（世田谷美術館 館長）

委員　佐　藤　　信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

委員　園　田　直　子（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）

委員　竹　本　幹　夫（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長）

委員　玉　蟲　敏　子（武蔵野美術大学造形学部教授）

委員　野　口　　昇（日本ユネスコ協会連盟理事長）

委員　藤　田　治　彦（大阪大学大学院教授）

委員　藤　好　優　臣（公認会計士）

委員　森　　弘　子（福岡県文化財保護審議会専門委員）

## ２．外部評価委員評価書

### 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎総会

外部評価委員名

横 里　幸 一

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

質の高い文化財の収集・保全・研究は、当機構に最も期待される機能である。

この度の事業仕分けにより、収集については国の負担なしで進めることになったとの説明を伺ったが、疑問に感じている。もしそうであるならば、計画を上回る収入を得た場合のインセンティブについて、より自律的な運用を可能にする方向があわせて検討されるべきと考える。

また、昨年も述べたことであるが、総所蔵作品に対するカルテの整備比率を明らかにし、それを自主目標の設定に反映することも検討されてはどうか。現在の単年度ごとの整備件数だけでは、全体状況が把握しにくいと思われる。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

21 年度も、各館で多彩な特別展が開催され、また常設展も工夫がこらされるなど観客の満足度が高まってきたことは大いに評価したい。

しかし、常に言われてきたことであるが、長い待ち時間と会場内の混雑をどうしたら良いか、という課題がある。必ずしも決め手となる方法になり得るか不明だが、既に一部で試行されまだ効果が定まってはいないが、時間指定チケットの導入を考えても良いのではないか。週末の夜間開館が時間をかけて定着してきたように、国立博物館が他に先がけてトライすることを考えても良い時期に来ていると思われる。

また、海外展が軌道に乗ってきたことも高く評価したい。他の東アジア諸国に遅れをとることなく、日本文化の海外発信に先導的役割を果すよう期待したい。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

調査・研究については総じて順調との自己評価がなされているが、他との比較が困難なため正直言って評価は難しいところがある。

ただ、各博物館、各研究所がそれぞれ独自性を発揮することとあわせ、機構として組織が一元化されたメリットをこの分野で生かし、共同して成果を示すことも望まれているのではないか。統合による新たな価値を示してほしい。

海外との交流についても以前に比べ進展しているように思われる。国際的に事業の幅を広げる上でその基盤となる活動であり、さらに充実を期待したい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

６　情報発信機能の強化

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

当機構が日本の文化行政の中で果たす役割は極めて大きいと考えられる。一方、独立行政法人に対する国民の目は大変厳しいという現実も無視できないポイントである。

しかし、無駄を省くのは当然のこととして、効率化という観点からだけではなく、成果の社会還元という観点から国民の支持を得られることが最も肝要である。それに向けて事業の厚みと幅を広げ、新しいあり方をアピールすることの方にむしろ重点を置くべきではないかと考える。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費の減が、今後どのように進むのかあるいはめざす水準に既に到達したのか、気がかりである。

21 年度の内訳を見ると、体制上に大きな影響は出ていないように思えるが、要員の制約がある中で特に学芸部門の業務範囲の拡大傾向を考えると、今後事業の高度化を図る上で無理が生じるのではないかと大いに危惧される。モラルも含め、ここに無理が生じると元も子もなくすことになりかねないのではないか。

これも、国民の理解を得ることが前提となるが、当機構の将来ビジョンを描く中であるべき体制を構築していってほしい。

Ⅳ　その他人事計画等

全ての項目に共通することであるが、外部パワーを多様な仕組みのもとで積極的に活用することを検討すべきと考えている。

既に、若干の課題がありながらもアソシエイト・フェローを戦力化し、ボランティアガイドの組織化・育成に努められ一定の成果を挙げていることは、評価されて良いのではないか。

今後は、例えば文化活動に関するオピニオンリーダーの組織化や広報宣伝にノウハウを有する人材の活用を図り、いわば応援団として新聞・雑誌等への寄稿をはじめ多彩なチャンネルを通じた情報発信を促し、当機構の社会的な存在感や抱える課題を社会にアピールし、広く理解を求めていくことは、機構自身がこれを手がけるよりも大きな効果が期待できるのではないか。

**◎総会**

外部評価委員名

**稲 田　孝 司**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

新収集品については、各館とも地域色や固有の収集意図に沿って努力しており（京都国立博物館については購入の決算額記入漏れ？）、寄託品の受け入れもおおむね順調であった。収蔵品の修理とそのデータベース化では、九州国立博物館が保存科学等の先進的な試みを応用した取り組みでＳ評価を示す一方、他の館ではＢ・Ｃ評価も見られ、各館が優れた経験を共有する必要があるのかもしれない。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

ここ数年に引き続き、特別展の充実には目を見張るものがあった。とくに 21 年度では「国宝阿修羅展」の成功が大きく、2 館のＳ評価に貢献した。「染付・・」はやや従来型展示の印象を受けるので入場者数が少なかったのかもしれないが、地味ではあってもこうした優れた特定分野を掘り下げる展示は継続していただきたい。

留学生の展示観覧に対する配慮はよいが、参加人数がなお少なく、可能なら年 2 回くらいの開催を検討してはどうだろうか。平常展等を解説した外国語パンフレットについては、京都・奈良・九州の各博物館が 6～7 カ国語であり、とくに首都にある東京国立博物館が 4 カ国語にとどまっているのは寂しく、7 カ国以上に増やしていただきたい。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

国立博物館は、学会発表、研究論文、シンポジウムの組織、種々の刊行物等を通じて調査研究の成果の発信をなしており、また、公私立博物館への収蔵品貸与や博物館活動に関する援助・助言を通じてナショナルセンターとしての役割もそれなりに果たしている。ただ、公私立博物館は存立の基礎となる法的枠組みが国立博物館とは異なっており、そのような現状において国立博物館が「我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与」することには、自ずから限界がある。率直に言えば、公私立博物館の方も、国立博物館をナショナルセンターというよりは、別格博物館とみなしている。国立博物館の一人勝ちではなく、国立博物館と公私立博物館がともに栄える道がどうあるべきか、その将来的なグランドデザインを描くことは、ナショナルセンターを自負する国立博物館の一つの役割ではあるまいか。法的・行政的権限の有無とは別に、我が国博物館の草創を画し、我が国文化財保護行政・博物館行政に大きな影響力を発揮してきた国立博物館の歴史的な使命を考慮しての期待である。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

6　情報発信機能の強化

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

展示等で目標以上の成果を上げつつ、業務の効率化にもよく取り組んでいる。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

収入増はあくまでも本来の博物館業務・調査研究業務に沿って行うべきであり、それ以外の収入に依存する体質にならないよう配慮願いたい。その点で、奈良文化財研究所の科研費獲得件数は高く評価される。

Ⅳ　その他人事計画等

研究所では、細分された専門分野を少人数で維持しているケースが多く、世代交代が順調に進むよう期待したい。

**◎総会**

外部評価委員

**岡 本　健 一**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

6　情報発信機能の強化

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

4博物館が軒並みS級の特別展･共催展で大成功をおさめられたのは、多年の調査･研究と研　　鑽のたまものであり、国立博物館の力量をよく示されたと考えます。しかし、総利益が昨年より半減したとあっては、とても「業務運営の効率化」が果たされたとは申せません。弾力的な先行投資も必要ですし、また、将来の成果を期待するものですが、今後とも聖域を設けず、不断の見直しが求められましょう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

ひきつづき斬新なプロジェクトを立案し、科研費等を獲得されたい。

Ⅳ　その他人事計画等

定期的な東西交流（または環流）によつて、いっそうの組織の活性化とスキルアップをはかられたい。

◎総会

外部評価委員名

小 林　忠

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備、充実は、博物館・研究所の常に努力すべき生命線といえる。限られた予算での購入に限界がある今日、寄贈、寄託に多くを頼らざるを得ない。その点での各館・研究所の日常的な努力に敬意を表する。とくに、東京国立博物館の板谷家（徳川幕府御用絵師）伝来資料一括および京都国立博物館の中国近代絵画の受贈は特筆に値するものがある。

多数の文化財を健全な状態で次代に継承するためには、絶えざる保存管理と修理、修復が必須の条件となる。近年この方面の手当が行き届いてきたことを喜ぶものだが、なおいっそうの努力を期待したい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

平常展示館建て替え工事中の京都国立博物館を除いて、各国立博物館が収蔵品を活用した平常陳列、特集陳列に意欲的に取り組んでいることを評価したい。

特別展は、東京国立博物館、九州国立博物館での阿修羅展や奈良国立博物館の正倉院展をはじめとして多数の観衆に喜んでもらえた企画が多かったが、会場は混雑して必ずしも良好な環境を維持できないことがあった。対応が難しいことは理解するが、夜間開館の日数や時間帯を増やすなど、なおいっそうの工夫と対策を要望したい。

歴史・伝統文化の理解促進のために、各種の講座やイベントを積極的に開催、またボランティアなど外部の協力者も動員して親しみやすい観衆へのサービスが拡大していることを評価する。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

博物館・研究所による日頃の調査研究活動が各種の刊行物によって即時的に報告されている現況は高く評価されて良い。

また、我が国を代表するナショナルミュージアムとして、アジアや欧米の研究者・博物館員と積極的に交流を深めていることも頼もしい。

国内の公私立博物館への研修や作品貸与などの便宜の提供も、多大の実績を上げている。

今後とも、外部の期待に応えて、風格ある、指導的な存在であり続けることを期待したい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

多忙を極める日常業務の中で、専門性の高い調査研究が推進されていることに敬意を表したい。

とくに、文化財機構内部での共同研究、海外の研究機関や研究者との共同研究が活発化しているのは頼もしく思われる。国立博物館に於ける研究の幅と奥行きとを広げるために、複数かつ異質の研究者が共同して取り組む効果はことのほか大きい。今後とも文化財の調査研究における結節拠点として国立博物館がその存在意義を大いに高めてほしい。

豊富な所蔵品を有する東京国立博物館はもとよりのこと、他の３館に於いてもまた、館有品の調査研究は基本的なものであり、率先して行うべきである。世代交代が進んで若い研究員が増えていると思うが、彼らへの教育も併せて、館有文化財の調査研究を意識的に進められたい。

予算の苦しい現状の中で、科学研究費など外部資金の導入に積極的に取り組むべきである。東京国立博物館はそうした面で突出しており、他館も範としてこれに努力されたい。

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

６　情報発信機能の強化

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

とくに意見なし。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

とくに意見なし。

Ⅳ　その他人事計画等

国立博物館・研究所が内外の期待に応えるべくより一層の活動を期待するが、それには研究体制の充実が維持され、発展しつづけることが望まれる。しかしながら、現在進行している短期の期限付き採用によるアソシエイト・フェローなど、若い研究者の短期雇用によるその場しのぎは、近い将来の国立博物館に研究組織としての空洞化が招来されるのではないかと懸念される。学芸スタッフの知的体力が涵養されつつ日々の業務が果たされるよう、長期を展望した人材の採用と人員の配置とが強く要望される。

**◎総会**

外部評価委員名

**酒 井　忠 康**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の受け入れは適時、適切に行われている。欲を言えば調査・研究との関連を密接なものとし、積極的な購入の算段（予算の獲得）を図ることが望ましい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

企画の内容を工夫した展覧会となっていて評価できる。国内展に関してはテーマの継続（シリーズ化）も必要である。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

調査・研究やその結果の公開に関しては相応の活動をしている。また公私立の博物館への収蔵品の貸

与・援助・助言など適切に行われている。但し海外研究者の受け入れや、我が国の研究者の海外への派遣などにはもっと活発な動きを図る必要がある。シンポジウムをはじめ国際的な事業を恒常的に進めるような（４館を結ぶ）部署の開設を望む。

４　文化財に関する調査及び研究の推進
調査・研究は個別的にそれぞれ成果を上げている。本年度は「中国近代絵画」や「明治期の写真資料」など「近代」の時期の課題がいくつかあった。大学・研究所・美術館などとの研究体制を密接にするチャンスでもある。

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
敦煌壁画の保護に関する共同調査・研究のように長期に及んでいるものなど一定の成果がみられる。今後、諸外国の専門家の養成をさらに推進する必要がある。

６　情報発信機能の強化
情報システムの整備、研究成果の発信など順調である。デジタル化の推進によってレファレンス機能が大いに高まっている。なかでも東京文化財研究所の充実した刊行物は特筆に値する

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
専門的・技術的な協力・助言は適切に行われている。連携大学院教育は限られた大学となっているので、今後は学芸員研修などのプログラムに組み込んでさらに広範なかたちで展開してほしい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
充分過ぎるほどに業務の効率化は図られている。しかし、それによって研究･調査などの仕事が消極的になってしまうのは困る。博物館本来の業務の大切な部分を担っているのであるから。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画
適切な財務内容の実現が図られている。しかし、収支の帳尻合わせに終始するようになったのでは積極的な事業展開へと向かわない。

Ⅳ　その他人事計画等
人事交流の実施によって職員（事務系・研究系）の仕事への意欲を高める必要がある。この点に関しては適切な実施となっている。しかし、何よりも人材不足を否めない現状の打破が先である。

**◎総会**

外部評価委員名

**佐 藤　信**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
○　収蔵品の収集計画については、予算の枠のみではなく様々な条件に応じて臨機に対応できるよう柔軟なシステムで長期・中期・短期の計画を練っておいた方がよいのではないか。
○　国立博物館における、文化財の本格修理やデータベース化をさらに進めていただきたい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
○　これまでに引きつづき、博物館展示の多言語の外国語説明の充実を進めていただきたい。
○　目標をはるかに超えた特別展の入館者増は評価できる。開館時間の延長など努力の成果ともいえるが、一方で混雑のため入館待ちの行列ができる状況へのさらなる対応をお願いしたい。

○　平常展の魅力化、特集展示・陳列などの充実化については、さらに努力を願いたい。
○　学界の最先端の研究成果とリンクして文化財の意義を紹介・発信するタイプの展示をさらに追究していただきたい。
○　ボランティア活動を、「文化財ソムリエ」「文化大使」など多様な形でさらに工夫して推進していただきたい。同時に、従来からの公開講座・講演会なども、さらに魅力的なものにする努力をお願いしたい。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
○　博物館のナショナルセンターとして、国宝・重文・史跡などの文化財情報や国内の諸博物館の展覧会情報などを、国内外に発信する機能をもっていただきたい。
○　調査研究成果を、研究者・専門家向けだけでなく、国民・市民向けに分かりやすい形でも発信願いたい。
○　研究紀要や報告書をホームページで公開することを、進めていただきたい。
○　海外の研究者招聘や海外への研究員派遣については、さらに機会を増やす方向で計画を組んでいただきたい。
4　文化財に関する調査及び研究の推進
○　文化財保護行政とリンクした文化的景観・無形文化財・世界文化遺産・保存科学・新調査法の開発・近代遺産などの調査研究をさらに展開していただきたい。
○　基礎的で地道な史跡・歴史史料・美術工芸・無形文化財・保存科学などの文化財に関する調査研究についても、さらに継続して推進し、その成果を発信していただきたい。
○　調査・研究のために、引きつづき科学研究費などの競争的資金の獲得に向けて戦略的に取り組んでいただきたい。
○　国立博物館では、科学研究費や他機関との協同事業を利用した調査・研究の展開が評価できる。文化財研究所も受託研究・科学研究費による調査・研究を多様に展開しているのに、評価対象に挙げられていないのは何故か。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
○　文化財の保存・修復事業を通した国際協力では、国立文化財機構の文化財研究所ならではの高いレベルの協力事業が推進されており、評価できる。ひきつづき、多様な展開を期待したい。
○　文化財保護施策の国際的研究をさらに進めていただきたい。

6　情報発信機能の強化
○　文化財情報のデータベースなどをリンク化するとともに、その全体像の情報提示も発信していただきたい。
○　博物館のウェブサイトや文化財研究所のホームページのアクセス件数が膨大な数字に登ることは、大変素晴らしい発信成果として高く評価したい。引きつづき、情報発信サービスの向上に努めていただきたい。
○　東京国立博物館の資料館の情報提供・閲覧の機能を、もっと充実させていただきたい。
○　4館2所のニュース・たより・パンフレット・年報・紀要・報告書などの冊子体の出版物を、インターネットで閲覧できるようにする事業をさらに進めてほしい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
○　地方公共団体の文化財保護事業への協力や担当者研修などの面での協力は多様に展開されており、評価できる。
○　大学における高等教育との連携は、国立文化財機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野や後継者育成を広げていく上で、さらに展開していただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
○　4館2所とも、限られた人員・予算の中で、学術的レベルの高い優れた展示・調査・研究・協力・

発信の成果を挙げていることを評価したい。そうした費用対効果の面での「効率性」を自己評価・外部評価においてどのように検討するかが課題となろう。海外の文化財関係の同種機関との人員・予算などの比較も考えてはどうか。

○ 博物館と研究所の研究・学芸系職員の連絡や協力体制をさらに強化して、調査・研究・学芸業務を有機的に推進していただきたい。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

○ 運営費交付金の減額がやむを得ない状況下では、寄付金・入場料収入の有効活用や、科学研究費など競争的外部資金の獲得、他機関との共同事業をさらに追求する必要があろう。

○ 建物の耐震補強工事は順調に進んでいるようだが、機構全体の中長期の施設計画も、しっかりと見据えていただきたい。

○ 人件費については、「団塊の世代」の定年退職にかわって若い館員・所員の採用が行なわれれば、若干の余裕が生じるかと思うが、人件費の面からよりも、将来を見据えたしっかりとした人事構想を組んで、それに沿った運用をお願いしたい。

Ⅳ その他人事計画等

○ 「団塊の世代」の館員・所員の定年退職がはじまっているが、今後の中・長期的な研究計画・組織計画に沿った人事計画をしっかりと構想して、個々の人事にも総合的な見地から対応していただきたい。

○ 研究所において、専門分野の研究職員が一人または少数に限られる現状の中で、高度の専門的能力をもつ職員が退職する際に、後継者を確保して円滑な世代交代が行われるように配慮願いたい。

○ アソシエイト・フェローとして若手研究者を任期付きで活用することは、時代の流れとして避けられないだろうが、将来の文化財研究を支える若手研究者の「使い捨て」にならないよう、配慮が望まれる。

**◎総会**

外部評価委員名

**園 田 直 子**

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の収集および寄贈・寄託品の受け入れは、各館ともに順調に進んでいる。

適切な管理保存では、各館それぞれが、地震対策、温湿度管理、虫害対策、保存カルテ作成など、いろいろと努力されている。それぞれの館の経験や知見を、機構内で共有しあうとともに、広く文化財保存に携わる機構外の機関にも積極的に提供していただくと、収蔵品の管理・保存の体制が、日本全体でレベルアップするのではないだろうか。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

特別展では計画に上がってなかったものも開催されるなど、非常に活発な活動になっている。目標値を大幅に上回る入館者数となった展覧会もあり、人びとに広く支持されていることが分かる。一方で、快適な展示環境を提供できたかという問題があらわれている。入館者が目標値にやや満たなかった展覧会もあるが、著名な作品を集め観覧者をひきつける展示がある一方で、調査研究の成果としての自主企画の展示活動も重要であり、入館者数だけで評価しきれない側面があることは理解できる。今後とも、質の高い展示を期待している。

各館はそれぞれ独自の評価基準があろうが、やはりどこかで評価基準、評価方法を統一したほうがよい。総会でも指摘があったが、とくに定量評価であれば４館に共通した基準が望まれる。

3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

調査研究成果の発信、海外研究者招聘、研修プログラムの実施、公私立博物館等への援助・助言は、バランスよく実施されている。

既にされているようだが、館の研究員が実際に修理現場を訪れ、互いに話し合うことは非常に重要なことと思われる。単に学芸部研究員に文化財修理に関する認識を高めてもらうというだけでなく、修理技術者や保存科学者とは異なる視点からの修理に関する価値観や思想が得られる機会となるので、互いの見識が深まると期待できる。

シンポジウムや研修プログラムの実施にあたっては、今後は、各機関レベルでの実施だけでなく、共催したり巡回したりすることがあってもよいのではないだろうか。それはまた予算や人員の効率的な運用にもつながろう。

4　文化財に関する調査及び研究の推進
5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
6　情報発信機能の強化
7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
（これらの項目については、研究所調査研究等部会の報告を参照されたい。）

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

各種業務の民間委託や一般競争入札が推進されている。効率化の一方で、業務の質をどのように維持し向上していくか、過去の経験をどのように蓄積し継承していくかの体制づくりを完備しないと、文化財と人に対するセキュリティーが確保できなくなる。

文化財に関わる各種契約のあり方、そして文化財と人に対するセキュリティー確保の体制づくりをナショナルセンターとして提示していただくと、小規模な地方博物館等には大きな指針となるだろう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

平成 21 年度共催展・特別展別収支一覧において収支がマイナスになっている展覧会はいずれも、ほかの展覧会に比較すると支出が飛びぬけて多い。支出は図録、開会式経費、輸送、警備経費等ということだが、なぜこれらは突出した支出になっているのかについての説明が欲しい。

Ⅳ　その他人事計画等

予算削減とともに人件費削減が進められる一方で、短期間で目にみえる成果をあげるよう要請されがちである。このようななか、各機関ともにアソシエートフェローが有力な戦力になっている。若手研究者が経験を積む機会であるとともに、その専門能力を生かすことができるという意味で、機関にも若手研究者にも有意義な制度と感じるが、そのうちどのくらいの割合の人が、その後、常勤の職をみつけられたかが気にかかる。

文化財に関する調査や研究では、必ずしも全てがすぐに成果に結び付くとは限らない。長年の基礎研究をもとにデータを積み上げてはじめて大きな成果に結びつくことも多い。基礎研究を着実に行うことができる研究環境の確保、そして専門性の高い分野では次世代人材の育成もよろしくお願いしたい。

**◎総会**

外部評価委員名

竹 本　幹 夫

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収集・保存・管理・補修の各業務はそれぞれバランスよく運営されている。保存について、一部に

緊急性を要するものもあるようだが、特に問題とすべき点はない。なお各館での購入内容が、必ずしもそれぞれの博物館の特色と密接に関わってはいない点が気になる。あらゆる文物を総合的にバランスよく収集することも大切であるが、地方館においては、その地方と密接に関わる文物の収集により力点を置くべきではあるまいか。また、寄託が増えている由であるが、出来る限り寄贈に切り替えるなどの努力も必要かと思われる。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

展覧会自体は、地域性を生かした特色ある企画が多く、非常に意義が高い。なお展覧会や情報発信の評価方法は、入館者数などの数を競うような定量評価ばかりではなく、企画自体の今日的な意義を論じるような定性評価の視点もあってよいのではないかと思われる。国内への情報発信や広報などの呼びかけも十二分に行われている。出来れば、大学などの教育機関個々への広報の発信、企画連絡などがもっとあってもよいかも知れない。とくに大学生には積極的に博物館に足を運んでもらいたいからである。また希望する個人への電子メールニュースなどはしていたかどうか、もしもしていないのであれば、是非やってほしい。海外発信は館により差があるように思われた。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

いずれの博物館においても、地域の博物館のナショナルセンターとしてはもちろん、全国的なレベルでの博物館活動の牽引役をよく務めており、今後ともこの役割に期待したい。とくに当該年度は、九州国立博物館の研究活動が、アジア諸国を巻き込んだ積極的な企画により、大きな成果を実現したように見受けられた。国際的な関係という点では、このような形で立地を生かした企画が今後とも求められよう。ただし後発の博物館であるだけに、九州博物館の収蔵品にはまだ課題が少なくないようであり、同館への国からの経済的支援のみならず、寄贈・寄託などでいっそうの努力が期待される。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

外部資金による研究も含め、多様で野心的な研究が少なくない。また博物館運営上必須の研究もバランスよく配置されているように思われた。ただし他機関との共同研究や国際的共同研究について、もう少し成果を強調する必要があるように感じた。そうしたものは別項を立ててわかりやすく表示するなど、評価書自体に工夫のほしいところである。平常勤務の中での研究時間の確保は非常に大変であろうが、そうした点からも、共同研究をより積極的に推し進めることにより、各位の負担軽減につなげるような工夫を期待したい。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

十二分の水準に達しており、特に問題はない。海外博物館等所蔵の日本関係資料の保存・修復はもちろん、とくにアジア地域においては、我が国の協力なしには、十分な活動が不可能なほどに、国際的に大きく貢献出来ているのではなかろうか。

6　情報発信機能の強化

積極的な情報発信が行われており、今後ともこの努力を継続することが期待される。とくに博物館資料は、なかなか実際に手にとって見ることが出来るものではないので、見学で実物を見ることの大切さと共に、デジタル画像で様々な見せ方の出来るデジタルミュージアムは、国立博物館にとっては不可欠の要素となろう。研究的視点からの収蔵品の分析・解説とか、目の不自由な人への音声解説や拡大画像とか、デジタルミュージアムに期待される企画は少なくない。今後とも積極的な推進をお願いしたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

十二分な水準に達しており、とくに問題はないように思われる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

　厳しい予算措置の中で省力化・効率化に努めており、目標は確実に達成されている。こうした努力に敬意を表したい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

とくに問題はないように思われる。

Ⅳ　その他人事計画等

特に問題はないように思われる。

**◎総会**

外部評価委員名

**玉 蟲　敏 子**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

- 国立四館ともに、昨年度と同様に、資料の蒐集、寄託、修理、保存環境の整備について着実な成果をあげている。
- 蒐集に関しては、奈良の展覧会開催を睨んだ展示効果も高い優品の購入が注目される。
- 管理・修理に関しては、奈良の保存カルテ作成からフォームの統一への展開について、新管理システムへの充実した移行が伺えた。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

- 平成２１年度も四館ともに充実した名品を揃えた大規模な展覧会が多く開催された。とくに阿修羅展は東京において 94 万人、九州において 71 万人という突出した入場者数を叩き出し、国民の期待に応えるという博物館の主要な役割を十全に果たしたと言える。
- またアメリカで関心の高い武器・武具の展示を試みた東京、西洋美術の展示への意欲を示した京都などの活動も国内外への発信という点で注目されるものであった。
- 評価の決まった作品だけでなく、館員の地道な調査・研究活動をベースとし自主企画の試みもあったことは貴重であるが、その良さが多くの国民に届くためには、さらに活動の持続的な積み重ねが必要だろう。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

- 研究紀要の刊行、修理担当者の研修などそれぞれの活動について地道な成果を挙げており、順調と言える。
- とくに 21 年度は、京都、奈良で大規模な国際シンポジウムが開催され、充実した海外研究者との交流があった。
- 公私立博物館への助言、援助活動については、低調のように感じられた。それは国立博物館が必ずしも国内において突出した存在では無くなっていることを示しているのか、センターとしての立場と意義について留意されたい。
- 所蔵資料に国内貸与に関して、東京がＢを挙げ、地方自治体の財政難を背景にある問題点としていることは、国内における実態を正しく冷静に見つめたものとして注目される。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

- 昨年同様に、奈良、東京の二研究所、国立四博物館、それぞれに個別の研究テーマに即して、それぞれに館員の努力によって成果を挙げており、順調であることが確認できた。
- 特に 21 年度は科学研究費などの競争的資金による研究報告が詳細になされ、館員の努力がよく理

解できたが、そうした地道な活動が次年度以降に展示など目に見える成果につながるものと期待したい。

・ 東京においてここ数年来掲げられている光琳屏風および他派におけるの金箔の調査が、少しずつでも進展しているのは喜ばしいが、学術的な有効性を高めるために、研究所などとの方法の共有化や連携の道も探り、その上で総合的な報告を行っていただきたい。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

・ 昨年同様、奈良・東京ともに、従来からの事業の枠組みを守り、順調に推進されている。

6　情報発信機能の強化

・ 21 年度は昨年に比較して、四館ともに資料のディジタル化、ウェブを用いた情報発信能力の強化について飛躍的に発展を遂げたことがわかり、博物館の活動の重要な柱として位置付けられていることがよく理解できた。とくに東京はS評価を出したが、規模から言っても妥当であるといえる。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

・ 国や地方行政組織にたいする協力・助言もまた、奈良・東京とも伝統的ともいえる事業の厚みがあり、昨年同様に安定した活動となっている。

・ 連携大学院なども次世代の教育として重要な事業であるが、それを受講した院生たちの進路についても今後のあり方を考える上で追跡調査があってもよいのではないか。また連携する大学院の範囲を広げていくことを模索する必要はないのだろうか。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

・ 業務の効率化として挙げられる「研究・学芸系職員連絡協議会」について、どの程度の規模と目標をもったものか判断ができないが、それがより充実した展示や研究活動に向かうものであるように願いたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

・ 独自企画による特別展の意欲が必ずしも収支に反映するとは限らないなかで、共催展の利点を生かした長谷川等伯展の成功には多くの点で学ぶべきものがあるだろう。

Ⅳ　その他人事計画等

・ 常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は、やむをえない部分があるとはいえ、長い時間をかけて人材育成を行う研究機関としては、やはり中長期的にはマイナスであることを強く意識するべきである。任期終了後の再雇用の道を留保するなど、粘り強い対処が必要だろう。

**◎総会**

外部評価委員名

**野 口　昇**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

平成 21 年度においても、国の４つの博物館が、国の交付金が増えない中、寄贈や寄託などにより、収蔵品を増やしその整備・充実を図る努力が継続して為されてきたことを評価したい。また、貴重な収蔵品の管理と保存のために、害虫生息状況の把握や駆除、展示ケース内の温湿度管理システムの構築と運用などの方策が進められてきたが、これらの活動を通じて得られた知見や情報は全国の博物館・美術館にも参考になるものと期待される。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

博物館における各種の展示には、ビデオなどによる分かりやすい説明、コンピュータ・グラフィックの手法を取り入れた魅力的な表示、適切な音声ガイドなどが取り入れられており、全般的に一層充実してきていると評価したい。

平成21年度における多様な特別展については、大きな成果を収めたと思われる。特に、「国宝　阿修羅展」、「皇室の名宝展」、「長谷川等伯展」などは、予想以上の入館者を集め、国民各層に日本の伝統文化への理解と関心を高める上でも大成功であったと言えよう。なお、長蛇の列を作って入場を待つ入館者への対応策として、時間帯の予約制の導入や夜間６時以降の開館日を増やすことなど検討に値するのではないかと考える。

また、「シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」など意欲的、学術的な特別展にも注目したい。

なお、外国人入館者への対応として、日を特定して外国語に堪能なボランティアのさらなる活用も検討に値するものと考える。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

国の４つの博物館は、国家事業でなければ運営できない、文字どおりナショナルセンターである。

調査・研究成果については、各々の国立博物館が、定期刊行物、紀要、特別展図録等の出版、学術シンポジウムや研究集会の開催などを通じて広く公開され、全国の博物館関係者はもとより、国民各層の利用に供されてきている。

また、海外研究者の招へい、海外への研究者の派遣、および研究者の国際交流も効果的に推進されてきたと思われる。

文化財保存修理者等を対象とする研修事業も、多分野にわたり実施されてきた。公私立の博物館への収蔵品の貸与や海外の博物館の展示への協力なども順調に進められたと思われる。

これらの諸活動を通じて、ナショナルセンターとしての機能が十分に果たされてきたと考える。

今後、日本のソフトパワーをさらに高め、文化発信能力を強めていく上でも、４つの国立博物館が一層重要な役割を果たしていくことを期待する。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

６　情報発信機能の強化

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

省エネルギー、リサイクルなどの措置もさらに進められ、電気・ガス料金なども対前年度削減された。各々の博物館・研究所においては、多様なイベントの実施や施設の貸出しなどにより、施設の有効利用と財源の確保の努力がなされてきたことを評価したい。

関係業務の民間委託や一般競争入札も順調に進められてきたと思われる。

寄付金の受け入れや、科学研究費補助金の獲得も、目標件数を上回ったことは高く評価したい。

なお、各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化に関しては、自己評価もＢとなっており、さらなる業務の効率化が進められることを期待する。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

人件費総額については、対１７年度４．９０％の削減が達成されており、計画通り推移しているものと評価したい。

また、人気の特別展の開催をはじめ施設の多様な有効利用をはかることにより、自己収入の実績が目

標額を大きく上回ったことは大いに評価すべきであろう。

Ⅳ　その他人事計画等

各施設において、アソシエイト・フェローとして若手研究者が期限付きで採用され必要な業務を遂行していると思われるが、これら若手人材が将来様々な施設で正規職員として登用されるための可能な支援がなされることを期待する。

このほか、ボランティアなどをさらに活用することが望ましいと考える。

なお、この評価作業のために、統計データを含め多くの貴重な資料が作成されたが、関係者のご努力に敬意を表したい。

◎総会

外部評価委員名

**藤好　優臣**

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

4　文化財に関する調査及び研究の推進

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

6　情報発信機能の強化

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 前回まで要望していたことではあったが、今年度はようやく財務状況の概要がわかる財務諸表の暫定版が、委員会の審議までに作成されたことは大いに評価できる。

2. 運営費交付金収益が大幅に減少した中で、自助努力の結果、入場料収入の増加や人件費の減少等により当期も利益が発生したことは評価できる。

3. これからも自己収入を増加させるとともに、単価や数量において必要以上のものは発注しない等のコスト削減努力を続けていただきたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1. 予算額と決算額を対比した決算費が未だ作成されていないが、暫定版で良いので、次回には作成してもらいたい。

2. 予算については、収入合計と支出合計とが不一致になっている。

3. 展示事業等収入及び展覧事業費については、前年度までの実績に比べあまりに少ない予算となっているが、自己収入基準額に合わせるべきと考えます。

Ⅳ　その他人事計画等

◎総会

外部評価委員名

森　弘子

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

資料の購入については、各館の特質を活かしながら適切かつ慎重に行われていると評価される。

毎年寄贈や寄託があることは、博物館に対する国民の信頼の表れであり、喜ばしいことである。ことに特別展等を機に寄託資料が増加することは、今後の研究、保存、修理の進展の点から見ても有効であり、今後ともこうしたことが持続するよう館としても、一層の努力をされたい。

収蔵庫はもちろん、展示中の展示ケースにおいても、温湿度の管理、虫の侵入防禦、埃・ゴミ等の排除は当然のことであるが、一部の館に於いて、展示ケースに虫等が発生したのは遺憾なことである。今後、展示ケースの設計に対する研究、設置換え、ＩＰＭ活動等の促進に心がけてほしい。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

特別展に比して平常展の観覧者が少ないことが指摘されているが、平常展こそ各館の特質を表現する場であり、学芸員の研究の成果をじっくり観覧して頂ける場であろう。どの館においても、平常展とは言いながら、こまめに展示換えが行われており、その努力を高く評価する。ただそうしたことに対する広報が非常に不足していると感じられるのは残念なことである。

平常展示館建替中の京都博物館において、地方に於いて展覧会を開催されたことは、一級の文化財を直接目にすることの少ない地方にとってはたいへん有り難いことであり、こうした機会が増えることに期待したい。

特別展は、ほぼすべてに於いて目標を超える入館者があり、A 評価・S 評価となっているが、展覧会の評価は入場者数のみでできるものであるのかは疑問である。

そんななかで長谷川等伯展は、マスコミに盛んに取り上げられたこともあり、狩野派に比して知名度の低かった等伯の認知度がたかまったことは意義あることであったと思う。阿修羅展は大ブームをつくりあげ、これまで文化財にあまり興味がなかった人々まで集客できたことは一面では喜ばしいことであったが、あまりの予想外の人々の殺到に対する対応ができていたとは言い難く、今後に課題を残すものである。東博、九博の２館で開催されたが、展示のイメージは全く異なり、同じ対象物でも様々な表現が可能だということにあらためて興味を覚えるとともに、研究員の力量を評価するものである。

京博の「文化財ソムリエ」、奈良博の「文化大使」は、若い人を取り込んだ有効かつ意義ある取り組みであると大いに評価する。

３　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

アジアの重要性がたかまる今日に於いて、文化庁と国立文化財機構が共催した「アジア博物館研究集会」、九博の JICA 草の根技術協力事業など時宜を得た研究、交流、文化的活動がさかんに行われていることを評価する。

地方の文化財担当者に対する研修は文化財研究所では従来から行われていたが、博物館においても地域博物館等職員、あるいは学生に対しても、従来の受動的な依頼によるものばかりでなく、博物館側が企画した研修会が企画されたことを評価する。今後とも多角的な研修会を開催され、地方博物館のレベルアップに寄与されたい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

５　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

６　情報発信機能の強化

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

光熱水費等、非常に細かく削減方策がとられていることは評価するが、予想外の入館者があった場合などやむを得ない場合もあり、そうした時に、サービスの低下につながらないように留意すべきである。

施設の有効使用は昨年に比し一段と進められていると思われる。しかし有料使用率は依然として低いようである。適切な施設使用料の設定や無料・有料の兼ね合いは難しいところであり、各館の事情によっても異なるであろう。そのあたりの説明を聞きたかったが、会議では時間不足で残念であった。次回は数字の提示だけでなくそのあたりの説明もお願いしたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

Ⅳ　その他人事計画等

限られた人件費の中で、非公務員化したメリットを活かした柔軟な人事は大切なことと思うが、有期雇用職員については当該職員の将来の道が開けるよう、当人の努力はもちろんであるが、館としても法人としてもさらなる方策を考えられたい。また在職中にスキルアップがしっかりとできるように、職務指導にも力を入れていただきたい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館調査研究等部会

| | | |
|---|---|---|
| 部会長 | 小　林　　忠 | （学習院大学教授） |
| | 酒　井　忠　康 | （世田谷美術館 館長） |
| | 藤　田　治　彦 | （大阪大学大学院教授） |
| | 森　　弘　子 | （福岡県文化財保護審議会専門委員） |

# 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

**◎博物館調査研究等部会**

外部評価委員名

小林　忠

1　総合的な事項

国立博物館は、国内の公立・私立博物館・美術館の指導的な立場であることが求められる。一方では、外国の博物館、美術館、研究者との交流に国を代表して対応しなくてはならない。そうした両面にわたる困難な役割に対して、多忙を極める日常活動の中で各館とも実によく対応していると、その努力と実績に対して高く評価し、敬意を表するところである。

今後ともそうした内外への責任を果たすべくより一層の活動を期待するが、それには研究体制の充実が維持され、発展しつづけることが望まれる。しかしながら、現在進行している短期の期限付き採用によるアソシエイト・フェローなど、若い研究者の使い捨てによるその場しのぎは、近い将来の国立博物館に研究組織としての空洞化が招来されるのではないかと懸念される。学芸スタッフの知的体力が涵養されつつ日々の業務が果たされるよう、長期を展望した人材の採用と人員の配置とが強く要望される。

2　自己点検評価に関する事項

多忙な日常業務の中で、各館の特性に関連した様々な調査研究が行われていることに驚かされるほどである。自己点検評価がいまだA評価が大部分と甘いところが気になるが、その中でもB評価が目立つ論文数や調査回数などは、研究や調査に充てる時間の少なさに起因しているのではないだろうか。研究員の研究環境を適切なものとするよう、各段の配慮を願いたい。

3　調査研究に関する事項

文化財機構内部での共同研究や海外の研究機関や研究者との共同研究が活発化しているのは頼もしく思われた。国立博物館に於ける研究の幅と奥行きとを広げるために、複数かつ異質の研究者が共同して取り組む効果はことのほか大きい。今後とも文化財の調査研究における結節拠点として国立博物館がその存在意義を大いに高めてほしい。

豊富な所蔵品を有する東京国立博物館はもとよりのこと、他の３館に於いてもまた、館有品の調査研究は基本的なものであり、率先して行うべきである。世代交代が進んで若い研究員が増えていると思うが、彼らへの教育も併せて、館有文化財の調査研究を意識的に進められたい。

予算の苦しい現状の中で、科学研究費など外部資金の導入に積極的に取り組むべきである。東京国立博物館はそうした面で突出しており、他館も範としてこれに努力されたい。

4　その他

国立博物館と国立美術館との棲み分けをより柔軟、自在にし、相互交流を深められたい。国民の期待は多様であり、既成の枠組みにとらわれず共同企画の展観もあって良いだろうし、研究調査面での協力体制も組みうるように思われる。

**◎博物館調査研究等部会**

外部評価委員名

酒井　忠康

1　総合的な事項

各館がそれぞれ工夫を凝らして努力している様子が感じられる。ことに調査研究の分野において

は、当初の計画に副って相応の成果をあげていると思う。また展示・鑑賞における環境の整備についてもさまざまな工夫があって評価できる。
　但し、いずれも小規模な活動範囲に限られている。今後国際的なネットワークを組んでダイナミックな事業展開を可能にするには（大きな視点から問題を取り組むためにも）、現状の予算・人材・設備の不足を見直す必要があるのではないかと思う。

2　自己点検評価に関する事項
　調査研究の課題について認識し、成果をさらに展開するための工夫が的確にはかられている。概ね評価できる。

3　調査研究に関する事項
　問題意識を闡明にして、効率的に進めているようすがわかる。成果も順調である。
　但し、長期的なものと短期的なものとがあるので、その観点から短期的なものは集中的な対応があっていい。とくに近代の領域に属する研究テーマが多くあったので、外部研究者と共同研究体制をより密接なものとし、短期集中的な対応によって成果を発表に結びつけてほしい。

4　その他
　1）専門領域の職務の人材を、現状ではアソシエイト・フェローで多くをまかなっている。今後は「人材派遣バンク」のようなかたちの、常時、あらゆる専門領域に派遣できるような教育的体制を有する仕組みを考える必要がある。
　2）博物館を介しての国際交流についてみるときに、海外からの専門家（あるいは管理系職員）の受け入れ体制の不備が目につく。共同研究で進めるプロジェクトには、各館ゲストハウスのような宿泊施設を備えていることが望ましいのは明らかであるが、同時にそれは専門家だけでなしに、広く海外の博物館（密接な交流のある）に勤務する人たちが利用することによって、さらに豊かな国際交流の場として機能するからである。

**◎博物館調査研究等部会**

外部評価委員名

**森　弘子**

1　総合的な事項
　各館ともに、国際的、学際的、先進的な研究がなされる一方、地域に根ざしたきめ細かな、あるいは基礎的な調査研究にも努力されている。研究員の交流も昨年よりもいちだんと活発になされており、法人内における共同研究ばかりでなく、関係諸機関、企業等との共同研究を行うことによってより大きな成果が上げられていると評価される。ことに最新機器の共有化が促進されたことが、研究の進化に大きな力となっていると感じられる。
また科学研究費、海外博物館からの依頼による研究、企業からの研究助成など研究費について、外部資金の獲得も積極的になされている。

2　自己点検評価に関する事項
　前年に増して自己点検評価書記入の充実がみられ、研究に取り組む職員の情熱や真摯な姿勢が感じられた。従来A評価ばかりがめだつことが問題視されていたが、今回はSやB評価なども見られ、自己点検してみることの効果が徐々にあげられて来ていると感じられた。B評価以下になった場合は、特にその原因が明らかにされるべきものと思われるが、なかには何の説明もないものがあった。研究成果があげられなかった原因を考え、反省すべき事は反省し、体制的なことであるならば、館全体、法人全体の問題として改善策を模索する手だてともするべきであろう。
複数年にわたる研究については、全体が何年で、今年度が何年目に当たるかの表記をし、今後の見通し等についても触れて頂ければ、より評価がしやすいと思われる。（一部、そのようなことについて記

述されているものもあったが)

3　調査研究に関する事項

我が国に博物館ができてから１３０年余を経、博物館そのもの、あるいは文化財保護の歴史、博物館の黎明期より収集された資料、あるいは博物館の建物についての研究が、東博・京博で活発化していることが注目される。最も身近な先人の足跡を検証し、その業績や想いを伝えていくことは、本法人の設立目的を遂行する上での基本であり、かつ大切なことであると考える。

その一方、デジタル化、低炭素社会と共存する文化財保存のあり方など、今日的課題にもいち早くとりくみ、かつ、デジタル測定技術と職人の知識を融合させた文化財復元など、伝統のワザとの融合を試みるなど興味深い課題にも取り組んでいることが評価される。

九博における３次元データの相互比較から得られる製作技法の抽出により非接触非破壊で古代青銅器の製作技術が解明できたことは画期的なことであり、今後様々な文化財の製作技術解明に活用されていくことであろう。この研究を基にハンズオンを複製展示品として作製されたことはそれなりに価値があるが、重量感、質感をも兼備したハンズオンが作製できるよう、更なる研究の進化を期待したい。子供たち、殊に視覚障害者等に「青銅器」を理解させるには、形だけを復元したのではかえって誤解を招く結果ともなりかねない。

京博の袈裟の研究は、従来あまり注目されてこなかった分野への取り組みであり、それを絵画、古文書等の資料による研究とともに、袈裟という染織文化財そのものの保存へ向けての綿密な調査にも取り組んでおられ大いに評価する。２人という少数の研究スタッフであるが、脆弱な材質の文化財の保全にむけて緊急なことであり、自己評価書において効率性・データベース作成数がB評価になっている。研究人員等の不足はないのであろうか。

京博の「鎌倉仏教とその造形に関する調査研究」では「予言と調伏」という、造形の背後にある、願意、祈りという、いわば無形のものに迫る研究であり、これまでの博物館では取り上げにくいテーマであったかと思う。少し意味は異なるであろうが、九博の「工芸のいま　伝統と創造」の継続的調査研究として無形文化財に関わっていることと併せて、今後、文化財の真の意味を問う研究として広がっていくことを期待したい。

奈良博の「春日若宮おんまつり」や「お水取り」は、祭にあわせて例年開催されており、無形民俗文化財に対する理解を進める上で不可欠の展覧会である。より研究を深められ、マンネリ化しない展示が工夫されるよう期待したい。

若手研究者対象の科学研究費による研究は、パトロン、復元職人といった新しい視点による研究であり、興味が持たれる。ベテラン研究者と共に行う研究の中で、若手研究者が育成されていくことは重要なことであり、各館すでに意を注いでおられることであろうが、若い研究者の清新な観点によって発想される研究も、大変貴重であると感じられた。

4　その他

若い研究者の養成、彼らの将来にわたる身分的保証は、先人が遺した文化財を保護し将来に良い形で引き継ぐために最も重要なことである。しかるに限られた人件費、人員枠のなかでは、アソシエイト・フェローという身分が、現在考え得る最善の策として採用されている。中にはアソシエイト・フェロー経験の後、正規職員として採用された者もあるやに聞くが、こうした若手研究者が一人でも多く出ることを願ってやまない。研究等を通して国内外、地方等の関係諸機関との交流の活性化を図り、新規採用試験等の情報をいち早く得ることができるようなネットワーク構築も必要ではなかろうか。

今年は、平城遷都１３００年に当たり、テレビなどで、奈良博や奈文研の調査・研究の成果をふまえながら、一般国民にもわかりやすく構成された番組が放映される事が多く、喜ばしいことである。また奈良市教育委員会で実施される世界遺産学習に奈良博が協力できることもありがたいことである。他館においても、あらゆる機会を捉え、またその道のプロとも提携しながら、広く国民に調査研究の成果を理解頂けるような、また研究成果が国民共有の財産であると感じて頂けるような方策をさらに模索してほしいものである。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所調査研究等部会

| | | |
|---|---|---|
| 部会長 | 佐　藤　　信 | （東京大学大学院人文社会系研究科教授） |
| | 稲　田　孝　司 | （岡山大学名誉教授） |
| | 岡　本　健　一 | （毎日新聞社客員編集委員） |
| | 園　田　直　子 | （国立民族学博物館文化資源研究センター教授） |
| | 竹　本　幹　夫 | （早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長） |
| | 玉　蟲　敏　子 | （武蔵野美術大学造形学部教授） |
| | 野　口　　昇 | （日本ユネスコ協会連盟理事長） |

# 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名

佐 藤　信

１　総合的な事項

○基礎的・先端的な文化財の多方面にわたる調査研究と、文化財の調査・保存・活用にわたる様々な国際協力との両面で、期待される成果を十分に挙げていると評価できる。調査・研究成果の発信にも十分な努力が為されているものの、せっかくの大きな実績が広く周知されていない面があり、研究者のみでなく国民・市民に向けた発信の面で、さらに努力の余地があるのではないか。

２　自己点検評価に関する事項

○限られた人員・予算の割に大きな実績を挙げていると思われる業務が多くあったが、人員・予算面での「効率」を評価の対象として比較する方法はないものか、お考えいただきたい。例えば他の国内研究機関や欧米・韓国などの文化財研究所の人員体制との対比など。

○外国政府からの受賞があったが、その他の受賞・感謝状や、論文書評や新聞報道件数など、この外部評価以外の他者からの評価についても、可能な範囲で情報を提示していただきたい。

○受託事業や科学研究費などの獲得件数・金額なども、調査・研究の活動実績として評価対象に加えてよいのではないか。

○外部評価は機構諸館所の業務を向上させるためのものであり、自己評価ではできるだけ定量評価を詳しく記載していただきたい。

○自己評価に際して、調査・研究面でも「改善」についての所内アンケートを行って、所員（研究員）からの提案を集めては如何か。

３　調査研究に関する事項

○基礎的・先端的な文化財の調査研究の多方面にわたり、充分に成果を挙げていると評価できる。

○先端的な調査・研究で優れた実績を挙げている分野では、その研究成果を研修などで国内各所の関係研究者に伝えて、研究の裾野が広がるように努力することが求められるのではないか。

○東文研・奈文研の共同で高松塚古墳・キトラ古墳についての調査・研究が行われて実績を挙げたように、同じ国立文化財機構の中の機関として、所員・館員どうしの私的な交流のみでなく、研究所や博物館が協力して調査研究成を行うタイプの事業はできないか。

○文化財保存科学・木簡学・遺跡学・美術史学・民俗文化財学など、関連する学会への様々な形の協力も、実績として評価してよいのではないか。

４　国際協力の推進に関する事項

○東京・奈良の文化財研究所とも、文化財保存のための調査研究や修復に関する国際協力では、多分野にわたり、日本の研究所ならではの質の高い実績を挙げており、高く評価できる。

○国立文化財研究所において、ユネスコの世界文化遺産に関する調査・研究を推進することはできないか。

○国際協力で進められた多くの優れた実績を、国際的に、また協力相手国と日本国内との両方で、さらに広く国民・市民向けにも効率的に発信していただきたい。

５　調査研究成果の発信に関する事項

○ホームページを利用して調査研究成果の対外的発信への努力が積極的に為されていることは、アクセス件数が多いことと合わせて高く評価できる。

○研究所の報告書・研究論集などの出版物が多様かつ大量に刊行され、成果の発信となっていることは大いに評価できる。こうした刊行物が、入手しにくい外部の研究者や一般にも販売されるようにはできな

いか。販売が困難なら、ＰＤＦで全文公開することなどはできないか。
○調査研究の成果を、研究者向け報告・論文のみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版するなど、さらに発信に努めていただきたい。また、研究所の展示スペースの活用のほか、外部の各地の博物館等での展示とか、大学の「オープンキャンパス」に似た公開事業などはできないか。
○同じ国立文化財機構の中の研究所と博物館とが、調査研究成果の発信事業を協力して行うことはできないか。
○奈文研では、今年の平城遷都１３００年祭を契機に、さらに工夫して調査・研究成果の発信に多様な努力を進めていただきたい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項
○国・地方公共団体等に対する協力・助言では、委託されたものなど多分野で高レベルの大きな実績を挙げていることは、評価できる。
○国立文化財研究所で、文化財研究における高いレベルを活かした高等教育への協力をさらに進めていただきたい。また、これに加えて初等・中等教育の学校教育との連携をも、さらに進めていただきたい。

７　その他
○文化財研究所でも、国立博物館のようにミュージアムショップを展開することはできないか。または、国立博物館のミュージアムショップで文化財研究所の刊行物・グッズなどを市販する体制は組めないか。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**稲田　孝司**

１　総合的な事項
文化財研究所は、国の文化財保護事業と密接に連携しつつ、調査研究を進めるところに特色がある。国から直接受託した事業のみならず、文化的景観に関する調査研究、近代の文化遺産の保存修復に関する研究、世界遺産等国際的な文化財保護に関わる情報収集等は、各種指定・登録・選定をはじめとする国の文化財保護行政に資するところが大きい。ただ、国と文化財研究所との関係は、研究所が現行保護制度の技術的側面を補う側面が強いけれども、今後においては、現行制度下で実施されている種々の指定・登録・選定物件の内容分析、保存状態や現状変更等の行政措置に関わるデータベースの作成と公開、長期的な視点で文化財保護行政の将来像を検討する際に必要となるデータの収集や、時にはそれへ向けての政策提言を含む研究等があってもよいかと思われる。国行政部門との連携があくまでも前提ではあるが、文化財研究所が独立行政法人となっていることの特質を生かし、文化財保護行政全体のより幅広い発展を目指すことが重要であろう。

２　自己点検評価に関する事項
今回の評価報告書の作り方は、研究部門順の説明の仕方とも整合的で、適切な配慮がなされていた。今回は飛び抜けたＳ評価が目立たず、おおむね妥当と思われる。

３　調査研究に関する事項
東文研の黒田清輝研究（『黒田清輝フランス語資料集』刊行等）、奈文研の平城宮・京発掘調査（興福寺南門鎮壇具の発見等）、飛鳥・藤原京発掘調査（藤原宮朝堂院北東部での宮造営に関わる知見）等、基礎的で継続的な調査研究が堅実な成果を示している。同時に、「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」の英語版報告は平泉の世界遺産登録を強力に支援する成果となり、また「飛鳥地域の壁画古墳の研究」はキトラ・高松塚古墳壁画保存事業とかかわってその学術的意義を深めるとともに一般社会の理解を得る上で効果が大きく、いずれも国の推進する文化財保護事業とタイアップした時宜を得た研究といえる。なお、高松塚壁画の初期の保存措置で使用したパラロイドB72がむしろカビの栄養源となった可能性の指摘は重要である（研究所No.39）。特殊な条件下ではあろうが、同樹脂が他の文化財・考古資料修復等にも

使用されているだけに、今後の研究が注目されよう。
　高精細デジタル画像形成技術を用いた平等院鳳凰堂仏後壁画や春日権現験記絵巻披見台の調査は、特筆すべき成果を得た。

４　国際協力の推進に関する事項
　国際協力のもとで実施される諸外国での調査研究（中国の敦煌壁画調査・漢魏洛陽城調査、韓国の都城形成に関する調査等）は日本の関連分野研究にも資するものであり、有意義である。文化財保存施策に関する国際情報の収集は、年々重要さが増している。文化財保存に関する国際協力事業については、他の協力国との役割分担、他協力国事業との相乗効果等を総合的に検証していくことも必要であろう。

５　調査研究成果の発信に関する事項
　膨大な調査報告、論文、個別または定期刊行物、データベース作成、ホームページ等によって研究成果の発信は活発に行われている。加えて東文研でのオープンレクチャー、奈文研での公開講演会・発掘現地説明会等、一般市民向けの情報発信にも積極的であり、市民の満足度は高い。とくに研究成果や展示内容を市民ボランティアの活動によって普及させる試みは重要であり、今後とも発展させる必要があろう。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項
　文化庁委託事業として奈文研が作成を進めてきた『発掘調査の手引き』改訂版が刊行に至り、埋蔵文化財行政において調査の質の向上に役立つことが期待される。

７　その他
　東京・奈良両文化財研究所では、専門分野が多岐に分かれ、各部門専門研究者の数が１人または少数に限られる傾向が強く、調査研究事業の成否が研究者の資質に負うところも大きい。これまでと同様、研究者の円滑な世代交代に配慮がなされるよう期待したい。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**岡 本　健 一**

１　総合的な事項
　『東京文化財研究所七十五年史（本文編）』の巻頭で、美術研究所の創設が黒田清輝の高邁な公共の精神に発することを再確認し、感銘を新たにしました。きびしい財政状態がつづいていますが、叡智をかたむけて「日本全体が将来永く利益を受け、…時勢が進むにつれ益々拡がってゆく」公共性と将来性のある仕事を、継承・発展されるよう両研究所に期待します。

２　自己点検評価に関する事項
　自己評価の項目で１つでもＳの入った事業が、東西合わせて４件。総合判定では０件です。あとはオールＡに近い成績ですから、立派な成績です。しかし、Ｓが少なくなった分、サプライズ性が希薄になった感じがします。面白い事業の開拓と発信、そしてメリハリのきいた評価の工夫も必要ではないでしょうか。

３　調査研究に関する事項
　飛鳥・甘樫丘東麓遺跡の調査、文化財の年輪年代調査、高精細デジタル画像の応用研究は、今年度も興味深い成果をあげています。庭園研究では「浄土庭園」をめぐる国際研究会を開き、東アジアにおける日本古代庭園の特質に迫りました。「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に役立つことを期待します。地味ながら、興福寺の古文書調査では、戦国時代大和国の饑饉・一揆の生々しい記録を紹介、あらためて年輪年代をみると、天候不順の痕跡が読み取れたというのも、面白い発見です。

４　国際協力の推進に関する事項

治安が回復しないアフガニスタンとイラクについて、現地研修事業を日本への招聘研修に替え、成果をあげているのは、臨機適切な措置でした。アジアの古代都城遺跡等の日中韓共同調査をはじめ敦煌石窟・陝西省壁画古墳・アンコール遺跡群などの共同調査でも、国情の違いを克服して実績を積み、信頼を得つつあることは、頼もしいかぎりです。

５　調査研究成果の発信に関する事項

発掘調査現地説明会では、周到に準備したうえ、若い調査担当者がやさしく情熱をこめ、時にユーモアをまじえて語っています。「天晴れ！」とエールを送りたい光景です。秋の公開講演会では、独創的な遷都論がダイナミックな語り口で披露され、聴衆を堪能させてくれました。満足度99.4%もむべなるかな。飛鳥資料館の入館者数は、目標値を大きく上回っていますが、特別展の高松塚・キトラ古墳効果が顕著で、これに代わる企画の立案が待たれます。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

平城宮跡の第一次大極殿がみごとに復原され、遷都1300年祭の中核施設として光彩を放っています。「12年間の復原研究と文化庁・国交省への助言の成果」というにとどまらず、奈良文化財研究所創設いらいの調査・研究の成果を結集した金字塔と申してはばかりないでしょう。

７　その他

①パワーポイントで事業内容を判りやすく絵解きされたのは、結構でした。

②年輪年代学研究は、奈良文化財研究所の金看板で、特許もめでたく取得されました。ところが、エースが過労でダウンされたため、研究調査が立ち止まったと聞きました。由々しいことです。いずれ、産休をとられる男性所員もありましょう。健康管理とリスク管理にもご一考を。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**園田　直子**

１　総合的な事項

研究所全体において、活発な活動がうかがえる。各事業の実績値も豊富であり、調査研究においては報告書にとどまらず論文や学会発表の数が多い。多様な分野で着実に成果をあげており、大いに評価できる。事業の数が多いだけに、職員のかたがたの仕事量が毎年増大しているのではないかが懸念される。

なお、書類のフォーマットは事業ごとの成果は充分に把握できるが、その間の関係が見えづらい。口頭での説明時には、担当部課間にまたがった活動、東京と奈良の文化財研究所が協力した活動、博物館と研究所が共同で取り組んでいる活動など、協力体制の点を強調していただけると、研究所全体としての活動がより総合的に見えてくる。

２　自己点検評価に関する事項

自己点検評価ということでやむを得ないのだろうが、担当部課で評価基準が異なっているのが気にかかる。たとえば、当初計画を大幅に上まわる成果がでれば「S」評価にするなど、ある程度の統一した見解があってもよいのではないだろうか。

３　調査研究に関する事項

調査研究では、幅広い分野で意欲的に取り組んでおり、ナショナルセンターとしての役割を充分に果たしている。いずれにおいても論文や学会発表の実績値が高く、全体的に活発な研究活動が行われており、評価できる。

非破壊年輪年代測定法や遺跡の測量・探査などは、長年の基礎研究をもとにデータを積み上げ、また技術改良をした結果、大きな成果に結びついている。文化財の非破壊調査法に関わる研究も、今後の展開が大いに期待できる。文化財を対象とした研究であるので、すぐに成果があらわれない分野もあろうが、基礎的研究を着実にじっくり行う姿勢と体制を、今後とも、是非、続けていただきたい。無形文化財、近代文化遺産などは、今後、重要性が一層増すことが予想される。

4　国際協力の推進に関する事項

文化財の保存・修復に関する国際協力は、アジアを中心に数多く実施されている。現地での調査や支援は、日本以外の国々との連携や調整で困難な点も多くあろう。国内においては、国際協力機構やユネスコアジア文化センターへの研修協力、国際研修「漆の保存と修復」の開催など、国際的な人材育成を積極的に実施している。

このほか一連の国際協力推進の活動は、日本の国際貢献の大きな一助になっており、また日本に対する理解を諸外国で高める一翼を担っている。

5　調査研究成果の発信に関する事項

研究論文集、報告書、年報、図録等の刊行をはじめ、研究集会、講演会、現地説明会、展示公開が活発に行われ、専門家だけでなく、一般の人びとへの情報発信を続けている。

また、各種のデータベース作成、資料デジタル化など、研究成果を積極的に情報発信している。データベースはどのように維持していくかが問題になるので、逐次、データを追加し内容の充実をはかる体制が必要になるだろう。デジタル化では、今後、デジタルマイグレーションが緊急課題になると思われる。研究所としてどのように媒体変換に対応するのか、何らかの方針策定が急がれる。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、無形文化遺産、文化財、建造物・遺跡など、各分野でバランスよく展開されている。また、埋蔵文化財担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を通じて、国内で各種文化財に関わる人びとの知識や技術の総合的なレベルアップに寄与している。さらには連携大学院教育で、次世代の人材育成に貢献している。

7　その他

特になし。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**竹本　幹夫**

1　総合的な事項

充実した活動を繰り広げており、社会的な貢献度も極めて高いと評価出来る。わが国の有形・無形文化財の保護のみならず、いまやアジアの文化財保護活動をリードする立場にあって、国際的な活躍にも目を見張るものがある。わが国に不可欠な機関として、今後も順調な活動を推進されることを期待したい。

2　自己点検評価に関する事項

非常に洗練された評価方法である。目的を設定し、それを達成出来たか否かで評価するやり方は、定量・定性いずれの評価法においても妥当であると判断される。原則Aであるのは一見違和感があるようではあるが、当初目標が達成されているという意味であるので、むしろB以下が付いていたとしたら、その方が問題であろう。こうした自己評価法は研究所内に多大の負担を強いるものであろう事が想像されるが、対社会的な貢献の検証という意味では必要な事柄であると思われる。

3　調査研究に関する事項

すべての分野において数少ないスタッフながら充実した研究が行われていることに敬意を表したい。と

くに評価者の専門分野である芸能関係の無形文化財調査研究においては、きわめて質の高い研究調査が行われており、関連学会においても高く評価されていることを付言しておきたい。恐らくその他の分野の水準も同レベルであろう事が推察される。

4　国際協力の推進に関する事項

アジアにおける文化財保護活動への協力がめざましい。なお日本の流出文化財については、アジアよりは欧米諸国に大量且つ良質のものが渡っているという現実があるので、そうした流出文化財の所在調査と補修・保存方法の指導についてもいっそうの努力を期待したい。例えばヨーロッパの博物館では能面類が多数保存されるが、民俗芸能面や土産品と玉石混淆の状態で保存されており、状態もきわめて悪い。こうした分野は専門研究者が散発的に調査を行っているが、体系的ではなく、補修や保存管理の問題には到底肉薄出来ない。こうした分野でも文化財研究所の力量を発揮して頂ければと思う。海外流出文化財の所在調査について、特別な予算を申請することも必要なのではなかろうか。

5　調査研究成果の発信に関する事項

きわめて多様な刊行物が存在し、研究の層の厚さには敬意を表するが、あまりに膨大なので、もう少し体系立った発信をしていただけるとありがたい。例えばすべての刊行物をWeb上で閲覧可能にし、個人研究者には、刊行目録ファイルのみをメール送付する、ということにすれば、資源の節約にもなり、情報発信としても有効なのではなかろうか。もちろん紙媒体の発信物はそれ自体が価値を有しており、研究所の存在感を感じさせるものなので、機関向け寄贈についてはこれを止める必要はない。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

十分な活動が行われていると判断される。

7　その他

全体としてきわめて水準の高い研究機関であり、わが国文化財保護の最先端技術を担うにふさわしい実質を備えている。今後ともこのレベルを維持・継続して活動を推進されることを望む。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**玉蟲　敏子**

1　総合的な事項

- 昨年同様、今回の委員会でも奈良・東京ともに事項ごとにまとめて報告をしてもらったので、年間の事業の全体像が具体的に把握できた。
- 全体的に、東京・奈良それぞれの事業は継続されたものを順調に進展させていることが理解できたが、特記すべき事柄、あるいは、一般人に理解しやすい訴求性をもった報告があまりなかったことが今回の印象である。

2　自己点検評価に関する事項

- 奈良・東京ともに自己評価およびプレゼンの表現について一定の様式が確立し、その結果、個性差が無くなってきたようだ。
- 昨年同様に、定性的、定量的評価はともにAが多く順調で安定性のある活動が行われたことがよく理解できたが、今後もまた独立行政法人という立場から、独りよがりに陥らないよう、充分配慮して進めていただきたい。

3　調査研究に関する事項

- 奈良・東京ともに、概ね各種のテーマについて順調に進んでおり、安定感がある。
- とくに東京の高精細ディジタル画像による文化財の調査が、さらに一歩先の段階までを視野に入れて進めているのは評価される。

・ 奈良では、遺跡探査に有効な低価格の機器の開発および探査実施件数の増加は目覚ましい。

4　国際協力の推進に関する事項
・ 奈良・東京ともに、従来からの事業の枠組みを守り、順調に推進されている。
・ 昨年同様に、日本と関係の深い東アジア、東南アジア、西アジアへの協力が継続されている。治安の悪化した地域については日本に招聘して人材育成を図るなど、状況に応じた対処がなされており、このような信頼関係が積み重ねられ、今後も維持されるように期待したい。

5　調査研究成果の発信に関する事項
・ 東京のウェブを用いた情報発信はアクセス件数が多く、次世代を担う児童にも視野を広げているのが特徴だが、昨年に比べてさらに件数が増加した点は評価される。また、研究成果も『黒田清輝フランス語資料集』の出版など、国際的な発信も積極的になされている。
・ 奈良については「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究集会」の研究報告書を始め、図録カタログ類の出版数、範囲の豊富さ、内容の充実ぶりに眼を見張るものがある。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項
・ 昨年同様、国や地方行政組織に対する協力・助言もまた、奈良・東京とも伝統的ともいえる事業の厚みがあり、安定した活動となっている。
・ 昨年も指摘したが、連携大学院で学んだ院生たちの進路について今回も報告がなかったが、やはり今後のあり方を考える上で追跡調査があってもよいのではないか。

7　その他
・ 研究員の世代交代等のあった奈良については、研究活動の一つの柱である年輪年代学研究の担当を客員研究員に頼らざるを得ない状況になったようだが、専属の人材を継続、確保できるよう、将来性をもって対応されるように望みたい。

**◎研究所調査研究等部会**

外部評価委員名

**野口　昇**

1　総合的な事項
東京文化財研究所は、その前身である美術研究所の設立から８０周年を迎え、これを記念して「七十五年史」を刊行されたことは誠に意義深く、関係者のご努力に敬意を表したい。
文化財保護に関する多方面にわたる国際協力を含め、東京・奈良の両文化財研究所の諸事業は、国の政策を反映し、かつ時代の要請に応じた極めて重要なものであることを、２１年度の評価においても再確認させていただいた。

2　自己点検評価に関する事項
事業の実施状況（達成度、成果、外部への影響など）に鑑み、各事業項目の自己点検評価は、適切になされていると考える。

3　調査研究に関する事項
ポータブル蛍光Ｘ線分析装置を用いた材質調査・研究の継続のほか、日光輪王寺の虫害に関する調査も成果を上げている。これらは、日本の文化財保護にとって重要であり、また、古墳など高湿度環境における微生物活性に関する研究などは、同様の文化財保護の問題を抱える近隣諸国にとっても有益であろう。
国宝「高松塚古墳」壁画、「キトラ古墳」の調査・保存等に関し、２１年度においても、文化庁に協力して貴重な貢献が行われた。また、キトラ古墳の青竜・白虎展の開催も有意義であったと思われる。

4　国際協力の推進に関する事項

２１年度においても、文化遺産国際ワークショップの開催（東京）、文化遺産の素材の劣化と保護に関する研究（タイのスコータイおよびカンボジアのアンコール遺跡を対象）、敦煌壁画保護の日中共同研究の推進、カビの防止をテーマとする研修教材の作成、文化財保存修復に関する国際情報の収集とデータベース化などの国際協力事業が継続実施された。また、中国陝西省墳墓壁画の記録保存に関する共同研究が開始されたことも注目に値する。

アフガニスタンとイラクの文化遺産保護に関する国際協力は、国際的にも注目度の高いものであると思われるが、２１年度においても日本および第三国でアフガンとイラクの文化財専門家の研修が継続実施されたことを多としたい。治安上の理由で東文研などの専門家が現地に赴けないのは残念であるが止むを得ないことであろう。

シルクロード沿い文化財の世界遺産 serial nomination に向けた国際会議に日本からも参加したことも重要であったと考える。今後の進展に注目したい。

ユネスコの「無形文化遺産条約」が発効し各国からの登録物件が増えてきているが、今後、我が国からの登録申請にあたり両研究所の専門的な助言や協力がさらに重要になってくるものと思われる。

５　調査研究成果の発信に関する事項

我が国の平等院鳳凰堂などの貴重な文化財を高精細デジタル画像に収め、分析・研究・公開など多目的に応用する技術が開発、実用化されてきていることは貴重な成果であり、今後のさらなる発展が期待される分野だと思われる。

広報三誌「年報」、「概要」、および「東文研ニュース」も順調に継続刊行されている。「日本美術年鑑」、「美術研究」も計画どおり刊行された。“オリジナルの行方”をテーマにした国際研究集会の成果の公開も興味深い。オープン・レクチャーも継続実施されたが、一般への発信の観点からも有意義な事業である。

黒田清輝展の地方開催も評価すべきであり、事情が許せば今後さらに地方開催を展開すべきであろう。黒田清輝のフランス語版の新設を含めホームページがさらに充実し、アクセス件数が着実に増加しているのも喜ばしい傾向である。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

文化庁など国の機関や地方公共団体などの要請に応じ、必要な協力や助言が適切に提供されてきたと思われる。ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）との協力による国際研修事業の実施も評価したい。

博物館など文化財施設内の温湿度解析のデータや省エネ化に関する情報は、今後、国内外の多くの博物館、美術館の運営に役立つことが期待される。

７　その他

東京・奈良の両研究所が、国や地方公共団体、民間団体などの委託を受けて、各種の事業が実施されてきたことを高く評価したい。国の困難な財政状況を考えると、外部からの受託事業がさらに重要性を増してくるものと考える。受託事業のさらなる展開にも期待したい。

また、民間の財団なども取り込んだ「文化遺産国際協力コンソーシアム」の役割は重要であり、具体的活動の充実を望みたい。

最後に、過去の評価書にも書かせていただいているが、我が国の文化発信能力を高め、広義の国際文化協力を強化していくことは今後さらに重要になってくると思われる。この観点からも、東京・奈良の両研究所が益々重要な役割を果たしていくことを願うものである。

# Ⅵ 日誌

**（法人全体及び六施設共通事項）**

| 年 | 月 | 日 | 記事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 10 | 第１回役員会（東京国立博物館） |
| 21. | 4. | 15 | 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所調査研究等部会） |
| 21. | 4. | 16 | 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会） |
| 21. | 5. | 11 | 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会） |
| 21. | 5. | 29 | 第２回役員会（東京国立博物館） |
| 21. | 6. | 19 | 平成 20 年度定期監査（東京国立博物館） |
| 21. | 6. | 25 | 監査法人の監査結果（平成 20 年度）通知 |
| 21. | 7. | 6 | 文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第 57 回） |
| 21. | 7. | 9 | 健康管理のための講習会（東京国立博物館） |
| 21. | 7. | 10 | 第３回役員会（京都国立博物館） |
| 21. | 7. | 24 | 独立行政法人文化財機構運営委員会（東京国立博物館） |
| 21. | 7. | 27 | 平成 21 年度新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京国立博物館、東京文化財研究所）（～７月 29 日） |
| 21. | 8. | 27 | 文部科学省独立行政法人評価委員会総会（第 38 回） |
| 21. | 9. | 10 | 第１回研究・学芸系職員連絡協議会（東京国立博物館） |
| 21. | 9. | 18 | 第１回６施設連絡協議会（東京国立博物館） |
| 21. | 10. | 2 | 第４回役員会（東京国立博物館） |
| 21. | 12. | 16 | 第２回６施設連絡協議会（東京国立博物館） |
| 21. | 12. | 25 | 第５回役員会（東京国立博物館） |
| 22. | 1. | 14 | 健康管理のための講習会（東京文化財研究所） |
| 22. | 1. | 22 | 第６回役員会（京都国立博物館） |
| 22. | 3. | 3 | 第３回６施設連絡協議会（東京国立博物館） |
| 22. | 3. | 26 | 第７回役員会（東京国立博物館） |
| 22. | 3. | 31 | 独立行政法人国立文化財機構の第 1 期事業年度財務諸表の承認の通知 |

（東京国立博物館）

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 5 | 東京・春・音楽祭 2009「カルテット・スピリタス　サクソフォーンの響き」（本館） |
| 21. | 4. | 7 | 皇后陛下　特別展「国宝　阿修羅展」行啓 |
| 21. | 4. | 10 | 江田五月参議院議長来館 |
| 21. | 4. | 15 | ルクセンブルグ駐日大使来館 |
| 21. | 4. | 16 | 高円宮妃殿下　特別展「Story of・・・　カルティエ　クリエイション」お成り |
| 21. | 4. | 22 | 塩谷　立文部科学大臣来館 |
| 21. | 4. | 23 | 山東昭子参議院副議長来館 |
| 21. | 4. | 28 | 遠山敦子元文部科学大臣来館 |
| 21. | 4. | 28 | 特別展「国宝 阿修羅展」３０万人セレモニー |
| 21. | 5. | 14 | 保利耕輔衆議院議員来館 |
| 21. | 5. | 14 | 特別展「国宝 阿修羅展」５０万人セレモニー |
| 21. | 5. | 15 | 舛添要一厚生労働大臣来館 |
| 21. | 5. | 19 | 平常展無料観覧日（国際博物館の日） |
| 21. | 5. | 26 | 池坊保子衆議院議員来館 |
| 21. | 5. | 26 | 福田康夫前総理来館 |
| 21. | 5. | 28 | 綿貫民輔衆議院議員来館 |
| 21. | 6. | 1 | 荒井広幸参議院議員、渡辺秀央参議院議員来館 |
| 21. | 6. | 2 | 特別展「国宝 阿修羅展」８０万人セレモニー |
| 21. | 6. | 3 | 秋篠宮妃殿下及び眞子内親王殿下　特別展「国宝　阿修羅展」お成り |
| 21. | 6. | 23 | 臨時休館日（電気設備保守点検） |
| 21. | 7. | 5 | 関　孝弘ピアノコンサート（平成館） |
| 21. | 7. | 13 | 特別展「伊勢神宮と神々の美術」、特別展「染付」開会式及び特別内覧会 |
| 21. | 7. | 13 | 青写真制作ワークショップ（柳瀬荘） |
| 21. | 7. | 26 | ファミリーコンサート（平成館） |
| 21. | 7. | 28 | 台東区の伝統工芸職人展（～８月２日） |
| 21. | 8. | 4 | 常陸宮妃殿下　特別展「染付」お成り |
| 21. | 8. | 10 | 夏休み期間中の特別開館日 |
| 21. | 8. | 17 | 秋篠宮同妃両殿下　特別展「伊勢神宮と神々の美術」お成り |
| 21. | 8. | 18 | 天皇皇后両陛下　特別展「伊勢神宮と神々の美術」行幸啓 |
| 21. | 8. | 22 | 夏休み子ども音楽会による平常展無料観覧 |
| 21. | 8. | 26 | 常陸宮同妃両殿下　特別展「伊勢神宮と神々の美術」お成り |
| 21. | 8. | 29 | 寛仁親王殿下及び彬子女王殿下　特別展「伊勢神宮と神々の美術」お成り |
| 21. | 8. | 30 | 納涼東博寄席（平成館） |
| 21. | 9. | 3 | 高円宮妃殿下及び承子女王殿下　特別展「伊勢神宮と神々の美術」お成り |
| 21. | 9. | 11 | 舛添要一厚生労働大臣来館 |
| 21. | 9. | 18 | ウィーン州議会 クリック議長来館 |
| 21. | 9. | 21 | 平常展無料観覧日（敬老の日） |
| 21. | 9. | 27 | 鷲見恵理子ヴァイオリンコンサート（平成館） |
| 21. | 10. | 1 | 日本大学芸術学部美術学科絵画コース（絵画・版画）教職員作品展 |

（柳瀬荘～１０月１８日）

21. 10. 3 留学生の日
21. 10. 4 日本大学芸術学部デザイン学科ワークショップ「竹の家」を共同で作る（柳瀬荘）
21. 10. 5 特別展「皇室の名宝」開会式及び特別内覧会
21. 10. 9 荒井広幸参議院議員来館
21. 10. 11 日本大学芸術学部写真学科ワークショップ「青写真制作」（柳瀬荘）
21. 10. 14 日本大学芸術学部音楽学科コンサート（柳瀬荘）
21. 10. 18 日本大学芸術学部美術学科絵画コースワークショップ「民家を描こう」（柳瀬荘）
21. 10. 20 特別展「皇室の名宝」１０万人セレモニー
21. 10. 20 秋の庭園開放（～１１月２９日）
21. 10. 21 玉井日出男文化庁長官来館
21. 10. 26 秋篠宮同妃両殿下　特別展「皇室の名宝」お成り
21. 10. 27 皇太子殿下　特別展「皇室の名宝」行啓
21. 10. 28 高円宮妃殿下、承子女王殿下、典子女王殿下特別展「皇室の名宝」お成り
21. 10. 29 寛仁親王家彬子女王殿下　特別展「皇室の名宝」お成り
21. 11. 2 特別展「皇室の名宝」による特別開館（及び１１月１６日、１１月２４日）
21. 11. 4 日本大学芸術学部文芸学科ワークショップ「連句創作」（柳瀬荘）
21. 11. 6 日本大学芸術学部美術学科彫刻コース教職員作品展・映画学科映像作品上映
「自然と柳瀬荘」（柳瀬荘～１１月２２日）
21. 11. 9 「東京国立博物館の記念日」　表慶館「アジアギャラリー」内覧会他
21. 11. 9 普通救命講習会
21. 11. 14 川端達夫文部科学大臣、鈴木副大臣 特別展「皇室の名宝」視察
21. 11. 15 特別展「皇室の名宝」３０万人セレモニー
21. 11. 12 天皇陛下御即位２０年記念無料観覧日
21. 11. 21 上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「皇室と東京帝室博物館」（平成館）
21. 11. 22 全（チョン）韓国保健福祉部長官特別展「皇室の名宝」視察
21. 11. 25 特別展「皇室の名宝」４０万人セレモニー
21. 11. 26 皇太子殿下　特別展「皇室の名宝」行啓
21. 11. 26 後藤　斎文部科学大臣政務官　特別展「皇室の名宝」視察
21. 11. 27 天皇皇后両陛下　特別展「皇室の名宝」行幸啓
21. 11. 28 寛仁親王家彬子女王殿下　特別展「皇室の名宝」お成り
21. 11. 29 高円宮妃殿下「皇室の名宝」お成り
21. 12. 6 藤原真理チェロコンサート（平成館）
21. 12. 12 ジェラール・プーレヴァイオリンコンサート（平成館）
21. 12. 14 「国宝 土偶展」開会式及び特別内覧会
22. 1. 2 博物館に初もうで（～１月３１日） 新春イベント「獅子舞」ほか（～１月３日）
22. 1. 11 新春東博寄席（平成館）
22. 1. 17 亀渕由加ゴスペルコンサート（平成館）
22. 1. 20 曾　焙炎中国元副総裁来館
22. 1. 27 東大寺講演会（平成館）
22. 2. 9 皇后陛下　「国宝 土偶展」行啓

22. 2. 12 「国宝 土偶展」１０万人セレモニー
22. 2. 15 平成２１年度防災訓練
22. 2. 16 フォルカードイツ連邦議会議員 平常展、~~特別展~~「国宝 土偶展」視察
22. 2. 22 特別展「長谷川等伯」開会式及び特別内覧会
22. 3. 9 石原慎太郎東京都知事来館
22. 3. 9 ドイツ ローラント・コッホヘッセン州首相来館
22. 3. 10 特別展「長谷川等伯展」１０万人セレモニー
22. 3. 12 皇后陛下　特別展「長谷川等伯」行啓
22. 3. 13 春の庭園開放（～４月１８日）
22. 3. 14 東京・春・音楽祭２０１０「Vive！　サクソフォーンカルテット」（本館）
22. 3. 16 ドイツ ベイエルン州議会議員（大学・研究・文化委員会代表団来館
22. 3. 17 特別展「長谷川等伯」２０万人セレモニー
22. 3. 18 後藤　斎文部科学大臣政務官来館
22. 3. 18 北村茂男衆議院議員来館
22. 3. 19 塩谷　立前文部科学大臣来館
22. 3. 20 亀井静香金融・郵政担当大臣来館
22. 3. 21 鳩山由紀夫内閣総理大臣来館
22. 3. 22 トーマス・キャンベル　メトロポリタン美術館長来館
22. 3. 28 東京・春・音楽祭２０１０「東博でバッハ vol.４」児玉桃（平成館）

（京都国立博物館）

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 4 | 土曜講座（特別展覧会開催期間中の土曜日実施） |
| 21. | 4. | 9 | 運営会議（以後原則として毎月第２、第４木曜日実施） |
| 21. | 4. | 23 | 鑑査会（以後原則として毎月第３木曜日実施） |
| 21. | 4. | 23 | 特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」入館者５万人セレモニー |
| 21. | 4. | 24 | 「京都・らくご博物館【春】～新緑寄席～」（ハイアットリージェンシー京都） |
| 21. | 6. | 6 | バロックコンサート（特別展示館） |
| 21. | 6. | 8 | 文化財保存修理所運営委員会 |
| 21. | 6. | 9 | 産業医による職員対象の衛生管理講習会 |
| 21. | 6. | 16 | 普通救命講習 |
| 21. | 7. | 3 | マナー講習会 |
| 21. | 7. | 13 | 防災総合訓練 |
| 21. | 7. | 13 | 特別展覧会「シルクロード　文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」開会式及び特別内覧会（会期７月１４日～９月６日） |
| 21. | 7. | 16 | 評議員会 |
| 21. | 7. | 17 | ミニコンサート～音楽で巡るシルクロード～（～９月４日　毎週金曜日実施）（特別展示館） |
| 21. | 7. | 24 | 脂肪を燃やして音楽にしよう！自転車発電エコライブ |
| 21. | 7. | 25 | 少年少女博物館くらぶ「博物館　庭園探検隊！～石仏をたどって～」 |
| 21. | 7. | 29 | 夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」（～７月３０日） |
| 21. | 8. | 21 | 「京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～」（ハイアットリージェンシー京都） |
| 21. | 10. | 9 | 特別展覧会「「立正安国論」奏進七五〇年記念　日蓮と法華の名宝」開会式及び特別内覧会（会期１０月１０日～１１月２３日） |
| 21. | 10. | 23 | 「京都・らくご博物館【秋】～紅葉寄席～」（ハイアットリージェンシー京都） |
| 21. | 10. | 25 | 留学生の日 |
| 21. | 11. | 14 | 国際シンポジウム「法華の人と文化ーその行動と思想ー」 |
| 22. | 1. | 5 | 特別展覧会「ＴＨＥ　ハプスブルク」開会式及び特別内覧会（会期１月６日～３月１４日） |
| 22. | 1. | 22 | 「京都・らくご博物館【冬】～新春寄席～」（ハイアットリージェンシー京都） |
| 22. | 1. | 25 | 合同防火訓練 |
| 22. | 2. | 10 | 買取協議会 |
| 22. | 2. | 12 | 特別展覧会「ＴＨＥ　ハプスブルク」入館者１０万人セレモニー |
| 22. | 2. | 20 | ＜特別展覧会＞ＴＨＥ　ハプスブルク開催記念企画　音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展 |
| 22. | 3. | 7 | 特別展覧会「ＴＨＥ　ハプスブルク」入館者２０万人セレモニー |
| 22. | 3. | 16 | 買取協議会 |

**（奈良国立博物館）**

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 3 | 特別展「国宝鑑真和上展」 |
| | | | 開会式、特別招待日　（会期４月４日～５月２４日） |
| 21. | 4. | 11 | 公開講座「共結来縁」 |
| 21. | 4. | 14 | 春季仏像仏画供養法要 |
| | | | 賛助会員特別内覧会 |
| 21. | 4. | 18 | 公開講座「鑑真和上と日本文化」 |
| 21. | 4. | 19 | サンデートーク「唐招提寺２０１０プロジェクトその１０年の道のり」 |
| 21. | 4. | 25 | 公開講座「鑑真和上の教え」 |
| 21. | 4. | 26 | 唐招提寺寺僧によるギャラリートーク |
| 21. | 5. | 2 | まほろば寄席（第６回） |
| | | | 唐招提寺フォーラム |
| 21. | 5. | 5 | 平常展無料観覧日（こどもの日） |
| 21. | 5. | 6 | 唐招提寺寺僧によるギャラリートーク |
| 21. | 5. | 9 | 公開講座「唐招提寺金堂の当初復元案－解体調査より判明したこと」 |
| 21. | 5. | 10 | 香文化を辿る講座－薫物（練香）・香木聞香・線香－ |
| 21. | 5. | 12 | 第１回陳列品鑑査会 |
| 21. | 5. | 17 | サンデートーク「唐招提寺の古文書について」 |
| 21. | 5. | 19 | 平常展無料観覧日（国際博物館の日） |
| 21. | 5. | 23 | 公開講座「鑑真和上と唐招提寺の仏像」 |
| 21. | 6. | 9 | 第２回陳列品鑑査会 |
| 21. | 6. | 21 | サンデートーク「唐招提寺の鴟尾を展示し終えて」 |
| 21. | 7. | 3 | 第３回陳列品鑑査会 |
| | | | 文部科学省評価委員会委員視察 |
| 21. | 7. | 12 | まほろば講座「天平の食文化－大官人の食卓「宴」－」 |
| 21. | 7. | 17 | 特別展「聖地寧波　日本仏教１３００年の源流 ～すべてはここからやって来た～」 |
| | | | 開会式、特別招待日（会期７月１８日から８月３０日まで） |
| 21. | 7. | 19 | 夏休みお線香手作り体験講座 |
| | | | サンデートーク「阿育王寺の仏舎利信仰と日本」 |
| 21. | 7. | 21 | 第１回評議員会 |
| 21. | 7. | 22 | 夏季仏像仏画供養法要 |
| | | | キャンパスメンバーズ関係者特別内覧会 |
| 21. | 7. | 23 | 賛助会員特別内覧会 |
| 21. | 7. | 25 | 公開講座「清凉寺釈迦如来像と東アジアの釈迦信仰」 |
| 21. | 8. | 1 | 公開講座「泉涌寺僧と普陀山信仰－観音菩薩坐像の請来理由」 |
| 21. | 8. | 8 | NHK おはなしステージ in なら燈花会（８月９日まで） |
| 21. | 8. | 12 | 文化庁次長視察 |
| 21. | 8. | 15 | 公会講座「憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術」 |
| 21. | 8. | 16 | サンデートーク「貿易陶磁からみる寧波と日本」 |
| 21. | 8. | 18 | 夏季講座「聖地寧波を巡る信仰と美術」（８月２０日まで） |

21. 8. 22　公開講座「飛帆馳船－蒼波をこえた人々」
21. 8. 23　まほろば寄席（第７回）
21. 9. 6　奈良県立大学との合同公開講座（９月１３日、９月２０日）
21. 9. 15　秋季仏像仏画供養法要
21. 9. 21　東京大学東洋文化研究所との合同講座
21. 9. 26　文化庁長官視察
21. 10. 5　第４回陳列品鑑査会
21. 10. 11　まほろば寄席（第８回）
21. 10. 17　まほろば講座「正倉院に伝わる薬が語る－天平時代、人々が求めた健康な暮らし－」
21. 10. 18　サンデートーク「正倉院展６０回までのあゆみ」
21. 10. 23　特別展「第６１回正倉院展」開会式、特別招待日
（会期１０月２４日から１１月１２日）
21. 10. 24　公開講座「正倉院の宝飾鏡」
21. 10. 25　公開講座「金銀花盤をめぐって」
21. 10. 27　第５回陳列品鑑査会
21. 10. 29　賛助会員特別内覧会
21. 10. 31　正倉院学術シンポジウム
21. 11. 2　留学生の日
21. 11. 3　公開講座「正倉院木工品と木彫の成立」
21. 11. 7　公開講座「光明皇后の「楽毅論」について」
21. 11. 10　文部科学事務次官視察
第１回買取等協議会、買取等評価会
21. 11. 11　高円宮妃殿下来館
21. 11. 12　無料観覧日（天皇陛下ご在位２０周年記念）
21. 11. 14　平常展無料観覧日（関西文化の日　１１月１５日まで）
21. 11. 15　サンデートーク「愛染明王法－平安貴族の祈り」
21. 11. 18　第６回陳列品鑑査会
21. 12. 8　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～平成２２年１月１７日まで）
21. 12. 15　冬季仏像仏画供養法要
21. 12. 19　公開講座「おん祭の舞楽」
21. 12. 20　サンデートーク「春日権現記絵巻　七百年の旅路」
22. 1. 5　第６回陳列品鑑査会
22. 1. 9　公開講座「春日大社の歴史」
22. 1. 16　春日若宮おん祭の舞楽
22. 1. 17　サンデートーク「春日権現記絵披見台をめぐって」
22. 1. 19　第７回陳列品鑑査会
22. 1. 23　まほろば寄席（第９回）
22. 1. 24　サンデートーク「特集展示解説　南北朝・室町時代の彫刻」
22. 1. 25　文化財防火デー消防訓練
22. 1. 26　第２回買取等協議会、買取等評価会
22. 2. 3　平常展無料観覧日（節分の日）

22.　2.　6　　特別陳列「お水取り」（～３月１４日まで）
　　お水取り「講話」と「粥」の会
22.　2.　7　　公開講座「二月堂修二会について」
22.　2.　9　　文化財保存修理所特別公開
22.　3.　6　　特別勉強会「世界遺産学習と奈良国立博物館」
22.　3.　14　　サンデートーク「奈良の文化を感じて」
22.　3.　17　　第２回評議員会

(九州国立博物館)

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 5 | 博多にわか大会　「春らんまん　九州国立博物館で博多にわかを楽しもう」 |
| 21. | 4. | 6 | 「レッドクリフ PartⅡ―未来の最終決戦―」福岡キャンペーン　ジョン・ウー監督出演 |
| 21. | 4. | 7 | 国立台湾大学総長来館 |
| 21. | 4. | 7 | 「聖地チベット展」関連　張晶絵画展「チベットの美」（～4月19日） |
| 21. | 4. | 11 | 山内俊夫文部科学副大臣来館 |
| 21. | 4. | 12 | 第59回 きゅーはくミュージアムコンサート　「Ringin’Bells Rondo Club」 |
| 21. | 4. | 15 | トピック展示「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展」（～7月5日） |
| 21. | 4. | 17 | 日本芸術文化の自画像を描く試み― 日本芸術文化資料庫（データベース）第3回シンポジウム |
| 21. | 4. | 18 | 松岡正剛独演会「ぼくの九州同舟制」九州参集・史繍編集 ―発現の古代から創発の未来― |
| 21. | 4. | 19 | 箏演奏会「まほろば　箏のしらべ」 |
| 21. | 4. | 22 | ベトナム文化紹介イベント　「感動の国ベトナム～Impressive Vietnam～」（～5月6日） |
| 21. | 4. | 22 | ベトナム共産党書記長来館 |
| 21. | 4. | 25 | 「聖地チベット展」関連　椎名誠写真展「チベットの青い空」（～5月10日） |
| 21. | 4. | 25 | 「聖地チベット展」関連　椎名誠講演会「チベットの青い空 ―カイラス巡礼記」 |
| 21. | 5. | 5 | チベット展関連「視覚障がい者チャリティイベント in 九博」エフコープ「福岡自慢」（～5月6日） |
| 21. | 5. | 9 | 第60回 きゅーはくミュージアムコンサート　「The Soup Stock」 |
| 21. | 5. | 9 | 「聖地チベット展」関連　チベットタンカ講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」 |
| 21. | 5. | 9 | 「聖地チベット展」関連　cross fm×ａｌａｎ（アラン）ミュージアムコンサート |
| 21. | 5. | 10 | 第12回 九博朝日寄席　「喜多八・扇辰　皐月の競演」 |
| 21. | 5. | 12 | 「聖地チベット展」関連　四島司写真展「チベットの貌（かお）」（～5月24日） |
| 21. | 5. | 16 | 「聖地チベット展」関連　茶席（～5月17日） |
| 21. | 5. | 16 | 塩谷 立文部科学大臣来館 |
| 21. | 5. | 23 | 「聖地チベット展」関連　曽布川寛講演会「チベット密教の世界」 |
| 21. | 5. | 30 | 張晶絵画展「チベットの美」２（～6月7日） |
| 21. | 6. | 2 | 光の織物 ―光峯の織物美術―（～6月14日） |
| 21. | 6. | 6 | 九州シルクロード協会2009年度第2回交流会「天空の世界遺産都市・ラサにいたる神々の造形と表現」 |
| 21. | 6. | 8 | 韓国国立公州博物館長来館 |
| 21. | 6. | 9 | 第61回ミュージアムコンサート特別協賛イベント「ハイブリッドカー　ＮＥＷ ＰＲＩＵＳ　館内展示」（～6月14日） |
| 21. | 6. | 11 | 入館者600万人達成記念セレモニー |
| 21. | 6. | 13 | 第61回 きゅーはくミュージアムコンサート「MAPLE’s～ファゴットの旅路～」 |

21. 6. 16 中国遼寧省沈陽故宮博物院長来館
21. 6. 17 筑紫女子学園大学フィルハーモニー管弦楽団記念コンサート
21. 6. 24 トピック展示「中世の造形－鎌倉～室町時代の日本工芸」（～8 月 2 日）
21. 7. 4 ボランティア企画「七夕」（～7 月 12 日）
21. 7. 5 第 62 回 きゅーはくミュージアムコンサート 「１８弦の祝宴」- ギタートリオ -
21. 7. 8 トピック展示「多彩な江戸文化～京都で活躍した絵師たち～」（～8 月 16 日）
21. 7. 14 「国宝 阿修羅展」関連 中村もときの通勤ラジオ 国宝阿修羅展開幕生放送
21. 7. 17 福岡女子短期大学コーラスコンサート
21. 7. 18 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 7. 18 行こうよ！あじっぱ夏祭り 2009（～7 月 20 日）
21. 7. 18 「国宝 阿修羅展」開催記念イベント ＪＡのお米 めし丸くん presents「阿修羅ウォーク」～夕暮れの太宰府散策と九州国立博物館ナイトミュージアム～
21. 7. 20 台湾南瀛民族楽団演奏会
21. 7. 25 雅天空コンサート「天平の風音」
21. 7. 28 第 2 回 九州国立博物館／北九州市立自然史・歴史博物館連携・交流事業展示「～往来～いのちのたび博物館⇔九州国立博物館」（～8 月 2 日）
21. 8. 1 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 8. 2 「国宝 阿修羅展」関連記念講演会「国宝 阿修羅像について」金子啓明：興福寺国宝館館長
21. 8. 5 トピック展示「東南アジアの美術」（～9 月 23 日）
21. 8. 7 合田隆史文化庁次長来館
21. 8. 8 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 8. 8 第 63 回 きゅーはくミュージアムコンサート 「癒しの旋律-二胡」
21. 8. 9 太宰府市民吹奏楽団「まほろばコンサート」
21. 8. 15 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 8. 19 トピック展示「長崎の興福寺」（～9 月 27 日）
21. 8. 21 飾り山神事「御神入れ（ごしんいれ）」
21. 8. 22 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 8. 23 「国宝 阿修羅展」関連 記念講演会「阿修羅像と光明皇后」東野治之：奈良大学教授
21. 8. 29 エレキット夏休み工作教室ｉｎ太宰府 2009
21. 8. 29 吉野ヶ里 Days ｉｎ 九博
21. 9. 3 トピック展示「特別展「古代九州の国宝」関連企画 有明の縄文文化－東名遺跡が語るものー」（～12 月 20 日）
21. 9. 4 きゅーはくミュージアムコンサート番外編 「津軽三味線演奏会」
21. 9. 5 京築神楽 九州国立博物館公演
21. 9. 6 第 13 回 九博朝日寄席 『講談／落語「異種」伝統話芸の’響演’』
21. 9. 12 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 9. 19 「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 9. 20 「国宝 阿修羅展」関連 記念講演会「興福寺創建と天平文化」多川俊映：興福寺貫首(かんす)

21. 9. 26 「国宝 阿修羅展」関連　興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」
21. 9. 26 第64回 きゅーはくミュージアムコンサート 「September～琵琶と尺八のひびき～」
21. 9. 26 トピック展示「茶の湯を楽しむⅡ」（～11月8日）
21. 9. 29 天皇陛下御即位二十年福岡県奉祝　記念パネル展示（兼上映会）（～10月4日）
21. 9. 29 祝中華人民共和国建国60周年　九州華僑華人芸術家書画写真展（～10月4日）
21. 9. 29 トピック展示「玄界灘の海人・壱岐」（～12月20日）
21. 9. 30 トピック展示「新収品'05-'08」（～11月8日）
21. 10. 3 筑陽学園文化講演会「ジャワ・ガムラン音楽」
21. 10. 7 ハノイ・ベトナム フェア（福岡県ーハノイ市友好提携・在福岡ベトナム総領事館開設記念）（～10月12日）
21. 10. 10 トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント　壱岐展ワークショップ①（～10月12日）
21. 10. 14 榊晃弘・万葉のこころ写真展（～10月25日）
21. 10. 15 能楽ワークショップ「能と平家物語」
21. 10. 15 4周年記念「九博能」
21. 10. 17 ガムランコンサートⅡ～ジャワ舞踊とガムランの魅力～
21. 10. 18 第65回 きゅーはくミュージアムコンサート 「秋に贈るFantastic Concert」
21. 10. 18 榊晃弘・万葉のこころ写真展　写真家 榊晃弘氏によるギャラリートーク
21. 10. 22 九州市民大学平成21年度後期ミニ講座
21. 10. 23 九州国立博物館開館4周年協賛　出前温泉「足湯」～お！館外にもあった　至福の時間～（～10月25日）
21. 10. 24 萬葉学会第62回全国大会（～10月25日）
21. 10. 25 八代妙見祭「中島町獅子舞」公演
21. 10. 30 第4回九州地域ブランドフォーラム「九州ブランド王国―ものづくりの技術と美味しい食への情熱―」（～11月29日）
21. 10. 31 アジア博物館研究集会
21. 11. 1 九州地域ブランドフォーラム記念講演会 「第7回九州地域づくり会議・福岡大会」
21. 11. 3 玉井日出夫文化庁長官来館
21. 11. 3 第66回 きゅーはくミュージアムコンサート「古から未来への言霊」
21. 11. 3 留学生の日特別企画「和太鼓ワークショップ」
21. 11. 3 留学生の日特別企画「着物をきてみよう（きもの体験）」
21. 11. 3 留学生の日特別企画「茶の湯のお点前（茶道体験）」
21. 11. 7 「古代九州の国宝」開催記念　宗次郎～風と大地の音～コンサート
21. 11. 8 「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業
21. 11. 8 「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「邪馬台国はここにあった」
21. 11. 8 「古代九州の国宝」関連　セミナー「夜行貝とサンゴの海　その魅力とその再生」
21. 11. 11 トピック展示「お姫様の婚礼道具」（～1月31日）
21. 11. 13 ふくおか文化ボランティアフォーラム2009
21. 11. 13 トピック展示「祈りの山　宝満山」展（～12月20日）
21. 11. 14 「古代九州の国宝」関連　ＮＨＫふれあい放送体験隊（～11月15日）
21. 11. 14 アサヒ緑健スポーツメセナ　第7回ふれあい健康ウォーク

21. 11. 15　「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「装飾古墳と科学」
21. 11. 16　国立科学博物館長来館
21. 11. 17　トピック展「祈りの山 宝満山」関連イベント
栗原隆司写真展「宝満山 2009 春夏―祈りと山麓のくらし―」（～11 月 23 日）
21. 11. 21　「古代九州の国宝」関連　ＮＨＫさわってはかって考古クイズ（～11 月 23 日）
21. 11. 21　知的財産権教育支援事業「作って遊ぼう発明キッズラボ」（放課後ヒラメキ体験）
21. 11. 22　トピック展「祈りの山 宝満山」開催記念講演会「祈りの山 宝満山 ―山岳信仰と修験道―」
21. 11. 25　九州の文化を巡る～お茶が育む九州・沖縄文化の魅力～
21. 11. 25　九州の文化を巡る～お茶が育む九州・沖縄文化の魅力～　「しずく茶」試飲
21. 11. 28　平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業
公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」（～11 月 29 日）
21. 11. 28　タイアップ企画「IPM 市民フォーラム」（～11 月 29 日）
21. 11. 28　福岡地域学芸員“知のネットワーク”構築事業　巡回展示「学芸員のお仕事展」（～12 月 4 日）
21. 12. 4　太宰府市小学校音楽会
21. 12. 6　キャンパスフェスタ’０９
21. 12. 12　国立歴史民俗博物館国際研究集会「日韓における古墳・三国時代の年代観（Ⅲ）」
21. 12. 12　トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント
壱岐展ワークショップ②／壱岐神楽（～12 月 13 日）
21. 12. 15　古都の光 PR 展示（～12 月 23 日）
21. 12. 19　第 67 回 きゅーはくミュージアムコンサート
「Healing Christmas　Concert」
21. 12. 19　トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント　壱岐展ワークショップ③（～12 月 20 日）
21. 12. 23　第 18 回ピアノ発表会「X’mas concert」
22. 1. 1　トピック展示「はにわが絵本になっちゃった」（～3 月 28 日）
22. 1. 1　トピック展示「国指定史跡牛頸須恵器窯跡とその世界」（～1 月 31 日）
22. 1. 1　トピック展示「ベトナムの陶磁」（～2 月 14 日）
22. 1. 3　ボランティア企画「九博のお正月」　餅つき・書初め・折り紙
22. 1. 4　ボランティア企画　井上孝治写真展「こどものいた街」（～1 月 11 日）
22. 1. 9　「京都妙心寺」関連　坐禅会（1 月 16、23、30 日　2 月 6、13、20 日）
22. 1. 9　第 68 回 きゅーはくミュージアムコンサート「招福音はじめ ～よきことをきく～」
22. 1. 10　「京都妙心寺」関連 こども坐禅会
22. 1. 10　「京都妙心寺」関連　講演会「妙心寺と九州・琉球」竹貫元勝：花園大学教授
22. 1. 11　「京都妙心寺」関連 大般若会
22. 1. 11　「京都妙心寺」関連法話「禅 ―修行道場の生活」と大坐禅会　講師：梅林寺僧堂 東海大玄老師
22. 1. 13　「京都妙心寺」関連　妙心寺鐘・観世音寺鐘 一般公開（展示）（～1 月 17 日）
22. 1. 16　「京都妙心寺」関連　鳴鐘会（めいしょうえ）（～1 月 17 日）

22. 1. 16 「京都妙心寺」関連　特別講演会「龍の背に乗る」玄侑宗久：作家・臨済宗妙心寺派福聚寺住職
22. 1. 17 「京都妙心寺」関連　学術講演会「白隠の禅画について」芳澤勝弘：花園大学国際禅学研究所教授
22. 1. 19 ひなの国九州フェスタ２０１０（～1 月 31 日）
22. 1. 24 第 14 回 九博朝日寄席　「初笑い、伝統の柳派と新作”星空”落語
22. 1. 30 「京都妙心寺」関連　禅講座「博多の仙厓さん」講師：聖福寺僧堂 細川白峰老大師
22. 1. 31 「京都妙心寺」関連 尺八コンサート「吹禅のひびき」
22. 2. 2 九州電力株式会社　代表取締役社長来館
22. 2. 2 「京都妙心寺」関連 日展　福岡作家展「和のこころ」（～2 月 11 日）
22. 2. 3 トピック展示「江戸の風俗画」（～3 月 14 日）
22. 2. 6 「京都妙心寺」関連　南方流　呈茶会（～2 月 7 日）
22. 2. 9 「京都妙心寺」関連　京都物産展（～2 月 14 日）
22. 2. 9 トピック展示「進化する博物館 II　みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない」（～3 月 28 日）
22. 2. 13 「京都妙心寺」関連　禅講座　講師：萬壽寺僧堂 佐々木道一老師
22. 2. 16 筑紫地区小学校児童画展（九博子どもフェスタ）（～2 月 21 日）
22. 2. 20 ミュージアム講座アジアージュ：きゅーはくの絵本 10 冊刊行記念座談会
「えほんのある博物館―ほら、歴史が語りかけてくる―」
22. 2. 21 九博子どもフェスタ「博物館って本当におもしろいね！」
22. 2. 21 トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」（～3 月 28 日）
22. 2. 23 平成 21 年度　筑紫地区文化財写真　「ちくし再発見～遺跡と眺望～」展（～3 月 7 日）
22. 2. 26 国際セミナー「アジアの螺鈿」
22. 2. 27 第 69 回 きゅーはくミュージアムコンサート「長唄囃子の響き」
22. 3. 2 第 4 回福岡県景観大会「景観文化展作品等展示」（～3 月 7 日）
22. 3. 4 保存科学研究集会「保存科学における諸問題―遺構・遺物の保存修復と展示・活用―」（～3 月 5 日）
22. 3. 7 第 4 回福岡県景観大会「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」
22. 3. 13 トピック展「巨大掛軸」関連　大涅槃図（佐賀市高伝寺）展示（～3 月 14 日）
22. 3. 14 トピック展「巨大掛軸」関連　国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」
22. 3. 16 第 3 回太宰府発見コンクールフェスティバル「表彰式」「作品展示」（～3 月 22 日）
22. 3. 19 劇団道化・中国児童芸術劇院　日中合作公演「３只小猪（３びきのコブタ）」
22. 3. 20 第 70 回 きゅーはくミュージアムコンサート「内山覚(Gt) & 野瀬栄進(P) from NY SUPER DUO！」
22. 3. 21 第 14 回 九博デー　「九博の宝物たち」 ―九博開館５周年の成果とこれから―
22. 3. 24 青年海外協力隊写真展『そこに君はいた・・・』（～3 月 28 日）
22. 3. 27 九州国立博物館で　博多にわか

（東京文化財研究所）

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 20. | 4. | 18 | 在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第1回） |
| 20. | 4. | 22 | 文化財情報の発信と連携についての研究協議会 |
| 20. | 4. | 24 | 黒田記念館研究室の公開開始 |
| 20. | 5. | 13 | 国立韓国伝統文化学校との文化交流に関する協定の締結 |
| 20. | 5. | 13 | 平成19年度在外日本古美術品保存修復協力事業における修復作品の展示（東京国立博物館平成館企画展示室）（～ 5.25） |
| 20. | 5. | 23 | 在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第2回） |
| 20. | 6. | 2 | 保存担当学芸員フォローアップ研修 |
| 20. | 6. | 3 | 韓国国立文化財研究所芸能民俗研究室との「無形文化遺産保護に関する日韓研究交流」合意書の締結（大韓民国） |
| 20. | 6. | 5 | 黒田記念館アンソニー型カメラの展示開始 |
| 20. | 6. | 12 | 文部科学省　科学技術・学術政策局計画官ほか3名　施設見学 |
| 21. | 6. | 13 | 中国・上海大学芸術研究員院長ほか5名　所長表敬訪問および施設見学 |
| 20. | 6. | 20 | 保存修復科学センター研究会「三角縁神獣鏡の謎に迫る―材料・技法・製作地―」 |
| 20. | 7. | 1 | 総合研究会「彦根屏風の表現について－日本絵画史の視点から」，「光学的手法による彦根屏風の調査」，「蛍光Ｘ線分析による彦根屏風の彩色材料調査」 |
| 20. | 7. | 1 | イラク専門家養成研修（～ 9.30） |
| 20. | 7. | 3 | 別府大学大学院文学研究科文化財学専攻生9名　施設見学 |
| 20. | 7. | 10 | 保存修復科学センター研究会「博物館での文化財の保存と活用に関する国際的動向」 |
| 20. | 7. | 14 | 韓国国立伝統文化学校保存科学科教授ほか2名　所長表敬訪問 |
| 20. | 7. | 14 | 博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～ 7.25） |
| 20. | 7. | 19 | 共催展「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝展」（神戸市立小磯記念美術館）（～ 8.31） |
| 20. | 7. | 23 | 企画情報部研究会「藤雅三《破れたズボン》再発見報告」 |
| 20. | 8. | 7 | 駐日イラク大使　所長表敬訪問 |
| 20. | 8. | 19 | 財団法人日本原子力文化振興財団　施設見学 |
| 20. | 8. | 22 | 大韓民国・文化財庁企画調整官ほか2名　所長表敬訪問 |
| 20. | 9. | 2 | 総合研究会「天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題」 |
| 20. | 9. | 4 | 日タイ共同研究成果報告会（タイ・バンコク）（～ 9. 5） |
| 20. | 9. | 8 | 第11回国際研修「紙の保存と修復」2008（～ 9.26） |
| 20. | 9. | 9 | モンゴル国教育文化科学省文化芸術局との文化遺産保護のための協力に関する合意書の締結（モンゴル・ウランバートル） |
| 20. | 9. | 18 | 台東区立御徒町台東中学校6名、中央区立銀座中学校2名　施設見学 |
| 20. | 9. | 19 | 第22回国際文化財保存修復研究会「遺跡保存と水」 |
| 20. | 9. | 29 | 総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員5名ほか　施設見学 |
| 20. | 10. | 3 | 第42回オープンレクチャー「人とモノの力学」（～10. 4） |
| 20. | 10. | 6 | 保存修復科学センター研究会「屋外等の木質文化財の維持管理　問題点と今後」 |
| 20. | 10. | 10 | 開智高等学校1名　施設訪問 |
| 20. | 10. | 20 | インドネシア・ボロブドール遺産保存事業所所長ほか1名　所長表敬訪問 |
| 20. | 10. | 28 | 黒田記念館特別公開（～11. 3） |

20. 11. 5 2008年度在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ（ドイツ・ケルン東洋美術館）（～11.14）
20. 11. 6 2008年度文化財の環境影響に関する日韓共同研究報告会（大韓民国・国立文化財研究所講堂）
20. 11. 7 第22回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄構造物の保存と修復について」
20. 11. 11 モンゴル・教育文化科学省文化芸術局局長ほか5名　所長表敬訪問
20. 11. 11 中国湖南省文物局博物館訪日団5名　施設見学
20. 11. 13 モンゴル・教育文化科学省文化芸術局局長ほか5名　施設見学
20. 11. 17 2008年度西安研究会「石造文化財の保存に関するシンポジウム」（中華人民共和国・西安市）（～11.18）
20. 11. 18 川崎市多摩市民館文化財ボランティア25名　施設見学
20. 11. 20 第3回無形民俗文化財研究協議会「無形民俗文化財に関わるモノの保護」
20. 11. 21 アジャンター石窟壁画の保存修復に向けた調査研究事業に関する合意書の締結（インド・ニューデリー　インド考古局）
20. 11. 25 中国・故宮博物院文物保護科技部副主任ほか5名　所長表敬訪問および施設見学
20. 11. 27 第2回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外の交流―漆文化財の調査と保存修復の現状と課題―」
20. 11. 29 2008年度在外日本古美術品保存修復協力事業講演会（ドイツ・ベルリン技術博物館）
20. 11. 29 イラク専門家養成研修（～12.10）
20. 12. 2 総合研究会「無形文化遺産としての工芸技術―染色分野を中心として―」
20. 12. 4 保存修復科学センター研究会「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」
20. 12. 4 東北芸術工芸大学6名　施設見学
20. 12. 5 ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復」（タジキスタン・タジキスタン考古物博物館）（～12.10）
20. 12. 6 第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナルの行方”―文化財アーカイブ構築のために―」（～12. 8）
20. 12. 12 在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第3回）
20. 12. 14 アフガニスタン専門家養成研修（～12.20）
20. 12. 15 中級研修「空気環境最適化のための基礎と実践」（～12.16）
20. 12. 16 ユネスコ事務局・前無形文化遺産課長　所長表敬訪問
20. 12. 16 第3回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「音声資料からたどる能の変遷―文化財保護委員会作成の音声資料をめぐって―」（国立能楽堂大講義室）
20. 12. 17 駐日アフガニスタン大使　所長表敬訪問
20. 12. 19 島根県立増田高等学校23名　施設見学
21. 1. 6 総合研究会「バーミヤーン、そして中央アジア」
21. 1. 14 アジア文化遺産国際会議「被災後の遺跡の修復と保存」（タイ・バンコク）（～1.16）
21. 1. 19 研究会「バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮仏典の保存修復」
21. 1. 18 文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「私の文化遺産再発見―文化遺産を通じて国際貢献を推進するシンポジウム―」（東京国際フォーラム）
21. 1. 26 総合消防訓練

21. 2. 3 総合研究会「桃山文化期の漆塗料の流通と使用」

21. 2. 13 第 13 回博物館保存科学研究会「資料保存の理想と現実」（三重県立美術館、皇學館大学佐川記念神道博物館、神宮徴古館農業館、式年遷宮記念神宮美術館）（～ 2.14）

21. 2. 19 大韓民国・文化財庁無形文化財課長　所長表敬訪問

21. 2. 19 第 2 回アジア無形文化遺産保護研究会「韓国の無形文化財制度」

21. 2. 25 東京学芸大学文化財科学専攻 6 名　施設見学

21. 3. 3 「中世伊勢物語の系譜―伝土佐光信筆「伊勢物語画帖」の位置―」

21. 3. 16 研究組織「歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題」 22 名　施設見学

21. 3. 18 大韓民国・国立中央博物館アジア部長ほか 2 名　所長表敬訪問

21. 3. 19 ドイツ・プロイセン文化財団総裁ほか 2 名　所長表敬訪問

21. 3. 19 黒田記念館　特集陳列「写された黒田清輝Ⅱ」公開（～21. 7. 9）

21. 3. 26 文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「経済開発協力と文化遺産国際協力」

（奈良文化財研究所）

| 年 | 月 | 日 | 記　　事 |
|---|---|---|---|
| 21. | 4. | 17 | 春期特別展「キトラ古墳壁画四神−青龍・白虎−」（飛鳥資料館）（〜6 月 21 日） |
| 21. | 5. | 7 | キトラ古墳壁画「青龍 白虎」特別公開　内覧会・子供デー（飛鳥資料館）（会期 5 月 8 日〜24 日） |
| 21. | 5. | 16 | 春期特別展記念講演会「ラスコー洞窟壁画の保存」「キトラ古墳のこの一年」鼎談「キトラ古墳壁画四神に想うこと」（奈良県立万葉文化館企画展示室） |
| 21. | 5. | 23 | 公開講演会（第 104 回）「第一次大極殿院広場の復原」「古代火葬墓の世界」「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実際－」（平城宮跡資料館講堂） |
| 21. | 6. | 2 | 埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡探査課程」（〜6 月 5 日） |
| 21. | 6. | 15 | 埋蔵文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（〜6 月 19 日） |
| 21. | 6. | 20 | 現地説明会「平城第 454 次(中央区第 1 次大極殿院内庭部）発掘調査」 |
| 21. | 6. | 21 | 現地見学会「飛鳥藤原第 157 次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」 |
| 21. | 7. | 7 | 埋蔵文化財担当者専門研修「文化財写真Ⅰ(基礎)課程」（〜7 月 23 日） |
| 21. | 7. | 23 | 埋蔵文化財担当者専門研修「文化財写真Ⅱ(応用)課程」（〜8 月 6 日） |
| 21. | 8. | 1 | 夏期企画展「甦るクメール文明」－世界文化遺産　アンコール遺跡群－撮影：ＢＡＫＵ斉藤（飛鳥資料館）（〜8 月 30 日） |
| 21. | 8. | 1 | 夏期企画展ギャラリーツアー「ＢＡＫＵ斉藤の作品解説」（飛鳥資料館）（8 月 1 日、2 日、14 日、15 日） |
| 21. | 8. | 2 | 夏期企画展特別講演会 「甦るクメール文明」（奈良県立万葉文化館企画展示室） |
| 21. | 8. | 15 | 無料観覧日（飛鳥資料館） |
| 21. | 8. | 15 | 夏期企画展トークショー「クメール建築を撮る」（飛鳥資料館） |
| 21. | 9. | 1 | 埋蔵文化財担当者専門研修「古代陶磁器調査課程」（〜9 月 9 日） |
| 21. | 9. | 27 | 現地見学会「平城第 458 次（興福寺南大門）発掘調査」 |
| 21. | 10. | 15 | 埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程」（〜10 月 23 日） |
| 21. | 10. | 16 | 秋期特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」（飛鳥資料館）（〜11 月 29 日） |
| 21. | 10. | 17 | 秋期特別展記念講演会「三燕文化が朝鮮半島、日本に与えた影響」「三燕文化研究の現状と課題」（飛鳥資料館講堂） |
| 21. | 10. | 20 | 特別企画展「地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－」（ガイダンスコーナー）（〜11 月 29 日） |
| 21. | 10. | 23 | 埋蔵文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程」（〜10 月 30 日） |
| 21. | 11. | 3 | 無料観覧日（飛鳥資料館） |
| 21. | 11. | 12 | 無料観覧日（飛鳥資料館） |
| 21. | 11. | 17 | 埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡地図情報課程」（〜11 月 20 日） |
| 21. | 11. | 28 | 公開講演会（第 105 回）「これからの平城宮跡－遷都 1300 年を迎えて－」「世界都市長安城の風景－平城京の原型－」「平城京遷都の歴史的背景－日本古代都城の出現と変質－」（なら 100 年会館大ホール） |
| 21. | 11. | 29 | 現地説明会「飛鳥藤原第 160 次（藤原宮大極殿院回廊）発掘調査」 |
| 21. | 11. | 30 | 埋蔵文化財担当者専門研修「自然科学的年代決定法課程」（〜12 月 4 日） |
| 22. | 1. | 12 | 埋蔵文化財担当者専門研修「遺跡整備活用課程」（〜1 月 22 日） |

22. 1. 22 冬期企画展「飛鳥の考古学 2009－平成 20 年度の発掘調査の成果から－」(飛鳥資料館)
（～2 月 28 日）
22. 1. 26 消防訓練
22. 1. 28 埋蔵文化財担当者専門研修「報告書作成課程」（～2 月 5 日）
22. 2. 7 無料観覧日（飛鳥資料館）
22. 2. 16 埋蔵文化財担当者専門研修「地質環境調査課程」（～2 月 24 日）
22. 2. 20 現地説明会「平城第 446 次（平城宮東院地区西北部）発掘調査」
22. 3. 20 現地見学会「飛鳥藤原第 161 次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」

# Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図・役職員名簿

## 独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 福　原　　義　春 | 株式会社資生堂名誉会長 | 委員長 |
| 辻　　惟　雄 | 東京大学名誉教授 | 副委員長 |
| 青　柳　　正　規 | 独立行政法人国立美術館理事長 | |
| 阿　部　　充　夫 | 財団法人放送大学教育振興会会長 | |
| 石　澤　　良　昭 | 上智大学長 | |
| 今　村　　峯　雄 | 国立歴史民俗博物館名誉教授 | |
| 上　野　　尚　一 | 朝日新聞社社主 | |
| 小　倉　　和　夫 | 独立行政法人国際交流基金理事長 | |
| 佐　藤　　宗　諄 | 奈良女子大学名誉教授 | |
| 白　石　　太一郎 | 大阪府立近つ飛鳥博物館長 | |
| 田　中　　浩　二 | 九州旅客鉄道株式会社取締役会長 | |
| 辻　村　　泰　善 | 財団法人元興寺文化財研究所理事長 | |
| 中　島　　史　子 | フリーライター | |
| 羽毛田　　信　吾 | 宮内庁長官 | |
| 服　部　　彰 | 公認会計士 | |
| 林　田　　ス　マ | 大野城市まどかぴあ館長 | |
| マリ・クリスティーヌ | 異文化コミュニケーター | |
| 冷　泉　　為　人 | 財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長 | |

・各館の評議員会評議員名簿

## 東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 大　沼　　淳 | 学校法人文化学園理事長 | 会長 |
| 阿　部　　充　夫 | 財団法人放送大学教育振興会会長 | 副会長 |
| 青　柳　　正　規 | 独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長 | |
| 浦　井　　正　明 | 台東区文化財保護審議会委員 | |
| 小　寺　　正　樹 | 台東区立忍岡中学校長 | |
| 嵩　井　　雅　幸 | 東日本旅客鉄道株式会社上野駅長 | |
| 佐　野　　誠 | 東京都立上野高等学校長 | |
| 高　橋　　武　郎 | 台東区立根岸小学校長 | |
| 筑　紫　　みずえ | 株式会社グッドバンカー代表取締役社長 | |
| 辻　　惟　雄 | 東京大学名誉教授 | |
| 福　原　　義　春 | 株式会社資生堂名誉会長 | |
| 二　木　　忠　男 | 上野観光連盟会長 | |
| 牧　　美　也　子 | 漫画家 | |
| マリ・クリスティーヌ | 異文化コミュニケーター | |
| 宮　田　　亮　平 | 東京芸術大学長 | |
| 吉　住　　弘 | 台東区長 | |
| 林　原　　行　雄 | シティグループ・ジャパン・ホールディングス株式会社常任監査役 | |

# 京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 興　膳　　宏 | 京都大学名誉教授 | 会長 |
| 藤　井　　譲　治 | 京都大学大学院文学研究科教授 | 副会長 |
| 荒　巻　　禎　一 | 京都府京都文化博物館長 | |
| 池　坊　　由　紀 | 華道家元池坊次期家元 | |
| 上　野　　尚　一 | 朝日新聞社社主 | |
| 尾　﨑　　正　明 | 独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長 | |
| 神　居　　文　彰 | 平等院住職 | |
| 佐　藤　　茂　雄 | 京阪電気鉄道株式会社最高経営責任者（ＣＥＯ）<br>兼取締役会議長 | |
| 高　橋　　隆　博 | 関西大学文学部教授 | |
| 竹　下　　景　子 | 女優 | |
| 田　端　　泰　子 | 京都橘大学学長 | |
| 服　部　　重　彦 | 株式会社島津製作所代表取締役会長 | |
| 細　見　　吉　郎 | 京都市副市長 | |
| 湯　山　　賢　一 | 独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長 | |
| 冷　泉　　為　人 | 財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長 | |

# 奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 森　本　　公　誠 | 東大寺長老 | 会長 |
| 水　野　　正　好 | 財団法人大阪府文化財センター理事長 | 副会長 |
| 大　野　　玄　妙 | 聖徳宗管長・法隆寺住職 | |
| 花山院　　弘　匡 | 春日大社宮司 | |
| 栄　原　　永遠男 | 大阪市立大学大学院文学研究科教授 | |
| 佐々木　　丞　平 | 京都国立博物館長 | |
| 杉　本　　一　樹 | 宮内庁正倉院事務所長 | |
| 田　辺　　征　夫 | 奈良文化財研究所長 | |
| 檀　　ふ　み | 女優 | |
| 辻　井　　昭　雄 | 近畿日本鉄道株式会社相談役 | |
| 辻　村　　泰　善 | 財団法人元興寺文化財研究所理事長 | |
| 冨　岡　　將　人 | 奈良県教育委員会教育長 | |
| 中　島　　史　子 | フリーライター | |
| 永　村　　眞 | 日本女子大学教授 | |
| 西　口　　廣　宗 | 株式会社南都銀行代表取締役会長 | |
| 山　崎　　しげ子 | 随筆家 | |

# 九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 田　中　　浩　二 | 九州旅客鉄道株式会社　相談役 | 会長 |
| 高　倉　　洋　彰 | 西南学院大学国際文化学部教授 | 副会長 |
| 阿　川　　佐和子 | 文筆家 | |
| 遠　藤　　正　雄 | ＮＨＫ福岡放送局長 | |
| 井　上　　保　廣 | 太宰府市長 | |
| 衛　藤　　卓　也 | 福岡大学学長 | |
| 王　　貞　治 | 福岡ソフトバンクホークス取締役会長 | |
| 酒井田　　柿右衛門 | 陶芸作家 | |
| 永　山　　紘　子 | 国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー | |
| 高　良　　倉　吉 | 琉球大学法文学部教授 | |
| 海老井　　悦　子 | 福岡県副知事 | |
| 多　田　　昭　重 | 株式会社西日本新聞社代表取締役会長 | |
| 西高辻　　信　良 | 太宰府天満宮宮司 | |
| 林　田　　ス　マ | 大野城市まどかぴあ館長 | |

# 独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 清　水　　眞　澄 | 成城大学学長 | 委員長 |
| 横　里　　幸　一 | ＮＨＫプロモーション代表取締役社長 | 副委員長 |
| 稲　田　　孝　司 | 岡山大学名誉教授 | |
| 岡　本　　健　一 | 毎日新聞社客員編集委員 | |
| 小　林　　忠 | 学習院大学文学部教授 | |
| 酒　井　　忠　康 | 世田谷美術館長 | |
| 佐　藤　　信 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授 | |
| 園　田　　直　子 | 国立民族学博物館文化資源研究センター教授 | |
| 竹　本　　幹　夫 | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長 | |
| 玉　蟲　　敏　子 | 武蔵野美術大学造形学部教授 | |
| 野　口　　昇 | 日本ユネスコ協会連盟理事長 | |
| 藤　田　　治　彦 | 大阪大学大学院教授 | |
| 藤　好　　優　臣 | 公認会計士 | |
| 森　　弘　子 | 福岡県文化財保護審議会専門委員 | |

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 小　林　　忠 | 学習院大学文学部教授 | 部会長 |
| 酒　井　　忠　康 | 世田谷美術館長 | |
| 藤　田　　治　彦 | 大阪大学大学院教授 | |
| 森　　弘　子 | 福岡県文化財保護審議会専門委員 | |

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所調査研究等部会名簿

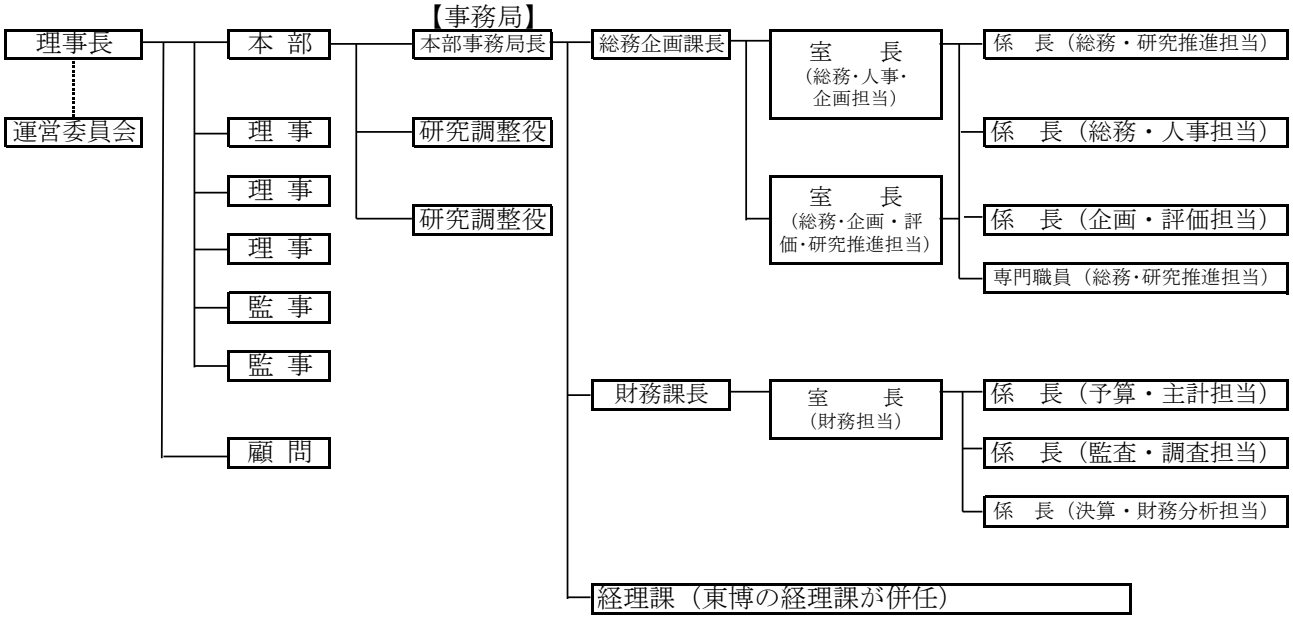
（平成 22 年 3 月 31 日現在、敬称略）

| 氏　　名 | 現　　職 | 備　考 |
|---|---|---|
| 佐　藤　　信 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授 | 部会長 |
| 稲　田　　孝　司 | 岡山大学名誉教授 | |
| 岡　本　　健　一 | 毎日新聞社客員編集委員 | |
| 園　田　　直　子 | 国立民族学博物館文化資源研究センター教授 | |
| 竹　本　　幹　夫 | 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長 | |
| 玉　蟲　　敏　子 | 武蔵野美術大学造形学部教授 | |
| 野　口　　昇 | 日本ユネスコ協会連盟理事長 | |

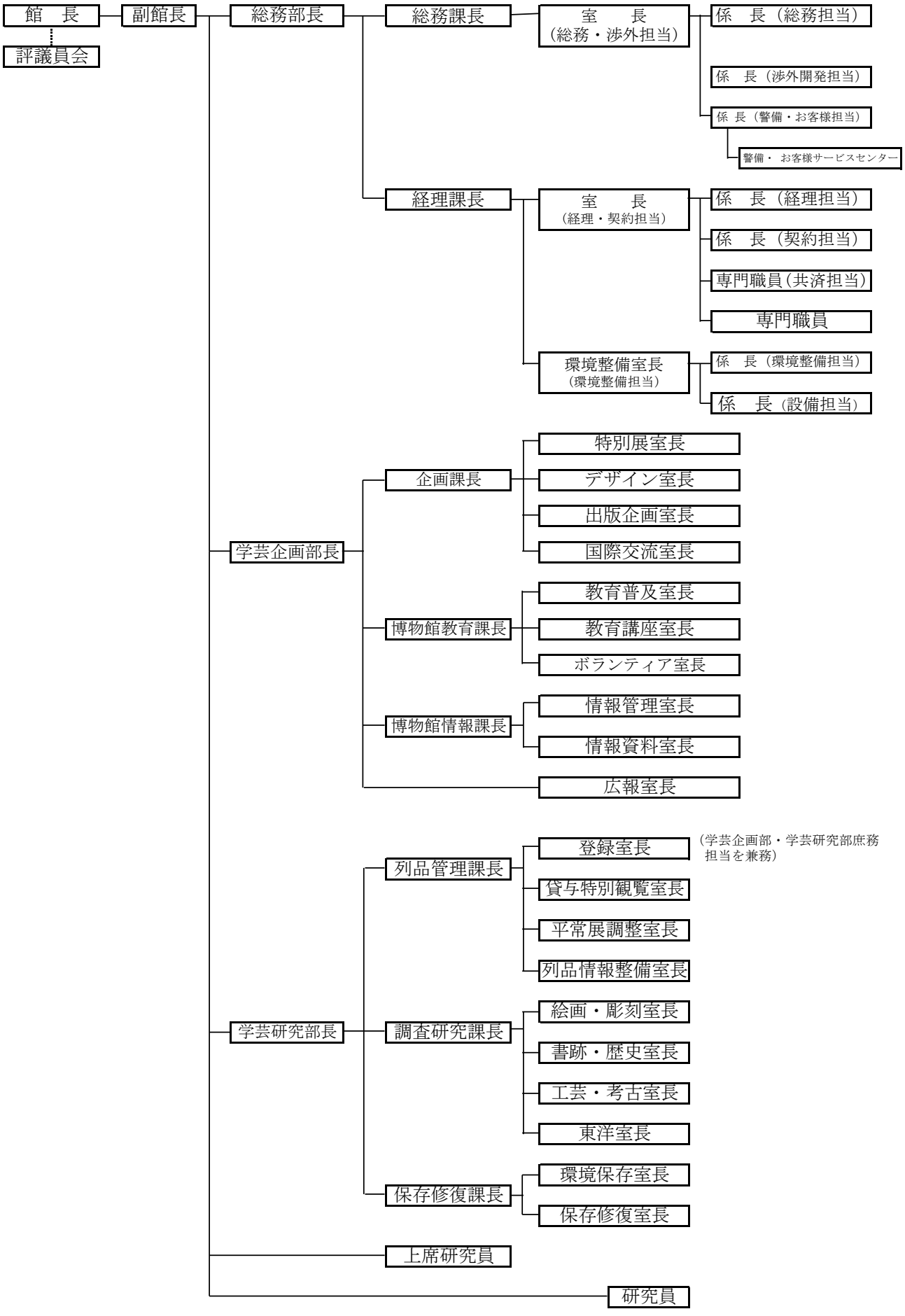
平成22年3月31日現在

◇組　織　図

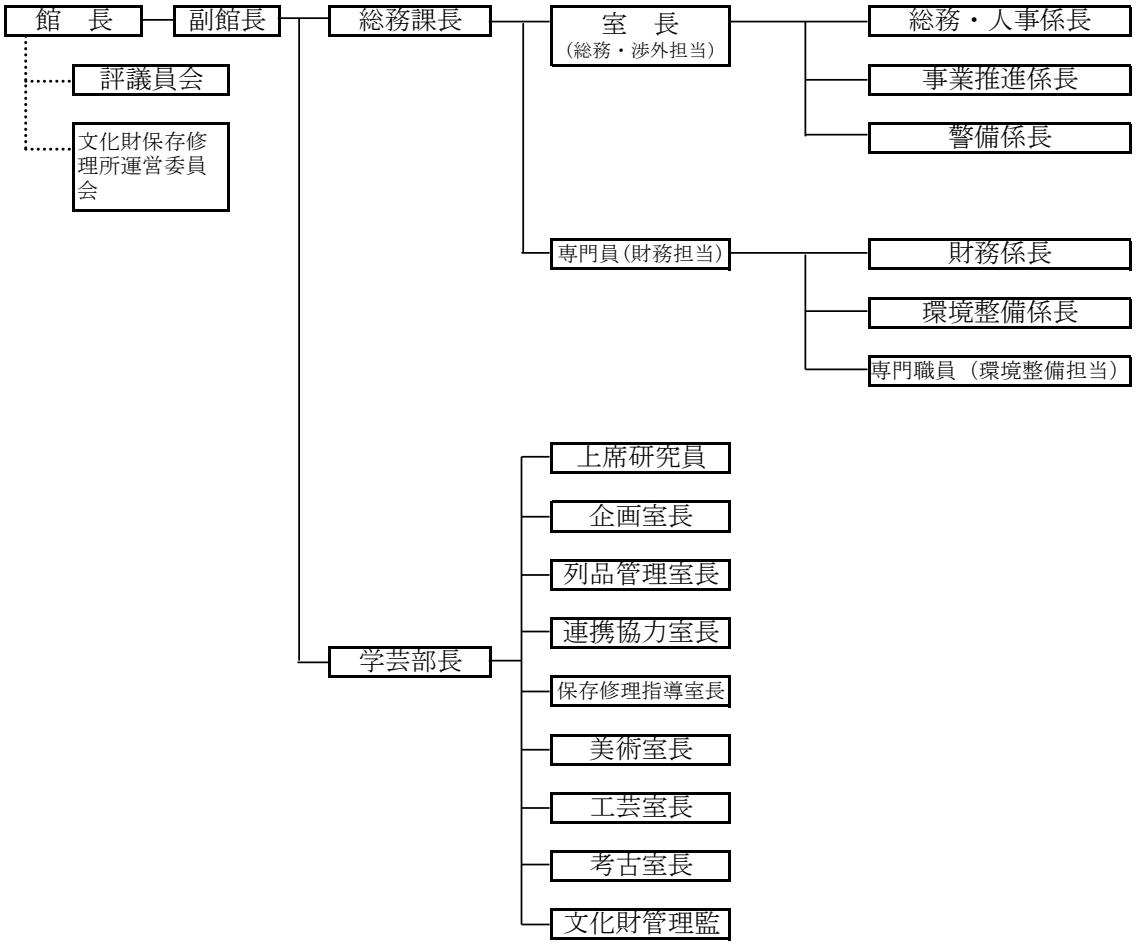
・法　人



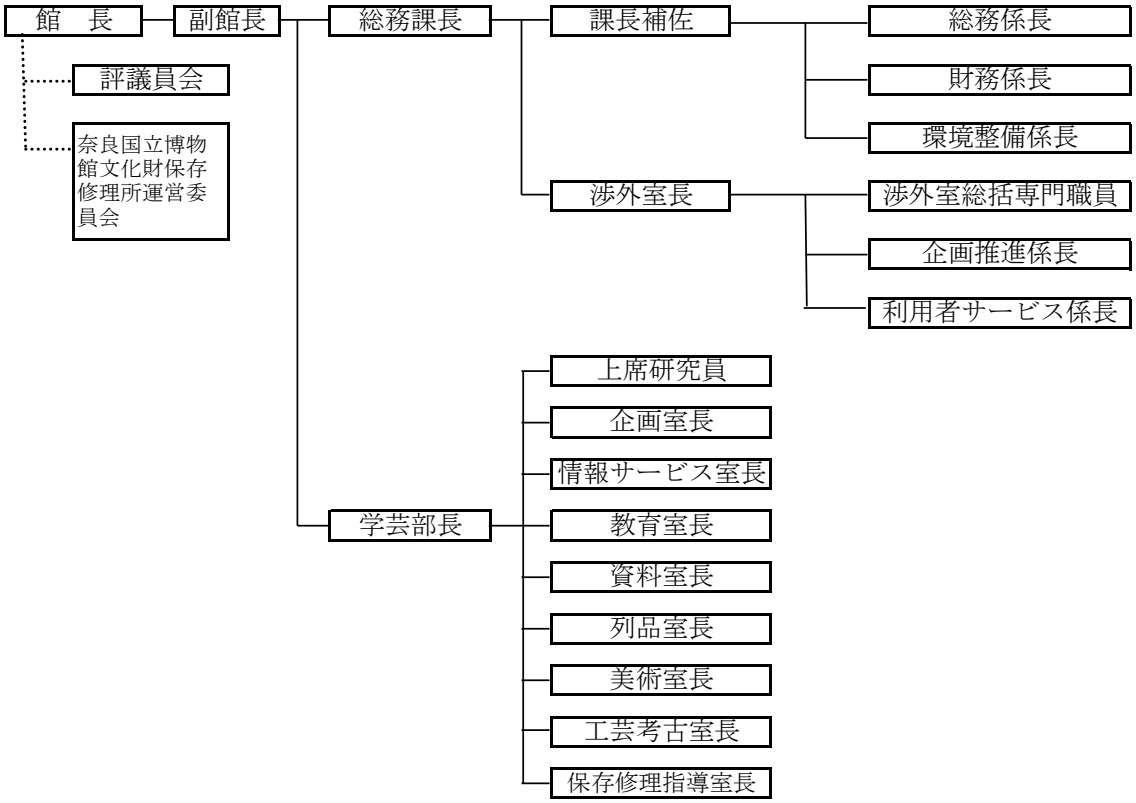
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係 長（警備・お客様担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
係　長（契約担当）
専門職員（共済担当）
専門職員
環境整備室長
（環境整備担当）
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
列品情報整備室長
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸・考古室長
東洋室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
上席研究員
研究員

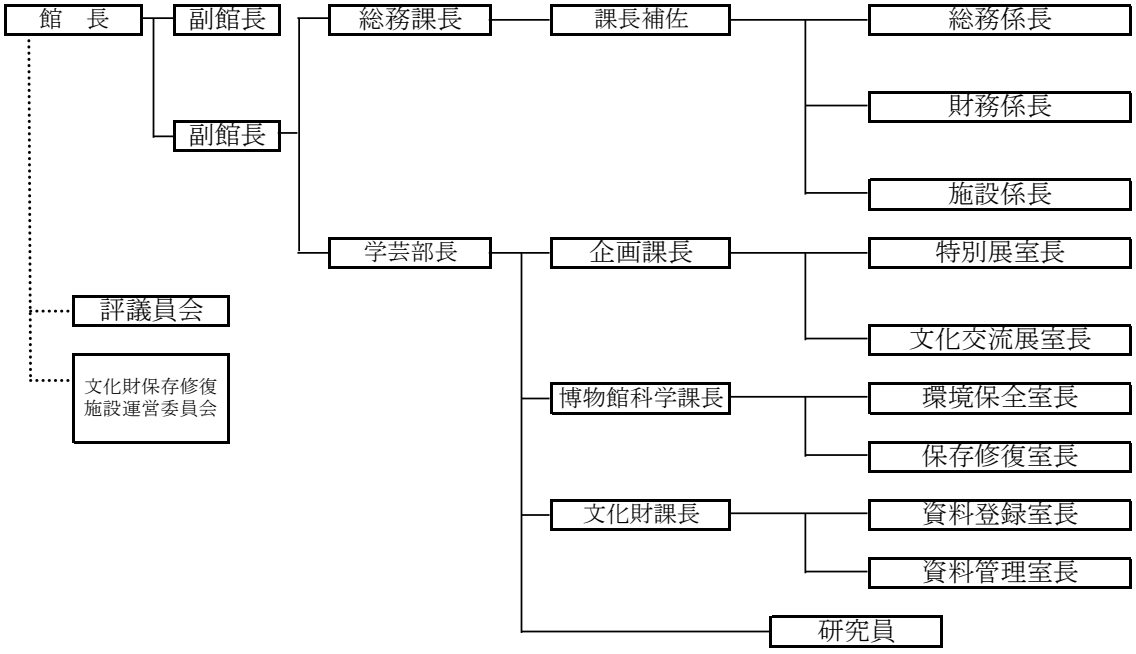
【京都国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
文化財保存修理所運営委員会
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
総務・人事係長
事業推進係長
警備係長
専門員（財務担当）
財務係長
環境整備係長
専門職員（環境整備担当）
学芸部長
上席研究員
企画室長
列品管理室長
連携協力室長
保存修理指導室長
美術室長
工芸室長
考古室長
文化財管理監

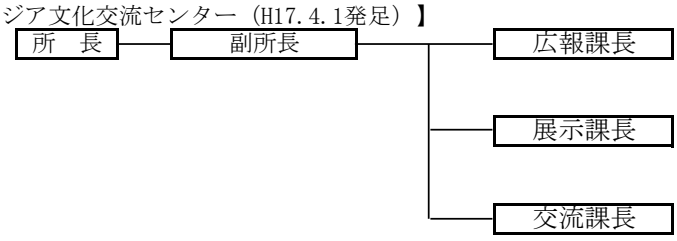
【奈良国立博物館】



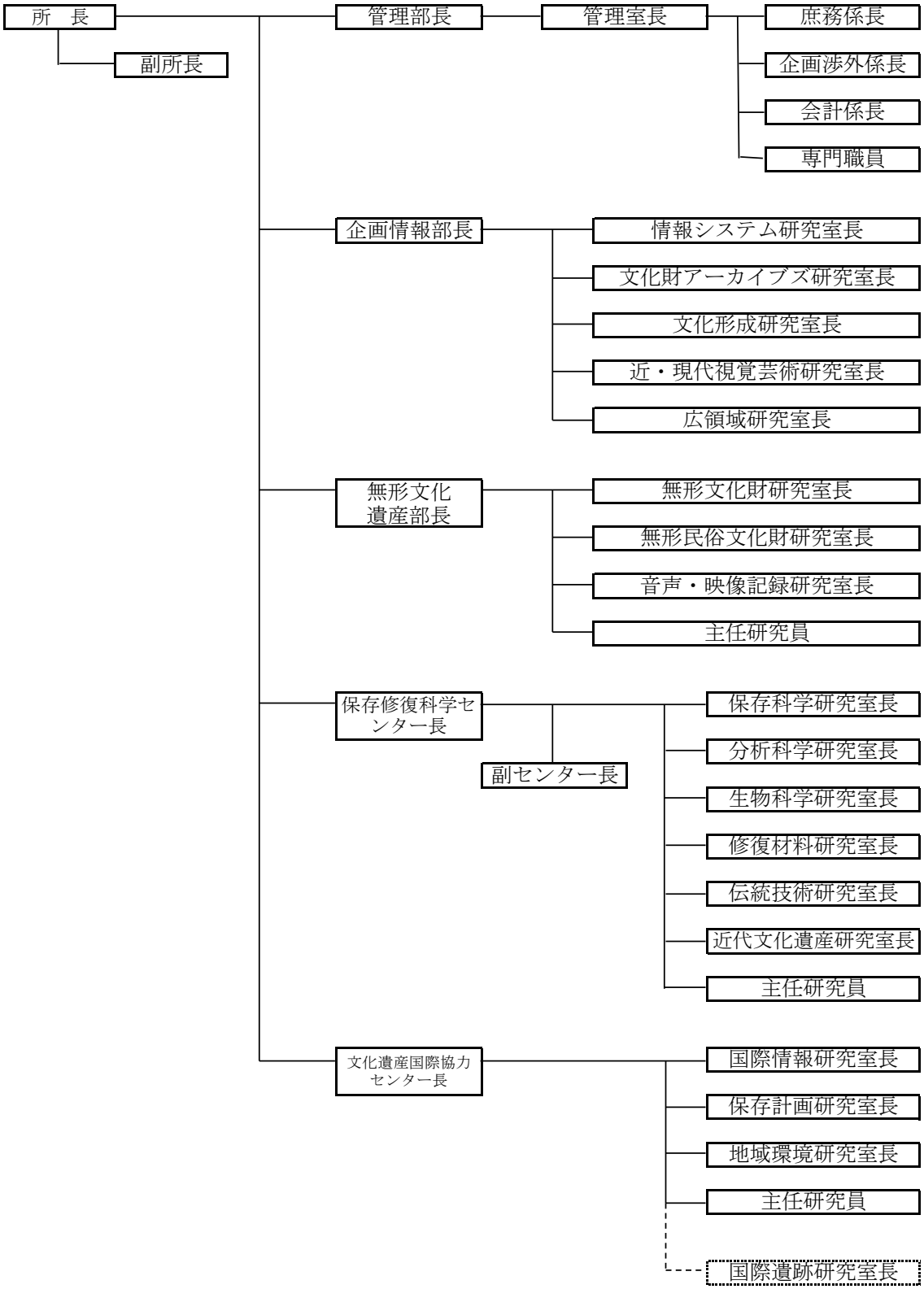

【九州国立博物館】



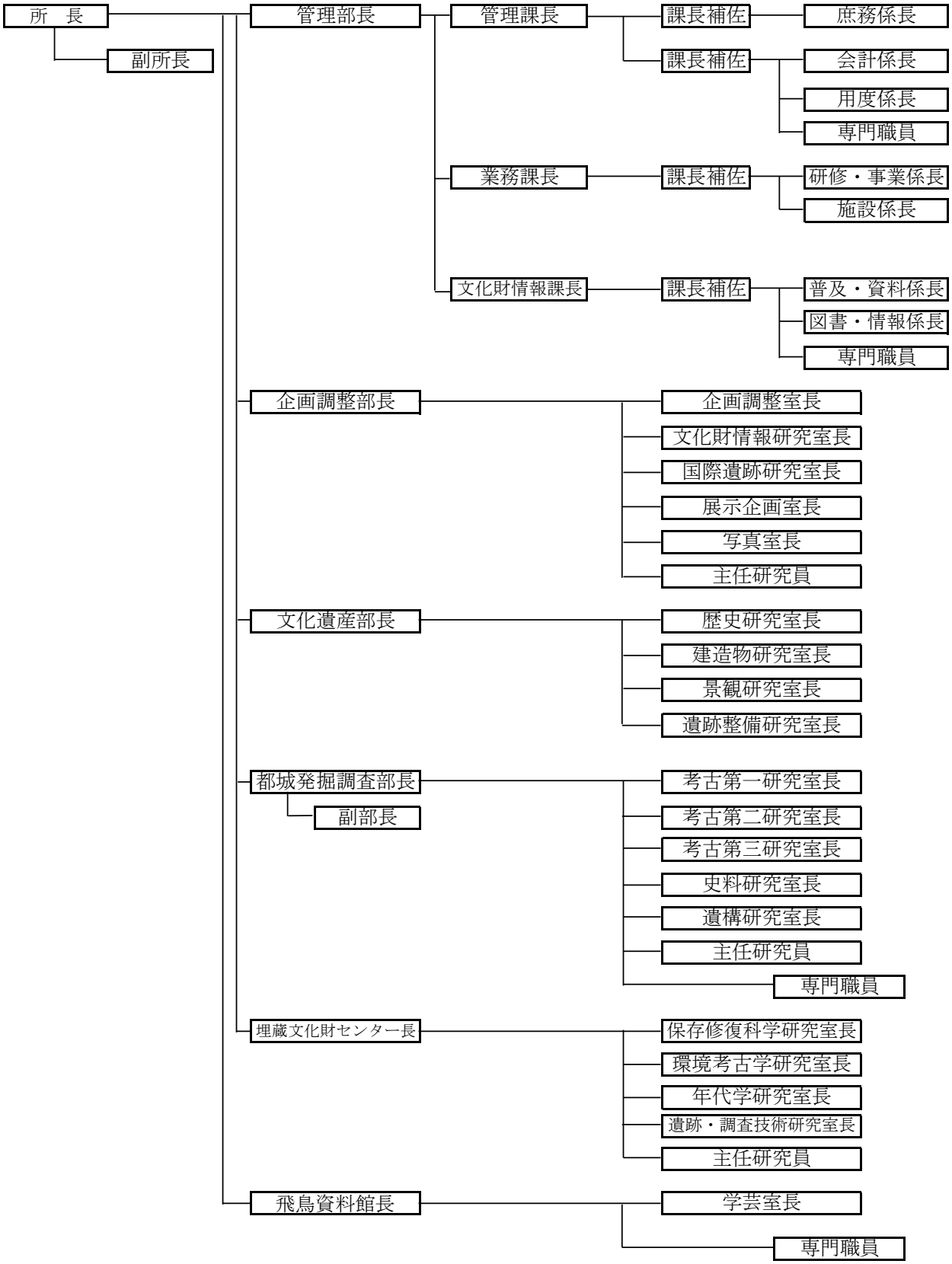

【アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



【東京文化財研究所】


所　長
副所長
管理部長
管理室長
庶務係長
企画渉外係長
会計係長
専門職員
企画情報部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
主任研究員
保存修復科学センター長
副センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】


所　長
副所長
管理部長
管理課長
課長補佐
庶務係長
課長補佐
会計係長
用度係長
専門職員
業務課長
課長補佐
研修・事業係長
施設係長
文化財情報課長
課長補佐
普及・資料係長
図書・情報係長
専門職員
企画調整部長
企画調整室長
文化財情報研究室長
国際遺跡研究室長
展示企画室長
写真室長
主任研究員
文化遺産部長
歴史研究室長
建造物研究室長
景観研究室長
遺跡整備研究室長
都城発掘調査部長
副部長
考古第一研究室長
考古第二研究室長
考古第三研究室長
史料研究室長
遺構研究室長
主任研究員
専門職員
埋蔵文化財センター長
保存修復科学研究室長
環境考古学研究室長
年代学研究室長
遺跡・調査技術研究室長
主任研究員
飛鳥資料館長
学芸室長
専門職員

# 平成２１年度　自己点検評価報告書統計表

# 平成２１年度　自己点検評価報告書　統計表


1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表 ・・・

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績 (P193 ◎共通資料 b)
2-(2)-⑦ 友の会 ・・・

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究
4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (P187 ◎共通資料 a-⑥)
4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (P190 ◎共通資料 a-⑦)

5. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究
5-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
5-(1)-④ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進
5-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
5-(2)-② アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況・・・・・・・・・ 117

6. 情報発信機能の強化
6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実
6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信
6-(2)-① 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
6-(2)-② 公開講演会､現地説明会､国際シンポジウムの開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
6-(2)-③ ホームページアクセス件数 (P196 ◎共通資料 c)
6-(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開
6-(3)-① 入館者数 (P197 ◎共通資料 d-①)
6-(3)-② 入館者数(過去５ヵ年) (P198 ◎共通資料 d-②)
6-(3)-③ 入場料収入 (P200 ◎共通資料 d-③)
6-(3)-④ 平常展・特別展 (P201 ◎共通資料 d-④)
6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援
6-(4)-① ボランティア受入れ実績 (P193 ◎共通資料 b)
6-(5) 文化財情報・研究成果の促進
6-(5)-① ウェブサイトのアクセス件数 (P196 ◎共通資料 c)
6-(5)-② 収蔵品のデジタル化件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果・ 124

◎共通資料
a. 調査研究
a-①研究交流実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

# 1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

## 1-(1) 収蔵品

### 1-(1)-① 収蔵品一覧表

平成22年3月31日現在

| | | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 |
| 合計 | | 121,511 | 129 | 937 | 112,776 | 87 | 624 | 6,526 | 27 | 176 | 1,812 | 12 | 110 | 397 | 3 | 27 |
| 絵画 | | 13,383 | 34 | 199 | 11,087 | 20 | 99 | 1,945 | 9 | 54 | 285 | 4 | 42 | 66 | 1 | 4 |
| 書跡 | | 3,184 | 34 | 166 | 1,715 | 14 | 57 | 1,300 | 15 | 76 | 137 | 4 | 27 | 32 | 1 | 6 |
| 彫刻 | | 1,402 | 1 | 45 | 1,101 | 0 | 22 | 143 | 0 | 1 | 141 | 1 | 16 | 17 | 0 | 6 |
| 建築 | | 77 | 0 | 2 | 21 | 0 | 0 | 49 | 0 | 1 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 |
| 金工 | | 16,361 | 3 | 53 | 15,831 | 1 | 17 | 360 | 2 | 23 | 158 | 0 | 11 | 12 | 0 | 2 |
| 刀剣 | | 3,418 | 20 | 56 | 3,395 | 19 | 56 | | | | 16 | 0 | 0 | 7 | 1 | 0 |
| 陶磁 | | 3,753 | 0 | 16 | 2,931 | 0 | 11 | 712 | 0 | 2 | 81 | 0 | 0 | 29 | 0 | 3 |
| 漆工 | | 4,140 | 6 | 29 | 3,731 | 4 | 19 | 187 | 0 | 2 | 68 | 2 | 5 | 154 | 0 | 3 |
| 染織 | | 4,620 | 2 | 24 | 3,624 | 0 | 17 | 893 | 1 | 6 | 92 | 1 | 1 | 11 | 0 | 0 |
| 考古 | | 29,950 | 4 | 74 | 28,529 | 4 | 55 | 657 | 0 | 10 | 728 | 0 | 8 | 36 | 0 | 1 |
| 民族資料 | | 1,299 | 0 | 0 | 1,190 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 101 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | | 3,726 | 0 | 5 | 3,426 | 0 | 3 | 280 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 1 |
| 和書 | | 17,562 | 0 | 1 | 17,562 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 東洋 | 絵画 | 684 | 4 | 31 | 684 | 4 | 31 | | | | | | | | | |
| | 書跡 | 1,648 | 10 | 12 | 1,648 | 10 | 12 | | | | | | | | | |
| | 彫刻 | 798 | 0 | 20 | 798 | 0 | 20 | | | | | | | | | |
| | 金工 | 986 | 0 | 0 | 986 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| | 陶磁 | 3,004 | 0 | 10 | 3,004 | 0 | 10 | | | | | | | | | |
| | 漆工 | 524 | 0 | 4 | 524 | 0 | 4 | | | | | | | | | |
| | 染織 | 585 | 0 | 1 | 585 | 0 | 1 | | | | | | | | | |
| | 考古 | 5,808 | 0 | 3 | 5,808 | 0 | 3 | | | | | | | | | |
| | 民族 | 3,458 | 0 | 0 | 3,458 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 法隆寺献納宝物 | | 321 | 11 | 181 | 321 | 11 | 181 | | | | | | | | | |
| 黒田記念館収蔵品 | | 814 | 0 | 2 | 814 | 0 | 2 | | | | | | | | | |
| 準歴史資料(含和書) | | 3 | 0 | 3 | 3 | 0 | 3 | | | | | | | | | |

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料(含和書)」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示。

＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした(このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある)。

（参考）

**【奈良文化財研究所】**

**○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）**

平成22年3月31日現在

| 保管及び所蔵文化財・資料名 | 数 |
|---|---|
| [文化遺産部] | |
| 国宝・重要文化財建造物保存図 | 約30,100枚 |
| 国宝・重要文化財建造物摺拓本 | 約26,000枚 |
| 国宝・重要文化財建造物写真乾板 | 約32,000枚 |
| 北浦定政関係資料（重要文化財） | 約1,100点 |
| 棚田嘉十郎関係資料 | 20点 |
| 関野貞関係資料 | 54点 |
| 菅原大三郎資料関係 | 7箱 |
| 森薀資料 | 約4,500点 |
| 村岡正資料 | 約3,000点 |
| 小林剛関係資料 | 約38箱 |
| 牛川喜幸関係資料 | 2,927点 |
| | |
| [都城発掘調査部（平城地区）] | |
| 平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財） | 39点 |
| 平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財） | 1,785点 |
| 興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財） | 一括 |
| 平城宮・京出土土器・土製品 | 29,326箱 |
| 平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品 | 31,899点 |
| 平城宮・京出土瓦類 | 606,766点 |
| 平城宮・京出土木簡 | 199,000点 |
| | |
| [都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)] | |
| 軒丸瓦・軒平瓦 | 約34,745点 |
| 丸瓦・平瓦　土嚢袋 | 約167,754袋 |
| 丸瓦・平瓦　整理箱 | 約37,620箱 |
| 土器　整理箱 | 約15,749箱 |
| 土製品 | 約14,527点 |
| 木器・木製品 | 約33,810点 |
| 木簡 | 約35,151点 |
| 建築部材 | 約2,927点 |
| 金属製品 | 約19,736点 |
| 石器・石製品 | 約14,102点 |
| 漏刻復原模型 | 1点 |
| 山田寺金堂軒先復原模型 | 1点 |
| 古代飛鳥の模型（台付き） | 1点 |
| 著墓の戦いの模型（台付き） | 1点 |
| 幢幡復原模型（台付き） | 一式 |
| 飛鳥大仏頭部複製（模刻） | 1点 |
| 藤ノ木古墳鞍復原模型 | 1点 |
| 山田寺灯籠復原模型 | 1点 |
| 七世紀の武人復原模型 | 一式 |
| 富本銭枝銭復原模型 | 一式 |
| 碁盤復原模型 | 1点 |
| 鉄釜鋳造土坑復原模型 | 1点 |
| | |
| [飛鳥資料館] | |
| 高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具　棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）（重要文化財） | 一式 |
| 須弥山石 | 1点 |
| 石人像 | 1点 |
| 飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具 | 一式 |
| 飛鳥寺出土瓦類 | 一式 |
| 山田寺跡出土品（重要文化財） | 一括 |
| 和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属） | 1点 |
| 川原寺出土水波紋土磚 | 2点 |
| 岡出土車石 | 8点 |
| 飛鳥各地出土瓦類 | 一式 |
| 川原寺裏山出土三尊磚仏 | 2点 |
| 飛鳥川原宮出土唐居敷 | 1点 |
| 高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等） | 3面 |
| 高松塚古墳人物復元衣装 | 一式 |
| 石上神宮七枝刀レプリカ | 1点 |
| 水落遺跡遺構1/20模型 | 1点 |
| 猿石模刻 | 一式 |
| 亀石模刻 | 1点 |

| 保管及び所蔵文化財・資料名 | 数 |
|---|---|
| 須弥山石復元模刻 | 1点 |
| 石人像復元模刻 | 1点 |
| 出水酒船石模刻 | 2点 |
| 阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型 | 3点 |
| 川原寺伽藍1/50模型 | 1点 |
| 山田寺金堂1/10模型 | 1点 |
| 飛鳥京1/500模型 | 1点 |
| 山田寺発掘遺構1/100模型 | 1点 |
| 石舞台古墳1/20模型 | 1点 |
| 飛鳥寺発掘遺構1/100模型 | 1点 |
| 石のカラト古墳1/20模型 | 1点 |
| 野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ | 1点 |
| 銅造摩耶夫人及天人像レプリカ | 4点 |
| 威奈大村骨蔵器レプリカ | 1点 |
| 長谷寺法華説相図レプリカ | 1点 |
| 諸陵周垣成就記並諸陵図譜 | 1点 |
| 鼓銅図録 | 1点 |
| 高松塚古墳木棺模造 | 1点 |
| 八釣マキト5号古墳石室 | 1点 |
| 十二支拓本（表装済み・収納箱あり） | 一式 |
| キトラ古墳模型 | 1点 |
| 山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本 | 各1点 |
| 近藤千尋関連資料 | 一式 |
| | |
| [埋蔵文化財センター] | |
| 埼玉県真福寺貝塚資料 | 一式 |
| 岡山県福田貝塚資料 | 一式 |
| 埼玉県上福岡貝塚資料 | 一式 |
| 神奈川県田戸遺跡資料 | 一式 |
| 神奈川県子母口貝塚 | 一式 |
| 神奈川県大口坂貝塚資料 | 一式 |
| 能登縄文資料（15遺跡） | 一式 |
| 千葉県曽谷貝塚資料 | 一式 |
| 長野県石小屋遺跡資料 | 一式 |
| 山形県蛭沢洞窟資料 | 一式 |
| 東京都小豆沢貝塚資料 | 一式 |
| 茨城県広畑貝塚資料 | 一式 |
| 中国・朝鮮瓦磚資料 | 一式 |
| 岡山地方陶棺資料 | 一式 |
| 下総国分寺・尼寺資料 | 一式 |
| 関東地方加曽利B式資料 | 一式 |
| 岩手県足沢遺跡資料 | 一式 |
| 茨城県浮島貝塚資料 | 一式 |
| 千葉県幸田貝塚資料 | 一式 |
| 滋賀県安土遺跡資料 | 一式 |
| 岡山県黒土遺跡資料 | 一式 |
| 神奈川県保土ヶ谷貝塚資料 | 一式 |
| 千葉県姥山貝塚資料 | 一式 |
| 宮城県川下り・響き資料 | 一式 |
| 大木囲貝塚 | |
| 東貝塚 | |
| 室浜貝塚 | |
| 福浦島貝塚 | |
| 里浜貝塚 | |
| 東北縄文晩期末資料 | 一式 |
| 東北各地発見縄文資料 | 一式 |
| 北海道資料 | 一式 |
| 発見地不詳縄文資料 | 一式 |
| 発見地不詳須恵器資料 | 一式 |
| 発見地不詳石器・石斧資料 | 一式 |
| 愛知県西滋賀貝塚資料 | 一式 |
| 愛知県吉胡貝塚資料 | 一式 |
| 茨城県前浦遺跡資料 | 一式 |
| 関東地方埴輪資料 | 一式 |
| 静岡県登呂遺跡資料 | 一式 |

## 1-(1)-② 平成21年度新収品一覧表

平成22年3月31日現在

| | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 |
| 合計 | 390 | | | 247 | | | 109 | | | 7 | | | 27 | | |
| 計 | 46 | 148 | 196 | 8 | 43 | 196 | 7 | 102 | 0 | 4 | 3 | 0 | 27 | 0 | 0 |
| 絵画 | 14 | 66 | 0 | 3 | 2 | 0 | 3 | 62 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 | 0 | 0 |
| 書跡 | 5 | 11 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 8 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 彫刻 | 2 | 12 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 建築 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金工 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 刀剣 | 2 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 陶磁 | 7 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| 漆工 | 8 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 染織 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 考古 | 3 | 29 | 0 | 0 | 28 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 民族資料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | 4 | 0 | 196 | 0 | 0 | 196 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 和書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 絵画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 書跡 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 彫刻 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 金工 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 陶磁 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 漆工 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 染織 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 考古 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 民族 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 法隆寺献納宝物 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 黒田記念館収蔵品 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 | | | | | | | | | |

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より、15年度以前「歴史資料」と分類していたものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

## 付表・文化財収集件数の推移

### 5年間の新収集品一覧表

| | 平成17年度 | | | | 平成18年度 | | | | 平成19年度 | | | 平成20年度 | | | 平成21年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 購入 | 寄贈 | 編入 | 除却 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 除却 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 | 購入 | 寄贈 | 編入 |
| 合計 | 342 | | | | 238 | | | | 972 | | | 168 | | | 390 | | |
| 小計 | 62 | 173 | 272 | 165 | 53 | 173 | 13 | 1 | 93 | 68 | 811 | 52 | 113 | 3 | 46 | 148 | 196 |
| 絵画 | 14 | 10 | 9 | 6 | 8 | 16 | 1 | 0 | 21 | 16 | 0 | 15 | 5 | 0 | 14 | 66 | 0 |
| 書跡 | 5 | 4 | 15 | 11 | 3 | 24 | 0 | 0 | 5 | 2 | 0 | 12 | 25 | 0 | 5 | 11 | 0 |
| 彫刻 | 2 | 5 | 9 | 4 | 0 | 8 | 0 | 0 | 1 | 9 | 0 | 4 | 0 | 0 | 2 | 12 | 0 |
| 建築 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金工 | 3 | 2 | 101 | 9 | 0 | 48 | 0 | 0 | 3 | 11 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 刀剣 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 |
| 陶磁 | 8 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 0 | 0 | 14 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 7 | 16 | 0 |
| 漆工 | 4 | 3 | 108 | 107 | 23 | 1 | 1 | 0 | 20 | 1 | 0 | 3 | 11 | 0 | 8 | 2 | 0 |
| 染織 | 13 | 1 | 0 | 0 | 8 | 7 | 0 | 0 | 19 | 4 | 0 | 10 | 14 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 考古 | 4 | 130 | 13 | 12 | 2 | 14 | 4 | 0 | 7 | 2 | 1 | 4 | 11 | 1 | 3 | 29 | 0 |
| 民族資料 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 4 | 0 | 196 |
| 和書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 絵画 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 35 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 書跡 | 5 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 彫刻 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 21 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 東洋 金工 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 陶磁 | 0 | 9 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 東洋 漆工 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 9 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 染織 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 考古 | 1 | 0 | 3 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 東洋 民族 | 2 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法隆寺献納宝物 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 黒田記念館収蔵品 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 809 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より、15年度以前「歴史資料」と分類していたものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

## 1-(1)-③ 平成21年度新収品一覧
## 【東京国立博物館】(計247件)

**(1) 購入(8件)**

**＜絵画＞(3件)**

1　○名　　称　山水図屏風
　○作 者 等　呉春（1752～1811）筆
　○時　　代　江戸時代・18世紀
　○品　　質　絖本墨画淡彩
　○寸 法 等　6曲1双　各163.7×364.2cm
　○作品概要　屏風装。松の緑を残す秋の山間を農夫が歩む古村晩帰図を右隻に、冬枯れの滝の冷たく落ちる山間を高士が騎馬で進む寒山行旅図を左隻に描く。各隻の独立性が強く、左右入れ替えても不自然のない構成がとられている。
呉春の師である与謝蕪村が好んだ絖本に蕪村の画風に習って描かれており、絖本の特性を生かした柔らかく澄んだ秋の光が画面にあふれる広やかな山水図となっている。蕪村に習いながら独自の画風を確立していこうとする池田時代の作品と考えられる。

2　○名　　称　男衾三郎絵詞断簡
　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　○品　　質　紙本着色
　○寸 法 等　1幅　本紙 28.7×23.5cm
　○作品概要　掛幅装。男衾三郎絵詞は、鎌倉時代の関東武士、男衾次郎・三郎の兄弟の物語を描いた物語絵巻である。一巻の当館本は鎌倉時代13世紀に遡るやまと絵絵巻として貴重な作品で、重要文化財に指定されている。本断簡はその連れで、昭和49年の当館の「絵巻」展において田中親美蔵として展示された以外、ほとんど知られることのなかった遺品である。兄次郎の死後、その妻と娘が三郎に引き取られるが、継子いじめにあうことが残された詞書中にあり、この部分の絵と考えられる。鎌倉武士の生活ぶりが描かれたものとしても著名な絵巻であり、これを補うものとしてきわめて貴重である。

3　○名　　称　源氏物語絵合・胡蝶図屏風
　○作 者 等　狩野晴川院養信筆
　○時　　代　江戸時代・19世紀
　○品　　質　紙本着色
　○寸 法 等　6曲1双　各　158.0×354.0cm
　○作品概要　屏風装。左右各隻に『源氏物語』の一帖から一場面を選んで描いたもの。右隻は、「絵合」帖から、梅壺女御と弘徽殿女御が冷泉帝の御前で絵合を競う場面、左隻は、「胡蝶」帖から、秋好中宮(梅壺女御)の行なう春の仏事に、蝶の装束をした女童が紫の上の贈った閼伽棚に供える花を持って来た場面が描かれている。
落款の記載から、文政2年（1819）から天保5年（1834）の間に描かれたことが知られる。佐竹本「三十六歌仙絵巻」から小野小町や中務の姿型が利用されており、古画の模写に努めた養信のやまと絵学習の成果が結実した優れた作品である。

**＜彫刻＞(1件)**

4　○名　　称　十一面観音菩薩立像
　○時　　代　平安時代・9世紀
　○品　　質　木造
　○寸 法 等　1躯　像高110.2cm
　○作品概要　頭上に十一面をいただく。左手に蓮華を挿した水瓶をとり、右手は垂下して掌を正面に向ける。腰をやや左方に捻り、蓮台上に立つ。
頭体幹部は通して針葉樹の一材（木心を右後方に込める）より彫出し、両肩以下、両足先等に別材を矧ぐ（別材部は後補）。素地仕上げ。

**＜金工＞(1件)**

5　○名　　称　自在伊勢海老
　○作 者 等　明珍宗清作
　○時　　代　江戸時代・18～19世紀
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　1個　長28.4cm
　○作品概要　鉄製。本物の伊勢海老のように自由自在に動かすことのできる置物で、触覚、腹節、胸脚、尾扇を動かすことが可能で、体全体と伸ばした状態から、触覚を後ろに曲げ、腹節を丸めた姿にすることができる。頭胸甲には全体にトゲを打ち出しで表す。脚に「明珍」、「宗清」と銘を切り分けている。

**＜刀剣＞(2件)**

6　○名　　称　（重要美術品）　短刀
　○作 者 等　越中則重
　○時　　代　鎌倉時代・14世紀
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　1口　刃長　25.2センチ　内反り
　○作品概要　平造、三ツ棟、内反りの短刀。鍛えは大板目肌に杢目を交えて肌立ち、地沸厚くつき、地景太くあらわれ松皮肌となる。刃文は表はのたれに互の目交じり、裏は大のたれとなり、飛焼激しくついて皆焼風となり、沸厚くつき、砂流、金筋激しくかかる。帽子は、表直ぐに小丸、裏沸崩れる。茎は生ぶ、振袖形、先切、鑢目勝手下り、目釘孔4中2埋、佩表の目釘孔下中央に「則重」の銘がある。

7　○名　　称　（重要美術品）　薙刀
　○作 者 等　長船元重
　○時　　代　南北朝時代・建武5年（1338）

○品　　質　鉄製
○寸 法 等　1口　刃長 46.7 ㎝　反り 2.1 ㎝
○作品概要　薙刀造、庵棟、鋒は張らず、反りの浅い薙刀。鍛えは板目肌立ちごころに、一部流れて柾がかり、乱映りが淡く立つ。刃文は中直刃、元の方に逆足入り、匂本位に小沸つき、匂口沈みごころとなる。帽子は直ぐに小丸に返る。彫物は表裏に薙刀樋に添樋を鎚下で丸止めにする。茎は生ぶ、先栗、鑢目筋違、目釘孔 2、佩表の鎚下棟寄りに「備州長船住元重」、佩裏に「建武五年三月日」の銘がある。

**＜漆工＞(1 件)**

8　○名　　称　蓬莱蒔絵香道具箱
○作 者 等　孫兵衛作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　1具　縦 11.3cm　横 18.9cm　高 12.9cm
○作品概要　長方形、印籠蓋造の箱で、蓋の肩から四角にかけてを几帳面に仕立て、蓋と身の縁に玉縁を作る。内に香盆 1 枚、香炉 1 口、重香合 2 合、焚殻入の蓋 1 枚を収める。
箱や内容品の表面は全体を梨子地として、外側には高蒔絵・平蒔絵に切金・金貝・付描を交え、松・竹・梅・橘・椿が生い茂る水辺に鶴亀が遊ぶ、蓬莱の図柄を表わす。また所々に葵紋を散らしている。

**(2) 寄贈 (43 件)**

**＜絵画＞(2 件)**

1　○名　　称　源氏物語色紙
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　(絵)紙本着色 (詞書)紙本墨書
○寸 法 等　8 枚 (絵 2 枚、詞書 6 枚)　各　24.7×21.5 ㎝
○作品概要　もと、『源氏物語』の絵と詞を合わせて貼付した「源氏物語画帖」を剥がしたと思われる色紙 8 枚。内訳は、13 帖「明石」の詞書と明石の入道邸で源氏が琴を入道が琵琶を弾き合わせる場面を描いた絵、15 帖「蓬生」の詞書、20 帖「朝顔」の詞書、23 帖「初音」の詞書、28 帖「野分」の詞書と夕霧が秋好中宮を訪問し覗き見た女童が庭に下り虫籠に露を移す場面を描いた絵、34 帖「若菜上」の詞書である。絵は、土佐光吉 (1539～1613) 風の細密画で、詞書は金銀箔や金銀泥を用いた料紙に書かれ、多くの堂上人の寄合書と推定される。

2　○名　　称　板谷家伝来資料
○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
○品　　質　紙本墨書、紙本墨画、紙本著色等
○寸 法 等　一括
○作品概要　江戸幕府御用絵師板谷家に伝来した代々の下絵、粉本、古文書、印章を含む 10613 件の資料。これまで、古文書の一部が『東洋美術大観 五』(明治 42 年 審美書院発行) により紹介されたものの、下絵等は、未紹介であり、御用絵師の活動ならびに作画学習の様子を知ることのできる原資料である。

**＜書跡＞(3 件)**

3　○名　　称　俳句「道芝や」
○作 者 等　高浜虚子 (1874～1959) 句・筆　中村不折 (1866-1943) 画
○時　　代　大正 15 年(1926)
○品　　質　絹本着色
○寸 法 等　1幅　縦 20.7×横 17.9 ㎝
○作品概要　作句は高浜虚子、画は中村不折。もと絹色紙。平成 8(1996)年、半田九清堂にて掛幅装に仕立てる。「道芝や　たくりためたる　風子のいと」は、大正 4 年発刊の虚子自選句集に収載された句である。高浜虚子(本名・清)はいうまでもなく、正岡子規門下の筆頭として、子規の唱えた近代俳句への革新を引き継ぎ、「写実」「花鳥諷詠」を旨とする俳句文芸誌「ホトトギス」を通じて、俳句を近世の俳諧から短詩形文学に高めた。明治半ば以来親交のあった池田仲博の娘・謙子の婚礼に際し、結婚式に参列できなかった詫びとして贈答したもの。一方明治、大正、昭和期に活躍した日本の洋画家、書家・中村不折は新聞「日本」の記者として正岡子規と同僚であった。子規を通じて虚子とは友人であった。

4　○名　　称　林葉和歌集切
○作 者 等　伝西行筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書／掛幅装
○寸 法 等　1幅　17.3×15.6 ㎝
○作品概要　俊恵(1113～?)の歌集『林葉和歌集』を書写した断簡である。俊恵は平安時代末期の僧で、歌人として知られる。父は源俊頼。早くに東大寺に入った。多くの歌合に参加しており、当時において名だたる歌人であった。
西行の筆と伝えるが、その自筆「一品経和歌懐紙」「書状」と比較して同筆ではない。しかしながら、その書風から 13 世紀前半の書写と推定される。確認される『林葉和歌集』の現存最古の写本である。伝本系統は四つあるが、最善本である神宮文庫本(『私歌集大成』中古Ⅱ所収)とは伝本系統を異にしている。

5　○名　　称　石山切(貫之集下)「しばしわか」
○作 者 等　藤原定信 (1088～1154-?) 筆
○時　　代　平安時代 ・12 世紀
○品　　質　彩箋墨書／掛幅装
○寸 法 等　1幅　19.9×15.6 ㎝
○作品概要　「本願寺本三十六人集」の貫之集下の断簡である。もとは、粘葉装 (二つ折にした料紙の折目の外の部分に、糊をつけて重ね合わせて装丁したもの) の冊子本であった。「本願寺本」は当時を代表する著名な 20 人の能書によって分担執筆されている。
この「石山切」(貫之集下) の筆者は、「中務集」「糟色紙・岡寺切」(順集) も分担執筆している。これは、三跡として名高

い藤原行成から数えて五代目にあたる定信（1088～1154？）の筆跡で、彼は、「小野道風筆屏風土代」跋語（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）「般若理趣経」（春敬書道記念文庫蔵）「詩書切　伝藤原公任筆」（東京国立博物館ほか蔵）などの遺墨を残している。
この断簡は、胡粉を膠で溶いて引き染めにし、二重蔓牡丹唐草模様を雲母で摺り出した華麗な料紙に『貫之集』を揮毫したものである。

**＜刀剣＞(1 件)**

6　○名　　称　（重要美術品）　太刀 備州長船住景光　延慶二年七月日
　○時　　代　鎌倉時代・延慶 2 年(1309)
　○品　　質　鍛鉄製
　○寸 法 等　1 口　73.0×2.1 cm
　○作品概要　鎬造、庵棟、腰反り高く、先でも僅かに反って中鋒のやや細身の太刀である。鍛えは小板目よく約み、乱映り立ち地鉄冴える。刃文は直刃調に佩裏元の方に小丁子ごころ連れ、小足よく入り、匂口しまり冴える。帽子は直ぐに小丸に返る。彫物は表裏に棒樋を腰で丸止めし、その下に佩表は倶利伽羅龍、佩裏は梵字を彫る。茎は生ぶ、先浅い栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔 3、佩表のハバキ下棟寄りに「備州長船住景光」、佩裏に「延慶二年七月日」の銘がある。

**＜考古＞(28 件)**

7　○名　　称　ガラス管玉
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　ガラス製
　○寸 法 等　一括　長 2.4～2.9 cm、幅 1.0～1.5 cm、厚さ 0.5 cm
　○作品概要

8　○名　　称　ガラス小玉
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　ガラス製
　○寸 法 等　一括　径 0.3～0.5 cm
　○作品概要　鉛ガラス製。風化のためほとんど原形を保っていないが、元は径 0.3～0.5 の球形を呈していたと思われる。本来は緑色であるが、風化のため表面は白色を呈する。いずれも巻き技法の単品製作。

9　○名　　称　飾金具
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　銀製、ガラス製
　○寸 法 等　2 個　①2.0×0.7 cm、②1.8×1.1 cm
　○作品概要　銀薄板製の縁金具と中心飾のガラスよりなる。縁金具は中央部が両側にはり出した長楕円形のもので、中心部は四弁の花びら状にくりぬかれ、そこにガラスをはめる。裏面には漆状の接着材を塗布する。ガラスは鉛ガラスで風化が著しく、白色を呈する。

10　○名　　称　金銅金具残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金銅製
　○寸 法 等　一括　最大片 1.8×1.4 cm
　○作品概要　金銅薄板の細片。刀装具か。

11　○名　　称　螺旋状金線
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金製
　○寸 法 等　7 個　長径 0.25～0.5 cm、高さ 0.4 cm
　○作品概要　径 0.3 ㎜の金線を 9～12 回螺旋状に捲上げ、長径 0.25～0.5cm、高さ 0.4cm の扁平な円筒状につくったもの。

12　○名　　称　金糸残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金製
　○寸 法 等　一括　最大長 4.3 cm
　○作品概要　幅 1㎜ほどの金の細長い板を撚って糸状にしたもの。

13　○名　　称　銀糸残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　銀製
　○寸 法 等　一括　最大長 3.0 cm
　○作品概要　幅 1㎜ほどの銀の細長い板を撚って糸状にしたもの。酸化のため黒色を呈する。

14　○名　　称　金象嵌鉄刀残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土

○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製、金象嵌
○寸 法 等　一括　長1.8～5.3 ㎝
○作品概要　刀身平部に蹴り彫りの金象嵌で龍文・飛雲文を施している。木質付着。

15 ○名　　称　鉄刀残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　一括　最大長13.2 ㎝
○作品概要　鉄刀身残片。木質付着。

16 ○名　　称　鉄器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　一括　鉄鏃片）最大長5.2 ㎝
○作品概要　鉄鏃の茎片のほか、器種不明の破片がある。

17 ○名　　称　漆塗籠棺残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　籠製漆塗
○寸 法 等　一括　厚1㎝、桟部約1.5 ㎝
○作品概要　籃胎漆器製棺材。植物質編組製素地(胎)に下地を施し、内外面を漆塗りする。胎は経に細撚紐、緯に太撚紐、所々に撚紐状の経・緯に桟を有する。内面は朱漆で明赤色、外面は黒漆で暗黒褐色を呈す。

18 ○名　　称　夾紵棺残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　乾漆製
○寸 法 等　一括　厚0.3 ㎝、5.5×4.2～0.5 ㎝程度
○作品概要　夾紵製棺材。5～6層の麻布を素地の芯として漆で塗り固め、さらに表裏面に2～3層の平絹を漆で塗り固めて仕上げる。内外面は暗灰褐色を呈する。

19 ○名　　称　緑釉棺台残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　一括　復元)長2.1m、幅0.75m、高0.21m。隅部残片)残存長27.5 ㎝、残存幅18.0 ㎝、残存高21 ㎝
○作品概要　緑釉棺台残片。僅かに開く立上がりをもつ。隅丸長方形の容器。全体はナデ整形仕上げされるが、各所にハケ目が残る。下面には脚台の痕跡が残る。淡青灰色。内面の全面および外面壁体部の外面に淡青灰色の緑釉を施釉する。胎土は明灰褐色。

20 ○名　　称　扉石残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　一括　残片)42.0×29.0×23.0 ㎝以下。復元値は、幅160 ㎝、高160 ㎝、厚30 ㎝。
○作品概要　横口式石室の奥室扉石残片。安山岩[寺山青石]製。大阪平野東方の羽曳野地方で産出する石材を用いる。前室との境部に填め込まれた石材で、盗掘時に破壊された部分。中央に円孔をもつ。暗黒灰色を呈する。

21 ○名　　称　台石
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　1個　高47.0 ㎝、幅45.5 ㎝、厚23.5 ㎝
○作品概要　矩形を呈する台形の石材。安山岩[寺山青石か])製。儀式用説もあるが用途不詳。底面を平滑なほぼ長方形に加工するが、側面は粗い調整を施す。頂部の一部を欠損する。明灰褐色を呈する。

22 ○名　　称　敷石
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　5枚　①長48×幅32×厚6、②長40×幅30×厚4、③長40×幅29×厚6、④長37×幅22×厚6、⑤長27×幅27×厚6　㎝
○作品概要　石製板状磚。室生溶結凝灰岩[榛原石]製。奈良盆地東側の榛原地方で産出する石材を用いる。いずれも両面を平滑に加工し、長方形に近く隅部を造り出す。一部に、漆喰および鉄分の付着が認められる。灰褐色を呈する。

23 ○名　　称　敷石残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製

○寸 法 等　一括　最大値)35.0×30.0 cm
○作品概要　石製板状磚。室生溶結凝灰岩[榛原石]製。奈良盆地東側の榛原地方で産出する石材を用いる。いずれも両面を平滑に加工し、長方形に近く隅部を造り出す。一部に、漆喰および鉄分の付着が認められる。灰褐色を呈する。

24 ○名　　称　石材残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　一括　石材)6.1×5.7～3.5×2.4 cm。礫)0.7×0.6 cm
○作品概要　石槨の一部に使用されたと推定される石材残片。石英安山岩[寺山青石]製。扉石と類似する材質。暗黒灰色を呈する。礫は石英に類似。

25 ○名　　称　漆喰残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
○品　　質　石灰製
○寸 法 等　一括　最大値)15.0×7.0 cm
○作品概要　敷石・扉石等に付着する漆喰小塊、または細片。扉石・陶製棺台を固定するため等に使用されたと推定される。暗白灰色を呈する。

26 ○名　　称　須恵器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　鎌倉時代・13～14 世紀
○品　　質　須恵製
○寸 法 等　一括　壺口縁部片）幅 6.3 cm、7 cm　瓶）復原底径 9 cm
○作品概要　壺、瓶などの破片。
壺：口縁部破片 2 個。幅 6.3 cm、7 cm。口縁は強く外反する。
瓶：底部破片 1 個。復原底径 9 cm。回転糸切り痕をもつ。

27 ○名　　称　土師器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　鎌倉～江戸時代・13～17 世紀
○品　　質　土製
○寸 法 等　一括　羽釜片）9×6 cm　灯明皿）口径 8.5 cm、高 1cm
○作品概要　坏、灯明皿、羽釜などの破片。
羽釜：口縁部破片。9×6 cm。口縁直下に鍔をめぐらす。
灯明皿：口径 8.5 cm、高 1cm。内面に煤付着。

28 ○名　　称　瓦器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　平安～鎌倉時代・12～13 世紀
○品　　質　土製
○寸 法 等　一括　椀）①口径 14.5 cm、高 5.5 cm、②口径 14.6 cm、高 5.0 cm、③復原口径 10 cm、復原高 4.5 cm
○作品概要　椀、皿などの破片。
椀：①ほぼ完形。口径 14.5 cm、高 5.5 cm。高台は低く外傾する。内面および口縁部外面は黒色を呈する。
②略完形。口径 14.6 cm、高 5.0 cm。高台は低く、断面三角形を呈する。内外面とも黒色を呈する。
③半欠。復原口径 10 cm、復原高 4.5 cm。高台は微隆起程度。灰白色を呈する。

29 ○名　　称　陶器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　一括　擂鉢片）8×7.5 cm
○作品概要　茶碗、擂鉢、甕、皿などの破片。
擂鉢：口縁部片。8×7.5 cm。内面に櫛目が 1 箇所見られる。灰黒色を呈する。
茶碗：①外面に横方向の刷毛目を施す。

30 ○名　　称　磁器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　磁製
○寸 法 等　一括　茶碗）①口径 9.4 cm、高 5.0 cm、②高 5.5 cm　筒茶碗）①口径 7.4 cm、高 5.3 cm
○作品概要　茶碗、盃など。

31 ○名　　称　瓦残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18～19 世紀
○品　　質　瓦製
○寸 法 等　一括　最大値 12.2×5.2 cm
○作品概要　平瓦の小片。多くは灰黒色を呈する。

32 ○名　　称　銭貨
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・17～18 世紀
○品　　質　銅製、鉄製
○寸 法 等　22 枚　銅銭：径 2.15～2.6 cm、鉄銭：径 2.5 cm
○作品概要　銅銭：17 枚（完形 14 枚、破片 3 枚）。寛永通宝。裏面無文。
鉄銭：5 枚（完形 1 枚、破片 4 枚）。錆のため銭文不詳。

33 ○名　　称　石片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　不詳
○品　　質　サヌカイト
○寸 法 等　1 個　4.5×4.5 cm
○作品概要　サヌカイト。石器製作の際に生じた剥片。

34 ○名　　称　獣骨残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　不詳
○品　　質　獣骨
○寸 法 等　一括　臼歯）最大値 2.8×2.0×4.5 cm
○作品概要　ほとんどが、ウマの上顎骨片と上顎の切歯・臼歯片。

**＜東洋彫刻＞(1 件)**
35 ○名　　称　如来立像
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　ストゥッコ・彩色
○寸 法 等　1 躯　総高 71cm　像高 65 cm
○作品概要　全体をストゥッコによって浮彫風に成形した如来立像。頭髪は波型をし、体には通肩に衣をまとい、わずかに右膝を曲げ、円形の台座に立つ。右腕は肘先を曲げて手首近くまで衣で覆い、胸前で衣端をつかみ、左手はわずかに肘を曲げて垂下し、衣端をつかむ。衣には、襞を縦方向に浅く刻み、右胸には内衣を薄く刻出する。像の背面に、石灰岩の切石がつく。光背の上部や周辺部に欠損があり、足先などにも小さな欠失部がある。鼻梁の先端は後補になり、首にひび割れがある。頭髪・眉・瞳に墨彩、光背周縁部・髪際・唇・衣褶線・台座などに朱彩がある。

**＜東洋陶磁＞(1 件)**
36 ○名　　称　黄釉絞胎枕
○時　　代　唐時代・8 世紀
○品　　質　陶器
○寸 法 等　1 個　最大幅 12.2 cm　奥行き 8.5 cm　高 6.7 cm
○作品概要　白く精製された陶胎である。シンプルな箱形の枕であるが、四隅が面取りされ、上面はゆるやかに傾斜している。鉄分の多い黒褐色の土を混ぜ込んで、マーブル柄のような複雑な文様をあらわし、そのうえから低火度釉の黄釉をかけている。釉は透きとおっており、つやがある。側面に空気孔が一箇所あいている。底は中央部分が露胎である。

**＜東洋考古＞(2 件)**
37 ○名　　称　彩文土器　幾何学文装飾把手付壺
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 8～前 6 世紀
○品　　質　土器。赤・黒色彩文による装飾。土製
○寸 法 等　1 口
○作品概要　いわゆる偏壺。横長の本体、口縁部の開いた筒状の頸部、「く」の字形の帯状把手を取り付けたもの。丸底で自立しない。赤色の胎土に乳白色の化粧土をかけ、黒・赤 2 色の顔料を用いて、同心円・平行線による幾何学的文様を描き、焼成している。

38 ○名　　称　彩文土器　幾何学文装飾双耳付壺
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 8～前 6 世紀
○品　　質　土器。赤・黒色彩文による装飾。土製
○寸 法 等　1 口
○作品概要　大型のアンフォラ型容器。口縁部の開いた太い筒形の頸部、やや腰高の球形胴部、横位置に取り付けられた 2 つの把手、低い輪高台の底部からなる。赤色の胎土に乳白色の化粧土をかけ、黒・赤 2 色の顔料を用いて、同心円・平行線などの幾何学的文様を描き、焼成している。

**＜黒田記念館収蔵品＞(5 件)**
39 ○名　　称　芍薬
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 37 年(1904)
○品　　質　板・油彩
○寸 法 等　1 面　34.8×26.0cm
○作品概要　明治大正期の美術界に大きな影響力を持った黒田清輝の二度目の渡欧後まもない作品。フランスのアカデミックな絵画教育を受けた黒田にとって、花は寓意的な意味を持つ重要なモチーフであった。ユリ、薔薇、菊、つづじなどが好んで描かれているが、芍薬も複数描かれている。この作品には、1900 年から 1 年間の二度目の留学期にヨーロッパで盛んで会ったアール・ヌーヴォに学んだ画風が認められ、黒田のこの時期の画風をよくあらわす 1 点である。黒田の逝去の翌年に刊行され、黒田

のカタログ・レゾネ的位置にある『黒田清輝作品全集』（審美書院）に「芍薬」（北村峰子蔵）として掲載されている。

40 ○名　　称　舟
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治時代・19 世紀
○品　　質　キャンバス・油彩
○寸 法 等　1 面　32.5 ×45.5cm
○作品概要　黒田清輝は都市よりも田園の風景を好み、また水辺を好んで描いた。1891 年にサロン初入選を果たした翌年、水辺で憩う女性群像を大画面に描こうと試みており、この作品は、晩年まで続く、いわゆる構想画制作の試みとの関連も考えられる。画業の初期に見られる穏やかな写実性と青緑色を基調とする色彩が認められ、黒田の比較的初期の画風をよくあらわす 1 点である。黒田の逝去の翌年に刊行され、黒田のカタログ・レゾネ的位置にある『黒田清輝作品全集』（審美書院）に「舟」（北村峰子蔵）として掲載されている。

41 ○名　　称　林政文肖像
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・鉛筆
○寸 法 等　1 面　25.3×18.4cm
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争で行動をともにした新聞記者、林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）の肖像画で、黒田から像主に贈与されたと伝えられる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されており、久保田金僊による林政文像を伴っている。

42 ○名　　称　日清役二龍山砲台突撃図
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・水彩
○寸 法 等　1 面　16.0×24.2cm
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争を主題とし、着色された１枚ものの作品として非常に稀少である。画面左下のフランス語は黒田自筆と考えられ、黒田から新聞記者であった林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）に贈与されたことがわかる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されている。

43 ○名　　称　林政文肖像
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・インク
○寸 法 等　1 面　長辺 8.5cm（楕円型変形）
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争で行動をともにした新聞記者、林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）の肖像画で、黒田から像主に贈与されたと伝えられる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されている像と同じであるが、久保田金僊による林政文像を伴わない。

**(3) 編入（442 件）　…新収品一覧表では 196 件**

※準歴史資料からの編入 442 件のうち、246 件は準歴史資料数を減じ収蔵品総数に影響しないため、新収品一覧表の編入件数としては 196 件を計上。

**＜歴史資料＞**

○名　　称　（歴史資料）
○時　　代　江戸～明治時代・18～19 世紀
○品　　質　巻子、掛軸、折仕立等／紙本墨画、紙本著色等
○作品概要　いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属せなかった資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。平成 13 年度から、歴史資料を列品に編入する作業を行っており、本年度は 442 件を列品に編入する。その内容は種々多様で、今回編入にかかる中には「五海道其外分間延絵図並見取絵図」「壬申検査社寺宝物図集」などの重要文化財も含まれる。また狩野晴川院養信ほか木挽町狩野家の筆写になる「法隆寺什物図」や、江戸幕府の昌平坂学問所で収集された「編修地志備用典籍」(絵図・地図・城郭図類)なども含まれる。

## 【京都国立博物館】(計 109 件)

**(1) 購入(7 件)**

**＜絵画＞(3 件)**

1 ○名　　称　「新曲」絵巻　2 巻
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○寸　　法　（上）縦 33.2cm　全長 1722.2cm　35 紙（下）縦 33.2cm　全長 1463.8cm　29 紙
○作品概要　この作品は幸若舞の「新曲」を絵巻化したもので、「新曲」という名は、幸若舞曲に最後に追加された新しい曲であることによるという。
物語は『太平記』巻第十八の「一宮御息所事」に取材したもので、後醍醐天皇の第一皇子尊良親王の恋を主題としている物語の梗概は以下の通りである。

一宮（後醍醐天皇の第一皇子尊良親王）は、左大臣家の絵合でみた源氏絵に描かれた女性に魅かれる。賀茂詣での帰り、琵琶の音に引かれて垣間見した邸で、絵の中の女に似た女性を見つけ、恋に落ちる。彼女は徳大寺左大将の許嫁だったが、左大将が身をひき二人は結ばれる。そののち元弘の乱が起き、一宮は土佐に配流となった。一宮は配下の秦武文を、都に残った御息所の迎えに遣わすが、その帰途、御息所は松浦五郎なる者に奪われ、武文は自害する。松浦の舟は鳴門で動かなくなり、龍神を鎮めるために姫の衣装をなげる。また海上に武文の霊が出現し、松浦は御息所を小舟に乗せて流す。海に流され、一宮のもとに届けられた御息所の衣装を見て宮は御息所の遭難を知り菩提を弔う。そののち一宮は帰京し、阿波の武島に漂着し漁師の元で助けられていた御息所も都へ迎えられ、二人は幸せな再会を果たす。
原拠となる『太平記』では、このあと尊良親王の戦死と御息所の死までを語り、同じ話に取材した『中書王物語』も同様の結末を迎えるのに対し、『新曲』は祝儀性が強い。
『新曲』の奈良絵本は、明星大学所蔵縦型特大本２冊、工藤早弓著『奈良絵本上』（京都書院）所収横型本２冊、『日本書古書目録 89』(臨川書店)所載横型３冊本、京都・個人蔵改装絵巻本２巻の４点が知られるが、絵巻はこの一作のみである。金泥下絵のある詞書料紙をもち、町絵師の画風になる絵巻は、近世大名の注文制作になることが指摘されているが、この絵巻もその可能性がある。制作時期は、人物表現や水墨画中画の特色などから、十八世紀初め頃と推定される。
この絵巻は各巻首に「松代藩飯島勝蔵書章」の印があり、箱に「菊園文庫」と記されており、松代藩の故実家で、幕末に藩史編纂を行った飯島勝休(1815～1888)の蔵書であったことが知られる。飯島の蔵書のうち、藩史史料は現在長野県歴史館に飯島文庫として保管されているが、文学資料は外に出たらしく、他にも同印のある本が知られている。本絵巻は近年イギリスのオークションで出品され、里帰りした。

2　〇名　　称　双鹿図　長澤蘆雪筆　１幅
　〇時　　代　江戸時代
　〇寸　　法　縦 79.2cm　横 88.7cm
　〇作品概要　立ち姿の雄鹿と、脚を屈した雌鹿が描かれる。左下に「蘆雪写」の署名と「長澤」「魚」の印がある。長澤蘆雪（1754～1799・宝暦 4～寛政 11）は、円山応挙の門人。その作品には、自由な主題解釈、さまざまな造形表現の実験が見られ、独自の生命感あふれる表現をしめしており、個性的画家として評価はとみに高まっている。
印は、山川武氏による印譜（国華 860 号）の No.20 にあたる。森川家旧蔵「蓬莱山図」、「蘇晋長斎図」（黒川古文化研究所）、「薔薇孔雀図」（千葉･和歌山蘆雪展 No.82)の印影と一致する。草書落款であり、南紀での仕事のあと、とくに寛政 4 年(1792)以降、最晩年作と目される。
当館蔵の円山応挙筆「鹿図」2 曲 1 隻の図様をちょうど 180 度回転させたような図様で、応挙の雄鹿が正面観でこちらを見つめるのに対し、こちらにお尻を向けた後姿に描かれている。応挙の鹿の顔が可憐な表情をしめすのに対して、この蘆雪の鹿の顔はどこか人間臭く、一癖あるような表情をしめしている
対象は、細部までじつに丁寧に描かれており、芦雪の力量がよく窺える。館蔵の応挙の鹿図は、18 世紀半ば以降、大流行した南蘋流の鹿の描き方と関連付けられるが、蘆雪の鹿図は、その延長線上にあって、さらに蘆雪らしい変化を加えたものと位置づけられよう。
蘆雪が描いた動物図としては南紀・無量寺の虎図襖が有名で、その人間くさいユニークさが注目されているが、本作にも蘆雪らしい魅力が遺憾なくしめされている。なお、背景の金泥によるすやり霞は料紙になじんでいて当初のものとみてよく、画面に気品ある輝きを与えている。

3　〇名　　称　秘伝画法書　狩野永良筆　２冊
　〇時　　代　江戸時代
　〇寸　　法　各縦 18.1cm　横 12.2cm
　〇作品概要　京狩野家の画法の秘伝書で２帖からなり、表裏にわたって文章・図解がみられる。
「上帖」では、序文のあと、牧渓・玉澗・高然暉・夏珪をはじめ中国の画家 15 名の画法を文章で記したあと、岩・滝・水流の描き方、樹木の描き方、飛ぶ鳥の描き方、樹木の木肌の描き分け、人物の描き方（とくに裸体を描いて、その上に着物をきせて描く方法は、円山応挙の手法の先駆けとなるもの）などを図解する。「下帖」では、人物の描き方、山水図の描き方、楼閣の描き方、馬の描き方、宝珠の描き方が図解されている。
序文末に「時ニ宝暦十三癸未年孟夏下旬／狩野縫殿助藤原永良謹白」とあり、白文方印「狩埜」朱文方印「永良」が捺されている。これにより、宝暦十三年（1763）４月下旬、狩野永良（1741～1771）23 歳のときの自筆本と分かる。
狩野永良は、山楽・山雪に始まる京狩野の第六代。31 歳没と若くして没している。公家の九条家や宮廷で活動した。若くして亡くなったため、作品の絶対量も限られると思われる。作例としては、「白梅群鶏図」（京都国立博物館、平成 20 年度購入)、「親子犬図」「西王母・東方朔図屏風」（いずれも静岡県立美術館)、「鶏図」（桑名市美術館寄託）など、数件が知られるにすぎない。遺された作品には、同時代の長崎派や伊藤若冲、池大雅などの影響がしめされている。
土居次義「『画伝集』の人物画法」（『近世日本絵画の研究』美術出版社　1970　所収）に、土居氏所有の狩野永良の秘伝画法書が紹介されている。それは、宝暦 13 年７月に武川善治郎なる人物に与えたものだが、当該秘伝画法書は、序文から、永良の弟子とおぼしき「後藤行晴」なる人物に与えられたものとみられる。
京狩野については、初期の山楽・山雪・永納・永敬、幕末の永岳に関しては、かなり研究されてきたが、その間の絵師に関しては、これまでほとんど研究が進んでいない。今後、研究されるべき絵師たちであり、なかでも京都文化の隆盛期である 18 世紀半ばに活動した永良は注目される。その永良がのこした、京狩野の絵画制作法のいったんをしめす、きわめて興味深い資料である。

**＜陶磁＞(1 件)**

4　〇名　　称　色絵西洋人物図急須　尾形周平作　１口
　〇時　　代　江戸時代(19 世紀)
　〇寸　　法　総高 9.9cm　口径 6.4cm　胴径 9.3cm　底径 6.9cm　長 12.0cm　幅 10.7cm
　〇作品概要　江戸時代後期の京焼の名工として知られる二代高橋道八（仁阿弥：1783～1855）の実弟・初代尾形周平（1788～1839）の製作にかかる煎茶具の急須。周平は、尾形乾山（1663～1743）に私淑し、尾形姓を名乗った。共箱であることに加え、胴部に「應需造之　甲午秋良日　尾形周平」という赤絵銘があることから、天保五年(1834)に製作されたものであることが判り、貴重である。
胴部に描かれた西洋人図ひとつをとっても、「阿蘭陀趣味」といわれる江戸時代後期の西洋趣味は充分に窺われるところであるが、クリーム色の器に褐色の彩色を施している点も、クリームウェアと呼ばれるイギリス製の皿の意識的な模倣と考えられ、全体に「阿蘭陀趣味」溢れる作品となっている。
小品ではあるが、作者・制作年代が判るという点で研究上の基準作となることに加え、煎茶に「阿蘭陀趣味」という江戸時

代後期の文化的流行を端的に示す作品である。

**＜漆工＞(1 件)**

5　○名　　称　双龍花鳥蒔絵螺鈿裁縫道具入　1 合
　　○時　　代　江戸時代　1640 年前後
　　○寸　　法　縦 16.5cm　横 4.3cm　高 3.5cm
　　○作品概要　西洋人の求めに応じて制作された輸出漆器。2008 年の特別展覧会「japan 蒔絵」にも出陳された。16 世紀末以来、大量に輸出された洋櫃や書箪笥とは異なり、細かな注文に応じて作られた器具入れである。印籠蓋造の容器で、蓋と身の側面にそれぞれ一対の紐通しがあり、まさに印籠のように脇に通した紐で蓋を閉じて携帯できるようになっている。鋏の鞘と棒状の器具を入れる孔があり、西洋に伝世する銀製の類品から、裁縫道具入れと推定される（金象嵌で飾られた鋏が附属するが、これは 18 世紀の品と思われる)。
日本製の輸出漆器の様式は、1630 年代までは、黒漆地に金平蒔絵と螺鈿を用いて、幾何学文の縁取りの中に余白を残さずに花鳥獣などを描くいわゆる「南蛮漆器」が主流であったが、この頃から徐々に、螺鈿を用いず高蒔絵を交えて余白のある図を描く「紅毛漆器」へ変化すると考えられている。また 1640 年前後に、非常に丁寧な蒔絵の特注品が作られたことが知られる。本品は、螺鈿と平蒔絵を用いた幾何学文に南蛮漆器の名残を残しつつ、余白を多く残した龍、松に鳳凰、竹に虎などの図に新しさを見せており、特殊な形状や丁寧な細工からも、この過渡期の特注品と位置づけられる。
小品ながら、世界にひとつしか確認されていない珍品中の珍品であり、保存状態も抜群によく、江戸時代に西洋の需要にさえ応えてものづくりをおこなっていた京都の柔軟な技術力を伝える点でも貴重である

**＜考古＞(2 件)**

6　○名　　称　三角縁三神三獣鏡　　1 面
　　○時　　代　古墳時代　４世紀
　　○寸　　法　面径 21.2cm
　　○作品概要　古墳時代前期に日本で製作された青銅鏡。いわゆる倣製鏡。鏡背面の内区に六個の乳を配し、その間に形骸化した神像と獣像をそれぞれ三体配置する。銘帯には「吾作明鏡甚独孫子宜」の文字が鋳出されている。この文字は日本列島に於ける漢字表現の最古例のひとつ。同じ形の鏡が北部九州や大阪府からも発見されているが、これは新資料といえる。出土地は不詳。

7　○名　　称　画文帯神獣鏡　　1 面
　　○時　　代　古墳時代　５世紀
　　○寸　　法　面径 21.2cm
　　○作品概要　古墳時代中期、５世紀の古墳から出土する例の多い鏡。中国鏡を日本列島で精巧に模倣したもの。鏡背面の内区には神像と獣像を交互に配置している。銘文は方形の区画内にあり「天王日月」と鋳出される。銅質は良好。出土地不詳。

**(2)寄贈(102 件)**

**＜絵画＞(62 件)**

1　○名　　称　松堂旭日図　斉白石筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 86.8 cm　横 27.4cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

2　○名　　称　斗方めくり　王雲・蕭・・陳年筆　6 枚
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 29.6cm　横 35.2cm
　　○品　　質　紙本墨画

3　○名　　称　竹林人家図　王青芳筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 136.4cm　横 32.9cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

4　○名　　称　花鳥図　張子嘉筆　1 幅
　　○時　　代　民国 23 年(1934)
　　○寸　　法　縦 137.4cm　横 33.4cm
　　○品　　質　紙本墨画

5　○名　　称　紫藤飛燕図　汪仲山筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 150.1cm　横 40.3cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

6　○名　　称　碧葡萄図　方子易筆　1 幅
　　○時　　代　民国 23 年(１９３４)
　　○寸　　法　縦 131.4cm　横 32.5cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

7　○名　　称　花卉図(墨菊)　容祖椿筆　1 幅
　　○時　　代　民国 19 年(１９３０)
　　○寸　　法　縦 94.5cm　横 43.4cm
　　○品　　質　紙本墨画

8　○名　　称　　花卉墨意図　王祺筆　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦110.5cm　横34.2cm
　　○品　　質　　紙本墨画

9　○名　　称　　達磨図　夢白筆　1幅
　　○時　　代　　近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦114.7cm　横37.0cm
　　○品　　質　　絹本墨画淡彩

10　○名　　称　　故事山水図　俞齢筆　2幅
　　○時　　代　　清(17世紀)
　　○寸　　法　　縦160.3cm　横48.0cm
　　○品　　質　　絹本墨画淡彩

11　○名　　称　　酔翁図　瑞光筆　1枚
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦32.6cm　横32.3cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

12　○名　　称　　飛鳥遊羊図めくり　藻皇筆　1枚
　　○時　　代　　清光緒10年(1884)
　　○寸　　法　　縦100.0cm　横38.8cm
　　○品　　質　　絖本墨画

13　○名　　称　　多子果図　秦耿谷筆　1幅
　　○時　　代　　民国22年(1933)
　　○寸　　法　　縦113.0cm　横34.2cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

14　○名　　称　　果蔬図　姚燮筆　1幅
　　○時　　代　　清道光17年(1837)
　　○寸　　法　　縦121.4cm　横29.6cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

15　○名　　称　　呉昌碩太公望図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦35.3cm　横59.5cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

16　○名　　称　　高其佩十題冊　1帖
　　○時　　代　　中国近代
　　○寸　　法　　縦26.8cm　横33.1cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

17　○名　　称　　石濤石象八題冊　1帖
　　○時　　代　　中国近代(19世紀)
　　○寸　　法　　縦20.7cm　横22.4cm
　　○品　　質　　紙本墨画

18　○名　　称　　石濤山水八題冊　1帖
　　○時　　代　　清(19世紀)
　　○寸　　法　　縦28.7cm　横21.0cm
　　○品　　質　　紙本墨画。咸豊六年(1856)、趙狆漢の跋あり。

19　○名　　称　　李鱓菊籬図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦140.9cm　横38.3cm
　　○品　　質　　紙本墨画

20　○名　　称　　高其佩竹林墨意図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦174.7cm　横92.4cm
　　○品　　質　　紙本墨画

21　○名　　称　　文伯仁扇面山水図　1幅
　　○時　　代　　清(18世紀)
　　○寸　　法　　上弦：49.7cm　下弦：20.0cm　辺：17.5cm
　　○品　　質　　金箋墨画淡彩

22　○名　　称　　張僧繇翠章瑶林図　1巻

○時　　代　　清(19 世紀)
○寸　　法　　縦 28.2cm
○品　　質　　絹本着色

23 ○名　　称　　明墨　１個
○時　　代　　明時代(17 世紀)
○寸　　法　　縦 12.8cm　横 12.8cm　高 1.4cm
○品　　質　　墨

24 ○名　　称　　昇龍山人所用印　一括
○時　　代　　中国近代(20 世紀)
○寸　　法
○作品概要　　寿山石、凍石等。斉白石、沙孟海、何秋江等刻。

25 ○名　　称　　梅花草堂六朝鎏仏　須磨弥吉郎筆　3 帖
○時　　代　　日本　昭和年間
○寸　　法
○品　　質　　紙本墨画淡彩

26 ○名　　称　　寿頌九如(菊花図)
金干城・金松林・金柏森・火少疇・陶子山・李誠斎・馬宇生・常琢之・石熾君筆　１幅
○時　　代　　民国 20 年(1931)
○寸　　法　　縦 150.4cm　横 80.3cm
○品　　質　　紙本着色

27 ○名　　称　　裸婦素描　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 28.6cm　横 21.8cm
○品　　質　　紙本鉛筆書き。額入り。

28 ○名　　称　　水彩「蘇州風景」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　1931 年
○寸　　法　　縦 30.1cm　横 40.8cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

29 ○名　　称　　水彩「支那の屋根」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 24.2cm　横 28.1cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

30 ○名　　称　　厩素描　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 24.7cm　横 28.8cm
○品　　質　　紙本鉛筆書き。額入り。

31 ○名　　称　　水彩「フランス祭り　於バンド」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 48.6cm　横 63.8cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

32 ○名　　称　　油彩「横浜風景」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 42.6cm　横 56.9cm
○品　　質　　麻地油彩。額入り。

33 ○名　　称　　油彩「唐黄瓶」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 45.2cm　横 37.6cm
○品　　質　　麻地油彩

34 ○名　　称　　油彩「裸婦」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 53.7cm　横 45.1cm
○品　　質　　麻地油彩

35 ○名　　称　　油彩「阿里山」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 49.7cm　横 59.4cm
○品　　質　　麻地油彩

36 ○名　　称　　油彩「台湾生蛮」　重松岩吉筆　１帖

○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 40.7cm　横 31.1cm
○品　質　麻地油彩

37 ○名　称　水彩「樹林」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 32.9cm　横 23.9cm
○品　質　紙本水彩

38 ○名　称　油彩「鍛冶屋」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 60.4cm　横 59.0cm
○品　質　麻地油彩

39 ○名　称　水彩「広東風景」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 27.1cm　横 23.0cm
○品　質　紙本水彩

40 ○名　称　油彩「牛」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 48.7cm　横 60.3cm
○品　質　麻地油彩

41 ○名　称　油彩「静物(菊花)」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 70.6cm　横 54.3cm
○品　質　麻地油彩

42 ○名　称　油彩「花艇」　島田隆夫筆　1 幀
○時　代　1932 年
○寸　法　縦 53.8cm　横 91.5cm
○品　質　麻地油彩

43 ○名　称　油彩「明孝陵」　上野春香筆　1 幀
○時　代　1936 年
○寸　法　縦 46.0cm　横 53.5cm
○品　質　麻地油彩

44 ○名　称　油彩「珠江」　小林もりき筆　1 幀
○時　代　1930 年
○寸　法　縦 60.3cm　横 76.0cm
○品　質　麻地油彩

45 ○名　称　水彩「静安寺前」　小川七五三郎筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 24.0cm　横 28.2cm
○品　質　紙本水彩

46 ○名　称　油彩「中国風景(洋風建築群)」　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 38.0cm　横 45.6cm
○品　質　麻地油彩

47 ○名　称　油彩「中国の陵墓」　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 38.0cm　横 45.5cm
○品　質　麻地油彩

48 ○名　称　油彩「華山桟道」　潘玉良筆　1 幀
○時　代　1934 年
○寸　法　縦 42.2cm　横 33.6cm
○品　質　麻地油彩。1935 年 5 月、南京華僑招待所での個展に出品される。

49 ○名　称　油彩「昇龍山人裸像」　陳宏筆　1 幀
○時　代　1930 年
○寸　法　縦 49.7cm　横 60.4cm
○品　質　麻地油彩

50 ○名　称　水彩「赤い塔」　方菁筆　1 幀
○時　代　中国 20 世紀

○寸　法　縦 30.3cm　横 24.5cm
○品　質　紙本水彩

51 ○名　称　山水図扇面　姜筠筆　1幀
○時　代　清光緒十年(1884)
○寸　法　上弦：66.4cm　下弦：29.9cm　辺： 21.7cm
○品　質　金箋墨画。潜生大公祖上款。

52 ○名　称　詩書扇面　姜筠筆　1幀
○時　代　清光緒十年(1884)
○寸　法　上弦：67.2cm　下弦：29.8cm　辺：22.0cm
○品　質　金箋墨書。潜生大公祖上款。

53 ○名　称　壁画断片「美人群像(楊貴妃)」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 97.0cm　横 51.5cm
○品　質　土製着色

54 ○名　称　壁画断片「観音像」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 116cm　横 70cm
○品　質　土製着色

55 ○名　称　壁画断片「左手を挙げる女性」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 136.5cm　横 88cm
○品　質　土製着色

56 ○名　称　壁画断片「二天使像」　1幀
○時　代　不明
○寸　法　縦 15.2　cm　横 23.9cm
○品　質　土製着色

57 ○名　称　壁画断片「雲中に浮遊する珍宝」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 29.5cm　横 25.0cm
○品　質　土製着色

58 ○名　称　壁画断片「掛け幅を開き見る二高士」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 46.0cm　横 42.0cm
○品　質　土製着色

59 ○名　称　壁画断片「舞い踊る仙女」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 35.8cm　横 35cm
○品　質　石製着色

60 ○名　称　壁画断片「天女出遊」　1幀
○時　代　清
○寸　法　縦 36.0cm　横 35.0cm
○品　質　石製着色。木製受け台付属。

61 ○名　称　絹本著色 荷郷清夏図　藍瑛筆　1幅　(重要美術品)
○時　代　明時代(17 世紀)
○寸　法　縦 172.7cm　横 52.1cm
○作品概要　重要美術品　昭和 12 年 2 月 16 日認定

62 ○名　称　浮世絵版画集　歌川国芳ほか作　6冊
○時　代　幕末～明治時代
○寸　法　(1) 縦 43.2cm　横 31.4cm　厚 6.3cm
(2) 縦 39.1cm　横 26.3cm　厚 3.0cm
(3) 縦 39.1cm　横 26.3cm　厚 3.5cm
(4) 縦 35.6cm　横 25.3cm　厚 4.4cm
(5) 縦 35.6cm　横 25.3cm　厚 4.2cm
(6) 縦 34.8cm　横 23.8cm　厚 5.7cm
○作品概要　大判錦絵三枚続等を冊子 6 冊に装丁

**＜書跡＞(8 件)**
63 ○名　称　彩牋墨書 古今和歌集巻第十八断簡「本阿弥切」(あるひとの)　1幅　(重要美術品)

○時　　代　平安時代(11～12 世紀)
○寸　　法　縦 16.3cm　横 27.1cm
○作品概要　『古今和歌集』巻第 18 の断簡で、「あるひとの」以下３首が書写される。切の名称は、本阿弥光悦(1558～1637)が愛蔵したことにちなむ。一般的に、本阿弥切は表面の胡粉が剥落し、文字の判読が困難になるような傷みのあるものが多いが、本幅は非常に保存状態がよく、平安貴族の好んだであろう美意識を失うことなく今に伝えている。

64 ○名　　称　紙本墨書 後撰集巻第八断簡「烏丸切」（てまかりかよふ）　１幅　（重要美術品）
○時　　代　平安時代(12 世紀)
○寸　　法　縦 20.3cm　横 16.6cm
○作品概要　『後撰和歌集』巻第８の断簡で、「てまかりかよふ」以下３首が書写される。切れの名称は烏丸光広(1579～1638)が愛蔵したことにちなむという。金銀の砂子を散らし、飛雲をあしらった瀟洒な料紙に、長い連綿を用いた運筆が映える。保存状態は非常によい。

65 ○名　　称　詩書めくり　大典禅師(梅荘顕常)筆　１２枚
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　各　縦 99.5cm　横 28.9cm
○作品概要　紙本墨書

66 ○名　　称　嶺南墨存　１帖
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　縦 23.3cm　横 17.4cm
○作品概要　紙本墨書

67 ○名　　称　遊歴広西紀念　１帖
○時　　代
○寸　　法　縦 20.8cm　横 14.7cm
○作品概要　紙本墨書

68 ○名　　称　金陵墨味　１帖
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　縦 27.0cm　横 20.8cm
○作品概要　紙本墨書

69 ○名　　称　綺星　１帖
○時　　代　20 世紀
○寸　　法　縦 23.8cm　横 17.9cm
○作品概要　紙本墨書

70 ○名　　称　詩書めくり　沈尹默筆　５枚
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　1.「柳春……」：縦 128.0cm　横 32.7cm、2.「酒薄……」：縦 128.5cm　横 32.7cm、3.「波波……」：縦 128.7cm　横 32.0cm、4.「擔枝……」：縦 128.2cm　横 32.7cm、5.「炒栗……」：縦 31.4cm　横 50.2cm
○作品概要　紙本墨書

**＜彫刻＞(12 件)**

71 ○名　　称　銅造二仏並坐像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 9.4cm
○作品概要　釈迦、多宝の二仏をあらわす。

72 ○名　　称　銅造二仏並坐像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 13.8cm
○作品概要　釈迦、多宝の二仏をあらわす。

73 ○名　　称　金銅如来立像　１躯
○時　　代　中国隋～唐時代
○寸　　法　総高 5.9cm
○作品概要　左手垂下し右手屈臂する。

74 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国東魏～北斉時代
○寸　　法　総高 9.6cm
○作品概要　永平三年の銘を台座に刻む。

75 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国東魏～北斉時代
○寸　　法　総高 9.2cm
○作品概要　左手与願、右手施無畏印。

76 ○名　　称　金銅如来立像　１躯
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　総高 9.4cm
○作品概要　腰を右に捻り、左手垂下、右手屈臂。

77 ○名　　称　金銅菩薩踏下像　１躯
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　総高 8.0cm
○作品概要　左脚を踏み下げる。

78 ○名　　称　塼造浮彫如来三尊像　１面
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　縦 12.4cm　横 8.6cm　厚 2.0cm
○作品概要　背面に「大唐善業泥圧得真如妙色身」の銘あり。

79 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 13.5cm
○作品概要　延昌三年の銘を台座に刻む。

80 ○名　　称　木造菩薩坐像　１躯
○時　　代　中国元～明時代
○寸　　法　像高 59.8cm
○作品概要　右足を上に結跏趺坐する。

81 ○名　　称　石造四方仏龕〈黄華石製〉　１基
○時　　代　中国西魏～北周時代
○寸　　法　高 13.9cm　幅 8.2cm　奥 5.5cm
○作品概要　如来三尊、如来立像、如来倚像、如来立像をそれぞれ浮き彫りする。

82 ○名　　称　石造浮彫千仏坐像　１面
○時　　代　中国北斉～隋時代
○寸　　法　高 19.4cm　幅 34.2cm　奥 5.7cm
○作品概要　如来坐像を四段に浮き彫りする。

**＜陶磁＞(16 件)**

83 ○名　　称　藍絵ウィンザー城図楕円皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 36.7cm×47.4cm　底径 22.8cm×33.7cm　高 5.0cm
○作品概要　19 世紀前半頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。

84 ○名　　称　藍絵花卉文八角瓶　１口
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　口径 9.0cm×10.5cm　高台径 7.2cm×8.1cm　高 20.3cm
○作品概要　オランダのデルフト窯産とみられる錫釉陶器。

85 ○名　　称　藍絵西洋人物図蓋物　１合
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　幅 20.6cm　高台径 12.4cm×18.4cm　総高 10.4cm
○作品概要　オランダのデルフト窯産とみられる錫釉陶器。

86 ○名　　称　藍絵西洋風景図輪花皿　１枚
○時　　代　19～20 世紀
○寸　　法　幅 20.6cm　高台径 12.4cm×18.4cm　総高 10.4cm
○作品概要　19～20 世紀頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。高台内の藍絵銘は滲んでいて不鮮明だが、ウィリアム・アダムス社の製品か。

87 ○名　　称　青花唐人文皿　１枚
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 21.5cm　高台径 12.9cm　高 2.3cm
○作品概要　中国清時代のものと見られる染付磁器皿。江西省景徳鎮産か。

88 ○名　　称　白堆花卉文皿　１枚
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　口径 21.4cm　高台径 12.3cm　高 2.4cm
○作品概要　ヨーロッパ製。高台に壁掛け用の焼成前穿孔。

89 ○名　　称　藍絵桃柘榴文水切り鉢　マイセン窯　１口
○時　　代　口径 19.5cm　高 5.8cm
○寸　　法　18～19 世紀
○作品概要　ドイツ製。底裏に、マイセン窯の製品であることを示す、双剣マークの染付あり。内面の染付文様は、マイセン窯製品に伝

統的なブルーオニオン。

90 ○名　　称　青花山水人物文茶瓶　１口
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　長 15.0cm　胴径 11.4cm　高台径 6.9cm　高 19.5cm
○作品概要　18～19 世紀ころの中国製。煎茶器か。

91 ○名　　称　青花花卉文小碗　宣統己酉宜春堂製銘　５口
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 7.8cm　高台径 3.1cm　高 3.0cm
○作品概要　高台内に「宣統己酉宜春堂製」染付銘あり。

92 ○名　　称　青花人物文皿　３枚
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 13.2cm　高台径 7.6cm　高 2.8cm
○作品概要　高台内に「福」角枠染付銘あり。17～18 世紀頃の江西省・景徳鎮民窯製か。

93 ○名　　称　藍絵西洋風景図鉢　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 20.0cm　高台径 10.6cm　高 9.7cm
○作品概要　底裏の、PR 印銘から、19 世紀半ば頃のオランダ・マーストリヒトのペトゥルス・レグゥー社製とみられる。「藤山松平蔵」と墨書された桐箱が付属していることから、国内伝世品かと思われる。

94 ○名　　称　藍絵ピッツフィールド冬景図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 22.2cm　高台径 11.6cm　高 2.7cm
○作品概要　高台内の印銘から、イギリスのスタッフォードシャー産と知られる。

95 ○名　　称　藍絵ホワイトハウス図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 14.1cm　高 2.6cm
○作品概要　19～20 世紀頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。高台内の藍絵銘から、ウィリアム・アダムス社製のアメリカ向け輸出品かと推測される。

96 ○名　　称　藍絵ルイス・クラーク探検隊百周年記念皿　１枚
○時　　代　1905 年
○寸　　法　口径 26.6cm　高台径 14.3cm　高 2.8cm
○作品概要　イギリス・スタッフォドシャー製のプリントウェア(銅版転写)。藍絵の意匠から、アメリカ向けの輸出品かと推測される。

97 ○名　　称　藍絵フィラデルフィア近郊図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 15.3cm　高 2.8cm
○作品概要　19 世紀頃のイギリス製とみられるプリントウェア(銅版転写)。藍絵の意匠から、アメリカ向けの輸出品かと推測される。

98 ○名　　称　藍絵ロンドン風景図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 16.0cm　高 3.0cm
○作品概要　19 世紀頃のイギリス製とみられるプリントウェア(銅版転写)。

**＜漆工＞(1 件)**

99 ○名　　称　高台寺御霊屋蒔絵拓本類　一括
○時　　代　昭和 31 年(1956)
○寸　　法　(1)縦 161.3cm　横 82.0cm　(2)縦 163.0cm　横 82.0cm　(3)縦 153.5cm　横 83.0cm　(4)縦 163.5cm　横 81.5cm
(5)縦 150.0cm　横 82.0cm　(6)縦 168.0cm　横 82.0cm　(7)縦 159.0cm　横 82.0cm　(8)縦 153.3cm　横 82.0cm
(9)縦 209.0cm　横 20.0cm　(10)縦 209.0cm　横 20.0cm　(11)縦 58.0cm　横 23.0cm　(12)縦 51.0cm　横 19.8cm
(13)縦 78.5cm　横 32.0cm　(14)縦 220.0cm　横 38.0cm　(15)縦 232.3cm　横 16.7cm　(16)縦 185.0cm　横 26.8cm
(17)縦 185.0cm　横 27.0cm　(18)縦 208.3cm　横 82.0cm　(19)縦 78.0cm　横 49.0cm
○作品概要　和紙やセロハンのような洋紙 19 枚に、おそらく乾拓で、高台寺御霊屋内の建築部材に描かれた平蒔絵の文様（厨子扉表裏の秋草や松竹図、須弥壇の花筏、勾欄や丸柱の楽器散）を写したもの。釘隠の花熨斗図もある。昭和 31 年の修理時に蒔絵師の井田氏が制作。同氏による須弥壇の花筏の描き起し図１枚も附属。交流のあった吉村氏が譲り受けた。

**＜染織＞(2 件)**

100 ○名　　称　黒留袖(振袖)　一式
○時　　代　昭和 8 年(1933)
○寸　　法　丈 160.0cm　裄 62.5cm　留袖丈 51.0cm　振袖丈 107.5cm
○作品概要　附属品：振袖用長襦袢　一領、振袖用白下着　一領、留袖用白下着　一領、　しごき　一筋。
着用者：昭和八年の婚礼に際して着用。着用者は長刀鉾町の呉服悉皆業店に生まれる。この婚礼衣裳は、当時の京都の富裕層の好みを示す。

101 ○名　　称　古今雛飾り　一式
○時　　代　江戸時代　19 世紀
○寸　　法　男雛高(含冠)34.5cm　女雛高 25.5cm

○作品概要　桐塑の頭手足に、装束を着せ付けた雛人形一対を中心に、三人官女、随臣、雛膳、雛道具を伴う一式。内裏雛は、江戸時代後期に流行した典型的な古今雛様式で、顔のつくりからみて京都製と考えられる。

**＜考古＞(1件)**

102 ○名　　称　金元帥家買地券塼　1個
○時　　代　光天元年(推定南漢年号)　西暦９４２年
○寸　　法　縦24.6cm　横24.6cm　厚1.9cm
○作品概要　買地券は死者の墓に納入されるもので、土地の神から地下の墓所を購入契約した際の証書とされるもの。中国後漢代から近世まで行われた。本例は粘土板に焼成前に罫線をひき各行交互に上下から文字を刻んでいき、乾燥後に焼成したもの。その内容は土地の四方を限定し「金元帥家女」の墓を築くことを記す。「富貴大吉」や「急々如律令」などの吉祥句が連なる。年号の「光天元年」は南漢の942年と推定される。中国の埋葬儀礼を示す資料として貴重であり、寄贈をうけて展示を充実させたい。

## 【奈良国立博物館】(計7件)

(1)購入(4件)
＜書跡＞(2件)

1　○名　　称　華厳経(二月堂焼経) 巻第二十四　　1巻
○時　　代　奈良時代　8世紀
○品　　質　紺紙　銀字　巻子装
○寸 法 等　縦23.5cm　長969.9cm
○作品概要　本品は、東大寺二月堂に伝来した六十巻本(旧訳)『華厳経』巻第二十四を書写したもので、東大寺の修二会期間中に行われる実忠忌(旧暦2月5日)に用いられたと考えられている。「二月堂焼経」の名の通り、本紙下側を波状に焼失し、その下端は茶色く変色しているものの、銀泥の文字はほとんど酸化せず、銀の白さを保っている。謹厳で整然とした筆跡から、奈良時代中期の優れた写経生の手になるものと推定される。現存する奈良時代唯一の紺紙銀字経であり、装飾経の貴重な遺例である。

2　○名　　称　手鑑　　1帖
○時　　代　奈良時代～江戸時代　8～17世紀
○品　　質　紙本(一部彩牋)　墨書　折帖装
○寸 法 等　縦39.5cm　横25.1cm　厚10.5cm　長1580.0cm
○作品概要　折帖装台紙の表裏あわせて122面に、長短206葉の筆跡を貼り込んだ手鑑である。それぞれの筆跡には極札が付けられ、伝称筆写名と書き出し文言および「琴山」の墨印がある。筆跡は、平安時代以前のものも若干含まれるが、大部分は鎌倉時代から江戸時代初期までの古筆切および和歌短冊などである。手鑑は、室町時代後期頃から作られはじめ、江戸時代に隆盛しており、日本における書の歴史を語る上で欠かせない史料といえる。

＜漆工＞(2件)

3　○名　　称　玉虫厨子　模造　　1基
○時　　代　近代　大正10年(1921)
○品　　質　木製　黒漆塗　漆絵　金銅装
○寸 法 等　総高226.0cm　基壇幅137.2cm　基壇奥行119.5cm
○作品概要　本品は、吉田立齋(1867～1935)によって製作された法隆寺所蔵の玉虫厨子(原品は飛鳥時代)の模造である。立齋は、奈良博覧会社が創設した奈良漆器を作成する温古社の初代工場長として、正倉院宝物の工芸品の模写・模造を行い、密陀絵や撥鏤など奈良時代の技法を復活させた。本品は、その立齋が手懸けた模造4基のうちの1基で、玉虫の羽根を金具の透かしに填め込む点、漆絵のみで密陀絵の併用が認められない点、屋根の妻側に鉤形金具がない点など、原品との差異も認められるが全体としてきわめて忠実な模造品である、原品の詳細な観察と確かな漆工技術の裏付けがあって初めて可能な高水準の模造といえる。

4　○名　　称　金銀平脱皮箱　模造　　1合
○時　　代　近代　20世紀
○品　　質　革製　漆塗　布被
○寸 法 等　蓋　縦27.0cm　横32.3cm　高6.7cm
身　縦25.4cm　横30.7cm　高7.1cm　総高8.1cm
○作品概要　本品は、正倉院宝物として中倉138に整理される金銀平脱皮箱第4号の模造である。外箱の蓋表に「寧楽　大閑堂監製」とあり、奈良漆器や古美術品を扱った大閑堂(玉井久次郎)が製作させたものと推測される。吉田立齋の記した『漆器事業五十年間経歴書』によると、昭和2年(1927)に大閑堂の肝煎りで大阪高島屋にて正倉院宝物模造品の展観が行われ(翌年には東京伝馬町の高島屋でも開催)、この場で出陳品は多数の売約を得たようで、正倉院宝物の模造が大閑堂の手によって製作・流通したと考えられる。製作の経緯は明らかではないものの、大閑堂によって作られた精巧な正倉院宝物の模造である本品は、近代奈良の懐古趣味や正倉院宝物模造などの歩みを考える上で、重要な資料といえる。

(2)寄贈(3件)
＜絵画＞(2件)

5　○名　　称　絹本著色武蔵野図　横山大観筆　　1幅
○時　　代　明治28年(1895)
○品　　質　絹本著色　掛幅装
○寸 法 等　本紙　縦55.4cm　横93.6cm　　表具　縦163.2cm　横113.0cm
○作品概要　本品は、横山大観(1868～1958)が、京都市美術工芸学校(現・京都市立芸術大学)予備課教員を務めていた明治28年(1895)に、京都博覧会主催日本青年絵画協会第4回共進会へ出品した作品で、大観の初期の代表作として知られる。一枚絹による横長の画面に、武蔵野の景観が水平への豊かな広がりと奥行きの深さをもって描かれており、西洋画の遠近法を意識した画面構成であるが、中央に配される樹木や岩塊の描写には、狩野派の伝統に則った筆致が認められ、曲水に線条を引き、河原に金泥を掃く表現には古くから大和絵に用いられてきた技法が見受けられる。また、本品に捺されている「秀麿」の落款は、初期の作品2点にしか現存しない貴重なものである。

6　○名　　称　紙本墨画淡彩瑞光図　横山大観筆　　1幅
　　○時　　代　大正時代(1912～26)
　　○品　　質　紙本墨画淡彩　掛幅装
　　○寸 法 等　本紙　縦115.0cm　横41.1cm　　表具　縦206.3cm　横56.3cm
　　○作品概要　本品は、横山大観記念館において昭和 37 年(1962)に横山大観の真筆として鑑定された作品である。縦長の一枚絹の中央上部に、朱色で日輪を描き、地の部分全体に薄く朱色を掃くことで、陽光が空に映える様を表している。近景には墨の滲みを生かして表す松の並木と寺院とみられる建物を、遠景には淡墨を用いて描いた松を配し、両者に挟まれた虚空に三羽の鶴が舞う姿が描写されている。画面左下の落款の書体は、明治時代末期から大正時代初期にかけて用いられたもので、とりわけ大正4年(1915)に制作された「那智乃瀧」(足立美術館蔵)や「竹雨」(東京国立博物館蔵)などと同様の墨の滲みを生かした水墨表現が認められることから、本品はこの前後に制作された可能性が高い。

＜漆工＞(1件)
7　○名　　称　紅牙撥鏤尺　模造　　1枚
　　○時　　代　現代　平成20年(2008)
　　○品　　質　象牙製
　　○寸 法 等　長30.2cm　幅2.8cm　厚0.9cm
　　○作品概要　本品は、正倉院に伝来する紅牙撥鏤尺のうち、北倉 13 甲号を村松親月氏が模造したものである。片面は十区に画し、地を削って表した唐花文と地を染め色のままとして鳳凰、サンジャク、花形の角の鹿、小鳥、鴨などあらわした区画を交互に刻む。裏面は寸界による区画はなく、サンジャク・ヤツガシラ・蓮華上に綬帯を銜えた鴨、花形の角の鹿、鴛鴦、草花を表す。側面には小花文が配される。法量は宝物とほぼ同寸であるが、模造であるために文様の刻線に硬さが感じられること、また北倉 13 甲号では緑と黄の絵具を点彩するが、本品は緑青のみ用いられる点が指摘できる。なお、附属品として手板などの撥鏤資料も寄贈された。

## 【九州国立博物館】(計27件)

**(1) 購入 (27件)**

**＜絵画＞ (8件)**

1　○名　　称　病草紙断簡（侏儒）　1幅
　　○時　　代　平安-鎌倉時代・12世紀
　　○品　　質　紙本著色
　　○寸 法 等　縦26.3　横40.7　cm
　　○作品概要　掛幅装。詞書1紙と絵1紙からなり、状態は良好だが全体的に褪色がみられる。軸端は象牙。もとは絵巻の一部であったものが一段ずつに改装され、現在は掛幅装になっている。
画面向かって左に老いた法体の侏儒を、右に侏儒を嘲笑する京の人々を描く。「侏儒」とは並外れて背丈の低い人のことで、本図でも童に比べさらに背丈の低い人物として描かれる。手に数珠と扇を持ち、眉間や目じりにシワを寄せ、歯の抜けた口を大きく開いて右後方を振り返り、嘲笑する人々を威嚇している。頭頂に薄墨を施し、法衣にはわずかに黄味を差す。
薄黄緑の狩衣を着た男性と袈裟をまとった法師は、それぞれ侏儒を指差し嘲笑している。青い衣に頭飾りをつけた茶髪の童と白衣の童は手を叩きながら侏儒を囃し立てている。背景の表現はないが、詞書の記述から京の路上の様子を近接して描いたと思われる。
それぞれ人物の額、容貌、腕、足には肌色を差し、狩衣の下衣にわずかに黄味を入れるなど、繊細な色彩表現が見られる。線描は鋭く勢いがあり、人物描写は闊達である。
なお詞書と絵の料紙には一部切詰がみられるが、掛幅装へ改装された時点では図様や構図に改変がないことが巻子装時の模本により明らかである。また本図には寛政9年（1797）閏7月の古筆了意（1751－1834）の極札、および文政2年（1819）2月の大倉了恵（？-1825）による極札が付属する。
「病草紙」は昭和初期まで1巻15段の絵巻として名古屋の関戸家に伝来していた。このほか断簡5段が現存しているが、これら計 20 段は法量（縦）や品質形状、画面形式が一致することから本来一具を成していたと考えられる。巻子装時に付随していた土佐光貞（1738-1806）の奥書により、1巻および本図が寛政8年（1796）の時点で歌人・大館高門（1776-1839）の所蔵であったこと、またこのとき本図が既に断簡であったことがわかる。
作風をみると、人物の顔貌および形態は一連の「病草紙」の中でも特に「歯槽膿漏の男」や「小舌の男」（どちらも国宝、京都国立博物館蔵）に近似し、このほか「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館蔵）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館蔵）にも極めて近い表現を見出すことができる。これらの絵巻は 12 世紀末に後白河法皇（1127-92）のもとで活躍し、「年中行事絵巻」（現存せず）や「伴大納言絵詞」（国宝、東京・出光美術館蔵）を描いたとされる宮廷絵師・常盤光長（生没年不詳）の制作と考えられていることから、本図も同時期に後白河法皇や光長の関与により制作されたものと考えられる。
「病草紙」とは病の症例や治療の様子を集めたものであるが、それは単なる病の症例集ではなく、「地獄草紙」「餓鬼草紙」と同様に六道のうち「人道」を絵画化した六道絵巻の一つであり、因果応報により引き起こされる奇病や不具を記している。近年、その描写内容の典拠として瞿曇般若流支訳『正法念処経』が指摘されており、本図にはその巻七「地獄品之三」の一節（「若於前世過去久遠。有善業熟。不生餓鬼畜生之道。若生人中同業之処。得侏儒身。」ほか）に相当する描写がみられる。しかし「病草紙」では、全段を通じて経典に記述のないモチーフがあり、人間の滑稽さを如実に表現するなど、六道を描出するという観点からは外れる内容、特に弱者への眼差しや都の喧騒などのテーマが多くみられることが指摘されている。本図においても、法体の侏儒が、信仰に身をおく法師ほか老若の人々により嘲笑されており、その内容は後白河法皇が関与した絵巻に見出せる特徴をよく示したものと言ってよい。
本図は断簡ではあるものの、優れた作風は光長様式をよく示しており、内容的にも1巻を成していた「病草紙」それ自体の特徴や、後白河法皇が関与して 12 世紀末期に宮廷で制作された絵巻の趣向をよく伝えており、この時期の絵画を代表する優品である。
　　○来　　歴　大館高門、関戸家旧蔵

2　○名　　称　春日宮曼荼羅図　1幅
　　○時　　代　鎌倉時代・13-14世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○寸 法 等　縦68.6　横29.7　cm
　　○作品概要　掛幅装。画絹1副1舗。画面は暗く横折れやウキがあり、目の詰んだ画絹や顔料には部分的な損傷もあるが、全体に当初の

図様をよく保つ。軸端（後補）は銅造鍍金である。
本図は、左上の本殿四社とその右上の若宮社を中心とした春日社の景観を主題とする。上辺の春日山・御蓋山から下辺の東西両塔・一鳥居まで社頭を西側から俯瞰的に表し、随所に鹿、満開の桜や梅をはじめ多種の樹木を配し、これらを濃彩で丁寧に描く。
建築に着目すれば、実景に従い南面し右側を向く本殿を回廊が囲み、その南門を楼門と、西三門を四脚門とする構成は、治承 3 年(1179)以降の基本的な殿舎の配置と構造をほぼ正確に描写する。この構成は 30 件以上もの作例が現存する春日宮曼荼羅図の一般的な定型を踏襲するものだが、なかでも新出作品である本図は、一鳥居に榊を取り付ける微小な表現や、西塔の基壇・回廊など建築を破綻なく写す正確な線描を評価すべき一本と考えられる。
その年代については御蓋山の樹法と参道・土坡の彩色が指標となる。御蓋山を多彩な樹種で折り重なるように埋め尽くす描写は、基準作の湯木美術館本（正安 2 年（1300）制作）に共通し 13 世紀後半の様式を留めている。また現状では参道・土坡に金泥が確認できない彩色法は、13 世紀制作の根津美術館本に通じる古い要素と説明できる。そのため本図は、鎌倉時代の 13 世紀末から遅くとも 14 世紀初にかけての制作と考えられる。
小幅であり画絹・顔料の損傷も惜しまれるものながら、本図は現存作例の少なくない春日宮曼荼羅図のなかでも、彩色が丁寧で線描も細緻な古い優品として注目される。
従来の研究により、春日宮曼荼羅図は 13 世紀末から 14 世紀初に構成の定型が成立したことが知られている。本図は、制作推定年代がその成立時期に重なるため、本格的に構成が継承される以前の初期の図様を伝える作例として貴重である。
また用途に着目すれば、春日宮曼荼羅図は法会や春日講での使用も知られるが、とくに小画面で細緻な表現をとる本図は、14 世紀に流行した貴族の邸宅における私的な遙拝儀礼の本尊であった可能性が高い。鎌倉時代には本地垂迹思想に基づく社頭浄土観が隆盛し、春日社の景観を描く絵図は当時の僧侶により此岸の浄土を表すものと説明されたが、このような当時の思潮を象徴する垂迹曼荼羅のなかでも、本図は年代が13世紀に遡る可能性もある優れた新出作品として大いに注目される。

〇来　歴　井上公爵家伝来

3　〇名　称　柿本人麿像　1幅
〇時　代　室町時代・15 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 84.2　横 38.1　cm
〇作品概要　掛幅装。画絹 1 副 1 舗。目の詰んだ画絹を用いる。一部顔料の剥落と、人物の容貌や袖口などに後世の補彩が見られるが、状態は概ね良好で当初の図様をよく保っている。軸端は象牙。
本図は著色の人物、水墨の山水、描色紙形の 3 つから構成されている。画面下方に、硯箱を前に筆と紙を持ち、上畳に片膝をついて上方を見ながら和歌を思案する人物を描く。萎え装束の烏帽子に直衣姿で、薄い水色の袍には丸文を、白い指貫には盛り上げで唐草文を配す。人物の輪郭線は薄墨線の下描きの上に柔らかな朱線を重ね、衣文は墨と群青を重ねたやや太めで均一な線描を用いる。濃墨で瞳、上瞼、鼻孔、唇の閉じ合わせをひき、淡墨で目元の皺や小鼻を描くなど微細な表現が見られる。上方には水墨による針葉樹の立つ懸崖、霧にかすむ帆舟と湖畔、遠山が広がる。画面上端には、2 つの描色紙形が並び、左方には対角線状に赤と白に塗りわけた地に、金泥で波・千鳥・胡蝶を描き、右方には黄土の地に金泥で梅を描く。いずれも墨書はなく、赤外線撮影によっても見出すことはできなかった。
その姿や持物から本図に描かれている人物は柿本人麿と理解してよく、山水景に描かれる霞や岸辺に隠れる舟などは『古今和歌集』に収録される人麿の代表的な和歌「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れ行く舟をしぞ思ふ」に結びつくものと考えられる。
本図は著色の人麿像と水墨山水図を一画面に取り合わせた極めて珍しい作例である。柿本人麿（660 頃-720 頃）は「歌の聖」として平安時代には既に信仰の対象として崇められ、元永元年（1118）には肖像を祀った人麿影供が行われていた。以来人麿像は和歌会や連歌会に欠かせぬものとして中世を通じて数多く制作されており、現存作例は 20 件近くに及ぶ。
人麿像の文献上の初出は、藤原兼房（1004-69）が夢に見た「左の手に紙をもち、右の手に筆を染めて、物を案ずる気色」を絵師に描かせたもの（『十訓抄』）とされる。現存最古の例は、兼房の記述に従う佐竹本三十六歌仙図の人麿像（出光美術館蔵、鎌倉時代・13 世紀）であるが、この他現存作例は、佐竹本と同図様（第一種）のものと、紙や筆を持たずに脇息に身を大きく委ねる図様（第二種）など数系統が存在する。本図はこのうち佐竹本や一蓮寺本（山梨・一蓮寺蔵、鎌倉-南北朝時代・14 世紀）に連なる第一種に属するものである。人物の輪郭にみえる柔らかな朱線と、上瞼の墨線を強調したやや扁平な容貌表現は「足利義満像」（伝飛鳥井雅親賛、重文、京都・鹿苑寺蔵、室町時代・15 世紀初）など室町時代初の人物描写に通ずる。
山水表現に注目すると、「平沙落雁図」（思堪筆、一山一寧賛、個人蔵、13-14 世紀初）に見られるような火花を散らしたような樹木描写に、日本における初期水墨画に通じる表現が指摘できる。また、「山弈候約図」（中国・遼寧省博物館蔵、遼時代・10 世紀後半）などの中国絵画に近い針葉樹や懸崖の描写もあり、朝鮮絵画にはしばしばみられるが室町絵画としては極めて珍しい北宋山水画に通じる要素もみられる。さらに、近景である懸崖より中景の土坡を大きく描くなど遠近表現に一部破綻がみられることなどから、これらについては年代の遡る像主を想起させるために、古様の山水図を意図した可能性がある。
このような伝統的なやまと絵の技法を用いた人物図に水墨山水を取り入れる例は、応永 14 年（1407）制作の厳島神社五重塔壁板（真言八祖と瀟湘八景）にみられる。本図も 15 世紀前半の制作と考えられるが、このような組み合わせ例は極めて少ないため非常に重要な作例であると考えられる。

4　〇名　称　韃靼人狩猟図　六曲屏風　1双
〇時　代　安土桃山-江戸時代・16-17 世紀
〇品　質　紙本金地著色
〇寸 法 等　縦各 157.5　横各 487.8　cm
〇作品概要　屏風装。引き手跡により襖絵より改変したことが明らかである。一部欠損箇所に補紙。全体に顔料の剥落がみられるが、当初の図様をよく保っている。
画題は韃靼人の狩猟の様子と、貴人が行列する様を描いている。狩猟隻は金雲により近景と遠景にゆるやかに大別されており、近景である平地の狩猟場では、弓や槍を構え犬とともに猪や虎、豹を追い立てる騎乗の韃靼人を描く。岩上からは狩場を見下ろし狩猟を見学する貴人の一行が覗き、遠景には雪を被った懸崖がそびえ、その谷間には薄い赤と青で彩られた樹木がみえる。行列隻も同じく金雲により大きく前後に分けられており、先駆に続き後方から傘を差しかけられた貴人と従者による行列が描かれ、遠景には向かって右より第 1・2 扇に韃靼人の居住施設であるパオと川、第 3・4 扇に懸崖、第 5・6 扇に丘陵を配する。
人物は全て大きな鉤鼻に深い小鼻を描き込み、口髭と顎鬚をたくわえる。着衣は強い打ち込みを伴うやや短い線描を重ねて

輪郭を描き、緑や赤で地を塗り分け、上から金泥で文様を施す。馬は臀部が細く胴体に厚みが有り、胸元の筋肉をＹ字状に強調する。岩や山肌は太く硬質な短線により形取られ、皴はやや細めの線描を重ねて表現する。
落款や印章はないが、人物の容貌や樹木、岩の特徴から狩野派絵師による作品と考えられる。
中国の北方異民族による狩猟の様子を描いた韃靼人狩猟図は、南宋時代には既に盛んに制作されていたことが知られる。日本においては室町時代後期から江戸時代初期にかけて流行し、特に権力者の邸内をかざる障屏画などとして好んで描かれたことが文献上明らかで、現存作例も 30 件近くにおよぶ。本図はこのうち、近年新たに見出された作品である。
日本における韃靼人図の文献上の初出は、室町時代・15 世紀後半、足利義政（1436-90）が築いた東山殿会所襖絵で、南宋時代の画家・李安忠(1127-1279)の粉本を基に描かれたものとされる。現存する最古本は、伝狩野元信筆静嘉堂文庫本（6 曲 1 双、室町～安土桃山時代・16 世紀中頃）および式部輝忠筆文化庁本（6 曲 1 双、室町～安土桃山時代・16 世紀中頃）であるが、いずれも紙本墨画淡彩の襖絵を屏風に改変した作品である。
韃靼人狩猟図は先行する図様の繰り返しにより人物や建造物などが定型化しており、近年の研究によると大きく 2 つに分類できる。一つは「文姫帰漢図巻」(1 巻、奈良・大和文華館蔵、明時代、原本南宋時代）など先行する巻子本から図様を取材し、狩猟図隻と打球図隻を組み合わせた静嘉堂本系で、現存作例の半数以上がこれに属し、その大半が狩野派絵師による。もう一つはこの図様に近似しない、狩猟図隻と祝杯図隻を組み合わせた文化庁本系で、これらは式部輝忠のほか雲谷派の作品が多い。本図は狩野派作品ながらも、狩猟と行列を組み合わせたもので、人物についても、現状の限り他作品に見られるような堅固な図様の共有が見られないため、どちらの系統にも属さない極めて珍しい作品といえる。
人物の大きな鉤鼻、小さな口元、輪郭といった容貌の特徴は、狩野永徳（1543-90）一派による天正 14 年（1586）制作の南禅寺本坊大方丈障壁画の一部に近似するが、全体に表情が強ばり肢体が短躯である。また下から上へ向かって突き出すような懸崖や細い皴を繰り返し重ねる土坡、薄い赤と青を用い葉叢の輪郭を描かない樹木表現などは、永徳の弟・狩野宗秀（1551-1601）の伝承がある「韃靼人狩猟・打球図屏風」(6 曲 1 双、アジア・サンフランシスコ美術館蔵、安土桃山時代・16 世紀末）に共通する。しかし容貌表現を比較すると両者には隔たりが見られることから、同一筆者とみなすことは困難であり、本図は 16 世紀末から 17 世紀初にかけて宗秀とほぼ同時期に活躍した狩野派絵師による作品と考えられる。

〇来　歴　岡山・平松家旧蔵

5　〇名　称　九相図　1 巻
〇時　代　鎌倉時代・14 世紀
〇品　質　紙本著色
〇寸 法 等　縦 32.0　横 495.4（第 1 紙 50.0、第 2 紙 49.3、第 3 紙 49.8、第 4 紙 49.9、第 5 紙 49.7、第 6 紙 50.0、第 7 紙 49.7、第 8 紙 50.2、第 9 紙 49.2、第 10 紙 47.6）　㎝
〇作品概要　巻子装。全体に擦れや褪色が見られるが、線描はよく保たれ剥落も少ない。第 1 紙の人物の右側から下にかけて大きく欠損し補紙があてられており、紙継箇所にわずかに本紙を切り詰めた跡が見られる。軸端は象牙。
本図は女性の生前の様子 1 図と、死して朽ち果てる 9 段階の過程の 9 図の計 10 図を描く。詞書や奥書はない。第 1 図は上畳に坐し右手を肩近くまで上げ、右膝を立てて向かって右方を向く女性を描く。垂髪に濃緑の袿と朱の長袴を身に付け、胸前に懸守と思しき朱地金泥の円形物が見える。第 2 図は上畳に横たわり、小松散らし文様の袿をかけた死後間もない女性の遺体を描く。口元がわずかに開きお歯黒が覗く。以降段を追って第 3 図は腐敗がはじまり体が膨脹した姿、第 4 図は目玉が飛び出し体がどす黒く変化する姿、第 5 図は腐敗が進み裂部が広がる姿、第 6 図は内臓が飛び出しウジが湧く姿、第 7 図は水分が飛び骨と皮になる姿、第 8 図は狗や烏に啄ばまれる姿、第 9 図は白骨化した姿、第 10 図は骨が散らばる姿をそれぞれ描く。
いずれも人物を近接して描き、背景をほとんど持たない。やわらかく伸びやかな線描を用いて輪郭線を表す。細かな陰影や時間の経過による亡骸の色変化を、染料や顔料を塗り重ね巧みに表現している。また毛髪や鳥類・狗の毛描き、身体から滲み出る体液といった微細な表現が随所に見える。
九相図とは、屍が白骨化する過程を 9 段階に分け観想する「九相観」を主題とする絵画を指す。九相観とは人体の不浄を強く自覚することで淫欲を滅する修行の一つとされ、中国・六朝時代の鳩摩羅什(350-409)訳『大智度論』、隋の智顗(538-597)『摩訶止観』など多くの教典や経論に説かれている。日本には奈良時代に請来され、平安時代・10 世紀末に源信（942-1017）『往生要集』や伝空海（774-835）『九相詩』の成立により広く流布した。
日本絵画における九相図の文献上の初出は、貞応 2 年（1223）に建立された醍醐寺焔魔堂の九相図壁画である（『醍醐寺新要録』「琰魔堂篇」）。現存最古例は国宝「六道絵」（滋賀・聖衆来迎寺蔵、鎌倉時代・13 世紀）の「人道不浄相」で、本図はこれに次ぐ作例であり、巻子装最古の例として「中村家本」「個人蔵本」の名で知られている。なお中世の九相図はこのほか、九州国立博物館本（室町時代・文亀元年 1501・A56）と大阪・大念仏寺本（室町時代・大永七年 1527）の 2 点が知られるのみである。
本図と聖衆来迎寺本は先行研究において『摩訶止観』との密接な関係が指摘されている。それによると九相は「一脹想」「二壊想」「三血塗想」「四膿爛想」「五青瘀想」「六噉想」「七散想」「八骨想」「九焼想」があり、さらに「八骨想」は 2 種に分けられること、「九焼想」は重視しないことが説かれている。また生前の様子と死後間もない様子についても記述する。本図の構成は「七散想」「九焼想」を欠き、代わりに生前の姿 1 図、死後間もない姿 1 図、および「八骨想」をもう 1 図を加えるが、これは『摩訶止観』本文を忠実に絵画化したことに由来すると考えられる。「七散想」を欠く要因は不明であるが、「九焼想」の欠如や 3 図の追加は聖衆来迎寺本に見られないことから、本図がより『摩訶止観』との関係が深いことが指摘できる。

〇来歴など　東京国立博物館寄託

6　〇名　称　束帯天神像　1 幅
〇時　代　南北朝-室町時代・14-15 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 90.8　横 40.7　㎝
〇作品概要　掛幅装。画絹 1 副 1 舗。小さな絹の欠損と大きな折れ等が見られるが、顔料の剥落は少なく当初の図様をよく保っている。なお上辺と右辺にわずかに切り詰めがみられる。軸端は象牙。
画面中央には高麗縁の上畳に坐して左方を向く束帯姿の人物と、髪を美豆良に結う狩衣姿の童子を描く。画面上方に墨書を伴った描色紙形を、下方には梅と若松をそれぞれ生けた華瓶を供える。
中央の人物は垂纓の冠を被り、黒で梅花文を描いた袍に身を包み、太刀を佩き、左手に笏を持ち右手でそれを上から押さえつけている。口元をわずかに開き、大きな眼を見開く。これらは束帯天神像の典型的な特徴である。童子は金泥による文様をあしらった狩衣や袙を身につけ、梅文のついた檜扇を手にする。
画面上方の 2 つの描色紙形には『菅家後集』所収の漢詩「不出門」の一節と、道真ゆかりの「東風ふかば」の和歌をそれぞ

れ記す。白地の色紙形には銀泥で梅樹と胡蝶を、赤地の色紙形には金銀泥で松と胡蝶を描く。
下部に位置する一対の華瓶には雲気文と牡丹唐草文が表現され、それぞれ向かって左に蕾と花弁をたたえた梅の枝を、右に若松の枝を生ける。梅は薄桃色の地に細い白線で花弁の輪郭と花脈、雌しべなど表し、若松は、現在は剥落しているが緑青で天に向かい伸びる針状葉を描く。
なお上巻に永仁 4 年（1296）12 月の年紀と藤原孝久かと読める人名が墨書されている。
束帯天神像と童子像を一画面に取り合わせた唯一の作例である。菅原道真（845-903）の像は信仰の広がりとともに多数制作されたが、童子を伴うものは他に見出せないことから、本図は特別な由緒に基づいて制作されたと考えられる。平安時代末期に成立した「天神縁起」によれば、道真は菅原是善（812-880）邸の梅樹の下に童子姿で化現したとされており、本図の童子が梅文をあしらった檜扇を手にしていることに鑑みると、道真の幼少の姿である可能性が指摘できる。また画面下方の華瓶は像主が礼拝の対象であることを示すと考えられ、この描写も束帯天神像においては極めて珍しい。
その表現に注目して年代を考察すると、張りのある鼻梁線や人物の顔の線描に沿ってわずかに見られる朱の隈などが「聖徳太子童形像・二童子像」（個人蔵、鎌倉時代・13 世紀）などに共通する。また童子のふっくらした顔の輪郭、跳ね上がるような眉、濃墨で引き表した上瞼、朱で彩られた肉厚の唇などの特徴は鎌倉時代に見られるもので、重要文化財「毘沙門天像」（滋賀・実蔵坊、鎌倉時代・13 世紀）の童子像に類似した表現を見出せる。その一方で、平板な太刀の装飾や、冠に見られる水平状の笄や立ち上がるような纓の表現は主に 14-15 世紀の肖像画に散見される。また、顔の輪郭線が一部不自然に太く、立体感表出のための線の描き分けができていないこと、直線的な線描による衣文線など、先行例を写した際にみられるような特徴も見出せる。
このように一画面に複数の時代の要素が並存することについて、上巻墨書が参考になる。永仁 4 年（1296）の年紀は制作時期を示すものではないが、この頃に成立した先行例を南北朝時代-室町時代・14-15 世紀に写したとすれば、複数の時代要素について理解しやすい。天神像が古例に倣う性質は、北野天満宮本（根本御影、南北朝-室町時代・14 世紀）にも見られる。童子を伴い華瓶を備える図様は他に見られないことから、本図は特殊な制作事情を背景に成立した束帯天神像の一例を伝えるものとして極めて重要な意味を持つと考えられる。
なお「騎獅文殊菩薩及脇侍像」（奈良・西大寺、鎌倉時代・14 世紀）の像内納入品である「大般若経」巻 173 に、「正安四年五月廿四日　左衛門尉藤原孝久」の奥書があり、上巻墨書と同一人物である可能性がある。

〇銘文など　本紙色紙形墨書「都府楼纔／瓦色観音寺／只聞鐘聲」「こ地婦か半に本／ひお古勢□梅乃／者那ある思な之と／帝者流をわ寿流な」、蓋表墨書「天神真筆御影」、箱側面貼紙「□京寶物／天神□像」、上巻墨書「自先祖代々相伝□也／永仁四申丙年十二月日　従五位下左衛門尉□／藤原　　」、箱の革紐の一方が欠失している。

7　〇名　　称　山水図　1 巻
〇時　　代　室町時代・15 世紀-16 世紀
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇寸 法 等　縦 19.5 横 549.0（第 1 紙 35.6、第 2 紙 38.0、第 3 紙 38.2、第 4 紙 38.4、第 5 紙 38.2、第 6 紙 38.3、第 7 紙 38.2、第 8 紙 23.9、第 9 紙 39.0、第 10 紙 39.2、第 11 紙 38.7、第 12 紙 38.9、第 13 紙 39.7、第 14 紙 39.9、第 15 紙 24.8）　cm
〇作品概要　巻子装。本紙には擦れやたわみがあり、虫損の跡などに補修もあるものの、全体に線描や彩色は保たれており、図様もよく留められている。軸端は象牙。
この画巻には、4 字の題名が記された 7 つの場面がある。画面は冒頭から、騎驢の一行が芽吹く柳下を歩む「柳□尋春」、花咲く桃の間で酒旗が風に吹かれる「桃崦輕帘」、川沿いの室内で 2 人が対面する「春溪小築」、杖を持つ高士の一行が岩陰から歩み出る「短筇出□」、澄んだ河を渡し船が進む「清溪晩渡」、竹薮の中に 2 棟の屋根がのぞく「竹嶋幽房」、旅人が中腹の関所を目指す「山腹南關」で構成されている。このうち第 7 紙と第 8 紙の継ぎ目つまり「短筇出□」と「清溪晩渡」の間には不自然に図様が途切れる箇所があり、また第 8 紙が短く紙継ぎに乱れがあるため、ここには場面の欠失があると認められる。
その表現は人物の持物や季節を示す植物の成長までを細やかに描出する優れたもので、丁寧な筆致と茶と青が基調の明るい彩色を特徴とする。狩野安信の極書から、周文の後継者として足利将軍家の御用絵師となった小栗宗湛(1413-1481)筆の伝承を持つ作品として知られている。
室町時代に高く評価された南宋時代の画院画家・夏珪の様式にならう山水図巻である。夏珪の作品は足利将軍家の中国絵画コレクションのなかでも特に重視され、室町水墨画のモデルとしての役割を果たしたが、本図でもモチーフの描法や画面の構成法にその影響をみることができる。本図の全体的な図様は、伝雪舟筆山水図巻模本（個人蔵）に、冒頭の二場面は雪舟筆山水図巻（重要文化財、京都国立博物館蔵）に共通することから、この山水図巻は当時流布した夏珪様山水図の典型的な図様を伝えており重要である。
その作者・年代は、丁寧な細筆と明るい淡彩が足利将軍家の同朋衆・芸阿弥(1431-1485)の画風に通じ、やや遅れる時期の画風を示すことから、15 世紀末から 16 世紀初にかけて京都の画家により制作されたと考えられる。日本では画巻形式の山水図は現存作例が少なく、最も古い室町時代の 1500 年を前後する時期の作品も 6 件を数えるのみで、本図はその貴重な一本と位置付けられる。このうち未指定の本図を除く 5 件は全て国指定品であり、本図もこれらに類した絵画史的な意義を与えられると考えられる。
〇銘文など　本紙に墨書「柳□尋春」「桃崦輕帘」「春溪小築」「短筇出□」「清溪晩渡」「竹嶋幽房」　「山腹南關」

8　〇名　　称　葡萄図　六曲屏風　1 隻　李蔭庭筆
〇時　　代　朝鮮　朝鮮時代・17 世紀-18 世紀
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇寸 法 等　縦 128.4　横 205.6　cm
〇作品概要　屏風装。経年による本紙の汚損などはあるが、状態はおおむね良好である。
駆け抜けるように伸びる葡萄を、墨一色で描く。その幹では、輪郭や節目が擦れた濃墨で線描されており、動勢が強調されている。これに対し枝や葉、果実は、没骨技法による輪郭線のない墨面で表現されている。とくに葉と果実では赤味と青味のある 2 種類の墨が用いられ、墨面の濃淡の対比や縁取りに地色を残す描法によって、モチーフの表裏や重なり合いが表されている。その墨色の階調を微妙に、ときに大胆に変化させる墨面は、幹の存在感のある墨線と見事に呼応している。つまり本図は、墨線と墨面とに主眼をおく 2 つの水墨技法を自覚的に区別して用い、これらを巧みに融合して画面を形作っていると説明することが出来る。　屏風装。引き手跡により襖絵より改変したことが明らかである。一部欠損箇所に補紙。
西域からもたらされた葡萄は東アジアでも美術工芸の意匠として盛んに造形され、とくに朝鮮では水墨画の主題として好まれた。本図は、このような朝鮮絵画の葡萄図を代表する出来映えの優品であり、現存作例の少ない屏風などの大画面の 1 本として貴重である。
作者の李蔭庭は詳しい伝歴が知られず、年代も落款からは「癸卯」である以上のことは判明しない。その動勢の表出に注目

して年代を考察すれば、本図は、大らかな動きの枝が優美な表現をとる李継祜(1574-1646 以降)の葡萄図（韓国・国立中央博物館、大和文華館）よりも形態自体の面白さを追求していることから、17 世紀後半以降の制作と考えられる。しかし枝や葉の動勢が停滞し形式化が進む傅氏筆葡萄図（個人蔵）など 18 世紀の作例と比較すれば、本図はより明快で力強い表現をとり、高度な水墨技法をも駆使しているため、年代が遡ると思われる。基準作がなく確定は難しいものの、その制作は 17 世紀後半から 18 世紀初頭にかけてとみなすのが妥当と考えられ、落款の「癸卯」は朝鮮・顕宗 4 年(中国・康熙 2、1663)または景宗 3 年(雍正元、1723)に相当する可能性が高いと思われる。

○銘文など　「逢時青換紫得意苦来甜／歳次癸卯荷月摸倣晋人筆法／於綵美書屋／澤軒李蔭庭」

**＜書跡＞（3 件）**

9　○名　　称　大般若波羅蜜多経　春日版　3 巻
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀　弘安 8 年(1285)
○品　　質　紙本墨刷
○寸 法 等　巻第二十七　表紙　縦 26.7 横 21.0、本紙　縦 26.7 横　第一紙目 40.1、第二紙目 43.4、第三紙目 43.4、第四紙目 43.2、第五紙目 43.3、第六紙目 43.4、第七紙目 43.2、第八紙目 43.5、第九紙目 42.5、第十紙目 41.5、第十一紙目 43.2、第十二紙目 43.3、第十三紙目 43.3、第十四紙目 43.3、第十五紙目 43.2、第十六紙目 43.2、第十七紙目 43.3、第十八紙目 43.4、第十九紙目 43.0、第二十紙目 43.5、第二十一紙目 43.2、第二十二紙目 9.7　全長 934.1、
巻第五十六　表紙 縦 26.9 横 20.3、本紙　縦 26.5 横　第一紙目 43.3、第二紙目 44.0、第三紙目 44.0、第四紙目 43.9、第五紙目 43.9、第六紙目 43.7、第七紙目 43.9、第八紙目 43.8、第九紙目 43.9、第十紙目 43.8、第十一紙目 43.8、第十二紙目 43.8、第十三紙目 43.8、第十四紙目 43.2、第十五紙目 43.9、第十六紙目 43.6、第十七紙目 43.7、第十八紙目 43.5、第十九紙目 43.7、第二十紙目 43.5、第二十一紙目 41.5、第二十二紙目 38.5　全長 975、
巻第二百二十　表紙 縦 26.3 横 22.3、本紙　縦 26.4 横　第一紙目 40.4、第二紙目 43.9、第三紙目 43.8、第四紙目 44.2、第五紙目 44.0、第六紙目 43.6、第七紙目 44.3、第八紙目 44.2、第九紙目 43.8、第十紙目 43.9、第十一紙目 43.8、第十二紙目 43.8、第十三紙目 43.5、第十四紙目 44.0、第十五紙目 44.0、第十六紙目 43.8、第十七紙目 43.7、第十八紙目 43.8、第十九紙目 30.0　全長 838.8 表紙 縦 27.9 横 11.5、全長 788.3　cm
○作品概要　巻子装、よく打紙を施した黄檗染め本紙料紙を紙継ぎし、焦茶色に刷毛染めした紙表紙を付ける。表紙には外題が打付け書きされるが、巻第二十七では後半部が後補、巻第五十七はほとんど欠失している。八双は巻第二十七、および巻第二百二十の欠失した残り半分は原装の可能性がある。軸は合せ軸で軸首は朱頂黒漆塗頭切軸。巻緒は欠失する。1 紙長は 44cm 程度。本紙紙数は、巻第二十七は 22 紙、巻第五十六は 22 紙、巻第二百二十は 19 紙。1 行 17 字詰、1 紙 22-23 行。経典の文字は春日版の特色である濃い墨色で摺刷されている。本文には全巻を通して朱で句点が打たれている。三巻とも首尾完存している。裏打ちは無い。全巻を通じて虫孔がみられる。
春日版は我が国を代表する版経であり、興福寺所蔵の板木と版経の一部は重要文化財に指定されている。平安時代後期から奈良・興福寺で印刷された経典で、最古の紀年銘があるのは寛治 2 年(1088)の刊記がある「成唯識論」巻第十である。大般若波羅蜜多経のうち最初に開版されたものを嘉禄版といい、貞応元年(1222)から嘉禄 3 年(1227)に開版された。需要の多かった大般若波羅蜜多経は、その後も傷んだ板木を何度も補刻しながら、摺刷が続けられた。
本経は嘉禄版大般若波羅蜜多経が開版された時期と比較的近い弘安八年(1285)に橘乙女を願主として摺刷されたことが奥書によって特定できる。形態は、当初からの巻子装のままでのこっており、表紙、軸も原装である可能性が高い。裏打ちも施されていないので、料紙の質感をよく知ることができる。
　大般若波羅蜜多経は玄奘が訳した般若経典群の集大成で全 600 巻からなる。
○奥書など　巻第二十七刊記「為養母妙観離苦得脱奉彫之／佛子覺融」、奥書「弘安八年七月日願主橘乙女」、巻第五十六刊記「比丘尼阿弥陀佛」、奥書「弘安八年七月日願主橘乙女」、巻第二百二十刊記「尼覺念」、奥書「一校了」、「願主比丘尼善阿弥陀仏／橘乙女也」

10　○名　　称　大般若波羅蜜多経　巻第 379　東大寺八幡宮経　1 巻
○時　　代　鎌倉時代・寛喜元年(1229)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　表紙　縦 26.2 横 21.5、本紙　縦 26.2 横　第 1 紙 50.0、第 2 紙 52.2、第 3 紙 51.9、第 4 紙 52.0、第 5 紙 52.0、第 6 紙 52.1、第 7 紙 52.0、第 8 紙 51.7、第 9 紙 49.6、第 10 紙 50.1、第 11 紙 50.1、第 12 紙 50.0、第 13 紙 50.1、第 14 紙 50.1、第 15 紙 50.0、第 16 紙 49.9、第 17 紙 49.9、軸付紙 1.6　cm
○作品概要　巻子装。濃紺に染めた表紙には金銀箔砂子を横に撒き、外題は銀泥で書いた複郭内に金字で「大般若経巻第三百七十九」と打ち付け書きする。見返しには白地に銀小箔を散らす。よく打紙を施した黄檗染め本紙料紙を紙継ぎする。軸木は 1 本軸で梵字 17 字を墨書し、天地逆に付けられている。軸首は鍍金撥形の金銅軸。首尾完存する。1 紙長は 50cm 程度。本文料紙紙数は 17 紙。第 2 紙での計測では 1 行 17 字詰、1 紙 28 行、界高 20.0、10 行界幅 18.7、上欄 2.8、下欄 3.3。経典の文字は濃い墨色で線の太さの変化が大きい。校合の跡がある。全巻を通じて虫孔が有るが補修されている。
○奥書など　奥書「一交了/奉施入　銭百文　佛阿弥陀佛　南野田/寛喜元年六月十五日」。本紙料紙各紙背に「東大寺八幡宮」(朱文複郭長方印)の黒印各 1 面有り。本紙料紙各紙背に「永観文庫」(朱文単郭方印)の朱印各 1 面有り。本紙料紙第一紙から八紙紙背に花押各一面有り。箱蓋表と表紙にラベル「永観文庫」「2A/23」各 1 枚有り。

11　○名　　称　重要文化財　馮子振墨蹟　与放牛光林語　1 幅
○作　　者　馮子振（1257-1327？）
○時　　代　中国 元時代・14 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 33.4　横 88.7　cm
○作品概要　掛幅装。三段表具で一文字風帯には紫印金、中廻には紺地二重蔓牡丹金襴、上下には茶絣を用いる。本文は、行書体で揮毫する。全 15 行。落款印を 3 顆捺す。軸端は象牙。作品の状態は概ね良好である。のちの修理で施された折伏せは多数確認されるが、明らかな入墨等は肉眼では確認できない。筆致や筆勢が細部まで看てとれ、馮子振の書風をよく伝えている。
馮子振は、字は海粟、号は怪怪道人といい、現在の中国湖南省の出身。元時代の官吏として、官は集賢待制史に至り、また、元時代を代表する文人の一人として著名である。その人物は、天下の書で知らないものは無いと言われるほどの博識強記で、溢れる才気に恵まれたと伝えられる。その詩には、味わいの深さと文章の見事さに定評があり、古来、書家としてよりもむしろ詩人として名を遺している。
ところで、人物理解のみならず馮子振の書を理解する上でも見過せないのは、彼の禅林との交流や禅学への深い造詣である。参禅の師と仰いだ中峰明本（1263-1323）や語録に序を寄せた古林清茂（？-1329）、およびそれぞれの会下の僧との交流が

知られ、そのなかには日本僧も含まれる。彼らとともに日本に持ち帰られた詩や語の存在は、当時の禅林における馮子振の面目を伝える一次史料としても大変貴重だが、わが国では墨蹟に等しく尊重され伝来した事実も見逃せない。具体的な作品を挙げると、豊前国の出身で、中峰明本に参じ、建仁寺、顕孝寺（筑前）、聖福寺（筑前）、南禅寺などの住持をつとめた無隠元晦（？-1358）に係る「与無隠元晦詩」（国宝、東京国立博物館蔵）および「与無隠元晦語」（重要文化財、五島美術館蔵）、また、　古林清茂に参じ、花園上皇の帰依を受け長福寺（山城）の開山で知られる月林道皎（1293-1351）に係る「保寧寺賦跋」（重要文化財、東京国立博物館蔵）が現存する。これら以外の馮子振の遺墨として、北宋の易元吉の『草虫画巻』に賦した「画跋」（国宝、常盤山文庫蔵）が知られ、付属の書状から千利休が「海道人墨蹟」として愛蔵していたことが分かる。その他の遺墨として、清朝末期まで中国に伝わり大正時代に日本にもたらされた「居庸賦」（個人蔵）がある。

○釈　　文　「日本僧、自号林放／牛。冲泊静閑、意／趣不苟。方当梅子熟／於呉苑、瞻匐香於／蘇台、緑野微茫／青山嬾散。放牛、此際、／以古鉢為芳草、以壊／衲為眠簑。他日、露地／驀牽蔗園、依旧／還尋舶絵、不駕鞍／騎。鈍鉄吹毛、償他／舐犢。至是時臥取／明月、吸他清風、三／界外、別有町■（田＋童）在。／海粟老人／（朱文方印「子振」）（白文方印「海粟」）（朱文方印「怪々道人」）

○来　　歴　疋田家…矢倉家…福井恒斎一個人

**＜彫刻＞（1 件）**

12　○名　　称　銅造観音菩薩立像　　1 軀
　　○時　　代　中国　隋時代・6-7 世紀
　　○品　　質　銅鋳造・鍍金
　　○寸 法 等　総高 36.7　像高 23.8　cm
　　○作品概要　菩薩形立像。単髻を結い、頭上正面に唐草文を基本とする頭飾を戴く。頭髪毛筋は正面髪際のみ表す。耳璫を着ける。後頭部背面中央に光背支持用の角枘を造り出す。三道をあらわす。僧祇支、裙、天衣を着ける。僧祇支は左肩から右腋にかけて衣端が見え、その衣縁に帯状の縁取りを表す。裙は一段折り返し、上部には腰帯を表す。天衣は両肩に掛かって両腕内側を垂下し、衣端は蓮華座外側に掛かる。装身具は胸飾（基本帯紐、珠）、瓔珞（帯紐、珠）、腕釧（紐）を着ける。瓔珞は右肩から左膝下外側へと斜めに掛かる。左腕は垂下し、手首を外側に強く曲げ、第一・三・四指で蓋付きの水瓶を掴み持つ。右腕は強く屈臂し、右肩外側で第二指を立てながら柳枝を持つ。背面全体を扁平に処理し、着衣や衣文は線刻で表す。背面から側面にかけては角張った面取りをする。やや腰を右にひねり、左脚をわずかに遊ばせて立つ。蓮華座上面は中心でややふくらむ。
銅鋳造。頭躰及び後頭部光背支持用枘、蓮華座を含んで全容を一鋳する。髻後方の後頭部上方部に一箇所と裙裾底面の背面部一箇所に、中空部と連結する不整形の開口部がある。中型土はほぼ像内に残存する。鍍金は頭飾より後方の頭髪部から背面頸部にかけてを除く全面に施される。彩色は認められない。
保存状態は、左手第二指付け根より先、右手第一指付け根より先と柳枝の先、後頭部光背支持用枘、天衣両先端（足首付近より蓮華座に至る部分）が欠失。反花以下の四脚台座は後補。
やや腰をひねって立つ姿を両手の動きと相まって的確に捉えている。装身具は大ぶりかつ豪華であり、背面の造形を扁平に処理するなど、中国・隋時代の金銅仏の特色がよく表れている。

**＜陶磁＞（6 件）**

13　○名　　称　朝鮮唐津水指　唐津　　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津
　　○時　　代　江戸（桃山）時代・17 世紀
　　○品　　質　陶器
　　○寸 法 等　高 15.8 口径 9.1 底径 11.1 最大径 22.8　cm
　　○作品概要　叩き成形の水注形手付の水指。底から腰部へと広げながら立ち上がり、側面は口縁に向かって僅かに開いた円筒形となる。肩で直角に折れ、蓋受けのある口縁とする。捩った二本の粘土紐を肩から腰部に貼り付け把手とする。注口はたたら成形で、胴部の中央よりやや上方に付け、直角に近い角度で上方へと折れ曲がり、端部はやや開き気味となる。注口内部には詰め物がされ、端部にわずかな欠損があり、漆によって修理されている。
内面から外面上半分は黒褐釉が施される。下半分は藁灰釉を掛け、腰から底部にかけては釉を拭い取る。中央部分には釉の掛け外しが生じている。肩部分に一ケ所、焼成時の熔着跡がある。
唐津窯は朝鮮半島の陶工によって 16 世紀末に開窯の西日本を代表する陶器窯。畿内との結び付きが早くからあり、茶の湯の隆盛に対応し、桃山茶陶を作り出している。黒と白の釉薬を掛け分ける技法は朝鮮唐津と呼ばれ、畿内での片身替の装飾の流行に対応したもの。唐津や高取で行われ、唐津の藤川内窯で優品が多く作られている。
この作品は朝鮮唐津水指で典型的な一重口でなく、本来は茶陶の水注として作られたもの。これが水指として取り上げられてきた。昭和 9 年の藤田伝三郎旧蔵品の売立の際の『香雪斎蔵品展観図録』に、「朝鮮唐津横手水指」として掲載されている。

14　○名　　称　絵唐津草文壺　唐津　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津
　　○時　　代　江戸（桃山）時代・17 世紀
　　○品　　質　陶器
　　○寸 法 等　器高 14.3 口径 11.6 底径 8.1 最大径 18.7　cm
　　○作品概要　右轆轤の成形による壺。肩に張りのある算盤玉形とし、頸部は短く立ち上がる。腰部より下方を左回転の篦削りで調整し、高台を削り出す。高台とその周辺は露胎として全体に黄灰色を呈す藁灰釉を掛ける。茶色から黒褐色の鉄絵で大型の草文を 2 ヶ所、小型の草文を 1 ケ所描く。胎土の鉄分が吹き出し施釉部分では斑点状となる。高台端部は古い欠損が 5 ケ所ある。口縁から腹部に縦に走るヒビ割れが 4 ケ所、内 2 ケ所は漆と金繕いで補修する。口縁内部に 1 ケ所、金繕いがある。口縁端部に石ハゼが 1 ケ所、鉄絵の剥落が 3 ヶ所ある。
絵唐津は唐津窯で 16 世紀末に始まる下絵付の技法で、美濃窯の志野とともに日本で最初の下絵付の焼物である。叩き成形ではなく、轆轤成形で作られる茶算盤球形の壺は絵唐津を代表する器種のひとつであり、落ち着いた色調と素朴な鉄絵に対して高い評価を与えられている。茶の湯の水指として用いられることも多く、この壺もやや小振りであるが近代以降は水指としても用いられている。

15　○名　　称　擂座双耳水指　唐津　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津･甕屋の谷窯

○時　　代　　安土桃山-江戸時代　17 世紀
○品　　質　　陶器
○寸 法 等　　高 18.7　口径 12.2-12.5　最大径 20.9　(底径)15.5　　cm
○作品概要　　叩き成形で 3 足と双耳を付けた水指。底部は円形。三方に粘土塊による足を付ける。ほぼ中央に「逆 L 字」を浮き出させている。外に開き気味に立ち上げて腰部とし、櫛目状の凹線を施す。胴は内湾気味に立ち上げ、左上がりの螺旋状に 8 条の凹線を刻み、11 箇所で内に押し窪める。明確な稜線をなして肩とし、内に絞りながら立ち上がる。ここにも左上がりの螺旋状の７～８条の凹線を巡らし、扁平の粘土板をたわめて両端を貼り付けた双耳を付ける。そこで横に水平に開いた後に、直に立ち上げ、再び水平に絞り、側面には櫛目状の凹線を巡らし、半面に７つの擂座を貼り付ける。口縁は僅かに膨らみを持って直に立ち上げ、端部を水平とした後に下に折れ、緩く内側に伸ばして蓋受けとする。内面で胴部の裏側部分に叩き成形の際の青海波文が残る。
胎土は鉄分を多く含み、口縁蓋受け端から底部まで灰釉を施釉して黄褐色から茶褐色の色調を呈し、正面と正面右側、背面右側に鉄釉を流し掛けた部分は飴釉状の透明感のある暗褐色となる。口受け端部に４箇所小さな欠損がある。
唐津は東日本の瀬戸･美濃に対して西日本を代表する陶器窯で、九州･山口に展開する朝鮮半島系の窯の中でも最も古い歴史を持つ。朝鮮半島系諸窯の中で、唐津は桃山期の和物茶陶の創造で最も大きな役割を果たした。この水指は桃山茶陶の造形が最も力強く展開した時期の典型的な作例である。底に記された「逆 L 字形」の浮印から、唐津で甕屋の谷窯の作であることが分かる。

16　○名　　称　　文琳茶入　銘　薩摩文琳　薩摩　1 口
○窯・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代･17 世紀
○品　　質　　陶器
○寸 法 等　　高 7.4　口径 2.3　胴径 7.4　底径 3.0　cm
○作品概要　　文琳形の茶入。鉄分を含んだ緻密で粘り強い素地。轆轤成形で底部から開きながら立ち上がり、ゆったりとした膨らみをたたえて胴部で最大径とした後にゆっくりと絞って、総体が林檎状の形となる。細い頸部を直に立ち上げ、端部に丸みをもたせてわずかに外に開いた口縁となる。底部は左糸切が残り、腰部分は丁寧な削り調整を施す。内面は露胎、口縁内側から腰にかけて透明感のある茶褐色釉を施し、藁灰釉が上方に掛けられ、一方で釉際まで垂れて景色となる。底部に指大の釉痕あり。口縁の約 3 分の 1 が割れたものを接合、補彩している（CT 検査による）。内部に茶粉付着する。
薩摩は朝鮮半島から渡来した陶工によって九州･山口に開かれた窯のひとつ。薩摩の作種で、茶入はとりわけ評価が高い。本作は文琳形薩摩茶入の代表作であり、唐物茶入にならった和物文琳茶入としても、最も優れた作行のもの。本作は元薩摩藩主島津公爵家の昭和 3 年の売立て出品作で、島津家に伝来したものである。島津家の茶道具については『要用集　三』の「御数奇屋御道具之事」という江戸期の文献があり、「一　薩摩文琳御茶入一箇　但国分様御所持之由」が、この茶入である可能性が高い。
○来　　歴　　薩摩藩主島津家。（昭和 3 年売立）東京国立博物館寄託

17　○名　　称　　薩摩切子　三段重　1 合
○作者・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代・安政 2-6 年(1855-59)
○品　　質　　紅色被せガラス
○寸 法 等　　総高 12.4 最大径 10.3 蓋高 3.0 上段高 3.8 中段高 3.8 下段高 4.1 径 10.0　下段底径 10.0　上・中段底径 9.3　蓋填め込み部径 9.1 同高 0.8　cm
○作品概要　　透明ガラスはわずかに黄色味を帯びる。上段、中段は同形で、下段のみ器高が高い。透明ガラスに紅色ガラスを被せ、底部は外側を複弁 16 弁にカットする。側面は透明の縦筋により 6 区画に区分し、上・中段は 4×4 の斜格子、下段は 5×5 の斜格子にカットし、それぞれの紅ガラスをボブネイル 8 菊にカットして装飾とする。ほぼ低い円筒形で、下段の底部はほぼ平たく、端近くでゆるく立ち上がる。内底面はやや張り出し、屈曲するように内側面となり、内側にゆるやかな曲線を持ちながら上方に立ち上がり、口縁端部は角丸の水平となる。上・中段も基本的に同様の造形だが、底部と側面の繋ぎ部を重ねのために削り込んでいる。蓋は填め込み部を持ち、上面は八角星と対面する頂点を結ぶ線をカットし、それぞれの区画を三角錐状にカットする。八角星の外側部分の三角形はカットにより 4 つの三角形に区分する。側面は身と同様に 6 区画に区分し、3×3 の斜格子で一段の装飾を巡らす。状態 蓋：上面に 3 箇所の欠損あり。側面に 2 箇所、小傷があり。身：あまり傷は目立たないが、下段の底部は全体にスレがある。
薩摩のガラス製造は、第 10 代薩摩藩主島津斉興の時、弘化 3 年(1846)に江戸の硝子師四本亀次郎を招聘して始まった。嘉永 4 年(1851)、斉彬が第 11 代薩摩藩主となって殖産興業政策を進めて急速に発展、同年に紅ガラスの製造を開始し、安政 2 年(1855)には集成館でのガラス製造が始まっている。安政 5 年(1858)斉彬の死により急速に衰え、明治 4 年(1871)版籍奉還で集成館が廃止され終焉を迎えている。この三段重は、箱蓋裏に「薩摩國主島津齊彬公／安政年間手製」とあるように、薩摩切子の全盛期である安政 2-6 年(1855-59)の作と考えられる。薩摩切子の基準作には薩摩藩主であった島津家所蔵の作品群がある。この作品は、現在尚古集成館に所蔵され、大正 10 年(1921)、島津家本邸で開催の「薩摩硝子陳列会」に「紅色(漸赤色)丸三重鉢」として出品の作品と同種であり、薩摩切子の代表作に位置づけられる作品である。

18　○名　　称　　薩摩切子　栓付瓶・杯　1 具
○作者・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代・安政 2-6 年(1855-59)
○品　　質　　ガラス
○寸 法 等　　瓶高 21.4 口径 4.5 底径 5.7 最大径 9.6 蓋高 6.5 最大径 5.3 盃高 4.4 口径 7.6 底径 3.0　cm
○作品概要　　瓶：紅被せガラス。透明ガラスは黄色味を帯びる。胴部を円筒形とし、肩で一気にすぼめて鶴頸状とし、開いて口縁とする。底部の一部から胴部全体、さらに肩のやや上まで紅色ガラスを被せる。底部に 3 箇所紅色ガラスが付着する。底部は水平で、端部を明瞭としながら、広く開いて腰となり、屈曲して胴部とする。腰部はカットして、胴部との区切りとする。胴と肩の区切りは太い一重の削り込みを施し、頸部に向けて三重の削り込みを加える。胴部は 10×10 の斜格子で区切る。3 段の菱形は無文だが、中央を横にカットし、上下 2 つの三角、中央 2 つの菱形となる部分は、細かな斜格子で魚子文にする。頸部は 5 段の亀甲状の面取を巡らす。胴部中心に全体に白斑が現れる。口頸内部に蓋によるスレ跡あり。
蓋：瓶に比べてやや青みを帯びた透明度の高いガラス。上部は複弁 12 弁を放射状にカットする。
杯：紅色被せガラス。透明ガラスはやや黄色味を帯びる。底部は小さくほぼ水平で、丸く立ち上がり、一段上でさらに大きく広がる。底面は 8 菊にカットする。腰部は 2 条のカットを巡らす。側面は太いカットで 9 区画に区分し、それぞれに 3 条

のカットを施す。口縁に 1 ケ所欠損あり。表面全体に白斑が現れる。
○来　　歴　渡邉千秋旧蔵

**＜漆工＞（4 件）**

19 ○名　　称　屈輪堆黒払子　1 本
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　全長 51.2　軸長 14.8　径 2.0　cm
○作品概要　軸を彫漆の技法で飾った払子。軸は中央部がふくらんだ形に造り、地の黄漆に加えて、朱・黒などの色漆を何層にもわたって塗り重ねている。文様は、亀甲文のうちに屈輪文を彫りあらわしたもので、全体に大変精細な彫技をみせる。軸の上端には、獣毛とみられる毛を取り付け、取り付け部は黄紐を丸く組んで覆う。軸の下端には、後世につけられた紐がついている。
南宋墓などから出土した類品も知られているが、このように払子としての当初の姿をとどめて伝世している作例はなく、甚だ貴重である。また、軸部は朱色、黒色の漆を 15 層にも薄く塗り重ねて文様を彫りあらわしており、南宋独特の繊細な彫技の特色がはっきりとあらわれている。

20 ○名　　称　蒲公英蜻蛉堆朱合子　1 合
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径 7.7　高 2.4　cm
○作品概要　丸形、印籠蓋造の合子。蓋甲が平らかな、いわゆる一文字形を示す。朱、黄、緑などの色漆を塗り重ね、蓋には、蜂、蜻蛉、蒲公英の文様を、また、側面には、雷文繋の文様を彫りあらわす。身の内および底は、透漆が塗られ赤褐色を呈する。
多色の漆を塗り重ねて彫りあらわした文様は、文様それぞれに彫法を変えることで異なる表現を見せており、南宋時代の完成された彫技の特色をはっきりとあらわしている。小型の作品ながらも見所が多く、まことに貴重な存在といえる。

21 ○名　　称　蓮華堆黒盆
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦 11.1　横 22.0　高 2.1　cm
○作品概要　長方形の小形の盆。口縁は太めの縁をつけ、高台は低く幅広の高台とする。見込は、黒・朱の漆を塗り重ねて、彫漆の技法で、中央に二つの蓮華と蓮葉を、四隅に菊、椿、牡丹、薔薇をあらわす。地は朱漆塗とする。裏面は、黒・朱の漆を塗り重ねて、唐草文を彫りあらわす。なお、見込や底面には、塗膜の割れなどがみられ、後世修理が認められる。
本作品は、低い高台や幅広の畳付など、宋時代の彫漆器の特徴がみられ、数少ない南宋時代の作例として貴重である。また、見込にあらわされた花卉草花文は、小さな画面を有効に使って伸びやかに生き生きと描かれており、デザイン力の高さをはっきりと示している。これと同趣の作例は、「花鳥堆黒長方盤」（ボストン美術館蔵）などわずか数例しか知られておらず、まことに稀少なものといえる。なお、高台内に刻まれた「張成」は元時代の彫漆の作家で、後銘と指摘されている。同じく「項墨林」は明時代の書家、画家で、収蔵家としても著名であった。
○銘文など　高台内針刻銘「張成造」、「項墨林家蔵」

22 ○名　　称　後赤壁賦堆朱盤　1 枚
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径 34.2　高 5.0　cm
○作品概要　やや大ぶりな丸形の盤。厚手の口縁をもち、低い高台をそなえる。全体に黄漆の上に朱漆を塗り重ね、彫漆の技法を用いて文様をあらわす。見込中央には、楼閣や、船遊びをする人物などがあらわされ、上部には「後赤壁賦」、中央の岩部に「赤壁」、左の岩部に「是歳十月之／望歩至雪堂／将帰于臨皐／二客従予過／黄泥之坂」の文字があらわされる。見込の周囲には、菊、梅、蓮などの花卉文が、裏面にも同様に花卉文が配され、高台には七宝繋ぎ文があらわされる。
本作品は、北宋時代の文人、蘇軾（1036-1101）が詠んだ「後赤壁賦」を意匠の典拠としている。見込上方には、「後赤壁賦」の 4 字、見込左中央には賦の冒頭「是歳十月之／望歩至雪堂／将帰于臨皐／二客従予過／黄泥之坂」が刻されている。なお、「歩至雪堂」は通行では「歩自雪堂」である。見込左中央には、書斎（雪堂）前の蘇軾一行、その上方には肴を手に住居である臨皐亭に戻る場面が描かれる。見込下方には、長江の景観を眺めるため船に乗り込む一行、そのやや上方の岩には「赤壁」の文字があらわされる。また、見込上方には、眠る蘇軾と、夢にあらわれる道士が描かれる。つまり、見込の図様は、「後赤壁賦」の各場面を取り出してあらわしているが、場面の順や実際の位置関係は勘案されておらず、意匠にあたってアレンジがなされている。
「前・後赤壁賦」をモチーフとした作品は、絵画や工芸など数多く知られているが、この作品は彫漆器の作例としては最古に位置づけられるものである。また、同時代に制作された、同型の彫漆器は他に 3 点が知られるのみであり、そのなかでも堆朱で飾られた作例は本作品が唯一である。文様は宋時代の様式を反映して、総じて細密で彫技も優れており、保存状態もよい。ゆえに、本作品は、南宋期彫漆の代表作としてきわめて貴重である

**＜考古＞（1 件）**

23 ○名　　称　彩漆盤　元始四年銘　　1 口
○作者・制作地等　　蜀郡西工
○時　　代　前漢・元始四年（後 4 年）
○品　　質　彩漆丸盤
○寸 法 等　口径 26.8　底径 11.1　高 6.7
○出土地　伝 朝鮮楽浪古墓
○作品概要　素地は布着せの夾紵胎とする。器壁は黒漆により上塗りする。内面中段は朱漆塗りとする。円形の平高台からやや外湾して胴部が開き、胴部の下 3 分の 1 ほどで稜をもち屈曲し、頸部に向かって直線的に外方へ立ち上がる。口縁は断面方形を呈する平縁口縁で、金銅製の覆輪をもつ。胴部外面には雲気文を漆画し、内部を朱と青で塗彩する。胴部内面には変形夔鳳文を漆画する。内底面には鋸歯文、菱形文、円形文が輪状に巡る。その中を流雲文によって 3 区画し、それぞれ内部を朱と青で塗彩する。各々に熊形の三獣文を漆画し、朱と青で部分的に塗彩する。口縁底部に 62 字からなる銘文を錐書し、制作年、制作地、製品規格、技術種目と参与工人名、監督官と官人名を記録する。器壁が一部変形し、口縁部から胴部にかけては 3

箇所に亀裂が認められる。
本器の文様は総じて肉厚の描線による重厚な筆致であり、前漢末・蜀郡西工産の特徴をよく示す。蜀郡西工は、御用の漆器や青銅器の制作を主幹した地方官営工房であり、その製品は主として各地の王侯級の墓から出土する。副葬数は当時銅耳杯の 10 倍の価値とされた彩漆耳杯と比較してより少なく、遺存数も僅少である。
本例は、現在知られている当該時期の漆器の中でも特に保存状態が良好であり、銘文箇所も完存することから、漢代文物の基準資料と呼ぶに相応しい作品である。さらに造形面においては当時の最高等級である乗輿漆器の型式をよく遵守しており、これらを総合すると、日本国内にある漢代資料としては国宝 金彩鳥獣雲文銅盤（永青文庫蔵）と比肩すべき水準といえる。

○銘文など　銘文「元始四年／蜀郡西工／造乗輿髹彤畫紵黄釦飯槃／容一斗／髹工石／上工譚／銅釦黄塗工豊／畫工張／彤工戎／清工平／造工宗造／護工卒史章／長良／丞鳳／掾隆／令史褒主」

**＜歴史資料＞（4 件）**

24 ○名　　称　クリスティアン・ファン・フレイベルフ献納目録　　1 通
○時　　代　江戸時代・享保 3 年（1718）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 32.8　横 46.0　cm
○作品概要　未装（マクリ）。素紙に 8 行で本文を墨書する。旧包紙のうち墨書のある部分を切取り，本書の端裏に貼付ける。それぞの釈文は次のとおり。

（旧包紙）「享保年代　賀茂社司清茂筆/かひたんきりすてやんぶれいばるこ/賀茂神社江献納目録」
（本紙）「進上/一　尺長弁柄嶋　三端/一　尺長大かいき　二端/一　尺長嶋大かいき　二端/一　尺長鷹羽嶋　二端/一　珍■（酒＋它）酒　一徳利/以上/二月十二日　かひたんきりすてやんぶれいばるこ（サイン）」

オランダ商館長クリスティアン・ファン・フレイベルフが江戸参府の途次、京都の賀茂社に立ち寄り、持参の品々を献納したときの目録。フレイベルフは、享保 2 年(1717)9 月 20 日オランダ商館長に着任、翌年 2 月 28 日将軍徳川吉宗に拝謁し貢物を献上、その 10 月に離任していることから、本書の年代は享保 3 年(1718)と特定できる。旧包紙には、本書が賀茂清茂の筆になるとするが､確証はない｡献納品として､古くからインドのベンガル地方で産出したことからその名がある縞織物、ベンガラ縞の反物 3 反を筆頭に、海黄などの染織品、及びワインを列挙する。こうした内容をもつ本文書は、アジアでの流通網を背景としたオランダとわが国との当該期の文化交流を、端的に示す資料である。

25 ○名　　称　江戸長崎街道図帖　　1 帖
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　縦 51.4　横 57.4　全長 1951.6　cm
○作品概要　折本装。本来は巻子であったとみられる。表紙と裏表紙は布装で、異なるデザインの龍をモチーフとした刺繍があり、表紙には「丸に三つ柏」の紋が金泥で描かれている。32 面にわたって、江戸から長崎に至る街道と宿駅、風景を連続して描く。この図帖そのものには、書写年代を示すものは書かれていない。しかし、例えば、近世初期の長崎街道は、筑前六宿（慶長 16-17 年(1611-1612)頃に成立）が未整備だったために、秋月街道が本筋であった。この図帖でもそれをふまえて描写しており、また佐賀を「龍蔵（造）寺」と記すなど 17 世紀初頭以前の古様を示す。いっぽう筑前六宿街道の道そのものは描写されており、寛永 13 年（1636）に築造された長崎出島が描かれ、寛永 18-19 年に成立した長崎の福岡藩と佐賀藩の番所がみえるなど、寛永年間まで下る情報も含まれる。延宝元年（1675）に直方藩に改称された東蓮寺藩がみえ、英彦山（享保 14 年(1729)以降の表記）が彦山と書かれていることなどから、図帖の情報は、ほぼ 17 世紀代に収まるものと考える。さらにこの図帖は、寛永 10 年（1633）代以降の近世前期の資料とされる九州大学所蔵『肉筆道中図』（文系合同図書室請求記号：国史/17/87）と文字情報や構図が非常に類似する。九大本と比較すると、風景や人物の描写が細かくなるいっぽう、瀬戸内海の航路の一部が省略されており、この図帖の方が年代が後であろう。料紙が縦 1 尺以上であることから、制作年代は 18 世紀以降とみられる。

26 ○名　　称　平定両金川得勝図　16枚
○時　　代　清時代・18 世紀
○品　　質　紙本銅版画
○寸 法 等　台紙 縦 55.6 横 95.0 本紙①縦 53.0 横 90.8、②縦 52.1 横 98.9 ③縦 53.0 横 90.8 ④縦 53.2 横 95.6 ⑤縦 53.0 横 90.5 ⑥縦 52.8 横 90.7 ⑦縦 52.9 横 91.0 ⑧縦 52.9 横 90.5 ⑨縦 53.0 横 90.7 ⑩縦 52.9 横 90.7 ⑪縦 52.4 横 91.0 ⑫縦 52.7 横 91.0 ⑬縦 53.0 横 90.7 ⑭縦 52.9 横 91.4 ⑮縦 53.1 横 90.8 ⑯縦 52.9 横 90.5　cm
○作品概要　台紙貼り。中国・清の第 6 代皇帝乾隆帝(1711-99)が、乾隆 12 年から 40 年(1747-75)にかけて四川省西方、揚子江の上流に位置する大金川・小金川を鎮圧した戦いを記念して作らせた版画。清朝に仕えていたイエズス会士宣教師に描かせた下絵をもとに銅版を彫らせたもので、乾隆 42 年(1777)に彫り始めた。各画面上部の乾隆帝による題詩は木版。全 16 図が揃っている点でも稀少である。
13 図は戦いの場面を表していて、いずれも険阻な山岳地帯に多くの石の要塞がある地域で戦いが繰りひろげられている。あとの 3 図は凱旋の様子を表している。全 16 図はそれぞれ 1 阿桂奏報収復小金川全境図、2 阿桂奏報功克喇穆喇穆等處図、3 阿桂奏報功克羅博瓦山碉寨図、4 明亮奏報功克宜喜達爾図山梁図、5 明亮奏報功克日旁碉寨図、6 阿桂奏報功克康薩爾碉寨図、7 阿桂奏報功克木里工噶克了口碉柵図、8 明亮奏報功克宜喜甲索碉卡図、9 明亮奏報功克石真噶碉柵図、10 阿桂奏報功克菑則大海昆色爾等處図、11 阿桂奏報功克勒烏圍図、12 阿桂奏報功克科布曲索隆古碉寨図、13 阿桂奏報功克噶喇依図、14 郊労凱旋将士図、15 金川平定午門受俘図、16 紫光閣凱宴将士図である。
乾隆帝は乾隆 25 年(1760)に平定した外蒙古の西方、現在のジュンガル盆地に位置する地域である準噶爾との戦いを記念して、銅販画「準回両部平定得勝図」を作らせた。これは、乾隆帝が初めて作らせた銅販画の戦功図で、郎世寧(ジュゼッペ・カスティリオーネ)を中心とした清に帰化していたイエズス会士達によって原画が描かれ、パリでシャルル・ニコラ・コシャンを総監督として銅版画にされた。清朝は、これに続いて七つの戦功銅版画「平定両金川得勝図」、「平定台湾得勝図」、「平定安南得勝図」、「平定郭爾喀得勝図」、「平定苗彊得勝図」、「平定仲苗得勝図」、「平定回彊得勝図」を国内で作成させた。本銅版画は、乾隆帝が二つ目に作らせた戦功銅版画で、清国内で作られた最初の作品である。パリで作られた「準回両部平定得勝図」を継承するもので、特に 15 図は「準回両部平定得勝図」の平定回部献俘図と、14 図は「準回両部平定得勝図」の郊労回部成功諸将士図を左右反転させたものとほぼ同じ構図である。ただし、銅版画の技術としては、他の清国内で作られた戦功図と同じく、明らかに見劣りがするものではある。

27 ○名　　称　康熙帝鹵簿図　2 帖

○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　各縦 34.0　横 32.9　cm
○作品概要　折本装。上 11 折、下 11 折。表紙は濃緑地四手雲宝尽紋緞子。上下とも金地に金で草葉を描いた貼題箋に「康熙帝鹵簿図上」、および「康熙帝鹵簿図下」と墨書する。画中には墨書により多数の注記を施す。
本作品は、康熙 52 年(1713)3 月 18 日に 60 歳の誕生日を迎えた中国・清朝第４代皇帝康熙帝(1654-1722)の誕生祝賀行事における鹵簿を描いたものである。鹵簿とは天使が巡幸する際の行列や車駕・儀仗の前後の順序をいう。中国では歴代を通じて、皇帝の誕生の祝いである「萬寿節」は、長寿を祝賀する行事として極めて厳粛・盛大に執り行われていた。誕生日の内でも節目にあたる 60 歳、70 歳、80 歳はとりわけ重んじられ、国を挙げて祝われた。こうした行事を「萬寿慶典」という。清代において最も大規模に「萬寿節」の行事が行われたのが、康熙 52 年の「萬寿慶典」である。
誕生日前日の 3 月 17 日、康熙帝の鹵簿は北京西郊の離宮暢春園を出発し故宮に向かった。康熙 55 年(1716)には、清代版画を代表する作品『萬寿盛典図』120 巻が刊行され、康熙帝の鹵簿とそれを迎える北京の臣民たちの姿が、沿道の風景とともに文字と詳細な図で描写されている。また、宮廷画家によって『康熙六旬萬寿慶典図』2 巻が描かれ、火災で失われたが、乾隆時代に版画の『萬寿盛典図』を元に描き直されたものが北京の故宮博物院に所蔵されている。
本作品の奥書には、「萬寿盛典」から「道路點綴之物」と「其器械重畳之数」を除いて画工狩野則譽(即譽)に写させたとあるとおり、『萬寿盛典図』を元にして、沿道の建物、臣民などを一切省略して鹵簿のみを描いたものと考えられる。彩色にあたっては、『康熙六旬萬寿慶典図』の写本などを参考にした可能性もある。
渡邊定静(崋山)(1793～1841)を筆者とする奥書や画家については、今後、検討すべき点として残されるが、丁寧な筆致による写本であり、保存も良い。
○奥書など　奥書「右鹵簿図二帖元出萬壽盛典清康熙皇帝即五十二年/三月十七日為厥明行其六秩壽且賀禮自暢春園/還宮之時所設鹵簿也而今有/旨除其道路點綴之物略其器械重畳之数而使画工狩野/則譽写之別/令臣具録盛典所載儀伏之員爾/文化十三丙子年(1816)正月五日/東都御書監田原臣渡邊定静謹書」。箱蓋裏書「康熙帝鹵簿図　弐帖/渡邊崋山筆」、表書「昭和八癸酉之夏日増田德仙君携此帖来、被請鑑/余曽閑先考此来由今也、転々而来得拝観喜/因縁不浅之快感不可言矣、此帖原清朝初世之版/中而係加残候之絵師狩野則譽之模写鹵簿/之儀容謹厳巻帙浩瀚所謂努力之大作也/崋山亦以君命臨写焉雖有尽法之異能力臨之/筆致温籍色彩口口(糸＋真)密之中自見露出/崋山独得自家之妙趣来可謂能尽力者尋常/画工之無企及之既其為真蹟不究疑真為照乗/之珍也、款曰文化十三年正月五日東都御書監/田原臣渡邊定静謹画案、此時先生二十四歳而/日夜研鑽之常時也、他日之大成今而足拝観矣/敬服々々披閲数次謹題数語以表眼福之爾/崋石渡邊康鑒了而議/(朱文方印)、(朱文長方印)」。

## 1-(2) 寄託品

### 1-(2)-① 寄託品一覧表

平成22年3月31日現在

| | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 |
| 合計 | 11,904 | 184 | 1,191 | 2,734 | 50 | 261 | 5,957 | 81 | 611 | 1,957 | 53 | 317 | 1,256 | 0 | 2 |
| 絵画 | 3,189 | 54 | 404 | 416 | 12 | 67 | 1,977 | 27 | 236 | 580 | 15 | 101 | 216 | 0 | 0 |
| 書跡 | 1,861 | 62 | 271 | 485 | 12 | 30 | 945 | 38 | 204 | 308 | 12 | 36 | 123 | 0 | 1 |
| 彫刻 | 773 | 11 | 205 | 141 | 1 | 41 | 248 | 1 | 60 | 359 | 9 | 104 | 25 | 0 | 0 |
| 建築 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金工 | 1,045 | 12 | 89 | 170 | 4 | 18 | 530 | 1 | 40 | 249 | 7 | 31 | 96 | 0 | 0 |
| 刀剣 | 261 | 10 | 71 | 226 | 8 | 58 | | | | 34 | 2 | 13 | 1 | 0 | 0 |
| 陶磁 | 1,303 | 1 | 6 | 138 | 0 | 2 | 784 | 1 | 3 | 11 | 0 | 0 | 370 | 0 | 1 |
| 漆工 | 761 | 10 | 53 | 135 | 3 | 16 | 468 | 4 | 15 | 103 | 3 | 22 | 55 | 0 | 0 |
| 染織 | 764 | 7 | 36 | 73 | 2 | 4 | 515 | 3 | 31 | 47 | 2 | 1 | 129 | 0 | 0 |
| 考古 | 939 | 13 | 34 | 156 | 4 | 12 | 446 | 6 | 13 | 231 | 3 | 9 | 106 | 0 | 0 |
| 民族資料 | 121 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 110 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | 95 | 0 | 9 | 1 | 0 | 0 | 40 | 0 | 9 | 29 | 0 | 0 | 25 | 0 | 0 |
| 和書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 絵画 | 150 | 2 | 9 | 150 | 2 | 9 | | | | | | | | | |
| 東洋 書跡 | 28 | 1 | 1 | 28 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| 東洋 彫刻 | 11 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 金工 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | | | | | | | | | |
| 東洋 陶磁 | 77 | 1 | 0 | 77 | 1 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 漆工 | 26 | 0 | 2 | 26 | 0 | 2 | | | | | | | | | |
| 東洋 染織 | 8 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 考古 | 487 | 0 | 0 | 487 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 民族 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |

＊京都国立博物館・奈良国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

### 1-(2)-② 寄託品増減表

平成22年3月31日現在

| | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 20年度 | 21年度 | 増減 | 20年度 | 21年度 | 増減 | 20年度 | 21年度 | 増減 | 20年度 | 21年度 | 増減 | 20年度 | 21年度 | 増減 |
| 合計 | 12,067 | 11,904 | △ 163 | 2,750 | 2,734 | △ 16 | 6,145 | 5,957 | △ 188 | 2,067 | 1,957 | △ 110 | 1,105 | 1,256 | 151 |
| 絵画 | 3,295 | 3,189 | △ 106 | 418 | 416 | △ 2 | 2,083 | 1,977 | △ 106 | 579 | 580 | 1 | 215 | 216 | 1 |
| 書跡 | 1,985 | 1,861 | △ 124 | 486 | 485 | △ 1 | 964 | 945 | △ 19 | 409 | 308 | △ 101 | 126 | 123 | △ 3 |
| 彫刻 | 750 | 773 | 23 | 140 | 141 | 1 | 245 | 248 | 3 | 359 | 359 | 0 | 6 | 25 | 19 |
| 建築 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金工 | 931 | 1,045 | 114 | 171 | 170 | △ 1 | 495 | 530 | 35 | 248 | 249 | 1 | 17 | 96 | 79 |
| 刀剣 | 265 | 261 | △ 4 | 230 | 226 | △ 4 | | | | 34 | 34 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 陶磁 | 1,332 | 1,303 | △ 29 | 139 | 138 | △ 1 | 776 | 784 | 8 | 11 | 11 | 0 | 406 | 370 | △ 36 |
| 漆工 | 787 | 761 | △ 26 | 141 | 135 | △ 6 | 491 | 468 | △ 23 | 105 | 103 | △ 2 | 50 | 55 | 5 |
| 染織 | 711 | 764 | 53 | 73 | 73 | 0 | 545 | 515 | △ 30 | 47 | 47 | 0 | 46 | 129 | 83 |
| 考古 | 994 | 939 | △ 55 | 157 | 156 | △ 1 | 498 | 446 | △ 52 | 240 | 231 | △ 9 | 99 | 106 | 7 |
| 民族資料 | 121 | 121 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 6 | 0 | 110 | 110 | 0 |
| 歴史資料 | 103 | 95 | △ 8 | 1 | 1 | 0 | 44 | 40 | △ 4 | 29 | 29 | 0 | 29 | 25 | △ 4 |
| 和書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 絵画 | 150 | 150 | 0 | 150 | 150 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 書跡 | 28 | 28 | 0 | 28 | 28 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 彫刻 | 12 | 11 | △ 1 | 12 | 11 | △ 1 | | | | | | | | | |
| 東洋 金工 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 陶磁 | 77 | 77 | 0 | 77 | 77 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 漆工 | 26 | 26 | 0 | 26 | 26 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 染織 | 8 | 8 | 0 | 8 | 8 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 考古 | 487 | 487 | 0 | 487 | 487 | 0 | | | | | | | | | |
| 東洋 民族 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

### 1-(2)-③ 登録美術品一覧表

平成22年3月31日現在

| | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 | 計 | 国宝 | 重文 |
| 合計 | 8 | 0 | 5 | 3 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 絵画 | 3 | 0 | 3 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 書跡 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 彫刻 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 染織 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

## 1-(3) 収蔵品の管理・保存

### 1-(3)-① 各収蔵庫、展示場の温湿度

**【東京国立博物館】**

| 会場等 | | 空調実施時間 | 温度 | | | 湿度（年間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 冬 | 夏 | 中 | |
| 本館 | 展覧会場 | 09：00～17：00 | 15～23℃ | 23～30℃ | 19～25℃ | 25～85% |
| | 収蔵庫 | 09：00～17：00 | 15～23℃ | 21～28℃ | 18～26℃ | 47～71% |
| 平成館 | 展覧会場 | 09：00～17：00 | 22℃±1℃ | 26℃±2℃ | 23℃±1℃ | 55%±5% |
| | 収蔵庫 | 09：30～17：00 | 22℃±1℃ | 25℃±1℃ | 23℃±1℃ | 40～60% |
| 東洋館 | 展覧会場 | 閉室中 | 閉室中 | 閉室中 | 閉室中 | 閉室中 |
| | 収蔵庫 | 09：00～17：00 | 15～22℃ | 24～26℃ | 17～24℃ | 40～68% |
| 宝物館 | 展覧会場 | 24時間運転 | 22℃±1℃ | 24℃±1℃ | 23℃±1℃ | 55%±5% |
| | 収蔵庫 | 24時間運転 | 22℃±1℃ | 22℃±1℃ | 23℃±1℃ | 55%±5% |
| 表慶館 | 展覧会場 | 09：00～17：00 | 10～22℃ | 21～27℃ | 12～25℃ | 30～75% |
| | (仮)収蔵庫 | 09：00～17：00 | 10～22℃ | 21～27℃ | 12～25℃ | 30～75% |
| 黒田記念館 | 展覧会場 | 24時間運転 | 23℃±1℃ | 23℃±1℃ | 23℃±1℃ | 55%±5% |
| | 収蔵庫 | 24時間運転 | 22℃±1℃ | 23℃±1℃ | 22℃±1℃ | 55%±5% |

**【京都国立博物館】**

| 会場等 | | 空調実施時間 | 温度(年間) | 湿度（年間） |
|---|---|---|---|---|
| 特別展示館 | 展覧会場 | 09：00～18：00 | 18℃～25℃ | 57%～60% |
| | 収蔵庫 | 09：00～17：30 | 18℃～22℃ | 55%～60% |
| 平常展示館 | 展覧会場 | —— | —— | —— |
| | 収蔵庫 | —— | —— | —— |
| 北収蔵庫 | | 09：00～17：30 | 18℃～22℃ | 55%～60% |
| 東収蔵庫 | | | | |
| 文化財保存修理所 | | 09：00～17：30 | 22℃～24℃ | 57%～60% |

**【奈良国立博物館】**

| 会場等 | | 空調実施時間 | 温度（年間） | 湿度（年間） |
|---|---|---|---|---|
| 本館 | 展覧会場 | 24時間運転 | 22℃～25℃ | 60%±5% |
| 西新館 | 展覧会場 | 24時間運転 | 22℃～25℃ | 60%±5% |
| 東新館 | 展覧会場 | 24時間運転 | 22℃～25℃ | 60%±5% |
| | 収蔵庫 | 24時間運転 | 22℃～25℃ | 60% |
| 地下回廊 | 収蔵庫 | 24時間運転 | 22℃～25℃ | 60% |

**【九州国立博物館】**

| 会場等 | 空調実施時間 | 温度（年間） | 湿度（年間） |
|---|---|---|---|
| 3階展覧会場 | 24時間運転 | 22℃～26℃ | 55%±5% |
| 4階展覧会場 | 7:00～21:00 | 22℃～26℃ | 55%±5% |
| 収蔵庫 | 8:30～21:30 | 22℃～24℃ | 材質別に50%±2%、55%±2%、60%±2% |

## 1-3-② 保存カルテ作成件数

**【東京国立博物館】**

| 合計 | | 1,989 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 列品貸与時 | 本格修理調査時 | 応急修理時 |
| 計 | | 854 | 210 | 925 |
| 絵画 | | 120 | 5 | 536 |
| 書跡 | | 16 | 2 | 29 |
| 彫刻 | | 84 | 0 | 2 |
| 建築 | | 1 | 0 | 0 |
| 金工 | | 85 | 15 | 0 |
| 刀剣 | | 17 | 2 | 40 |
| 陶磁 | | 23 | 10 | 27 |
| 漆工 | | 40 | 2 | 2 |
| 染織 | | 42 | 69 | 15 |
| 考古 | | 315 | 69 | 1 |
| 歴史資料 | | 10 | 17 | 23 |
| 民族資料 | | 12 | 0 | 0 |
| 和書 | | 7 | 0 | 0 |
| 東洋 | 絵画 | 21 | 0 | 2 |
| | 書跡 | 2 | 0 | 6 |
| | 彫刻 | 3 | 4 | 1 |
| | 金工 | 0 | 0 | 0 |
| | 陶磁 | 37 | 10 | 10 |
| | 漆工 | 0 | 5 | 0 |
| | 染織 | 0 | 0 | 4 |
| | 考古 | 19 | 0 | 0 |
| | 民族 | 0 | 0 | 0 |
| 法隆寺献納宝物 | | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 227 |

**【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】**

| | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|
| 計 | 214 | 114 | 205 |
| 絵画 | 79 | 49 | 6 |
| 書跡 | 23 | 10 | 0 |
| 彫刻 | 2 | 17 | 1 |
| 建築 | 1 | 0 | 0 |
| 金工 | 8 | 6 | 0 |
| 刀剣 | | 0 | 0 |
| 陶磁 | 35 | 0 | 0 |
| 漆工 | 11 | 2 | 3 |
| 染織 | 35 | 0 | 60 |
| 考古 | 11 | 30 | 3 |
| 民族資料 | 0 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | 9 | 0 | 3 |
| 和書 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 129 |

## 1-(4) 修理

### 1-(4)-① 修理件数

| | | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 合　計 | | 106 (18) [1] | 5 | 11 | 24 |
| 絵　画 | | 8 | 4 | 2 | 6 |
| 書　跡 | | 7 | 0 | 2 | 1 |
| 彫　刻 | | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 建　築 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 金　工 | | 11 (4) | 0 | 0 | 0 |
| 刀　剣 | | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 陶　磁 | | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 漆　工 | | 2 | 0 | 1 | 2 |
| 染　織 | | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 考　古 | | 33 (14) [1] | 1 | 5 | 9 |
| 歴史資料 | | 20 | 0 | 0 | 4 |
| 和　書 | | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 民族資料 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 | 絵　画 | 1 | | | |
| | 書　跡 | 2 | | | |
| | 彫　刻 | 6 | | | |
| | 金　工 | 0 | | | |
| | 陶　磁 | 2 | | | |
| | 漆　工 | 1 | | | |
| | 染　織 | 0 | | | |
| | 考　古 | 4 | | | |
| | 民　族 | 0 | | | |
| 法隆寺献納宝物 | | 0 | | | |
| 黒田記念館収蔵品 | | 0 | | | |
| 館史資料(収蔵品外) | | 1 | | | |

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、[　]内は九博経費。

## 1-(4)-② 修理概況

## 【東京国立博物館】 (106件)

**<絵画> (8件)**

1 ○名　　称　観音三十三応身図
○時　　代　室町
○年代世紀　15c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　128.7×185.4cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.絵具層に剥落止めを施し、表打ちで画面を保護した後、旧裏打ちを除去する。2.欠失部に補絹を施し、新たに裏打ちを行う。3.補絹部分に補彩を施す。4.軸首を再使用し、裂を新調し、元の掛幅装に仕立てる。5.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。(平成21年度は2～3途中まで)

2 ○名　　称　扇面雑画
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色
○員　　数　10面(60面のうち)
○寸 法 等　(上弦/下弦/高) (cm)　No.1「白梅」51.5/20.1/20.2、No.4「柳」50.3/19.5/20.2、No.23「烏瓜」50.5/19.8/19.8、No.26「雪中藪柑子」50.7/20.3/19.7、No.27「若松と藪柑子」50.9/20.5/20.2、No.37「爪草に雲雀」50.1/20.4/19.9、No.41「蝶と猫」50.3/19.8/19.9、No.42「鹿」50.8/19.8/20.0、No.51「破墨山水」50.5/19.0/20.0、No.52「社頭風景」50.9/19.9/20.0
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.ガラスを外す。2.絵具層に剥落止めを行う。3.本紙を覆輪ごと銀台紙から外して解体する。4.裏打ち紙は残しながら本紙裏面に付着した銀箔紙、台紙を除去する。5.本紙周囲に足し紙を施した後、新たに1層の裏打ちを行う。6.中性紙製ブック型マットを新調し、本紙を固定する。7.中性紙製保存箱を新調し、収納する。(平成21年度は5から)

3 ○名　　称　松図屏風
○時　　代　室町
○年代世紀　16c
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6曲1隻
○寸 法 等　153.3×345.0cm
○施工会社　株式会社修美
○修理内容　1.屏風装を解体する。2.絵具層に剥落止めを施し、旧裏打ちを除去する。3.欠失部に補紙を施し、新たに裏打ちを行う。4.補紙に補彩を施し、新たな下地に張り込む。5.表装裂、鋲金具を再使用し、隅金具、八双金具、襲木を新調する。(平成21年度は4から)

4 ○名　　称　両界曼荼羅(胎蔵界曼荼羅)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　14c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1面
○寸 法 等　81.0×65.9cm
○施工会社　東京国立博物館 (保存修復課アソシエイトフェロー)
○修理内容　1.額装を解体する。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.蒸留水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌裏紙・旧補紙を除去する。5.欠失箇所に補絹を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8.軸首などの金具を新調し、掛幅装に仕立てる。9.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

5 ○名　　称　花鳥図
○時　　代　明治
○年代世紀　明治14年(1881)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　102.8×71.2cm
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.表装を解体する。2.剥落止めを行い、本紙を洗浄する。3.本格的な剥落止めを行う。4.本紙を表打ちして保護したうえで、旧裏打紙を除去する。5.裏打ち、折れ伏せを施す。6.表装裂・軸首は再利用し、掛幅装に仕立てる。7.太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。(平成21年度は4まで)

6 ○名　　称　扇面雑画
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色・紙本墨画
○員　　数　10面(60面のうち)
○寸 法 等　(上限/下限/高)(cm)　No.9「藤」50.9/20.0/20.1、No.13「河骨と太蘭」50.2/19.8/20.0、No.20「山帰来」51.0/19.9/20.0、No.29「水仙」50.7/19.8/20.0、No.31「瓜に飛蝗」51.3/19.8/20.2、No.35「豆と藁苞」50.8/20.1/20.0、No.50「山水」50.8/20.0/19.8、No.55「盆栽」50.7/20.3/19.5、No.57「玩具」50.5/19.1/20.2、No.60「布袋」50.3/19.2/20.1
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.台紙を剥がし、本紙を分離する。2.剥落止めを行う。3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。4.新調した収納箱に収納する。(平成21年度は2まで)

7　○名　　称　舞楽図屏風
　　○時　　代　江戸
　　○年代世紀　19c
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　6曲1双
　　○寸 法 等　各157.4×363.0cm
　　○施工会社　株式会社松鶴堂
　　○修理内容　1.絵具層の剥落止を行う。2.本紙を保護したうえで、屏風を解体し、本紙を下地からめくる。3.濾過水を使用し洗浄する。4.本格的な剥落止めを行う。5.旧裏打紙を除去する。6.本紙欠失部分に補紙、亀裂箇所に折伏を施し、裏打ちを行う。絵具層の剥落止、補彩を行う。7.下地、襲木、表装裂、裏紙は新調し、金具は再利用(欠失部は新調)し、屏風に仕立てる。(平成21年度は5まで)

8　○名　　称　応挙館障壁画(雁図)
　　○時　　代　江戸
　　○年代世紀　19c
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　3面(54面のうち)
　　○寸 法 等　各90.0×180.0cm
　　○施工会社　有限会社半田九清堂
　　○修理内容　1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.洗浄する。3.剥落止めを施す。4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用縁木を新調して取り付ける。(平成21年度は4まで)

**＜書跡＞(7件)**

9　○名　　称　瑜祇拾古鈔巻下
　　○時　　代　南北朝
　　○年代世紀　暦応2年(1339)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　24.7×16.5cm
　　○施工会社　清申堂
　　○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.欠失部に補紙を施し虫損部を繕う。4.冊子装に仕立て、渋紙の四方帙に収納する。(21年度は3の途中から)

10　○名　　称　書状
　　○時　　代　安土桃山
　　○年代世紀　16c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　14.6×35.4cm
　　○施工会社　株式会社半田九清堂
　　○修理内容　1.掛幅装を解体する。2.剥落止めの後、総裏紙を除去する。3.浄水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌裏紙・旧補紙を除去する。5.欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8.軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。9.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

11　○名　　称　仮名消息断簡
　　○時　　代　南北朝～室町
　　○年代世紀　14～15c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1枚
　　○寸 法 等　26.9×44.3cm
　　○施工会社　東京国立博物館（保存修復課アソシエイトフェロー）
　　○修理内容　1.台紙から本紙を外す。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.蒸留水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、旧裏打ち紙を除去する。5.欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。7.軸首などを新調し、掛幅装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

12　○名　　称　毘盧遮那別行経
　　○時　　代　室町
　　○年代世紀　永禄9年(1566)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　26.4×13.6 cm
　　○施工会社　清申堂
　　○修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。2.折本装を解体する。3.本紙を洗浄する。4.虫損箇所に補紙を施す。5.表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。(平成21年度は4の途中まで)

13　○名　　称　蹴鞠聞書
　　○時　　代　室町
　　○年代世紀　大永8年(1528)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　32.4×739.3cm

〇施工会社　清申堂
〇修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。2.巻子装を解体する。3.部分的に施されている裏打紙を除去する。4.ろ過水で洗浄する。5.虫損箇所に補紙を施す。6.裏打ちを施す。7.表紙、軸首を新調し、元の巻子装に仕立てる。8.太巻、桐製保存箱を新調する。(平成21年度は5まで)

14 〇指　定　重文
〇指定年月日　昭和14年(1939)5月27日 (文218)
〇名　称　書状
〇時　代　鎌倉
〇年代世紀　元久元年(1204)
〇品　質　紙本墨書
〇員　数　1幅
〇寸 法 等　25.4×87.5㎝
〇施工会社　株式会社光影堂
〇修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打ち紙を除去する。4.旧補修紙を取り除き、大きく欠失した天部には料紙のバランスを調整・回復させる。5.折損箇所には折れ伏せによる補強を施す。6.表装裂地は再利用する。付け回しは仕立に影響はないため現装に復する。7.軸首は再利用、輪補三段表装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調。(平成21年度は4から)

15 〇名　称　歌合切
〇時　代　鎌倉
〇年代世紀　12～13c
〇品　質　紙本墨書
〇員　数　1幅
〇寸 法 等　23.3×27.8㎝
〇施工会社　株式会社岡墨光堂
〇修理内容　1.表装を解体する。2.裏打紙を除去する。3.補修紙を作製し、補紙を施す。4.裏打ち、折れ伏せを施す。5.軸首、一文字、中廻し風帯は再利用し、上下の表装裂は新調し、元の掛幅装に仕立てる。6.太巻、桐製保存箱を新調し、収納する。(平成21年度は4の途中まで)

**<彫刻> (1件)**

16 〇名　称　千手観音菩薩坐像
〇時　代　南北朝
〇年代世紀　14c
〇品　質　ヒノキ材
〇員　数　1躯
〇寸 法 等　像高83.7㎝
〇施工会社　有限会社楽浪文化財修理所
〇修理内容　1.清掃及び材質の強化を行う(本体・光背・台座)。2.彩色層に影響が及ばない範囲で解体を行う(本体・光背・台座)。ただし、台座は蓮肉部のみの解体とする。3.各部材の補修、組付け、組立を行う(本体・光背・台座)。台座は光背を受ける枘部分の補強、光背は立ちの安定化を図る。光背、本体指先等の補足は原則行わない。4.仕上げとして古色などの彩色を必要最小限行う(本体・光背・台座)。(平成21年度は2の途中から)

**<金工> (11件)**

17 〇名　称　自然釉甕
〇時　代　平安
〇年代世紀　12c
〇品　質　陶製
〇員　数　1口
〇寸 法 等　高34.5cm、口径24 cm
〇施工会社　繭山隆司
〇修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂で接合する。3.ポキシ系樹脂や各種粘土粉末などで補填・復元する。4.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

18 〇名　称　光背残欠
〇時　代　平安
〇年代世紀　12c
〇品　質　銅板製、鍍金
〇員　数　1枚
〇寸 法 等　高20.5cm(現状)、幅19.0㎝
〇施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
〇修理内容　1.頭頂部の欠失を透明の部材で補填し、強化する。2.折れや強度の足りない部分を補強する。3.全体をクリーニングする。

19 〇名　称　蓮台
〇時　代　平安
〇年代世紀　12c
〇品　質　蓮肉:銅製鋳造鍍金　蓮弁:銅板製鍍金
〇員　数　1基
〇寸 法 等　総高6.2cm(現状)、蓮肉径15.1㎝
〇施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
〇修理内容　1.蓮座をすべて解体する。2.台座を別材で作り直す。3.蓮弁をクリーニングし、強化をはかる。4.蓮弁を再接着する。

20 〇名　称　陶製経筒蓋
〇時　代　平安

○年代世紀　12c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高10cm、口径31.5 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やポキシ系樹脂、各種粘土粉末などで補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

21 ○名　　称　青白磁合子(身)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径5.5 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

22 ○名　　称　青白磁小壺
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高4cm、口径6cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

23 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径5.3cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

24 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径7.3cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。3.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

25 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高1.2cm、口径4.2cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。3.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

26 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高1cm、口径4.8cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

27 ○名　　称　自然釉甕
○時　　代　平安
○年代世紀　12c

○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高38.5㎝、口径27㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やエポキシ樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

**＜刀剣＞（1件）**

28 ○名　　称　大笹穂三角槍
○時　　代　江戸
○年代世紀　弘化4年(1847)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長43.9㎝　元幅3.2㎝
○施工会社　小野博
○修理内容　1.刀身を全研ぎする。2.白鞘を新調する。(平成21年度は1途中からと3)

**＜陶磁＞（2件）**

29 ○名　　称　色絵花鳥文筒形瓶
○時　　代　江戸
○年代世紀　元文5年(1740)
○品　　質　磁器
○員　　数　1口
○寸 法 等　高40.9㎝、口径20.6㎝、底径10.3㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.旧修理のオーバーペイントを除去する。2.亀裂及び欠失部分には状況に応じてアクリル樹脂等で接合・補填する。3.接合・補填部分の色あわせをする。

30 ○指　　定　重美
○指定年月日　昭和10年(1935)5月10日認定
○名　　称　色絵飛鳳文隅切膳
○時　　代　江戸
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁器
○員　　数　1具
○寸 法 等　高7.3㎝　径30.7㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.破断面のクリーニングを行う。2.破断面および破片を接合する。3.補填を施す。4.補彩を施す。

**＜漆工＞（2件）**

31 ○名　　称　茶室露地蒔絵料紙硯箱
○時　　代　江戸
○年代世紀　18c
○品　　質　木地漆塗
○員　　数　1具
○寸 法 等　「料紙箱」縦38.9㎝横30.3㎝高11.5㎝、「硯箱」縦23.2㎝横21.6㎝高4.3㎝
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.旧修理の蒔絵を出来る限り取り除く。2.亀裂部分に木屎などを充填し、劣化部分は漆固めをする。3.周囲と色調を合わせる。(平成21年度は2の途中から)

32 ○名　　称　夕顔蒔絵大鼓胴
○時　　代　江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1本
○寸 法 等　径11.4㎝、長28.0㎝
○施工会社　株式会社目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.旧修理の塗料を除去する。2.塗料の除去後、状態によっては漆固めを行う。

**＜染織＞（2件）**

33 ○名　　称　小袖 黒綸子地遠州模様
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　絹製、綸子地に繍・鹿の子絞り
○員　　数　1領
○寸 法 等　身丈165.0　裄68.0㎝
○施工会社　K染織修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.損傷部分に同色に染めた補修裂をあて、縫い糸でおさえる。3.絹綿を入れ、袘を出して元の小袖の状態に仕立てる。4.絹の包裂を新調して収める。(平成21年度は3から)

34 ○指　定　重文
○指定年月日　昭和40年(1965)5月29日(染織2192)
○名　称　小袖 白練緯地松皮菱竹模様
○時　代　安土桃山
○年代世紀　16～17c
○品　質　絹(練緯)製
○員　数　1領
○寸 法 等　丈142.0cm、裄67.0cm
○施工会社　株式会社染技連
○修理内容　1.表と裏に分ける。2.表裂は解体する。3.旧補修糸を外す。4.補修用の練緯を製織する。5.全面に補修裂をあてて縫い止める。6.裏地と真綿は元使いするが、真綿が不足する場合は補う。7.元の状態に仕立てる。8.絹の包み裂を新調して納める。

**＜考古＞（33件）**

35 ○名　称　甕棺
○時　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　口径55.0　高92.0cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成21年度は4の途中から）

36 ○名　称　鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長88.9cm、身幅3.2cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は2まで）

37 ○名　称　鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長90.6、身幅3.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は2まで）

38 ○名　称　須恵器 脚付短頸壺
○時　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　高36.3cm、口径9cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は3の途中まで）

39 ○名　称　須恵器 子持脚付長頸壺
○時　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　高36cm、口径17.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。なお、J-22895は接合する可能性があるので、共に供与し、接合関係を確認する。（平成21年度は3まで）

40 ○名　称　埴輪　靫
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　残存高67.5cm、鰭部幅37.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリ

ル系絵具で補彩する。6.安定台(各種樹脂による矢筒部に合わせて作った脱着可能の差し込み式のもの)を新調する。(平成21年度は3まで)

41 ○名　　称　深鉢形土器
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高23.5㎝、口径17.3㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

42 ○名　　称　銀象嵌鉄刀
○時　　代　古墳
○年代世紀　6世紀
○品　　質　鉄・銀製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長82.5㎝　鍔部長径6.3㎝　短径5.3㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.刀身部をクリーニングして、泥・錆などを除去する。2.鍔部茎側の銀象嵌を研出す。3.研出した象嵌部分は、アクリル系樹脂で保護して仕上げる。4.刀身の欠失部は、事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。(平成21年度は2の途中から)

43 ○名　　称　銀象嵌鍔
○員　　数　1個
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄・銀製
○寸 法 等　長径8.5㎝、短径6.9㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.表面を覆うさびの除去、全体の強化および未表出部分の研出しを行う。3.表出作業後にアクリル系樹脂を塗布する。

44 ○名　　称　埴輪 盾
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　幅42.0㎝　高110.0㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し、復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。(平成21年度は3から)

45 ○名　　称　須恵器 甕
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高21㎝、口径15㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。(平成21年度は3まで)

46 ○名　　称　瓢形壺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高23.5、口径4.5㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

47 ○名　　称　瓢形壺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高22.5㎝、口径5㎝

○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。2. 接着剤や汚れをクリーニングする。3. エポキシ系樹脂で接合する。4. 硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5. アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。（平成 21 年度は 3 まで）

48 ○名　称　深鉢形土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前 2000～前 1000 年
○品　質　土製
○員　数　1 個
○寸 法 等　高 15㎝、口径 15㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。2. 接着剤や汚れをクリーニングする。3. セルロース系樹脂で接合する。4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。5. アクリル系絵具で補彩する。（平成 21 年度は 3 まで）

49 ○名　称　浅鉢形土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前 1000～前 400 年
○品　質　土製
○員　数　1 個
○寸 法 等　高 8㎝、口径 27㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。2. 接着剤や汚れをクリーニングする。3. セルロース系樹脂で接合する。4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。5. アクリル系絵具で補彩する。

50 ○名　称　銀象嵌鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄・銀製
○員　数　1 本
○寸 法 等　長 75.9㎝、身幅 3.1㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. 汚れをクリーニングする。2. 脱塩処理を行う。3. 表面を覆うさびの除去、全体の強化および象嵌部分の研出しを行う。4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。5. アクリル系絵具で補彩する。（平成 21 年度は 3 の途中まで）

51 ○名　称　須恵器 高坏
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　陶製
○員　数　1 個
○寸 法 等　口径 11.5㎝　高 15.3㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2. クリーニングする。3. アクリル系樹脂で接合する。4. 欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5. 補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成 21 年度は 4 から）

52 ○名　称　注口土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前 2000～前 1000 年
○品　質　土製
○員　数　1 個
○寸 法 等　高 17㎝、最大幅 21.5㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。2. 接着剤や汚れをクリーニングする。3. セルロース系樹脂で接合する。4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。5. アクリル系絵具で補彩する。（平成 21 年度は 3 まで）

53 ○名　称　直刀・鍔・柄縁金具
○時　代　古墳
○年代世紀　7c
○品　質　鉄製
○員　数　1 具
○寸 法 等　直刀長 35.5㎝、身幅 3㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 汚れをクリーニングする。2. 脱塩処理を行う。3. アクリル系樹脂で強化する。4. エポキシ系樹脂により補填・復元する。5. アクリル系絵具で補彩する。

54 ○名　称　鉄鏃
○時　代　古墳
○年代世紀　7c
○品　質　鉄製
○員　数　30 本
○寸 法 等　長 2.5～12㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所

〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

55 〇名　　称　鉄刀子
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　7c
〇品　　質　鉄製
〇員　　数　1本
〇寸 法 等　長8cm、身幅1cm
〇施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

56 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高5.5cm、口径14cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

57 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高6cm、口径13.9cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

58 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高5.7cm、口径13cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

59 〇名　　称　土師器 坏
〇員　　数　1個
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇寸 法 等　高5.3cm、口径13.1cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

60 〇名　　称　甕形土器
〇時　　代　続縄文
〇年代世紀　前2～前1c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高18cm、口径15cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

61 〇名　　称　台付甕形土器
〇時　　代　続縄文
〇年代世紀　前2～前1c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　残存高19cm、口径17cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.セルロース系樹脂で接合する。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

62 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高14.7cm、口径11cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

63 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高17.5cm、口径12cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

64 ○名　　称　土師器 坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高5.5cm、口径11.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

65 ○名　　称　須恵器 長頸壺蓋
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　残存高3.3cm、口径12.3cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

66 ○名　　称　深鉢形土器
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高24cm、口径16cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

67 ○名　　称　銅矛
○時　　代　弥生
○年代世紀　前4c～前2c
○品　　質　青銅製
○員　　数　1本
○寸 法 等　現存部長25.3cm　復元長29.1cm
○施工会社　株式会社文化財ユニオン
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂で接合する。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

**＜歴史資料＞(20件)**

68 ○名　　称　中央階段《上野博物館 正面中央階段断面詳細》
○時　　代　明治
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨画、彩色
○員　　数　1枚
○寸 法 等　42.3×45.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

69 ○名　　称　《上野博物館 正側面1階窓詳細》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　79.6×51.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

70 ○名　称　UYENO MUSEUM DETAIL《上野博物館 背面1階小窓詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.2×46.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

71 ○名　称　本家小屋組《上野博物館 母屋小屋組》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　60.4×74.5cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

72 ○名　称　《上野博物館 木製建具断面詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　48.4×95.2cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

73 ○名　称　《上野博物館 主屋2階展示室床伏、床組詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　60.0×88.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

74 ○名　称　《上野博物館 背面2階窓詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.6×81.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.本紙の裂けや穴の部分には裏面から和紙で補強する。5.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

75 ○名　称　上野博物館背面二階窓下操形之精密図
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.0×90.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

76 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.0×84.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙および足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みおよび褐色斑点を洗浄し、軽減する。4.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。5.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

77 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　58.7×88.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙および足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

78 ○名　称　《上野博物館 正面玄関柱脚、柱頭詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.8×97.0cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

79 ○名　称　《上野博物館 正面2階ベランダ手摺親柱詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.6×88.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.部分的に濾過水などを用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

80 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本、鉛筆
○員　数　1枚
○寸 法 等　93.5×56.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

81 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段手摺詳細図》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本、鉛筆
○員　数　1枚
○寸 法 等　55.1×66.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

82 ○名　称　上野博物館内側壁基礎仕替方之図 Uyeno Museum
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.5×97.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.足し紙を付け直して補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

83 ○名　称　《上野博物館 木製建具鏡板詳細》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.4×86.0cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

84 ○名　称　Uyeno Exhibition《上野博物館 翼屋1階壁基部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.0×46.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

85 ○名　称　上野博物館中真セリモチ外側石細工原寸之図
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.8×53.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.張り手を付け、仮張りに張り込み、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

86 ○名　称　《上野博物館 煉瓦壁隅部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　53.0×40.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

87 ○名　称　《上野博物館 正面中央2階化粧柱下部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.4×48.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

**<和書>(2件)**

88 ○名　称　頓医抄;巻1・2・5～8・11～23・31・32・35～42・45～49
○時　代　室町～江戸
○年代世紀　16～17ｃ
○品　質　紙本墨書
○員　数　17冊
○寸 法 等　24.7×16.6cm、(第11,12)25.5×18.5cm、(第13,14)27.2×17.5cm
○付 属 品　布貼帙
○施工会社　有限会社桂文化財修理工房
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.虫糞除去、汚れ除去を行う。4.紙質検査をして補修紙を選定後、欠失部の補填を行う。ただし、周辺が著しく脆弱で補填のみでは強度を維持することが困難な場合は裏打ちを施す。5.新調した綴糸で製本する。題箋、ラベルは元の位置に貼り直す。6.二つの布貼帙を新調し、収める。(3ヵ年計画の3年目)

89 ○名　称　駿河国図
○時　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　質　紙本着色、折仕立
○員　数　1鋪
○寸 法 等　139.5×270.5cm
○施工会社　株式会社墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。3.美濃紙にて裏打ちを行う。4.表紙は補修して再使用する。5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。(平成21年度は3から)

**＜東洋絵画＞（1件）**

90 ○名　　称　獅子図
○時　　代　明
○年代世紀　16c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　123.0×198.0cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.掛幅装を解体し、剥落止めを施す。2.表打ちで画面を保護した後、旧裏打ち紙を除去する。3.欠失部に補絹、折れの生じる箇所に折れ伏せを施し、新たに裏打ちを行う。4.補絹部分に補彩を施す。5.表装裂、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。6.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。（平成21年度は2途中から）

**＜東洋書跡＞（2件）**

91 ○名　　称　草書五言律詩軸
○時　　代　明
○年代世紀　17c
○品　　質　絖本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　165.0×47.3cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.剥落止めを施す。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打紙を除去する。4.新たに裏打ちを行う。5.折れ伏せを施す。6.補絹に補彩を施す。7.表装裂を新調し、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。8.八双金具は別保管し、太巻添軸、保存箱、布貼帙を新調して収める。（平成21年度は4から）

92 ○名　　称　篆書八言聯
○時　　代　清
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2幅
○寸 法 等　179.0×31.5cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.表装を解体する。2.裏打紙を除去する。3.濾過水を使用し洗浄する。4.墨、朱印に剥落止めを施す。5.本紙欠失部に補紙を施す。6.裏打ちを施す。7.補紙箇所に補彩を行う。8.表装裂、軸首などを新調し、元の掛幅装に仕立てる。9.太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。（平成21年度は6の肌裏打ちまで）

**＜東洋彫刻＞（6件）**

93 ○名　　称　菩薩頭部
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造、彩色
○員　　数　1個
○寸 法 等　高28.0cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。2.表面を養生して、展示台から分離する。3.表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。4.彩色層の剥落止めを行う。5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。6.展示台及び保存箱を作製する。（平成21年度は1まで）

94 ○名　　称　塑造悪鬼首
○時　　代　唐
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造彩色
○員　　数　1個
○寸 法 等　高16.9cm、幅13.1cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。2.表面を養生して解体し、石膏、接着剤などを除去する。3.表面の養生を除去した後、クリーニングを行う。4.彩色層の剥落止めを行う。5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。6.展示台及び保存箱を作製する。ただし、仕様については修理中に検討し決定する。（平成21年度は2から）

95 ○名　　称　化粧箱
○年代世紀　6c
○品　　質　木、象牙、皮革、雲母、紙
○員　　数　1個(4片)
○寸 法 等　蓋 22×14.1×4.9cm、身 ①21.5×7cm ②23×4.4cm ③14×5.8cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.表面のクリーニングを行う。2.剥離した雲母、皮革、紙などの部位の剥落止め、強化を行う。3.外れた木地の再接着を行う。4.作品の形状に合わせて保管展示台を作製する。（平成21年度は2の続きと4から）

96 ○名　　称　男神立像
○時　　代　アンコール
○年代世紀　12c
○品　　質　砂岩

○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 100.0cm
○施工会社　文化財修復工房「明舎」
○修理内容　1. 解体する。2. 埃など表面の汚れを除去する。3. 接合部に設置する補強用ステンレス棒および固定台を作製する。4. エポキシ系接着剤を用いて接合・組み立てを行う。5. 必要な箇所に充填を施す。（平成 21 年度は 3 まで）

97 ○名　　称　仮面
○年代世紀　前 2000～前 1000 年
○品　　質　木、漆、皮革
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 10.8cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 表面の汚れを毛棒を用いて除去する。2. 彩色層はセルロース誘導体を含浸させた後、膠と布海苔を用いて剥落止めを行う。また、皮革には膠を用いる。3. 外れた骨材の歯は膠などで接着する。4. 皮革の空隙部分を接着剤で強化する。5. 保管展示台および保存箱を作製する。（平成 21 年度は 3 まで）

98 ○名　　称　仏頭
○年代世紀　12～13c
○品　　質　乾漆製、漆箔
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 10cm、幅 7.3cm、奥 7.5cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 表面の汚れを毛棒を用いて除去する。2. 必要に応じて漆塗膜を和紙と小麦粉澱粉糊を用いて養生する。3. 膠と布海苔を用いて漆塗膜の剥落止めを行う。4. 全体に漆固めを行う。5. 保管展示台を作製する。

**＜東洋陶磁＞（2 件）**

99 ○名　　称　白磁刻花文鉢
○時　　代　北宋
○年代世紀　11c
○品　　質　磁器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.7cm、口径 32.8cm、底径 9.3cm
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1. 解体する。2. クリーニングする。3. 再接合する。4. 欠損部は樹脂を補填する。5. 補填部分はまわりの色調にあわせ、補彩する。

100 ○名　　称　青磁鳳凰耳瓶
○時　　代　南宋～元
○年代世紀　13c
○品　　質　陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 31.5cm、口径 11.7cm、底径 10.7cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 旧修理の補彩を除去する。2. 損傷部分があれば、必要に応じて欠損部分をアクリル樹脂等で接合・補填する。3. 補填部分を補彩する。

**＜東洋漆工＞（1 件）**

101 ○名　　称　楼閣人物螺鈿料紙硯箱
○時　　代　明
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　2 合 1 具
○寸 法 等　料紙箱:縦 41.6cm、横 24.9cm、高 8.0 cm　硯箱:縦 26.5 cm、横 19.8 cm、高 5.7cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 浮いている螺鈿をおさえる。2. 剥落した破片を接着する。3. 螺鈿の欠失部分は、周囲と色あわせをする。4. 全体に漆固めをして強化する。

**＜東洋考古＞（4 件）**

102 ○名　　称　金銅製魚神像
○時　　代　エジプト第 20～21 王朝
○年代世紀　前 12～前 10c
○品　　質　銅製鋳造
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 21.5 cm、総高 12.5cm
○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1. クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2. 防錆処理を行う。3. アクリル系樹脂を含浸して強化する。（平成 21 年度は 2 から）

103 ○名　　称　銅戈
○時　　代　石寨山文化
○年代世紀　前 3～前 2c
○品　　質　銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 22.5 cm　高(胡を含む)21.3cm

○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1.白いサビ部分に注意しつつ、クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2.防錆処理を行う。3.アクリル系樹脂を含浸して強化する。（平成21年度は3から）

104 ○名　称　素環鏡板付轡
○時　代　三国
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製鍛造
○員　数　1組
○寸 法 等　長22.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.アクリル系樹脂で強化する。3.エポキシ系樹脂により接合・補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

105 ○名　称　灰釉双耳壺
○年代世紀　1～2c
○品　質　陶器
○員　数　1合
○寸 法 等　総高:27.1cm、身:高25.2cm 口径11.5cm 底径17.0cm、蓋:高3.7cm 径10.0cm
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.アクリル系接着剤で接合する。3.石膏や顔料等で補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

**＜館史資料(収蔵品外)＞（1件）**
106 ○名　称　重要雑録(明治23年)
○時　代　明治
○年代世紀　明治23年(1890)
○品　質　紙本墨書(一部インク)
○員　数　1冊
○寸 法 等　28.8×19.3×5.0cm
○施工会社　有限会社東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。2.各頁ごとに折れや皺をのばす。3.劣化が著しい箇所に両面より典具帖による補強を行う。4.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。5.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。6.封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。7.冊子本に仕立てる。(平成21年度は4から)

## 【京都国立博物館】(5件)
**＜絵画＞（4件）**
1　○名　称　故事山水図
○作　者　兪齢
○品　質　絹本
○員　数　2幅対
○寸 法 等　158.2cm×48cm　158.8cm×48cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1.本紙の旧裏打紙を除去する。2.染みと汚れを取ること。3.古絹で欠損を補修すること。4.新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。5.裂目と折れ目を補強すること。 6.美栖紙にて増し裏を加固すること。7.天然絵具にて作品を補色すること。8.表装裂地について本紙と似合う特製裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。9.本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。10.本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。11.生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。12.中国式一色軸装を仕立てすること。13.布で作品を包み、一重桐箱（太巻付）に入れ保存収納すること。

2　○名　称　酔翁図
○作　者　瑞光
○品　質　紙本
○員　数　1枚
○寸 法 等　32.7cm×32.5cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1.表装紙にある須磨さんの題字を上巻に移すこと。2.本紙の旧裏打紙を除去すること。 3.染みと汚れを取ること。4.新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。5. 生宣紙にて増し裏を入れる。6.表装裂地について本紙と似合う特性裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。7.本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。 8.本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。9.生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。10.中国式二色軸装を仕立てすること。11.布で作品を包み、一重桐箱に入れ保存収納すること。

3　○名　称　斗方めくり
○作　者　王雲・蕭・・陳年
○品　質　紙本
○員　数　6枚
○寸 法 等　29.6cm×35.5cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1.ばらになった折帖が全六枚あり、一つの封筒に収納されている状態。2.本紙全体に染みと汚れ。3.封筒に須磨さんの題字が書かれている。

4　○名　称　陣馬戯幕図
○作　者　張之溶

○品　　質　紙本
○員　　数　1幅
○寸 法 等　239.3㎝×59.3㎝
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1.題簽を修理後に貼り戻すこと。2.上巻の題字を修理後に総裏紙の下部に嵌め込むこと。3.本紙の旧裏打紙を除去すること。4.染みと汚れを取ること。5.欠損のところに古紙を使って穴埋めをすること。6.天然絵具で補色すること。7.新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。8.生宣紙にて増し裏を入れる。9.折目を補強すること。10.表装裂地について本紙と似合う特性裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。11.本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。12.本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。13.生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。14.中国式一色軸装を仕立てすること。15.布で作品を包み、一重桐箱（太巻付き）に入れ保存収納すること。

**＜考古＞（1件）**

5　○名　　称　縄文土器深鉢　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代中期
○品　　質　土製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高44.5㎝　口径36.5㎝
○施工会社　株式会社　京都科学
○修理内容　1.解体作業　2.クリーニング・強化作業　3.組立接合　4.復元作業　5.彩色　6.報告書作成（着手前・完了後写真撮影）

## 【奈良国立博物館】（11件）

**＜絵画＞(2件)**

1　○名　　称　絹本著色地蔵菩薩像　　1幅
○寸 法 等　縦92.1㎝　横38.1㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　旧裏打紙を全て除去する。絵の具層に剥落止めの処置を行う。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。旧補絹は全て除去し、本紙料絹欠失部に補絹を施す。薄楮紙で肌裏紙を打ち替える。折れ伏せを入れて折れを直す。表装の裂れ、軸木、太巻添え軸および二重箱を新調。軸首は再使用。（継続2 年事業のうちの第２年）

2　○名　　称　絹本著色東大寺縁起
○寸 法 等　166.8×117.4㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　剥落止め　折れ伏せ　上下軸取り替え　太巻軸添え軸が径が細すぎるために新調する。

**＜書跡＞（2件）**

3　○名　　称　清拙正澄筆　法語　　1幅
○寸 法 等　縦32.7㎝　横101.5㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　軸装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去する。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。膠などの剥落止めを行う。欠失部に補紙を当てる。薄紙で肌裏紙を打ち替える。裏打ちを行う。軸首を再使用する。上下の軸木、紐などを新調して軸装に仕立てる。桐生太巻き軸、二重箱新調。（継続2 年事業のうちの第２年）

4　○名　　称　紙本墨書『慈鎮懐紙』　　1幅
○寸 法 等　縦32.6㎝　横57.6㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　浮上り箇所の剥落止め　紐取り替え

**＜彫刻＞(1件)**

5　○名　　称　木造如来立像　　1躯
○寸 法 等　像高170.0㎝
○施工会社　財団法人美術院
○修理内容　背面裾周りの材質強化　木質表層が不安定な箇所のみを合成樹脂で補強する　後補の形状不適合な足はヒノキ材で新補する

**＜漆工＞(1件)**

6　○名　　称　黒漆大般若経厨子　附　大般若経　166巻
○施工会社　文化財保存
○修理内容　刺繍糸の剥落止めを行う。刺繍のほつれは補修糸をかける。肌裏打紙をあて本絹を補強する。折伏、虫蝕穴の繕いを行う。台紙貼、保存箱を新調する。

**＜考古＞(5件)**

7　○名　　称　金銅装眉庇付兜(五条猫塚古墳出土)　　1件
○寸 法 等　長30.0㎝　高22.0㎝　幅18.1㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　X線撮影による構造把握。理化学分析(蛍光X線など)。クリーニング。脱塩処理。錆の除去。鉄地に合成樹脂を塗布。遊離片の接着。小欠失部分の補填。金銅装の亀裂部分に樹脂による補強。頭頂飾の軸など欠失部分の作成、着装。（継続2年事業のうちの第２年）

8　○名　　称　縄文土器　壺（小野忠正コレクションのうち）　1個
○寸 法 等　口縁11.8㎝　現高19.3㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　古い接着剤・石膏などをすべて除去。その後接合復元する。

9　○名　　称　漆塗壺（小野忠正コレクションのうち）　　1個
　　○寸 法 等　現高10.0cm
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　古い接着剤・セロテープをすべて取り除く。漆膜を安定化させた後、接合・復元する。

10　○名　　称　漆塗高杯（小野忠正コレクションのうち）　　1個
　　○寸 法 等　口径17.7cm　現高11.1cm
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　古い接着剤などをすべて取り除き、漆膜を安定化させる処理をおこなう。その後、接合し、必要に応じて復元を行う。

11　○名　　称　二塚古墳出土金属製品等　　一括
　　金銅製品　24点　琥珀製棗玉　1個
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　クリーニング　脱塩処理、樹脂含浸　接合　樹脂塗布による強化　防錆処理　一部復元。琥珀製棗玉はクリーニング接合　アクリル樹脂含浸(継続2年事業のうちの第1年)

## 【九州国立博物館】（24件）

**＜絵画＞（6件）**

1　○名　　称　旧円満院宸殿障壁画　8面（48面11枚のうち）（19年度より継続・6ヵ年計画）
　　○所 蔵 者　京都国立博物館
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色
　　○寸 法 等　花鳥図（No.10～13）各縦178.7cm　横93.8cm
　　伯顔相如渡梅関図（No.14～17）各縦178.7cm　横93.8cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.京都国立博物館内にて運搬の為の仮剥落止を行なう。2.九州国立博物館にて写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。3.解体前の絵具層の剥落止を行なう。4.襖装を解体する。5.精製水にて表面の汚れ等を除去する。6.布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行なう。7.本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。8.本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。9.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。10.楮紙にてさらに裏打紙を打つ。11.表打ちの紙を除去する。12.襖貼付装及び張台構貼付装には、杉材を用い総枘組隅止めとした下地を員数分新調する。腰障子貼付装には腰障子1枚、舞良戸貼付装には舞良戸2枚を各新調する。13.下地には両面に8層、腰障子及び舞良戸には片面に5層の下貼りを施し、よく乾燥させる。14.補紙の箇所に補彩を行う。15.下貼が完了した下地、腰障子、舞良戸にそれぞれ本紙を上貼りする。下地の裏面には新調の鳥の子紙を貼る。16.最終的な絵具層の剥落止を行なう。17.引手は元のものを修理し用いる。18.襖貼付装及び張台構貼付装は漆塗襲木を新調し仕立てる。腰障子貼付装、舞良戸貼付装は新調の四分一を取り付け、それぞれの形式に仕立てる。（※平成21年度は襖貼付装8面について2～18を施工）

2　○名　　称　九相詩絵巻　1巻（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　室町時代・16世紀
　　○品　　質　紙本著色、表紙：茶無地裂、見返：無地紙、軸首：頭切木軸
　　○寸 法 等　横29.0cm
　　第1紙）縦45.2cm　第2紙）縦45.7cm　第3紙）縦45.7cm　第4紙）縦44.7cm　第5紙）縦45.6cm　第6紙）縦46.0cm
　　第7紙）縦45.9cm　第8紙）縦46.7cm　第9紙）縦46.0cm　第10紙）縦46.0cm　第11紙）縦46.0cm　第12紙）縦46.3cm
　　第13紙）縦46.3cm　第14紙）縦46.3cm　第15紙）縦45.7cm　第16紙）縦44.0cm　第17紙）縦46.5cm　第18紙）縦43.7cm
　　第19紙）縦29.2cm　第20紙）縦45.6cm　第21紙）縦42.3cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.表紙を取り外し、本紙の継ぎを外す。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.本紙の旧裏打紙を除去する。5.補修紙を作成する。6.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。7.染色した楮紙にて肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏を打つ。9.楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち、仮張りする。10.補紙を施した箇所に補彩を施す。11.表紙、見返、紐を新調する。軸首は元のものを使用する。12.軸巻、中軸、八双を新調し、充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し、錯簡を正して全紙を継ぎ合わせ、巻子装に仕立てる。13.桐太巻添軸、桐屋郎箱を各新調し、羽二重の包裂に包み納入する。（※平成21年度は8～13を施工）

3　○名　　称　浄土曼荼羅図　1幅（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　絹本著色、掛軸装、中廻：藍菱金地大牡丹唐草文金襴、総縁：丹地牡丹唐草文銀欄
　　○寸 法 等　本紙）縦128.5cm　横123.6cm　　表装）縦195.4cm　横137.3cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2.本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4.布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 5.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 7.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8.表打の養生紙を除去する。 9.表装裂地は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.折れ伏せを入れ、折れを直す。12.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。13.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。14.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。15.補絹の箇所に補彩をする。16.軸首は元のものを使用し、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。17.桐太巻添軸1本、桐屋郎箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

4　○名　　称　洛中洛外図屏風　6曲1双（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色、縁裂：藍地唐花唐草文銀襴、小縁裂：茶地唐草文金襴
　　裏貼紙：鼠地花菱繋ぎ雀文唐紙、襲木：黒漆塗
　　金物：唐草に輪違文金鍍金金物（2ヶ所別文様、1ヶ所破損）
　　○寸 法 等　各縦155.0cm　横354.6cm（右左隻同寸）
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部

○修理内容　1.写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。2.屏風装を解体する。3.表面の汚れ等を除去する。4.絵具層の剥落止を行う。5.本紙の旧裏打紙を除去する。6.本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。7.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8.楮紙にてさらに裏打紙を打つ。9.縁裂は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。10.杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。11.両面に8度下貼りを施し、よく乾燥させる。12.補紙の箇所に補彩を行う。13.下地に本紙及び縁裂を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。14.不揃いの金物を2ヶ所、欠失の丸鋲を1ヶ所新調し、その他のものは調整する。15.漆塗襲木を新調し、屏風装に仕立て、包裂に納入する。(※平成21年度は9～15を施工)

5　○名　　称　交易船図巻　1巻（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本著色、表紙：萌黄地小牡丹唐草文緞子、見返：金箔紙、軸首：木製印可軸
○寸 法 等　縦32.0㎝
第1紙）横92.1㎝　第2紙）横92.5㎝　第3紙）92.5㎝　第4紙）横92.1㎝　第5紙）横93.1㎝　第6紙）92.3㎝
第7紙）横91.2㎝　第8紙）横93.0㎝　第9紙）92.7㎝　第10紙）横92.5㎝　第11紙）横92.0㎝　第12紙）74.0㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.表紙を取り外し、本紙の継ぎを外す。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.本紙の旧裏打紙を除去する。6.補修紙を作成する。7.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。8.本紙天地の端口を保護するために、生漉和紙にて細い縁をつける。9.染色した楮紙にて肌裏を打つ。10.美栖紙にて増裏を打つ。11.楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち、仮張りする。12.補紙を施した箇所に補彩を施す。13.表紙、見返、紐を新調する。軸首は元のものを使用する。14.軸巻、中軸、八双を新調し、充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し、全紙を継ぎ合わせ、巻子装に仕立てる。15.桐太巻添軸、桐屋郎箱を各新調し、羽二重の包裂に包み納入する。(※平成21年度は1～5及び6、7の各50%を施工)

6　○名　　称　田能村竹田関係資料　2幅（13件24幅のうち）
○所 蔵 者　大分市美術館
○時　　代　A.江戸時代・天保3年（1832）　B.江戸時代・文政9年（1826）～天保元年1830
○品　　質　紙本淡彩、掛軸装
○寸 法 等　A.本紙）縦114.0㎝　横31.0㎝　B.本紙）縦92.6㎝　横30.8㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.桃花流水図
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙周囲に廻っている筋を切り、表装裂から本紙を取り外す。3.水に対しての堅牢度を確認し、兎膠水溶液にて剥落止めを行う。4.吸い取り紙の上で浄水を全体に噴霧し本紙の汚れを吸い取り紙に移し取る方法でクリーニングを行う。蒸留水、純水は必要箇所にのみ使用する。5.レーヨン紙を画面の保護として水で張り付け、肌裏紙の除去を行う。6.肌裏除去後に補紙の必要箇所が認められた場合は、同質の画仙紙にて補紙を行う。7.小麦粉澱粉糊を用いて楮紙にて肌裏打ちを行う。8.表装裂の肌裏紙を取り替える。9.増裏を打ち、折れ伏せを入れる。10.付廻しを施す。11.中裏打ちを行う。12.総裏打ちを行う。13.補紙に補彩を施す。14.太巻添軸、屋郎箱を新調する。
B.冬籠図
1.写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。2.仮張りのために全体（表装裂を含む）に湿りを与える。シミの様子を確認しながら吸い取り紙に吸着させる等によりシミを取り除く。3.仮張りし、十分に乾燥期間を置く。

**＜書跡＞（1件）**

7　○名　　称　大燈国師墨蹟〈上堂語／（凩墨蹟）〉　1幅（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　鎌倉時代・14世紀
○品　　質　紙本墨書、掛軸装、上下：浅葱地無地裂、中縁：白茶地小牡丹唐草文金襴
一文字風帯：茶地二重蔓大牡丹唐草文金襴、軸：黒檀頭切軸
箱：(1)引蓋差込み箱（外箱）　(2)屋郎箱（中箱）　(3)革帙付漆塗被蓋箱（内箱）
○寸 法 等　本紙）縦30.4㎝　横87.2㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.軸装を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。3.本紙の旧補修紙を除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。6.本紙の色合いに合わせ、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.軸首は元のものを使用、中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。14.元の中箱(2)に収まるように桐太巻添軸及び軸受を新調する。15.修理完了の本紙を羽二重の包裂に包み元の中箱(2)及び外箱(1)に納入する。16.元の内箱(3)は本体の損傷箇所及び革帙を補修し、紙帙で覆い別置する。(※平成21年度は1・2を施工)

**＜彫刻＞（2件）**

8　○名　　称　木造韋駄天立像　1躯
○所 蔵 者　長崎　興福寺
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　木造(樹種不明)、寄木造、布貼り、金箔及び彩色仕上げ、肉身部金色
○寸 法 等　像高約180.0㎝
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1.像全体に付着する埃は、刷毛・筆等で除去を行う。2.兜に被せられた宝冠の取り付けは、正しい位置での安定をはかる。遊離する龍2匹は、要すれば、見易い位置に修整をはかる。3.像全体に浮き上がる金箔及び彩色は、メチルセルロース・樹脂等で、本尊移動時に剥落が生じない程度に、応急の剥落止めを施す。4.左腰部の体から遊離する天衣は、一旦取り離し、正しい位置に膠で接合する。5.脱落し別保存されている天衣は、途中離れている箇所を膠で接合する。本躰への取り付けは本尊移動を考慮し、脱着可能な仕様を修理時の知見により検討する。

9　○名　　称　木造薬師如来坐像　1躯
○所 蔵 者　大日寺（滋賀県立琵琶湖文化館寄託）
○時　　代　平安時代
○品　　質　木造

○寸 法 等　像高 110.6㎝
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1.像全体におよぶ経年の埃・汚れは、筆・刷毛等で払い、精製水あるいは、濃度の低いメチルセルロースでクリーニングを行う。2.虫蝕朽損が著しく、木質が劣化している箇所で、移動に際し危険を伴う箇所は、メチルセルロースおよびアクリル樹脂（商品名パラロイドB72）で木質強化を図る。但し、樹脂に濡れ色が出ないよう留意して行う。

**＜漆工＞（2件）**

10 ○名　　称　山水樹下牽牛螺鈿硯箱　1合
○時　　代　中国・明時代・15世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　縦33.5㎝　横54.5㎝　高12.5㎝
○施行会社　輪島口漆工藝社
○修理内容　1.修理前状態の記録と調査; 現状を蓋甲面、蓋裏面、身内面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3.清掃洗浄；塗膜表面が汚れている場合は、水、エタノール、希アンモニア水（アンモニア1%程度）、苛性ソーダ液（濃度1%程度）トルエン等を含ませた綿棒にて拭き取る。4.木地の破損箇所に糊漆を詰め、治具で固定して固着する。陥没箇所には、刻苧漆、錆漆で整形し、周囲と調和した色、艶に薄く漆を塗り込んで傷を目立たなくする。5.乖離塗膜、貝片の接着；塗膜の割れ、浮き、反り返り等のある箇所へ、リグロインで希釈した上質の生漆を注入し、芯張り方法によって圧力をかけ、塗膜を可能な限り当初の形状へと復して固着する。ただし、貝の裏に漆が染みて変色する恐れがある場合は、希釈漆液を用いず、膠液を浸ませて、低温の電気鏝で圧着する方法を用いる。芯張りの圧力によって、器胎に変形や破損の恐れがある場合は、あらかじめこれを予防する治具を製作しこれを用いる。6.際錆；塗膜の欠損、割れ等で段差が生じた箇所には、際錆（きわさび）を施し、引っかかりを防ぐ。際錆は砥の粉に生漆等を調合する。大きな欠損あるいは深い陥没等には、刻苧で整形したのちに錆をする。7.摺漆による塗膜強化；洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に上質の生漆を摺漆し、浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。（※3～7の工程は、各部分に分別して順次おこない、状況によって工程の順序が前後する場合がある。）8.修理後の状態記録；修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

11 ○名　　称　青貝螺鈿フリーメーソン箱　1対（2合）
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿、蒔絵
○寸 法 等　甲）縦35.6㎝　横43.4㎝　高8.4㎝　　乙）縦35.6㎝　横43.5㎝　高8.4㎝
○施行会社　輪島口漆工藝社
○修理内容　1.修理前状態の記録と調査；現状を天板上面、側面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要　に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3.構造的破損の復元、固定；木地構造を解明するために、必要があればＸ線透過撮影やＣＴスキャンを行い内部構造を把握する。木地の接合部の割れ等に、糊漆を注入し、治具クランプ等にて固定し、接合部の固着を図る。4.清掃洗浄；塗膜表面を水、エタノール、希アンモニア水、溶剤等を含ませた綿棒にて拭き取り洗浄する。5.ひび割れの充填、補彩；大きなひび割れは、刻苧を充填したのちに錆付け、錆研ぎをして整形する。その後に色調、艶を調整した漆を薄く塗り、周囲との調和を図る。6.摺漆による塗膜強化；洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に、上質の生漆を摺漆し浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。7.修理後の状態記録；修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

**＜考古＞（9件）**

12 ○名　　称　前輪・後輪（新羅古墳資料のうち）　1件（20年度より継続・4ヶ年計画）
○時　　代　朝鮮・三国時代・6世紀
○品　　質　金銅製
○寸 法 等　前輪）覆輪幅1.4㎝　磯金具厚2.5㎝　後輪）覆輪幅1.4㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態及びＸ線写真を撮影し記録する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.安定台座作製；資料の形状に合わせ安定台座を製作し、資料を安定させる。9.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。10.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

13 ○名　　称　磨製石剣　1振
○所 蔵 者　啓明大学校（韓国）
○時　　代　朝鮮・青銅器時代
○品　　質　石製
○寸 法 等　長52.0㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、古い接着剤のカスや塵等接合の際に妨げになる物を除去してクリーニングをおこなう。3.樹脂含浸；破断面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）にて塗布含浸強化する。この際、塗布を接合箇所のみに限定し、他の箇所に極力薬剤が着かない様に注意して作業をおこなう。4.接合；エポキシ樹脂系接着材（エポキシ及びポリチオール化学反応形）にて接合を行う。5.充填強化；接合部分の溝をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR.XNH6504）で充填補強をおこなう。この際、補強箇所がなるべく目立たない様に、必要最低限の補強にとどめる。6.補彩；修理箇所に補彩を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

14 ○名　　称　銅矛　1振
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　　代　弥生時代
○品　　質　青銅製

○寸 法 等　現存部長 25.3㎝　復元長 29.1㎝
○施行会社　株式会社文化財ユニオン
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.洗浄；アセトンにて折損面の接着剤のクリーニングを行う。3.接合・組立；エポキシ樹脂（アラルダイト）にて折損部を接合、破片を接着する。4.補填；接合面に若干見られた空隙部をエポキシ樹脂にて充填する。5.補彩；主として充填部に補彩・調整を施す。

15 ○名　　称　剣菱形杏葉・ｆ字形鏡板（山ノ神古墳出土遺物のうち）　3点
○時　　代　古墳時代・5世紀
○品　　質　鉄地金銅張
○寸 法 等　剣菱形杏葉　A）全長 23.5㎝　幅 10.5㎝　立聞長 2.0㎝　幅 3.0㎝　B）全長 28.0㎝　幅 13.5㎝　立聞長 4.0㎝　幅 4.0㎝
ｆ字形鏡板）全長 17.5㎝　高 8.0㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する、必要があればX線写真を撮影する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。9.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

16 ○名　　称　鞍金具・楕円形杏葉・鉄地金銅張金具（箕田丸山古墳出土遺物のうち）　4点
○時　　代　古墳時代・6世紀
○品　　質　鉄地金銅張
○寸 法 等　鞍金具）残存長 18.0㎝　幅 10.0㎝　楕円形杏葉）身：縦 7.5㎝　幅 10.5㎝　立聞：縦 1.5㎝　幅 2.5㎝
鉄地金銅張金具　A）長 7.5㎝　短 4.0㎝　B）長 7.0㎝　短 3.7㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する、必要があればX線写真を撮影する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。9.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

17 ○名　　称　経巻（銅製経筒のうち）　1巻
○時　　代　平安時代
○品　　質　紙本墨書、裏打ち・表紙・見返し・軸首・箱なし
○寸 法 等　縦 21.0㎝
第1紙）横 40.0㎝　第2紙）横 42.5㎝　第3紙）43.0㎝第4紙）横 43.5㎝　第5紙）横 43.0㎝　第6紙）43.0㎝　第7紙）横 44.0㎝
第8紙）横 44.0㎝　第9紙）43.5㎝　第10紙）横 43.0㎝　第11紙）横 44.0㎝　第12紙）43.5㎝　第13紙）横 44.0㎝　第14紙）横 43.5㎝
第15紙）43.5㎝　第16紙）横 42.0㎝　第17紙）横 43.0㎝　第18紙）43.0㎝　巻末紙）横 39.0㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の継ぎを外し、整形する。3.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。6.本紙を元通り継ぎ合わせ、元の巻子装に仕立てる。7.補紙を施した箇所に補彩を施す。8.仮表紙及び仮巻を新調する。9.桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

18 ○名　　称　眉庇付冑（立飾り部分）（稲童21号墳出土品のうち）　1点
○所 蔵 者　行橋市教育委員会
○時　　代　古墳時代中期
○品　　質　金銅製
○寸 法 等　長 15.5㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、接合部分の埃等を刷毛やブラシを使用してクリーニングする。3.接合・樹脂強化；外れた部分をエポキシ樹脂系接着剤で接合後、接合部分の補強のため和紙で裏打ちをおこなう。裏打ちの接着剤にはパラロイドB72（アセトン希釈：15%）を用いる。歩揺は接合箇所が分からない物に関しては接合箇所を記録して任意の場所に接合する。4.補彩；欠損修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。5.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

19 ○名　　称　福岡県藤崎遺跡出土　壺形土器（資料番号 No.zz5582）　1点
○所 蔵 者　九州大学
○時　　代　弥生時代
○品　　質　土製
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.解体・クリーニング；対象資料の現状を把握し、溶剤（アセトン）で剥離片を解体する。その後剥離面（接合面）を刷毛や溶剤（アセトン）でクリーニングする。3.樹脂含浸；剥離面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%）にて塗布含浸強化する。4.接合；パラロイドB72（アセトン希釈：15%）にて再接合をおこなう。5.樹脂充填；接合部分にエポキシ樹脂（XN6504）を充填し強化する。6.補彩色；修理箇所に補彩色を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

20 ○名　　称　福岡県番塚古墳出土　鳥形はそう（資料番号 No.zz5589）　1点
○所 蔵 者　九州大学
○時　　代　古墳時代
○品　　質　陶製
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、刷毛や溶剤（アセトン）等で剥離面のクリー

ニングをおこなう。3.樹脂含浸；剥離面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%）にて塗布含浸強化する。4.接合；パラロイドB72（アセトン希釈：15%）にて接合をおこなう。5.樹脂充填；接合部分及びヒビ割れ部分に、エポキシ樹脂（XN6504）を充填し強化する。6.補彩色；修理箇所に補彩色を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

**＜歴史資料＞（4件）**

21 ○名　　称　対馬宗家関係資料（対馬宗家関係資料のうち）　21箱19巻、4幅、16点
（20年度より継続・6ヶ年計画）
○時　　代　対馬宗家関係資料）室町時代・16世紀
六条箴ほか）江戸時代・18-19世紀
紙本墨書朝鮮国書契・書簡）江戸時代および朝鮮・王朝時代・17世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、掛軸装ほか
○寸 法 等　対馬宗家関係資料）縦33.4㎝　横52.2㎝ほか
六条箴）縦136.5㎝　横58.0㎝　　宗義章十一歳書「松竹寿春山」）縦125.8㎝　横26.9㎝
貞心院書「虹飛百尺橋」）縦125.8㎝　横27.0㎝　　「鶴舞千年樹」）縦118.0㎝　横29.5㎝
朝鮮国書契・書簡）縦54.7㎝　横80.8㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.21箱19巻
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.巻子装を解体する。3.本紙の汚れ等を取り去る。4.本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。5.本紙と類似した補修紙を作成する。6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。7.旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。8.将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。9.混合紙にて総裏打を施す。10.仮張りし、充分な乾燥期間をおく。11.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。12.紐は支給のものを使用、表紙、軸首、中軸、八双は元のものを用い、巻子装に仕立てる。13.支給の包み裂に包み納入する14.桐太巻添軸を施工巻数分製作する。15.施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。（※平成21年度は巻5～7を施工）
B.六条箴　雨森芳洲筆　1幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.墨書及び朱の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.薄美濃紙にて肌裏を打つ。6.表装裂地は元のものを調整し、肌裏を打つ。7.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。8.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。9.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。12.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。13.桐太巻添軸1本、桐屋郎箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
C.宗義章十一歳書「松竹寿春山」　1幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。6.薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地(染紙)は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.補紙の箇所に補彩をする。14.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。15.桐太巻添軸1本、桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
D.貞心院書「虹飛百尺橋」・「鶴舞千年樹」　2幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。6.薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地は染紙を新調、一文字は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.補紙の箇所に補彩をする。14.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。15.桐太巻添軸2本、2幅入桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
E.朝鮮国書契・書簡　16点
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した挨等の汚れを可能な限り除去する。3.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。4.虫損箇所に補修紙にて補紙を行う。5.破損箇所に対して補強を行う。6.本紙及び封筒、包紙1点に対し、それぞれ新たに包紙1点を製作する。7.上記を納入する裂四方帙を6箇製作する。8.上記をすべて納入する桐印籠箱を1合製作する。9.旧箱用の紙帙を1点製作する。

22 ○名　　称　宗家文書　12点
○時　　代　江戸時代・18-19世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦50.7㎝　横101.6㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した挨等の汚れを可能な限り除去する。3.ホッチキス針のあるものはこれを除去する。ラベルは存置する。4.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。5.虫損箇所に補修紙にて補紙を行う。6.破損箇所に対して補強を行う。7.本紙及び封筒、包紙1点に対し、それぞれ新たに包紙1点を製作する。8.上記を納入する裂四方帙を2箇製作する。9.上記をすべて納入する桐屋郎箱を1合製作する。

23 ○名　　称　ベトナム村落関係文書　30点（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　桃山時代　17世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦152.7㎝　横359.0㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した埃等の汚れを可能な限り除去する。3.セロハンテープによる仮補修跡を除去する。4.部分的に軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。5.破損箇所に対して補強を行う。6.仮巻及び仮表紙を製作する。7.2段式桐屋郎箱を3合製作し、羽二重の包裂に包み10点ずつ納入する。8.上記の桐屋郎箱を納入する裂四方帙を3箇製作する。

24 ○名　　称　宝満宮扁額　1面
○所 蔵 者　竈神社
○時　　代　江戸時代・嘉永7年（1854）

〇品　　質　木造、漆塗金箔
〇寸 法 等　縦130.0cm　横106.0cm
〇施行会社　輪島口漆工藝社
〇修理内容　1.修理前状態の記録と調査；現状の表面全景、裏面全景、および表面文字部分の剥落状況を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の剥落を防止する養生を行う。3.剥落止め；表面文字部分について、塗膜、金箔の浮き上がっている部分について剥落止めを行う。剥落止めは、浮いた塗膜の下にエタノールを浸ませて直後に膠液（商品名パールグルー）を浸ませ、和紙をあてがって、低温の電気コテにて固着させる。一度で固着が不十分な箇所はこの作業を繰り返し固着させる。塗膜のささくれに引っ掛かっている剥落箇所不明の小剥落塗膜片は別途保管する。また、鏡面周囲の界線、側板の唐草模様ならびに木口面についても、同様に剥落止めを行う。4.乖離部分の接着；乖離している上側面と鏡板を接合するために、後補措置として接合部に打たれている鉄製丸釘5本を除去する。同様に左側板上部にある針金1本を除去する。除去した釘と針金は別途保管する。5.補彩；釘穴は、本体と同等の桧材で埋木し、刻苧漆で整形、生漆で固め、周辺部との調和を図る補彩とする。6.上側板左接合部の仕口部分の割れは、膠で接着する。上側板を正常に近い位置に納めるために、ほぞ穴の内側を4㎜削り膠で接着する。7.清掃洗浄；綿棒ないし不織紙（商品名ワイパーX、日本クレシア社製）に水、微温湯を含ませたものを使用し表面を洗浄する。長年風雪に晒された美観と歴史的価値を損なわないように、洗浄は軽度に抑える。薬品は使用しない。8.左右の側板に釘付けされている菊桐紋浮き彫りは、固定が不十分で乖離が危惧されるため、桐紋は中心部、菊紋は左上方に膠を少量浸ませて固定する。9.修理後の状態記録；修理後の写真を撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

## 1-(4)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

| | | 国立博物館 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 合　計 | | 534 | 53 | 481 (114) |
| 絵　画 | | 228 | 5 | 223 (60) |
| 書　跡 | | 127 | 2 | 125 (27) |
| 彫　刻 | | 88 | 1 | 87 (18) |
| 建　築 | | 0 | 0 | 0 |
| 金　工 | | 0 | 0 | 0 |
| 刀　剣 | | 1 | 1 | 0 |
| 陶　磁 | | 1 | 1 | 0 |
| 漆　工 | | 2 | 0 | 2 (1) |
| 染　織 | | 18 | 1 | 17 (3) |
| 考　古 | | 34 | 34 | 0 |
| 歴史資料 | | 22 | 0 | 22 (4) |
| 和　書 | | 0 | 0 | 0 |
| 民族資料 | | 1 | 1 | 0 |
| その他 | | 5 | 0 | 5 (1) |
| 東洋 | 絵　画 | 0 | 0 | |
| | 書　跡 | 1 | 1 | |
| | 彫　刻 | 1 | 1 | |
| | 金　工 | 0 | 0 | |
| | 陶　磁 | 1 | 1 | |
| | 漆　工 | 1 | 1 | |
| | 染　織 | 2 | 2 | |
| | 考　古 | 1 | 1 | |
| | 民　族 | 0 | 0 | |
| 法隆寺献納宝物 | | 0 | 0 | |
| 黒田記念館収蔵品 | | 0 | 0 | |
| 館史資料(収蔵品外) | | 0 | 0 | |

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 京都国立博物館の（　）内は新規入力件数で内数。

# 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

## 2-(1) 展示の充実

### 2-(1)-① 入館者数

（後述の資料に記載）◎共通資料d-①

### 2-(1)-② 入館者数（過去５カ年）

（後述の資料に記載）◎共通資料d-②

### 2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料d-③

### 2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

| 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|
| 97% | －% | 91% | 82% |
| 143件(外国語) | －件(外国語) | 29件(外国語) | 27件(外国語) |
| 148件(日本語) | －件(日本語) | 32件(日本語) | 33件(日本語) |

パネル等（パネルと同様の内容配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】

・平常陳列　77件（外国語）／77件（日本語）　含国宝室・表慶館
・特集陳列　66件（外国語）／66件（日本語）　含仏像の道
・黒田記念館
　平常陳列　0件（外国語）／ 5件（日本語）
※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレット
　36件（外国語）／36件（日本語）

【京都国立博物館】

（平常展示館建て替え工事に伴い平常展示休止中）

【奈良国立博物館】

・平常展　26件（外国語）／29件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
・特別陳列「お水取り」　0件（外国語）／ 0件（日本語）

【九州国立博物館】

・文化交流展示（トピック展示をのぞく）　27(外国語)/33 件(日本語)
・「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」　8(外国語)/8 件(日本語)
・「特別展「古代九州の国宝」関連企画　有明の縄文文化－東名遺跡が語るもの－」　1(外国語)/1(日本語)
・「玄界灘の海人・壱岐」　1(外国語)/1(日本語)
・「進化する博物館 II　みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない」　1(外国語)/1(日本語)
・「アジアの工芸　ベトナム陶磁」　1(外国語)/1(日本語)
・「中世の造形－鎌倉～室町時代の日本工芸」　1(外国語)/1(日本語)
・「東南アジアの美術」　1(外国語)/1(日本語)
・「茶の湯を楽しむⅡ」　1(外国語)/1(日本語)
・「祈りの山　宝満山」展　1(外国語)/1(日本語)
・「天にささげる器」　1(外国語)/1(日本語)
・「屏風の輝き」　1(外国語)/1(日本語)
・「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅰ期」　1(外国語)/1(日本語)
・「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅱ期」　1(外国語)/1(日本語)
・「多彩な江戸文化～京都で活躍した絵師たち～」　1(外国語)/1(日本語)
・「長崎の興福寺」　1(外国語)/1(日本語)
・「新収品'05-'08」　1(外国語)/1(日本語)
・「お姫様の婚礼道具」　1(外国語)/1(日本語)
・「江戸の風俗画」　1(外国語)/1(日本語)

## 2-(1)-⑤ 平常展・特別展

（後述の資料に記載）◎共通資料d-④

## 2-(1)-⑥ 広報刊行物一覧

### 【東京国立博物館】

| 刊　行　物　名 | 発　行　部　数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 東京国立博物館ニュース695号～ 700号 | 隔月刊年6回発行　各30,000部 | 館内で来館者に無償配布<br>マスコミ媒体等に送付<br>定期郵送希望者　2,493件<br>寄贈　国内1320件　海外95件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等）<br>賛助会　219件、友の会　1960件<br>（2010年3月現在） |
| 本館フロアガイド<br>日本語版・英語版<br>中国語版・韓国語版<br>（22年3月末、22年度版に改訂） | 日本語版22.3　改訂 100,000部<br>英語版　22.3　改訂　40,000部<br>中国版　22.3　改訂　18,000部<br>韓国版　22.3　改訂　18,000部 | 館内で来館者に無償配布 |
| 東洋館フロアガイド<br>日本語版・英語版<br>中国語版・韓国語版<br>（休館中のため増刷・改訂なし） | 日本語版<br>英語版<br>中国語版<br>韓国語版 | 休館中のため配布せず |
| 東京国立博物館パンフレット多言語版<br>（22年3月　22年度版に改訂） | 英語版　22. 3　改訂 36,000部<br>中国語版 22. 3　改訂　8,000部<br>韓国版　22. 3　改訂　8,000部<br>フランス語版<br>22. 3　改訂 10,000部<br>ドイツ語版<br>22. 3　改訂　5,000部<br>スペイン語版<br>22. 3　改訂　5,000部 | 館内で来館者に無償配布<br>大使館等に送付<br>特記事項：22年度版改訂に関しては東芝国際交流財団の一部助成により製作。 |
| 東京国立博物館パンフレット日本語版<br>（22年3月　22年度版に改訂） | 22. 3　改訂 100,000部 | 館内で来館者に無償配布<br>マスコミ媒体、学校等に送付 |
| 東京国立博物館　展示・催しのご案内 | 21. 4 21年春版改訂 35,000部<br>21.10 21年秋版制作 30,000部<br>22. 3 22年春版制作 35,000部 | 館内で来館者に無償配布<br>観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送付 |
| 法隆寺宝物館パンフレット | 21. 7　増刷　30,000部 | 法隆寺宝物館で配布 |
| 庭園ガイド | 21.10　増刷　50,000部<br>22.3　増刷　50,000部 | 館内で配布<br>館内で配布 |
| 応挙館パンフレット | ― | 館内で来館者に無償配布<br>マスコミ媒体等に送付 |

### 【京都国立博物館】

| 刊　行　物　名 | 発行時期 | 発　行　部　数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|---|
| 京都国立博物館だより | 4、7、10、1月 | 162号（4・5・6月）<br>10,000部<br>163号（7・8・9月）<br>20,000部<br>164号（10・11・12月）<br>25,000部<br>165号（1・2・3月）<br>25,000部 | 観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送 |
| Kyoto National Museum Letter Vol.102～105 | 4、7、10、1月 | 各3,000部 | 観覧者 |
| 博物館Dictionary No.166 | 不定期 | 5,000部 | 観覧者（小学・中学生向け） |
| 平成21年度年間スケジュール | 4月<br>6月 | 20,000部<br>（増刷）　10,000部 | 観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送 |

| 刊　行　物　名 | 発行時期 | 発　行　部　数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|---|
| 京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版） | 12月<br><br><br><br><br>3月 | 英語版　20,000部<br>韓国語版　5,000部<br>フランス語版　10,000部<br>スペイン語版　10,000部<br>中国語版　10,000部<br>日本語版　30,000部 | 観覧者 |
| 庭園マップ（改定5版） | 3月 | 5,000部 | |
| 東山七条周辺地図 | 12月 | 10,000部 | |
| 特別展覧会「シルクロード文字を辿って」リーフレット | 7月 | 30,000部 | |

**【奈良国立博物館】**

| 刊　行　物　名 | 発 行 部 数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 奈良国立博物館だより<br>（年4 回） | 春・夏・冬号 各20,000部<br>秋号　30,000部 | 美術館・博物館・大学・研究所等　約120件 |
| 奈良国立博物館リーフレット | 日本語版　20,000部<br>英語版　10,000部<br>中国語版　5,000部<br>韓国語版　8,000部<br>ドイツ語版　2,000部<br>フランス語版　2,000部<br>スペイン語版　2,000部 | 館内で来館者に配布 |
| 奈良国立博物館展示案内 | 55,000部 | 館内で来館者に配布 |

**【九州国立博物館】**

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 九州国立博物館案内リーフレット | 日本語版　150,000部<br>中国語版　7,000部<br>韓国語版　12,000部<br>英語版　19,000部<br>フランス語版 6,000部<br>ドイツ語版　6,000部<br>スペイン語版 3,000部<br><br>合計　203,000部 | ・館内で来館者に配布<br>・旅行会社等へ郵送<br><br>特記事項：外国語版は東芝国際交流財団の助成により一部作成 |
| 文化交流展示室案内マップ | 日本語版 210,000部<br>中国語版　3,000部<br>韓国語版　4,000部<br>英語版　6,000部<br><br>合計223,000部 | ・館内で来館者に配布<br>・旅行会社等へ郵送 |
| 文化交流展示室解説リーフレット | 中国語版　10,000部 | ・館内で来館者に配布 |
| 九州国立博物館概要 | 日本語4,500部<br>中国語　230部<br>韓国語　530部<br>英語　330部 | ・視察者等 |
| 季刊情報誌「アジアージュ」 | 春(12)号　30,000部<br>夏(13)号　30,000部<br>秋(14)号　30,000部<br>冬(15)号　30,000部 | ・館内で来館者に配布<br>・美術館・博物館、近隣文化施設、<br>近隣大学、太宰府市、友の会会員等 |
| 博物館科学課の最新設備<br>パンフレット | 日本語　1,000部 | ・美術館・博物館、大学、施設調査用、<br>視察者等 |

## 2-(2) 歴史・伝統文化の理解促進

### 2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年実績）

| | 17年度 | 前中期期間(13～17年度)の平均値 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ○講演会等の回数 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | | | | | | |
| ①講演会 | | 30回 | 30回 | 24回 | 29回 | 24回 |
| | | 7,339人 | 6,542人 | 4,770人 | 7,134人 | 5,600人 |
| アンケート結果 | | | 78.37% | 79% | 82% | 87% |
| （内訳） | | | | | | |
| ・月例講演会等 | 13回 | 14回 | 12回 | 12回 | 12回 | 12回 |
| | 3,092人 | 2,602人 | 1,612人 | 1304人 | 2,008人 | 1887人 |
| アンケート結果 | 80% | 81% | 73% | 82% | 82% | 87% |
| ・記念講演会 | 10回 | 12回 | 11回 | 6回 | 15回 | 11回 |
| | 3,136人 | 3,891人 | 3,519人 | 1,869人 | 4,409人 | 3,516人 |
| アンケート結果 | 86% | 80% | 81% | 81% | 81% | 85% |
| ・テーマ別講演会 | 4回 | 4回 | 4回 | 4回 | 2回 | 1回 |
| | 960人 | 846人 | 958人 | 908人 | 717人 | 197人 |
| アンケート結果 | 86% | 85% | 87% | 69% | 83% | 90% |
| ・特別講演会 | ― | ― | 3回 | 2回 | ― | ― |
| | ― | ― | 453人 | 689人 | ― | ― |
| アンケート結果 | ― | ― | 80% | ― | ― | ― |
| ②連続講座（17年度までは夏期講座） | 3日 | 2日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 |
| | 354人 | 248人 | 325人 | 288人 | 356人 | 320人 |
| アンケート結果 | 84% | 82% | 83% | 77% | 81% | 82% |
| ③公開講座 | 10回 | 12回 | 26回 | 16回 | 1回 | 2回 |
| | ― | ― | 1,113人 | 2,369人 | 68人 | 76人 |
| アンケート結果 | 87% | 90% | 85% | 72% | ― | 93% |
| ④列品解説（ギャラリートーク等） | 41回 | 43回 | 41回 | 101回 | 101回 | 126回 |
| | 3,286人 | 3,328人 | 3,055人 | 3,934人 | 4,774人 | 6,550人 |
| ⑤教育的イベント等 | ― | ― | 5回 | 56回 | 43回 | 17回 |
| | ― | ― | 6,525人 | 1,501人 | 6,917人 | 9,451人 |
| 京都国立博物館 | | | | | | |
| ①土曜講座 | 44回 | 46回 | 47回 | 45回 | 36回 | 19回 |
| | 4,975人 | 4,989人 | 4,827人 | 4,329人 | 3,254人 | 2,791人 |
| アンケート結果 | 87% | 84% | 84% | 81% | 82% | 80% |
| ②夏期講座 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 |
| | 184人 | 192人 | 153人 | 160人 | 159人 | 179人 |
| アンケート結果 | 91% | 86% | 94% | 88% | 95% | 94% |
| 奈良国立博物館 | | | | | | |
| ①特別展等講座 | 19回 | 16回 | 12回 | 15回 | 19回 | 16回 |
| | 2,947人 | 2,263人 | 1,586人 | 1,943人 | 2,706人 | 2,043人 |
| アンケート結果 | 82% | 85% | 86.3% | 87.0% | 90.0% | 95.6% |
| ②夏期講座 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 | 3日 |
| | 434人 | 328人 | 486人 | 358人 | 362人 | 391人 |
| アンケート結果 | 82.5% | 81% | 93% | 84% | 90% | 92% |
| ③大学との合同公開講座 | ― | ― | ― | ― | ― | 4回 |
| | ― | ― | ― | ― | ― | 353人 |
| アンケート結果 | ― | ― | ― | ― | ― | 86% |
| ④ギャラリートーク | 16回 | 16回 | 12回 | 12回 | 12回 | 11回 |
| | 692人 | 951人 | 671人 | 648人 | 587 | 584人 |
| アンケート結果 | ― | ― | ― | ― | ― | 90.6% |
| 九州国立博物館 | | | | | | |
| ①開館記念講演及びシンポジウム | 4回 | 4回 | 6回 | 1回 | 6回 | 4回 |
| | 1,350人 | 1,350人 | 1,280人 | 316人 | 1,555人 | 1,020人 |
| アンケート結果 | ―% | ―% | ―% | -% | -% | -% |
| ②特別展記念講演会 | 2回 | 2回 | 12回 | 7回 | 11回 | 6回 |
| | 550人 | 550人 | 2,153人 | 1,892人 | 2,670人 | 1622人 |
| アンケート結果 | ―% | ―% | ―% | -% | -% | -% |
| ③特別展連続講座 | 4回 | 4回 | 0回 | 0回 | 0回 | 0回 |
| | 595人 | 595人 | ―人 | -人 | -人 | -人 |
| アンケート結果 | 第4回 81.3% | 81.3% | ―% | -% | -% | -% |
| ④ミュージアム講座 | 3回 | 3回 | 11回 | 11回 | 2回 | 1回 |
| （教育講座アジアージュ） | 349人 | 349人 | 1,400人 | 640人 | 186人 | 50人 |
| アンケート結果 | 第3回 86.9% | 86.9% | ―% | -% | -% | -% |
| ⑤ミュージアムトーク | 66回 | 66回 | 47回 | 42回 | 37回 | 42回 |
| | 2,411人 | 2,411人 | 1,806人 | 1,320人 | 1,096人 | 1285人 |
| ○友の会会員を中心とした講演会 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 6回 | 3回 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 |
| 奈良国立博物館 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 | 1回 |
| ○大学生等の受入件数 | | | | | | |
| 奈良国立博物館 | | | | | | |
| ①放送大学の面接授業 | 4回 | 4回 | 2回 | 2回 | 2回 | 1回 |
| | 各170名 | 154人 | 160人 | 150人 | 178人 | 98人 |
| ②奈良女子大学との連携講座 | 大学院生1人 | 大学院生3人 | 大学院生2人 | 216人 | 5人 | 3人 |
| ③神戸大学との連携講座 | 大学院生6人 | 大学院生6人 | 大学院生2人 | 10人 | 10人 | 10人 |
| 九州国立博物館 | | | | | | |
| ①放送大学の面接授業 | | | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| | ― | ― | 50人 | 34人 | 37人 | 50人 |
| ○公私立博物館・美術館等への援助・助言回数 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 45件 | 40件 | 56件 | 124件 | 134件 | 151件 |
| 京都国立博物館 | 32件 | 12件 | 28件 | 81件 | 114件 | 114件 |
| 奈良国立博物館 | 3件 | 5件 | 7件 | 5件 | 5件 | 25件 |
| 九州国立博物館 | 46件 | 12件 | 57件 | 38件 | 47件 | 39件 |
| ○ホームページのアクセス件数 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 2,923,564件 | 1,928,966件 | 3,680,028件 | 5,504,468件 | 5,211,261件 | 5,687,673件 |
| 京都国立博物館 | 572,936件 | 521,965件 | 757,812件 | 733,885件 | 1,409,634件 | 848,486件 |
| 奈良国立博物館 | 986,133件 | 670,948件 | 1,249,608件 | 1,402,834件 | 1,230,774件 | 2,630,035件 |
| 九州国立博物館 | 5,017,378件 | 5,017,378件 | 7,118,540件 | 5,943,616件 | 5,699,860件 | 7,459,518件 |
| ○デジタル化件数 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | | | | | | |
| 画像 | 20,556枚 | 18,829枚 | 4,472枚 | 124,996枚 | 139,000枚 | 775,300件 |
| 文字 | 6,957,789字 | 4,276,549字 | 500,000字 | 553,000字 | 553,000字 | 1,230,000字 |
| 京都国立博物館 | 5,568件 | 4,359件 | 6,169件 | 8,047件 | 6,478件 | 5,603件 |
| 奈良国立博物館 | 3,755件 | 8,471件 | 3,830件 | 4,584件 | 8,399件 | 102,894件 |
| 九州国立博物館 | 1,890件 | 1,890件 | 1,986件 | 3,295件 | 3,963件 | 3,574件 |
| ○情報及び資料の収集 | | | | | | |
| 東京国立博物館 | 5,432件（写真原版） | 7,423件（写真原板） | 4,472件（写真原版） | 3,640件（写真原版） | 4,703件（写真原版） | 4,177件(写真原板) |
| 公開件数（利用者数） | 3,769人 | 4,135人 | 2,920人 | 3,134人 | 2,764人 | 2,898人 |

## 2-(2)-② 児童生徒を対象とした教育普及事業

### 【東京国立博物館】

#### 1) みどりのライオンプロジェクト

| | |
|---|---|
| 開催期間 | 4月1日～平成22年3月31日 |
| 開催場所 | 本館20室 |
| 入場者数 | 637,176人 |
| 担当研究員数 | 7人 |
| 事業内容 | みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。 |

#### 2)「親と子のギャラリー」

| 「日本美術のつくり方」 | | |
|---|---|---|
| 開催期間 | | 7月28日～9月6日（36日間） |
| 開催場所 | | 本館特別2室 |
| 入場者数 | | 26,560人 |
| 担当研究員数 | | 5人 |
| 事業内容 | | 家族での来館のきっかけ、および、平常展鑑賞の一助となることを目的に、伝統的な日本美術の制作工程に焦点をあてた教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。技術見本、工程見本を用い、作品ができるまでをわかりやすく紹介した。今回取り上げたジャンルは、浮世絵、仏画（裏彩色）、仏像（一木造）、刀の鍔（布目象嵌）、色絵磁器の5つ。ハンズオン・コーナーを特別2室内および本館20室に設けた。 |
| ワークショップ及び関連事業 | ファミリーワークショップ「北斎の冨士ができるまで」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 8月22日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 31人（10組） |
| | 担当研究員数 | 2人 |

#### 3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計　234,321人

**①平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　124,307人**

| | | |
|---|---|---|
| 体験型プログラム ハンズオン | 平常陳列「暮らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」 | |
| | 期　　間 | 4月1日～22年3月31日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 109,170人 |
| 体験型プログラム ハンズオン | 特集陳列「日本美術のつくり方」（本館特別2室）関連「北斎の冨士を作ろう！」 | |
| | 期　　間 | 7月28日～9月6日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 11,909人 |
| 体験型プログラム ハンズオン | 特集陳列「寅之巻」（本館特別2室）関連「東博トラめぐり＆掛軸ふうカレンダー」 | |
| | 期　　間 | 22年1月2日～1月3日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 3,228人 |

**②制作工程模型展示　　参加者数計　109,536人**

| | | |
|---|---|---|
| 体験型展示 ハンズオン | 「仏頭ができるまで」 | |
| | 期　　間 | 3月31日～7月26日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 31,053人 |
| 体験型展示 ハンズオン | 「押出仏ができるまで」 | |
| | 期　　間 | 7月28日～10月4日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 15,970人 |
| 体験型展示 ハンズオン | 「盧舎那仏のひみつ」 | |
| | 期　　間 | 10月6日～22年1月11日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 33,606人 |

| | | |
|---|---|---|
| ハンズオン体験型展示 | 「国宝・孔雀明王像ができるまで」 | |
| | 期　　間 | 22年1月13日～22年4月18日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 28,907人 |

**③ワークショップ　　参加者数計　269人**

| | | |
|---|---|---|
| ワークショップ及び関連事業 | 特集陳列「戦う武士の世界」関連企画（本館特別1室）関連「中学生のためのワークショップ「武士の手紙とオリジナル花押（サイン）作り」」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 6月28日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 16人 |
| | 担当研究員数 | 3人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「ファミリーワークショップ・からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 8月15日、8月16日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 56人（20組） |
| | 担当研究員数 | 3人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方」(本館特別2室)関連「ファミリーワークショップ　北斎の冨士ができるまで」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 8月22日 |
| | 開催場所 | 本館20室 |
| | 参加者数 | 31人（10組） |
| | 担当研究員数 | 2人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「イブニングワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 11月20日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 19人 |
| | 担当研究員数 | 2人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「一般向けワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 11月21日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 16人 |
| | 担当研究員数 | 2人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「ファミリーワークショップ・貝合せを作って貝合せに挑戦！」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 11月22日、11月23日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 30人（12組） |
| | 担当研究員数 | 2人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「宮廷の美術」（本館3室）関連「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 12月19日、12月20日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 40人 |
| | 担当研究員数 | 3人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「宮廷の美術」（本館3室）関連「ファミリーワークショップ　料紙づくりと散らし書きカレンダーに挑戦！」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 12月19日、12月20日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 23人（9組） |
| | 担当研究員数 | 3人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「イブニングワークショップ　春のもようのお皿作り」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 22年3月12日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 19人 |
| | 担当研究員数 | 2人 |

| | | |
|---|---|---|
| ワークショップ及び関連事業 | 日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「一般向けワークショップ　春のもようのお皿作り」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 22年3月14日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 19人 |
| | 担当研究員数 | 2人 |

**④特別展関連体験型プログラム　　参加者数計　209人**

| | | |
|---|---|---|
| ワークショップ及び関連事業 | 特別展「国宝 土偶展」関連「ファミリーワークショップ・どぐうスケッチ」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 22年1月10日 |
| | 開催場所 | 本館特別5室、20室 |
| | 参加者数 | 16人（9組） |
| ワークショップ及び関連事業 | 特別展「国宝 土偶展」関連「中学生のためのワークショップ・めざせ！考古学者」 | |
| | 期　　間 | 22年2月13日 |
| | 開催場所 | 本館特別5室、20室 |
| | 参加者数 | 12人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 特別展「長谷川等伯」関連「中学生高校生のためのワークショップ・水墨画に挑戦！～長谷川等伯の筆使いを学ぶ～」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 22年2月28日 |
| | 開催場所 | 平成館小講堂 |
| | 参加者数 | 28人 |
| ワークショップ及び関連事業 | 特別展「長谷川等伯」関連「ファミリーワークショップ・屏風体験～松林図屏風を部屋に置いてみよう～」（事前申込制） | |
| | 期　　間 | 22年3月7日 |
| | 開催場所 | 応挙館 |
| | 参加者数 | 153人(34組) |

**4）東博スクールプログラム**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 年間 |
| 開催場所 | 全館対象 |
| 参加者数 | 小学校20校、636人／中学校89校、2808人／高校52校、2249人／中高一貫2校39人<br>計163校、5732人 |
| 担当研究員数 | 4人 |
| 事業内容 | 総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、伝統文化理解のための鑑賞教育やキャリア学習のプログラムを児童・生徒に実施した。教員向けのスクールプログラムのパンフレットも近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、WEBで公開した。 |

**5）高等学校との連携教育実施**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 6月13日、8月4日、8月25日 |
| 開催場所 | 全館対象 |
| 参加者数 | 16人(連携校11人、一般公募5人) |
| 担当研究員数 | 2人 |
| 事業内容 | 単位制の都立高等学校との連携プログラム。広く一般の高校からも受講者を募集した。日本の伝統もようをテーマとした展示鑑賞、ワークショップ、発表を行う全3回の連続講座を実施した。 |

## 【京都国立博物館】

**1）少年少女博物館くらぶ**

| 事業名：博物館　庭園探検隊！～石仏をたどって～ | |
|---|---|
| 実施日 | 7月25日 |
| 対象 | 小学生から中学生 |
| 参加者数 | 19人（うち子ども8人） |

**2）博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行**　1回

・発行部数　5000部

・配 布 先　京都市内小中学校、館内観覧者等

**3）特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」小中学生の入場料を無料**

**4）特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」小中学生向けワークシート作成**

・発行部数　30,000部

・配 布 先　館内観覧者、公式ホームページ上にて公開

**5) 京都市内の小中学校への訪問授業**

| 事業名： 文化財に親しむ授業　洛中洛外図屏風に大接近！ | |
|---|---|
| 実施日 | 6月17日　9:40～10:25、10:45～11:30 |
| 場所 | 京都市立金閣小学校　講堂（京都市北区平野上柳町61-1） |
| 対象 | 京都市立金閣小学校　6年生4クラス |
| 参加者数 | 160人 |
| 事業内容 | NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。狩野永徳筆 上杉本「洛中洛外図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。複製屏風の他に画材見本やワークシートなどを活用して、子どもたちが美術や文化財にしたしむきっかけづくりをした。 |
| 主催 | 京都国立博物館、NPO法人京都文化協会 |
| 特別協力 | 米沢市上杉博物館 |
| 事業名： 文化財に親しむ授業　屏風の中へ散歩に行こう | |
| 実施日 | 11月2日　13:15～14:05、14:15～15:05 |
| 場所 | 蜂ヶ岡中学校　武道場（京都市右京区嵯峨野開町1-1） |
| 対象 | 京都市立蜂ヶ岡中学校　1年生6クラス |
| 参加者数 | 228人 |
| 事業内容 | NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。尾形光琳筆「八橋図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。複製屏風の他に画材見本やワークシートなどを活用。文化財ソムリエ養成のスクーリングに参加している京都市内の大学生・大学院生も補助講師として参加した。 |
| 主催 | 京都国立博物館、NPO法人京都文化協会 |

## 【奈良国立博物館】

**1) 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説**

・期間，場所　開館中随時，展示会場・講堂
・団体申込数　37件　計1,790名
・担当研究員数　3人
・事業内容　解説ボランティアによる展示作品の解説及び課題学習等への対応

**2) 世界遺産学習への対応**

・期間　4月～21年3月　事前申し込み制
・対応実績　奈良市内の小学校30校　（5年生の全クラスを対象）　計2,205名
・担当研究員数　3人
・事業内容　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
解説ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

**3) 児童・生徒を対象にした解説冊子の製作**

・展覧会名　特別展「聖地寧波」７月18日～8月30日
・冊子名　「寧波虎の巻　こどもガイドブック」　27頁　A5版
・発行部数　4,000部　頒布価200円
・内容　主要展示品の背景や日中交流に活躍した歴史上の人物などを分かり易くマンガを使いながら解説する。展示会場にはこの冊子に掲載された作品が分かるように印を付け、会場で学べる工夫を行った。これをもって毎年開催の「親と子のギャラリー」に代えるものとした。

**4) 子ども向け音声ガイドの制作**

・特別展「第61回正倉院展」で制作、360台の利用があった。

## 【九州国立博物館】

**1) 博物館における体験型事業の充実**

① 体験型展示室「あじっぱ」で活用する様々な教育キットの開発

| 体験型キットの開発・展開 | |
|---|---|
| 内容 | 「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発<br>①新規開発キット、プログラム：「タングラム」「なりきり考古学者」「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」<br>②あじ庵：「アジアの染めと織り」「ならしてみよう♪アジアの響き」<br>③あじぎゃら：「ひみつの仏教のひみつの道具」「わたしのはなし」「やきもの動物園」「ようこそ！はらのなかのはらっぱへ」 |
| 対象 | こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般 |
| 人数 | 定員なし |

| | |
|---|---|
| 実施 | 開館時は常時開放 |

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

| 夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」 | |
|---|---|
| 内容 | 「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。 |
| 対象 | こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般 |
| 人数 | 定員なし |
| 実施 | 7月18日～7月20日の3日間実施、3カ国10コンテンツを運用。参加者約150名（子どものみの数） |

③ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

| なりきり学芸員体験 | |
|---|---|
| 内容 | 「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。<br>平成21年度、新たなヴァージョンとして「なりきり考古学者体験」を開発、「なりきり学芸員体験」とあわせて実施した。 |
| 対象 | 小学校中学年以上 |
| 人数 | 1回につき最大8名 |
| 実施 | ボランティアによる司会進行、ホームページで告知して実施。延べ65回実施 |

④ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

| 体験型展示室「あじっぱ」の運営 | |
|---|---|
| 内容 | 日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 |
| 対象 | こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般 |
| 人数 | 最大収容可能人数約80人 |
| 実施 | 開館時は常時開放 |
| 「アートワゴン」の展開 | |
| 内容 | 展示資料に関連のある内容のワークショップコンテンツを可動式ワゴンに搭載してエントランスホールに出向き、来館者に制作の機会と場を提供する。 |
| 対象 | こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般 |
| 人数 | 1回につき約20名 |
| 実施 | 特別展「古代九州の国宝」関連プログラム「さわってはかって考古クイズ」を11月21日～11月23日の３日間実施 |

**2) 家族向けに平常展を利用したPDA（携帯情報端末）によるプログラムの開発**

| 文化交流展示室におけるPDA機器の開発 | |
|---|---|
| PDA機種導入の目的・方針 | ・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。<br>・PDAの映像を通して研究員による解説と作品の背景がわかる動画を楽しめる。<br>・操作性が簡易であること、展示替えに応じてコンテンツを館内で更新できる機種を採用する予定。 |
| 制作および運営方法調査 | 林原自然科学博物館、国立科学博物館、東京都現代美術館を視察 |
| 導入機種の検討 | 現在2機種を候補としている。コンテンツに関するヒヤリングを進める。 |

**3) 学校教育との連携事業の実施**

① ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

| ジュニア学芸員活動 | |
|---|---|
| 内容 | 博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。 |
| 人数 | 7校38名 |
| 実施 | 11月～3月の日曜日を中心に8回 |

② 教員を対象としたプログラムの実践

| キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」 | |
|---|---|
| 内容 | 小学校・中学校・特別支援学校の教師を対象に、博物館を活用した授業づくりについて講義・演習を中心に研修を行う。県教育センターと連携して実施。 |
| 人数 | 40名 |
| 実施 | 6月26日に実施。 |
| 福岡県高等学校歴史研究会研修会 | |
| 内容 | 県内高等学校の地歴科・公民科の教師を対象に、特別展の概要を紹介、展示作品への理解を深める。福岡県高等学校歴史研究会と連携して実施。 |
| 人数 | 各回約25名 |

| | |
|---|---|
| 実施 | 7月21日、11月11日、2月23日の3回実施。 |
| 教師社会体験研修 | |
| 内容 | 学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。 |
| 人数 | 7名 |
| 実施 | 10年経験教師社会貢献体験研修4名（8月17日～8月18日、2日間）、初任者研修にかかる体験活動研修2名（8月12日～8月14日、3日間）、長期社会体験派遣研修1名（10月1日～12月28日、3ヶ月間） |

③ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用

| 学校貸出キット「きゅうぱっく」 | |
|---|---|
| 内容 | 博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して学校等に向けて貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。 |
| 対象 | 学校教育団体、社会教育団体その他 |
| 実施 | 小学校9件、中学校2件、高等学校3件、短期大学1件、その他7件（その他は出版社1件、キッズデザイン協議会1件、アジア太平洋フェスティバル事務局2件、教育関係団体2件、行政機関1件）、計22件 |

④ 中学生の職場体験

| 中学生の職場体験 | |
|---|---|
| 内容 | 中学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。 |
| 人数 | 1回について最大6名まで |
| 実施 | 9校に対して実施、体験中学生数48名（実施中学校：筑紫野市立筑山中学校4名、二日市中学校5名、筑紫野中学校6名、筑紫野南中学校6名、太宰府市立太宰府西中学校6名、学業院中学校6名、大野城市立大野中学校6名、春日市立春日東中学校6名、福岡市立宮竹中学校3名） |

⑤ 出前講座への対応

| 出前講座への対応 | |
|---|---|
| 内容 | 学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いてアジア各地や日本の歴史・文化についての講義を行う。 |
| 対象 | 研究員による出前講座を希望した学校 |
| 実施 | 10月24日、修猷館高校にて実施（参加高校生38名）、対応研究員1名。 |

⑥ 来館学校団体への対応

| 来館学校団体への対応 | |
|---|---|
| 内容 | 団体で来館した学校団体のうち、特に希望した学校に対し、体験プログラム等を実施 |
| 対象 | 団体で来館した学校団体のうち、特に体験を希望した学校 |
| 実施 | 福岡県立城南高等学校（4月10日、28名）、福岡県立修猷館高等学校（4月28日、4名）、福岡県立講倫館高等学校（5月14日、280名）、福岡県立筑紫高等学校（11月19日、360名） |

## 2-(2)-③ 大学等との連携

### 1)インターンシップ

**【東京国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 受入期間 | 7月16日～22年3月31日 |
| 受入部署 | 広報室、情報資料室、教育講座室、ボランティア室、教育普及室、デザイン室、特別展室、上席研究員(金工)、平常展調整室、東洋室、保存修復課 |
| 参加者数 | 21人（17大学） |
| 担当研究員数 | 23人 |

**【京都国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 受入期間 | 8月17日～9月11日 |
| 開催場所 | 文化財保存修理所 |
| 参加者数 | 3人（3大学） |
| 担当研究員数 | 1人 |
| 事業内容 | 文化財修復大学院生インターンシップ協議会との提携に基づき、協議会の主催の下、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを受け入れた。11月21日には事務棟研修室にて3名による報告会を行った。 |

**【九州国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 受入期間 | 3月2日～3月6日（5日間） |
| 受入部門 | 交流課 |
| 参加者数 | 5人 |
| 担当研究員数 | 6人 |

### 2)放送大学の面接授業の実施

**【奈良国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 平成21年12月12,13日 |
| 開催場所 | 講堂 |
| 参加者数 | 98人 |

**【九州国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 11月14日・15日 |
| 開催場所 | 研修室 |
| 参加者数 | 50人 |

### 3)大学生及び教育関連機関等の見学対応

**【東京国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 年間 |
| 開催場所 | 全館対象 |
| 参加者数 | 15件（大学13件、620人／教育関連機関等2件34人　計654人） |
| 担当研究員数 | 2人 |
| 事業内容 | 大学生対象の東京国立博物館のガイダンス、国内外博物館職員等を対象にした博物館事業の解説を含めたガイダンスを実施。 |

### 4)東京芸術大学学生ボランティア

**【東京国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | ・ギャラリートーク班<br>前期：平成21年8月1日～9月27日(34回)　後期：平成21年12月1日～平成22年2月21日（34回）<br>・制作工程模型作成班ギャラリートーク<br>平成22年2月3･12･28･3月2・11･16日（6回） |
| 開催場所 | 当館展示室内ほか |
| 参加者数 | ・ギャラリートーク班<br>ボランティア7人、聴講者 計2,441人（前期：956人 後期：1,485人）<br>・制作工程模型作成班ギャラリートーク<br>ボランティア1人　聴講者 195人 |
| 担当研究員数 | 3人 |
| 事業内容 | 東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対するギャラリートークを実施。また工程模型作成班により、「国宝孔雀明王像」の5工程の制作工程模型の制作、それに係るギャラリートーク「国宝孔雀明王像　0.15ミリの超絶技法」を実施。 |

### 5)教員鑑賞会の実施

**【東京国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | ①7月22日（スクールプログラム）、②10月16日（特別展「皇室の名宝」）、③12月26日（特別展「国宝 土偶展」） |
| 開催場所 | ①平成館大講堂、小講堂、20室<br>②平成館大講堂、平成館2階特別展会場及び平成館1階ガイダンスルーム<br>③平成館大講堂、本館特別5室特別展会場 |
| 参加者数 | ①156人、②307人、③154人　　計617人 |
| 担当研究員数 | 4人 |
| 事業内容 | 学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施し、指導要領と関連した授業案を配布した。 |

**【京都国立博物館】**

社会科教員指導力向上講座の実施

| | |
|---|---|
| 実施日 | 10月27日 |
| 開催場所 | 管理棟3階研修室及び特別展示館 |
| 参加者数 | 32人 |
| 担当研究員数 | 2人 |
| 事業内容 | 京都市内の小中学校で社会科を担当している教員を対象とした事業。「本物にふれる大切さ」と題した講義ののち、特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を観覧、解説を実施した。 |

**【九州国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | ①7月21日（火）、②11月11日（水） |
| 開催場所 | ①研修室および特別展会場<br>②研修室および特別展会場 |
| 参加者数 | ①25人　②26人 |
| 担当研究員数 | 2人 |
| 事業内容 | 学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施した。 |

**6）全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）**

**【東京国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 7月30日～8月1日 |
| 開催場所 | 本館展示室、会議室／東京藝術大学 |
| 参加者数 | 37人 |
| 担当研究員数 | 4人 |
| 事業内容 | 全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めてもらう。今年度は第6回目として「日本の漆芸」をテーマに博物館では歴史と鑑賞を、大学では実技を実施した。 |

**7)大学等との連携講座**

**【京都国立博物館】**

**京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座の実施**

| | |
|---|---|
| 実施日 | 通年 |
| 開催場所 | 当館 |
| 受入人数 | 5人 |
| 担当研究員数 | 5人 |

**【奈良国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 大 学 名 | 奈良女子大学 |
| 実施期間 | 半年 |
| 開催場所 | 奈良女子大学、奈良国立博物館 |
| 参加者数 | 3人 |
| 担当研究員数 | 1人 |

| | |
|---|---|
| 大 学 名 | 神戸大学(大学院文化学研究科) |
| 実施期間 | 通年 |
| 開催場所 | 神戸大学、奈良国立博物館 |
| 参加者数 | 10人 |
| 担当研究員数 | 2人 |

**【九州国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 4月24日、5月15日、5月22日、6月5日、6月19日、7月3日、7月10日、7月17日、8月14日、<br>9月11日、10月9日、10月16日、11月6日、11月20日、12月11日、12月18日、<br>22年1月22日、1月29日、2月19日、2月26日、3月12日（全て金曜日） |
| 開催場所 | 九州国立博物館1階エントランスホール　オープンカフェ、7月17日のみミュージアムホール |
| 参加者数 | 毎回100名程度。出演者は毎回8名程度 |
| 内　　容 | カフェコンサート。福岡女子短期大学の学生による演奏 |

**8）京都橘大学との教育提携・学術交流**

**【京都国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 通年 |
| 開催場所 | 京都国立博物館 |
| 参加者数 | 18人 |
| 担当研究員数 | 1人 |

### 9)文化財ソムリエを対象としたスクーリング

**【京都国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実施日 | 10月19日（月）、11月2日（月）、12月7日（月）、22年1月18日（月）、2月15日（月）、3月29日（月） |
| 開催場所 | 京都国立博物館 |
| 参加者数 | 7人 |
| 担当研究員数 | 2人 |
| 内容 | 京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリング。<br>参加者は、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生。 |

### 10) 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催

**【九州国立博物館】**

| | |
|---|---|
| 実 施 日 | 5月16日（土）、6月20日（土）、7月4日（土）、10月17日（土）、12月20日（日）、22年1月23日（土） |
| 開催場所 | 九州国立博物館ミュージアムホール |
| 参加者数 | 毎回約20名程度 |
| 内　　容 | 筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込の一般市民ほか当日の参加も可能。10月17日には、インドネシアからプロの演奏家、舞踊家を招いて、コンサートも実施。 |

### 11) 学校教師を対象とした研修会の実施

**【九州国立博物館】**

| 事業名：キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」 | |
|---|---|
| 実 施 日 | 6月26日（金） |
| 開催場所 | 研修室・文化交流展示室 |
| 参加者数 | 小学校教員19名・中学校教員19名・特別支援学校教員2名、計40名 |
| 内　　容 | 福岡県教育センターとの協働で、小・中学校の教員を対象に「キャリアアップ講座」を実施。博物館を活用した授業づくりについて講義をおこなうほか、学校貸出キット「きゅうぱっく」を体験。その後、文化交流展示室・「あじっぱ」を見学し、「博物館を活用した社会科の授業づくり」のという学習指導案を作成。 |
| 事業名：教師社会体験研修 | |
| 実 施 日 | ①8月12日（水）～8月14日（金）（初任者研修にかかる体験活動研修）<br>②8月17日（月）～8月18日（火）（10年経験者社会貢献活動体験研修）<br>③10月1日（木）～12月28日（月）（普通教科担当教員長期社会体験派遣研修） |
| 実施場所 | 館内各所 |
| 参加者数 | ①2名<br>②4名<br>③1名 |
| 内　　容 | 学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。 |

### 12)キャンパスメンバーズ

| 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|
| 35校 | 30校（※） | 27校（※） | 29校 |

※うち京都・奈良共通加入23校

**【東京国立博物館】**

**①加入校数（35校）**

| | 学校名 | 対象人数（うち学生数） | 備考（入会日） |
|---|---|---|---|
| 1 | 桜美林大学 | 9,543（8,627） 人 | 2008/4/1 |
| 2 | 武蔵野美術大学 | 8,320（7,812） 人 | 2008/4/1 |
| 3 | 文化学園（文化女子大学，文化ファッション大学院大学,文化女子大学短期大学部,文化服装学院,文化服装学院広島校 ,文化外国語専門学校） | 10,879（10,138） 人 | 2008/4/1 |
| 4 | 東京学芸大学 | 6,860（6,118） 人 | 2008/4/1 |
| 5 | 東京芸術大学 | 4,429（3,338） 人 | 2008/4/1 |
| 6 | 東京大学 | 34,057（28,644） 人 | 2008/4/1 |
| 7 | お茶の水女子大学 | 3,605（3,357） 人 | 2008/4/1 |
| 8 | 杉野学園(杉野服飾大学,杉野服飾大学短期大学部,ドレスメーカー学院） | 1,896（1,800） 人 | 2008/4/1 |
| 9 | 大正大学 | 4,780（4,440） 人 | 2008/4/1 |
| 10 | 東海大学 | 33,988（30,707） 人 | 2008/4/1 |
| 11 | 東京歯科大学 | 1,994（1,239） 人 | 2008/4/1 |
| 12 | 青山学院大学 | 21,620（19,923） 人 | 2008/4/1 |
| 13 | メイ・ウシヤマ学園（ハリウッドビューティ専門学校,ハリウッド大学院大学） | 966（876） 人 | 2008/4/1 |
| 14 | 成蹊大学（文学部） | 2,075（2,030） 人 | 2008/4/1 |
| 15 | 多摩美術大学 | 5,421（4,861） 人 | 2008/4/1 |
| 16 | 立教大学 | 19,965（19,448） 人 | 2008/4/1 |
| 17 | 東京工業大学 | 11,964（10,175） 人 | 2008/4/1 |
| 18 | 首都大学東京 | 9,743（9,046） 人 | 2008/4/1 |
| 19 | 女子美術大学 | 4,339（3,573） 人 | 2008/4/1 |
| 20 | 東京造形大学 | 2,034（1,976） 人 | 2008/4/1 |

| | 学校名 | 対象人数（うち学生数） | 備考（入会日） |
|---|---|---|---|
| 21 | 法政大学 | 41,219（38,478） 人 | 2008/4/1 |
| 22 | 筑波大学 | 19,352（17,051） 人 | 2008/4/1 |
| 23 | 昭和女子大学 | 5,448（5,219） 人 | 2008/4/1 |
| 24 | 実践女子大学（文学部・文学研究科） | 1,693（1,588） 人 | 2008/5/1 |
| 25 | 東洋大学 | 30,688（30,070） 人 | 2008/6/1 |
| 26 | 東洋美術学校 | 1,120（871） 人 | 2008/6/1 |
| 27 | 日本大学（芸術学部） | 4,948（4,430） 人 | 2008/6/1 |
| 28 | 文教大学 | 9,218（8,699） 人 | 2008/7/1 |
| 29 | 上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校） | 14,434（13,126） 人 | 2008/10/1 |
| 30 | 国際基督教大学 | 3,198（3,049） 人 | 2009/4/1 |
| 31 | 了徳寺大学 | 717（574） 人 | 2009/4/1 |
| 32 | 政策研究大学院大学 | 587（325） 人 | 2009/4/1 |
| 33 | 慶應義塾大学 | 42,652（38,304） 人 | 2009/5/1 |
| 34 | 学習院女子大学 | 1,949（1,731） 人 | 2009/11/1 |
| 35 | 尚美学園大学 | 3,442（3,102） 人 | 2009/12/1 |

**②キャンパスメンバーズを対象とした事業**

| 事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー | |
|---|---|
| 期　　間 | 8月19・21・27日（各日2回、計6回実施） |
| 開催場所 | 平成館大講堂 |
| 参加者数 | 224人 |
| 担当研究員数 | 6人 |
| 事業内容 | キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。 |
| 事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業 | |
| 期　　間 | 8月17～21・25～28日（9日間） |
| 開催場所 | 全館 |
| 参加者数 | 23人 |
| 担当研究員数 | 16人 |
| 事業内容 | キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。 |

**【京都国立博物館】**

**①加入校数（30校）**

| | 学校名 | 学生数 | 入会日 | 入会内容 | 申請場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 佛教大学 | 24,265人 | 4月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 通信教育部含む |
| 2 | 奈良教育大学 | 1,453人 | 4月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 3 | 就実大学 | 1,106人 | 4月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 人文科学部のみ |
| 4 | 同志社大学 | 25,882人 | 4月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 5 | 奈良大学 | 4,442人 | 5月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 通信教育部含む |
| 6 | 京都ノートルダム女子大学 | 1,728人 | 5月1日 | 京博のみ | 京博 | |
| 7 | 実践女子大学 | 1,573人 | 5月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 文学研究科を含む |
| 8 | 京都伝統工芸大学校 | 433人 | 5月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 9 | 帝塚山大学 | 6,585人 | 6月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 高等学校含む |
| 10 | 奈良女子大学 | 2,896人 | 6月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 11 | 京都造形芸術大学 | 8,820人 | 6月1日 | 京博のみ | 京博 | 通信教育部含む |
| 12 | 京都工芸繊維大学 | 4,175人 | 6月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | |
| 13 | 大阪成蹊大学 | 801人 | 6月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 芸術学部のみ |
| 14 | 京都嵯峨芸術大学 | 1,196人 | 7月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 短期大学部含む |
| 15 | 京都精華大学 | 4,287人 | 7月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 正規生のみ |
| 16 | 龍谷大学 | 19,790人 | 7月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | |
| 17 | 京都女子大学 | 7,632人 | 7月1日 | 京博のみ | 京博 | 高等学校含む |
| 18 | 京都橘大学 | 2,829人 | 7月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 正規生のみ |
| 19 | 京都教育大学 | 1,999人 | 7月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 高等学校含む |
| 20 | 成安造形大学 | 1,192人 | 8月1日 | 京博のみ | 京博 | 正規生のみ |
| 21 | 京都市立芸術大学 | 1,056人 | 8月1日 | 京博のみ | 京博 | 正規生及び研究生等 |
| 22 | 京都大学 | 23,207人 | 9月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む |
| 23 | 近畿大学 | 2,334人 | 9月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 文芸学部のみ |
| 24 | 畿央大学 | 1,372人 | 10月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 25 | 花園大学 | 2,360人 | 11月1日 | 京博のみ | 京博 | |
| 26 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 1,043人 | 12月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | 正規生及び研究生等 |

| | 学校名 | 学生数 | 入会日 | 入会内容 | 申請場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 大谷大学 | 4,230人 | 12月1日 | 京博のみ | 京博 | 短期大学部含む |
| 28 | 大阪大学 | 25,353人 | 12月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 29 | 京都文教大学 | 2,970人 | 6月1日 | 奈良博との2館併用 | 奈良博 | |
| 30 | 京都外国語大学 | 4,909人 | 8月1日 | 奈良博との2館併用 | 京博 | 短期大学部含む |

**【奈良国立博物館】**

**①加入校数（27校）**

| | 学校名 | 学生数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 奈良産業大学<br>（奈良文化女子短期大学、奈良学園高等学校ほか） | 1,954 人 | 当館の 1 館利用 |
| 2 | 奈良佐保短期大学 | 460人 | 〃 |
| 3 | 天理大学 | 3,456人 | 〃 |
| 4 | 奈良県立大学 | 588人 | 〃 |
| 5 | 奈良教育大学 | 1,480人 | 京都国立博物館との2館利用 |
| 6 | 帝塚山大学 | 6,457人 | 〃 |
| 7 | 奈良女子大学 | 2,860人 | 〃 |
| 8 | 京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部 | 1,158人 | 〃 |
| 9 | 京都精華大学 | 4,287人 | 〃 |
| 10 | 京都橘大学 | 2,829人 | 〃 |
| 11 | 龍谷大学 | 19,790人 | 〃 |
| 12 | 京都大学 | 23,207人 | 〃 |
| 13 | 近畿大学　文芸学部 | 2,366人 | 〃 |
| 14 | 佛教大学 | 21,454人 | 〃 |
| 15 | 奈良大学 | 4,441人 | 〃 |
| 16 | 京都工芸繊維大学 | 4,175人 | 〃 |
| 17 | 同志社大学 | 26,453人 | 〃 |
| 18 | 大阪成蹊大学 芸術学部 | 715人 | 〃 |
| 19 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 1,043人 | 〃 |
| 20 | 就実大学　人文科学部 | 1,250人 | 〃 |
| 21 | 実践女子大学　文学部 | 1,588人 | 〃 |
| 22 | 京都伝統工芸大学校 | 433人 | 〃 |
| 23 | 京都教育大学 | 2,626人 | 〃 |
| 24 | 畿央大学 | 1,372人 | 〃 |
| 25 | 大阪大学 | 25,353人 | 〃 |
| 26 | 京都文教大学、京都文教短期大学 | 2,970人 | 〃 |
| 27 | 京都外国語大学、京都外国語短期大学 | 4,909人 | 〃 |

**②キャンパスメンバーズを対象とした事業**

| 事業名：キャンパスメンバーズ懇談会 | |
|---|---|
| 開 催 日 | 7月22日 |
| 開催場所 | 会議室 |
| 出席大学 | 8大学 |
| 内　　容 | キャンパスメンバーズ加入大学担当者による懇談会を開催し、当館キャンパスメンバーズの加入大学及び学生利用者数などの状況報告と今後の運営のあり方についての意見交換を実施。 |

**【九州国立博物館】**

**①加入校数（29校）**

| | 学校名 | 学生数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 九州大学 | 19,036人 | |
| 2 | 九州産業大学 | 12,928人 | |
| 3 | 久留米大学 | 7,756人 | |
| 4 | サイバー大学 | 525人 | |
| 5 | 西南学院大学 | 7,965人 | |
| 6 | 筑紫女学園大学 | 5,076人 | |
| 7 | 福岡大学 | 20,704人 | |
| 8 | 福岡国際大学 | 1,189人 | |
| 9 | 放送大学福岡学習センター | 2,155人 | |
| 10 | 早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス） | 443人 | |
| 11 | 福岡女学院大学 | 2,127人 | |
| 12 | 福岡女学院看護大学 | 104人 | |
| 13 | 九州情報大学 | 881人 | |
| 14 | 福岡経済大学 | 2,496人 | |
| 15 | 崇城大学芸術学部 | 278人 | |
| 16 | 近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科 | 440人 | |
| 17 | 九州造形短期大学 | 336人 | |

| | 学校名 | 学生数 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 18 | 筑紫女学園短期大学部 | 490人 | |
| 19 | 福岡女子短期大学 | 638人 | |
| 20 | 福岡女学院短期大学部 | 394人 | |
| 21 | 福岡こども短期大学 | 465人 | |
| 22 | 久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 | 138人 | |
| 23 | 久留米大学附設高等学校 | 614人 | |
| 24 | 西南学院高等学校 | 1,366人 | |
| 25 | 筑紫女学園高等学校 | 1,822人 | |
| 26 | 筑紫台高等学校 | 1,426人 | |
| 27 | 東福岡高等学校 | 2,192人 | |
| 28 | 福岡大学附属大濠高等学校 | 1,938人 | |
| 29 | 福岡女学院高等学校 | 566人 | |

## 2-(2)-④ 講座・講演会等の開催実績

| | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 回数・人数 | **174回・22,102人**<br>講演会24回・5,600人<br>連続講座1回（3日）・320人<br>公開講座2回76人<br>列品解説（ギャラリートーク等）130回・6,655人<br>その他教育的イベント等17回・9,451人 | **21回・3,002人**<br>土曜講座19回・2,791人<br>夏期講座1回（3日）・179人<br>社会科教員のための向上講座について1回・32人 | **33回・3,421人**<br>公開講座16回・2,043人<br>夏季講座1回(3日)・391人<br>大学との合同講座4回・353人<br>その他講演会等1回･50人、サンデートーク11回・584人 | **73回・6,806人**<br>（特別展記念講演会6回・1622人、教育講座アジアージュ1回・50人、ミュージアムトーク42回・1,285人、講演及びシンポジウム24回・3,849人） |

### 【東京国立博物館】

#### 1) 講演会24回　参加者数5,600人

①月例講演会　計12回　参加者数1,887人

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数（人） | 担当研究員数(人) | ″良い″の割合 |
|---|---|---|---|---|
| 4月4日 | イル=ド=フランスの黒田清輝<br>講師：ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸部長(西洋近代絵画史・日本近代絵画史)　荒屋鋪透氏 | 140 | 1 | 89.25% |
| 5月16日 | アジア美術の殿堂　東洋館の生い立ちと改修計画<br>講師：筑波大学名誉教授・当館名誉館員　角井博氏、列品管理課長　谷豊信 | 95 | 2 | 79.39% |
| 6月13日 | 古墳時代の人々<br>―人物埴輪の表情と所作―<br>講師：保存修復課保存修復室主任研究員　日高慎 | 145 | 1 | 87.33% |
| 7月11日 | 戦国時代の小田原城<br>―発掘調査の成果から実像に迫る―<br>講師：小田原市教育委員会・考古学　山口剛志氏 | 146 | 1 | 94.40% |
| 8月1日 | 東京国立博物館収蔵の古写真と写真師　小川一真<br>講師：江戸東京博物館学芸員　岡塚章子氏、東京都写真美術館専門調査員　金子隆一氏、書跡・歴史室長　冨坂賢 | 96 | 3 | 82.84% |
| 9月5日 | 趙之謙とその時代<br>講師：台東区書道博物館主任研究員　鍋島稲子氏、調査研究課長　富田淳 | 242 | 2 | 96.12% |
| 10月3日 | 留学生・日本語教師・通訳の方のための<br>美術作品を通して知るにっぽん<br>講師：広報室長　小林牧 | 74 | 1 | 92.81% |
| 11月21日 | 皇室と東京帝室博物館<br>講師：博物館情報館情報課長　高橋裕次 | 141 | 1 | 86.10% |
| 12月19日 | お姫様のお嫁入り<br>－華やかな大名婚礼調度－<br>講師：副館長　小松大秀 | 118 | 1 | 93.00% |
| 22年<br>1月30日 | 洛中洛外図屏風の系譜<br>講師：国立歴史民俗博物館／総合研究大学院大学 教授　小島道裕 | 320 | 2 | 88.10% |
| 2月20日 | 法隆寺献納宝物の金工品について－わかったこと、わからないこと－<br>講師：博物館教育課長　加島勝 | 173 | 2 | 80.50% |
| 3月27日 | 茶の湯釜について<br>講師：上席研究員　原田一敏 | 197 | 2 | 72.48% |

②テーマ講演会　計1回　参加者数197人

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数（人） | 担当研究員数(人) | ″良い″の割合 |
|---|---|---|---|---|
| 5月10日 | 上野の博物館・美術館建築について<br>講師：東京大学生産技術研究所　藤森照信氏 | 197 | 1 | 90.19% |

③記念講演会　計11回　参加者数3,516人

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数（人） | 担当研究員数(人) | ″良い″の割合 |
|---|---|---|---|---|
| 4月5日 | 展覧会のディレクションと吉岡徳仁のデザイン観<br>講師：デザイナー　吉岡徳仁氏、デザインマネジメント　伊東史子氏 | 220 | 2 | 82.66% |
| 4月11日 | 興福寺創建と天平文化<br>講師：多川俊映貫首 | 366 | 1 | 80.86% |
| 4月25日 | 国宝　阿修羅像<br>講師：特任研究員　金子啓明 | 345 | 1 | 85.68% |
| 5月9日 | 奈良時代の興福寺と阿修羅像<br>講師：東京大学大学院人文社会系研究科教授　佐藤信氏 | 370 | 1 | 77.92% |
| 7月25日 | 古神宝について<br>講師：帝塚山大学教授　関根俊一氏 | 290 | 1 | 90.80% |

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数<br>（人） | 担当研究員数（人） | ″良い″の割合 |
|---|---|---|---|---|
| 8月8日 | 伊勢の神宮と日本人－いのちと血統の連続－<br>講師：皇學館大学学長　伴五十嗣郎氏<br>伊勢神宮と式年遷宮<br>講師：皇學館大学文学部長　清水潔氏 | 356 | 2 | 78.51% |
| 10月10日 | 皇室コレクション平成の歩み－修理報告を中心として－<br>講師：宮内庁三の丸尚蔵館主任研究員　太田彩氏 | 266 | 1 | 91.75% |
| 11月15日 | 正倉院の宝物　歴史の奥行き<br>講師：宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹氏 | 302 | 2 | 99.68% |
| 22年<br>2月27日 | やまと絵師・長谷川等伯－信春時代の仏画から智積院障壁画へ<br>講師：特別展室長　松嶋雅人<br>信春から等伯へ－新発見の金碧花鳥図屏風を中心に<br>講師：京都国立博物館美術室長　山本英男 | 373 | 2 | 78.40% |
| 3月6日 | 長谷川等伯の新たな魅力－動物の感性を描く<br>講師：出光美術館学芸部長　黒田泰三 | 358 | 2 | 83.85% |
| 3月25日 | 阿修羅フォーラム<br>講師：奈良大学教授　東野治之、興福寺貫主　多川俊映、特認研究員　金子啓明、凸版印刷文化事業推進本部長　加茂竜一、日本通運美術品事業部技術顧問　海老名和明、情報管理室長　丸山士郎、環境保存室主任研究員　和田浩、九州国立博物館博物館科学課　鳥越俊行 | 270 | 2 | 87.64% |

**2）連続講座「東洋の染付」　計1回(3日)　参加者総数320人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数<br>（人） | 担当研究員数（人） | ″良い″の割合 |
|---|---|---|---|---|
| 7月18日 | 東洋の染付<br>講師：東洋室長　今井敦、町田市立博物館学芸員主任　矢島律子氏 | 320 | 5 | 81.80% |
| 7月19日 | 東洋の染付<br>講師：東京芸術大学准教授　片山まび氏、保存修復室研究員　三笠景子 | | | |
| 7月20日 | 東洋の染付<br>講師：学習院大学教授　荒川正明氏 | | | |

**3)公開講座　計2回　参加者総数76人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数<br>（人） | 担当研究員数（人） | |
|---|---|---|---|---|
| 22年<br>3月18日<br>3月19日 | 見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう<br>講師：保存修復課長　神庭信幸、保存修復室長　救仁郷秀明、保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室主任研究員　日高慎、保存修復室主任研究員　三笠景子 | 76 | 5 | － |

**4）列品解説（ギャラリートーク等）130回　参加者総数6,655人**

①列品解説　52回

・参加者総数3,914人

・担当研究員数　延べ52人

・事業内容　各展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として毎週火曜日の午後2時より約30分間）

②ギャラリートーク　親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　計4回　参加者数105人

③東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 74回　参加者総数 2,636人

**5）教育的イベント　計1回　参加者数335人**

| 開催日 | 題目・<br>演者等 | 参加者数（人） |
|---|---|---|
| 8月12日 | 狂言「蚊相撲」「蟹山伏」「神鳴」<br>演者：山本東次郎家 | 335 |

**6）その他　計16回　参加者総数9,116人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数（人） |
|---|---|---|
| 4月1・8・15・22・29日 | 天平の文化空間の再構成<br>講師：興福寺僧侶 | 8,808 |
| 5月6・13・20・27日 | 天平の文化空間の再構成<br>講師：興福寺僧侶 | |
| 6月3日 | 天平の文化空間の再構成<br>講師：興福寺僧侶 | |
| 5月17日 | 三館園連携事業　上野の山でクマめぐり<br>講師：教育講座室研究員　神辺知加 | 26 |

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数(人) |
|---|---|---|
| 9 月 12 日 | 前野まさるとゆく“東京国立博物館建物訪訪”<br>講師：東京芸術大学名誉教授　前野まさる | 54 |
| 11 月 17 日 | 前野まさるとゆく“東京国立博物館建物訪訪”<br>講師：東京芸術大学名誉教授　前野まさる | 58 |
| 22 年<br>2 月 23 日 | マルチメディアを利用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートベルク美術館の事例<br>講師：スイス　リートベルク美術館副館長　カタリーナ・エプレヒト | 94 |
| 3 月 18・19 日 | 保存と修理の現場へ行こう | 76 |

## 【京都国立博物館】

①土曜講座　19回　参加者総数　2,791人

全て特別展覧会関連講座

| 開催日 | テーマ | 講師 | 聴講者数（人） |
|---|---|---|---|
| 4 月 4 日 | 妙心寺の古文書 | 羽田聡 | 92 |
| 11 日 | 妙心寺の唐物 | 久保智康 | 96 |
| 18 日 | 妙心寺と狩野元信 | 山本英男 | 149 |
| 25 日 | 妙心寺屏風、友松･山楽絵画の輝き | 山下善也 | 134 |
| 5 月 2 日 | 白隠の禅と美術 | 福島恒徳氏 | 159 |
| 9 日 | 妙心寺伝来うるし大特集 | 永島明子 | 103 |
| 7 月 11 日 | ロシア科学アカデミー東洋写本研究所のコレクション | イリナ・ポポヴァ氏 | 92 |
| 18 日 | ロシア探検隊収集の仏典 | 松田和信氏／赤尾栄慶 | 131 |
| 25 日 | 中央アジアの諸言語 | 吉田豊氏 | 168 |
| 8 月 22 日 | ロシアの中央アジア探検隊所獲品日本学者 | 高田時雄氏 | 128 |
| 29 日 | 西夏文字の世界 | 荒川慎太郎氏 | 197 |
| 10 月 17 日 | 京都日蓮法華宗ことはじめ | 中尾堯氏 | 187 |
| 31 日 | 天文法華の乱と戦国京都 | 河内将芳氏 | 183 |
| 11 月 7 日 | 樂・光悦・乾山－日蓮法華宗とやきもの作り－ | 尾野善裕 | 162 |
| 21 日 | 日蓮法華宗美術試論 | 大原嘉豊 | 134 |
| 22 年 1 月 23 日 | 明治天皇からの贈り物：画帖と蒔絵と金魚鉢 | 永島明子 | 137 |
| 2 月 6 日 | ハプスブルク･コレクションの歴史：ルドルフ２世から世紀末へ | 千足伸行氏 | 190 |
| 13 日 | 工芸のシンクロ：ルネサンス期のハプスブルク工芸と日本 | 久保智康 | 181 |
| 27 日 | ウィーンから初里帰り！明治２年の日本画帖 | 山下善也 | 168 |

② 夏期講座　1回（3日）

| 開講日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 7月29日 | 第1講「宸翰の鑑定－筆者の変容－」 | 羽田聡(学芸部研究員) | 179 人 |
| | 第2講「明代花鳥画の山水表現について－呂紀系山渓集禽図の波及と変容－」 | 西上実(学芸部長) | |
| | 第3講「動き出した陶芸のジャポニズム－フランスの事例を中心に－」 | 今井祐子氏(福井大学准教授) | |
| 7月30日 | 第1講「メタルロード事始め」 | 村上隆(保存修理指導室長) | |
| | 第2講「シルクロードの染織品」 | 吉田雅子氏(京都市立芸術大学准教授) | |
| | 第3講「敦煌の浄土変と日本の浄土図」 | 百橋明穂氏(神戸大学教授) | |
| 7月31日 | 第1講「文字文化のひろがり―「シルクロード文字を辿って」によせて―」 | 赤尾栄慶（学芸副部長） | |
| | 特別展覧会「シルクロード文字を辿って」見学会 | | |

## 【奈良国立博物館】

①公開講座　16回　参加者総数　2,043人

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 4月11日 | 「共結来縁」 | 律宗総本山唐招提寺長老　松浦俊海 | 108人 |
| 4月18日 | 「鑑真和上と日本文化」 | 奈良大学教授　東野浩之 | 197人 |
| 4月25日 | 「鑑真和上の教え」 | 律宗総本山唐招提寺執事　西山明彦 | 126人 |
| 5月9日 | 「唐招提寺金堂の当初復原案－解体調査から判明したこと－」 | 奈良県文化財保存事務所主査　田中泉 | 136人 |
| 5月23日 | 「鑑真和上像と唐招提寺の仏像」 | 学芸部企画室長　稲本泰生 | 197人 |
| 7月25日 | 「清凉寺釈迦如来像と東アジアの釈迦信仰」 | 学芸部企画室長　稲本泰生 | 143人 |
| 8月1日 | 「泉涌寺僧と普陀山信仰－観音菩薩坐像の請来理由」 | 泉涌寺宝物館学芸員　西谷功 | 104人 |
| 8月15日 | 「憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術」 | 学芸部保存修理指導室長　谷口耕生 | 150人 |
| 8月22日 | 「飛帆馳船－蒼波をこえた人々」 | 天理大学国際文化学部教授　藤田明良 | 95人 |
| 10月24日 | 「正倉院の宝飾鏡」 | 宮内庁正倉院事務所保存課長　成瀬正和 | 112人 |
| 10月25日 | 「金銀花盤をめぐって」 | MIHO MUSEUM 学芸部副部長　稲垣肇 | 73人 |
| 11月3日 | 「正倉院木工品と木彫の成立」 | 学芸部上席研究員　鈴木嘉博 | 95人 |
| 11月7日 | 「光明皇后の楽毅論について」 | 学芸部長　西山厚 | 193人 |

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 12月19日 | 「おん祭りの舞楽」 | 奈良大学名誉教授　笠置侃一 | 38人 |
| 22年1月9日 | 「春日大社の歴史」 | 春日大社宮司　花山院弘匡 | 92人 |
| 2月7日 | 「二月堂修二会について」 | 東大寺持寶院住職　上司永照 | 184人 |

②夏季講座　第38回「寧波をめぐる信仰と美術」　1回（3日間）

| 開講日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 8月18日 | 「東アジア海域交流のなかの寧波」 | 東京大学大学院教授　小島毅 | 毎日391人 |
| | 「寧波仏画の故郷（ふるさと）」 | 九州大学大学院教授　井手誠之輔 | |
| | 「宋代明州の浄土教」 | 大正大学名誉教授　佐藤成順 | |
| 8月19日 | 「鎌倉仏教からみた中国－宋代仏教と日宋外交－」 | 文化庁美術学芸課調査官　横内裕人 | |
| | 「憧憬の宋代彫刻」 | 大阪大学大学院教授　藤岡穣 | |
| | 「十王図をめぐって」 | 東大寺総合文化センター設立準備室長　梶谷亮治 | |
| | 「出会いと別れ－東アジアの雅集図・送別図」 | 東京大学東洋文化研究所准教授　板倉聖哲 | |
| 8月20日 | 「「渡来僧の世紀」から「遣明船の時代」へ」 | 山口県立大学准教授　伊藤幸司 | |
| | 「寧波からもたらされたもの－特別展への招待」 | 学芸部研究員　北澤菜月 | |

③大学との合同講座

③-1　奈良国立博物館＋奈良県立大学　合同公開講座「まなざしの変容　奈良から世界を変える」　3回　参加者総数　260人

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 9月6日 | 「奈良公園に佇む」 | 奈良県立大学講師　井原縁 | 107人 |
| | 「大仏に逢う」 | 学芸部長　西山厚 | |
| | 討論「立ち上がる記憶」 | 井原縁＋西山厚＋西田正憲（奈良県立大学教授） | |
| 9月13日 | 「インドより奈良を想う－ヒンドゥー教の祈り」 | 奈良県立大学教授　中谷哲弥 | 81人 |
| | 「寧波より奈良を想う－仏への祈り」 | 学芸部研究員　北澤菜月 | |
| | 討論「煌めく祈り」 | 中谷哲弥＋北澤菜月＋堀田新五郎（奈良県立大学准教授） | |
| 9月20日 | 「奈良から世界を見わたす」 | 奈良県立大学教授　安村克己 | 72人 |
| | 「奈良の仏像とその源流をさぐる」 | 学芸部長補佐　岩田茂樹 | |
| | 討論「揺さぶられる心」 | 安村克己＋岩田茂樹＋吉澤悟（学芸部教育室長） | |

③-2　奈良国立博物館＋東京大学東洋文化研究所　合同講座

「悟りの世界・煩悩～世界東洋文化研究所の漢籍をめぐって～」　1回　参加者数　93人

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 9月21日 | 「悟りの世界：仏典の翻訳工房」 | 東京大学東洋文化研究所教授　丘山新 | 93人 |
| | 「煩悩の世界：悲恋の中国文学」 | 東京大学東洋文化研究所教授　大木康 | |

④その他講演会

特別講演会「世界遺産学習と奈良国立博物館」

1回　参加者数　50人

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 22年3月6日 | 「世界遺産学習をめぐる動向と奈良の果たす役割」 | 奈良教育大学教授　田淵五十生 | 50人 |
| | 「世界遺産学習と解説ボランティアに期待するもの」 | 奈良市教育委員会　中澤静男 | |

⑤サンデートーク　　11回

・参加者総数　　584人
・担当研究員数　　9人
・外部講師　　1人
・ボランティア講師　　3人
・事業内容　文化財への理解を深めるため、主に平常展や特別展、特別陳列等に出品された作品について解説を行った。また、初めての試みとして、当館解説ボランティアによる研究発表の機会とした。

## 【九州国立博物館】

### 1)特別展記念講演会　6回　　参加者総数　1622人

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 4月25日 | 「聖地チベット」展関連<br>椎名誠講演会「チベットの青い空 ―カイラス巡礼記」 | 作家　椎名誠 氏 | 330人 |
| 5月23日 | 「聖地チベット」展関連<br>曾布川寛講演会「チベット密教の世界」 | 京都大学名誉教授　曾布川寛 氏 | 300人 |
| 8月2日 | 「国宝　阿修羅展」関連<br>記念講演会「国宝　阿修羅像について」 | 興福寺国宝館館長　金子啓明 氏 | 270人 |
| 8月23日 | 「国宝　阿修羅展」関連<br>記念講演会「阿修羅像と光明皇后」 | 奈良大学教授　東野治之 氏 | 240人 |
| 9月20日 | 「国宝　阿修羅展」関連<br>記念講演会「興福寺創建と天平文化」 | 法相宗大本山興福寺貫首　多川俊映 氏 | 165人 |
| 22年<br>1月16日 | 「京都妙心寺」展関連<br>特別講演会「龍の背に乗る」 | 作家・臨済宗妙心寺派福聚寺住職 玄侑宗久 氏 | 317人 |

**2)教育講座シリーズ・アジアージュ　1回　　参加者総数　50人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数 | 担当<br>研究員数 |
|---|---|---|---|
| 22年<br>2月20日 | ミュージアム講座<br>きゅーはくの絵本１０冊刊行記念座談会「絵本のある博物館」<br>外部出席者／　フレーベル館編集者　天野誠 氏<br>フレーベル館編集者　池上理恵 氏<br>絵本作家　アーサー・ビナード 氏<br>絵本作家　つだかつみ 氏<br>北海道大学大学院準教授・元当館研究員　橋本雄 氏 | 50人 | 2人 |

**3)ミュージアムトーク　42回**

・参加者総数　　1285人
・担当研究員数　研究員　21人
・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。（週1回の午後3時より約15分間）

**4)講演及びシンポジウム　24回　　参加者数　3849人**

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 5月9日 | 「聖地チベット」展関連<br>チベットタンカ講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」 | タンカ絵師<br>ウゲン・ナムゲン 氏 | 14人 |
| <br>7月18日<br>8月1日<br>8月8日<br>8月15日<br>8月22日<br>9月12日<br>9月19日<br>9月26日 | 「国宝　阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 法相宗大本山興福寺僧侶 | <br>250人<br>105人<br>80人<br>168人<br>114人<br>73人<br>153人<br>135人 |
| 11月8日 | 「古代九州の国宝」展関連<br>シンポジウム「邪馬台国はここにあった」<br>内容／基調対談「邪馬台国研究の最前線　―九州と近畿の視点から―」<br>アマチュア歴史家による主張大会「邪馬台国はここにあった」<br>日田～吉野ヶ里説<br>宇佐説<br>畿内説<br>筑後説 | <br><br>桜井市教育委員会文化財課主査　橋本輝彦 氏<br>佐賀女子短期大学学長、邪馬台国を考える会顧問　高島忠平 氏<br>進行／当館企画課文化交流展示室長　河野一隆 氏<br><br>大阪歴史学会会員　井上修一氏<br>歴史研究家　鷲崎弘朋 氏<br>歴史研究家　矢野壽一 氏<br>歴史研究家　福嶋正日子 氏<br>進行／当館展示課長　赤司善彦 氏 | 330人 |
| 11月8日 | 「古代九州の国宝」展関連<br>セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」 | <br>夜光貝工芸作家　池村茂 氏 | 32人 |
| 11月9日 | 「古代九州の国宝」展関連館外講座<br>セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」 | <br>夜光貝工芸作家　池村茂 氏 | 85人 |
| 11月13日 | ふくおか県民文化祭<br>ふくおか文化ボランティアフォーラム2009<br>内容／基調講演「博物館とボランティア」<br>基調講演「文化ボランティアってなんだろう？」<br>事例報告会『ふくおかの文化ボランティアの現状』<br>「博多街巡りを楽しむ」<br>「劇場と市民をつなぐサポーター」<br>北九州芸術劇場<br>「九博ボランティアについて」<br>「伝えたい本の楽しさ」<br>「住みよいまちづくりと文化芸術の振興」 | <br><br>当館館長　三輪嘉六 氏<br>アートサポートふくおか代表　古賀弥生 氏<br><br>福岡市観光案内ボランティア協会　脇山静代 氏<br>劇場文化サポーター（2期）　角戸恒子 氏<br>同上（3期）　中尾れい子 氏<br>劇場文化サポーター事務局　野林眞佐美 氏<br>同上　古殿万利子 氏<br>当館交流課　上野知彦 氏<br>とんとんぶんこ（福岡市当仁公民館）<br>草野裕子 氏<br>同上　西野恵子 氏<br>同上　新田千奈美 氏<br>同上　松村光子 氏<br>古賀市文化のまちづくりの会　加藤誠一 氏 | 170人 |

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| | | 古賀市教育委員会 社会教育課　岩熊和洋 氏<br>講評／古賀弥生 氏<br>（財）大野城市都市施設管理公社 まどかぴあ図書館館長　川島久美子 氏 | |
| 11月15日 | 「古代九州の国宝」展関連<br>シンポジウム「装飾古墳と科学」<br>内容／第１部「装飾古墳とは何か」<br>九州の装飾古墳<br>飛鳥の壁画古墳<br>東北の装飾古墳<br>司会／当館展示課長　赤司善彦 氏<br>第2部「装飾古墳を科学する」<br>装飾古墳の彩色の秘密<br>装飾古墳を守る保存科学 | <br><br><br>福岡県教育委員会　吉田東明氏<br>奈良県明日香村教育委員会　相原嘉之 氏<br>福島県泉崎村教育委員会　嶋村一志 氏<br><br><br>東京文化財研究所　朽津信明 氏<br>国士舘大学　沢田正昭 氏<br>司会／当館博物館科学課環境保全室長 今津節生 氏 | 200人 |
| 11月22日 | トピック展「祈りの山 宝満山」開催記念講演会<br>「祈りの山 宝満山 ―山岳信仰と修験道―」<br>内容／講演「山岳信仰の考古学」<br>講演「宝満山の歴史と信仰」<br>山伏問答実演 | <br><br>奈良県立橿原考古学研究所・滋賀県立大学名誉教授　菅谷文則 氏<br>福岡県文化財保護審議会専門委員・太宰府発見塾塾長　森弘子 氏<br>宝満山修験会 | 300人 |
| 11月28日<br><br><br><

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 1月17日 | 「京都妙心寺」展関連　講演会<br>内容／講演会「白隠の禅画について」 | 花園大学国際禅学研究所教授<br>芳澤勝弘 氏 | 134人 |
| 1月30日 | 「京都妙心寺」展関連　禅講座<br>内容／禅講座「博多の仙厓さん」 | 聖福寺僧堂　細川白峰老師 | 213人 |
| 2月13日 | 「京都妙心寺」展関連　禅講座<br>内容／禅講座「衆生本来仏なり」 | 萬壽寺僧堂　佐々木道一老師 | 330人 |
| 2月26日 | 国際セミナー「アジアの螺鈿」<br>内容／講演１「アジアの螺鈿について —近年の螺鈿調査を中心に—」<br>講演２「韓国螺鈿漆器の歴史的流れと現況」<br>講演３「中国木地螺鈿工芸の遡源」<br>講演４「ベトナムの螺鈿 —１０００年の歴史と発展」<br>講演５「タイの漆と螺鈿 —その歴史と現状—」<br>講演６「タイ漆工作品における装飾と螺鈿」<br>全体質疑応答 | <br>当館文化財課　小林公治 氏<br>韓国国立中央博物館　黄智鉉 氏<br>中国西安生漆塗料研究所　張飛龍 氏<br>ハノイ国立ベトナム歴史博物館 Nguyen DuongHoang 氏<br>タイ国芸術局国立博物館部Sirichai Wangcharoentrakul 氏<br>タイ国王宮保存修復課 Somtawin Nilvilai 氏<br>進行／前那覇市歴史博物館　宮里正子 氏 | 27人 |
| 3月14日 | トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流」関連<br>国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 —祈りのかたち　日本と韓国—」<br>内容／発表１「日本における巨大掛軸について」<br>発表２「韓国の仏教儀式と掛佛」<br>発表３「高伝寺所蔵　大涅槃図の修理について」<br>発表４「韓国における掛佛の装こうと修理について」<br>討議 | <br><br>当館企画課特別展室長　伊藤信二 氏<br>韓国国立中央博物館学芸研究士　鄭明熙氏<br>国宝修理装こう師連盟九州支部技師長 君嶋隆幸 氏<br>韓国・龍仁大学教授　朴智善 氏<br>コーディネーター／当館博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 氏<br>パネリスト／伊藤信二 氏､鄭明熙 氏、君嶋隆幸 氏、朴智善 氏 | 300人 |
| 3月21日 | 第１４回九博デー<br>「九博の宝物たち」—九博開館5周年の成果とこれから—<br>内容／講演「九博の宝もの」—新指定重要文化財『菊蒔絵手箱』を中心に—<br>講演　阿修羅像の健康診断<br>講演　最新機器でわかった神々の青銅器の秘密 | <br><br>東京国立博物館副館長、元九博学芸部長　小松大秀 氏<br>当館展示課主任研究員　楠井隆志 氏<br>当館企画課文化交流展室長　河野一隆 氏 | 160人 |

## 2-(2)-⑤ ギャラリートーク実施状況

| | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 件数 | 130 | 1 | 11 | 42 |

### 【東京国立博物館】

**○列品解説　52回　参加者総数　3,914人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数 | 担当研究員数 |
|---|---|---|---|
| 4月7日 | 中国の鏡<br>谷豊信　列品管理課長 | 82人 | 1人 |
| 4月14日 | 青磁の誕生<br>三笠景子　保存修復室研究員 | 100人 | 1人 |
| 4月21日 | アイヌの狩猟と漁撈<br>日高慎　保存修復室主任研究員 | 46人 | 1人 |
| 4月28日 | 甲信越を歩く<br>冨坂賢　保存修復室長 | 60人 | 1人 |
| 5月21日 | 博物館の熊<br>神辺知加　教育講座室研究員 | 55人 | 1人 |
| 5月19日 | 兵庫鎖太刀について<br>原田一敏　上席研究員 | 63人 | 1人 |
| 5月22日 | 修理を支える道具と材料<br>荒木臣紀　環境保存室主任研究員 | 53人 | 1人 |
| 5月29日 | 南太平洋の暮らしと祈り<br>川村佳男　東洋室研究員 | 35人 | 1人 |
| 6月2日 | 「東都宮戸川之図」をめぐって<br>田沢裕賀　絵画・彫刻室長 | 40人 | 1人 |
| 6月9日 | 仏像の道<br>小泉惠英　平常展調整室長 | 95人 | 1人 |
| 6月16日 | 国立博物館がロダン作・エヴァを買ったわけ<br>木下史青　デザイン室長 | 55人 | 1人 |
| 6月30日 | 武家の服飾　―戦う武士の装い、大奥のファッション―<br>小山弓弦葉　特別展室研究員 | 87人 | 1人 |
| 7月7日 | 戦う武士の世界<br>高梨真行　書跡・歴史室研究員 | 78人 | 1人 |
| 7月14日 | 中世における京鍛冶について<br>酒井元樹　工芸・考古室研究員 | 65人 | 1人 |
| 7月24日 | 世界図と日本図<br>田良島哲　登録室長 | 60人 | 1人 |
| 7月28日 | 二体の大日如来像と運慶様の彫刻<br>丸山士郎　情報管理室長 | 85人 | 1人 |
| 7月31日 | 参詣曼荼羅<br>沖松健次郎　特別展室主任研究員 | 50人 | 1人 |
| 8月4日 | 鳥取県伯耆一宮経塚について<br>望月幹夫　上席研究員 | 55人 | 1人 |
| 8月11日 | ドイツからやってきたマリア像<br>白井克也 東洋室主任研究員 | 48人 | 1人 |
| 8月14日 | 伝周文筆竹斎読書図について<br>救仁郷秀明　保存修復室長 | 71人 | 1人 |
| 8月18日 | 後三年合戦絵巻について<br>小林達朗 絵画・彫刻室主任研究員 | 109人 | 1人 |
| 8月25日 | 趙之謙とその時代<br>富田淳 調査研究課長 | 167人 | 1人 |
| 9月1日 | 蒔絵の流れ<br>竹内奈美子 工芸・考古室長 | 70人 | 1人 |
| 9月8日 | 世界と日本<br>高橋裕次 博物館情報課長 | 64人 | 1人 |
| 9月29日 | 飛鳥時代の古墳<br>古谷毅 列品情報整備室長 | 110人 | 1人 |
| 10月6日 | 観楓図屏風<br>遠藤楽子 国際交流室員 | 73人 | 1人 |
| 10月9日 | 中国考古　玉器鑑賞入門<br>川村佳男 東洋室員 | 60人 | 1人 |
| 10月20日 | 狭衣物語絵巻断簡をみる<br>瀬谷愛 平常展調整室員 | 75人 | 1人 |
| 10月27日 | 横山大観入門<br>植田彩芳子 特別展室員 | 117人 | 1人 |

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数 | 担当研究員数 |
|---|---|---|---|
| 11 月 10 日 | 平安時代の装飾経<br>島谷弘幸　学芸研究部長 | 71 人 | 1人 |
| 11 月 17 日 | 東京国立博物館所蔵の正倉院織物<br>澤田むつよ　特認研究員 | 80 人 | 1人 |
| 11 月 24 日 | 呉州赤絵<br>今井敦　平成展調整室長 | 66 人 | 1人 |
| 12 月 1 日 | 善光寺式阿弥陀三尊像について<br>浅見龍介　教育普及室長 | 83 人 | 1人 |
| 12 月 8 日 | 土偶ー祈りの造形ー<br>井上洋一　企画課長 | 80 人 | 1人 |
| 12 月 15 日 | 海磯鏡　忘れられた文様<br>猪熊兼樹　貸与特別観覧室主任研究員 | 65 人 | 1人 |
| 12 月 22 日 | 古代ガラスの発達ー「吹きガラス」への道ー<br>後藤健　上席研究員 | 53 人 | 1人 |
| 22 年<br>1 月 5 日 | 寅の巻<br>今井敦　東洋室長 | 75 人 | 1人 |
| 1 月 19 日 | 秋篠寺の十一面観音菩薩立像<br>岩佐光晴　上席研究員 | 150 人 | 1人 |
| 1 月 21 日 | 土偶と土面<br>品川欣也　工芸・考古室研究員 | 174 人 | 1人 |
| 1 月 26 日 | 名物　童子切安綱を中心に<br>立道恵子　出版企画室長 | 62 人 | 1人 |
| 2 月 4 日 | 土偶の終焉とその後<br>日高慎　保存修復室主任研究員 | 100 人 | 1人 |
| 2 月 9 日 | 慈恵大師のこと<br>鷲塚麻季　教育講座室長 | 90 人 | 1人 |
| 2 月 16 日 | 蒔絵の制作技法<br>河内晋平　アソシエイトフェロー | 67 人 | 1人 |
| 2 月 23 日 | 獅子鎮柄香炉と塔鋺<br>加島進　博物館教育課長 | 51 人 | 1人 |
| 3 月 2 日 | 東日本の弥生再葬墓<br>品川欣也　工芸・考古室研究員 | 68 人 | 1人 |
| 3 月 9 日 | 色々糸威二枚胴具足<br>池田宏　上席研究員 | 41 人 | 1人 |
| 3 月 16 日 | 文化財の公開と保存について<br>神庭信幸　保存修復課長 | 50 人 | 1人 |
| 3 月 24 日 | 鑑賞ガイド　国宝「花下遊楽図屏風」<br>神辺知加　教育講座室研究員 | 70 人 | 1人 |
| 3 月 24 日 | 着物に咲く桜<br>小山弓弦葉　特別展室主任研究員 | 60 人 | 1人 |
| 3 月 30 日 | 草書五言律詩軸の修理<br>土屋裕子　保存修復課主任研究員 | 38 人 | 1人 |
| 3 月 31 日 | 鑑賞ガイド　国宝「花下遊楽図屏風」<br>神辺知加　教育講座室研究員 | 105 人 | 1人 |
| 3 月 31 日 | 器に咲く桜<br>今井敦 東洋室長 | 87 人 | 1人 |

**○ギャラリートーク　親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　計4回　参加者数105人**

| 開催日 | テーマ<br>講師等 | 参加者数 | 担当研究員数 |
|---|---|---|---|
| 8 月 12 日 | 全体ガイド×一木造<br>浅見龍介　教育普及室長 | 30 人 | 2 人 |
| 8 月 14 日 | 全体ガイド×色絵磁器<br>浅見龍介　教育普及室長<br>三笠景子　保存修復室研究員 | 30 人 | 2 人 |
| 8 月 19 日 | 全体ガイド×布目象嵌<br>小林牧　広報室長<br>河内晋平　列品管理室 | 15 人 | 2 人 |
| 8 月 21 日 | 全体ガイド×裏彩色<br>神辺知加　教育講座室研究員<br>古賀海人氏　東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻 | 30 人 | 2 人 |

**○東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　74回　参加者総数2,636人**

・平常展示作品ギャラリートーク　68回　参加者総数2,441人

| 実施日 | 回数 | テーマ | 氏名 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|---|
| 8月5・19・21日、9月4・9日 | 5 | 扇散蒔絵手箱　－手箱に煌めく扇面画－ | 藤本敦美 | 111 |
| 8月6・11・14・23・28日 | 4 | 伎楽面　－消えた楽舞を伝える仮面－ | 遠藤亮平 | 118 |
| 8月7・9・ 12・15・20日 | 5 | 聖母像（親指のマリア）　－日本とキリスト教美術－ | 浦澤倫太郎 | 152 |
| 8月10・13・22・27、9月3日 | 5 | 青磁茶碗　銘馬蝗絆　－粉青色という誘惑－ | 原唯 | 166 |
| 8月26・30日、9月2・8・16日 | 5 | 江戸時代の「世界」受容　－地図に表れた関心－ | 菅野仁美 | 110 |
| 9月11・15・18・23・25日 | 5 | 岸田劉生の描いた麗子像　－画家が描いた自身の家族－ | 金智英 | 128 |
| 9月17・19・20・26・27日 | 5 | 雪舟筆「四季山水図」－周文風から浙派風へ－ | 和田千春 | 171 |
| 12月1・3・8・10・17日 | 5 | 前田青邨「切支丹と仏徒」－日本画と南蛮趣味－ | 遠藤亮平 | 154 |
| 12月15・18・23日、22年1月10・14日 | 5 | 室町に花咲く文学意匠硯箱　－一合に込められた世界－ | 原唯 | 157 |
| 12月22・25日、22年1月5・8・9日 | 5 | 円山応挙「梅図襖」　－襖に樹木を描いて　－ | 菅野仁美 | 238 |
| 22年1月6・13・20・22日 | 4 | 紫式部日記絵巻　－霞たなびく料紙装飾－ | 藤本敦美 | 155 |
| 22年1月17・23・24・30・31日 | 5 | 吉祥　－縁起を担ぐ－ | 和田千春 | 171 |
| 22年1月19・21・26・28・29日 | 5 | 安田靫彦「御夢」－歴史を描く作家－ | 金智英 | 163 |
| 22年2月7・13・14・20・21日 | 5 | 洛中洛外図屏風（舟木本）－かがやくみやこ－ | 浦澤倫太郎 | 447 |

・制作工程模型ギャラリートーク　6回　参加者総数195人

| 実施日 | 回数 | テーマ | 氏名 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|---|
| 22年2月3・12・28日、3月2・11・21日 | 6 | 0.15ミリの超絶技巧 | 京都絵美 | 195 |

## 【京都国立博物館】

**○社会科教員のための向上講座について　1回　　参加者総数 32人**

| 実施日 | テ ー マ | 解　説　者 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|
| 10月27日 | 社会科教員指導力向上講座 | 研究員　大原嘉豊 | 32人 |

## 【奈良国立博物館】

**○サンデートーク　11回　　参加者総数 584人**

| 実施日 | テ ー マ | 解　説　者 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|
| 4月19日 | 唐招提寺2010プロジェクト　その10年の道のり | TBSテレビ事業局担当局長　松田幸雄 | 90人 |
| 5月17日 | 唐招提寺の古文書について | 当館研究員　野尻忠 | 95人 |
| 6月21日 | 唐招提寺の鴟尾を展示し終えて | 当館研究員　岩戸晶子 | 24人 |
| 7月19日 | 阿育王塔の仏舎利信仰と日本 | 当館学芸部長補佐　内藤栄 | 99人 |
| 8月16日 | 貿易陶磁からみる寧波と日本 | 当館教育室長　吉澤悟 | 82人 |
| 10月18日 | 正倉院展60回までのあゆみ | 当館研究員　永井洋之 | 10人 |
| 11月15日 | 愛染明王法－平安貴族の祈り－ | 当館研究員　斎木涼子 | 13人 |
| 12月20日 | 春日権現験記絵巻　七百年の旅路 | 当館研究員　清水健 | 33人 |
| 22年<br>1月17日 | 春日権現験記絵披見台をめぐって | 当館保存修理指導室長　谷口耕生 | 47人 |
| 1月24日 | 特集展示解説　南北朝・室町時代の彫刻 | 当館上席研究員　鈴木喜博 | 41人 |
| 3月14日 | 奈良の文化を感じて-平城遷都1300年に寄せて伝えたいこと-<br>①　「神を饗応する器-中国古代青銅器-」<br>②　「東大寺二月堂修二会　3月14日　結願」<br>③　「原点回帰-仏教・仏像に関する-考察-」 | 当館解説ボランティア<br>①　鈴木正三<br>②　林多賀子<br>③　山極徳之 | 50人 |

## 【九州国立博物館】

**○ミュージアムトーク　42回　参加者総数　1285人**

| 実施日 | テーマ | 解 説 者 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|
| 4月14日 | 縄文時代の貝塚について | 展示課研究員　宮地聡一郎 | 25 |
| 4月21日 | 国宝　古文書展 | 博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 | 20 |
| 4月28日 | 南蛮屏風の世界 | 企画課研究員　金井裕子 | 25 |
| 5月12日 | 雪舟、中国へ行く | 文化財課研究員　畑 靖紀 | 20 |
| 5月19日 | 弘法大師の入唐 | 展示課研究員　酒井芳司 | 20 |
| 5月26日 | 漢と楽浪の文化 | 企画課研究員　市元 塁 | 25 |
| 6月 2日 | 「石・青銅・鉄」多様な道具の材料 | 展示課研究員　坂元雄紀 | 25 |
| 6月 9日 | 磁器のデザイン | 企画課長　伊藤嘉章 | 35 |
| 6月16日 | 仏像の健康診断 | 博物館科学課環境保全室長　今津節生 | 30 |

| 実施日 | テーマ | 解 説 者 | 参加者（人） |
|---|---|---|---|
| 6月23日 | アンコールワットの仏像 | 文化財課長　臺信祐爾 | 30 |
| 7月 7日 | 七夕について | 企画課文化交流展室長　河野一隆 | 30 |
| 7月14日 | 昔のお金の話 | 博物館科学課研究員　鳥越俊行 | 25 |
| 7月21日 | 中世の日本工芸 | 企画課特別展室長　伊藤信二 | 35 |
| 7月28日 | 弥生の赤-赤をめぐる品々- | 博物館科学課長　本田光子 | 30 |
| 8月 4日 | 鍛造と鋳造-金属器生産の方法を探る- | 文化財課資料登録室長　小林公治 | 30 |
| 8月11日 | 東南アジアの美術 | 企画課研究員　原田あゆみ | 35 |
| 8月18日 | 倭人伝の赤 | 博物館科学課研究員　志賀智史 | 35 |
| 8月25日 | 漢字の導入 | 展示課長　赤司善彦 | 40 |
| 9月 1日 | 藤原鎌足について | 展示課研究員　酒井芳司 | 40 |
| 9月 8日 | 弥生時代の甕棺 | 展示課研究員　坂元雄紀 | 30 |
| 9月15日 | タイの漆器　蒟醤について | 企画課研究員　川畑憲子 | 35 |
| 9月29日 | 書跡に親しむ | 文化財課研究員　丸山猶計 | 40 |
| 10月6日 | 茶の湯を楽しむⅡ | 学芸部長　伊藤嘉章 | 30 |
| 10月20日 | 阿修羅再び | 博物館科学課環境保全室長　今津節生 | 30 |
| 10月27日 | 仁王像について | 展示課主任研究員　楠井隆志 | 35 |
| 11月10日 | 古墳時代の馬の飾り | 企画課研究員　市元 塁 | 30 |
| 11月17日 | 玄界灘の海人　壱岐 | 企画課文化交流展室長　河野一隆 | 25 |
| 12月 1日 | 天部について | 文化財課長　臺信祐爾 | 30 |
| 12月 8日 | 琉球の衣装 | 文化財課研究員　原田あゆみ | 25 |
| 12月15日 | アジアの螺鈿 | 文化財課資料管理室長　小林公治 | 30 |
| 12月22日 | 縄文土器の形 | 展示課研究員　宮地聡一郎 | 25 |
| 1月5日 | お姫様のお嫁入り道具 | 企画課研究員　川畑憲子 | 40 |
| 1月19日 | 徳川美術館所蔵初音の調度の科学調査 | 博物館科学課研究員　鳥越俊行 | 35 |
| 1月26日 | 室町時代の狩野派 | 文化財課研究員　畑靖紀 | 35 |
| 2月2日 | 模造 月光菩薩立像について | 展示課主任研究員　楠井隆志 | 30 |
| 2月9日 | 宝慶寺石仏と細川家 | 企画課長　小泉惠英 | 30 |
| 2月16日 | 博多承天寺の朝鮮鐘 | 企画課特別展室長　伊藤信二 | 30 |
| 2月23日 | 巨大掛軸をめぐる文化交流 | 博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 | 35 |
| 3月2日 | 古墳の赤―埴輪の色― | 博物館科学課長　本田光子 | 30 |
| 3月9日 | アジアの青銅楽器 | 展示課長　赤司善彦 | 35 |
| 3月16日 | 旧石器について | 博物館科学課研究員　志賀智史 | 30 |
| 3月30日 | 扇・画帖・巻子―手元で楽しむ絵画― | 企画課研究員　金井裕子 | 35 |

## 2-⑵-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

## 2-(2)-⑦ 友の会

### 1) 会員数

| 区分 / 館名 | 友の会会員 (年会費1万円) | 友の会会員 (年会費4千円) | 友の会会員 (年会費3千円) | 友の会会員(学生) (年会費2千5百円) | 友の会会員(学生) (年会費2千円) | 友の会会員(家族) (年会費6千円) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東京国立博物館 | 2,085人 | ※20,392人 | ― | ※1,206人 | ― | ― |
| 京都国立博物館 | ― | ― | 2,517人 | ― | 95人 | ― |
| 奈良国立博物館 | ― | ― | 2,668人 | ― | 103人 | 28人 |
| 九州国立博物館 | 206人 | ― | ※2,126人 | ― | ※1,788人 | ― |

※東京国立博物館、九州国立博物館では「パスポート会員」としている。

### 2) 友の会を対象とした事業

**【東京国立博物館】**

①講演会の実施

1月27日「東大寺二月堂お水取り」

講師：東大寺別当　上野 道善

参加者数：334人

② 東京国立博物館友の会対象旅行会の実施

9月7日～8日

・旅行会　　九州国立博物館「国宝阿修羅展」休館日特別観覧

・旅行先　　九州国立博物館、福岡市美術館、福岡市博物館、太宰府天満宮など

・参加者数　16人

③ その他

博物館ニュース送付,イベントの鑑賞割引等

**【京都国立博物館】**

①年1回（4月）、年間催事案内を送付

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館の平常展、特別展を団体料金に割引

③財団法人京都古文化保存協会事業【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引

④当館ミュージアムショップの商品の10%割引

**【奈良国立博物館】**

①第38回夏季講座「寧波をめぐる信仰と美術」

･実施期間　8月18日～20日

･事業内容　奈良女子大学講堂において9講座、博物館において展覧会概説及び見学を実施した。

･参加者数　391人

②ミュージアムショップ及びレストランでの割引特典

**【九州国立博物館】**

季刊情報誌「アジアージュ」、特別展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

## 2-(2)-⑧賛助会

### 1) 会員数

| 館名 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 (社団法人清風会) | 奈良国立博物館 |
|---|---|---|---|
| 件数 | 218件 | 389件 | 56件 |
| 内訳 | 特別会員：16件<br>維持会員(個人)：178件<br>維持会員(団体)：24件 | 賛助会員：31件<br>特別会員：63件<br>普通会員：295件 | 特別支援会員：5件<br>特別会員：2件<br>一般会員(個人)：32件<br>一般会員(団体)：17件 |

### 2) 賛助会を対象とした事業

**【東京国立博物館】**

① 感謝会の実施　22年2月3日

当館の事業報告、弦楽四重奏の演奏つき軽食パーティー、

特別展「国宝 土偶展」概要解説

② 各特別展開会式へのご招待

③ 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

**【京都国立博物館】**

①「京都国立博物館だより」（年4回）の配布
②当館平常展、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

**【奈良国立博物館】**

〇当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
4月14日（火）　特別展「国宝　鑑真和上展」
　　特別鑑賞会　参加人数47名
7月23日（木）　特別展「聖地　寧波展」
　　特別鑑賞会　参加人数36名
10月29日（木）　「御即位二十年記念 第61回正倉院展」
　　特別鑑賞会　参加人数44名

## 2-(2)-⑨ 渉外活動

### 【東京国立博物館】

**1) 会場提供 18 件（共催展に関連するものは 3)展示に関連する事業参照）**

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|
| 4 月 13 日 | 懇談会 | カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション | 表慶館・法隆寺宝物館 | 約 150 名 |
| 4 月 16 日 | 懇談会 | カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション | 表慶館・法隆寺宝物館 | 約 60 名 |
| 4 月 23 日 | 懇談会 | カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション | 表慶館・法隆寺宝物館 | 約 50 名 |
| 5 月 11 日 | 懇談会 | カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション | 表慶館・法隆寺宝物館 | 約 250 名 |
| 5 月 11 日 | 懇談会 | 朝日新聞社主催による「国宝 阿修羅展」展示鑑賞およびレセプション | 平成館 | 約 500 名 |
| 5 月 28 日 | 懇談会 | カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション | 表慶館・法隆寺宝物館 | 約 50 名 |
| 9 月 17 日 | 懇談会 | セイコーウォッチ（株）主催による展示鑑賞およびレセプション | 法隆寺宝物館 | 約 130 名 |
| 9 月 29 日 | 懇談会 | 東芝国際交流財団主催によるレセプション | 平成館 | 約 370 名 |
| 10 月 19 日 | ファッションショー | mint designs ファッションショー | 法隆寺宝物館 | 約 300 名 |
| 10 月 24 日 | コンサート | 吉野の桜を守る会/読売新聞社/（財）吉野山保勝会主催によるチャリティーコンサート | 法隆寺宝物館 | 約 100 名 |
| 11 月 6 日～8 日（3 日間） | 懇談会 | トヨタ自動車（株）主催による展示鑑賞およびレセプション | 法隆寺宝物館・庭園 | 約 330 名 |
| 11 月 23 日～24 日(2 日間) | イベント | したまちコメディ映画祭 | 平成館 | 538 名 |
| 12 月 18 日 | 懇談会 | 本田技研工業（株）インターナビ室主催による展示鑑賞およびレセプション | 法隆寺宝物館 | 約 150 名 |
| 22 年<br>3 月 1 日 | 懇談会 | 毎日新聞社主催による「長谷川等伯」展展示鑑賞およびレセプション | 平成館 | 約 1,050 名 |
| 22 年<br>3 月 9 日 | 懇談会 | 文化庁主催によるレセプション | 法隆寺宝物館 | 約 80 名 |
| 22 年<br>3 月 29 日 | 懇談会 | マセラティ主催による展示鑑賞およびレセプション | 法隆寺宝物館 | 約 400 名 |
| 4 月 26 日<br>5 月 23 日<br>6 月 28 日<br>7 月 19 日<br>8 月 23 日<br>9 月 28 日<br>10 月 25 日<br>11 月 22 日<br>12 月 13 日<br>22 年<br>1 月 31 日<br>2 月 21 日<br>3 月 28 日 | ガイドツアー | 株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる<br>リレ・アカデミー ガイドツアー | 本館等 | 約 40 名 |
| 4 月 18 日<br>5 月 2 日<br>7 月 5 日<br>9 月 13 日<br>22 年<br>2 月 14 日<br>3 月 28 日 | 講演会 | 株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる<br>リレ・アカデミー スクーリング | 平成館等 | 約 20 名 |

**2) 館主催・協力イベント 23 件**

| 期間 | 種類 | タイトル | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 月 5 日 | 音楽会 | 東京・春・音楽祭 2009「カルテット・スピリタス サクソフォーンの響き」 | 本館 | 約 800 人<br>(2 回) | 東京・春・音楽祭実行委員会共催 |
| 7 月 5 日 | 音楽会 | 関孝弘ピアノコンサート | 平成館 | 216 人 | サロン・ド・ソネット共催 |
| 7 月 13 日 | ワークショップ | 青写真制作ワークショップ | 柳瀬荘<br>黄林閣 | 17 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 7 月 26 日 | 音楽会 | ファミリーコンサート | 平成館<br>大講堂 | 約 500 人<br>(2 回) | 東京クラリネット・クワイアー共催 |
| 7 月 28 日～8 月 2 日 | 展示会 | 台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展） | 平成館 | ― | 上野のれん会協力 |
| 8 月 22 日 | 音楽会 | 夏休み子ども音楽会 | 東京文化会館ほか | 466 人 | 平常展無料入館の協力 |
| 8 月 30 日 | イベント | 納涼東博寄席 | 平成館<br>大講堂 | 370 人 | |
| 9 月 27 日 | 音楽会 | 鷲見恵理子ヴァイオリンコンサート | 平成館 | 252 人 | サロン・ド・ソネット共催 |
| 10 月 1 日～18 日 | 展示会 | 美術学科絵画コース（絵画・版画）教職員作品展 | 柳瀬荘 | 325 人 | 日本大学芸術学部共催 |

| 期間 | 種類 | タイトル | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 月 4 日 | ワーク<br>ショップ | デザイン学科ワークショップ<br>「竹の家」を共同で作る。 | 柳瀬荘 | 23 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 10 月 11 日 | ワーク<br>ショップ | 写真学科ワークショップ<br>「青写真制作」 | 柳瀬荘 | 18 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 10 月 14 日 | 音楽会 | 音楽学科コンサート | 柳瀬荘 | 約 40 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 10 月 18 日 | ワーク<br>ショップ | 美術学科絵画コースワークショップ<br>「民家を描こう」 | 柳瀬荘 | 23 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 11 月　4 日 | ワーク<br>ショップ | 文芸学科ワークショップ<br>「連句創作」 | 柳瀬荘 | 8 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 11 月 6 日～<br>22 日 | 展示会 | ・美術学科彫刻コース教職員作品展<br>・映画学科映像作品上映<br>「自然と柳瀬荘」 | 柳瀬荘 | 329 人 | 日本大学芸術学部共催 |
| 10 月 3 日 | 普及<br>イベント | 留学生の日 | 本館ほか | 714 人 | ㈱東京美術協賛 |
| 11 月 21 日 | 講演会 | 上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会<br>「皇室と東京帝室博物館」高橋祐次 | 平成館<br>大講堂 | 141 人 | 上野の山文化ゾーン連絡<br>協議会主催 |
| 12 月 6 日 | 音楽会 | 藤原真理チェロコンサート | 平成館 | 252 人 | サロン・ド・ソネット共催 |
| 12 月 12 日 | 音楽会 | ジェラール・プーレ<br>ヴァイオリンコンサート | 平成館 | 168 人 | 東京芸大協力 |
| 22 年<br>1 月 11 日 | イベント | 新春東博寄席 | 平成館<br>大講堂 | 394 人 | |
| 22 年<br>1 月 17 日 | 音楽会 | 亀渕由加ゴスペルコンサート | 平成館 | 263 人 | サロン・ド・ソネット共催 |
| 22 年<br>1 月 27 日 | 講演会 | 東大寺講演会 | 平成館<br>大講堂 | 334 人 | 東大寺共催<br>上野のれん会協力 |
| 22 年<br>3 月 14 日 | 音楽会 | 東京・春・音楽祭 2010<br>「Vive! サクソフォーンカルテット」 | 本館 | 約 250 人 | 東京･春･音楽祭<br>実行委員会共催 |
| 22 年<br>3 月 28 日 | 音楽会 | 東京・春・音楽祭 2010<br>「東博でバッハ vol.4」児玉桃 | 平成館<br>大講堂 | 241 人 | 東京･春･音楽祭<br>実行委員会共催 |

**3)　展示に関連する事業　4件**

| 関連する展示 | 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 博物館に初もうで | 22 年<br>1 月 2 日・3 日 | イベント | 和太鼓演奏（和太鼓御響） | 正門内池前 | 約 2,320 名 |
| | 22 年<br>1 月 2 日・3 日 | イベント | 獅子舞（東都葛西囃子睦会） | 本館前 | 約 2,140 名 |
| | 22 年<br>1 月 2 日 | イベント | 江戸の太神楽（仙丸） | 本館前 | 約 730 名 |
| | 22 年<br>1 月 3 日 | イベント | クラリネットコンサート（アマトゥール） | 平成館<br>ラウンジ | 約 700 名 |

**4)　撮影件数　110 件**

## 【京都国立博物館】

**1)　会場提供　21 件**

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 月 3 日 | 講演会 | 修理技術者資格制度 | 研修室 | 20 人 | 装こう師連盟 |
| 4 月 9 日 | 講演会 | 美術館めぐり講座 | 研修室 | 22 人 | NHK 京都文化センター |
| 5 月 9 日 | 講演会 | 修理技術者登録審査 | 研修室 | 20 人 | 装こう師連盟 |
| 7 月 9 日 | 講演会 | 修理技術中級講演会 | 研修室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 7 月 10 日 | 講演会 | 修理技術中級講演会 | 研修室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 7 月 11 日 | 講演会 | 修理技術中級講習会 | 研修室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 9 月 26 日 | 講演会 | 修理技術主任技師・技師長第一次試験 | 大学院研究室及び会議室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 10 月 17 日 | 講演会 | 修理技術主任技師・技師長第二次試験 | 研修室及び会議室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 11 月 14 日 | 講演会 | 修理技術者資格認証式 | 研修室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 11 月 9 日 | セミナー | 第６回指定文化財企画・展示セミナー | 研修室 | 25 人 | 文化庁文化財部 |
| 11 月 10 日 | セミナー | 第６回指定文化財企画・展示セミナー | 研修室 | 25 人 | 文化庁文化財部 |
| 11 月 11 日 | セミナー | 第６回指定文化財企画・展示セミナー | 研修室 | 25 人 | 文化庁文化財部 |
| 11 月 12 日 | セミナー | 第６回指定文化財企画・展示セミナー | 研修室 | 25 人 | 文化庁文化財部 |
| 11 月 13 日 | セミナー | 第６回指定文化財企画・展示セミナー | 研修室 | 25 人 | 文化庁文化財部 |
| 22 年<br>1 月 8 日 | 講演会 | 美術館めぐり講座 | 研修室 | 25 人 | NHK 文化センター神戸<br>教室 |
| 1 月 12 日 | 研究会 | 修理技術研究会 | 研修室 | 51 人 | 美術院 |
| 1 月 13 日 | 研究会 | 修理技術研究会 | 研修室 | 51 人 | 美術院 |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 月 14 日 | 講演会 | 美術館めぐり講座 | 研修室 | -人 | NHK 文化センター京都支社 |
| 3 月 12 日 | 講演会 | 修理技術者初級講習会・上級講習会 | 研修室及び会議室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 3 月 13 日 | 講演会 | 修理技術者初級講習会・上級講習会 | 研修室及び会議室 | 15 人 | 装こう師連盟 |
| 3 月 28 日 | パーティ | パーティ | 庭園及び駐車場 | -人 | マスメディア企画 |

**2) 館主催イベント 8 件**

| 期間 | 種類 | タイトル | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 月 24 日 | 落語 | 京都・らくご博物館（春）<br>～新緑寄席～ | ハイアット・リージェンシー京都<br>ドローイングルーム | 192 人 | 米朝事務所共催 |
| 6 月 6 日 | 音楽会 | バロックコンサート | 特別展示館 | 196 人 | 日本テレマン協会共催 |
| 7 月 24 日 | 音楽会 | 自転車発電エコライブ | 庭園 | 約 100 人 | 自転車活用推進研究会（後援） |
| 7 月 24 日､31 日、<br>8 月 7 日、14 日、<br>21 日、28 日、<br>9 月 4 日 | 音楽会 | ミニコンサート<br>～音楽で巡るシルクロード～ | 特別展示館 | 各回約 40 人 | 京都市立芸術大学共催 |
| 8 月 17 日 | 落語 | 京都・らくご博物館（夏）<br>～納涼寄席～ | ハイアット・リージェンシー京都<br>ドローイングルーム | 191 人 | 米朝事務所共催 |
| 10 月 26 日 | 落語 | 京都・らくご博物館（秋）<br>～紅葉寄席～ | ハイアット・リージェンシー京都<br>ドローイングルーム | 151 人 | 米朝事務所共催 |
| 22 年<br>1 月 22 日 | 落語 | 京都・らくご博物館（冬）<br>～新春寄席～ | ハイアット・リージェンシー京都<br>ドローイングルーム | 163 人 | 米朝事務所共催 |
| 2 月 20 日 | 音楽会及び食事会 | 音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展 | ハイアット・リージェンシー京都 | 149 人 | 読売新聞大阪本社、<br>ハイアット・リージェンシー京都及び日本テレマン協会共催 |

**3) 撮影 3 件**

## 【奈良国立博物館】

**1) 会場提供 32 件**

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 月 17 日 | 講演会 | 仏像修理に関する講演 | 講堂 | 100 名 | 古社寺会 |
| 4 月 19 日 | 婚儀 | 結婚式会場として使用 | 仏教美術資料研究センター | 16 名 | オーシャンフロート |
| 4 月 18 日<br>～5 月 10 日 | 茶席 | お茶席を設けお抹茶とお菓子のサービス及びお菓子の販売 | 西新館<br>ピロティ | ― | 鶴屋吉信 |
| 4 月 23 日 | 講義 | 「国宝　鑑真和上展」鑑賞のための講義 | 講堂 | 30 名 | 朝日カルチャーセンター |
| 4 月 26 日 | カーイベント | ニッポンクラシックカーラリー2009 奈良 | 講堂<br>本館<br>西側敷地 | 70 人 | 株式会社ツーアンドフォー |
| 5 月 10 日 | 講演会 | 「シルクロードの終点-奈良-を巡る旅」講演 | 講堂 | 100 人 | フォーユアプランニング |
| 5 月 15 日 | 講義 | 「国宝　鑑真和上展」鑑賞のための講義 | 講堂 | 160 人 | 唐招提寺 |
| 6 月 6 日<br>～6 月 7 日 | 茶会 | 茶会の開催 | 茶室 | 10 人 | 植村　貞澄 |
| 6 月 10 日<br>～6 月 13 日 | 茶会 | 茶会の開催 | 茶室 | 13 人 | 井関　修智 |
| 6 月 27 日<br>～6 月 28 日 | 展示 | 書道展 | 仏教美術資料研究センター | ― | 国際文化進社 |
| 8 月 5 日<br>～14 日 | 観光イベント | なら燈花会会場としてｶｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等の配置 | 新館前<br>敷地 | ― | なら燈花会の会 |
| 8 月 8 日<br>～8 月 9 日 | 観光イベント | 「おはなしステージ in なら燈花会」の会場としてコンサート、燈火器による本館照明等の実施 | 本館<br>西側敷地 | 400 人 | 奈良市平城遷都 1300 年記念市民連携企画実行委員会 |
| 8 月 11 日 | 研究発表 | 寧波展出陳の鏡像に関する研究発表と質疑応答 | 会議室 | 15 人 | 帝塚山大学教授　関根　俊一 |
| 8 月 27 日 | 研修 | 奈良市教育委員会主催教職員研修講座 | 講堂 | 200 人 | 奈良市教育委員会 |
| 8 月 29 日 | 映画祭 | 河瀬直美監督作品「火垂 2009」<br>上映、陶芸展及び茶会の開催 | 講堂、西新館<br>ピロティ、茶室 | 380 人 | 組画 |
| 8 月 29 日 | 観光イベント | 第 11 回バサラ祭りのメイン会場として、演舞・コンサートを実施 | 本館<br>西側敷地 | 3,500 人 | バサラ祭実行委員会 |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 月 4 日 | イベント | 地元小学生によるマーチングバンドの演奏 | 本館<br>西側敷地 | 50 人 | パイロットウォーク実行委員会 |
| 10 月 10 日 | 映画祭 | 河瀬直美監督作品「沙羅双樹」<br>上映、バサラ祭り踊り隊による演舞及び対談の開催 | 本館<br>西側敷地 | 400 人 | なら国際映画祭実行委員会 |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | キャンペーン | 「奈良のうまいもの」紹介パネル展示 | 地下回廊 | ― | 奈良県農林部マーケティング課 |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | 休憩所 | 季節の土産物販売 | 新館西側<br>敷地 | ― | 株式会社ワールドヘリテージ |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | 休憩所 | 休憩所設置 | 新館西側<br>敷地 | ― | 株式会社 鶴屋吉信 |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | 休憩所 | 休憩所及び喫茶の販売 | 新館西側<br>敷地 | ― | 有限会社日本クリーンシステムズ |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | キャンペーン | 「奈良のうまいもの」販売・PR | 新館西側<br>敷地 | ― | 奈良県農林部マーケティング課 |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | スタンプラリー | スタンプラリーのスタートブース及び冊子の配布、PR | 新館西側<br>敷地 | ― | はじまりは正倉院展実行委員会 |
| 10 月 24 日<br>～11 月 12 日 | キャンペーン | 奈良県特産品の物販 | 新館西側<br>敷地 | ― | 校倉な会 |
| 10 月 30 日 | 講演会 | 「ヨミティ特別鑑賞会」<br>当館研究員によるレクチャー | 会議室 | 20 人 | 読売新聞大阪本社<br>文化事業部 |
| 11 月 21 日<br>～11 月 22 日 | 茶会 | 茶会の開催 | 茶室 | 20 人 | 牧岡　一生 |
| 12 月 10 日 | 協議会 | 近畿地区国立博物館・美術館の財団・協会等連絡協議会 | 会議室 | 7 人 | 仏教美術協会 |
| 12 月 12 日<br>～12 月 13 日 | 授業 | 放送大学　平成 21 年度第二学期面接授業 | 講堂 | 98 人 | 放送大学 |
| 12 月 15 日 | 講義 | 「春日大社の歴史－おん祭りと春日信仰の美術－」講義 | 講堂 | 130 人 | 奈良文化財同好会 |
| 22 年<br>2 月 11 日<br>～2 月 14 日 | 観光イベント | なら瑠璃絵の会場として、光のオブジェを配置 | 本館西側敷地<br>新館前 | ― | なら瑠璃絵実行委員会 |
| 3 月 3 日 | 講義 | 「お水取り」講義 | 講堂 | 40 人 | NPO 法人音楽の森 |
| 3 月 8 日 | 講義 | 「お水取り」講義 | 講堂 | 37 人 | NHK 文化センター |

**2) 特別展等に関連する事業　19 件**

| 展覧会名 | 期間 | イベント種類 | 会場 | 参加者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 特別展<br>「国宝鑑真和上展」 | 4 月 17 日<br>4 月 22 日<br>4 月 26 日<br>5 月 3 日<br>5 月 16 日<br>5 月 22 日 | 映画「天平の甍」の上映。鑑真和上の二十年の歳月をかけて渡日するまでの苦難の道を描いた映画の上映イベント。 | 講堂 | 4/17 43 名<br>4/22 82 名<br>4/26 86 名<br>5/3 137 名<br>5/16 189 名<br>5/22 121 名 | |
| | 4 月 4 日～<br>5 月 24 日 | 鑑真和上像展示室において松浦俊海長老ほか唐招提寺僧侶の和讃朗唱による法要を実施。来館者に和讃配布とご焼香の案内。 | 西新館 | ― | 唐招提寺 |
| | 5 月 2 日 | 鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009<br>女優の紺野美沙子氏、唐招提寺長老の松浦俊海氏ほかによるフリートーク | 神戸新聞松方ホール | 385 人 | 唐招提寺、ＴＢＳ、朝日新聞社 |
| 特別展<br>「聖地　寧波展」 | 8 月 13 日 | 子ども向け企画として、東アジアとの交流を題材とした「にんぷろかるた」によるかるた大会を実施。参加者に「ミニにんぷろかるた」等を配布 | 地下回廊 | 88 人 | 寧波研究プロジェクトグループ事務局 |
| | 7 月 26 日<br>7 月 31 日<br>8 月 5 日<br>8 月 13 日<br>8 月 14 日<br>8 月 21 日 | 子ども向け企画として、アニメ映画「ぼくの孫悟空」の上映。中国の古典である「西遊記」をアニメ化した映画の上映イベント。 | 講堂 | 7/26　16 名<br>7/31　25 名<br>8/ 5　16 名<br>8/13　45 名<br>8/14　67 名<br>8/21　18 名 | |
| | 8 月 8 日～<br>8 月 9 日 | 国際シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」 | 講堂 | 197 人 | 寧波研究プロジェクトグループ事務局 |
| | 8 月 18 日～<br>8 月 20 日 | 夏季講座「寧波をめぐる信仰と美術」 | 奈良女子大学講堂 | 391 人 | |
| 御即位二十年記念 第 61 回正倉院展 | 9 月 4 日～<br>9 月 19 日 | 「正倉院展のあゆみ」<br>過去のポスターや図録の展示 | 東京日本橋奈良まほろば館 | ― | |

| 展覧会名 | 期間 | イベント種類 | 会場 | 参加者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 9月13日 | 「正倉院展のあゆみ」<br>特別講演「正倉院宝物と光明皇后」 | 東京日本橋<br>奈良まほろば館 | 70人 | |
| | 10月24日～<br>11月12日 | 「皇室写真展」<br>今までに正倉院展に訪れた皇室の写真を展示 | 西新館考古展示室 | ― | 読売新聞大阪本社 |
| | 10月24日～<br>11月12日 | ＮＨＫ「日曜美術館」に放映された正倉院展特集（H15～H20）の映像上映（60分） | 西新館ピロティ（北側） | ― | ＮＨＫ奈良放送局 |
| | 10月24日～<br>11月12日 | 「野点のお茶会」<br>正倉院展会期中の入館者を対象とした呈茶席 | 西新館<br>ピロティ | 18,212人 | 結の会 |
| | 10月24日～<br>11月12日 | 「いけばな展示」<br>法華寺小池御流によるいけばなの展示 | 西新館<br>1階 | ― | |
| | 10月24日～<br>11月12日 | ●正倉院展関連の新聞紙面ポスターなどの展示<br>●読売新聞社が制作した「正倉院展」DVD映像の放映<br>●来場者に抽選くじによる記念品贈呈 | 新館西側<br>敷地 | ― | 読売新聞大阪本社 |
| | 10月24日～<br>11月12日 | ●読売新聞社が写真取材したシルクロードの風景のパネル展示 | 地下回廊 | ― | 読売新聞大阪本社 |
| | 10月26日 | NHK 制作番組「宝物を守り伝える」上映会＆講演会 | 講堂 | 65名 | ＮＨＫ奈良放送局 |
| 特別陳列<br>「おん祭と春日信仰の美術」 | 22年<br>1月16日 | 「春日若宮おん祭の舞楽」<br>南都楽所による舞楽公演 | 講堂 | 85人 | |
| 特別陳列<br>「お水取り」 | 2月6日 | 「お水取り講話と粥の会」<br>東大寺　守谷長老による講話、当館西山学芸部長による特別陳列「お水取り」の解説及び観賞、茶粥試食、二月堂見学 | 講堂<br>展示室<br>茶室控室<br>東大寺二月堂 | 32人 | |
| | 3月2日 | 「お水取り展観賞とお松明」<br>当館西山学芸部長による特別陳列「お水取り」の解説及び観賞、東大寺　森本長老による講話、「お水取り」ビデオ鑑賞、東大寺二月堂にてお松明見学 | 講堂<br>展示室<br>東大寺本坊<br>東大寺二月堂 | 173人 | 主催：結の会 |

**3) その他イベント等　12件**

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5月2日 | 落語 | 「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第6回－」<br>桂 小春團治、桂　文華、林家　染雀、桂　佐ん吉による落語会 | 講堂 | 144人 | 共催：奈良テレビ放送 |
| 5月10日 | 講座 | 「奈良国立博物館　まほろば講座香文化を辿る講座」<br>講師：稲坂　良弘（日本香堂顧問） | 講堂 | 132人 | 共催：日本香堂 |
| 6月26日<br>～10月4日 | 展示 | 唐招提寺の鑑真和上ゆかりの蓮など約15種類の蓮を展示 | 西新館前<br>人工池 | ― | |
| 7月12日 | 講座 | 「奈良国立博物館　まほろば講座天平の食文化」<br>講師：尾道　龍男（奈良パークホテル料理部長） | 講堂 | 92人 | 共催：奈良パークホテル |
| 7月19日<br>～8月30日 | 展示 | 「子供絵画館 in NARA」<br>ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会 | 地下回廊 | ― | 主催：日本香堂<br>後援：朝日学生新聞社<br>協力：奈良国立博物館 |
| 7月19日 | 講座 | 「子供絵画館 in NARA」オープニング企画　夏休みお線香手ずくり体験講座 | 仏教美術資料研究センター | 第1回<br>35人<br>第2回<br>40人<br>第3回<br>25人 | 協力：日本香堂 |
| 8月23日 | 落語 | 「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第7回－」<br>桂 小春團治、笑福亭　瓶太、桂　文三、桂 二乗による落語会 | 講堂 | 135人 | 共催：奈良テレビ放送 |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10月17日 | 講座 | 「奈良国立博物館　まほろば講座正倉院に伝わる薬が語るー天平時代、人々が求めた健康な暮らしー」<br>講師：米田　該典（大阪大学大学院医学研究科、薬学博士） | 講堂 | 93人 | |
| 10月11日 | 落語 | 「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第8回－」<br>笑福亭　松喬、桂 小春團治、桂 わかば、林家　染太による落語会 | 講堂 | 92人 | 共催：奈良テレビ放送 |
| 22年<br>1月2日<br>～1月7日 | 展示 | 「いけばな展示」<br>法華寺小池御流によるいけばなの展示 | 新館エントランス | ― | |
| 1月23日 | 落語 | 「まほろば寄席-奈良国立博物館落語シリーズ第9回-」<br>桂　小春團治、笑福亭　伯枝、桂　壱之輔、桂　三四郎による落語会 | 講堂 | 104人 | 主催：奈良テレビ放送 |
| 2月9日 | 特別公開 | 「文化財保存修理所特別公開」<br>普段は公開していない修理所を当館研究員の解説付きで見学 | 講堂<br>修理所 | 第1回<br>23人<br>第2回<br>28人<br>第3回<br>29人 | |

## 【九州国立博物館】

### 1)　会場提供　計39件　（共催展に関連するものは、3)展示に関連する事業参照）

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3月31日～4月5日 | 展示 | 「生活の中のデザイン」KCDA会員選抜展 | エントランス | 10,400 | 九州クラフトデザイン協会 |
| 4月5日 | イベント | 博多にわか大会<br>「春らんまん　九州国立博物館で博多にわかを楽しもう」 | ミュージアムホール | 520 | 博多仁和加振興会 |
| 4月6日 | イベント | 「レッドクリフ PartⅡ―未来の最終決戦―」福岡キャンペーン<br>ジョン・ウー監督出演 | エントランス | ― | 東宝東和 |
| 4月18日 | 講演会 | 松岡正剛独演会「ぼくの九州同舟制」<br>九州参集・史繍編集 ―発現の古代から創発の未来― | ミュージアムホール | 250 | A&Q有限責任事業組合 |
| 4月19日 | 音楽会 | 箏演奏会「まほろば　箏のしらべ」 | ミュージアムホール | 300 | 「まほろば 箏のしらべ」実行委員会 |
| 6月2日～6月14日 | 展示 | 光の織物 ―光峯の織物美術― | ミュージアムホール | 74,800 | 光峯錦織工房／日本伝統織物保存研究会 |
| 6月9日～6月14日 | イベント | 第61回ミュージアムコンサート特別協賛イベント<br>「ハイブリッドカー　ＮＥＷ ＰＲＩＵＳ　館内展示」 | エントランス | 38,700 | 福岡トヨペット |
| 6月17日 | 音楽会 | 筑紫女子学園大学フィルハーモニー管弦楽団記念コンサート | ミュージアムホール | 100 | 筑紫法人会（女性部会） |
| 6月27日 | 音楽会 | だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート | エントランス | 110 | だざいふリコーダーアンサンブル |
| 7月20日 | 音楽会 | 台湾南瀛民族楽団演奏会 | ミュージアムホール | 600 | ＮＧＯ国際佛光会福岡協会／国際佛光青年団福岡分団／臨済宗日本佛光山 福岡佛光山寺 |
| 7月25日 | 音楽会 | 雅天空コンサート「天平の風音」 | ミュージアムホール | 200 | ムーライトオフィス |
| 8月29日 | イベント | エレキット夏休み工作教室ｉｎ太宰府2009 | 研修室 | 50 | (株)イーケイジャパン |
| 9月5日 | 神楽 | 京築神楽　九州国立博物館公演 | ミュージアムホール | 1,000 | 京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議 |
| 9月10日 | 音楽会 | だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート | エントランス | 160 | だざいふリコーダーアンサンブル |
| 9月25日 | イベント | 第4回 太宰府古都の光 | 屋外 | ― | 太宰府市ブランド創造協議会 |
| 9月29日～10月4日 | 展示 | 天皇陛下御即位二十年福岡県奉祝　記念パネル展示（兼上映会） | ミュージアムホール | 620 | 天皇陛下御即位二十年福岡県奉祝委員会 |
| 9月29日～10月4日 | 展示 | 祝中華人民共和国建国60周年　九州華僑華人芸術家書画写真展 | エントランス | 11,900 | 九州華僑華人文学芸術家聯合会 |
| 10月3日 | 講演会 | 筑陽学園文化講演会「ジャワ・ガムラン音楽」 | 研修室 | 35 | 筑陽学園中学・高等学校 |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10月14日～10月25日 | 展示 | 榊晃弘・万葉のこころ写真展 | エントランス | 34,300 | (財)古都大宰府保存協会 |
| 10月18日 | 展示 | 榊晃弘・万葉のこころ写真展<br>写真家 榊晃弘氏によるギャラリートーク | エントランス | 40 | (財)古都大宰府保存協会 |
| 10月22日 | 講座 | 九州市民大学平成21年度後期ミニ講座 | ミュージアムホール | 100 | 九州市民大学 |
| 10月23日～10月25日 | イベント | 九州国立博物館開館4周年協賛　出前温泉「足湯」<br>～お！館外にもあった　至福の時間～ | 屋外 | 12,900 | 福岡県観光温泉地協会 |
| 10月24日～10月25日 | 学会 | 萬葉学会第62回全国大会 | ミュージアムホール | 300 | 萬葉学会 |
| 10月25日 | 獅子舞 | 八代妙見祭「中島町獅子舞」公演 | 屋外 | 100 | 八代妙見祭活性化協議会 |
| 10月31日 | 研究集会 | アジア博物館研究集会 | ミュージアムホール | 150 | 文化庁／国立文化財機構 |
| 11月8日 | イベント | 「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業 | 屋外 | 2,000 | (社)筑紫歯科医師会 |
| 11月21日 | イベント | 知的財産権教育支援事業「作って遊ぼう発明キッズラボ」<br>（放課後ヒラメキ体験） | 研修室 | 30 | 九州経済産業局／九州知的財産戦略協議会 |
| 11月28日～11月29日 | フォーラム | タイアップ企画「IPM市民フォーラム」 | エントランス | 200 | 九州文化財国際交流基金／NPO法人文化財保存活用支援センター／NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター |
| 12月4日 | 音楽会 | 太宰府市小学校音楽会 | ミュージアムホール | 550 | 太宰府市教育委員会／太宰府市小学校音楽会実行委員会 |
| 12月6日 | イベント | キャンパスフェスタ’０９ | ミュージアムホール／エントランス | 2,400 | 太宰府キャンパスネットワーク会議 |
| 12月10日 | 音楽会 | だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート | エントランス | 30 | だざいふリコーダーアンサンブル |
| 12月12日 | 研究集会 | 国立歴史民俗博物館国際研究集会「日韓における古墳・三国時代の年代観（Ⅲ）」 | ミュージアムホール | 100 | 国立歴史民俗博物館／大韓民国釜山大学校博物館 |
| 12月23日 | 音楽会 | 第18回ピアノ発表会「X'mas concert」 | ミュージアムホール | 100 | 福住節子／(株)日本楽芸社 |
| 3月2日～3月7日 | 展示 | 第4回福岡県景観大会<br>「景観文化展作品等展示」 | エントランス | | 福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会 |
| 3月7日 | イベント | 第4回福岡県景観大会<br>「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」 | ミュージアムホール | | 福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会 |
| 3月16日～3月22日 | 展示 | 第3回太宰府発見コンクールフェスティバル<br>「表彰式」「展示」 | ミュージアムホール／エントランス | | (財)古都大宰府保存協会 |
| 3月19日 | 公演 | 劇団道化・中国児童芸術劇院　日中合作公演「３只小猪（３びきのコブタ）」 | ミュージアムホール | | 文化庁／福岡県地域文化芸術振興プラン推進事業実行委員会／福岡の日中文化交流を育む会実行委員会 |
| 3月24日～3月28日 | 展示 | 青年海外協力隊写真展『そこに君はいた・・・』 | エントランス | | （独）国際協力機構 九州国際センター《JICA九州》 |
| 3月27日 | イベント | 九州国立博物館で　博多にわか | ミュージアムホール | | 博多仁和加振興会 |

**2）館主催・協力イベント　計67件**

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月12日 | 音楽会 | 第59回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「Ringin' Bells Rondo Club」 | エントランス | 180 | |
| 4月17日 | シンポジウム | 日本芸術文化の自画像を描く試み<br>― 日本芸術文化資料庫（データベース）第3回シンポジウム | ミュージアムホール | 30 | 九州大学日本芸術文化資料庫委員会 |
| 4月22日～5月6日 | イベント | ベトナム文化紹介イベント<br>「感動の国ベトナム～Impressive Vietnam～」 | エントランス | 61,800 | ベトナム文化・スポーツ・観光省／在福岡ベトナム総領事館／福岡県 |
| 4月24日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 100 | 福岡女子短大 |
| 5月9日 | 音楽会 | 第60回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「The Soup Stock」 | エントランス | 260 | |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5月10日 | 落語 | 第12回 九博朝日寄席<br>「喜多八・扇辰　皐月の競演」 | ミュージアムホール | 250 | 朝日新聞社 |
| 5月15日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 80 | 福岡女子短大 |
| 5月16日 | 音楽会 | 第1回 ガムランワークショップ | ミュージアムホール | 8 | |
| 5月22日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 120 | 福岡女子短大 |
| 6月5日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 180 | 福岡女子短大 |
| 6月11日 | 式典 | 入館者600万人達成記念セレモニー | エントランス | 1,200 | |
| 6月13日 | 音楽会 | 第61回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「MAPLE’s～ファゴットの旅路～」 | エントランス | 280 | |
| 6月19日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 130 | 福岡女子短大 |
| 6月20日 | 音楽会 | 第2回 ガムランワークショップ | ミュージアムホール | 19 | |
| 7月3日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 70 | 福岡女子短大 |
| 7月4日～<br>7月12日 | イベント | ボランティア企画「七夕」 | エントランス | 5,000 | ボランティア |
| 7月4日 | 音楽会 | 第3回 ガムランワークショップ | ミュージアムホール | 16 | |
| 7月5日 | 音楽会 | 第62回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「１８弦の祝宴」- ギタートリオ - | エントランス | 180 | |
| 7月10日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 60 | 福岡女子短大 |
| 7月17日 | 音楽会 | 福岡女子短期大学コーラスコンサート | ミュージアムホール | 120 | 福岡女子短大 |
| 7月18日～<br>7月20日 | イベント | 行こうよ！あじっぱ夏祭り2009 | エントランス／あじっぱ | 450 | |
| 8月8日 | 音楽会 | 第63回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「癒しの旋律-二胡」 | ミュージアムホール | 400 | |
| 8月14日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 200 | 福岡女子短大 |
| 8月21日 | 式典 | 飾り山神事「御神入れ（ごしんいれ）」 | エントランス | 50 | 西日本新聞社 |
| 9月4日 | 音楽会 | きゅーはくミュージアムコンサート番外編<br>「津軽三味線演奏会」 | ミュージアムホール | 250 | 壱岐・対馬フェリー(株) |
| 9月6日 | 落語 | 第13回 九博朝日寄席<br>『講談／落語「異種」伝統話芸の’響演’』 | ミュージアムホール | 260 | 朝日新聞社 |
| 9月11日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 200 | 福岡女子短大 |
| 9月26日 | 音楽会 | 第64回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「September～琵琶と尺八のひびき～」 | ミュージアムホール | 400 | |
| 10月9日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 60 | 福岡女子短大 |
| 10月15日 | ワークショップ | 能楽ワークショップ「能と平家物語」 | 研修室 | 50 | |
| 10月15日 | 能 | 4周年記念「九博能」 | ミュージアムホール | 250 | |
| 10月16日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 160 | 福岡女子短大 |
| 10月17日 | 音楽会 | ガムランコンサートⅡ～ジャワ舞踊とガムランの魅力～ | ミュージアムホール | 250 | |
| 10月18日 | 音楽会 | 第65回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「秋に贈るFantastic Concert」 | エントランス | 100 | |
| 11月3日 | 音楽会 | 第66回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「古から未来への言霊」 | ミュージアムホール | 180 | |
| 11月3日 | ワークショップ | 留学生の日特別企画「和太鼓ワークショップ」 | ミュージアムホール | 40 | |
| 11月3日 | ワークショップ | 留学生の日特別企画「着物をきてみよう(きもの体験)」 | 研修室 | 30 | |
| 11月3日 | ワークショップ | 留学生の日特別企画「茶の湯のお点前（茶道体験）」 | 和室 | 65 | |
| 11月6日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 110 | 福岡女子短大 |
| 11月13日 | フォーラム | ふくおか文化ボランティアフォーラム2009 | ミュージアムホール | 170 | ふくおか県民文化祭福岡県実行委員会／福岡県／福岡県文化団体連合会／福岡県教育委員会／(財)自治総合センター／NPO法人文化ボランティアとびうめの会 |
| 11月14日 | イベント | アサヒ緑健スポーツメセナ　第7回ふれあい健康ウォーク | 屋外 | － | 西日本新聞社 |
| 11月20日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 120 | 福岡女子短大 |
| 11月22日 | 講演会 | トピック展「祈りの山 宝満山」開催記念講演会<br>「祈りの山 宝満山 ―山岳信仰と修験道―」 | ミュージアムホール | 300 | （財）太宰府顕彰会 |

| 期間 | 種類 | イベント等の概要 | 会場 | 出席者数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11 月 28 日～11 月 29 日 | シンポジウム | 平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業<br>公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」 | ミュージアムホール | 190 | （平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業） |
| 11 月 28 日～12 月 4 日 | 展示 | 福岡地域学芸員“知のネットワーク”構築事業<br>巡回展示「学芸員のお仕事展」 | エントランス | 19,500 | 福岡地域学芸員ネットワーク推進協議会 |
| 12 月 11 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 60 | 福岡女子短大 |
| 12 月 15 日～12 月 23 日 | 展示 | 古都の光 PR 展示 | エントランス | 10,800 | |
| 12 月 18 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 70 | 福岡女子短大 |
| 12 月 19 日 | 音楽会 | 第 67 回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「Healing Christmas Concert」 | エントランス | 150 | |
| 12 月 20 日 | 音楽会 | 第 5 回 ガムランワークショップ | ミュージアムホール | 30 | |
| 1 月 3 日 | イベント | ボランティア企画「九博のお正月」 餅つき・書初め・折り紙 | 屋外／エントランス | 1,128 | ボランティア |
| 1 月 4 日～1 月 11 日 | 展示 | ボランティア企画 井上孝治写真展「こどものいた街」 | エントランス | 26,900 | ボランティア |
| 1 月 9 日 | 音楽会 | 第 68 回 きゅーはくミュージアムコンサート<br>「招福音はじめ ～よきことをきく～」 | エントランス | 180 | |
| 1 月 22 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 110 | 福岡女子短大 |
| 1 月 23 日 | 音楽会 | 第 6 回 ガムランワークショップ | ミュージアムホール | 17 | |
| 1 月 24 日 | 落語 | 第 14 回 九博朝日寄席<br>「初笑い、伝統の柳派と新作”星空”落語 | ミュージアムホール | 250 | 朝日新聞社 |
| 1 月 29 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 100 | 福岡女子短大 |
| 2 月 16 日～2 月 21 日 | 展示 | 筑紫地区小学校児童画展 | エントランス | | 九州国立博物館／九州国立博物館を愛する会／九州国立博物館ボランティア |
| 2 月 19 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 170 | 福岡女子短大 |
| 2 月 20 日 | 座談会 | ミュージアム講座アジアージュ：<br>きゅーはくの絵本 10 冊刊行記念座談会<br>「えほんのある博物館―ほら、歴史が語りかけてくる―」 | ミュージアムホール | | |
| 2 月 21 日 | イベント | 九博子どもフェスタ「博物館って本当におもしろいね！」 | ミュージアムホール／エントランス／研修室 | 1250 | 九州国立博物館／九州国立博物館を愛する会／九州国立博物館ボランティア |
| 2 月 26 日 | セミナー | 国際セミナー「アジアの螺鈿」 | 研修室 | 27 | |
| 2 月 26 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | 90 | 福岡女子短大 |
| 2 月 27 日 | 音楽会 | 第 69 回 きゅーはくミュージアムコンサート「長唄囃子の響き」 | エントランス | 200 | |
| 3 月 12 日 | 音楽会 | きゅーはくカフェコンサート | エントランス | | 福岡女子短大 |
| 3 月 20 日 | 音楽会 | 第 70 回 きゅーはくミュージアムコンサート「内山覚(Gt) & 野瀬栄進(P) from NY SUPER DUO！」 | エントランス | | |
| 3 月 21 日 | イベント | 第 14 回 九博デー「九博の宝物たち」 ―九博開館５周年の成果とこれから― | ミュージアムホール | | |

**3) 展示に関連する事業　計 57 件**

| 展覧会名 | 期間 | イベント種類 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| 文化交流展 | 10 月 10 日～10 月 12 日 | トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント<br>壱岐展ワークショップ① | 研修室／屋外 | 253 |
| | 11 月 17 日～11 月 23 日 | トピック展「祈りの山 宝満山」関連イベント<br>栗原隆司写真展「宝満山 2009 春夏―祈りと山麓のくらし―」 | エントランス | 37,300 |
| | 12 月 12 日～12 月 13 日 | トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント<br>壱岐展ワークショップ②／壱岐神楽 | 研修室／ミュージアムホール | 189 |
| | 12 月 19 日～12 月 20 日 | トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント<br>壱岐展ワークショップ③ | 研修室／屋外 | 199 |
| | 3 月 13 日～3 月 14 日 | トピック展「巨大掛軸」関連イベント<br>大涅槃図（佐賀市高伝寺）展示 | エントランス | |

| 展覧会名 | 期間 | イベント種類 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| | 3月14日 | トピック展「巨大掛軸」関連イベント<br>国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」 | ミュージアムホール | |
| 聖地チベット展 | 4月7日～4月19日 | 「聖地チベット展」関連<br>張晶絵画展「チベットの美」 | エントランス | 32,400 |
| | 4月25日～5月10日 | 「聖地チベット展」関連<br>椎名誠写真展「チベットの青い空」 | エントランス | 67,400 |
| | 4月25日 | 「聖地チベット展」関連<br>椎名誠講演会「チベットの青い空 ―カイラス巡礼記」 | ミュージアムホール | 330 |
| | 5月5日～5月6日 | チベット展関連「視覚障がい者チャリティイベント in 九博」<br>エフコープ「福岡自慢」 | 屋外 | 14,000 |
| | 5月9日 | 「聖地チベット展」関連<br>チベットタンカ講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」 | 研修室 | 14 |
| | 5月9日 | 「聖地チベット展」関連<br>cross fm×ａｌａｎ（アラン）ミュージアムコンサート | ミュージアムホール | 300 |
| | 5月12日～5月24日 | 「聖地チベット展」関連<br>四島司写真展「チベットの貌（かお）」 | エントランス | 49,300 |
| | 5月16日～5月17日 | 「聖地チベット展」関連<br>茶席 | エントランス | 167 |
| | 5月23日 | 「聖地チベット展」関連<br>曽布川寛講演会「チベット密教の世界」 | ミュージアムホール | 300 |
| | 5月30日～6月7日 | 張晶絵画展「チベットの美」２ | エントランス | 48,700 |
| | 6月6日 | 九州シルクロード協会2009年度第2回交流会<br>「天空の世界遺産都市・ラサにいたる神々の造形と表現」 | 研修室 | 30 |
| 国宝　阿修羅展 | 7月14日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>中村もときの通勤ラジオ　国宝阿修羅展開幕生放送 | エントランス | ― |
| | 7月18日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | ミュージアムホール | 250 |
| | 7月18日 | 「国宝 阿修羅展」開催記念イベント<br>JAのお米 めし丸くんpresents「阿修羅ウォーク」<br>～夕暮れの太宰府散策と九州国立博物館ナイトミュージアム～ | エントランス／ミュージアムホール | 1,369 |
| | 8月1日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 105 |
| | 8月2日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>記念講演会「国宝　阿修羅像について」<br>金子啓明：興福寺国宝館館長 | ミュージアムホール | 270 |
| | 8月8日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 80 |
| | 8月15日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 168 |
| | 8月22日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 114 |
| | 8月23日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>記念講演会「阿修羅像と光明皇后」<br>東野治之：奈良大学教授 | ミュージアムホール | 240 |
| | 9月12日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 73 |
| | 9月19日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 153 |
| | 9月20日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>記念講演会「興福寺創建と天平文化」<br>多川俊映：興福寺貫首(かんす) | ミュージアムホール | 165 |
| | 9月26日 | 「国宝 阿修羅展」関連<br>興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」 | 研修室 | 135 |
| 古代九州の国宝展 | 11月7日 | 「古代九州の国宝」開催記念<br>宗次郎～風と大地の音～コンサート | ミュージアムホール | 590 |
| | 11月8日 | 「古代九州の国宝」関連<br>シンポジウム「邪馬台国はここにあった」 | ミュージアムホール | 330 |
| | 11月8日 | 「古代九州の国宝」関連<br>セミナー「夜行貝とサンゴの海　その魅力とその再生」 | 研修室 | 32 |
| | 11月14日～11月15日 | 「古代九州の国宝」関連<br>NHKふれあい放送体験隊 | エントランス | 3,200 |
| | 11月15日 | 「古代九州の国宝」関連<br>シンポジウム「装飾古墳と科学」 | ミュージアムホール | 200 |
| | 11月21日～11月23日 | 「古代九州の国宝」関連 | エントランス | 414 |

| 展覧会名 | 期間 | イベント種類 | 会場 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| | | NHK さわってはかって考古クイズ | | |
| 京都　妙心寺展 | 1月9日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | 52 |
| | 1月10日 | 「京都妙心寺」関連<br>こども坐禅会 | 研修室 | 50 |
| | 1月10日 | 「京都妙心寺」関連<br>講演会「妙心寺と九州・琉球」<br>竹貫元勝：花園大学教授 | ミュージアムホール | 166 |
| | 1月11日 | 「京都妙心寺」関連<br>大般若会 | ミュージアムホール | 234 |
| | 1月11日 | 「京都妙心寺」関連<br>法話「禅 ―修行道場の生活」と大坐禅会<br>講師：梅林寺僧堂 東海大玄老師 | ミュージアムホール | 120 |
| | 1月13日～1月17日 | 「京都妙心寺」関連<br>妙心寺鐘・観世音寺鐘 一般公開（展示） | エントランス | 18,898 |
| | 1月16日 | 「京都妙心寺」関連<br>鳴鐘会（めいしょうえ） | エントランス | 2,200 |
| | 1月16日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | 25 |
| | 1月16日 | 「京都妙心寺」関連<br>特別講演会「龍の背に乗る」<br>玄侑宗久：作家・臨済宗妙心寺派福聚寺住職 | ミュージアムホール | 317 |
| | 1月17日 | 「京都妙心寺」関連<br>学術講演会「白隠の禅画について」<br>芳澤勝弘：花園大学国際禅学研究所教授 | ミュージアムホール | 134 |
| | 1月23日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | |
| | 1月30日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | |
| | 1月30日 | 「京都妙心寺」関連<br>禅講座「博多の仙厓さん」<br>講師：聖福寺僧堂 細川白峰老大師 | ミュージアムホール | 213 |
| | 1月31日 | 「京都妙心寺」関連<br>尺八コンサート「吹禅のひびき」 | ミュージアムホール | 350 |
| | 2月2日～2月11日 | 「京都妙心寺」関連<br>日展　福岡作家展「和のこころ」 | ミュージアムホール | |
| | 2月6日～2月7日 | 「京都妙心寺」関連<br>南方流　呈茶会 | エントランス | |
| | 2月6日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | |
| | 2月9日～2月14日 | 「京都妙心寺」関連<br>京都物産展 | エントランス | 34,000 |
| | 2月13日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | |
| | 2月13日 | 「京都妙心寺」関連<br>禅講座　講師：萬壽寺僧堂 佐々木道一老師 | ミュージアムホール | 330 |
| | 2月20日 | 「京都妙心寺」関連<br>坐禅会 | 研修室 | |

## 2-(2)-⑩ 「留学生の日」

| 館名・日程 | 内容 | アンケート結果概要 |
|---|---|---|
| 東京国立博物館<br><br>10 月 3 日(土)<br>9：30～17：00 | ○入館者　714 人《862 人》<br>留学生　635 人《852 人》<br>同伴者　79 人《 10 人》 (ALT 7 人を含む)<br><br>・博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」 50 人(2 回計)<br>・ボランティアによる茶会 108 人(3 回計)<br>・ボランティアによる英語ガイド<br>・講演会　74 人 | ・留学生アンケート回答者数 314 人<br>(回収率 44%)<br>・出身国：中国 43%、韓国 10%、アメリカ 10%、台湾 8%　他<br>・認知経路：学校関係者から 39%、ポスター26%、友達から 24%、チラシ 6%、ウェブ 5%<br>・参加したイベント：展示観覧のみ 51%、お茶会 12%、博物館紹介 14%、英語ガイド 9%、講演会 7% |
| 京都国立博物館<br><br>10 月 25 日(日)<br>9：30～18：00 | ○入館者　136 人《163 人》<br>留学生　132 人《159 人》<br>同伴者　4 人《 4 人》<br><br>・お茶会(11 時～14 時)<br>72 人《 81 人》<br>・特別展覧会「日蓮と法華の名宝」無料観覧 | ・留学生アンケート回答者数 33 人<br>(回収率 24%)<br>・初めて来館した人が 88%<br>・20%がポスター･チラシで知り、62%が先生･友達から聞いて来た<br>・出身国：約 7 割がアジア<br>・約 5 割がお茶会に参加<br>・お茶会の満足度　96%<br>・特別展の満足度　88%<br>・日本の歴史、美術に興味のある方が多い |
| 奈良国立博物館<br><br>11 月 2 日(月)<br>9：00～18：00<br>(正倉院展会期中、<br>9：00 開館) | ○入館者 13,334 人《15,485 人》<br>留学生　77 人《 75 人》<br><br>・「正倉院展」(特別展)及び平常展の無料観覧 | ・アンケート実施せず |
| 九州国立博物館<br><br>11 月 3 日(火・祝)<br>9：30～17：00 | ○入館者数<br>文化交流展(平常展)1,897 人《705 人》<br>留学生　316 人《39 人》<br><br>・平常展のみ無料観覧<br>・きゅーはくミュージアムコンサート(和太鼓コンサート、ワークショップ)<br>・きもの体験、茶道体験 | ・留学生アンケート回答者数 73 人<br>(回収率 23%)<br>・出身国：中国 60%、台湾・スウェーデン・ネパール各 9%　他<br>・始めて来館した人　91%<br>・認知経路：学校関係者から 81%<br>・来館理由：日本文化をもっと知りたいから 51%<br>・参加イベント：どれにも参加していない 48%、和太鼓ワークショップ　27%、きもの体験 10%、茶道体験　9%<br>・文化交流展満足度：94%(とてもよかった、よかったを合算) |

＊入館者数：《　》内は平成 20 年度

## 2-(3) 快適な観覧環境の提供

### 2-(3)-① 高齢者、身体障害者等に配慮した設備等

| | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 障害者用トイレ | 9か所<br>（本館4、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1） | 5か所<br>（特別展示館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、正門1、屋外トイレ1、文化財保存修理所1 | 3か所<br>（東新館1、地下回廊2） | 6 か所<br>（本体建物） |
| 障害者用エレベータ | 7基<br>（本館2、平成館1、東洋館3、法隆寺宝物館1） | 昇降装置1基<br>（管理棟1） | 4基<br>（本館1、本館附属棟1、東新館1、西新館1） | 2 基<br>（本体建物） |
| スロープ | 4か所<br>（本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館） | 3か所<br>（南門施設1、本館1、文化財保存修理所1） | 3か所<br>（本館1、本館附属棟1、西新館1） | — |
| ハンディキャップ優先駐車場 | 2台 | 3台 | — | 3 台 |
| 車椅子 | 13台<br>（本館2台、東洋館1、平成館7、法隆寺宝物館1、表慶館1、正門1） | 16台 | 11台 | 20 台 |
| 乳幼児用設備 | ○ベビーシート 15か所<br>○ベビーチェア 9か所 | ○ベビーカー 6台<br>○ベビーシート 5か所<br>○チャイルドシート 2か所 | ○ベビーシート 2か所 | ○ベビーシート 12か所<br>○ベビーチェア 5 か所 |
| 21年度整備事項 | ・柳瀬荘にスロープを設置した。 | | ・本館附属棟手摺を老朽化のため刷新した。 | |

### 2-(3)-② 音声ガイド実施状況

| 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|
| ・特別展<br>「国宝 阿修羅展」<br>4/1以降: 173,192台<br>（会期中(3/31～)： 174,903台） | ・特別展<br>「妙心寺」<br>（日本語版・一般向け）<br>4/1以降：9,960台<br>（会期中(3/24～)：10,988台） | ・特別展<br>「国宝 鑑真和上展」<br>（日本語版・一般向け）<br>9,592台 | ・文化交流展示<br>5,326台<br>（英語版 1,897）<br>（中国語版 1,197）<br>（韓国語版 2,232） |
| ・特別展<br>「伊勢神宮と神々の美術」<br>25,147台 | ・特別展<br>「シルクロード 文字を辿って」<br>（日本語版・一般向け）<br>2,894台 | ・特別展<br>「聖地寧波」<br>（日本語版・一般向け）<br>2,463台 | ・特別展<br>「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」<br>18,208台 |
| ・特別展<br>「染付－藍が彩るアジアの器展」<br>5,716台 | ・特別展<br>「日蓮と法華の名宝」<br>（日本語版・一般向け）<br>17,087台 | ・特別展<br>「第61回正倉院展」<br>（日本語版・一般向け）<br>38,926台<br>（英語版・一般向け）<br>629台<br>（日本語版・子供向け）<br>360台 | ・特別展<br>「興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展」<br>90,720台 |
| ・特別展<br>「皇室の名宝－日本美の華－」<br>85,665台 | ・特別展<br>「THE ハプスブルク」<br>（日本語版・一般向け）<br>48,856台 | | ・特別展<br>「古代九州の国宝」<br>8,894台 |
| ・特別展<br>「国宝 土偶展」<br>15,938台 | | | ・特別展<br>「京都 妙心寺 禅の至宝と九州・琉球」<br>16,011台 |
| ・特別展<br>「長谷川等伯」<br>55,243台 | | | |

# 3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

## 3-(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

### 3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

### 3-(1)-② 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-④

### 3-(1)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-⑤

### 3-(1)-④ シンポジウム開催実績一覧

| 合計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 13件 | 4件 | 2件 | 3件 | 4件 |

**【東京国立博物館】**

○平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業　古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流　ワークショップ「古代染織品の保管と公開」

開 催 日　12月19日
開催場所　東京国立博物館会議室
主　　催　東京国立博物館
参加人数　30人
事業内容　上代裂を含む古代染織品の収蔵・保管と公開について、専門家向けのワークショップを行った。上代裂に関する修理方法は当館では確立されていないため、各分野の研究者からの新知見を共有し、将来的な修理方法の検討に役立てることを目的として開催した。それぞれの発表から触発された内容について質問や意見交換を行い、熱心な議論が交わされた。

○平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業　古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流　シンポジウム「上代裂をまもる」

開 催 日　12月20日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　217人
事業内容　研究者はもとより一般の方々にも上代裂に関する理解を深めてもらえるよう、上代裂を中心とした古代染織品の保存・活用・普及に役立てることを目的として開催した。世界各地の古代染織品に関する国内外の染織史研究者、保存科学者、保存修復家などが集まり、製作技法や修理技術について討議し、古代染織品に対する認識を深めた。

○公開シンポジウム　文化財をまもるー文化財のまもり手を育てるー（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」）

開 催 日　平成22年1月16日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　文化財保存修復学会、東京国立博物館
参加人数　266人
事業内容　文化財の保護は未来永劫に続く活動であり、保存修復専門家の後継者育成は避けて通れない重要なテーマである。講演等によってその歴史や現状、課題に迫り、同じ文化を背負っている同時代人と共に考え理解を深めることは有意義である。これから文化財保護の世界を目指す若い世代に情報発信することで様々な指針を与えることを目的とする。

○博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」

開 催 日　平成22年1月24日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　170人
事業内容　2006年度から2009年度にかけて助成を得た基盤研究（A）「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築」（研究代表者：井上洋一）の研究の一環として行った。第一部では東京国立博物館の事例を、第二部では国内１、国外３館の独創的な取り組みを紹介。パネルディスカッションにより、標記の問題につき、さまざまな可能性を探った。大講堂前のロビーにおいてポスターセッションを実施し、各館の具体的な事業を体験する場とした。

**【京都国立博物館】**

○国際シンポジウム『法華の人と文化―その行動と思想―』

開 催 日　11月14日
開催場所　京都市勧業館みやこめっせ
主　　催　京都国立博物館
参加人数　288人
事業内容　特別展覧会「日蓮と法華の名宝」開催を記念し、国内外の高名な研究者三方をお招きして、日蓮及びその前後にわたる法華の人と文化とをそれぞれの観点から語っていただき、日蓮の法華信仰の歴史的な意義に迫る。研究発表の第一部とパネル・ディスカッションの第二部からなる。

○ワークショップ『中国近代絵画研究者国際交流集会』
開 催 日　12月16日・17日
開催場所　国立京都国際会館
主　　催　京都国立博物館
参加人数　54人
事業内容　文化庁平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関連して、国内外から研究者18名（うち海外より16名）をお招きし、2日間にわたって中国近代絵画に関する公開シンポジウムを行った。

**【奈良国立博物館】**
○「鑑真和上・唐招提寺フォーラム2009」
開 催 日　5月2日
開催場所　神戸新聞松方ホール
主　　催　奈良国立博物館・唐招提寺・TBS・朝日新聞社
後　　援　近畿日本鉄道株式会社
参加人数　385名
事業内容　特別展「国宝　鑑真和上展」の開催と、3月の阪神なんば線の開通によって神戸と奈良が一本の鉄路で結ばれたことを記念し、鑑真和上の生涯・功績と、唐招提寺金堂の平成大修理の意義を主題として開催した。当館学芸部長を含む3名のパネリストによる研究発表と、鑑真和上の苦難の渡日をテーマにした小説「天平の甍」の朗読（女優・紺野美沙子氏）を行い、以上4名で座談会を行った。

○国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」
開 催 日　8月8日・9日
開催場所　奈良国立博物館講堂
主　　催　奈良国立博物館・平成17～21年度文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とする学際的創生―」
後　　援　美術史学会・読売新聞大阪本社・寧波旅日同郷会
参加人数　197名
事業内容　特別展「聖地寧波－日本仏教1300年の源流」の開催を記念し、上記研究プロジェクトと共催で開催した。第一日は「寧波をめぐる舎利信仰と美術」、第二日は大徳寺五百羅漢図とその成立背景」をテーマとし、両日とも基調講演（講師1名）と3名の研究者による研究発表、及び右の4名にコメンテーターを加えた5名による、パネルディスカッションを行った。当館からは2名が、また第一線で活躍中の外国人研究者4名（米国・中国・台湾）が登壇（基調講演・研究発表・討論司会）した。

○正倉院学術シンポジウム2009「皇室と正倉院宝物」
開 催 日　10月31日
開催場所　奈良県新公会堂
主　　催　奈良国立博物館
後　　援　読売新聞大阪本社
参加人数　184名
事業内容　「第61回　正倉院展」の開催とご即位20年を記念し、奈良時代から今日に至るまでの皇室と正倉院宝物の関わりを主題として開催した。第一部は当館研究員2名を含む研究者4名による研究発表を行い、第二部は右の4名に司会者を加えたパネルディスカッションを行って、当該テーマについての議論を深めた。

**【九州国立博物館】**
○特別展「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「邪馬台国はここにあった」
開 催 日　平成21年11月8日
開催場所　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
共　　催　(財)九州国立博物館振興財団
参加者数　330人
事業内容　近畿か九州かで大きく意見が分かれて論争が続く邪馬台国の所在地について、畿内説の有力候補地である奈良県桜井市纒向（まきむく）遺跡と、九州説の吉野ヶ里遺跡の発掘研究の専門家による邪馬台国研究の最前線の紹介や、在野の４人の研究家たちによる自説発表。

○特別展「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「装飾古墳と科学」

開 催 日　　平成21年11月15日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
共　　催　　(財)九州国立博物館振興財団
参加者数　　200人
事業内容　　第１部「装飾古墳とは何か」第２部「装飾古墳を科学する」の２部構成にて各地の研究者を交えてのパネルディスカッション。

○公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」

開 催 日　　平成21年11月28日～29日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館（平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業）
連携協力機関　　太宰府市文化ふれあい館、筑紫野市歴史博物館、福岡県立美術館、久留米大学比較文化研究所、ＮＰＯ法人文化財保存活用支援センター、ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター
参加者数　　190人
事業内容　　ミュージアムＩＰＭ（総合的有害生物管理）の重要性・必要性を広く社会に発信すると共に、市民活動の成果を照会し、その担い手である支援者からのメッセージを地域社会へ伝える。

○トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流」関連　　国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」

開 催 日　　平成22年3月14日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
後　　援　　駐福岡大韓民国総領事館、（財）九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、九州文化財国際交流基金
参加者数　　300人
事業内容　　日本及び韓国における巨大な仏画の用いられ方の紹介や、佐賀・高伝寺所蔵の大涅槃図の修理をはじめとする、日韓の仏画の修理に関する最新事例を報告するシンポジウムを開催した。

## 3-(2) 海外研究者の招聘

### 3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料a-①

## 3-(3) 公私立博物館等への貸与の推進

### 3-(3)-① 公私立博物館等への収蔵品貸与件数

平成22年3月31日現在

| | | 国立博物館計 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計 | 国内 | 海外 | 計 | 国内 | 海外 | 計 | 国内 | 海外 | 計 | 国内 | 海外 | 計 | 国内 | 海外 |
| 貸与先件数 | | 248 | 239 | 9 | 124 | 119 | 5 | 68 | 66 | 2 | 34 | 33 | 1 | 22 | 21 | 1 |
| 合　　計 | | 1,729 | 1,508 | 221 | 1104 | 913 | 191 | 428 | 400 | 28 | 108 | 107 | 1 | 89 | 88 | 1 |
| 絵画 | | 436 | 418 | 18 | 181 | 168 | 13 | 206 | 202 | 4 | 47 | 47 | 0 | 2 | 1 | 1 |
| 書跡 | | 78 | 71 | 7 | 21 | 14 | 7 | 48 | 48 | 0 | 9 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 彫刻 | | 124 | 119 | 5 | 102 | 97 | 5 | 7 | 7 | 0 | 15 | 15 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建築 | | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 金工 | | 98 | 88 | 10 | 66 | 65 | 1 | 23 | 15 | 8 | 6 | 5 | 1 | 3 | 3 | 0 |
| 刀剣 | | 121 | 19 | 102 | 121 | 19 | 102 | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 陶磁 | | 103 | 83 | 20 | 35 | 23 | 12 | 64 | 56 | 8 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 0 |
| 漆工 | | 92 | 67 | 25 | 60 | 39 | 21 | 31 | 27 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 染織 | | 102 | 84 | 18 | 74 | 60 | 14 | 28 | 24 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 考古 | | 414 | 404 | 10 | 286 | 276 | 10 | 20 | 20 | 0 | 30 | 30 | 0 | 78 | 78 | 0 |
| 民族資料 | | 13 | 13 | 0 | 12 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 歴史資料 | | 11 | 11 | 0 | 11 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 和書 | | 12 | 11 | 1 | 12 | 11 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 東洋 | 絵画 | 23 | 23 | 0 | 23 | 23 | 0 | | | | | | | | | |
| | 書跡 | 4 | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 | | | | | | | | | |
| | 彫刻 | 8 | 3 | 5 | 8 | 3 | 5 | | | | | | | | | |
| | 金工 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| | 陶磁 | 44 | 44 | 0 | 44 | 44 | 0 | | | | | | | | | |
| | 漆工 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| | 染織 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| | 考古 | 21 | 21 | 0 | 21 | 21 | 0 | | | | | | | | | |
| | 民族 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 法隆寺献納宝物 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 黒田記念館収蔵品 | | 22 | 22 | 0 | 22 | 22 | 0 | | | | | | | | | |

**付表・貸与件数の推移**

| | | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 貸与先件数 | | 264 | 276 | 279 | 257 | 248 |
| 合　　計 | | 1,761 | 1,991 | 1,737 | 1,585 | 1,729 |
| 絵画 | | 535 | 558 | 449 | 273 | 436 |
| 書跡 | | 131 | 79 | 114 | 81 | 78 |
| 彫刻 | | 110 | 79 | 127 | 168 | 124 |
| 建築 | | 16 | 0 | 2 | 6 | 3 |
| 金工 | | 119 | 143 | 113 | 110 | 98 |
| 刀剣 | | 40 | 61 | 18 | 76 | 121 |
| 陶磁 | | 161 | 223 | 206 | 100 | 103 |
| 漆工 | | 118 | 94 | 52 | 91 | 92 |
| 染織 | | 91 | 167 | 92 | 403 | 102 |
| 考古 | | 252 | 260 | 275 | 183 | 414 |
| 民族資料 | | 25 | 31 | 4 | 0 | 13 |
| 歴史資料 | | 36 | 22 | 13 | 23 | 11 |
| 和書 | | 13 | 30 | 15 | 12 | 12 |
| （写真） | | 5 | | | | |
| 東洋 | 絵画 | 11 | 12 | 18 | 21 | 23 |
| | 書跡 | 16 | 23 | 23 | 3 | 4 |
| | 彫刻 | 7 | 5 | 50 | 15 | 8 |
| | 金工 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 陶磁 | 39 | 129 | 141 | 5 | 44 |
| | 漆工 | 0 | 8 | 0 | 2 | 0 |
| | 染織 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| | 考古 | 32 | 58 | 22 | 12 | 21 |
| | 民族 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法隆寺献納宝物 | | 4 | 2 | 3 | 1 | 0 |
| 黒田記念館収蔵品 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 |

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

### 3-(3)-② 海外への列品貸与

**【東京国立博物館】**

| 展覧会名称 | 申請者 【 会場 】 | 貸与期間 | 種別・員数 |
|---|---|---|---|
| 「サムライの美術－東京国立博物館精選」 | 東京国立博物館･バウワーズ博物館【バウワーズ博物館（アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタアナ市)】 | 21 年 4 月 19 日～<br>6 月 14 日 | 81 件<br>(絵画 2 件、彫刻 3 件、金工 1 件、刀剣 41 件、陶磁 10 件､漆工 14 件、染織 10 件) |
| 文化庁海外展「The Power of Dogu （土偶展)」 | 文化庁・東京国立博物館・大英博物館ほか【大英博物館(イギリス・ロンドン市)】 | 21 年 9 月 10 日～<br>11 月 22 日 | 考古 8[3]件 |
| 文化庁海外展「侍の芸術」 | 文化庁・東京国立博物館・メトロポリタン美術館ほか【メトロポリタン美術館（アメリカ合衆国ニューヨーク市】 | 21 年 10 月 20 日～<br>22 年 1 月 10 日 | 55 件<br>(刀剣 50 件､漆工 2 件、考古 2 件、和書 1 件) |
| 「日本・その力と輝き 1568-1868」 | モッタ社【パラッツオレアーレ(イタリア共和国ミラノ市)】 | 21 年 12 月 7 日～<br>22 年 3 月 8 日 | 43 件<br>(絵画 11[1]件、書跡 7 件、彫刻 2 件、刀剣 12 件、陶磁 2 件、漆工 5 件、染織 4 件) |
| 「東南アジア展示」 | 韓国国立中央博物館 | 22 年 3 月 2 日～<br>24 年 2 月 26 日 | 東洋彫刻 5 件 |

**【京都国立博物館】**

| 展覧会名称 | 申請者 【 会場 】 | 貸与期間 | 種別・員数 |
|---|---|---|---|
| 文化庁主催「侍の芸術」展 | メトロポリタン美術館 | 21 年 9 月 15 日～ | 金工 8 件 |
| 展覧会「Japan Power And Splendour 1568-1868」 | パラッツォリアーレ （イタリア・ミラノ市） | 21 年 11 月 4 日～ | 20 件<br>(絵画 4 件、陶磁 8 件、漆工 4 件、染織 4 件) |

**【奈良国立博物館】**

| 展覧会名称 | 申請者 【 会場 】 | 貸与期間 | 種別・員数 |
|---|---|---|---|
| メトロポリタン美術館<br>文化庁主催展「侍の芸術－日本の武器、武具、1156－1868」 | 文化庁長官 青木保<br>【メトロポリタン美術館】 | 21年10月21日～<br>22年1月10日 | 金工1件[1件] |

**【九州国立博物館】**

| 展覧会名称 | 申請者 【 会場 】 | 貸与期間 | 種別・員数 |
|---|---|---|---|
| メトロポリタン美術館<br>特別展「朝鮮王朝前期の韓国美術 1400 年～1600 年」 | メトロポリタン美術館 | 21 年 5 月 13 日～<br>7 月 10 日 | 絵画 1 件 |

※[ ]は寄託品

### 3-(3)-③ 考古の相互貸借実績

**【東京国立博物館】**

| 貸与先名 | 貸与件数 | 借用件数 |
|---|---|---|
| 茨城県立歴史館 | 16 件 | 14 件 |
| 埼玉県立さきたま史跡の博物館 | 11 件 | 16 件 |

**【奈良国立博物館】**

| 貸与先名 | 貸与件数 | 借用件数 |
|---|---|---|
| 出雲歴史博物館（島根県） | 1 件 | 3 件 |

**【九州国立博物館】**

| 貸与先名 | 貸与件数 | 借用件数 |
|---|---|---|
| 伊達市噴火湾文化研究所（北海道） | 7 件 | 8 件 |
| 奄美市奄美博物館（鹿児島） | 18 件 | 9 件 |

## 3-(4) 公私立博物館等に対する援助・助言の推進

### 3-(4)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

| 計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 317件 | 139件 | 114件 | 25件 | 39件 |

**【東京国立博物館】**

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 東京文化財研究所 | 在外古美術品保存修復協力事業運営委員会 | 4月13日、5月28日、12月17日 | 学芸企画部長　松本伸之 |
| 2 | 東京国立近代美術館 | 東京国立近代美術館評議委員会（美術・工芸部会） | 7月7日 | 学芸企画部長　松本伸之 |
| 3 | 四国民家博物館四国村ギャラリー | 企画展「仏像礼賛」監修及び展示指導 | 4月23日～25日 | 学芸企画部長　松本伸之 |
| 4 | 寧夏博物館（中国・寧夏回族自治区銀川市） | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師 | 11月24日～28日 | 学芸企画部長　松本伸之 |
| 5 | 静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 西の谷遺跡の銅鐸に関する助言 | 12月18日 | 企画課長　井上洋一 |
| 6 | 文化庁 | 美術品の貸借に係る諸課題に関する調査研究協力者会議委員 | 4月28日、5月26日、6月17日、6月30日、7月8日 | 企画課長　井上洋一 |
| 7 | 国際協力機構（JICA）・日本国際協力センター（JICE） | 「スリランカ博物館研究員研修」講師 | 22年1月14日 | 企画課長　井上洋一 |
| 8 | 文化庁 | 「個人所有の国指定文化財（美術工芸品）保存情報構築事業」事業に係る企画審査委員 | 書類審査のみ | 企画課長　井上洋一 |
| 9 | サントリー美術館 | 特別展「天地人」展示指導 | 5月24日、6月23日、7月14日 | 企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉 |
| 10 | 静岡県教育委員会 | 江川文庫西蔵文書記録等調査 | 7月24～26日、12月19～20日 | 企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉 |
| 11 | 国立歴史民俗博物館 | 資料買取評価委員 | 22年3月19日 | 企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉 |
| 12 | 町田市生涯学習部公民館 | 2009年度「ことぶき大学　美術コース」「講義・横山大観入門」講師 | 5月29日、7月24日、7月31日、8月21日、8月28日、9月4日 | 企画課特別展室任期付研究員　植田彩芳子 |
| 13 | 國立臺南藝術大學 | 2009 年招生簡章《行政院文化建設委員會博物館專業課程計畫》《博物館展示與照明》 | 5月6日～10日 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 14 | 文化庁 文化財部美術学芸課 | 「企画展示セミナー」東日本会場「展示構成と会場デザイン」講義 | 7月1日 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 15 | 文化庁 文化部芸術文化課 | 文化庁芸術祭賞贈呈式及び祝賀会（東京会場）の実施に係る技術審査委員 | 6月～７月 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 16 | 文化庁 文化部芸術文化課 | 文化庁芸術祭賞贈呈式及び祝賀会（大阪会場）の実施に係る技術審査委員 | 6月～７月 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 17 | 東京文化財研究所 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師 | 11月2日～11月6日 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 18 | 富山ガラス造形研究所 | ガラス展示等に関わる特別授業《Treasure×Pleasure 博物館の楽しみ方》 | 11月27日 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 19 | 新潟市美術館 | 「中宮寺 国宝 菩薩半跏像」公開（「奈良の古寺と仏像」展）に関する調査についての協力 | 22年2月4日 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 20 | 河鍋暁斎記念美術館 | 随龍山了院寺（天台宗）作品調査 | 12月10日 | 企画課出版企画室長　立道惠子 |
| 21 | 国立民族学博物館 | 平成21年度「博物館学集中コース」見学研修講師 | 12月4日 | 企画課国際交流室長　鬼頭智美 |
| 22 | ルーブル美術館 | 来館者数および来館者傾向調査と分析について | 4月8日、5月11日 | 企画課国際交流室研究員　遠藤楽子 |
| 23 | パラッツォ･レアーレ（イタリア） | 「日本・その力と輝き　1568-1868」展撤収に関する援助 | 22年3月5日～12日 | 企画課国際交流室研究員　遠藤楽子 |
| 24 | 神奈川県教育委員会 | 神奈川県文化財保護審議委員会委員（工芸分野担当） | 4月１日～22年3月31日 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 25 | 横浜市教育委員会 | 横浜市文化財保護審議委員会委員（工芸分野担当） | 4月１日～22年3月31日 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 26 | 全国高等学校美術工芸教育研究会 | 全国高等学校美術工芸教育研究会講師「東京国立博物館の歴史と現在」 | 7月30日 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 27 | 台東区教育委員会 | 台東区登録文化財調査 | 8月11日 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 28 | 中国文化遺産研究院 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師 | 11月10･11日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 29 | 日本芸術文化振興会 | 「日独青少年指導セミナー」での解説・学校連携の助言 | 9月20日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 30 | NPO 法人ミュージアム研究会、九州大学 | ワークショップ協力・展示制作協力 | 11月14日～22年3月31日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 31 | Glasgow Museums | フリーペーパー「Preview」執筆協力 | 22年1月1日～3月31日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 32 | National Museum of Australia | 東京国立博物館教育普及事業の紹介・助言、日豪連携プログラムの提案・助言 | 22年1月27日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり<br>博物館教育課教育講座室研究員　神辺知加<br>博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織 |
| 33 | 大田区立龍子記念館 | 展覧会関連教育普及資料の貸与、指導・助言 | 22年2月6日～14日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 34 | Hunterian Museum and Art Gallery 、 Archive Services（Glasgow） | 教育普及事業・ワークショップ用ツールの紹介、指導・助言 | 22年2月17日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 35 | 船の科学館 | 「第三回博学連携ワークショップ」実行委員 | 22年3月6日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 36 | 佐野美術館・大阪歴史博物館 | ワークショッププログラム指導・助言 | 22年3月11日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 37 | 美術館連絡協議会 | 学校向けプログラムの紹介・助言 | 22年3月11日 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり |
| 38 | 茨城県近代美術館 | ボランティア研修会で当館のボランティアシステムの在り方について発表 | 22年3月8日 | 博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織 |
| 39 | 国立歴史民俗博物館 | デジタル画像の管理と活用に関する助言 | 22年2月10日 | 博物館情報課情報管理室研究員　村田良二 |
| 40 | 東京大学大学院人文社会系研究科日本史学研究室 | 資料館見学(利用・閲覧方法の説明) | 4月28日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 41 | 清泉女子大学 | 資料館見学(利用・閲覧方法の説明) | 7月28日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 42 | 青山学院大学 | 資料館見学(利用・閲覧方法の説明) | 10月13日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 43 | 大東文化大学 | 大学の授業の一部としての資料館見学 | 10月27日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 44 | 学習院大学アーカイブズ学専攻 | 資料館見学 | 10月27日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 45 | 国立国会図書館 | 「国立国会図書館平成 21 年度 3 級研修外部機関実習」 | 11月5日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 46 | 全国美術館会議 | 美術情報・資料の活用法－展覧会カタログからWebまで－（全国美術館会議　情報・資料研究部会企画セミナー）第1講「展覧会カタログ」講師 | 11月10日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広　昭子 |
| 47 | 全国美術館会議情報資料部会 | 資料館見学（書庫、整理室、閲覧室） | 11月10日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 48 | アート・ドキュメンテーション学会 | 資料館見学（書庫、整理室、閲覧室） | 12月4日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 49 | 専門図書館協議会関東地区協議会 | 見学会：博物館における情報資料と資料館の役割（説明）と資料館見学 | 3月5日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 50 | 全国美術館会議情報資料部会 | 第 25 回学芸員研修会「美術館の情報発信」の企画・実施にスタッフとして参加 | 3月12日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 51 | 山口県史編纂室 | 写真資料の保存と整理、データ作成および提供について | 3月17日 | 博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子 |
| 52 | 東京文化財研究所 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師 | 11月9日 | 学芸企画部広報室長<br>小林牧 |
| 53 | 国立国会図書館 | 「国立国会図書館平成21年度3級研修外部機関実習」 | 11月5日 | 学芸企画部広報室長<br>小林牧 |
| 54 | 東京文化財研究所 | 在外古美術品保存修復協力事業運営委員会 | 4月13日、5月28日、12月17日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 55 | 九州国立博物館 | 九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会 | 5月22日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 56 | 高知県 | 山内家資料の保存等検討委員会 | 6月4日、9月16～17日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 57 | 京都国立博物館 | 第31回京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会 | 6月8日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 58 | 高梁市 | 高梁市市政アドバイザー | 7月30日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 59 | 毎日新聞社 | 2010年「現代の書　新春展」選考委員会 | 7月31日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 60 | (財)日本博物館協会 | 文部科学省委託「図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業における博物館倫理規定に関する調研究」委員会 | 8月24日、10月22日、11月12日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 61 | 奈良国立博物館 | 奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会 | 22年3月25日 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 62 | 文化庁 | 文化財買取評価委員 | 9月14日 | 上席研究員　岩佐光晴 |
| 63 | 佐久市教育委員会 | 佐久市所蔵の甲冑武具等資料の調査指導 | 8月3日、22年1月13日 | 上席研究員　池田　宏 |
| 64 | メトロポリタン美術館 | 「侍の芸術」展の作品の輸送随伴、開梱、展示作業 | 10月2日～21日 | 上席研究員　池田　宏 |
| 65 | 千葉県伝統工芸品産業振興協議会 | 千葉県伝統工芸品産業振興協議会・審査会 | 11月30日 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 66 | 宮内庁正倉院事務所 | 正倉院宝物模造品作製事前調査委員(調査結果について、A４で17頁の報告書を提出) | 11月3日～11月6日 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 67 | 奈良文化財研究所 | 平成21年度埋蔵文化財担当者専門研修「保存化学Ⅱ(有機質遺物)課程」にかかる講師 | 10月27日 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 68 | 読売新聞西部本社 | 「正倉院フォーラム2009　福岡」パネリスト | 9月5日 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 69 | 文化庁 | 文化審議会文化財分科会第一専門調査会 | 22年3月2日～4日 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 70 | 神奈川県教育委員会 | 神奈川県文化財保護審議委員会委員（考古分野担当） | 4月17日、7月24日、10月23日、22年1月5、15日 | 特任研究員　望月幹夫 |
| 71 | 厚木市史編集委員会 | 厚木市史編さん事業に関する調査･助言 | 6月21日、12月20日、22年3月14日 | 特任研究員　望月幹夫 |
| 72 | 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 | 長柄桜山1号墳の発掘調査・整備に関する助言 | 8月5日、10月20日、22年2月1日、22年3月30日 | 特任研究員　望月幹夫 |
| 73 | 秦野市教育委員会 | 二子塚古墳の発掘調査に関する助言 | 22年3月30日 | 特任研究員　望月幹夫 |
| 74 | 日本郵政株式会社　郵政資料館 | 郵政資料館の所蔵資料を活用した郵政の歴史・文化に関する研究会 | 10月29日、22年3月11日 | 列品管理課登録室長　田良島哲 |
| 75 | 文化庁 | 「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」選定委員 | 書類審査のみ | 列品管理課登録室長　田良島哲 |
| 76 | 文化庁 | 「文化遺産オンライン」の運営に関する検討会委員 | 6月3日、12月21日 | 列品管理課登録室長　田良島哲 |
| 77 | 日本橋区民センター | 「長谷川等伯展」関連文化講演会講師 | 22年2月27日 | 列品管理課平常展調整室研究員　瀬谷愛 |
| 78 | 国立歴史博物館 | 国立歴史博物館展示プロジェクト会議 | 5月10日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 79 | 天理大学 | 平成21年度科研共同研究会議・資料調査 | 5月16・17日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 80 | 野田市史編委員会 | 市史関連遺跡調査(我孫子地区) | 7月26日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 81 | 群馬県立歴史博物館 | 指定品(国宝)梱包指導・点検 | 9月1日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 82 | 野田市史編委員会 | 市史編纂委員会会議(考古・自然部会合同) | 9月11日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 83 | 天理大学 | 平成21年度科研共同研究会議・資料調査 | 9月21・22日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 84 | 九州国立博物館 | 指定品(国宝)展示指導・点検 | 10月14・15日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 85 | 国立歴史博物館 | 国立歴史博物館展示プロジェクト会議 | 10月16日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 86 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 平成21年度科研共同研究会議 | 11月7・8日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 87 | 九州国立博物館 | 指定品(国宝)撤収・梱包指導・点検 | 12月3・4日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 88 | 野田市史編委員会 | 市史関連遺跡調査(沼南地区) | 12月20日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 89 | 国立歴史博物館 | 国立歴史博物館展示プロジェクト会議 | 22年2月14日 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅 |
| 90 | 国立能楽堂 | 特別講座「細見コレクションの世界」講師 | 22年1月16日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |
| 91 | 文化庁 | 文化財買取評価委員 | 22年2月3日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |
| 92 | 足立区生涯学習センター | 「長谷川等伯展」関連文化講演会講師 | 22年2月21日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |
| 93 | 新宿歴史博物館 | 「長谷川等伯展」関連文化講演会講師 | 22年2月28日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |
| 94 | なかのzero | 「長谷川等伯展」関連文化講演会講師 | 22年3月10日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |
| 95 | 川村記念美術館 | 花の絵と和歌のコラボレーション《色紙貼付桜山吹図屏風》の展示助言 | 22年3月27日 | 調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 96 | バウワーズ美術館 | 「サムライ展」にかかる展示、撤収 | 4月10日～21日，6月14日～25日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 97 | 東京文化財研究所 | 在外古美術品保存修復協力事業運営委員会 | 5月28日、12月17日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 98 | 東京文化財研究所 | 在外古美術品保存修復協力事業に係る調査 | 7月8日～16日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 99 | 全国高等学校美術工芸教育研究会 | 全国高等学校美術工芸教育研究会講師「蒔絵の歴史と鑑賞」 | 7月29日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 100 | ICCROM・東京文化財研究所 | 国際研修　漆の保存と修復2009<br>東京国立博物館展示室見学講師 | 9月3日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 101 | 国立歴史民俗博物館 | 買取評価（意見書） | 22年3月5日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 102 | 佐倉市 | 市内文化財に関する調査・指導 | 22年3月20日 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内奈美子 |
| 103 | バウワーズ美術館 | 「サムライ展」にかかる撤収 | 6月14日～25日 | 調査研究課工芸・考古室<br>研究員　酒井元樹 |
| 104 | メトロポリタン美術館 | 「ART OF SAMURAI」にかかる展示替 | 11月28日～12月15日 | 調査研究課工芸・考古室<br>研究員　酒井元樹 |
| 105 | 伊豆の国市教育委員会 | 大仁町史編さん事業に関する調査･助言 | 5月23・24日、11月28日、12月19・20日 | 調査研究課工芸・考古室<br>研究員　品川欣也 |
| 106 | 文化庁 | 文化財買取協議員 | 9月24日 | 調査研究課東洋室長<br>今井 敦 |
| 107 | 文化庁 | 文化財買取協議員 | 22年2月5日 | 調査研究課東洋室長<br>今井 敦 |
| 108 | NPO法人文化財保存機構 | 文化財保存専門家養成実践セミナー<br>講師 | 8月3日 | 保存修復課長　神庭信幸 |
| 109 | 岩手県立美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 平成20年4月23日～平成21年9月17日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 110 | 田川市美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 平成20年11月13日～平成21年10月23日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 111 | 岡山市立オリエント美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 平成20年12月25日～平成21年5月22日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 112 | メナード美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 1月21日～4月13日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 113 | ひろしま美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 2月12日～5月18日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 114 | 岡山県立美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 2月9日～4月13日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 115 | 三渓園 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 平成20年10月1日～平成21年5月11日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 116 | 川村記念美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 3月10日～6月4日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 117 | 神宮徴古館農業館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 4月2日～11月25日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 118 | 台東区立書道博物館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 4月15日～6月4日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 119 | 群馬立近代美術館 | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 6月12日～9月21日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 120 | Palazzo Reale(伊) | 作品の展示・保存環境についての調査・指導 | 5月12日～11月20日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 121 | East Asian Painting Conservation Studio of Freer Gallery of Art （フリアギャラリー） | 包括的保存に関するワークショップ | 10月26日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課保存修復室<br>アソシエイトフェロー　鈴木晴彦 |
| 122 | Asian Conservation of Museum of Fine Arts （ボストン美術館） | 包括的保存に関するワークショップ | 10月30日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課保存修復室<br>アソシエイトフェロー　鈴木晴彦 |
| 123 | Asian Art Conservation of Metropolitan Museum of Art (メトロポリタン美術館) | 包括的保存に関するワークショップ | 11月2日 | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課保存修復室<br>アソシエイトフェロー　鈴木晴彦 |
| 124 | 中国文化遺産研究院 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」研修コース講師 | 10月6･7日 | 保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 125 | NPO法人文化財保存機構 | 文化財保存専門家養成実践セミナー<br>講師 | 8月3日、9月7日 | 保存修復課環境保存室<br>主任研究員　和田浩 |
| 126 | NPO法人文化財保存機構 | 文化財保存専門家養成実践セミナー<br>講師 | 8月10日 | 保存修復課保存修復室<br>主任研究員　土屋裕子 |
| 127 | 東京文化財研究所 | 保存担当学芸員研修講師 | 7月21日 | 保存修復課保存修復室<br>主任研究員　土屋裕子 |
| 128 | 水戸市教育委員会 | 水戸市史跡等整備検討委員会 | 22年1月12日 | 保存修復課保存修復室<br>主任研究員　　日高　慎 |
| 129 | 下野市教育委員会 | 甲塚古墳保存整備委員会 | 22年3月1日 | 保存修復課保存修復室<br>主任研究員　　日高　慎 |
| 130 | NPO法人文化財保存機構 | 文化財保存専門家養成実践セミナー　講義「対症修理」講師 | 9月9日 | 保存修復課保存修復室<br>アソシエイトフェロー 鈴木晴彦 |
| 131 | 文化庁 | 文化審議会文化財文化会（第一専門調査会専門委員） | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 132 | 文化庁 | 文化審議会文化財文化会（第四専門調査会専門委員） | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 133 | 鎌倉市教育委員会 | 鎌倉市文化財保護審議会委員 | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 134 | 市原市教育委員会 | 市原市文化財保護審議会委員 | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 135 | 東京都教育委員会 | 東京都文化財保護審議会委員 | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 136 | 千葉県教育委員会 | 千葉県文化財保護審議会委員 | 4月1日～22年3月31日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 137 | バワーズ美術館 | 日本工芸作品の展示指導 | 4月9日～21日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 138 | 文化庁 | 作刀技術講習会講師 | 5月26日 | 上席研究員　原田一敏 |
| 139 | メトロポリタン美術館 | 「サムライの美術」展作品撤収 | 22年1月8日～20日 | 上席研究員　原田一敏 |

**【京都国立博物館】**

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 天橋立世界遺産登録可能性検討委員会 | 天橋立世界遺産登録可能性検討委員会学識者ワーキング | H21.4.8 | 山本　英男 |
| 2 | 愛知県総務部 | 平成２１年度第１回愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議 | H21.4.27 | 山川　暁 |
| 3 | 財団法人大和文華館 | 美術評価委員 | H21.4.28 | 山下　善也 |
| 4 | 文化財保存修復学会 | 有限責任中間法人文化財保存修復学会理事会 | H21.5.19 | 村上　隆 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 佐渡市 | 平成２１年度佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会等 | H21.6.24-27 | 村上　隆 |
| 6 | 沖縄県教育委員会 | 平成２１年度沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査に係る第１回会議及び第１回現地調査 | H21.6.15-17 | 久保　智康 |
| 7 | 国宝修理装こう師連盟 | 平成２１年度第１回試験準備委員会 | H21.7.10-11 | 村上　隆 |
| 8 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会 | H21.7.24 | 若杉　準治 |
| 9 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会 | H21.7.24 | 山川　暁 |
| 10 | 東京文化財研究所 | 保存修復科学センター小委員会 | H21.8.19 | 村上　隆 |
| 11 | 名古屋市資料調査研究会 | 「新修名古屋市史」資料編「考古２」編さんにかかる「考古部会」出席 | H21.7.23 | 尾野　善裕 |
| 12 | 島根県教育委員会 | 第３回石見銀山遺跡調査活用委員会 | H21.7.17 | 村上　隆 |
| 13 | 佐渡市 | 平成２１年度佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会等 | H21.9.6-8 | 村上　隆 |
| 14 | 財団法人大和文華館 | 美術評価委員 | H21.8.4 | 山本　英男 |
| 15 | 文化財保存修復学会 | 一般社団法人文化財保存修復学会理事会 | H21.8.18 | 村上　隆 |
| 16 | 京都文化博物館 | 寄附申出資料評価 | H21.8.5 | 山川　暁 |
| 17 | 国宝修理装こう師連盟 | 平成２１年度第２回試験準備委員会 | H21.8.28 | 村上　隆 |
| 18 | 文化財保存修復学会 | 文化財保存修復学会第３２回大会打合せ会議 | H21.8.26 | 村上　隆 |
| 19 | 伊丹市文化財審議委員会 | 平成２１年度伊丹市文化財審議委員会の出席 | H21.8.31 | 中村　康 |
| 20 | 京都教育大学 | 鑑賞教育研究プロジェクト平成２１年度第２回会議 | H21.9.5 | 羽田　聡 |
| 21 | 文化財保存修復学会 | 一般社団法人文化財保存修復学会理事会 | H21.10.21 | 村上　隆 |
| 22 | 文化庁 | 文化財の買取評価員の委嘱 | H21.9.14 | 淺湫　毅 |
| 23 | 元離宮二条城事務所 | 二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会 | H21.10.16 | 山下　善也 |
| 24 | 岡山県立美術館 | 岡山県立美術館美術品収集評価委員会 | H21.10.3 | 山下　善也 |
| 25 | 国宝修理装こう師連盟 | 平成２１年度第３回試験準備委員会・第１次試験 | H21.9.25-26 | 村上　隆 |
| 26 | 文化財保存修復学会 | 文化財保存修復学会第３２回大会打合せ会議 | H21.10.13 | 村上　隆 |
| 27 | 国宝修理装こう師連盟 | 平成２１年度修理技術者資格試験第２試験立会い | H21.10.17 | 村上　隆 |
| 28 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会 | H21.10.27 | 若杉　準治 |
| 29 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会 | H21.10.27 | 山川　暁 |
| 30 | 越前市教育委員会 | 平成２１年度第１回文化財保護委員会 | H21.11.6 | 久保　智康 |
| 31 | 兵庫陶芸美術館 | 平成２１年度兵庫陶芸美術館収集予定作品の価格評価 | H21.11.13 | 尾野　善裕 |
| 32 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 文化財の買取協議員 | H21.11.13 | 久保　智康 |
| 33 | 東京文化財研究所 | 在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会への参加 | H21.12.17 | 宮川　禎一 |
| 34 | 文化庁 | 文化財の買取協議員 | H21.11.30 | 赤尾　栄慶 |
| 35 | 静岡市 | 特別史跡登呂遺跡調査整備検討委員会出席 | H21.12.4 | 村上　隆 |
| 36 | 京都府文化財保護審議会 | 平成２１年度京都府文化財保護審査会 | H22.1.29 | 若杉　準治 |
| 37 | 京都教育大学 | 鑑賞教育研究プロジェクト会議出席 | H22.1.16－17 | 羽田　聡 |
| 38 | 文化財保存修復学会 | 一般社団法人文化財保存修復学会理事会 | H22.1.15 | 村上　隆 |
| 39 | 文化財保存修復学会 | 文化財保存修復学会公開シンポジウム | H22.1.16 | 村上　隆 |
| 40 | 文化財保存修復学会 | 文化財保存修復学会第３２回大会実行運営委員会 | H22.1.22 | 村上　隆 |
| 41 | 佐渡市長 | 佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会 | H22.2.16 | 村上　隆 |
| 42 | 岡山大学 | 「ベンガラ研究会―古代遺跡より出土したベンガラについて」ミニシンポジウム参加 | H22.2.25-26 | 村上　隆 |
| 43 | 京都府文化財保護審議会 | 平成２１年度京都府文化財保護審査会 | H22.2.19 | 若杉　準治 |
| 44 | 文化財保存修復学会 | 文化財修復学会第 32 回大会プログラム作成委員会 | H22.2.10 | 村上　隆 |
| 45 | 元離宮二条城事務所 | 元離宮二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会 | H22.3.30 | 村上　隆 |
| 46 | 元離宮二条城事務所 | 元離宮二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会 | H22.3.30 | 山下　善也 |
| 47 | 文化財保存修復学会 | 平成２１年度第５回理事会 | H22.3.19 | 村上　隆 |
| 48 | 九州大学 | 先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニットの合同合評会 | H22.3.13-14 | 村上　隆 |
| 49 | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 | 第１０回公開講演会・シンポジウム「百鬼夜行の世界」の講師 | H21.7.10-11 | 若杉　準治 |
| 50 | 「金・銀・銅サミット in 佐渡」実行委員会 | 佐渡奉行所出土遺物分析調査及び、金・銀・銅サミット in 佐渡「地下資源・文化資源を語る」出席 | H21.4.24-25 | 村上　隆 |
| 51 | 徳島市立徳島城博物館 | 「美術史アカデミー」の講師 | H21.6.27 | 尾野　善裕 |
| 52 | 山梨県立博物館 | 「金・銀・銅サミット in 甲州」の講師 | H21.5.16 | 村上　隆 |
| 53 | 国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会 | 第１回公開研究会出席 | H21.5.23 | 赤尾　栄慶 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 54 | 京都産業大学 | 日本文化研究所月例研究会における研究発表 | H21.6.16 | 若杉　準治 |
| 55 | 奈良文化財研究所 | 平成２１年度埋蔵文化財担当者専門研修「古代陶磁器調査課程」の講師 | H21.9.7 | 尾野　善裕 |
| 56 | 北海道大学大学院文学研究科 | 国際ワークショップ出席 | H21.8.22-24 | 赤尾　栄慶 |
| 57 | Victoria and Albert Museum | ロンドンで開催される会議に出席 | H21.10.25-11.2 | 永島　明子 |
| 58 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 第四回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会講師 | H21.10.20 | 村上　隆 |
| 59 | 国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会 | 第２回公開研究会出席 | H21.10.10 | 赤尾　栄慶 |
| 60 | 京都産業大学 | 日本文化と図書館の共催による公開講演会での研究発表 | H21.11.28 | 若杉　準治 |
| 61 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーの講師 | H21.11.11 | 赤尾　栄慶 |
| 62 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーの講師 | H21.11.11 | 久保　智康 |
| 63 | 国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会 | 公開シンポジウム | H21.12.5 | 赤尾　栄慶 |
| 64 | 兵庫教育大学 | 平成２１年度外国人留学生講演会の講師 | H22.2.3 | 若杉　準治 |
| 65 | 国宝修理装こう師連盟 | 修理技術者初級講習会における講義 | H22.3.12 | 村上　隆 |
| 66 | 成城大学 | 金剛寺蔵の聖教調査 | H21.4.12 | 赤尾　栄慶 |
| 67 | （財）岐阜市教育文化振興事業団 | 岐阜城千畳敷遺跡出土品についての指導 | H21.5.22 | 尾野　善裕 |
| 68 | 財団法人徳川黎明会徳川美術館 | 国宝「初音の調度」の総合的研究　第５回研究会出席 | H21.6.23-24 | 永島　明子 |
| 69 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 文化財調査 | H21.6.17 | 羽田　聡 |
| 70 | 舞鶴市教育委会 | 文化財指定調査 | H21.7.6 | 大原　嘉豊 |
| 71 | 島根県教育庁文化財課 | 石見銀山遺跡調査に伴う調査指導 | H21.7.18 | 村上　隆 |
| 72 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 牧ノ原市堂ケ谷遺跡出土金属製遺物の自然科学的調査の指導 | H21.7.27-28 | 村上　隆 |
| 73 | 島根大学名誉教授 | 科学研究費補助金による調査（島根県立古代出雲歴史博物館所蔵の委託分美術品調査） | H21.7.9-11 | 淺湫　毅 |
| 74 | 長崎市文化観光総務課 | 長崎市亀山社中記念館内覧会及び完成披露会出席 | H21.7.31-8.1 | 宮川　禎一 |
| 75 | 東京国立博物館 | 平成２１年度法隆寺献納宝物特別調査「聖徳太子絵伝」の調査会 | H21.8.26-28 | 若杉　準治 |
| 76 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査 | H21.9.25 | 山川　暁 |
| 77 | 文化庁文化財部 | 文化審議会委員（文化財分科会）による文化財視察 | H21.9.12-14 | 佐々木　丞平 |
| 78 | 滋賀県教育委員会 | 滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査 | H21.9.25 | 若杉　準治 |
| 79 | 島根大学名誉教授 | 科学研究費補助金による調査（島根県立古代出雲歴史博物館所蔵の委託分美術品調査） | H21.9.14-16 | 淺湫　毅 |
| 80 | 財団法人滋賀県文化財保護協会 | 埋蔵文化財（春日北遺跡）の発掘調査の指導 | H21.9.1 | 尾野　善裕 |
| 81 | 文化庁文化財部美術学芸課 | 文化財調査 | H21.8.26-27 | 赤尾　栄慶 |
| 82 | 徳川美術館 | 染織作品調査 | H21.10.7・10.26 | 山川　暁 |
| 83 | 沖縄県教育委員会 | 平成２１年度沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査に係る第４回現地調査 | H21.10.26-30 | 久保　智康 |
| 84 | 熊本県立装飾古墳館 | 鞠智城跡出土仏像に係る３次元計測の指導 | H21.10.27 | 村上　隆 |
| 85 | 山梨県立博物館 | 中世金製練技術解明のための調査研究における調査助言 | H21.11.17-18 | 村上　隆 |
| 86 | 青森県埋蔵文化財調査センター | 資料の鑑定 | H21.11.27 | 尾野　善裕 |
| 87 | 国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会 | 小写経調査・撮影立会 | H21.12.18 | 赤尾　栄慶 |
| 88 | 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 牧ノ原市堂ケ谷遺跡出土金属製遺物の自然科学的調査の指導 | H21.12.15-16 | 村上　隆 |
| 89 | 京都府教育委員会 | 京都府文化財保護審議会（美術工芸品部会）に係る現地調査 | H21.12.22-24 | 若杉　準治 |
| 90 | 三重県教育委員会 | 指定候補文化財の調査 | H22.1.12 | 大原　嘉豊 |
| 91 | 大阪府教育委員会 | 大阪府指定有形文化財（美術工芸品古文書・歴史飼料部門）の現地調査 | H22.1.26 | 赤尾　栄慶 |
| 92 | 高槻市教育委員会 | 高槻市立しろあと歴史館収蔵文化財調査指導 | H22.2.2 | 山川　暁 |
| 93 | 沖縄県教育委員会 | 沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査の係る第２回会議、並びに第５回現地調査 | H22.2.16-17 | 久保　智康 |
| 94 | 徳川美術館 | 国宝「初音の調度」の総合的研究　第６回研究会出席 | H22.3.9-10 | 永島　明子 |
| 95 | 亀山市歴史博物館 | 亀山市史編さん美術工芸部会市内寺院調査 | H22.2.15 | 尾野　善裕 |
| 96 | 豊田市郷土資料館 | 堂外戸遺跡出土遺物の確認 | H22.3.9 | 尾野　善裕 |
| 97 | 宮内庁 | 皇室用美術工芸品の修理 | H21.10.29-30 | 若杉　準治 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 98 | 宮内庁 | 三の丸尚蔵館管理美術工芸品の修理指導 | H22.2.4-5 | 若杉　準治 |
| 99 | 宮内庁 | 「春日権現験記絵」修理報告書作成指導 | H22.3.25-26 | 若杉　準治 |
| 100 | 富山県水墨美術館 | 「日本の美　国宝との出会い」-京都国立博物館所蔵品展-展示会場視察 | H21.4.29-30 | 山下　善也 |
| 101 | 富山県水墨美術館 | 「日本の美　国宝との出会い」-京都国立博物館所蔵品展-展示会場視察 | H21.4.29-30 | 羽田　聡 |
| 102 | 岡山県立美術館 | 特別展「建仁寺ー高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝とともに」展示及び撤収作業 | H21.8.16・17・２４ | 山下　善也 |
| 103 | 読売新聞東京本社 | 特別展「THE　ハプスブルク」展　展示指導 | H21.9.19-20 | 山下　善也 |
| 104 | 読売新聞大阪本社 | 「THE　ハプスブルク」展展示視察 | H21.9.19 | 久保　智康 |
| 105 | 富山県水墨美術館 | 展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加 | H21.10.1-2 | 西上　実 |
| 106 | 富山県水墨美術館 | 展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加 | H21.9.28-10.2　・10.25-27・11.8-10 | 山下　善也 |
| 107 | 富山県水墨美術館 | 展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加 | H21.9.28-10.2 | 水谷　亜希 |
| 108 | 富山県水墨美術館 | 展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加 | H21.9.30-10.2　・10.25-27・11.8-10 | 羽田　聡 |
| 109 | 読売新聞大阪本社 | 「THE　ハプスブルク」展展示視察 | H21.10.21 | 久保　智康 |
| 110 | 読売新聞大阪本社 | 「THE　ハプスブルク」展展示視察 | H21.11.20 | 永島　明子 |
| 111 | 石見銀山資料館 | 展示・調査指導 | H21.12.22-24 | 村上　隆 |
| 112 | Co-orination and Management Service | 「Japan. Power and Splendour 1568-1868」作品撤収、随伴 | H22.3.7-19 | 羽田　聡 |
| 113 | 文化庁 | 文化庁海外展「侍の芸術展」 | H22.1.10-1.21 | 久保　智康 |
| 114 | 茨城県立歴史館 | 茨城県立歴史館特別展「親鸞-茨城滞在２０年の軌跡-」における展示のための指導 | H22.2.2-3・2.28-3.1・3.22-23 | 赤尾　栄慶 |

## 【奈良国立博物館】

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 富山県水墨美術館 | 石山寺展展示替え | 4月26･27日 | 企画室長　稲本泰生 |
| 2 | 富山県水墨美術館 | 石山寺展撤収 | 5月17･18日 | 企画室長　稲本泰生 |
| 3 | 石山寺 | 石山寺展作品返却 | 5月20日 | 企画室長　稲本泰生 |
| 4 | 日本橋三越本店 | 第56回日本伝統工芸展運営委員会出席 | 4月26日 | 館長　湯山賢一 |
| 5 | 醍醐寺 | 文化財調査 | 6月15･16日 | 館長　湯山賢一 |
| 6 | 宇陀市教育委員会 | 宇陀市文化財保護審議会 | 6月16日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 7 | 醍醐寺 | 醍醐寺聖教調査 | 6月16日 | 情報サービス室　野尻　忠 |
| 8 | 石山寺 | 石山寺展展示・梱包 | 7月13･14日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 9 | 浜松市美術館 | 石山寺展展示 | 7月16･17日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 10 | 浜松市美術館 | 石山寺展出陳品撤収 | 8月24～26日 | 美術室長　岩田茂樹 |
| 11 | 石山寺 | 石山寺展返却作業 | 8月26日 | 企画室長　稲本泰生 |
| 12 | 大相国寺 | 文化財調査 | 8月27日 | 情報サービス室　野尻　忠 |
| 13 | 醍醐寺 | 醍醐寺聖教調査 | 8月24日 | 情報サービス室　野尻　忠 |
| 14 | 醍醐寺 | 醍醐寺聖教調査 | 8月24･25日 | 列品室　斎木涼子 |
| 15 | 石山寺 | 石山寺展展示・梱包 | 9月7･8日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 16 | 北九州市美術館 | 石山寺展展示 | 9月9･11日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 17 | 信貴山 | 信貴山展覧会梱包立ち会い | 10月6日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 18 | 名鉄デパート | 信貴山展覧会展示立ち会い | 10月7日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 19 | 名鉄デパート | 信貴山展覧会展示立ち会い | 10月7日 | 保存修理指導室長<br>谷口耕生 |
| 20 | 名鉄デパート | 信貴山展覧会展示立ち会い | 10月13日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 21 | 名鉄デパート | 信貴山展覧会展示立ち会い | 10月13日 | 保存修理指導室長<br>谷口耕生 |
| 22 | 北九州市美術館 | 石山寺展展示梱包 | 10月18･20日 | 上席研究員　鈴木喜博 |
| 23 | 甲賀市役所 | 甲賀市史中世篇仏像調査 | 12月21日 | 美術室長　岩田茂樹 |
| 24 | 香芝市 | 香芝市文化財保護審議会出席 | 12月25日 | 美術室長　岩田茂樹 |
| 25 | 金竜寺 | 甲賀市史中世篇仏像調査 | 22年2月1日 | 美術室長　岩田茂樹 |

## 【九州国立博物館】

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 史跡虎塚古墳・埋蔵文化財調査センター | 虎塚古墳石室内点検、史跡保存対策委員会のため | 4/4～5 | 本田光子 |
| 2 | （財）自治労会館（第一会館） | 九州国立博物館IPM活動に関する情報収集及び「第３１回文化財の虫菌害・保存対策研修会」講師用務のため | 6/17～19 | 本田光子 |
| 3 | 神戸市立博物館 | 「第３１回文化財の虫菌害・保存対策研修会」講師用務のため | 6/26 | 本田光子 |
| 4 | 国宝修理装潢師連盟 | 平成２１年度修理技術者資格制度委員会の運営に関する打ち合わせのため | 6/26～27 | 森田稔 |

| | 機　関 | 内　容 | 期　間 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 東京国立博物館 | NPO法人文化財保存支援機構「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」講義の講師のため | 8/13～14 | 三輪嘉六 |
| 6 | Pullman Bangkok King Power Hotel（タイ Ratchathewi, Bangkok） | タイ・マレーシア考古学共同事業「考古学、博物館学と保護に関する国際セミナー」における講演用務、セミナー参加用務 | 8/23～26 | 本田光子 |
| 7 | 中国文化遺産研究院 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」における講師担当用務のため | 9/16～19 | 本田光子 |
| 8 | 東京国立博物館 | NPO法人文化財保存支援機構「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」講義の講師のため | 9/10 | 三輪嘉六 |
| 9 | 東京文化財研究所 | 「文化財の生物劣化対策の研究」平成２１年度研究会講師、東文研紀要論文打ち合わせのため | 11/20～21 | 鳥越俊行 |
| 10 | 京都国立博物館 | 「第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」における講師用務のため | 11/9～10 | 本田光子 |
| 11 | 東京国立博物館、東京文化財研究所 | 第３３回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会における講演及び参加のため | 11/11～14 | 志賀智史 |
| 12 | 大宰府館 | 「大宰府発見塾」第７回講義　講師のため | 1/9 | 本田光子 |
| 13 | 宮崎県総合博物館 | 平成２１年度宮崎県博物館等協議会第１回研修会における講師のため | 6/8 | 本田光子 |
| 14 | 愛宕浜公民館 | 「シニアフレッシュアップスクール」講師のため | 5/14 | 臺信祐爾 |
| 15 | 京都造形芸術大学 | 特別講義　歴史遺産特論Ⅳ「古墳等に使用されている赤色顔料について」講師のため | 6/6 | 本田光子 |
| 16 | アクロス福岡 | 平成２１年度「はたらくじょせいのためのあすばる天神サテライト講座」講師のため | 6/25 | 本田光子 |
| 17 | 新九州歴史資料館 | 館内施設の保存環境の整備および環境調査についての助言・協力のため | 7/3 | 鳥越俊行 |
| 18 | 筑後市役所文化財整理室 | 筑後市高江辻遺跡石棺材付着赤色顔料の調査・指導のため | 8/27 | 本田光子・志賀智史 |
| 19 | 城野遺跡 | 城野遺跡の方形周溝墓出土の箱式石棺内赤色顔料の調査に関する指導・助言のため | 11/30 | 本田光子 |
| 20 | 東京国立博物館 | 「土偶展」に伴う平常展示（仏像の道）撤収立会い指導のため | 11/5～6 | 小泉惠英 |
| 21 | 奈良県高市郡明日香村 | 「装飾・壁画古墳の魅力と保存・活用」 | 7/25 | 三輪嘉六 |
| 22 | 第４１回全国公立小中学校事務研究大会福岡大会実行委員 | 「博物館の新しい挑戦－九州国立博物館」 | 8/7 | 三輪嘉六 |
| 23 | 電気クラブ | 「－国宝－」 | 8/26 | 三輪嘉六 |
| 24 | 朝倉市まちづくりチャレンジ大学 | 「博物館の挑戦　－市民との共生－」 | 8/29 | 三輪嘉六 |
| 25 | 東京書籍株式会社 | 「博物館の新しい挑戦－市民との共生を目指して－」(市民と共生する博物館をめざして－未来の子どもたちのために－) | 9/21 | 三輪嘉六 |
| 26 | ＮＨＫ九州支社 | 「博物館の取り組み」 | 10/19 | 三輪嘉六 |
| 27 | 社団法人日本電気協会 九州電気協会 | 「その後の九博」 | 10/26 | 三輪嘉六 |
| 28 | 独立行政法人国立文化財機構 | 「文化交流展示とアジアの伝統の発信」 | 10/31 | 三輪嘉六 |
| 29 | 博多大博通りクラブ　歴史・文化委員会 | 「九州国立博物館の取り組み－地域の活性化を目指して－」 | 11/7 | 三輪嘉六 |
| 30 | 佐賀県企業メセナ協議会 | 「九州国立博物館について－地域での役割－」 | 11/18 | 三輪嘉六 |
| 31 | 電気ビル二木会 | 「九州国立博物館開館４周年を迎え－博物館の現状」 | 12/10 | 三輪嘉六 |
| 32 | 一般社団法人文化財保存修復学会 | 「人材養成に果たす博物館と学会の役割」「文化財のまもり手を育てるために」 | 1/16 | 三輪嘉六 |
| 33 | 財団法人福岡県生活衛生営業指導センター | 「博物館の新しい挑戦－市民との共生を目指して」 | 1/25 | 三輪嘉六 |
| 34 | 京築連帯アメニティ都市圏推進会議 | 「文化財とまちづくりについて」 | 2/11 | 三輪嘉六 |
| 35 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 桜井茶臼山古墳の赤色顔料調査についての助言のため | 11/2 | 本田光子 |
| 36 | 財団法人益富地学会館 | 資料調査についての指導助言のため | 12/18～19 | 志賀智史 |
| 37 | 東京国立博物館 | 文化財保存修復学会公開シンポジウム出席および講演のため | 1/15～16 | 三輪嘉六 |
| 38 | 京都国立博物館 | 一般社団法人国宝修理装潢師連盟修理技術者初級講習会講師のため | 3/12 | 森田稔 |
| 39 | 東京国立博物館 | 阿修羅フォーラム打ち合わせとフォーラムでの講演のため | 3/24～25 | 鳥越俊行 |

# 4 文化財に関する調査及び研究の推進

## 4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

**4-(1)-① 調査研究テーマ一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

**4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

**4-(1)-③ 論文等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

**4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

## 4-(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

**4-(2)-① 調査研究テーマ一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

**4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

**4-(2)-③ 論文等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

**4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

## 4-(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進

**4-(3)-① 調査研究テーマ一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

**4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

**4-(3)-③ 論文等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

**4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

## 4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

**4-(4)-① 調査研究テーマ一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

**4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

**4-(4)-③ 論文等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

**4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

## 4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

**4-(5)-① 調査研究テーマ一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

**4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

**4-(5)-③ 論文等発表実績一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

**4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

**4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑥

**4-(5)-⑥ 客員研究員一覧**　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑦

# 5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

## 5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

### 5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

### 5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

**【東京文化財研究所】**

開催件数：2件　参加者総数：106人

| 開催日 | テーマ | 講師等 | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 10月8日 | 第23回国際文化財保存修復研究会「遺跡はなぜ残ってきたか」 | 清水真一（文化遺産国際協力センター長）、朽津信明（文化遺産国際協力センター主任研究員）、Paola Virgili（ローマ文化財局郊外遺跡考古地区部長）、原田雅弘（鳥取県埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査係長）、R. Cecep Eka Permana（インドネシア大学人間学部考古学科講師） | 43人 |
| 22年<br>3月4日～<br>6日 | アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」 | 鈴木規夫（東京文化財研究所長）、清水真一(文化遺産国際協力センター長)、岡田　健(保存計画研究室長)、山内和也(地域環境研究室長)、二神葉子(文化遺産国際協力センター主任研究員)、友田正彦(文化遺産国際協力センター保存計画研究室長)、加藤雅人（保存修復科学センター研究員）、森井順之（保存修復科学センター研究員）、杉山洋（奈良文化財研究所 企画調整部国際遺跡研究室長）、井上和人（奈良文化財研究所都城発掘調査部長）、森本　晋（奈良文化財研究所 企画調整部文化財情報研究室長）、前田耕作（客員研究員/和光大学名誉教授）、周　儉（同済大学 建築与城市規劃学院 副院長/ユネスコ・アジア太平洋地域トレーニング研究センター　執行主任）、金　仁圭（韓国國立文化財研究所 芸能民俗研究室）、金　思憲（韓國国立文化財研究所　文化財保存科学センター センター長代理）、金　東大（韓国國立文化財研究所 研究企画課国際交流担当 行政事務官）、金　鏞漢（韓国國立文化財研究所 文化財保存科学センター センター長）、黄　仁鎬（韓国国立中原文化財研究所 学芸研究室長）、杜　暁帆（ユネスコ北京事務所 文化遺産保護専門員）、林　瑩鎭（韓国國立文化財研究所 無形文化財研究所　学芸研究官）、馬　清林（中国文化遺産研究院 副院長）、王　金華（中国文化遺産研究院 高級工程師/同研究院　岩土文物与遺址保護研究所　所長）、李　春玲（中国文化遺産研究院 副研究館員、資料室副主任）、張　暁彤（中国文化遺産研究院 副研究員）、蘇　伯民（敦煌研究院保護所 所長）、王　旭東（敦煌研究院 副院長） | 63人 |

### 5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a③

### 5-(1)-④ 論文発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a④

## 5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

### 5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

### 5-(2)-② アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

**【東京文化財研究所】　2件**

| | 研修課程 | 研修期間 | 日数 | 研修対象 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | イラク文化財専門家研修 | 6月16日<br>～9月19日 | 96日 | イラク国立博物館職員 | 4人 |
| 2 | アフガニスタン文化財専門家研修 | 7月21日<br>～12月12日 | 145日 | カーブル考古学研究所職員 | 2人 |

**【奈良文化財研究所】　5件**

| | 研修課程 | 研修期間 | 日数 | 研修対象 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国際協力機構の実施する大エジプト博物館保存修復センタープロジェクトの研修 | 9月2日<br>～10日 | 9日 | エジプト人保存修復専門家 | 2人 |
| 2 | ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・ラオス） | 7月7日<br>～8月6日 | 31日 | ラオス文化情報省文化遺産局職員 | 3人 |

| | 研修課程 | 研修期間 | 日数 | 研修対象 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（集団研修） | 9月8日<br>～10月8日 | 31日 | アジア太平洋地域の木造建造物専門職員 | 20人 |
| 4 | ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・モンゴル） | 11月17日<br>～12月17日 | 31日 | モンゴル国立文化遺産センター歴史文化遺産修復部職員 | 3人 |
| 5 | ACCUの実施する文化遺産ワークショップ2009における現地研修（ベトナム） | 10月26日<br>～31日 | 6日 | ベトナム人木造建造物専門家 | 16人 |

# 6 情報発信機能の強化

## 6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

### 6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

| | 東京文化財研究所 | | 奈良文化財研究所 | |
|---|---|---|---|---|
| | 21年度受入件数 | 総件数 | 21年度受入件数 | 総件数 |
| 図　　書 | 5,467冊 | 226,368冊 | 9,484冊 | 302,422冊 |

## 6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

### 6-(2)-① 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a⑤

### 6-(2)-② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧

**【東京文化財研究所】**

**公開講演会　1件（2日）**

○公開講演会「平成21年度オープンレクチャー」
- ・開 催 日：10月2日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：258人（10月3日、4日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「異国をこしらえる- 「玄奘三蔵絵」をめぐって- 」
  「宋朝からみた日本僧- 仏法・国土と文物交流の世界- 」

○公開講演会「平成21年度オープンレクチャー」
- ・開 催 日：10月3日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：277人（10月3日、4日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」
  「チベット宗教世界と大谷探検隊」

**国際シンポジウム　1件**

○国際シンポジウム「第33回文化財の保存および修復に関する国際研究集会」
- ・開 催 日：11月12～14日
- ・開催場所：東京国立博物館大講堂
- ・主　　催：東京文化財研究所
- ・参加人数：356人
- ・事業内容：「文化財を取り巻く環境の調査と対策」

**【奈良文化財研究所】**

**公開講演会　4件**

○公開講演会「第104回公開講演会」
- ・開 催 日：5月23日
- ・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：200人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「第一次大極殿院広場の復原」
  「古代火葬墓の世界」
  「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実際－」

○公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
- ・開 催 日：8月2日
- ・開催場所：万葉文化館企画展示室
- ・主　　催：飛鳥資料館

・参加人数：58人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「甦るクメール文明」－世界文化遺産ｱﾝｺｰﾙ遺跡群－

〇公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
・開 催 日：10月17日
・開催場所：奈良文化財研究所飛鳥資料館講堂
・主　　催：飛鳥資料館
・参加人数：127人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見」

〇公開講演会「第105回公開講演会」
・開 催 日：11月28日
・開催場所：なら100年会館大ホール
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：633人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「これからの平城宮跡－遷都1300年を迎えて－」
「世界都市長安城の風景－平城京の原型－」
「平城京遷都の歴史的背景－日本古代都城の出現と変質」

**現地説明会　6件**
〇現地説明会「平城第454次（中央区第1次大極殿院内庭部）発掘調査」
・開 催 日：6月20日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：755人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

〇現地見学会「飛鳥藤原第157次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：6月21日
・開催場所：高市郡明日香村
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,134人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

〇現地見学会「平城第458次（興福寺南大門）発掘調査」
・開 催 日：9月27日
・開催場所：奈良市登大路町 興福寺境内
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：2,265人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

〇現地説明会「飛鳥藤原第160次（藤原宮大極殿院回廊）発掘調査」
・開 催 日：11月29日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：945人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

〇現地説明会「平城446次（平城宮東院地区）発掘調査」
・開 催 日：22年2月20日
・開催場所：奈良市法華寺町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：840人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

〇現地見学会「飛鳥藤原　発掘調査現地見学会」

・開 催 日：22年3月20日
・開催場所：高市郡明日香村　国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区内
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,245人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

## 6-(2)-③ ホームページアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料c

## 6-(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開

### 6-(3)-① 入館者数
（後述の資料に記載）◎共通資料d-①

### 6-(3)-② 入館者数（過去5カ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料d-②

### 6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料d-③

### 6-(3)-④ 平常展・特別展
（後述の資料に記載）◎共通資料d-④

## 6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援

### 6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

## 6-(5) 文化財情報・研究成果の促進

### 6-(5)-① ウェブサイトのアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料c

### 6-(5)-② 収蔵品のデジタル化件数

| 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|
| 画像　775,300件<br>文字　1,231,867字 | 5,603件 | 102,984件 | 3,574件 |

### 6-(5)-③ 収集した情報資料数（総数）

| | | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 写真原板 | | 313,196枚 | 246,761枚 | 359,403枚 | 17,784枚 |
| 資料 | 模造 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 模写 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 図書 | 和書 | 164,389冊 | 65,723冊 | 59,952冊 | 56,283冊 |
| | 漢書 | 37,383冊 | 19,063冊 | 4,871冊 | 0 |
| | 洋書 | 11,410冊 | 1,908冊 | 1,556冊 | 1,712冊 |
| | 計 | 213,182冊 | 86,894冊 | 66,379冊 | 57,995冊 |
| 映画フィルム | | 0 | 24巻 | 30巻 | 0 |
| スライド | | 0 | 26本2,779コマ | 21本2,192コマ | 12コマ |
| マイクロフィルム | | 3,654巻 | 0 | 0 | 515巻 |

### 東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

| | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者数 | 3,798人 | 2,920人 | 3,134人 | 2,764人 | 2,898人 |
| 閉架図書（閲覧） | 2,725件 | 2,770件 | 3,321件 | 3,757件 | 7,527件 |
| マイクロフィルム（閲覧） | 839件 | 1,093件 | 650件 | 596件 | 577件 |
| レファレンスサービス | 2,973件 | 3,632件 | 3,299件 | 4,024件 | 2,973件 |
| コピーサービス | 20,505枚 | 22,530枚 | 23,287枚 | 22,669枚 | 22,438枚 |

## 6-(5)-④ 特別観覧件数

**申請件数**

| 区分 | | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 |
| 合計 | | 1,826 | 1,118 | 708 | 153 | 14 | 139 | 1,002 | 765 | 237 | 492 | 302 | 190 | 179 | 37 | 142 |
| 写真撮影 | | 50 | 10 | 40 | 15 | 5 | 10 | 13 | 2 | 11 | 20 | 3 | 17 | 2 | 0 | 2 |
| 写真原板使用 | モノクロ | 227 | 163 | 64 | | | | 195 | 148 | 47 | 32 | 15 | 17 | 0 | 0 | 0 |
| | カラー | 1,132 | 809 | 323 | | | | 761 | 611 | 150 | 239 | 166 | 73 | 132 | 32 | 100 |
| 写真原板再使用 | | 166 | 109 | 57 | | | | 0 | 0 | 0 | 162 | 108 | 54 | 4 | 1 | 3 |
| 映画撮影 | | 26 | 24 | 2 | 9 | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| テレビ撮影 | | | | | | | | 2 | 2 | 0 | 7 | 7 | 0 | 4 | 3 | 1 |
| ビデオ撮影 | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 模写 | | 5 | 0 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 |
| 模造 | | 7 | 1 | 6 | 2 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 熟覧 | | 213 | 2 | 211 | 126 | 1 | 125 | 29 | 1 | 28 | 23 | 0 | 23 | 35 | 0 | 35 |

**点数**

| 区分 | | 国立博物館 | | | 東京国立博物館 | | | 京都国立博物館 | | | 奈良国立博物館 | | | 九州国立博物館 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 | 合計 | 有料 | 無料 |
| 合計 | | 7,789 | 3,187 | 4,602 | 680 | 35 | 645 | 3,716 | 2,211 | 1,505 | 1,372 | 805 | 567 | 2,021 | 136 | 1,885 |
| 写真撮影 | | 244 | 23 | 221 | 35 | 17 | 18 | 85 | 3 | 82 | 42 | 3 | 39 | 82 | 0 | 82 |
| 写真原板使用 | モノクロ | 619 | 367 | 252 | | | | 536 | 339 | 197 | 83 | 28 | 55 | 0 | 0 | 0 |
| | カラー | 5,540 | 2,546 | 2,994 | | | | 3,011 | 1,859 | 1,152 | 849 | 559 | 290 | 1,680 | 128 | 1,552 |
| 写真原板再使用 | | 333 | 200 | 133 | | | | 0 | 0 | 0 | 326 | 197 | 129 | 7 | 3 | 4 |
| 映画撮影 | | 52 | 48 | 4 | 19 | 17 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| テレビ撮影 | | | | | | | | 8 | 8 | 0 | 15 | 15 | 0 | 6 | 4 | 2 |
| ビデオ撮影 | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 模写 | | 11 | 0 | 11 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 | 6 | 0 | 6 |
| 模造 | | 10 | 1 | 9 | 4 | 0 | 4 | 2 | 1 | 1 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 |
| 熟覧 | | 980 | 2 | 978 | 621 | 1 | 620 | 74 | 1 | 73 | 46 | 0 | 46 | 239 | 0 | 239 |

## 7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

### 7-① 国・地方公共団体への協力等に対する専門的・技術的な協力・助言

| 計 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|
| 482件 | 145件 | 337件 |

### 7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

**【東京文化財研究所】 4件**

| | 研修課程 | 研修期間 | 日数 | 研修対象 | 研修内容 | 参加者数 | 満足度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 | 7月13日～24日 | 12日 | 博物館・美術館等の文化財の保存担当者 | 文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習 | 31人 | 97% |
| 2 | 保存担当学芸員フォローアップ研修 | 6月23日 | 1日 | 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修修了生 | 研修修了生に対して最新の保存科学の知識を講義する | 69人 | 100% |
| 3 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 9月2日～15日 | 14日 | 海外の博物館・図書館・文書館などの学芸員、修復技術者、教員など | 日本の漆工文化財の保存と修復に関する講義と実習、研修旅行 | 10人 | 100% |
| 4 | 資料保存地域研修 | 11月27日～28日 | 2日 | 博物館・美術館等の文化施設に勤務する者 | 文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う | 51人 | 97% |

**【奈良文化財研究所】 12件**

| | 研修課程 | 研修期間 | 日数 | 研修対象 | 研修内容 | 参加者数 | 満足度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 遺跡探査課程 | 6月2日～5日 | 4日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 遺跡探査 | 3人 | 100% |
| 2 | 建築遺構調査課程 | 6月15日～19日 | 5日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 建築遺構調査 | 14人 | 100% |
| 3 | 文化財写真Ⅰ(基礎)課程 | 7月7日～23日 | 17日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 文化財写真Ⅰ(基礎) | 7人 | 100% |
| 4 | 文化財写真Ⅱ(応用)課程 | 7月23日～8月6日 | 15日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 文化財写真Ⅱ(応用) | 9人 | 100% |
| 5 | 古代陶磁器調査課程 | 9月1日～9日 | 9日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 古代陶磁器調査 | 9人 | 100% |
| 6 | 保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程 | 10月15日～23日 | 9日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 保存科学Ⅰ(無機質遺物) | 9人 | 100% |
| 7 | 保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程 | 10月23日～30日 | 8日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 保存科学Ⅱ(有機質遺物) | 7人 | 100% |
| 8 | 遺跡地図情報課程 | 11月17日～20日 | 4日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 遺跡地図情報 | 15人 | 100% |
| 9 | 自然科学的年代決定法課程 | 11月30日～12月4日 | 5日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 自然科学的年代決定法 | 7人 | 100% |
| 10 | 遺跡整備活用課程 | 22年1月12日～22日 | 11日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 遺跡整備活用 | 15人 | 100% |
| 11 | 報告書作成課程 | 22年1月28日～2月5日 | 9日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 報告書作成 | 21人 | 100% |
| 12 | 地質環境調査課程 | 22年2月16日～24日 | 9日 | 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者 | 地質環境調査 | 14人 | 100% |

## ◎共通資料
## a 調査研究

### a-① 研究交流実績一覧
### 1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 415人 | 26人 | 29人 | 29人 | 37人 | 82人 | 212人 |

**【東京国立博物館】26人**

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 朴晟恵 | 韓国 | 国立中央博物館学芸研究室<br>アジア部学芸研究士 | 東京国立博物館と国立中央博物館との学術交流事業 | 21年7月3日～16日 |
| 2 | 崔　煥 | 韓国 | 国立中央博物館企画運営団<br>企画総括課学芸研究士 | 東京国立博物館と国立中央博物館との学術交流事業 | 21年7月3日～16日 |
| 3 | 王　奇志 | 中国 | 南京博物院院長助理 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 4 | 成　建正 | 中国 | 陝西歴史博物館館長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 5 | 李　建毛 | 中国 | 湖南省博物館副館長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 6 | 万　全文 | 中国 | 湖北省博物館副館長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 7 | 馬　文闘 | 中国 | 雲南省博物館館長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 8 | 石　金鳴 | 中国 | 山西博物院院長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 9 | 王　亜民 | 中国 | 北京故宮博物院副院長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 10 | 張　文軍 | 中国 | 河南博物院院長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 11 | 朱　惠良 | 中国(台湾) | 国立故宮博物院代理副處長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 12 | Khenpo Phuntsok Tashi | ブータン王国 | ブータン国立博物館長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 13 | Nanda Wickramasinghe | スリランカ | スリランカ国立博物館局長 | アジア博物館研究集会出席 | 21年10月29日～11月1日 |
| 14 | Omur Tufan | トルコ | トプカプ宮殿博物館主任学芸員 | アジア博物館研究集会スピーカー | 21年10月29日～11月1日 |
| 15 | Hari Budiarti | インドネシア | インドネシア国立博物館学芸部長 | アジア国立博物館協会理事会出席、<br>アジア博物館研究集会出席 | 21年10月28日～11月1日 |
| 16 | Oun Phalline | カンボジア | カンボジア国立博物館副館長 | アジア国立博物館協会理事会出席、<br>アジア博物館研究集会出席 | 21年10月28日～11月1日 |
| 17 | Goid　Dembereldorj | モンゴル | モンゴル国立博物館国際交流部長 | アジア国立博物館協会理事会出席、<br>アジア博物館研究集会出席 | 21年10月28日～11月1日 |
| 18 | Bhesh Narayan Dahal | ネパール | ネパール国立博物館館長 | アジア国立博物館協会理事会出席、<br>アジア博物館研究集会出席 | 21年10月28日～11月1日 |
| 19 | Karen Chin | シンガポール | シンガポール国立アジア文明博物館教育室長 | 教育普及国際シンポジウム<br>「伝統文化を伝えるために博物館ができること」スピーカー | 22年1月21日～27日 |
| 20 | Juliette Fritsch | イギリス | ヴィクトリア＆アルバート博物館展示解説室長 | 教育普及国際シンポジウム<br>「伝統文化を伝えるために博物館ができること」スピーカー | 22年1月21日～27日 |
| 21 | Jack Eby | アメリカ | ヒューストン美術館デザイン部長 | ヒューストン美術館日本室開室に関する事前調査・打合せ | 22年2月28日～3月6日 |
| 22 | Hasan Fırat Diker | トルコ | トルコ文化観光省建築家 | トルコ・トプカプ宮殿博物館で開催予定の「日本の美5000年」展事前調査・打合せ | 22年3月6日～12日 |
| 23 | 冉　万里 | 中国 | 中国西北大学文博学院考古学系教授 | 仏教美術作品の保存活用に関する調査 | 22年3月9日～16日 |
| 24 | 周　麗麗 | 中国 | 上海博物館陶磁研究部研究館員 | 東京国立博物館と上海博物館との学術交流協定による招へい（色絵磁器に関する調査） | 22年3月11日～24日 |
| 25 | 張　東 | 中国 | 上海博物館陶磁研究部副研究館員 | 東京国立博物館と上海博物館との学術交流協定による招へい（色絵磁器に関する調査） | 22年3月11日～24日 |
| 26 | Gregory Irvine | イギリス | ヴィクトリア＆アルバート博物館東洋美術主任研究員 | 阿修羅フォーラム出席および当館所蔵文化財・館史資料に関する調査 | 22年3月22日～31日 |

## 【京都国立博物館】延べ 29人

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ジャンーノエル・アレキサンドル・ロベール | フランス | フランス国立高等研究院　宗教学部教授 | 国際シンポジウム「法華の人と文化ーその行動と思想ー」参加 | 11月12日～11月16日 |
| 2 | ジャクリーン・I・ストーン | アメリカ | プリンストン大学　宗教学部教授 | 国際シンポジウム「法華の人と文化ーその行動と思想ー」参加 | 11月12日～11月15日 |
| 3 | イリナ・ポポヴァ | ロシア | ロシア科学アカデミー東洋写本研究所長 | 「シルクロード文字を辿って」作品展示確認 | 6月30日～7月15日 |
| 4 | キラ・サモスク | ロシア | エルミタージュ美術館<br>中央アジアコレクション担当学芸員 | 「シルクロード文字を辿って」作品展示確認 | 7月2日～7月9日 |
| 5 | クリャキナ・リブボ | ロシア | ロシア科学アカデミー東洋写本研究所　修理部主任 | 「シルクロード文字を辿って」作品撤収 | 9月5日～9月14日 |
| 6 | デシュパンデ・オルガ | ロシア | エルミタージュ美術館<br>東洋部修理課主任 | 「シルクロード文字を辿って」作品撤収 | 9月5日～9月14日 |
| 7 | 賴毓芝 | 中国 | 台北故宮博物院書画処　研究員 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 11月8日～14日 |
| 8 | 李志綱 | 中国 | 香港中文大学文物館　研究員 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 11月7日～17日 |
| 9 | 王耀庭 | 中国 | 台北故宮博物院　前書画処長 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 11月7日～13日 |
| 10 | 李超 | 中国 | 上海大学芸術研究院　教授 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 10月4日～10日 |
| 11 | 陶喩之 | 中国 | 上海博物館書画部　研究員 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 10月2日～11日 |
| 12 | 李偉銘 | 中国 | 広州美術学院　教授 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 11月7日～13日 |
| 13 | 陳鶯 | 中国 | 香港中文大学芸術系　博士課程 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 11月7日～13日 |
| 14 | 官綺雲 | 中国 | 香港大学人文学院芸術学系<br>助理教授 | 「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査 | 7月23日～7月30日 |
| 15 | 阮榮春 | 中国 | 中国芸術研究院　研究員 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～20日 |
| 16 | 李超 | 中国 | 上海大学芸術研究院　教授 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～20日 |
| 17 | 陶喩之 | 中国 | 上海博物館書画研究部　研究館員 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月12日～19日 |
| 18 | 陶為衍 | 中国 | 近代絵画史研究者 | 国際ワークショップ参加・発表・近代中国絵画の調査 | 12月12日～22年1月10日 |
| 19 | 李志綱 | 中国 | 香港中文大学文物館　研究員 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 20 | 官綺雲 | 中国 | 香港大学人文学院芸術学系<br>助理教授 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～18日 |
| 21 | 李偉銘 | 中国 | 広州美術学院　教授 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 22 | 蔡濤 | 中国 | 広東美術館研究部　副主任 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 23 | 朱万章 | 中国 | 広東省博物館　研究員 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 24 | 黄大徳 | 中国 | 近代絵画史研究者 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 25 | 郭卉 | 中国 | ライデン大学　博士課程 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～20日 |
| 26 | 王耀庭 | 台湾 | 台北故宮博物院　前書画処長 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 27 | 賴毓芝 | 台湾 | 台北故宮博物院書画処　研究員 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月15日～19日 |
| 28 | ジュリア・アンドリュース | アメリカ | オハイオ州立大学　教授 | 国際ワークショップ参加・発表 | 12月6日～22日 |
| 29 | 沈揆一 | アメリカ | カリフォルニア大学サンディエゴ校　教授 | 国際ワークショップ参加・発表 | 11月29日～12月22日 |

## 【奈良国立博物館】　延べ29人

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 唐　友波 | 中国 | 上海博物館 | 当館との学術交流 | 21年8月9日～21年8月14日 |
| 2 | 柳　向春 | 中国 | 上海博物館 | 当館との学術交流 | 21年8月9日～21年8月14日 |
| 3 | 魏　小虎 | 中国 | 上海博物館 | 当館との学術交流 | 21年8月9日～21年8月14日 |
| 4 | 李　知原 | 韓国 | 国立慶州博物館 | 当館との学術交流 | 21年8月17日～21年9月16日 |
| 5 | 李　宏 | 中国 | 河南博物院 | 当館との学術交流 | 21年11月30日～21年12月29日 |
| 6 | 田　麗 | 中国 | 河南博物院 | 当館との学術交流 | 21年11月30日～21年12月29日 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 李　陽洙 | 韓国 | 国立慶州博物館 | 当館との学術交流 | 22年1月13日～22年2月12日 |

**・その他招へい**

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 侯　波良 | 中国 | 温洲博物館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月12日～21年7月18日 |
| 9 | 裘　琤 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月12日～21年7月18日 |
| 10 | 顧　幼静 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月12日～21年7月18日 |
| 11 | 李　剛 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月15日～21年7月21日 |
| 12 | 王　炬 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月15日～21年7月21日 |
| 13 | 楊　新平 | 中国 | 浙江省文物所 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月15日～21年7月21日 |
| 14 | 陳　云根 | 中国 | 浙江省文物考古研究所 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月15日～21年7月21日 |
| 15 | 魏　麗莎 | 中国 | 浙江工商大学 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月15日～21年7月21日 |
| 16 | 成　在賢 | 韓国 | 国立中央博物館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月13日～21年7月18日 |
| 17 | 姜　培馨 | 韓国 | 国立中央博物館 | 聖地寧波展開会式出席 | 21年7月16日～21年7月18日 |
| 18 | 申　海　澈 | 韓国 | 東国大学校 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月13日～21年7月18日 |
| 19 | ブリジッダ・オーガスチン | アメリカ | メトロポリタン美術館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月8日～21年7月16日 |
| 20 | ジーン・ガオ | アメリカ | ボストン美術館 | 聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業 | 21年7月8日～21年7月16日 |
| 21 | 王　屹峰 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月29日～21年9月4日 |
| 22 | 顧　幼静 | 中国 | 浙江省博物館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月29日～21年9月4日 |
| 23 | 符　藝楠 | 中国 | 黄岩博物館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月29日～21年9月4日 |
| 24 | 權　胤美 | 韓国 | 国立中央博物館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月30日～21年9月5日 |
| 25 | キョウ・シネード | アメリカ | メトロポリタン美術館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月28日～21年9月4日 |
| 26 | アン・ニシムラ | アメリカ | ボストン美術館 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月28日～21年9月4日 |
| 27 | 申　海澈 | 韓国 | 東国大学校 | 聖地寧波展借用文化財返却の随行 | 21年8月30日～21年9月5日 |
| 28 | 李　栄勲 | 韓国 | 国立慶州博物館 | 第61回正倉院展開会式出席及び意見交換 | 21年10月22日～21年10月24日 |
| 29 | 朴　鎭煥 | 韓国 | 国立慶州博物館 | 第61回正倉院展開会式出席及び意見交換 | 21年10月22日～21年10月24日 |

## 【九州国立博物館】延べ37人

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・役職 | | 用務 | 期間 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | アノン・ヌーペーン | タイ | ナコンシータマラート国立博物館 | 館長 | ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム | 7/16 | 8/8 |
| 2 | ウサー・ヌォンピエンパーク | タイ | タイ王国芸術局国立博物館事務局 | 学芸員 | ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム | 7/16 | 8/8 |
| 3 | ソムポット・スカーブーン | タイ | 国立美術館 | 学芸員 | ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム | 7/16 | 8/8 |
| 4 | グエン・ディン・チェン | ベトナム | ベトナム歴史博物館 | 副館長 | 「ベトナム文化講演会」における講演 | 10/9 | 10/12 |
| 5 | グエン・ゴック・チャット | ベトナム | ベトナム歴史博物館 | 研究員 | 「ベトナム文化講演会」における講演 | 10/9 | 10/12 |
| 6 | グレングライ・サムパチャリット | タイ | タイ王国芸術局 | 局長 | タイとの交流事業に関する意見交換のため | 10/31 | 11/3 |
| 7 | リー・ナミ | 韓国 | 靖齋文化財保存研究所 | 絵画･典籍類文化財保存処理者 | 文化庁　アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘 | 12/17 | 12/25 |
| 8 | パク・チョンユン | 韓国 | 靖齋文化財保存研究所 | 絵画･典籍類文化財保存処理者 | 平成21年度九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー参加のため | 12/17 | 12/25 |
| 9 | ヴ・ホン・トゥアット | ベトナム | ベトナム民族博物館 | 研究員 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 10 | スラサック・スリサマン | タイ | 芸術局国立博物館事務局 | 局長 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 11 | ソムチャーイ・ナ・ナコンパトム | タイ | 芸術局国立博物館事務局 | 専門官 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 12 | ウィサンタニー・ポティソーントーン | タイ | 芸術局国立博物館事務局 | 国立博物館開発促進課長 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 13 | サムキット・チャイモンコン | タイ | 芸術局国立博物館事務局 | 学芸員 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 14 | タナコーン・カムサ | タイ | 芸術局国立博物館事 | 展示造作技術者 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・役職 | | 用務 | 期間 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ップ | | 務局 | | | | |
| 15 | スティサック・アルンスリ | タイ | 芸術局国立博物館事務局 | 展示造作技術者 | 2011年海外展に関する協議 | 2/23 | 2/28 |
| 16 | ファン・ジヒョン | 韓国 | 韓国国立中央博物館 | 学芸研究士 | トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘 | 2/24 | 3/5 |
| 17 | じゃんふぇいろん<br>張　飛　龍 | 中国 | 西安生漆塗料研究所 | 副所長 | トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘 | 2/24 | 3/5 |
| 18 | グエン・ドン・ホアン | ベトナム | ベトナム歴史博物館 | 専門員 | トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘 | 2/24 | 3/5 |
| 19 | シリチャイ　ワンチャロントラクル | タイ | タイ王国芸術局 | 保存部長 | 文化庁　外国人芸術家・文化財専門家招聘事業による招聘 | 2/24 | 3/5 |
| 20 | ソムタウィン・ニリヴィライ | タイ | タイ王国王宮保存課長 | 保存課長 | トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘 | 2/24 | 3/5 |
| 21 | 蘇　榮譽 | 中国 | 中国科学院自然科学史研究所 | 研究員 | 科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘 | 2/25 | 2/28 |
| 22 | 万　俐 | 中国 | 南京博物院文物保護研究所 | 所長 | 科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘 | 2/25 | 2/28 |
| 23 | 王　旭東 | 中国 | 敦煌研究院 | 副院長 | 文化庁　外国人芸術家・文化財専門家招聘事業による招聘 | 3/2 | 3/11 |
| 24 | 劉　冰 | 中国 | 赤峰市博物館 | 館長 | 科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘 | 3/8 | 3/14 |
| 25 | 塔　拉 | 中国 | 内蒙古博物院 | 院長 | 科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘 | 3/8 | 3/14 |
| 26 | 孫　建華 | 中国 | 内蒙古文物考古研究所 | 研究員 | 科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘 | 3/8 | 3/14 |
| 27 | 于　宝東 | 中国 | 内蒙古博物院 | 副研究員 | 科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘 | 3/8 | 3/14 |
| 28 | 朴　智善 | 韓国 | 龍仁大学校 | 教授 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/13 | 3/17 |
| 29 | 鄭 明熙 | 韓国 | 韓国国立中央博物館 | 学芸研究士 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/12 | 3/17 |
| 30 | 鄭　相基 | 韓国 | 韓国国立公州博物館 | 学芸研究室長 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/13 | 3/17 |
| 31 | 鄭　桂玉 | 韓国 | 韓国国立古宮博物館 | 遺物科学課長 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/13 | 3/17 |
| 32 | 徐　埻 | 韓国 | 韓国国立古宮博物館 | 学芸研究士 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/13 | 3/17 |
| 33 | 趙　由典 | 韓国 | 韓国京畿道博物館 | 館長 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/14 | 3/17 |
| 34 | 全　益煥 | 韓国 | 韓国京畿道博物館 | | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/14 | 3/17 |
| 35 | 金剛　住職 | 韓国 | 美黄寺 | 住職 | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/12 | 3/15 |
| 36 | 朴　必銹 | 韓国 | 美黄寺 | | 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘 | 3/12 | 3/15 |
| 37 | 呉　来明 | 中国 | 上海博物館文化財保存科学実験室 | 副主任 | 科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘 | 3/28 | 3/31 |

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

## 【東京文化財研究所】延べ　82人

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Antonio　Iaccarino Idelson | イタリア | 美術品保存修復専門家 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復作業の打合せと講演 | 21. 5. 7～ 5.14 |
| 2 | 金　奉建 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所 | 石造文化財に関する日韓共同研究調 | 21. 5.13～ 5.20 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 所長 | 査地の視察 | |
| 3 | 李　奎植 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>保存科学研究室長 | 石造文化財に関する日韓共同研究調査地の視察 | 21. 5.13～ 5.20 |
| 4 | 李　鍾勳 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>研究企画課学芸研究官 | 石造文化財に関する日韓共同研究調査地の視察 | 21. 5.13～ 5.20 |
| 5 | Fadhil Abed ALLAWI | イラク | イラク国立博物館<br>中央修復研究室<br>化学工学者及び保存修復技術者 | イラク人保存修復家人材育成のための研修 | 21. 6.19～ 9.18 |
| 6 | Mohammad Kasim Mohammad Jwad AL-MIMAR | イラク | イラク国立博物館<br>中央修復研究室<br>化学技術保存修復技術補佐 | イラク人保存修復家人材育成のための研修 | 21. 6.19～ 9.18 |
| 7 | Senaa Chloob Abass AL-TIMIMI | イラク | イラク国立博物館<br>中央修復研究室<br>生物学および保存修復技術者 | イラク人保存修復家人材育成のための研修 | 21. 6.19～ 9.18 |
| 8 | Ban Abdulmahdi Mohammad Ali AL-JAMEEL | イラク | イラク国立博物館<br>中央修復研究室<br>有機化学および保存修復技術者 | イラク人保存修復家人材育成のための研修 | 21. 6.19～ 9.18 |
| 9 | Vinod Daniel | オーストラリア | オーストラリア博物館<br>保存科学センター長、AusHeritage理事長 | 文化遺産国際協力コンソーシアム第5回研究会講演 | 21. 7. 4～ 7. 8 |
| 10 | 文　光喜 | 韓国 | 韓国国立生物資源館 生物資源研究部<br>研究官 | 日本文化財科学会第26回大会参加、研究発表、関連調査 | 21. 7.10～ 7.15 |
| 11 | Nuntiya Swangvudhitham | タイ | タイ王国文化省<br>国家文化委員会事務局（ONCC） 副局長 | 近畿地方無形文化遺産現地調査 | 21. 7.13～ 7.18 |
| 12 | Kannika Prasitnaraphan | タイ | タイ王国文化省<br>国家文化委員会事務局（ONCC） 文化担当職（渉外グループ） | 近畿地方無形文化遺産現地調査 | 21. 7.13～ 7.18 |
| 13 | Supaporn Charoensirisopak | タイ | タイ王国文化省<br>国家文化委員会事務局（ONCC） 文化担当職（無形文化遺産グループ） | 近畿地方無形文化遺産現地調査 | 21. 7.13～ 7.18 |
| 14 | | アフガニスタン | | 考古学研究に関連する実習と専門知識の研修 | 21. 7.22～12.11 |
| 15 | | アフガニスタン | | 考古学研究に関連する実習と専門知識の研修 | 21. 7.22～12.11 |
| 16 | Kushal Singh Rana | インド | インド考古局、科学部長 | 文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」の枠組みにおいて、アジャンター壁画の保存に関する専門家会議における講演、打ち合わせ、および日本国内の保存修復施設と文化遺産の視察 | 21. 7.30～ 8. 6 |
| 17 | V.S.Raghavendra Rao | インド | インド考古局、アジャンターフィールド事務所 | 文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」の枠組みにおいて、アジャンター壁画の保存に関する専門家会議における講演、打ち合わせ、および日本国内の保存修復施設と文化遺産の視察 | 21. 7.30～ 8. 6 |
| 18 | MICHRI Marina | ロシア | エルミタージュ美術館　修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 19 | MIKLIN-KNIEFACZ Silvia | オーストリア | 保存修復アトリエ<br>修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 20 | WEBB Marianne | カナダ | ロイヤル・オンタリオ博物館　修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 21 | SCHELLMANN Nanke | イギリス | ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館　学生 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 22 | KORYCIARZ-KITAMIKADO Joanna | ポーランド | ワルシャワ国立博物館　漆修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 23 | DOS SANTOS NUNES PETISCA Maria João | ポルトガル | Institute of Museums and Conservation<br>研究員 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 24 | ARTAL-ISBRAND Paula | アメリカ | ウースター美術館<br>修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 25 | HEGINBOTHAM Arlen | アメリカ | J. ポール・ゲッティ美術館　修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～ 9.16 |
| 26 | GASSNER Ursel Adda | ドイツ | ヘルツォーク・アントン・ウルリッヒ美術館　漆工品修復家 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～10.16 |
| 27 | LENCZ Balazs | ハンガリー | ハンガリー国立博物館 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 21. 9. 1～10.16 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 修復家 | | |
| 28 | Do Duc Tue | ベトナム | ベトナム社会科学院考古学院 研究員 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学 | 21. 9. 5～ 9.12 |
| 29 | Bui Duy Tri | ベトナム | ベトナム社会科学院考古学院　副院長 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学 | 21. 9. 5～ 9.12 |
| 30 | Nguyen Van Anh | ベトナム | ベトナム社会科学院考古学院　研究員 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学 | 21. 9. 5～ 9.12 |
| 31 | Nguyen Huu Thiet | ベトナム | ベトナム社会科学院考古学院　職員 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学 | 21. 9. 5～ 9.12 |
| 32 | Vo Thu Thuy | ベトナム | ハノイ古城・コーロア遺跡保存センター研究員 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学 | 21. 9. 5～ 9.12 |
| 33 | Paola Virgili | イタリア | ローマ文化財監督局<br>郊外遺跡考古地区部長 | 国際文化財保存修復研究会にて発表、関連遺跡視察 | 21.10. 5～10.10 |
| 34 | R.Cece Eka Permana | インドネシア | インドネシア大学人間学部考古学科　講師 | 遺跡のモニタリングに関する共同研究 | 21.10. 5～10.10 |
| 35 | Brahmantara | インドネシア | ボロブドゥール遺産保存研究所　研究員 | 遺跡のモニタリングに関する共同研究 | 21.10. 5～10.10 |
| 36 | Manatchaya Wajvisoot | タイ | タイ芸術局保存研究部門　技官 | 覆屋効果に関する共同研究 | 21.10. 5～10.10 |
| 37 | 杉山恵助 | イギリス | 大英博物館<br>主任保存技術者 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加 | 21.11. 8～11.19 |
| 38 | Jennifer Perry | アメリカ | クリーブランド美術館<br>東洋絵画保存技術者 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加 | 21.11.10～11.18 |
| 39 | Blythe McCarthy | アメリカ | フリーア美術館とアーサーM.サックラーギャラリー 保存修復・科学研究部 アンドリュー W. メロン主任研究員 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加 | 21.11.10～11.19 |
| 40 | Jachi Elgar | アメリカ | ボストン美術館<br>ｱｼﾞｱ保存修復と国際ｱｼﾞｱﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ室長 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加 | 21.11.11～11.19 |
| 41 | Thomas J.K. Strang | カナダ | カナダ保存研究所<br>上級保存科学者 | 文化財の生物劣化対策の研究 | 21.10.26～11. 9 |
| 42 | Stefan Simon | ドイツ | ラトゲン保存研究所 | 「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」での講演および情報交換 | 21.12. 7～12.13 |
| 43 | Thomas Psota | スイス | ベルン歴史博物館<br>学芸員 | 在外日本古美術品保存修復協力事業２１年度修理打ち合わせ | 21.12. 9～12.15 |
| 44 | 景　峰 | 中国 | ユネスコ世界遺産センター　プログラムスペシャリスト | 文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム講演 | 21.12.12～12.15 |
| 45 | Jiang Dong | 中国 | アジア太平洋無形文化遺産センター準備室　事務局長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 46 | Kunzang Delek | ブータン | 国立公文書館<br>副アーキビスト長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 47 | Gaura Mancacaritadipura | インドネシア | ワヤン人形芝居師、<br>文化専門家 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 48 | Nguyen Kim Dung | ベトナム | ベトナム文化スポーツ観光省　文化遺産局無形文化遺産部　部長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 49 | Patrick D. Flores | フィリピン | フィリピン大学芸術学部　教授 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 50 | Misiwaini Qereqeretabua | フィジー共和国 | フィジー言語文化研究所　所長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 51 | Yundenbat Sonom-Ish | モンゴル | 文化遺産センター<br>無形文化遺産保護部　部長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 52 | Seong-Yong Park | 韓国 | アジア太平洋無形文化遺産センター<br>事務局長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 53 | Timothy Curtis | タイ | ユネスコ<br>バンコク事務所<br>文化部　部長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 54 | Laxmi Narayan MANTRI | インド | インド文化省<br>西部地区文化センター　副所長 | 無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー | 22. 1.13～ 1.16 |
| 55 | John Grunewald | ドイツ | ドレスデン工科大学<br>教授 | プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換 | 22. 1.25～ 1.30 |
| 56 | Rudolf Plagge | ドイツ | ドレスデン工科大学<br>研究員 | プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換 | 22. 1.25～ 1.30 |
| 57 | Andreas Nicolai | ドイツ | ドレスデン工科大学<br>研究員 | プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換 | 22. 1.25～ 1.30 |
| 58 | Alexandra Greathead | イギリス | アシュモリアン医術館　紙修復家 | ２１年度在外日本古美術品保存修復協力事業<br>アシュモリアン美術館蔵「歌舞放下芸観覧図屏風」修復事業の中間視察および協議 | 22. 1.26～ 1.30 |
| 59 | Kannika Prasitnaraphan | タイ | タイ王国文化省<br>国家文化委員会事務局（ＯＮＣＣ）<br>文化担当職（渉外グループ） | タイ東北地方モーラム調査フォローアップ | 22. 2. 7～ 2.12 |
| 60 | 平野　明 | イギリス | セインズベリー日本藝術研究所　リサ・セインズベリー図書館<br>司書 | 東アジアの美術に関する資料学的研究に関する共同調査・研究およびミニシンポジウムでの研究発表、討議参加 | 22. 2.19～ 2.27 |
| 61 | 蘇　伯民 | 中国 | 敦煌研究院保護所<br>所長 | 敦煌莫高窟保護の共同研究 | 22. 2.20～ 3.16 |
| 62 | Irena Tronechekova | チェコ | ヴェルケ・メディジチ博物館<br>館長 | ２１年度在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる中間検査 | 22. 2.22～ 2.26 |
| 63 | Alfred Gottwaldt | ドイツ | ドイツ技術博物館<br>鉄道部門上級学芸員 | 近代の研究会講演およびコンクリート構造物の保存応対の現地調査 | 22. 2.27～ 3. 9 |
| 64 | Rolf Höhmann | ドイツ | 産業考古学事務所<br>所長 | 近代の研究会講演およびコンクリート構造物の保存応対の現地調査 | 22. 2.27～ 3. 9 |
| 65 | 周　儉 | 中国 | 同济大学建築与城市規劃学院　副院長/ユネスコ・アジア太平洋地域トレーニング研究センター　執行主任 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 5 |
| 66 | 金　思憲 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所　文化財保存科学センター センター長　代理 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 67 | 金　東大 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所 研究企画課<br>国際交流担当　行政事務官 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 68 | 林　瑩鎭 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>無形文化財研究所<br>学芸研究官 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 69 | 金　鏞漢 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>文化財保存科学センター<br>センター長 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 70 | 黄　仁鎬 | 韓国 | 韓国国立中原文化財研究所<br>学芸研究室長 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 71 | 朴　亨彬 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>研究企画課<br>学芸研究士 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3. 7 |
| 72 | 杜　暁帆 | 中国 | ユネスコ北京事務所<br>文化遺産保護専門員 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |
| 73 | 馬　清林 | 中国 | 中国文化遺産研究院<br>副院長 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |
| 74 | 王　金華 | 中国 | 中国文化遺産研究院<br>高級工程師 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 同研究院　岩土文物与遺址保護研究所<br>所長 | | |
| 75 | 張　治国 | 中国 | 中国文化遺産研究院<br>助理研究員 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |
| 76 | 李　春玲 | 中国 | 中国文化遺産研究院<br>副研究館員、資料室副主任 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |
| 77 | 張　暁彤 | 中国 | 中国文化遺産研究院<br>副研究員 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 2～ 3.10 |
| 78 | 金　奉建 | 韓国 | 韓国国立文化財研究所<br>所長 | 東アジア文化遺産会議 | 22. 3. 4～ 3. 7 |
| 79 | Yudi Suharutono | インドネシア | ボロブドゥール遺産保存研究所　　技官 | 遺跡のモニタリングに関する共同研究 | 22. 3. 8～ 3.13 |
| 80 | Munafri | インドネシア | 南スラヴェシ州遺跡保護事務所<br>技官 | 遺跡のモニタリングに関する共同研究 | 22. 3. 8～ 3.13 |
| 81 | Surayoot Wiriyadamrong | タイ | タイ芸術局保存研究部門　技官 | 覆屋効果に関する共同研究 | 22. 3. 8～ 3.13 |
| 82 | Richard　Timothy Schadla-Hall | イギリス | ロンドン大学考古学研究所<br>准教授 | 文化遺産国際協力コンソーシアム第６回研究会講演 | 22. 3.16～ 3.18 |

## 【奈良文化財研究所】延べ212人

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Dale Croes | アメリカ合衆国 | South Puget Sound Community College・教授　外4名 | 日米湿地遺跡の比較研究のための打合せおよび日本の遺跡視察 | 4月3日～4月5日 |
| 2 | 趙昕濟　外3名 | 大韓民国 | 慶尚北道軍威郡・三国遺事事業推進委員 | 平城宮跡の整備に関する意見交換・視察 | 4月13日 |
| 3 | 金永模　外7名 | 大韓民国 | 韓国伝統文化学校 | 平城宮跡の整備状況視察 | 4月16日 |
| 4 | 金奉建　外2名 | 大韓民国 | 国立文化財研究所長 | 表敬訪問 | 5月14日 |
| 5 | 呂舟 | 中華人民共和国 | 清華大学・教授 | 「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」 | 5月19日～5月21日 |
| 6 | 洪光杓 | 大韓民国 | 東国大学校 | 「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」 | 5月19日～5月21日 |
| 7 | LUANGKHOTH Thonglith　外2名 | ラオス人民民主共和国 | 文化情報省文化遺産局 | ACCU個人研修2009「遺構と遺物の記録方法」受講 | 7月8日～7月30日 |
| 8 | Walid Sharif | パレスチナ | Assistant Deputy for Tourism Affairs(観光局次官補) | 意見交換及び視察「飛鳥地方の遺跡の観光活用視察」（JICA技術研修「パレスチナ官民連携による持続可能な観光振興プロジェクト」コース） | 7月13日～7月14日 |
| 9 | K.S.ラナ　外1名 | インド | インド考古局科学部長 | 保存修復施設および保存修復機器の見学 | 8月3日 |
| 10 | 約45名 | 13カ国（アメリカ・カナダ・中国・クロアチア・チェコ・エストニア・ドイツ・イスラエル・ラトヴィア・ロシア・セルビア・台湾・イギリス） | 国際地理学会エクスカーション | 平城宮跡見学 | 8月25日 |
| 11 | 李仁淑 | 大韓民国 | 国立文化財研究所・学芸研究士 | 共同研究実施のため | 8月26日～9月4日 |
| 12 | Senaa Choob Abass AL-TIMIMI　外3名 | イラク共和国 | イラク国立博物館・保存修復技術者 | 修復に関しての研修 | 9月2日～9月10日 |
| 13 | Sarwat M.Hegazy 外1名 | エジプト・アラブ共和国 | GEM-CC Project・Conservator | 修復に関しての研修 | 9月2日～9月10日 |
| 14 | 李永周 | 大韓民国 | 三江文化財研究所・研究員 | 金海貝塚の報告書作成に必要な資料を届けるため | 9月11日～9月13日 |
| 15 | 魏周興 | 中華人民共和国 | 河南省文物考古研究所・副所長 | 共同研究実施のため | 9月23日～9月30日 |
| 16 | 韓朝会 | 中華人民共和国 | 河南省文物考古研究所・館員 | 共同研究実施のため | 9月23日～9月30日 |
| 17 | 謝巍 | 中華人民共和国 | 河南省文物考古研究所・館員 | 共同研究実施のため | 9月23日～9月30日 |
| 18 | 郭進卿 | 中華人民共和国 | 河南省文物保護勘探中心・主任 | 共同研究実施のため | 9月23日～9月30日 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 李玉芳 | 中華人民共和国 | 河南省文物局計財処 | 共同研究実施のため | 9月23日～9月30日 |
| 20 | コンドカー・ザヒダル・カリム | バングラディシュ人民共和国 | 文化省考古学局・考古学技師 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 21 | カルマ・ワンチュク | ブータン王国 | 自治 文化省・文化財保護事業主任 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 22 | コサシ・ビスマントラ | インドネシア共和国 | 文化・観光省考古遺産局・文化財保護課主任 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 23 | アナヒタ・ムサビ | イラン・イスラム共和国 | ギーラン地区文化遺産博物館・建築グループ主任 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 24 | アンフォール・セバスチャン | ラオス人民民主共和国 | 世界遺産ワット・フー管理事務所・歴史的建造物担当主任建築職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 25 | オユチメグ・オチルスレン | モンゴル国 | 国立文化遺産センター・木造建築物修復専門職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 26 | ウー・ミン・ミン | ミャンマー連邦 | 文化省マンダレー考古学,博物館,図書館局・文化財修復専門職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 27 | スレシュ・スラス・シュレスタ | ネパール共和国 | 文化・国家再編省考古学局・考古学職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 28 | アタレイリア・ロエナ・アクハタ・ヘイヘイ | ニュー・ジーランド | ニュージーランド史跡トラスト・マオリ文化遺産顧問 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 29 | サルマン・ムハンマド | パキスタン・イスラム共和国 | アガカーン文化事業・主任文化財修復建築家 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 30 | ネルソン・ラクサマナ・アキノ | フィリピン共和国 | 観光局イントラムロス管理事務所・事業管理主任/史跡開発職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 31 | マイニフォ・ビリアム | サモア独立国 | 教育スポーツ文化省・文化課職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 32 | リヤナ・アラチチゲ・ビサカ | スリランカ民主社会主義共和国 | 中央文化基金・文化財修復調査職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 33 | ポングトルン・ヒエンキュー | タイ王国 | 文化省記念建造物調査グループ考古学事務所・建築専門職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 34 | シュクロビディン・ナルメトフ | ウズベキスタン共和国 | ウズベキスタン文化スポーツ省・主任専門職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 35 | グエン・チ・タアイン・ツン | ベトナム社会主義共和国 | ベトナム国立民族文化観光村・研究職員 | ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講 | 9月24日～10月5日 |
| 36 | | アフガニスタン・イスラム国 | | アフガニスタン人考古学専門家研修 | 9月24日～12月1日 |
| 37 | 万雄飛 | 中華人民共和国 | 遼寧省文物考古研究所・第一研究室主任 | 特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 9月29日～10月9日 |
| 38 | 蘭新建 | 中華人民共和国 | 遼寧省博物館・歴史部主任 | 特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 9月29日～10月9日 |
| 39 | 李国学 | 中華人民共和国 | 朝陽市博物館・副館長 | 特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 9月29日～10月9日 |
| 40 | 郭興文 | 中華人民共和国 | 遼寧省文化庁・庁長 | 共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 10月14日～10月24日 |
| 41 | 張曄琳 | 中華人民共和国 | 遼寧省文化庁芸術外連処・副処長 | 共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 10月14日～10月24日 |
| 42 | 田立坤 | 中華人民共和国 | 遼寧省文物考古研究所・所長 | 共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 10月14日～10月24日 |
| 43 | 劉寧 | 中華人民共和国 | 遼寧省博物館・副館長 | 共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 10月14日～10月24日 |
| 44 | 尚暁波 | 中華人民共和国 | 朝陽市博物館・館長 | 共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため | 10月14日～10月24日 |
| 45 | 卓京柏 | 大韓民国 | 国立扶余文化財研究所・学芸研究 | 共同研究実施のため | 11月3日～11 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 士 | | 月12日 |
| 46 | 車順哲 | 大韓民国 | 国立慶州文化財研究所・学芸研究士 | 共同研究実施のため | 11月3日～11月12日 |
| 47 | 呉春 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室文物局 副局長 | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 48 | 劉磊 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室計画広域局 副局長 | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 49 | 貫剣一 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・部長 | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 50 | 高本憲 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室文物局・上席エンジニア | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 51 | 張晶菁 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・職員 | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 52 | 張博 | 中華人民共和国 | 西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・職員 | 遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため | 11月7日～11月14日 |
| 53 | エレーナ・アスタシェンコヴァ | ロシア連邦 | ロシア科学アカデミー極東支部歴史考古民俗研究所・研究員 | 施設見学 | 11月16日,1月17日 |
| 54 | SAMDAN Chinzorig 外2名 | モンゴル国 | 国立文化遺産センター・歴史文化遺産修復部 | ACCU文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・モンゴル）受講（開催期間：11月17日～12月17日） | 11月18日～11月20日,11月24日～11月27日,12月7日～12月11日 |
| 55 | 陸博 | 中華人民共和国 | 遼寧省文物考古研究書・保管員 | 飛鳥資料館にて共同開催する特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品 | 11月22日～12月2日 |
| 56 | 張桂霞 | 中華人民共和国 | 遼寧省文物考古研究書・保管員 | 特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品 | 11月22日～12月2日 |
| 57 | 邱菊 | 中華人民共和国 | 遼寧省博物館・保管員 | 特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品 | 11月22日～12月2日 |
| 58 | 李桂憲　外4名 | 大韓民国 | 文化財庁発掘制度課・学芸研究官 | 埋蔵文化財調査・保存に関する資料の調査および平城宮・発掘調査現場の見学 | 11月26日 |
| 59 | 黄仁鎬 | 大韓民国 | 国立中原文化財研究所・学芸研究室長 | 共同研究実施のため | 12月8日～12月17日 |
| 60 | 田庸昊 | 大韓民国 | 国立扶余文化財研究所・学芸研究士 | 共同研究実施のため | 12月10日～12月17日 |
| 61 | 安寶蓮 | 大韓民国 | 国立扶余文化財研究所・研究員 | 共同研究実施のため | 12月13日～12月17日 |
| 62 | 金漢相 外7名 | 大韓民国 | 忠清南道歴史文化研究院 | 施設見学 | 1月15日 |
| 63 | 韓旭彬　外12名 | 大韓民国 | 仏教文化財研究所 | 現場見学等 | 1月21日 |
| 64 | M.ブシュナキ　外17名 | 数カ国（中国・インド・モンゴル・タイ・インドネシア・ベトナム外） | ICCROM所長 | ACCUによる国際会議「文化遺産保護と人材養成のエクスカーション | 1月28日 |
| 65 | 朴宰用　外11名 | 大韓民国 | 忠清南道歴史文化研究院百済忠清学研究チーム | 施設見学 | 22年1月29日 |
| 66 | Hans-Peter Uerpmann | ドイツ連邦共和国 | チューンビンゲン大学・教授 | メソポタミアにおける動物考古学に関する討議 | 22年1月31日～2月10日 |
| 67 | Margarethe Uerpmann | ドイツ連邦共和国 | チューンビンゲン大学・教授 | メソポタミアにおける動物考古学に関する討議 | 22年1月31日～2月10日 |
| 68 | グエン・ジャン・ハイ　外2名 | ベトナム社会主義共和国 | ベトナム社会科学院 | 施設見学 | 22年2月1日 |
| 69 | 池炳穆　外4名 | 大韓民国 | 国立慶州文化財研究所・所長 | 所蔵遺物の閲覧および施設見学（チョクセム新羅古墳出土の掛甲の原型復元のための事前調査） | 22年2月4日,2月5日 |

| | 氏名 | 国名 | 所属機関・職名 | 用務 | 期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 70 | 李匡悌 | 台湾 | 台湾中央研究院 | 貝塚出土動物骨の検討および討議 | 22年2月4日<br>～2月9日 |
| 71 | 鄭太垠 | 大韓民国 | 国立慶州文化財研究所・学芸研究士 | 日韓共同研究合意書に基づく古代都城遺跡の共同発掘調査のため | 22年2月8日<br>～3月20日 |
| 72 | 銭国祥 | 中華人民共和国 | 中国社会科学院考古研究所・研究員 | 共同研究実施のため | 22年2月26日<br>～3月5日 |
| 73 | 郭暁濤 | 中華人民共和国 | 中国社会科学院考古研究所・助理研究員 | 共同研究実施のため | 22年2月26日<br>～3月5日 |
| 74 | 張蕾 | 中華人民共和国 | 中国社会科学院考古研究所・助理研究員 | 共同研究実施のため | 22年2月26日<br>～3月5日 |
| 75 | ORN Porsoeun　外1名 | カンボジア王国 | 観光省計画・開発局・課長補佐 | メコン地域観光振興(JICA技術研修)<br>（国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学） | 22年3月8日 |
| 76 | BAYLATRY Khamkhoun　外1名 | ラオス人民民主共和国 | ラオス政府観光局ヴィエンチャン首都観光部・副課長 | メコン地域観光振興(JICA技術研修)<br>（国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学） | 22年3月8日 |
| 77 | HLAING Oo　外1名 | ミャンマー連邦 | ホテル・観光局観光振興部・副課長 | メコン地域観光振興(JICA技術研修)<br>（国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学） | 22年3月8日 |
| 78 | DOUNGCHAN Om　外1名 | タイ王国 | タイ国政府観光庁東北部マーケティング部北部マーケティングアクションプラン課・主任 | メコン地域観光振興(JICA技術研修)<br>（国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学） | 22年3月8日 |
| 79 | TRANBinh Phong 外1名 | ベトナム社会主義共和国 | 文化・スポーツ・観光省ベトナム政府観光局観光マーケティング部・担当官 | メコン地域観光振興(JICA技術研修)<br>（国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学） | 22年3月8日 |
| 80 | Muong Thamita | カンボジア王国 | プノンペン王立芸術大学卒業生 | 共同研究実施のため | 22年3月15日<br>～3月24日 |
| 81 | Keo Chansophany | カンボジア王国 | プノンペン王立芸術大学卒業生 | 共同研究実施のため | 22年3月15日<br>～3月24日 |
| 82 | 孫新民　外1名 | 中華人民共和国 | 河南省文物考古研究所・所長 | 「奈良文化財研究所・河南省文物考古研究所友好共同研究議定書」調印式出席 | 22年3月16日 |
| 83 | 徐民錫 | 大韓民国 | 国立文化財研究所・学芸研究士 | 施設見学 | 22年3月17日 |

## 2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 68人 | 23人 | 5人 | 5人 | 5人 | 10人 | 8人 |

### 【東京国立博物館】延べ23人

| | 機関名 | 研究課題 | 研究代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 東京大学 | 目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－ | 史料編纂所教授<br>田島 公 | 学芸研究部長　島谷 弘幸 |
| 2 | 東京大学 | 目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－ | 史料編纂所教授<br>田島 公 | 列品管理課登録室長　田良島 哲 |
| 3 | 東京藝術大学 | 油彩画の材料・技法に関する共同調査 | 大学院美術研究科教授<br>木島 隆康 | 保存修復課長　神庭 信幸 |
| 4 | 東京藝術大学 | 油彩画の材料・技法に関する共同調査 | 大学院美術研究科教授<br>木島 隆康 | 保存修復課保存修復室主任研究員　土屋 裕子 |
| 5 | 東京藝術大学 | 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書 | 美術学部教授　北郷悟 | 保存修復課長　神庭 信幸 |
| 6 | 東京藝術大学 | 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書 | 美術学部教授　北郷悟 | 列品管理課登録室長　田良島 哲 |
| 7 | 東京藝術大学 | 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書 | 美術学部教授　北郷悟 | 博物館情報課情報管理室長<br>丸山 士郎 |
| 8 | 神奈川県立金沢文庫 | 金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究 | 主任学芸員　永井 晋 | 調査研究課書跡・歴史室主任研究員　高梨 真行 |
| 9 | 東京藝術大学 | 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用 | 副学長　北郷 悟 | 企画課長　井上 洋一 |
| 10 | 東京藝術大学 | 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究 | 大学院映像研究科教授<br>佐藤 雅彦 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー　河内 晋平 |
| 11 | 財団法人科学博物館後援会 | 科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発－ | 公益事業課長 高安　礼士 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木 みどり |
| 12 | 国立歴史民俗博物館 | デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究 | 研究部教授　安達 文夫 | 博物館情報課情報管理室研究員　村田 良二 |
| 13 | 国立歴史民俗博物館 | デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究 | 研究部教授　安達 文夫 | 列品管理課登録室長　田良島 哲 |
| 14 | 九州国立博物館 | 海の東アジアが醸成した貝と漆の文化「螺鈿」の再発見－ その共通性と多様性を探る | 学芸部文化財課資料管理室長 小林 公治 | 列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊 兼樹 |
| 15 | 天理大学 | 初期ヤマト政権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究 | 名誉教授 金 関恕 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷 毅 |
| 16 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開 | 主任研究員 水野 敏典 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷 毅 |
| 17 | 文化女子大学文化ファッション研究機構 | 近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究―小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用― | 共立女子大学教授　長崎巌 | 調査研究課絵画・彫刻室長<br>田沢裕賀 |
| 18 | 徳川美術館 | 国宝「初音の調度」の総合的研究 | 学芸員　小池 富雄 | 調査研究課工芸・考古室長<br>竹内 奈美子 |
| 19 | 明治大学（古文化財研究所） | 環境変遷史と人類活動に関する学際的研究 | 文学部教授　杉原 重夫 | 調査研究課工芸・考古室研究員　品川 欣也 |
| 20 | 人間文化研究機構 | 有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成 | 准教授　園田 直子 | 保存修復課長　神庭 信幸 |
| 21 | 人間文化研究機構 | 有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成 | 准教授　園田 直子 | 保存修復課環境保存室主任研究員　荒木 臣紀 |
| 22 | 人間文化研究機構 | 有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成 | 准教授　園田 直子 | 保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩 |
| 23 | 国立歴史民俗博物館 | 洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究 | 国立歴史民俗博物館教授<br>小島 道裕 | 保存修復課長　神庭 信幸 |

### 【京都国立博物館】延べ5人

| | 機関名 | 研究課題 | 研究代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 大阪大谷大学 | 智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究 | 教授　宇都宮啓吾 | 学芸部上席研究員　赤尾栄慶<br>学芸部企画室研究員　羽田聡 |
| 2 | 東京国立博物館 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究 | 学芸研究部長　島谷弘幸 | 学芸部上席研究員　赤尾栄慶 |
| 3 | 日本女子大学 | 蝋管を中心とした初期録音資料の音源保存・音声復元・内容分析に関する横断的研究 | 教授　清水康行 | 学芸部保存修理指導室長　村上隆 |
| 4 | 大阪大学 | 南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究 | 名誉教授　肥塚隆 | 学芸部連携協力室主任研究員<br>淺湫毅 |

| | 機関名 | 研究課題 | 研究代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 大阪市文化財協会 | 関西地域の陶磁器生産の技術系譜に関する調査･研究 | 文化財研究部係長　佐藤隆 | 学芸部工芸室長　尾野善裕 |

## 【奈良国立博物館】延べ5人

| | 機関名 | 研究課題 | 研究代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 筑波大学 | 東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究 | 教授　山本　隆志 | 館長　湯山　賢一 |
| 2 | 奈良教育大学 | ユネスコの提起する世界遺産教育の教育内容と教育方法の創造 | 教授　田渕　五十生 | 学芸部長　西山　厚 |
| 3 | 東京国立博物館 | 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究－「正倉院裂」を中心に－ | 上席研究員　澤田　むつ代 | 学芸部長　西山　厚 |
| 4 | 種智院大学 | インド文化圏における仏塔の総合的研究 | 学長　頼富　本宏 | 学芸部工芸考古室長　内藤　榮 |
| 5 | 九州大学大学院人文科学研究院 | 寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク | 教授　井手　誠之輔 | 学芸部保存修理指導室長　谷口耕生 |

## 【九州国立博物館】　5人

| | 機関名 | 研究課題 | 研究代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 東京大学 | 和紙の物理的分別手法の確立と歴史学的データベース化の研究 | 教授　保立　道久 | 博物館科学課保存修復室長　藤田　励夫 |
| 2 | 関西大学 | 飛鳥･川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－ | 教授　米田　文孝 | 企画課研究員　市元　塁 |
| 3 | 独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館 | 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－ | 情報管理室長　丸山士郎 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |
| 4 | 独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 学芸研究部長　島谷弘幸 | 文化財課主任研究員　丸山　猶計 |
| 5 | 龍谷大学 | ガンダーラ美術の史料集成とその統合的研究 | 教授　宮治　昭 | 企画課長　小泉　惠英 |

## 【東京文化財研究所】延べ　10人

| | 機関名 | 研究課題 | 代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 大谷大学 | 世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究－過去の復元から未来への保存へ－ | 松川　節 | 文化遺産国際協力センター主任研究員<br>二神葉子 |
| 2 | 東京大学 | 観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究 | 松岡　心平 | 無形文化遺産部無形文化財研究室長<br>高桑いづみ |
| 3 | 東京大学 | 「地図史料学の構築」の新展開－科学的調査・復元研究・データベース－ | 杉本　史子 | 保存修復科学センター分析科学研究室長<br>早川泰弘 |
| 4 | 広島市立大学 | ヒマラヤを超え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究 | 服部　等作 | 副所長<br>中野照男 |
| 5 | 立教大学 | アジアの無形文化における仮頭の研究－仮面との比較から－ | 細井　尚子 | 副所長<br>中野照男 |
| 6 | 東京大学 | 文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究 | 岩本　通弥 | 無形文化遺産部主任研究員<br>俵木　悟 |
| 7 | 早稲田大学 | 未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究 | 鳥越　文蔵 | 無形文化遺産部音声・映像記録研究室長<br>飯島　満 |
| 8 | 京都大学 | ミリ波イメージング技術による木質文化財の生物劣化の非破壊診断装置の開発 | 藤井　義久 | 保存sy数副科学センター生物科学研究室長<br>木川りか |
| 9 | 東京藝術大学 | 文化財科学、美術史学、制作技法研究の情報統合による「薬師寺吉祥天画像」の復元模写研究 | 宮廻　正昭 | 保存修復科学センター分析科学研究室長<br>早川泰弘 |
| 10 | 筑波大学 | 中近東･北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録、保存、公開に関する研究 | 日高　健一郎 | 保存修復科学センター長<br>石崎武志 |

## 【奈良文化財研究所】延べ8人

| | 機関名 | 研究課題 | 代表者名 | 分担者名 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 東京大学 | 目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明- | 教授<br>田島　公 | 都城発掘調査部史料研究室長<br>渡邉晃宏 |
| 2 | 同志社大学 | 東北アジアにおける古環境変動と旧石器編年に関する基礎的研究 | 教授<br>松藤　和人 | 企画調整部主任研究員<br>加藤　真二 |
| 3 | 奈良大学 | 東アジア木簡学の確立 | 教授<br>角谷　常子 | 都城発掘調査部史料研究室長<br>渡邉　晃宏 |
| 4 | 京都大学 | 厳環境下での木材の劣化現象と耐久性 | 教授<br>今村　祐嗣 | 埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成 |
| 5 | 独立行政法人国立科学博物館 | 徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析-大奥の実態に迫る- | 部長<br>馬場　悠男 | 埋蔵文化財センター長<br>松井　章 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 立命館大学 | 『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社会像の再構築 | 教授<br>本郷　真紹 | 都城発掘調査部主任研究員<br>山本　崇 |
| 7 | 新潟県立看護大学 | 韓国出土古人骨の形質人類学的研究 | 准教授<br>藤田　尚 | 埋蔵文化財センター客員研究員<br>橋本　裕子 |
| 8 | 鹿児島大学 | 考古学と地下探査の協同による近世薩摩焼研究再構築のための基礎的研究 | 教授<br>渡辺　芳郎 | 埋蔵文化財センター主任研究員<br>金田　明大 |

### 3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 403人 | 16人 | 13人 | 30人 | 46人 | 169人 | 129人 |

### 【東京国立博物館】延べ16人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 鬼頭 智美 | オーストリア<br>ハンガリー | 21年4月20日～27日 | 国際展覧会オーガナイザー会議出席のため（ウィーン美術歴史博物館（オーストリア）、国立西洋美術館（ハンガリー）） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 2 | 小泉 惠英 | スリランカ | 21年5月4日～9日 | 新規開館予定のシーギリヤ博物館の視察（コロンボ国立博物館、シーギリヤ博物館、シーギリヤ遺跡） | 職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張 |
| 3 | 井上 洋一 | 韓国 | 21年5月23日～24日 | 第３回韓国博物館・美術館機構国際会議出席のため（国立中央博物館） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 4 | 冨坂 賢 | 韓国 | 21年8月17日～22日 | 日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため（国立中央博物館、国立現代美術館、靖齋文化財保存研究所、国立公州博物館） | 職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張 |
| 5 | 土屋 裕子 | 韓国 | 21年8月17日～30日 | 日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため（国立中央博物館、国立現代美術館、靖齋文化財保存研究所、国立公州博物館、武寧王陵、国立古宮博物館、国立慶州博物館、仏国寺、国立済州島博物館、海女博物館、済州島牧） | 職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張 |
| 6 | 矢野 賀一 | 英国 | 21年9月28日～10月4日 | 「土偶展」会場視察および大英博物館との打ち合わせ・意見交換、ロンドン市内博物館・美術館の日本美術展示等の現状視察（大英博物館、ヴィクトリア＆アルバート博物館、自然史博物館、テートモダンギャラリー、ナショナルギャラリー） | 職員旅費（海外展）、出張 |
| 7 | 松本 伸之 | 台湾 | 21年10月6日～7日 | 国立故宮博物院に於いて開催される特別展「調和と完成：雍正帝とその時代」展開会式に出席予定の佐藤前館長随行（国立故宮博物院） | 職員旅費（海外展）、出張 |
| 8 | 島谷 弘幸 | 韓国 | 21年11月1日～2日 | 韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 9 | 松本 伸之 | 韓国 | 21年11月1日～3日 | 韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館） | 職員旅費（ＡＮＭＡ会議開催経費）、出張 |
| 10 | 遠藤 楽子 | 韓国 | 21年11月1日～3日 | 韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館） | 職員旅費（ＡＮＭＡ会議開催経費）、出張 |
| 11 | 和田 浩 | イタリア | 22年1月23日～29日 | ミラノ海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」陳列替作業のため（パラッツォ・レアーレ） | 職員旅費（海外展経費）、出張 |
| 12 | 島谷 弘幸 | 韓国 | 22年2月11日～14日 | 国立慶州博物館所蔵の日本および中国書跡調査のため（国立慶州博物館） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 13 | 富田　淳 | 韓国 | 22年2月11日～14日 | 国立慶州博物館所蔵の日本および中国書跡調査のため（国立慶州博物館） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 14 | 遠藤 楽子 | イタリア | 22年3月4日～14日 | イタリア・ミラノ市周辺展示施設等視察およびミラノ海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」撤収作業のため（キヨッソーネ美術館、スフォルツェスコ城、パラッツォ・レアーレほか） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |
| 15 | 原田 一敏 | 中国 | 22年3月8日～19日 | 東京国立博物館と上海博物館との学術交流（上海博物館、上海工芸美術館、上海美術館、蘇州博物館、烏鎮民居、浙江省博物館ほか） | 職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張 |
| 16 | 竹内 奈美子 | 韓国 | 22年3月14日～17日 | 韓国国立中央博物館およびソウル市内博物館における漆芸作品調査・展示視察のため（韓国国立中央博物館、ソウル市内博物館） | 職員旅費（国際交流費）、出張 |

### 【京都国立博物館】延べ13人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 赤尾　栄慶 | ロシア連邦 | 6月23日～7月3日 | 特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」作品集荷 | |
| 2 | 久保　智康 | 中華人民共和国 | 7月5日～11日 | 宋～清代の銅鋳造作品に関する調査 | |
| 3 | 淺湫　毅 | インドネシア | 8月5日～14日 | 科学研究費補助金による調査 | |
| 4 | 赤尾　栄慶 | ロシア連邦 | 9月14日～20日 | 特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」作品返還 | |
| 5 | 永島　明子 | グレートブリテン・北アイルランド連合王国 | 10月25日～11月2日 | シンポジウム参加・調査研究 | |
| 6 | 山川　暁 | 中華人民共和国 | 11月2日～5日 | 特別展覧会「高僧と袈裟」作品調査・出品交渉 | |
| 7 | 呉　孟晋 | 台湾 | 11月29日～12月5日 | 国際シンポジウム参加 | |
| 8 | 久保　智康 | アメリカ合衆国 | 平成22年1月10～1月21日 | 文化庁・メトロポリタン美術館主催「侍の芸術」展作品撤収協力 | |
| 9 | 赤尾　栄慶 | 大韓民国 | 2月17日～2月20日 | 国際ワークショップ参加 | |
| 10 | 宮川　禎一 | ベトナム | 3月4日～3月8日 | 銅鼓を中心とする古代青銅器の調査 | |
| 11 | 久保　智康 | 中華人民共和国 | 3月5日～3月9日 | 寺院伝来金工品の調査 | |
| 12 | 羽田　聡 | イタリア共和国 | 3月7日～3月19日 | ミラノ市Palazzo Reale開催の展覧会の撤収、作品随伴 | |
| 13 | 山川　暁 | 中華人民共和国 | 3月16日～3月21日 | 特別展覧会「高僧と袈裟」作品調査・出品交渉 | |

## 【奈良国立博物館】延べ30人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 岩田　茂樹 | 中国 | 21年4月6日～5月1日 | 河南博物院との学術交流に伴う視察及び調査研究のため | 河南博物院 |
| 2 | 清水　健 | 中国 | 21年4月6日～4月28日 | 河南博物院との学術交流に伴う視察及び調査研究のため | 河南博物院 |
| 3 | 畑中　裕良 | 中国 | 21年12月15日～12月21日 | 上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため | 上海博物館 |
| 4 | 添田　美由紀 | 中国 | 21年12月15日～12月21日 | 上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため | 上海博物館 |
| 5 | 松本　直也 | 中国 | 21年12月15日～12月21日 | 上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため | 上海博物館 |
| 6 | 北澤　菜月 | 韓国 | 21年12月29日～22年1月28日 | 国立慶州博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため | 国立慶州博物館 |

**●その他の調査等のための海外渡航実績**

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 谷口　耕生 | 中国 | 21年4月14日～4月17日 | 「聖地寧波展」協力依頼、現地調査のため | 職員旅費 |
| 8 | 内藤　栄 | 中国 | 21年4月14日～4月17日 | 「聖地寧波展」協力依頼、現地調査のため | 職員旅費 |
| 9 | 西山　厚 | 中国 | 21年5月19日～5月22日 | 「聖地寧波展」現地調査のため | 職員旅費 |
| 10 | 北澤　菜月 | 中国 | 21年5月19日～5月22日 | 「聖地寧波展」現地調査のため | 職員旅費 |
| 11 | 岩戸　晶子 | 韓国 | 21年7月7日～7月13日 | 「聖地寧波展」出陳品借用のため | 職員旅費 |
| 12 | 内藤　栄 | 中国 | 21年7月6日～7月12日 | 「聖地寧波展」出陳品借用のため | 職員旅費 |
| 13 | 稲本　泰生 | 中国 | 21年8月27日～8月30日 | 「大遣唐使展」予備調査のため | 仏教美術協会助成金 |
| 14 | 野尻　忠 | 中国 | 21年8月27日～9月6日 | 文化財調査のため | 読売新聞社 |
| 15 | 岩戸　晶子 | 韓国 | 21年9月3日～9月8日 | 「聖地寧波展」出陳品返却のため | 職員旅費 |
| 16 | 永井　洋之 | 中国 | 21年9月6日～9月11日 | 「聖地寧波展」出陳品返却のため | 職員旅費 |
| 17 | 岩戸　晶子 | 韓国 | 21年10月29日～10月30日 | 科研調査のため | 科研費 |
| 18 | 湯山　賢一 | 韓国 | 21年12月13日～12月14日 | 表敬訪問のため | 職員旅費 |
| 19 | 西山　厚 | 韓国 | 21年12月13日～12月14日 | 表敬訪問のため | 職員旅費 |
| 20 | 内藤　栄 | バングラデシュ | 21年12月17日～12月27日 | 科研調査のため | 科研費 |
| 21 | 稲本　泰生 | 中国 | 21年12月27日～12月31日 | 「大遣唐使展」予備調査のため | 仏教美術協会助成金 |
| 22 | 岩戸　晶子 | 韓国 | 22年1月31日～2月5日 | 科研調査のため | 科研費 |
| 23 | 谷口　耕生 | アメリカ | 22年2月14日～2月20日 | 科研調査のため | 科研費 |
| 24 | 湯山　賢一 | 中国 | 22年2月25日～2月27日 | 学術交流協定調印のため | 職員旅費 |
| 25 | 植田　義雄 | 中国 | 22年2月25日～2月27日 | 学術交流協定調印のため | 職員旅費 |
| 26 | 西山　厚 | 中国 | 22年2月25日～2月27日 | 学術交流協定調印のため | 職員旅費 |
| 27 | 冨田　文雄 | 韓国 | 22年3月8日～3月10日 | 国立慶州博物館視察及び事務打合せのため | 職員旅費 |
| 28 | 岡本　幸治 | 韓国 | 22年3月8日～3月10日 | 国立慶州博物館視察及び事務打合せのため | 職員旅費 |
| 29 | 湯山　賢一 | 中国 | 22年3月9日～3月13日 | 科研調査のため | 科研費 |
| 30 | 永井　洋之 | 中国 | 22年3月14日～3月29日 | 「大遣唐使展」出陳品借用のため | 職員旅費 |

## 【九州国立博物館】延べ46人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 小林　公治 | 韓国 | 4月21日 | 4月29日 | 調査についての事前打合せ、慶尚南道統営市での螺細工房調査、江原道原州市での螺細工房調査、国立中央博物館での螺細文化財調査、国立民俗博物館での螺細文化財調査のため | |
| 2 | 森田　稔 | 中国 | 6月8日 | 6月10日 | ２２年度夏季展覧会に係る出陳協議のため | |
| 3 | 河野　一隆 | | | | | |
| 4 | 市元　塁 | | | | | |
| 5 | 本田　光子 | タイ | 6月22日 | 6月25日 | タイ海外展調査用務のため | |
| 6 | 原田　あゆみ | タイ | 6月22日 | 7月4日 | タイ海外展調査用務、科学研究費調査「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－」 | |
| 7 | 市元　塁 | 中国 | 7月15日 | 7月17日 | 科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基盤研究に係る現地調査のため | |
| 8 | 市元　塁 | 中国 | 7月19日 | 7月27日 | 科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基盤研究に係る現地調査のため | |
| 9 | 臺信　祐爾 | 中国 | 8月2日 | 8月9日 | 科研基盤B海外「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」調査研究のため | |
| 10 | 市元　塁 | | | | | |
| 11 | 今津　節生 | 中国 | 8月10日 | 8月17日 | 遼代工芸技術の研究に係る調査と協議のため | |
| 12 | 本田　光子 | タイ | 8月23日 | 8月26日 | タイ・マレーシア考古学共同事業「考古学、博物館学と保護に関する国際セミナー」における講演用務、セミナー参加用務 | |
| 13 | 藤田　励夫 | ベトナム | 8月24日 | 8月29日 | ベトナム民族博物館におけるイベント（中秋節）に係る協議、ベトナムとの交流のための事前調査のため | |
| 14 | 池内　一誠 | | | | | |
| 15 | 本田　光子 | 中国 | 9月16日 | 9月19日 | 「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」における講師担当用務のため | |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 小林　公治 | 中国 | 9月18日 | 9月28日 | 中国の螺鈿制作技術を中心とした調査のため | |
| 17 | 藤田　励夫 | ベトナム | 9月22日 | 10月1日 | ベトナム民族博物館におけるイベント（中秋節）準備・協力・撤収のため | |
| 18 | 池内　一誠 | | 9月22日 | 9月29日 | | |
| 19 | 赤司　善彦 | 韓国 | 10月7日 | 10月10日 | 「百済、東アジア交流国際フォーラム」における講師用務 | |
| 20 | 今津　節生 | 中国 | 10月15日 | 10月19日 | 「東アジア文化遺跡保存学会」での研究発表のため | |
| 21 | 本田　光子 | | 10月16日 | 10月18日 | 東アジア地域の文化遺産保護に関する情報収集のため | |
| 22 | 藤田　励夫 | | 10月16日 | 10月20日 | 「東アジア文化遺跡保存学会」での発表のため | |
| 23 | 本田　光子 | 韓国 | 10月22日 | 10月25日 | 古典籍保存環境に関する韓・日共同ワークショップでの意見交換及び情報収集、トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の展示映像撮影のため | |
| 24 | 藤田　励夫 | | | | | |
| 25 | 金井　裕子 | アメリカ | 10月30日 | 11月6日 | 文化財調査のため | |
| 26 | 三輪　嘉六 | 中国 | 11月2日 | 11月5日 | ２０１１年特別展開催に係る協議、中国関連事業に係る表敬・協議のため | |
| 27 | 今津　節生 | | 11月2日 | 11月5日 | | |
| 28 | 市元　塁 | | 11月2日 | 11月5日 | | |
| 29 | 小泉　惠英 | | 11月2日 | 11月6日 | ２０１１年特別展開催に係る協議、中国関連事業に係る表敬・協議、東京国立博物館「土偶展」に伴う平常展撤収立ち会い指導のため | |
| 30 | 市元　塁 | 中国 | 11月22日 | 12月2日 | ２０１０年秋期特別展開催に係る調査・協議のため | |
| 31 | 赤司　善彦 | タイ | 11月23日 | 11月30日 | ＪＩＣＡ草の根技術協力事業 | |
| 32 | 三輪　嘉六 | 韓国 | 12月13日 | 12月14日 | 韓国国立中央博物館長表敬訪問及び百済展の開催に関する協議のため | |
| 33 | 森田　稔 | | | | | |
| 34 | 赤司　善彦 | | | | | |
| 35 | 小林　公治 | タイ、ラオス、マレーシア | 12月22日 | 22年1月3日 | タイおよび周辺隣国（ラオス・マレーシア）の螺鈿に関する調査のため | |
| 36 | 市元塁 | 中国 | 22年1月5日 | 1月10日 | 科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究に係る現地調査のため | |
| 37 | 森田稔 | ベトナム | 1月5日 | 1月10日 | ベトナムとの交流協議・絵本の贈呈のため | |
| 38 | 藤田励夫 | | | | | |
| 39 | 赤司　善彦 | 韓国 | 1月19日 | 1月21日 | 特別展「国宝　黄金の馬　－煌めく藤ノ木古墳の至宝（仮）」に係る協議のため | |
| 40 | 市元塁 | 中国 | 1月24日 | 1月27日 | 基盤研究（B）飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－に係る調査のため | |
| 41 | 畑靖紀 | アメリカ | 2月6日 | 2月13日 | 東アジアの宗教美術に関する調査研究のため | |
| 42 | 池内　一誠 | 中国 | 2月24日 | 2月28日 | 学校貸出キット「きゅうぱっく」制作および「あじっぱ」展示にかかる資料の調査・収集のため | |
| 43 | 池内　一誠 | 韓国 | 3月17日 | 3月22日 | 学校貸出キット「きゅうぱっく」制作および「あじっぱ」展示にかかる資料の調査・収集のため | |
| 44 | 臺信　祐爾 | 中国 | 3月20日 | 3月26日 | 内蒙古博物院における作品調査、内蒙古文物考古研究所における打合せおよび作品調査、巴林右旗博物館における作品調査、遼上京博物館における作品調査、赤峰博物館における作品調査 | |
| 45 | 市元塁 | | | | | |
| 46 | 三輪嘉六 | 中国 | 3月21日 | 3月23日 | 内蒙古文物考古研究所における打ち合わせ出席のため | |

## 【東京文化財研究所】延べ169人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 岡田　健 | 中国 | 21. 4. 4～ 4. 9 | シルクロード人材育成プログラムにおける2009年度古建築保護修復コース開講、及び授業 | |
| 2 | 友田正彦 | 中国 | 21. 4.11～ 4.19 | シルクロード人材育成プログラムにおける2009年度古建築保護修復コースでの講師担当 | |
| 3 | 岡田　健 | 中国 | 21. 4.18～ 4.26 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 4 | 島津美子 | トルコ | 21. 4.22～ 4.18 | 「カッパドキアにおける壁画保存に向けた状態調査」への参加 | |
| 5 | 山内和也 | トルコ | 21. 4.22～ 4.18 | 「カッパドキア石窟における壁画保存に向けた状態調査」への参加 | |
| 6 | 友田正彦 | 中国 | 21. 4.25～ 5. 1 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 7 | 岡田　健 | 中国 | 21. 5. 9～ 5.20 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 8 | 邊牟木尚美 | タジキスタン | 21. 5.13～ 6. 2 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復 | |
| 9 | 影山悦子 | タジキスタン | 21. 5.13～ 6.12 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復 | |
| 10 | 山梨絵美子 | 韓国 | 21. 5.15～ 5.17 | 2009年韓国西洋美術史学会大会での発表と協議 | |
| 11 | 宮田繁幸 | タイ | 21. 5.16～ 5.21 | タイ王国関係機関との協議 | |
| 12 | 友田正彦 | 中国 | 21. 5.16～ 5.24 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 13 | 山内和也 | カザフスタン | 21. 5.17～ 5.23 | シルクロードの世界遺産への一括登録に関する会議への出席 | |
| 14 | 島津美子 | タジキスタン | 21. 5.20～ 6. 9 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復 | |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 田代亜紀子 | マレーシア | 21. 5.23～ 5.27 | 日本財団APIプロジェクト<br>地域委員会参加のため | |
| 16 | 俵木　悟 | 韓国 | 21. 5.25～ 6. 8 | 「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書にもとづく研修 | |
| 17 | 二神葉子 | カンボジア、タイ | 21. 5.30～ 6. 6 | アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席、アンコール遺跡群での現地調査およびタイ文化省芸術局との共同研究に関する打ち合わせ | |
| 18 | 山内和也 | タジキスタン | 21. 5.31～ 6. 9 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復 | |
| 19 | 俵木　悟 | 中国 | 21. 6.12～ 6.15 | 「日・中・韓無形文化遺産保護方法についての論壇」参加 | |
| 20 | 勝木言一郎 | 中国 | 21. 6.15～ 6.20 | 新疆ウイグル自治区遺跡調査 | |
| 21 | 鈴木規夫 | 中国 | 21. 6.15～ 6.20 | 新疆ウイグル自治区遺跡視察 | |
| 22 | 中野照男 | 中国 | 21. 6.15～ 6.20 | 新疆ウイグル自治区遺跡調査 | |
| 23 | 秋枝ユミ<br>イザベル | スペイン | 21. 6.20～ 7. 2 | 第33回世界遺産委員会出席 | |
| 24 | 二神葉子 | スペイン | 21. 6.20～ 7. 2 | 第33回世界遺産委員会出席 | |
| 25 | 川野邊　渉 | ドイツ | 21. 6.21～ 6.26 | 在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン） | |
| 26 | 中山俊介 | ドイツ | 21. 6.21～ 6.26 | 在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン） | |
| 27 | 影山悦子 | ロシア | 21. 6.23～ 7. 4 | エルミタージュ美術館が所蔵するソグディアナ、クチャ地域の造形資料の調査 | |
| 28 | 岡田　健 | 中国 | 21. 6.24～ 6.30 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 29 | 有村　誠 | アフガニスタン | 21. 6.26～ 7. 9 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため | |
| 30 | 清水真一 | アフガニスタン | 21. 6.26～ 7. 9 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため | |
| 31 | 山内和也 | アフガニスタン | 21. 6.26～ 7. 9 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため | |
| 32 | 加藤雅人 | 韓国 | 21. 6.30～ 7. 2 | 在外日本古美術品の調査 | |
| 33 | 川野邊　渉 | 韓国 | 21. 6.30～ 7. 2 | 在外日本古美術品の調査 | |
| 34 | 塩谷　純 | 韓国 | 21. 6.30～ 7. 2 | 在外日本古美術品の調査 | |
| 35 | 田中　淳 | 韓国 | 21. 6.30～ 7. 2 | 在外日本古美術品の調査 | |
| 36 | 中山俊介 | ドイツ、スウェーデン、オランダ | 21. 7. 5～ 7.16 | 在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン）及び作品の調査（スウェーデン、オランダ） | |
| 37 | 岡田　健 | 中国 | 21. 7. 8～ 7.17 | 被災文化遺産復旧の国際協力に係る調査 | |
| 38 | 秋枝ユミ<br>イザベル | モンゴル | 21. 7.20～ 7.29 | 拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） | |
| 39 | 北野信彦 | モンゴル | 21. 7.20～ 7.29 | 拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） | |
| 40 | 清水真一 | モンゴル、中国 | 21. 7.20～ 8. 2 | 拠点交流事業 モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）<br>シルクロード人材育成プログラム | |
| 41 | 川野邊　渉 | オーストラリア | 21. 7.21～ 7.28 | 近代文化遺産の保存状況、修復手法などの現地調査 | |
| 42 | 中山俊介 | オーストラリア | 21. 7.21～ 7.28 | 近代文化遺産の保存状況、修復手法などの現地調査 | |
| 43 | 田代亜紀子 | ベトナム | 21. 7.22～ 7.29 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議調整および協議参加のため | |
| 44 | 友田正彦 | ベトナム | 21. 7.23～ 8. 1 | タンロン皇城遺跡保存に関する協議調整と協議参加のため | |
| 45 | 朽津信明 | カンボジア | 21. 7.24～ 7.28 | アンコール遺跡群での石造文化財の保存に関する現地調査 | |
| 46 | 二神葉子 | カンボジア、タイ | 21. 7.24～ 8. 2 | アンコール遺跡群での石造文化財の保存に関する現地調査およびタイ文化省芸術局での被災文化財に関する調査 | |
| 47 | 原本知実 | タイ | 21. 7.28～ 8. 2 | 文化遺産国際協力コンソーシアム　被災文化遺産復旧に係る調査 | |
| 48 | 岡田　健 | 中国 | 21. 7.28～ 8. 6 | シルクロード人材育成プログラム<br>雲岡石窟調査 | |
| 49 | 森井順之 | 韓国 | 21. 8. 2～ 8. 7 | 石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査 | |
| 50 | 有村　誠 | モンゴル | 21. 8. 3～ 8.17 | アラシャーンハダ遺跡の考古学調査への参加 | |
| 51 | 宇野朋子 | シリア | 21. 8.14～ 8.22 | デデリエ遺跡の保存のための環境調査および周辺遺跡の視察 | |
| 52 | 江村知子 | アメリカ | 21. 8.17～ 8.21 | ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査 | |
| 53 | 土屋貴裕 | アメリカ | 21. 8.17～ 8.21 | ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査 | |
| 54 | 綿田　稔 | アメリカ | 21. 8.17～ 8.21 | ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査 | |
| 55 | 田代亜紀子 | カンボジア | 21. 8.18～ 8.23 | 上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカンボジア王立芸術大学研修生への講義実施 | |
| 56 | 田代亜紀子 | カンボジア | 21. 8.18～ 8.23 | 上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカ | |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ンボジア王立芸術大学研修生への講義実施 | |
| 57 | 田代亜紀子 | カンボジア | 21. 8.18～ 8.23 | 上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカンボジア王立芸術大学研修生への講義実施 | |
| 58 | 宮田繁幸 | インドネシア、タイ | 21. 8.18～ 8.29 | 無形文化遺産関係国際シンポジウム出席（インドネシア）、本年度現地調査打合せ及び東北地方調査 | |
| 59 | 中山俊介 | ドイツ | 21. 8.18～ 9. 4 | 在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン及びケルン） | |
| 60 | 秋枝ユミイザベル | モンゴル | 21. 8.19～ 8.29 | 拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） | |
| 61 | 清水真一 | モンゴル | 21. 8.19～ 8.29 | 拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） | |
| 62 | 友田正彦 | モンゴル | 21. 8.19～ 8.29 | 拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） | |
| 63 | 二神葉子 | モンゴル | 21. 8.20～ 8.29 | モンゴル・ヘンティ県における2つの遺跡保存修復作業と専門家人材育成プロジェクト | |
| 64 | 清水真一 | イタリア | 21. 8.22～ 8.16 | ラクイア旧市街における自身日がいおよび復旧状況に関する把握および専門家間での意見交換 | |
| 65 | 鈴木　環 | イタリア | 21. 8.22～ 8.16 | ラクイア旧市街における自身日がいおよび復旧状況に関する把握および専門家間での意見交換 | |
| 66 | 原本知実 | モンゴル | 21. 8.22～ 8.29 | 文化遺産国際協力コンソーシアム　モンゴル・ヘンティ県における2つの遺跡保存修復作業と専門家人材育成プロジェクト | |
| 67 | 中野照男 | モンゴル | 21. 8.29～ 9. 5 | 仮頭(仮面)調査 | |
| 68 | 岡田　健 | 中国 | 21. 8.29～ 9.30 | 陝西省墳墓壁画の調査研究、敦煌壁画の調査研究、シルクロード人材育成プログラム（博物館技術コース） | |
| 69 | 二神葉子 | モンゴル | 21. 9. 5～ 9.11 | エルデニ・ゾー寺院の保存に関する現地調査 | |
| 70 | 宇野朋子 | 中国 | 21. 9. 5～ 9.12 | 敦煌における壁画の保存修復に関する研究調査（石窟環境調査） | |
| 71 | 鈴木　環 | インド | 21. 9. 6～10. 1 | アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第2次ミッション | |
| 72 | 清水真一 | 中国 | 21. 9.13～ 9.15 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 73 | 朽津信明 | タイ王国 | 21. 9.13～ 9.17 | スコータイ遺跡における微生物対策に関する日・タイ共同研究 | |
| 74 | 二神葉子 | タイ王国 | 21. 9.13～ 9.20 | スコータイ遺跡での漆喰文化財の保存に関する現地調査、タイ文化省芸術局での被災文化財に関する調査 | |
| 75 | 石﨑武志 | ドイツ | 21. 9.22～ 9.18 | 文化財の保存環境に関する解析手法および、博物館の省エネ化に関する研究打合せ | |
| 76 | 有村　誠 | アルメニア | 21. 9.22～10. 7 | アルメニアにおける考古学調査 | |
| 77 | 宮田繁幸 | アラブ首長国連邦、タイ | 21. 9.23～10. 5 | タイ：本年度招聘打ち合わせ及び東北地方調査フォローアップ<br>アブダビ：第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会 | |
| 78 | 皿井　舞 | アメリカ | 21. 9.24～ 9.29 | 国際シンポジウム”Tracing Japanese Buddhism: An International Conference”への参加 | |
| 79 | 七海由美子 | アラブ首長国連邦 | 21. 9.26～10. 5 | 第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会 | |
| 80 | 松山直子 | アラブ首長国連邦 | 21. 9.26～10. 5 | 第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会 | |
| 81 | 高桑いづみ | 韓国 | 21. 9.28～10. 8 | 大韓民国国立文化財研究所との研究交流 | |
| 82 | 中山俊介 | ドイツ、ｱﾒﾘｶ | 21. 9.28～10.14 | 在外日本古美術品工芸品の海外修復、絵画の修復作業の打ち合わせ | |
| 83 | 島津美子 | タジキスタン | 21.10. 4～11. 3 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業とワークショップの開催 | |
| 84 | 影山悦子 | タジキスタン | 21.10. 4～11.17 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業とワークショップの開催 | |
| 85 | 岡田　健 | 中国 | 21.10. 5～10. 7 | シルクロード人材育成プログラム運営 | |
| 86 | 川野邊　渉 | アメリカ | 21.10. 6～10.14 | 在外日本古美術品修復事業打ち合わせ | |
| 87 | 岡田　健 | 中国 | 21.10.11～10.16 | シルクロード人材育成プログラム運営 | |
| 88 | 朽津信明 | 中国 | 21.10.14～10.16 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 89 | 七海由美子 | フランス | 21.10.14～10.20 | ユネスコ無形文化遺産、カテゴリー２センターにかかる情報収集、研究会調査 | |
| 90 | 石﨑武志 | 中国 | 21.10.16～10.19 | 東アジア文化遺産保存学会第１回大会での研究報告 | |
| 91 | 森井順之 | 中国 | 21.10.16～10.19 | 東アジア文化遺産保存学会への参加、発表 | |
| 92 | 吉田直人 | 中国 | 21.10.16～10.20 | 東アジア文化遺産保存学会第１回大会での研究報告 | |
| 93 | 山内和也 | タジキスタン | 21.10.18～10.30 | タジキスタン国立古物博物館が所属する壁画の修復作業とワークショップの開催 | |
| 94 | 岡田　健 | 中国 | 21.10.18～11.12 | 東アジア文化財保存学会、シルクロード人材育成プログラム運営、敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 | |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 95 | 鈴木規夫 | 韓国 | 21.10.25～10.28 | 東ｱｼﾞｱ文化遺産フォーラム | |
| 96 | 森井順之 | 韓国 | 21.10.25～10.28 | 東ｱｼﾞｱ文化遺産フォーラム | |
| 97 | 吉田直人 | 中国 | 21.10.25～10.28 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 98 | 宇野朋子 | ベトナム | 21.10.25～10.29 | タンロン皇城遺跡に関する保存修復ワークショップ参加 | |
| 99 | 友田正彦 | ベトナム | 21.10.25～10.31 | タンロン皇城遺跡保存協力に関する研修実施 | |
| 100 | 石﨑武志 | オーストリア | 21.10.25～11. 2 | 文化財の保存環境に関する国際会議へ出席および歴史的石像建造物の劣化作業 | |
| 101 | 犬塚将英 | 中国 | 21.10.26～10.30 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 102 | 邊牟木尚美 | エジプト | 21.10.26～11.14 | エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ２）詳細計画策定調査 | |
| 103 | 北野信彦 | ドイツ | 21.11. 1～11. 6 | ケルン東洋美術館でのワークショップおよびヨーロッパ地域における漆工品修復に関する情報収集 | |
| 104 | 松山直子 | 韓国 | 21.11. 2～11. 7 | カテゴリーⅡセンター楷書セレモニー及び無形文化遺産保護に関する国際会議出席、および韓国国内の無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 105 | 宮田繁幸 | 韓国 | 21.11. 2～11. 7 | カテゴリーⅡセンター楷書セレモニー及び無形文化遺産保護に関する国際会議出席、および韓国国内の無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 106 | 有村　誠 | 中国 | 21.11. 3～11. 6 | シルクロードの世界遺産登録会議出席 | |
| 107 | 山内和也 | 中国 | 21.11. 3～11. 6 | シルクロードの世界遺産登録会議出席 | |
| 108 | 鈴木規夫 | アメリカ | 21.11. 5～11.11 | 「日本武器武具修復シンポジウム」への参加、講演 | |
| 109 | 山梨絵美子 | 韓国 | 21.11. 7～11. 9 | 韓国美術研究所コロキウム2009での発表と協議 | |
| 110 | 原田　怜 | スイス | 21.11. 8～11.14 | 「世界遺産のための研修発展プログラム会議」参加 | |
| 111 | 七海由美子 | ベトナム | 21.11.11～11.19 | ベトナムの無形文化遺産保護に係る調査、研究会出席 | |
| 112 | 清水真一 | インドネシア | 21.11.18～11.25 | ユネスコ事業「インドネシア西スマトラ地震により被災した文化遺産緊急支援」における被災状況調査 | |
| 113 | 田代亜紀子 | インドネシア | 21.11.18～12. 1 | 被災文化遺産復旧にかかる調査のため | |
| 114 | 山内和也 | インド | 21.11.19～11.25 | アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション | |
| 115 | 島津美子 | インド | 21.11.19～12.12 | アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション | |
| 116 | 鈴木　環 | インド | 21.11.19～12.12 | アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション | |
| 117 | 原本知実 | タイ | 21.11.21～11.25 | タイ被災文化財に関する調査 | |
| 118 | 二神葉子 | タイ | 21.11.21～11.27 | タイ被災文化財に関する調査 | |
| 119 | 岡田　健 | 中国 | 21.11.21～11.28 | シルクロード人材育成プログラム | |
| 120 | 加藤雅人 | アメリカ | 21.11.22～11.27 | 在外日本古美術保存修復協力事業のための海外修復工房の事前調査 | |
| 121 | 中山俊介 | アメリカ | 21.11.22～11.27 | 在外日本古美術保存修復協力事業のための海外修復工房の事前調査 | |
| 122 | 石﨑武志 | ヨルダン | 21.11.22～11.29 | ヨルダンのビザンチン時代の主要遺跡の劣化調査及び研究打ち合わせ | |
| 123 | 松山直子 | インドネシア | 21.11.23～11.30 | インドネシアの無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 124 | 宮田繁幸 | インドネシア | 21.11.23～11.30 | インドネシアの無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 125 | 松山直子 | 中国 | 21.12. 3～12. 7 | 国際会議「無形文化遺産と地域共同体」参加 | |
| 126 | 宮田繁幸 | 中国 | 21.12. 3～12. 7 | 国際会議「無形文化遺産と地域共同体」参加 | |
| 127 | 七海由美子 | インド | 21.12. 6～12.16 | インドの無形文化遺産保護にかかる調査 | |
| 128 | 岡田　健 | 中国 | 21.12. 9～12.17 | シルクロード人材育成プログラム運営、陝西省墳墓壁画の調査研究 | |
| 129 | 俵木　悟 | カンボジア | 21.12.11～12.15 | 国際シンポジウム「ユーラシアにおける複合リード楽器：歴史、コンテクスト、表象」参加 | |
| 130 | 二神葉子 | カンボジア、タイ | 21.12.14～12.19 | アンコール遺跡群での現地調査およびアンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席、バンコクの文化省芸術局での研究打ち合わせ | |
| 131 | 宮田繁幸 | タイ | 21.12.22～12.26 | タイ東北地方無形文化遺産調査フォローアップ、ＯＮＣＣ無形文化遺産ワークショップ参加 | |
| 132 | 山内和也 | カザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン | 22. 1. 7～ 1.22 | シルクロードの世界遺産登録のためのユネスコの準備ミッション参加のため | |
| 133 | 土屋貴裕 | アメリカ | 22. 1.11～ 1.17 | 在北米美術館・個人所蔵日本中世絵画作品の調査と資料収集 | |
| 134 | 田代亜紀子 | マレーシア | 22. 1.15～ 1.19 | ＡＰＩプロジェクト　地域委員会出席 | |
| 135 | 岡田　健 | 韓国、中国 | 22. 1.19～ 1.22 | シルクロード人材育成プログラムにおける２０22年度研修コースの準備作業 | |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 136 | 秋枝ユミイザベル | インドネシア | 22. 1.24～ 1.30 | 文化遺産の劣化と保存状況のモニタリングについての研究：ボロブドゥール遺跡保存研究所との遺跡の保存、劣化状況についての共同調査 | |
| 137 | 二神葉子 | インドネシア | 22. 1.24～ 1.30 | 文化遺産の劣化と保存状況のモニタリングについての研究：ボロブドゥール遺跡保存研究所との遺跡の保存、劣化状況についての共同調査 | |
| 138 | 吉田直人 | イタリア | 22. 1.25～ 1.31 | 文化的景観、歴史的街区及び壁画の保存修復に関する専門家会合への出席、発表 | |
| 139 | 加藤雅人 | ドイツ | 22. 1.30～ 2. 6 | 在外日本古美術品（絵画）の海外工房における修復およびワークショップ | |
| 140 | 宮田繁幸 | タイ | 22. 2. 2～ 2. 7 | タイ北部地方無形文化遺産調査 | |
| 141 | 七海由美子 | ニュージーランド、サモア、フィジー、トンガ | 22. 2. 2～ 2.12 | 南太平洋諸国の無形文化遺産保護に係る調査 | |
| 142 | 石﨑武志 | トルコ | 22. 2.14～ 2.20 | ハギア・ソフィアの劣化調査および研究打ち合わせ | |
| 143 | 城野誠治 | アメリカ | 22. 2.14～ 2.20 | アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術研究） | |
| 144 | 鳥光美佳子 | アメリカ | 22. 2.14～ 2.20 | アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術研究） | |
| 145 | 友田正彦 | ブータン | 22. 2.14～ 2.23 | 文化遺産協力相手国調査 | |
| 146 | 原本知実 | ブータン | 22. 2.14～ 2.23 | 文化遺産協力相手国調査 | |
| 147 | 山内和也 | トルクメニスタン、エジプト | 22. 2.14～ 2.27 | シルクロードの世界遺産登録のためのユネスコの準備ミッション参加および大ｴｼﾞﾌﾟﾄ博物館付属保存修復センター設立支援のための打ち合わせ | |
| 148 | 俵木　悟 | ブータン | 22. 2.15～ 2.23 | ブータンの無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 149 | 松山直子 | ブータン、タイ | 22. 2.15～ 3. 1 | ブータンとタイの無形文化遺産保護活動の調査 | |
| 150 | 二神葉子 | イタリア | 22. 2.17～ 2.26 | 文化財の地震防災に関する調査 | |
| 151 | 邊牟木尚美 | エジプト | 22. 2.19～ 2.27 | フェーズ２以降の人材育成・技術移転協力契約更新を目的とした三者間協議への出席 | |
| 152 | 七海由美子 | パラオ | 22. 2.21～ 2.26 | パラオにおける無形文化遺産保護の会議と調査 | |
| 153 | 石﨑武志 | 韓国 | 22. 2.25～ 2.27 | 石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査 | |
| 154 | 森井順之 | 韓国 | 22. 2.25～ 2.27 | 石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査 | |
| 155 | 影山悦子 | タジキスタン | 22. 2.27～ 3.22 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業 | |
| 156 | 飯島　満 | モンゴル | 22. 3. 1～ 3. 5 | 第４回日本モンゴル文化フォーラム | |
| 157 | 石﨑武志 | ベトナム | 22. 3. 7～ 3.11 | タンロン皇城遺跡保存に関する協議 | |
| 158 | 清水真一 | ベトナム | 22. 3. 7～ 3.11 | タンロン皇城遺跡保存に関わる協議 | |
| 159 | 友田正彦 | ベトナム | 22. 3. 7～ 3.11 | タンロン皇城遺跡保存に関する協議 | |
| 160 | 中野照男 | 中国 | 22. 3.11～ 3.19 | ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究 | |
| 161 | 七海由美子 | フランス | 22. 3.14～ 3.17 | ユネスコにおける日本／ユネスコパートナーシップ事業企画に係る情報収集 | |
| 162 | 友田正彦 | モンゴル | 22. 3.15～ 3.19 | 来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ | |
| 163 | 原本知実 | モンゴル | 22. 3.15～ 3.19 | 来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ | |
| 164 | 二神葉子 | モンゴル | 22. 3.15～ 3.19 | 来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ | |
| 165 | 原本知実 | フランス、ドイツ | 22. 3.23～ 3.29 | 第８回バーミヤン遺跡保存専門家会議出席及び関係者面談 | |
| 166 | 山内和也 | パリ、ドイツ | 22. 3.23～ 3.29 | 第８回バーミヤン遺跡保存専門家会議出席及び関係者面談 | |
| 167 | 石﨑武志 | 韓国 | 22. 3.26～ 3.28 | 日韓文化財科学国際シンポジウムへの参加・発表 | |
| 168 | 森井順之 | 韓国 | 22. 3.26～ 3.28 | 日韓文化財科学国際シンポジウムへの参加・発表 | |
| 169 | 宮田繁幸 | アラブ首長国連邦 | 22. 3.26～ 4. 3 | 第４回遺産シンポジウム「遺産と教育　将来の展望」出席 | |

## 【奈良文化財研究所】延べ129人

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 井上　和人 | 大韓民国 | 4月8日～4月10日 | 「益山王宮里遺跡発掘調査20周年記念国際学術大会」において講演をおこなう | 先方負担 |
| 2 | 小池　伸彦 | 大韓民国 | 4月8日～4月10日 | 「益山王宮里遺跡発掘調査20周年記念国際学術大会」において研究発表をおこなう | 先方負担 |
| 3 | 高妻　洋成 | 中華人民共和国 | 4月9日～4月13日 | 東亜古墳遺址保護国際学術検討会への出席と研究発表 | 先方負担 |
| 4 | 城倉　正祥 | 中華人民共和国 | 4月20日～6月17日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 5 | 松井　章 | アメリカ合衆国 | 4月22日～4月27日 | アメリカ考古学会研究発表 | 科研費 |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 箱崎　和久 | 大韓民国 | 5月7日～5月11日 | 「韓中日古代寺院址比較研究－木塔編」研究報告書発刊記念国際学術セミナーへの参加 | 先方負担 |
| 7 | 牛嶋　茂 | 中華人民共和国 | 5月25日～6月3日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 8 | 番　光 | 中華人民共和国 | 5月25日～6月3日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 9 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 5月30日～6月5日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 10 | 森本　晋 | カンボジア王国 | 5月31日～6月5日 | アンコール歴史遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）出席 | 運営費交付金 |
| 11 | 石村　智 | カンボジア王国 | 6月1日～6月6日 | アンコール歴史遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）出席と西トップ寺院の調査 | 運営費交付金 |
| 12 | 井上　和人 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月10日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 13 | 小池　伸彦 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月14日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 14 | 牛嶋　茂 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月14日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 15 | 加藤　真二 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月14日 | 平成21年度秋期特別展および図録に使用する写真の撮影 | 運営費交付金 |
| 16 | 豊島　直博 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月14日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 17 | 金田　明大 | 中華人民共和国 | 6月7日～6月14日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 18 | 玉田　芳英 | 中華人民共和国 | 6月15日～6月19日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 19 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 6月15日～6月19日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 20 | 森本　晋 | スペイン | 6月20日～7月4日 | 第33回ユネスコ世界遺産委員会出席 | 運営費交付金 |
| 21 | 石村　智 | スペイン | 6月21日～7月4日 | 第33回ユネスコ世界遺産委員会出席・情報収集 | 運営費交付金 |
| 22 | 箱崎　和久 | 中華人民共和国 | 6月21日～6月30日 | 中国遼代の八角建物を中心とする古建築に関する資料収集 | 科研費 |
| 23 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 6月25日～6月28日 | 河北省文物考古研究所への借用品の返却 | 運営費交付金 |
| 24 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 6月30日～7月5日 | バコン窯跡の調査 | 他機関負担:私学振興財団 |
| 25 | 林　正憲 | カンボジア王国 | 7月21日～7月27日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 26 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 7月21日～7月27日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 27 | 石村　智 | カンボジア王国 | 7月21日～7月27日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 28 | 加藤　真二 | 中華人民共和国 | 7月23日～8月3日 | 平成21年度秋期特別展および常設展リニューアルに関わる関連資料の調査 | 運営費交付金 |
| 29 | 松井　章 | 大韓民国 | 7月26日～7月30日 | 慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の整理、報告書作成の打合せ。韓国国立中央博物館で資料調査 | 科研費 |
| 30 | 井上　和人 | ベトナム社会主義共和国 | 7月27日～7月30日 | ベトナム・タンロン皇城遺跡調査研究支援（日越専門委員会出席） | 他機関科研費 |
| 31 | 石村　智 | ベトナム社会主義共和国 | 7月27日～7月30日 | ベトナム・タンロン皇城遺跡調査研究支援（日越専門委員会出席） | 他機関科研費 |
| 32 | 平澤　毅 | イタリア共和国 | 7月29日～8月4日 | 庭園整備の日伊比較研究ワークショップほか | 他機関科研費 |
| 33 | 山崎　健 | モンゴル国 | 8月5日～8月15日 | モンゴルにおける動物解体の調査 | 科研費 |
| 34 | 島田　敏男 | ベトナム社会主義共和国 | 8月6日～8月15日 | ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査 | 他機関負担:学術研究振興資金 |
| 35 | 鈴木　智大 | ベトナム社会主義共和国 | 8月6日～8月15日 | ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査 | 他機関負担:学術研究振興資金 |
| 36 | 馬場　基 | 大韓民国 | 8月11日～8月15日 | 「東アジア木簡学の確立」に関する現地調査および研究 | 他機関科研費 |
| 37 | 今井　晃樹 | 大韓民国 | 8月17日～8月23日 | 韓国における古代都城、儀礼関連の遺跡遺物調査 | 科研費 |
| 38 | 清水　重敦 | 中華人民共和国 | 8月17日～8月25日 | 中国における古代建築の造形・建築技術に関する現地調査 | 科研費 |
| 39 | 松井　章 | 大韓民国 | 8月20日～8月24日 | 慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の整理、報告書作成の打合せ | 科研費 |
| 40 | 肥塚　隆保 | モンゴル国 | 8月21日～8月29日 | モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査 | 東文研 |
| 41 | 高妻　洋成 | モンゴル国 | 8月21日～8月29日 | モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査 | 東文研 |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 42 | 脇谷　草一郎 | モンゴル国 | 8月21日～8月29日 | モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査 | 東文研 |
| 43 | 田村　朋美 | モンゴル国 | 8月21日～8月29日 | モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査 | 運営費交付金 |
| 44 | 森先　一貴 | ロシア連邦 | 9月15日～9月20日 | ロシア科学アカデミー主催の国際会議「更新世－完新世における極東・東アジアの環境変化」への出席・発表 | 他機関負担:大学共同利用機関人間文化研究機構総合地球環境学研究所 |
| 45 | 庄田　慎矢 | 大韓民国 | 9月17日～9月20日 | 日韓集落研究会第5回共同研究会参加のため | 他機関科研費 |
| 46 | 加藤　真二 | 中華人民共和国 | 9月22日～9月29日 | 平成21年度秋期特別展の展示品検品・借用 | 運営費交付金 |
| 47 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 9月22日～9月29日 | 平成21年度秋期特別展の展示品検品・借用 | 運営費交付金 |
| 48 | 森本　晋 | マルタ共和国 | 9月22日～9月29日 | 「考古文化遺産におけるヴァーチャルリアリティ国際学会」出席 | 運営費交付金 |
| 49 | 森本　晋 | 台湾 | 10月5日～10月10日 | 国際学会「人間性と社会科学におけるGIS2009」での研究発表 | 科研費 |
| 50 | 杉山　洋 | 大韓民国 | 10月7日～10月10日 | 東アジアの中の百済　シンポジウムにおける出席と発表 | 先方負担 |
| 51 | 粟野　隆 | 大韓民国 | 10月13日～10月16日 | 韓国の遺跡の整備・活用に関する現地調査 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 52 | 肥塚　隆保 | 中華人民共和国 | 10月16日～10月20日 | 東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表 | 運営費交付金 |
| 53 | 降幡　順子 | 中華人民共和国 | 10月16日～10月20日 | 東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表 | 運営費交付金 |
| 54 | 田村　朋美 | 中華人民共和国 | 10月16日～10月20日 | 東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表 | 運営費交付金 |
| 55 | 森本　晋 | タジキスタン | 10月19日～10月30日 | ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復2009」出席 | 運営費交付金 |
| 56 | 玉田　芳英 | 中華人民共和国 | 10月21日～10月26日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 57 | 小田　裕樹 | 中華人民共和国 | 10月21日～10月26日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 58 | 城倉　正祥 | 中華人民共和国 | 10月21日～10月26日 | 中国古陶瓷学会シンポジウム「中国早期白瓷、白釉瓷専題学術検討会」参加 | 運営費交付金 |
| 59 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 10月21日～10月26日 | 中国古陶瓷学会シンポジウム「中国早期白瓷、白釉瓷専題学術検討会」参加 | 運営費交付金 |
| 60 | 島田　敏男 | ベトナム社会主義共和国 | 10月24日～11月3日 | ユネスコアジア文化センター「文化遺産ワークショップ2009」ベトナム社会主義共和国・ホイアン市における現地研修出講 | 他機関負担 |
| 61 | 田辺　征夫 | 大韓民国 | 10月26日～10月28日 | 韓国国立文化財研究所主催『東アジア文化遺産フォーラム』への参加 | 先方負担 |
| 62 | 高田　貫太 | 大韓民国 | 10月26日～10月28日 | 韓国国立文化財研究所主催『東アジア文化遺産フォーラム』への参加 | 先方負担 |
| 63 | 井上　和人 | ベトナム社会主義共和国 | 10月28日～10月31日 | タンロン皇城遺跡の調査研究支援 | 他機関科研費 |
| 64 | 平澤　毅 | 大韓民国 | 10月28日～11月1日 | 「景勝地の現在と将来に関する韓中日国際シンポジウム」への出席と発表・討論等 | 先方負担 |
| 65 | 杉山　洋 | インドネシア共和国 | 11月1日～11月8日 | ボロブドゥール国際会議出席と現地調査 | 先方負担：ユネスコ |
| 66 | 城倉　正祥 | 中華人民共和国 | 11月4日～1月15日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 67 | 肥塚　隆保 | 大韓民国 | 11月10日～11月13日 | 光州博物館からの招へい（保存科学研究の交流） | 先方負担 |
| 68 | 高妻　洋成 | 大韓民国 | 11月10日～11月13日 | 光州博物館および韓国中央博物館において所蔵する資料の調査と資料収集 | 科研費 |
| 69 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 11月15日～11月23日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 70 | 小野　健吉 | 大韓民国 | 11月23日～11月25日 | 益山王宮里遺跡の曲水庭園遺構調査 | 運営費交付金 |
| 71 | 井上　和人 | 中華人民共和国 | 11月29日～12月4日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 72 | 今井　晃樹 | 中華人民共和国 | 11月29日～12月4日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 73 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 12月2日～12月9日 | 平成21年度秋期特別展の展示品検品・返却 | 運営費交付金 |
| 74 | 加藤　真二 | 中華人民共和国 | 12月2日～12月10日 | 平成21年度秋期特別展借用品の返却、平成22年度夏期企画展の調整 | 運営費交付金 |
| 75 | 大林　潤 | カンボジア王国 | 12月6日～12月12日 | アンコール遺跡群西トップ寺院の建造物調査 | 運営費交付金 |
| 76 | 成田　聖 | カンボジア王国 | 12月6日～12月12日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 77 | 石村　智 | カンボジア王国 | 12月6日～12月16日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 78 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 12月6日～12月21日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 79 | 島田　敏男 | 大韓民国 | 12月7日～12月9日 | 第1回韓・日・中の建築文化遺産保護（保存）国際シンポジウム出席 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 80 | 清水　重敦 | 大韓民国 | 12月8日～12月9日 | 第1回韓・日・中の建築文化遺産保護（保存）国際シンポジウム出席 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 81 | 田辺　征夫 | カンボジア王国 | 12月12日～12月16日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 82 | 森本　晋 | カンボジア王国 | 12月12日～12月16日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 83 | 次山　淳 | 中華人民共和国 | 12月12日～12月23日 | 中国河南省洛陽市における漢代～唐代の出土貨幣の調査 | 科研費 |
| 84 | 渡邉　晃宏 | 大韓民国 | 12月13日～12月18日 | 日韓共同研究に伴う資料調査 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 85 | 箱崎　和久 | 大韓民国 | 12月13日～12月18日 | 日韓共同研究に伴う資料調査 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 86 | 浅野　啓介 | 大韓民国 | 12月13日～12月18日 | 日韓共同研究に伴う資料調査 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 87 | 牛嶋　茂 | 中華人民共和国 | 12月18日～12月27日 | 中国社会科学院考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 88 | 箱崎　和久 | ベトナム社会主義共和国 | 12月23日～12月31日 | ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査および類例調査 | 他機関負担 |
| 89 | 惠谷　浩子 | ベトナム社会主義共和国 | 12月23日～12月31日 | ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査および類例調査 | 他機関負担 |
| 90 | 井上　幸 | 中華人民共和国 | 12月27日～12月31日 | 木簡の字形分析による日本古代の異体字の基礎的研究のための資料収集 | 渡航費：科研費<br>滞在費：私費 |
| 91 | 森本　晋 | カザフスタン共和国・ウズベキスタン共和国・キルギス共和国・タジキスタン共和国 | 1月7日～1月22日 | ユネスコ・シルクロード世界遺産登録関連ドキュメンテーション事業のミッション形成調査に参加 | 運営費交付金 |
| 92 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 1月10日～1月17日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 93 | 小野　健吉 | タイ王国 | 1月14日～1月19日 | スコータイ遺跡とアユタヤ遺跡の水景等に関する調査 | 他機関負担 |
| 94 | 石村　智 | 台湾・パラオ共和国 | 1月17日～1月24日 | 日本統治時代の遺構の調査およびパラオにおける戦争遺構の調査 | 高梨学術奨励基金 |
| 95 | 小田　裕樹 | 大韓民国 | 1月18日～3月5日 | 国立慶州文化財研究所との発掘調査への参加 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 96 | 丹羽　崇史 | 中華人民共和国 | 1月23日～2月4日 | 鋳造関連遺物の資料調査 | 科研費 |
| 97 | 石村　智 | ニュー・ジーランド・トンガ王国 | 2月11日～2月25日 | オークランド博物館およびオークランド大学において海洋文化に関する資料収集およびトンガ王国における考古学的調査 | 科研費(ニュージーランド)<br>他機関負担（トンガ） |
| 98 | 森先　一貴 | ロシア連邦 | 2月15日～2月22日 | ロシア極東クニャゼ=ヴォルコンスコエ遺跡出土資料調査 | 他機関科研費 |
| 99 | 清水　重敦 | ドイツ連邦共和国 | 2月16日～2月22日 | 独立行政法人日本学術振興会ボン研究連絡センター主催コロキウム「世界遺産の将来」へ出席 | 先方負担 |
| 100 | 島田　敏男 | カンボジア王国 | 2月19日～2月25日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 101 | 大林　潤 | カンボジア王国 | 2月19日～2月25日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 102 | 高橋　知奈津 | カンボジア王国 | 2月19日～2月25日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |

| | 氏名 | 用務先 | 期間 | 用務 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 103 | 杉山　洋 | カンボジア王国 | 2月19日～3月5日 | アンコール文化遺産保護に関する研究協力 | 運営費交付金 |
| 104 | 馬場　基 | 大韓民国 | 2月22日～2月26日 | 日韓共同研究に基づく調査 | 渡航費：運営費交付金<br>滞在費：先方負担 |
| 105 | 林　正憲 | 大韓民国 | 2月22日～2月28日 | 日韓共同研究に基づく調査 | 運営費交付金 |
| 106 | 深澤　芳樹 | 大韓民国 | 2月25日～2月27日 | 発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議 | 運営費交付金 |
| 107 | 次山　淳 | 大韓民国 | 2月25日～2月27日 | 発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議 | 運営費交付金 |
| 108 | 木村　理恵 | 大韓民国 | 2月25日～2月27日 | 発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議 | 運営費交付金 |
| 109 | 惠谷　浩子 | フィリピン共和国 | 2月26日～3月4日 | 「フィリピン・コリディリエーラの棚田群」の文化的景観調査 | 他機関負担 |
| 110 | 井上　和人 | 中華人民共和国 | 3月7日～3月10日 | 西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議 | 運営費交付金 |
| 111 | 小野　健吉 | 中華人民共和国 | 3月7日～3月10日 | 西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議 | 運営費交付金 |
| 112 | 今井　晃樹 | 中華人民共和国 | 3月7日～3月10日 | 西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議 | 運営費交付金 |
| 113 | 高妻　洋成 | ベトナム社会主義共和国 | 3月7日～3月10日 | タンロン皇城遺跡保存に関する協議 | 他機関負担：文化庁 |
| 114 | 脇谷　草一郎 | ベトナム社会主義共和国 | 3月7日～3月10日 | タンロン皇城遺跡保存に関する協議 | 他機関負担：文化庁 |
| 115 | 小池　伸彦 | 中華人民共和国 | 3月9日～3月16日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 116 | 牛嶋　茂 | 中華人民共和国 | 3月9日～3月16日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 117 | 豊島　直博 | 中華人民共和国 | 3月9日～3月16日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 118 | 芝　康次郎 | 中華人民共和国 | 3月9日～3月16日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 119 | 深澤　芳樹 | 中華人民共和国 | 3月10日～3月12日 | 環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究のための調査 | 他機関負担 |
| 120 | 森本　晋 | フランス共和国 | 3月10日～3月16日 | 古建築におけるリンテル装飾に関する資料調査 | 運営費交付金 |
| 121 | 松井　章 | ラオス人民民主共和国 | 3月11日～3月21日 | ラオスにおける家畜、家禽の調査 | 科研費 |
| 122 | 鈴木　智大 | 中華人民共和国 | 3月12日～3月21日 | 中華人民共和国福建省の古代建築調査 | 科研費 |
| 123 | 金田　明大 | 中華人民共和国 | 3月13日～3月16日 | 遼寧省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 124 | 加藤　真二 | 中華人民共和国 | 3月22日～3月28日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 125 | 森先　一貴 | 中華人民共和国 | 3月22日～3月28日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 126 | 森川　実 | 中華人民共和国 | 3月22日～3月28日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 127 | 若杉　智宏 | 中華人民共和国 | 3月22日～3月28日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 128 | 木村　理恵 | 中華人民共和国 | 3月22日～3月28日 | 河南省文物考古研究所との共同研究 | 運営費交付金 |
| 129 | 石村　智 | ドイツ連邦共和国 | 3月24日～3月31日 | 第8回バーミヤーン遺跡保存専門家会議に出席 | 運営費交付金 |

## a-② 調査研究テーマ一覧

| 国立文化財機構 | 博物館計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 134件 | 86件 | 41件 | 18件 | 10件 | 17件 |
| | 文化財研究所計 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 共同研究（東京・奈良文化財研究所） | |
| | 48件 | 20件 | 26件 | 2件 | |

### 【東京国立博物館】計41件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者 （役職・名前） |
|---|---|---|---|
| 1 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 学芸研究部 | 調査研究課長　富田淳 |
| 2 | 特別調査法隆寺献納宝物（第31次）「聖徳太子絵伝」第5回 | 学芸研究部 | 上席研究員　原田一敏 |
| 3 | 特別調査「書跡」第7回 | 学芸研究部 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 4 | 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に | 学芸研究部 | 調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀 |
| 5 | 応挙館障壁画の復元に関する調査研究 | 学芸研究部 | 企画課特別展室長　松嶋雅人 |
| 6 | 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 | 学芸研究部 | 博物館情報課長　高橋　裕次 |
| 7 | ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究 | 学芸研究部 | 列品管理課平常展調整室長　小泉惠英 |
| 8 | 博物館の環境保存に関する研究 | 学芸研究部 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
| 9 | 東洋民族資料に関する調査研究 | 学芸研究部 | 列品管理課長　谷　豊信 |
| 10 | 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究 | 学芸研究部 | 保存修復課長　神庭信幸 |
| 11 | 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 特任研究員　金子啓明 |
| 12 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 学芸研究部長　島谷弘幸 |
| 13 | 目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 列品管理課登録室長 田良島哲 |
| 14 | 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 博物館情報課情報管理室長　丸山士郎 |
| 15 | 油彩画の材料・技法に関する共同調査 | 学芸研究部 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
| 16 | 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究 | 学芸研究部 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
| 17 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 保存修復課長　神庭　信幸 |
| 18 | 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 特任研究員　澤田むつ代 |
| 19 | 文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金） | 学芸企画部 | 博物館情報課長　高橋裕次 |
| 20 | 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 博物館教育課長　加島勝 |
| 21 | 原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金) | 学芸研究部 | 企画課特別展室任期付研究員　植田 彩芳子 |
| 22 | 高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金) | 学芸研究部 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー 河内　晋平 |
| 23 | 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー 安藤　香織 |
| 24 | 東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 調査研究課長　富田 淳 |
| 25 | 東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 博物館教育課ボランティア室研究員 髙梨真行 |
| 26 | 東京国立博物館所蔵印譜データベース（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員 関紀子 |
| 27 | 明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一眞、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に― | 学芸研究部 | 調査研究課書跡・歴史室長　冨坂　賢 |
| 28 | 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 博物館情報課長　高橋裕次 |
| 29 | 金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（科学研究費補助金） | 学芸研究部 | 博物館教育課ボランティア室研究員 髙梨　真行 |
| 30 | 東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究 | 学芸研究部 | 博物館情報課長　高橋　裕次 |
| 31 | 東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究 | 学芸研究部 | 保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子 |
| 32 | 曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究 | 学芸研究部 | 博物館教育課教育普及室長　浅見　龍介 |
| 33 | 特別調査「工芸」第1回 | 学芸研究部 | 調査研究課工芸・考古室長　竹内奈美子 |
| 34 | 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究 | 学芸研究部 | 列品管理課登録室アソシエイトフェロー 河内　晋平 |
| 35 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 学芸企画部 | 企画課デザイン室長　木下史青 |
| 36 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 学芸企画部 | 博物館教育課長　加島 勝 |
| 37 | 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金） | 学芸企画部 | 企画課長　井上洋一 |
| 38 | 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | 学芸企画部 | 博物館情報課情報管理室長　丸山史郎 |

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者 （役職・名前） |
|---|---|---|---|
| 39 | 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する | 学芸企画部 | 博物館教育課長　加島 勝 |
| 40 | クウジット株式会社と協同で、ロケーションアンプを利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する | 学芸企画部 | 博物館教育課長　加島 勝 |
| 41 | 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用（科学研究費補助金） | 学芸企画部 | 企画課長　井上洋一 |

## 【京都国立博物館】　18件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者 （役職・名前） |
|---|---|---|---|
| 1 | 近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究 | 学芸部 | 工芸室長　尾野善裕 |
| 2 | 鎌倉仏教とその造形に関する研究 | 学芸部 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
| 3 | 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金） | 学芸部 | 館長　佐々木 丞平 |
| 4 | 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金） | 学芸部 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
| 5 | 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 | 学芸部 | 保存修理指導室長　村上 隆 |
| 6 | 文化財の保存・修復に関する調査研究（奈良文化財研究所との共同研究） | 学芸部 | 保存修理指導室長　村上 隆 |
| 7 | 近世絵画に関する調査研究（客員研究員） | 学芸部 | 連携協力室長　山下 善也 |
| 8 | 訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員） | 学芸部 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
| 9 | 彫刻に関する調査研究（客員研究員） | 学芸部 | 主任研究員　淺湫 毅 |
| 10 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 学芸部 | 工芸室長　尾野善裕 |
| 11 | 近代建築に関する調査研究 | 学芸部 | 文化財管理監　中村　康 |
| 12 | 漆工芸に関する調査研究 | 学芸部 | 主任研究員　永島　明子 |
| 13 | 中国近代絵画に関する調査研究 | 学芸部 | 学芸部長　西上　実 |
| 14 | 文化財情報に関する調査研究 | 学芸部 | 企画室長　久保智康 |
| 15 | 西域出土文献に関する調査研究 | 学芸部 | 上席研究員　赤尾栄慶 |
| 16 | 京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査） | 学芸部 | 研究員　大原　嘉豊 |
| 17 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 学芸部 | 美術室長　山本英男 |
| 18 | 特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究 | 学芸部 | 主任研究員　山川　暁 |

## 【奈良国立博物館】　計10件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者 （役職・名前） |
|---|---|---|---|
| 1 | 南部諸諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施 | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |
| 2 | 仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究） | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |
| 3 | 仏教美実写真収集及びその調査研究 | 学芸部 | 資料室長　宮崎幹子 |
| 4 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |
| 5 | 当館所蔵品についての調査研究（客員研究員） | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |
| 6 | 奈良時代の仏教美術と東アジア世界 | 学芸部 | 館長　湯山賢一 |
| 7 | 統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金） | 学芸部 | 工芸考古室員　岩戸晶子 |
| 8 | 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金） | 学芸部 | 養育室長　吉澤 悟 |
| 9 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝鑑真和上展」及び「聖地寧波-日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |
| 10 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る | 学芸部 | 学芸部長　西山 厚 |

## 【九州国立博物館】　計17件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者 （役職・名前） |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 | 企画課 | 企画課長　小泉　惠英 |
| 2 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 博物館科学課 | 環境保全室長　今津　節生 |
| 3 | 博物館における文化財保存修復に関する研究 | 博物館科学課 | 保存修復室研究員　志賀　智史 |
| 4 | 博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究 | 博物館科学課 | 博物館科学課長　本田　光子 |
| 5 | 文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築 | 博物館科学課 | 博物館科学課長　本田　光子 |
| 6 | 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同） | 博物館科学課 | 保存修復室長　藤田　励夫 |
| 7 | ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金） | 企画課 | 文化交流展示室長　河野　一隆 |
| 8 | 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金） | 学芸部 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 9 | トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金） | 文化財課 | 文化財課長　臺信　祐爾 |
| 10 | 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金） | 企画課 | 研究員　畑　靖紀 |
| 11 | 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎研究（科学研究費補助金） | 企画課 | 研究員　金井　裕子 |
| 12 | 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎研究（科学研究費補助金） | 博物館科学課 | 保存修復室研究員　志賀　智史 |
| 13 | 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金） | 学芸部 | 特任研究員　村田　忠繁 |
| 14 | 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流 | 文化財課 | 荒木　和憲 |
| 15 | Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析 | 博物館科学課 | 環境保全室長　今津　節生 |
| 16 | 高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践（UMP：Universal　Museum　Project）を展開する | 総務課 | 総務課長　樋口　理央 |
| 17 | 平成20年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう | 学芸部 | 学芸部長　伊藤　嘉章 |

**【東京文化財研究所】計20件**

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（5件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（Ｉ4（1）④と一体で実施） | 無形文化遺産部 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |
| 2 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 | 企画情報部 | 文化形成研究室長　塩谷　純 |
| 3 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部 | 近現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 |
| 4 | 美術の技法・材料に関する広領域的研究 | 企画情報部 | 広領域研究室長　綿田　稔 |
| 5 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 無形文化遺産部 | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（2件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 | 企画情報部 | 文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英 |
| 2 | 文化財の非破壊調査法の研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（8件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 文化財の生物劣化対策の研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
| 2 | 文化財の保存環境の研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
| 3 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター副センター長<br>川野邊　渉 |
| 4 | 文化財の防災計画に関する調査研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター副センター長<br>川野邊　渉 |
| 5 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター副センター長<br>川野邊　渉 |
| 6 | 国際研修「漆の保存と修復」 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター副センター長<br>川野邊　渉 |
| 7 | 在外日本古美術品保存修復協力事業 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター副センター長<br>川野邊　渉 |
| 8 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 | 保存修復科学センター | 近代文化遺産研究室長　中山俊介 |

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 文化財保存施策の国際的研究 | 文化遺産国際協力センター | 国際情報研究室長　岡田　健 |
| 2 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | 文化遺産国際協力センター | 主任研究員　朽津信明 |
| 3 | 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 | 文化遺産国際協力センター | 国際情報研究室長　岡田　健 |
| 4 | 敦煌壁画の保護に関する調査研究 | 文化遺産国際協力センター | 国際情報研究室長　岡田　健 |

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（1件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 諸外国の文化財保存修復専門家養成 | 文化遺産国際協力センター | 保存計画研究室長　友田正彦 |

**【奈良文化財研究所】計26件**

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（18件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 文化的景観に関する調査研究 | 文化遺産部 | 文化遺産部長　小野健吉 |
| 2 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 文化遺産部 | 歴史研究室長　吉川聡 |

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 3 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 文化遺産部 | 建造物研究室長　島田敏男 |
| 4 | 平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 5 | 平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 6 | 薬師寺（第457次）の発掘調査 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 7 | 興福寺南大門跡（第458次）の発掘調査 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 8 | 平城宮跡東方官衙地区(第466次)の発掘調査 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 9 | 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 | 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 | 都城発掘調査部副部長　深澤芳樹 |
| 10 | 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査 | 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 | 都城発掘調査部副部長　深澤芳樹 |
| 11 | 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 12 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 | 都城発掘調査部副部長　深澤芳樹 |
| 13 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |
| 14 | 庭園に関する調査研究 | 文化遺産部 | 遺跡整備研究室長　平澤毅 |
| 15 | 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究 | 飛鳥資料館 | 学芸室長　加藤真二 |
| 16 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 文化遺産部 | 遺跡整備研究室長　平澤毅 |
| 17 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | 埋蔵文化財センター | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |
| 18 | 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言 | 都城発掘調査部　平城地区 | 都城発掘調査部長　井上和人 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 遺跡データベースの作成と公開 | 埋蔵文化財センター | 遺跡・調査技術研究室長　小澤毅 |
| 2 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 埋蔵文化財センター | 遺跡・調査技術研究室長　小澤毅 |
| 3 | 年輪年代学研究 | 埋蔵文化財センター | 年代学研究室長　大河内隆之 |
| 4 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 埋蔵文化財センター | 環境考古学研究室長　松井章 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 埋蔵文化財センター | 保存修復科学研究室長　高妻洋成 |

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（2件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 | 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 | 都城発掘調査部副部長　深澤芳樹 |
| 2 | 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力 | 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区 | 都城発掘調査部副部長　深澤芳樹 |

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（1件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 | 企画調整部 | 国際遺跡研究室長　杉山　洋 |

**【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計2件**

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（2件）

| | 調査研究テーマ名 | 担当部課 | 事業責任者　(役職・名前) |
|---|---|---|---|
| 1 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター | 保存修復科学センター長　石﨑武志 |
| 2 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 | 文化遺産国際協力センター | 文化遺産国際協力センター　清水真一 |

## a-③ 学会、研究会等発表実績一覧

| 国立文化財機構 | 博物館計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 234件 | 129件 | 68件 | 11件 | 34件 | 16件 |
| | 文化財研究所計 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 共同研究（東京・奈良文化財研究所） | |
| | 105件 | 46件 | 59件 | 0件 | |

### 【東京国立博物館】68件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 三つの鬼子母神十羅刹女図―長谷川信春の仏画とその造形― | 企画課特別展室長　松嶋雅人 | 4月29日 | 石川県七尾美術館長谷川等伯展記念講演会 |
| 2 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 夕顔棚納涼図- 描かれた追憶の家族 | 企画課特別展室長　松嶋雅人 | 9月27日 | 石川県立美術館講演会 |
| 3 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日本絵画に咲く花 | 企画課特別展室長　松嶋雅人 | 11月28日 | 池坊短期大学　第6回日本学生いけばな展講演会 |
| 4 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 「やまと絵師･長谷川等伯- 信春時代の仏画から智積院障壁画へ」 | 企画課特別展室長　松嶋雅人 | 22年2月27日 | 東京国立博物館　没後400年　特別展「長谷川等伯」記念講演会 |
| 5 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 「辻が花」研究　―近代「名物裂」の誕生とその変容― | 企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉 | 10月31日 | 文化資源学会第16回例会研究発表会 |
| 6 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日本・中国・韓国における近年の新館建設プロジェクトについて | 企画課国際交流室長　鬼頭智美 | 4月24日 | 国際展覧会オーガナイザー会議（IEO） |
| 7 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 出土繊維の種類と調査方法 | 特任研究員　澤田むつ代 | 10月27日 | 奈良文化財研究所・埋蔵文化財担当者専門研修 |
| 8 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 有職文様　東アジアの文様史として | 列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹 | 8月15日 | 霞会館衣紋会（霞会館） |
| 9 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | アジアのなかの有職文様　21世紀の有職学 | 列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹 | 8月22日 | アジア民族造形学会国際シンポジウム（國學院大學） |
| 10 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 興福寺曼荼羅から春日社寺曼荼羅へ | 列品管理課平常展調整室研究員　瀬谷愛 | 7月18日 | 昭和女子大学文化史学会シンポジウム「鎌倉時代の諸問題　寺院と造像」 |
| 11 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 武具からみた５世紀　-金属製甲冑とその意義- | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 6月20日 | 中日新聞文化センター |
| 12 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 花形･家形飾環頭大刀の性格 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 10月3日 | 東大寺山古墳研究会(天理大学附属天理参考館) |
| 13 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古墳時代象嵌銘文大刀の修理と調査 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 11月23日 | サイバー大学 学術講演会(九州国立博物館) |
| 14 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日本古墳の副葬品に対する解析と調査研究方法論 -金属遺物を中心として- | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 22年1月20日 | 忠北大學校 教育特講(中央文化財研究院) |
| 15 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 甲冑研究の方法と最近の研究動向 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 22年1月21日 | 韓国古墳文化研究会(忠南大學校博物館) |
| 16 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古墳出土遺物と形象埴輪の比較からみた埴輪の意義 | 列品管理課列品情報整備室長　古谷毅 | 22年1月22日 | 忠北大學校 人文大學学生研究会(忠北大學校美術史学科) |
| 17 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 縄文の顔、弥生の顔 | 調査研究課　工芸・考古室研究員　品川欣也 | 22年1月31日 | シンポジウム「再葬墓と人面付土器のふしぎ」茨城県常陸大宮市歴史民俗資料館 |
| 18 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日本に運ばれた福建産の貿易陶磁器について | 調査研究課東洋室長 今井敦 | 4月26日 | 日本学術振興会アジア研究教育拠点事業 東アジア海文明の歴史と環境 平成21年度 第1回東アジア海文明セミナー「水中考古学と福建の陶磁器」 |
| 19 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 「古九谷様式」色絵磁器の様式について | 調査研究課東洋室長 今井敦 | 5月24日 | 美術史学会第62回全国大会 |
| 20 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 「古九谷様式」の色絵磁器について | 調査研究課東洋室長 今井敦 | 10月31日 | 東洋陶磁学会平成21年度第4回研究会 |
| 21 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 中国塩業考古学史 | 調査研究課東洋室研究員 川村佳男 | 11月15日 | 東南アジア考古学会　2009年度研究大会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 22 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 和装本の保存方法における新案―平置き、縦置きに対応する保存箱の活用― | 保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世<br>保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦<br>保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子 | 6月13日、14 日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 23 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 緑青による紙の損傷に対する保存処置法の研究開発 -東京国立博物館蔵「十六羅漢像」(A-225 16幅)解体修理を通じて | 保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦<br>保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 米倉乙世<br>保存修復課長 神庭信幸<br>保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩<br>保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子 | 6月13日、14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 24 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 博物館におけるデジタルＸ線撮影システムの活用事例 | 保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩<br>保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課長　神庭信幸、 | 6月15日 | 文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷） |
| 25 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 東京国立博物館における上代裂等の修理、保管、公開について | 保存修復課長　神庭信幸 | 12月19日 | 東京国立博物館ワークショップ「古代染織品の保管と公開」 |
| 26 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 東京国立博物館におけるインターン制度―インターンシップの未来― | 保存修復課長　神庭信幸 | 22年1月16日 | 文化財保存修復学会公開シンポジウム |
| 27 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 博物館における防災について | 保存修復課長　神庭信幸 | 22年1月22日 | 国立国会図書館第6回資料保存懇話会 |
| 28 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 阿修羅像の特殊梱包ケース | 保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩<br>保存修復課長 神庭信幸 | 22 年3 月 25 日 | 阿修羅フォーラム |
| 29 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 茨城県地域における前方後円墳の消滅 | 保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎 | 6月7日 | 東国古墳研究会 |
| 30 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 東国の埴輪 | 保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎 | 8月23日 | 『シンポジウム　埴輪から見た上毛野・東国・畿内』群馬県立歴史博物館 |
| 31 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古墳時代の渡来文化と松戸 | 保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎 | 22年2月14日 | 松戸市立博物館講演会 |
| 32 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 餅花手と染織の技法上の影響関係について | 保存修復課保存修復室研究員　三笠景子 | 6月27日 | 東洋陶磁学会第3回東日本研究会 |
| 33 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 唐宋の越窯と金銀器 | 保存修復課保存修復室研究員　三笠景子 | 9月26日 | 公開国際セミナー<br>東アジアをめぐる金属工芸－地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究－ |
| 34 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 十六羅漢像の保存修理について | 保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦 | 22年3 月 20日 | 文化財保存修復学会例会 |
| 35 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 皇室展の意義 | 上席研究員　原田一敏 | 10月12日 | 美術史学会 |
| 36 | 収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究 | 江戸時代の技巧を凝らした工芸 | 上席研究員　原田一敏 | 11月20日 | 東京都教育委員会主催　外国人のための日本文化紹介フォーラム |
| 37 | ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関 | ガンダーラの仏教寺院 | 列品管理課平常展調整室長　小泉惠英 | 10月17日 | 平山郁夫シルクロード美術館 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | する研究 | | | | |
| 38 | 博物館の環境保存に関する研究 | 低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の取組み― | 保存修復課長　神庭信幸 | 6月13日 | 文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷） |
| 39 | 博物館の環境保存に関する研究 | 低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の取組み― | 保存修復課長　神庭信幸 | 12月8日 | 東京文化財研究所研究会 |
| 40 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) | 博物館における包括的保存システムの構築に関する研究 | 保存修復課長　神庭信幸、<br>保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩<br>保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子<br>研究支援者　大場詩野子<br>研究支援者　大河原典子 | 6月14日 | 文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷） |
| 41 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) | 地震対策としての文化財の転倒防止に関する検討 | 保存修復課長　神庭信幸 | 7月21日 | J.P.ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム「美術・博物館コレクションの地震対策」 |
| 42 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) | The characteristic of vibration during a transport of cultural heritage | 保存修復課長　神庭信幸<br>保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩 | 10月18日 | 東アジア文化遺産保存学会(北京) |
| 43 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) | 国際航空貨物における留意点<br>－文化財の輸送環境調査より－ | 保存修復課長　神庭 信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩 | 11月19日 | 第47回全日本包装技術研究大会（福岡） |
| 44 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) | Toward the Establishment of a Guideline for the Concentration of Indoor Atmospheric Contaminants in Exhibition and Storage Rooms | 保存修復課長 神庭信幸<br>保存修復課環境保存室主任研究員 和田 浩<br>保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀<br>保存修復課環境保存室<br>西邑雅未<br>保存修復課環境保存室<br>中村恵子 | 22年<br>3月27日 | The 2010 International Cooperation Symposium of Korea･Japan Conservation Science |
| 45 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 平成21年度岡山県文化のつどい第2回講演会「古筆の魅力」 | 学芸研究部長　島谷弘幸 | 9月12日 | 岡山県文化連盟 |
| 46 | 東京国立博物館所蔵正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に | 「天平の美と技」パネルディスカッション | 特任研究員　澤田むつ代 | 9月5日 | (正倉院フォーラム2009　福岡)読売新聞西部本社 |
| 47 | 東京国立博物館所蔵正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に | 法隆寺の染織品 | 特任研究員　澤田むつ代 | 12月20日 | 国際シンポジウム「上代裂をまもる」 |
| 48 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 『“モノの息吹を感じる”博物館の展示デザイン』 | 企画課デザイン室長　木下史青 | 7月17日 | JIPAT(東京インテリアプランナー協会) |
| 49 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | トーク＆セミナー『“モノのみかた･みえかた”と博物館の展示デザイン》 | 企画課デザイン室長　木下史青 | 7月30日 | JAGDA(日本グラフィックデザイナー協会) 神奈川地区 |
| 50 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 谷中放談『アートのお仕事』 | 企画課デザイン室長　木下史青 | 10月11日 | art-link上野-谷中2009<br>実行委員会 |
| 51 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 「空間創造発想帖」Treasure×Pleasure　最新の照明技術で、一点の輝きを引き出す | 企画課デザイン室長　木下史青 | 11月 | 社団法人 日本ディスプレイ協会 |
| 52 | 博物館環境デザインに | 『国宝 阿修羅展－光の演出によ | 企画課デザイン室長　木 | 22年 | 日本美術解剖学会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 関する調査研究 | る表情の見せ方』 | 下史青 | 1月9日 | |
| 53 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 博物館におけるボランティアの活用 | 博物館教育課長　加島勝 | 6月 | 文化庁美術学芸課主催『第6回指定文化財（美術工芸）企画・展示セミナー』 |
| 54 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 誰のためのミュージアムリテラシー？ | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり | 7月4日 | ミュージアムマネージメント学会第一回基礎研究部門 |
| 55 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 博学連携事例発表「東京国立博物館のスクールプログラム」 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり | 22年3月6日 | 第三回博学連携ワークショップ |
| 56 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 船の科学館を使ったワークショップ「博物館まるごと活用チラシ作り」 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり | 22年3月6日 | 第三回博学連携ワークショップ |
| 57 | 博物館美術教育に関する調査研究 | ミュージアムリテラシー「東博スクールプログラム」と「第三回博学連携ワークショップ」からの報告と提言 | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり | 22 年3月23日 | 第二回「科学系博物館の学校利用促進方策―教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発―」調査研究委員会 |
| 58 | 博物館美術教育に関する調査研究 | 博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」概要報告 | 博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織 | 22 年3 月 23 日 | 全国美術館会議・教育普及研究部会 |
| 59 | 博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築 | 鑑賞プログラム「応挙館で美術体験」について | 博物館教育課長　加島勝<br>列品管理課平常展調整室長　白井克也<br>企画課国際交流室長　鬼頭智美<br>企画課国際交流室研究員　遠藤楽子 | 22年1月24日 | 東京国立博物館　教育普及国際シンポジウムポスターセッション「伝統文化を伝えるために博物館ができること」 |
| 60 | 博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築 | 東京国立博物館の教育普及―伝統文化を伝えるために | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり | 22年1月24日 | 博物館教育普及国際シンポジウム（科研） |
| 61 | 博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築 | 「伝統文化を伝えるために博物館ができること」パネルディスカッション | 博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり<br>学芸企画部広報室長　小林牧 | 22年1月24日 | 博物館教育普及国際シンポジウム（科研） |
| 62 | 博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築 | 使う器の魅力へのアプローチ―特別展「染付―藍が彩るアジアの器」を例に | 調査研究課東洋室長 今井敦 | 22年1月24日 | 博物館教育普及国際シンポジウム（科研） |
| 63 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | Collection Management System of Tokyo National Museum | 博物館情報課情報管理室研究員　村田良二 | 10月8日 | PNC Annual Conference 2009, Taipei |
| 64 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | デジタル資料管理モデルに関するコメント | 博物館情報課情報管理室研究員　村田良二 | 10月23日 | デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究 公開研究会 |
| 65 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | 東京国立博物館　収蔵品管理システム開発の経験から | 博物館情報課情報管理室研究員　村田良二 | 12月4日 | 第4回アート･ドキュメンテーション研究フォーラム |
| 66 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | 博物館の情報環境とＭＬＡ連携 | 列品管理課登録室長　田良島哲 | 12月5日 | 第4回アート･ドキュメンテーション研究フォーラム |
| 67 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | 博物館における業務情報の共有とIML (Inter-Museum Loan)システムの可能性 | 列品管理課登録室長　田良島哲 | 5月16日 | 情報知識学会第17回年次大会研究報告会 |
| 68 | 博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究 | ミュージアム間の業務情報流通をめぐる課題と展望 | 列品管理課登録室長　田良島哲 | 6月6日 | 2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会 |

**【京都国立博物館】11件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 鎌倉仏教とその造形に関する研究 | 「予言と調伏のかたち」 | 主任研究員　淺湫　毅 | 10月23日 | 仏教美術研究上野記念財団助成研究会シンポジウム |
| 2 | 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察 | 「京都・専修寺の空海坐像」 | 主任研究員　淺湫　毅 | 1月15日 | 中間報告会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 近世絵画に関する調査研究 | 「禅の美術と文化－妙心寺の文化財－」 | 連携協力室長　山下善也 | 4月12日 | 「妙心寺展」開催記念シンポジウム |
| 4 | 近世絵画に関する調査研究 | 「妙心寺屏風、友松・山楽絵画の輝き」 | 連携協力室長　山下善也 | 4月25日 | 京都国立博物館土曜講座（京都女子大学） |
| 5 | 近世絵画に関する調査研究 | 「探幽のいた季節－二条城から館蔵品へ」 | 連携協力室長　山下善也 | 9月21日 | 静岡県立美術館特別講演 |
| 6 | 近世絵画に関する調査研究 | 「ウィーンから初里帰り！明治２年の日本画帖」 | 連携協力室長　山下善也 | 2月27日 | 京都国立博物館土曜講座（京都女子大学） |
| 7 | 彫刻に関する調査研究 | 「調伏のかたちとしての元三大師像」 | 主任研究員　浅湫　毅 | 10月23日 | 仏教美術研究上野記念財団助成研究会シンポジウム |
| 8 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 「磁器生産のはじまりと展開－肥前磁器を中心に－」 | 工芸室長　尾野善裕 | 6月27日 | 徳島城博物館平成21年度美術アカデミー |
| 9 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 「猿投窯系須恵器・灰釉陶器の編年と問題点」 | 工芸室長　尾野善裕 | 7月4日 | 東海土器研究会・相模の古代を考える会　合同研究会 |
| 10 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 「明治・大正の京都「やきもの」事情」 | 工芸室長　尾野善裕 | 3月7日 | 愛知県陶磁資料館平成21年度冬季講座 |
| 11 | 漆工芸に関する調査研究 | 「Mid-Edo Period Lacquer Production seen through Historical European Collections」 | 主任研究員　永島　明子 | 10月30日-31日 | 「Conference entitled "Crossing Borders - The Conservation, Science and Material Culture of East Asian Lacquer" at Victoria and Albert Museum」 |

## 【奈良国立博物館】　34件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 小野道風の「円珍贈法印大和尚位並智證大師諡号勅書」をめぐって | 館長　湯山賢一 | 7月29日 | 法隆寺夏季大学 |
| 2 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 石山寺の仏像と観音信仰 | 企画室長　稲本泰生 | 8月2日 | 浜松市美術館公開講座 |
| 3 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 奈良朝の宮廷生活 | 教育室研究員　清水健 | 10月31日 | 正倉院学術シンポジウム2009 |
| 4 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 孝謙天皇と正倉院宝物 | 情報ｻｰﾋﾞｽ室研究員　野尻忠 | 10月31日 | 正倉院学術シンポジウム2009 |
| 5 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 鄂県阿育王塔考―その形態の来源と本生図の意味 | 企画室長　稲本泰生 | 11月8日 | 戒律文化研究会第8回大会 |
| 6 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 和紙の文化 | 館長　湯山賢一 | 11月14日 | 金沢学院大学文化財学科公開講座 |
| 7 | 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 | 中世・古代の紙 | 館長　湯山賢一 | 11月28日 | 就実大学吉備地方文化研究所公開講座 |
| 8 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 天皇御宸翰 | 館長　湯山賢一 | 4月 | 愛知県花岳寺法要記念講演 |
| 9 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 唐招提寺の古文書について | 野尻忠（研究員） | 5月17日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 10 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 鑑真和上像と唐招提寺の仏像 | 稲本泰生（企画室長） | 5月23日 | 特別展「国宝　鑑真和上展」公開講座 |
| 11 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 宇陀の仏像 | 鈴木喜博（上席研究員） | 5月24日 | 宇陀のはな五百号記念「宇陀歴史探訪」 |
| 12 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 唐招提寺の鴟尾を展示し終えて | 岩戸晶子（研究員） | 6月21日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 13 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 正倉院宝物の魅力―紙の調査に参加して | 館長　湯山賢一 | 9月 | 正倉院フォーラム2009福岡 |
| 14 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 大仏に逢う | 西山厚（学芸部長） | 9月6日 | 奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座 |
| 15 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 正倉院宝物と万葉の時代 | 館長　湯山賢一 | 10月 | 奈良県立万葉文化館「万葉の日」記念フォーラム |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 正倉院展六十回までのあゆみ | 野尻忠（研究員） | 10月18日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 17 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 正倉院木工品と木彫の成立 | 鈴木喜博（上席研究員） | 11月3日 | 第61回正倉院展公開講座 |
| 18 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 愛染明王法―平安貴族の祈り― | 斎木涼子（研究員） | 11月15日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 19 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 古都奈良の仏たち | 鈴木喜博（上席研究員） | 12月14日 | 奈良市生涯学習課 |
| 20 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 春日権現験記絵巻 七百年の旅路 | 清水健（研究員） | 12月20日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 21 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 二月堂本尊光背図像と観音の神変 | 稲本泰生（企画室長） | 12月20日 | 第8回グレートブッダシンポジウム |
| 22 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等 | 春日権現記絵披見台をめぐって | 谷口耕生（保存修理指導室長） | 22年<br>1月17日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 23 | 当館所蔵品についての調査研究 | 仏像の修理 | 鈴木喜博（上席研究員） | 4月17日 | 宮水学園古社寺会 |
| 24 | 当館所蔵品についての調査研究 | 正倉院展60回までのあゆみ | 永井洋之（研究員） | 10月18日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 25 | 当館所蔵品についての調査研究 | 特集展示解説　南北朝・室町時代の彫刻 | 鈴木喜博（上席研究員） | 22年<br>1月24日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 26 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 阿育王寺の仏舎利信仰と日本 | 内藤栄（部長補佐） | 7月19日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 27 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 清凉寺釈迦如来像と東アジアの釈迦信仰 | 稲本泰生（企画室長） | 7月25日 | 特別展「聖地寧波」公開講座 |
| 28 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術 | 谷口耕生（保存修理指導室長） | 8月15日 | 特別展「聖地寧波」公開講座 |
| 29 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 貿易陶磁からみる寧波と日本 | 吉澤悟（教育室長） | 8月16日 | 奈良国立博物館　サンデートーク |
| 30 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 寧波からもたらされたもの－特別展への招待 | 北澤菜月（研究員） | 8月20日 | 第38回奈良国立博物館夏季講座 |
| 31 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 寧波より奈良を思う－仏への祈り－ | 北澤菜月（研究員） | 9月13日 | 奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座 |
| 32 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 奈良の仏像とその源流をさぐる | 岩田茂樹（美術室長） | 9月20日 | 奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座 |
| 33 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 光明皇后の楽毅論について | 西山厚（学芸部長） | 11月7日 | 第61回正倉院展公開講座 |
| 34 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの世界 | 平城京の木彫　―栢木と榧― | 鈴木喜博（上席研究員） | 12月6日 | 奈良市生涯学習課 |

**【九州国立博物館】　16件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 三次元デジタル情報の博物館展示への活用　―線刻のある銅製経筒のデータ化と展示― | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表要旨集 |
| 2 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 三次元デジタル情報の博物館展示への活用<br>―線刻のある銅製経筒のデータ化と展示― | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表要旨集 |
| 3 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 柿右衛門様式の人形に対する制作技法の調査 | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表会 |
| 4 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 原町遺跡出土銅戈における同笵の検証と鋳造技術 | 小林公治（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表会 |
| 5 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 国宝　初音調度の科学調査 | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、川畑憲子（学芸部企画課研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表会 |
| 6 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | 「九州国立博物館所蔵　菊蒔絵手箱の科学的調査」 | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、川畑憲子（学芸部企画課研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 6月13・14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | X線CTを活用した像内納入品の調査―福井県大善寺本尊十一面観音立像についてー | 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、 | 6月13・14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 8 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | CTスキャンによる虫損部材の調査 | 鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長） | 6月13・14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 9 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析 | 廣川守・樋口隆康(泉屋博古館)<br>今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 10月16日 | 東アジア文化遺産保存学会（北京） |
| 10 | 文化財の材質・構造等に関する共同研究 | X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析 | 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 10月31日 | 日中考古学会 |
| 11 | トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術 | 内蒙古自治区吐爾基山遼墓出土彩色木棺の保存　２　ー三次元計測と保存修復ー | 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長　臺信祐爾（文化財課長） | 6月13日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 12 | 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎研究 | 巨大なパイプ状のベンガラ粒子について | 志賀智史（学芸部博物館科学課研究員） | 7月11・12日 | 日本文化財科学会第２６回 |
| 13 | 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発 | 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発 | 村田忠繁（学芸部　特任研究員） | 6月13日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 14 | Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金） | X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析 | 廣川守・樋口隆康(泉屋博古館)<br>今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 10月16日 | 東アジア文化遺産保存学会（北京） |
| 15 | Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金） | X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析 | 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 10月31日 | 日中考古学会 |
| 16 | Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金） | 原町遺跡出土銅戈における同笵の検証と鋳造技術 | 小林公治（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員） | 7月10・11日 | 日本文化財科学会第26回研究発表会 |

**【東京文化財研究所】計46件**

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（13件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | 民俗芸能の稽古を通して見る社会組織の動態- 大里七夕踊の事例から- | 無形文化遺産部主任研究員　俵木悟 | 10月4日 | 第61回日本民俗学会年会 |
| 2 | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | Scholar, Local government, and Local Community--A case study of the safeguarding of folk performing arts in Japan “Ayako-Mai” | 無形文化遺産部長　宮田繁幸 | 12月4日 | 国際会議「無形文化遺産と地域共同体」香港科技大学 |
| 3 | 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 | 無形文化遺産の記録所在情報データベース構築に向けて- 現状報告- | 無形文化遺産部主任研究員　俵木悟 | 22年2月10日 | 東京文化財研究所総合研究会 |
| 4 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 | 「異国」をこしらえる―「玄奘三蔵絵」をめぐって | 企画情報部研究員　土屋貴裕 | 10月2日 | 企画情報部オープンレクチャー |
| 5 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 | 大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査 | 副所長　中野照男 | 10月3日 | 企画情報部オープンレクチャー |
| 6 | 近現代美術に関する総合的研究 | 川端玉章の研究―玉章の“支那画”観 | 企画情報部文化形成研究室長　塩谷　純 | 7月29日 | 企画情報部研究会 |
| 7 | 近現代美術に関する総合 | Beyond Nationalism- an example | 企画情報部近・現代視覚芸術研 | 5月16日 | 韓国西洋美術史学会シ |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 的研究 | of Japanese Modern Art | 究室長　山梨絵美子 | | ンポジウム「Nationalism and Art History」梨花女子大学校　（韓国） |
| 8 | 近現代美術に関する総合的研究 | 黒田清輝の描く女性の労働と休息―≪針仕事≫≪読書≫≪湖畔≫をめぐって― | 企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 | 10月31日 | 石橋美術館 |
| 9 | 美術の技法・材料に関する広領域的研究 | 福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について | 企画情報部広領域研究室長　綿田　稔 | 4月22日 | 企画情報部研究会 |
| 10 | 美術の技法・材料に関する広領域的研究 | ポートランド美術館所蔵作品調査報告 | 企画情報部広領域研究室長　綿田　稔・企画情報部研究員　江村知子・企画情報部研究員　土屋貴裕 | 3月24日 | 企画情報部研究会 |
| 11 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 小歌は拍子合か拍子不合か―狂言小歌「十七八」をきっかけに | 無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ | 7月12日 | 楽劇学会第17回大会 |
| 12 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 紀州徳川家蔵楽器コレクションの調査報告」 | 無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ | 10月18日 | 東洋音楽学会第60回大会 |
| 13 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 昭和24年3月収録「鬼界が島の段」 | 無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満 | 12月16日 | 第4回無形文化遺産部公開学術講座 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（2件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財の非破壊調査法の研究 | デジタルカメラを使った色材の可視光反射率測定とその応用 | 保存修復科学センター主任研究員　吉田直人　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 2 | 文化財の非破壊調査法の研究 | 平等院鳳凰堂仏後壁の図像と彩色に関する調査 | 保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘　他 | 7月11-12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（24件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財の生物劣化対策の研究 | X線CTスキャナによる虫損部材の調査 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 2 | 文化財の生物劣化対策の研究 | 紙資料の褐色斑における菌体と代謝物の蛍光に関する考察 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 3 | 文化財の保存環境の研究 | 美術館における内装材からの拡散ガス簡易試験法 | 保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 4 | 文化財の保存環境の研究 | 汎用伝熱換気計算法による美術館展示室温湿度環境のモデル検討 | 保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 5 | 文化財の保存環境の研究 | 杉野学園衣裳博物館における西洋衣裳の保存と活用 | 保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英　他 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 6 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 顔料剥落止めとして利用されたポリビニアルアルコールの白化状態の調査と白化原因の探索 | 保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター研究員　早川典子、客員研究員　坪倉早智子、客員研究員　中條利一郎 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 7 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 建築文化財における塗装技術の調査とその評価・応用に関する研究 | 保存修復科学センター伝統技術研究室　北野信彦、客員研究員　本多貴之 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 8 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 伝統的漆室と使用道具の調査・保存・活用　-国際研修教材としての1ケーススタディ- | 保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦 | 12月6日 | 日本民具学会第28回大会 |
| 9 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 補紙・補絹の動向 | 保存修復科学センター研究員　加藤雅人 | 11月12-14日 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復　―先端と伝統― |
| 10 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 絵画修復に使われる糊と布海苔 | 保存修復科学センター研究員　早川典子 | 11月12-14日 | 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復　―先端と伝統― |
| 11 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 紙文化財の研究と保存修復 | 保存修復科学センター研究員　加藤雅人 | 3月4-6日 | アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」 |
| 12 | 近代の文化遺産の保存修 | 二酸化炭素処理・酸化エチレン処 | 保存修復科学センター研究員 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 復に関する研究 | 理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響 | 加藤雅人・保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか・客員研究員　坪倉早智子・保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | | 第31回大会 |
| 13 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 | 初代南極観測船『宗谷」の保存と修復 | 保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | 2月12日 | 日本機械学会 |
| 14 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 | 近代化遺産と産業遺産　-東京文化財研究所の取組み- | 保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | 2月13日 | 東京産業考古学会 |
| 15 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究 | コンクリート構造物の保存と修復 | 保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | 3月1日 | 近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 |
| 16 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 臼杵磨崖仏における覆屋内風環境と表面劣化に関する考察および対策 | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 7月11-12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |
| 17 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 臼杵磨崖仏におけるデジタルカメラ間欠撮影による表面劣化監視システムおよび応急的な修復技術の開発 | 保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明 | 7月11-12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |
| 18 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 熔結凝灰岩製文化財の非破壊診断手法に関する評価―熱画像解析の有効性― | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 10月16-19日 | 2009東アジア文化遺産保存技術国際研究集会および東アジア文化遺産保存学会第一次年会 |
| 19 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | Case Report: Some Preservation Problems of the Buddhist Images Carved on Natural Cliff | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 12月10日 | Seminar on the conservation of stone monuments |
| 20 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究　―共同研究の成果と将来― | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 3月4-6日 | アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」 |
| 21 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 日本における凝灰岩製磨崖仏の劣化とその対策 | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 3月27日 | 日韓文化財科学国際シンポジウム |
| 22 | 文化財の防災計画に関する調査研究 | 地理情報システムに基づく文化財防災情報システムの構築―史跡・重伝建地区への適用― | 保存修復科学センター研究員　森井順之、二神葉子、隈本　崇 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会in倉敷 |
| 23 | 文化財の防災計画に関する調査研究 | GISを用いた文化財防災情報システムによる博物館防災 | 保存修復科学センター研究員　森井順之、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子 | 7月21-22日 | J.ポール・ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム　美術・博物館コレクションの地震対策 |
| 24 | 文化財の防災計画に関する調査研究 | 文化財防災における活断層基本図の利用について | 保存修復科学センター研究員　森井順之 | 9月28日 | ミニシンポジウム「活断層基本図への期待とその利活用に向けて」 |

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（7件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | カンボジア　タ・ネイ遺跡とその周辺に生育する地衣類 | 文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子、文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、客員研究員　柏谷博之 | 7月11日 | 日本文化財科学会第２６回大会　名古屋大学 |
| 2 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | 越前式石廟に施された彩色装飾について | 文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明 | 7月11日 | 日本文化財科学会第２６回大会　名古屋大学 |
| 3 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | 微生物繁茂が岩石風化に与える影響に関する実験的検討 | 文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子 | 10月22-23日 | 日本応用地質学会平成２１年度研究発表会　山形テルサ |
| 4 | 敦煌壁画の保護に関する共同研究 | 敦煌莫高窟第285窟北壁に描かれた如来および菩薩の衣の彩色材料と技法―赤色表現を例として― | 文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　岡田　健、客員研究員　佐藤香子、客員研究員　高林弘実 | 6月13日 | 文化財保存修復学会31回大会 |
| 5 | 敦煌壁画の保護に関する | 敦煌莫高窟第285窟南壁 | 文化遺産国際協力センター国際情報研 | 6月13日 | 文化財保存修復学会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 共同研究 | 龕楣の復元模写 | 究室長　岡田　健、客員研究員　高林弘実 | | 31回大会 |
| 6 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 | タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の彩色材料について | 特別研究員　島津美子 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |
| 7 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 | タジキスタン国立古物博物館におけるソグド壁画の保存修復―壁画片の保存状態と現在までに行った処置― | 特別研究員　島津美子、特別研究員　邊牟木尚美、客員研究員　松岡秋子 | 6月13-14日 | 文化財保存修復学会第31回大会 |

## 【奈良文化財研究所】計59件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（24件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化的景観に関する調査研究 | 文化的景観を継承するための住民意識　－意識と景観保全行動との因果関係の比較－ | 惠谷浩子（研究員） | 10月24日～25日 | 平成21年度　日本造園学会関西支部大会 |
| 2 | 文化的景観に関する調査研究 | 広域の文化的景観をどう捉えるか　四万十川流域を事例として | 惠谷浩子（研究員） | 12月18～19日 | 文化的景観研究集会（第２回） |
| 3 | 文化的景観に関する調査研究 | 「近代中宇治の都市構造」<br>「中宇治の伝統的家屋」 | 惠谷浩子（研究員）<br>清水重敦（景観研究室長） | 9月5日 | 宇治の伝統的木造家屋調査中間報告会 |
| 4 | 文化的景観に関する調査研究 | 輪島市三井町の「アテ」 林業の文化的景観 | 惠谷浩子（研究員） | 22年2月6日 | かや～て2010 |
| 5 | 文化的景観に関する調査研究 | 四万十川流域の文化的景観　景観から読み解く四万十川 | 惠谷浩子（研究員） | 22年3月7日 | 四万十川自然再生協議会総会 |
| 6 | 文化的景観に関する調査研究 | 宇治の伝統的家屋からみる歴史の重層性 | 清水重敦（景観研究室長） | 22年3月14日 | 宇治文化的景観フォーラム2010 |
| 7 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 唐招提寺境内の変遷 | 吉川 聡（歴史研究室長） | 11月7日～8日 | 戒律文化研究会第八回学術大会 |
| 8 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 北浦定政と平城京 | 吉川 聡（歴史研究室長） | 11月14日 | 奈良大学「奈良文化論」講演 |
| 9 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 近世奈良･加茂道の遡及的検討―古代東海道・恭仁京に及ぶ― | 吉川 聡（歴史研究室長） | 11月3日 | 平成21年度読史会大会 |
| 10 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 日本における建築文化遺産保存修理の歴史とその特質 | 清水重敦（景観研究室長） | 12月9日 | 第１回韓中日建築文化遺産保存国際学術会議 |
| 11 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 日本における古代建築研究の現状と課題 | 島田敏男(建造物研究室長) | 12月8日 | 第１回韓中日建築文化遺産保存国際学術会議 |
| 12 | 庭園に関する調査研究 | 琴ノ浦温山荘園（旧温山荘）の特色と価値 | 粟野隆（研究員） | 9月26日～27日 | 第６回文化財庭園フォーラム |
| 13 | 庭園に関する調査研究 | 古谿荘庭園の特徴 | 粟野隆（研究員） | 10月3日 | 伊豆屋伝八文化振興財団ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「第７回文化財を守る」 |
| 14 | 庭園に関する調査研究 | 近代大阪・阪神間を中心とした擬石・擬木の導入と展開 | 粟野隆（研究員） | 10月24日～25日 | 平成21年度日本造園学会関西支部大会 |
| 15 | 庭園に関する調査研究 | 琴ノ浦温山荘庭園について | 粟野隆（研究員） | 22年2月 | 木津宗詮研究会 |
| 16 | 庭園に関する調査研究 | 日本近代の擬石と擬木～庭園家具から猿ヶ島まで～ | 粟野隆（研究員） | 22年2月18日 | 奈良文化財研究所総合研究会（第20回） |
| 17 | 庭園に関する調査研究 | 『春日権現験記絵』に見る貴族邸宅の庭園と自然 | 小野健吉（文化遺産部長） | 22年2月23日～28日 | 国際日本文化研究センター第37回国際研究集会「都市文化とは何か－文化論からの日本「発見」」 |
| 18 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 日本における文化遺産としての風致景観の保護と保全－特にその歴史と「名勝」の保護について－ | 平澤毅(遺跡整備研究室長) | 10月30日 | 国際学術シンポジウム「名勝の現況と展望」（於、韓国） |
| 19 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 世界遺産のいま、そして、文化遺産保護の課題 | 平澤毅(遺跡整備研究室長) | 22年1月23日 | 奈良大学文化財学科特別講義 |
| 20 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～ | 平澤毅(遺跡整備研究室長) | 22年1月28日～29日 | 遺跡整備・活用研究集会（第４回） |
| 21 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 文化的景観と世界遺産　－「紀伊山地の霊場と参詣道」、「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「平泉の文化遺産」などの事例から | 平澤毅(遺跡整備研究室長) | 22年2月27日 | 国際シンポジウム「大山・隠岐・三徳山－山岳信仰と文化的景観」 |
| 22 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査 | 遺構露出展示のための調査法について | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 4月11日 | 2009東亜古遺址保護国際学術研討会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | | | | |
| 23 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | Application of Resitivity Image Profiling Method for Hydrological Analysis in Soil Structural Remains | 脇谷草一郎（研究員） | 10月11日 | CIPA |
| 24 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | イースター島モアイ像の劣化要因と保存処理に関する研究 | 脇谷草一郎（研究員） | 10月17日 | 東アジア文化遺産保存学会 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（18件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 芝生城の探査 ー探査を先行させる試み | 西村康（客員研究員）・西口和彦（客員研究員）・金田明大（主任研究員）・千葉勲、大和勉（三好市教育委員会）・岡山真知子（鳥居記念博物館）・小林勝美（阿波学会） | 6月14日 | 日本文化財探査学会 |
| 2 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | Application of a Low cost Laser Scanner for Archaeology in Japan | 金田明大（主任研究員） | 10月13日 | CIPA2009 kyoto |
| 3 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | Born Digital, Liberate from the Paper: A Case Study and Perspectives about Applications of Voice Recording and other Digital Recording Methods for the Archaeological Fieldwork | 清野陽一（京都大学大学院）・近藤康久（東京大学総合資料館）・金田明大（主任研究員） | 10月13日 | CIPA2009 kyoto |
| 4 | 年輪年代学研究 | 善勝寺本尊木造千手観音立像の年輪年代調査 | 大河内隆之（年代学研究室長）・光谷拓実（客員研究員）・児島大輔（日本学術振興会特別研究員）・松岡久美子（栗東歴史民俗博物館）・佐々木進（栗東歴史民俗博物館） | 7月11日～12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |
| 5 | 年輪年代学研究 | 日本樹木年輪試料による古墳時代以降の炭素14年代較正曲線作成の試み | 尾嵜大真（国立歴史民俗博物館）・坂本稔（国立歴史民俗博物館）・今村峯雄（国立歴史民俗博物館）・光谷拓実（客員研究員） | 7月11日～12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |
| 6 | 年輪年代学研究 | 日本産ツガ属の年輪年代測定(2)―複数の近世建造物におけるデータ比較― | 藤井裕之（客員研究員）・竹口泰生（奈良県文化財保存事務所）・後藤玉樹（京都市文化市民局） | 7月11日～12日 | 日本文化財科学会第26回大会 |
| 7 | 年輪年代学研究 | Database of wood species used for archaeological wooden objects unearthed in Japan | 伊東隆夫（客員研究員） | 8月3～5日 | Pacific Regional Wood Anatomy Conference（環太平洋木材解剖学会議） |
| 8 | 年輪年代学研究 | 日本古代における銀造仏像の鋳造について | 児島大輔(日本学術振興会特別研究員) | 8月29日～30日 | アジア鋳造技術史学会東京大会2009 |
| 9 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 環境考古学と海 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 4月18日 | 北九州市立自然史・歴史博物館講演会 |
| 10 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | Year-round activities of the large wet shell mounds during the Jomon Period, JAPAN Over 3000 shellmounds are distributed in Japan. | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 4月25日 | Society for American Archaeology |
| 11 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 肉食の忌避という虚構ー動物考古学からの視点ー | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 5月29日 | 日本文化人類学会第43回研究大会 |
| 12 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 動物と関わった人々 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 10月25日 | 部落解放研究第43回全国集会 |
| 13 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 佐賀県東名遺跡における骨角器製作について | 永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 12月19～20日 | 第13回動物考古学研究集会 |
| 14 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 中世遺跡出土の鹿角製馬具(オモゲー) | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 12月19～20日 | 第13回動物考古学研究集会 |

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 動物遺存体に関わる遺跡形成過程の研究―モンゴルにおける民族考古学的調査を事例として― | 山﨑健（研究員） | 12月19～20日 | 第13回動物考古学研究集会 |
| 16 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 京都大学理学部自然人類学研究室所蔵の動物標本―とくに遺跡出土の動物遺存体と動物化石について― | 山﨑健（研究員）・橋本裕子（客員研究員）・茂原信生（客員研究員）・江木直子（京都大学霊長類研究所助教） | 12月19～20日 | 第13回動物考古学研究集会 |
| 17 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 縄文・弥生移行期における漁撈活動の変化―伊勢湾奥部を事例として― | 山﨑健（研究員） | 22年1月23日 | 近江貝塚研究会第195回例会 |
| 18 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 奈良の動物資源利用―県内における出土資料の整理・分析から― | 山﨑健（研究員） | 22年2月28日 | 第20回総合研究会 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（14件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 江戸時代における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の保存に関する研究Ⅲ | 佐藤昌憲（客員研究員） | 6月13日 | 文化財保存修復学会 |
| 2 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 藕糸に関する基礎研究（続） | 佐藤昌憲（客員研究員） | 6月13日 | 文化財保存修復学会 |
| 3 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高松塚古墳壁画の材料調査 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 4 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | コバルト着色による紺色ガラス小玉の材質とその歴史的変遷 | 田村朋美（アソシエイトフェロー） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 5 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 金属錆が付着した繊維文化財を分析する場合の前処理について | 佐藤昌憲（客員研究員） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 6 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 赤外分光法による出土有機質文化財の微量分析への実験的研究 | 佐藤昌憲（客員研究員） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 7 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 弥生・古墳時代出土紺色ガラス小玉の着色材の分析調査 | 降幡順子（主任研究員） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 8 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高松塚古墳壁画の材料調査（２） | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 9 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高松塚古墳壁画の材料調査（３） | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 10 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅴ | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 7月11日 | 日本文化財科学会 |
| 11 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 携帯型蛍光Ｘ線分析法による高松塚古墳壁画漆喰に関する調査 | 降幡順子（主任研究員） | 10月17日 | 日本文化財科学会 |
| 12 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 日本における紺色ガラス玉の変遷に関する科学的研究 | 田村朋美（アソシエイトフェロー） | 10月17日 | 日本文化財科学会 |
| 13 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 屈輪文椀の製作技法に関する研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 10月17日 | 日本文化財科学会 |
| 14 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 観察手法による高松塚古墳壁画の表面状態調査 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 10月17日 | 日本文化財科学会 |

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（2件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 | 西トップ遺跡の調査 | 石村智（研究員） | 6月1日～2日 | アンコール遺跡保護開発国際調整委員会 |
| 2 | カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査 | 西トップ遺跡の調査と今後 | 石村智（研究員） | 12月15日 | アンコール遺跡保護開発国際調整委員会 |

○情報発信機能の強化　（1件）

| | 研究テーマ | 発表テーマ | 発表者（職名・名前） | 実施日 | 学会等名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実 | 遺跡の記録 | 森本晋（文化財情報研究室長） | 11月20日 | 第14回遺跡GIS研究会 |

## a-④ 論文等発表実績一覧

| 国立文化財機構 | 博物館計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 294件 | 124件 | 74件 | 27件 | 22件 | 1件 |
| | 文化財研究所計 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 | 共同研究（東京・奈良文化財研究所） | |
| | 170件 | 38件 | 118件 | 14件 | |

**【東京国立博物館】　74件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松本伸之（学芸企画部長） | HISTORY AND COLLECTIONS OF TOKYO NATIONAL MUSEUM | ART OF THE SAMURAI | BOWERS MUSEUM | 21年4月 | 無 |
| 2 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松嶋雅人（企画課特別展室長） | 三つの鬼子母神十羅刹女図―長谷川信春の仏画とその造形― | 『長谷川等伯展～信春から等伯への軌跡～』 | 石川県七尾美術館 | 21年4月 | 無 |
| 3 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松嶋雅人（企画課特別展室長） | 狩野探幽と徳川将軍家 | 『イメージとパトロン―美術史を学ぶための23章』 | ブリュッケ | 21年6月 | 無 |
| 4 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松嶋雅人（企画課特別展室長） | 「信春」印の鬼子母神十羅刹女像 | 『MUSEUM』第623号 | 東京国立博物館 | 21年12月15日 | 有 |
| 5 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松嶋雅人（企画課特別展室長） | 「長谷川等伯の正体―絵仏師・信春の作品とその造形」 | 没後400年　特別展「長谷川等伯」展覧会図録 | 東京国立博物館 | 22年2月23日 | 無 |
| 6 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 松嶋雅人（企画課特別展室長） | 「白い紙と黒い線―円山応挙と鯨津朝子」 | 『応挙館で美術体験の記録』 | 東京国立博物館 | 22年3月31日 | 無 |
| 7 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 小山弓弦葉（企画課特別展室主任研究員） | 辻が花―中世絞染模様―に関する考察 | 東京国立博物館紀要第44号 | 東京国立博物館 | 21年6月 | 無 |
| 8 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 小山弓弦葉（企画課特別展室主任研究員） | 光琳模様 | 日本の美術　524号 | ぎょうせい | 22年1月 | 無 |
| 9 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員） | 社寺参詣曼荼羅 | 特別展「伊勢神宮と神々の美術」展覧会図録 | 社団法人　霞会館 | 21年7月14日 | 無 |
| 10 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員） | 表紙解説　般若菩薩像 | 『MUSEUM』第624号 | 東京国立博物館 | 22年2月15日 | 有 |
| 11 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 植田彩芳子（企画課特別展室任期付研究員） | Chouhou by Yokoyama Taikan and “Expression”: Expressions of the character's emotion in His Art | AESTHETICS（国際版『美学』）No.13 | The Japanese Society for Aesthetics | 21年4月 | 有 |
| 12 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 鬼頭智美(企画課国際交流室長) | 欧米における国際展覧会実施運営の諸問題―第五回国際展覧会オーガナイザー会議報告 | 『MUSEUM』第623号 | 東京国立博物館 | 21年12月15日 | 有 |
| 13 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 鬼頭智美(企画課国際交流室長) | 「古美術に近づく―応挙館で美術を体験するまで」 | 『応挙館で美術体験の記録』 | 東京国立博物館 | 22年3月31日 | 無 |
| 14 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 遠藤楽子(企画課国際交流室研究員) | 「応挙館で美術体験プロジェクトの試み―障屏画研究の立場から」 | 『応挙館で美術体験の記録』 | 東京国立博物館 | 22年3月31日 | 無 |
| 15 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 加島勝（博物館教育課長） | 「横須賀市金工品調査」 | 『新横須賀市史』別編文化遺産 | 横須賀市 | 21年6月 | 無 |
| 16 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 岩佐光晴（上席研究員） | 「木造慈眼大師坐像」 | 國華　1367号 | 國華社 | 21年9月 | 無 |
| 17 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 岩佐光晴（上席研究員） | 「唐招提寺金堂盧舎那仏坐像」 | 週刊朝日百科『国宝の美』13号 | 朝日新聞社 | 21年11月 | 無 |
| 18 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 池田宏(上席研究員) | 「地形模型」 | 『文化庁月報』No.486 | 株式会社ぎょうせい | 21年3月 | 無 |
| 19 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 池田宏(上席研究員) | 「日本の甲冑」「甲冑師」 | 『ART OF THE SAMURAI』 | The Metropolitan of Art,New York | 21年10月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 池田宏(上席研究員) | 「コラム　櫛引八幡宮の甲冑」 | 『青森県史文化財編美術工芸』 | 青森県 | 22年3月31日 | 無 |
| 21 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 澤田むつ代（特任研究員） | 「井出二子山出土の織物」 | 『史跡保渡田古墳群　井出二子山古墳　史跡整備事業報告書』 | 高崎市教育委員会 | 21年3月27日 | 無 |
| 22 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 澤田むつ代(特任研究員) | 「背面に使用されている綾」 | 『春日権現験紀絵披見台』共同調査報告書 | 奈良国立博物館・東京文化財研究所企画情報部 | 22年3月10日 | 無 |
| 23 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 望月幹夫（特任研究員） | 杉山博久先生と日本考古学史研究 | 『地域と学史の考古学』 | 六一書房 | 21年7月 | 無 |
| 24 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員） | よみがえる宮廷有職の精華 | 特集陳列冊子 | 東京国立博物館 | 22年2月 | 無 |
| 25 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員） | 賀茂別雷神社蔵『賀茂祭絵図』「勅使諸司行列巻」に関する小考 | 京都産業大学日本文化研究所紀要第15号 | 京都産業大学 | 22年3月 | 有 |
| 26 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古谷毅(列品管理課列品情報整備室長) | 家形埴輪の構造・変遷と分析視角 | 『埴輪研究会誌』第13号 | 埴輪研究会 | 21年5月31日 | 無 |
| 27 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古谷毅(列品管理課列品情報整備室長) | 酒を醸し、酒を捧ぐ意味 -奈良県山ノ神遺跡- | 『まつりのそなえ-御食たてまつるもの-』（平成21年度秋季企画展図録） | 國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館 | 21年10月30日 | 無 |
| 28 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古谷毅(列品管理課列品情報整備室長) | 奈良時代遣唐使の発遣儀礼 | 『青木周平先生追悼 古代文芸論叢』 | 青木周平先生追悼論文集刊行会・(株)おうふう | 21年11月11日 | 無 |
| 29 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 古谷毅(列品管理課列品情報整備室長) | 東大寺山古墳出土家形・花形飾環頭大刀の性格 | 『東大寺山古墳の研究 －初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究－』 | 天理大学 | 22年3月31日 | 無 |
| 30 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 富田淳（調査研究課長） | 趙之謙小伝 | 『趙之謙とその時代』～趙之謙生誕百八十年記念展～ | 財団法人台東区芸術文化財団 | 21年8月4日 | 無 |
| 31 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 富田淳（調査研究課長） | 悲盦雑録-趙之謙の面影-(共著) | 『書法漢学研究』第6号 | アートライフ社 | 22年1月25日 | 無 |
| 32 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長） | 「信春と等伯の肖像画」 | 没後400年　特別展「長谷川等伯」展覧会図録 | 東京国立博物館 | 22年2月23日 | 無 |
| 33 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 冨坂賢（調査研究課書跡・歴史室長） | 神宮のなりたち | 『伊勢神宮と神々の美術』 | 東京国立博物館 | 21年7月14日 | 無 |
| 34 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 竹内奈美子（調査研究課工芸･考古室長） | 未詳の蒔絵師「不尽」について | 『美術フォーラム21』19 | 美術フォーラム21刊行会 | 21年5月 | 無 |
| 35 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 酒井元樹（調査研究課工芸・考古室研究員） | 般若寺と春日大社の弓矢 | 『MUSEUM』第619号 | 東京国立博物館 | 21年4月 | 有 |
| 36 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 今井敦(調査研究課東洋室長) | 「龍濤存星輪花盆」 | 『國華』第1364号 | 國華社 | 21年6月20日 | 無 |
| 37 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 今井敦(調査研究課東洋室長) | 「東洋の染付の諸相」 | 特別展「染付―藍が彩るアジアの器」展覧会図録 | 東京国立博物館 | 21年7月14日 | 無 |
| 38 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 川村佳男（調査研究課東洋室研究員） | The Spread of Pottery Miniatures in Han Dynasty China | SCIENTIFIC RESEARCH ON HISTORIC ASIAN CERAMICS - PRCEEDINGS OF THE FOURTH FORBES SYMPOSIUM AT THE FREER GALLERY OF ART | Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution | 21年11月 | 有 |
| 39 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 神庭信幸（保存修復課長）<br>和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員) | 阿修羅像輸送プロジェクト | 国宝阿修羅展報告 | 朝日新聞社 | 22年3月 | 無 |
| 40 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員） | 茨城県地域における前方後円墳の消滅 | 『東国における前方後円墳の消滅』 | 東国古墳研究会 | 21年6月7日 | 無 |
| 41 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員） | 東京国立博物館所蔵笠形木製品の研究（分担執筆） | 『MUSEUM』第622号, pp.1-44 | 東京国立博物館 | 21 年 10 月15日 | 有 |
| 42 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 三笠景子（保存修復課保存修復室研究員） | 「新収品紹介　瑠璃釉白花花文大皿」 | 『MUSEUM』第619号 | 東京国立博物館 | 21年4月 | 有 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>神庭信幸（保存修復課長）<br>土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員） | 和装本の保存方法における新案―平置き、縦置きに対応する保存箱の活用― | 文化財保存修復学会第31回大会in倉敷研究発表要旨集 | 文化財保存修復学会 | 21年6月13日 | 有 |
| 44 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>神庭信幸（保存修復課長）<br>土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）<br>和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員） | 緑青による紙の損傷に対する保存処置法の研究開発ー東京国立博物館蔵「十六羅漢図」（A-225 16幅）解体修理を通じて | 文化財保存修復学会第31回大会in倉敷研究発表要旨集 | 文化財保存修復学会 | 21年6月13日 | 有 |
| 45 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー）<br>神庭信幸（保存修復課長）<br>土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）<br>松田麻美（保存修復課保存修復室非常勤） | 「簡易万能型太巻芯」を活用した対症修理への新しい取り組み | 文化財保存修復学会誌　54 | 文化財保存修復学会 | 21年8月3日 | 有 |
| 46 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | History and culture of samurai | ART OF THE SAMURAI | BOWERS MUSEUM | 4月19日 | 無 |
| 47 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | 伊勢神宮と仏教 | 伊勢神宮と神々の美術 | 東京国立博物館 | 7月14日 | 無 |
| 48 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | 日本刀の切れ味 | 歴博　特集日本刀 | 歴史民俗博物館 | 9月20日 | 有 |
| 49 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | 茶の湯釜の歴史ー芦屋釜、天明釜から京釜へー | 特別展「線家十職大西清右衛門家の釜と金工」 | 北山会館 | 10月17日 | 無 |
| 50 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | History of the japanese sword | ART OF THE SAMURAI | メトロポリタン美術館 | 10月21日 | 無 |
| 51 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | 自在置物 | 「自在置物」 | マリア書房 | 22年1月31日 | 無 |
| 52 | 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 | 原田一敏（上席研究員） | 日本古代の舎利容器と鎮壇具 | 古代東アジアの仏教と王権 | 勉誠出版 | 22年3月20日 | 無 |
| 53 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金） | 神庭信幸（保存修復課長）<br>和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員) | 空港内のドーリー搬送工程で発生する振動と衝撃-文化財の国際輸送環境調査より- | 包装技術 | 社団法人日本包装技術協会 | 22年3月 | 有 |
| 54 | 東京国立博物館所蔵　正倉院関係資料の研究ー「正倉院裂」を中心に | 澤田むつ代（特任研究員） | 「東京国立博物館所蔵　正倉院の織物」、「織物を織る」、「糸について」、「組紐」 | 特集陳列『東京国立博物館所蔵　正倉院の織物』展覧会図録(単著) | 東京国立博物館 | 21 年 11 月　9日 | 無 |
| 55 | 文化財保護の歴史に関する基礎的研究 | 高橋裕次（博物館情報課長） | 「宮内庁管理下における博物館の活動について」 | 『皇室と東京帝室博物館』図録 | 東京国立博物館 | 21年10月 | 無 |
| 56 | 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金） | 高橋裕次（博物館情報課長） | 「漢籍善本紹介ー東京国立博物館（１）ー」 | 『新しい漢字漢文教育』第49号 | 全国漢文教育学会 | 21年11月 | 無 |
| 57 | 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） | 金子啓明（特任研究員）ほか | 「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅲ―八・九世紀を中心に(補遺)―」 | 『MUSEUM』 | 東京国立博物館 | 22年4月予定 | |
| 58 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷弘幸（学芸研究部長 ） | 『和様の書』 | 日本の美術519 | ぎょうせい | 21年8月 | 無 |
| 59 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷弘幸（学芸研究部長 ） | Calligrafia.Bellezza e Quotidianita（「書の実用と美」） | 『Giappone Potere e Splendore 1568/1868』展覧会図録 | 24 ore motta culture | 21 年 11 月 | 無 |
| 60 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷弘幸（学芸研究部長 ） | 「料紙の価値と保存ー唐紙を中心として」 | 『日本美術品の保存修復と装潢技術』４ | クバプロ | 21年12月 | 無 |
| 61 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷弘幸（学芸研究部長 ） | 「継承と創造、情報発信」 | 『現代の書　新春展　今いきづく墨の華』展覧会図録 | 毎日新聞社 | 22年1月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 62 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷弘幸（学芸研究部長 ） | 「古筆における伝統と創造－世尊寺家を一例として」 | 『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書 | 東京国立博物館 | 22年3月 | 無 |
| 63 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 高橋裕次（博物館情報課長） | 「料紙の加工と装飾について」 | 『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書 | 東京国立博物館 | 22年3月 | 無 |
| 64 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー） | 「扇面法華経冊子模本－岡倉天心・小堀鞆音と帝国博物館の模写事業」 | 『MUSEUM』第621号 | 東京国立博物館 | 21年8月 | 有 |
| 65 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー） | 「皇室建築と博物館」 | 『皇室と東京帝室博物館』図録 | 東京国立博物館 | 21年10月 | 無 |
| 66 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー） | 「書と料紙を分けること－丹鶴図譜『岡寺切』を発端として」 | 『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書 | 東京国立博物館 | 22年3月 | 無 |
| 67 | 東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究 | 高橋裕次（博物館情報課長） | 「朝廷と和紙－図書寮紙屋院を中心に」 | 特別展「皇室の名宝」展覧会図録 | 東京国立博物館 | 21年10月 | 無 |
| 68 | 東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究 | 土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員） | 「ヴィンチェンツォ・ラグーザによる博物館への寄贈品―東京国立博物館所蔵　工部美術学校の教材および習作を中心として―」 | 『東京国立博物館紀要　第45号　平成21年度』 | 東京国立博物館 | 22年3月31日 | 無 |
| 69 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 木下史青（企画課デザイン室長） | 『Treasure×Pleasure<br>-東京国立博物館の展示デザイン-』 | 文化資源学会誌<br>第7号 | 文化資源学会 | 21年3月 | 無 |
| 70 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 木下史青（企画課デザイン室長） | 『魅力的な展覧会ディスプレイについて』 | 美連協ニュース<br>No.104 | 美術館連絡協議会 | 21年11月 | 無 |
| 71 | 博物館環境デザインに関する調査研究 | 木下史青（企画課デザイン室長） | 『〈応挙館で美術体験〉照明計画』 | 「応挙館で美術体験」 | 東京国立博物館 | 22年3月 | 無 |
| 72 | 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | 村田良二（博物館情報課情報管理室研究員） | デジタル資料情報記述モデルに関するコメント | 『デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究』公開研究会資料集 | 国立歴史民俗博物館 | 21 年 10 月23日 | 無 |
| 73 | 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | 村田良二（博物館情報課情報管理室研究員） | 東京国立博物館収蔵品管理システム開発の経験から | 第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「日本のアート・ドキュメンテーション－20年の達成』予稿集 | アート・ドキュメンテーション学会 | 21年12月4日 | 無 |
| 74 | 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 | 田良島哲（列品管理課登録室長） | 博物館における業務情報の共有とIML（Inter-Museum Loan)システムの可能性 | 情報知識学会誌<br>Vol. 19 (2009) , No. 2 pp.70-73 | 情報知識学会 | 21年5月1日 | 無 |

**【京都国立博物館】　27件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「回顧と展望（近世－美術）」 | 史学雑誌 118編-5号 | 史学会 | 5月 | 無 |
| 2 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「重厚な外観、軽快な画面 ―近世絵画史からみた初里帰りの画帖」 | 『THEハプスブルク』展図録 | 読売新聞社 | 9月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「旅する画家の記録・記憶－池大雅の三岳紀行図屏風から－」 | 『日本の美　国宝との出会い』展図録 | 富山水墨美術館・北日本新聞社 | 10月 | 無 |
| 4 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「河鍋暁斎筆　地獄極楽めぐり図」 | 国華1370号（特輯幕末維新期の絵画－狩野派を中心に） | 国華社 | 12月 | 有 |
| 5 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「等伯の生涯　晩年の画業」 | 『長谷川等伯　桃山画壇の変革者』別冊・太陽　日本のこころ166 | 平凡社 | 1月 | 無 |
| 6 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「『等伯画説』を読む」 | 『長谷川等伯　桃山画壇の変革者』別冊・太陽　日本のこころ166 | 平凡社 | 1月 | 無 |
| 7 | 近世絵画に関する調査研究 | 連携協力室長 山下善也 | 「水墨にみる等伯の輝き－円熟期から晩年へ」 | 『長谷川等伯』展図録 | 毎日新聞社 | 2月 | 無 |
| 8 | 訓点資料としての典籍に関する調査研究 | 上席研究員　赤尾栄慶 | 「宝幢院点の成立に関する一考察－源信・寂照・延殿・皇慶を巡って－」 | 『訓点語と訓点資料』 | 訓点語学会 | | 無 |
| 9 | 彫刻に関する調査研究 | 主任研究員　淺湫毅 | 「静岡・建穂寺の彫刻作品について」 | 『学叢』第31号 | 京都国立博物館 | 5月 | 無 |
| 10 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 工芸室長　尾野善裕 | 「帝国京都博物館の西洋陶磁収集」 | 『学叢』第31号 | 京都国立博物館 | 5月 | 無 |
| 11 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 工芸室長　尾野善裕 | 「光悦・樂・乾山－日蓮法華宗と「やきもの」作り－」 | 『日蓮と法華の名宝－華ひらく京町衆文化』展図録 | 京都国立博物館・日本経済新聞社 | 10月 | 無 |
| 12 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 工芸室長　尾野善裕 | | 『東山61号窯発掘調査報告書』（編著） | 名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室 | 22年3月予定 | 無 |
| 13 | 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 | 工芸室長　尾野善裕 | 作品解説 | 特別展覧会『GIAPPONE POSTERE E SPLENDORE 1568/1868』図録 | Federico Motta Editore | 12月 | 無 |
| 14 | 漆工芸に関する調査研究 | 主任研究員・永島明子 | 「オーストリアに伝わるミカドの贈り物―明治新政府の文化外交―」 | 『THEハプスブルク』展図録 | 読売新聞社 | 9月 | 無 |
| 15 | 漆工芸に関する調査研究 | Curator, Meiko NAGASHIMA | “Japanese Lacquers Exported to Spanish America and Spain”. | Asia & Spanish America: Trans-Pacific Artistic & Cultural Exchange, 1500-1850. (Papers from the 2006 Mayer Center Symposium at the Denver Art Museum.) | Denver Art Museum. | 12月 | 無 |
| 16 | 漆工芸に関する調査研究 | Curator, Meiko NAGASHIMA | "Over de Makie-Decoratie op de Lakkoker van Hendrick van Buijtenhem". | Asiatische Kunst. (Publication of the Asian Art Society in the Netherlands c/o Rijksmuseum). | Vereniging van Vrienden der Aziatische Kunst. | 12月 | 無 |
| 17 | 漆工芸に関する調査研究 | 主任研究員・永島明子 | 「厨房具・膳具」 | 「根来」 | 根来展実行委員会 | 3月 | 無 |
| 18 | 中国近代絵画に関する調査研究 | 学芸部長　西上　実 | 「中国近代絵画と京都国立博物館：国際研究拠点をめざして」 | 『清風会報』 | 清風会 | 1月 | 無 |
| 19 | 中国近代絵画に関する調査研究 | 学芸部長　西上　実 | － | 京都国立博物館編『中国近代絵画研究者国際交流集会論文集』 | 京都国立博物館 | 1月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査） | 研究員　大原　嘉豊 | 「日本美術のススメ　今月の逸品　李晟「弥勒下生変相図」 | 『美術の窓』332号 | 生活の友社 | 9月 | 無 |
| 21 | 京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査） | 研究員　大原　嘉豊 | 「日蓮法華宗美術試論」 | 『日蓮と法華の名宝－華ひらく京町衆文化』展図録 | 京都国立博物館 | 10月 | 無 |
| 22 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 美術室長　山本英男 | 「信治時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」 | 『学叢』第31号 | 京都国立博物館 | 5月 | 無 |
| 23 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 美術室長　山本英男 | 「長谷川等伯、天下を取る－上洛後の二十年－」 | 『長谷川等伯』展図録 | 京都国立博物館 | 2月 | 無 |
| 24 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 美術室長　山本英男 | 「長谷川等伯の生涯」 | 『名古屋　成田山』670号 | 成田山名古屋別院大聖寺 | 3月 | 無 |
| 25 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 美術室長　山本英男 | 「没後400年　長谷川等伯」 | 『茶道雑誌』 | 河原書店 | 4月 | 無 |
| 26 | 長谷川等伯に関する調査研究 | 美術室長　山本英男 | 「京へ－雌伏の時代」 | 『別冊太陽』 | 平凡社 | 2月 | 無 |
| 27 | 特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究 | 主任研究員　山川　暁 | 「禅と伝法衣　事実と作為と」 | 『美術フォーラム21』 | 美術フォーラム21刊行会 | 5月 | 無 |

**【奈良国立博物館】　22件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 | 斎木涼子（研究員） | 図版解説 | お水取り（差し込み図版） | 奈良国立博物館 | 22年<br>2月6日 | 無 |
| 2 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 | 清水健（研究員） | 総論　おん祭と春日信仰の美術 | おん祭と春日信仰の美術 | 仏教美術協会 | 12月8日 | 無 |
| 3 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 | 北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤榮（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、森實久美子（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ） | 作品解説 | おん祭と春日信仰の美術 | 仏教美術協会 | 12月8日 | 無 |
| 4 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 清水健（研究員） | 神亀六年銘の漆柄香炉箱と白銅柄香炉の来歴 | 第六十一回正倉院展 | 奈良国立博物館 | 10月24日 | 無 |
| 5 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 内藤栄（工芸考古室長） | 正倉院の刀子について | 第六十一回正倉院展 | 奈良国立博物館 | 10月24日 | 無 |
| 6 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、森實久美子（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、吉澤悟（教育室長） | 作品解説 | 第六十一回正倉院展 | 奈良国立博物館 | 10月24日 | 無 |
| 7 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 稲本泰生（企画室長） | 天平の脱活乾漆像 | 国宝の美　彫刻1 | 朝日新聞社 | 8月 | 無 |
| 8 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 谷口耕生（保存修理指導室長） | 聖地寧波をめぐる信仰と美術 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 9 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 斎木涼子（研究員） | 宋版一切経の輸入 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 10 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 内藤栄（工芸考古室長） | 阿育王塔信仰と日本 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 11 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 吉澤悟（教育室長） | 寧波と博多を行き交うもの | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 北澤菜月（研究員） | 「寧波仏画」の居場所 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 13 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 西山厚（学芸部長） | 寧波と禅 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 14 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 岩戸晶子（研究員） | 新安沈没船とその周辺 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 15 | 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（教育室長） | 作品解説 | 聖地寧波 | 奈良国立博物館 | 7月18日 | 無 |
| 16 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 西山厚（学芸部長） | 鑑真和上の書状 | 唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展 | TBS | 4月4日 | 無 |
| 17 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員） | 作品解説 | 唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展 | TBS | 4月4日 | 無 |
| 18 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 湯山賢一（館長） | 和紙のはじまり | 美しの和紙 | サントリー美術館 | 9月19日 | 無 |
| 19 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 清水健（研究員） | 水神社蔵線刻千手観音等鏡像雑攷 | 開館十周年記念特別展　東北の群像　みちのくの祈りの名宝 | 東北歴史博物館 | 9月19日 | 無 |
| 20 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 | 岩田茂樹（美術室長）、稲本泰生（企画室長） | 監修・執筆 | 週刊朝日百科『国宝の美４　彫刻２飛鳥・白鳳の仏像』 | 朝日新聞出版 | 9月13日 | 無 |
| 21 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究・奈良時代の仏教と東アジアの世界 | 岩田茂樹（美術室長） | 法隆寺金堂四天王立像・補遺 | 「MUSEUMU」623号 | 東京国立博物館 | 12月15日 | 有 |
| 22 | 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究・奈良時代の仏教と東アジアの世界 | 稲本泰生（企画室長） | 東アジアの仏教と金石文 | 高田時雄編「漢字文化三千年」 | 臨川書店 | 7月 | 無 |

**【九州国立博物館】　1件**

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究 | 畑靖紀（学芸部企画課特別展室研究員） | 雪舟の中国絵画に対する認識をめぐって | 『寧波の美術と海域交流』 | 東アジア美術文化交流研究会 | 9月25日 | 無 |

**【東京文化財研究所】　38件**

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（14件）

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究る調査研究 | 無形文化遺産部主任研究員<br>俵木　悟 | 大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態 | 『無形文化遺産研究報告』4 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究る調査研究 | 無形文化遺産部客員研究員<br>服部比呂美 | 八朔の馬節供　西讃地方の団子馬製作を中心に | 『無形文化遺産研究報告』4 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 3 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 | 企画情報部研究員　皿井　舞 | 醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（下） | 『美術研究』398号 | 東京文化財研究所 | 2009.8 | 無 |
| 4 | 東アジアの美術に関する資料学的研究 | 企画情報部長　田中　淳 | 序論―黒田清輝フランス語資料集のために | 『黒田清輝フランス語資料集』 | 中央公論美術出版 | 2010.3 | 無 |
| 5 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部文化形成研究室長<br>塩谷　純 | 「床の間の上の裸婦」 | 東京文化財研究所編『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』 | 中央公論美術出版 | 2009.4 | 無 |
| 6 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部文化形成研究室長<br>塩谷　純 | 川端玉章の研究（二） | 『美術研究』399号 | 東京文化財研究所 | 2010.1 | 無 |
| 7 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部長　田中　淳 | 「統制」と「国際」の時代―戦中期の有島生馬を中心に | 『昭和期美術展覧会の研究　戦前編』 | 中央公論美術出版 | 2009.4 | 無 |
| 8 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部長　田中　淳 | 研究ノート　試論・「新しい女」と「風船を持つ女」―萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現 | 『美術研究』398号 | 東京文化財研究所 | 2009.8 | 無 |
| 9 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 | Beyond Nationalism- an example of Japanese Modern Art | Art History and Nationalism | Seoul Korea | 2009.9 | 無 |
| 10 | 近現代美術に関する総合的研究 | 企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子 | 黒田清輝の≪昔語り≫と白馬会の歴史主題―記紀神話主題の扱いをめぐって | 『東アジア美術のモダンとモダニティー』 | ハッコジェ社（ソウル） | 2009.11 | 無 |
| 11 | 美術の技法・材料に関する高領域的研究 | 企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英 | 研究資料　脱活乾漆像 菩薩立像 | 『美術研究』398号 | 東京文化財研究所 | 2009.8 | 無 |
| 12 | 美術の技法・材料に関する高領域的研究 | 企画情報部広領域研究室長<br>綿田　稔 | 「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考―名嶋城御成書院から福岡城対面所へ―」 | 『美術研究』400号 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 13 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満 | 古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合 | 第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 14 | 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 | 無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ | 狂言小歌拍節遡源―狂言小歌は拍子合か拍子不合か― | 『楽劇学』17号 | 楽劇学会 | 2010.3 | 有 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（6件）

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 | 企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治、企画情報部特別研究員（アソシエイトフェロー）鳥光美佳子 | 法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座（下座板絵）の光学調査 | 奈良国立博物館研究記要『鹿園雑集』18号 | 奈良国立博物館 | 2010.3 | 無 |
| 2 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 | 保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治 | 「春日権現験記絵披見台の光学調査」 | 『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 3 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 | 企画情報部研究員　江村知子 | 「春日権現験記絵披見台の表現について」 | 『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 4 | 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 | 企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英 | 「春日権現験記絵披見台の金具について」 | 『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 5 | 文化財の非破壊調査法の研究 | 保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘ほか | 国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析 | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | H22.3 | 有 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 文化財の非破壊調査法の研究 | 保存修復科学センター主任研究員　吉田直人 | 発光ダイオードを光源とした赤外線撮影について | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | H22.3 | 有 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（14件）

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財の生物劣化対策の研究 | 客員研究員　藤井義久、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉ほか | 穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察（第２報）－日光輪王寺における虫害を事例として | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | H22.3 | 有 |
| 2 | 文化財の生物劣化対策の研究 | 客員研究員　間渕創、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか | 文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | H22.3 | 有 |
| 3 | 文化財の保存環境の研究 | 客員研究員　呂　俊民、保存修復科学センター保存科学研究室長、佐野千絵 | 文化財保存のための保管空間に影響するガス放散体の簡易試験法 | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | H22.3 | 有 |
| 4 | 文化財の保存環境の研究 | 保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵 | 美術館・博物館に求められる設備機能 | 建築設備 | （社）建築設備綜合協会 | H22.2 | 無 |
| 5 | 文化財の保存環境の研究 | 保存修復科学センター長　石崎武志ほか | Lehmbaukonstructionen in Asien - Experimentelle und numerische Studien zur Umverteilung von Feuchte | Europaischer Sanierungs-kalender | Beuth Verlag | H21.4 | 有 |
| 6 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 保存修復科学センター研究員森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、客員研究員　柏谷博之 | 重要文化財及び史跡　熊野磨崖仏における磨崖仏表面のクリーニング | 保存科学49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 7 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 保存修復科学センター研究員森井順之 | Conservation Environment and Conservation Studies for Stone Heritages in Japan | Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008 | 韓国・国立文化財研究所 | 2009.12 | 無 |
| 8 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 保存修復科学センター研究員森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、客員研究員　柏谷博之 | 殺菌灯を用いた磨崖仏着生生物除去手法の実用化 | 2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集 | 東京文化財研究所／韓国・国立文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 9 | 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 | 保存修復科学センター研究員森井順之ほか | 赤外線サーモグラフィーによる石造文化財の劣化診断 | 2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集 | 東京文化財研究所／韓国・国立文化財研究所 | 2010.3 | 無 |
| 10 | 文化財の防災計画に関する調査研究 | 文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子、保存修復科学センター研究員　森井順之ほか | Construction and Integration of GIS Databases for Risk Assessment of Nationally Designated Cultural Properties Due to Earthquakes and Typhoons in Japan | Papers presented at the 22nd CIPA Symposium | ICOMOS | 2009.10 | 無 |
| 11 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、客員研究員　本多貴之 | 初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 12 | 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 | 保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦 | 重要文化財 島田神社本殿の外観塗装材料に関する調査 | 重要文化財 島田神社本殿修理工事報告書 | 京都府教育委員会 | 2009.4 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 近代の文化財の保存修復に関する研究 | 保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | Conservation and Utilization of Aircraft Heritage | Preservation and Utilization of Aircraft | 東京文化財研究所 | 2010.2 | 無 |
| 14 | 近代の文化財の保存修復に関する研究 | 保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介 | 鉄構造物の保存と修復 | 鉄構造物の保存と修復 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 無 |

○文化財の保護制度や施策の国際的動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | 文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明 | 屋内と屋外での来待石製石塔の風化の違い | 『応用地質』50 | 日本応用地質学会 | 2010.2 | 有 |
| 2 | アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 | 文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明 | 石材の風化とその計測法について | 『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』 | 奈良文化財研究所 | 2010.2 | 無 |
| 3 | 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究 | 文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　岡田健、客員研究員　高林弘実・佐藤香子ほか | 唐代節愍太子墓過道に描かれた人物像の壁画の彩色材料と制作技法に関する調査 | 保存科学 49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 4 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 | 客員研究員　松岡秋子、特別研究員　島津美子・邊牟木尚美・影山悦子、文化遺産国際協力センター地域環境研究室長　山内和也 | タジキスタン国立古代博物館が所蔵するソグディアナ出土壁画の保存修復－カライ・カフカハ遺跡出土壁画ＫＨ7-1の事例－ | 保存科学 49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |

**【奈良文化財研究所】 118件**

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（63件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化的景観に関する調査研究 | 惠谷浩子（研究員） | 文化的景観の輪郭と多様性 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 2 | 文化的景観に関する調査研究 | 惠谷浩子（研究員） | 住民意識の反映としての文化的景観 | ランドスケープ研究vol.73 No.1 | 日本造園学会 | 4月 | 無 |
| 3 | 文化的景観に関する調査研究 | 惠谷浩子（研究員） | 四万十川流域の文化的景観 | 文化的景観研究集会（第1回）報告書 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 4 | 文化的景観に関する調査研究 | 清水重敦（景観研究室長）・惠谷浩子（研究員） | 「条坊パターン」「宇治の文化的景観」「ため池」 | 朝日新聞「古代はいま」 | 朝日新聞社 | 7月-10月 | 無 |
| 5 | 文化的景観に関する調査研究 | 惠谷浩子（研究員） | 「新たな遺産」「効率的な土地利用」「合理的な水利システム」「農地と森林」「恵みと脅威の二面性」「林業地と港町」「未来描く手掛かり」 | 高知新聞 | 高知新聞社 | 5月-6月 | 無 |
| 6 | 文化的景観に関する調査研究 | 清水重敦（景観研究室長） | 都市に生まれたスキマ | 新建築住宅特集284 | 新建築社 | 12月 | 無 |
| 7 | 文化的景観に関する調査研究 | 松本将一郎（アソシエイトフェロー） | 小鹿田焼の里 -焼物の里の文化的景観- | 遺跡学研究6 | 日本遺跡学会 | 11月 | 無 |
| 8 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 吉川聡（歴史研究室長） | 興福寺の論義草奥書にみえる歴史―戦国時代南都の飢饉・一揆・武将― | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 9 | 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 | 吉川聡（歴史研究室長） | 奈良加茂道の遡及的検討―近世伊賀道から古代東海道・恭仁京に及ぶ― | 律令国家史論集 | 塙書房 | 22年2月 | 無 |
| 10 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 速見侑子（奈良県）・窪寺茂((財)文化財建造物保存技術協会)・清水重敦（景観研究室長）・渡邉晃宏（史料研究室長） | 平城宮第一次大極殿復原－扁額に関する研究－ | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 窪寺茂((財)文化財建造物保存技術協会) | 平城宮大極殿復原－四神彩色の配置に関する研究－ | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 12 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 清水重敦（景観研究室長） | 近代京都における建築の継承と復古－京都府近代和風建築総合調査から－ | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 13 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 黒坂貴裕（研究員） | 茨木城出土筏欄間について | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 14 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 番光（研究員）・大林潤（研究員） | 西トップ寺院の建築調査－2008年度の成果－ | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 15 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 島田敏男（建造物研究室長） | 日本における古代建築研究の現状と課題 | 第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議 | 第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議 | 12月 | 無 |
| 16 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 清水重敦（景観研究室長） | 日本における建築文化遺産保存修理の歴史とその特質 | 第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議 | 第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議 | 12月 | 無 |
| 17 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 島田敏男（建造物研究室長） | 観音寺遺跡出土の建築部材 | シンポジウム　発掘調査からせまる阿波国府の実像 | 財団法人徳島県埋蔵文化財センター | 9月 | 無 |
| 18 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 島田敏男（建造物研究室長） | 大極殿の再現と日本の古代建築 | 別冊太陽 平城京 | 平凡社 | 22年1月 | 無 |
| 19 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 島田敏男（建造物研究室長） | 大極殿の復原事業 | 月刊文化財No.556 | 第一法規 | 22年1月 | 無 |
| 20 | 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 | 箱崎和久（遺構研究室長） | 平城宮の寺院 | 月刊文化財No.556 | 第一法規 | 22年1月 | 無 |
| 21 | 平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査 | 鈴木智大（研究員） | 平城宮東院地区（平城第446次）の調査 | 奈文研ニュースNo.36 | 奈良文化財研究所 | 22年3月 | 無 |
| 22 | 平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査 | 鈴木智大（研究員） | 東院地区の調査－第446次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 23 | 平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査 | 大林潤（研究員） | 平城宮第一次大極殿院の調査（平城第454次） | 奈文研ニュースNo.34 | 奈良文化財研究所 | 9月 | 無 |
| 24 | 平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査 | 大林潤（研究員）・今井晃樹（主任研究員）・芝康次郎（研究員）・森川実（研究員） | 第一次大極殿院広場の調査－第454次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 25 | 薬師寺（第457次）の発掘調査 | 箱崎和久（遺構研究室長） | 薬師寺の調査 | 奈文研ニュースNo.34 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 26 | 薬師寺（第457次）の発掘調査 | 箱崎和久（遺構研究室長）ほか | 薬師寺境内の発掘調査―第457次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 27 | 興福寺南大門跡（第458次）の発掘調査 | 森川実（研究員）・箱崎和久（遺構研究室長）・森先一貴（研究員）・芝康次郎（研究員） | 興福寺南大門の調査―平城第458次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 28 | 平城宮跡東方官衙地区（466次）の発掘調査 | 国武貞克（研究員）ほか | 東方官衙地区の調査―第466次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 29 | 平城宮跡東方官衙地区（466次）の発掘調査 | 国武貞克（研究員） | 平城宮跡東方官衙地区の調査 | 奈文研ニュースNo.37 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 30 | 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 | 山本崇（主任研究員）・高橋知奈津（研究員）・豊島直博（主任研究員）・若杉智宏（研究員）・石田由紀子（特別研究員） | 藤原宮跡大極殿院・朝堂院回廊の調査－飛鳥藤原第160次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 31 | 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 | 山本崇（主任研究員） | 藤原宮跡大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第160次） | 奈文研ニュースNo.35 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 32 | 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 | 高橋知奈津（研究員） | 藤原宮跡大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第160次） | 奈文研ニュースNo.36 | 奈良文化財研究所 | 22年3月 | 無 |
| 33 | 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査 | 次山淳（考古第三研究室長）・小田裕樹（研究員）・石田由紀子（特別研究員）・木村理恵（特別研究員） | 甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第157次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 34 | 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査 | 番光（研究員） | 甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第161次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 35 | 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査 | 次山淳（考古第三研究室長） | 甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第157次） | 奈文研ニュースNo.34 | 奈良文化財研究所 | 9月 | 無 |
| 36 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 木村理恵（特別研究員）・石田由紀子（特別研究員） | 古宮遺跡の調査－第152-8次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 37 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 石田由紀子（特別研究員） | 大官大寺の縄文土器（２） | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 38 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 加藤雅士（任期付研究員）・松谷暁子 | 藤原宮跡出土土器付着炭化粒のSEM観察 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 39 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 西口壽生（客員研究員） | 東海地方産陶硯について | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 40 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 木村理恵（特別研究員） | 古宮遺跡の調査（飛鳥藤原第152-8次） | 奈文研ニュースNo.33 | 奈良文化財研究所 | 6月 | 無 |
| 41 | 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 | 高田貫太（研究員） | 奈文研ギャラリー(25)「花組」と「星組」－飛鳥寺の瓦－ | 奈文研ニュースNo.33 | 奈良文化財研究所 | 6月 | 無 |
| 42 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 | 金甫相（韓国国立慶州文化財研究所） | 韓・日発掘調査交流を行ってみて | 奈文研ニュースNo.33 | 奈良文化財研究所 | 6月 | 無 |
| 43 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 | 小池伸彦（企画調整室長） | 遼寧省朝陽地区隋唐墓副葬品の調査 | 奈文研ニュースNo.34 | 奈良文化財研究所 | 9月 | 無 |
| 44 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 | 玉田芳英（考古第二研究室長） | 中国河南省文物考古局との共同研究 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 45 | アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 | 城倉正祥（研究員） | 漢魏洛陽城　北魏宮城3号建築遺構の発掘調査 | 奈良文化財研究所紀要 2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 46 | 庭園に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長） | 造園遺産と目録作成の方向性について | 平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集 | 日本造園学会 | 5月 | 無 |
| 47 | 庭園に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 古代の庭園 | 歴史と地理第625号日本史の研究(225) | 山川出版社 | 6月 | 無 |
| 48 | 庭園に関する調査研究 | 粟野隆（研究員） | 擬石・擬木を用いた近代和風庭園―琴ノ浦温山荘園の庭園調査から― | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月 | 無 |
| 49 | 庭園に関する調査研究 | 粟野隆（研究員） | コンドルの庭園構成手法 | ー丁倫敦と丸の内スタイル | 求龍堂 | 9月 | 無 |
| 50 | 庭園に関する調査研究 | 粟野隆（研究員） | 古河家の邸宅と旧西ヶ原本邸の庭園 | 日本庭園学会誌第21号 | 日本庭園学会 | 10月 | 無 |
| 51 | 庭園に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 奈良時代の浄土庭園－阿弥陀浄土院とその前身たる観無量寿院－ | 東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究集会報告書 | 奈良文化財研究所 | 11月 | 無 |
| 52 | 庭園に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 近世の庭園 | 歴史と地理第630号日本史の研究(227) | 山川出版社 | 12月 | 無 |
| 53 | 庭園に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 池庭から枯山水へ | 季刊悠久第118号 | おうふう | 12月 | 無 |
| 54 | 庭園に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 平城宮・京の庭園 | 月刊文化財No.556 | 第一法規 | 22年1月 | 無 |
| 55 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長） | 造園遺産と目録作成の方向性について | 平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集 | 日本造園学会 | 5月 | 無 |
| 56 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長）・高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 遺構露出展示の今日的課題 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 57 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長） | 「世界遺産」をめぐる現状と課題 | 世界遺産の普遍的価値 | 京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター | 8月 | 無 |
| 58 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 小野健吉（文化遺産部長） | 特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画について | 遺跡学研究第6号 | 日本遺跡学会 | 11月 | 無 |
| 59 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長） | 遺産の類型 | 遺跡学研究第6号 | 日本遺跡学会 | 11月 | 無 |
| 60 | 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究 | 平澤毅（遺跡整備研究室長） | 日本における文化遺産としての風致景観の保護と保全－特にその歴史と「名勝」の保護について－ | 国際学術シンポジウム「名勝の現況と展望」 | 韓国国立文化財研究所 | 10月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | 脇谷草一郎（研究員） | Application of Resitivity Image Profiling Method for Hydrological Analysis in Soil Structural Remains | 22nd CIPA Symposium | CIPA | 10月11日 | 有 |
| 62 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 遺構露出展示の今日的課題 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 63 | 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究 | 脇谷草一郎（研究員） | 土質遺構露出展示保存のための基礎的研究－土中水のポテンシャル制御による遺構安定化の試み－ | 保存科学 | 東京文化財研究所 | 22年3月 | 有 |

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（34件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 遺跡データベースの作成と公開 | 青木敬（研究員） | 飛鳥・藤原地域における７世紀の門遺構 | 第13回古代官衙・集落研究集会　官衙と門 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 2 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 渡辺芳郎（鹿児島大学教授）・金田明大（主任研究員） | 鹿児島県日置市美山苗代川窯跡群の調査-分布調査・測量調査・物理探査の成果から- | 金大考古65 | 金沢大学考古学研究室 | 11月30日 | 有 |
| 3 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 金田明大（主任研究員） | Application of a Low cost Laser Scanner for Archaeology in Japan | CIPA2009 Proceedings | CIPA | 10月13日 | 有 |
| 4 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 清野陽一（京都大学大学院）・近藤康久（東京大学総合資料館）・<br>金田明大（主任研究員） | Born Digital, Liberate from the Paper: A Case Study and Perspectives about Applications of Voice Recording and other Digital Recording Methods for the Archaeological Fieldwork | CIPA2009 Proceedings | CIPA | 10月13日 | 有 |
| 5 | 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 | 金田明大（主任研究員） | Cultural GIS Construction and Utilization: Cases in Japan. | Management and Appreciation of Cultural Heritage Preservation Using GIS | 大韓民国文化財庁 | 10月28日 | 無 |
| 6 | 年輪年代学研究 | 大河内隆之（年代学研究室長）・児島大輔（日本学術振興会特別研究員） | 長徳寺木造薬師如来坐像の年輪年代調査 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 7 | 年輪年代学研究 | 降幡順子（主任研究員）・大河内隆之（年代学研究室長） | 黒漆塗工具及び刀子の事前調査 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |
| 8 | 年輪年代学研究 | 児島大輔（日本学術振興会特別研究員） | 甲冑修復の精神史―近世における修復二例を中心に― | 『サムライの美学―甲冑師明珍宗恭とそのコレクション―』展図録 | 早稲田大学會津八一記念博物館 | 9月 | 無 |
| 9 | 年輪年代学研究 | 児島大輔（日本学術振興会特別研究員） | 正倉院宝物樹皮色袈裟について | 奈良美術研究第10号 | 早稲田大学奈良美術研究所 | 22年3月 | 無 |
| 10 | 年輪年代学研究 | 光谷拓実（客員研究員） | 年輪年代調査 | 月刊文化財554号 | 第一法規 | 11月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 年輪年代学研究 | 光谷拓実（客員研究員） | Tree-ring dating: its precision and applications in Japan | Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008 | National Research Institute of Cultural Heritage （大韓民国） | 12月 | 無 |
| 12 | 年輪年代学研究 | 光谷拓実（客員研究員）・大河内隆之（年代学研究室長） | 年輪年代法による法隆寺西院伽藍の総合的年代調査 | 佛教藝術308号 | 毎日新聞社 | 22年1月 | 有 |
| 13 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | Year-round activities of the large wet shell mounds during the Jomon Period, JAPAN Over 3000 shellmounds are distributed in Japan. | ABSTRACTS OF THE 74TH ANNUAL MEETING | Society for American Archaeology | 4月 | 無 |
| 14 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 肉食の忌避と虚構−動物考古学からの視点− | 日本文化人類学会第43回研究大会要旨集 | 日本文化人類学会第43回研究大会準備委員会 | 5月 | 無 |
| 15 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 生き物と人間の考古学 | ビオストーリー11 | 誠文堂新光社 | 7月 | 無 |
| 16 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | トイレ考古学と生き物たち | ビオストーリー11 | 誠文堂新光社 | 7月 | 無 |
| 17 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 動物考古学からみた中世の動物利用 | 動物と中世　獲る・使う・食らう 小野正敏、五味文彦、荻原三雄編 | 高志書院 | 7月 | 無 |
| 18 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 丸山真史（奈良県立橿原考古学研究所）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 中・近世における斃牛馬処理と骨角細工　−知覧・頴娃に残る海運資料と発掘調査速報展− | 獣骨を運んだ仲覚兵衛と薩南の浦々 | ミュージアム知覧 | 7月 | 無 |
| 19 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 山崎健（研究員）・織田銑一（名古屋大学教授） | Changes in shell gathering in an early agricultural society at the head of Ise Bay, Japan. | Journal of Archaeological Science 36-9 | Academic Press Ltd. (U.K.) | 9月 | 有 |
| 20 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 動物と関わった人々　−動物考古学からみた人と動物− | 部落解放研究第４３回全国集会要旨集 | 部落解放研究第４３回全国集会中央実行委員会 | 10月 | 無 |
| 21 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 里山の形成・縄文集落の景観から | 第53回プリマーテス研究会記録　里山の自然-私たちは次世代に何を残すか− | 日本モンキーセンター | 10月 | 無 |
| 22 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 西アフリカ　セネガル　シヌ・サルーム(Sine-Saloum)貝塚群 | 考古学研究56（3）通巻223 | 考古学研究会 | 12月 | 無 |
| 23 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 環境考古学9 鳥類・両生類・爬虫類標本リスト | 埋蔵文化財ニュース138 | 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター | 12月 | 無 |
| 24 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長）・山崎健（研究員） | DNA分析の行方 | 縄文時代の考古学12 | 同成社 | 22年1月 | 無 |
| 25 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 粟津湖底遺跡の動物 | よくわかる考古学 | ミネルバ書房 | 22年3月 | 無 |
| 26 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 弥生人の食生活 | よくわかる考古学 | ミネルバ書房 | 22年3月 | 無 |
| 27 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 渡来した習俗・技術 | よくわかる考古学 | ミネルバ書房 | 22年3月 | 無 |

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 動物とかかわった人びとの歴史-動物考古学からみた人と動物 | 入門講座　被差別部落(被差別民衆)の歴史 | 解放出版社 | 22年3月 | 無 |
| 29 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 丸山真史（奈良県立橿原考古学研究所）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 兵庫津遺跡第15次調査出土の動物遺存体 | 兵庫津遺跡第15次調査 | 神戸市教育委員会 | 22年3月 | 無 |
| 30 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 東名遺跡出土の脊椎動物遺存体について | 東名遺跡報告書 | 佐賀市教育委員会 | 22年3月 | 無 |
| 31 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 東名遺跡出土の脊椎動物遺存体について（柱状サンプル） | 東名遺跡報告書 | 佐賀市教育委員会 | 22年3月 | 無 |
| 32 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長） | 東名遺跡出土の骨角器製作と加工技術 | 東名遺跡報告書 | 佐賀市教育委員会 | 22年3月 | 無 |
| 33 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | 考古学からみた人・動物関係史 | 日本列島の野生生物と人 | 世界思想社 | 22年3月 | 無 |
| 34 | 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 | 松井章（埋蔵文化財センター長） | Exploitation of plants and animals at the Jomon wetland site of Sakuramachi in Toyama, Japan | Relics of Old Deccency - Archaeological studies in later Prehistory- A Festschrift for Barry Raftery | Wordwell, Dublin | 22年3月 | 有 |

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（11件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 佐藤昌憲（客員研究員） | 江戸時代における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の保存に関する研究Ⅲ | 文化財保存修復学会第31回大会研究発表要旨集 | 文化財保存修復学会 | 6月13日 | 無 |
| 2 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 佐藤昌憲（客員研究員） | 藕糸に関する基礎研究（続） | 文化財保存修復学会第31回大会研究発表要旨集 | 文化財保存修復学会 | 6月13日 | 無 |
| 3 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 高松塚古墳壁画の材料調査 | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 4 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 田村朋美（アソシエイトフェロー） | コバルト着色による紺色ガラス小玉の材質とその歴史的変遷 | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 5 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 金属錆が付着した繊維文化財を分析する場合の前処理について | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 6 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 赤外分光法による出土有機質文化財の微量分析への実験的研究 | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 7 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 降幡順子（主任研究員） | 弥生・古墳時代出土紺色ガラス小玉の着色材の分析調査 | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 8 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 高松塚古墳壁画の材料調査（２） | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 9 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | 高松塚古墳壁画の材料調査（３） | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 10 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 高妻洋成（保存修復科学研究室長） | リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅴ | 日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集 | 日本文化財科学会 | 7月11日 | 無 |
| 11 | 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 | 降幡順子（主任研究員） | 黒漆塗工具及び刀子の事前調査 | 奈良文化財研究所紀要2009 | 奈良文化財研究所 | 7月10日 | 無 |

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施（3件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 | 若杉智宏（研究員）・黒坂貴裕（研究員）・加藤雅士（任期付研究員）・高田貫太（研究員）・小田裕樹（研究員） | 檜隈寺周辺の調査 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 2 | 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 | 黒坂貴裕（研究員） | 檜隈寺周辺の調査（飛鳥･藤原159次） | 奈文研ニュースNo.35 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 3 | 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 | 若杉智宏（研究員） | 檜隈寺周辺の調査（飛鳥･藤原159次） | 奈文研ニュースNo.36 | 奈良文化財研究所 | 22年3月 | 無 |

○情報発信機能の強化　（1件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実 | 森本晋（文化財情報研究室長）ほか | 考古遺物の時間属性表現を目的とした地理情報標準準拠の編年参照系モデル | 地理情報システム学会講演論文集 | 地理情報システム学会 | 10月 | 無 |

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（6件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言 | 浅野啓介（研究員） | 海龍王寺旧境内の調査―第456次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 2 | 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言 | 浅野啓介（研究員） | 平城宮北方遺跡の調査―第459次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 3 | 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言 | 国武貞克（研究員） | 興福寺旧境内の調査　立会2009―7 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 4 | 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言 | | 2009年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の概要 | 奈良文化財研究所紀要2011 | 奈良文化財研究所 | 22年7月 | 無 |
| 5 | 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言 | 国武貞克（研究員） | 興福寺旧境内の調査　立会2009―9 | 奈良文化財研究所紀要2012 | 奈良文化財研究所 | 22年8月 | 無 |
| 6 | 地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言 | 国武貞克（研究員） | 興福寺旧境内の調査　立会2009―10 | 奈良文化財研究所紀要2013 | 奈良文化財研究所 | 22年9月 | 無 |

**【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計14件**

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施（14件）

| | 研究テーマ | 発表者（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載年月日 | レフェリー有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　安部倫子・中右恵理子・坪倉早智子、保存修復科学センター研究員　早川典子、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター長　石崎武志ほか | 高松塚古墳石室内・取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 2 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 客員研究員　小椋大輔・鉾井修一、保存修復科学センター長　石崎武志ほか | 過去の高松塚古墳石室内の温湿度解析（２） | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 3 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 客員研究員　小椋大輔・鉾井修一、保存修復科学センター長　石崎武志ほか | 過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析（３） | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 4 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 客員研究員　三村　衛、保存修復科学センター長 石崎武志ほか | 高松塚古墳墳丘部の動的解析 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 5 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りかほか | 高松塚古墳石室内より分離された主要な微生物のギ酸・酢酸生成能 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |

| | 研究テーマ | 発表者<br>（職名・名前） | 論文テーマ | 掲載誌名 | 発行元 | 掲載<br>年月日 | レフェリー<br>有無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、奈良文化財研究所　辻本与志一、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか | 高松塚古墳壁画修理施設における生物対策について | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 7 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか | 高松塚古墳・キトラ古墳石室内の微生物分離株のアルコール系殺菌剤資化性試験 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 8 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか | 高松塚古墳石室および周辺部由来カビの薬剤に対する馴化 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 9 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか | 高松塚古墳石室および周辺部由来カビの温度帯による生理的性状 | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 10 | 文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター研究員　森井順之・早川典子、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉ほか | キトラ古墳の微生物調査結果と微生物対策について(2009) | 保存科学　49 | 東京文化財研究所 | 2010.3 | 有 |
| 11 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 松村恵司（文化庁）・廣瀬覚（研究員） | 高松塚古墳仮整備のための発掘調査 | 月刊文化財第547号 | 第一法規 | 4月 | 無 |
| 12 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 廣瀬覚（研究員） | 高松塚古墳の墳丘仮整備工事が竣工 | 奈文研ニュース No.35 | 奈良文化財研究所 | 12月 | 無 |
| 13 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 廣瀬覚（研究員） | 高松塚古墳の発掘調査－飛鳥藤原154次 | 奈良文化財研究所紀要2010 | 奈良文化財研究所 | 22年6月 | 無 |
| 14 | 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力 | 松村恵司（文化庁）・玉田芳英（考古第二研究室長）・廣瀬覚（研究員） | 高松塚古墳とキトラ古墳 | 遺跡学研究第6号 | 日本遺跡学会 | 11月 | 無 |

## a-⑤ 調査研究刊行物一覧

### 【東京国立博物館】

### ○調査研究刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 「ＭＵＳＥＵＭ」　６１９～６２４号 | 各1,900 | 美術館・博物館・大学・研究所等　2,742件(各457件) |
| 「東京国立博物館紀要」４４号 | 800 | 美術館・博物館・大学等　334件 |
| 「東京国立博物館文化財修理報告」Ｘ | 800 | 美術館・博物館・大学等　91件 |
| 「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸ　聖徳太子絵伝３ | 600 | 美術館・博物館・大学等　193件 |
| 研究図録『東京国立博物館所蔵骨角器集成』 | 600 | 美術館・博物館・大学等　327件 |
| 「東京国立博物館図版目録　近代彫刻篇」 | 600 | 美術館・博物館・大学等　161件 |
| 「東京国立博物館東洋美術100選」（英語版） | 3000 | ― |
| 「東京国立博物館東洋美術100選」（中国語版） | 3000 | ― |

### ○展覧会目録

| 刊　行　物　名 | | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|---|
| 特別展 | 「染付―藍が彩るアジアの器」 | 6800 | 美術館・博物館・大学等　110件 |
| | 「伊勢神宮と神々の美術」 | ― | 美術館・博物館・大学等　110件 |
| | 「皇室の名宝―日本美の華―」 | ― | 美術館・博物館・大学等　112件 |
| | 「国宝　土偶展」 | ― | 美術館・博物館・大学等　112件 |
| | 「長谷川等伯」 | ― | 美術館・博物館・大学等　112件 |
| 特集陳列 | 「趙之謙とその時代―趙之謙生誕180周年記念展―」 | ― | 美術館・博物館・大学等　－件 |
| | 「皇室と東京帝室博物館」 | 2000 | 美術館・博物館・大学等　16件 |
| | 「東京国立博物館所蔵正倉院の織物」 | 2000 | 美術館・博物館・大学等　16件 |
| | 「よみがえる宮廷　有職の精華」 | 2000 | 美術館・博物館・大学等　16件 |
| | 「骨角器―人と動物たちとのかかわり」 | 2000 | 美術館・博物館・大学等　16件 |

### 【京都国立博物館】

### ○調査研究刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 研究紀要「学叢」第31号 | 740 | 美術館・博物館・大学等 |
| 文化財保存修理所　修理報告書5 | 450 | 大学・図書館・研究機関等 |

### ○展覧会目録

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 特別展覧会「シルクロード文字を辿って－ロシア探検隊収集の文物－」 | ― | 美術館・博物館・大学等 |
| 特別展覧会「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」 | ― | 美術館・博物館・大学等 |
| 特別展覧会「THEハプスブルク」 | ― | 美術館・博物館・大学等 |

### 【奈良国立博物館】

### ○調査研究刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 東大寺法華堂仏像色彩文様写真デジタル画像目録 | 50部 | 研究分担者 |
| 春日権現験記披見台　共同研究調査報告書 | 300部 | 美術館・博物館・大学・研究所等 |
| 研究紀要　鹿園雑集　１2号 | 700部 | 美術館・博物館・大学・研究所等 |
| 奈良国立博物館だより<br>（年4回） | 春・夏・冬号 各20,000部<br>秋号　30,000部 | 美術館・博物館・大学・研究所等 |

### ○展覧会目録

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝　鑑真和上展 | ― | 美術館・博物館・大学・研究機関等 |
| 聖地寧波 | ― | 美術館・博物館・大学・研究機関等 |
| 第６１回正倉院展 | ― | 美術館・博物館・大学・研究機関等 |
| The 61th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures | ― | 美術館・博物館・大学・研究機関等 |
| おん祭と春日信仰の美術 | ― | 美術館・博物館・大学・研究機関等 |

### 【九州国立博物館】

### ○調査研究刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 神々の青銅器リーフレットvol.4　トピック展示「進化する博物館Ⅱ」～みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない～ | 6,000 | 美術館・博物館・研究機関等 |

### ○展覧会目録

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 京都　妙心寺　禅の至宝と九州・琉球 | ― | 美術館・博物館・研究機関等 |

## 【東京文化財研究所】
## ○調査研究刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 東京文化財研究所年報 | 1,000 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 東京文化財研究所概要 | 5,000 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 東文研ニュース 第37～40号 | 各5,000 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 東文研ニュースダイジェスト（東文研ニュース英語版）第6～7号 | 各5,000 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 平成20年版　日本美術年鑑 | 600 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 美術研究 398～400号 | 各400 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 無形文化遺産研究　第4号 | 750 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 第4回無形民俗文化財研究協議会報告書 | 500 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 保存科学 49号 | 600 | 博物館・美術館・大学・研究機関等 |
| 第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 | 800 | 参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等 |
| 黒田清輝フランス語資料集 | 400 | 博物館・美術館・大学等 |
| 平等院鳳凰堂仏後壁調査資料目録―近赤外線画像編― | 400 | 博物館・美術館等 |
| 春日権現験記絵巻披見台調査報告書 | 300 | 博物館・美術館等 |
| 鈴木敬旧蔵寄贈図書目録 | 70 | 博物館・美術館・大学等 |
| 東京文化財研究所75年史　本文編 | 700 | 博物館・美術館・大学等 |
| 伊藤若冲「動植綵絵　全三十幅」 | 100 | 研究機関、博物館・美術館等 |
| 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2009年度 | 300 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 漆の保存と修復2009：Urushi 2009 International Course on Conservation of Japanese Lacquer | 400 | 研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 漆工品の保存と修復2009：Conservation and restoration of Urushiware 2009 | 400 | 研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Textbook Japanese Lacquer - Intermediate- | 200 | 研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会日本絵画の修復　―先端と伝統―（予稿集） | 500 | 研究集会参加者、関係各所 |
| 2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集 | 500 | 研究集会参加者、関係各所 |
| 在外日本古美術品保存修復協力事業報告書　平成２１年版　（絵画／工芸） | 1,000 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Preservation and Utlization of Aircraft Heritage | 1,000 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 鉄構造物の保存と修復 | 1,000 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」（日本語版） | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」（ロシア語版） | 400 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| アジア文化遺産国際会議報告書「自然災害によって被災した不動産文化財の修復と保存」（英語版） | 400 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 国際文化財保存修復研究会報告書「遺跡はなぜ残ってきたか」 | 400 | 研究会参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成21年度成果報告書 | 100 | 関係機関等 |
| 陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究2009 | 50 | 関係機関等 |
| 敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2009 | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| バーミヤーン遺跡の地下探査 | 250 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 古代ペンジケントの壁画と彫塑― 古代ペンジケントの壁画の画法と保存 ― 古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存 ― | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復―2008年度（第１次～第４次ミッション） | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業―2008年度（第１次ミッション）― | 100 | 関係機関等 |
| 文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategies | 250 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 国際資料室蔵書目録 | 100 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 文化財保護法令シリーズ　6　カザフスタン | 300 | 国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など |
| 文化財保護法令シリーズ　7　キルギス | 300 | 国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など |

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 文化財保護法令シリーズ　8　トルクメニスタン | 300 | 国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など |
| 文化財保護法令シリーズ　9-al　フランス文化財法典（前編） | 500 | 国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など |
| Damage Assessment report of Cultural Heritage in West Sumatra | 70 | 関係機関等 |
| 「アジャンター遺跡の保存修復に向けた専門家会議」報告書 | 100 | 関係機関等 |
| 「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」平成21年度業務報告書 | 60 | 関係機関等 |
| 拠点交流事業モンゴル　平成21年度活動報告　―建造物保存修復研修プロジェクト― | 100 | 関係機関等 |
| モンゴル国ヘンティー県所在セルベン・ハールガ、アラシャ―ン・ハダ遺跡における平成21年度活動報告 | 200 | 関係機関等 |
| 「カライ・カフカハⅠ遺跡出土壁画資料集」写真編１ | 130 | 関係機関等 |
| 「東京文化財研究所と中央アジア諸国における文化財保護に関する拠点交流事業」タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復（第5次、6次、7次ミッション）平成21年度業務報告書 | 60 | 関係機関等 |
| イエメン共和国　ハドラマウト地方洪水による被災文化遺産調査報告 | 180 | 関係機関等 |
| Flood Damage Assessment Report of Cultural Heritage in Hadramaut, Yemen | 60 | 関係機関等 |
| 経済開発協力と文化遺産国際協力 | 80 | 関係機関等 |
| 平成20年度諸国国際協力体制調査　オーストラリア国際協力体制に関する調査報告書 | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 被災文化遺産復旧に係る調査報告書 | 300 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage | 300 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (1) China | 50 | 関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (2) Thailand | 50 | 関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (3) Indonesia | 50 | 関係機関等 |
| 被災文化遺産復旧に係る調査報告書（４）イラン | 30 | 関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (4) Iran | 30 | 関係機関等 |
| 被災文化遺産復旧に係る調査報告書（５）ギリシア」 | 30 | 関係機関等 |
| Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (5) Greece | 30 | 関係機関等 |
| 文化遺産国際協力事業紹介 | 800 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| Japan’s International Cooperation in Heritage Conservation | 500 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |
| 文化遺産国際協力の今後の展望　松浦ユネスコ事務局長講演会 | 330 | 図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等 |

**【奈良文化財研究所】**

**○調査研究刊行物**

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 奈良文化財研究所紀要2009 | 3,300 | 大学、研究機関、図書館等 |
| 奈良文化財研究所概要2009 | 3,500 | 大学、研究機関、図書館等 |
| 奈文研ニュースNo.33～36号 | 各3,000 | 大学、研究機関、教育委員会等 |
| 埋蔵文化財ニュース138～141号 | 各2,500 | 教育委員会、図書館、博物館等 |
| 古代瓦研究Ⅳ | 900 | 大学、研究機関等 |
| 古代瓦研究Ⅴ | 900 | 大学、研究機関等 |
| 文化的景観研究集会（第1回）報告書 | 1,000 | 大学、研究機関等 |
| 文化的景観資料集　1 重要文化的景観の概要 | 1,000 | 大学、研究機関等 |
| 文化的景観研究集会（第2回）講演・報告資料集 | 1,000 | 大学、研究機関等 |
| 埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題 | 1,500 | 大学、研究機関等 |
| 平安時代庭園に関する研究3－平成20年度古代庭園研究会報告書－ | 300 | 大学、研究機関等 |
| 東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会報告書（和文・英文） | 和文500<br>英文1,000 | 大学、研究機関等 |

| 刊　行　物　名 | 発行部数 | 配　　布　　先 |
|---|---|---|
| 平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　2　木部 | 700 | 大学、研究機関等 |
| 平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　3　彩色・金具 | 700 | 大学、研究機関等 |
| 河南省黄冶窯発掘調査概報 | 600 | 大学、研究機関等 |
| 研究論集ⅩⅥ　鉄製武器の流通と初期国家形成 | 600 | 大学、研究機関等 |
| 平城宮発掘調査出土木簡概報(39) | 1,000 | 大学、研究機関等 |
| 平城宮木簡７　本文編 | 600 | 大学、研究機関、教育委員会、図書館等 |
| 平城宮木簡７　図版編 | 600 | 大学、研究機関、教育委員会、図書館等 |
| 重要文化財建造物現状変更説明1959－1961 本文編 | 500 | 大学、研究機関、教育委員会、図書館等 |
| 重要文化財建造物現状変更説明1959－1961 図版編 | 500 | 大学、研究機関、教育委員会、図書館等 |
| キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－ | 5,000 | 館内観覧者等 |
| 北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見 | 4,000 | 館内観覧者等 |
| 冬期企画展　飛鳥の考古学2009 | 2,000 | 館内観覧者等 |
| 東アジア金属工芸史の研究12 | 600 | 館内観覧者等 |
| 地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－ | 10,000 | 館内観覧者等 |
| 平城宮跡図録 | 3,000 | 館内観覧者等 |
| アンコール遺跡群西トップ寺院 遺跡保全プロジェクト（1・2） | 各1,000 | 来訪者等 |
| 甘樫丘東麓遺跡 | 2,000 | 現地説明会見学者等 |
| 藤原宮大極殿院回廊の調査 | 2,000 | 現地説明会見学者等 |
| 平城宮跡（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版） | 日本語版10,000<br>英語版1,000<br>中国語版1,000<br>韓国語版1,000 | 宮跡来訪者等 |
| 朱雀門（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版） | 日本語版10,000<br>英語版1,000<br>中国語版1,000<br>韓国語版1,000 | 宮跡来訪者等 |
| 東院庭園（日本語版・英語版） | 日本語版3,000部<br>英語版1,000部 | 宮跡来訪者等 |
| 第一次大極殿（日本語版・英語版） | 日本語版1,000部<br>英語版1,000部 | 宮跡来訪者等 |
| 平城宮跡ガイド（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版） | 日本語版80,000<br>英語版3,000<br>中国語版3,000<br>韓国語版3,000 | 宮跡来訪者等 |

## a-⑥ 科学研究費補助金による調査研究

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 86件 | 14件 | 2件 | 3件 | 10件 | 20件 | 37件 |

### 【東京国立博物館】14件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築 | 井上　洋一 | 学芸企画部企画課長 | 基盤研究(A) | 12,090 |
| 2 | 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究 | 島谷　弘幸 | 学芸研究部長 | 基盤研究(B) | 6,630 |
| 3 | 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究 | 金子　啓明 | 特任研究員 | 基盤研究(B) | 2,600 |
| 4 | 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に― | 丸山　士郎 | 学芸企画部博物館情報課情報管理室長 | 基盤研究(C) | 1,690 |
| 5 | 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究 | 神庭　信幸 | 学芸研究部保存修復課長 | 基盤研究(S) | 13,910 |
| 6 | 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に― | 澤田　むつ代 | 特任研究員 | 基盤研究(B) | 2,990 |
| 7 | 文化財保護の歴史に関する基礎的研究 | 高橋　裕次 | 学芸企画部博物館情報課長 | 基盤研究(B) | 5,200 |
| 8 | 随唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究 | 加島　勝 | 学芸企画部博物館教育課長 | 基盤研究(B) | 6,370 |
| 9 | 原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究 | 植田　彩芳子 | 学芸研究部企画課特別展室任期付研究員 | 若手研究(B) | 1,040 |
| 10 | 高度な復元作業のための制作空間の情報化 | 河内　晋平 | 学芸研究部調査研究課貸与特別観覧室アソシエイトフェロー | 若手研究(スタートアップ) | 1,118 |
| 11 | 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究 | 安藤　香織 | 学芸研究部調査研究課貸与特別観覧室アソシエイトフェロー | 若手研究(スタートアップ) | 741 |
| 12 | 東京国立博物館所蔵古文書データベース | 高梨　真行 | 学芸企画部博物館教育課ボランティア室研究員 | 研究成果公開促進費（データベース） | 1,600 |
| 13 | 東京国立博物館所蔵写真資料データベース | 富田　淳 | 学芸研究部調査研究課長 | 研究成果公開促進費（データベース） | 2,400 |
| 14 | 東京国立博物館所蔵印譜データベース | 関　紀子 | 学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員 | 研究成果公開促進費（データベース） | 1,900 |

### 【京都国立博物館】　2件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察 | 佐々木　丞平 | 館長 | 基盤研究（A） | 8,320 |
| 2 | 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究 | 赤尾　栄慶 | 学芸部上席研究員 | 基盤研究（B） | 4,290 |

### 【奈良国立博物館】　3件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流 | 湯山　賢一 | 館長 | 基盤研究(A) | 6,500 |
| 2 | 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程 | 吉澤　悟 | 学芸部教育室長 | 基盤研究(C) | 1,430 |
| 3 | 統一新羅期の道具瓦集成 | 岩戸　晶子 | 学芸部工芸考古室研究員 | 若手研究(B) | 1,300 |

### 【九州国立博物館】　10件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算(千円) |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築 | 河野　一隆 | 学芸部企画課<br>文化交流展室長 | 基盤研究（Ａ） | 17,420 |
| 2 | Ｘ線ＣＴスキャナーによる中国古代青銅器の構造技法解析 | 今津　節生 | 学芸部博物館科学課<br>環境保全室長 | 基盤研究（Ｂ） | 9,100 |

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算（千円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術 | 臺信　祐爾 | 学芸部文化財課長 | 基盤研究（Ｂ）<br>海外 | 5,070 |
| 4 | アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－ | 小林　公治 | 学芸部文化財課<br>資料管理室長 | 基盤研究（Ｃ） | 2,210 |
| 5 | 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究 | 伊藤　嘉章 | 学芸部長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,560 |
| 6 | 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発 | 村田　忠繁 | 学芸部特任研究員 | 基盤研究（Ｃ） | 910 |
| 7 | 五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究 | 市元　塁 | 学芸部企画課研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,430 |
| 8 | 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究 | 志賀　智史 | 学芸部博物館科学課<br>研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,040 |
| 9 | 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究 | 畑　靖紀 | 学芸部企画課研究員 | 若手研究（Ｂ） | 910 |
| 10 | 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査 | 金井　裕子 | 学芸部企画課研究員 | 若手研究（Ｂ） | 780 |

## 【東京文化財研究所】　20件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算（千円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高松塚古墳壁画劣化要因微生物の遺伝・表現形質等基礎データの総合的構築 | 佐野　千絵 | 保存修復科学センター<br>保存科学研究室長 | 基盤研究（Ａ） | 7,930 |
| 2 | タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究 | 清水　真一 | 文化遺産国際協力センター長 | 基盤研究（Ａ）<br>（海外） | 12,090 |
| 3 | 歴史的建造物を構成する部材の劣化と対策 | 石﨑　武志 | 保存修復科学センター長 | 基盤研究（Ｂ） | 6,110 |
| 4 | 諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発－美術史家の眼を引継ぐ | 田中　淳 | 企画情報部長 | 基盤研究（Ｂ） | 5,200 |
| 5 | 民俗芸能保護における「記録選択」の意義に関する調査研究 | 宮田　繁幸 | 無形文化遺産部長 | 基盤研究（Ｃ） | 780 |
| 6 | 建築文化財における外観塗装材料の変遷と新塗料開発に関する研究 | 北野　信彦 | 保存修復科学センター<br>伝統技術研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 910 |
| 7 | 燻蒸剤等各種殺虫・殺菌処理が文化財のタンパク質材質へ及ぼす影響の科学的検討 | 木川　りか | 保存修復科学センター<br>生物科学研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,170 |
| 8 | 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究 | 加藤　雅人 | 保存修復科学センター研究員 | 基盤研究（Ｃ） | 2,730 |
| 9 | 古楽器の形態変化及びジャンル間の交流に関する総合研究 | 高桑いづみ | 無形文化遺産部<br>無形文化財研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 910 |
| 10 | 文化財の被災履歴データベースによる脆弱性評価と保存計画策定への活用に関する研究 | 二神　葉子 | 文化遺産国際協力センター<br>主任研究員 | 基盤研究（Ｃ） | 2,210 |
| 11 | 日本絵画材料の時代的変遷に関する調査研究 | 早川　泰弘 | 保存修復科学センター<br>分析科学研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,950 |
| 12 | 大村西崖の研究 | 塩谷　純 | 企画情報部<br>文化形成研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,300 |
| 13 | 移動が困難な文化財のためのエックス線を用いた非破壊調査手法の構築 | 犬塚　将英 | 保存修復科学センター<br>主任研究員 | 若手研究（Ａ） | 2,860 |
| 14 | 江戸前期町絵師の活動状況についての研究－尾形光琳を中心に | 江村　知子 | 企画情報部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 780 |
| 15 | 西アジア・トランスコーカサスにおける初期農耕経済の受容過程に関する考古学研究 | 有村　誠 | 文化遺産国際協力センター<br>特別研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,040 |
| 16 | 石窟壁画の劣化に影響を与える環境要素の予測と定量化に関する研究 | 宇野　朋子 | 文化遺産国際協力センター<br>特別研究員 | 若手研究（Ｂ） | 650 |
| 17 | 「エフタル期」の図像資料の特定と考察：バーミヤン、ソグド、クチャを中心に | 影山　悦子 | 文化遺産国際協力センター<br>特別研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,430 |
| 18 | デジタルカメラを用いた文化財資料表面付着物の簡便な判別方法の研究 | 吉田　直人 | 保存修復科学センター<br>主任研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,950 |
| 19 | 無形の民俗文化財の保護事業の実態と効果に関する民族誌的研究 | 俵木　悟 | 無形文化遺産部<br>主任研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,300 |
| 20 | 中世仏教絵巻の制作・享受・交流の「場」とその文化史的背景に関する調査研究 | 土屋　貴裕 | 企画情報部研究員 | 若手研究<br>（スタートアップ） | 1,365 |

## 【奈良文化財研究所】37件

| | 研究テーマ | 名前 | 役職 | 区分 | 予算（千円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築 | 渡邉　晃宏 | 都城発掘調査部史料研究室長 | 基盤研究（Ｓ） | 20,020 |
| 2 | 遺跡出土の建築部材に関する総合的研究 | 島田　敏男 | 文化遺産部建造物研究室長 | 基盤研究（Ａ） | 13,390 |
| 3 | 東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究 | 松井　章 | 埋蔵文化財センター長 | 基盤研究（Ａ） | 8,320 |
| 4 | ミリ波およびテラヘルツ波を用いた文化財の新たな非破壊診断技術の開発研究 | 高妻　洋成 | 埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 | 基盤研究（Ａ） | 25,870 |
| 5 | 大極殿院の思想と文化に関する研究 | 今井　晃樹 | 都城発掘調査部主任研究員 | 基盤研究（Ｂ） | 1,560 |
| 6 | マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊年輪年代法による木彫神像の研究 | 大河内　隆之 | 埋蔵文化財センター年代学研究室長 | 基盤研究（Ｂ） | 5,720 |
| 7 | 日本初期貨幣史の再構築 | 次山　淳 | 都城発掘調査部考古第三研究室長 | 基盤研究（Ｂ） | 4,810 |
| 8 | 南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究 | 吉川　聡 | 文化遺産部歴史研究室長 | 基盤研究（Ｂ） | 4,290 |
| 9 | 蓄積型自然放射線量とＸ線分析による古代ガラス・セラミックス材質の考古科学的研究 | 降幡　順子 | 都城発掘調査部主任研究員 | 基盤研究（Ｃ） | 1,300 |
| 10 | 文化的資産としての名勝地の概念とその適用に関する基礎的研究 | 平澤　毅 | 文化遺産部遺跡整備研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,690 |
| 11 | 青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究 | 難波　洋三 | 都城発掘調査部考古第一研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 780 |
| 12 | 古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究 | 小池　伸彦 | 企画調整部企画調整室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,170 |
| 13 | 中国産木材の顕微鏡的特徴に関するデータベースの構築 | 伊東　隆夫 | 埋蔵文化財センター客員研究員 | 基盤研究（Ｃ） | 1,560 |
| 14 | 古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究 | 小澤　毅 | 埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,300 |
| 15 | 発掘調査成果の総合的な機械可読化に関する研究 | 森本　晋 | 企画調整部文化財情報研究室長 | 基盤研究（Ｃ） | 1,430 |
| 16 | 古代都城儀式の歴史的変遷にかんする研究 | 山本　崇 | 都城発掘調査部主任研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,430 |
| 17 | 縄文時代における、縄文原体からみた社会構造変化 | 石田　由紀子 | 都城発掘調査部特別研究員 | 若手研究（Ｂ） | 390 |
| 18 | 木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究 | 馬場　基 | 都城発掘調査部主任研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,170 |
| 19 | 弥生・古墳時代における東アジア墳墓出土鉄製武器の比較研究 | 豊島　直博 | 都城発掘調査部主任研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,040 |
| 20 | 古代工房の復原的比較研究－埴輪・須恵器・瓦の工房を中心に－ | 城倉　正祥 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 780 |
| 21 | 古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究 | 箱崎　和久 | 都城発掘調査部遺構研究室長 | 若手研究（Ｂ） | 910 |
| 22 | 近世建造物の年代測定を目指した日本産ツガ属の年輪年代学的研究 | 藤井　裕之 | 埋蔵文化財センター客員研究員 | 若手研究（Ｂ） | 650 |
| 23 | 南都諸大寺の中世寺院への転成過程に関する建築史学的研究 | 大林　潤 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,170 |
| 24 | 近代日本における洋風庭園の様式形成過程と空間デザインに関する研究 | 粟野　隆 | 文化遺産部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 650 |
| 25 | 人骨に認められる刑罰痕の研究-打ち首・さらし首を例として- | 橋本　裕子 | 埋蔵文化財センター客員研究員 | 若手研究（Ｂ） | 3,120 |
| 26 | 造瓦からみた6～8世紀の日朝交渉 | 高田　貫太 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,170 |
| 27 | オセアニア島嶼環境へのラピタ人の適応戦略を探る先史学的研究 | 石村　智 | 企画調整部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,560 |
| 28 | 古代日韓における土木技術の系譜にかんする考古学的研究 | 青木　敬 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,430 |
| 29 | 東アジアにおける失蠟法の出現と展開に関する考古学的研究 | 丹羽　崇史 | 企画調整部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,560 |
| 30 | 古代東アジアにおける都城と葬送地に関する考古学的研究 | 小田　裕樹 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 780 |
| 31 | 校倉造りの歴史的変遷と地域特性に関する研究 | 黒坂　貴裕 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,690 |
| 32 | 復原設計を方法とする東アジア古代建築の空間及び造形原理の解明 | 清水　重敦 | 文化遺産部景観研究室長 | 若手研究（Ｂ） | 2,080 |
| 33 | 中世日本と中国における木造建築の架構システムに関する比較研究 | 鈴木　智大 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（Ｂ） | 1,430 |
| 34 | 動物遺存体に残された解体痕跡の基礎的研究 | 山崎　健 | 埋蔵文化財センター研究員 | 若手研究（スタートアップ） | 1,547 |
| 35 | 更新世末期における社会変化の研究 | 国武　貞克 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（スタートアップ） | 1,560 |
| 36 | 木簡の字形分析による日本古代の異体字の基礎的研究 | 井上　幸 | 都城発掘調査部特別研究員 | 若手研究（スタートアップ） | 1,404 |
| 37 | 東アジアにおける古本州島後期旧石器文化の特殊性とその形成過程の研究 | 森先　一貴 | 都城発掘調査部研究員 | 若手研究（スタートアップ） | 1,014 |

## a-⑦ 客員研究員一覧

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 東京文化財研究所 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 96人 | 13人 | 5人 | 5人 | 2人 | 45人 | 26人 |

### 【東京国立博物館】 13人

| | 氏　名（所　属） | 研　究　課　題 |
|---|---|---|
| 1 | 田辺　龍太(財団法人切手の博物館学芸員) | 東京国立博物館所蔵の切手に関する調査研究 |
| 2 | 水上嘉代子(財団法人遠山記念館学芸員) | 東京国立博物館所蔵近世日本染織に関する研究 |
| 3 | 大脇　　潔(近畿大学文芸学部教授) | 東京国立博物館所蔵古瓦の整理および、東京国立博物館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究 |
| 4 | 金子　浩昌(日本考古学協会会員) | 東京国立博物館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究 |
| 5 | 東野　治之(奈良大学文学部教授) | 法隆寺献納宝物「古今目録抄」に関する研究 |
| 6 | 小笠原小枝(日本女子大学家政学部教授) | 東京国立博物館所蔵のインド更紗に関する研究 |
| 7 | 宮下　佐江子(古代オリエント博物館学芸課長) | 西アジア古代ガラスの研究 |
| 8 | 沢田　正昭(国士舘大学２１世紀アジア学部教授) | 金銅製考古遺物の保存と修理の研究 |
| 9 | 小野　博(美術刀剣研磨技師) | 刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策 |
| 10 | 松田　清(京都大学大学院人間・環境学研究科教授) | 東京国立博物館所蔵の洋書及び関連資料の調査研究 |
| 11 | 丸山　清志(城西国際大学物質文化研究センター　研究員・助手) | 東洋民族オセアニア採集品の調査研究 |
| 12 | 松原　茂(財団法人根津美術館学芸部長) | 東京国立博物館所蔵の絵画に関する研究 |
| 13 | 湊　信幸(前副館長) | 東京国立博物館所蔵の絵画に関する研究 |

### 【京都国立博物館】 5人

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 1 | 奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授） | 等伯に関する調査研究 |
| 2 | 山田　奨治（国際日本文化研究センター研究部准教授） | 文化財情報に関する調査研究 |
| 3 | 宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授） | 訓点資料としての典籍に関する調査研究 |
| 4 | 狩野　博幸（同志社大学文化情報学部教授） | 近世絵画に関する調査研究 |
| 5 | 井上　一稔（同志社大学文学部教授） | 彫刻に関する調査研究 |

### 【奈良国立博物館】 5人

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 1 | 井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授） | 仏教絵画の調査及び整理 |
| 2 | 木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長） | 漆工品の調査及び研究 |
| 3 | 森　　郁夫（帝塚山大学人文学部教授） | 飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理 |
| 4 | 根立研介（京都大学大学院文学研究科教授） | 仏教彫刻の調査と整理 |
| 5 | 板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授） | 中国・朝鮮絵画の調査及び整理 |

### 【九州国立博物館】 2人

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 1 | 篠﨑　悠美子（別府大学文学部教授） | 文化財の保存修復に関する研究 |
| 2 | 上宮　健吉(久留米大学比較文化研究所特別研究員) | 文化財の生物被害対策について |

### 【東京文化財研究所】45人

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 1 | 吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師） | 文化財資料データベースの構築に関する研究 |
| 2 | 相澤正彦（成城大学教授） | 研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言 |
| 3 | 三上　豊（和光大学教授） | 近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究 |
| 4 | 森下正昭（立命館アジア太平洋大学AACSBプロジェクトマネージャー） | 研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言 |
| 5 | 中村佳史（国立情報学研究所研究員） | 研究所アーカイブにおける情報の横断検索の構築のための調査研究と研究所言 |
| 6 | 丸川雄三（国立情報学研究所特任准教授） | 近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究 |
| 7 | 福岡（深津）裕子（女子美術大学・多摩美術大学非常勤講師） | 工芸技術（主として染織関係）の伝承実態の調査 |
| 8 | 森下愛子 | 工芸技術（主として陶芸）の伝承実態の調査 |

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 9 | 服部比呂美（国立国会図書館国際子ども図書館非常勤調査員） | 無形民俗文化財における風俗・慣習及び民俗技術分野の調査 |
| 10 | 大島暁雄 | 「民族技術」及び民俗芸能以外の「風俗・慣習」に関する調査研究 |
| 11 | 星野　紘 | 「文化遺産国際拠点交流事業」における海外諸機関との研究交流 |
| 12 | 三浦定俊（(財)文化財虫害研究所理事長） | 光学的方法による文化財の技法材料に関する研究 |
| 13 | 藤井義久（京都大学農学部准教授） | 文化財の生物劣化対策の研究 |
| 14 | 呂　俊民 | 文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究 |
| 15 | 三村　衛（京都大学防災研究所准教授） | 古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究 |
| 16 | 白石靖幸（北九州市立大学准教授） | 環境のシミュレーション手法の研究 |
| 17 | 小椋大輔（京都大学助教） | 環境のシミュレーション手法の研究 |
| 18 | 間渕　創 | 保存環境調査や科学的手法による材料同定、薬剤等の材料影響に関する科学的分析・研究 |
| 19 | 板垣義郎（(株)ＡＣＭ） | 修復材料に関する調査・研究 |
| 20 | 舘川　修 | 伝統材料に関する調査研究 |
| 21 | 横山晋太郎 | 近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究 |
| 22 | 長島宏行（(財)日本航空協会） | 近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究 |
| 23 | 小堀信幸（(財)船の科学館） | 近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究 |
| 24 | 中右恵理子 | キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究 |
| 25 | 安倍倫子（ＳＤラボラトリー） | キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究 |
| 26 | 本田貴之 | 文化財の伝統的修復に関する調査研究 |
| 27 | 大林賢太郎（京都造形芸術大学準教授） | 修復材料に関する調査研究 |
| 28 | 中條利一郎（帝京科学大学名誉教授） | 修復材料に関する調査研究 |
| 29 | 坪倉早智子 | キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究 |
| 30 | 松島朝秀（東京農工大学科学博物館特任助教） | 近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究 |
| 31 | 今井健一郎 | 欧米各国の文化財政策に関する調査研究及び専門機関・専門家ネットワーク構築業務についての研究協力 |
| 32 | 鋒井修一<br>（京都大学大学院工学研究科建築学専攻　教授） | タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究 |
| 33 | 柏谷博之 | 石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究 |
| 34 | 津村（高林）弘実 | 壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究 |
| 35 | 前田耕作 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力 |
| 36 | 西山伸一（サイバー大学　准教授） | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力 |
| 37 | 岩井俊平<br>（龍谷大学龍谷ミュージアム開設準備室　嘱託職員） | 西アジア諸国等文化遺産保存修復事業に参加し、当該地域の遺跡保存に対して考古学的・美術史学的な研究を行う |
| 38 | 谷口陽子<br>（筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類　助教） | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力 |
| 39 | 安倍雅史 | 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力 |
| 40 | 松岡秋子 | 文化遺産拠点交流事業の推進に関する業務についての研究協力 |
| 41 | 津村宏臣<br>（同志社大学文化情報学部文化情報学科　准教授） | 文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究 |
| 42 | 野島崇子 | 「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力 |
| 43 | 古田嶋智子 | 「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力 |
| 44 | 末森　薫 | 「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力 |
| 45 | 佐藤　桂（早稲田大学客員研究員・サイバー大学メンター） | 「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産情報資源共有化に関連する研究 |

## 【奈良文化財研究所】26人

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 1 | 小林　謙一（元奈良文化財研究所企画調整部長） | 遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究 |
| 2 | 加藤　優（徳島文理大学文学部教授） | 寺院史、古文献学の研究 |
| 3 | 吉川　真司（京都大学大学院文学研究科教授） | 日本古代史の研究 |
| 4 | 宮城　俊作（奈良女子大学生活環境学部教授） | ランドスケープデザイン及び都史デザインに関する調査研究 |

| | 氏 名（所 属） | 研 究 課 題 |
|---|---|---|
| 5 | 黒崎　直（富山大学人文学部教授） | 古代における宮殿・官衙・都城などに関する調査研究及び遺跡の保存・整備・活用の政策及び施策に関する調査研究 |
| 6 | 高瀬　要一（元奈良文化財研究所文化遺産部長） | 古代庭園の成立・変遷に関する調査研究及び遺跡の保存・整備・活用の計画及び手法に関する調査研究 |
| 7 | 川越　俊一（元副所長） | ７、８世紀土器基準資料の検討 |
| 8 | 巽　淳一郎（京都橘大学文学部文化財学科教授） | 唐三彩・施釉陶器の研究 |
| 9 | 西口　壽生（元奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第二研究室長） | 歴史時代土器及び古代都城遺跡、寺院の研究 |
| 10 | 市　大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授） | 木簡及び都城の研究ならびに日本古代地方支配の研究 |
| 11 | 山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長） | 遺跡及びその調査技術の研究 |
| 12 | 西村　康（（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長） | 遺跡探査及び測量の調査研究 |
| 13 | 光谷　拓実（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター年代学研究室長） | 年輪年代学及び木材解剖学についての調査研究 |
| 14 | 百橋　明穂（神戸大学大学院人文学研究科教授） | 日本美術史についての調査研究 |
| 15 | 千田　剛道（元奈良文化財研究所企画調整部上席研究員） | 遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究 |
| 16 | 増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部教授） | 建築史、保存修復計画、地域計画に関する調査研究 |
| 17 | 田中　大介（大阪市立大学都市文化研究センターCOE研究員） | 古代都城制及び古代貨幣・市場経済の研究 |
| 18 | 加藤　雅士（元奈良文化財研究所任期付研究員） | 縄文時代墓制の動態、歴史時代土器の研究 |
| 19 | 佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学繊維学部教授） | 有機質遺物の材質分析に関する研究 |
| 20 | 芹原　信生（元京都大学霊長類研究所教授） | 自然人類学、動物考古学の研究 |
| 21 | 松下　まり子 | 花粉分析（人と植物のかかわり）についての研究 |
| 22 | 橋本　裕子 | 骨考古学（古人骨）・墓制・埴輪に関する調査研究 |
| 23 | 伊東　隆夫（元京都大学生存圏研究所教授） | 木材組織学の研究 |
| 24 | 藤井　裕之 | 年輪年代学の研究 |
| 25 | 西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門委員） | 遺跡探査の研究 |
| 26 | 安田　龍太郎（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長） | 遺跡・遺物とその調査技術 |

## b ボランティア受入れ実績

### 1　受入人数

| 国立文化財機構 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 | 奈良文化財研究所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 769人 | 163人 | 35人 | 98人 | 345人 | 128人 |

### 2　活動内容

**【東京国立博物館】**

| 種別　(登録人数) | 概　　要 |
|---|---|
| 生涯学習ボランティア<br>(155人) | 1)来館者参加型ガイドツアーの実施<br>・樹木ツアー　47回　1,080人参加<br>・浮世絵展示解説　60回　1,767人<br>・本館ハイライトツアー　92回　3,600人<br>・法隆寺宝物館ガイドツアー　50回　1,197人<br>・考古展示室ガイド　45回　1,107人<br>・陶磁室エリアガイド　20回　385人<br>・庭園茶室ツアー　16回　372人<br>・お茶会　17回　772人<br>・彫刻ガイド　40回　1,186人<br>・英語ガイド　23回　368人<br>・こどもたちのアートスタジオ　5回　79人<br>・ガイドツアーたてもの散歩　53回　1,519人<br>・ガイドツアー<br>「東博お花見ガイド」(平成21年3月24日～4月18日の火・木・土と3月29日<br>計13日間　各日2回×1～4グループ実施)<br>実施回数と人数　16回　1,467人(平成21年度分)<br>「表慶館アジアギャラリーガイド」<br>(21年11月12日(木)および11月15日～22年1月31日の水・金・日　計21日　各日1回実施)<br>実施回数と人数　21回　424人<br>「東博桜めぐり」(平成22年3月25日～4月15日の火・木・土<br>計10日間　各日2回×1～4グループ実施)<br>実施回数と人数　6回　525人（平成21年度分）<br>2)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る<br>【総合的学習の時間対応】<br>・スクールプログラム実施活動補助　(内容：就業体験)<br>ボランティア対応学校数　32校　生徒数　114人<br>【教育普及事業の補助】<br>・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」補助<br>(平成21年4月1日～平成22年3月31日)<br>・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「北斎の冨士を作ろう」補助<br>(平成21年7月28日～9月6日)<br>・小中学生向けワークショップ補助(5回)<br>・一般向けワークショップ補助(2回)<br>・「制作工程模型展示　仏頭ができるまで」鑑賞補助<br>(平成21年3月31日～7月26日)<br>・「制作工程模型展示　押出仏ができるまで」鑑賞補助<br>(平成21年7月28日～10月4日)<br>・「制作工程模型展示　盧遮那仏のひみつ」鑑賞補助<br>(平成21年10月6日～平成22年1月11日)<br>・「制作工程模型展示　国宝・孔雀明王像ができるまで」鑑賞補助<br>(平成22年1月13日～4月18日)<br>・列品解説、各種講演会の実施補助(通年)<br>・教育普及事業の告知補助(「本日の博物館」シール貼替え・通年)<br><br>3)その他<br>【館内案内】<br>・本館（1階エントランス、2階、17室、20室みどりのライオン紹介コーナー　通年実施)<br>・「博物館でお花見を」期間の庭園開放中、庭園内のお客様案内<br>平成21年度　平成22年3月25日～3月31日<br>【資料印刷・作成】<br>・配布パンフレット「日本美術の流れ」／日本語　55,678部 |

| 種別　(登録人数) | 概　　要 |
| --- | --- |
| | ・法隆寺宝物館出品目録印刷<br>・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷<br>【各種連携事業】<br>・「国際博物館の日」(5月17・19日)内プログラム　本館ハイライトツアー，ガイドツアーたてもの散歩の実施<br>・「留学生の日」(10月3日)内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会，英語ガイドの実施，館内案内<br>【障害者対応】<br>・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版　配布<br>・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアーの試行(平成21年9月より毎月1回実施)<br>・社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内の点字グループメンバーと、視覚障害者への博物館サービスのヒアリング実施<br>【研修の実施】<br>「車椅子」(6月9日)<br>ガイドツアー「東博桜めぐり」、「表慶館アジアギャラリーガイド」<br>【解説会の実施】(以下の展示等につき実施)<br>・特別展「国宝　阿修羅展」<br>・特別展「伊勢神宮と神々の美術」<br>・特別展「染付- 藍が彩るアジアの器」<br>・ミュージアムシアター「故宮　紫禁城　天子の宮殿」<br>・特別展「皇室の名宝－日本美の華」<br>【博物館実施イベント事業の補助】<br>博物館実施のイベントに際し、チラシなどの配布物の準備・入場受付・お客様の誘導および会場整理などの補助<br>・関孝弘　ピアノコンサート<br>・納涼東博寄席<br>・鷲見恵理子　ヴァイオリンコンサート<br>・日興ロスチャイルド　バックヤードツアー<br>・藤原真理チェロコンサート<br>・ジェラールプーレヴァイオリンコンサート<br>・応挙館で美術体験<br>【その他】<br>多言語案内告知バッジによる外国人来館者の案内・誘導 |
| 東京芸術大学学生ボランティア(8名) | 【ギャラリートーク班】7名<br>各自テーマに基づき7名が5回ずつ(前・後期10回)実施<br>＜前期テーマ＞　8～9月　計34回　956名参加<br>・「聖母像(親指のマリア)―日本とキリスト教美術―」<br>浦澤倫太郎 平成21年8月7・9・12・15・20日　参加人数名152名<br>・「伎楽面－消えた楽舞を伝える仮面」<br>遠藤亮平　平成21年8月6・11・23・28日　参加人数118名<br>・「江戸時代の「世界」の受容－地図に表れた関心」<br>菅野仁美　平成21年8月26・30日、9月2・8・16日　参加人数110名<br>・「岸田劉生の描いた麗子像－画家が描いた自身の家族」<br>金智英　　平成21年9月11・15・18・23・25日　参加人数128名<br>・「青磁茶碗　銘馬蝗絆－粉青色という誘惑」<br>原唯　　平成21年8月10・13・22・27日、9月3日　参加人数166名<br>・「扇散蒔絵手箱－手箱に煌めく扇画面」<br>藤本敦美　平成21年8月5・19・21日、9月4・9日　参加人数111名<br>・「雪舟筆『四季山水図』－周文風から浙派風」<br>和田千春　平成21年9月17・19・20・26・27日　参加人数171名<br>＜後期テーマ＞　12～2月　計34回　1,485名参加<br>・「洛中洛外図屏風(舟木本)－かがやくみやこ－」<br>浦澤倫太郎 平成22年2月7・13・14・20・21日　参加人数名447名<br>・「前田青邨「切支丹と仏徒」－日本画と南蛮趣味－」<br>遠藤亮平　平成21年12月1・3・8・10日　参加人数154名<br>・「円山応挙「梅図襖」－襖に樹木を描いて－」<br>菅野仁美　平成21年12月22・25日、平成22年1月5・8・9日　参加人数238名<br>・「安田靫彦「御夢」－歴史を描く作家－」<br>金智英　　平成22年1月19・21・26・28・29日　参加人数163名 |

| 種別　(登録人数) | 概　　要 |
|---|---|
| | ・「室町に花咲く文学意匠硯箱－一合に込められた世界－」<br>原唯　　平成21年12月15・18・23日、平成22年1月10・13日　参加人数157名<br>・「紫式部日記絵巻－霞たなびく料紙装飾－」<br>藤本敦美　平成22年1月6・13・15・22日　参加人数155人<br>・「吉祥－縁起を担ぐ－」<br>和田千春　平成22年1月17・23・24・27・30・31日　参加人数171人<br>【制作工程模型班】1名<br>・「0.15ミリの超絶技巧」<br>京都絵美　平成22年2月3・12・28日、3月2・11・21日　　参加人数195人 |

## 【京都国立博物館】

・京都橘大学学生によるアンケートボランティア(10月20日～30日、11月6日～13日迄の火・水・金曜日)(18人)
・調査・研究支援ボランティア(10人)
・文化財ソムリエ(7人)

| 種　別　(登録人数) | 概　　要 |
|---|---|
| 京都橘大学学生によるアンケートボランティア<br>(18人) | 京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10月20日から30日、11月6日から13日までの毎火・水・金曜日の10時00分から16時00分まで、特別展示間出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。終了後に結果の集計・分析を行った。 |
| 調査・研究支援ボランティア<br>(10人) | 当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援 |
| 文化財ソムリエ(7人) | 蜂ヶ岡中学校での訪問授業(11月2日)において、補助講師として画材見本等の解説を担当。 |

## 【奈良国立博物館】

| 種　別　(登録人数) | 概　　要 |
|---|---|
| 解説ボランティア　(87人) | ・展示会場での作品解説(平常展のみ)　延べ305日<br>・学校団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ)<br>37件、1,790人<br>・その他団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ)<br>47件、1,052人<br>・講堂での作品解説(正倉院展のみ)　112回(１日4～7回)<br>・公開講座、サンデートーク等の支援　31回<br>・世界遺産学習の対応　30件、2,205人 |
| イベントボランティア(11人) | |

奈良博の解説ボランティア総数　87名(12月末現在)　ただし、21年度内に3名の辞退者あり

## 【九州国立博物館】

| 種　別　(登録人数) | 概　　要 |
|---|---|
| 展示解説ボランティア<br>(68人) | 文化交流展示室での案内、及び？ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。<br>展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。 |
| 教育普及ボランティア<br>(62人) | 「あじっぱ」で来館者への対応。<br>参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。<br>来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。 |
| 館内案内ボランティア<br>(34人) | 館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。<br>館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。<br>バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。 |
| 外国語通訳ボランティア<br>(71人) | 英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び<br>文化交流展示室での展示物解説を行う。 |
| 環境ボランティア<br>(32人) | ＩＰＭ(総合的有害生物管理)活動に関する支援。 |
| イベントボランティア<br>(11人) | お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。 |
| 資料整理ボランティア<br>(19人) | 郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。<br>あじぎゃでの企画展示。 |
| サポートボランティア<br>(29人) | ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。<br>ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。 |
| 学生ボランティア<br>(19人) | 他部会のボランティアの活動のサポート。<br>各種イベントの企画・立案・実施。 |

・この他、地域の手話ボランティアグループ32名が障がい者対応として活動。
(研修)全体研修５回、部会別・グループ研修189回

（対応来館者数）展示解説（5,305人）、館内案内（6,193人）、バックヤードツアー（3,605人）
※ただし、予約団体のみで、当日受付対応は含まず。

**【奈良文化財研究所】**

| 種　別　（登録人数） | 概　　要 |
|---|---|
| 解説ボランティア<br>（128人） | 平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説 |

・各種ボランティアに対する学習会等

| | |
|---|---|
| 専門研修 | 14日間／年 |
| 平城宮跡クリーンフェスティバル | 1日間／年 |
| 『続日本紀』読書会 | 1日間／月 |
| 清掃活動 | 11日間／年 |

## c ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数

| 博物館計 | 東京国立博物館 | 京都国立博物館 | 奈良国立博物館 | 九州国立博物館 |
|---|---|---|---|---|
| 16,625,712件 | 5,687,673件 | 848,486件 | 2,630,035件 | 7,459,518件 |
| 文化財研究所計 | 東京文化財研究所 | | 奈良文化財研究所 | |
| 2,448,108件 | 1,417,203件 | | 1,030,905件 | |

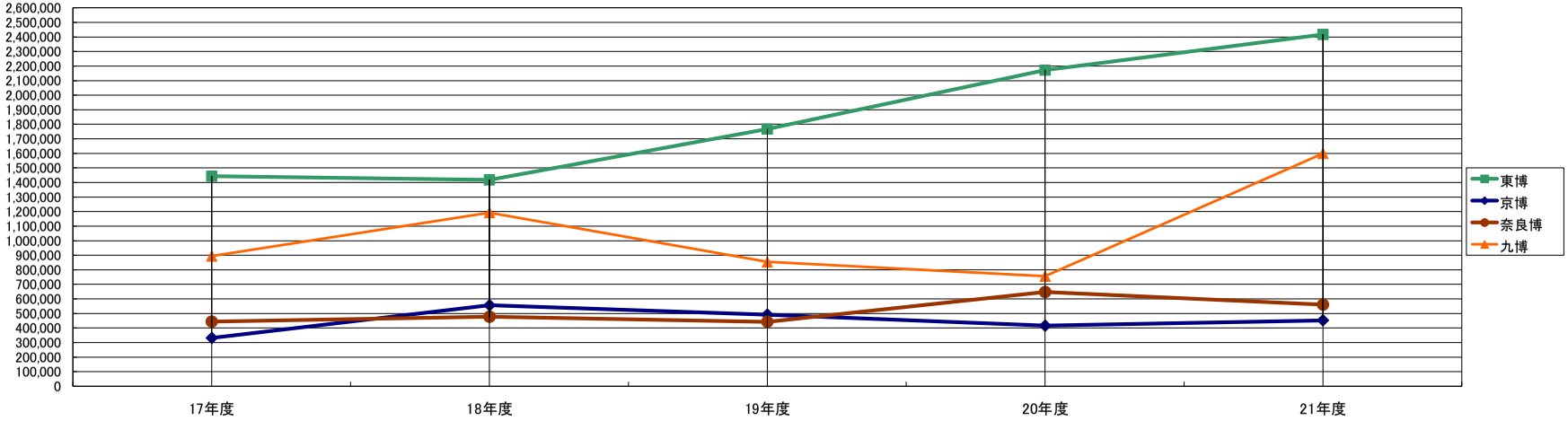
## d 展示

### d-① 入館者数

| 年度 | | | | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国立文化財機構 | 総入館者数 | | | 3,115,134 | 3,645,023 | 3,764,567 | 4,193,381 | 5,156,358 |
| | 平常展 | 計 | | 820,033 | 1,147,804 | 1,095,925 | 1,041,212 | 1,080,509 |
| | | 有料 | 一般 | 421,836 | 634,662 | 506,568 | 461,649 | 320,974 |
| | | | 大学生 | 73,556 | 102,470 | 99,428 | 90,861 | 33,061 |
| | | | 高校生 | | | | | — |
| | | | 小・中生 | — | — | — | — | 73,872 |
| | | | 友の会 | 60,524 | 68,557 | 70,641 | 78,718 | 49,813 |
| | | 無料 | 一般 | — | — | 106,078 | 116,058 | 163,663 |
| | | | 高校生 | 11,234 | 13,828 | 15,270 | 16,192 | 439,126 |
| | | | 小・中生 | 114,371 | 189,496 | 175,712 | 134,489 | |
| | | 招待者等 | | 138,512 | 138,791 | 122,228 | 143,245 | |
| | 特別展 | 計 | | 2,295,101 | 2,497,219 | 2,668,642 | 3,152,169 | 4,075,849 |
| | | 有料 | 一般 | 1,450,830 | 1,674,220 | 1,769,987 | 2,003,625 | 2,885,476 |
| | | | 高・大生 | 110,305 | 124,212 | 131,777 | 116,329 | 156,452 |
| | | | 小・中生 | 52,863 | 55,681 | 27,172 | 60,359 | 69,774 |
| | | | 友の会 | 72,202 | 91,580 | 86,194 | 51,276 | 53,074 |
| | | 無料 | 小・中生 | 24,944 | 21,681 | 65,033 | 52,769 | 56,155 |
| | | 招待者等 | | 583,957 | 529,845 | 588,479 | 867,811 | 854,918 |
| 東京国立博物館 | 総入館者数 | | | 1,443,719 | 1,417,195 | 1,768,198 | 2,171,942 | 2,416,281 |
| | 平常展 | 計 | | 340,989 | 361,773 | 334,297 | 412,675 | 330,536 |
| | | 有料 | 一般 | 158,662 | 179,924 | 165,190 | 210,423 | 162,674 |
| | | | 大学生 | 34,908 | 32,734 | 28,514 | 27,225 | 20,437 |
| | | | 小・中・高生 | — | — | — | — | — |
| | | | 友の会 | 49,451 | 55,649 | 52,862 | 65,232 | 64,816 |
| | | 無料 | 高校生 | 11,234 | 13,828 | 15,270 | 16,192 | 13,499 |
| | | | 小・中生 | 31,844 | 31,540 | 26,471 | 35,261 | 25,890 |
| | | 招待者等 | | 54,890 | 48,098 | 45,990 | 58,342 | 43,220 |
| | 特別展 | 計 | | 1,102,730 | 1,055,422 | 1,433,901 | 1,759,267 | 2,085,745 |
| | | 有料 | 一般 | 634,606 | 685,137 | 946,113 | 1,162,200 | 1,505,088 |
| | | | 高・大生 | 56,744 | 59,466 | 80,862 | 64,854 | 78,355 |
| | | | 小・中生 | 314 | 3,177 | — | — | — |
| | | | 友の会 | 50,598 | 60,958 | 52,662 | 12,988 | 16,680 |
| | | 無料 | 小・中生 | 24,944 | 19,729 | 50,499 | 38,903 | 42,065 |
| | | 招待者等 | | 335,524 | 226,955 | 303,765 | 480,322 | 443,557 |
| 京都国立博物館 | 総入館者数 | | | 331,605 | 556,770 | 492,414 | 416,001 | 452,920 |
| | 平常展 | 計 | | 153,174 | 146,752 | 165,080 | 141,965 | — |
| | | 有料 | 一般 | 62,974 | 57,283 | 67,586 | 54,043 | — |
| | | | 高・大生 | 16,628 | 15,821 | 21,182 | 17,631 | — |
| | | | 小・中生 | — | — | — | — | — |
| | | | 友の会 | 4,814 | 4,460 | 5,968 | 3,915 | — |
| | | 無料 | 小・中生 | 13,635 | 21,988 | 15,325 | 13,674 | — |
| | | 招待者等 | | 55,123 | 47,200 | 55,019 | 52,702 | 452,920 |
| | 特別展 | 計 | | 178,431 | 410,018 | 327,334 | 274,036 | 276,754 |
| | | 有料 | 一般 | 102,393 | 249,037 | 197,198 | 157,900 | 28,127 |
| | | | 高・大生 | 13,656 | 26,903 | 17,763 | 16,264 | 7,297 |
| | | | 小・中生 | 3,676 | 6,749 | 4,279 | 2,858 | 11,529 |
| | | | 友の会 | 7,476 | 15,133 | 12,092 | 11,348 | 1,103 |
| | | 無料 | 小・中生 | — | 1,952 | — | — | 128,110 |
| | | 招待者等 | | 51,230 | 110,244 | 96,002 | 85,666 | 560,293 |
| 奈良国立博物館 | 総入館者数 | | | 444,712 | 477,638 | 442,914 | 647,854 | 136,672 |
| | 平常展 | 計 | | 113,983 | 137,739 | 131,336 | 112,849 | 53,033 |
| | | 有料 | 一般 | 45,569 | 59,868 | 58,914 | 47,099 | 5,391 |
| | | | 高・大生 | 9,452 | 10,569 | 9,919 | 7,777 | — |
| | | | 小・中生 | — | — | — | — | 3,168 |
| | | | 友の会 | 3,056 | 4,888 | 4,188 | 2,708 | 38,825 |
| | | 無料 | 小・中生 | 36,134 | 39,852 | 48,069 | 35,209 | 36,255 |
| | | 招待者等 | | 19,772 | 22,562 | 10,246 | 20,056 | 423,621 |
| | 特別展 | 計 | | 330,729 | 339,899 | 311,578 | 535,005 | 315,128 |
| | | 有料 | 一般 | 172,986 | 264,119 | 235,865 | 370,001 | 15,411 |
| | | | 高・大生 | 16,467 | 13,786 | 13,430 | 19,907 | 13,824 |
| | | | 小・中生 | 11,172 | 19,682 | 6,463 | 12,393 | 11,131 |
| | | | 友の会 | 10,545 | 8,423 | 9,790 | 14,544 | 68,127 |
| | | 招待者等 | | 119,559 | 33,889 | 46,030 | 118,160 | 1,599,704 |
| 九州国立博物館 | 総入館者数 | | | 895,098 | 1,193,420 | 854,138 | 756,918 | 544,661 |
| | 平常展 | 計 | | 211,887 | 501,540 | 341,282 | 241,423 | 98,600 |
| | | 有料 | 一般 | 154,631 | 337,587 | 207,350 | 142,538 | 6,737 |
| | | | 高・大生 | 12,568 | 43,346 | 37,835 | 36,858 | — |
| | | | 小・中生 | — | — | — | — | 5,888 |
| | | | 友の会 | 3,203 | 3,560 | 7,623 | 6,863 | 27,907 |
| | | 無料 | 小・中生 | 32,758 | 96,116 | 81,707 | 47,402 | 52,658 |
| | | 招待者等 | | 8,727 | 20,931 | 6,767 | 7,762 | 352,871 |
| | 特別展 | 計 | | 683,211 | 691,880 | 512,856 | 515,495 | 1,055,043 |
| | | 有料 | 一般 | 540,845 | 475,927 | 356,430 | 285,004 | 757,650 |
| | | | 高・大生 | 23,438 | 24,057 | 16,981 | 12,103 | 32,892 |
| | | | 小・中生 | 37,701 | 26,073 | 16,430 | 45,108 | 48,653 |
| | | | 友の会 | 3,583 | 7,066 | 11,650 | 12,396 | 13,734 |
| | | 招待者等 | | 77,644 | 158,757 | 111,365 | 160,884 | 202,114 |
| 黒田記念館 | 総入館者数 | | | | | 13,707 | 19,038 | 20,345 |
| | 平常展 | 計 | | | | 13,707 | 19,038 | 20,345 |
| | | 無料 | 一般 | | | 13,707 | 19,038 | 20,345 |
| 平城宮跡資料館 | 総入館者数 | | | | | 85,486 | 92,597 | 25,127 |
| | 平常展 | 計 | | | | 85,486 | 92,597 | 25,127 |
| | | 無料 | 一般 | | | 85,486 | 92,597 | 25,127 |
| 藤原宮跡資料室 | 総入館者数 | | | | | 6,885 | 4,423 | 4,341 |
| | 平常展 | 計 | | | | 6,885 | 4,423 | 4,341 |
| | | 無料 | 一般 | | | 6,885 | 4,423 | 4,341 |
| 飛鳥資料館 | 総入館者数 | | | | | 100,825 | 84,608 | 77,347 |
| | 平常展 | 計 | | | | 17,852 | 16,242 | 18,827 |
| | | 有料 | 一般 | | | 7,528 | 7,546 | 6,667 |
| | | | 高・大生 | | | 1,978 | 1,370 | 496 |
| | | 無料 | 小・中生 | | | 4,140 | 2,943 | 4,884 |
| | | 招待者等 | | | | 4,206 | 4,383 | 6,780 |
| | 特別展 | 計 | | | | 82,973 | 68,366 | 58,520 |
| | | 有料 | 一般 | | | 34,381 | 28,520 | 30,856 |
| | | | 高・大生 | | | 2,741 | 3,201 | 1,667 |
| | | 無料 | 小・中生 | | | 14,534 | 13,866 | 12,987 |
| | | 招待者等 | | | | 31,317 | 22,779 | 13,010 |

※21年度より、機構内全施設にて高校生以下平常展無料となった
※東京国立博物館パスポートによる特別展入場者数は、19年度まで友の会に含み、20年度より有料に含む

# d-② 入館者数（過去5ヵ年） 独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（17～21年度）

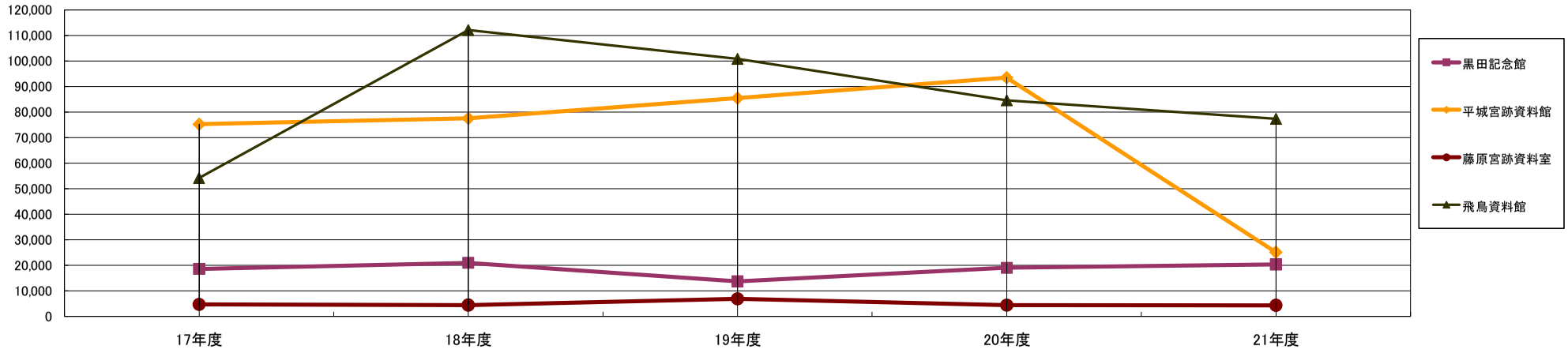



※1 これらの特別展は、平常展料金のため、平常展のみの入館者に計上。

※2これらの共催展は、共通観覧のため、人数が重複される。

| | 17年度（国立博物館） | | 18年度（国立博物館） | | 19年度（国立文化財機構） | | 20年度（国立文化財機構） | | 21年度（国立文化財機構） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | 総　合　計 | 3,115,134 | 総　合　計 | 3,645,023 | 総　合　計 | 3,764,567 | 総　合　計 | 4,193,381 | 総　合　計 | 5,156,358 |
| | 平常展のみの入館者 | 820,033 | 平常展のみの入館者 | 1,147,804 | 平常展のみの入館者 | 1,095,925 | 平常展のみの入館者 | 1,041,212 | 平常展のみの入館者 | 1,080,509 |
| | 特別（共催）展計 | 2,295,101 | 特別（共催）展計 | 2,497,219 | 特別（共催）展計 | 2,668,642 | 特別（共催）展計 | 3,152,169 | 特別（共催）展計 | 4,075,849 |
| 東博 | 総　計 | 1,443,719 | 総　計 | 1,417,195 | 総　計 | 1,768,198 | 総　計 | 2,171,942 | 総　計 | 2,416,281 |
| | 平常展のみの入館者 | 340,989 | 平常展のみの入館者 | 361,773 | 平常展のみの入館者 | 334,297 | 平常展のみの入館者 | 412,675 | 平常展のみの入館者 | 330,536 |
| | 特別（共催）展計 | 1,102,730 | 特別（共催）展計 | 1,055,422 | 特別（共催）展計 | 1,433,901 | 特別（共催）展計 | 1,759,267 | 特別（共催）展計 | 2,085,745 |
| | | | | | | | | | | |
| | 特別公開　中宮寺　国宝・菩薩半跏像 | 36,835 | 特別展「最澄と天台の国宝」 | 197,859 | 特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」 | 689,775 | 特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」 | 742,910 | 特別展「STORY OF･･･」 | 115,568 |
| | 特別展「世界遺産　博物館島ベルリンの至宝展」 | 337,475 | 特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」 | 317,712 | 特別展「京都五山　禅の文化」展 | 108,917 | 特別展「フランスが夢見た日本」 | 58,342 | 特別展「国宝　阿修羅展」 | 933,895 |
| | 特別展　「模写・模造と日本の美術」 | 1(104786) | 特別展「仏像　一木にこめられた祈り」 | 335,489 | 特別展「大徳川展」 | 425,492 | 特別展「対決－巨匠たちの日本美術」 | 326,784 | 特別展「染付－藍が彩るアジアの器」 | 52,731 |
| | 特別展　「遣唐使と唐の美術」 | 99,812 | 特別展「悠久の美　中国国家博物館名品展」 | 98,133 | 特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」 | 157,718 | 特別展「スリランカ-輝く島の美に出会う-」 | 80,865 | 特別展「伊勢神宮と神々の美術」 | 114,796 |
| | 特別展「華麗なる伊万里・雅の京焼」 | 95,090 | 特別展「マーオリ　楽園の神々」 | ※1(72,720) | 特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」 | 51,999 | 特別展「大琳派展－継承と変奏－」 | 308,213 | 特別展「皇室の名宝―日本美の華」 | 447,944 |
| | 特別展「北斎展」 | 332,939 | 特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」 | 106,229 | | | 特別展「未来をひらく福澤諭吉」展 | 73,128 | 特別展「国宝　土偶展」 | 128,285 |
| | 特別展「書の至宝」 | 185,334 | | | | | 特別展「妙心寺」 | 151,833 | 特別展「長谷川等伯展」 | 292,526 |
| | 特別公開「国宝・天寿国繍帳と聖徳太子」 | ※1(4,414) | | | | | 特別展「STORY OF･･･」 | 4,915 | | |
| | 特別展「最澄と天台の国宝展」 | 15,245 | | | | | 特別展「国宝　阿修羅展」 | 12,277 | | |
| 京博 | 総　計 | 331,605 | 総　計 | 556,770 | 総　計 | 492,414 | 総　計 | 416,001 | 総　計 | 452,920 |
| | 平常展のみの入館者 | 153,174 | 平常展のみの入館者 | 146,752 | 平常展のみの入館者 | 165,080 | 平常展のみの入館者 | 141,965 | 平常展のみの入館者 | 0 |
| | 特別（共催）展計 | 178,431 | 特別（共催）展計 | 410,018 | 特別（共催）展計 | 327,334 | 特別（共催）展計 | 274,036 | 特別（共催）展計 | 452,920 |
| | | | | | | | | | | |
| | 特別展「曽我簫白展－無頼という愉悦－」 | 45,964 | 特別展「大絵巻展」 | 186,772 | 特別展「藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」 | 37,411 | 特別展「絵画の冒険者　暁斎 kyosai」 | 76,686 | 特別展「開山無相大師650 年遠諱記念 妙心寺」 | 92,144 |
| | 特別展「龍馬の翔けた時代」 | 49,830 | 特別展「開館記念110周年記念　美のかけはし」 | 59,280 | 特別展「狩野永徳」 | 230,656 | 特別展「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」 | 67,050 | 特別展「シルクロード 文字を辿って」 | 25,511 |
| | 特別展「最澄と天台の国宝展」 | 82,637 | 特別展「京焼―みやこの意匠と技―」 | 25,283 | 特別展「憧れのヨーロッパ陶磁」 | 59,267 | 特別展「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝」 | 116,363 | 特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」 | 88,187 |
| | | | 特別展「京都御所障壁画－御常御殿と御学問所－」 | 138,683 | | | 特別展「妙心寺」 | 13,937 | 特別展「THE ハプスブルク」 | 247,078 |
| 奈良博 | 総　計 | 444,712 | 総　計 | 477,638 | 総　計 | 442,914 | 総　計 | 647,854 | 総　計 | 560,293 |
| | 平常展のみの入館者 | 113,983 | 平常展のみの入館者 | 137,739 | 平常展のみの入館者 | 131,336 | 平常展のみの入館者 | 112,849 | 平常展のみの入館者 | 136,672 |
| | 特別（共催）展計 | 330,729 | 特別（共催）展計 | 339,899 | 特別（共催）展計 | 311,578 | 特別（共催）展計 | 535,005 | 特別（共催）展計 | 423,621 |
| | | | | | | | | | | |
| | 特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」 | 26,688 | 特別展「大勧進　重源」 | 41,813 | 特別展「神仏習合」 | 40,493 | 特別展「天馬 ―シルクロードを翔ける夢の馬－ | 31,910 | 特別展「国宝 鑑真和上展」 | 93,779 |
| | 特別展「古密教－日本密教の胎動」 | 32,250 | 特別展「北村昭斉―漆の技―」 | 14,571 | 特別展「美麗　院政期の絵画」 | 22,696 | 特別展「国宝　法隆寺金堂展」 | 132,919 | 特別展「聖地寧波」 | 30,548 |
| | 特別展「遣唐使と唐の美術」 | 21,196 | 特別展「第58回正倉院展」 | 283,515 | 特別展「第59回正倉院展」 | 248,389 | 特別展「西国三十 三所-観音霊場の祈りと美」 | 106,411 | 特別展「第61回正倉院展」 | 299,294 |
| | 特別展「第57回正倉院展」 | 234,391 | | | | | 特別展「第60回正倉院展」 | 263,765 | | |
| | 特別展「金沢文庫の名宝-鎌倉武家文化の精華-」 | 16,204 | | | | | | | | |
| | 特別展「公慶上人-江戸時代の大仏復興と奈良-」 | | | | | | | | | |
| 九博 | 総　計 | 895,098 | 総　計 | 1,193,420 | 総　計 | 854,138 | 総　計 | 756,918 | 総　計 | 1,599,704 |
| | 平常展のみの入館者 | 211,887 | 平常展のみの入館者 | 501,540 | 平常展のみの入館者 | 341,282 | 平常展のみの入館者 | 241,423 | 平常展のみの入館者 | 544,661 |
| | 特別（共催）展計 | 683,211 | 特別（共催）展計 | 691,880 | 特別（共催）展計 | 512,856 | 特別（共催）展計 | 515,495 | 特別（共催）展計 | 1,055,043 |
| | | | | | | | | | | |
| | 開館記念特別展「美の国 日本」 | 441,938 | 特別展「中国　美の十字路」 | 10,690 | 特別展「未来への贈りもの」 | 77,380 | 特別展「国宝 大絵巻展 」 | 115,740 | 特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」 | 140,917 |
| | 特別展「中国　美の十字路」 | 241,273 | 特別展「うるま　ちゅら島　琉球」 | 177,478 | 特別展「日本のやきもの 日選び抜かれた名宝120点」 | 50,986 | 特別展「島津の国宝と篤姫の時代」 | 152,420 | 特別展「国宝 阿修羅展」 | 711,154 |
| | | | 特別展「南の貝のものがたり」 | 63,560 | 特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」 | 197,697 | 特別展「国宝　天神さま」 | 174,698 | 特別展「古代九州の国宝」展 | 72,741 |
| | | | 特別展「発掘された日本列島2006－新発見考古速報展－」 | | 特別展「京都五山　禅の文化」展 | 171,336 | 特別展「工芸のいま　伝統と創造」 | 72,637 | 特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」 | 130,231 |
| | | | 特別展「海の神々－捧げられた宝物」 | 139,981 | 特別展「国宝 大絵巻展」 | 15,457 | | | | |
| | | | 特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」 | 300,171 | | | | | | |

# 独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（17～21年度）




| | 17年度（文化財研究所） | | 18年度（文化財研究所） | | 19年度（国立文化財機構） | | 20年度（国立文化財機構） | | 21年度（国立文化財機構） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計 | **総　合　計** | **152,731** | **総　合　計** | **215,120** | | | | | | |
| | **平常展のみの入館者** | **119,175** | **平常展のみの入館者** | **119,223** | | | | | | |
| | **特別（共催）展計** | **33,556** | **特別（共催）展計** | **95,897** | | | | | | |
| 黒田記念館 | 総　計 | 18,596 | 総　計 | 20,975 | 総　計 | 13,707 | 総　計 | 19,038 | 総　計 | 20,345 |
| | 平常展のみの入館者 | 18,596 | 平常展のみの入館者 | 20,975 | 平常展のみの入館者 | 13,707 | 平常展のみの入館者 | 19,038 | 平常展のみの入館者 | 20,345 |
| | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | |
| 平城宮跡資料館 | 総　計 | 75,267 | 総　計 | 77,560 | 総　計 | 85,486 | 総　計 | 92,597 | 総　計 | 25,127 |
| | 平常展のみの入館者 | 75,267 | 平常展のみの入館者 | 77,560 | 平常展のみの入館者 | 85,486 | 平常展のみの入館者 | 92,597 | 平常展のみの入館者 | 25,127 |
| | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | |
| 藤原宮跡資料室 | 総　計 | 4,707 | 総　計 | 4,457 | 総　計 | 6,885 | 総　計 | 4,423 | 総　計 | 4,341 |
| | 平常展のみの入館者 | 4,707 | 平常展のみの入館者 | 4,457 | 平常展のみの入館者 | 6,885 | 平常展のみの入館者 | 4,423 | 平常展のみの入館者 | 4,341 |
| | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | | 特別（共催）展計 | |
| 飛鳥資料館 | 総　計 | 54,161 | 総　計 | 112,128 | 総　計 | 100,825 | 総　計 | 84,608 | 総　計 | 77,347 |
| | 平常展のみの入館者 | 20,605 | 平常展のみの入館者 | 16,231 | 平常展のみの入館者 | 17,852 | 平常展のみの入館者 | 16,242 | 平常展のみの入館者 | 18,827 |
| | 特別（共催）展計 | 33,556 | 特別（共催）展計 | 95,897 | 特別（共催）展計 | 82,973 | 特別（共催）展計 | 68,366 | 特別（共催）展計 | 58,520 |
| | 特別展「飛鳥の奥津城」 | 17,512 | 特別展「キトラ古墳と発掘された壁画たち」 | 76,738 | 特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」 | 67,007 | 特別展「キトラ古墳壁画十二支ー子・丑・寅ー」 | 51,471 | 特別展「キトラ古墳壁画四神ー青龍・白虎ー」 | 41,242 |
| | 企画展「古墳を飾る」 | 3,214 | 特別展「飛鳥の金工」 | 12,029 | 企画展「「とき」を撮すー発掘調査と写真ー」 | 3,344 | 企画展「飛鳥　古寺巡礼」 | 3,658 | 企画展「甦るクメール文明」 | 3,824 |
| | 特別展「東アジアの古代苑池」 | 10,867 | 企画展「東アジアの十二支像」 | 3,816 | 特別展「奇偉荘厳　山田寺」 | 9,342 | 特別展「まぼろしの唐代精華」 | 11,695 | 特別展「三燕文化の考古新発見」 | 11,006 |
| | 特別展「うずもれた古文書」 | 1,963 | 企画展「発掘調査速報展」 | 3,314 | 速報展「飛鳥の考古学2007」 | 1,589 | 企画展「飛鳥の考古学2008」 | 1,542 | 企画展「飛鳥の考古学2009」 | 2,448 |
| | | | | | 企画展「絵で見る考古学ー早川和子原画展」 | 1,691 | | | | |

## d-③ 入場料収入

（単位：円）

| | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国立文化財機構 | 818,092,976 | 1,034,937,495 | 1,081,301,672 | 1,159,630,962 | 1,323,819,776 |
| 東京国立博物館 | 339,699,448 | 391,263,820 | 514,039,330 | 611,637,800 | 662,347,500 |
| 京都国立博物館 | 89,638,610 | 144,399,600 | 130,218,030 | 126,305,930 | 111,512,790 |
| 奈良国立博物館 | 195,659,750 | 246,395,770 | 228,339,500 | 265,576,036 | 267,397,290 |
| 九州国立博物館 | 193,095,168 | 252,878,305 | 182,000,762 | 134,177,251 | 262,889,871 |
| 飛鳥資料館 | | | 24,975,310 | 20,121,140 | 18,006,130 |
| 東京文化財研究所黒田作品共催展 | | | 1,728,740 | 1,812,805 | 1,666,195 |

## d-④ 平常展・特別展

## 【東京国立博物館】

### (1) 平常展

1)開館期間　4月1日～22年3月31日(313日間)　　平常展のみの開館日数　79日間
2)会　　場
　①本　館　1階、2階
　②東洋館　1階、2階、3階
　③表慶館　1階
　④法隆寺宝物館　1階、2階
　⑤平成館　1階
　⑥黒田記念館　2階

3)陳列品総件数　　6,601件(うち国宝79件、重要文化財670件)
　①本館・平成館企画展示室　3,714件(うち国宝52件、重要文化財339件)
　②東洋館　1,004件(うち国宝 1件、重要文化財 30件)
　③表慶館　253件(うち国宝 0件、重要文化財 6件)
　④法隆寺宝物館　451件(うち国宝15件、重要文化財222件)
　⑤平成館考古展示室　1,087件(うち国宝11件、重要文化財 71件)
　⑥黒田記念館　92件(うち国宝 0件、重要文化財 2件)

4)陳列替回数　延べ316回
5)入場料金　一般600円、大学生400円
6)特集陳列　全66件

①本館・平成館
●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

| 場所 | テーマ | 開催期間 | 陳列件数(国宝・重文) |
|---|---|---|---|
| 本館1階<br>18室 | 黒田清輝のフランス留学 | 21年3月3日(火)～4月12日(日) | 31(0.1) |
| | ＜主な作品＞◎智・感・情、自画像(トルコ帽)、編物、読書、婦人像(厨房) | | |
| | 平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う第3回目の特集陳列である。今回の特集陳列では、渡欧時代の作品を中心に、東京国立博物館に収蔵される黒田の代表的作品のほかに、特別に東京芸術大学所蔵の「婦人像(厨房)」などをあわせて展示し、師であるラファエル・コランの作品などとともに留学時代の黒田作品によって、黒田の近代洋画史に残る輝かしい業績をご覧いただく展示とした。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 蒔絵硯箱 | 21年3月17日(火)～5月31日(日) | 25(0.4) |
| | ＜主な作品＞◎初瀬山蒔絵硯箱、◎塩山蒔絵硯箱、◎蔦細道蒔絵文台硯箱 | | |
| | 現在まで伝わる中世の蒔絵の名品はほとんどが手箱か硯箱であり、蒔絵硯箱は身近な空間をかざった調度の代表格ということができる。この度の展示では、硯箱に見られる精細な蒔絵表現の他、硯箱の様々な形式や、絵の中に描かれた硯箱をご覧いただいた。硯箱を使う人の様子や蒔絵硯箱の多彩な姿から、人々が硯箱に込めてきた思いを感じとっていただく展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>日本の食文化 | 21年3月17日(火)～4月19日(日) | 39(0.0) |
| | ＜主な作品＞料理物語、精進料理素人庖丁 | | |
| | 日本の料理は，長い間の日本人の食生活の中で形成されてきた。室町時代ころの貴族や武士たちがおかずとした魚貝類の干物、塩蔵品などが洗練されて日本料理へと進化し、儀式の料理では、包丁のさばき方や盛りつけなど、流派ごとに秘伝がつくられた。また、茶の湯の発達にともなって懐石料理が生まれている。江戸時代に入ると、さまざまな料理書が出版され、調理技術や器具の普及などが、さらに日本料理の幅を拡げた。江戸時代中期ころから、各地に料理屋が出現し、料理を楽しむ風潮があらわれ、文化・文政期には料理書の出版が急増した。展示では、主に料理書をとおして、日本の食文化の歴史を紹介した。 | | |
| 平成館<br>考古展示室 | 古墳時代の人々 ー人物埴輪の表情と所作ー | 21年3月17日(火)～9月6日(日) | 39(0.0) |
| | ＜主な作品＞埴輪 太鼓を叩く男子、埴輪 挂甲の武人、埴輪 入れ墨のある男子頭部 | | |
| | 東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。ただし、一部が欠落しているものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、古墳時代の人々の姿にせまる展示とした。 | | |
| 本館1階<br>13室 | 根来塗ー朱漆の美ー | 21年3月24日(火)～6月7日(日) | 27(0.2) |
| | ＜主な作品＞◎朱漆折敷・撃子、◎朱漆三脚盤 | | |
| | 中世の寺院で日常に用いられた器や調度で、黒漆の上に朱漆を塗り重ねたものを根来塗と称する。永年の使用で中塗の黒漆が表面にあらわれて朱漆と調和し、巧まざる味わいをみせるものが多い。瓶子・高杯・折敷など様々な器種をとりあげ、時を経た朱漆塗の魅力に触れていただく展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別1・2室 | 酒呑童子 | 21年3月24日(火)～4月19日(日) | 22(0.0) |
| | ＜主な作品＞酒呑童子絵巻 巻上、酒伝童子絵巻(模本) 巻中、酒呑童子図、酒呑童子絵扇面 | | |
| | 平成19年度に新たに出品となった「酒呑童子絵扇面」の紹介を中心として、狩野派の「酒呑童子絵巻」の祖本となった室町時代末の狩野元信筆「酒呑童子絵巻(模本)」、桃山様式を示す当館所蔵の伝狩野孝信筆「酒呑童子絵巻」、現在原本の知られない江 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 戸時代初期の狩野探幽筆「酒呑童子絵巻(模本)」を加えて、場面比較を行いながら、室町時代から江戸時代初期にかけて流行した「酒呑童子絵巻」を特集紹介をした。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 能「国栖」の面・装束 | 21年3月31日(火)～5月24日(日) | 13(0.0) |
| | ＜主な作品＞舞衣 紅地丁字立涌牡丹模様、狩衣 紺地雲龍丸模様 | | |
| | 謡曲「国栖」をテーマに、謡曲に登場する人物がつける能面・能装束を組み合わせて、江戸時代の能面・能装束を展示した。実際の舞台を見るような立体感のあるわかりやすい展示をこころがけ、能面・能装束だけではなく、日本の伝統芸能である能そのものに来館者に関心を持っていただく機会とする展示とした。 | | |
| 本館1階<br>15室 | アイヌの狩猟と漁撈 | 21年3月31日(火)～6月28日(日) | 21(0.4) |
| | ＜主な作品＞アットゥシ、漁具模型、銛(キテ)、銛(マレク) | | |
| | アイヌの狩猟と漁撈をテーマとして展示した。狩猟や漁撈に際して使用された道具および様ざまな模型などを陳列する。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。 | | |
| 本館1階<br>特別5室 | 仏像の道－インドから日本へ | 4月7日(火)～11月3日(火) | 21(0.4) |
| | ＜主な作品＞如来坐像、◎如来三尊立像、◎如来坐像 | | |
| | 東洋館、本館、法隆寺宝物館に展示されていた仏像を一堂に会し、紀元2世紀のガンダーラから、中央アジア、中国、朝鮮半島をへて8世紀の奈良に至るまで、600年にわたる仏像の流れを概観した。仏像の誕生、中国への伝来、唐と奈良などのテーマを設け、それぞれの時代・地域で、どのような仏像が造られ、人々の信仰を集めていたかを紹介した。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>日本を歩く－甲信越－ | 4月21日(火)～6月7日(日) | 22(0.2) |
| | ＜主な作品＞慶長大判、◎甲州道中分間延絵図、甲陽軍艦、北越雪譜 | | |
| | 甲信越地方は山梨県・長野県・新潟県の3県の総称。互いに交流はあるものの域内に核となる行政・経済の中心があるわけではないが、国土区分上の一つの単位といえる。古代律令制下に設けられた甲斐国(甲州)・信濃国(信州)・越後国の3国がおおむね現在の域内と一致する。地形的には急峻な山岳の中に盆地が点在する甲信地方から沃野の広がる越後といった多様な地域ある。今回の展示には佐渡を加え、それぞれの国をめぐる陳列とした。 | | |
| 本館2階<br>特別1・2室 | 平成20年度新収品 | 5月19日(火)～6月14日(日) | 41(0.2) |
| | ＜主な作品＞◎般若菩薩像、◎十二神将立像 申神 | | |
| | 昨年度の新収品から41件を選び、陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく展示とした。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 能「兼平」の面と装束 | 5月26日(火)～7月20日(月) | 15(0.1) |
| | ＜主な作品＞能面 平太、厚板 浅葱淡茶段格子葡萄模様 | | |
| | 江戸時代の能面・能装束を中心に能の展示をした。今回は能「兼平」をテーマに、登場する旅僧、老人、今井兼平の霊を演ずる際に使用する面・装束の組み合わせであった。併せて、能狂言絵巻に描かれる能「兼平」を絵巻とパネルで紹介し、よりいっそう江戸時代の能へとイメージを膨らませていただく展示とした。 | | |
| 平成館<br>企画展示室 | 海外の日本美術品の修復 | 5月26日(火)～6月7日(日) | 7(0.0) |
| | ＜主な作品＞虫歌合絵巻、松に孔雀図屏風、住吉蒔絵文台 | | |
| | 東京文化財研究所が行ってきた海外所在の日本美術の保存修復事業を紹介した。1991年、文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所が共同で始めた在外日本古美術品保存修復事業は、当初アメリカ合衆国内の機関が所蔵する日本絵画の修復への協力として始まった。その後、範囲をヨーロッパ諸国へ拡大し、絵画だけでなく漆芸品や武器・武具なども対象に加えた。今回の展示では、2008年度に修復の完了した作品を展示した。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 密教工芸－神秘的な形－ | 6月2日(火)～8月23日(日) | 23(0.8) |
| | ＜主な作品＞◎金銅火焔宝珠形舎利容器、◎金銅三昧耶五鈷鈴、◎金銅五種鈴、◎金銅蓮華唐草文金剛盤 | | |
| | 空海・最澄らによってもたらされた密教では、独特な修法の道具が用いられた。それらの密教法具は、平安時代から鎌倉時代にかけて特にすぐれたものが多く作られた。その時代を中心として、金剛杵・金剛鈴・灌頂用具など密教工芸の神秘的な造形の世界を紹介する展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>年中行事 | 6月9日(火)～7月26日(日) | 21(0.0) |
| | ＜主な作品＞年中行事絵巻考、年中恒例御儀式 正月元日、五月人形 鎧・鍾馗・神武天皇・源頼義・加藤清正 | | |
| | 稲作社会を背景に成立した日本の年中行事は、時代や地域により移り変わってきた。もともと「延喜式」神祇部に見られるように宮中行事として行われていたが、江戸時代には一般に普及する。今回の特集では、「年中行事絵巻」に描かれた蹴鞠に関する資料や、五月人形等、遊びや季節にちなんだ年中行事に関係する作品を紹介した。 | | |
| 本館1階<br>19室 | 内国勧業博覧会の工芸 | 6月16日(火)～9月6日(日) | 15(0.1) |
| | ＜主な作品＞花卉木画額、鯉図額、◎褐釉蟹貼付台付鉢 | | |
| | 内国勧業博覧会は、明治10年(1877)から明治36年(1903)まで5回開催された。産業や技芸の発展に主眼が置かれ、事業として成り立つものや技術を極めたものを出品するよう求められたため、優れた技法によって制作された工芸品が数多く出品された。今回は、この内国勧業博覧会に出品された館蔵の工芸品を展示し、その優れた技をご覧いただく展示とした。 | | |
| 平成館<br>企画展示室 | 世界図と日本図 | 6月16日(火)～7月26日(日) | 4(0.1) |
| | ＜主な作品＞坤輿万国全図屏風、◎世界及日本地図屏風 | | |
| | 16世紀以降世界規模での交通が始まり、地理的な知見は地図として表されるようになった。日本においても西欧の影響を受けた世界図や日本図が導入され、装飾的な役割もあわせ持った図が多く作られた。この陳列では典型的な世界図や日本図の実例を紹 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 介し、当時の人々の世界観をうかがう展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別1室 | 戦う武士の世界 | 6月24日(水)～7月20日(月) | 22(0.1) |
| | ＜主な作品＞足利尊氏御判御教書、南蛮胴具足(二枚胴具足)、◎陣羽織 猩々緋羅紗地違鎌文、軍配 | | |
| | 中世から近世初頭にかけて活躍した著名な武士に関わる作品を陳列した。特に武士の本来の仕事である戦いに焦点を当て、来館者にとって戦う武士のイメージを連想できるような展示として、肖像画(模本)・甲冑・武家装束とともに、実際に武士が認めた書状・古文書を陳列し、当時の武士の実像にアプローチする展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別2室 | 武家の服飾 | 6月24日(水)～7月20日(月) | 20(0.2) |
| | ＜主な作品＞◎小袖 白茶地桐竹模様綾、◎胴服 浅葱白紫染分練緯地雪輪銀杏模様 | | |
| | 鎌倉幕府以降、武士が日本の政治の表舞台に立つこととなった。当初は公家の装束を正装として用いたが、次第に武士が日常に使用していた装束の威儀を正して正装として用いるようになり、武家独特の装束が行われるようになった。本展では、当館が所蔵する安土桃山時代から江戸時代にかけて武家で用いられた服飾の内、特に伝来の明らかなものを中心に展覧し、その特色を紹介する展示とした。 | | |
| 本館1階<br>15室 | 琉球の工芸 | 6月30日(火)～9月27日(日) | 47(0.0) |
| | ＜主な作品＞樹下人物螺鈿沈金食籠、黄木綿地菊牡丹雲尾長鳥模様紅型衣装、キンカブ、カラカラ、厨子甕 | | |
| | 第二尚氏時代を中心とした琉球の工芸作品を展示した。本特集陳列では様ざまな形態の厨子甕をまとめて展示した。これまでの琉球民俗資料陳列と同様、『琉球国奇観』等の写真パネルを多く用いて、作品の使い方等を具体的にイメージできるよう工夫した。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 狂言の面・装束 | 7月22日(水)～9月13日(日) | 13(0.0) |
| | ＜主な作品＞狂言面 猿、肩衣 黒麻地波兎牡丹唐草州浜笹模様 | | |
| | 狂言は、室町時代の庶民や下級武士などの生活の中におかしみを見出した、日本の古典喜劇である。狂言面は表情豊かな造形とユーモラスな顔立ちが特徴である。また、狂言の装束は草花や器物を大胆にデフォルメした染め模様が特徴となっている。詩劇である能とは異なる日本の古典喜劇の世界を、面と装束のデザインを通して鑑賞する機会とした。 | | |
| 本館1階<br>12室 | 二体の大日如来像と運慶様の彫刻 | 7月22日(水)～10月12日(月) | 7(0.5) |
| | ＜主な作品＞◎大日如来坐像(東京・真如苑)、◎大日如来坐像(栃木・光得寺) | | |
| | 運慶は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した仏師である。天平彫刻が残る奈良の地で活躍した仏師集団に所属し、古典を学んで写実的で運動感に富む新鮮な作風を創造した。運慶は奈良や京都といった旧来の需要層にとどまらず、鎌倉幕府という新しい勢力による造像も多く手がけた。頼朝の岳父北条時政が発願した静岡・願成就院の諸像などがそれで、近年発見された、運慶作品と考えられる光得寺と真如苑所蔵の二体の大日如来像も御家人の足利義兼発願である可能性がある。この陳列では二体の大日如来像を陳列するとともに、光得寺像の像内納入品に関する最新の研究成果を紹介した。また、関東などに残る運慶の作風にならった像、運慶の孫が造った像などを展示し、鎌倉時代における運慶の役割を示した展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>古写真－小川一真と近畿宝物調査－ | 7月28日(火)～8月16日(日) | 34(0.0) |
| | ＜主な作品＞彫刻写真帖／三等四等五等彫刻；天；京都府、彫刻写真帖／一等彫刻；地；奈良県、帝室技芸員履歴書、美術工芸写真帖／自一等至三等四等及六等；美術工芸；地；奈良県、写真帖／人民之部；乙 | | |
| | 16室・歴史資料の陳列ではこれまで文化財とその保存について、写真や古文書を用いて紹介してきた。テーマとしては「壬申検査」「臨時全国社寺宝物取調」「日本における写真術の伝播」「美術と写真」といったようなもので、写真がその草創期から記録手段であるとともに芸術表現であることを紹介した。今回の特集陳列では日本写真史における先駆的写真師「小川一真」の作品に焦点をあて、「臨時全国社寺宝物取調」に先立って実施された「近畿宝物調査」(明治17～21年)の写真をご覧いただいた。この撮影で小川は①乾板を使用②マグネシウムによるストロボ撮影③プラチナ・プリントに焼付け、といった当時最新の技術を駆使し、芸術写真といっても過言ではない文化財記録写真を残した。120年を経てなお色褪せない見事な写真の数々をご堪能していただく展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別2室 | 親と子のギャラリー<br>日本美術のつくり方 | 7月28日(火)～9月6日(日) | 12(0.0) |
| | ＜主な作品＞日本画の描き方－裏から色を塗る方法 ＜制作工程模型 仏画(裏彩色)一字金輪像＞、十六羅漢像(迦諾迦伐蹉尊者)、浮世絵版画のつくり方＜制作工程模型 浮世絵版画 冨嶽三十六景・神奈川沖浪裏＞ | | |
| | 小学校高学年以上の児童・生徒や一般の来館者を対象に、家族での来館のきっかけ、および、平常展鑑賞の一助となることを目的として、伝統的な日本美術の制作工程に焦点をあてた教育普及的展示を実施した。「どうやってつくったのか」を知ることは、作品理解の重要な手がかりとなる。伝統的な日本美術の制作工程や技術は、私たちの日常では目にする機会も少なく、作品を一見したところで想像すらつかないものが多い。そこで、当館が所蔵する技術見本に加え、近年東京藝術大学の協力を得て制作した工程見本、ならびに本展示にあわせて専門家に制作を依頼した工程見本を加え、作品ができるまでを、見てわかりやすく、読んで納得、触って実感できる展示で紹介した。さらに、それらの技術を駆使して作られた「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさに触れていただいた。 工程模型に対応する「ほんもの」の作品に関しては、一部、本館1、2階の展示室にて展示された。取り上げたジャンルは、浮世絵、仏画(裏彩色の技法を中心に)、仏像(一木彫)、刀の鍔(布目象嵌を中心に)、色絵磁器の5つ。また、材料に触る、簡単な作品をつくるなどのハンズオン・コーナーを展示室内および20室に設けた。 | | |
| 本館2階<br>特別1室 | 聖母像の「到来」 | 8月4日(木)～9月6日(日) | 68(0.44) |
| | ＜主な作品＞◎聖母像(親指のマリア)、椅子の聖母子・巌上の鵜、マリア像(模造) | | |
| | 聖母像は、絵画、ロザリオ、銅牌、メダイ、十字架などにみえている。「親指のマリア」をはじめ、聖母に見立てて崇敬された白磁の観音像や、踏絵等のキリシタン遺物として伝来した聖母像とともに、ドイツからもたらされた石膏のマリア像や、下村観山筆の聖母像を紹介した。 | | |
| 平成館 | 趙之謙とその時代 －趙之謙生誕180年記念展－ | 8月4日(火)～9月27日(日) | 26(0.0) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 企画展示室 | | | |
| | ＜主な作品＞楷書「小黄香箴」横披、楷書五言聯、行書七言古詩四屏 | | |
| | 清時代中期、青銅器や石碑などの中国古代文字の書を学んだ碑学派とよばれる人々が一躍脚光を浴びた。中でも趙之謙は北魏時代の書に触発されて、「北魏書」という独自の表現を確立し、碑学派の中心的な役割を果たしたことで知られる。東京国立博物館と台東区立書道博物館との共同企画7回目となった本展は、今なお多くの人々を魅了する趙之謙の書・画・篆刻に焦点をあてながら、清時代の書の後半を飾る碑学派の歴史を窺おうとする展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>世界と日本 | 8月18日(火)～10月12日(月) | 23(0.1) |
| | ＜主な作品＞徳川幕府朝鮮国王往復書翰、亜米利加渡来風刺武具の図、◎尊海渡海日記屏風 | | |
| | わが国は、古くから中国大陸、朝鮮半島など東アジアの国々と密接な関わりをもちながら発展してきたが、16世紀以降、ヨーロッパ人の来航によって西洋の知識がもたらされた。その後、外交上では、中国とオランダについて長崎を窓口とする管理貿易の体制が成立し、朝鮮国や琉球は、ともに使節が将軍に謁見する「通信」の国でもあった。こうした日本の外交政策は、政治・経済や文化などに大きな影響を与えたと考えられる。今回は、江戸時代を中心した国際交流に関する資料を紹介した。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 中国漆工 | 8月25日(火)～10月18日(日) | 24(0.1) |
| | ＜主な作品＞◎龍涛螺鈿稜花盆、黒漆輪花盆、犀皮盆、堆朱蓮形盆、牡丹唐草鎗金箱、花鳥漆絵盆 | | |
| | 中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鎗金といった技法があり、これによって花鳥・楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。その中国漆工の多様な様相を展示した。 | | |
| 本館1階<br>19室 | 帝室技芸員 | 9月8日(火)～12月6日(日) | 17(0.2) |
| | ＜主な作品＞◎黄釉錆絵梅樹文大瓶、漆絵画帖、源氏香短冊散蒔絵料紙硯箱、◎鷲置物、白磁葡萄唐草浮文壺 | | |
| | 帝室技芸員は、皇室による美術工芸作家の保護と制作の奨励を目的として明治23年(1890)に設けられた顕彰制度である。帝室技芸員には帝国博物館長の諮問に応じることが義務づけられていたこともあり、当館には多くの帝室技芸員の作品が収蔵されている。今回はその中から陶磁、金工、漆工の各分野の作品を選んで展示した。 | | |
| 平成館<br>考古展示室 | 飛鳥時代の古墳　－大阪府塚廻古墳と古代東アジア文化－ | 9月8日(火)～11月29日(日) | 29(0.1) |
| | ＜主な作品＞金糸残片、金象嵌鉄刀残片、漆塗籠棺残片、緑釉棺台残片、ガラス管玉、陶棺、須恵器 脚付長頸壺 | | |
| | 今年度寄贈となった大阪府塚廻古墳出土品を公開し、副葬品や横口式石槨にみられる寺院建築・荘厳装飾などの影響を紹介した。また、畿内地方終末期古墳の東アジア的要素と当該期の地方古墳の副葬品や陶棺装飾などとの比較を通して、7世紀の葬送儀礼にみられる畿内地方特定層の墳墓における先進性を示す展示とした。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 能面・能装束に見る能の表現　－女性の風姿－ | 9月15日(火)～11月8日(日) | 17(0.1) |
| | ＜主な作品＞唐織 紅緑段御簾色紙短冊萩模様、舞衣 紫地紫陽花雲模様 | | |
| | 能面は無表情の形容詞のように言われるが、本来は舞台で使用されることによってさまざまな表情を生むように造形されている。今回は女性役を演じる際に用いられる主な様式の能面と、それに伴う能装束とを組み合わせ、能舞台における年齢や役柄の表現を見ていく展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別1・2室 | 中国書画精華 | 9月15日(火)～11月8日(日) | 43(13.14) |
| | ＜主な作品＞●十六羅漢図(第一尊者)、◎六祖截竹図、●雪景山水図、●紅白芙蓉図、●夏景山水図、◎李白吟行図、●出山釈迦図、●雪景山水図、◎猿図、◎竹鶏図、◎寒山拾得図、●瀟湘臥遊図巻、●法語(流れ圜悟) | | |
| | 鎌倉時代以降、宋元の書画が禅宗とともに数多く舶載されたが、それらは、書院や茶室において、日本人の趣味にもとづいて鑑賞され親しまれた。特に東山御物に代表される精品の中には、今日、日本のみに伝世しているものが少なくない。また、明治以降、中国本来の文人趣味を理想とするすぐれた賞鑑家により、中国伝世の歴代の書画の精品も少なからず収集された。今年も中国書画の名品を集めて中国書画精華展を開催した。 | | |
| 本館1階<br>15室 | アイヌの祈り | 9月29日(火)～21年1月3日(日) | 49(0.0) |
| | ＜主な作品＞祭具、首飾、イナウ、アイヌ鍬形、盆、五弦琴 | | |
| | 「アイヌの祈り」をテーマとして展示した。アイヌの人びとが祈りの場で使用した祭具や衣服、装身具などとともに、熊送りに関する作品を多く陳列した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>皇室と東京帝室博物館 | 10月14日(水)～12月6日(日) | 15(0.0) |
| | ＜主な作品＞神鹿、赤坂離宮下絵 花鳥図画帖、明治宮殿杉戸絵 石山秋月 | | |
| | 東京国立博物館は歴史的に皇室との関わりが深い。明治19年(1886)、博物館は農商務省から宮内省に移管され、明治33年(1900)から昭和22年(1947)まで「東京帝室博物館」を名乗っていた。正倉院宝物等御物の管理や、宮内省の行った臨時全国宝物取調、帝室技芸員制度等は、博物館が中心となって進め、関連資料が当館に受け継がれている。これら皇室に由来する作品を紹介した。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 呉州赤絵 | 10月20日(火)～12月20日(日) | 23(0.0) |
| | ＜主な作品＞五彩牡丹蓮文壺、五彩獅子図大皿、五彩コーラン聖詞大皿、瑠璃釉白花花文大皿 | | |
| | 呉州赤絵は明時代後期の16世紀末から17世紀前半にかけて福建省南部の漳州近辺の窯で生産された輸出向けの量産品であり、鮮烈な色彩と生気あふれる筆づかいが喜ばれた。館蔵品・寄託品の呉州赤絵に加えて、同時に生産された青花や餅花手を展示し、変化に富んだ作風を紹介した。あわせて、茶の湯で賞翫された呉州赤絵や京都で作られた呉州赤絵の写しを展示し、日本文化に及ぼした影響を検証する展示とした。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 能「紅葉狩」の面と装束 | 11月10日(火)～22年1月11日(月) | 10(0.0) |
| | ＜主な作品＞唐織 緑紅茶段青海波花熨斗扇夕顔模様、厚板 紅緑段雲矢襖鱗模様 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 江戸時代の能面・能装束を中心に能の展示をした。今回は能「紅葉狩」をテーマに、登場する前シテの美女、後シテの鬼女、ワキ方の武将・平維茂を演ずる際に使用する面・装束の組み合わせを展示した。併せて、能狂言絵巻に描かれる能「紅葉狩」を絵巻とパネルで紹介し、よりいっそう江戸時代の能へとイメージを膨らませていただく展示とした。 | | |
| 本館2階<br>特別2室 | 東京国立博物館所蔵の正倉院織物 | 11月10日(火)～12月6日(日) | 40(0.0) |
| | ＜主な作品＞樹皮色織成、模織 樹皮色織成、長斑花唐草文錦襪、淡縹地大唐花文錦、長斑獅噛文錦 | | |
| | 東京国立博物館には、正倉院の染織品が収蔵されている。これらは、明治9年(1876)12月16日、内務卿大久保利通が太政大臣三条実美に上申し、正倉院の染織品のなかから、往古の織物文様の考証に参考となるものを手鑑にして博物館等へ配布したものである。現状は手鑑ではなくガラス挟みとなる。これらは現在、当館と京都国立博物館に収蔵されており、奈良国立博物館へ配布されたものは後日、正倉院へ返納されている。内容的にみて、織物、染物、刺繍といったさまざまな染織品が含まれており、いずれも残欠になっているものが多いとはいえ、なかには、服飾品の「襪」や聖武天皇一周忌に用いられた道場幡の幡足下方に飾られた錦の垂端飾りや天蓋の垂飾に用いられたものなど、形状がわかる作品もあり、非常に貴重である。今回は、これらの染織品のうち織物を中心に、現品とそれらの文様を大正から昭和の初めにかけて模造した作品や模写図などを対比させながら奈良時代の織物の数々を展示した。 | | |
| 平成館<br>考古展示室 | 茨城の弥生再葬墓 | 12月1日(火)～22年3月14日(日) | 33(0.0) |
| | ＜主な作品＞人面付壺形土器、管玉、土偶 | | |
| | 今回の特集陳列は、考古相互貸借事業にともなって東日本における弥生時代前半期の代表的な墓制である再葬墓について展示を行った。再葬墓とは遺体を一度埋葬して白骨化させ、その骨を再び土器にいれて埋葬する墓制である。近年の発掘調査によって、この蔵骨器のなかに人面表現がつけられる例や絵画表現がつけられる例が増え注目されている。これら人面付壺形土器と絵画付土器に加えて、土偶や管玉、小型土器などの副葬品をあわせて紹介することで再葬墓への理解をすすめる展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>博物館の創始者・蜷川式胤の収集資料 | 12月8日(火)～22年1月17日(日) | 32(0.3) |
| | ＜主な作品＞◎壬申検査社寺宝物図集、東大寺献物帳(模本)、◎旧江戸城写真帖 | | |
| | 蜷川式胤は、明治政府の制度を作りながら、博物館の創設にも町田久成とともに深く関わった人物である。当館には、蜷川式胤の寄贈した作品や、式胤の採取した拓本、模写等、式胤に由来する作品が多く残されており、これらは、博物館の初期の活動を知る上で重要な資料である。今回は、式胤が関係した作品を中心に展示した。 | | |
| 平成館<br>企画展示室 | 古代・中世の茨城　－経塚・板碑・和鏡－ | 12月8日(火)～22年3月7日(日) | 45(0.0) |
| | ＜主な作品＞自然釉甕、銅経筒、金銅経筒、板碑、蓬莱鏡 | | |
| | 今回の特集陳列は、考古相互貸借事業にともなって茨城県立歴史館から借用した門毛経塚出土品を中心に、当館が所蔵する、茨城県から出土した、平安～室町時代の経塚遺物、板碑、和鏡のすべてを加えて展示を行った。今回展示した経塚遺物のなかでは、経巻の残りがよいことが注目される。中世の特徴的な遺物である板碑は、古河市頼政廓跡出土品などを展示した。和鏡は中世のもので、池から出土しており、水信仰との関係が考えられるものである。これら、普段ほとんど展示する機会のないものを展示し、資料の有効活用をはかるものとした。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 古代ガラスの発達　「吹きガラス」への道 | 12月22日(火)～22年2月14日(日) | 65(0.0) |
| | ＜主な作品＞頭飾、鏡、千華文皿、金帯装飾ピュクシス、金帯装飾アバラストロン、把手付人頭形瓶、貼付文動物形リュトン | | |
| | 「小学館古代ガラス・コレクション」の中から60件余りを選び、前1世紀に地中海東部で起こった「吹き技法」の発達を探る展示を行った。それ以前のガラスはペーストガラスがほとんどで、鋳造、モザイク、コアなどの技法によって、色鮮やかな宝石としての装身具や小型容器が作られていた。吹き技法の発明は素材の特性を大いに活かしたもので、ガラスの概念を変えた。本陳列では、吹きガラスとそれ以外の技法による作品を対比して展観した。 | | |
| 本館2階<br>特別1室 | 歳寒三友と明末清初の書 | 22年1月2日(土)～1月31日(日) | 18(0.0) |
| | ＜主な作品＞老松図、墨梅図、墨竹図、五松図、鹿鶴図屏風、桃実図、草書七言絶句軸、行書五律北方俚作詩軸、草書五言絶句軸 | | |
| | 厳寒の中、松と竹は常緑を保ち、梅は百花に先駆けて開花し清香を放つことから、中国において松、竹、梅は、節度を守り不変の志をもつものとして「歳寒三友」と称えられた。また、松は不老長寿、竹は平安、子孫繁栄、梅は子孫繁栄(子授け)などを象徴するものとされた。中国の花鳥画に描かれる多くの事物には、例えば、蓮、水鳥、魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿、葡萄、瓢箪、石榴は子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福を象徴するように、人々の様々な願いがこめられてきた。それらは、次第に吉祥図として定着し、人々に親しまれてきた。新年にあたり、歳寒三友(松・竹・梅)を中心に吉祥図を特集して展示した。書跡は明末から清初にかけて流行した連綿趣味に焦点をあて、明の遺臣・倪元璐や、明・清両朝に仕え弐臣と貶められた王鐸らをとりあげ、多様な書の展開を概 観する展示を行った。 | | |
| 本館2階<br>特別2室 | 博物館に初もうで 寅之巻 | 22年1月2日(土)～1月31日(日) | 35(0.1) |
| | 平成22年は干支でいうと庚寅にあたる。虎は東西南北を象徴する四神の一として、古代より鏡や塼などにあらわされた。虎は勇猛なばかりでなく徳の高さをも象徴し、画題や刀装具のデザインとして武士たちに好まれ、朝鮮王朝では武官のシンボルとされた。一方、「虎の子」というように虎は子供を非常に大切にする動物として知られ、端午の節句には子供を守る悪魔よけとされる。勇気、力と徳、そして深い情愛を兼ね備えた虎を題材とした日本、中国、朝鮮の作品を集め、新年を祝う展示を行った。 | | |
| 本館1階<br>15室 | アイヌの飾り | 22年1月5日(火)～4月4日(日) | 47(0.0) |
| | ＜主な作品＞前垂、アットゥシ、筬、マキリ、盆、広蓋 | | |
| | 「アイヌの飾り」をテーマとして展示を行った。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒやウィルタの人びとがつくりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 舞楽装束 | 22年1月13日(水)～3月7日(日) | 14(0.0) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ＜主な作品＞納曾利裲襠 萌葱地桐唐草に鳳凰丸模様、陵王裲襠 雲に龍丸模様 | | |
| | 本館9室では、年6回の展示替の内、1回を舞楽装束の展示に当てている。今回は唐楽(左方)「陵王」および高麗楽(右方)「納曽利」(一人舞では「落尊」と称する)をテーマに、江戸時代の舞楽面および舞楽装束を展示した。あわせて、舞楽を演じる様子を描いた「舞楽図巻」や雅楽の楽器、舞楽の衣裳人形などを展示することにより、宮廷文化である雅楽のみやびな世界をイメージできる陳列とした。 | | |
| 本館1階<br>18室 | 高野コレクション－浅井忠の日本風景 | 22年1月13日(水)～2月21日(日) | 6(0.0) |
| | ＜主な作品＞聖護院の庭 | | |
| | 実業家高野時次氏の蒐集による、明治の洋画家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッサン56点、掛軸6点の計73点におよび、浅井の円熟した画技を示す滞欧期の水彩画を多く含んでいる。高野コレクションは、この浅井作品全73点が、昭和60年(1985)に氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものである。今回の特集陳列は、このコレクションのうち浅井が留学から帰国した後、京都に移住してから描いた日本の風景作品6点を展示した。この特集によって透明感あふれる日本の情景を描いた浅井作品の魅力を堪能していただく展示とした。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>東京国立博物館の洋書コレクション2－初期博物館の図書収集－ | 22年1月19日(火)～3月7日(日) | 21(0.0) |
| | ＜主な作品＞〔建築計画図集〕、《英大字書》 | | |
| | 昨年に続いて、東京国立博物館が創設以来収集・保管してきた欧米の書籍を紹介した。今回は主に、欧米の博物館に関する情報収集や外国語の学習、内務省及び農商務省所管の時期における殖産興業の支援などの目的で入手した書籍を陳列した。 | | |
| 本館2階<br>特別2室 | 有職 | 22年2月3日(水)～3月28日(日) | 24(1.0) |
| | ＜主な作品＞類聚雑要抄彩色図、装束裂(九重の紅葉)、唐菓子雛形、旧儀式図画帖「修学院御幸」、●飾剣、飛香舎調度 二階厨子 | | |
| | 宮廷の服飾調度類の伝統的な様式は、宮廷の衰退や戦乱のなかで途絶えがちにもなったが、近世の有職学者たちの研究によって復興をとげた。有職学者たちの考証の成果に基づく安政造営内裏(現在の京都御所)ゆかりの調度である飛香舎調度、宮廷装束の様式を伝える裂帖や雛形、宮廷儀礼の実際を描き留めた儀式図といった資料を紹介した。 | | |
| 本館1階<br>14室 | おひなさまと人形 | 22年2月16日(火)～3月28日(日) | 47(0.0) |
| | ＜主な作品＞裸嵯峨、享保雛、御所人形 鶴亀 | | |
| | 三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は内裏雛や、大名家の雛道具や初公開となる雛膳のほか、京都の伝統工芸である御所人形を特集して展示した。 | | |
| 本館1階<br>18室 | 農村(田園)へのまなざし | 22年2月23日(火)～4月4日(日) | 34(0.1) |
| | ＜主な作品＞◎春畝、田舎家、枯れ野原(グレー)、栗拾い、案山子 | | |
| | 平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う第4回目の特集陳列である。今回の特集陳列では、日本におけるバルビゾン派の受容を、農村(田園)を描いた浅井、黒田の作品でたどった展示を行った。 | | |
| 本館2階<br>9室 | 歌舞伎衣裳 | 22年3月9日(火)～5月16日(日) | 14(0.0) |
| | ＜主な作品＞振袖 水浅葱繻子地枝垂桜模様(歌舞伎衣裳)、振袖 紅縮緬地桜流水模様(歌舞伎衣裳) | | |
| | 江戸時代後期大奥で活躍した女性のお狂言師、坂東三津江が使用していた歌舞伎衣裳および道具を展示した。今回の展示では、春の季節に合わせて桜の意匠を表わした振袖や、娘道成寺という演目で使用された襦袢などを展覧した。併せて、娘道成寺を描く浮世絵版画を展覧し、江戸時代の三大娯楽の1つであった歌舞伎の文化を見る機会とする展示を行った。 | | |
| 本館1階<br>16室 | シリーズ「歴史を伝える」<br>博物図譜－桜を中心に－ | 22年3月9日(火)～4月25日(日) | 24(0.0) |
| | ＜主な作品＞草花写生図巻、本草図説、遠西舶上画譜 | | |
| | 日本における博物学は、享保年間(1716～35)に江戸幕府が全国的な物産の調査を行ったのを契機に流行した。写生によって物のかたちを詳しく記録することは、博物学の流行する以前にも、心覚えのスケッチとして行われていたが、なかには自然科学への関心の高まりがうかがえるものもみられる。今回の展示では、季節にちなんだ桜を中心として、博物画の先駆けともいえる狩野探幽(1602～74)の写生図から、明治時代の実用的な掛図にいたるまでの、生き生きとした楽しい博物図譜をご紹介した。 | | |
| 本館1階<br>19室 | 伝統工芸－人間国宝の技と美 | 22年3月9日(火)～6月6日(日) | 17(0.0) |
| | ＜主な作品＞乾漆朱菊花方盤、華菱文玳瑁螺鈿箱、鸚鵡小禽葡萄文箱、燿彩鉢 心円 | | |
| | 当館は文化庁からの管理換品をはじめ、重要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の作品を多数所蔵している。日本の工芸の伝統的な技法を基本として作られたこれらの作品の中から、漆工、金工、陶磁の優品を選んで、その技と美を紹介した。 | | |
| 平成館<br>考古展示室 | 骨角器－人と動物たちとのかかわり－ | 22年3月16日(火)～9月12日(日) | 151(0.0) |
| | ＜主な作品＞燕形銛頭、釣針、犬歯製垂飾、歯牙製垂飾 | | |
| | 当館における縄文時代から弥生時代にかけての骨角器のコレクションは、その量とともに、質の高さから各方面より古くから注目されてきた。そのコレクションの全貌は、これまでに図版目録、研究図録として公表してきた。今回、その優れたコレクションの一部(狩猟具・漁撈具・装身具など)を展示し、当時の人々の生業の実態に迫ると共に、人間と動物の関わりについてもわかりやすく解説する展示とした。 | | |
| 平成館<br>企画展示室 | 東京国立博物館コレクションの保存と修理 | 22年3月16日(火)～5月9日(日) | 22(0.1) |
| | ＜主な作品＞◎申文、小袖 黒綸子地遠州模様、色絵柏樹双鳥図大皿 | | |
| | 東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成20年度に修理が完了した作品を中心に、 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 全19件を展示した。絵画、書跡、工芸、歴史資料、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待する展示とした。 | | |
| 本館1階<br>13室 | 海を渡った日本の漆器 | 22年3月24日(水)～6月13日(日) | 18(0.0) |
| | ＜主な作品＞桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕、楼閣山水蒔絵宝石箱、花鳥螺鈿裁縫机 | | |
| | 近世以降ヨーロッパの上流階級の間には東洋趣味が広く浸透しており、日本の漆器は東洋を象徴する室内装飾調度として、彼らの間で大いに人気を集めた。そのような需要に応えて制作された、安土桃山時代から幕末明治期までの作品をとりあげて輸出漆器の歴史を概観し、日本の漆器が欧州で愛でられ続けたことを紹介した。 | | |
| 本館1階<br>14室 | 中国の五彩と日本の初期色絵 | 22年3月30日(火)～5月30日(日) | 23(0.0) |
| | ＜主な作品＞五彩丸文平鉢、色絵山水船人物図銅羅鉢、五彩蓮池図大皿、色絵蝶牡丹文大皿、色絵翡翠図平鉢 | | |
| | 色絵とは白磁をいったん高温で焼きあげ、上絵具で絵付けを施したのち、再び窯に入れて焼き付ける技法で、中国では五彩という。中国の景徳鎮民窯では、明末清初の時期に天啓赤絵、色絵祥瑞、南京赤絵など多種多彩な五彩が焼かれ、さかんに輸出された。江戸時代初期に磁器の生産が始まった九州肥前の有田では、17世紀中葉に中国から色絵の技術が導入され、中国のさまざまな五彩磁器の様式をもとに豊かな創意が加えられて、独創的な初期色絵が花開いた。その中には、かつて加賀の九谷で焼かれたと考えられたことにより、古九谷とよばれた一群も含まれる。中国の五彩と日本の初期色絵を比較することにより、相互の影響関係、そして模倣と創造の不即不離の関係を検証する展示を行った。 | | |

②東洋館

●国宝　◎重要文化財　〇重要美術品

| 場所 | テーマ | 会期 | 陳列件数(国宝・重文) |
|---|---|---|---|
| 第3室 | インドの細密画 | 21年1月14日(水)～4月5日(日) | 40(0.0) |
| | ＜主な作品＞聖職者を訪ねるムスリムの女たち、魚に化身したヴィシュヌ(マツヤ・アヴァターラ)、ビカネールの藩王ビジェイ・シン立像 | | |
| | 中世インド世界では、神話、ヒンドゥー教世界、王の肖像、歴史的エピソード、男女の恋の様相、動物図など、さまざまなテーマが絵画として表現された。本特集はこのような内容を描いた細密画を展示するもので、ムガル王朝時代を中心に、地方ムガル派、ビカネール派、ジャイプール派、カーングラ派などインド各地の流派で構成した。前、後2期にわけ、20点ずつ計40点を展示した。 | | |
| 第5室 | 「名物裂」にみる文様Ⅳ－幾何学文と縞－ | 21年1月14日(水)～4月5日(日) | 11(0.0) |
| | ＜主な作品＞茶地鱗文緞子(住吉緞子)、濃浅葱地鱗文金襴(井筒屋裂)、縞地梅鉢文金襴(高木金襴)、日野間道 | | |
| | 「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国から舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵されたものもあれば、茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。名物裂にはさまざまな種類の技法と文様がみられる。今回は文様を中心に名物裂の種々相をみてゆくことにした。4回目は幾何学文様や縞を用いた裂を展示した。 | | |
| 第10室 | ペルーの土器 | 21年1月27日(火)～4月26日(日) | 13(0.0) |
| | ＜主な作品＞キツネ形鐙壺、鳥形装飾付双口壺、水鳥形鐙壺、サル顔付鐙壺、アリバロ型小壺 | | |
| | 東博が所蔵する日本と東洋以外の作品を紹介するシリーズ第3弾として、南米ペルーの土器を特集した。特に、口が2つの付け根をもつため「鐙壺」と呼ばれるその独特の造形や、動物を象った文化的背景などを解説する展示とした。 | | |
| 第4・5室 | 中国の鏡 | 21年3月3日(火)～6月7日(日) | 21(0.0) |
| | ＜主な作品＞画文帯同向式神獣鏡、海獣葡萄鏡 | | |
| | 詳細な解説パネルとともに中国の鏡を紹介した。平成18年度は漢・六朝を中心とし、平成19年度は隋唐を中心としたが、平成20年度は、戦国時代から宋時代以降の鏡まで含めた展示とした。 | | |
| 第8室 | 法帖と帖学派 | 21年3月3日(火)～4月26日(日) | 28(0.0) |
| | ＜主な作品＞群玉堂米帖、十七帖、楷行草雑臨古帖巻、臨米芾書軸 | | |
| | 宋の太宗が、宮廷に収蔵される歴代名臣の書を編集させた『淳化法帖』が淳化三年(992)に刊行されて以来、法帖は書を学ぶ基本的なテキストになった。明時代にも文徴明や董其昌らによって『停雲館帖』や『戯鴻堂帖』など、家刻の精彩ある法帖が引き続き刊行され、その風潮は清時代にも受け継がれる。歴代の法帖と、法帖を学んだ明清時代の帖学派の流れを概観する展示とした。 | | |
| 第3室 | インドネシアの染織 | 4月7日(火)～6月7日(日) | 14(0.0) |
| | ＜主な作品＞ドドット 茶地ガルダ模様更紗、肩掛(スリムット) 藍地動物文様経絣 | | |
| | インドネシアは大小さまざまな島々からなり、それぞれの島に特有の染織模様や技法がうかがえる。19世紀から20世紀にかけて生まれたインドネシアの絣(イカット)、更紗(バティック)、絞り染などを展覧し、それぞれの島が持つ染織の魅力に迫る展示を行った。 | | |
| 第3室 | 南太平洋の暮らしと祈り | 4月7日(火)～6月7日(日) | 15(0.0) |
| | ＜主な作品＞イモ用杵、ココナッツ掻器、大面、ワニ | | |
| | 貝・珊瑚・サメの歯などの海産資源を巧みに利用した南太平洋ならではの暮らしの道具、およびメラネシアで特に発達した祖霊信仰の彫刻を展示した。当館所蔵の南太平洋の民族資料がまとまって展示公開されるのは約30年ぶりである。 | | |
| 第8室 | 顔真卿とその周辺 | 4月28日(火)～6月7日(日) | 24(0.0) |
| | ＜主な作品＞千福寺多宝塔碑、祭姪文稿、麻姑仙壇碑、郭氏家廟碑、顔氏家廟碑 | | |
| | 安史の乱の平定に大きな功績をあげた顔真卿(709～785)の書は、宋時代になってその評価が確立した。この特集陳列では、後世から唐の四大家の一人に挙げられる顔真卿に焦点をあて、顔真卿の諸作品の中から整本・剪装本の代表作を選び、書風の変遷を窺うとともに、同時代の拓本をあわせて陳列した。 | | |
| 第10室 | 朝鮮王朝時代の女性の生活と美 | 4月28日(火)～6月7日(日) | 12(0.0) |

| | |
|---|---|
| | ＜主な作品＞チョゴリ、タレポソン、華角貼尺 |
| | 朝鮮王朝時代における上流階級の女性たちが身につけた衣装や装身具、および裁縫道具を取り上げ、美意識とそれに基づいた生活の一部を紹介する展示を行った。 |

③表慶館
なし

④法隆寺宝物館
なし

(参考)黒田記念館

| 場所 | テーマ | 開催期間 | 陳列件数(国宝・重文) |
|---|---|---|---|
| 黒田記念館 | | 4月2日(木)～22年3月27日(土) | 92(0.2) |
| | ＜主な作品＞◎湖畔、◎智・感・情、昔語り下絵(舞妓) | | |
| | 黒田記念館は、洋画家黒田清輝の遺産と作品が国に寄贈されたことが契機となって建てられた施設である。館内には黒田記念室が設けられ、遺族の方々から寄贈された遺作の油彩画、素描等を展示して画家黒田の芸術を顕彰するために公開した。なお、開館日は毎週木、土曜日。 | | |

7)広報
・特集陳列「趙之兼とその時代」　台東区立書道博物館との連携企画
会　　期：2009年8月4日～9月27日
広　　報：
ターゲット：書道愛好家
重点項目：新聞文化欄および書・美術専門雑誌に向けてのプロモート。
特記事項：台東区立書道博物館と連携してリリースを配信(配信先約550件)
報道内見会の実施　(8月3日、29人出席)

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 台東区書道博物館から送付 |
| 交通広告 | 7月下旬～8月上旬　駅貼り広告(ＪＲ上野駅、鶯谷駅) |
| 新聞・雑誌広告 | ― |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | 朝日新聞、読売新聞など |
| テレビなど | ― |
| 雑誌掲載 | 「カノン」「月刊書道界」など |
| 博物館ニュース | 特集1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 |

・親と子のギャラリー
「日本美術のつくり方」
会　　期：2009年7月28日～9月6日
広　　報：
ターゲット：親子および初心者やはじめて博物館に来る人を含む一般の美術愛好家
重点項目：広く一般に向けての情報周知、親子向け媒体へのプロモート
特記事項：リリースの配信(約280件)、新聞広告

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | ― |
| 交通広告 | ― |
| 新聞・雑誌広告 | 毎日新聞1回、朝日小学生新聞　4回、読売新聞　1回 |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | ― |
| テレビなど | ― |
| 雑誌掲載 | 「東京ウォーカー」など |
| 博物館ニュース | 告知1回、特集1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信 |

・特別企画
「留学生の日」
会　　期：2009年10月3日

広　　報：
ターゲット：留学生
重点項目：学校を通じた広報、英字媒体を通じた広報
特記事項：リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約510件(大学、語学専門学校等) |
| 交通広告 | ― |
| 新聞・雑誌広告 | ― |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | ― |
| テレビなど | ― |
| 雑誌掲載 | 「メトロポリス」など |
| 博物館ニュース | 告知1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信 |

・特別企画
「博物館に初もうで」
会　　期：2010年1月2日～1月31日
広　　報：
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項：イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約1,600件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等) |
| 交通広告<br><br>街頭広告 | 駅貼り広告(ＪＲ山手セットミニ、京王電鉄、東京メトロ)、駅貼りちらしボックス付(東京メトロ20駅31面)<br>銀座4丁目ホットビジョン　1ヶ月間 |
| 新聞・雑誌広告 | 朝日新聞2回、読売新聞、毎日新聞、ジャパンタイムズ2回、デイリー読売 |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | 東京新聞、日本経済新聞ほか |
| テレビなど | ― |
| 雑誌掲載 | ぴあ、目の眼、美術の窓　ほか |
| 博物館ニュース | 特集1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信 |

・特別企画
「博物館でお花見を」
会　　期：2010年3月24日～4月11日
広　　報：
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項：イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約1270件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等) |
| 交通広告<br>街頭広告 | 駅貼り広告(ＪＲ京浜エリアシングル・中央総武シングル、上野・鶯谷駅東京メトロ、京成2駅2面、京王電鉄)、駅貼りちらしボックス付（東京メトロ）<br>社内吊広告（都営交通タイアップ）<br>銀座ホットビジョン　1ヶ月間 |
| 新聞・雑誌広告 | 朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞各１回 |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | 朝日新聞、毎日新聞、読書人　など |
| テレビなど | ＴＢＳ「みのもんたの朝ズバッ」、日テレ「ズームインスーパー」、テレビ東京「アド街ック天国」 |
| 雑誌掲載 | 「東京ウォーカー」など |
| 博物館ニュース | 特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信 |

### (2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

**展覧会名**：興福寺創建1300年記念／平城遷都1300年記念／朝日新聞創刊130周年記念／テレビ朝日開局50周年　「国宝 阿修羅展」
開会期間：21年3月31日～6月7日　(61日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日
後　　援：文化庁、平城遷都1300年記念事業協会
特別協賛：ＪＡバンク
協　　賛：株式会社竹中工務店、三菱商事株式会社、凸版印刷株式会社、東日本旅客鉄道株式会社
特別協力：ソニー株式会社
協　　力：ニッセイ同和損害保険株式会社、朝日放送、文化放送、朝日学生新聞社
陳列品総件数：75件(うち国宝58件、重要文化財10件)
入館者数：946,172人(21年度　933,895人)(目標入場者数 540,000人・達成率 175.2%)
入場料金：一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：
　国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。

講演会等：
記念講演会
①「興福寺創建と天平文化」　講師：多川俊映師　(興福寺貫首)
　平成館 大講堂　4月11日
②「国宝　阿修羅像」　講師：金子啓明　(当館特任研究員)
　平成館 大講堂　4月25日
③「奈良時代の興福寺と阿修羅像」　講師：佐藤信氏　(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
　平成館 大講堂　5月9日

広報：
　ターゲット：広く一般。10代～20代の若年層から70代以降まで幅広い層に訴求。
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①「阿修羅ファンクラブ」(先行前売り券購入で入会)による話題作り。仏像ブームの火付け役となったタレント・文化人を巻き込んでマスコミでの注目度を高め、特製会員バッジのプレゼント、ファンクラブ公式サイトの会員限定ページへのアクセス権の付与、ファンクラブイベントの開催、専用音声ガイドの展開によりプレミア感を演出。②若い女性をターゲットとした雑誌「ＪＵＮＯＮ」とタイアップして阿修羅ボーイコンテストを実施③海洋堂による阿修羅像フィギュアを販売。開幕早々に完売し、注目を集めた。④テレビの全キー局の情報番組が社会現象として阿修羅展を取り上げ、阿修羅に熱狂する「アシュラー」、歴史に詳しい「歴女」が注目された。⑤作品梱包、搬送時に取材・撮影に応じ報道促進につながった。⑥主催朝日新聞紙上およびテレビ朝日で繰り返し報道。

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付<br>ジュニア用ワークシートＤＭ送付 | 約5,000件(博物館・美術館・画廊・カルチャーセンター・古書店・等)<br>約14,000件(1都6県＋山梨、静岡、宮城　小・中・高等学校) |
| 交通広告 | 2008年12月中旬～2009年6月初旬<br>交通広告　駅ボード(首都圏ＪＲ・私鉄全線200駅200面の大型ボード、都内主要34駅SWボード68面、東京メトロ電飾40面)<br>ポスター等(JR東日本、東急、京王、西武、京成と券売やポスター掲示などでタイアップ)<br>駅横断幕(上野駅公園口) |
| 新聞・雑誌広告 | JUNONタイアップ広告(阿修羅ボーイキャンペーン展開) |
| テレビ広告 | テレビ朝日ドラマ番組内告知スクロール、情報番組スポットなど　多数回 |
| 新聞掲載 | 朝日新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事、集荷などの取材記事　計223件)ほか他社全国紙でも多数 |
| テレビ放映 | テレビ朝日特別番組「阿修羅の涙」、「スーパーＪチャンネル」報道特集、NHK「日曜美術館」(本編)、「プロフェッショナル」「ワンダー×ワンダー」、「おはよう日本」、フジテレビ「めざまし」、日本テレビ「ズームイン」など |
| 雑誌掲載 | 「ブルータス」「一個人」「日経おとなのOFF」「サライ」「ぴあMOOK」特集など |
| 博物館ニュース | 特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイト、共催者(朝日新聞・テレビ朝日)ウェブサイトでの紹介 |

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　490件、雑誌　389件、テレビ/ラジオ 115件、インターネット　70件
③記者発表会　2008年10月16日　日本記者クラブにて　(101人出席)
④報道内見会　3月19日(337人出席)
⑤教員鑑賞会　3月31日～4月10日まで教員招待　(225人出席)

⑥阿修羅ボーイ内覧会3月30日　20人出席
⑦阿修羅ファンクラブ内覧会　4月7日～9日(2420人出席)
⑧雑誌「ぴあ」読者内覧会　4月18日(215人出席)

**展覧会名**：特別展　「Story of...カルティエ クリエイション～めぐり逢う美の記憶」

開会期間：21年3月28日～5月31日(57日間)
会　　場：表慶館1・2階
主　　催：東京国立博物館、日本経済新聞社
特別協力：カルティエ
後　　援：フランス大使館
協　　賛：エグゼク インターナショナル、ＪＴＢ法人東京、セントラル硝子、大日本印刷、マックスレイ、山元、ライジングサンセキュリティーサービス
陳列品総件数：276件(うち指定品0件)
入館者数：120,483人(21年度　115,568人)(目標入場者数 90,000人・達成率 133.4%)
入場料金：一般1400円、大学生・高校生800円　中学生以下無料
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
日仏交流150周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する1300点ほどのアーカイヴピースを中心に、267件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。

講演会等：
記念講演会
①　「展覧会のディレクションと吉岡徳仁のデザイン観」　講師：吉岡徳仁氏(デザイナー)、伊東史子氏(デザインマネジメント)
平成館 大講堂　4月5日

広報：
ターゲット：40代以降の女性を中心としたファッション・宝飾愛好家
重点項目：ハイクラス女性誌を中心としたマスコミ媒体へのプロモート。
マスコミ、交通広告による広く一般への情報提供。ファッション業界への周知。
特記事項：①イメージ戦略の一環として、各界のＶＩＰを招いてのカルティエディナーパーティを実施し、取材を促進。②女性誌の読者招待会を実施。カルティエのもつ高いブランド力と雑誌のもつブランド力によって、展覧会のブランド感を構築した。

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約7000件(全国博物館・美術館・ギャラリー等) |
| 交通広告 | 車内広告(東京メトロ　銀座線、日比谷線)<br>駅貼り広告(ＪＲ15駅、東京メトロ11駅、東急電鉄、小田急電鉄江ノ電)など |
| 新聞・雑誌広告 | 朝日新聞　2回　日本経済新聞　4回 |
| テレビ広告 | なし |
| 新聞掲載 | 日本経済新聞(特集記事　1回　開催告知多数)など |
| テレビ放映 | ― |
| 雑誌掲載 | 「婦人画報」「和楽」「25ans」特集など |
| 博物館ニュース | 予告1回、特集1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイトでの紹介 |

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞　115件、雑誌　138件、ラジオ1件、インターネット　33件
③ 記者発表会　12月16日(パークハイアット東京　The Ballroomにて　131人出席)
④ 報道内見会　3月26日(239人出席)
⑤「25ans」読者内覧会4月23日(49人出席)、「婦人画報」読者内覧会5月21日(40人出席)、「和楽」5月28日(47人出席)
⑥カルティエディナー　4月9日(180人出席)

**展覧会名**：「日本・ギリシャ修好110周年記念　アテネ・メトロ･ミュージアム － ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代－ 」

開会期間：4月7日～5月10日 (30日間)
会　　場：平成館1階　企画展示室
主　　催：東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列品総件数：－件
入館者数：－人(目標入場者数 －人・達成率 －%)
入場料金：平常展料金
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。

広報
　博物館ニュース　告知記事1回

**展覧会名**：特別展「染付− 藍が彩るアジアの器」
開会期間：7 月 14 日～9 月 6 日　(49 日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室・第2室
主　　催：東京国立博物館
協　　力：日油株式会社、産経新聞社
後　　援：ー
協　　賛：ー
陳列総件数：221 件(うち重要文化財 4 件　重要美術品 1 件)
入館者数：52,731人(目標入場者数 70,000人・達成率 75.3%)
入場料金：一般 1000 円(800 円／700 円)、大学生 800 円(600 円／500 円)、高校生 600 円(400 円／300 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
　アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。

講演会等
　連続講座：1回(3日連続)
　「東洋の染付」　講師：荒川正明氏(学習院大学教授)、片山まび氏(東京芸術大学准教授)、矢島律子氏(町田市立博物館学芸員主任)、今井敦(当館東洋室長)、三笠景子(当館保存修復室研究員)
　平成館 大講堂　7月18日～20日

広報：
　ターゲット：女性を中心とした陶磁の愛好家、一般の美術愛好家。
　重点項目：陶磁の愛好家に着実に周知を図るとともに、「使う器」というコンセプトの展示および伊万里大皿55枚の展示を軸に各媒体にプロモートした。
　特記事項：①駅大型ボード広告を伊勢神宮と共同で実施、②銀座街頭広告の導入

　① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約5,800件(博物館・美術館・大学・中学・高校・ギャラリー・神社庁関係等) |
| 交通広告 | 駅ボード(34駅68面)<br>車内広告(ＪＲ山手線長期、京浜東北線群短期)<br>駅貼り広告(ＪＲ5駅、東京メトロ5駅、京王電鉄)<br>銀座4丁目交差点ホットビジョンなど |
| 新聞・雑誌広告 | 朝日新聞　2回 |
| テレビ広告 | ― |
| 新聞掲載 | 毎日新聞、サンケイエクスプレス連載(7回)など |
| テレビ放映 | ＪＣＯＭ台東など |
| 雑誌掲載 | 「ＣＵＲＩＯ」特集「毎日が発見」など |
| 博物館ニュース | 予告1回、特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 |

　② パブリシティー情報掲載・放映
　　新聞　348件、雑誌　130件、テレビ/ラジオ2件、インターネット　31件
　③ 記者発表会　4月8日(霞会館にて　49媒体　56人出席)
　④ 報道内見会　7月13日(136人出席)
　⑤ 教員鑑賞会　7月22日(156人出席)

**展覧会名**：第62回式年遷宮記念　特別展「伊勢神宮と神々の美術」
開会期間：7月14日(火)～9月6日(日)　(49日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第3室・第4室
主　　催：東京国立博物館、霞会館、産経新聞社
特別協力：神宮司庁
協　　力：神社本庁、伊勢神宮式年遷宮広報本部、東京都神社庁、皇學館大學、日本航空、日本通運
後　　援：フジサンケイグループ
協　　賛：ＪＲ東海、近畿日本鉄道、ＪＡ共済
陳列総件数：111 件(うち国宝 17 件、重要文化財 39 件)
入館者数：114,796人(目標入場者数 110,000人・達成率 104.4%)
入場料金：一般 1400 円(1100 円／900 円)、大学生 1000 円(700 円／600 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　(　)内は前売／20 名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：

2013年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。

講演会等：
記念講演会
①「古神宝について」　講師：関根俊一氏　（帝塚山大学教授）
　平成館 大講堂　7月25日
②「伊勢の神宮と日本人－いのちと血統の連続－」　講師：　伴五十嗣郎氏　（皇學館大学学長）
　「伊勢神宮と式年遷宮」　講師：　清水潔氏　（皇學館大学文学部長）
　平成館 大講堂　8月8日

広報
　ターゲット：広く一般の美術愛好家、日本史愛好家。パワースポットに興味のある若年層。
　重点項目：「上野でぶらり伊勢詣で」というキャッチフレーズによって伊勢への旅の気分を盛り上げつつ、伊勢神宮の信仰の歴史を読み解くストーリー性のある広報展開を実施。宗教や歴史に興味のある中高年の男女を確実に取り込む努力をした。さらに、パワースポットとしての伊勢神宮に注目している若年層をターゲットとする媒体にも積極的にプロモートを実施した。
　特記事項：①伊勢神宮へのプレスツアーを実施　②皇室の来館報道を通じての展覧会広報

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約5,800件(博物館・美術館・大学・中学・高校・ギャラリー・神社庁関係等) |
| 交通広告 | 6月初旬～9月6日<br>駅ボード(都内主要駅　60面)<br>車内広告(ＪＲ山手線軍・東海道線、横須賀・総武快速線)<br>駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、京王電鉄)<br>ちらしボックス付駅貼り(26駅) |
| 新聞・雑誌広告 | 産経新聞4回、朝日新聞5回、読売新聞3回など |
| テレビ広告 | フジテレビスポット　26回 |
| 新聞掲載 | 産経新聞(大特集3回、連載　作品・工芸技術・いせトリビア・私のおかげ参りなど多数) |
| テレビ放映 | ＮＨＫ日曜美術館(アートシーン) |
| 雑誌掲載 | 「Pen」 、「美術手帖」　特集など |
| 博物館ニュース | 予告1回、特集1回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介 |

② パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　178件、雑誌　143件、テレビ/ラジオ　12件、インターネット　36
③ 記者発表会　4月8日(霞会館にて　49媒体　56人出席)
④ 報道内見会　7月13日(136人出席)
⑤ 教員鑑賞会　7月22日(156人出席)

**展覧会名**：御即位20年記念特別展「皇室の名宝―日本美の華」
開会期間：1 期：21 年 10 月 6 日～11 月 3 日　(26 日間)
　　2 期：21 年 11 月 12 日～11 月 29 日　(18 日間)
会　　場：平成館 2 階　特別展示室第 1 室～第 4 室
主　　催：東京国立博物館、宮内庁、ＮＨＫ
特別協力：ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社
後　　援：－
協　　賛：－
陳列総件数：205件　1期：81件　2期：124件(うち重要文化財1件)
入館者数：447,944 人(1 期　263,303 人　2 期　184,641 人)（目標入場者数 350,000 人・達成率 128.0%）
入場料金：一般 1300 円(1100 円／1000 円)、大学生 1000 円(800 円／700 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：7人

展覧会の内容：
　今上陛下の御即位20年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を1期と2期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1期は安土桃山時代から近代までの作品、2期は古代から江戸後期までの作品で構成した。

講演会等：
記念講演会
①「皇室コレクション平成の歩み－修理報告を中心として－」　講師：太田彩氏　（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究員）
　平成館 大講堂　10月10日
②「正倉院の宝物　歴史の奥行き」　講師：杉本一樹氏　（宮内庁正倉院事務所長）
　平成館 大講堂　11月15日

広報：
　ターゲット：40代以降の女性および60代以降の男女を中心とする皇室ファンおよび広く一般。
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①前後期で全作品展示替制によって生じる通常と異なる来館情報(展示替え休止期間、チケットの種類など)および11月12日の無料観

覧に関する情報の周知徹底を図った。②前期・若冲30幅一挙公開、後期・正倉院宝物公開を軸に広報を展開。③皇室の来館報道を通じての展覧会広報　④ツイッターによる情報発信の試み

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約16,500件(博物館・美術館・画廊・カルチャーセンター・図書館・自治体施設・画材店・学校等) |
| 交通広告 | 2009年8月中旬～2009年10月末<br>交通広告　駅ボード(首都圏ＪＲ・私鉄・東京メトロ　計約300面)<br>ポスター等(東京メトロ、京王電鉄)<br>車内(京急)など |
| 新聞・雑誌広告 | 日本経済新聞・読売新聞　多数 |
| テレビ広告 | ＮＨＫスポット、ミニ番組など　多数回 |
| 新聞掲載 | 日本経済新聞、読売新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事、新発見などの報道など多数)ほか他社全国紙でも多数 |
| テレビ放映 | ＮＨＫ　「日曜美術館」(本編)、秋の特別番組　など |
| 雑誌掲載 | 「和楽」「書21」特集など |
| 博物館ニュース | 予告1回　特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介、ツイッターによる情報発信 |

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞：337件（フリーペーパーを含む）、雑誌　78件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　36件ほか　WEB多数
③記者発表会　2009年8月3日　東京国立博物館大講堂にて　89人出席)
④報道内見会　前期10月5日(163人出席)、後期11月12日(67人出席)
⑤教員鑑賞会　10月16日(307人出席)
⑥ジュニア記者会　10月14日　(69人出席)

**展覧会名**：文化庁海外展　大英博物館帰国記念「国宝　土偶展」
開会期間：21年12月15日～22年2月21日 (56日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：文化庁、東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社
後　　援：ー
協　　賛：日本写真印刷
陳列総件数：67 件(うち国宝：3 件　重要文化財：23 件　重要美術品：2 件)
入館者数：128,285人(目標入場者数50,000人・達成率253.5%)
入場料金：一般800円、大学生600円、高校生400円、中学生以下無料
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
　本展は、イギリスの大英博物館で2009年9月10日から11月22日まで開催された*THE POWER OF DOGU*の帰国記念展で、国宝3件と重要文化財23件、重要美術品2件を含む全67件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。

広報：
　ターゲット：考古学・歴史ファン、土偶が発掘された地方の人々、広く一般
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①土偶が作られた歴史的背景などストーリー性を重視した情報提供　②学校向けプロモート。ジュニアガイドの配布、教員鑑賞会の開催を通じて展覧会の周知を図った。③教科書で誰もが見たことのある作品が複数出品されることから、若年層をターゲットにした媒体にも積極的にアプローチした

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付<br><br>イベント等でのチラシ配布 | 約5,924件(博物館・美術館・ホール・カルチャーセンター・図書館・ホテル・美術団体・大学など)<br>ＮＨＫホール8回、毎日新聞社主催イベント7回 |
| 交通広告 | 2009年11月下旬～2月中旬<br>交通広告　駅ボード(ＪＲ68面、東京メトロ電飾10面)<br>ポスター等(京王電鉄)<br>上野駅横断幕(ＪＲ)など |
| 新聞・雑誌広告 | 朝日新聞2回、　毎日新聞多数 |
| テレビ広告 | ＮＨＫ情報スポット(首都圏ニュース) |
| 新聞掲載 | 毎日新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事など　多数)ほか他社全国紙でも多数 |
| テレビ放映 | ＮＨＫ「日曜美術館」(アートシーン)、首都圏ニュースお知らせ秋の特別番組　など |
| 雑誌掲載 | 「週刊ＰＬＡＹ　ＢＯＹ」「ＳＰＵＲ」など |
| 博物館ニュース | 予告1回　特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社)ウェブサイトでの紹介 |

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　471件（フリーペーパー含む）、雑誌　111件、テレビ/ラジオ 7件、インターネット24件
③報道内見会　12月14日(110人出席)
④教員鑑賞会　12月26日(154人出席)

**展覧会名**：没後400年　特別展「長谷川等伯」

開会期間：22 年 2 月 23 日～3 月 22 日(25 日間)
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館・毎日新聞社・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション
後　　援：文化庁
特別協賛：大塚家具
協　　賛：JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行
陳列総件数：73 件（うち国宝 3 件、重要文化財 28 件、重要美術品 1 件）
入館者数：292,526人(目標入場者数160,000人・達成率 182.8%)
入場料金：一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
　安土桃山時代に活動した長谷川等伯の国内に存在するほぼすべての等伯の作品を、一挙に公開する史上最大規模の大回顧展。信春と名乗り、能登で活動した初期のものから晩年期までの作品を網羅して展観することによって、その画業を改めて検証する。

講演会等：
記念講演会
①「やまと絵師・長谷川等伯ー信春時代の仏画から智積院障壁画へ」　講師：松嶋雅人(特別展室長)
　平成館 大講堂　22年2月27日
②「信春から等伯へー新発見の金碧花鳥図屏風を中心に」　講師：山本英男氏　(京都国立博物館美術室長)
　平成館 大講堂　22年2月27日
③「長谷川等伯の新たな魅力ー動物の感性を描く」 講師：黒田泰三氏　(出光美術館学芸部長)
　平成館 大講堂　22年3月6日

広報：
　ターゲット：広く一般
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①等伯の作品を網羅した初めての大規模展であることをアピール　②等伯の生涯をたどるという展覧会コンセプトにそった情報提供により媒体プロモートを図った。②学校向けプロモート。ジュニアガイドの配布を通じて展覧会の周知を図った

① 広報媒体

| 種類 | 設置場所・件数等 |
|---|---|
| ポスター・チラシ・ＤＭ送付 | 約6,000件(博物館・美術館・ホール・カルチャーセンター・図書館・<br>ホテル・美術団体・大学など) |
| 交通広告 | 2009年11月～2010年3月<br>交通広告　駅ボード(ＪＲ首都圏86駅95面、東京メトロ毎日枠11駅11面)<br>ポスター駅貼り(ＪＲ上野公園口2/3～2/23、京王電鉄随時)<br>上野駅横断幕(ＪＲ)など |
| 新聞・雑誌広告 | 毎日新聞　一面･テレビ面突き出し広告(2009年11月～2010年3月随時)<br>朝日新聞　水曜夕刊アート面半5段(2009年12月9日) |
| テレビ広告 | ＮＨＫ情報スポット |
| 新聞掲載 | 毎日新聞(特集記事、連載コラム、展覧会開催・イベントなどの告知記事など　多数)、朝日新聞、読売新聞　ほか |
| テレビ放映 | ＮＨＫ「日曜美術館」(本編)、ＮＨＫ「歴史秘話ヒストリア」、テレビ東京「美の巨人たち」、ＴＢＳ「知っとこ」 |
| 雑誌掲載 | 「サライ」「芸術新潮」「和楽」「婦人公論」「歴史読本」など |
| 博物館ニュース | 予告1回　特集2回 |
| インターネット | 当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信<br>公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社)ウェブサイトでの紹介 |

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞 478件、雑誌 144件、テレビ/ラジオ 11件、インターネット 34件
③報道内見会　2月22日(274人出席)

**展覧会名**：「海外展　サムライの美術―東京国立博物館精選」
　Art of the Samurai: Selections from the Tokyo National Museum Exhibition

開会期間：4月19日～6月14日 (49日間)
会　　場：アメリカ・バウワーズ博物館
主　　催：東京国立博物館、バウワーズ博物館
後　　援：ー
協　　賛：ー
陳列品総件数：81件(うち国宝1件、重要文化財7件)
入館者数：18,609人(目標入場者数 ー人・達成率 ー%)
入場料金：ー

担当研究員数：3人

展覧会の内容：
本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション1点を含む優品81件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を2部構成とし、第1部では「武士の装い―武器・武具―」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第2部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

**展覧会名**：文化庁海外展　「The Power of Dogu」
会館期間：9月10日～11月22日（74日間）
会　　場：イギリス・大英博物館
主　　催：文化庁、大英博物館、東京国立博物館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列総件数：67件（うち国宝：3件　重要文化財：23件　重要美術品：2件）
入館者数：65,564人（目標入場者数　－万人・達成率　－%）
入場料金：－
担当研究員数　3名

展覧会の内容：
本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

**展覧会名**：文化庁海外展「侍の芸術」　Art of Samurai:Japanese Arms and Armor. 1156-1868
開会期間：21年10月20日～22年1月10日（69日間）
会　　場：アメリカ・メトロポリタン美術館2階「The Tisch Galleries」
主　　催：文化庁、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、東京国立博物館
後　　援：
協　　賛：
陳列総件数：209件（うち国宝34件　重要文化財60件　重要美術品6件）
入館者数：187,064人（12月31日現在）（目標入場者数　－万人・達成率　－%）
入場料金：入場料金　一般20$、シニア15$、学生10$、会員および12歳以下無料
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

**展覧会名**：海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」
開会期間：21年12月7日～22年3月8日（91日間）
会　　場：イタリア（ミラノ市）・パラッツォ・レアーレ
主　　催：イタリア・ミラノ市、モッタ社
特別協力：東京国立博物館・大阪市立美術館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列総件数：214件（うち国宝1件、重要文化財14件）
入館者数：47,192人（目標入場者数－人・達成率　－%）
入場料金：－
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展をたどるもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介した。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

## 【京都国立博物館】

### (1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

### (2)特別展等・共催展等

**展覧会名**：「開山無相大師650年遠諱記念　妙心寺」

会　　期：21年3月24日～5月10日(43日間)
入場者数：106,081人(目標入場者数 30,000人・達成率350.53%)
陳列件数(うち指定品数)：167件(54件)（国宝4、重文48、重美2)
主 催 者：京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社
講 演 会：6回　　参加者数合計 733人
・関連土曜講座
4月4日　妙心寺の古文書
羽田聡(学芸部研究員)
92人参加
4月11日　妙心寺の唐物
久保智康(学芸部企画室長)
96人参加
4月18日　妙心寺と狩野元信
山本英男(学芸部美術室長)
149人参加
4月25日　妙心寺屏風、友松･山楽絵画の輝き
山下善也(学芸部連携協力室長)
134人参加
5月 2日　白隠の禅と美術
福島恒徳氏(花園大学教授)
159人参加
5月 9日　妙心寺伝来うるし大特集
永島明子(学芸部主任研究員)
103人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

**展覧会名**：「シルクロード 文字を辿って－ロシア探検隊収集の文物－」

会　　期：7 月 14 日～9 月 6 日(48 日間)
入場者数：25,511人(目標入場者数 20,000人・達成率 127.55%)
陳列件数(うち指定品数)：128件(0件)
主 催 者：京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所
講 演 会：6回　　参加者数合計　895人
・関連土曜講座
7月11日　ロシア科学アカデミー東洋写本研究所のコレクション
イリナ・ポポヴァ氏(ロシア科学アカデミー東洋写本研究所長)
92人参加
7月18日　ロシア探検隊収集の仏典
松田和信氏(仏教大学教授)/ 赤尾栄慶(学芸部副部長)
131人参加
7月25日　中央アジアの諸言語
吉田豊氏(京都大学教授)
168人参加
8月22日　ロシアの中央アジア探検隊所獲品日本学者
高田時雄氏(京都大学教授)
128人参加
8月29日　西夏文字の世界
荒川慎太郎氏(東京外国語大学准教授)
197人参加
・関連夏期講座
7月31日　「文字文化のひろがり―「シルクロード文字を辿って」によせて―」
赤尾栄慶(学芸副部長)
ハートピア京都大会議室　179人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

**展覧会名**：「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」

会　　期：10 月 10 日～11 月 23 日(39 日間)
入場者数：88,187人(目標入場者数 30,000人・達成率293.95%)
陳列件数(うち指定品数)：203件(65件)
主 催 者：京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社
講 演 会：5回　　参加者数合計　954人
・関連土曜講座
10月17日　京都日蓮法華宗ことはじめ
中尾堯氏(立正大学名誉教授)
187人参加
10月31日　天文法華の乱と戦国京都
河内将芳氏(奈良大学教授)
183人参加
11月 7日　樂・光悦・乾山－日蓮法華宗とやきもの作り－
尾野善裕(学芸部工芸室長)
162人参加

11月21日　日蓮法華宗美術試論
大原嘉豊(学芸部研究員)
134人参加
・国際シンポジウム
11月14日　法華の人と文化―その行動と思想―　京都市勧業館みやこめっせ　288人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

**展覧会名**：「THE ハプスブルク」
会　期：22年1月6日～3月14日(60日間)
入場者数：247,078人(目標入場者数 50,000人・達成率 494.16%)
陳列件数(うち指定品数)：116件(0件)
主 催 者：京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送
講 演 会：4回　参加者数合計　676人
・関連土曜講座
22年
1月23日　明治天皇からの贈り物－画帖と蒔絵と金魚鉢－
永島明子(企画室主任研究員)
137人参加
2月 6日　ハプスブルク・コレクションの歴史－ルドルフ2世から世紀末へ－
千足伸行氏(成城大学教授)
190人参加
2月13日　工芸のシンクロールネサンス期のハプスブルク工芸と日本－
久保智康(企画室長)
181人参加
2月27日　ウィーンから里帰り！明治2年の日本画帖
山下善也(連携協力室長)
168人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

**展覧会名**：「日本の美　国宝との出会い」
会　期：10月2日～11月8日(33日間)
入場者数：30,366人(目標入場者数 20,000人・達成率 151.83%)
陳列件数(うち指定品数)：35件(23件)（国宝9、重文13、重美1）
主 催 者：「日本の美　国宝との出会い展」実行委員会（北日本新聞社、富山県水墨美術館）（特別協力：京都国立博物館）
講 演 会：1回　参加者数合計　80人
・関連講座
10月25日　京都国立博物館と所蔵品
羽田聡(企画室研究員)
富山県立水墨美術館映像小ホール　80人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

## 【奈良国立博物館】

### (1)平常展

①開館日数：305日(平常展のみの開館日数：201日)陳列件数：　717件
②陳列替回数：8回(本館 4回、西新館 2回、東新館2回)

| | 名称 | 会期 | 陳列件数（うち指定品件数） |
|---|---|---|---|
| 特別陳列 | 「おん祭と春日信仰の美術」 | 12月8日～22年1月17日 | 64件（15件） |
| | 「お水取り」 | 22年2月6日～3月14日 | 68件（18件） |
| 特集展示 | 「とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像－」 | 21年1月14日～5月17日 | 2件（ 0件） |
| | 「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」 | 9月15日～10月4日 | 12件（ 0件） |
| | 「南北朝・室町時代の彫刻」 | 12月1日～22年2月14日 | 11件（ 0件） |
| 平常展 | 仏教美術の名品「注目の逸品」 | 5月19日～2月14日 | 1件（1件） |
| | 仏教美術の名品「注目の逸品」 | 6月9日～7月5日 | 4件（2件） |
| | 仏教美術の名品「注目の逸品」 | 9月15日～10月4日 | 4件（2件） |

### (2)特別展・共催展等

**展覧会名**：特別展「唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展」
会　期：4月4日～5月24日
入場者数：93,779人(目標入場者数 35,000人・達成率267. 9%)
陳列件数(うち指定品数)：74件(48件)
講演会：7回　参加者数合計　949人
公開講座

| 期日 | 講座名 | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 4月11日 | 「恭結来縁」 | 松浦　俊海(律宗総本山唐招提寺長老) | 108人 |
| 4月18日 | 「鑑真和上と日本文化」 | 東野　治之(奈良大学教授) | 197人 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4月25日 | 「鑑真和上の教え」 | 西山　明彦(律宗総本山唐招提寺執事) | 126人 |
| 5月 9日 | 「唐招提寺金堂の当初復元案<br>ー解体調査より判明したことー」 | 田中　泉(奈良県文化財保存事務所主査) | 136人 |
| 5月23日 | 「鑑真和上像と唐招提寺の仏像」 | 稲本　泰生(学芸部企画室長) | 197人 |

サンデートーク

| 期日 | テーマ | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 4月19日 | 「唐招提寺2010プロジェクト<br>その10年の道のり」 | 松田　幸雄(ＴＢＳ事業局担当局長) | 90人 |
| 5月17日 | 「唐招提寺の古文書について」 | 野尻　忠(学芸部研究員) | 95人 |

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

**展覧会名**：特別展「聖地寧波　日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～」

会　　期：7月18日～8月30日
入場者数：30,548人(目標入場者数 30,000人・達成率101. 8%)
陳列件数(うち指定品数)：175件(84件)
講演会：6回　　参加者数合計　673人

公開講座

| 期日 | 講座名 | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 7月25日 | 「清凉寺釈迦如来像と東アジア<br>の釈迦信仰」 | 稲本　泰生(学芸部企画室長) | 143人 |
| 8月 1日 | 「泉涌寺僧と普陀山信仰<br>ー観音菩薩坐像の請来理由」 | 西谷　功(泉涌寺宝物館学芸員) | 104人 |
| 8月15日 | 「憧憬の中国仏教ー聖地寧波を<br>めぐる人と美術」 | 谷口　耕生(学芸部保存修理指導室長) | 150人 |
| 8月22日 | 「飛帆馳船ー蒼波をこえた人々」 | 藤田　明良(天理大学国際文化学部教授) | 95人 |

サンデートーク

| 期日 | テーマ | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 7月19日 | 「阿育王寺の仏舎利信仰と日本」 | 内藤　栄(学芸部部長補佐) | 99人 |
| 8月16日 | 「貿易陶磁からみる寧波と日本」 | 吉澤　悟(学芸部教育室長) | 82人 |

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

**展覧会名**：特別展「第61回正倉院展」

会　　期：10月24日～11月12日
入場者数：299,294人(目標入場者数 180,000人・達成率166. 2%)
陳列件数：66件
講演会：4回　　参加者数合計　473人

公開講座

| 期日 | 講座名 | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 10月24日 | 「正倉院の宝飾鏡」 | 成瀬　正和(宮内庁正倉院事務所保存課長) | 112人 |
| 10月25日 | 「金銀花盤をめぐって」 | 稲垣　肇(MIHO MUSUEUM 学芸部副部長) | 73人 |
| 11月 3日 | 「正倉院木工品と木彫の成立」 | 鈴木　喜博(学芸部上席研究員) | 95人 |
| 11月 7日 | 「光明皇后の楽毅論について」 | 西山　厚(学芸部長) | 193人 |

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

## 【九州国立博物館】

### (1)平常展

①開館日数：313 日(うち平常展のみ開館日数 98 日)
②陳列件数：2,106 件(うち国宝 63 件　重要文化財 157 件)
③陳列替回数：431 回

| トピック展示名称 | 会期 | 陳列件数(うち指定品件数) |
|---|---|---|
| 「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」 | 2009年2月24日(火)～5月 6日(水・祝) | 207件(うち国宝0件、重文0件) |

| トピック展示名称 | 会期 | 陳列件数(うち指定品件数) |
|---|---|---|
| 「特別展「古代九州の国宝」関連企画　有明の縄文文化－東名遺跡が語るものー」 | 9月3日(木)～12月20日(日) | 29件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「玄界灘の海人・壱岐」 | 9月29日(火)～12月20日(日) | 24件(うち国宝0件、重文13件) |
| 「はにわが絵本になっちゃった」 | 2010年1月1日(金・祝)～3月28日(日) | 47件(うち国宝0件、重文7件) |
| 「国指定史跡牛頸須恵器窯跡とその世界」 | 2010年1月1日(金・祝)～1月31日(日) | 60件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「進化する博物館II　みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない」 | 2010年2月9日(火)～3月28日(日) | 17件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「アジアの工芸　ベトナム陶磁」 | 2009年3月31日(火)～5月10日(日) | 28件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「中世の造形－鎌倉～室町時代の日本工芸」 | 6月24日(水)～8月2日(日) | 29件(うち国宝0件、重文3件) |
| 「東南アジアの美術」 | 8月　5日(水)～9月23日(水・祝) | 29件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「茶の湯を楽しむⅡ」 | 9月26日(土)～11月　8日(日) | 26件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「祈りの山　宝満山」展 | 11月13日(金)～12月20日(日) | 55件(うち国宝0件、重文8件) |
| 「ベトナムの陶磁」 | 2010年1月1日(金・祝)～2月14日(日) | 47件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「巨大掛軸をめぐる文化交流」 | 2010年2月21日(日)～3月28日(日) | 12件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「天にささげる器」 | 2008年9月14日(日)～2010年3月14日(日) | 36件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「屏風の輝き」 | 2009年3月4日(水)～4月12日(日) | 11件(うち国宝0件、重文2件) |
| 「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅰ期」 | 4月15日(水)～5月24日(日) | 24件(うち国宝22件、重文2件) |
| 「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅱ期」 | 5月27日(水)～7月5日(日) | 43件(うち国宝18件、重文14件) |
| 「多彩な江戸文化～京都で活躍した絵師たち～」 | 7月8日(水)～8月16日(日) | 14件(うち国宝0件、重文1件) |
| 「長崎の興福寺」 | 8月19日(水)～9月27日(日) | 13件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「新収品'05-'08」 | 9月30日(水)～11月8日(日) | 48件(うち国宝0件、重文1件) |
| 「お姫様の婚礼道具」 | 11月11日(水)～2010年 1月31日(日) | 34件(うち国宝0件、重文0件) |
| 「江戸の風俗画」 | 2010年2月3日(水)～3月14日(日) | 11件(うち国宝0件、重文0件) |

**(2)特別展・共催展等**

展覧会名：特別展「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」

会　　期：4月11日～6月14日(58日間)
入場者数：140,917人(目標入場者数 100,000人・達成率141%)
陳列件数(うち指定品数)：123件(36件 但し中国国家一級文物)
講演会：2回　参加者合計 630人
記念講演会等

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 4月25日 | 記念講演会「チベットの青い空－カイラス巡礼記」 | 作家・椎名誠氏 | 330人 |
| 5月9日 | 講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」 | タンカ絵師・ウゲン・ナムゲン氏 | 14人 |
| 5月23日 | 記念講演会「チベット密教の世界」 | 京都大学名誉教授・曾布川寛氏 | 300人 |

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「興福寺創建1300年記念　国宝　阿修羅展」

会　　期：7月14日～9月27日(68日間)
入場者数：711,154人(目標入場者数 120,000人・達成率592%)
陳列件数(うち指定品数)：66件(64件)
講演会： 3回　参加者合計 675人
記念講演会等

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 8月 2日 | 記念講演会「国宝　阿修羅像について」 | 興福寺国宝館館長・金子啓明氏 | 270人 |
| 8月23日 | 記念講演会「阿修羅像と光明皇后」 | 奈良大学・東野治之氏 | 240人 |
| 9月20日 | 記念講演会「興福寺創建と天平文化」 | 興福寺貫首・多川俊映氏 | 165人 |
| 7月18日・8月1日・8日・15日・22日・9月12日・19日・26日 | 講座「天平の文化空間の再構成」 | 興福寺僧侶 | 計1,078人 |

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「古代九州の国宝」

会　　期　10月20日～11月29日(37日間)
入場者数：72,741人(目標入場者数 30,000人・達成率241%)
陳列品総件数(うち指定品数)：400件(27件)
講演会：　0回
記念講演会等

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 11月 8日 | シンポジウム「邪馬台国はここにあった」 | 桜井市教育委員会・橋本輝彦氏<br>佐賀女子短期大学・高島忠平氏<br>大阪歴史学会・井上修一氏<br>歴史研究家・鷲崎弘朋氏<br>同　矢野壽一氏<br>同　福嶋正日子氏 | 330人 |
| | セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」 | 工芸作家・池村茂氏 | 32人 |

11月15日 シンポジウム「装飾古墳と科学」　福岡県教育委員会・吉田東明氏
明日香村教育委員会・相原嘉之氏
泉崎村教育委員会・嶋村一志氏
東京文化財研究所・朽津信明氏
国士舘大学・沢田正昭氏　200人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「京都妙心寺 ー禅の至宝と九州・琉球ー」

会　　期　平成22年1月1日～2月28日(52日間)
入場者数：　130,231 人(目標入場者数　80,000人・達成率 163 %)
陳列品総件数：124件(39件)
記念講演会等

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 1月10日 | 記念講演会「妙心寺と九州・琉球」 | 花園大学・竹貫元勝氏 | 166人 |
| 1月11日 | 法話「禅ー修行道場の生活」 | 梅林寺・東海大玄氏 | 120人 |
| 1月16日 | 特別講演会「龍の背に乗る」 | 作家、福聚寺住職・玄侑宗久氏 | 317人 |
| 1月17日 | 記念講演会「白隠の禅画について」 | 花園大学・芳澤勝弘氏 | 134人 |

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

**(参考)**

## 【平城宮跡資料館】※平成21年6月より改修工事のため閉館。本庁舎にガイダンスコーナーを設置。

### (1)平常展

①平城宮跡資料館　　開館日数：53日　陳列件数：908件　陳列替回数：0回
　ガイダンスコーナー 開館日数：152日
②特集陳列等　2件

| | 名称 | 会期 | 陳列件数(うち指定品件数) |
|---|---|---|---|
| 特別企画展 | 地下の正倉院展ー二条大路木簡の世界ー | 10月20日～11月29日 | 81件（0件） |
| 発掘調査速報 | 平城宮第一次大極殿院中庭広場（454次調査） | 8月3日～開催中 | 7件（0件） |

## 【藤原宮跡資料室】

### (1)平常展

①開館日数：240日　陳列件数：658件　陳列替回数：0回
②特集陳列等　10件

| | 名称 | 会期 | 陳列件数(うち指定品件数) |
|---|---|---|---|
| 発掘調査の速報展 | 石神遺跡（156次）土器、瓦 | 4月 6日～ 9月 2日 | 33件（0件） |
| | 藤原宮朝堂院朝庭部（153次）運河出土土器、土馬 | 4月 6日～ 6月30日 | 6件（0件） |
| | 甘樫丘東麓遺跡（157次）土器 | 7月 2日～11月20日 | 39件（0件） |
| | 檜隈寺（159次）L字形竈写真、土器、瓦 | 10月 5日～11月20日 | 11件（0件） |
| | 藤原宮大極殿院回廊（160次）出土瓦 | 12月 8日～ 3月31日 | 11件（0件） |
| 特別公開 | 『高松塚古墳壁画2006』上映 | 6月 1日～ 7月31日 | 1件（0件） |
| | 甘樫丘東麓遺跡（157次）石垣のパノラマ写真 | 9月17日～11月20日 | 1件（0件） |
| | 「木簡から古代人を垣間見る」左京七条一坊西南坪出土木簡（115次） | 11月24日～12月7日 | 1件（0件） |
| | 藤原宮大極殿院南門土層剝ぎ取り資料（148次） | 12月 8日～ 3月31日 | 2件（0件） |
| | 甘樫丘東麓遺跡（157次）、檜隈寺(159次）土器 | 12月18日～ 3月31日 | 56件（0件） |

## 【飛鳥資料館】

### (1)平常展

①開館日数：340日　陳列件数：347件　陳列替回数：4回
②特集陳列等 0件

### (2)特別展等・共催展等

**展覧会名**：春期特別展「キトラ古墳壁画四神ー青龍白虎ー」

会　期：4月17日～6月21日
入場者数：41,242人
陳列件数（うち指定品数）：20件（3件）
主催者：文化庁・奈良文化財研究所
文化庁主催講演会：1回　　参加者数合計170人

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) |
|---|---|---|
| 5月16日 | 「ラスコー洞窟壁画の保存」 | 三浦定俊氏（（財）文化財害虫研究所理事長） |
| | 「キトラ古墳のこの一年」 | 川野辺渉氏（東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長） |

**展覧会名**：「甦るクメール文明ー世界文化遺産アンコール遺跡群ー」

会　期：　8月1日～8月30日
入場者数：3,824人
陳列件数（うち指定品数）：150件（0件）
主催者：奈良文化財研究所

講演会：1回　　参加者数合計58人

**展覧会名**：「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」

会　期：　10月16日～　11月29日
入場者数：11,006人
陳列件数（うち指定品数）：53件（50件）
主催者：奈良文化財研究所・中国遼寧省文化庁
講演会：1回　　参加者数合計127人

| 期日 | 講演会名 | 講師(所属) | 参加者数 |
|---|---|---|---|
| 10月17日 | 「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」 | 町田　章氏（元奈良文化財研究所長）<br>田　立坤氏（遼寧省文物考古研究所長） | 127人 |

**展覧会名**：「飛鳥の考古学2009」

会　期：　22年1月22日～　2月28日
入場者数：2,448人
陳列件数（うち指定品数）：84件（0件）
主催者：奈良文化財研究所

附属資料

# 平成21年度特別展アンケート結果

**東京国立博物館**

1．特別展「国宝　阿修羅展」
2．特別展「STRORY OF … カルティエクリエイション～めぐり逢う美の記憶」
3．特別展「染付－藍が彩るアジアの器」
4．特別展「伊勢神宮と神々の美術」
5．特別展「皇室の名宝－日本美の華」
6．特別展「国宝　土偶展」
7．特別展「長谷川等伯」

**京都国立博物館**

8．特別展「妙心寺」
9．特別展「シルクロード　文字を辿って　－ロシア探検隊収集の文物－」
10．特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」
11．特別展「THE　ハプスブルク」

**奈良国立博物館**

12．特別展「国宝　鑑真和上展」
13．特別展「聖地寧波－日本仏教1300年の源流」
14．特別展「第61回正倉院展」

**九州国立博物館**

15．特別展「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」
16．特別展「国宝　阿修羅展」
17．特別展「古代九州の国宝展」
18．特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」

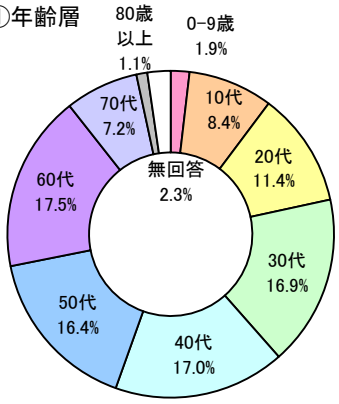
東京国立博物館

# 特別展「国宝　阿修羅展」
# アンケート集計結果

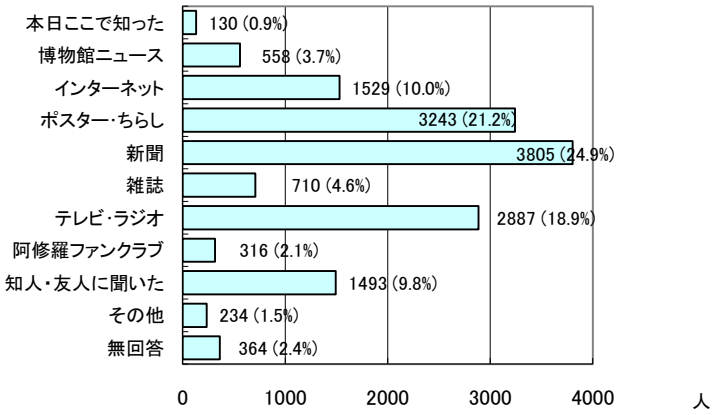
開催期間：平成２１年３月３１日（火）～６月７日（日）

回答者数：８，８０４人（総入館者数：９４６，１７２人　アンケート回収率：０．９３%）

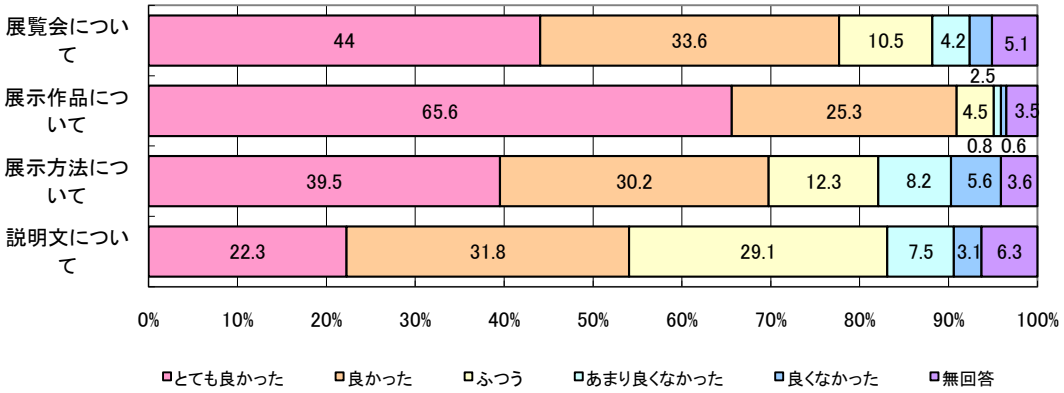
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見･感想

・阿修羅像などを360度から見ることができて感動した。
・阿修羅像の素晴らしさ、美しさ、迫力ある姿に感動した。会えて嬉しかった。
・展示方法に工夫があり素晴らしかった。
・照明が美しく素晴らしかった。照明の当て方に工夫があり上手だった。
・混雑しすぎで作品がよく見えず、ゆっくり鑑賞することができなかった。
・導線(動線)が悪い。スムーズに見られるように誘導方法や順路を工夫してほしい。

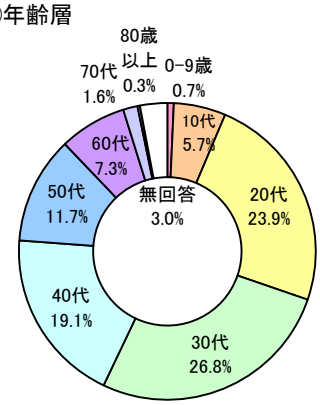
東京国立博物館

# 特別展「Story of…」カルティエクリエイション
# アンケート集計結果

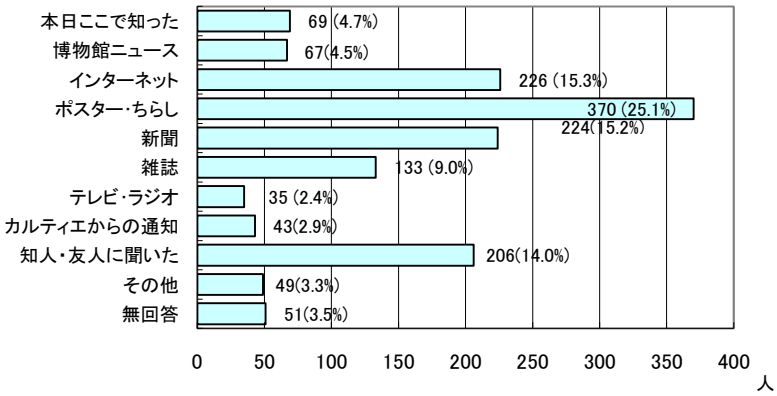
開催期間：平成２１年３月２８日（土）～５月３１日（日）

回答者数：１，１４６人（総入館者数：１２０，４８３人　アンケート回収率：０．９５%）

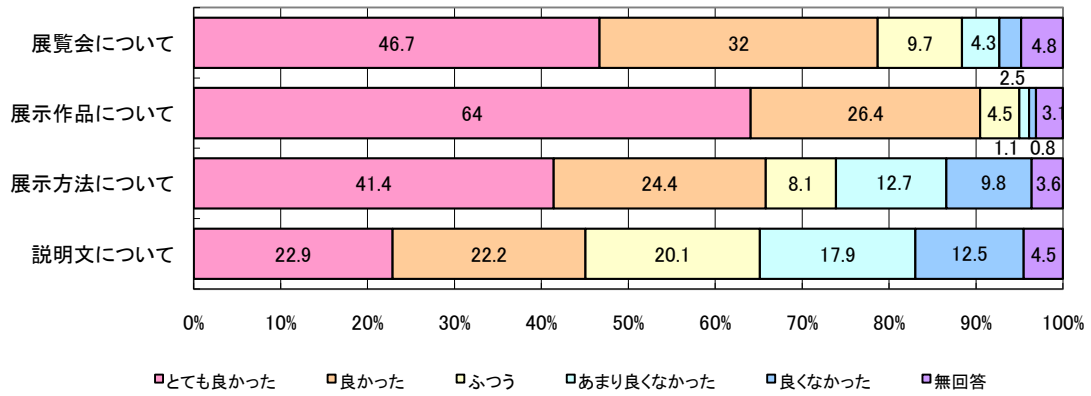
①年齢層




②認知経路(複数回答)




③展示に関する満足度




④主な意見･感想

・とても素晴らしい内容の展覧会だった。
・吉岡徳仁氏の演出･監修が素晴らしく、魅せられた。
・映像の見せ方が素晴らしく、とても面白かった。
・キラキラ輝く宝石がとても美しくて感動した。
・照明が暗いので、作品やキャプション、目録の文字が見づらかった。
・宝石の材質･所有者･由来などの説明が不足している。

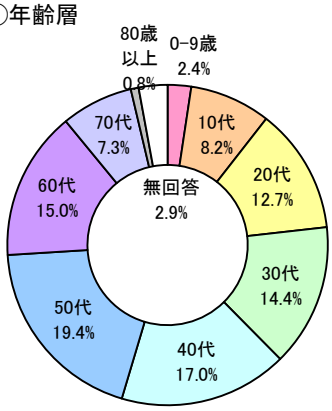
東京国立博物館

# 特別展「 染 付 － 藍が彩るアジアの器 」
# アンケート集計結果

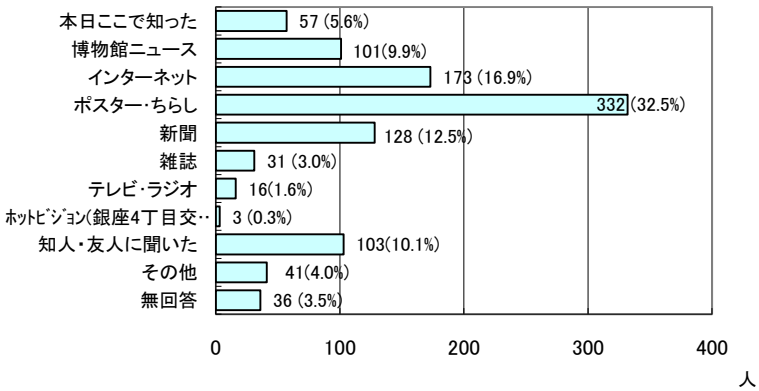
開催期間：平成２１年７月１４日（火）～９月６日（日）

回答者数：７５８人（総入館者数：５２，７３１人　アンケート回収率：１．４４%）

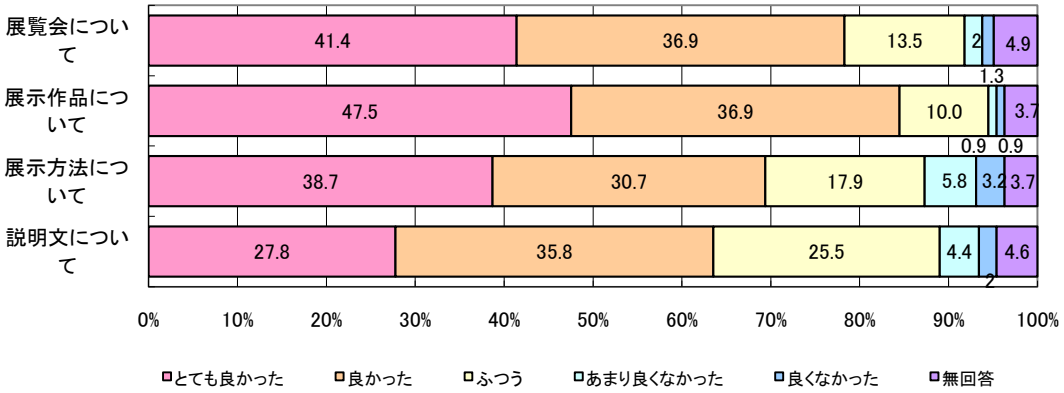
①年齢層




②認知経路(複数回答)




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

・「生活の美を生かす」コーナーが良かった。器の実用例を取り入れた展示が面白かった。
・素晴らしい展示内容で楽しむことができた。
・ハンズオンコーナーがとても良かった。実際に手で触ると違いが分かりやすかった。
・染付についての理解が深まった。
・鏡を使うなどして、見えないところが見えるように工夫してほしい。(高台・器の内側など)
・器の内側の絵柄(見込み)が見えにくいので、もっと低い位置で展示してほしい。

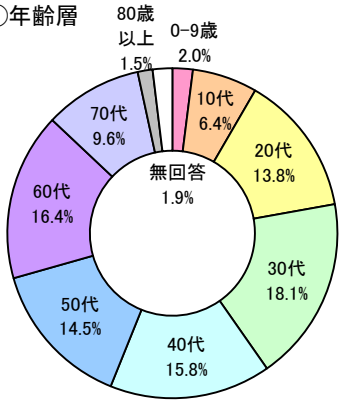
東京国立博物館

# 特別展「 伊勢神宮と神々の美術 」
# アンケート集計結果

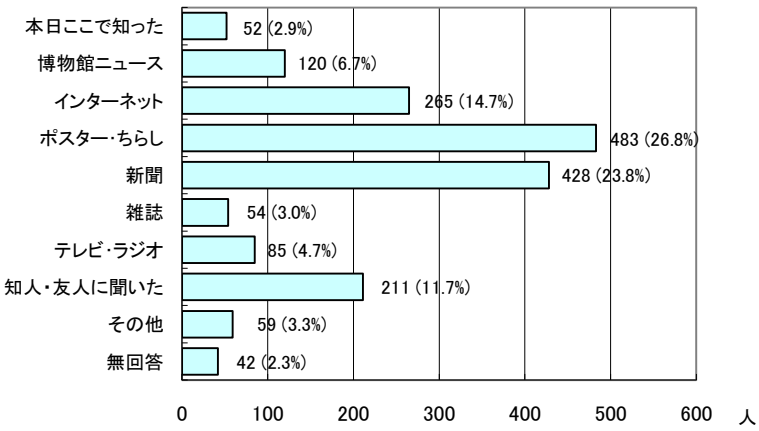
開催期間：平成２１年７月１４日（火）～９月６日（日）

回答者数：１，３０３人（総入館者数：１１４，７９６人　アンケート回収率：１．１４%）

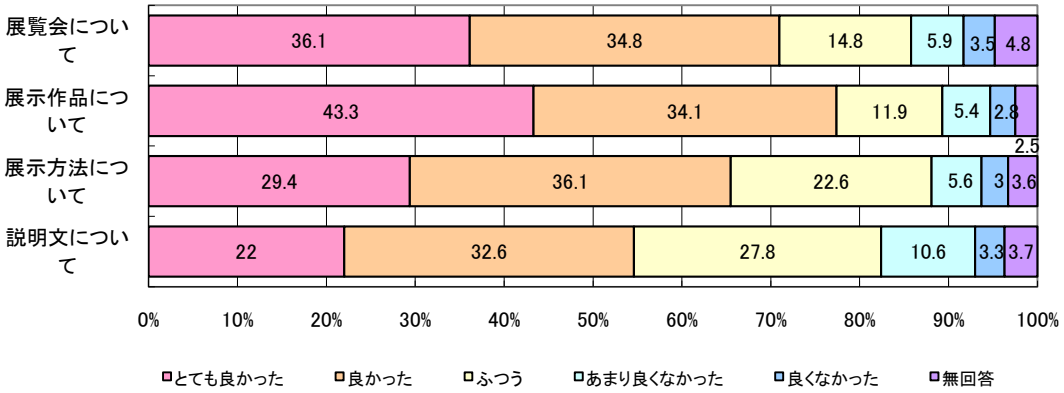
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見･感想

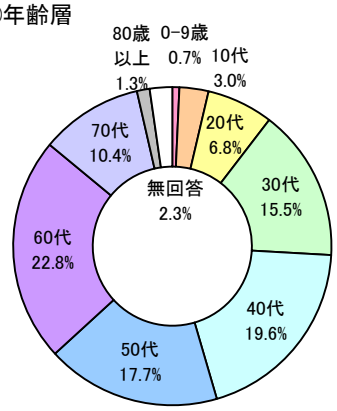
・とても素晴らしい展覧会で感動した。
・普段見ることができない貴重な品々を見ることができ感激した。
・日本の歴史や宗教、伊勢神宮について学ぶことができた。
・美輪明宏さんのガイドが雰囲気と合ってとても良かった。
・展示作品数が少ない。ボリュームに欠け物足りない。
・難解で面白くなかった。期待外れ。

**東京国立博物館**

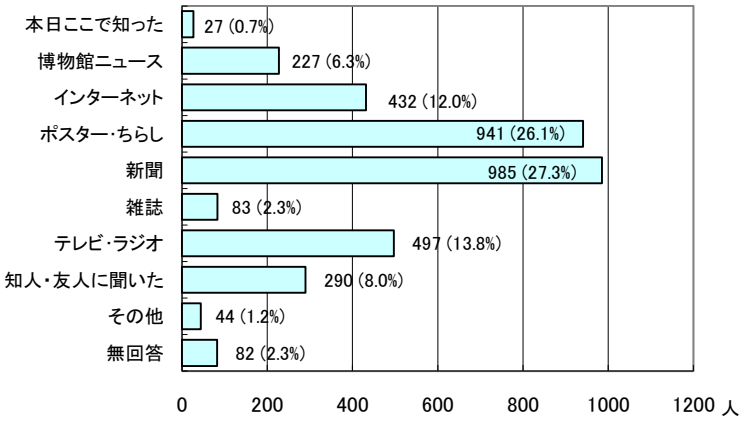
# 特別展「 皇室の名宝 － 日本美の華 」
# アンケート集計結果

開催期間：平成２１年１０月６日(火) ～ １１月２９日(日)
《1期》平成２１年１０月６日（火）～１１月３日（火・祝）
《2期》平成２１年１１月１２日(木) ～１１月２９日(日)
回答者数：２，２３６人（総入館者数：４４７，９４４人　アンケート回収率：０．５０%）

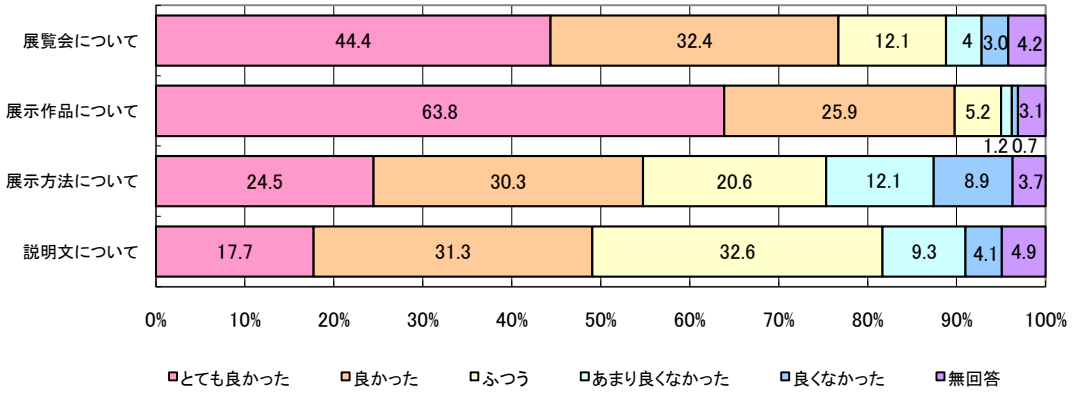
①年齢層




②認知経路(複数回答)




③展示に関する満足度



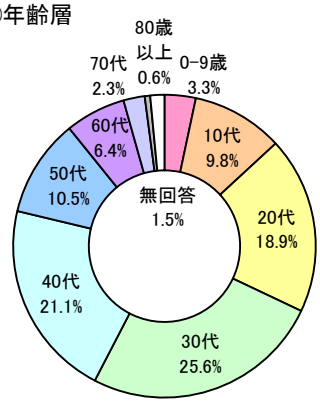

④主な意見・感想
（1期）
・とても良かった。素晴らしかった。感動した。見応えがあった。
・伊藤若冲の『動植綵絵』の素晴らしさに感動。30幅全て見ることができて嬉しい。
・混雑しすぎで人の頭しか見えない。人の流れが悪い。疲れた。
（2期）
・展示作品が素晴らしくとても感動した。
・なかなか見ることができない貴重なものを見ることができて感動した。
・作品の展示位置が低すぎて後方からだと見えない。もっと展示位置を高くしてほしい。

東京国立博物館

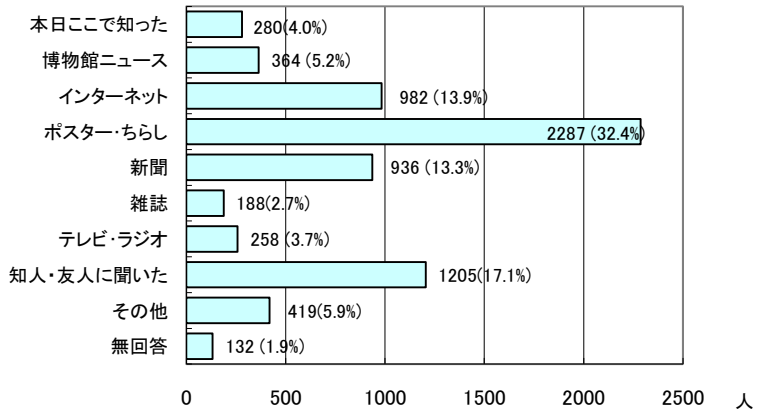
# 特別展「 国宝 土偶展 」
# アンケート集計結果

開催期間：平成２１年１２月１５日（火）～平成２２年２月２１日（日）（５６日間）
回答者数：６，０３２人（総入館者数：１２８，２８５人　アンケート回収率：４．７０％）

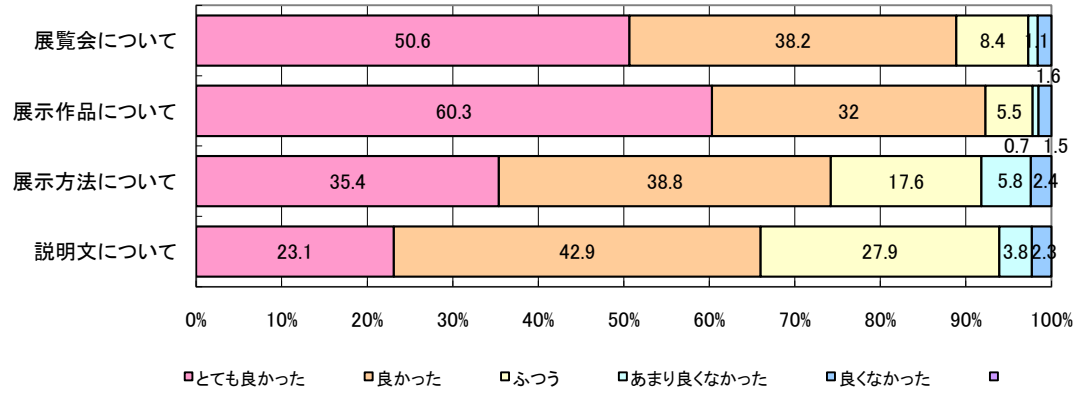
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

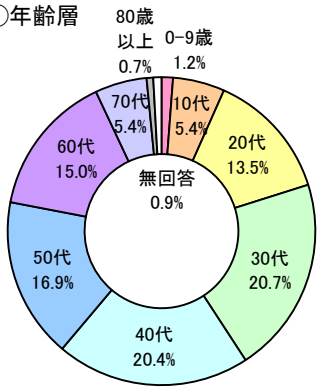
・土偶の正面だけでなく、裏側まで見ることができて良かった。
・とても良かった。面白かった。素晴らしかった。凄かった。
・縄文時代の人々の芸術性・精神性の素晴らしさに驚き、感動した。
・一度にたくさんの土偶を見ることができて良かった。
・展示会場が狭かった。もっとゆったりした場所で見たかった。
・もっと詳しい説明がほしかった。(なぜ国宝・重文に指定されたのか、当時の暮らしぶりはどうだったのか、など。)
・説明文の文字が小さくて読みづらい。

東京国立博物館

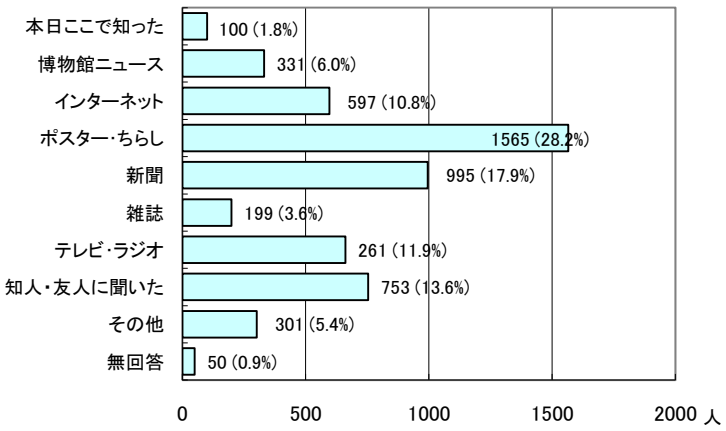
# 特別展「 長谷川等伯展 」
# アンケート集計結果

開催期間：平成２２年２月２３日（火）～平成２２年３月２２日（月）（２５日間）
回答者数：４，３１８人（総入館者数：２９２，５２６人　アンケート回収率：１．４８％）

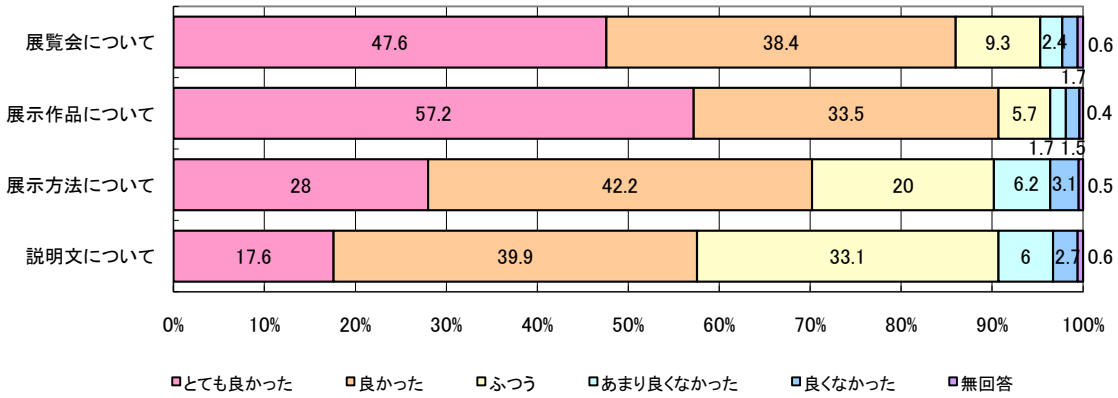
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

・素晴らしい内容の展覧会だった。とても良かった。
・長谷川等伯の作品をまとめて見ることができて良かった。
・『松林図屏風』の素晴らしさに感動した。
・長谷川等伯への理解が深まった。等伯の良さに気付くことができた。
・展示方法に工夫がないので見づらかった。展示の仕方が不親切だ。
・屏風の作品の前では柵やロープを張り、離れた所から鑑賞できるようにしてほしい。
・説明文の文字が小さい。もっと文字を大きくすれば、後ろからでも読むことができる。

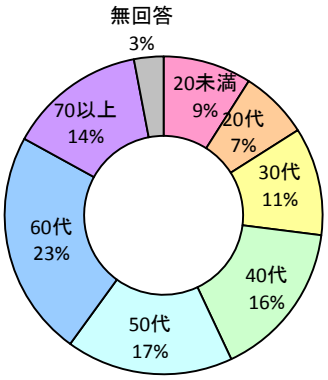
京都国立博物館

# 特別展覧会「妙心寺」

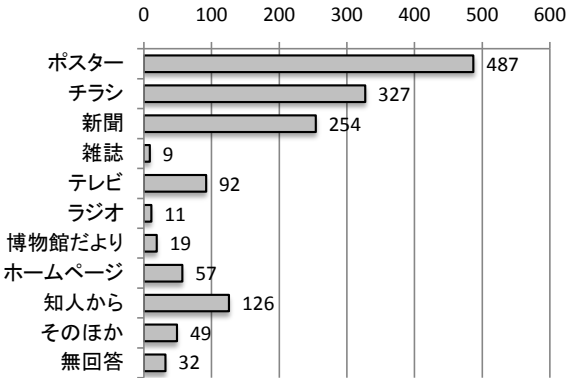
# アンケート集計結果

開催期間：3月24日（火）～5月10日（日）

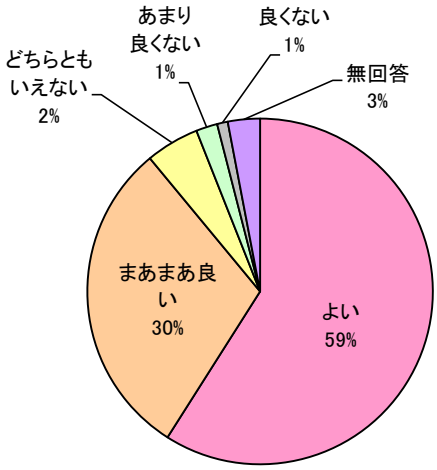
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

・HPやポスター・チラシの作品は通期で見せてほしい。（同様48件）
・楽しかった、感動した。（同様43件）
・勉強になった。（同様28件）
・作品に何が書いてあるのかもう少し分かるようにしてほしい。（同様27件）
・通常非公開の作品が見られてよかった（同様22件）
・展示作品が多くてよかった（同様21件）

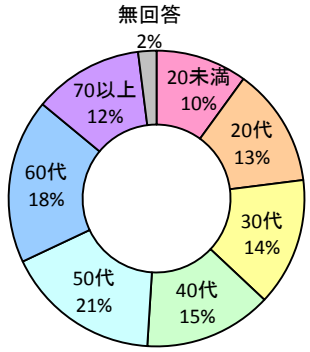
京都国立博物館

# 特別展覧会「シルクロード−文字を辿って−」

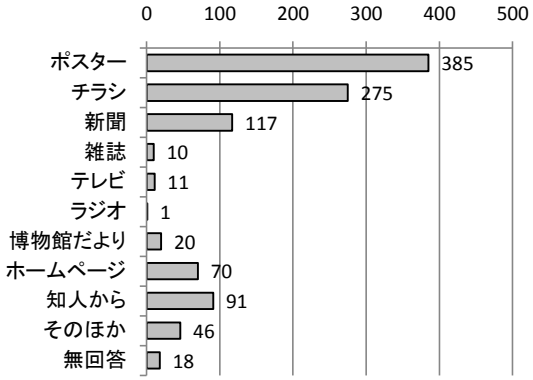
# アンケート集計結果

開催期間：7月14日（火）～9月6日（日）

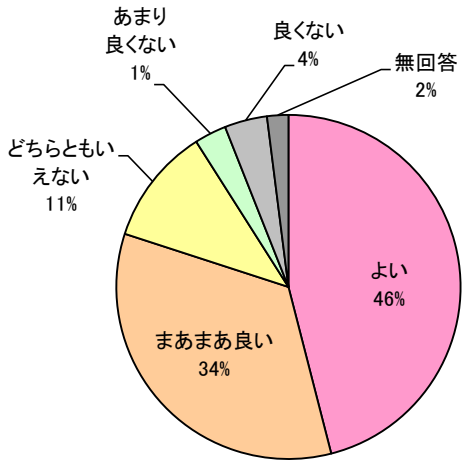
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

・貴重なものが見られた。（同様38件）
・楽しかった、感動した。（同様28件）
・作品に何が書いてあるのかもう少し分かるようにしてほしい。（同様26件）
・勉強になった。（同様25件）
・興味がわかなかった。（同様21件）
・色々な文字を見ることができてよかった。（同様16件）
・専門用語が分からない。（同様16件）

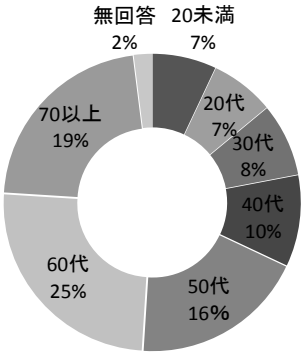
京都国立博物館

# 特別展覧会「日蓮と法華の名宝」

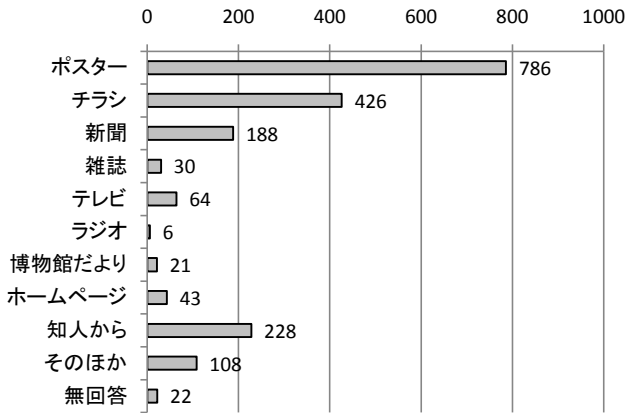
# アンケート集計結果

開催期間：10月10日（土）～11月23日（月・祝）
回答者数：1,056人（総入館者数　88,187人　アンケート回収率 1.2%）

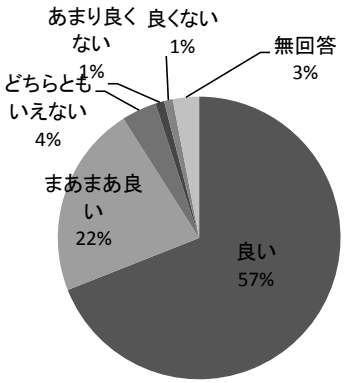
①年齢層




②認知経路（複数回答）




③展示に関する満足度




④主な意見・感想

・楽しかった、感動した。（同様192件）
・勉強になった。（同様90件）
・通常非公開の作品が見られてよかった。（同様68件）
・作品が多くてよかった。（同様35件）
・展示の構成がよく、理解の助けになった。（同様28件）
・暗けて作品や解説が見えづらい。（同様16件）
・音声ガイドが分りやすくてよかった。（同様16件）

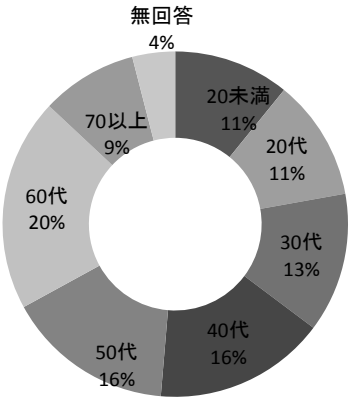
京都国立博物館

# 特別展覧会「THE ハプスブルク」

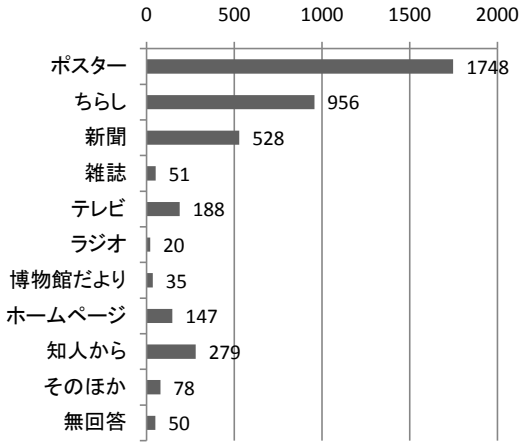
# アンケート集計結果

開催期間 平成２２年１月６日（水）～３月１４日（日）
回答者数：2,020人（総観覧者数 247,078人　アンケート回収率 0.80%）

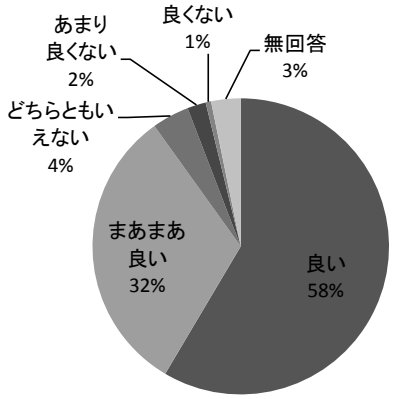
①年齢層




②認知経路(複数回答)




③展示に関する満足度



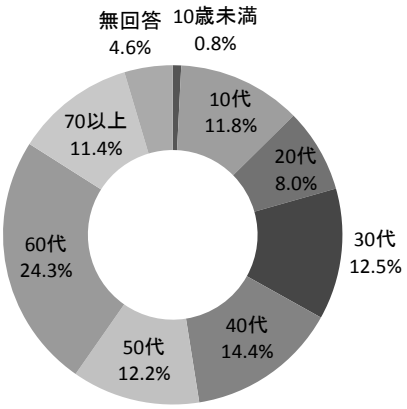

④主な意見・感想
建物が素晴らしかった…64
楽しかった、感動した…40
係員の対応が親切だった…18
鑑賞しやすかった…16
混雑していてゆっくり見られなかった…46
照明が反射して、見づらい作品があった…16
解説の文字が見づらかった…12

奈良国立博物館

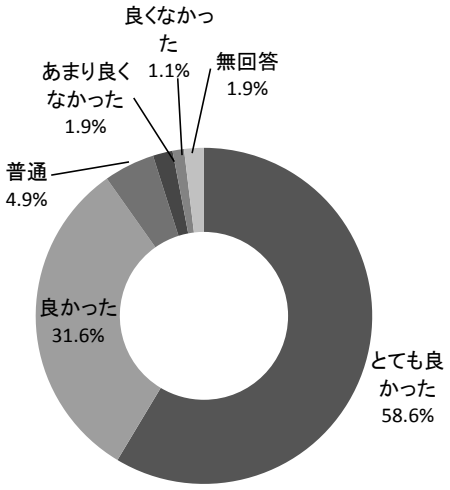
# 特別展 「国宝　鑑真和上展」
## アンケート集計結果

開催期間:4月4日～5月24日(45日間)
回答者数:263人　　回収率0.3%

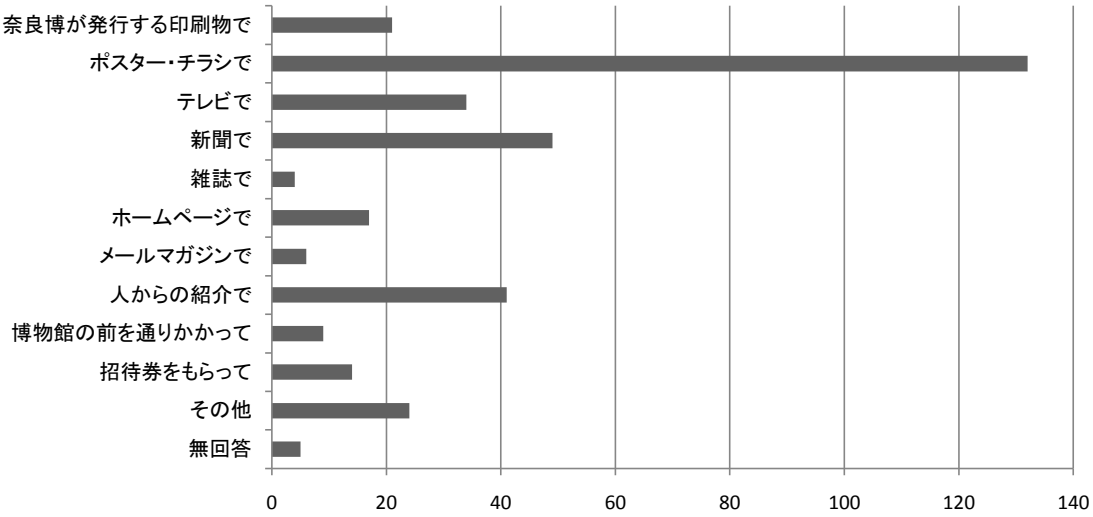
①年齢層□




③展示に関する満足度□




②認知経路(複数回答)□



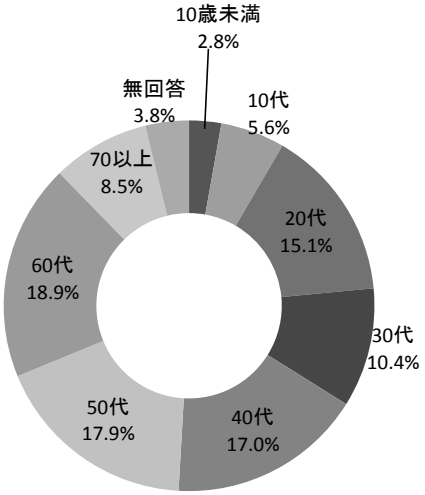

④主な意見・感想
・照明が良かった。尊像が映える明るさやった。
・ゆったりした場所で解説も読みやすく、上等に鑑賞できた。
・数多くの展示品が見られて良かったです。障壁画も近くて見られた事は唐招提寺に行っても見られないので、いい展示の
・音声ガイドが判りやすくて良かった。

**奈良国立博物館**

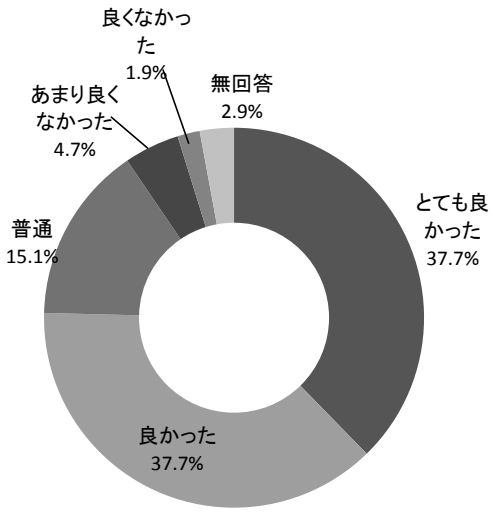
# 特別展 「聖地寧波」展
## アンケート集計結果

開催期間:7月18日～8月30日(44日間)
回答者数:106人　　回収率0.3%

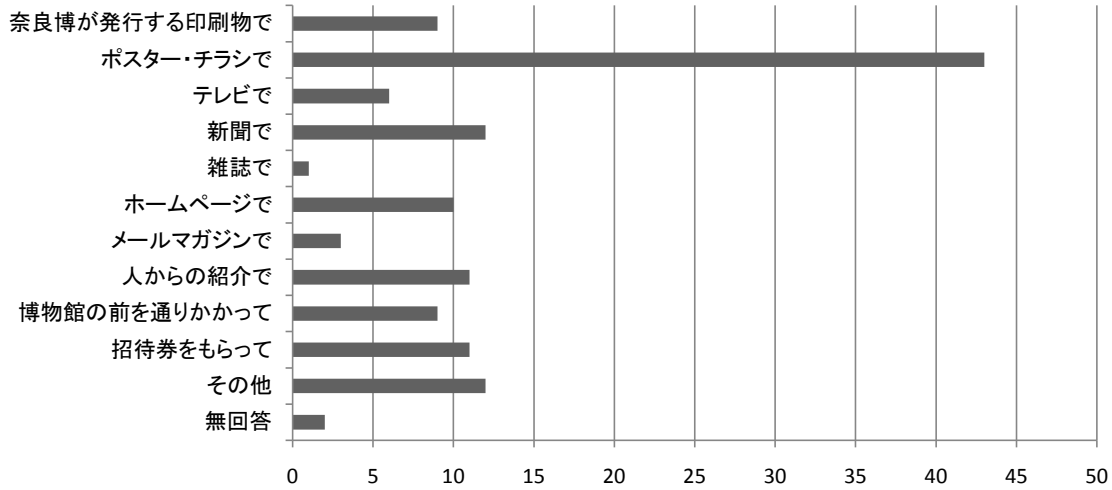
①年齢層□




③展示に関する満足度□




②認知経路(複数回答)□



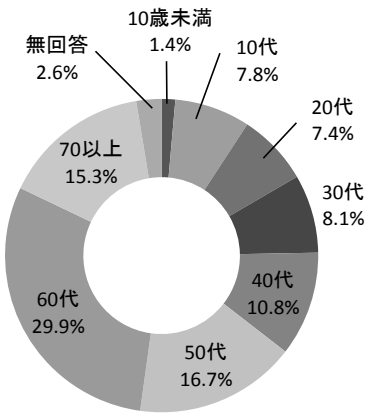

④主な意見・感想
・聞き慣れない地名も、最初に地図や写真での解説があり、イメージしやすかったです。
・仏教による日中の交流について理解できた。
・五百羅漢の銘文に感銘を受けた。
・雰囲気が非常に落ち着いていて良かった。心がなごむ

**奈良国立博物館**

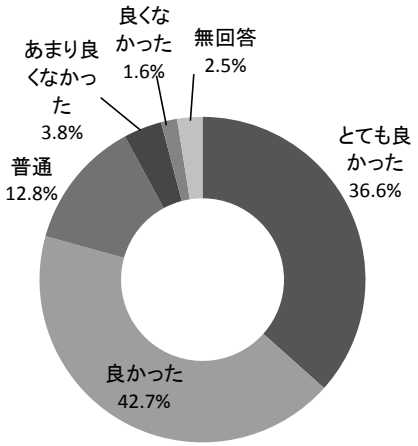
# 特別展 「第61回正倉院展」
## アンケート集計結果

開催期間:10月24日～11月12日(20日間)
回答者数:1091人　　回収率0.4%

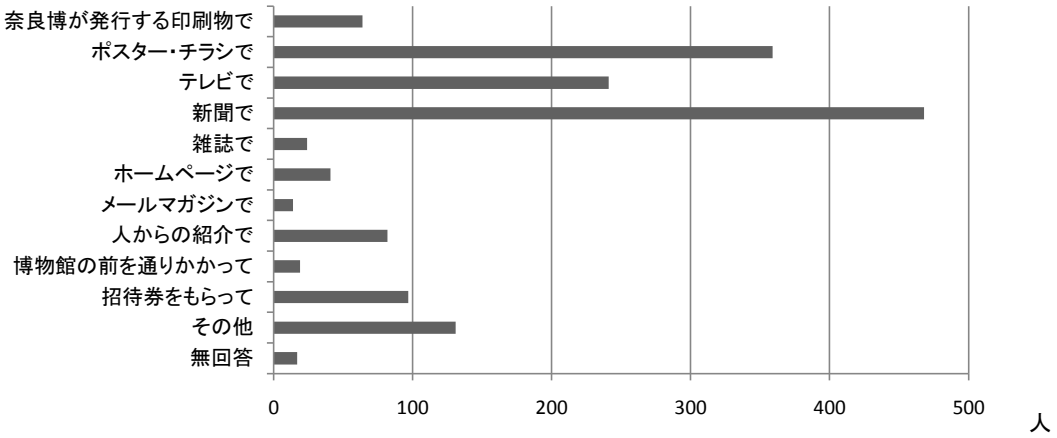
①年齢層□




③展示に関する満足度□




②認知経路(複数回答)□



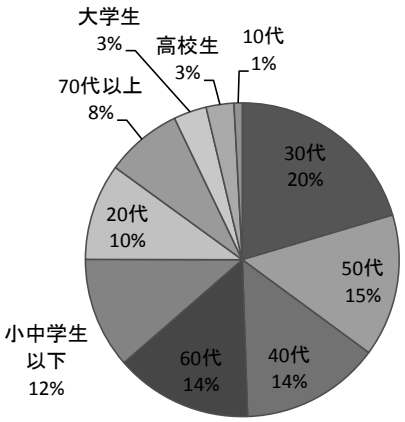

④主な意見・感想
・金曜日等の開館時間が延びたことが非常にうれしいです。
・今年は割合空いている方でした。色々工夫されているようですね。
・最終日無料で感謝しています。
・説明版が読みやすかった。
・展示品の数がちょうど良い位(多すぎても疲れてしまいます)。

**九州国立博物館**

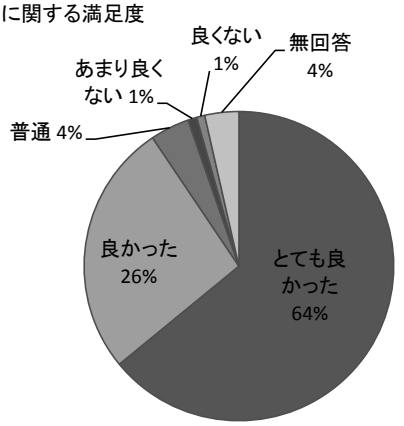
# 特別展「聖地　チベット」アンケート集計結果

開催期間：21年4月11日～6月14日
総回答者数：　1,294人（総入館者数：140,917人　アンケート回収率：0.9%）

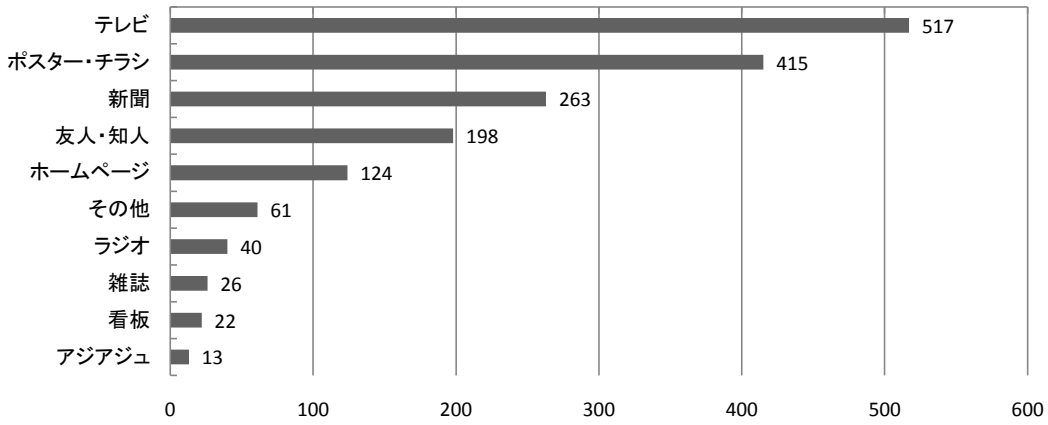
①年齢層




②展示に関する満足度




③認知経路（複数回答）




④主な意見・感想

・チベットの文化を知ることができ、感動しました。
・展示室内が暗かった。
・ガラス越しでなく、直に見れたので良かった。
・チベットに行きたくなりました。
・守り神・体験コーナー（マニ車）が楽しかった。
・展示物のもっと詳しい説明があると良い。

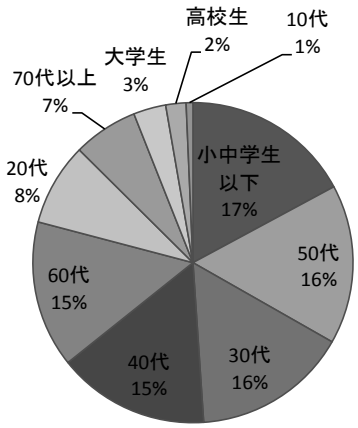
**九州国立博物館**

# 特別展「国宝　阿修羅展」　アンケート集計結果

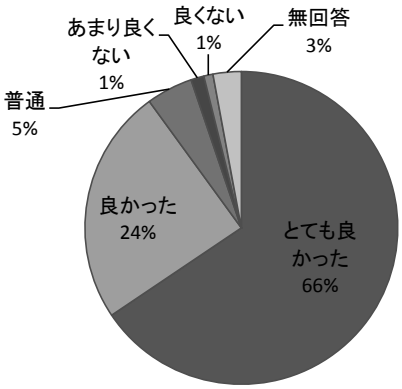
開催期間：7月14日～9月27日

総回答者数：7,621人（総入館者数：711,154人　アンケート回収率：1.07%）

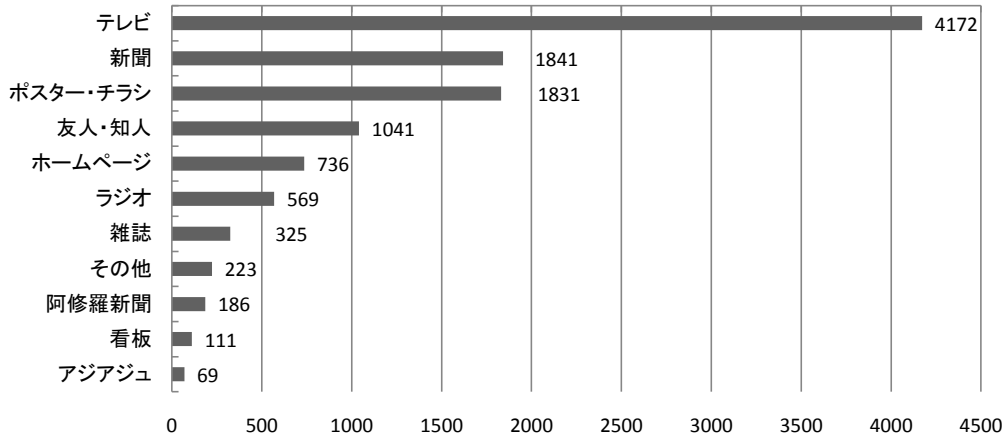
①年齢層




②展示に関する満足度




③認知経路（複数回答）




④主な意見・感想

・阿修羅を見る事ができて、感動しました。
・360度、阿修羅像を見れて良かった。ガラス越しでなく、直に見れたので良かった。
・阿修羅像の周囲で人の誘導がよくなかった。
・イラストがわかりやすくて、良かった。
・照明が暗い。説明の字が小さい。
・人が多くて待ち時間が長く、ゆっくり見れなかった。車椅子の方への配慮が足りなかった。
・駐車場が少ない。駐車場の場所がわかりにくい。

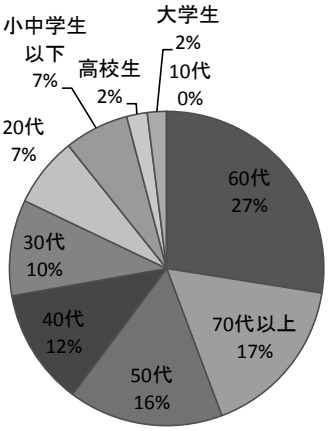
九州国立博物館

# 特別展「古代九州の国宝」　アンケート集計結果

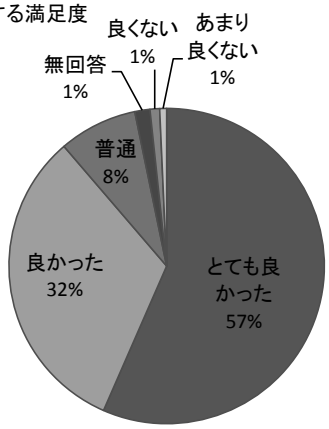
開催期間：10月20日～11月29日

回答者数：709人（総入館者数：72,741人　アンケート回収率：0.1%）

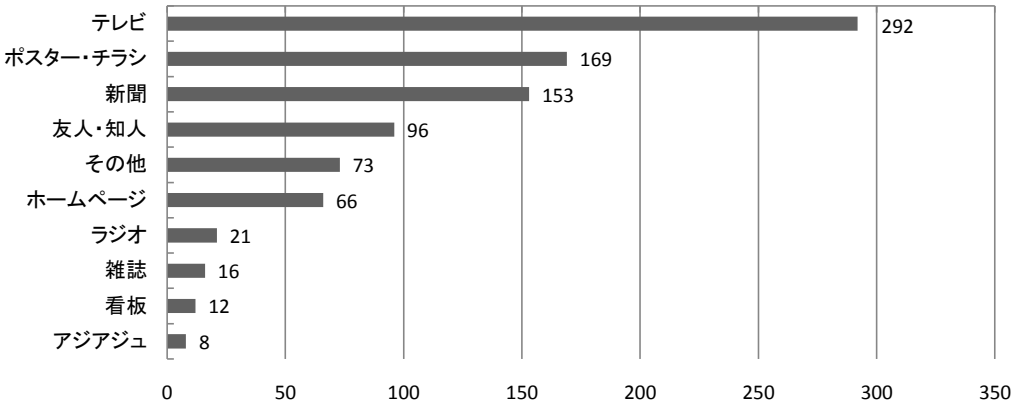
①年齢層




②展示に関する満足度




③認知経路（複数回答）




④主な意見・感想

・全体的にわかりやすく、見やすかった。
・古代九州について、感銘を受けました。
・古代少年のメモがわかりやすくて、良かった。
・説明文に振り仮名をつけてほしい。
・休憩できる椅子を増やしてほしい。
・九州に関する展示物が、全国から集められ文化の広がりが感じられた。

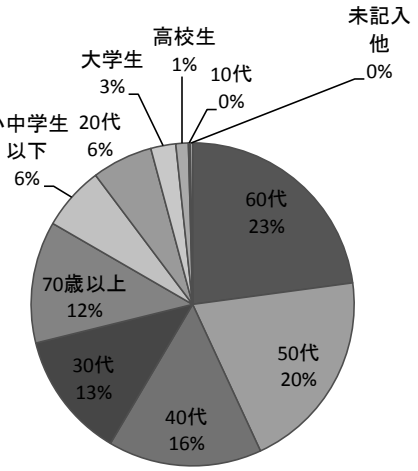
**九州国立博物館**

# 特別展「京都　妙心寺展」　アンケート集計結果

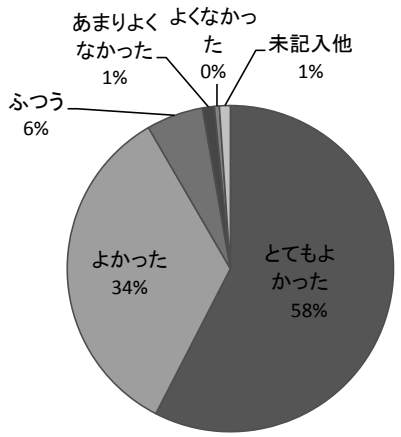
開催期間：22年1月1日～2月28日

総回答者数：2,877人（総入館者数：130,231人　アンケート回収率：2.2%）

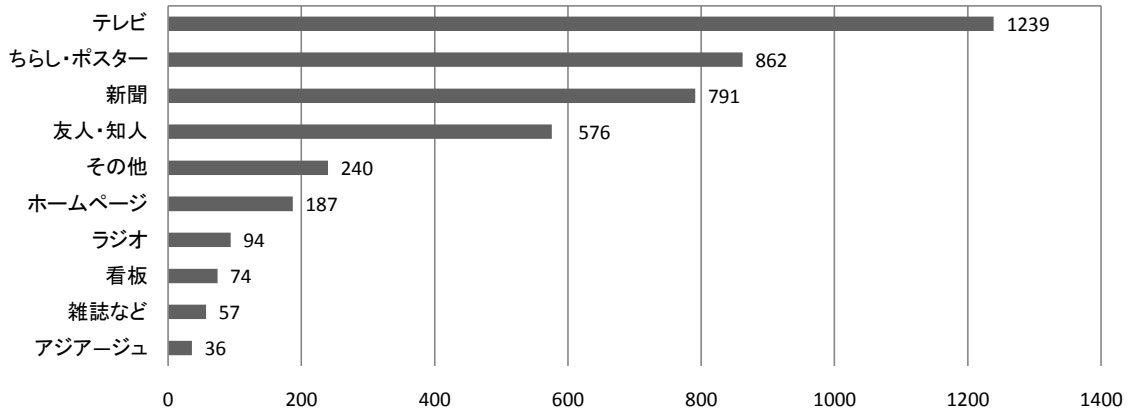
①年齢層




②展示に関する満足度




③認知経路（複数回答）




④主な意見・感想

・（展示替えのため）龍虎図屏風が見れなくて、残念だった。
・展示替えが多すぎる。展示期間・展示替えに関する広報をもっとすべき。見たい物が見れなかった。
・禅の文化を理解することができ、良かった。妙心寺と九州の関係がわかった。
・プチ禅カードで禅の世界がわかりやすく、色々な角度で楽しめた。
・説明文の文字が小さく、見えにくい。もっと詳しい説明がほしい。
・展示室内が暗い。
・妙心寺と観世音寺の鐘の共鳴が心に響きました。

平成 21 年度　独立行政法人国立文化財機構年報
平成 23 年 3 月 31 日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園 13 番 9 号
電話　(03)3822-1111（代表）
Fax　(03)3822-1113
印刷 よしみ工産株式会社
©2009. National Institutes for Cultural Heritage,
printed in Japan